養老町史

史料編 上

監修

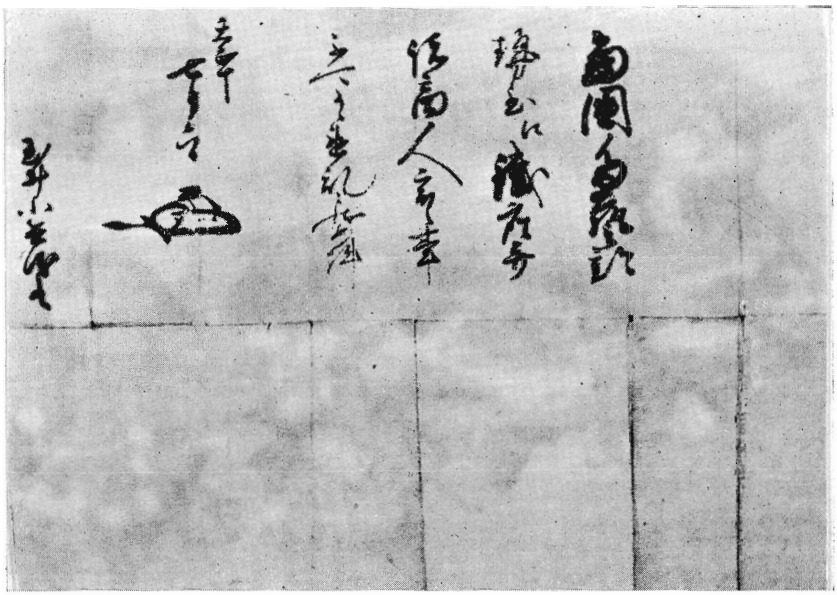
吉岡勲

早野博之

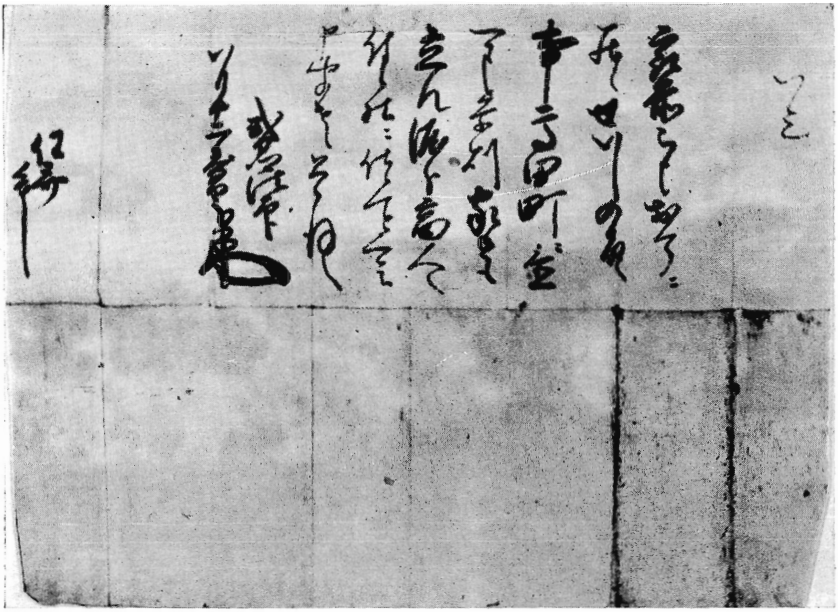
題字

養老町長　津田絜

図版第1　織田信長朱印状　　福岡県久留米市梅満町　玉井　直氏所蔵



図版第2　織田信孝判物　　福岡県久留米市梅満町　玉井　直氏所蔵



図版第3　徳永寿昌書状　　福岡県久留米市梅満町　玉井　直氏所蔵

図版第4　織田信長知行安堵朱印状　　揖斐郡揖斐川町　市田静馬氏所蔵

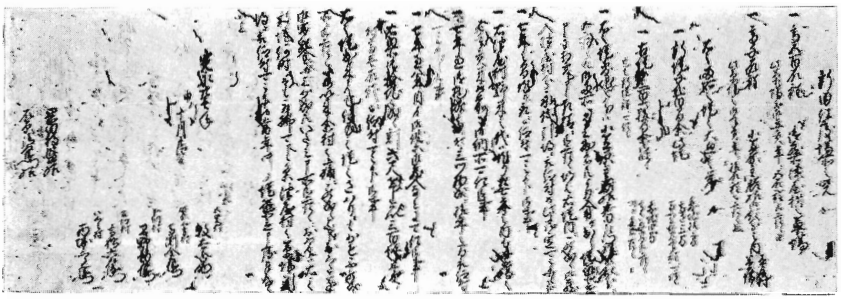
図版第５　徳川家康禁制朱印状　　養老郡養老町宇田　藤田かつ子氏所蔵

図版第６　徳永昌重寿昌連署知行充行書状　　養老郡養老町飯之木　丸毛善吉氏所蔵

図版第７　戸田氏鐵寺領安堵状　　大垣市津村町　清水正之氏所蔵

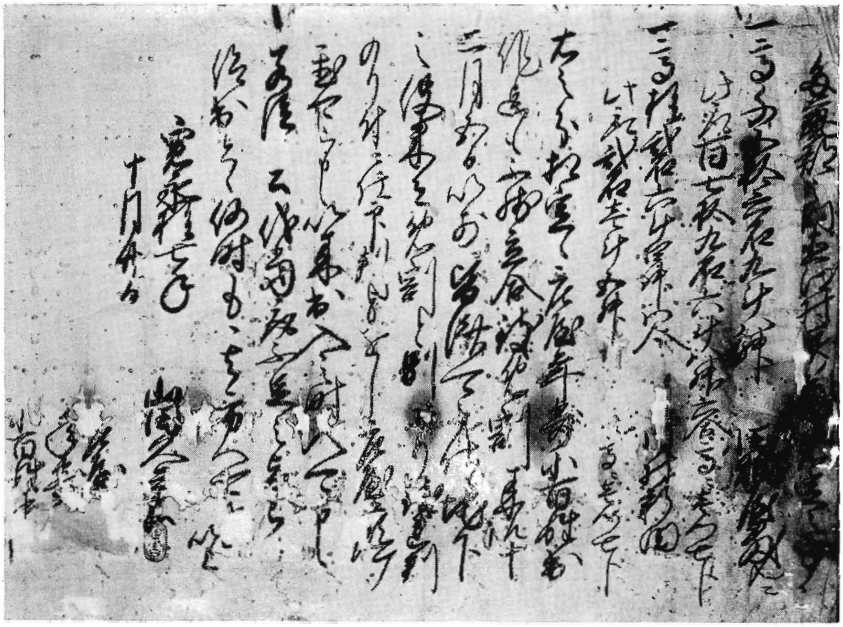
図版第８　在々仕置覚　　不破郡関ヶ原町関ヶ原　不破幹雄氏所蔵

図版第９　押越村検地帳　　養老郡養老町押越　渋谷保之氏所蔵

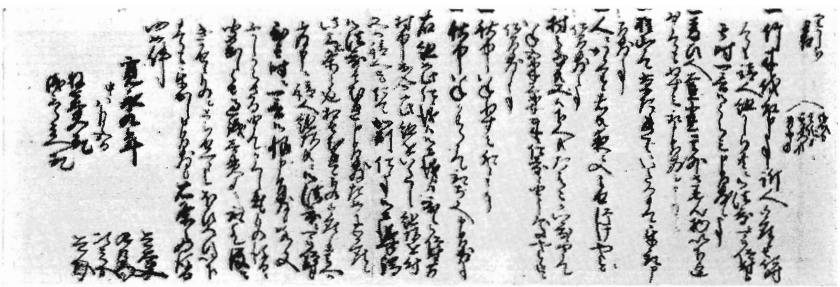


図版第10
有尾・津屋村草場開発願

養老郡養老町高田
中村準一氏所蔵

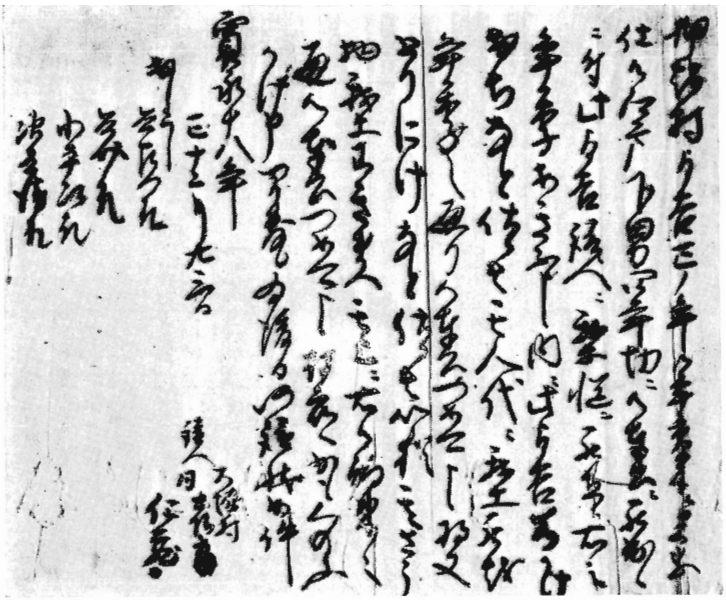


図版第11　直江村免定　　養老郡養老町直江区有

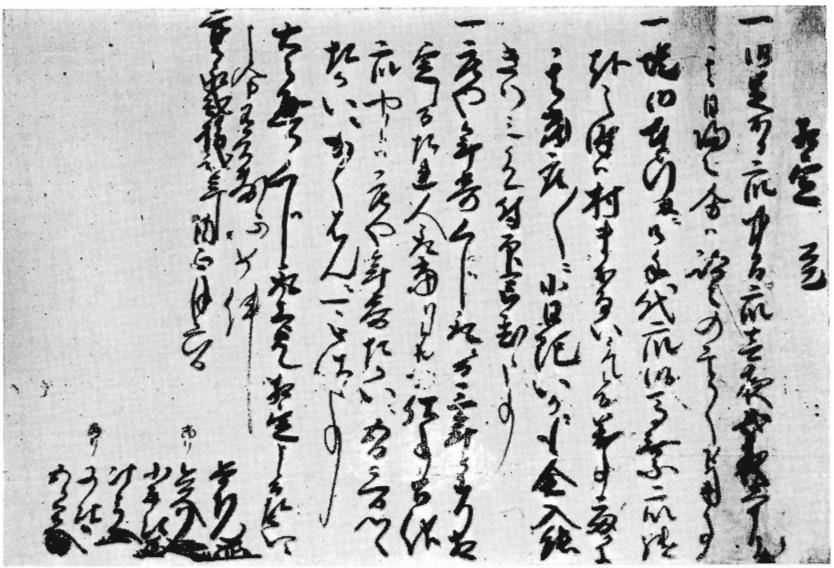


図版第12　押越村五人組之事　　大垣市東外側町　大垣市立図書館所蔵

図版第13　栗笠村家並人馬改帳　　養老郡養老町栗笠　高橋嘉幸氏所蔵



図版第14　江戸奉公人請状　　大垣市東外側町　大垣市立図書館所蔵



図版第15　押越村取極証文　　大垣市万石町　林正乗氏所蔵

図版第16　下笠輪中悪水落定証文　　養老郡養老町所蔵

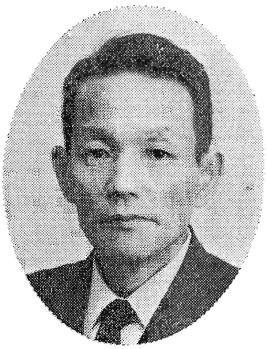
図版第17　多芸山廻役勤方心得　　養老郡養老町高田　稲葉時男氏所蔵

図版第18　揖斐川三湊並高田・曽禰湊定書　養老郡養老町烏江　吹原第三氏所蔵

図版第19　青連院宮御門跡養老滝御遊覧記録　　養老郡養老町養老公園　村上弁二氏所蔵

図版第20　多岐神社懸仏　　養老郡養老町　多岐神社所蔵

はじめに



国内はもとより、遠く外国まで〝滝の養老〟として知られているわたくしたちのふるさとは、いま「めぐまれた緑と水を、観光と産業の発展に調和させるまち」を町の総合開発計画のテーマとして、着々と大きな未来づくりに励んでいます。

この未来へつづく道は、尊い過去の背景があつてこそつくられるもので、町民憲章にも「この美しいふるさとは、先人のたゆまぬ努力によつて伸びつづけてきました。わたくしたちは、愛の輪をさらにひろげ、力をあわせて、未来につづく明るい町をつくります」とうたい、三万町民の心となつています。

惟うに、遠き昔から現代まで、祖先が水と戦い産業をおこし、ふるさとを守り育ててこられた血の流れは、いまも、わたくしたちの体内に脈々と受け継がれ、大正十四年（一九二五）、岐阜県地方改良協会養老郡支会発行の『養老郡志』をはじめ、昭和二十九年（一九五四）出版の養老郡郷土誌編纂委員会の『ひらけゆく郷土』、高田町公民館の『たか田』などの郷土史誌にとどめられた先人の足跡を学び、あすへの郷土開発に勇気を発酵してきました。

時は移り、既刊の郷土史誌をさらに掘り下げ、永遠に輝く町史発刊の意見が高くなりましたものの、変転きわまりない社会世相は、ふとすれば、わずかに残された史料をも散逸しはじめ、これの蒐集と整理が急務となり、あわせてわたくしたちの手によつて、町史編纂の重要な課題を成就せねばならなくなりました。

このため、昭和四十六年五月、町史編集委員会をつくり、この大事業に踏み出しましたところ、さいわいにも元県史編集室長・吉岡勲、県史編集室・早野博之両先生に編集を委嘱し、そのご指導ならびに県史編集室のご協力を受けることができました。さらに、これに加え町史編纂・編集両委員会の皆さんのご努力と、関係町民各位のお力添えを得て、ここに史料編上・下二巻を刊行、つづいて通史編の編纂に着手することになりました。時あたかも町制二十周年の年を迎え、まことにめでたく、深く感謝申しあげます。

この養老町史の刊行によつて、町民の皆さんは申すまでもなく、広く全国の歴史愛好家のかたに一層〝養老〟への理解をたかめていただき、一方では、つぎの時代の町勢発展への原動力となり、美しいふるさとへの愛着を倍増していただけば、さいわいこの上ありません。末ながいご愛読をおねがいして刊行のことばといたします。

昭和四十九年十月

養老町長　津田　潔

例言

一　本巻は、養老町に関する史料を収録したものである。

一　第一部は、年代順に並べたが、第二部・第三部は、史料が豊富なため各分野に選別し、配置した。

一　史料は、原則として原本の体裁にしたがったが、印刷の都合で形式を改めた箇所もある。

一　原本の変体仮名は、普通の平仮名に改め、異体・略体文字は、当用漢字に統一したが、第二部の地名・人名と第一部には旧漢字を用いた。

一　花押は（花押）、略押は（略押）、印判は㊞・㊟とした。

一　冊子の表紙は、表題を「　」でかこみ、右肩に（表紙）と傍註した。

一　欠字の箇所は、□で字数をうめ、字数不明の場合は┌┐、上欠・下欠は┌・└をもって示した。

一　前欠の場合は、「　」、後欠の場合は「　」を用いた。

一　端裏書・朱書・後筆などは「　」を施し、その右肩に（端裏書）・（朱書）・（後筆）などと傍註した。

一　下ヶ札・付箋などは、「　」でその文字をかこみ、（下ヶ札）・（付箋）などと傍註した。

一　抹消した文字が判読しうる場合は、原文の左傍にゃを付し、判読しえない場合には、字数だけ□□を入れた。また訂正文字のある場合は、その右傍に記載した。

一　編者が加えた傍註は、すべて（　）でかこみ、史料の文字が誤っていたり、疑わしい場合には、（ママ）・（カ）とした。説明のために挿入した記事は、最初に○符を施した。

一　本文には、適宜句読点および並列点を付した。但し、句読点はすべて「、」に統一した。

一　収録史料の所蔵者と所在地は、表題の左下位に○符を付して併記した。

一　編者が原本から抄出した史料は、本文の末尾に〔　〕で出典を記した。

一　巻末に年代表を附載した。

養老町史

史料編

上巻目次

題字
口絵
序
例言
解題

第一部　古代・中世

一　暦応　二年　二月　足利直義下文……一
二　暦応　二年　二月　足利直義下文……一
三　貞治　五年　□月　足利義詮御教書……一
四　永徳　三年　七月　足利義満袖判下文……二
五　明徳　元年　六月　管領斯波義将施行状案……二

六　応永　六年十一月　足利義満袖判御教書……二
七　応永　十年　二月　足利義満袖判御教書案……三
八　応永廿七年　八月　土岐義弘満貞書状案……三
九　長禄　三年十二月　嶋田益忠庭中言上状案……三
一〇　長享　弐年　四月　室町幕府奉行人連署奉書案……四
一一　天文　四年　八月　宮後近知証状……四
一二　□(天)文　四年　九月　大野修理大夫折紙……五
一三　天文十三年　九月　斎藤利政道三寄進状写……五
一四　(年未詳)　九月　三益書状写……六
一五　永禄　十年　九月　織田信長禁制判物写……六
一六　永禄　□年十一月　斎藤義龍朱印状写……七
一七　永禄十二年　四月　織田信長朱印状……七
一八　(年未詳)　九月　池田恒興判物……七
一九　永禄十弐年十一月　織田信長(カ)朱印状写……八
二〇　元亀　弐年　八月　織田信長知行安堵朱印状……八
二一　天正　元年　正月　西脇久左衛門知行目録写……八
二二　天正　九年　三月　織田信忠禁制写……九
二三　天正　十年　六月　堀秀政判物……九
二四　天正　十年　七月　織田信孝判物……九
二五　天正　拾年　十月　神戸織田信孝禁制写……一〇

二六　天正十一年　三月　羽柴秀吉判物写……一〇
二七　（明　応　九　年）　椿井郷公田年貢銭帳……一〇
二八　天正拾九年　三月　八中堤南田地借用証文……二一
二九　文禄　参年　十月　豊臣秀次朱印知行方目録……二一
三〇　（年未詳）二月　木下秀吉折紙……二一
三一　（年未詳）六月　木村清大夫書状……二二
三二　（年未詳）七月　菅屋長頼判物……二二
三三　（年未詳）八月　徳永寿昌書状……二三
三四　（年未詳）十月　戸田三郎四郎折紙……二三
三五　（年未詳）十一月　元勝書状……二三
三六　（年未詳）十一月　伊藤秀盛書状……二四
三七　（年未詳）十二月　木下秀吉折紙……二四
三八　（年月日未詳）　竹口右衛門尉外一名連署書状……二五
三九　慶長　弐年　五月　寺蔵小兵衛外三名連署条書……二五

○銘文類

四〇　文治　五年　八月　法華経碑陰刻銘……二六
四一　自　正中二年九月　至　寛永三歳四月　大塚社懸仏裏面墨書銘……二六
四二　文明　二年仲春　骨蔵器陰刻銘……三〇
四三　永正　元歳　正月　天神社社殿造立棟札……三一

四四　永正十六年　三月　大渭社社殿造立棟札……三三
四五　永禄　二年　八月　八所権現社社殿再興棟札……三三
四六　慶長　七季　拾月　大塚社仮殿幷殿堂修造棟札……三四

第二部　近世

一　支配

一　慶長　五年　九月　徳川家康禁制朱印状……三五
二　慶長　五年　十月　間宮彦次郎嶋田町掟写……三五
三　慶長　五年十二月　徳永昌重・寿昌連署書状写……三五
四　慶長　六年　八月　徳永昌重・寿昌連署書状写……三六
五　慶長　六年　十月　徳永昌重・寿昌連署知行充行書状……三六
六　慶長　六年十二月　徳永昌重・寿昌連署書状写……三六
七　慶長　十年　十月　徳永寿昌寄進状写……三七
八　慶長十三年　六月　徳永寿昌知行米渡状……三七
九　慶長十四年　三月　徳永寿昌田地渡状……三七
一〇　慶長十四年　三月　徳永寿昌田地渡状……三八
一一　慶長十四年　五月　徳永寿昌大豆渡状……三八
一二　寛永拾九年　三月　代官支配触書……三八
一三　慶長十五年　五月　徳永寿昌田地渡状……三九

一四　（年未詳）　二月　徳永寿昌折紙……三九
一五　（年未詳）　三月　徳永寿昌折紙……三九
一六　（年未詳）　五月　徳永寿昌書状……四〇
一七　（年未詳）　十月　徳永寿昌書状写……四〇
一八　（慶長十八年）八月　徳永昌重条書……四〇
一九　元和　弐年　三月　徳永昌重折紙……四一
二〇　元和　弐年十二月　徳永昌重家中衆知行方渡状……四一
二一　（年未詳）　三月　徳永昌重書状……四二
二二　（年未詳）　六月　徳永昌重書状……四二
二三　（年未詳）　十月　徳永昌重書状……四二
二四　（年未詳）　霜月　徳永昌重書状……四三
二五　（年未詳）　正月　徳永昌勝書状……四三
二六　（年未詳）　正月　徳永昌勝書状……四四
二七　自寛永十一年十二月至安政六年十二月　戸田氏鉄・氏信・氏彬寺領安堵状……四四
二八　寛永拾　七年　霜月　在々仕置覚（高須藩―小笠原氏）……四五
二九　寛永拾九年　二月　尾張藩法度条目……四五
三〇　承応弐年　五月　氏家直重書状写……四八
三一　（年未詳）　三月　極月　西右近重徳書状写……四八
三二　（年未詳）　三月　氏家直重知行充行状写……四九
三三　（年未詳）　三月　藤田吉正・山田直家連署書状……四九

三四　（年未詳）　九月　加藤光泰書状……五〇

二　土地

三五　天正十七年十二月　椿井郷年貢納帳……五一
三六　慶長拾四年　八月　押越村検地帳……五二
三七　（元和二年カ）　押越村畠方帳……九五
三八　明和　九年　正月　押越村新田検地帳……一〇六
三九　文化　十年十二月　押越村見取場新田検地帳……一〇七
四〇　正保　五年　二月　岩道村検地帳……一〇九
四一　慶安　五年　二月　根古地新田検地帳……一三五
四二　寛文　五年　八月　北村新田検地帳……一六七
四三　明和　五年　八月　喜多村検地帳……一六八
四四　寛文　八年十二月　中村検地帳……一七八
四五　寛文十三年　三月　押越村田畑名寄帳……二二二
四六　元禄　三年　極月　押越村田畑名寄帳……二三四
四七　元禄　五年十二月　押越村田畑名寄帳……二三九
四八　元禄十六年十二月　大場新田名寄帳……二四四
四九　安永　二年　八月　有尾新田・津屋新田分畑高・屋敷高反別帳……二四五

〇　新田開発

五〇　寛永　八年　十月　江月村新田定書……二五〇
付　寛永　十年　卯月　江月村百姓申状幷薗田十左衛門裏書写……二五一
付　寛永　拾年　四月　江月村百姓連署請状案……二五二
付　（年未詳）　卯月　烏江村勘兵衛返答状写……二五二
付　（年未詳）　拾月　烏江村勘兵衛申状写……二四五
五一　自寛永拾八年三月至正保弐年二月　根古地新田開発証文……二五五
五二　寛永廿壱年　十月　有尾・津屋村草場開発願……二五六
付　正保　弐年　八月　有尾・津屋村荒所開発証文……二五七
五三　正保　二年　九月　根古地・大場村荒所開発証文……二五八
五四　延宝　弐年　正月　下池新田開発証文……二六〇
付　延宝　元年十一月　下池新田取立ニ付横屋輪中水落定……二六一
五五　元禄　四年　八月　大跡新田開発証文……二六二
付　元禄十六年　十月　大跡・飯之木村起返地ニ付願書……二六二
五六　（年未詳）　四月　押越村荒所起返願……二六三
付　宝永　七年　九月　押越村砂入場起返手間代下付願……二六四

〇伊勢神領

五七　慶長拾四年　九月　鷲巣村御縄打水帳……二六四
五八　元禄　四年　四月　鷲巣村改帳……二六六
五九　明和四年　元禄十年　正月　御朱印石高書上……二六九

○
六〇　（年未詳）　六月　検地御再検村方心得……二七〇
六一　元文　二年十一月　押越村荒所起返高書上証文……二七一
六二　文化　八年　十月　新開検地請書……二七二

○土地移動

六三　元和　九年十一月　江月村百姓連署状……二七三
付　元和　九年十一月　次兵衛・市左衛門連署状……二七四
六四　正保　四年　四月　正保　五年　二月　社寺地寄進状……二七四
六五　慶長　廿年十二月　野地売渡証文……二七六
六六　自寛永十四年正月　至元禄六年十二月　屋敷・田畑売渡証文……二七六
六七　享保　八年　極月　寛保　元年十二月　林・山売渡証文……二七八
六八　元禄　二年　二月　埋田証文……二七九
六九　明和　二年十二月　寛政　二年十一月　替地証文……二七九
七〇　天保　七年　正月　分地証文……二八〇
七一　寛永　九年　三月　龍泉寺村十郎右衛門殿田地請作覚……二八一
七二　寛政　七年十一月　上方村百姓居屋敷返却請書……二八一

三　貢租

七三　自寛永九年十一月至文政二年十一月……二八三
付　天保十四年　三月　直江村免定……二九三
七四　自慶安四年十月至万治弐年十月　直江村取箇書上……二九三
七五　自承応弐年十月至元文三年四月　根古地村免定……二九三
七六　万治　三年　霜月　根古地新田免定……二九六
七七　万治　三年　霜月　横屋村免定……三〇二
七八　寛文三年十一月元禄四年十一月元文五年十一月　横屋新田免定……三〇三
七九　自寛文四年十一月至正徳元年十一月　下笠村免定……三〇三
八〇　延宝　七年　十月　白石村免定……三〇五
八一　自天保二年十月至天保七年十月　龍泉寺村引得高定免証文……三一四
八二　自貞享元年十月至元禄三年十月　金屋村免定……三一四
八三　元禄五年十月宝暦十年十月　岩道村免定……三一四
八四　延享　五年　七月　嶋田村免定……三一七
八五　文化　九年十一月　上之郷村八ヶ年分免定取米書上……三一九
八六　文化十一年十一月文化十四年十一月　喜多村免相……三二二
八七　自安政六年至明治元年　橋爪村免相……三二二
八八　慶長弐年拾一月　宇田村免状取米写……三二三
　　椿井郷年貢納帳……三二五

付　宝暦　九年十二月
宝暦　十年十二月
石畑・鷲巣村御神領物成皆済目録……三三八
八九　自　元和　七年
至　享保　三年
押越村年貢算用・請免皆納目録……三四〇
付　寛永　八年　二月
大ほら山年貢定……三四六
九〇　自　延享四年六月
至　寛政元年四月
白石村年貢皆済目録……三四六
九一　自　寛延四年六月
至　天保八年三月
金屋村皆済目録……三五四
九二　宝暦　九年　十月
小倉村年貢皆済目録……三五九
九三　文政　七年十二月
栗笠村免割符帳……三六〇
九四　天保　四年　六月
喜多村免割引入証文……三六一
九五　嘉永　七年　十月
中村年貢米諸上納免割帳……三六三
九六　寛永　五年　極月
押越村年貢米納証文……三七〇
付　寛永拾九年十二月
寛永弐拾年十二月
押越村年貢納証文……三七〇
九七　元和　三年　正月
堤勘右衛門年貢銭請取状……三七一
付　元和　三年　二月
堤勘右衛門年貢銭請取状……三七一
付　元和　三年　三月
徳永昌重年貢銭請取状……三七二
九八　寛永拾九年　十月
寛永弐拾年　極月
押越村物成米請取証文……三七二
九九　（年未詳）　九月
押越村御城米請取手形……三七三
一〇〇　寛永　七年　六月
米払口証文……三七三
一〇一　寛永拾九年
押越村下勘定払目録……三七四
一〇二　寛永　五年　九月
押越村預り米処分方請書……三七六

一〇三　自寛永五年九月至寛永八年九月　直江・押越・飯ノ木・宇田村年貢米地払請証文……三七六
一〇四　自寛永九年二月至寛永十三年十二月　年貢米借用証文……三七九
一〇五　享保十年九月　大場村・同新田御城米納所一札……三八〇
一〇六　宝暦二年八月　白石村御廻米諸入用帳……三八二
一〇七　明和七年十一月　押越村御膳籾・御貯籾・御詰籾・太餅籾請負証文……三八三
付　天明三年十月　押越村外五ヶ村上納籾請負証文……三八四
一〇八　嘉永四年十月　御廻米取扱方手当渡状……三八四
一〇九　自(明和三年カ)十二月至(明和五年)二月　押越村御膳籾代米代金請取状……三八五
一一〇　(天保十五年)二月　室原村年貢米津出し送り状……三八六
一一一　安政六年八月　釜段村積米出入請書……三八六
一一二　寛永六年　押越村検見覚……三八七
一一三　(年未詳)　検見取扱い方起請文前書……三八八
一一四　享保三年十月　大場村新田共戌秋名田分帳……三八八
一一五　享保八年九月　烏江村田畑田面訳立毛書上ヶ帳……三九一
一一六　享保十年九月　白石村立毛百姓下見合附帳……三九三
一一七　文化十一年九月　押越村晩稲方合毛揃帳……三九八
一一八　天保三年　中村検見引地差出控……四〇〇
一一九　文久二年九月　中村検見差出書……四〇一
一二〇　慶安元年三月　嶋田堤土取跡定納申付書……四〇二
一二一　万治三年八月　年貢納方申付書……四〇二

一二二　享保十七年　七月　大場新田定免申渡書幷請書……四〇三

○

一二三　寛永　五年十一月　押越村百姓高免理り状……四〇五
一二四　寛永　五年　極月　寛永十三年　九月　押越村百姓損所理り状……四〇五
一二五　寛永　八年十一月　押越村荒川成納所異議申立書……四〇八
一二六　天保　七年　四月　石畑村定免年継願……四〇九
一二七　宝暦　弐年　三月　栗笠村減免幷拝借金願……四〇九
一二八　天保　六年　九月　白石村畑方年貢減免願……四一〇
一二九　天保　三年　文久　二年閏八月　中村破免願……四一一
一三〇　（年未詳）十二月　口ヶ島村掟方引免ニ付願書……四一一
一三一　（年未詳）　九月　岩道村御囲籾減石注進書……四一二

○小物成

一三二　寛永十九年　五月　郷中小物成指出写……四一三
一三三　寛永弐拾年　竹切置申渡書……四一四
一三四　（年未詳）　栗笠村湊小物成由来書上（尾張藩）……四一四

○課役

一三五　文化　八年十二月　船役銀廻状（尾張藩）……四一五

付　文化　十年　八月
寛政　八年
（年未詳）　十月　船役銀触書留……四一六
一三六　（年未詳）　十一月　小倉村葭運上願……四一八
一三七　（年未詳）　十二月　陣夫役差出日延願（尾張藩）……四一八
一三八　（嘉永七年）　正月　陣夫役人足賃銀定（尾張藩）……四一九
一三九　（年未詳）　正月　陣夫役請書（尾張藩）……四一九
一四〇　嘉永　七年　十月　陣馬数請書（尾張藩）……四二〇
一四一　明和　元年十二月　岩道村外三ヶ村国役赦免願……四二〇
一四二　（年未詳）　十二月　下笠村蔵役免除願……四二一
一四三　嘉永　五年　四月　冥加献金願……四二一
一四四　（年未詳）　九月　冥加金上納願……四二二
一四五　文久　二年十一月　中村調達金証文……四二三
一四六　（年未詳）　七月　調達金免除願……四二三
一四七　（年　未　詳）　御進発上納諸記帳……四二四
一四八　天保　二年　九月　冥加献金褒賞目録……四二六
一四九　安政　七年　三月　海岸備場金上納ニ付褒美銀請書……四二六
一五〇　天保十二年　十月　尾張藩札史料……四二七

四　村　況

一五一　自　延享三年　白石村明細帳……四二八
　　至　文久二年二月
一五二　安永　四年十二月　明徳村明細帳……四四六

一五三　安永　四年十二月　飯木村明細帳……四四九
一五四　安永　四年十二月　小倉村明細帳……四五三
一五五　安永　四年十二月　大坪村明細帳……四六〇
一五六　安永　四年十二月　祖父江村明細帳……四六六
一五七　安永　四年十二月　金屋村明細帳……四七一
一五八　安永　四年十二月　飯積村明細帳……四七六
一五九　文化十二年　四月　大跡村明細帳……四七九
一六〇　文化十二年　四月　大跡新田明細帳……四八一
一六一　天保　九年　三月　嶋田村明細帳……四八三
一六二　天保　九年閏四月　室原村明細帳……四八五
一六三　天保　十年　三月　高畑村明細帳……四八九
一六四　天保十四年　九月　下池之儀ニ付尋答書……四九〇
一六五　天保十四年　十月　直江村諸品取調書上帳……四九二

〇村境

一六六　元禄　四年　九月　柏尾村・白石村境ニ付取替証文……四九三
一六七　宝暦十二年　二月　石畑村・押越村境傍示杭打立願……四九四
一六八　明和　五年　正月　石畑村・押越村境通ニ付取替証文……四九五
一六九　天保　四年　五月　押越村中屋敷南土居境論願書……四九五
一七〇　明和　六年　七月　宇田村・飯田村・蛇持村境畔内済証文……四九七

一七一　寛政　元年　十月　有尾村・有尾新田境新道取払願……四九八
一七二　寛保　三年　四月　大墳村・嶋田村河原論裁許状幷請書……四九九

五　戸口

一七三　自寛永拾弐年二月至正保四年極月　烏江村吉利支丹改一件留……五〇一
一七四　文政十三年　二月　烏江村被官百姓宗門改尋答書……五〇八
一七五　寛文　五年　正月　根古地新田吉利支丹宗門改帳……五一〇
一七六　貞享　四年　八月　横屋・有尾新田宗門改帳……五一七
一七七　元禄　七年　六月　元禄十五年　三月　横屋村宗門改帳……五二二
一七八　享保　十年　六月　中村宗門改帳……五四九
一七九　享保二十年　六月　石畑村宗門改帳……五五五
一八〇　宝暦　三年　八月　石畑・飯田村伊勢神領宗門改帳……五六八
一八一　明和　七年　六月　喜多村宗門改帳……五六九
一八二　寛政　八年　三月　五日市村宗門人別改帳……五七二
一八三　元　禄　六　年　有尾新田村人別帳……五八五
一八四　弘化　二年　正月　下笠村人別改帳……五九二
一八五　嘉永　五年　三月　室原村人別改帳……五九九
一八六　宝永　弐年　四月　栗笠村家並人馬改帳……六〇九
一八七　正徳　五年　三月　烏江村家並改帳……六二七
一八八　安政　六年　八月　釜段村家数取調報告……六二八

一八九　寛政　十年　二月　栗笠村家数人数書上帳……六二九
一九〇　文化十三年　正月　栗笠村人別増減書上……六三一
一九一　寛政十一年　三月　下笠村宗門増減帳……六三三
一九二　天保十四年　六月　中村家数人数増減帳……六三七
付　天保十四年　六月　中村諸奉公人改帳……六三八
一九三　天保　八年　六月　橋爪村家数人数増減帳……六三九
一九四　弘化　四年　三月　直江村人別増減差引帳……六四二
嘉永　四年　三月　宇田村家数人数増減帳……六四六
一九五　文久　元年　五月　古郷送り・寺送り証文……六四八
一九六　自寛政八年十一月　捨子養育願……六五二
至元治二年　三月
一九七　（天保十五年）八月　捨子養育料下附ニ付請書……六五三
付　天保十五年　八月　押越村娘売証文……六五三
一九八　寛永十弐年　二月　室原村欠落者注進状……六五四
一九九　（嘉永五年）二月　押越村走百姓探索請書……六五四
二〇〇　（年未詳）　七月　栗笠村百姓引越願……六五四
二〇一　元禄十七年　三月　下笠村百姓悴死亡届……六五五
二〇二　天保十三年　七月　奉公人請状……六五五
二〇三　自寛永十二年十二月　乳母奉公人請状……六五七
至文久三年正月
二〇四　自文政十年三月
至文久四年二月

〇五　人組

二〇五　寛永　九年　八月　押越村五人組之事……六五八
二〇六　寛永十七年　十月　押越村五人組法度請書……六六〇
二〇七　正保　四年　九月　押越村物成五人組請書……六六一
二〇八　元禄　五年　四月　根古地新田下百姓五人組帳……六六二
二〇九　元禄十三年　三月　有尾新田五人組仕置帳……六六三
二一〇　慶応　二年　六月　中村五人組帳……六七〇
二一一　天保　七年　五月　止宿詑証文……六七一
二一二　（寛永八年）　十月　押越村七兵衛跡式申渡書……六七一

六　身分格式

二一三　自（安永四年）十二月至（元治元年）八月　苗字帯刀・御目見免許状……六七三
二一四　享和　三年　四月　苗字帯刀免許請書……六七五
二一五　文化十一年　五月　苗字帯刀帰格願……六七五
二一六　天保　十年　三月　苗字帯刀遺跡継目願……六七六
二一七　安政　二年　二月　褒美上下・段木下附申付状……六七六
二一八　（天明八年）十二月　医師山口家免許扣……六七七
　付　弘化　三年　七月　宗門自分一札……六八〇
二一九　文政十二年　六月　吹原勘兵衛由緒書……六八一
二二〇　安政　二年　二月　庇取払方申付歎願書……六八一
　　文政　五年　二月

二二一　弘化　三年　四月　家来筋百姓手離ニ付消印願……六八二
七村方
〇村政
二二二　(正保二年)寛永弐拾弐年正月　押越村取極証文……六八三
二二三　明和　六年　四月　直江村倹約定……六八三
付　天明　四年　八月　直江村村定……六八六
付　弘化　四年　八月　直江村取締箇条書……六八七
付　文久　四年　二月　直江村倹約取締箇条書……六九二
二二四　安永　五年　正月　金屋村村禁連判帳……六九三
二二五　文政　五年閏正月　橋爪村倹約定……六九五
付　文政　五年　七月　百姓佐七吟味願……六九五
付　文政　六年　正月　橋爪村倹約定……六九六
付　文政　七年　二月　橋爪村倹約定書一件内済証文……六九七
二二六　天保十一年　三月　高田町取締一札……七〇〇
二二七　安政　六年十二月　横屋村改革取締済口証文……七〇五
二二八　(年未詳)　四月　栗笠村倹約触書請書……七〇七
二二九　安政　二年　二月　小倉村外五ヶ村御泊尻抱規定……七〇九

二三〇　享保十八年十二月
天明　四年　五月
（慶応三年）四月　薬法触……七〇九
二三一　（年未詳）　四月　炮術稽古約定書……七一一
二三二　（年未詳）十一月　尾張大納言御逝去ニ付鳴物停止触書……七一二
二三三　安永　九年　九月　文字金銀通用ニ付有尾村請判帳……七一三
二三四　文化　七年　十月　村方往古之諸帳面諸書物惣目録……七一四
二三五　寛政　八年　三月　柏尾村并新田旧記諸帳面目録……七一八
二三六　弘化　三年　六月　中村御用覚帳……七二一
二三七　天保　八年　四月　小倉村番人定……七二六
二三八　天保拾四年　七月　巡見役人休息注進書……七二六
二三九　（年未詳）　十月　越中鎌商人行方不知ニ付注進書……七二七
二四〇　安政　六年　二月　飯之木村家作門取調書上帳……七二七
二四一　天保　六年閏七月　他所出米差留請書……七二九
二四二　天保十一年十一月　組預り者逃亡ニ付詫証文……七二九
二四三　十二月　橋爪村後家手錠差延願……七三〇
二四四　嘉永　六年　三月　喜多村手錠者村預請書……七三〇
二四五　白石村次平詮議願……七三一

○村役人

二四六　元治　元年　八月　有尾村庄屋退役願并悴庄屋見習役取立願……七三二
二四七　（年未詳）　直江村庄屋役不正訴状返答書……七三二

二四八　宝暦十三年　四月　石畑村名主役御免願……七三六
二四九　天保　四年　三月　京ヶ脇村庄屋役取立願……七三六
二五〇　弘化　二年十二月　口ヶ嶋村庄屋罷免願……七三七
二五一　嘉永　元年十二月　中村名主名代役赦免願……七三八
二五二　弘化　四年　九月　直江村年寄役当番差扣一札……七三九
二五三　嘉永　五年十二月　石畑村名主役申付書……七三九
二五四　（年未詳）十二月　龍泉寺村名主役申付書……七三九
二五五　慶応　二年　九月　多芸山廻り役増役願……七四〇
二五六　天明　元年　七月　釜段村殺生御留場所番退役願……七四〇

○村入用

二五七　元禄十三年十二月　下笠村村入用諸帳……七四〇
二五八　文化十年正月　栗笠村免割幷村懸り諸入用帳……七八〇
二五九　元禄十六年三月　有尾村小入用帳……七八三
二六〇　元禄十七年正月　金屋村入用帳……七八六
二六一　元禄拾六年十二月　金屋村諸割賦定書……七八九
二六二　天明　四年　正月　喜多村宗門入用割賦帳……七九二
二六三　安政　二年　二月　押越村入用平均書上帳……七九二
二六四　天保　五年十二月　横屋村・有尾新田鳥威入用割符帳……七九三
　　天保十四年　六月
　　文化　三年　極月

二六五　文化十二年　六月　青蓮院宮養老滝御遊覧諸色村入用書上帳……七九四

○救恤

二六六　寛永弐拾年　三月　烏江村かつゑに御かし米触并割付覚……七九六
二六七　天明　三年　二月　村々貯穀有高取調書上方申渡請書条……七九七
二六八　天明七　年　正月　白石村夫食御拝借願人別書上帳……七九八
二六九　天保十四年　六月　多芸郡村々人別貯穀六十日分取調帳……八〇七
二七〇　天保　四年十一月　喜多村御救米人別割賦帳……八一二
二七一　文化十三年　六月　有尾新田小屋掛代農具代御拝借金割符帳……八一三
二七二　享保二十年　二月　夫食拝借米返納訳勘定目録……八一七
二七三　文化十一年　九月　御地頭様へ御拝借金願……八一八
二七四　天保　四年十一月　直江村拝借金願……八一八
二七五　嘉永　六年　四月　困窮ニ付助成方願……八一九
二七六　（年未詳）　三月　口ケ嶋村調達金返却願……八一九
二七七　自明和七年十二月至文化九年十月　御救米下附申渡状……八二一
二七八　享和　元年十二月　百弐拾五両拝借下知書……八二二
二七九　天保十四年十二月　宇田村外四ケ村尾州為替金借用手形……八二三

○山論

二八〇　享保　三年　三月　直江・押越・嶋田村と白石村山論裁許状……八二四

二八一　寛延　二年十二月　白石村・押越村山論済口証文……八二七

八治水（下巻）

二八二　（年未詳）　七月　岡田善政書状……一
二八三　宝永　六年　三月　大塚村下新堤築方修正願……一
二八四　正徳　六年　四月　押越村大川表堤丈夫附願……二
二八五　（宝暦十三年カ）　押越村喰違堤修復願……三
二八六　享和　二年　三月　川々水行建直し普請願……三
二八七　天保十三年　八月　牧田川通川広ケ普請願……四
二八八　自正徳　元年正月　至宝暦十三年二月　沢田村年々堤川除普請配賦写……五
付　宝暦十三年　二月　沢田村堤川除普請目論見役人名前書上……三八
二八九　文久　元年　三月　祖父江村春堤川除普請出来方帳……四一
二九〇　宝永　六年　四月　多芸輪中水除築留堤等百姓自普請願吟味帳……四三
二九一　宝永　六年　六月　新堤築ニ付宇田村外七ケ村取替証文……四八
二九二　元禄　五年　七月　飯積・直江・金屋三ケ村水除堤出入内済証文……五〇
二九三　安永　八年　九月　直江村堤急破普請書……五一
二九四　寛政　九年　十月　直江村逆水留圦自普請目論見願……五二
二九五　宝暦　九年　二月　岩道・西岩道村輪持堤御普請願……五二
二九六　嘉永　五年　九月　岩道村小土手築廻普請取立願……五四
二九七　宝暦　九年　五月　ロケ嶋・西岩道・岩道村水除新堤為取替証文……五八

二九八　正徳　五年十一月　下笠村三ツ屋前堤切所普請願……五九
付　享保十三年　七月　下笠村三ツ屋前輪持堤普請願連判状……六〇
二九九　寛文　八年　正月　有尾新田輪持除目論見……六一
付　貞享　元年　正月　横屋・有尾新田悪水除堤目論見……六二
三〇〇　享保十一年　十月　下池中土手堤普請書上……六二
三〇一　寛政十二年　三月　高柳新田御堤通出入内済証文……六三
三〇二　寛政　八年　正月　堤丈夫付普請願……六四
三〇三　文政　元年　八月　上方・龍泉寺村地内笠置普請中止願……六五
三〇四　正徳　二年　九月　白石村堤川除普請配賦帳……六七
三〇五　享保十八年　二月　白石村と石畑村論所内済証文并間数帳……六八
三〇六　元禄　六年　六月　五日市村外十八ヶ村と橘爪村外二ヶ村川除争論裁許状……六九
三〇七　享保　二年　六月　砂留三角枠設置見合請書……七〇
三〇八　寛政　元年　三月　堤通囲丁場割合書上帳……七一
三〇九　元禄　五年　五月　押越村堤金差引帳……七三
三一〇　（年未詳）　五月　遠所金請取手形……七七
三一一　明暦　弐年　三月　鷺巣村外三ヶ村新堤永代定……七七
三一二　正保　弐年　三月　川除堤敷借地返却証文……七九
三一三　寛文　十年　五月　横屋・有尾新田囲堤下替地証文……八一
付　元禄　九年　二月　土取借地証文……八一
付　宝永　六年　六月　津屋新田古堤跡借地手形……八三

三一四　享和　三年　八月　水除通借地取替証文……八三
三一五　明和　五年十一月　囲鋪地年貢米ニ付取替証文……八四
三一六　寛永　七年　三月　枠請取証文……八五
三一七　安政　三年　正月　高柳新田堤通水場小屋修復願……八五
三一八　天明　二年十一月　大跡新田小家掛出入一件内済証文……八六
三一九　嘉永　四年　九月　屋敷板囲修復ニ付差出証文……八七
三二〇　文化十二年　文化一二年洪水留書……八七
三二一　文化十二年　八月　有尾新田・津屋新田堤切入畑方水損小前帳……九二
三二二　万延　元年　五月　有尾新田入水潰家書上小前帳……九七
三二三　寛政　三年　八月　金屋村大風潰家小前帳……九九
三二四　（宝暦五年）五月　元小屋借受礼物遣書……一〇〇
付　（年未詳）　五月　元小屋規模書上……一〇〇

九用悪水

○悪水落

三二五　明暦　弐年　三月　多芸輪中悪水江堤境永代定……一〇二
三二六　延宝　四年十二月　島田村悪水新堀割規定証文……一〇四
付　延宝　四年十二月　烏江村借地江料証文……一〇五
付　享保十五年　六月　島田村悪水新江堀永代定証文……一〇六

三一七　寛文拾壱年十二月　下笠輪中悪水落定証文……一〇八
三一八　寛文拾弐年十一月　根古地・大場村余水定証文……一一五
三一九　天明　五年　八月　下笠輪中悪水落江巾切広ヶ証文……一一六
三二〇　享保二十一年四月　大牧新田悪水落江替証文……一一七
付　延享　四年十一月　悪水落江堀証文……一一八
付　延享　五年　六月　下笠輪中悪水落坎先江筋借地証文……一一八
三二一　文政　弐年　三月　下笠輪中除通先継普請請書……一一九
三二二　安政　五年　八月　下笠輪中悪水落除桁通差入組一件内済届……一二〇
三二三　天和　弐年　三月　釜段新田土手普請一件……一二〇
三二四　天和　弐年十月　大坪村境江筋論所内済口証文……一二二
三二五　明和　八年　四月　江月村悪水落江筋証文……一二三
三二六　天明　七年　七月　押越村悪水吐坎伏替普請仕様書……一二五
三二七　天明　七年　二月　今熊谷余水定証文……一三〇
三二八　天保　九年十一月　西岩道村外四ヶ村田方用水引取願……一三〇
三二九　享保　六年　六月　石畑井組番水願……一三二
三三〇　享保　九年　六月　石畑井組井高弁刻限定……一三三
三四一　延享　四年　七月　石畑井水・宇田井水出入内済証文……一三四
付　安永　九年　四月　石畑井組示合書定……一三五
三四二　安永　九年　九月　番水出入内済証文……一三五
三四三　天明　五年十二月　山田・宇田両井水定証文……一三六
三四四　文政　七年　六月

二四四　宝暦　元年十一月　小山溝筋井水堀願……一三八
二四五　嘉永　三年十二月　飯積・金屋・直江三ヶ村新規江筋普請済口証文……一三九
二四六　安政　六年　二月　釜段村落樋ニ付願書……一四〇
付　安政　六年十一月　釜段村堤通落樋一件取下願……一四一
付　安政　六年十一月　釜段村落樋規定証文……一四二
二四七　天保十四年　二月　橋爪村外三ヶ村組合掛樋伏替諸道具書上……一四四
二四八　享保十二年十二月　江代米上納覚……一四四
二四九　文政　四年　九月　真綿・麻上下地請書……一四五

○堀抜井戸

三五〇　慶応　元年　七月　堀抜井戸約定書……一四五
慶応　元年　六月
三五一　天保十一年　八月　上之郷村堀抜井戸数小別覚……一四七

一〇　農・林・鉱業

○農業

三五二　明和　八年　六月　田苗植付方注進書……一五〇
三五三　天保　五年　八月　勢至村畑方旱魃損毛注進書……一五三
三五四　享保十二年　十月　下池藻草争論申渡書……一五四

付　（年　未　詳）　下笠藻草代取立願……一五四
付　寛保　二年　正月　下池入船藻料米諸造用出入内済証文……一五五
三五五　（年未詳）　八月　岩道村稗苅揚願……一五六
三五六　（年　未　詳）　いもち送り許可申渡書……一五七
三五七　（年　未　詳）　雨乞許可申渡状……一五七
三五八　寛政　七年　十月　水車小屋懸証文……一五七

○野　方

三五九　天明　七年十二月　直江村野方定……一五八
三六〇　明治　四年　二月　鷲巣村・石畑村野方出入内済証文……一五八

○林　業

三六一　文化十一年　二月　多芸山廻役申付書……一六〇
三六二　文化十一年　二月　多芸山廻役勤方心得……一六〇
三六三　天明　二年　四月　鎌留請証文……一六一
三六四　天保　八年　三月　御林山立入詫証文……一六一
三六五　延享　二年　四月　島田村竹藪改帳……一六二
三六六　文政　二年閏四月　宇田村松運上場并新開場訳書帳……一六九
三六七　文政　二年閏四月　中村松御運上場并新開場訳書帳……一七〇
三六八　元治　二年　二月　杉植附方規定証文……一七一

三六九　元治　元年　九月　杉植日記……一七二
三七〇　（年未詳）十二月　楮苗木上納許可書……一七五
三七一　文久　二年十一月　肥松割木調方注進書……一七五
付　（文久三年）三月　肥松割木調方ニ付郷目付召喚状……一七六
付　（文久三年カ）三月　肥松割木上納注進書……一七六
付　（文久三年カ）二月　肥松入用見積り覚……一七七

○鉱業

三七二　安永　九年　六月　火打石採掘願……一七八
三七三　（年未詳）九月　肥石灰焼出許可申渡書……一七八
付　天保　八年　九月　肥石灰焼出願受理書……一七八
三七四　（年未詳）三月　小倉村蛇淵銀山試掘願書……一七九

一一　商業・金融

○商業

三七五　文政　七年閏八月　酒掛売停止請書……一八〇
三七六　（年　未　詳）　農間小商い届……一八〇
三七七　（寛永弐拾年）　たわら渡覚……一八一
付　寛永弐拾年　五月　明俵請取証文……一八一

三七八　宝暦拾三年　九月　油買付書……一八一
三七九　自文化三年至文化五年　塩・茶・薪割木商売出入書上……一八二
三八〇　自文化三年至文化五年　鍋・瓶売買数書上……一八五
三八一　（年未詳）　下池産物売捌覚……一八六
三八二　宝永　五年　正月　梵鐘代金請取証文……一八七
三八三　明和　五年　七月　大工職取締書……一八七
三八四　安政　四年　五月　尾濃村々医師取調書……一八八
三八五　自明和七年至寛政十一年　六月　薬湯稼一件史料……一九一
三八六　享保十四年　十月　有尾村下池殺生一件……二〇二
三八七　寛保　四年　正月　舟・殺生道具取戻し願……二〇三
三八八　嘉永　元年十一月　白石村猪鹿鉄炮之儀ニ付内済取曖証文……二〇四
付　寛政　七年　正月　鉄砲借用証文……二〇五
付　（年未詳）　四月　鉄砲拝借請書……二〇五
付　元文　二年　九月　鉄砲請取手形請求願……二〇五

〇金　融

三八九　天保　六年　三月　御領主様永続正味講取立帳……二〇六
三九〇　天　保　九　年　助成講積金仕法帳……二〇七
三九一　天保十五年　三月　二百拾人講仕様帳……二〇九
三九二　文久　三年十一月　頼母子講口揃帳……二一〇

四〇七　享和　二年　十月　烏江湊船数改帳……二四八
四〇八　（宝暦八年）五月　三湊船役申付証文……二四九
四〇九　（天保七年）九月　三湊船并人馬賃銭書上……二五一
四一〇　文化十四年　五月　代船借用証文……二五一
四一一　（安政五年）八月　烏江湊川船鵜飼船へ切替願書……二五二
四一二　（年未詳）　二月　他領米運送許可願……二五四
四一三　文化十二年　九月　御廻米積舟不法増運賃請求ニ付詫証文……二五四
四一四　（年　未　詳）　荷物送り状……二五五
四一五　（年　未　詳）　諸荷物運送代金請求書……二五六
四一六　寛延　三年十二月　庭賃争論内済取極証文……二五六
四一七　（年未詳）十二月　駄賃覚……二五七
四一八　貞享　四年　七月　道中筋御触状……二五八
四一九　寛永二十年　六月　朝鮮人来朝ニ付船橋御用申付状……二五八
四二〇　（寛永弐拾年）　朝鮮人来朝ニ付人馬申付状……二五九
四二一　（寛永弐拾年）　道橋未完成届……二六〇
四二二　慶　応　四　年　垂井宿助郷当分仮規定書……二六〇
四二三　天明　七年　五月　助郷勤場変更願……二六二
四二四　安永　八年　三月　御旅宿人馬会所雑用割賦帳……二六四
四二五　文化　三年十二月　雇立人馬勤方定……二六七
四二六　文　政　十　二年　日〆人馬差引扣……二六八

四二七　（慶応二年カ）　助郷人馬賄辻其外諸請払書上帳……二七〇
四二八　天保　七年十二月　定式人馬船賃割賦請取書……二七一
四二九　文政（文政十一年）八年十二月十二月　御用人馬賃銭請取手形……二七一
四三〇　（年未詳）十二月　定式人馬賃銭請取手形……二七二
四三一　（年未詳）十一月　助郷割付金請取手形……二七二
四三二　嘉永　二年　九月　寿明姫御泊蒲団差出覚……二七三
四三三　文久　元年　十月　和宮様下向入用諸道具割当取調帳……二七六
四三四　文久　元年　十月　和宮様下向入用道具集メ覚帳……二七七
四三五　文化十三年　五月　西岩道村堤通拡幅願……二八五
四三六　享保拾八年　四月　高田町東入口板橋普請書……二八五
四三七　嘉永　七年閏七月　鼻ヶ橋普請諸入用仕出帳……二八六

○行旅

四三八　（年　未　詳）　人馬取扱方申付状……二八七
四三九　明和　九年　五月　肥後国巡礼手形……二八七
付　明和　九年　九月　肥後国巡礼相果ニ付一札……二八八
四四〇　自享和二年二月至天保七年二月　西国巡礼通行手形……二八八
四四一　天保十年九月弘化四年三月　通行手形……二九〇
四四二　（年　未　詳）　行路病者届……二九一

一三　社　会

○年中行事

四四三　文化十五年　嶋田村服部（千秋）家三月初節句祝帳……二九二
四四四　文政十一年　嶋田村服部家三月節句飾付次第……二九五
四四五　文化十三年　嶋田村服部家五月節句祝儀帳……二九九
四四六　弘化　五年　正月　橋爪村高木（村上）家元服祝儀覚帳……三〇三
四四七　安永　二歳　正月　参宮御見舞帳……三〇四
四四八　文化十三年十一月　婚礼礫打禁止令宇田村請書……三〇五
四四九　元治　元年　四月　飯之木村丸毛四郎兵衛香奠帳……三〇七
四五〇　宝暦　六年　嶋田村服部家身上相続心得書……三一三
四五一　元禄　六年　六月　勘当所払証文……三一四
四五二　（年未詳）　十月　隙状……三一五
四五三　文政　八年　三月　長寿ニ付祝儀申付書……三一五
四五四　天保　十年　六月　盗難品書上届……三一六
四五五　寛政　九年　十月　栗笠村類焼居家書上并御用金拝借願……三一六
四五六　安政　五年　四月　大黒屋失火類焼見舞品受領留……三一九
四五七　天保　三年　二月　施薬養生所造立ニ付誓約書……三二四
四五八　天保　三年　三月　白散御薬調進申付書……三二五
四五九　（年未詳）　四月　御薬御用先触状……三二五

四六〇　安政　五年　九月　暴瀉病流行ニ付施薬渡帳……三二五
四六一　文久　元年　九月　桜井村外四ヶ村種痘小児取調帳……三二七
四六二　天保　五年　七月　宮守幷家伝薬之儀ニ付入組内済証文……三二八
四六三　自元禄九年四月至明治二年極月　蓮生寺記録……三二九
四六四　天　保　七　年　天保七年飢饉留書……三四五
四六五　文化十二年　六月　青蓮院宮御門跡養老滝御遊覧記録……三五一
四六六　元治　二年　五月　日光御門跡幷新門様滝御遊覧記録……三五三
四六七　寛政　八年　二月　紀州公養老寺立寄ニ付注進状……三五四
四六八　寛政　六年　八月　雨乞寄合不参加詫証文……三五四
四六九　天保十三年十二月　偽言申立詫証文……三五五
四七〇　文化　八年　六月　花火調合秘伝……三五六

一四　文　化

○学　問

四七一　天保十二年　八月　土屋信義門人算額……三五七

○寺　社

四七二　寛文　三年　六月　京ヶ脇村新道場取立条書……三五八
四七三　宝暦　九年　十月　石畑村神社幷境内改帳……三五九

四七四　宝暦　九年　十月　桜井村神社改帳……三六二
四七五　承応十三年　五月　多岐神社旧記……三六三
四七六　（年未詳）十一月　押越村神社拝殿上葺手付金請取手形……三六六
四七七　文久　元年十二月　神職継目猶予願……三六七
付　文久　三年　十月　村法遵守請書……三六七
四七八　文久　三年十二月　神職締書一札……三六八
四七九　天明　元年　九月　木綿手繦許可状……三六八
四八〇　（慶応三年）　景陽寺住職相続願……三六九
四八一　（年未詳）　十月　養老寺住持職届……三六九
四八二　寛政　二年　八月　島田村僧分人別帳……三六九
四八三　寛延　三年　八月　浄誓寺入仏供養注進書……三七一
四八四　文化十二年　八月　他寺弔ニ付詑証文……三七一
四八五　延享　弐年　正月　御絵伝始終記……三七一
付　延享　弐年　正月　御絵伝金覚帳……三八五
四八六　享保十九年　四月　本尊幷仏壇道具譲渡証文……三八八

〇祭礼

四八七　正徳　四年　八月　嶋田八幡宮御祭礼帳……三八八
四八八　寛政　八年　正月　飯積村八幡社宿定……三九一
四八九　天保十五年　六月　愛宕祭礼議定書……三九一
文久　三年　六月

四九〇　安政　二年　正月　神事倹約条書……三九五
四九一　文政　六年　正月　橋爪村武佐祭礼願書……三九六
四九二　文政　元年　二月　橋爪村武佐祭礼訳書……三九八
四九三　自天保七年正月至慶応三年正月　橋爪村武佐祭礼出入一件……三九九
四九四　寛政　五年　九月　若宮村八幡宮祭礼出入内済請書……四一一
四九五　文政　九年　八月　祭出入詫証文……四一二
四九六　天保　四年　六月　伊勢太神楽一件願書……四一二
付　天保　四年　八月　伊勢神楽・獅子舞取極注進書……四一三
付　天保　四年　八月　太神楽一件取締請書……四一五

○興行

四九七　天保　十年　十月　相撲興行取締方請書……四一六
四九八　天保　十年　九月　万歳狂言興行願……四一七

○若者組

四九九　文化十一年　七月　若者組出入済口証文……四一七
五〇〇　安政　五年　八月　室原村三瀬古若連中取締取為替証文……四一八

第三部　近・現　代

一　概　況

一　明治　二年　六月　白石村明細帳……四一九
二　明治　二年　六月　大跡新田明細帳……四二〇
三　明治　二年　六月　祖父江村明細帳……四二一
四　明治　五年　二月　ロヶ嶋村明細帳……四二四
五　明治　五年　二月　西岩道村明細帳……四二七
六　明治　五年　二月　釜段村明細帳……四二九
七　明治　五年　二月　大野村明細帳……四三一
八　明治　五年　三月　下笠村明細帳……四三二
九　明治　五年　二月　大墳村明細帳……四三五
一〇　明治　五年　二月　高畑村明細帳……四三七
一一　明治　五年　一月　若宮村明細帳……四三八
一二　明治　五年　二月　船見村明細帳……四三九
一三　明治十三年　五月　橋爪村明細帳……四四〇
一四　明治　五年　一月　鷲巣村明細帳……四四二
一五　（明治五年カ）　船付村明細帳……四四四

一六　明治　四年十二月　上方村明細帳……四四七
一七　明治　五年　二月　龍泉寺村明細帳……四四九
一八　明治　五年　三月　勢至村明細帳……四五一
一九　明治　五年　正月　柏尾村明細帳……四五二
二〇　明治　五年　二月　桜井村明細帳……四五四
二一　明治　二年　六月　沢田村明細帳……四五五
二二　明治　二年　六月　高柳新田明細帳……四五八
二三　明治　二年　六月　高柳古新田明細帳……四六〇
二四　明治　二年　六月　小坪新田明細帳……四六一
二五　明治　五年　三月　大牧村明細帳……四六二
二六　明治　五年　三月　大牧村新田明細帳……四六三
二七　明治　五年　三月　蛇持村明細帳……四六五
二八　明治　五年　二月　江月村明細帳……四六七
二九　明治　五年　二月　安久村明細帳……四六九
三〇　明治　二年　六月　有尾新田明細帳……四七〇
三一　明治　五年　三月　栗笠村明細帳……四七三
三二　明治十四年　九月　多芸郡各町村略史……四七六
島田（四七六）・烏江・押越、　白石（四八四）・明徳・五日市・上方・竜泉寺・勢至・石畑・柏尾・桜井・沢田、ロヶ島（五〇八）・飯之木・大跡・西岩道・岩道、　鷲之巣（五一八）・小倉・大跡新田・有尾・田・横屋・若宮・船見、　大場（五三六）・大場新田・根古地新田・釜段・大巻、船付（五五〇）・大野・下笠・栗笠・上之郷、　飯田（五六二）・大坪・蛇持・江月・祖父江、　直江（五七三）・金屋・飯積・大墳・高畑、　宇田（五八三）・橋爪・中・豊・安久、　室原（五九六）

二　戸　口

三三　明治　三年　六月　中村戸籍……六〇〇
三四　明治十二年　四月　入籍記……六〇九
三五　自明治四年　九月　至明治七年十一月　送籍証……六一〇
三六　明治　六年　八月　出稼証……六一一
三七　明治　二年　五月　喜多村家数人数増減帳……六一一
三八　明治　二年　極月　五年十一月　奉公人請状……六一二

三　行　財　政

○　行　政

三九　明治十五年　五月　直江村村会開催通知……六一四
四〇　明治十六年　九月　戸長役場決議条款……六一四
四一　明治　元年十二月　議事日誌……六一五
四二　明治四十三年十月　瀬古村申合規約……六四〇
四三　明治　五年　六月　喜多村存続願……六四一
四四　明治廿九年十二月　養老村町村分合ニ付上申書……六四三
四五　明治　五年　九月　地券取調請書……六四五
四六　明治　七年　一月　警護掛り請書……六四六

○財政

四七　明治　元年十二月　石畑村免定……六四六
付　明治　四年十一月　石畑村免相……六四七
四八　明治　二年十二月　喜多村立毛請人改帳……六四七
四九　明治　三年　九月　橋爪村立毛請御改帳……六五一
五〇　自明治九年七月至明治十三年三月　直江村民費課出表……六五九
五一　自明治十七年度至明治十九年度　宇田村四ヶ村連合村予算成議案……六六三
五二　明治　元年十一月　直江村拝借金請証文……六六八
五三　明治　七年十一月　根古地屯所積金依頼……六六八

四　治水・用水

○治水

五四　明治四拾年　杭瀬・牧田両川改修請願書……六七〇
五五　大正　十一年二月　牧田川改修意見書……六七一
五六　大正　七年　一月　水害予防組合設置ノ件具申書……六七四
五七　明治四十二年四月　多芸輪中水害予防組合規約……六七五
五八　明治十二年　一月　水防組規定改正願……六八四

○用水

五九　明治五年　二月　釜段村地内堤伏込圦樋規定請書……六八五
六〇　明治十九年　一月　釜段伏樋一件ニ付裁定書……六八七
六一　明治十二年　三月　山田・宇田井水裁判判決書……六八七
六二　明治十二年　七月　石畑村外三ヶ村と橋爪村外三ヶ村井水出入済口証文……六九〇
六三　明治三十九年九月　石畑井組普通水利組合設置具収書……六九一
六四　明治四十年　一月　石畑井組普通水利組合設置陳情書……六九六
六五　自明治拾六年至明治四拾弐年　旱魃大番小番日誌……六九八

五産業

○農業

六六　明治十八年　三月　勧業委員選挙規則・処務順序幷諸費収入支出予算議案……七一一
六七　大正拾弐年　四月　地主申合規約……七一三
六八　（年　未　詳）　日吉村宇田区地内地主誓約書……七一五
六九　明治参拾九年拾月　日吉村宇田区小作奨励会申合規約……七一六
七〇　明治廿一年十二月　鴨威し夜番許可願……七一八
七一　明治三十四年十月　養魚場設置指令付属設計書……七一九
七二　明治参拾五年八月　下池養魚場設置並ニ排水ニ関ス約定書……七二〇

○

七三　明治　二年　十月　水車取付願……七二二
七四　明治十五年　二月　水車納税願……七二二
七五　明治十五年　六月　水車幷建物売渡証券……七二二
七六　明治廿九年　二月　秣瀑布水力仕用規約為取換証……七二三
七七　明治四十四年十一月　高田市場開設届……七二四
七八　明治十七年　三月　営業鑑札渡帳……七二五
七九　（明治十六年カ）　開運講社通……七二七
八〇　明治十五年　八月　講金借用証券……七三〇

六　交　通

八一　明治十七年十一月　（明治十七年カ）付　直江村地内渡船場新設願……七三一
八二　自明治二十二年十一月至明治三十一年三月　渡船場開業ニ付取調請書……七三一
八三　明治四十四年弐月大正弐年拾弐月　直江渡船場関係書類……七三三
八四　自明治三十一年三月至大正七年六月　栗笠村渡船営業請書……七三六
八五　明治三拾九年一月　栗笠村渡船賃増額願……七三七
八六　明治三十九年十一月　渡船請負契約書……七三九
八七　大正十四年　七月　渡舟請負保証金預証……七四〇
八八　明治十一年　栗笠村橋梁調……七四一
旅行証券……七四二

七　社　会

八九　自元治一年至大正三年　永々記録……七四三
九〇　（明治二十六年カ）　濃尾震災救済地主請願書……七五一
九一　明治二十四年　濃尾震災救済金下付書上……七五二
九二　明治十九年　八月　根古地新田虎列拉病予防申合規約……七五七
付　明治十九年　九月　村内申合規約請書……七六〇
九三　明治十九年　九月　兄弟同時徴集一人猶予願……七六一
九四　明治三拾八年九月　陸軍召集雑記……七六二
九五　明治二十九年一月　丸毛家結婚式日記……七六四
九六　明治四十二年十月　丸毛家病中見舞請書上……七七四
九七　昭和四五年　薬師山入会権訴訟判決文……七七七

八　文　化

○教　育

九八　明治六年四月　小学義校開業願書……七八四
九九　（明治六年カ）　小学義校開業願書……七八六
一〇〇　明治六年四月　小学義校開業願書……七八八
一〇一　明治十年　養老町内各校一覧……七九〇
一〇二　（年未詳）　日吉農業補習学校規定……八〇八

一〇三　（年　未　詳）　日新学校取扱規則……八〇九
一〇四　自明治　十年一月　至明治十二年二月　日新学校学事統計及出納表……八一二
一〇五　明　治　八　年　積流学校資金調達建白書……八一六
一〇六　明治十二年　五月　八千代学校新築費割賦帳……八一七
一〇七　明治十三年　一月　八千代学校費賦課帳……八二〇
一〇八　明治三十二年六月　鳥江学校財産処分精算書……八二四
一〇九　明治十八年十一月　郡教育会規約認可伺書……八二六
一一〇　明治　九年　三月　多芸学社会議改正規約……八二七
一一一　明治十七年　十月　郡教育研修会規則……八三〇
一一二　明治　七年　七月　師範研習学校卒業教員派遣願……八三〇
一一三　明治　八年　三月　師範学校修業志願書……八三一
一一四　明治十五年　六月　藍田学校卒業試験通知書……八三一
一一五　明治廿八年　八月　欠席届……八三二

〇

一一六　明治四拾壱年九月　若宮社社掌推薦書……八三二
一一七　明治十三年十二月　大秡神事執行願……八三三
一一八　明治　四年八月　明治十一年十月　御神体勧請願……八三四
一一九　慶応　三年　以降　西岩道村伊勢代参講雑記……八三五
一二〇　明治　廿年　十月　室原村軋轢規約……八四二

解　題（上）

はしがき

養老町は昭和二九年（一九五四）一一月三日岐阜県告示第四三三号により、高田町・養老村・広幡村・上多度村・笠郷村・小畑村・多芸村・日吉村・池辺村（大字駒野新田、釜田、牧字徳島を除く）・合原村大字室原を合併して養老町を新設したに始まる。養老町は翌昭和三〇年（一九五五）四月一日県告示第一六四号により、南濃町大字若宮、船見、津屋字段の尻、中原、栢ノ木、小名、大墳、浮島、中島、上戸樋、北河原を編入して今日の範囲となつた。編入したのは旧下多度村の三集落（一部欠）であるが、最初の合併が一〇ヵ村にまたがり、翌年更に一ヵ村を加えたのであるから、旧町村でいえば一一ヵ町村（一部欠）をまとめたことになつた。面積七二・九九㎢にわたる。

当地域は養老山脈の分水嶺を背にして東へ裾をひいてさがつてくる一帯で、その東限は揖斐川である。即ち南北に走る養老山脈と揖斐川にはさまれ、しかも養老山脈が西北から東南を指しているので、当地域は北に口をひらいたジョウゴ形に南へすぼんだ形となつている。このジョウゴの北部を東西に牧田川が横切り、中央から南は津屋川や下池が水を集めて南へ流れている。大きく概観すれば養老山脈の東北部を占め、裾をひろげて平地をつくつているのが当地域であるといえよう。

従つて当地域は山地と低地と、その中間にあたる山麓地帯の三つに生活圏が分かれる。ここに人々が住みつこう

とすれば、交通路線は水陸の二筋が予想される。一つは養老山麓を縫つて南北へ走る道路であり、一つは揖斐川ならびにその支流津屋川を海から上つてくる水路である。

遙かな昔、人びとは、この二つの路線に沿つて此の地に展開したものと思われる。特に養老山脈の裾は、東に低湿な濃尾平野をひかえて良好な集落地帯であり、また畿内勢力の東方に対する前衛基地として好適な場所であつた。石津・多芸郡に延喜式では共に建部郷を見るが、これは古代の始めに防衛基地が置かれていた証でもあろう。奈良時代元正天皇が霊亀三年（七一七）九月美濃へ行幸され、東国の国司らを集められたのは、改新の実績を天下に顕示されたのであつて、その折、多度山の美泉を見て養老と改元されたのは、単に美泉そのものを讃えて改元したというよりは、その背景に改新政治を謳歌し、その永続を祈つた天皇の志があり、それに添う一記念行事と受取つてはどうだろうか。

かように東国に対する防衛線を養老山脈の山麓にひき、それを交通路としても定着させ、二度の行幸を誇つた当地域は、不破の関から東国への東山道が安定してくると、その支線として不破の関から養老山脈の東ふもとをぬい桑名に向う路線を安定させていつた。

この道筋は、やがて美濃路の道筋が充実してくると更に脇道の性格となり、中央の関心も薄れていつた。

しかし多岐神社・多芸七坊などを軸として、これを支える勢力は、地域に息吹いていた。鉄座も置かれた。かくて中世後期には土豪勢に支えられて、美濃における一つの要地となつていた。

江戸時代となると、当地域に封ぜられた大名が無く、従つて城下町は生育しなかつた。わずかに在町としての高田町を中心に地域は息づいていた。一方、水路は九里半廻しの要衝として船附・栗笠・烏江が濃州三湊として尾張

藩領に組込まれ、河川交通のかなめとして盛んであつたが、地域としては下池をめぐる南部低地開拓が大きな事業であつた。

こうした経緯は通史編に詳述される処であるが、史料を地域にからませて理解するとの立場から極めて簡単に概説した。明治以降、この地域の努力はさらに充実して高田町は養老郡役所の所在地となり、地域の商工業の中心性をたかめ、養老の滝は全国に喧伝せられて天下の名所となつていつた。

史料編は始め一冊の予定であつたが、これまで未公開であつた渋谷保之家文書が多大の貴重な史料を提示されたこともあつて、二冊とすることとなつた。従つて解題は一冊毎に所収の分について、まとめることとした。

史料編全体の構想は三部構成とし、第一部古代・中世、第二部近世、第三部近代とした。本巻所収は古代・中世の第一部と、第二部近世の半分である。古代・中世の部は史料の数も少ないので文書については出来るだけ収載した。但し記録は省いた。文書のうち玉井直家蔵にかかるものは、岐阜県史史料編作成当時は知られて居なくて、本書が史料として最初に載せ得たものである。第二部は一支配、二土地、三貢租、四村況、五戸口、六身分格式、七村方までを本巻に収め、以下、治水・用悪水・農林鉱業・商業金融・交通運輸・寺社・社会・文化などは近代と共に後巻に採ることとした。

第一部　古代・中世

(一)は土岐伯耆守頼貞から甥の土岐太郎三郎光賢へ多芸庄内支江・吉田地頭職を譲つた折、足利直義が領知としての知行を認めたもの。頼貞は土岐守護家初代に数えられて名高いが、尊卑分脈によれば、光定の子であつて、光定には土岐五郎の註があり、その兄弟は太郎国衡・次郎光俊・三郎光氏・四郎国義・六郎光員・七郎光家と並ぶ。

太郎三郎は太郎国衡の三男親衡とあり、本文の光賢とは合わない。かりに太郎三郎の名が同じであつても、頼貞の従兄弟であつて甥にはならない。即ち頼貞の甥の光賢は尊卑分脈には見られない。この下文によつて頼貞は多芸庄の支江・吉田の地頭職をにぎつていたことがわかる。支江が支郷という一般名詞であるか、支江という特定な地名であるか、支郷吉田と続くものかは、この下文だけでは明らかでない。(三)は同じ暦応二年(一三三九)頼貞は多芸庄内の多芸嶋・榛木地頭職を孫の彦九郎頼重に譲つている。頼貞に九郎頼基があり、その子が彦九郎頼重であることは尊卑分脈にも明らかである。多芸嶋は現在の大垣市多芸島のことであり、榛木は当地域の飯ノ木を指すものと考えられる。多芸島は旧多芸郡に属する。(三)はそれより一六年後の文和四年(一三五五)頼重が下野入道へ多芸庄内春木郷らの地頭職をゆずつたことに対する足利義詮の御教書である。春木郷は榛木と書くのと同じである。

(四)は土岐下野守(法名浄皎)に与えた多芸庄内春木郷・多芸嶋郷の領知の足利義満袖判下文である。下野守は頼基の子孫である明地(あけち)頼高を指すという。(五)には多芸内吉田の文字が見える。これは(一)の多芸庄吉田のことであるが、吉田に註して高山跡とある。刑部少輔入道とは西池田家から入つて土岐総領家を嗣いだ頼忠のことである。

(六)は頼重・頼高と受け嗣いできた土岐明智家で、十郎頼篤が多芸庄内多芸嶋郷・春木郷を領知してゆくことに対し、足利義満の認(みと)めたもの。(七)は応永一〇年(一四〇三)佐々木民部少輔高光が多芸庄内大跡・吉田郷鋳物師を知行していることを明白にしたもの。大跡は広幡地区の大跡を指す。吉田鋳物師は或いは(五)の多芸内吉田かとも考えられるが、関市の新長谷寺を吉田(きった)観音と呼び、また天正検地に鋳物師村の所在することからして、同地域を充てるのが自然であろう。

(八)は応永二七年(一四二〇)八月二〇日、土岐伊与入道善弘が勢至寺の別当房・持宝房に宛てた書状で、勢至寺

が足利義満からもらつた知行状を紛失したので、善弘が寺の領知を証明したもの。尊卑分脈には伊与守を名乗るのは、土岐氏では六郎頼清の子直氏と頼清の子頼康の子満貞の二人である。六郎頼清が伊与国に住んだこともあり、その由縁で伊与守を称したのであろうが、直氏は康暦二年（一三八〇）死んでいて、応永二七年（一四二〇）当時は生存していない。従つて伊与守は満貞である。足利義満自身も応永一五年に亡くなり、既に一二年を経過している。

寺の境域は

東　伊勢街道　　南　鼬尾南谷

西　一瀬山之峯　　北　立岩の下大谷水落境

となつている。ここに伊勢街道とあるので、養老山脈の東麓を南から北へ貫いている街道を室町時代に伊勢街道と呼んでいたことは確かである。

（九）は長禄三年（一四五九）土岐嶋田左京亮益忠が朝廷に申上げたもの。多芸庄内闕所分・時多良郷など五ヵ所は将軍足利義満・義持ら御判や自筆御内書によつて頼康・満貞が知行してきた。特に多芸庄は応永一七年（一四一〇）まで知行してきたが、武者小路殿が領家ありと主張して押領し、内裏御料所を号した。そこで満貞の曾孫島田益忠が旧のように知行したいと訴え出たもの。益忠は多芸庄は名字の地だと記し、島田を称しているが、尊卑分脈には、その曾祖父満貞に「号島田」と註記しているので、この時から島田に住んで島田を名乗つていたのであろう。

（一〇）は長享二年（一四八八）幕府から京極政経に宛て近年守護が押領した大跡郷ら七ヵ所を、とりもどして領知せよと命じたもの。（一一）は宮後近知の証状で大塚里で丸毛氏の土豪西脇・安田が争論したが和談となつた天文四年（一五三五）、以後大塚里で争論を起さないと述べたもの。（一二）は、大野修理大夫から玉井小兵衛へ宛てたもの。江

州牧田通から伊勢への上下諸荷物を代々の御判通り運送せよとの意である。これは天文四年（一五三五）八月一七日多芸で合戦があり、鷹司与十郎冬明・田中弥太郎らが討死している。この争乱の内容は明らかでないが、その直後、玉井家の特権を領主権力が再確認したものである。（一三）は斎藤左近大夫利政が天文一三年（一五四四）九月、城の発展を祈禱して椿井郷を寄進したもの。（一四）は斎藤利政、即ち山城守道三の家臣三益から福島四郎右衛門尉に宛てた書状で、神宮の御祓大麻を受取つたこと、先年の利政立願については忘れていないこと等を書き、今後の祈念を求めている。本状は恐らく（一三）の添状であろう。利政の椿井郷寄進は一二〇貫余であつた。

（一五）は織田信長が多芸庄椿井郷に出した制札。永禄一〇年（一五六七）といえば信長が岐阜で治め始めた時であるが、椿井郷は大神宮領だから伊勢寺内で不法行為をしてはならないと指示したもの。この高札は信長が岐阜に治所を移してきたことを傍証する一連のものの一つである。

（一六）は永禄初年と推定される斎藤義竜の朱印状で、椿井郷から御供米百石を大神宮へ送り届けることについての認可状である。（一七）は美濃国勢至の鉄座に関する織田信長の朱印状で、諸商人宿に違乱の無いよう指示している。勢至は勿論、当地域の勢至を指す。この朱印状は勢至に鉄座があり、諸商人が、ここへ来宿していたことを示し、勢至がそうした重要な地域であつたことを裏書している。（一九）も信長と推定される朱印状であるが、ここでは永禄一二年（一五六九）商品名を鉄・同鍬荷とし、その美濃国における座人としての権限を認め、国質・郷質ならびに一切諸役を免ずると記している。（一八）は池田恒興が、玉井小兵衛尉に宛てて、御朱印状の趣旨通りに従前通り勢至の鉄座宿を認めるというもので、恒興は摂津池田の出身で信長の乳母の子であり、信長に仕えて各地に戦功を立てている。勝入を名乗るのは荒木村重の没落後と言われているので、（一八）が（一七）との関連文書であるとしても、すぐ直

接するものでは無い。(二〇)は信長が元亀二年(一五七一)西尾小六に宛てた知行安堵の朱印状である。小六は西尾光教のことで、もとは粟井氏。信光の子で、天正一〇年(一五八二)秀吉に属して所領美濃国野口村を安堵されているが、本文書は、それより前で、信長から多芸郡役を前々の通り命ぜられたもの。(二一)は氏家左京直重から西脇久左衛門に宛てた知行目録である。直重は卜全直元の嫡子で元亀二年父討死の後を嗣いで大垣城主となり、一三年在城したと言う。この左京亮直重が家臣西脇久左衛門に知行を与えたのである。竜泉寺村が、その知行高に加えられている。(二二)は織田信忠が福島四郎右衛門に宛てた禁制で、城之助とあるは信長の嫡子信忠のことで多芸庄椿井郷伊勢太神宮領を従前のように安堵し、伊勢寺で陣取・放火・乱妨狼藉を禁止したもの。天正九年とあるので本能寺の変の前年にあたる。(二三)は堀久太郎秀政が玉井小次郎にあてた天正一〇年六月二八日の指令で、近江から牧田を通り伊勢口へと結ぶ街道の諸荷物や宿路は従来通りと認めている。秀政は秀重の子で始め美濃斎藤氏の家人であったが、信長に仕え天正六年(一五七八)ころ近江長浜の城主であった。天正一〇年秀吉が毛利氏を攻めていた折、信長に命ぜられて備中へ出陣中、本能寺の変に遭い、秀吉に属して山崎で戦っている。六月一三日明智光秀は敗死した。その直後六月二八日、堀秀政の支配にからんで、この判物は出されたのである。(二四)は織田信孝から玉井小兵衛にあてたもの。信孝は信長の三男であるが、父が本能寺で斃れたあと、秀吉・丹羽長秀に合流して山崎で戦い、光秀敗北後、美濃一国を領して岐阜城主となつた。多芸郡勢至の鉄座ならびに諸商人を従前のまま安定させるというのは、領主として最初に手がける施政である。

(二五)の信孝から福島四郎右衛門へあてた天正一〇年(一五八二)一〇月の禁制は、その内容を(二三)と同じくしているが、これも信孝の美濃支配を示すもの。(二六)は秀吉から玉井小兵衛へあてたもので、江州牧田通から伊勢国へ通

ずる道筋の交通安全を確保し、鉄座荷物の輸送について従前通りと指示したもの。三七信孝は岐阜城主として間もなく柴田勝家と結び、秀吉及び兄信雄と敵対し、一〇年（一五八二）一二月一度戦つて和し、翌一一年三月再び戦つて四月二五日敗れ去つた。この判物は秀吉の勢力が西濃を実質的に制圧した天正一一年三月二二日出されたものである。このように鉄座ならびに諸商人宿など自身の権益を守ろうとした玉井家の努力は、領主権力にすがつて、その保証を得ようとした。領主権力は、この要請にこたえて、その勢威を拡げてゆく。この足跡として(一七)信長朱印状(一四)信孝判物(一六)羽柴秀吉判物など一連のものを見ることが出来る。

(一七)は椿井郷公田御年貢銭帳である。椿井郷は幾つかの名田に分かれる。山本・金阿弥・魚屋・衛門・鷲屋・宮地・道秀・玉屋・善姓・小谷・播屋・孫太郎・藤内三郎・成阿弥・宮内・道幸などの名田である。この一つ一つに就いて取立てる年貢を銭△貫△百△十△文で示したものである。年貢銭は内訳の種類を書いているが、本年貢銭・河成高畠・坊土銭・糸代・加厳米・立帰夫銭・長夫銭・大豆・麦などとなつている。本年貢銭は江戸時代の本途物成であり、これが主軸であることは疑いない。河成高畑は河成と高畑とに分けて書かれてもいるので、それぞれ特殊な状態にある耕地と見た方が良く、河成は水害によつて川となつたもの、高畑はクネ田でも指すのであろうか。大豆・麦・糸などは生産高に対して課せられるもの。

なお名田の納租責任者は一人の場合もあれば分担の場合もある。その内には庄福寺・仏乗坊・実乗坊・多聞坊・西蓮坊の名が見える、庄福寺が多岐の荘福寺であろうことは大塚社役のことが記されていることから推定出来る。大塚社とは多岐の多岐神社を指している。この公田御年貢銭帳には、つづいて野畠方があり、そこには「せいし玉井小兵衛」引得のもの四筆あり、別に

玉井五郎左衛門分　小兵衛引得

などもあつて、土豪玉井一統の片鱗を窺わせる。

(二八)は飯ノ木村与一郎が天正一九年(一五九一)中島八左衛門から八中堤南田地四反三畝を借り、加地子米五斗ずつ年毎に納入すると約したもの。中島が、この地域で有力者だつたことは(二七)の年貢銭帳に中島二郎兵衛久正・中島与三兵衛春正の名が美濃国人層の長井らと並んでいることから察知出来る。(二九)は文禄三年(一五九四)豊臣秀次が寺西新五郎に宛てた領知朱印状で、寺西の所領の中に五日市村が含まれている。秀次は秀吉の嗣子孫七郎のことであるが、文禄二年(一五九三)尾張八郡を加増されている。秀次は同四年高野山に追放され自殺しているので、この朱印状は、その前年のものである。(三〇)は秀吉の書状で、多芸高畠出身の大橋長兵衛が横山城で仕えているが、その在所で留守衆が一揆を起したと聞くが、この件について事実を糺明して善処してほしいと、塙・市橋・塚本ら四人に頼んでいる。この文書は秀吉の横山城定番就任の元亀一年以降のもので、「木下秀吉」の署名から天正一年以前のものである。塙九郎左とあるは塙九郎左衛門尉直政、「塚本大」とあるは塚本小大膳、市九は市橋九郎左衛門尉長利である。長利は池田郡のうちで秀吉から領地をもらつていたが、後に福束城主となり、天正一三年(一五八五)死歿している。信長近習四人のうち残る一人は「御長」であるが、谷口克広の研究によれば(雑誌日本歴史三一六号)菅屋九右衛尉であろうという。「御長」を九郎右衛門の幼名だろうとし、信長の親密な側近者には、「御竹」(長谷川秀一)「御乱」(森長定)らの例があると論証している。(三一)は木村清大夫から押越の兵左衛門らに宛てた書状で少八が七兵衛を斬殺したため、その居所捜索に関するもの。(三二)は菅屋九右衛門長頼から勢至の玉井小二郎へ宛てて、塩荷などを津屋でとめて勢至へ届くのを妨碍しているのに対し、御朱印の趣旨通り勢至で取扱うよう指示

したもの。長頼は中島両以記文に「中嶋伝右衛門、信長公御甥菅谷九右衛門殿に致奉公、信長公・九右衛門殿、京ニて御遠行」とあるように、織田信辰の子で、天正一〇年明智光秀の謀叛により、信忠と共に二条城で討死した。(三三)は徳永式部卿法印寿昌から任斎にあてた書状で、今まで小倉にあつた勢至宿を高田町に置くので、家を建て並べ商人が参集するようにせよと命じている。寿昌は始め柴田勝豊の家臣であつたが、勝豊の死後、秀吉に従い、秀次附となつて、尾張丹羽郡・美濃松ノ木島のうち二万石をもらい、美濃高須城主となり、次いで一万石を加増された。関ヶ原の役には家康に応じて福束城を攻略した。(三四)は戸田三郎四郎から玉井小次郎に宛て、稲葉入道が無法にも闕所とした由だが、宿は前々通り続けるようにと申し送つている。(三五)は元勝の書状。勢至の玉井が小倉へ引越したいとの内容。(三六)は伊藤加賀入道秀盛の書状で、小倉の玉井がネコヂ（根古地）へ越したいと希望していることに係るもの。文中の長門は、大垣城主に天正一八年（一五九〇）封ぜられた伊藤長門守祐盛のことであるから、秀盛も、その関係者の一人であろう。(三七)は木下藤吉郎秀吉から大橋長兵衛尉にあて高畑村のうち給所千疋を丸毛兵庫頭光兼が違乱したとのことだが、この所領は斎藤山城守道三以来大橋長兵衛の知行であるから丸毛兵庫頭にも申して持続せよと認めている。丸毛氏は代々大塚村に住んで土豪であつた。(三八)は竹口右衛門尉から勢至の小二郎にあてたもの。玉井小次郎が勢至に子を残して置き、自身は津屋へ越してゆくことを内容とするもの。(三九)は寺蔵小兵衛・水谷次郎右衛門・五井伊兵衛・寺蔵源右衛門ら四人から玉井五郎左衛門に宛てた慶長二年五月の申定条々であるが、これは津屋へ玉井が引越してくれば津屋宿で屋敷を与え、家役・山手・野手などの税を免除するとし、荷銭を規定している。商人荷物の津屋へ入る舟は四艘につき一艘の割で玉井の収入とするなど、伝統的な玉井家の実績を認めている。

この玉井家文書は昨年まではまだ公表されていなかつたもので、ここに紹介出来たことは、一に所蔵玉井直氏の御理解と、その採訪をされた九州大学国史研究室の協力と、この写真を私どもの目にふれるよう尽力下さつた岐阜大学教育学部勝俣鎮夫助教授の御厚志による。とまれ当地域にあつた中世の鉄座は、玉井氏に支えられ、勢至に盛んであつた。伊勢街道の要地を占めていただけで無く、河川輸送の要衝でもあつた。領主権力も、この鉄座を擁護してきたが、近世初めに勢至にいた玉井氏は子を勢至に残したまま津屋へ越していく。その後、勢至にいた玉井氏も小倉へ引移り、さらに徳永寿昌（よしまさ）の領主支配の許で高田町に移る。これは一つには勢至が河川運輸上不適当となつた為であろう。しかし座を次々と移すことは永い年月積みあげてきた座の実力を弱めることとなり、近世に入れば領主の実力に特権が次第に限定され、崩れていつた。こうした片鱗を玉井家文書で推考出来るようになつたことは喜びである。

次に古代・中世関係の銘文などに移る。(四)は多岐神社境内、西裏に小さい塚があり、如法塚と呼ばれているが、その塚上に自然石の碑があり、それに此の文字が見られる。西濃に、このころ如法経碑を建てる流行があり、同じ年の碑は大垣市塩田正円寺・上石津村観音寺裏山、久安四年（一一四八）のものが大垣市赤坂明星輪寺にある。(四二)は多岐神社に収蔵される懸仏の銘文を集めたもの。多岐神社は延喜式に載つている多芸郡四座のうちにふくまれて居り、「美濃国三宮大塚社」として信仰を集めていた。御正躰は護法大菩薩と崇められていたことは銘文で明白である。なお納めた人々の地域が多芸島郷・島田郷・渋江郷・大塚郷・直江郷・宇田郷・志津郷・江月郷・椿郷などと拡がり、近傍の篤信に支えられている。なお天文一〇年（一五四一）の銘に多芸庄大塚高山とあるのは(五)明徳一年（一三九〇）の多芸内吉田高山跡と同じなのだろうか。(四三)は荘福寺所蔵の骨壺の銘文で、小笠原長清のもの

である。長清は京都で自身が創建した寺に葬られていたが、その寺が応仁の兵乱に焼亡した。そこで軍陣に在つた子孫の丸毛兵庫長照が石棺をほり出して遺骨を三分し、その一つを荘福寺に収めた。骨壺の銘文は横川景三の文明二年（一四七〇）の作である。(四三)は養老神社の所蔵にかかる永正一年（一五〇四）の天満天神社殿造立の棟札、(四四)は有尾の八幡神社所蔵の大涓社永正一六年社殿造立の棟札、(四五)は永禄二年（一五五九）八所権現社殿再興の棟札である。また(四六)は大塚社慶長七年（一六〇二）の仮殿ならびに殿堂修造棟札であり、それぞれの神社の社歴を偲ばせる。

第二部　近　　世

上巻には近世史料の前半を掲げた。即ち支配・土地・貢租・村況・戸口・身分格式・村方に関する内容である。以下所載の順に解題してゆく。

一、支　　配

(一)は徳川家康の歌・金谷・島田・直井・大塚村へ下した禁制朱印状である。関ヶ原で家康が石田三成と雌雄を決したのは、慶長五年（一六〇〇）九月一五日であるが、大垣城が落ちたのは、二三日であつた。西濃では関ヶ原の戦に大垣・高須・太田・長松・福束は西軍に属し、松ノ木・今尾・曾根は東軍に加わつたが、多良・岩手は途中で西軍から東軍に転じ、それぞれの領主の動向が入乱れていたため、家康の禁制も大垣城陥落の二日前の日付となつた。次いで(二)は(一)の禁制の中継をした間宮彦次郎が同年一〇月二一日、島田町へ下した掟である。間宮は関ヶ原の戦の直後、歌・金谷・島田・直井・大塚村あたり一帯を家康の命で支配していた。そこで島田町の治安と繁昌をはかつたのが、この掟である。楽市の文字が見られる。(三)は、同年一一月家康が徳永寿昌を領主として、高須

に封じ五万石余を与えた。当地域の二五ヶ村ほどは、その領域に含まれた。寿昌は松ノ木三万石から高須五万石に移ると、領内の土豪層を活用して施政を進めた。(三)は渋谷六左衛門を郷士として認め二百石を与えて、その翼下に入れたもの。慶長五年一二月二日のことだが、翌年一〇月には丸毛六兵衛に五百石を与えて家臣とした。これが(四)である。(七)は同じく飯木村で高九石三斗を賜ったもの。同様なことは(五)に見られる西脇久左衛門に対しても行われたことであろう。西脇とは古代中世篇(三)に知行七百貫を氏家左京から天正一年(一五七三)にもらっている家である。それは(六)慶長一三年(一六〇八)徳永寿昌が西脇久左衛門尉に米七石五斗、片山彦十郎に対し米五石を、知行方夏成米として渡していることでもわかる。

さらに寿昌は翌一四年田一町九反三畝を(九)で浅野少五郎に渡し、(一〇)で田二反を同年藤田助三郎に、(一三)で田三反を河村太兵衛に渡している。五万石の大名として、このような小さな田を家臣団に分与していることまで花押を捺している。いずれにしても(五)(六)は、こうして家臣団に編入された渋谷・古田・西脇・丸毛らに対し、村支配に尽力するよう領主徳永が命じたもの。(一二)は元和二年(一八一六)徳永昌重が田中伝左衛門に宛てた家臣への一〇月分給米指令で、そこには家中(かちゅう)として田中伝左衛門尉・香川太介・西脇清介・稲葉平三郎・志藤田清左衛門の名が見られる。なお(一一)に見られるように、寿昌は垂井の問屋へ渡す大豆一二石についても西脇久左衛門へ指示している。但し当時、取扱い役人として、こうした形式を踏まねばならなかったのかも知れない。

つづいて寿昌・昌重の父子二代にわたる施政に触れてゆく。(一四)は米四石二斗をついて赤坂へ届けよとの指令であるが、これは恐らく江戸から誰かが往返の途、赤坂に泊った為、飯米としてそこへ送り届けたものであろう。(一五)は洪水の折、舟付・大野境から栗笠新圦までの防禦を関係村々に命じたもの。この係役人は田中伝左衛門尉・

馬場三右衛門尉であるが、(六)で寿昌は田中伝左衛門尉に対し、大雨なので堤を防げと指示し、しかし伝左衛門尉自身が陣頭指揮しては身体が冷えるので、子供に現場は任せよと細かく思いやっている。(七)は多芸郡の知行高書付けなど西脇久左衛門尉が担当したことを示している。(八)以下は昌重に移る。

(八)は昌重が田中伝左衛門にあてて、慶長一七年(一六一二)分の米、慶長一八年分の麦の処分について指示したもの。大津へ送り市村長右衛門に渡している。(九)は田中伝左衛門に対し、その代官所管下の石畑・飯木両村の未進者と米量を書き並べ、納入を督促している。一人でも逃散させるなと厳命している。(一〇)は昌重から片山二蔵に宛てたもので、柾板を先年父寿昌が受取ったこととして片山の下代大橋久次が受取証を出している一件について取調べることが記されている。(一一)は昌重の妻子を駿府(静岡)へ引越させる折の指令で、鳴海まで舟でゆくから一艘用意して、練達の水夫を今晩根古地まで来させるようにと命じている。(一二)は昌重が葛岡・西脇・松村三代官に命じて一二〇石の大豆を陣所の馬の飼料とするため急いで大津へ送れと指揮している。大坂の陣に係るものであろうか。(一四)は同じ昌重が田中伝左衛門に宛てて、鉄砲三〇人分を確実に具足と共に保管し、連絡次第、本陣へ差出せるよう準備を命じたもの。これも或いは大坂の陣の関係であろうか。因みに昌重は大坂の夏・冬両陣に戦功をたてている。(一五)の昌勝は昌重の子で、丸毛六兵衛にあてた年頭祝儀の謝礼、(一六)も田中伝左衛門にあてた諸太夫祝儀の謝礼である。昌勝は寛永五年(一六二八)父の所領没収の折、連坐して越後に流されている。

さて高須藩主徳永家は寿昌・昌重の二代で寛永五年(一六二八)所領を没収された。かくて領内村々は暫く幕府直轄となり岡田伊勢守善同の支配となった。(一三)は岡田の家臣常葉六郎左衛門・福井新左衛門が大跡・根古地・大場三カ村は戸蔵所左衛門・西脇彦右衛門を代官に任命するとの寛永一九年(一六四二)の触書である。村々の安定の為

に前代の代官を活用したわけである。大塚村は大垣藩主に松平定綱が位置づいた寛永一〇年（一六三三）から大垣藩領に加えられた。従つて翌一一年同村妙徳院境内は除検地を先例通り認められ、寛永一二年戸田氏鉄が大垣藩主となつても引継がれた。それらの寺領安堵状四通を、安政六年（一八五九）の氏彬も含めて(二七)に掲げた。(二八)は高須藩主小笠原貞信が寛永一七年（一六四〇）村々へ出した行政規定である。小笠原は徳永の後を承けて高須藩主となり、一代二七年間在任した。(二九)は寛永一九年・承応二年（一六五三）尾州藩が烏江村に出した法令である。烏江は栗笠・下笠・船付・大野・横曾根・蛇持・江月・西岩道・ロヶ島（一部）・飯田（一部）の村々と共に元和五年（一六一九）尾張藩領に編入されていた。

(三〇)は天正一〇年（一五八二）織田信忠に攻められて信濃国高遠城が落ちた折、氏原左京助の家臣西脇久左衛門が負傷しながらも殊功をたて、信長の御朱印さえもらつたことに対し出した書状二通である。付載した西右近の書状は丸毛六兵衛と共に西脇久左衛門の武功をたたえていると、西脇に宛てたもの。(三一)は北伊勢にての西脇久左衛門の戦功を賞し、養老三ヵ村と押越村で知行を加増した折の氏家左京助の知行充行状。(三二)は烏江村の吹原勘兵衛へ藤田吉正・山田直家が連署して、江月村入作分の帳面を届けるから田畑を改め、請取るよう連絡したもの。(三三)は加藤遠江守光泰が山畑五郎左衛門の戦功をたたえ、家康も認めていると述べたもの。

二、土　地

土地の部の最初は(三四)椿井郷年貢納帳で、天正一七年（一五八九）一二月のもの。「なわ之内」の文字が見えるので、所謂天正検は済んでいるのであろう。(三六)は慶長一四年（一六〇九）押越村の検地帳で、七分冊となつている。検地帳は土地台帳のことであるが、田・畑・屋敷にかぎつて、一筆ごとに縦と横の長さを測り、それを掛算して面

積を反畝歩で示し、さらに、その土地の所在地と、田畑の等級を上中下であらわし、最下段に所有者の名を認めている。一筆が一行で、筆数の限り書き並べたのが検地帳である。押越の慶長検を登載順に日付を追うと、八月一七日・一八日・一九日・二〇日・二一日・二二日・屋敷二二日となつている。検地帳の作成は

一七日の総面積　一三町七六畝二一歩
一八日　〃　一二町五八畝一九歩
一九日　〃　一七町四二畝二二歩
二〇日　〃　一二町九二畝一〇歩
二一日　〃　六町〇九畝二〇歩
二二日　（田畑の分）　六町三九畝　六歩
〃　（屋敷の分）　一町二七畝　五歩

となつて居り、一日に相当量の検地をしたこととなつている。(三七)は押越村畠方帳で、一筆ごとに所在地・面積・持主を記しているが、元和二年(一六一六)の細字書込みのあることから、慶長検地の畠方の分だけかとも思われるが両者の屋敷の面積・持主が符合しない。一考を要する。(三八)は押越村明和九年(一七七二)の新田検地帳で、見付田・見付畑に対し、縦と横の長さ、面積、石盛、高、所有者を一筆ごとに認めたもの。石盛は見付田七斗、見付畑五斗となつている。(三九)は押越村見取場の新田検地帳で文化一〇年(一八一三)のものであるが、前者と同じく大垣藩が行つたもので、押越は当時幕領大垣預りであつた。新しく開墾したり、洪水の荒地を再開発したりして田畑が造成されると、こうして検地を行い、一人前の租税対象地に領主は編みこんでいつたのである。(三八)(三九)は六尺一

分竿で測つているが、共に縦・横を間尺寸まで書き立て、精密な測地である。(四〇)は岩道村正保五年(一六四八)の田畑検地帳で二月二九日に行つている。多くの場合、検地は収穫後の季節を選んでいるが、この場合は冬を越した春先に一九町〇一畝一四歩を測つている。岩道村は当時高須藩主小笠原貞信の所領であつた。(四一)は慶安五年(一六五二)根古地新田の検地帳である。

二月二四日　三四町七二畝二九歩
二月二四日　四四町一九畝一一歩
二月二四日　二六町三三畝〇七歩
二月二四日　七町七六畝〇九歩
二月二四日(屋敷)　二町〇六畝二八歩

の五分冊となつている。二月二四日の一日間にこれだけの検地を終つている。或は日付だけ最後に同一日を書きこんだものか。次の(四二)は寛文五年(一六六五)の北村新田検地帳。北村は喜多村とも書く。(四三)は明和五年(一七六八)の喜多村検地帳。始めに検地式を掲げている。一筆毎に通番号がうつてあるのは、現場の田畑にも、この番号表示札を立て、検地の折、照合の便をはかつたことに因る。次は(四四)多芸中村の検地帳である。これも検地の凡例を始めに示して、一筆ごとの記載に移つている。二分冊となつているが総計で三五町六四畝一一歩・高四二四石〇四を算えている。

(四五)は押越村の田畑名寄帳で、名寄帳とは検地帳が一筆ずつ記しているのに対し、所有者ごとにまとめて一筆ずつ書きあげたものである。寛文一三年(一六七三)で一一冊に分けているが、六左衛門四町七六畝二四歩、七左衛門

二町六六畝一〇歩、兵左衛門二〇町四九畝二八歩など明らかであるが、他の家々の分は残っていない。(四六)は押越村元禄三年(一六九〇)の田畑名寄帳である。兵左衛門八町七七畝一七歩、甚左衛門五町三四畝一歩、伊左衛門九町六四畝八歩、三左衛門六町二三畝一一歩、権左衛門四町三七畝二二歩などが目立つている。(四七)は押越村田畑名寄帳の元禄五年(一六九二)のもの。(四五)より僅か二年を経ただけであるが、その推移を窺うことが出来る。(四八)は元禄一六年(一七〇三)大場新田の名寄帳である。村高五三二石二一八のうち、最高は兵内の高一七一石余で三割を越している。次は伝兵衛の高四九石余、次は源左衛門の高二九石余。(四九)は安永二年(一七七三)有尾新田と津屋新田の畑高・屋敷高反別帳で、一筆ごとに面積と所有者の名前を並記したもの。

(五〇)は江月村新田定書である。この新田は尾張藩代官藤田民部が、出作の者が此処に住みつき百姓をすれば田地を与えるが、住みつかなければ田地を取上げると示した。そこで五人が屋敷をつくり住みついて田地をもらつた。ところが暫くして家をこわして本村へ引揚げてしまつた。そこで酒井久左衛門代官に至つて、戸口少ない江月村は堤も切れ易いとして、前々のように出作りの百姓は江月村に移り住むよう、もし移住しなければ田地は取上げると決定した。しかし一人以外の四人は移つて来なかつたので、山田小左衛門尉・藤田忠兵衛が田地を取上げ、烏江村吹原勘兵衛に渡した。すると出作の者は江月村百姓と謀つて石原善十郎代官に目安を差出し田地取戻しをはかつた。けれども善十郎は出作の者の願を却下した。江月村では訴状を提出した。しかし、出作の者は検地の折、更に名古屋へ訴え出た。これら紛争の経緯を五通で明らかにしたのが(五〇)である。

(五一)は根古地新田の開発証文で、寛永一八年(一六四一)・正保二年(一六四五)の二通を載せた。共に新田願主の河内屋甚九郎のもので、新田開発に就いて村庄屋へ約束した内容であるが、前者は本田の故障になることは一切行

わない、薬草や鳥獣をとりには入つてよいなどと規定し、後者は作方について永代指示をうけると述べたものである。(五三)は寛永二一年(一六四四)津屋村草場五百石・有尾村草場千石の新田開発願である。これは輪中堤を築くことから始まる。即ち古堤の修理一三六〇間、新堤一二〇〇間を築くことから始まる。五ノ里・柴原北方・加納・公郷・居倉村の五人が出願している。附載したのは、役所から開発出願者に対し、両村の新田が開発された折、税をどのように取立ててゆくかを主として指示したもの。

(五三)は根古地村・大場村の荒所開発証文で永荒の地を拓いた折の税収の次第を役所から開発願主に指示したもの。正保二年(一六四五)にかかる。(五四)は延宝二年(一六七四)下池新田の開発にあたり領主から開発主の本阿弥光務佐に一七カ条の約束を認めて与えた証文。この開発に当つて横屋輪中の水落に支障がないよう江堀・圦をつくることの約定書を附載した。延宝一年(一六七三)のものである。(五五)は元禄四年(一六九一)大跡新田に関する開発証文で、大跡村庄屋から開発主の小倉村両人にあて新田と本村とは別々の取扱いとなることを約束したもの。(五六)は押越村荒所の起返し願で、牧田川の洪水で石入り荒地となつたうちの一町歩余を起返すよう命ぜられたが石砂の厚い所は苗木を植えるより致方なく、また低地は秣場にしかならないので、これを認めてほしい、許されれば反当り御年貢米二升ずつは上納すると村から願い出たもの。宝永七年(一七一〇)のことであるが、起返しの全面積は高二九〇石余であつたが、この人足日傭賃がもらいたいと村から役所へ申し出た願書を附載した。

次は伊勢神領関係に移る。(五七)は鷲巣村慶長一四年(一六〇九)伊勢神領の検地帳である。五分冊のうち一冊だけが残つているとあるが、面積は三町余に及んでいるので、鷲巣村全域から収載しているのであろう。次は元禄四年(一六九一)同村の検地帳で田畑四反余のもの。(五九)は明和四年(一七六七)外宮の福島伊豆が椿井郷一円の神領を石

畑村二二石余・鷲巣村二二石余・飯田村五石余と内訳を記しながら、石畑が親村だから朱印高は石畑村の名で五〇石となつていると認めて、御奉行所へ差出したもの。御朱印は高五〇石と決まつているが、文化八年（一八一一）の内高は九四石余となつている。（六〇）は検地につき村方心得を示したもので、御検地奉行から石畑村へ宛てたもの。（六一）は押越村から元文二年（一七三七）荒所の起返し高二三石余について年貢をどのように納めるかを村から差出したもの。（六二）は文化八年（一八一一）白石村から御役所へ提出した新開の検地請書。これは山年貢小物成場の新開のうち、二反三畝だけは三ヵ年だけ高内引に決定した。これは石砂が多く入つているためである。

（六三）は元和九年（一六二三）江月村高のうち吹原勘兵衛の控分について同村百姓から異議なしと認めた一札。（六四）は社寺地寄進状を集めたもので、宛名は正保四年（一六四七）の宝泉寺のほかは、翌五年の岩道・小倉・根古地村の神主に宛てた領主からの土地寄進状と、根古地村称明寺にあてた領主からの地子免許状である。（六五）は慶長廿五年（一六一〇）吹原勘兵衛への高野売渡証文、（六六）は寛永一四年（一六三七）中島兵左衛門ら三人への屋敷・田畑売渡証文と、寛永一九年吹原勘兵衛宛ならびに寛文七年（一六六七）喜多村吉兵衛から藤九郎に宛てた田畑売渡し証文である。これらは江戸初期のもの。最後は小倉村古新田のうち高八一石余を新田開発主から村人へ譲つたもの。（六七）は林山売渡証文二通を掲げた。一通は宮南の伊勢林、一通は島田村の滝之谷に関するもの。（六八）は根古地村で二町七反余を埋田とせよと御役所から村へ命じたもの。（六九）は田地替地証文で、一つは明和二年（一七六五）、一つは寛政二年（一七九〇）のものである。（七〇）は天保七年（一八三六）田中武十郎がおかとへ九畝余を分け口として与えたもの。（七一）は寛永九年（一六三二）竜泉寺村十郎右衛門の田地を五人で請作りした証文。（七二）は明和六年（一七六九）上方村から追放された弥助の子勘次郎は親戚をたよつて藻池村に住んでいたが、寛政一年（一七八九）帰村を許された。そ

こで上方村へ帰ろうとして居屋敷を手に入れたが、その折の証文である。

三、貢　　租

先ず免定を掲げる。免定は役所から村にあてた徴税令書である。最初のころは村高と税率と取米とを書いた程度の単純なものだが、後になると村高から徴税非対象の高を書き並べて差引き、更には本税以外の附加税や雑税まで書きこむようになり複雑となつた。(七三)は直江村の免定を寛永九年(一六三二)から文政二年(一八一九)までにわたつて一二通を抄出した。(七四)は根古地村で慶安四年(一六五一)から万治二年(一六五九)まで三通を掲げた。(七五)は根古地新田の免定で、承応二年(一六五三)から元文三年(一七三八)までで一一通を抄出した。根古地新田は河内屋新田とも呼び、江戸初期の開発にかかるが、その村の免の書式の変移が見られる。(七六)は横屋村の免定、万治三年(一六六〇)のもの。(七七)は横屋新田、万治三年のもの。横屋村・横屋新田の双方が同年次で見られる。(七八)は下笠村の免定。寛文三年(一六六三)から元文五年(一七四〇)までの間から三通を掲げた(七九)は白石村で寛文四年(一六六四)から正徳一年(一七一一)までの期間から一六通を抄出した。(八〇)は竜泉寺村のうち延宝七年(一六七九)西脇十郎右衛門控高を定免とする規定である。定免とは数年間、税率を一定とすることで、三年・五年・一〇年などと期間を決める。ただ本文書にもある通り、日損・水損・風損などの激しい年は、特に税率を変更することとなつていて、これを破免といつた。

(八一)は金屋村の免定である。天和二年(一六八二)から天保七年(一八三六)までの期間から一二通を抄出した。(八二)は岩道村の免定。貞享一年(一六八四)から元禄三年(一六九〇)まで七通を載せた。(八三)は島田村の元禄五年(一六九二)と宝暦一〇年(一七六〇)の免定。(八四)は上之郷村の享保三年(一七一八)から八カ年間の免定取米を年々

書上げたもの。(八五)は喜多村の文化九年(一八一二)と文政二年(一八一九)の免定。(八六)は橋爪村の文化年間の免定二通。(八七)は宇田村の安政六年(一八五九)から一〇ヵ年間の免状取米写。これは明治二年に最近一〇ヵ年間の免を書き出させたもの。(八八)は伊勢太神宮領椿井郷の慶長二年(一五九七)の御年貢納帳で、一人一人の納米が明らかにされている。付載したのは石畑・鷲巣両村の伊勢神領の物成皆済目録。皆済目録とは割当てられた年貢を村から完納し終ると、領主から完納証明をくれる。その証明書が物成皆済目録である。宝暦九年(一七五九)と翌年との二ヵ年であるが、この二例は村から大垣藩郡奉行・代官・神宮へそれぞれ差出したものである。(八九)は押越村元和七年(一六二一)の御物成一紙目録と、寛永三年(一六二六)の請米と、翌四年・五年・七年・一七年の免割一紙目録と承応三年(一六五四)の皆済目録と享保三年(一七一八)の免割目録を含んでいる。これらのうち「ありき給」とあるのは後の定使給のことである。(九〇)は白石村延享四年(一七四七)から寛政一年(一七八九)までのうち九ヵ年分の皆済目録であるが、飢饉で名高い天明年間を全部掲げたので、その間の生活を窺うことも出来よう。(九一)は金屋村の皆済目録で、寛延四年(一七五一)から天保八年(一八三七)までのうち四通を載せた。租として出した米銭が、どのように処理されてゆくかを見るには、皆済目録が大きく役立つ。(九二)は小倉村の年貢皆済目録で宝暦九年(一七五九)のもの。(九三)は栗笠村文政七年(一八二四)の免割符帳であるが、ここに見える夫銀・伝馬銀・堤銀は尾張藩が附加税として徴収した夫役銀で、世に三役銀と呼ぶものである。(九四)は喜多村の免割引入証文で天保四年(一八三三)のもの。免割並びに村諸入用の割賦について村方で申し合わせた内容。(九五)は中村の年貢米・夫役米・村入用米の免割帳で、嘉永七年(一八五四)のもの。但し神田・支配人万太郎・応順寺・彦右衛門・同隠居分・他左衛門・五郎次までで以下を省いた。(九六)(九七)は押越村年納米の納証文で、寛永五年(一六二八)と寛永二〇年のもの。後者は年貢米納

入を一〇月二日から翌年一〇月一七日まで約一カ年かかって納めたことを明らかにしている。(九七)は元和三年(一六一七)堤勘右衛門が田中伝左衛門に与えた年貢銭の請取状である。同年徳永左馬助も年貢銭を田中伝左衛門から受取ったことが附載文書で明白である。(九八)は押越村物成米の請取証文で中島兵左衛門に宛てた寛永一九年(一六四二)同二〇年のもの。(九九)は御城米二三四俵を押越村から受取った証書。(一〇〇)は熱田の西村官兵衛から寛永七年(一六三〇)中島兵大夫に宛てた米五七石の払口証文。(一〇一)は押越村下勘定払目録で寛永一九年(一六四二)のもの。(一〇二)は徳永改易の後、寛永五年(一六二八)押越村預り米九〇石余について、村から処分方につき差出した請書。(一〇三)は直江・押越・飯ノ木・宇田の四ケ村の寛永五年における年貢米地払いの請証文。これは(一〇二)と同じ立場のものである。次いで翌々七年(一六三〇)御蔵米を請負地払いする証文で、さらに同八年押越村では御蔵米を地払いのため請取っているが、その証文を並べた。(一〇四)は寛永九年(一六三二)の竜泉寺村・石畑村・津屋村の年貢米借用証文。寛永一三年には押越村でも三石近い御年貢米を借用している。これらの文書には多く「天下一同の徳政」が行われても、この御蔵借用には適用しないとの文言がついている。言葉だけが残象現象として残っている。(一〇五)は大場村・大場新田の御城米御納所一札連判帳で、享保一〇年(一七二五)のもの。(一〇六)は宝暦二年(一七五二)白石村御廻米八一俵の諸入用を認めたもの。白石村は幕領で江戸へ廻米していた。

(一〇七)は押越村の御膳籾一六石・御貯籾三石・熱田御詰籾三石・太餅籾一石、合計三三石、この代米三九石程を明和七年(一七七〇)小柿村で請負った折の証文。(一〇八)は嘉永四年(一八五一)御廻米取扱方手当として二人分の扶持を高田町佐竹重兵衛がもらった折の書付である。(一〇九)押越村御膳籾代米代金は明和四年(一七六七)小柿村の請負人清蔵から押越村庄屋にあて届けた請取証。(一一〇)は室原村庄屋から御膳籾五一俵を津出し川下げしたと桑名湊

船積御奉行所へ連絡したもの。(二二)は安政六年(一八五九)釜段村からの積米について紛争が起きたが内済した折の証文。(二三)は寛永六年(一六二九)押越村の検見覚である。

(二三)は検見取扱いについての起請文であるが、署名と年月を缺いていて、起請文前書の部分だけである。(二四)は享保三年(一七一八)大場村・大場新田の立毛を内検見し、合毛附をした折の書類。(二五)は享保八年烏江村田畑の立毛の状況を書上げたもの。(二六)は享保一〇年白石村の立毛百姓下見合附帳である。秋の収穫時ともなれば村では庄屋・年寄・長百姓が地主と立会の上、所々で坪刈をしながら立毛(作況)の下見(したみ)をする。そして一筆ごとに、作柄を等級で書きこんだ帳面をつくる。それの一例が(二六)である。領主側では、この帳面を現地でひきあわせて異状なければ免決定をしていつた。(二七)押越村の晩稲の合毛揃帳で文化一一年(一八一四)のもの。四合毛から皆無まで六段階に作柄を分けている。(二八)は中村の検見引地差出控で天保三年(一八三二)のもの。内容は又兵衛分高二〇石余を別口にしただけで、作柄を五合毛から皆無まで六段階に分けたものである。(二九)は中村の御検見差出書で、定免通りと決定される内容がわかる。

(三〇)は烏江村堤外の島田堤土取跡が不納所であつたが、アシ・マコモを植えて定納一石を出すよう吹原勘兵衛へ慶安一年(一六四八)命じたもの。(三一)は万治三年(一六六〇)尾張藩奉行から烏江村にあてた年貢納め方の申付書であり、領内一般に出されたもの。(三二)は大場新田の享保一七年(一七三二)定免申渡書ならびに百姓請書。これは役所で定免を申渡した折、納米などの注意をしたのに対し、百姓が違背しないと誓つたもの。(三三)は押越村で寛永五年(一六二八)高免なので引受けられないと、村人が領主側に反駁したもの。「この連判の者、一人にても身ぬきに仕るまじく」と団結のかたさを見せている。(三四)は同年押越村では日損で田が荒れているため、石畑村

同様に税を軽減されたいと願い出たもの。附して寛永一一年の同村免定と、寛永一三年の「かかりもの」の割賦法についての請書を載せた。(一三五)は寛永八年(一六三一)押越村百姓が荒川成に税をかけられたことに対する異議申立である。(一三六)は天保七年(一八三六)の石畑村定免三割二分八厘の三ヵ年継続願。(一三七)は栗笠村で宝暦二年(一七五二)御救御定免として内高二割三分取にしてほしいことと、二七〇両の借金が返せないので無利息のまま年末まで延ばしてほしいとの願書。(一三八)では白石村が畑方年貢を減免してほしいと天保六年(一八三五)笠松陣屋へ願い出ている。(一三九)は天保三年夏以来の日照りで作柄が悪いため、中村から破免を願い出たもの。(一四〇)は口ヶ島村の掟方引免についての願書。(一四一)は岩道村で御囲籾が洪水の折、濡米となつて四二石減つたことの報告である。

以下小物成へ移る。小物成とは米以外の雑税のことである。(一四二)には寛永一九年(一六四二)飯木・押越村で麦・綿・煎茶の名が見られる。(一四三)は翌年竹を納めさせたもので五ヵ村の中に烏江の名が見える。(一四四)は栗笠村の小物成の由来を書上げたもの。毎年湊の御年貢として金一両三分を問屋から納めていることがわかる。

次は課役へ入る。(一四五)は尾張藩の船役銀廻状。尾張藩では文化八年(一八一一)濃州三湊と大野村の舟に般役銀を始めて課した。翌年荷積みをしない舟、即ち藻取舟・作舟などは役銀を免除した。これに関する書類が(一四五)である。(一四六)は小倉村の荒地に生えている葭を永六一二文運上することによつて村で例年買請けてきたが、今年は出水で葭が冠水し成育が良くないので、運上を免除してほしいと願い出たもの。(一四七)は異国船が来航した節、警備のため、尾張藩命によつて、江月で三人、栗笠で六人、烏江で二人、舟付で一二人の陣夫を差出すこととなつた。その折、村から岡田喜太郎陣屋に宛て差出日限の日延を願い出たもの。(一四八)は嘉永七年(一八五四)一月、栗笠に集会した尾張藩領八ヵ村が陣夫役人足賃銀について規定した内容。(一四九)は同年陣夫役につき御下知のあり次

第、名古屋の寄場へ陣夫をつれてゆくとの村方請書。(一四〇)は同年、陣馬の数を指定され、用意を命ぜられた折の村方請書。例えば船付村は馬一四疋の割当となっている。(一四一)は明和一年(一七六四)岩道村他三ヵ村から朝鮮人来朝の国役免除願である。(一四二)は下笠村から村内土蔵のうち五ヵ所は、外形が土蔵だけで、平生は畳も敷いて居住していると申立て、蔵役免除を願い出たもの。(一四三)は嘉永五年(一八五二)石畑村清右衛門の御冥加献金願。(一四四)も栗笠村からの冥加献金願。(一四五)中村調達金証文は文久二年(一八六二)金百両の調達金を諒承し、その返済方に御年貢米一九俵を宛てるとの約定である。(一四六)は栗笠村の二人が六年前の火事で罹災しているので、今回の調達金は免除してほしいとの願書である。(一四七)は幕領大垣預りの村々で将軍の長州征討に関連して、領主から村々に命じ準備させたすべ縄・草鞋・空俵・馬沓(くつ)・松明(たいまつ)の数量を記したもの。(一四八)は島田村から御年貢の他に冥加として御賄籾七俵を永代上納したいと願い出たのに対し、御役所から奇特であるとして鳥目三五貫五〇九文をもらった内容である。(一四九)は幕末白石村の四人が海岸御備場費用にと献金したのに対し、御褒美銀を賜わった折の証文。(一五〇)は吹原家文書に含まれている尾張藩札史料、天保一二年(一八四一)のもの。

四、村　況

(一五一)は延享三年(一七四五)白石村明細帳である。明細帳は村勢要覧といってよいもので、領主へ差出したもの。この年から四三年後の天明八年のもの、二二年後の文化七年、また五年後の文化一二年、さらに二三年後の天保九年、終りに二二年後の文久二年と順次明細帳を並べ、白石村の変貌を概観しようと試みた。(一五二)は明徳村明細帳で安永四年(一七七五)のもの。(一五三)は同年の飯木村明細帳。(一五四)は同年の小倉村明細帳。(一五五)も同年の大坪村明細帳。(一五六)は同年の祖父江村明細帳。(一五七)は同年の金屋村明細帳。(一五八)は同年の飯積村明細帳である。(一五九)か

ら(一五八)までは安永四年(一七七五)のものばかりであるが、これら幕領は笠松郡代千種六郎左衛門の支配下にあつた。(一五九)は文化一二年(一八一五)大跡村明細帳。(一六〇)は同年大跡新田明細帳。(一六一)は天保九年(一八三八)の島田村、(一六二)は同年の室原村のもの。(一六三)は翌天保一〇年の高畑村の明細帳である。江戸後期の村々がどんな状況であつたかを通覧するには楽しい史料である。(一六四)は下池について天保一四年(一八四三)その広さ、開発の情況、魚鳥の捕獲高などを有尾村・有尾新田から笠松陣屋へ報告したもの。(一六五)の直江村諸品取調書上帳も天保一四年のもので、村明細帳とほぼ同じ性格のものである。

次は村境に移る。村境は相手が村内で伐木採草したとして紛争を始め、問題化することが多い。(一六六)は柏尾村と白石村が川原で境を争つていたので存徳寺・正慶寺が仲に入つて境を明白にしたもの。川の流れが洪水で動くため、村境が不明となり争論が起き易いのである。(一六七)は石畑村と押越村境の砂場平地に宝暦一二年(一七六二)境杭をうちたいとの願である。次の(一六八)明和五年(一七六八)のものは、この文書の続きで境杭をうち境界を確定したものであろう。(一六九)は天保四年(一八三三)押越村内で屋敷境を俎上にのせたもの。(一七〇)は明和六年(一七六九)宇多村枝郷杉本と飯田・蛇持村境の畔の高さが問題となつたもの。川上と川下に位置する村々の間では、その境の畔の高さが死活にかかわる重大問題であつた。(一七一)は有尾村と有尾新田の境論で、両村境の畑を有尾新田が新道としてつくり年々かさ上げをしたとして寛政一年(一七八九)有尾村より訴え出たもの。(一七二)は大墳村と島田村との間に河原紛争が起きたため寛保三年(一七四三)御評定所で判決をされたが、その折の判決文と両村の請書を並べて掲げた。

五、戸　口

宗門改めの最も古いものに属する寛永一二年（一六三五）烏江村のものを（一七三）に掲げた。（一七四）は烏江村吹原勘兵衛の被官百姓の宗門改尋答書で文政一三年（一八三〇）のもの。（一七五）は根古地新田寛文五年（一六六五）の宗門改帳。（一七六）は横屋有尾新田貞享四年（一六八七）の宗門改帳。（一七七）は横屋村元禄七年（一六九四）の宗門改帳。附して同年の横屋村増減御改帳を載せた。さらに横屋村元禄一五年（一七〇二）の宗門五人組人別改帳を出した。これには各家ごとに持高が記入してあつて、別の角度からも貴重なものである。（一七八）は中村享保一〇年（一七二五）の宗門改帳。（一七九）は石畑村享保二〇年（一七三五）の宗門改帳。（一八〇）は石畑村・飯田村の宝暦三年（一七五三）伊勢神領百姓の宗門改帳。（一八一）は喜多村明和七年（一七七〇）の宗門改帳。（一八二）は五日市村寛政八年（一七九六）の宗門人別改帳。宗門帳は宗派別に作成されることもあつて、これは東本願寺宗の檀徒に関する分だけである。（一八三）は有尾新田元禄六年（一六九三）の宗門帳であるが、家毎に持高を記し、屋敷の広さを表と裏への長さで示して明らかにしている。（一八四）は下笠村弘化二年（一八四五）の人別改帳で家毎に持高、屋敷地が自分持か借地か、家は持家か借家かを載せ、更に職業について記し、家族・下男・下女まで詳しい。（一八五）は室原村宝永五年（一八五二）の宗門人別御改帳。これも一軒ごとに持高を示している。（一八六）は栗笠村宝永二年（一七〇五）の家並人馬改帳。これは宗門改帳ではない。一軒ごとに主屋から添家まで大きさを長さと梁で現し、持高を明かにし馬の所有を記し、家族一人一人の記載に及んでいる。（一八七）は烏江村正徳五年（一七一五）の家並書上帳であるが、内容は吹原勘兵衛一軒に限られ、持高一七四石、召仕う下男二三人・下女一二人という豪壮な家構えや持舟が記されている。（一八八）は釜段村安政六年（一八五九）の家数取調報告。（一八九）は栗笠村寛政一〇年（一七九八）の村中人数書上帳・百姓家数・馬数書上帳・奉公人書上帳の三種一組を載せた。（一九〇）は栗笠村文化一三年（一八一六）の人別増減書上。（一九一）は下笠村寛政一一年（一七

九九）の宗門増減帳。（一九三）は中村天保一四年（一八四三）の家数人数増減帳。同年同村の奉公人御改帳を附載した。（一九三）は橋爪村天保八年（一八三七）・嘉永一年（一八四八）の家数人数増減帳。（一九四）は直江村弘化四年（一八四七）・嘉永四年（一八五一）の人別増減差引帳。（一九三）（一九四）は離れた二カ年を夫々並記したので、動きの変化を見ることが出来よう。（一九五）は宇田村文久一年（一八六一）家数人数増減帳。以上、宗門帳であると、家並帳であるとを問わず、近世の集落を戸口の面から光をあてて集めた。集落の姿が戸口を軸にしてうき出してくる。増減帳も一人一人の動きも、さることながら、農村の傾向を探ろうとすれば興味ある課題が出てくる。さて次は一人一人が住所を変えると、旧村から新村へ、役場の古郷送り証文と檀家寺からの寺送り証文が原則として送られてゆく。個人の住所変更は嫁入り、養子・奉公などに関して多い。（一九六）は、それらを例示した。そして特殊な事例として、（一九七）に室原村天保一五年（一八四四）の捨子、（一九八）に押越村寛永一二年（一六三五）の娘売り、（一九九）に室原村嘉永五年（一八五二）の水呑百姓欠落（かけおち）、（二〇〇）に押越村の走百姓（はしり）、（二〇一）に栗笠村元禄一七年（一七〇四）の百姓引越、（二〇二）に下笠村百姓悴の天保一三年（一八四二）てんかん特病での急死を掲げた。なお奉公人請状は（二〇三）に押越村寛永一三年（一六三六）、大塚村寛永一八年（一六四一）を始めとして舟付村文化三年（一八〇六）有尾新田文久三年（一八六三）を載せた。（二〇四）は乳母奉公人請状をまとめ、東大外羽村文政一〇年（一八二七）のもの、有尾新田文久四年（一八六四）のものを並べた。

五人組帳については宗門・五人組改と一体に書かれている帳面も多く、それらに既に掲げたが、ここには改めて五人組について集めた。（二〇五）は押越村寛永九年（一六三二）の五人組帳。五人組帳としては古いものである。（二〇六）は押越村寛永一七年（一六四〇）五人組法度請書で、後の前文に当る処は短いが、村に適切した内容の五カ条であ

る。(二〇七)は押越村正保四年(一六四七)の物成五人組請書で、租税完納のため五人組を構成させたかと思わせるほどの内容である。(二〇八)は根古地新田元禄五年(一六九二)の下百姓五人組帳で、これも五カ条から成る前書をもつ。(二〇九)は有尾新田元禄一三年(一七〇〇)の五人組仕置帳。幕領笠松郡代が示した五人組帳前書は非常に内容を豊かにし、六〇箇条から成っている。しかし箇条の激増は必ずしも地区への綿密な指示とはならず、全国的な法令抄録集のきらいに陥ってゆく。なお五人組自体は同年のものではなく、正徳四年(一七一四)のものである。この年も元禄一三年の前書(条々)が活きていた為であろう。(二一〇)は中村慶応二年(一八六六)の五人組改帳である。

(二一一)は小太郎が猥りに天保七年(一八三六)人を泊めたというので、以後気をつけると詫びたもの。(二一二)は押越村七兵衛の跡式について御役所から村へ申し渡したもの。

六、身分格式

江戸時代は士農工商の階層差があつたと言われているが、百姓のうち最上層は武士に準ずる待遇をうけることがあつた。苗字を使うことが許され、帯刀が認められ、藩主へのお目通りが認められた。それは特に領主から功績をたたえられた旧家が与えられる特権であつた。そうした例を(二一三)に並べた。石畑村彦六・橋爪村弥一郎・橋爪村元右衛門・石畑村与三右衛門らの名が此処に見える。(二一四)は石畑村山幡彦六の享和三年(一八〇三)調達金尽力による苗字帯刀許可の請書。また並記したのは同じ石畑村清右衛門が文化一一年(一八一四)御座船新造に努力したとの理由で他所苗字帯刀を許された折の請書である。他所へ赴いた場合のみ苗字を使い帯刀することを認めたので、村内では許されないのが、他所苗字帯刀である。(二一五)は天保一〇年(一八三九)下笠村彦一郎が父を嗣いで庄屋となつたので父同様、苗字帯刀、宗門自分一札を自分一代かぎり認めてほしいと願い出たもの。宗門自分一札とは村宗

門帳に連名登載されるのでなく、自分の家だけを別冊にして提出することが認められると、これを特権の一つとしたのである。(三六)は烏江村吹原勘兵衛が安政二年(一八五五)隠居するので跡を悴岩次郎へ嗣がせたいと願い出たもの。(三七)は天明八年(一七八八)石畑村山幡与三右衛門が領主の御勝手方によく努めたというので上下(かみしも)をもらつたもの。別に段木をもらつたのを添えた。(三八)は医師山口家の歴代にわたる特権免許と家系を明らかにしている。一軒だけの人数書上帳、宗門自分一札などの例も見られる。(三九)は安政二年(一八五五)吹原勘兵衛がわが家の来歴と苗字帯刀・御目見・宗門自分一札などの累代にわたる許可を並記したもの。(三〇)は家格に関するもので、中村では頭百姓以外は表通りの庇、白壁の造作は出来なかつたのに、無高・脇百姓の一人が瓦庇をつけたことから紛争した。一般に西濃では頭百姓・脇百姓の家格は厳存していた。(三一)は弘化三年(一八四六)、石畑村清右衛門から数代家来筋に当つていた柏尾村惣治郎が独立した折の代官所への願書である。

七、村　方

始めに村政から入る。(三三)は押越村寛永二年(一六二五)の村規定で、既に庄屋・年寄役はクジで決め三年交替としている。(三三)は直江村明和六年(一七六九)の倹約定である。江戸時代は勤倹を説く以外に発展の方策は無かつたが、後期ともなれば生産が停滞した当地方では倹約が生活の第一示標であつた。この場合、二二条にわたつて綿密に規定している。次いで天明四年(一七八四)の同村の村定と弘化四年(一八四七)取締箇条書と文久四年(一八六四)の倹約取締箇条書とを並べて附載した。

(三四)は金屋村安永五年(一七七六)の「村禁連判帳」で、水呑百姓は傘・高足駄を使つてはいけないなど細かく規定している。(三五)は文政五年(一八二二)橋爪村の倹約定。ところが、この村規定に村人一人だけが捺印しない

で「私印形一判抜けても倹約相成候」とひきさがらないので、村方から代官所へ説得方を願い出ている。付載して文政六年（一八二三）と翌七年の倹約定を掲げたが、前者によれば御免割総寄合の夜さえ、酒・豆腐を止めるよう示され、頼みこんで僅かに認められている。（三六）は高田町天保一一年（一八四〇）の取締一札。村役人から始めて万端にわたる規定は細かい。（三七）は横屋村安政六年（一八五九）の改革取締済口一札である。下池に関する規定が幾つも窺われる。（三八）は栗笠村の倹約触に対する請書。雨天でも、なるだけ差笠・木綿合羽を使用しないようにとまで指示している。（三九）は小倉村ら六カ村の御泊尻抱規定で、役人が村で休泊した折の出費規定である。（三〇）は役所からの薬法触。疫病・中毒などへの手当法である。（三一）は慶応三年（一八六七）の炮術稽古についての約定書。村方からも召されて訓練に参加した。（三二）は尾張大納言が逝去したため領内に鳴物停止を命じたもの。（三三）は有尾村の文字金銀通用についての請判帳。（三四）は押越村安永九年（一七八〇）の村方引継書類。天正検地帳を始めとして、多くの書類があったことを知ることが出来る。（三五）は柏尾村並に新田共、旧記諸帳面目録である。村々の書類は、こうした目録と共に大切に引継がれてきた。（三六）は寛政八年（一七九六）の中村御用覚帳。年間の御用を月日順に一通り知ることが出来る。（三七）は小倉村の番人規定。（三八）は巡見役人の休息につき白石村から笠松陣屋へ届け出たもので、これは天明八年（一七八八）の幕府巡見に関するもの。（三九）は越中の鎌商人が行方不明になつたと、白石村喜十郎から弘化三年（一八四六）笠松陣屋へ届け出ている。（四〇）は天保一四年（一八四三）飯木村久蔵の家作取調書上帳。（四一）は御領内から他領へ米を移出しないよう命ぜられたことに対し栗笠村らの請書である。（四二）は安政六年（一八五九）組預り者が逃亡したため五人組から出した詫証文である。（四三）は天保六年（一八三五）橋爪村林之丞後家の手錠を臨月の身だから許してやつてほしいとの願書である。（四四）は喜多村百姓三弥が小盗を

働き手錠預りとなつたことに対する請書である。(二四五)は嘉永五年(一八五二)白石村次平が難渋を申し立て、掛け込み訴を行い村役人に引渡されていたが、翌年再度掛け込み訴を行つたので、村方から笠松陣屋へ本人が改心するよう説諭してほしいと願い出た内容である。

次に村役人に移る。(二四六)は元治一年(一八六四)の有尾村庄屋武右衛門の退役と悴武三郎の庄屋見習役就任の願である。(二四七)は直江村の庄屋が不正を働いているとの訴に対する返答口上書。(二四八)は石畑村名主与三右衛門の宝暦一三年(一七六三)の退役願。(二四九)は京ケ脇の庄屋に元右衛門をしたいとの願書。(二五〇)はロケ島村庄屋を弘化二年(一八四五)退職させたいとの村民からの願書。(二五一)は中村名主名代役を次男雄平へ指名されたいと名主清三郎から代官所へ願い出たもの。(二五二)は直江村で弘化四年(一八四七)、庄屋代年寄役は廻り順となつているが、持高一〇石以下なので当番は辞退したいとの願書。(二五三)は入札で当選した石畑村名主へ郡奉行からの任命書。(二五四)は竜泉寺村名主が病死したので、附名主を郡奉行が石畑村名主彦六へ任命した内容である。(二五五)は多芸御松木山廻り役の増人願で慶応二年(一八六六)のもの。(二五六)は釜段村の御殺生御留場所、徳田村東津屋川通り御留場所の番を命ぜられていた治五右衛門が老衰のため悴梅之助へ跡をゆずりたいとの願である。天明一年(一七八一)のもの。

次は村入用に移る。(二五七)は元禄一三年(一七〇〇)の下笠村入用帳。正月から始めて、月日順に年間の村入用を詳かに知ることが出来る。またコンニヤク一丁二文・梨一個一五文・ワラジ一足四文・酒一升一一四文・豆腐一丁六文・山ノ芋一ッ五文(九月二一日の例)など物価について具体的にとらえることが出来る。これに附載したのは同年の年中喰米小帳で、これにより食事を伴う集会・用件・雑用などがわかる。さらに米だけでなく魚・草鞋など

を始め、人馬使役・祭礼買物・検見謝礼・雑費など夫々別冊の帳面となつているのを総べて載せた。元禄一三年下笠村の村入用が、こうして詳細に明らかにされたのは珍しい。なお同村の文化九年（一八一二）の村入用については、その後に並記した。(二五八)元禄一五年（一七〇二）の栗笠村免割並村懸り諸入用帳は翌年のものと並記したので、二ヵ年の変移状況を見ることが出来る。全体として言えば前年の総入用が米一一一石余であるのに対し、後年は米一〇九石余で大差は無い。(二五九)は元禄一六年（一七〇三）有尾村、(二六〇)は天明四年（一七八四）金屋村の村入用帳である。(二六一)は安政二年（一八五五）の金屋村諸割賦定書。これは多芸郡総代並びに一郡御休泊、其の他の割賦を定めたもの。当時、多芸郡七ヵ村組合・根古地新田・大跡新田以上九ヵ村は総代を立てて行政をすすめてきていたが、この年、根古地新田を一ヵ村に昇格して八ヵ村組合とし、定総代は小倉村庄屋三郎右衛門、あと両人は村廻りで庄屋を勤めることとした。(二六二)は天保五年（一八三四）喜多村宗門入用割賦帳。毎年提出する宗門帳を造るための出費が、明らかとなる。(二六三)は押越村天保一四年（一八四三）の村入用平均書上帳。寛政九年（一七九七）から天保一三年（一八四二）までの期間で四ヵ年をとりあげ、その平均を出しているが、村入用の順次増加している相をみることが出来る。(二六四)は横屋村・有尾新田文化三年（一八〇六）鳥威入用割符帳。七〇夜の鳥威人足賃が一人一夜六〇文づつとなつている。(二六五)は文化一二年（一八一五）青蓮院宮が養老ノ滝へ遊びに来られた折の地元白石村の村入用帳。一間四方の御遊覧所を建て、腰掛を置き、薄縁（うすべり）を布き、ほかに人足二七五人を使つて滝元や寺・谷川の整備をしている。

次に救恤に移る。(二六六)は寛永の大飢饉にあたり寛永二〇年（一六四三）三月、烏江村他五ヵ村へ領主から飢餓者へ米を貸しつけている。「男女共に年六つより上の者、かつへに及び、五日・三日の内にも死に申すべき者、これ

あり候へは」とは、何というきりつめた表現だろうか。（二六七）は天明三年（一七八三）二月村々の貯穀の現有高を調査して書上げたもの。（二六八）は白石村天明七年（一七八七）夫食を拝借したいと願い出た戸口の列名。天明の飢饉が刻々と深まつてくる相を見ることが出来る。（二六九）は天保一四年（一八四三）多芸郡村々の人別貯穀六〇日分の取調帳。（二七〇）は天保四年（一八三三）喜多村の御救米人別割賦帳。（二七一）は文化一二年（一八一五）有尾新田小屋掛代・農具代御拝借金割符帳。これは風水害で堤が切れ、全潰・半潰となつた家々への貸付である。（二七二）は享保一九年（一七三四）夫食米三石を借りた白石村では、以後一〇ヵ年かかつて返納すると約束している。（二七三）は文化一一年（一八一四）特別低利の金を貸してほしいと栗笠村から領主へ願い出たもの。（二七四）は直江村天保四年（一八三三）の金四五両拝借願。（二七五）は村役人に相談しないで駈込訴えをした治平が、貧窮のため麦二俵・金一両を助成してほしいと嘉永六年（一八五三）村役人へ願い出たもの。（二七六）では口ヶ島村から領主へ金を拝借することによつて苦境を切抜けたいと願い出ている。（二七七）は石畑村他四ヵ村が明和七年（一七七〇）拝借米二三三俵と米五二俵・旱損籾二〇四俵の御救米を拝借した折のもの。並びに文化六年（一八〇九）石畑村で米二九俵、寛政八年（一七九六）石畑村で米二九俵、文化九年（一八一二）同村で米二七〇俵を拝借した折のものを併載した。（二七八）は享和一年（一八〇一）石畑・林本郷村の名主が生計に苦んでいるため、金一二五両を領主から拝借した折のもの。（二七九）は天保一四年（一八四三）志津・鷲巣・石畑・橋爪・宇田五ヵ村から尾張藩勘定所へ為替金五〇〇両を受取つたとの手形である。

次は山論へ入る。（二八〇）は直江・押越・嶋田三ヵ村対白石村の山入会諍論を決定した享保三年（一七一八）の笠松陣屋辻六郎左衛門守参代官の裁許書。（二八一）は白石・押越二ヵ村の七ヵ年にわたる山論が寛延二年（一七四九）和談となつた折の済口証文である。

以下の近世史料は下巻にゆずるが、本巻を通じて量の豊かなものは、近世史料の中で、慶長一四年押越村検地帳慶安五年根古地新田検地帳、寛文八年中村検地帳、明和五年喜多村検地帳、元禄七年横屋村宗門改帳、享保二〇年石畑村宗門改帳、寛政八年五日市村宗門改帳、宝永二年栗笠村家並人馬改帳などが目立ち、検地帳・宗門改帳が多くを占めているが、文書の性格からして止むを得ないことでもある。

（吉　岡　勲）

第一部 古代・中世

一　足利直義下文

（東京大学史料編纂所所藏影寫本）

○群馬縣　土岐文書

下　土岐太郎三郎光賢法師法名元快、

可令早領知美濃國多藝庄（多藝郡）内支江・吉田地頭職事

右、任伯父伯耆守（土岐）頼貞法師法名存孝、譲状、可令知行之状如件、以下、

暦應二年二月十八日

（足利直義）源朝臣（花押）

二　足利直義下文

（東京大学史料編纂所所藏影寫本）

○群馬縣　土岐文書

下　土岐彦九郎頼重

可令早領知美濃國妻木（土岐郡）郷・多藝庄内多藝嶋・榛木地頭職事、

右、任祖父土岐伯耆守頼貞法師法名存孝、今月十七日譲状、可令知行之状如件、以下、

暦應二年二月十八日

（足利直義）源朝臣（花押）

三　足利義詮御教書

（東京大学史料編纂所所藏影寫本）

○群馬縣　土岐文書

尾張國海東庄除天龍寺管領地、美濃國妻岐（土岐郡）郷内笠原半分・曾木村・細野村、同國多藝（多藝郡）庄内春木郷、武藏國大井郷内不入讀村地頭職事、任民部少輔（土岐）頼重文和四年十一月六日譲状、領掌不可有相違之状如件、

（足利義詮）（花押）

貞治五年□月三日

土岐下野入道殿

四　足利義滿袖判下文　（東京大学史料編纂所所藏影寫本）

○群馬縣　土岐文書

（足利義滿）
（花押）

下　土岐下野守（頼高）　法師法名淨皎、

可令早領知尾張國海東庄除天龍寺、美濃國妻岐鄉内笠原半分・曾木村・細野村、同國多藝庄内春木鄉・多藝嶋鄉・高田内河合鄉、武冢庄内野所・安弘見・加藤鄉、同國伊川鄉伊川新兵衛尉跡、武藏國大井鄉不入讀村賴重跡等地頭職事

右、任觀應元年十月廿六日・同二年二月七日・同年九月廿日・延文元年十二月廿三日・貞治五年八月三日御下文安堵等之旨、可令領掌之狀如件、

永德三年七月廿五日

五　管領斯波義將施行狀案　（東京大学史料編纂所所藏影寫本）

○山口縣　佐々木文書

……（裏花押右半）……（紙繼目）

佐々木大膳大夫高秀申美濃國多藝（多藝郡）内吉田高山跡事、早任去四月廿五日御下文、可被沙汰付之狀、依仰執達如件、

明德元年六月廿日　（斯波義將）左衛門佐御判

土岐刑部少輔（頼忠）入道殿

……（裏花押左半）……（紙繼目）

六　足利義滿袖判御教書　（東京大学史料編纂所所藏影寫本）

○群馬縣　土岐文書

（足利義滿）
（花押）

土岐明智十郎賴篤申、美濃（國）□多藝（多藝郡）庄内多藝嶋鄉・同庄内□□（春木カ）鄉等七岐下野入道事、早止嶋□□、可沙汰付賴篤跡、

之狀如件、

應永六年十一月廿四日

土岐美濃入道(頼助)殿

七　足利義滿袖判御教書案　（東京大学史料編纂所所藏影寫本）

○山口縣　佐々木文書

鹿苑院殿(足利義滿)様御判

佐々木民部少輔高光知行分　美濃國鵜飼(方縣郡)・葦敷(方縣郡)・別苻(本巢郡)・十五條(本巢郡)・十七條(本巢郡)・多藝庄内大跡(多藝郡)・吉田鄉鑄物師(武藝郡)・鞍智小藥等諸公事・臨時課役・國役以下事、被免許畢、仍所停止守護使入部之狀如件、

應永十年二月廿八日

八　土岐善弘滿貞書狀案

○福岡縣久留米市梅滿町　玉井直氏所藏

鹿苑院殿様御判物紛失之由承候、言語道斷之次第候、但入道本領之事候間、當庄之鄉□寺境之事、悉存□余人□不可存候、當寺境事、東者伊勢海道、南者鵜尾(南谷カ)□、西者一瀨山之峯、北者立岩之下大谷水落境也、雖然支證燒失候上者、爲此狀證文、任先規之旨知行不可有相違候、恐々謹言、

應永廿七　　土岐伊与入道

八月廿日　　沙彌善弘

勢至寺

別當房

持寶房

九　嶋田益忠庭中言上狀案

○東京都　内閣文庫所藏

土岐嶋田左京亮益忠謹庭中言上

一所　美濃國多藝(多藝郡)庄内闕所分

一所　同國時多良(石津郡)鄉

一所　同國四ヶ春近
一所　同國生津庄（本巣郡）東方地頭職除今峯村之、
一所　伊勢國日永庄
右、彼所々者、鹿苑院殿（足利義滿）樣・勝定院殿（足利義持）樣帶數通之御判・同御自筆之御内書等、高祖父善忠・曾祖父滿貞迄知行無相違之處、連々ニ不知行之間、一向雖爲無足、堪忍仕者也、取分多藝庄之事者、爲名字之地、應永十七年迄知行仕之處、鹿苑院殿樣御時、武者小路殿彼在所号有領家、依被掠申下地、於被半濟守護ニ被持せ之条、無其謂者哉、其後　勝定院殿樣御代ニ　自往古爲色濟之在所之由、就歎申、應永十七年、如元被成下一圓ニ御判之条、忝存之處、依守護御代官申、終ニ無遵行之間、任　御判之旨、入部仕之處、以國之勢相支事、不思議次第也、結句其時一圓ニ令押領、其以後、剩号大裏（内）御新所、致御代官之段、旁以不便之至也、所詮彼在所御代官職被預下、於御年貢等者、無懈怠可執進上申并所々事、被成下還補之御判、如元全知行爲抽奉公忠、勤粗籠庭中言上如件、

長（永）祿三年十二月　日

一〇　室町幕府奉行人連署奉書案（東京大学史料編纂所所藏影寫本）

○山口縣　佐々木文書

美濃國大跡（多藝郡）鄉幷葦敷（方縣郡）・別苻（本巣郡）・船木十五條（本巣郡）・吉田（武藝郡）鄉鑄物師屋除同名鞍智（武藝郡）・小築（武藝郡）等事、當知行處、近年守護押領云々、早退彼妨、如元可被全領知之由、所被仰下也、仍執達如件、

長享貳年四月廿五日　　散位
　　筑後（清元定）守

佐々木大膳大夫（京極政經）殿

一一　宮後近知證狀（東京大学史料編纂所所藏影寫本）

○三重縣　松葉安平氏所藏

ミのゝ國大つか里まる(丸毛)も殿内西脇殿・安田殿御兩人御
一類ノキ、さうろん申候へ共、堤次助殿・世古殿御あ
つかいにて、御太刀折にてあいすミ申候、此外大つか
の里ニおいて、いらんわつらいのきあるましく候、仍
爲後日如件

天文四年きのとの八月吉日　宮後□藤三近知(花押)

にしわき
宗ほう
にしわき
かん侍者
にしわき
四郎五郎衞門殿
にしわき
民部殿
にしわき
同うこん殿
安田殿
同ようち殿

此同名衆近江にあまた御出候、以後御くし候ハヽ、そ
れハのき可申候、爲其如件、此人數まて候、
大ぬしや宗左衞門殿まゐる

一二　大野修理大夫折紙(折紙)

○福岡縣久留米市梅満町　玉井直氏所藏

從江州牧田通、伊勢へ越候上下諸荷物、任代々御判可
申付候、自然違亂於在之者、此方へ可申越候、可從上
意者也、

(天)□文四年　大野修理大夫(花押)
九月十一日
玉井小兵衞□

一三　齋藤利政道三寄進狀寫(寫本)

○三重縣伊勢市神田久志本　神宮文庫所藏

齋藤左近大夫殿利政　御願書

今度當城爲祈禱、☒☒□□□□「椿井鄕奉寄進□□□□」、當文庫所蔵「齋藤利政寄進狀等控」ニ拠リテ補フ、□□□□

□□（偏カ）如道運命哉、仍可為□□□恩徳者也、
仍寄進狀如□、

（十脱）
天文三甲辰
九月十六日　　（斎藤）利　政

福嶋四郎右衛門尉殿

右、御願書下焼切、御文言不分明、左近大夫殿と申ハ、山城守殿事、

一四　三益書狀寫　（寫本）

○三重縣伊勢市神田久志本　神宮文庫所藏

就當國再亂之儀、早速預示候、御懇情之至、御祓大麻拜受、兼又先年利政立願之事心得申、錯亂以來不如意ニ付而、懈怠候様ニ相見へ候、更失念も無之候、大方二見殿へも申、一廉可申調候、聊不可有疎意候、猶於神前、御祈念可爲恐悦候旨候、以神慮國々之相詰候条、勿論候、此度尚別而御祈念、可爲滿足候由、自我等相心得可申由候、立願共不可有相違候、我等洩候分可申調候、可々（マヽ）御心安候、恐々謹言、

九月十六日　　三　益

福嶋四郎右衛門尉殿

御宿所

福嶋殿まゐる

追而申候、先年之立願共ハ追而申候、先今度當城の祈禱の爲ニ、椿井鄕百廿余貫の在所ニ候、永代寄進被申、以此奉加旨、於神前晝夜御祈念專一ニ候、於御無沙汰之、其方御爲まて候、如何候、目出度候、

九月十六日　　三　益

（齋藤道三）
此三益ハ山城守殿御家來と承候、

一五　織田信長禁制判物寫　（写本）

○三重縣伊勢市神田久志本　神宮文庫所藏

信長公御高札

（多藝部）
多藝庄

椿井鄕

當鄉之儀、依爲　大神宮領伊勢寺内相構之旨、得其意候、然者、陣取・放火・濫妨狼藉、其外伐採弁木等（竹）、非分族申懸（懸）之事、一切令停止事、若於違（違）背輩者、可加成敗者也、仍狀如件、

永禄十年九月日　　信長（織田）御判

一六　齋藤義龍朱印狀寫　（寫本）

○三重縣伊勢市神田久志本　神宮文庫所藏

椿井鄉（多藝郡）　太神宮御供米百石之分相下畢、無煩可有勘過候旨、被　仰出、被成御印判之狀如件、

永録（祿）（マヽ）十一月十日　　直元（桑原）参河守判

御朱印（齋藤義龍）

下々役人中

此御朱印外、桑原三河守直元　福嶋新四郎殿と有之御狀有、山城守殿御家來之由也、

一七　織田信長朱印狀（折紙）

○福岡縣久留米市梅満町　玉井直氏所藏

當國勢至口鉄座牌、武馬三郎右衛門尉可任折帋之旨、幷諸商人宿之事、不可有違亂之狀如件、

永禄十二
四月　日　　信長（朱印）　○印文「天下布武」

玉井小兵衛尉
とのへ

一八　池田恒興判物（折紙）

○福岡縣久留米市梅満町　玉井直氏所藏

濃州勢至口鉄座宿之事、任御朱印之旨、從前々如有來、不可有相違者也、

九月廿二日　　池田勝入恒興（花押）

玉井小兵衛殿
進之候

一九　織田信長(カ)朱印狀寫

○福岡縣久留米市梅満町　玉井直氏所藏

寫

鉄同鍬荷商買役錢小賣共、座牌方如前々當國座人中任覺悟、國中可賣買、國質・鄉質幷一切諸役令免許之狀如件、

永祿十貳
十一月三日　　御朱印

美濃國
座人中

二〇　織田信長知行安堵朱印狀（折紙）

○揖斐郡揖斐川町　市田靜馬氏所藏

多藝郡役之事、如前々、申付候、不可有相違之狀如件、

元龜貳
八月十六日　　信長（朱印）　○印文「天下布武」

西尾（光教）小六とのへ

二一　西脇久左衛門知行目錄寫

○龍泉寺　西脇富夫氏所藏

知行方村付之事

一百貳拾七貫余者　長屋村
一貳百五拾三貫者　みのへすい原村（むしろ田之内）
一七拾五貫者　法雲寺分
一五拾九貫者　石原さらち兩村
一貳拾三貫者　時野村
一貳拾六貫者　眞桑村
一貳拾三貫者　夫錢　上かいろう下かいろう兩村（あゆはの内）
一貳拾七貫者　同夫錢　樽井村
一五貫文者　龍泉寺村
一五貫文者　秋段錢　德田村
一七拾八貫者　堀田給　三津塚村

以上合七百貫

右支配候、全可有知行也

天正元年
正月十一日　　氏家左京
直重（花押）

西脇久左衞門殿
進之候

二二　織田信忠禁制寫　（寫本）

○三重縣伊勢市神田久志本　神宮文庫所藏

織田城之助樣御判札

定

一多藝庄椿井鄕伊勢太神宮領、從前々今以如在來、無相違可令所務等事

一伊勢寺内陣取・放火・亂妨狼藉、其外不可伐採竹木事

一理不盡使、非分族、一切不可申懸事

右條々、若於違犯輩者、可加成敗者也、

天正九年三月日　　（織田信忠）城之助樣御判

福嶋四郎右衞門とのへ

二三　堀秀政判物（折紙）

○福岡縣久留米市梅滿町　玉井直氏所藏

自江州牧田通、伊勢口へ越候上下諸荷物宿路次事、可爲如先々候、若新儀候者、得御意可申付候也

天正十年
六月廿八日　　堀久太郎入道
秀政（花押）

玉井小次郎殿
御宿所

二四　織田信孝判物（折紙）

○福岡縣久留米市梅滿町　玉井直氏所藏

當國多藝郡勢至江鉄座幷諸商人宿之事、不可有違亂之

狀如件、

天正十
七月六日　（織田信孝）（花押）

玉井小兵衛とのへ

二五　神戸織田信孝禁制寫

○三重縣伊勢市神田久志本　神宮文庫所藏　（寫本）

三七様御判札

定

一多藝庄椿井郷伊勢太神宮領、自前々如在來、今以無相違可令所務事

一伊勢寺内陳取・亂妨粮藉、其外不可剪採竹木之事

一理不盡使、非分族、一切不可申懸事

右條々、若違（背カ）非輩、速可加成敗候也、

天正拾年十月日　（神戸信孝）三七様御判

福嶋四郎右衛門とのへ

二六　羽柴秀吉判物寫（折紙）

○福岡縣久留米市梅満町　玉井直氏所藏

從江州牧田通、伊勢口へ越候上下幷鉄座諸荷物宿路次事、可爲如先々候、若新儀候者、堅可申付候也、

天正十一
三月廿二日　羽柴筑前守
秀吉（花押影）

玉井小兵衛殿
進之候

（奥書）「本紙者南都小三郎ニ有リ」

二七　椿井郷公田年貢錢帳

○石畑　山幡清重氏所藏

（表紙）「多藝庄椿井郷公田御年貢錢帳

井郷より出候帳也」

（表紙裏書）

「大塚社役名々引口貳貫文也

一貳百文　山本名　此三名ハむかしより貳百文引口

一貳百文　播屋名

一貳百文　道秀名

のこり之名ハ、むかしより一名ニ百文ッ、引申候也、

明應九年の勘定狀此分也、井鄉より□存候、」

椿鄉名名指出之事

山本名		庄福寺	
五貫廿五文	本年貢錢	四貫文	本年貢
五百廿七文	河成高畠	五百廿七文	河成高畠
五百卅壹文	坊土錢	五百卅壹文	坊土錢
五百三拾壹文	糸代	百文	大豆壹斗代
三百八文	加嚴米三斗八合代	六十五文	麥壹斗代
壹貫文	立歸夫錢	六百五十三文	長夫錢
參貫六文	長夫錢	百六拾五文	立歸夫錢
已上拾壹貫五百廿五文　此内貳百文大塚社役引也		已上六貫四拾七文　此内百文大塚社役引也	
金阿彌名	四分一與三左衛門	魚屋名半名	八郎（せいし）左衛門
		壹貫弐十五文	本年貢錢
		百九十四文	河成
		貳百六十四文	坊土錢
		八分一與三左衛門	
		八分一彦六	
		四分一左近右衛門	
		四分一長井殿	
		——とは石見殿引得	

五十文　大豆五升代
三十三文　麥五升代
三百貳十六文　長夫錢
八十壱文　立歸夫錢
已上壹貫九百八十壹文　此内五十文大塚社役引也、
魚屋名半石　次郎（せいし）左衛門
宗　見
壹貫貳十五文　本年貢錢
百九十四文　河成
百卅三文　高畠
五十文　大豆五升代
卅三文　麥六升代
貳百六十四文　坊土錢
三百廿七文　長夫錢
八十壹文　立歸夫錢
已上貳貫百拾八文　此内五十文大塚社役引也、
衛門名半名　三郎左衛門
西　蓮　坊
壹貫五百文　本年貢錢
貳百六十四文　坊土錢
百九十四文　河成
百拾五文　大豆代
七拾五文　麥代
貳百十八文　長夫錢
八十壹文　立歸夫錢
已上貳貫四百五十六文　此内五十文大塚社役引也
衛門名半名　中嶋與三兵衛
才十郎
壹貫貳百五十文　本年貢錢
四百三十五文　長夫錢
貳百六十四文　坊土錢
百九拾四文　河成
百卅三文　高畠
八十壹文　立歸夫錢
百拾五文　大豆代
七拾五文　麥代

已上貳貫六百文　此内五十文大塚社役引也

鷲屋名　半名　中嶋與三兵衛
才十郎

壹貫貳百八十八文　本年貢錢
三百貳十七文　長夫錢
八十壹文　立歸夫錢
貳百六十四文　坊土錢
百九十四文　河錢
拾七文　麥代

已上貳貫百六十六文　此内五十文大塚社役引也、

宮地六分一　中嶋與三兵衛
才十郎

四百九十文　本年貢錢
六十四文　河成
八十壹文　坊土錢
廿七文　立帰夫錢

已上六百六十七文　此内十六文大塚社役引也、

與三兵衛
才十郎

一五百卅八文　斗米五斗三升八合代
一六百文　二間在家年貢

已上壹貫百三拾八文

鷲屋名　半名　中嶋二郎兵衛
源三衛門

壹貫貳百八十八文　本年貢錢
貳百六十四文　坊土錢
百九十四文　河成
百卅四文　高畠
貳十五文　大豆代
拾七文　麥代
三百廿七文　長夫錢
八十壹文　立歸夫錢

已上貳貫三百四十壹文　此内五十文大つか社役引也、

宮地六分一　中嶋二郎兵郎
四郎二郎

四百九十文　本年貢錢
六十四文　河成

八十壹文　坊土錢
廿七文　立帰夫錢
已上六百十八文　此内十六文大塚社役引也、

道秀名　中嶋二郎兵衛
長井殿

壹貫八百五十文　本年貢錢
三百九十壹文　河成
五百卅壹文　坊土錢
百文　大豆代
六十五文　麥代
六百五十三文　長夫錢
百六十五文　立歸夫錢
已上三貫七百六十三文　此内貳百文大塚社役引也、

玉屋名　佛乘坊

三貫貳百五十文　本年貢錢
五百廿七文　河成高畠
五百卅壹文　坊土錢
六十文　大豆代
卅九文　麥代
六百五十三文　長夫錢
百六十五文　立歸夫錢
已上五貫貳百卅三文　此内百文大塚社役引也、

宮地三分一　孫左衛門
此内貳百卅文　小四郎引得
此内百三十文　彦三郎引得

百卅壹文　河成
百七十五文　坊土錢
五十四文　立歸夫錢
已上三百六十三文

善姓三分一　五郎右衛門
與三左衛門

六百文　本年貢錢
百卅壹文　河成
百七十五文　坊土錢
五十文　大豆代
卅三文　麥代
貳百十八文　長夫錢

五十四文　立歸夫錢

已上壹貫貳百六十六文　此内卅二文大塚社役引也、

善姓三分一　新右衛門

六百文　本年貢錢
百三十壹文　河成
百卅三文　高畠
百七十五文　坊土錢
五十文　大豆代
卅三文　麥代
貳百十八文　長夫錢
五十四文　立帰夫錢

已上壹貫四百貳文　此内卅二文大つか社役引也、

小谷名　半名　實乘坊

七百七文　本年貢錢
百七十八文　糸代
百九十四文　河成
百卅三文　高畠

七十八文　加嚴米
貳百六十四文　坊土錢
五百文　立歸夫錢
壹貫八百文　長夫錢

已上三貫八百六十三文　此内五十文大塚社役引也、

播屋名　多聞坊

貳貫貳百八十四文　本年貢錢
三百九十壹文　河成
百三十三文　高畠
貳百八文　加嚴米
五百卅壹文　坊土錢
三貫六百文　長夫錢
壹貫文　立歸夫錢

已上八貫百五十三文　此内貳百文大つか社役引也、

孫太郎名　多聞坊

壹貫五百四十四文　本年貢錢
三百九十文　河成
百卅三文　高畠

五百卅壹文　坊土錢
三貫六百文　長夫錢
壹貫文　立歸夫錢
百五十八文　加嚴米
已上七貫三百六十三文　此内百文大塚社役引也、

小谷名　半名　多聞坊

七百七文　本年貢錢
百七十八文　糸代
貳百六十四文　坊土錢
百九十四文　河成
七十八文　加嚴米
五百文　立歸夫錢
壹貫八百文　長夫錢
已上三貫七百卅壹文　此内五十文大塚社役引也、

藤内三郎名　多聞坊

貳貫百廿五文　本年貢錢
三百九十壹文　河成
百卅三文　高畠
五百卅壹文　坊土錢
五十文　大豆代
卅壹文　麥代
六百五十三文　長夫錢
百六十五文　立歸夫錢
已上四貫八十七文　此内四百文大塚社役引也、

成阿彌名　多聞坊

貳貫百廿三文　本年貢錢
三百九十壹文　河成
百卅三文　高畠
五百卅壹文　坊土錢
百文　大豆代
六十五文　麥代
六百五拾三文　長夫錢
百六十五文　立歸夫錢
已上四貫百七十文　此内百文大塚社役引也、

宮内名　　多聞坊

壹貫八百五十文　本年貢錢
三百九拾壹文　河成
百三拾三文　高畠
五百三拾壹文　坊土錢
百五拾文　大豆代
百文　麥代
六百五拾三文　長夫錢
百六拾五文　立歸夫錢
已上三貫九百八拾文　此内百文大塚社役引也、

道幸名　　多聞坊

壹貫七百文　本年貢錢
三百九拾壹文　河成
百三拾三文　高畠
五百卅壹文　坊土錢
百五十文　大豆代
百文　麥代
六百五十三文　長夫錢
百六十五文　立歸夫錢
已上三貫八百卅壹文　此内百文大塚社役引也、

善姓三分一　　多聞坊

六百文　本年貢錢
百卅文　河成
百七十五文　坊土錢
貳百十七文　長夫錢
五十四文　立歸夫錢
已上壹貫百七十九文　此内卅二文大塚社役引也、

宮地三分一　　多聞坊

八百文　本年貢錢
百三十文　河成
百七十五文　坊土錢
五十四文　立歸夫錢
已上壹貫百六十貳文　此内百文大塚社役引也、
此宮地三分一より社役百文引候事ふしんニ候

へ共、多聞坊朝善之時より引也、自筆の帳ニ有、

一百三拾三文　筒屋新兵衛高畠　せいし新兵衛引得
一拾五文　茶屋分大豆代
一拾文　同麥代
そんめんなし
一五十文　筒屋々敷分道秀名内大豆代、小兵衛引得
そんめんなし
一卅三文　同屋敷分同麥代、高木小七郎引得
多聞坊分也、石見殿引得
一百八十二文　町屋々敷大豆壹斗八升五合代、長井殿引得
多聞坊分也、石見殿引得
百廿九文　同分麥壹斗八升五合代　長井殿
巳上五百五十貳文
惣都合八拾七貫六百廿七文
右之内引物
一貳貫文　大塚社役兩度分久帳有り、
一壹貫文　高免
野畠方之事
淨蓮野畠
八百文　金屋六郎左衛門分　大塚北町屋あらふき與一
六百文　同彦九郎分　せいし玉井小兵衛引得
貳百文　同新兵衛
此内六十六文五日市は彦八郎
六十六文かなや　源　六
六十六文かなや　孫三郎
百五十文　同與七分　大塚いつみの小二郎引得
百文　同二郎兵衛分　色成シ
大塚庄福寺(在)なんしやういんのきう藏主
百五十文　孫左衛門分　せいし玉井小兵衛引得
二百文　大塚せいほう庵　とハ大塚の彦太郎引得
大塚澁谷そういん引得
九百七拾文　小市善助分

此内四百文大つかめうとくいん引得
是ハ色成也、そんめんなし
六百三十文　玉井五郎左衛門尉
せいし小ひやへ引得
八百文　孫左衛門分
同小四郎引得、宮まへ宗右衛門引得
壹貫文　九郎兵衛分　又四郎引得
百五十文　色濟挽免なし
龍泉寺本尊おしこしの禰宜引得
五十文　挽免なし
龍泉寺かんし見なこの代、おこしの禰宜引得
七百十文　淨蓮分　せいし小兵衛引得
以上八貫五十文
藪野畠
一七百文　此内百六拾文松風衛門太郎引得畠三百成有つほ龍泉寺の下
多聞坊分
石見かてなし、あらため可申此地
八百文　筒屋分
石見かてんなし、あらため可申
二百文　多聞坊分　せいしの新兵衛引得

四百文　法徳院分　せいしの二郎兵衛引得
百文　せいし刑部分　せいしの二郎ひやへ引得
二百四拾文玉井五郎左衛門分　小兵衛引得
四百文　せいし兵衛太郎分　同野村昨衛引得
五百文　せいし九郎左衛門分
同野村しゆんせい
四百文　龍泉寺乘覺分
此内二百文玄龍新二郎引得
此内二百文上かた六右衛門引得
四百文　同寶泉坊分　けんりやう引得
四百文　龍泉寺成就坊分　大塚西脇孫十郎引得
石見かてんなし、あらため可申此地
四百七文　多聞坊分
二百文　魚屋分　せいし高木新衛門引得
五十文　茶屋分
壹貫九百文　智積坊引得
壹貫貳百文　南田
十五堂奥
已上八貫三百文
龍泉寺野畠小作

九百六十四文　道善三郎左衛門　玄龍引得
七百廿五文　同三郎右衛門　玄龍引得
三百文　彦左衛門　玄龍引得
此内三百文金尾甚五郎引得とハ上かた源十郎引得
五百卅五文　九郎左衛門　玄龍引得
四百卅六文　六右衛門
此内百五十文大塚北町や又五郎引得、定使太郎衛門存候
四百五十文　兵衛太郎分　玄龍
四百拾貳文　二郎左衛門
二百六十文　玄龍
五百六十九文　道ゑん分　玄龍
七百八十七文　けんりやう新二郎引得
貳百四拾三文　六右衛門引得
五百六十文　まへハ兵衛太郎分　三郎左衛門
百七十五文　六右衛門
百文　玄龍
此内百五十文大塚北町や又五郎引得
七百五拾文　玄龍
六百廿八文　孫左衛門
八百六十二文　年々不作

已上合九貫七拾三文
惣都合百拾三貫五十貳文

名々主御百姓中
中嶋二郎兵衛
久正
中嶋與三兵衛
春正
多聞坊
定圓

宗禄様

一田貳段七斗代合貳段の年貢壹石四斗也、
ありつほいく日の蛇持小作、飯田の衛門太郎、
椿井分の田也

一壹貫三百文　定納そんめん　二間在家畠方
中嶋石見殿より永代請取申候、小作しらいし
の又右衛門

一田壹段八斗代東奥之内

中嶋石見殿より永代請取申候、小作石見殿内
助八

二八　八中堤南田地借用證文

○押越　澁谷保之氏所藏

御請申八中堤南田地之事

合四反三畝

右田地之加地子米として、御公方之外ニ納五斗ツヽ毎年納所仕御請申候、右之田何時御とりあけ候とて、一言之申分申間敷候、以上

天正拾九年
三月十一日　　はんの木村
與一郎（花押）

中嶋八左衛門殿

二九　豊臣秀次朱印知行方目錄（東京大学史料編纂所所藏影寫本）

○島根縣　寺西文書

知行方目錄

一參百四石壹斗三升五合　江州愛智郡　中一色村内
一四拾四石貳斗八升五合　江州犬上郡　下へり村内
一四百七石八斗五升　濃州莚田郡　古橋村
一七拾四石四斗一升　濃州瀧郡　五日市村
一百七石壹斗八升　濃州池田郡　つくミ村
一六拾貳石壹斗　同郡　とつくミ村

合千石

右、爲扶助、被宛行訖、全可領知者也、

文祿參年十月十日（豊臣秀次）（朱印）　○印文「豊臣秀次」

寺西新五郎とのへ

三〇　木下秀吉折紙（折紙）（東京大学史料編纂所所藏影寫本）

○東京都　大橋文書

永々御辛勞候、仍大橋長兵衛与申者、不斷横山在城候、

彼者在所多藝之内、高畠在之、家來共一揆之由候て、御違亂之旨候、右如申入候、大橋儀此方在城ニ付て、家來以下其分候、自然申掠族候共、被遂御糺明、有様ニ憑入候、爲其以折帋申入候、恐惶謹言、

（木下藤吉郎）
木藤
二月十七日　秀吉（花押）

御長
（直政）
塙九郎庄
（市橋九郎左衛門長利）
市九
（塚本小大膳）
塚本大

人々御中

三一　木村清大夫書狀（折紙）

〇大垣市萬石町　林正乘氏所藏

以上

急度申越候、然者、今度七兵衛を切ころし候儀、山田

へ申上候へは、少八はゝヲも、其所へ預ケ置候へ、彼是相尋候て、少八有所ヲ承届候様ニ申來候間、九左衛門其外七兵へしんるい不殘、又兵左衛門次兵へも、明日新田へ可被越候、たらへも狀ヲ遣し可申□可被越候、由斷有ましく候、恐々謹言、

（木村）
木清大夫
六月卅日　□□（花押）

おしこし
兵左衛門殿
九左衛門殿
次兵へ殿
其他
七兵へ
しんるい共

三二　菅屋長賴判物（折紙）

〇福岡縣久留米市梅滿町　玉井直氏所藏

以上

今度津屋与申事在之塩めい物幷俵數之事、上江不可相通候、所詮任御朱印之旨、當所江可相着、先年津屋年寄共一紙在之上者、旁不可有異儀候也、

七月十二日　　菅九右
勢至　　長賴（花押）
玉井小二郎とのへ

三三　德永壽昌書狀（折紙）

○福岡縣久留米市梅満町　玉井直氏所藏

以上

最前被申候おくらニ居候せいしの宿之事、高田町ニ置可申候条、則家をも立て、涯分商人之付候様ニ仕候へと、可被申聞遣候、恐々謹言、

八月十二日　　式部卿法印
壽昌（花押）
任齋
進之候

三四　戸田三郎四郎折紙（折紙）

○福岡縣久留米市梅満町　玉井直氏所藏

其方之儀、今度稲葉入道殿無對を被申懸、闕所在之由、何と申たる儀候哉、如先々宿可在之候、自然重而違亂於在之者、御前ニ而可相濟候間、可得其意候也、

十月六日　　戸田三郎四郎
勝□（花押）
玉井小次郎殿

三五　元勝書狀（折紙）

○福岡縣久留米市梅満町　玉井直氏所藏

已上

先日者御尋候之處ニ罷出、卒度路次ニて申承候、千万御殘多存候、仍せいしの玉井貴所様御代官所小倉へ罷

越申度之由候、ミなとよりも仕在之方との事ニ候、如何可有御座候哉、懸御目談合申度候、我々も少煩候而在之事ニ候、何ニ御内存承候て、可得御意候、かしく、

十一月廿三日　　元勝（花押）

（奥ウハ書）
「□　□
□　□様　元勝　」

三六　伊藤秀盛書状（折紙）

○福岡縣久留米市梅満町　玉井直氏所藏

御折帋令拝見候、仍小倉之玉井と申者、長門知行之内禰子地へ越度候由承候、其元之儀無案内事ニ候、乍去長門留守居之者共かたへ、則書状遣之候間、従玉井被□遣様子、於大垣申合候へと可被仰付候、□□□儀無之候者、異儀有間敷候、□□若又於不相濟者、大垣留守居之者共、頓而京都へ罷上事候間、玉井ニ同道候て上候へと、可被仰付候、於京都様子立□可申談候、恐惶謹言、

伊加賀入

十一月廿八日　　秀盛（花押）

武長州□
□□□□

三七　木下秀吉折紙（折紙）（東京大学史料編纂所所藏影寫本）

○東京都　大橋文書

高畠（多賀郡）之内、其方給所千疋之儀、丸兵（丸毛兵庫頭光兼）違亂之由候、城州以來給所、何との儀不可有候、任當知行之旨、所納可有之候、其上横山在城之衆、知行方無相違、諸公事御免許之御朱印在之事候、重而菟角之儀候者、丸兵へも可申斷候、恐々謹言、

十二月廿日　　木下藤吉郎
秀吉（花押）

大橋長兵衛尉殿
御宿所

□　□
□□（花押）

せいし□
小二郎殿
□

三八　竹□右衛門尉外一名連署書狀（折紙）

○福岡縣久留米市梅満町　玉井直氏所藏

尚以、せいし村□子ニ能被申付候て、可然様ニ尤候、□給人衆へも理可有候、以上

貴所身上之事、勢至ニハ子を置候て、萬給人衆被申候儀、田畠以下迄も無相違、如前々肝煎可申之由尤候、ぬしハつやへ越候て、せいしも□□仕候様ニ、舟たちん以下入候て可然候、若越置候事候□曲事ニ可被仰付候間、其心得可有候、去年修理様御折帋ニて被仰付候、其村へ他所より來候に物たちん、其分ニ不殘付候處、相違之儀候ハヽ、此方へ可被申候、恐々謹言、

竹□右衛門尉
□□（花押）

三九　寺藏小兵衛外三名連署條書

○福岡縣久留米市梅満町　玉井直氏所藏

申定条々

一其方御身上之儀、津屋へ被成御越候付て、上荷物牧田へすくニ返申御約束之事

一津屋宿々より商人荷物、馬數ニ付て壹駄ニ庭物米壹合にて、何の荷物ニも可遣候、但塩たちんハ但貳五勺つゝ可遣候、又ゆ□しな□取□□右之□□さん用可申候、何も無相違當座〳〵ニ可遣候事

一商人荷物津屋へ參舟、四そうニ壹そうわけ候て、其方へ可遣候、米舟之儀ハ、四日ニ一日荷を引衆遣、

始而之衆、又御知音衆、御さいりう次第ニ御引付可有候事

一下荷物方荷鉄、何も商人次第ニ被成候て、是又庭物右之通壹合宛可遣候事

一其方幷御家來一兩人之儀、屋敷等可遣候、仍又家やく・山手・野手等御出あるましく候事

右申定候付て、津屋へ御越候事□入存候、雖然津屋御かんにん不被成□候者、荷物之儀如前々□□付可申候、津屋御かんにん□、各々少も如在申間敷候、仍狀如件、

慶長貳年五月廿五日　寺藏源右衞門（花押）
使
五井伊兵衞（花押）
水谷次郎右衞門（花押）
寺藏小兵衞（黒印）

玉井五郎左衞門殿

○銘文類

四〇　法華經碑陰刻銘　　○三神町　多岐神社所藏

土佐權守紀明棟
女施主藤原氏
如法經　文治五年己酉
八月廿八日乙卯
勸進僧能仁

四一　大塚社懸佛裏面墨書銘　　○三神町　多岐神社所藏

大塚大社、和銅勸請之灵社ニ而、右頭人子孫繁昌祈者

也、

正中二年九月十三日　　藤原友貞
　　犬竹女

延元二年卯月　日　神官等

應永二年卯月十六日　多藝嶋郷内

應永二年九月十六日
嶋田郷御頭人　　藤原綱光
　　犬松女

永享八年卯月十三日　澁江郷

奉懸御正躰一面　　澁江郷源氏定政
永享八年丙辰卯月十九日　女性二

右、偏今度之御頭役無爲無事、依之、信心之御頭人子孫繁昌、息災延命、福貴自在、恒受快樂、無邊御願、決定成就之狀如件、

永享拾年二月十一日　大塚郷

永享拾戊午年二月十一日　大塚郷

奉施入御正躰一面、其趣者、偏天長地久、御願圓滿、社頭昌繁（マヽ）、諸人快樂故也、
永享十年二月吉日

美濃國三宮大塚社卯月御頭人事

右、護法大菩薩、爲衆生利益□(方カ)便、毎年貳季令遂御祭禮賜者也、守差定者也、守其闕、諸役可勤仕狀如件、

嘉吉二年卯月十三日　　頭　近衞

藤原吉綱

内□鞍□□(御前)

大塚神□宮等

敬白

美濃國三宮大塚□(社)御□□(頭人)

直江鄉　藤原吉□(久)

能松　女

文安六年卯月十七日

頭人六郎兵衞敬白

美濃國大□(塚)社　藤原行眞

女性德女

寶德三年九月九日

敬白

美濃國三宮御祭禮於性代　藤原昭文

女性益市

仍享德二年四月十六日

大塚社神官敬白

伍郎御門(商)

奉施入御法大菩薩　藤原則安

享德三年九月九日

多藝庄直江鄉　藤原秀藤

女性菖蒲(蒲)女

長祿三年九月九日

多藝庄直江鄉　藤原秀藤
女性菖蒲(滿)女
長祿三年九月九日

奉懸大塚御寶前御正躰一面
宇田鄉住人　藤原吉家
寬正乙酉六年卯月十二日
願主敬白

宇田鄉六郎左衞門
奉施入大塚社　藤原重俊
女房嫗女　敬白
應仁元年丁亥卯月廿日

多藝庄直江鄉頭人
美濃國三宮大塚護法大菩薩　藤原重直
女姓次郎御前

文明九年卯月十八日

差定美濃國三宮大塚社御祭禮頭人之事
右、護法大菩薩□(者)、□(爲)衆生利益方便、令遂每年二季御祭禮賜者、依(マヽ)新鏡如件、
文明十年卯月二日　敬白
神官等藤原行常

美濃國三宮
佐藤五郎左衞門尉
護法大菩薩　藤原朝臣友善
女性初御前
文□(亀)貳年壬戌卯月十三日
多藝庄志津鄉

濃州三宮大塚社九月御頭之事

右、護法大菩薩者、衆生利益方便、令遂毎年二季御祭禮給者也、仍龜鏡如件、

永正七年九月二日　　藤原友次
　　同内方六女
　　神官敬白

多藝庄大塚高山
卯月御講入江月郷
　田中又八藤原吉□(三)敬白
　内方沙彌　敬白
天文拾年乙巳卯月廿三日

奉懸御正躰　大塚御寶前
天文拾壹年九月九日　椿郷　藤原秀吉敬白

天文拾壹年九月九日　大塚郷
大塚社御頭人
櫻井住人［　］［　］
　乙能女
弘治三年卯月［　］

寛永三寅歳四月卯ノ日
　大塚郷　松永勘兵衛

四二　骨藏器陰刻銘

○高田　莊福寺所藏

○莊福寺所藏ノ宝暦年間ノ写ニ拠リテ掲グ、

故阿州太守小笠原源公長清榮曾居士方墳銘幷

序

小笠原源公長清者、乃清和帝第十一世孫也、源賴義生三子、其一名新羅三郎、三郎五世而至長清、小笠原氏自長清始、今之丸毛武庫公長照者、又長清第十一世孫也、花胄遙々、光于家譜、著于國史、長清爲人魁偉武略最長、成績可觀矣、加之歸心佛乘、建寺造像、其意深矣、元曆初、大將軍源賴朝、奉詔討平氏賊、長清從賴朝有功、天子嘉之、源氏六人、同日行賞、長清擢爲阿波太守、食虛邑若干戸・眞食若干戸、國人榮之、建久六年、南京東大寺大像成、四天像未成、長清捨家財、造持國像、在洛之東山清水坂畢功、俗呼其地曰四天十字、十字者小巷也、蓋此巷造持國之謂也、長清収其餘財、創佛宇於其側、扁曰長清、取自名也、殿安釋迦・文殊・普賢、左右又置二小殿、安觀音・地藏、長清在日、常々過之、以爲燕息之處、臨終告諸子曰、我死必被堅執銳、以葬此地、各奉遺命、作石棺盛屍、瘞觀音殿之下、自爾以降、二百餘歳、四事之供、無日不給、具體古伽藍也、眷夫長清護法之誠、動天地焉、感鬼神焉之所使然也耶、應仁二年戊子八月一日、毀于兵火、蕩無一瓦、數乎横乎、何瘞此哉、圮長照從軍都下、見之不忍、至則石棺存耳、灰燼中拾遺骨皈、遂三分其骨、藏之一塔、濃州多藝庄安久鄉有寺、曰莊福、莊福有軒、曰長惠、實家廟也、長照安塔於此、追薦冥福、香燈之勤孜々也、於是乎長照歔欷感發、以血續淚、誓曰、國家喪亂、朝不慮夕、何日而定、長清有知、知我願乎、則一分以還洛之長清、復其寺、一分以贈信之開善、立其祠、而一分以藏家廟、遺之子孫、使其知有所矜式也、其如斯則我願足矣、烏虖哀哉、後二年庚寅（文明二年）、莊福住寺栢舟（持）超公（趙）具狀來、索余塔銘、以長照之命也、夫孝也者、人之大本也、雖我佛祖之道、孝是爲先、余竊觀今之世、世衰俗薄、大者溺于大貨、小者焚于小利、一旦瞑目牖下、紛争豪奪、甚至孰爲子弟、孰爲仇讐、父子之間、猶不盡孝、況於其祖乎、今長照去長清也遠矣、

而敬之如敬考妣、事之又如事考妣、孝孰大於焉、胡爲與今之世相反如此乎哉、昔眉山蘇太史、作韓文公廟碑、有謂曰、公之神在天下者、如水在地中、無所往而不在也、誠哉斯論、由是觀之、長清之神在天下者、不可得而測矣、遺風餘烈、永々無窮、裕於其家、食於其廟、則不啻止于洛之信之濃之三處而已焉、抑今日之哀（賚カ）他日之榮也、按我佛二月十五日、唱滅鶴林園中、火浴後、得佛骨八斛四斗、大臣優婆吉、分而爲三、一與諸天、一與龍王、一與八王、各造七寶塔供養、涅槃經曰、一切衆生、悉有佛性、然則長清必甘蔗王之餘裔歟、長照必優婆吉之再生歟、今年二月十五日作銘、銘曰、夫圓覺性、如水有源、流長以清、彌漫四坤、惟阿波守、承清和孫、從賴朝軍、討平氏寇、鐘鼎武功、金湯法門、造持國像、配遮那尊、綽々餘裕、創布金園、誦經念佛、香火旦昏、被甲以葬、凜乎遺言、遇戊子（應仁二年）亂、兵火所屯、盜發其墓、石槨尚存、我武庫公、知孝之元、手拾白骨、泣淚痕々、分爲三分、安所居軒、作新一塔、光輝九原、舛平有待、何不招魂、掃洒先壠、報答深恩、于洛于信、于濃東藩、千秋萬歲、覆蔭後昆、書年月日、以充蘋蘩、

龍集文明二年庚寅仲春佛涅槃日

萬年村　僧橫川景三撰

四三　天神社社殿造立棟札

○養老公園　養老神社所藏

永正元歲
奉納南無天滿大自在天神宮
甲子正月大吉祥日

（裏）

濃刕多藝郡白石村惣氏子中

四四　大渭社社殿造立棟札

○有尾　八幡神社所藏

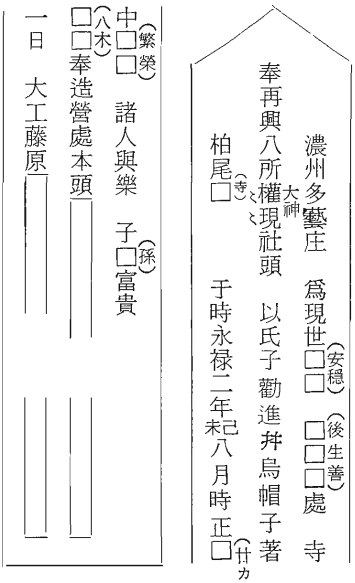
（裏）

御眞名　　奉納有尾村氏子中

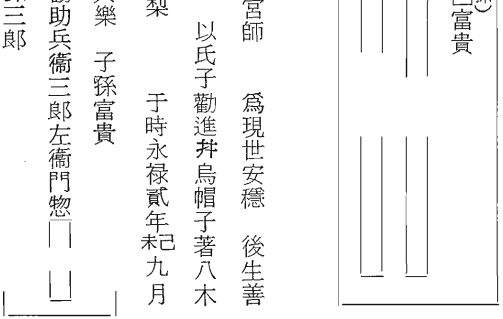
永正十六年　　勸請

卯三月十五日　開發人　栗田勘四郎

源　充實



（裏）

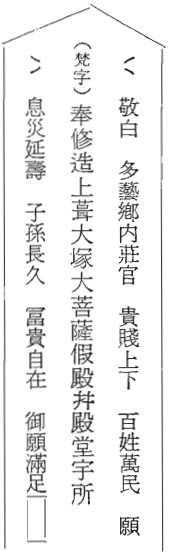


四五　八所權現社社殿再興棟札

○柏尾　神明神社所藏

四六　大塚社假殿幷殿堂修造棟札

〇三神町　多岐神社所藏



（裏）

慶長七季壬寅拾月廿四日　大法主敬白

第二部

近世

一　支　配

一　徳川家康禁制朱印状

○宇田　藤田カツ子氏所蔵

禁　制

（宇田）歌　村
金谷村
嶋田村
直井村
大塚村

一軍勢甲乙人等濫妨狼藉（藉）之事
一放火之事
一妻子・牛馬取之事
右条々、堅令停止訖、若有違犯之輩者、速可処厳科者也、仍下知如件

慶長五年九月廿一日　（朱印）

（貼紙）「御朱印　間宮彦次郎奉之」

二　間宮彦次郎嶋田町掟写

○高田　大橋正広氏所蔵

掟

一諸役免許之事
一楽市之事
一国質・郷質之事
一押買・押売之事
一喧嘩・口論之事
右条々、於違犯之輩は、其沙汰可申付者也、仍如件

慶長五年
十月廿一日　間宮彦次郎　印

嶋田町中

三　徳永昌重・寿昌連署書状写

○押越　渋谷保之氏所蔵

其許郷士尤候、丸毛六兵衛□条、以来於随身者、領内之地弐百石可遣候、委ハ松村八右衛門より可申候也、謹言

慶長五
子十二月二日　式法印　寿　昌（印）（花押影）

徳永左馬介
昌　重㊞（花押影）

澁谷六左衛門殿
参

四　徳永昌重・寿昌連署書状写

○押越　渋谷保之氏所蔵

尚三人共不洩様之、幾度も心を付候へと申候
領内之百姓中、沈淪不仕候様、当秋より支配可被致候也、謹言

式部卿法印
㊞（花押影）

慶長六八四（ママ）
左馬介
昌　重㊞（花押影）

澁谷　六左衛門殿
丸毛　六兵衛殿
西脇　久左衛門殿
各参

五　徳永昌重・寿昌連署知行充行書状（折紙）

○飯ノ木　丸毛善吉氏所蔵

於飯木村之内、五百石遣候間、全可領知者也、謹言

慶長六年
十月九日

式部卿法印
（徳永）
寿　昌（花押）

左馬助
（徳永）
昌　重（花押）

丸毛六兵衛殿
進之候

六　徳永昌重・寿昌連署書状写

○龍泉寺　西脇富夫氏所蔵

領内百姓中、沈淪不仕候様、如例支配可被致候、不洩様幾度も心付可有候、謹言

慶長六
丑十二　廿五

式部卿法印
寿　㊞（花押影）

徳永左馬介
昌　重㊞（花押影）

澁谷　六左衛門殿
古田　五郎三郎殿
西脇　久左衛門殿

七　徳永寿昌寄進状写

○飯ノ木　丸毛善吉氏所蔵

於飯木村之内、九石参斗寄進候間、可永領者也

慶長十年十月九日　　徳永式部卿法印寿昌　花押

丸毛六兵衛殿　進上

八　徳永寿昌知行米渡状（竪切紙）

○大垣市万石町　林正乗氏所蔵

知行方為夏成米渡覚

七石五斗者　西脇久左衛門尉

五石者　片山彦十郎

以上米拾弐石五斗者

右納升を以可相渡也、仍如件

慶長十三申六月八日　　（徳永寿昌）式法印（花押）

西脇久左衛門殿　　（黒印）

九　徳永寿昌田地渡状　（影写本）

○勢至　野村辰夫氏所蔵

○イマ、原文書見ルヲ得ズ、シバラク、安八郡輪之内町片野記念館所蔵ノ片野温氏影写本ニ拠リテ採ル、

田地相渡覚

中江五畝十歩　つや前ニ而、高木かけ内分

長池反壱畝　同ニ而、同　分

なし木五反弐畝　同ニ而、同　分

同弐反者　同ニ而、同　分

おゝのまへ壱反八畝　有尾ニ而、同人分

三反四畝　同ニ而、酒井源左衛門分

五反三畝　同ニ而、栗田清兵衛分

以上田数壱町九反三畝十歩、

右淺野少五郎へ遣候間、如書付、念を入可引渡者也、仍如件

慶長十四酉三月八日　　（徳永寿昌）式　法　印（花押）

田中傳左衛門殿

小原善兵衛殿まゐる

一〇　徳永寿昌田地渡状　（影写本）

○勢至　野村辰夫氏所蔵

○イマ、原文書見ルヲ得ズ、シバラク片野温氏影写本ニ拠リテ採ル

田地相渡覚

弐反者、つや前ニ而、　栗田清兵衛分

右藤田助三郎ニ遣候間、可引渡也、仍如件

慶長十四酉三月廿八日　　式　法　印（花押）

田中傳左衛門殿

中村勝右衛門殿まゐる

一一　徳永寿昌大豆渡状（竪切紙）

○大垣市万石町　林正乗氏所蔵

たるいといやかたへ相渡大豆覚

大豆四石者　　十郎兵衛

同　四石者　　六左衛門

同　四石者　　増右衛門

以上拾弐石者

右払升を以可相渡者也、仍如件

慶長十四酉五月廿三日　　式　法　印（花押）（黒印）

西脇久左衛門殿　□□

一二　代官支配触書

覚

○大場　松永　明氏所蔵

大　跡　村

根古地村

大　場　村

右之所、戸蔵所左衛門・西脇彦右衛門ニ御代官被仰付候間、万御　公儀御法度之趣次ニ納所等代官より申付候通、聊違背不可有之候、仍如件

寛永拾九年

壬午三月廿八日　　常葉六郎左衛門㊞

福井新左衛門㊞

右三ヶ村

庄　屋

肝　煎

百　姓　中

一三　徳永寿昌田地渡状　（影写本）

○勢至　野村辰夫氏所蔵

○以下一六号文書マデ、イマ、原文書見ルヲ得ズ、シバラク片野温氏影写本ニ拠リテ採ル

田地相渡覚

三反者、有尾ニ而、　高橋十左衛門分

〆

右之田地、松ノ木分為替、河村太兵衛遣候間、右如書付、可引渡者也、

慶長十五戌五月七日　　式部卿法印（花押）

田中傳左衛門殿

野田角右衛門殿

有尾さも入

一四　徳永寿昌折紙（折紙）　（影写本）

○勢至　野村辰夫氏所蔵

尚以、米つかせ候ハヽ、かミにつゝミ、此方へミせ可被申候以上

つき米之覚

一上白壱石弐斗

一中白弐石ハ、

一下白壱石者、

合四石弐斗

右赤坂御成之用候間、念を入申付、来ル廿五日以前赤坂へ相著、左候時、馬淵宗五郎ニ可相渡候也、

但村々やく不仕ものニつかせ可被申候、以上

二月十二日　　（徳永）寿　昌（花押）

田中傳左衛門□

一五　徳永寿昌折紙（折紙）　（影写本）

○勢至　野村辰夫氏所蔵

水出候時、堤相抱候事、舟付大野さかいより栗かさ新いり迄相渡候条、田中傳左衛門尉・馬場三右衛門尉次第何時も相越、精を入可相抱也

三月廿日　　寿　昌（花押）

上方さくらい村

龍泉寺

せいし　（略押）
柏　尾　（略押）
明　徳
をくら
白　石　（略押）
はりの木　（略押）
くりかさ
（マヽ）
若　宮　（略押）
おしこし　（略押）
いしはた　（略押）
口ヶ嶋　（略押）
西岩道　（略押）
右村々きも入百姓中

一六　徳永寿昌書状（折紙）　（影写本）

〇勢至　野村辰夫氏所蔵

此雨ニ谷川可出候間、無油断、堤相かゝゑ候様ニ可仕候、左候とて其方出候て、ひゑ可申候条、子共を出て可申付候、恐々謹言

五月九日　　寿　昌（花押）

田中傳左衛門殿　まゐる

一七　徳永寿昌書状写

〇龍泉寺　西脇富夫氏所蔵

以上

最前たき郡之知行高、其方ニ書付させ候間、其書付不見候間、其時之跡書候ハヽ、可被相越候、尾州ニ被置候共、急可被取寄候、恐々謹言

十月廿日　　式部卿法印
寿　昌（花押影）

西脇久左衛門尉殿
進之候

一八　徳永昌重条書（折紙）　（影写本）

〇勢至　野村辰夫氏所蔵

一八号文書・一九号文書、イマ、原文書見ルヲ得ズ、シバラク、片野温氏影写本ニ拠リテ採ル

急度申遣候、

一慶長拾七年分之米之儀、有次第一粒も不残、来廿日以前ニ大津へ相著、市村長右衛門ニ可被相渡候、但金銀ニて運上可仕と存候は、小判壱両ニ付て、米払升五石五合宛、丁銀拾匁ニ付て、同七斗三升六合宛にて候与、金銀可申候て、大津へも不上、金銀ニても運上不仕、米残置候付てハ、五割之利足を加、当年中之一之高ねニ取可申候間、可有其心得候事

一慶長拾八年分麦之儀、小判壱両ニ付て、納升拾壱石五斗宛、丁銀子十匁ニ麦同壱石六斗九升宛ニ、可被上候、是又、金銀ニて、不上、残置候付てハ、利足相加、当年中之一之高ねニ可取候条、可有其心得候事

一上銭ハ、壱貫文ニ付て、銀子弐拾匁宛之積ニ、可被上候事

一此返事わけの閧候様ニ、急度可被申候、随其又可申遣候、恐々謹言

（慶長十八年）
丑八月九日　　左馬助
　　昌　重（花押）

田中傳左衛門殿

一九　徳永昌重折紙（折紙）　（影写本）

〇勢至　野村辰夫氏所蔵

元和弐年分未進覚

一四石弐斗八升　石畑村ノ　清　蔵
一三石壱斗九升二合　同村ノ　源　十郎
一六石三斗八升四合　飯木村ノ　又右衛門
一六石六斗七升　同村ノ　久　介
一七石四斗　同村ノ　清　次
一八石九斗四升六合　同村ノ　九郎右衛門

以上

其方代官所之内、右書立之石付未進おい候間、三月五日已前ニ、急度納所仕候様ニ、堅可被申付候、右之内ニ納所不仕もの在之ニ付てハ、六日之朝、誰々納所不成通書付、高須へ其方并下代召連持参可被仕候、其上にて急度百姓召寄、相改可申候、右未進おい候者とも壱人もはしらせ被申付てハ、下代共ニ可為曲事候間、為居直書を以申遣也

三月朔日　　昌　重（花押）

追て、此返事今日中ニ可上候、以上

田中傳左衛門殿

二〇　徳永昌重家中衆知行方渡状

〇勢至　野村辰夫氏所蔵

家中衆知行方十月分石成之事

一参拾石者、
一拾八石九斗七升四合者、
一拾四石弐斗三升者、
一拾四石弐斗三升者、
一拾石者、
　以上八拾七石四斗三升四合者、
右其方代官所之米之内ニて、納印を以相渡シ、重て算用ニ可被相立者也

元和弐年
辰十二月二日　　(徳永昌重)左馬助（花押）
田中傳左衛門殿

田中傳左衛門尉
香川太介
西脇清介
稲葉平三郎
志藤田清左衛門

三月廿八日　　(徳永)左馬助昌重（花押）
片山二藏とのへ
進之候、

二一　徳永昌重書状

○烏江　吹原第三氏所蔵

○コノ文書、イマ切紙ナルモ、モト折紙ナリシナラン、

先年法印(徳永寿昌)柾板御請取候由候て、其方下代大橋久次と申もの、山村七郎右衛門尉殿請取遣候付而、只今此方ニて、せんさく在之事候、右之柾板何と払候哉、其様子具早々可被申越候、則久次請取之写遣候間、可有披見候、恐々謹言

二二　徳永昌重書状（折紙）

○烏江　吹原第三氏所蔵

以上
明廿七日ニ、駿府へ妻子引越候付テ、なるミ迄舟壱艘用所候間、かこ以下念を入、今晩根子地へ参着候様ニ可申付候、急下候へと御意候条、(油)由断有間敷候者也、

六月廿六日　　左馬助昌重（花押）
葛岡四郎右衛門殿
からすへ
八郎左衛門
進之候

(付箋)「六代以前五代勘兵衛」

二三　徳永昌重書状

○烏江　吹原第三氏所蔵

○コノ文書、イマ切紙ナルモ、モト折紙ナリシナラン、

大豆可上覚

一四拾八石　　葛岡四郎右衛門
一廿石　　西脇久左衛門　□
一五拾弐石　　松村可左衛門
以上　百弐拾石

右是は、陣所之馬之かいれうの用所候間、来七日以前ニ、大津へ相着候様ニ可被申付候、則為奉行大崎平左衛門尉遣候、自然運上候へハ、陣所之用所ニ不相立候間、少もゆたん有間敷候、恐々謹言、

十月廿八日　　左馬助
昌　重（花押）

葛岡四郎右衛門尉殿
（付箋）
西脇久左衛門尉殿「此三人徳永法印様御代官」
松村可左衛門尉殿

一二四　徳永昌重書状（切紙）　（影写本）

○勢至　野村辰夫氏所蔵

○イマ、原文書見ルヲ得ズ、シバラク、片野温氏影写本ニ拠リテ採ル

猶々、そろへ置候て、此返事可被申候、則只今遣候使ニ、其方やと見合置候間、左右次第被出候、用意仕可被置候、夜中のため用心候間、如此候、以上

其方預りのてつほう卅人、其方やとニ成共、又〻其ちかくの家ニ成共、鉄炮・具足共ニ、ね所之まくらもとニおき、此方より一左右次第、少も間なく、本陣へ夜中ニよらす出合候様ニ、只今よりあつめ置可被申候、もしよひよせ候時、あつかりの卅人分壱人も遅出候付ては、其てつほうの者儀ハ不及申、かしら分之衆をも可為越度候、恐々謹言、

霜月五日　　左馬助
昌　重（花押）

田中傳左衛門殿

一二五　徳永昌勝書状（折紙）

○飯ノ木　丸毛善吉氏所蔵

為年頭之祝儀、鳥目弐拾疋到来祝著候、恐々謹言

正月六日　　下総守（徳永）
昌　勝（花押）

丸毛六兵衛殿

二六　徳永昌勝書状（折紙）　（影写本）

○勢至　野村辰夫氏所蔵

イマ、原文書見ルヲ得ズ、シバラク、片野温氏影写本ニ拠リテ採ル

為諸太夫之祝儀、鳥目三十疋到来、大慶ニ存候、恐々謹言、

正月廿一日　　下総守（徳永）昌　勝（花押）

田中傳左衛門殿

二七　戸田氏鐵・氏信・氏彬寺領安堵状

○大垣市津村町　清水正之氏所蔵

濃州多藝郡之内大塚村妙徳院坊跡壱反九畝拾四歩任先規被除検地畢、全可被修（収）納之旨候也、并四壁之藪林不可他妨候、仍執達如件（有脱カ）

寛永十一　　伊藤三郎左衛門　直次（花押）

十二月廿一日　　高橋　前右衛門（ママ）

久松十郎左衛門　吉重（花押）

法藏坊

濃州多藝郡大塚村妙徳院坊跡壱反九畝拾四歩、任先例令寄附之訖、全可被収納之候、并四壁之藪林不可有他妨者也、仍免許状如件

寛永拾三丙子

九月廿日　　氏　鐵（黒印）

妙徳院

濃州多藝郡大塚村妙徳院坊跡高弐石三斗三升五合、任先例令寄附之訖、全可被収納之候、并四壁之藪林不可有他妨者也、仍免許状如件

承応二年

十一月十五日　　氏　信

妙徳院

領内多藝郡大墳村妙徳院境内弐石三斗三升五合并竹木等重、任先規免除、如有来不可有相違者也、仍如件

安政六年十二月朔日　　氏　彬（黒印）

二八　在々仕置覚（高須藩―小笠原氏）

○不破郡関ヶ原町　不破幹雄氏所蔵

在々仕置之覚

一吉利支丹并盗賊聞出可申上事
一御奉公人衆之儀ハ不及申、又もの以下至迄、在々無手形て参御法度を相背、むさとしたる儀申廻るもの於有之ハ可申上事
一御代官衆并御給人・誰人によらす、在々にて人馬召仕事無手形して一疋一人も出し申間敷候事
一御代官衆并諸奉公人衆へ聊之物成共礼義・礼物出申間敷事
一御訴訟之儀於有之ハ、御城之目安箱へ書付を可指上事
　但　十月より十二月迄ハ可為無用、付　指当儀は可為閣別事（ママ）
一男女老若一季奉公之儀ハ不申、年を越、他国他郷へ一人も参間敷事、付　男女売買かたく停止之事
一外より百姓参、其村ニ永有付候へんと申候ハヽ、八木已下可被下候、但　不審成ものハ無用之事
一何ニよらす諸勝負かたく停止之事、付、他領と不謂之事なと仕間敷事
一理なくして家をこほち并家之売買停止之事、付　手負又ハ不審成もの、其外請人なきものに一夜も宿をかし申間敷事
一山林之儀は不及申、居屋敷の竹木并筍なと猥ニ伐採申間敷事
一田畑少成共あらし候ハヽ、五人くミ又は其村中并五村与へかかり可申事
一御免相之儀、なる程御せんさくの上ニて御書付出候間、御訴訟無用之事
一公事さた有之時、百姓諸奉公人衆を頼、何角申廻事堅停止之事
一訴人仕候ものに被下候御褒美之書付并はしり候百姓之御法度書、いつれも別紙に申渡候事
一御役仕候事、家一軒ニ付一ヶ月ニ二日ツヽ御やとひ被成候事
一庄屋衆小百姓へ非分之儀少も申かけましき事
一御皆済已前ニ在々ニて何によらす、出物・つるべものなと停止事、付　秋に至て津留かたく可申付事

右、十七ヶ条之趣堅可相守者也

寛永拾七年
辰ノ霜月廿五日

脇屋　金左衛門㊞
朝倉　求馬㊞
根岸　甚右衛門㊞

大場村

二九　尾張藩法度条目

○烏江　吹原第三氏所蔵

条々

多藝郡烏江村

一就諸事　公儀御法度堅可相守事
一吉利支丹宗門之義　公儀如御制禁、弥守其旨、御領分在々所々之町人・百姓・男女・下人等に至迄、其町之肝煎・拾人組其村之庄屋・組頭・拾人組、常々無油断彼宗門を可相改之、若うたかハしき者有之は、御代官所は其代官、給所は其給人へ早速可申届、於告来は御褒美可被下事
一於在々所々、諸牢人は勿論、縦如何様之者たりといふ共、請人なくして不可宿借置、雖然、往来之輩并他所之飛脚等可為各別　但　乃逗留は、其所之代官、其所之給人へ可相断事
一在々所々におゐて、手負、或構有之者、或諸事致徒者一切不可隠置、若於相背ハ、其宿主ハ勿論、其町中可被処曲事、其宿主於為百姓は、其所之庄屋・組頭・十人組、右可為同罪事
一御領分之百姓於欠落は、其村之庄屋・組頭・拾人組等、急度可尋出之、若於不尋出は、依其品、或籠舎、或可為過料、致欠落百姓、其宿主共に可及死罪・籠舎事
一御領分之百姓於致欠落は、其所之代官、其所之給人へ、其村之庄屋・組頭・拾人組等、早速可申届、若令遅参は、可為籠舎事
一在々所々之町人・百姓・大刀・大脇指不可指之、刀・脇指之さや朱・青漆・黄漆・白檀・大鍔・角鍔御停止之、若猥之者於有之は、其刀・其脇指を取并可為過料事
一在々所々より他国へ罷越もの、自分以後不苦、雖然、子細有之もの可為各別事、付　在々所々之町人・百姓、他国・他領へ奉公人之請に一切不可立之、若於相背は、曲事たるへき事
一在々所々之町人・百姓ふこ札不持して、ふこ荷売いたすへからす、若於相背ハ、其本人三貫文之可為過料、其ふこ荷於為町人は、其町之肝煎三百文、其町中は家一間より百文宛可出之、其ふこ荷於為百姓は、其村之庄屋三百文、其村之百姓家壱間より百文宛可出之事
　付　耕作之物至に其時、百姓荷売ふこ札に不可及事
　付　塩浜之者、塩斗ふこ荷売可為各別事
一在々所々之百姓、前々よりふこ荷仕者たりといふ共、奉公可成者ハ、ふこ札不可出之、前々よりふこ荷不仕ものたりといふ共、奉公不成者、或老人、或十三歳以不之ものハ、ふこ札可出之事
一在々所々之竹木、其代官・其給人無指図て、不可伐採之、若猥之者曲事たるへき事
一御領分在々所々之堤・留池之儀、少損候所ハ、其村之百姓早速可致修理、若過分ニ損候所は、早々此方へ可申来、於令油断は、其村々百姓可為曲事

右之旨堅可相守者也

寛永拾九年
午二月廿九日

服部小十良正
吉（花押）

酒井久左衛門
利政（花押）

多藝郡烏江村

条々

一就諸事　公儀御法度可相守事
一吉利支丹宗門之儀　公儀如御制禁、弥守其旨、御領分在々所々之町人・百姓・男女・下人等に至迄、其町之肝煎・十人組其村之庄屋・与頭・十人組、常々無油断彼宗門可相改之、若うたかハしき者有之は、御代官所ハ其代官、給所は其給人へ早速可申届、於告来は御褒美可被下事
一於在々所々、諸牢人は勿論、縦如何様之者たりといふとも、無請人して、不可宿借置、雖然、往来之輩并飛脚等可為各別若及逗留者、其所之代官、其所之給人へ可相断事
　但　かまひ無之牢人・親子・兄弟に候ハヽ、其所之代官、其所之給人に相断、妻子共に抱置候ても不苦事
一於在々所々、手負或構有之者、或諸事徒致者、一切不可隠置苦於相背は、其宿主は勿論、其所之庄屋・与頭・十人組可為曲事事
一御領分之百姓於致欠落は、其村之庄屋・百姓中として、急度可尋出之、若於不尋出は、依其品、或籠舎、或可為過料、致欠落百姓其宿主共に、科之依軽重、可及死罪籠舎事
一御領分之百姓於致欠落は、其所之代官・其所之給人へ、其村之庄屋・与頭・十人組等早速可申届、若令遅参は可為籠舎事
一在々所々之町人・百姓、大刀・大脇指不可差之、刀・脇指之さや、朱・青漆・黄漆・白檀・大鍔・角鍔御停止、若猥之者於有之は、其刀・其脇指を取并可為過料事
一在々所々之町人百姓、他国・他領へ奉公人之請に一切不可立之、若於相背は、依其品、或籠舎、或可為過料事
一堤之芝草かりへき之儀御停止、若相背者有之は籠舎并其村之庄屋は為過銭三百文宛、小百姓は家並一軒に百文宛可出之事
一田畑売買御停止、若相背者於有之は、売主三十日之籠舎、買主廿日之籠舎、其上田畑買候代ハ、買主損に可成事
一在々所々之町人（宝引）・百姓、召仕之下人、請人を取可召置事
一はちく（ほうひき）・諸勝負御停止之事
一在々（所々）之竹木、其代官・其給人無指図して、不可伐採之、若猥之者可為曲事事
一留池水多溜置、堤きらし候ハヽ、先年より如御定公儀より無御構候間、きらし不申候様に、百姓情を入可申候、若きらし候ハヽ、百姓自分に急度つき可申事
一御領分在々所々堤・留池・井溝損候は、其村之有人三日分にて、破損所修理可仕候、其村三日分之人足ニて、修理不罷成所は、御代官所ハ其代官、給所ハ其給人へ相断可申来候、其村三日分之人足にて修理罷成所を、訴訟申上候は、可為曲事

付　新規に堤・留池・井溝訴訟目安上候義御停止　但新規に不仕候て不叶儀候は、御代官所は其代官、給所ハ其給人可被申上事

右条々先年より御仕置ニ候、弥此旨堅可相守者也

承応弐年巳五月十五日　　渡邊半十郎（景綱）（花押）
　　南部安右衛門（信紀）（花押）

三〇　氏家直重書状写

○龍泉寺　西脇富夫氏所蔵

信州高たうの城、こまのこニせめ入候処、敵ひろ間ニ取籠有之といへとも、押入高名、殊敵父子討取候儀、無比類手柄ニ候、左候得は、其方ゆひ二ツ刀のつか共に切おとし候、いたミ可申候、則徳雲遣之、養姓油断有間敷候、恐々謹言、

午ノ三月三日　　左京助　直重（花押影）

西脇久左衛門殿
進之候

過し夜、有岡せめ候ニ付て、町弐百間余やきはらひ、其方高名無比類手柄にて不始候、左候へハ　信長様御朱印成被下候、外聞中々不過之候御朱印、則先衆にも頂戴仕、此使者ニ返上可仕候旨可被申渡候、恐々謹言

卯ノ極月九日　　左京助（氏家）直重（花押影）

西脇久左衛門殿
進之候

三一　西右近重徳書状写

○龍泉寺　西脇富夫氏所蔵

横山城州より、以使札被仰遣候ニ付て、一書令賄候、此中ハ、昼夜城州にて咄申候丸六兵も、未此地ニ被居候、別帋ニて可申入候へ共、二三日中其地へ可被帰候間、我々より心得申入候へと被申候

一信州高頭城御責被成時、こまなこひろ間にて、貴殿御はたらき高名被成御手柄の御事、六兵・我々も存候通、城州ニ語申候、まへかとより大形山城殿聞被申候へ共、我々両人物かたり、懇ニ御きゝ候て、弥御手柄之由被申候、則雲州も、城州ニハ被申、貴殿儀能被聞、一段懇ニ被申、左候へハ、城州俄ニ加州へ御下にて候まて（御か）ハのほり可被成候間、其砌城州雲州

へも少御見廻被成可然と存候、尚以面上可申承候間、早々不能具候、恐惶謹言

五月廿三日　　西右近重徳（花押影）

西脇久左様
人々御中

尚、以上六兵へ二三日中ニ可被帰候間、其節之様子懇ニ可被申、委可申入候へとも、此使者急々被申候条、早々申入候、以上

三二　氏家直重知行充行状写

○龍泉寺　西脇富夫氏所蔵

今度北伊勢古田篠立村通人数引取候付て、桑名表より瀧川方人数出しした申候、彼地難所ニて大軍打入候儀不成候間、然共、其方かけ返し、敵討捕高名被仕候故、諸軍勢する〳〵と引取候無比類手柄、爾今不始候、右為褒美知行遣候

一百五拾貫　養老三ヶ村
一弐拾貫　礼馬銭　押越村

為加増支配候、全知行あるべく候、恐々謹言

ひっしノ
三月廿七日　　左京助直重（花押影）

養老町史　史料編

西脇久左衛門殿
進之候

三三　藤田吉正・山田直家連署書状（折紙）

○烏江　吹原第三氏所蔵

以上

態申入候、江月村入作分之帳作り遣申候間、田畠改御請取可有候、新田之儀ハ不及申ニ、本田共ニ、其方きも入、少も不作なきやうニ、万事急度可被申付候、入作之儀、江月へ越候て已来迄、江月之百姓ニ可罷成と申者候は、其方相請候て、田畠作らせ可被申候、江月へ越不申候者ニハ、少も作らせ候事無用ニ候、右之通ニ、久左衛門殿へ得御意、申入候間、其御心得可有候、恐々謹言、

三月廿三日　　山田小左衛門直家（花押）
藤田忠兵衛吉正（花押）

烏江　村
（付箋）
「江月村持高　勘兵衛殿
御定書　」

三四　加藤光泰書状

○石畑　山幡清重氏所蔵

此度無比類御働、城廻之小屋悉令放火、敵五六十人討捕名有首、池田三左衛門尉状被申、荒川玄番介生捕罷出候条、　家康公甚御機嫌被思召、猶又御身上之義、御一味可為肝要候、恐々謹言

九月十一日　　加藤遠江　光泰（花押）

山畑五郎左衛門殿
人々御中

二　土　地

三五　椿井郷年貢納帳

〇石畑　山幡清重氏所蔵

（表紙）
「小出播摩守殿根之帳うつし
太神宮領多藝庄椿井郷納帳
天正十七年（つちのとの うしのとし）十二月　日」

中畠　五斗三升四合（ひろはた）　三藏分　小左衛門
中畠　七斗四升七合（かふとき）　三藏分　太郎兵衛
上畠　十王堂　壱石壱斗三升五合　又兵衛同　人
上畠　六斗（かふとき）　與七なわの内
三斗壱升四合　彦一郎分　七右衛門
三斗五升八合　同　人
上畠　壱石八升（ひろはた）　彦一郎分　龜藏
弐石弐斗弐升三合　宗八なわ之内　五郎右衛門
上畠　同　人

上畠　十王堂そらつめ　六斗八升
上畠　一石壱斗四升七合（ひろはた）　宗八なわ之内
上畠　十王う堂（つめ）　二斗弐升四合　宗兵なわ之内
上畠　十王う堂　一石壱升六合（ひろはた）　八斗
下畠　壱石三升四合
畠　十王堂　三斗二升　ひろはた　壱石三斗九升五合
畠　十王堂　六斗一升
上畠　十王う堂　四斗三升八合
上畠　十王う堂　二斗六升一合
上畠　十王う堂　二斗六升一合
上畠　ひろはた　五斗二升六合
上畠　十王う堂　五斗二合
上畠　十王う堂　一斗八升五合　大まわり　二石六升八合
田　王う堂　壱石壱斗二合　ひろはた　壱石六斗二升三合

宗兵衛　宗一なわの内　与七なわの内
宗兵衛　与七なわの内
吉藏　与七なわの内
市内　与七なわの内
與次衛門　与七分　市兵分　甚左衛門
孫二郎　市兵衛
無邊　同　人　無辺分
與七　無辺分
六千せまつ　無辺分
同　人　無辺分
與太郎　同　人
小六郎　宗左衛門

上畠　野々口　八斗一升弐合　小一郎市蔵なわ之内　藤　助
中畠　壱町田　壱石三斗二升一合　七升七合　入道なわ之内かへ地　同　人
中田　かふとき　八斗八升九合　入道なわ之内かへ地　同　人
上畠　野々口　八斗一升二合　藤助なわ之内　三右衛門
中田　壱町田　壱石三斗二升壱合　小一市蔵なわ之内　同　人
中田　かふとき　八斗八升九合　入道なわ之内かへ地　同　人
中田　壱町田　六斗一合　小一郎市蔵なわ之内　小一郎
中田　壱町田　壱石一斗一合　小一郎市蔵なわ之内　市蔵
中田　壱町田　二石四斗一合　小一郎市蔵なわ之内　彦三
同　二石八斗六升　入道なわ之内かへ地　同　人
中田　大まわりと　五斗壱升四合　市内なわ之内　はんの木ノ　市左衛門
中田　大まわりと　五斗一升四合　市内なわ之内　きやうかわき　彦七
中田　大まわりと　六斗二升九合　市内なわ之内　はんの木ノ　小八
中田　大まわりと　六斗五合　市内なわ之内　杉
中田　大まわりと　二斗四升六合　市内なわ之内　宗八
中田　大まわりと　二石七斗八升四合　市内なわ之内　藤左衛門
中田　大まわりと　三斗四升六合　市内なわ之内　同　人
中田　壱町田　二石三斗八升六合　五二郎なわ之内　小八郎

壱町田　一石五斗八升八合　五二郎なわ之内　徳　行
町田　二石二斗七升八合　又二郎なわ之内　しらいしの　又二郎
一石三斗七升五合　大わきノ　又七郎
田　二石九斗六升五合　在所ハいゝ田　いゝ田の　新二郎
畠方合　弐拾石二斗一升三
田方合　弐拾九石四斗三升七合
都合合　四拾九石六斗五升

三六　押越村検地帳

○押越　澁谷保之氏所蔵

（表紙）「慶長拾四年己酉
濃州多藝郡押越村御縄打水帳
八月十七日　豊島三十郎
兵左衛門尉
（案内）□□者　三郎助
□（喜）平□（次）」

七冊之内

拾老間　上田　宮ノ北　弐畝廿八歩
八間　吉蔵

拾間	上田	同	三郎介
八間		弐畝廿歩	
拾間	上田	同	喜市
三間半		壱畝廿六歩	
三拾七間	上田	同	同人
六間		七畝拾弐歩	
拾五間	上田	同	助作
七間		三畝拾五歩	
拾六間	上田	弐畝四歩	三藏
四間			
卅九間	上田	六畝十五歩	吉藏
五間			
卅九間	上田	七畝四歩（ママ）	助作
五間			
四拾五間	上田	八畝七歩	又一郎
五間			
拾七間	上田	四畝拾六歩	又助
八間			
拾六間	上田	壱畝十歩	吉藏
弐間半			
五間	中畠	五歩	彌八郎
壱間			
七間	上田	壱畝五歩	又一郎
五間			
五間半	上田	三畝十四歩	三藏
拾九間			
拾間	上田	五畝廿五歩	喜兵衛
拾七間半			
拾四間	上田	八畝廿六歩	同人
拾九間			
八間	上田	五畝十歩	喜平次
廿間			
拾四間	上田	三畝八歩	同人
七間			
弐拾八間	上田	壱反壱畝六歩	三郎介
拾弐間			

弐拾間	上田	五畝廿歩	喜兵衛
八間半			
弐拾四間	上田	弐反四畝廿四歩	助作
卅壱間			
八間半	上田	壱反三畝十三歩	喜兵衛
四拾七間半			
拾五間	上田	弐反四畝歩	三郎介
四拾八間			
卅八間	中田	弐反九畝四歩	同人
弐拾三間			
弐拾三間	中田	弐反九畝十五歩	同人
卅八間半			
拾四間	上田	三畝八歩	喜左衛門
七間			
拾六間	上田	五畝十歩	たまる
拾間			
拾七間	上田	五畝十一歩	三郎介
九間半			
拾間	上田	三畝歩	同人
九間			
拾五間	上田	六畝歩	喜四郎
弐拾弐間			
弐拾六間	上田	壱反九畝廿八歩	三郎介
弐拾三間			
拾四間	上田	壱反四畝歩	同人
卅間			
拾間	上畠	弐畝歩	同人
六間			
拾五間	中田	弐畝歩	同人
四間			
拾五間	上畠	四畝歩	同人
八間			
八間	上畠	六畝六歩	喜十郎
廿壱間			
八間	上畠	壱畝二歩	彌三郎
四間			

| | | |

拾六間五間　上畠　弐畝廿歩　六左衛門
八間弐間　中畠　十六歩　又一郎
八間四間　上畠　壱畝二歩　六左衛門
八間弐間　中畠　十六歩　六歩入　当不作　三蔵
六間四間　下畠　壱畝歩　坊主
廿二間三間　下畠　弐畝六歩
拾三間五間半　下畠　弐畝十一歩　年々不作　三郎介　六左衛門
三間半九間　下畠　壱畝一歩　彌介
廿四間六間　下畠　四畝廿四歩　喜八郎
廿五間弐間半　上畠　弐畝二歩　彌七郎　年々不作　孫一郎分
八間拾間　下畠　弐畝廿歩
七間半八間　中畠　弐畝歩　同人
弐拾間九間　下畠　六畝　彌七郎
七間半三間　下畠　廿二歩　彌介
拾六間拾弐間半　上畠　六畝廿歩　小七郎
拾三間四間　上畠　壱畝廿二歩　坊主
拾三間拾壱間　上畠　四畝廿三歩　三郎左衛門
拾間拾五間　下畠　五畝歩　三郎左衛門

拾弐間九間半　上畠　三畝廿四歩　小七郎
拾八間拾間半　下畠　六畝九歩　伊右衛門
拾四間拾三間　上畠　六畝二歩　喜十郎
拾七間拾三間　中畠　七畝十一歩　三蔵
拾四間七間　下畠　三畝八歩　喜平次
四拾間七間　中畠　九畝十歩　同人
八間五間　下畠　壱畝十歩　同人
廿六間五間　下田　四畝十歩　彌三郎
拾六間三間半　中田　壱畝廿六歩　喜平次
廿弐間弐間　田　弐畝四歩　永不作　主なし
廿弐間拾四間　上畠　壱反六畝六歩　喜平次
九間廿四間　上畠　七畝六歩　喜左衛門
廿弐間拾四間　上畠　壱反四畝廿八歩　六蔵
八間三間　下田　廿四歩　彌八郎
弐間八間　下田　拾六歩　喜平次
廿四間拾八間　中畠　壱反四畝十二歩　同人
廿三間六間　上畠　四畝十八歩　新介
拾六間三間　中畠　壱畝十八歩　喜市

拾六間	拾七間	拾弐間	八間	六間	七間	拾五間	拾弐間	拾壱間	廿四間弐間半	廿間三間	八間半五間	拾五間三間	三間拾六間	六間弐間	拾三間拾三間	五間五間	六間半四間	拾三間壱間	拾八間四間	九間拾六間
中畠	上畠	上畠	上畠	上畠	上畠	上畠	下畠	下田	下田	下田	下田	下田	下田	下田	上畠	中田	中田	中田	中田	上畠
八畝十六歩	五畝廿歩	三畝六歩	三畝十八歩	四畝十二歩	三畝十五歩	弐畝廿五歩	弐畝歩	壱畝十四歩	壱畝十五歩	神明ノ東壱畝十八歩	神明十二歩	五畝拾九歩	廿五歩	廿六歩	拾三歩	弐畝十四歩	四畝廿四歩			
喜平次	新兵衛	小一郎	同人	小七郎	六藏	喜平次	同人	喜市	三郎介	当不作彌次	当不作又介	喜市	三藏	六左衛門	喜市	喜平次	三郎介			

四間拾壱間	三間拾間	廿間半廿間	拾間五間	四間五間	八間四間	六間拾弐間	四間拾弐間半	七間半弐間	拾間六間	六間四間	五間四間	拾九間半八間	六間廿四間	九間五間	卅間八間	九間六間	拾六間拾壱間
上畠	畠	上畠	下畠	上畠	下畠	中畠	上畠	中畠	中畠	上畠	中田	上田	中田	上田	上畠	上田	上畠
壱畝十四歩	壱畝歩	壱反三畝廿歩	壱畝廿歩	廿歩	壱畝二歩	弐畝十二歩	七畝十五歩	十五歩	弐畝歩	弐畝歩	廿歩	五畝六歩	五畝十四歩	壱畝十五歩	八畝歩	壱畝廿四歩	五畝廿六歩
喜介	永不作主なし	又一郎	彌七郎	又一郎	喜九郎	與三郎	彌三郎	喜九郎	喜介	同人	彌三郎	喜六	喜六	同人	三郎介	同人	次郎太夫

| | | |

六間半　廿九間　中田　六畝八歩　三藏　喜平次
廿七間半　拾弐間半　下田　壱反壱畝七歩　こなへ　次郎三
廿五間　拾弐間　中田　壱反歩　三藏　彌三郎
拾七間　中田　弐畝四歩　同人　喜十郎
拾弐間　拾七間　中田　六畝廿四歩　彌三郎　喜兵衛
拾間半　拾四間　中田　四畝廿七歩　十郎　惣作分　彌三郎　こなへ
八間　九間　中田　弐畝十二歩　喜介　彌三郎
廿四間　八間半　中田　九畝十九歩　小一郎　同断　彌七郎
拾壱間　六間　中田　弐畝六歩　喜兵衛　三郎介
三間　五間　中田　拾五歩　喜十郎　喜八郎
三間半　三間半　中田　十一歩　彌三郎　彌三郎
三間　七間　中田　廿壱歩　七郎右衛門　三郎介
七間　四間　下田　廿八歩　同人　同人
六間半　七間半　下田　壱畝十五歩　同人　当不作　同人
三間　五間　下田　拾五歩　喜六　年々不作　次郎三
九間　三間　下田　廿七歩　三郎介
四間　三間　中田　拾二歩

廿九間　拾壱間　中田　壱反拾九歩　喜平次
拾間半　五間　中田　壱畝廿二歩　次郎三
六間半　九間　中田　壱畝廿八歩　彌三郎
六間半　四間半　中田　廿九歩　喜十郎
九間　卅間　上畠　九畝歩　喜兵衛
廿四間　九間半　上畠　七畝十八歩　彌三郎
拾三間　七間　上畠　三畝一歩　こなへ
五間半　廿八間　上畠　五畝四歩　彌三郎
廿二間　六間　下田　四畝十四歩　三郎介
拾間　拾九間　上畠　六畝十歩　喜八郎
拾三間　八間　上畠　三畝十四歩　彌七郎
拾三間　卅間半　上畠　壱反三畝六歩　三郎介
廿壱間　拾弐間　上畠　八畝十二歩　同人
廿壱間　拾七間　中畠　壱反壱畝廿七歩　同人
拾壱間半　廿五間　中畠　九畝十七歩　喜平次
拾間半　拾八間半　上畠　六畝五歩　小一郎
九間　七間半　中田　弐畝七歩　同人
七間半　五間半　中田　壱畝十歩　三藏

五間半 六間　中田　ツヽミそと壱畝三歩　喜介
六間半 九間半　中田　壱畝廿八歩　六蔵
拾四間 八間　下畠　三畝廿二歩　三郎介
七間 弐間　下畠　拾四歩　八郎
六間 拾間　中畠　弐畝歩　喜助
六間半 四間　中田　廿六歩　同人
廿八間半 廿間　上田　弐反五畝廿九歩　喜平次
廿二間 廿間半　上田　壱反八歩　孫兵衛
廿四間 廿間　上田　壱反五畝壱歩　助作
六間 弐間　上田　弐反四畝歩　与三次
拾間 四間　上田　拾弐歩　喜三郎
壱間 三間　上田　三歩　たま丸
四間 三間　上田　壱畝十歩　同人
六間 八間　上田　壱畝十八歩　次郎三
七間 四間　上田　廿八歩　喜兵衛
四間半 八間　上田　壱畝四歩　新介
壱間 五間　上田　五歩　与三次

七間 四間　上畠　壱畝廿三歩（ママ）四歩入　又一郎
五間半 壱間　上畠　ちや原七歩　小七郎
四間 弐間　上畠　八歩　小一郎
弐間 五間　上田　拾歩　同人
九間 拾三間　上畠　三畝廿七歩　兵左衛門
八間 六間　上畠　壱畝廿六歩　八歩入　三郎介
五間 拾五間　中畠　弐畝十五歩　与三次
八間半 廿六間　中畠　八畝三歩　廿弐歩入　喜九郎
拾五間 五間　中畠　弐畝十五歩　喜兵衛
三間半 拾間　中畠　壱畝五歩　小一郎
六間半 拾壱間　中畠　弐畝十一歩　与三次
三間 五間　下畠　十五歩　小介
七間 弐間　下畠　十四歩　与三次
五間 八間　中畠　壱畝十歩　小一郎
六間 四間　下畠　廿四歩　助作
八間 八間　中畠　弐畝四歩　又介
拾壱間 四間　中畠　壱畝十四歩　三郎介
壱間 壱間　上田　十歩　同人

廿七間半　上田　五畝十五歩　喜兵衛
廿拾弐間　上田　四畝廿四歩　助　作
廿拾弐間　上田　壱反九畝六歩　彌八郎
廿拾六間　上田　壱反七畝二歩　同　人
廿拾六間　上田　壱畝廿四歩　同　人
九間　上田　五畝三歩　與三次
廿四間　上畠　壱反三畝十八歩　彌八郎
廿拾七間　中田　拾歩　小七郎
弐間　中田　廿一歩　庄三郎
五間　下田　三畝六歩　小一郎
七間　下田　弐畝六歩　新　介
三間　中田　廿一歩　庄三郎
拾弐間　下田　三畝六歩　小一郎
八間　下田　弐畝六歩　新　介
九間半　下田　四畝歩　小七郎
七間　下田　壱畝八歩　助　三
四間半　下田　廿六歩　又一郎
八間半　下田　廿四歩　與一郎
六間半　下田　壱畝廿二歩　彌八郎
四間半　下田　壱畝八歩　助　三
六間半　下田　廿六歩　又一郎
四間　下田　廿四歩　與一郎
拾弐間　下田　壱畝廿二歩　彌八郎
八間半　下田　壱畝八歩　助　三
六間半　下田　廿六歩　又一郎
四間　下田　廿四歩　與一郎
拾弐間　下田　壱畝廿二歩　彌八郎
七間　中畠　壱畝廿六歩　助　作
八間　下畠　壱畝廿五歩　助　作

四間半　下畠　壱畝廿四歩　新　介
拾弐間　下田　弐畝廿四歩　與八郎
於弐間　中田　壱畝十五歩　こなへ
七間　上畠　五畝廿二歩　同　人
拾五間　上畠　六畝十五歩　與八郎
三間　中畠　拾壱歩　こなへ
拾五間半　上畠　すきなはた　壱畝二歩　又一郎
拾壱間半　上田　壱反三畝三歩　喜左衛門
拾七間半　上田　三畝十三歩　又一郎
廿二間半　上田　壱畝十八歩　又一郎
拾六間　上畠　壱反三畝三歩　宗一郎
弐間　上田　廿五歩　九歩入　同　人
拾壱間　中畠　四畝歩　同　人
拾壱間半　上畠　六畝十五歩　與八郎
拾七間半　中畠　拾壱歩　こなへ
拾壱間半　上畠　壱畝二歩　又一郎
拾六間　上畠

五間　上田　五歩　喜五郎
壱間
拾間　中田　壱畝廿歩　與右衛門
五間
弐間　中田　拾歩　喜五郎
廿弐間　神明南
五間　中畠　弐畝歩　與三郎
拾四間　中田　壱畝十二歩　彌三郎
三間

右寄

上田四町八反四畝三歩
中田壱町七反五畝廿歩
下田五反四畝拾四歩　当不作
　此内三畝三歩　年々不作
　廿七歩
上畠四町六反弐畝三歩
中畠壱町四反五畝七歩
　此内壱畝廿六歩　当不作
下畠五反五畝四歩　当不作
　此内壱畝歩　年々不作
　五畝三歩
田畠合拾三町七反六畝廿壱歩

　此外
田弐畝四歩　永不作
畠弐畝十二歩　永不作
　以上

己酉八月十七日　豊嶋三十郎

墨付三拾弐枚上カミ共ニ

田邊藤七郎
小林長兵衛

（表紙）
「慶長拾四年己酉
徳永法印知行
濃州多藝郡押越村御縄打水帳
八月十八日　豊嶋三十郎
　兵左衛門尉
案内者　三郎介
　喜平次」

七冊之内

拾弐間　上畠　鳥居戸　七郎右衛門
九間　三畝十八歩
拾七間　上畠　壱反六歩　喜左衛門尉
拾八間
拾弐間　上畠　四畝六歩　七郎右衛門
拾間半
五間　上畠　拾五歩　孫介
三間
拾四間　上畠　弐畝十歩　彌八郎
五間
拾四間　上畠　壱反四畝歩　喜左衛門
五間
六間　上畠　壱畝六歩　小一郎
六間

八間　四間　上畠　壱畝二歩　助　作
拾四間　弐間　上畠　弐拾八歩　又　介
六間半　三間半　上畠　廿一歩　彌八郎　與一郎
拾六間　五間　上畠　弐畝廿歩
六間　三間　上畠　拾八歩　三　藏　喜兵衛
六間　弐間　上畠　拾弐歩
八間　九間　上畠　弐畝十二歩　二郎三　彌一郎
廿間　七間　上畠　四畝廿歩
六間　弐間　上畠　拾弐歩　又　介
三間半　拾八間半　上畠　弐畝三歩　孫九郎
四間　弐間　中畠　八歩　小七郎
八間　拾間　上畠　弐畝廿歩　又　介
四間　弐間　上畠　八歩　小一郎
拾五間　八間　上畠　四畝歩　又　介
拾弐間　上畠　六畝歩　助　作
八間　七間　上畠　壱畝廿六歩　六左衛門
弐間半　廿壱間半　上田　壱畝廿二歩　同　人
拾三間　六間　上畠　弐畝十八歩　喜左衛門

弐拾壱間　拾壱間　上畠　七畝廿一歩　彌八郎
廿壱間半　六間半　上田　四畝十六歩　喜左衛門
七間　拾三間　上田　三畝一歩　同　人
弐拾間半　半間　中田　拾歩　彌八郎
拾弐間　廿間　上田　八畝歩　助　作
七間　四間　上田　廿八歩　彌八郎
拾間　半間　上田　五歩　與一郎
拾七間　拾壱間　上畠　六畝七歩　彌八郎
四間半　拾弐間　上畠　壱畝廿四歩　六　藏
拾間　九間　上畠　三畝歩　喜兵衛
四間半　拾弐間　上田　壱畝廿四歩　こなへ
拾間半　拾五間　上畠　五畝七歩　孫　介
拾三間　廿壱間　上田　九畝三歩　與八郎
拾三間　弐間　上畠　廿六歩　喜九郎
八間　拾弐間　上畠　三畝六歩　彌三郎
六間半　弐拾弐間　上畠　四畝廿三歩　助　作
四間　弐間　上畠　八歩　喜八郎
四間　三間　上畠　十二歩　又　介

拾八間　上畠　七畝六歩　喜十郎
拾九間弐間　上田　壱畝八歩　彌三郎
七間三間　上畠　廿一歩　與三次
四間弐間　上畠　八歩　又一郎
三間三間　上畠　九歩　助作
拾五間　上田　弐畝十八歩　三歩入　彌三郎
九間拾壱間　上畠　三畝九歩　七郎右衛門
廿間弐間　中田　壱畝十歩　喜十郎
九間九間　中畠　弐畝廿一歩　與太郎
拾弐間三間半　上田　壱畝十二歩　喜九郎
拾九間拾九間　上田　壱反弐畝一歩　同人
五間八間　中畠　壱畝十歩　同人
九間五間　上田　壱畝十五歩　同人
拾七間半廿四間　上田　壱反四畝歩　助作
拾間五間　上田　壱畝廿歩　喜八郎
四拾弐間八間　中畠　壱反壱畝六歩　兵左衛門
卅九間拾間　上田　壱反三畝歩　喜兵衛
拾三間五間　中畠　弐畝五歩　喜兵衛

廿壱間四間　中田　弐畝廿四歩　與八郎
四間三間　中田　拾弐歩　喜兵衛
廿壱間三間　中畠　弐畝三歩　同人
七間廿五間　上畠　五畝廿五歩　兵左衛門
廿四間四間　上畠　三畝六歩　同人
弐拾四間拾三間半　上畠　壱反廿四歩　八左衛門
拾間八間　上畠　弐畝廿歩　千代若
三間半拾間　上畠　壱畝五歩　又三
拾間四間半　上畠　壱畝十五歩　與太郎
六間弐間半　下畠　十五歩　又一郎
七間五間　中畠　壱畝五歩　小一郎
六間壱間　下畠　六歩　新介
拾六間弐間　中畠　壱畝二歩　喜介
七間拾壱間　上畠　弐畝十七歩　八左衛門
廿六間廿間　上田　壱反七畝十歩　同人
拾弐間五間　上田　弐畝十歩　同人
拾三間四間　中畠　壱畝廿二歩　助作

| | | |

拾八間四間	中畠	弐畝十二歩	喜　介
拾四間四間	下田	壱畝廿六歩	六左衛門
拾三間六間	中田	弐畝十八歩	喜　介
四間弐間	下畠	八歩	同　人
七間壱間	中田	七歩	兵左衛門
廿五間廿間半	中田	村之南 壱反七畝二歩	助太夫
廿四間拾壱間半	中田	九畝六歩	宗右衛門
拾八間四間	中田	弐畝十二歩	同　人
六間三間	中田	拾八歩	助太夫
九間三間	下田	廿七歩	與　市
四拾四間拾四間半	中田	弐反壱畝八歩	二郎左衛門
八間三間	上畠	廿四歩	又　三
卅間拾間	中田	壱反歩	同　人
卅壱間拾弐間	中田	壱反弐畝十二歩	彌八郎
拾三間八間	中田	三畝十四歩	西光坊
拾弐間六間	下田	弐畝十二歩	三郎介
七間六間	中田	壱畝十二歩	彌七郎
拾間六間	中田	弐畝歩	助太夫

拾八間四間	中田	七畝廿四歩	小三郎
廿四間七間半	下田	六畝歩	彌八郎
八間九間	下田	弐畝十二歩	同　人
廿間半廿五間	中田	八畝廿二歩	喜八郎
拾間五間半	中田	壱畝廿五歩	新　介
弐拾間拾六間	下田	壱反廿歩	新　八
五拾壱間拾壱間	中田	壱反八畝廿一歩	喜一郎
廿二間拾三間半	中田	九畝廿七歩	七郎右衛門
廿九間拾三間	中田	壱反弐畝十七歩	六　藏
弐拾六間八間	中田	六畝廿八歩	彌八郎
卅間八間半	中田	八畝十五歩	助　作
廿四間六間半	中田	五畝六歩	小一郎
廿四間四間	下田	三畝六歩	二郎左衛門
廿四間拾壱間	中田	八畝廿四歩	六　藏
拾八間拾弐間	下田	七畝六歩	彌八郎
廿壱間拾三間	中田	九畝三歩	助太夫
拾六間五間	下田	弐畝廿歩	彌八郎
拾壱間八間	中田	弐畝廿八歩	助太夫

| | | |

七間　四間　下畠　廿八歩　又一郎
三間　三間　下畠　十二歩　六左衛門
四間　五間　下畠　廿歩　喜兵衛
三間半　四間　中田　十四歩　與三次
四間　三間　中田　十二歩　新介
廿二間　壱間　下畠　廿弐歩　與一郎
四八間　四間　中田　壱畝二歩　又一郎
四三間　三間　中田　十二歩　喜十郎
三四間　三間　下畠　十二歩　喜左衛門
六間　六間　下畠　壱畝六歩　喜十郎
拾六間　四間　下畠　弐畝四歩　與一郎
弐間　五間　下畠　十歩　喜兵衛
弐間　四間　下畠　八歩　助三
四間　弐間　下畠　八歩　千松
拾間　壱間　下畠　十歩　五郎右衛門
拾七間　壱間　下田　十七歩　與三次
廿四間半　四間　下畠　三畝十八歩　與二郎
六間　壱間　下畠　六歩　與右衛門

六間　弐間　下畠　十二歩　又一郎
五間　六間　下畠　壱畝歩　彌八郎
拾弐間　壱間　下田　拾弐歩　小一郎　当不作
六間　三間　下畠　拾八歩　同人
拾壱間　弐間　下畠　廿二歩　與二郎
廿六間　八間　下田　六畝廿八歩　與二郎
五間　三間　下畠　十五歩　與右衛門
四間　六間　下畠　廿四歩　三九郎
九間　三間　下田　廿七歩　彌八郎　当不作　新介
三間　三間　下畠　九歩　六左衛門
拾八間　四間　下田　弐畝十二歩　與二郎
拾六間　六間　下田　三畝六歩　六左衛門
廿二間　六間　下田　四畝十二歩　同人
六間　卅二間　中田　六畝十二歩　彌三郎
拾四間　拾五間　上畠　七畝歩　喜兵衛
拾三間　廿間　下田　八畝廿歩　三郎介
拾六間　六間　下田　三畝六歩
拾五間　三間　下田　壱畝十五歩

| | | |

廿八間　拾八間　下田　壱反六畝廿四歩　同　人
拾間　廿老間　下畠　六畝廿歩　年々不作物　中作　与　市
廿間　九間半　中畠　四畝十三歩　藤七
拾間　卅間　中田　壱反歩　石はたノ　喜四郎
拾弐間　下畠　弐畝廿四歩　与　市
拾間　拾弐間　下畠　四畝歩　孫九郎
拾三間　拾三間　下田　五畝十九歩　兵左衛門
拾七間　三間半　中田　弐畝廿八歩　同　人
八間　拾老間　中田　壱畝廿九歩　同　人
拾弐間　七間　下畠　弐畝廿四歩　石ノまん　兵左衛門
拾六間　弐間　中田　壱畝二歩　同　人
拾八間　九間　中畠　五畝十二歩　同　人
拾間　拾老間　中畠　こまき　四畝六歩　十六歩入　石ノまん　同　人
九間半　九間半　中畠　弐畝廿五歩　孫九郎
拾四間　弐間　下田　壱畝十二歩　十四歩入　同　人
拾間　三間半　中畠　壱畝五歩　同　人
拾八間　老間半　下田　廿七歩　同　人
拾四間　廿間　中畠　九畝十歩　同　人
廿間　老間半　下田　壱畝歩　同　人

拾壱間　拾弐間　下畠　四畝十二歩　同　人
拾五間　廿九間　中畠　壱反四畝十五歩　源十郎
五間　六間　下田　壱畝歩　二郎三
三間　五間　中畠　十五歩　三蔵
七間　六間　下田　壱畝十二歩　甚右衛門
六間　八間　中畠　壱畝十八歩　助三
六間　拾壱間　下畠　弐畝六歩　喜三　当不作
拾五間　五間　下田　弐畝十五歩　藤七郎　な代へ
廿九間　九間半　中畠　九畝五歩　又五郎
九間　四拾間　下田　壱反弐畝歩　三郎介
拾四間　八間半　下田　三畝廿九歩　同　人
七間　拾壱間　下田　弐畝十七歩　孫七郎
拾五間　壱間半　下田　廿二歩　同　人
六間　六間　中畠　壱畝六歩　与　市
拾間　廿三間　下田　七畝廿歩　助太夫
廿間　拾弐間　中田　八畝歩　七郎右衛門
八間　七間半　中田　弐畝歩　同　人
拾八間　拾壱間半　中田　六畝廿七歩　与　市

廿三間　廿間　下田　壱反五畝十歩　兵左衛門
廿八間　拾弐間　下田　壱反壱畝六歩　彌　藏
廿老間　拾間　下田　七畝歩　三　郎　介
拾間　拾五間半　下田　五畝五歩　新　八
廿二間　廿二間　下田　壱反四畝廿四歩　三　郎　介
拾間　弐間　下田　廿歩　源　十　郎
拾四間　拾間　中畠　四畝廿歩　同　人
拾老間　三間　中田　壱畝三歩　與　介
九間　弐間　下田　拾八歩　源　十　郎
拾四間　拾間　下田　四畝廿歩　與　一　郎
拾三間　八間　上畠　三畝十四歩　兵左衛門
廿六間　九間半　上畠　八畝七歩　喜　七　郎
八間　卅二間　中畠　八畝十六歩　又　介
拾弐間　拾八間　中畠　七畝六歩　新　介
六間半　拾弐間　上畠　弐畝十八歩　與　市
七間半　卅壱間半　上畠　七畝廿五歩　坊　主
七間　三間　中田　廿一歩　彌　藏
拾五間半　廿四間　上畠　壱反弐畝十二歩　同　人

拾八間半　九間　上畠　五畠十六歩　新　介
拾弐間　拾間　上畠　四畝歩　喜七郎
六間　廿間　中畠　四畝歩　與　市

右寄

上田弐町六反八畝拾六歩
中田弐町四反七畝廿歩
下田弐町五反弐拾八歩
　此内四拾六歩　当不作
　弐反壱畝四歩　年々不作
上畠弐町七反壱畝廿五歩
中畠壱町三反三畝壱歩
下畠八反六畝拾九歩
　此内弐畝五歩　当不作
　壱畝十歩　年々不作
田畠合拾弐町五反八畝拾九歩

己酉八月十八日

豐嶋三十郎
田邊藤七郎
小林長兵衛

墨付三拾四枚上カミ共ニ

（表紙）
「慶長拾四年己酉
徳永法印知行
濃州多藝郡押越村御縄打水帳
八月十九日　豊嶋三十郎
兵左衛門
案内者　三郎介
喜平次」

七冊之内

四拾間	中田	下寺 弐反四畝歩	兵左衛門	三
拾八間				
八間半	中田	六畝七歩	同　人	孫九郎
廿弐間				
拾間	中田	弐畝五歩	西光坊	西光坊
六間半				
四拾七間	中田	壱反五畝拾四歩	彌三郎	又　三
九間半				
四間	中田	廿歩	西光坊	與三次
五間				
五拾壱間	中田	壱反七畝歩	小七郎	同　人
拾間				
四拾五間	中田	三反四畝拾五歩	兵左衛門	喜平次
弐拾三間				
四拾三間	中田	壱反三畝拾八歩（ママ）	與　市	兵左衛門
九間				
八間半	中田	壱反弐畝五歩	五　郎	同　人
四拾三間				
四拾五間	中田	壱反七畝七歩	與二郎	喜十郎
拾壱間半				
七間	中田	壱反廿弐歩	彦三郎	兵左衛門
四拾六間				
四拾五間半	中田	弐反三畝廿三歩	孫　三	同　人

八間	中田	壱反七畝弐歩	喜　三	
六拾四間				
弐拾間	中田	五畝廿歩	孫九郎	
八間半				
拾間半	中田	弐畝廿九歩（ママ）	西光坊	
九間半				
廿三間	上田	弐畝六歩（ママ）	同　人	
三間				
廿弐間	上田	弐畝拾七歩	與三次	
三間半				
拾弐間	上田	弐畝廿四歩	喜　三	
七間				
九間	上田	弐反壱畝拾八歩	同　人	
七拾弐間				
九間	上田	弐反壱畝拾八歩	孫九郎	
七拾弐間				
七間半	上田	壱反七畝歩	又　三	
六拾八間				
七間半	上田	壱反七畝歩	與三次	
六拾八間				
六間	上田	三反五畝四歩	西光坊	
拾弐間				
八間	上田	壱反三畝十歩	兵左衛門	
五拾間				
弐拾弐間	上田	三畝廿歩	喜平次	
五間				
卅四間	上田	弐反九畝拾四歩	兵左衛門	
廿六間				
拾間	上田	壱畝拾歩	同　人	
四間				
七間	上田	五畝拾壱歩	喜十郎	
弐拾三間				
三拾六間	上田	五反六畝拾弐歩	兵左衛門	
四拾七間				
拾六間	上田	壱反廿歩	同　人	
弐拾間				

| | | |

廿間 拾壱間半	上田	七畝廿歩	小七郎
拾壱間半 弐間	上田	弐畝廿八歩（ママ）	六藏
六間 六間半	上田	壱畝九歩	與三次
六間半 拾間	上田	弐畝五歩	孫九郎
廿二間 拾五間半	上田	壱反壱畝拾壱歩	孫九郎
拾五間 拾九間	上田	九畝拾五歩	孫九郎
廿三間 卅間	上田	弐反三畝歩	小一郎
拾五間 八間	中田	四畝歩	三四郎
三拾間 六間	上田	六畝歩	孫介
六間 三拾間	上田	六畝歩	六藏
拾間 四間	上田	壱畝拾歩	孫助
七間 拾弐間	中田	弐畝廿四歩	孫九郎
弐拾間 拾五間	上田	壱反歩	彌八郎
廿六間 拾五間	上田	壱反三畝歩	喜十郎
弐拾三間 八間	中田	六畝四歩	與三次
弐拾六間 七間	上田	六畝弐歩	新介
拾六間 七間半	上田	四畝歩	同人
拾間 三拾壱間	上田	壱反拾歩	孫九郎

三拾八間 拾六間	下田	弐反八歩	兵左衛門
拾三間 弐拾間	中畠	八畝廿歩	同人
拾間 拾壱間	下田	三畝廿歩	同人
三拾八間 廿八間	上田	三反五畝拾四歩	西光坊
三拾六間 拾三間	中田	壱反五畝拾八歩	ちよワカ
三拾三間 拾壱間半	中田	壱反弐畝拾九歩	喜左衛門
九間 弐間	井河田	拾八歩	永不作 主無
拾四間 九間	下田	九畝拾三歩	彌八郎
廿七間 拾間半	下田	四畝六歩	與三次
五間半 弐間半	下田	拾三歩	喜左衛門
三拾四間 拾間半	中田	壱反壱畝廿七歩	喜四郎
六間 拾間	中田	弐畝歩	同人
拾壱間 三間	下田	壱畝三歩	與三次
廿三間 拾九間	中田	壱反四畝拾七歩	七郎右衛門
五間 拾間	下田	壱畝廿歩	喜兵衛
四拾間 九間	中田	壱反弐畝歩	與三次
拾壱間 八間	中田	弐畝廿八歩	與三次
八間 弐間	中田	拾六歩	喜九郎

拾八間弐拾間	中田	壱反弐畝歩	喜兵衛
拾四間八間	下田	三畝廿弐歩	新　介
八間三拾四間	下田	九畝弐歩	孫九郎
拾壱間半弐拾五間	中田	九畝拾七歩	喜三郎
拾八間壱間半	中田	廿七歩	同　人
四間弐間	下田	八歩	喜兵衛
弐拾間弐拾九間半	中田	壱反九畝廿歩	喜平次
拾四間六間半	中田	三畝壱歩	新　介
拾五間三拾九間	中田	壱反九畝十五歩	同　人
八間六間	中田	壱畝拾八歩	彌八郎
三拾四間弐拾四間	中田	弐反七畝六歩	五　郎
七間三拾壱間	中田	七畝七歩	與三次
七間九間	中田	弐畝三歩	同　人
九間弐拾弐間	中田	六畝拾八歩	喜三郎
三拾壱間半廿壱間	中田	弐反弐畝壱歩	孫右衛門
弐拾壱間六間	中田	四畝六歩	喜兵衛
卅五間拾四間	中田	壱反六畝歩（ママ）	同　人
拾弐間拾八間	中田	七畝六歩	新　介

拾五間四間	中田	弐畝歩	喜兵衛
拾四間四間	中畠	六畝十六歩	新　介
拾間拾七間	中田	五畝廿歩	孫九郎
拾間五間	中田	壱畝廿歩	喜三郎
拾四間拾七間	上田	七畝廿八歩	同　人
三拾弐間弐拾八間	上田	弐反九畝廿六歩	喜兵衛
三拾弐間弐拾四間	上田	弐反五畝拾八歩	喜平次
三拾弐間弐拾四間	中田	弐反五畝拾八歩	新　介
拾四間半八間	中田	三畝廿六歩	同　人
弐拾七間九間	上田	八畝三歩	彌八郎
弐拾六間八間	上田	六畝廿八歩	五　郎
弐拾三間	上田	七畝廿歩	與三次
拾壱間四拾弐間	中田	壱反五畝拾弐歩	孫　介
四拾弐間八間半	中田	壱反壱畝廿七歩	又　介
弐拾六間三拾六間	中田	三反壱畝六歩	兵左衛門
拾間拾七間	下畠	五畝廿歩	同　人
拾八間弐拾九間	上田	壱反七畝拾弐歩	同　人
拾弐間八間	下畠	三畝六歩	八左衛門

弐拾老間 拾間	上田	七畝歩	同　人	五間 一間	下畠
拾五間 七間	上畠	三畝拾五歩	二郎左衛門	七間 壱間	五歩
拾八間 廿弐間	上田	壱反三畝六歩	八左衛門	弐拾七間 四間半	下畠
五拾八間 弐間	上田	三畝廿六歩	二郎左衛門	拾四間 四間半	七歩
廿弐間 八間半	上田	六畝七歩	こなへ	拾七間 八間半	上田
弐拾弐間 拾三間	上田	九畝拾九歩	喜一郎	拾八間 三間半	四畝壱歩
拾六間 拾壱間	中畠	五畝廿六歩	兵左衛門	六間 廿四間	上田
拾七間 弐拾六間	上田	壱反四畝廿弐歩	喜左衛門	弐拾四間 五間	弐畝廿歩
拾八間 弐拾八間	上田	壱反六畝廿四歩	喜十郎	廿五間半 拾四間	上田
六間 拾七間	上田	三畝拾弐歩	小なへ	弐拾七間 拾三間	上田
拾五間 拾五間	中田	七畝拾五歩	八左衛門	拾八間 拾間	中田
弐拾壱間 弐拾三間半	上田	九畝拾二歩	與八郎	八間 弐間	下田
弐拾間 拾九間	中田	壱反弐畝廿歩	八左衛門	六間 三拾六間	上田
四拾間 弐間	下田	弐反廿歩	兵左衛門	三拾六間 四間	中田
弐拾九間 拾壱間	下田	壱反拾九歩	同　人	弐拾間 六間	中畠
弐拾壱間 六間	上田	四畝六歩	宗一郎	拾壱間 七間	中田
弐間半 五間	上田	拾弐歩	與　介	八間 六間	中田
五間 五間	上田	廿五歩	與八郎	弐拾六間 弐間	中田

宗一郎	上畠	弐畝拾歩	同　人	弐拾壱間 弐間	上田
小右衛門	上畠	弐畝拾歩	二郎三	弐拾壱間 弐間	上田
與太郎	上畠	弐畝拾歩	喜左衛門	弐拾壱間 弐間	上田
西光坊	上畠	弐畝拾歩	同　人	弐拾壱間 弐間	上田
西光坊	上畠	弐畝拾歩	喜左衛門	弐拾壱間 弐間	上田
同　人	上畠	弐畝拾歩	同　人	弐拾壱間 弐間	上田
同　人	上畠	弐畝拾歩	喜左衛門	弐拾壱間 弐間	上田
喜左衛門	上畠	弐畝拾歩	同　人	弐拾壱間 弐間	上田
同　人	上畠	弐畝拾歩	孫九郎	弐拾壱間 弐間	上田
同　人	上畠	弐畝拾歩	同　人	弐拾壱間 弐間	上田

弐拾三間　上畠　壱畝十六歩　同　人
卅間　四間　中田　四畝十歩　十歩入　小なへ
廿八間　四間　中畠　三畝廿弐歩　同　人
壱間半　拾間　中田　拾五歩　六　藏
六間　九間　中畠　壱畝廿四歩　喜　九　郎
拾六間半　弐間半　中田　壱畝十壱歩　喜　九　郎
拾四間半　三間半　中田　壱畝十九歩　七郎右衛門
拾四間　弐間　下畠　廿八歩　同　人
拾四間半　三間半　中畠　壱畝廿歩　七郎右衛門
拾間　弐間　下畠　廿歩　喜　九　郎
五間　三間　下畠　拾五歩　又　一　郎
八間　弐間　下田　拾六歩　同　人
八間半　四間　下畠　壱畝四歩　七郎右衛門
八間　下田　弐畝四歩　喜　兵　衛
拾弐間　五間　中田　弐畝歩　七郎右衛門
拾八間　拾六間　中田　九畝十八歩　助　太　夫
拾八間　弐拾五間　上田　壱反五畝十五歩　十五歩入　少右衛門
拾弐間半　中田　五畝歩　助　太　夫

廿九間半　拾三間半　上田　壱反三畝一歩　少右衛門
弐拾弐間　七間半　中畠　五畝十五歩　孫　兵　衛
廿四間　弐間　下田　弐畝八歩　廿歩入　兵左衛門
弐拾八間　九間半　上田　八畝廿六歩　與　八　郎
四間　弐拾八間　上田　三畝廿弐歩　彌　三　郎
拾壱間半　廿八間　上田　壱反廿弐歩　喜左衛門
廿六間　廿間　上田　壱反七畝十歩　兵左衛門
廿四間　十三間　上田　壱反廿四歩　十二歩入　喜　七　郎
拾弐間　九間　上田　三畝拾八歩　喜　七　郎
弐拾弐間　廿弐間　上田　八畝廿四歩　與　一　郎
六間　八間　中田　壱畝十八歩　兵左衛門
廿三間　拾三間　上田　九畝廿九歩　喜左衛門
拾間　四間　下畠　壱畝十歩　同　人
拾五間　拾間　上田　五畝　喜　平　次
拾六間半　七間半　上田　四畝三歩　喜左衛門
拾間　拾八間　上田　六畝歩　彌　三　郎

右寄

上田八町五反三畝廿歩
中田七町四反壱畝三歩

下田九反弐畝五歩
上畠九畝廿五歩
中畠三反三畝拾四歩
下畠壱反弐畝拾五歩
田畠合拾七町四反弐畝廿弐歩
右ノ外
田拾八歩　永不作

己酉八月十九日　豊嶋三十郎
田邊藤七郎

墨付廿三枚上紙共ニ

（表紙）
「慶長拾四年己酉
徳永法印知行濃州多藝郡押越村御縄打水帳
八月廿日　豊嶋三十郎
庄屋
兵左衛門
案内者　三郎介
彌八郎」

七冊内
井河
廿八間　中田　壱反四歩　與三次
廿壱間　中田　弐畝三歩　同人
三間

廿三間七間半	中田	五畝廿弐歩	喜九郎
八間六間	中田	壱畝拾八歩	同人
五間弐間半	中田	拾弐歩	小七郎
拾壱間九間	中田	三畝九歩	喜兵衛
四間三間	中田	十弐歩	六藏
八間弐間	上畠	十六歩	小七郎
弐拾六間六間	中田	五畝六歩	喜兵衛
六間四間	中田	井河 廿四歩 壱畝廿弐歩	同人
拾五間三間半	中田		六藏
五間半十六間	中田	弐畝廿八歩	小七郎
七間弐間	中田	拾四歩	喜兵衛
弐拾六間卅間	下田	弐反六畝歩	兵左衛門
三拾四間弐拾間	下田	弐反弐畝廿歩	八左衛門
五間壱間	中田	五歩	又一郎
五間四間	中田	廿歩	與介
八間弐間	中田	十六歩	又介
三拾壱間拾壱間	中田	壱反壱畝拾壱歩	八左衛門
七間拾間	中田	弐畝拾歩	二郎三

| | | |

弐拾壱間	下田	七畝拾歩	喜八郎
四間	下田	廿四歩	喜兵衛
拾間	下田	壱畝拾歩	喜八郎
弐拾壱間	下田	古宿 七畝七歩	二郎三
五間	下田	壱畝廿五歩	孫九郎
拾壱間	下田	五畝廿六歩	西光坊
八間	下田	壱畝拾歩	同人
弐拾間	上田	弐畝廿歩	同人
拾八間	中田	八畝拾弐歩	同人
弐拾間	上田	弐畝廿歩	同人
四間	上畠	弐畝四歩	同人
弐拾間半	上田	壱畝廿八歩 八歩入	同人
三間	上田	壱畝廿壱歩	兵左衛門
六間半	上畠	参畝拾四歩	同人
六間	中田	弐畝拾弐歩	喜兵衛
弐拾間	上田	古宿 四畝歩	與三次
弐拾四間 壱間半	上田	壱畝六歩	同人
五間	上畠	弐畝拾五歩	喜十郎
廿壱間	上田	壱畝拾弐歩	與三次

拾四間 拾壱間	下田	五畝四歩	又一郎
拾六間 三間半	上田	壱畝廿六歩	與三次
弐拾弐間 三間半	上畠	弐畝拾七歩	喜十郎
弐拾七間 五間半	上田	四畝廿八歩	與三次
弐拾七間 弐拾三間	上田	壱反壱畝廿壱歩（ママ）	喜十郎
拾八間 五間半	上田	三畝九歩	同人
拾壱間 拾壱間	上田 古宿	四畝壱歩	與三次
弐拾壱間 弐拾壱間	上田	八畝拾弐歩	喜兵衛
弐拾壱間 拾四間	上田	九畝廿四歩	同人
弐拾弐間 拾五間	上田	六畝歩（ママ）	又三
拾間 弐拾弐間	上田	七畝拾歩	同人
廿四間半 拾八間半	上田	壱反四畝廿四歩	喜九郎
拾四間 拾四間	上田	六畝拾六歩	同人
拾四間 八間	上田	三畝廿弐歩	兵左衛門
拾五間 弐拾弐間	上田	壱反壱畝歩	同人
三拾四間 廿五間	上田	弐反八畝廿歩 拾歩入	同人
廿間 四間	上田	弐畝廿歩	兵左衛門
拾間 弐拾六間半	上田	八畝廿五歩	喜平次

| | | |

拾三間弐拾間	中田	八畝廿歩	同　人	
拾間拾九間	中田	六畝拾歩	藤左衛門	
六間三間	下畠	拾八歩	藤左衛門	
拾間三拾五間	中田	壱反壱畝廿歩	彌七郎	
六間弐拾壱間	中畠	四畝六歩	伊右衛門	
拾六間拾八間	中田	九畝拾八歩	同　人	
八間半五間	中田	壱畝拾弐歩	同　人	
八間半四拾三間	上田	壱反弐畝五歩	又　藏	
拾四間四拾間	中田	壱反八畝廿歩	彌八郎	
弐拾壱間拾四間	上田	九畝廿四歩	五　郎	
弐拾三間拾弐間半	上田	九畝十七歩	彌　藏	
弐拾四間拾五間半	上田	壱反弐畝拾弐歩	彌七郎	
拾四間半拾八間	上田	八畝廿壱歩	助太夫	
拾三間七間	中田	三畝壱歩	同　人	
拾五間六間	中田	三畝歩	彌七郎	
拾八間半拾三間半	中田	八畝三歩	同　人	
拾六間拾間	中田	五畝拾歩	同　人	
三拾壱間拾弐間	中田	壱反弐畝拾弐歩	與三次	

三拾四間拾間	上田	壱反壱畝十歩	西光坊	
拾八間半拾四間	中田	八畝拾九歩	二郎左衛門	
拾八間八間	中田	四畝廿四歩	喜　一	
弐拾間拾六間	中田	壱反廿歩	三郎助	
弐拾弐間弐拾弐間	中田	壱反五畝拾歩（ママ）	喜平次	
拾四間九間	中田	四畝六歩	同　人	
拾四間六間	中田	弐畝廿四歩	同　人	
弐拾弐間拾七間	下田	壱反弐畝拾四歩	同　人	
拾五間九間	中田	四畝拾五歩	喜　助	
三間四間	下畠	拾弐歩	喜　三	
三拾間拾三間	中田	壱反三畝歩	兵左衛門	
弐拾壱間八間	中田	五反廿弐歩	喜　六	
三拾弐間拾七間	中田	壱反八畝廿歩	西光坊	
七間半拾弐間	中田	三畝歩	喜兵衛	
拾八間半四拾五間	上田	弐反七畝廿二歩	助　作	
拾八間五間	中畠	三畝歩	彌八郎	
拾六間拾七間	中田	九畝弐歩	助　作	
三拾四間弐間	上田	弐畝八歩	孫右衛門	

三拾六間四間半　上田　五畝拾弐歩　同　人
八間拾三間半　上田　三畝十八歩　彌　藏
拾六間六間　中田　三畝六歩　又　一　郎
拾老間五間　中田　壱畝廿五歩　與　三　次
拾六間七間　中田　三畝廿二歩　喜　九　郎
拾間七間　中田　弐畝十歩　與　三　次
拾八間九間半　中田　五畝廿一歩　彌　藏
拾二間六間半　中田　弐畝十八歩　喜　平　次
拾六間三間半　上田　壱畝廿六歩　助　作
拾三間半七間半　上田　三畝十歩　同　人
卅二間九間半　上田　壱反四歩　七郎右衛門
拾六間九間　上畠　四畝廿四歩　藤左衛門
拾間拾老間　上田　三畝廿歩　七郎右衛門
拾六間八間　上畠　四畝八歩　三　郎　介
拾三間半九間半　上畠　四畝七歩（ママ）　與　太　郎
九間半拾老間　中田　三畝十四歩　彌　藏
拾七間五間　上畠　弐畝廿五歩　二郎右衛門
拾弐間弐間　上田　廿四歩　與　三　次

八間拾弐間半　中田　三畝十歩　同　人
拾七間半拾間半　中田　六畝三歩　與　一　郎
拾老間九間　上畠　三畝九歩　彌　八　郎
四間半八間　壱畠　壱畝六歩　助　太　夫
八間弐間　上畠　十六歩　彌　八　郎
七間拾老間　下田　弐畝十七歩　與　八　郎
拾老間八間　上畠　弐畝廿八歩　七郎右衛門
廿二間弐間半　中田　壱畝廿五歩　與　三　次
拾老間七間　中田　弐畝十七歩　孫　兵　衛
拾間四間　上畠　壱畝十歩　助　太　夫
拾弐間廿三間　中田　弐拾四歩　與　三　次
拾八間下田　壱反三畝廿四歩　孫　兵　衛
拾老間拾間　下田　三畝廿歩　同　人
拾七間五間　下田　弐畝廿五歩　孫　兵　衛
廿間拾間　下田　六畝廿歩　三　郎　介
七間拾三間　中田　三畝一歩　宗　一　郎
廿間五間　中田　三畝十歩　三　郎　介
卅間拾弐間　中田　壱反弐畝十八歩　十八歩入　又　藏

廿間　三間　中田　弐畝歩　三郎介
拾八間　三間　中田　壱畝廿四歩　同人
五間　拾弐間　中田　弐畝歩　彌八郎
七間　七間　上畠　壱畝十九歩　助太夫
八間　九間　中田　弐畝十二歩　宗一郎
八間　九間　上畠　弐畝十二歩　二郎右衛門
四間　四間　中畠　拾六歩　宗一郎
九間　三間　中畠　廿七歩　喜平次
拾弐間　八間　中田　三畝六歩　宗一郎
拾間　三間　中田　壱畝　彌八郎
拾弐間　七間　中田　弐畝廿四歩　彌藏
九間半　九間　中田　六畝歩　與一郎
拾壱間半　六間　上畠　壱畝廿八歩　助太夫
廿間　弐間　上畠　弐畝九歩　與右衛門
六間　八間　中田　壱畝十歩　喜三
四間半　四拾六間　上畠　壱畝十八歩　同人
拾六間　卅壱間　上田　六畝廿七歩　同人
上田　壱反六畝十六歩　喜十郎

四拾壱間　拾間　上田　壱反三畝廿歩　喜平次
拾壱間半　六間　上田　弐畝九歩　喜十郎
廿間　四間半　上田　三畝歩　喜十郎
拾六間　七間　上畠　三畝廿二歩　二郎右衛門
拾三間　三間　上田　壱畝九歩　喜十郎
拾七間　六間　中田　三畝十二歩　七郎右衛門
弐間半　廿五間　上田　弐畝二歩　喜十郎
八間半　八間　上畠　弐畝八歩　彌藏
八間　廿間　中田　五畝十歩　又一郎
四間半　卅弐間　上田　四畝廿四歩　孫右衛門
八間　八間　上田　弐畝四歩　喜十郎
八間　廿四間半　下田　島境六畝十六歩　兵左衛門
四間　廿四間半　下田　三畝八歩　二郎左衛門

右寄

上田四町六反六畝拾壱歩
中田六町壱反拾壱歩
下田壱町四反弐畝拾六歩
上畠六反弐畝拾九歩
中畠九畝拾三歩

下畠壱畝歩
田畠合拾弐町九反弐畝拾歩
酉八月廿日　　豊嶋三十郎
　　田邊藤七郎

墨付弐拾六枚上カミ共ニ

（表紙）
「慶長拾四年己酉
徳永法印知行濃州多藝郡押越村御縄打水帳
八月廿一日　豊嶋三十郎
　庄屋
　兵左衛門尉
案内者　三郎介
　彌八郎」

七冊内

弐拾五間	下田	七畝十五歩	三郎介
九間	八中		
拾四間	下田	四畝廿歩	喜十郎
拾間			
七間	下田	六畝二歩	同人
廿六間			
三拾間	下田	壱畝歩	喜左衛門
壱間			
弐拾間	下田	九畝拾歩	彌三郎
拾四間			
弐拾三間	下畠	八畝一歩	兵左衛門
拾間半			
三拾間	下田	壱反九畝歩	彌三郎
拾九間			
弐拾間	下田	壱反壱畝六歩	喜左衛門
弐拾八間			
三拾間	下田	壱反壱畝歩	彌三郎
拾壱間			
弐拾四間	下畠	壱畝十八歩	同人
弐間			
三拾弐間	下田	壱反七畝十八歩	喜九郎
拾六間半			
弐拾四間	下田	三畝十一歩　五歩入	とら
四間			
拾三間	中田	壱反三畝歩	三郎介
卅間			
拾三間	中田	弐畝十八歩	同人
六間			
廿四間	中田	八畝廿四歩（ママ）	同人
拾壱間			
廿二間	下田	廿四歩	同人
廿七間			
拾壱間	下田	弐畝十七歩	喜平次
七間			
弐拾間	中田	八畝歩	三郎介
弐拾弐間			
拾間	中田	四畝廿歩	與一郎
拾四間			
弐拾三間	中田	六畝四歩	同人
八間		くろのしま	
廿五間	中田	壱反歩	兵左衛門
拾弐間			
拾壱間	中田	三畝廿歩	同人
拾間			
廿八間	中田	壱反壱畝廿歩	彌三郎
拾弐間半			
拾壱間	中田	壱反七畝廿九歩	與兵衛
四拾九間			

拾弐間半 拾五間 中田 六畝七歩 與八郎
拾七間 拾壱間 中田 六畝七歩 同 人
六拾弐間 七間 中田 壱反四畝十四歩 與三次
拾五間 廿五間 中田 壱反弐畝十五歩 又一郎
弐拾三間 拾壱間 中田 八畝十三歩 與 介
拾五間 廿弐間 下田 壱反壱畝歩 孫兵衛
拾五間 拾四間 下田 七畝歩 喜平次
拾四間 拾間 下田 四畝廿歩 同 人
弐拾壱間 弐拾間 下田 壱反四畝 兵左衛門
弐拾四間半 弐拾弐間半 下田 壱反歩 喜三郎
弐拾五間 弐間 下畠 壱畝廿歩 同 人
拾五間 四間 下畠 弐畝歩 喜九郎
四間半 八間 下田 壱畝六歩 兵左衛門
九間 卅弐間 下田 九畝十八歩 助太夫
八間 拾六間 下田 四畝八歩 與一郎
拾間 三間 下畠 壱畝歩 兵左衛門
拾間 四間 中畠 壱畝十歩 喜九郎
拾六間 拾四間 下田 七畝十四歩 喜左衛門

拾九間 拾四間 下田 八畝廿六歩 兵左衛門
拾七間 弐拾間 下田 壱反壱畝十歩 孫兵衛
廿四間 拾四間半 下田 壱反壱畝十八歩 二郎三
卅間 拾四間 下田 壱反四畝歩 兵左衛門
廿四間 三間 下田 廿四歩 孫 介
拾四間 廿八間 下田 壱反三畝二歩 同 人
拾七間 拾間 下田 五畝廿歩 兵左衛門
拾九間 拾壱間 下田 六畝廿九歩 同 人
六間 卅九間 下田 七畝廿四歩 喜兵衛
廿四間 廿四間 下田 八畝歩 與三次
廿五間 九間 下田 七畝十五歩 六 藏
拾五間 廿二間 中田 壱反壱畝歩 助太夫
拾四間 四間半 中田 弐畝三歩 三郎介
廿間半 廿間半 中田 壱反四畝十八歩 十八歩入 西光坊
五拾壱間 卅三間 中田 五反六畝三歩 與八郎
廿四間 拾六間半 中田 壱反三畝六歩 喜左衛門
卅六間 拾壱間 中田 壱反三畝六歩 助 作
拾間半 廿五間 中田 八畝廿二歩 西光坊

九間　廿五間　中田　七畝十五歩　二郎左衛門
七間　卅弐間　中田　七畝十四歩　兵左衛門
拾間　廿五間　中田　八畝十歩（ツヽミそと）　同　人
七間　十九間　下田　四畝十三歩　同　人
拾間半　七間半　下田　弐畝拾五歩　彌八郎
拾七間　七間　下田　三畝廿九歩　同　人
拾壱間　三間　下田　壱畝三歩　又　三
六間　七間　下畠　壱畝十二歩　彌八郎
四間半　四間半　下畠　拾八歩　喜八郎
四間　三間　下田　拾五歩（ママ）　與右衛門
四拾五間　三間半　下田　五畝七歩　七　藏
拾四間　七間　中畠　三畝八歩　二郎左衛門
四間　弐間　下田　八歩　喜八郎
四間　弐間　下田　八歩　二郎左衛門
拾弐間　弐間　下田　廿四歩　又　三
廿七間　三間　中畠　弐畝廿壱歩　同　人
四間　壱間　下畠　四歩　二郎左衛門
弐間　弐間　下田　四歩　坊　主

五間　弐間　下田　十歩　西光坊
廿三間　七間　下田　五畝拾壱歩　彌八郎
拾壱間　壱間半　下田　拾六歩　彌　藏
拾間　三間半　下田　壱畝五歩　與右衛門
卅五間　拾壱間　下田　壱反弐畝廿五歩　喜　三
廿六間　三間　下田　弐畝十八歩　二郎左衛門
五間　五間　下田　廿五歩　又　介
九間　四間　下田　壱畝六歩　喜兵衛
拾四間　弐間　下田　廿八歩　又　三
拾七間　五間　下田　弐畝廿五歩　喜　八
拾間　三間　下田　壱畝歩　七郎右衛門
壱間　五間　下田　五歩　又　助
三間　壱間　下田　三歩　坊　主
四間　七間　下田　廿八歩　與　三次
五間　三間　下田　十五歩　坊　主

右寄
中田弐町七反六畝拾八歩
下田三町九畝拾歩
中畠七畝九歩

下畠壱反六畝十三歩
田畠合六町九畝弐拾歩
酉八月廿一日　豊嶋三十郎
田邊藤七郎

墨付拾弐枚上カミ共ニ

（表紙）
「慶長拾四年己酉
徳永法印知行濃州多藝郡押越村御縄打水帳
八月廿二日　豊嶋三十郎庄や
兵左衛門
案内者　三郎介
彌八郎」

七冊之内

弐拾三間 五間	下田	堤外 三畝廿五歩	彌八郎
四間 弐間	下畠	八歩	又介
拾壱間 九間	中畠	三畝十四歩	五歩入 二郎三
八間半 六間	中畠	壱畝廿四歩（ママ）	喜十郎
八間 七間	中畠	壱畝廿六歩	助作
六間 弐間	下畠	拾弐歩	三九郎
四間 壱間	下畠	四歩	喜助
拾壱間半 拾間	中畠	三畝廿五歩	喜九郎
五間半 壱間半	下田	七歩	喜三郎
六間半 壱間半	下田	九歩 ソヽミ外 弐畝五歩	彌藏
拾間半 六間半	下畠		彌八郎
拾間 三間	下畠	壱畝歩	喜三郎
六間 五間	下畠	壱畝歩	又一郎
拾間 弐間	下畠	弐拾歩	二郎三
九間半 弐間半	下畠	廿弐歩	彌藏
九間 壱間	下畠	九歩	藏介
拾間半 壱間半	下畠	拾五歩	助作
五間 弐間	中田	拾歩	喜四郎
五間 弐間	下畠	八歩	又介
三間 六間	下畠	拾八歩（ママ）	又次郎
三間 拾間	下田	壱畝歩	又三
四間 拾間	下畠	壱畝拾歩	同人
拾六間 三間	下畠	壱畝拾八歩	喜三郎
拾八間 弐間	下畠	壱畝六歩	又三

| | | |

廿弐間　中畠　ツヽミ外八畝廿四歩　惣一郎
六間　中畠　六歩　西光坊
四間　中畠　拾六歩　同人
四間　下畠　弐畝八歩　與八郎
七間　下畠　四畝拾三歩　庄三郎
拾九間　下畠　拾六歩　喜助
八間　下畠　壱畝廿歩　孫三
弐間　下畠　拾七歩（ママ）　又一郎
六間半　下畠　壱畝歩　孫介
弐間半　下畠　三畝三歩（ママ）　孫介
五間半　下畠　ツヽミ外三畝七歩　小一郎
五間半　下畠　廿歩　六藏
拾三間　下畠　ツヽミ内壱畝歩　又三
七間半　下畠　壱反弐畝歩　喜左衛門
拾間　上田　壱反三畝拾七歩　同人
弐間　上畠　弐反四畝　兵左衛門尉
廿弐間　上畠　四畝歩　同人
弐拾間　上田　壱畝廿六歩　與太郎
六間
四拾間
廿弐間半
十八間半
四拾間
拾八間
四拾八間
七間半
弐拾間
弐間
拾五間
弐間
拾三間
七間半
拾三間
七間
五間半
五間半
六間半
弐間半
拾間
拾間
八間
弐間
拾間
五間
七間
拾九間
四間
四間
拾七間
四間
拾弐間
廿間
五間
拾一間
拾弐間
上畠　拾歩　惣一郎
上田　弐畝拾三歩　同人
ツヽミ内弐畝拾五歩　助作
上畠　三畝拾五歩　同人
上田　壱畝拾弐歩　彌八郎
上田　壱畝壱歩　兵左衛門
上田　五畝廿六歩　小なへ
上田　弐畝拾弐歩　彌八郎
上田　四畝廿歩　同人
上田　壱反九畝廿七歩　廿七歩入　喜十郎
上田　五畝廿六歩　助太夫
上田　九畝歩　與右衛門
上田　四畝拾歩　喜一郎
上田　四畝廿四歩　吉藏
上田　四畝歩　三郎介
上田　四畝拾歩　同人
上田　三畝拾歩　兵左衛門
上田　四畝拾弐歩　喜十郎
五間
弐間
三間半
弐拾壱間
弐間半
廿間
弐拾壱間
拾九間
拾壱間
拾八間
四間
拾間
四間
七間半
四間半
拾六間
拾壱間
拾四間
三間
拾五間
七間
拾五間
七間
拾壱間
拾六間
廿三間半
拾三間
廿間
拾弐間
拾弐間
拾弐間
廿間
五間
拾三間
拾間
拾一間
拾弐間

六間	上畠	廿四歩		兵左衛門	
四間					
拾五間	上田	六畝拾五歩		孫九郎	
拾三間					
拾七間半	上畠	八畝六歩		同人	
拾四間					
六間	上畠	三畝歩		彌八郎	
拾五間					
廿間	上田	壱畝拾歩		彌八郎	
弐間					
拾五間	上田	四畝歩		同人	
八間					
拾間	上畠	弐畝廿歩		喜市郎	
八間					
拾壱間	上畠	三畝九歩		彌八郎	
九間					
八間	上畠	壱畝廿六歩		喜一郎	
七間					
八間	上畠	壱畝六歩		次郎右衛門	
六間					
八間	上畠	三畝六歩		同人	
弐間					
拾壱間	上畠	弐畝拾七歩		孫兵衛	
七間					
拾六間	上田	九畝拾八歩		少三郎	
八間					
拾六間	上田	四畝廿四歩		八左衛門	
九間					
廿弐間	上田	壱反九畝弐歩		八左衛門	
廿六間					
三間	上田	壱畝廿四歩		兵左衛門	
拾八間					
九間	下田	拾弐歩	三歩入	小なへ	
壱間					
拾四間	上田	五畝四歩		喜介	
拾壱間					

六間	上田	壱畝廿四歩		同人	
九間					
五間	上田	壱畝三歩	八歩入	同人	
五間					
拾八間	上田	六畝歩		喜三	
拾間					
七間	上田	弐畝三歩		小七	
九間					
拾五間	上田	壱反三畝歩		小七郎	
廿六間					
拾弐間	中田	四畝歩		西光坊	
拾間					
拾三間	上畠	三畝廿歩		喜八郎	
八間半					
弐間半	上田	壱畝拾弐歩		吉蔵	
拾七間					
拾八間	上畠	壱反六歩		同人	
拾四間	中田	六畝六歩（ママ）		喜左衛門尉	
拾四間					
三間	中田	拾八歩		小七郎	
六間					
拾四間	上畠	四畝六歩		吉蔵	
九間					
拾間	上畠	弐畝廿歩		孫三	
八間					
拾間	上畠	壱畝歩		喜平次	
三間					
五間	上畠	廿五歩		孫助	
五間					
六間	上畠	廿四歩	六歩入	與次郎	
三間					
五間	上畠	拾五歩		西光坊	
三間					
三間	上畠	六歩		彌八郎	
弐間					

七間　上畠　壱畝拾弐歩　西光坊
六間
廿壱間　中田　壱畝拾弐歩　吉藏
弐間
八間半　中畠　拾弐歩　平右衛門
壱間
九間　中畠　弐畝三歩　助作
七間
拾間　中畠　壱畝拾歩
四間
拾間　上畠　三畝拾歩　彌八郎
拾間
三間　上畠　六歩　喜九郎
弐間
四間　上畠　廿八歩　西光坊
七間
六間　上畠　六畝拾廿歩　喜十郎
五間
拾六間　上畠　四畝六歩　三郎介
弐間
九間　上畠　壱畝歩　同人
四間
拾弐間　上畠　三畝拾五歩　彌三郎
弐間
廿壱間　上畠　八畝廿四歩　同人
弐間
九間　上畠　拾八歩　兵左衛門
弐間
廿三間　上畠　八畝廿歩（ママ）　同人
拾間
七間　上畠　五畝拾壱歩　三郎介
四間
七間　上畠　三畝八歩　同人
拾四間
拾弐間　中畠　四畝歩　與次郎

六間　中畠　廿四歩（ママ）　與市
弐間
五間　中畠　六歩　又三
壱間
六間　中畠　廿壱歩　同人
七間
三間　下畠　廿壱歩　少三郎
三間
七間　下畠　五歩　又次郎
壱間
五間　下畠　六歩（ママ）　小七
三間
五間半　下畠　七歩　又次郎
三間
三間半　下畠　壱畝拾五歩　孫九郎
弐間
九間　下畠　六歩　六藏
三間
弐間　下畠　壱畝弐歩　助作
八間
四間　畠　拾八歩　永不作ぬしなし
三間
六間　下畠　廿壱歩　千代若
六間
三間半　下畠　壱畝拾八歩　孫九郎
八間
六間　下畠　廿壱歩　同人
三間
七間　下畠　拾弐歩　同人
弐間
六間　下畠　壱畝廿弐歩　同人
拾間
五間半　下畠　壱畝歩　喜四郎
拾弐間
拾弐間半　下畠　廿五歩　小介
弐間半

廿弐間三間半	下畠	弐畝拾七歩	彌八郎	
六間四間	下畠	廿四歩	助兵衛	
六間六間	下畠	壱畝六歩	彌八郎	
七間三間	下畠	廿壱歩	與助	
弐間四間	下畠	八歩	同人	
三間三間	下畠	九歩	三九郎	
三間弐間	下畠	七歩（ママ）	與一郎	
四間弐間	下畠	八歩	喜介	
六間三間	下畠	拾八歩	助作	
六間壱間	下畠	六歩	二郎三	
三間壱間	下畠	三歩	三九郎	
五間壱間半	下畠	拾弐歩	吉藏	五歩入
四間三間	下畠	拾弐歩	彌八郎	年不作
四間三間	下畠	拾弐歩	五郎右衛門	
五間五間	下畠	廿五歩	與市	
三間拾五間	下畠	壱畝拾五歩	彌八郎	年々不作
三拾間弐間半	下畠	弐畝拾五歩	同人	
拾四間三間	下畠	壱畝拾弐歩	同人	

廿間壱間	下田	廿歩	同人	
拾弐間五間	中畠	弐畝歩	同人	
八間四間	中田	壱畝弐歩	西光坊	
拾間三間	中田	壱畝歩	彌八郎	
廿間拾間	上田	ひかし馬錦六畝廿歩	兵左衛門	
拾弐間九間	上畠	三畝拾八歩	同人	
卅弐間拾六間	上田	壱反七畝弐歩	同人	
五拾間弐拾間半	上田	三反四畝五歩	同人	
三拾四間弐拾間半	上田	弐反三畝七歩	同人	
拾八間五間	上田	三畝歩	喜平次	
拾間五間	上田	壱畝廿歩	同人	
拾間拾間	上田	三畝拾歩	喜十郎	
四間弐間	上田	八歩	又三	
八間拾半	上田	弐畝廿四歩	喜左衛門尉	
廿間拾弐間	上田	八畝歩	孫九郎	
拾弐間弐間	上畠	廿四歩	同人	
九間五間半	上田	弐畝四歩	助太夫	十七歩入
拾壱間半拾弐間	中田	四畝拾八歩	同人	

七間半　上畠　壱畝廿弐歩　同　人
六間半　上田　三畝拾歩　助　作
拾六間半　上田　三畝拾歩（ママ）　廿八歩入　小七郎
四間半　上田　四畝四歩　助太夫
八間　上畠　十歩　同　人
三間半　上田　四畝　小七郎
八間　上田　弐畝拾歩　小右衛門
廿間　上田　三畝廿四歩　四歩入　助太夫
六間　上田　弐畝六歩　同　人
拾間　上畠　壱畝廿六歩　同　人
七間　上畠　壱畝拾五歩　小七郎
六間半　上畠　壱畝廿歩　與三次
七間　上田　三畝八歩　助太夫
拾四間　上畠　七畝六歩　千代若
拾六間　上畠　弐畝拾歩　與右衛門
拾三間半　上畠　弐畝拾歩　孫兵衛
五間　上田　七畝歩　少三郎
拾四間　上畠　壱畝歩（ママ）　助　作
廿八間　上畠　壱畝拾八歩
七間半
四間半　右寄
六間半　上畠　拾九歩　新　介
三間　上田　五畝六歩　孫兵衛
廿六間　上田　壱畝歩　喜十郎
六間　上畠　弐畝拾弐歩　與三次
廿間　上畠　廿壱歩　六　藏
壱間半　上畠　壱畝拾弐歩　與太郎
八間　上畠　廿四歩　たまる
九間
三間
七間
六間
七間
六間
四間

上田三町四反八畝弐歩
中田壱反九畝拾六歩
下田弐反壱畝九歩
上畠壱町三反七畝弐拾四歩
中畠四反六畝拾九歩
下畠六反五畝弐拾六歩　当不作
内廿壱歩　年々不作
廿七歩
田畠合六町三反九畝六歩　永不作
畠拾八歩
以上

己酉八月廿二日　豊鳩三十郎
田邊藤七

墨付廿五枚上紙共ニ

（表紙）
「慶長拾四年己酉
徳永法印知行
濃州多藝郡押越村御縄打屋敷帳
八月廿二日　豊嶋三十郎
庄屋　兵左衛門
案内者　三郎介
七冊内」

拾三間 拾六間	屋敷	六畝廿八歩	惣　市
拾四間 拾間	同	四畝廿歩	小左衛門
拾間半 拾弐間	同	四畝六歩	助太夫抱
八間 七間	同	壱畝廿六歩	同人抱
九間 八間	同	弐畝十二歩	吉　三
拾間 廿間	同	六畝廿歩	孫兵衛
八間 拾壱間	同	弐畝廿八歩	喜　介
三間 拾間	同	壱畝歩	與三次抱
拾間半 三間半	同	壱畝五歩	彌三抱
四間 拾六間	同	弐畝廿歩　十六歩入	助太夫抱
六間 八間	屋敷	壱畝拾八歩	又一郎

拾壱間 拾四間	同	五畝四歩	次郎左衛門
拾三間 拾四間 □□(廿六)間 拾弐間	同	六畝二歩	助　太　夫
□□間 拾弐間	同	壱反拾弐歩	兵左衛門抱
四間 拾間	同	壱畝十歩	新　介
八間 七間	同	壱畝廿六歩	助　作
四間 □□(七間)	同	廿八歩	彌八郎抱
□間 □(五)間	同	壱畝五歩	小七郎
七間 六間	同	壱畝十二歩	三　郎　介
五間 七間	同	壱畝五歩	同人抱
八間 拾間	屋敷	弐畝廿歩	西光坊
拾弐間 八間	同	三畝六歩	平右衛門
拾四間 拾間 □(拾)間	同	四畝廿歩	喜左衛門
□壱間 拾七間半	同	六畝十二歩	喜　十　郎
三間 廿八間 □(二三)間	同	弐畝廿八歩（ママ）	與　三　次
□間 拾弐間	同	壱畝六歩	喜　兵　衛
七間 □(拾)間	同	弐畝十歩	喜　九　郎

同	弐畝歩	彌八郎
同	四畝歩	七郎右衛門
同	壱畝十歩	又一郎
屋敷	三畝廿七歩	彌三
同	四畝十二歩	三藏
同	弐畝六歩	彌三郎
同	拾弐歩	同人抱
同	壱畝五歩	六藏
同	拾八歩	同人抱
同	壱畝十五歩	與一郎
同	四畝歩	喜平次
同	四畝廿歩	孫九郎
同	拾八歩	六三抱
屋敷	弐畝十七歩	與太郎
同	壱畝廿歩	兵左衛門
同	三畝十歩	同人

（拾七）□間　（二〇）拾弐間　拾間　五間　八間　九間　拾三間　拾壱間　拾弐間　□間　拾壱間　（四〇）六〇　□間　三間　□間　□間　□間　□□間　□□間　□□間　拾四間　三間　六間　拾壱間　七間　拾五間　五間　（拾七）□間　□□間　（拾間）

屋敷合壱町弐反七畝五歩（九カ）

酉八月廿二日

墨付六枚

豊嶋三十郎
田邊藤七郎

三七　押越村畠方帳

○押越　澁谷保之氏所藏

（表紙）「押越村畠方御帳」

四角ノ印判五十四有

宮ノ北	九畝十五歩　内二畝歩田帳入〆七畝十五歩㊞	小七郎
同	弐畝　壱畝十九歩　彦左衛門ニ入㊞	彌三郎分
同	四畝	新助㊞
同	五畝　元和弐年田帳ニ入	七郎右衛門
同	四畝　内十五歩　元和弐年田帳ニ入〆三畝十五歩㊞	せんさい
同	壱畝十五歩　但元半名田也	同人
同	壱畝廿歩　内壱畝　元和弐年田帳ニ入〆廿歩㊞與右衛門分ニ入	宗一郎
同	弐畝十歩　田帳ニ入	□□
	道きた	□□
	壱畝　元和弐年田帳ニ入	□□

同　弐畝　田帳ニ入
同　八畝　田帳ニ入
同　五畝　内〇老畝田帳ニ入〆四畝㊞
同　五畝　内老畝田帳ニ入〇〆四畝㊞
川原寄合スミ
弐畝　㊞
同　壱畝九歩
同　三畝
同　弐畝　内廿歩元和弐年田帳ニ入
壱畝拾歩㊞
同　五畝　内弐畝元和弐年田帳ニ入
二畝㊞　壱畝㊞
同　壱畝
同　弐畝　内壱畝元和弐年田帳ニ入但彦次
〆壱畝㊞
ちやゑんわら弐畝元和弐年田帳ニ入彦九郎也
三畝　内弐畝元和弐年田帳ニ入同人ニ成
同　壱畝十歩
同　三畝　田帳ニ入
同　弐畝
ちやゑんわら
廿歩
同　廿歩
同　弐畝　内廿歩元和弐年田帳ニ入
〆廿歩㊞

與右衛門ニ入

町
又　藏　彦左衛門
與八郎　彦七郎
彦五郎。
〃〃八郎㊞
與三次㊞
喜十郎　竹作
新助㊞
與二郎　五郎ニ付
喜兵衛
兵左衛門㊞
彌八郎
新助
彌八郎㊞
同　人㊞
與三次

同　壱畝　田帳ニ入
同　壱畝　同入
同　四畝　田帳ニ入
同　弐畝　内〇〆壱畝㊞
同　三畝　内〆壱畝十歩
〆壱畝廿歩
神明
壱畝
同　弐畝
同　弐反七畝
同　三畝
同　四畝
同　四畝
同　六畝　内五畝元和弐年田帳ニ入
〃〃〃〃〃〃
同　壱畝　元和弐年田帳ニ入
〃〃〃〃〃〃
同　四畝
同　反　元和弐年田帳ニ入
神明
二畝　元和弐年田帳ニ入
同　三畝
同　弐畝

元和弐年
元和弐年
元和弐年

同　八畝　内〆壱畝　元和弐年田帳ニ入
同　七畝　内〆四畝㊞三畝㊞　彦一
同　六畝　彦八分　伊右衛門
同　弐畝　彦右衛門㊞
同　六畝　新助㊞
同　壱反三畝　彌三郎㊞
同　五畝　元和弐年田帳ニ入　同人
同　弐畝　同人㊞
同　壱畝　同人㊞
同　弐畝　同人㊞
同　四畝　元和弐年田帳ニ入　助右衛門分　彦十郎
同　八畝　内〆七畝㊞壱畝㊞　同分八助
同　壱反壱畝　九右衛門分　小七郎㊞
神明　六畝　元和弐年田帳ニ入　［　］
同　四畝　彌七郎㊞
同　弐畝　内内壱畝廿歩田ニ入　元和弐年ニ権助分　坊主
同　四反五畝　内〆廿歩㊞　元和弐年田帳ニ入　三郎左衛門分。
〆弐反内五畝㊞　反壱畝㊞　反　同田帳ニ入
同　壱畝　四畝㊞〳〵〳〵〳〵〳〵　彌三郎㊞

同　十歩　喜平次㊞
同　壱畝　治七郎㊞
同　壱畝　彦八郎㊞　彦九ニ付
同　壱畝四歩　元和弐年田帳ニ入　與三次
同　壱畝　元和弐年田帳ニ入　同人
同　壱反　元和弐年田帳ニ入　同人
同　三畝　内〆壱畝十歩元和弐年田帳ニ入　ちよう分　同人
〆壱畝廿歩㊞
同　五畝　元和弐年田帳ニ入　六右衛門分　三郎助
同　弐畝　元和弐年田帳ニ入　同人
道下　五畝　内弐畝元和弐年田帳ニ入　又一郎㊞
壱畝廿五分　元和弐年弐畝〆田帳ニ入　権七分　三郎九分
同　三畝　内〆三畝㊞　彦一
同　廿歩　喜平次㊞
同　五畝　［　］
井村南　壱畝　三郎助㊞
同　弐畝十歩　彦九郎㊞
同　廿歩　同人㊞
同　壱畝　喜平次㊞

同　三畝十八歩　元和弐年田帳ニ入　彌三郎
同　四畝　同年田帳ニ入　同人
同　六畝　内〆二畝　内四畝元和弐年田帳ニ入　彦十郎㊞
同　三畝　二畝㊞　一畝㊞　彌三郎
五畝　九左衛門㊞
三畝　三郎介㊞
同　三畝　元和弐年田帳ニ入　彦平次
同　壱反　内〆五畝二畝当出分　元和弐年田帳ニ入　彦六
同　四畝　内〆壱畝　元和弐年田帳ニ入　助八分　三郎助
同　五畝十五歩　□□分　彌七郎㊞
同　五畝廿六歩　内四畝廿六歩㊞　彦八郎　彦九郎ニ付
同　六畝　内〆弐畝十歩　元和弐年田帳ニ入　又六分　二郎三
同　六畝　内三畝　元和弐年田帳ニ入　同分　孫三
〆三畝㊞
同　九畝　彦二分　彌八郎㊞
井村南　六畝廿歩　内〆三畝　元和弐年田帳ニ入　彌七郎
〆三畝廿歩㊞
同　十四歩　六兵衛分　三郎助㊞
同　五畝　内〆壱畝十歩　元和弐年田帳ニ入　彦三郎
〆三畝廿歩㊞
同　三畝六歩　元田　彌三郎㊞

同　壱反　内〆七畝㊞　三畝　田ニ入田　元和弐年　彌三郎
同　四畝　内〆三畝㊞　壱畝　元和弐年田帳ニ入　彌三郎
同　九畝廿三歩　内六畝㊞　弐畝　元和弐年田帳ニ入　壱畝廿三歩㊞　彦兵衛
同　三畝　内一畝㊞　一畝㊞　壱畝㊞　彌三郎
同　三畝　彦　六㊞
同　二畝四歩　元和弐年田帳ニ入　彦七郎
同　八畝　彦平次㊞
同　壱畝十九歩　同　人㊞
同　四畝　同　人㊞
同　弐畝　同　人㊞
同　廿三歩　同　人㊞
同　十九歩　七兵衛ニ入　彌三郎
同　壱畝　△〇二畝　彌三郎ニ入　彦左衛門分　同　人
元和弐年田帳ニ入
井村東　三畝田帳ニ入　三郎助
壱反三畝　内〇〆反㊞
又兵衛やしき　三畝㊞　四畝㊞　三郎助
七畝　内三畝㊞　同　人
同　五畝　同　人
同　弐畝　元和弐年田帳ニ入　同　人
同　四畝

つゝみ
。壱反壱畝　内二畝㊞三畝㊞　六畝㊞　七郎右衛門
同。壱反九畝　内反㊞九畝㊞　彦左衛門
同。五畝　内弐畝　元和弐年田帳ニ入〆三畝㊞　彌八郎
同。三畝　同　人㊞
とかいと
。六畝　内五畝　元和弐年田帳ニ入〆壱畝㊞　竹　作
同。弐畝　内壱畝　二郎吉ニ入㊞　小三郎ニ入　彦左衛門分㊞　同　人
同　反弐畝廿歩　内廿歩田帳ニ入　内八畝元和弐年田帳ニ入〆四畝㊞　彌八郎
同。三畝　内廿歩元和弐年田帳ニ入〆二畝十歩㊞　與三次
同。四畝十歩　内壱畝　元和弐年田帳ニ入〆三畝十歩㊞　彌三郎
同。反五歩　六　藏㊞
同。三畝十一歩　元和弐年田帳ニ入　與八郎
同。弐畝十歩　彦兵衛㊞
とかいと
。廿歩　彌八郎ニ入㊞　竹右衛門ニ付　彦兵衛
同。三畝廿歩　内壱畝十歩㊞二畝十歩　小三郎ニ付　竹　作
同。七畝十歩　内内壱畝田帳ニ入〆六畝十歩㊞　彦十郎
同。三畝十歩　七郎右衛門㊞
同。同。三畝　與太郎㊞
同　弐畝　内内壱畝田帳ニ入〆一畝㊞　小一郎

まひり
。八畝　内五畝㊞　壱畝十歩㊞　壱畝廿歩㊞　與太郎
同。壱反六畝　内〆反三畝㊞　三畝　元和弐年田帳ニ入　兵左衛門
同。壱反五畝　内三畝　元和弐年田帳ニ入六畝㊞　八左衛門
同。壱畝十歩　元和弐年田帳ニ入　同　人
同　三畝　田帳ニ入　同　人
。七畝　元和弐年田帳ニ入　孫　助
同。四畝十歩　内弐畝　元和弐年田帳ニ入〆弐畝十歩㊞　彦九郎
同。壱畝　又六分　惣作㊞
同　四畝　内〆一畝廿歩㊞二畝十歩田帳ニ入　竹　彦兵衛ニ入作
きりかけ
六畝　内三畝田帳ニ入〆三畝内壱畝元和弐年田帳ニ入　〆弐畝㊞
きりかけ
反弐畝　内五畝田帳ニ入〆〇七畝㊞　彦兵衛
同　三畝　田帳入　與八郎
同。五畝　内〆三畝　元和弐年田帳ニ入〆弐畝㊞　せんさい。
同　五畝十歩　田帳入　兵左衛門
下てら
。壱畝　内〆十五歩　元和弐年田帳ニ入〆十五歩㊞　彦　三。
こまさき
。三畝　内廿歩同　壱畝　元和弐年田帳ニ入　〆弐畝㊞　せんさい
同。五畝　内〆三畝廿歩　壱畝十歩　元和弐年田帳ニ入㊞　與三次
孫兵衛

同　反七畝十歩内　二畝廿歩元和弐年田帳ニ入　六畝　同年田帳ニ入　壱畝十歩同年田帳ニ入　〆八畝廿歩㊞　兵左衛門
同　四畝　元和弐年田帳ニ入　内廿歩　元和弐年田帳ニ入　〆三畝十歩㊞　與三次
同　弐畝十歩　元和弐年田帳ニ入
同　廿歩　元和弐年田帳ニ入　同人
同　三畝　内二畝十歩　元和弐年田帳ニ入　竹太夫㊞
同　七畝　内壱畝十歩　元和弐年田帳ニ入　〆五畝廿歩㊞　小七郎
同　弐畝　内壱畝　元和弐年田帳ニ入　〆壱畝同年田帳ニ入　〆壱畝㊞　孫助
同　壱畝　壱畝　元和弐年田帳ニ入　同人
同　三畝　彦兵衛㊞
三畝十歩　内二畝十歩田ニ入　〆壱畝㊞
こまき
壱畝　内十五歩　元和弐年田帳ニ入　〆十五歩㊞　又助
同　壱畝　與一㊞
南かわら
反三畝　與三次㊞
同　九畝　内六畝㊞　三畝㊞　彦七郎
同　壱反弐畝　彌三郎㊞
同　三畝　與七分　與一㊞
同　三畝　内壱畝㊞　二畝兵左ニ入㊞　同人

同　九畝　内七畝　壱畝田帳ニ入　〆〇八畝㊞　又助
同　四畝　内　彦七郎㊞
同　七畝　但元和弐年八畝二成　又次分　彌藏㊞
同　五畝　元和弐年田帳ニ入　彦太夫分　彦五郎。
同　六畝十歩　内壱畝元和弐年田帳ニ入　四畝㊞　壱畝十歩㊞　孫六郎分　新介
同　三畝廿歩　同　同人㊞
同　弐畝　同　與一㊞
同　七畝十歩　元和弐年田帳ニ入　彦太夫分　彌藏
同　七畝　小一郎分　又一郎㊞
南かわら
七畝　兵左□　彦一郎㊞
同　壱反壱畝廿歩　二郎右衛門㊞
四畝十歩　せんさい㊞
同　四畝　元和弐年田帳ニ入　同人。
同　弐畝　内壱畝廿歩　元和弐年田帳ニ入　孫九郎
同　六畝廿歩　内弐畝　元和弐年田帳ニ入　〆三畝廿歩㊞　〆一畝孫兵衛分ニ入㊞　孫兵衛
同　六畝十六歩　壱畝十五歩　田帳ニ入　宗一郎㊞
同　三畝　内〇〆一畝十五歩㊞内壱畝十歩　元和弐年田帳ニ入　孫九郎

同　弐畝　内八壱畝十歩□ニ入田帳ニ入　孫右衛門分同　人
同　三畝　内〇〆廿歩□㊞　元和弐年田帳ニ入　同　人
同　壱反弐畝十歩　内九畝十歩元和弐年田帳ニ入　三　郎　助
同　三畝　田帳ニ入　同　人
同　七畝　内弐畝田帳ニ入　久　蔵　分㊞
三畝　内〇〆一畝㊞　元和弐年田帳ニ入　喜　平　次
五畝廿歩　内〇四畝田帳ニ入　小　七　郎
反廿四歩　内弐畝元和弐年田帳ニ入　壱十郎分　兵　左　衛　門
二ツ川原　壱反三畝六歩　内七畝廿四歩　壱畝㊞
壱反三畝六歩　内〇〆反六歩　三畝田帳ニ入　内六畝六歩元和弐年田帳ニ入　七　右　衛　門
□□上反内　内壱畝有之㊞　元和弐年田帳ニ入　二畝㊞　二畝㊞　□□□
弐畝　壱畝㊞
□□　六畝　内〇〆三畝有之㊞　三畝田帳ニ入　彦　左　衛　門
同　三畝廿歩　彦　五　郎㊞
同　壱畝十歩　□□やしき二入　兵　蔵㊞
同　六畝廿歩　内壱畝十歩㊞　彦　七　郎
同　五畝　内二畝十歩㊞　三畝㊞
同　かわらけ　小右衛門やしき二入　せんさい㊞
同　弐畝　又　助㊞
同　弐畝廿歩　弥　八　郎㊞

同　五畝　内二畝田帳ニ入　竹　作
〇〆三畝㊞
同　四畝　内壱畝田帳ニ入　元和弐年田帳ニ入　〆壱畝㊞
〇〆弐畝　又　助
同　三畝　廿歩田帳ニ入　元和弐年ニ入十分㊞
内〇〆二畝十歩　内壱畝十歩　元和弐年田帳ニ入
〆廿歩㊞　彦　兵　衛
七郎右衛門ニ入
同　三畝　元和弐年田帳ニ入　孫　兵　衛
同　三畝　内壱畝十五歩　田帳入　彦　五　郎　町　又蔵
〇〆一畝十五歩㊞
同　十歩　喜　兵　次㊞
同　廿歩　せんさい㊞
同　壱畝　孫兵衛ニ入　二郎右衛門㊞
同　弐畝二歩　内廿二歩田帳ニ入　弥　八　郎
〇〆一畝十歩㊞　助　太　夫㊞
同　壱畝　かわらけ　三畝十七歩　内一畝十七歩田帳ニ入　せんさい
〇〆二畝㊞　弥　八　郎
同　三畝十歩　内壱反田帳ニ入　竹　太　夫㊞
〇〆二畝十歩㊞　助八郎分
同　壱畝十歩　与　八　郎
同　三畝六歩　内壱畝六歩　元和弐年田帳ニ入
〇〆二畝㊞
同　四畝　内壱畝田帳ニ入　三　郎　助㊞
〇〆三畝　内弐畝元和弐年田帳ニ入
同　三畝廿五歩　内壱畝十歩　元和弐年田帳ニ入　与　十　郎
〇〆壱畝　〇〆二畝十五歩㊞

同　壱畝　内十五歩田帳ニ入〆十五歩㊞　元和弐年田帳ニ入　與　三　次
同　壱畝　元和弐年田帳ニ入　同　人㊞
同　壱畝　二郎右衛門㊞
同　弐畝　内〆内廿歩　元和弐年田帳ニ入〆壱畝十歩㊞　二郎右衛門。
同　四畝　内七歩内七歩田帳ニ入〆七歩田帳ニ入　〆四畝　内壱畝㊞　壱畝㊞　壱畝㊞　同左ニ入　壱畝㊞　壱畝㊞　壱畝㊞

。壱畝　内廿歩㊞当ニ付□ニ付
同ふかゆて
。弐畝　内廿歩　元和弐年田帳ニ入
〆壱畝十歩　かわら所はたニ入㊞
四畝　元和弐年田帳ニ入
。弐畝　元和弐年田帳ニ入
半名堤外
。四畝　内弐畝　元和弐年田帳ニ入
壱畝十歩㊞廿歩㊞
三畝十歩
〃〃
同
。壱畝　内廿歩田帳ニ入
〆一畝十歩　内又廿歩㊞廿歩元和弐年田帳ニ入
同　弐畝
同　六畝
同　六畝
同　六畝
同　五畝
同
。反三畝
堤ない
。六畝
半名堤内
弐畝
同　壱畝十歩
同
。弐畝廿歩
同　壱反五畝

喜平次
同　人
与三次
与三次
与三次㊞
彦七郎
彦九郎㊞
彌八郎
惣　作㊞
竹五郎分
兵左衛門
二郎右衛門
小右衛門
兵左衛門
同　人
せんさい
竹　作
同　人㊞
惣　作㊞

内〆壱畝田帳ニ入
〇〆四畝㊞　五郎太郎分ニ入
内〇〆三畝田帳ニ入㊞
内〇〆二畝田帳ニ入　元和弐年田帳ニ入
内〆反元和弐年田帳ニ入
〆三畝㊞
内〆五畝　元和弐年田帳ニ入
〆壱畝㊞
内壱畝田帳ニ入
〆〇反　にし兵左ニ入㊞
田帳ニ入

同
同
同
。壱畝　田帳ニ入
同　壱畝　田帳ニ入
同おほり
。弐畝　内〆壱畝元和弐年田帳ニ入
〆壱畝㊞
。弐畝
。四畝　〆三畝㊞　仁右衛門ニ入㊞
。壱反弐畝内〆反壱畝㊞　元和弐年田帳ニ入
反弐畝　内〇〆三畝田帳ニ入
〇〆九畝　内弐畝元和弐年田帳ニ入
一畝㊞五畝㊞
。弐畝四歩
九畝四歩　内〇〆七畝四歩　内〆三畝㊞四畝四歩元和弐年田帳ニ入

彌八郎
彌八ニ入
三四郎
兵左衛門。
彦一郎㊞
竹　作
彌八郎
彦一郎㊞
孫九郎
彦五郎
但八左ニ入

同
。壱畝七歩　内〆廿七歩㊞十歩元和弐年田ニ入
。三畝十歩　内二畝廿五歩㊞十五歩元和田帳ニ入
同
。弐畝廿歩　内十歩元和弐年田帳ニ入
□木
。弐畝　内〆壱畝㊞壱畝元和弐年田帳ニ入
。五畝　内二畝㊞三畝　元和弐年田帳ニ入
ス□やしき
三畝　田帳ニ入
同　壱畝十歩　田帳ニ入
同　壱畝十歩　同入

孫兵衛
二郎右衛門。
□□
同　人㊞
兵左衛門
助太夫
兵左衛門
竹太夫
彦五郎

同　八畝十歩　内四畝田帳ニ入〆四畝十歩元和弐年田帳ニ入　助太夫　八左ニ入
同　壱畝二歩　田帳ニ入　同　人　八左ニ入
同　五畝十五歩　元和弐年田帳ニ入　ちふか　八左ニ入
かわら
三畝　元和弐年田帳ニ入　兵左衛門㊞　八左ニ入
三畝　かわら
同　弐畝　元和弐年田帳ニ入　□右衛門㊞
同　三畝　與右衛門　八左ニ入
同　弐畝十三歩　元和弐年田帳ニ入　㊞與三次　八左ニ入
同　四畝　内三畝元和弐年田帳ニ入　彦兵衛　八左ニ入
同　四畝　㊞　彦五郎　竹太夫㊞
同やしき内　弐畝　㊞　同　人
同　四畝　内二畝田帳ニ入〇〆二畝　兵左元和弐年田帳ニ入くに　宗一郎
同　七畝廿歩　せんさい
壱反三畝十歩　内八畝田帳ニ入〇〆五畝十歩　内三畝十歩㊞　二畝㊞　小七郎
五畝　内壱畝田帳ニ入〇〆二畝内壱畝十歩　元和弐年田帳ニ入　又兵衛
壱畝　外田帳ニ入　〆廿歩㊞　與一ニ入　彦五郎分　彦三
五畝　田帳ニ入　又十郎分　彦三
五畝　内一畝㊞四畝㊞　二郎右衛門

六畝　内三畝十歩竹太夫㊞　壱畝十歩兵左㊞　壱畝十歩□㊞左　助太夫
壱畝　同　人㊞
弐畝　又一郎㊞
四畝　孫九郎㊞
廿歩　喜助分　伊右衛門㊞
とかいと六三分ニ入
三畝　八左衛門㊞
壱畝六歩　彦一郎㊞　長介
五畝　内〇二畝新八ニ入兵左又三ヤシキニ入㊞　與太郎
〇〆三畝兵左衛門與一ヤシキニ入㊞
三畝　竹五郎分　兵右衛門
元和弐年田ニ入
四畝　内〇三畝與太郎　内壱畝㊞　與太郎
〇一畝伊右衛門㊞兵左ニ入　彦一郎　長介㊞
弐畝　兵右衛門
七畝　内六畝元和弐年田帳ニ入　同　人
〆壱畝㊞
四畝　内三畝廿歩㊞　彦三やしき　同　人㊞
十歩㊞　かわら與右衛門分ニ入　與一やしき
□三郎分ニ入
四畝　竹五郎分　兵左衛門
弐畝　内壱畝田ニ入　元和弐年　八右衛門分　同　人
〆壱畝㊞
七畝　内五畝㊞六三分ニ入　竹　作㊞
二畝㊞□□きニ入
壱畝　新　助㊞
壱畝十歩　内二畝にしやしき㊞にし□□ニ入　又兵衛
一畝十歩竹太夫分ニ入㊞
三畝十歩　やしき

城やしき内
・廿八歩
同
・壱畝廿九歩
同
・三畝七歩
同
・壱畝七歩
同
・弐畝二歩　内十二歩㊀
同
・弐畝廿三歩
同
・壱畝二歩　兵八と才三分ニ入
同
・壱畝廿歩　小右衛門ニ入
同
・壱畝
同
・廿六歩
　四畝分　かわら
・壱畝
・壱畝　弐
・二畝
・十五歩
・弐畝
・壱畝
・弐畝十歩
・四畝　内二畝㊀二畝㊁

彦十郎㊞　竹作㊞　小吉三七㊞　同吉三人㊞　孫三㊞　彦九郎㊞　孫助㊞　宗一郎㊞　喜平次㊞　彌八郎㊞　三介㊞　左吉㊞　與八郎㊞　彦左衛門㊞　喜平次㊞　彦十郎㊞　七郎右衛門㊞　又一郎　八助

・四畝　内三畝㊀
三畝廿歩　内壱畝㊁　二畝廿歩㊂
　屋敷方
・五畝
壱畝
・弐畝
・五畝
・弐畝
・壱畝十歩
四畝　内〇一畝彦一郎ニ入〇〇三畝
・四畝
・弐畝
・六畝十歩
・五畝
・壱畝
・壱畝
・七畝十歩　内二畝五畝
・弐畝
・弐畝
・七畝十歩　内二畝十歩五畝十歩

彌藏
三郎介
彦三やしきニ入　彦五郎
彦右衛門ニ入　吉三㊞
二郎左衛門
竹太夫
孫九郎
兵左ニ入　伊右衛門㊞
與太郎
□左衛門
孫兵衛
せんさい
左吉
彦左衛門
彦十郎
與三次
彦兵衛
彦九郎
七郎右衛門

・三畝十五歩　八　助
・三畝十五歩　彌　藏
・四畝　彌八郎
・六畝十歩　竹　作
・三畝　三郎助
・四畝　喜平次
田反壱畝　内
・三畝　彦　助
・五畝　元田　彌三郎

三八　押越村新田検地帳

〇押越　澁谷保之氏所藏

（表紙）
「美濃國多藝郡押越村検地帳」

堤外中島
一見付田六歩　長五間四尺弐寸　傳右衛門
横壱間六寸
高壱升四合　石盛七斗

同所
一見付田三歩　長弐間　市左衛門
横壱間三尺
高七合　石盛七斗

同所
一見付畑弐拾壱歩　長六間四尺弐寸　清右衛門
横三間壱尺弐寸
高三升五合　石盛五斗

堤外中島
一見付畑弐拾七歩　長六間三尺　重　三　郎
横四間六寸
高四升五合　石盛五斗

同所
一見付畑拾八歩　長五間六寸　同　人
横三間三尺
高三升　石盛五斗

同所
一見付田弐拾七歩　長七間　甚左衛門
横三間四尺八寸
高六升三合　石盛七斗

同所
一見付田四畝弐拾壱歩　長拾弐間弐尺壱寸　同　人
横拾壱間弐尺四寸
高三斗弐升九合　石盛七斗

とうかいと
一見付畑壱畝九歩　長拾三間五尺四寸　重　三　郎
横弐間四尺八寸
高六升五合　石盛五斗

同所
一見付田壱畝弐拾七歩　長拾九間三尺六寸　同　人
横弐間五尺四寸
高壱斗三升三合　石盛七斗

右之寄

見付田七畝弐拾四歩　石盛七斗
高五斗四升六合

見付畑三畝拾五歩　石盛五斗
高壱斗七升五合

反別合壱反壱畝九歩
高合七斗弐升壱合

右は、美濃國多藝郡押越村新田検地依被　仰付、六尺壱歩間竿を以壱反三百歩之積、相極者也

明和九辰年正月

戸田采女正家来　高田彦十郎㊞
同断　中西文平㊞
同断　中西久蔵㊞
同断　衣裏豊右衛門㊞
案内　和助㊞
同断　傳右衛門㊞
同断　甚左衛門㊞
同断　新左衛門㊞

紙数表紙共ニ六枚
削字弐ヶ所　但此所共

三九　押越村見取場新田検地帳

○押越　澁谷保之氏所蔵

（表紙）
「美濃國多藝郡押越村見取場新田検地帳」

喰違先	長九間三尺六寸		
一下々田弐畝拾弐歩	横七間三尺	啓	次
高壱斗六升八合	石盛七斗		
町南	長三間五尺四寸		
一下々田九歩	横弐間壱尺八寸	惣	六
高弐升壱合	石盛七斗		
同所	長五間三尺		
一下々田壱畝歩	横五間弐尺四寸	久	三
高七升	石盛七斗		郎
町南	長七間六寸		
一下々田弐拾四歩	横三間二尺四寸	久	三
高五升六合	石盛七斗		郎
同所	長五間三尺		
一下々田九歩	横壱間三尺六寸	同	
高弐升壱合	石盛七斗		人
馬場	長五間壱尺弐寸		
一下々田壱畝歩	横五間四尺弐寸	同	
高七升	石盛七斗		人
同所	長弐間五尺四寸		
一下々田三歩	横壱間	同	
高七合	石盛七斗		人
同所	長拾弐間四尺八寸		
一下々田弐畝九歩	横五間弐尺四寸	庄	
高壱斗六升壱合	石盛七斗		六
同所	長九間六寸		
一下々田三畝六歩	横拾間三尺	權	
高弐斗弐升四合	石盛七斗		四郎
馬場	長弐間弐尺四寸		
一下々田六歩	横弐間三尺	兵	
高壱升四合	石盛七斗		助
同所	長八間六寸		
一下々田壱畝拾五歩	横五間三尺	久	
高壱斗五合	石盛七斗		三郎
同所	長弐拾四間		
一下々田壱反拾弐歩	横拾三間	藤左衛門	
高七斗弐升八合	石盛七斗		

同所
一下々田壱畝拾八歩
高壱斗壱升弐合

同所
一下々田壱畝弐拾壱歩
高壱斗壱升九合

中島
一下々田弐畝三歩
高壱斗四升七合

中島
一下々田弐拾壱歩
高四升九合

同所
一下々田六歩
高壱升四合

同所
一下々田六歩
高壱升四合

同所
一下々田六歩
高壱升四合

同所
一下々田弐拾四歩
高五升六合

同所
一下々田三畝弐拾四歩
高弐斗六升六合

中島
一下々田壱畝弐拾四歩
高壱斗弐升六合

長八間五尺四寸
横五間弐尺四寸
石盛七斗
嘉兵衛

長拾壱間五尺四寸
横四間壱尺八寸
石盛七斗
同人

長拾壱間五尺四寸
横五間壱尺八寸
石盛七斗
庄六

長五間
横四間壱尺弐寸
石盛七斗
庄六

長弐間四尺弐寸
横弐間壱尺八寸
石盛七斗
藤次郎

長三間
横弐間
石盛七斗
庄六

長三間六寸
横壱間五尺四寸
石盛七斗
直三郎

長六間六寸
横三間五尺四寸
石盛七斗
權四郎

長拾壱間弐尺四寸
横拾間
石盛七斗
勝藏

長拾間
横五間弐尺四寸
石盛七斗
藤左衛門

同所
一下々田拾五歩
高三升五合

長五間三尺
横弐間四尺弐寸
石盛七斗
同人

右之寄
下々田合三反七畝三歩
高合弐石五斗九升七合
石盛七斗

右は、美濃國多藝郡押越村見取場新田検地依被仰付、六尺壱分間竿を以壱反三百歩之積、相極者也

文化十酉年十二月

戸田采女正家来
同断　宮崎次郎兵衛㊞
同断　森喜代四郎㊞
同断　丸井亮大夫㊞
同断　淺野德五郎㊞
案内　新七㊞
同断　理藏㊞
同断　安左衛門㊞
同断　兵助㊞
同断　權四郎㊞

紙数表紙共八枚
削字一字有之

四〇　岩道村検地帳

○上ノ郷　近藤稔氏所蔵

（表紙）「　　正保五年

濃州多藝郡岩道村田畑検地縄帳

戌子二月廿九日

弐冊之内

案内者　四郎兵衛
同　九兵衛」

（四）口間	上畑	弐拾四歩	はやし	長三良	
三間半 八間半	上田	壱畝歩	はやし	新右衛門	吉蔵
七間半小 八間半	上畑	弐畝六歩		四郎兵衛	四郎兵衛
七間半小 十一間半	上畑	弐畝廿九歩		孫兵衛	寺
拾二間 十三間半	上畑	五畝拾弐歩		忠兵衛	四郎兵衛
拾五間 拾五間	上畑	八畝廿七歩	四拾二歩入	孫兵衛	吉蔵
八間 七間	上畑	八畝廿六歩		新右衛門	今ハ四郎兵衛入
六間半 六間半	上畑	壱畝拾弐歩		孫兵衛	庄五郎
五間半 三間半	上畑	拾九歩		作衛門	九兵衛
拾間 四間	上畑	壱畝拾歩		半四郎	四郎兵衛
拾一間半 五間半小	上畑	弐畝六歩		吉蔵	
九間 八間	上畑	弐畝拾弐歩		四郎兵衛	
六間半 九間半	上畑	弐畝弐歩		寺	
廿二間 十五間	上畑	壱反壱畝歩		四郎兵衛	
十一間小 八間	上畑	四畝拾八歩	四十八歩入	吉蔵	
拾一間半小 九間小	上畝	三畝拾九歩		今ハ四郎兵衛入	
八間半小 十二間半	上畑	三畝拾九歩		庄五郎	
八間半 八間	上畑	弐畝八歩		九兵衛	
八間 五間	上畑	弐畝拾六歩	三十六歩入	四郎兵衛	
八間半 八間	上畑	弐畝八歩		四郎兵衛	
六間半小 拾四間半	上畑	三畝八歩		作右衛門	
拾二間 拾二間小	上畑	四畝弐拾七歩		九兵衛	
四間 十二間	中畑	壱畝拾八歩	川原 同	清三郎	
拾間半 六間半	上畑	弐畝八歩	同	新右衛門尉	
拾二間半 八間半小	下畑	三畝拾六歩	同	清三郎	
八間半 九間半小	下畑	弐畝廿三歩	川原 同	新右衛門	
九間半 拾間	下畑	三畝五歩	同	四郎兵衛	
拾間 十七間半	下畑	五畝廿五歩	同	作右衛門	

拾間
十七間半
二間
中畑
同
五畝廿五歩

拾間
二間
下田
同
弐拾歩

九間
二間
下田
川原
拾八歩

三間
二間半
下田
同
弐拾三歩

二間
十間半
下田
同
弐拾壱歩

五間
二間
下畑
同
拾歩

二間
六間半
下田
川原
拾三歩

八間
七間小
下畑
同
壱畝廿八歩

十一間
十二間
下畑
同
四畝拾弐歩

拾二間
二間半
下田
同
壱畝歩

二間
五間半小
下田
同
拾弐歩

六間
十九間
下畑
川原
三畝廿四歩

廿壱間
七間
下畑
六歩入
同
五畝三歩

二間
十三間半小
下田
同
弐拾八歩

六間
十三間小
下畑
同
弐畝弐拾歩

二間
十三間
下田
同
弐拾六歩

四間
八間
下畑
川原
壱畝弐歩

同　人
同　人
孫　兵　衛
作右衛門
四郎兵衛
忠　兵　衛
同　人
孫　兵　衛
同　人
四郎兵衛
同　人
さ　く　内
作　内
新右衛門
同　人
四郎兵衛
同　人
吉　蔵

八間
三間半
下畑
同
弐拾八歩

二間
六間
下田
同
拾弐歩

三間
十四間
下畑
同
壱畝拾弐歩

六間
二間半
下田
同
拾五歩

六間半
八間半
上畑
川原
三畝八歩

拾七間
十三間半
上畑
同
七畝弐拾歩

七間
二間半
下畑
同
拾八歩

五間
二間半
下田
同
拾三歩

二間半
廿三間半
下畑
同
壱畝廿九歩

十六間半
廿三間
中畑
宮ノ下
壱反七畝拾五歩

百四拾五歩入同
三間
五十五間
下田
六畝拾七歩

三十二歩入同
十五間
廿二間半小
中畑
七十八歩入同
壱反三畝廿九歩

廿間
四間
下田
三畝四歩

廿四歩入同
八間
十三間半
中畑
三畝拾八歩

十五間半小
二間
下田
宮ノ下
壱畝弐歩

十四間半
二間
下田
同
弐拾九歩

五間
五間
中畑
同
弐拾五歩

四間半
三間半
下田
同
拾四歩

四郎兵衛
吉　蔵
四郎兵衛
半四郎
半四郎
長　三　郎
新右衛門
同　人
忠　兵　衛
四郎兵衛
同　人
吉　蔵
同　人
長　三　郎
同　人
同　人

四間半 七間半 下田 同 壱畝四歩
四間半 八間 上畑 同 東うら 弐歩廿四歩
五間小 七間半 上畑 拾七歩入 同 壱畝廿六歩
七間半 五間半小 上畑 同 壱畝拾三歩
二間半 五間 下田 同 拾三歩
五間 二間 下田 同 拾歩
二間 十二間 下田 同 東うら 弐拾四歩
八間半 十二間半小 上畑 同 四畝弐拾歩
十一間 十二間半小 上畑 同 四畝壱歩
八間半 十四間小 上畑 同 四畝壱歩
六間半 十五間半 上畑 同 三畝拾壱歩
七間半 二間半 下田 同 拾九歩
四間小 九間半小 上畑 東浦 壱畝拾壱歩
四間小 五間半 上畑 同 弐畝拾三歩
五間半 十五間半 上畑 同 弐畝弐拾五歩
八間 十五間 上畑 同 四畝歩
五間 十四間 上畑 同 弐畝拾歩
九間半 十三間 上畑 東浦 四畝四歩
八間半 九間小 上畑 十四歩入 同 三畝三歩

九兵衛
九兵衛
四郎兵衛
半四良
同人
四郎兵衛
九兵衛
同人
四郎兵衛
忠兵衛
四郎兵衛
作内
新右衛門
半四郎
四郎兵衛
忠兵衛
四郎兵衛
孫兵衛

三間半 六間小 上畑 四歩入 上畑 同 弐拾六歩
七間小 五間半小 上畑 同 壱畝拾弐歩
十八間 三間半 下田 同 弐拾七歩
壱間 六間 下田 東浦 六歩
十一間 壱間 下田 同 拾壱歩
十四間半 十間半 中畑 同 五畝弐歩
九間半 十五間半 中畑 同 四畝弐拾七歩
二間半 十六間半小 下田 同 壱畝拾二歩
十二間 十間半小 中畑 東浦 四畝九歩
三間半 廿二間半 下田 同 弐畝拾九歩
九間小 十五間小 中畑 同 四畝廿壱歩
八間 十六間小 中畑 同 八畝八歩
五間半 十三間半 中畑 百十八歩入 同 弐畝拾七歩
九間 四間 下田 三歩入 東浦 壱畝六歩
六間 十六間半 下田 同 三畝九歩
廿四間 九間半 下田 中畑 二歩入 同 三畝三歩
壱間 四間半 下田 柳原 七畝拾八歩
同 五歩

長三郎
作右衛門
忠兵衛
作右衛門
可平次
同人
作右衛門
同人
忠兵衛
同人
同人
四郎兵衛
總兵衛
四郎兵衛
總兵衛
同人
四郎兵衛
作右衛門

四間
四間
中畑
小屋敷
拾六歩
九兵衛

四間半
六間半
十四間半
上畑
同
三畝四歩
同人

五間
十間
上畑
壱畝弐拾歩
可平次

六間半
四間半小
上畑
同
弐拾九歩
作右衛門

七間半
六間半
上畑
壱畝拾九歩
忠兵衛

拾三間半
廿間半
上畑
小屋敷
九畝七歩
作右衛門

廿六間
廿四間半小
上畑
土井ノ上
弐反壱畝拾四歩
四郎兵衛

九間半
廿二間半
上畑
土井ノ下
壱反壱畝廿二歩
百三拾八歩入
孫兵衛

十間
四間半
上畑
同
壱畝拾五歩
吉蔵

六間半
十間
上畑
同
弐畝五歩
土井ノ下
拾八歩
可平次

拾間半
壱間半小
下田
同
九歩
忠兵衛

二間半
三間半
下田
同
拾九歩
総兵衛

九間小
二間
下田
同
六畝拾六歩
同人

八間半
廿三間
下田
同
三畝拾歩
といノ下
四畝八歩
半四郎

拾間
拾間
下田
同
壱畝廿五歩
半四郎

九間半
十三間半
下畑
同
壱畝廿九歩
忠兵衛

四間半
十三間
下畑
同
壱畝廿五歩
長三郎

四間半
十二間半小

五間半
五間半
下田
同
弐拾八歩
忠兵衛

七間半
六間小
下田
同
壱畝拾七歩
土井ノ下
三畝拾五歩
長三郎

七間
十五間
下畑
同
五畝廿八歩
吉蔵

十一間半
十五間半
下田
同
八畝拾五歩
同人

十四間半小
十二間
下田
七十八歩入
四間半
六間
下畑
同
七畝弐拾八歩
といの下
壱反五畝廿歩
四郎兵衛

十間小
廿三間半小
中畑
弐拾間
廿三間半
上畑
同
八畝三歩
吉蔵

十二間半
廿三間
上畑
同
九畝拾八歩
下新田
壱反壱畝一歩
九兵衛

十三間小
廿五間
上畑
同
六畝弐拾歩
同人

六間半
廿六間
下田
下新田
五畝拾九歩
南畑
弐反歩
四郎兵衛

廿四間半
廿四間半
上畑
同
四畝八歩
作右衛門

拾間
十二間半小
上畑
同
三畝廿八歩
今ハ総兵衛入替地
孫兵衛

十六間半小
廿一間小
上畑
同
壱反壱畝廿六歩
南畑
八畝拾九歩
九兵衛

拾間小
十一間半
上畑
今ハ四郎兵衛入
兵三郎
同人

十六間半小
十二間半小
上畑
四郎兵衛
作右衛門

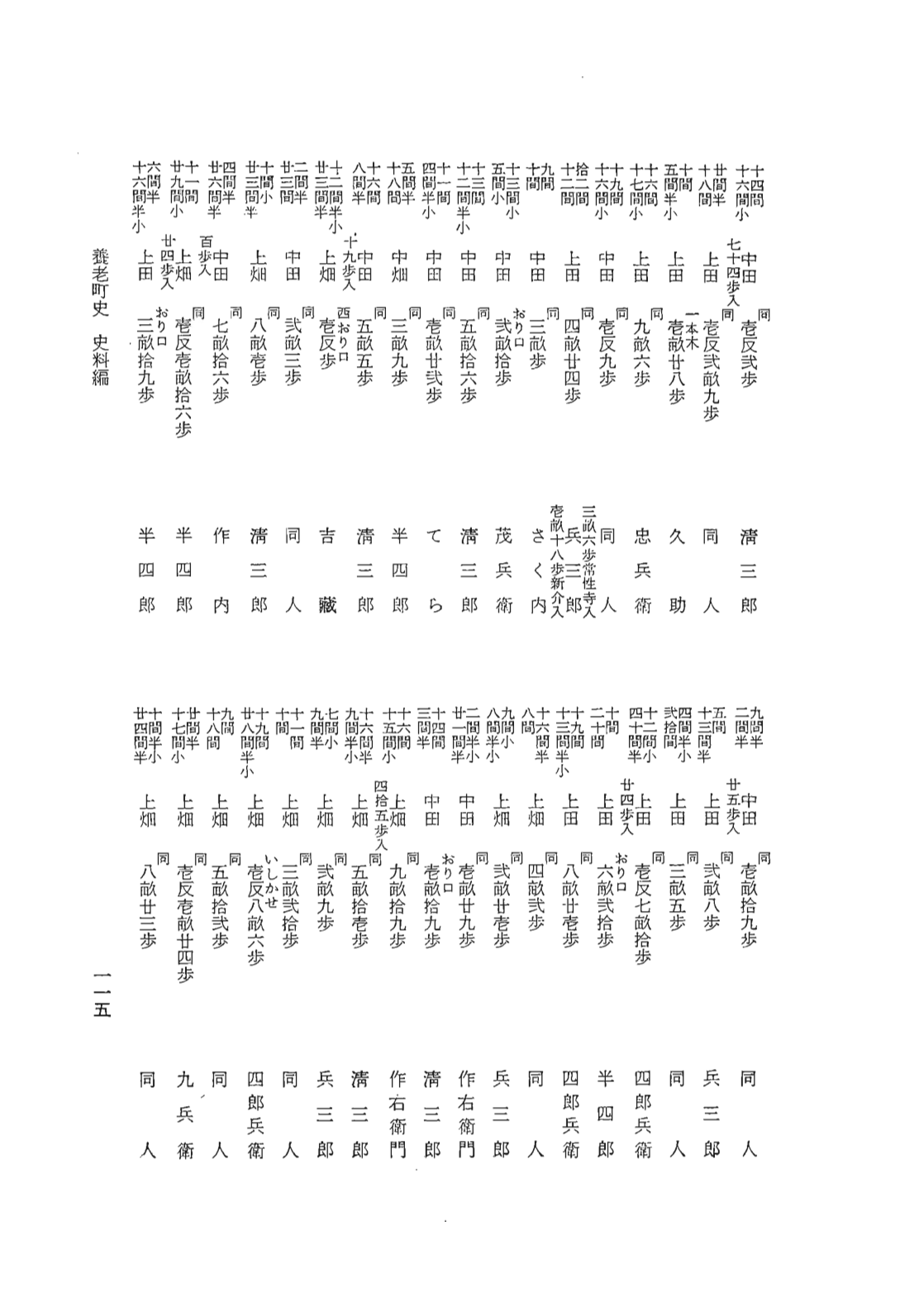
十四間　廿一間　中畑　同　九畝廿四歩
九間半　三間半　下田　同　壱畝三歩
十間半　廿五間　中畑　同　八畝廿三歩
六間半　廿四間半　中畑　五畝九歩
壱間半小　六間　下田　長畑　拾壱歩
十間　二間　下田　同　弐拾歩
四間　十三間半　下畑　同　壱畝四歩
五間小　廿一間　下田　同　三畝弐拾歩
十九間半小　三十七間半　上畑　同　弐反四畝廿一歩
二間半　二間半小　下田　長畑　七歩
二間半　廿八間半　下田　同　弐畝拾八歩
五間半　五十七間　上畑　七歩入　同　壱反拾四歩
五間半　五十七間　上畑　廿三歩入　壱反壱畝七歩
十一間　五十二間　上畑　同　壱反九畝二歩
拾間半小　五十一間半　上畑　長畑　壱反八畝拾四歩
十八間半小　十五間　上畑　同　九畝拾壱歩
二間小　三十六間　下田　同　弐畝廿壱歩
三間　廿五間　下田　同　三畝壱歩
拾六歩入

吉蔵　上畑　九間小　九間　七間半　十八間半小　上畑　同　弐畝廿三歩
同人　上畑　八間　三十二間半　七間　十七間　中畑　長畑　八畝廿歩
孫兵衛　上畑　八間　三十四間半　十七間半小　上畑　同　九畝六歩
忠兵衛　上畑　十四間　十四間　十七間半小　上畑　同　六畝拾六歩
忠兵衛　上畑　廿四間　九間半小　十七間半小　上畑　同　七畝廿四歩
總兵衛　下田　三十間　十一間小　十七間半小　上畑　同　壱反壱畝八歩
作右衛門　下田　拾三間　十五間　十七間半小　上畑　さほ取　六畝拾五歩
同人　下畑　四間　十間半小　十七間半小　上畑　同　壱畝拾三歩
忠兵衛　下田　二間　廿四間　十七間半小　上畑　同　壱畝拾八歩
吉蔵　上畑　七間　四十四間半　十七間半小　上畑　同　壱畝拾弐歩
四郎兵衛　上畑　十間　十一間　十七間半小　上畑　同　三畝弐拾歩
總兵衛　上畑　四間　十一間小　十七間半小　上畑　竿取　壱畝拾五歩
同人　中畑　十間　廿間　十七間半小　上畑　同　六畝弐拾歩
總兵衛　中畑　廿間半　四間　十七間半小　上畑　同　弐町廿弐歩
孫兵衛　上畑　十一間　五間　十七間半小　上畑　同　壱畝廿五歩
清三郎　中畑　七間　十七間　十七間半小　上畑　同　弐畝拾弐歩
可平次　中畑　七間半　十八間半小　十七間半小　上畑　さほとり　三畝廿九歩
今八四郎兵衛入　兵三郎　上畑　同　四畝廿壱歩

四郎兵衛　同　弐畝廿三歩
今八四郎兵衛入　兵三郎　長畑　八畝廿歩
□内　同　九畝六歩
長三郎　同　六畝拾六歩
四郎兵衛　同　七畝廿四歩
今八四郎兵衛入　兵三郎　同　壱反壱畝八歩
吉蔵　さほ取　六畝拾五歩
同人　同　壱畝拾三歩
清三良　同　壱畝拾八歩
九兵衛　同　壱畝拾弐歩
吉蔵　同　三畝弐拾歩
同人　竿取　壱畝拾五歩
同人　同　六畝弐拾歩
同人　同　弐町廿弐歩
四郎兵衛　同　壱畝廿五歩
同人　同　弐畝拾弐歩
今八四郎兵衛入　兵三郎　さほとり　三畝廿九歩
同人　同　四畝廿壱歩

廿四間半　十間半小　上畑　同　八畝廿三歩　九兵衛
八間　三間　下田　同　弐拾四歩　孫兵衛
八間　二間半　下田　同　弐拾歩　いつしま　同人
弐拾間　十四間半小　上田　九畝廿五歩　作内
三間　十七間　中畑　同　壱畝廿壱歩　同人
十間小　十六間半小　上田　同　五畝廿弐歩　四郎兵衛
十七間半　三十三間　上田　同　壱反九畝八歩　忠兵衛
九間小　弐拾間　上田　同　六畝五歩　同人
十八間　十五間半小　上田　大正　壱反三畝七歩　新右衛門
六間　九間半　百拾三歩入同　上田　同　壱畝廿七歩　久助
八間半　廿間半　上田　同　五畝拾四歩　九兵衛
十一間小　廿三間半　上田　同　八畝廿四歩　同人
十間　廿間半小　上田　同　八畝四歩　同人
壱間半　六間半　三十六歩入太正　中畑　拾歩　作右衛門
七間　九間半小　上田　同　弐畝八歩　同人
八間　七間半　上田　同　弐畝歩　半四郎
八間半　四間小　廿四歩入　上田　同　弐畝歩　九兵衛
十二間　五間　上田　同　弐畝廿八歩　今ハ四郎兵衛入替地　作右衛門

四十一間半　十九間　上田　太正　弐反六畝九歩　四郎兵衛
廿四間　七間　上田　同　五畝拾八歩　今ハ四郎兵衛入　庄五郎
三拾八間　九間小　上田　同　壱反壱畝廿弐歩　九兵衛
十四間　七間半　上田　同　三畝拾五歩　四郎兵衛
十間　九間半小　上田　同　四畝廿一歩　藏　吉
十間　百拾九間　中田　四十三歩入　上田　とんてん　三反九畝廿歩　四郎兵衛
拾間半　十六間半小　上田　一本木　五畝廿六歩　可平次
七間　五間半　上田　拾六歩入　同　壱畝廿五歩　同人
十四間　十七間半小　上田　同　八畝九歩　半四郎
十間　十七間半　上田　同　五畝廿五歩　孫兵衛
十八間半　十三間　上田　五帖　八畝拾歩　四郎兵衛
九歩入　四間小　三間半　中畑　拾三歩入　同　弐拾八歩　同人
四間　三間　中畑　拾歩入　弐拾弐歩　さく内
四間半　廿三間　上田　八歩入　一本木　三畝廿弐歩　兵三郎
十三間半　四間　上田　四十六歩入　同　三畝拾歩　孫兵衛
八間半　十四間半小　上田　一本木　四畝五歩　忠兵衛
十間半小　十間半小　上田　同　三畝廿六歩　同人
十間半　十四間半小　上田　同　五畝五歩　同人


十四間小
中田
七十四歩入
同
壱反弐歩
同
壱反弐畝九歩
一本木
壱畝廿八歩
同
九畝六歩
同
壱反九歩
同
四畝廿四歩
同
三畝歩
おりロ
弐畝拾歩
同
五畝拾六歩
同
壱畝廿弐歩
同
三畝九歩
同
五畝五歩
西おりロ
壱反歩
同
弐畝三歩
同
八畝壱歩
同
七畝拾六歩
同
壱反壱畝拾六歩
おりロ
三畝拾九歩
清三郎
同人
久助
忠兵衛
三畝六歩常性寺入
壱畝十八歩新介入
同人
茂兵衛
さく内
清三郎
てら
半四郎
清三郎
吉藏
同人
清三郎
半四郎
作内
半四郎
清三郎
半四郎
九間半
二間半
中田
廿五歩入
同
弐畝八歩
同
三畝五歩
同
壱反七畝拾歩
おりロ
六畝弐拾歩
同
八畝廿壱歩
同
四畝弐歩
同
弐畝廿壱歩
同
壱畝廿九歩
おりロ
壱畝拾九歩
同
九畝拾九歩
同
五畝拾壱歩
同
弐畝九歩
同
三畝弐拾歩
いしかせ
壱反八畝六歩
同
五畝拾弐歩
同
壱反壱畝廿四歩
同
八畝廿三歩
同人
兵三郎
同人
四郎兵衛
半四郎
四郎兵衛
同人
兵三郎
作右衛門
清三郎
作右衛門
清三郎
兵三郎
同人
四郎兵衛
九兵衛
同人
五間半
十三間半
四間半弐拾間
十二間小
四十間半
十間
二十間
十九間
十三間半小
十六間半
八間
十六間半
上畑
上田
廿四歩入
上田
上畑
九間小
八間半小
上畑
二間半小
廿一間半
中田
十四間
三間半
中田
十六間
十五間小
上畑
四拾五歩入
上畑
十六間半
九間半小
上畑
七間小
九間半
上畑
十一間
十間
上畑
十九間
廿八間半小
上畑
九間
十八間
上畑
廿間半
十七間小
上畑
十間半小
廿四間半
上畑
十一間
廿九間小
上畑
六間半
十六間半小
上田
廿四歩入
上畑
百歩入
中田
廿六間半
上畑
十二間半小
十九歩入
中田
上畑
二間半
廿三間半
中田
十間小
廿三間半
上畑
四間半
廿六間半
上田
十六間
八間半
中畑
五間半
十八間
中畑
十一間
四間半小
中田
十三間半小
十二間半
中田
十三間小
五間小
中田
九間
十間
中田
拾二間
十二間
上田
十九間
十六間小
中田
十六間
十七間小
上田
十間
五間半小
上田
廿間半
十八間
上田

十九間小　上畑　同　壱反弐畝六歩　同　人
十九間　中畑　いしかせ七畝拾五歩　九兵衛
廿五間　下畑　五十六歩入　同　九畝弐拾歩　同　人
十二間半　下田　同　壱畝廿三歩　同　人
十九間半　下田　同　七畝廿八歩　同　人
六間半小　中畑　同　壱反弐畝拾二歩　同　人
三十五間小　中畑　いしかせ　壱反三歩　九兵衛
十二間　中畑　同　壱反廿二歩　同　人
三十一間　中畑　同　四畝六歩　同　人
廿二間半小　中畑　同　壱反三歩　九兵衛
十六間半　下畑　同　壱反廿二歩　同　人
十九間半　下畑　同　四畝六歩　同　人
三間　下田　同　六畝拾歩　同　人
四十二間　下畑　今八作右衛門入　四郎兵衛　同　人
四間半小　下畑　今八作右衛門入　同人　同　人
四十間　下畑　今八作右衛門入　少五郎　九兵衛
三間小　下田　同　四畝三歩　与作
十三間　下田　いしかせ　壱畝拾六歩　作内
三間半　下田　同　六畝歩　作右衛門
四間半　下畑　同　七畝壱歩　清三郎
十三間半　下田　同　弐拾八歩　長三郎
八間　下田　四　七畝歩　孫兵衛
三間半　下畑　いしかせ　三畝壱歩　久助
廿四間　下畑　同　壱畝四歩
八間半小　下畑
三間　下田
三十間小　下田
二間半　下田
十三間半　下田

四間半　中畑　同　三畝拾四歩　吉蔵
廿三間　同　二畝弐拾歩　作右衛門
廿二間　中畑　同　弐畝七歩　長三郎
五間　下田　いしかせ　弐畝八歩　忠兵衛
四間半小　下田　同　壱畝弐拾八歩　同　人
十四間　下田　同　弐畝三歩　四郎兵衛
四間　下田　同　四反廿壱歩　同　人
十七間　下畑　いしかせ　壱畝弐拾歩　同　人
四間半　下田　作右衛門入　四郎兵衛　新右衛門
十四間半　下畑　同　壱畝四歩　さく右衛門
十四間　下田　同　壱畝廿歩　四郎兵衛
四間半　下畑　同　壱畝弐八歩　半四郎
廿四間　下田　同　壱反三畝四歩　同　人
十四間　下田　同　弐反一畝拾二歩　四郎兵衛入　半四郎
廿七間半　下田　同　四畝拾八歩
十七間　下田
三十七間半小　下田
四間小　下田
廿二間半　下田
九間半　下田　廿六歩入
十六間半　下田　三十八歩入
十三間　下田
十八間　下田
八間　下田
十四間　下田
十七間　下田
十七間半　下田
十六間半　下田
十三間　下田
十八間　下田
十五間　下田
十間　下田
十七間　下畑
二間半小　下畑
十八間　下田
廿九間半小　下田
四十一間半小　下田
四間半　下畑
十四間半　下畑
十四間　下田
十七間　下田
十四間半　下田
十四間　下田
廿三間　下畑
五間　中畑
廿二間　中畑
四間半小　下田
十四間　下田
四間　下田
十七間　下田
四間半　下田
十四間　下田
四間半　下田
廿三間　下畑
五間　下田
十間　下田
三間半　下畑
十五間　五歩入
九間半　下田
十六間半　廿六歩入
十三間　下田
十八間　三十八歩入
八間　下田
十四間　下田
廿二間半　下田
十七間　下田
三十七間半小　下田
四間小　下田
廿二間半　下田

四間小　卅二間半　下田　同　四畝拾八歩　忠兵衛
三十二間　四間半　下田　同　四畝廿四歩　半四郎
十二間　十三間半　下田　同　五畝九歩　孫兵衛
六間　廿五間小　下田　同　七畝四歩　半四郎
二間　八間　下畑　八歩入　弐拾四歩　同　半四郎
十四間　十三間小　中田　いしかせ　六畝六歩　同　半四郎
五間半　十一間半　中田　同　弐畝三歩　同　九兵衛
六間半　十二間　中田　同　弐畝拾八歩　同　九兵衛
四間　廿三間　中田　廿四歩入　四畝八歩（ママ）　同　同人
五間小　十五間半　中田　同　弐畝廿壱歩　同　同人
十四間半　五間小　中田　いしかせ　弐畝拾六歩　同　九兵衛
三間　廿間半　中田　三拾五歩入　三畝七歩　同　清三郎
六間　壱間半　下畑　九歩　同　同人
三間小　七間　下畑　弐拾三歩　同　四郎兵衛
四間　十三間半　中田　三十六歩入　三畝歩　同　同人
六間小　十四間小　下畑　弐畝廿九歩　同　吉藏
六間半小　廿間半　中畑　四畝拾八歩　同　同人
三間　一間半　下畑　五歩　同　與作

四間　十四間　中田　壱畝廿六歩　同　與さく
七間小　廿三間小　上畑　五畝拾九歩　同　可平次
四間半　廿一間半　中田　三畝七歩　同　茂兵衛
三間　廿六間半小　中田　弐畝廿歩　同　新右衛門
十四間　二間小　中田　壱畝弐歩　同　半四郎
五間　三十六間半　中田　六畝三歩　同　半四郎
四間　十七間　下畑　弐畝八歩　同　九兵衛
十四間　三間半小　下畑　ひる原　壱畝廿三歩　同　同人
四間　五間　十一間　下田　六畝廿五歩　同　同人
四間　十五間半　下畑　弐畝弐歩　同　同人
十九間半小　十八間小　下田　壱反弐畝歩　同　同人
十八間　下田　ひるわら　壱畝廿六歩　同　四郎兵衛　今ハ四郎兵衛入
四間半　十二間半　下畑　壱畝拾八歩　同　兵三郎
十二間　四間　下畑　七畝廿八歩　同　長三郎
九間半　十四間　下田　百五歩入　六畝拾弐歩　同　同人
十一間半小　十間半小　下田　六十歩入　壱畝廿五歩　同　同人
六間半　八間半　下畑　ひる原南　弐畝拾壱歩　同　吉藏
二間　十二間　下畑　四十一歩入　壱畝廿六歩　同　半四郎

五間半　十五間半　下田　同弐畝廿五歩
五間半　十一間半　下畑　同弐畝三歩
四間半　十二間半　廿一歩入　下田　同三畝歩
四間半　半小　八間小　廿間半　下畑　同三畝三歩
五間　十四間小　下田　同弐畝拾壱歩
五間　十九間半小　下田　同三畝九歩
廿八間　七間半小　下畑　同七畝七歩
壱間半　廿一間半　下田　同壱畝弐歩
廿間　七間半　下畑　同壱畝廿弐歩
九間半　五間半　下畑　同壱畝廿歩
十六間半　十三間　下田　同七畝五歩
十二間小　三間半小　四十五歩入　下田　同三畝壱歩
十一間半小　三間半小　下田　同壱畝拾四歩
五間半　十間小　下畑　同弐畝拾六歩
五間小　八間小　三十五歩入　下田　同壱畝廿歩
十間　五間　下田　同弐畝九歩
十間　六間　九歩入　下田

吉　蔵
今ハ作内入　茂　兵　衛
四郎兵衛
同　人
四郎兵衛
作右衛門
吉　蔵
さく内
作右衛門
新右衛門
作　内
新右衛門
作右衛門
同　人
新右衛門
可　平　次
作　内
新右衛門
吉　蔵

拾間半　四間　下田　同壱畝拾弐歩
六間小　三間半　下田　下こも池　弐拾六歩
六間　十九間半　四歩入　下畑　四畝拾弐歩
四間　九間小　十五歩入　下田　同壱畝七歩
三間小　十五間　下田　同壱畝拾九歩
四間半小　十五間半小　下田　弐畝十五歩
六間半小　十六間半　下畑　三畝廿壱歩
六間　廿二間　下田　同四畝拾弐歩
八間　七間半　下畑　同弐畝歩
三間半小　十四間小　下田　同壱畝廿三歩
八間半　五間小　下田　老畝拾五歩
八間半　十二間　下田　下こも池　三畝拾二歩
六間　十五間半　六十一歩入　下田　五畝四歩
二間半小　十五間　十一歩入　下畑　同壱畝廿弐歩
四間　十六間　廿歩入　下田　同弐畝廿四歩
三間半小　十二間　下田　同壱畝拾五歩
四間　八間　下田　下こも池　壱畝弐歩
三間半小　十二間　下畑　よし畑　壱畝拾五歩

同　人
可　平　次
同　人
今ハ庄九郎入　四郎兵衛
作右衛門
今庄九郎入　四郎兵衛
今ハ庄九郎入　四郎兵衛
同　人
作右衛門
吉　蔵
九　兵　衛
同　人
九　兵　衛
與　作
新右衛門
長　三　郎
作　内
今ハ作内入　四郎兵衛

十七間半　四間半小　下田　同　弐畝弐拾三歩　吉藏
五間半　七間半　下田　同　弐畝廿六歩　長三郎
九間半小　十二間半小　三十七間　壱間小　中畑　四畝四歩　同　人　半四郎
十七間小　三間　中畑　下田　壱畝拾六歩　よしはた　同　作内　長三郎
十二間小　十八間　中畑　七畝拾壱歩　同　新右衛門　半四郎
十五間　十七間　中畑　八畝拾五歩　同　人　同
二間半　五間　下田　拾三歩　よしはた　同　作右衛門　同
二間　廿七間半　下田　三十五歩入　三畝歩　同　新右衛門　二郎作
十間　十二間半　上畑　四畝五歩　同　作内入　長三郎
壱間　十間　下田　拾歩　同　作右衛門　半四郎
十間半　十四間　上畑　四畝廿七歩　同　孫兵衛　新右衛門
十間半　七間小　上畑　三畝拾五歩　廿九歩入　公事免　同　庄五郎　作内
十間半　壱間半　下田　拾五歩　公事免　同　新右衛門　同
十二間　壱間半小　下田　弐拾壱歩　同　与作　作
三間　十四間小　下田　壱畝拾三歩　同　九兵衛　同
廿七間　四間半　下田　四畝弐拾歩　十八歩入　同　同　長三郎
五間　九間半　下畑　壱畝拾八歩　同　人　同　作右衛門

四郎兵衛

五間　廿間半小　八間　下田　公事免　三畝拾四歩
八間　下畑　同　弐畝四歩
十二間　四間半小　八間　下畑　同　三畝拾歩
九間　廿一間　下畑　川原ケ田　六畝九歩　四畝八歩
八間　廿一間　下畑　四拾三歩入　同　五畝拾八歩
三間半小　十六間半　下田　六十六歩入　同　四畝廿弐歩
六間半　十一間小　下田　六十九歩入　同　五畝拾八歩
十一間　十五間小　下畑
七間　三十八間　下田　三十歩入　同　九畝廿六歩
六間半　三十八間　中畑　同　八畝七歩　かわらけてん　弐畝弐拾六歩
二間小　三十八間　下田
十間　五間半小　下畑　同　壱畝拾歩
十間　四間　下畑　同　四畝四歩
六間半　十九間　下畑　同　四畝拾六歩　かわらけてん　四畝拾八歩
八間　十七間　中畑　同　三畝五歩
四間　廿一間半　下田　九歩入　同　七畝弐拾九歩
八間小　十六間半小　中畑
十三間　十七間　下田　十八歩入

| | | |

三間半　十五間半　下田　同　壱畝廿四歩
三間　十八間　下田　ませロ　壱畝廿四歩
四間　二間半　下田　おらいり　拾歩

上田合弐町六反壱畝歩

中田合壱町三反四畝七歩
下田合四町五反三畝六歩
上畑合六町八反八畝廿四歩
中畑合弐町弐反八畝廿四歩
下畑合壱町九反三畝弐歩

屋敷方

七間　十間　屋敷　弐畝拾歩
十二間半小　十二間　同　五畝三歩
八間　八間　屋敷　弐畝四歩
拾間　十間半　同　三畝拾五歩
六間半　八間半　同　壱畝廿五歩
十一間半　九間半　同　三畝拾九歩
八間　八間　同　弐畝四歩
九間　七間　同　弐畝三歩
九間半　七間　同　弐畝七歩

今ハ四郎兵衛入　庄五郎
今ハ四郎兵衛入　庄五郎
四郎兵衛

十間半　九間　同　三畝五歩
十一間半　七間　同　弐歩廿一歩
六間　十一間　同　弐畝六歩
七間半　八間　屋敷　弐畝歩
七間小　十二間　同　弐畝廿七歩
六間半　八間　同　壱畝廿二歩
六間半　十六間半　同　三畝拾七歩
九間小　五間　同　壱畝拾六歩
九間半　十間　同　三畝五歩
九間半　八間半　同　弐畝拾七歩
十七間　七間半　同　四畝八歩
五間小　十三間半　同　弐畝拾壱歩
八間半　八間　同　弐畝八歩
十九間　十一間　屋敷　六畝廿九歩
十四間　十間半　同　四畝二七歩

屋敷合七反壱畝九歩

上中下

田畑合弐拾町三反拾弐歩

内田壱反歩は八幡大菩薩ぇ主膳正附之

四郎兵衛
四郎
四郎兵衛
長太郎
四郎兵衛
長三郎
孫兵衛
可平次
作右衛門
半四郎

同　人
作右衛門
同　人
孫兵衛
長三郎
寺
新右衛門
今ハ四郎兵衛入　庄五郎
九兵衛
四郎兵衛
作内
可平次
吉藏
吉藏
四郎兵衛

丸橋小兵衛㊞
片岡太郎兵衛㊞
伊藤清太夫㊞
後藤徳右衛門㊞
水谷二郎左衛門㊞

正保五年
戊子二月廿九日

墨付四拾八枚㊞㊞㊞

（表紙）「　正保五年　弐冊之内

濃州多藝郡岩道村田畑検地縄帳

戊子二月廿九日

案内者　四郎兵衛
同　九兵衛」

| | | |

九間半 廿一間半 上畑 同 六畝廿四歩
八間半小 十間半 上畑 同 三畝廿歩
七間小 十間半小 上田 同 弐畝拾八歩
二間半 上田 同 五歩
四間 八間半小 上畑 同 壱畝五歩
五間 四間半小 上畑 同 弐拾四歩
四間 十間半小 上畑 十石塚 壱畝拾三歩
四間半 八間 上畑 拾四歩入 同 壱畝廿歩
六間半小 五間半 上田 同 壱畝七歩
七間小 六間 中田 同 壱畝十四歩
七間小 十一間小 中畑 同 弐畝弐拾弐歩
八間 壱間小 上田 同 拾歩
二間 十一間半小 六歩入 同 壱畝歩
廿八間半 十二間 上畑 同 壱反壱畝拾二歩
十四間半 廿間 上畑 同 四畝廿五歩
三間 十間小 中田 同 壱畝壱歩
二間 十間 中田 同 弐拾壱歩
七間小 廿間小 上田 十石塚 四畝廿七歩

清三郎
兵三郎
四郎兵衛
與佐久
新右衛門
半四郎
清三郎
同人
新右衛門
四郎兵衛
九兵衛
同人
四郎兵衛
同人
總兵衛
四郎兵衛入

七間 廿一間小 上田 同 四畝廿九歩
六間 十六間半 中田 同 三畝九歩
四間半小 廿間小 上田 池ノかわ 三畝六歩
五間 十三間半 上田 廿五歩入 同 三畝三歩
六間小 四間半小 中田 同 壱畝歩
七間半 十二間小 中田 同 三畝弐歩
四間半小 二間 中田 同 拾歩
八間半 十二間半 中田 同 三畝拾六歩
六間小 六間半 中田 同 壱畝拾壱歩
弐拾間 十二間半小 上斗 同 八畝拾五歩
拾四間半 十三間小 上畑 廿三歩入 池川 七畝八歩
三間半 壱間半 上田 同 五歩
四間 壱間半 上田 北はざま 六歩
壱間半 九間半 上田 同 拾四歩
三間 廿四間半 上田 同 弐畝拾四歩
三間半小 十四間半 上田 同 壱畝廿四歩
二間 十八間 上畑 同 壱畝六歩
四間 八間 上田 卅九歩入 同 弐畝拾壱歩

兵三郎
半四郎
忠兵衛
同人
新右衛門
清三郎
忠兵衛
吉藏
忠兵衛
作右衛門
與作
作右衛門
與作
清三郎
總兵衛
四郎兵衛
吉藏 今ハ四郎兵衛入
兵三郎

四間半 十七間半小 上田
三間 十四間半小 上畑
四間小 十一間半小 上田
三間半 十五間半 上畑
三間半小 十五間半小 二歩入 上田
十三間 壱間 上畑
十四間 三間半 上田
十一間 壱間半 上畑
三間半 十五間半 上畑
三間半小 十二間 五歩入 上田
三間半 八間半小 上畑
三間半小 十六間半 三歩入 上田
五間 十四間半 上田
三間半 十五間半 拾六歩入 上田
四間半 十一間半 上畑
四間 廿六間 上田
五間小 十二間小 卅三歩入 上田
三間半 十一間半 拾六歩入 上田

同 弐畝弐拾歩
同 壱畝拾四歩
同 壱畝廿弐歩
壱畝廿四歩
北はざま 壱畝廿九歩
同 拾三歩
同 壱畝拾五歩
同 拾四歩
同 壱畝廿四歩
同 壱畝廿歩
同 壱畝三歩
同 弐畝五歩
同 弐畝拾三歩
同 弐畝拾歩
同 壱畝廿二歩
北はざま 三畝拾四歩
同 三畝七歩
同 壱畝廿六歩

総兵衛
同人
同人
同人
今ハ四郎兵衛入 庄五郎
総兵衛
同人
今ハ四郎兵衛入 正五郎
今ハ四郎兵衛入 庄五郎
今ハ四郎兵衛入 兵三郎
作右衛門
同人
今ハ四郎兵衛入 兵三郎
半四郎
総兵衛
同人

四間半小 五間半 上畑
拾間 壱間半 上畑
十五間 十七間半小 上田
二間 十三間 下畑 七歩入
九間 十三間半 上田
壱間半 八間 下畑 十一歩入
六間 廿一間小 上田
拾六間 壱間半 下畑
六間半 廿三間小 上田
二間 十五間半 下畑
四間 廿五間半 上田 五歩入
二間 九間小 上田
廿三間 五間小 下田
五十三間半小 七間半 上田
五間 廿七間半 上田
廿六間半 四間半小 上田
四間半小 廿八間半小 上田
四間半小 廿六間 上田

同 弐畝六歩
同 拾五歩
同 八畝廿六歩
同 壱畝三歩
同 四畝弐歩
同 弐拾三歩
同 四畝八歩
同 廿四歩
北はざま 五畝壱歩
同 壱畝壱歩
同 三畝拾七歩
同 拾九歩
長代 弐畝八歩
同 壱反三畝拾三歩
同 四畝拾八歩
同 四畝六歩
同 四畝拾七歩
同 四畝四歩

今ハ四郎兵衛入 兵三郎
同人
四郎兵衛
同人
同人
九兵衛
同人
総兵衛
四郎兵衛
半四郎
総兵衛
清三郎
四郎兵衛
新右衛門
四郎兵衛
九兵衛

四間小五十四間半　五十四間半廿一間半　廿七間廿五間小　拾間半八間半小　五間八間　拾四間半二間小　六間半小拾弐間半　八間五間半　四間半二間半　二間五間　四間十間　三間半十五間　九間九間半　二間半十四間半　二間九間　八間小五間

上田　上田　上田　上田　上田　中畑　中畑　上田　中畑　上田　上田　中畑　上田　中畑　上田　上田　上田

同　七畝廿弐歩　長代　三反九畝弐歩　同　弐反四畝四歩　三畝弐歩　懸杙　壱畝拾歩　同　壱畝六歩　同　弐畝廿四歩　同　弐拾八歩　同　壱畝三歩　かけ杙　壱畝拾四歩　同　拾壱歩　同　拾六歩　かけ杙　壱畝廿二歩　同　三畝廿八歩　同　弐畝廿三歩　同　壱畝七歩　同　廿五歩　同　壱畝拾壱歩

吉蔵　四郎兵衛　今ハ四郎兵衛入　庄五郎　作内　同人　同人　同人　九兵衛　同人　今ハ四郎兵衛入　兵三郎　同人　半四郎　新右衛門　半四郎　同人　総兵衛　さく内　四郎兵衛　同人

拾間九間　拾間二間小　三間半拾壱間　上田　七間小二間半　上田　四間六間半小　三間小十七間半　中畑　四間七間小　中畑　三拾五間半十九間　上田　九間半十一間半　上田　四間半五間半小　中畑　十四間六間小　上田　八間四間半　中畑　九間十間小　上田　五間半十三間半　上田　四間九間半　中畑　七間二間半　上田　七間三間　上田　拾弐間小十六間半　上田

中畑　中畑　上田　中畑　上田　中畑　中畑　上田　上田　中畑　上田　上田　中畑　上田　上田　中畑　上田

三十六歩入　同　四畝六歩　同　弐拾三歩　同　壱畝九歩　同　弐拾七歩　同　弐拾七歩　同　弐拾壱歩　かけ杙　壱畝拾八歩　同　弐畝八歩　同　弐畝弐畝拾五歩　同　三畝拾九歩　同　弐拾六歩　同　三畝六歩　同　壱畝八歩　同　三畝弐歩　同　五畝拾八歩　同　弐畝弐歩　同　拾五歩　かけ杙　弐拾壱歩　同　七畝拾六歩

同人　清三郎　同人　作内　同人　兵三郎　新右衛門　四郎兵衛　同人　同人　同人　四郎兵衛　同人　同人　兵三郎　清三郎　今四郎兵衛入　兵三郎

四間　十八間　上田　同　弐畝拾弐歩
十六間　壱間　下畑　同　拾六歩
五間　十七間小　上田　四歩入　同　三畝歩
拾二間　壱間　下畑　同　拾弐歩
六間　十九間　上田　同　三畝廿四歩
二間　三十間　上田　同　弐畝歩
二間　廿三間半　上田　同　壱畝拾七歩
二間　卅五間半　上田　同　弐畝拾壱歩
十五間半　十二間　上畑　宮ノ西　弐畝廿三歩
十一間半　七間小　上畑　宮ノ西　六畝六歩
七間半　十二間　上畑　同　三畝歩
八間小　八間　上畑　同　弐畝六歩
廿一間半　十一間半　上畑　同　八畝七歩
六間半　四間半　上畑　同　弐拾七歩
五間小　廿五間　上畑　同　四畝拾壱歩
六間小　廿七間小　上畑　同　五畝拾四歩
九間小　廿七間小　上畑　同　八畝五歩
廿六間　九間半　上畑　同　八畝七歩

新右衛門　同　人　久　助　清　三　郎　半　四　郎　忠　兵　衛　作右衛門　同　人　半　四　郎　吉　藏　同　人　同　人　忠兵衛　今ハ四郎兵衛入　同　人　九　兵　衛

廿三間　六間　上畑　同　四畝拾八歩
拾五間　九間　上畑　同　四畝拾五歩
廿四間　六間半　上田　宮ノ西　五畝拾四歩
二間半小　七間　上田　十六歩入　同　壱畝五歩
十五間　三間小　上田　六十六歩入　同　三畝廿五歩
六間　二間半小　下畑　みそたけ　拾七歩
四間　十二間半　上田　同　壱畝廿歩
四間　十五間半小　上田　同　弐畝三歩
三間半　十五間　上田　同　壱畝廿三歩
十間　壱間半　中畑　同　拾五歩
八間半　壱間半　中畑　同　拾弐歩
六間半　十二間小　上田　廿歩入　同　三畝拾歩
二間　廿四間半　上田　同　壱畝拾九歩
五間　十二間半　上田　みそけた　弐畝三歩
四間　廿一間半　上畑　同　弐畝廿六歩
四間　十四間半　上田　西出口　三畝拾歩
六間　三間小　上田　四十二歩入　同　弐拾歩
壱間半小　十七間半　上田　同　壱畝壱歩

半　四　郎　今ハ四郎兵衛入　庄　五　郎　半　四　郎　四郎兵衛　同　人　新右衛門　同　人　同　人　與　作　新右衛門　吉　藏　同　人　作右衛門　九　兵　衛　吉　藏　忠　兵　衛　九　兵　衛

十一間　六間半　上畑　同　弐畝拾弐歩
七間半　三十四間　上畑　同　八畝拾五歩
二間　廿五間　上田　四歩入　同　壱畝廿四歩
拾六間　三間半小　上田　拾二歩入　同　弐畝拾弐歩
五間　六間　上畑　同　壱畝歩
五間　八間半小　上畑　同　壱畝拾四歩
三間　十六間半　上田　同　弐畝拾弐歩
二間半　九間　上田　同　弐拾三歩
二間半　十二間半小　上田　卅九歩入　同　壱畝壱歩
二間半　十二間小　上田　同　壱畝壱歩
七間　二間小　上田　同　弐畝拾六歩
二間小　拾間　上田　同　弐拾三歩
三間半　七間半小　上田　同　弐拾七歩
三間半　七間半小　上畑　同　弐畝弐拾七歩
拾七間半　三間半　上田　拾一歩入　同　壱畝拾七歩
三間半　十三間半　上畑　同　壱畝四歩　かと田　六畝廿六歩
二間半　十三間半　上畑　同　壱畝拾弐歩
拾六間半　十二間半　上田　同　弐畝拾九歩

作内　兵三郎　忠兵衛
九兵畑　同人　作右衛門
忠兵衛　作内　同人
兵三郎　兵三郎　九兵衛
兵三郎　忠兵衛　忠兵衛
作内　作内　九兵衛
加平次　兵三郎　作右衛門
兵三郎　新右衛門　九兵衛
忠兵衛　半四郎　忠兵衛
作内　今ハ四郎兵衛入　小五郎　吉藏
新右衛門　四郎兵衛　同人
半四郎　清三郎　半四郎
今ハ四郎兵衛入　小五郎　四郎兵衛　今ハ四郎兵衛入　兵三郎　吉藏
清三郎　四郎兵衛　作右衛門　兵三郎

十六間半　六間小　上田　同　三畝拾三歩
十四間半　十五間小　上田　廿七歩入　同　八畝八歩
十五間　四間　上畑　同　弐畝歩
十八間　卅九間半　上田　七十三歩入　同　弐反六畝四歩
二間　九間半　上田　同　拾九歩
三十四間　五間半　上田　同　六畝七歩
拾八間　廿一間半　上田　百十五歩入　同　壱反六畝廿二歩
廿一間　廿六間　上田　同　四畝五歩
十六間　九間半小　上田　六十六歩入　かと田　同　七畝拾弐歩
十四間半　十四間半　上田　同　五畝弐歩
十壱間　十三間半　上田　同　壱反八畝六歩
廿間　十二間　上田　五十歩入　同　九畝廿六歩
二間　五間半小　上田　十三歩入　同　四畝廿九歩
二間　八間半　上田　六十四歩入　同　五畝拾五歩
廿間　二間　上田　同　拾七歩
二間半　十間半　上田　廿三歩入　同　弐拾五歩
同　弐拾歩
同　壱畝拾九歩

四間半
十間半
上畑
同
壱畝拾七歩
あんのうしろ
八畝拾七歩
上田
拾三間半
十九間半
上田
同
五弐拾八歩
あんのうしろ
八畝廿壱歩
十四間
十二間
上田
同
弐畝拾壱歩
廿五間半
十間小
上畑
同
弐拾六歩
三間小
八間
上田
同
四畝拾八歩
六間
十一間半
上田
同
六畝廿八歩
十二間半
十一間
上田
安ノ後
五畝弐拾二歩
廿間半小
拾間
上田
拾四間
小間
上田
池田
弐反三畝拾九歩
三十一間半
廿二間半
上田
拾壱間
十一間小
上田
同
四畝四歩
拾壱間半
十三間半
上田
同
七畝九歩
廿三間
拾壱間
上田
四十一歩入
池田
弐畝弐歩
七十歩入
上田
同
九畝廿四歩
六間半小
廿一間小
上田
同
四畝廿三歩
七間小
八間半
上田
同
九畝六歩
廿三間半
十一間半小
上田
同
壱畝七歩
四間
九間小
上田

同　人
作右衛門
同　人
忠　兵　衛
總　兵　衛
四郎兵衛
庄　五　郎
新右衛門
長　三　郎
新右衛門
今ハ四郎兵衛入但替地
作　内
四郎兵衛
同　人
同　人
吉　藏
九　兵　衛
同　人
新右衛門

六間半
八間半
上田
同
壱畝廿五歩
十一間半
九間小
上田
同
三畝拾六歩
廿六間半
八間半小
上田
拾一歩入
さし柳
八畝三歩
卅間半
八間
上田
さし柳
八畝四歩
四間
八間
上田
同
壱畝弐歩
五間半小
五間
上田
同
弐拾九歩
十間半
廿二間半
上田
三十八歩入
さし柳
九畝四歩
三間
五間半
上畑
廿一歩入
壱畝八歩
廿間小
三間半
上田
同
四畝拾六歩
六間小
七間小
上畑
六十五歩入
同
壱歩拾五歩
四間半
十一間半
上畑
同
壱畝拾歩
三間半
十一間半
上畑
同
壱畝廿二歩
四間半
十一間半
上田
同
弐拾八歩
九間小
三間
上畑
同
三畝歩
九間半
九間半
上田
同
弐畝拾四歩
五間半
十三間半
上田
同
三畝弐拾二歩
九間半小
十一間半
上田
同
弐拾四歩
四間
六間
上畑
同
壱畝廿六歩
十三間
三間半
上田
十歩入

總　兵　衛
同　人
同　人
作右衛門
同　人
九　兵　衛
清　三　郎
同　人
半　四　郎
吉　藏
可　平　次
同　人
吉　藏
作右衛門
同　人
同　人

壱間
六間
中畑
上田

壱間
五間半小
中畑
二歩入
上田

拾五間小
七間
上田
同
一畝拾七歩

拾五間半
六間半
上田
同
二畝八歩

拾一間
卅間半小
上田
廿一歩入
上田
同
二畝拾四歩
北池田
壱反壱畝八歩

九間半
卅五間半
上田
同
壱反壱畝七歩

廿二間半小
十二間小
上田
同
九畝九歩

十一間半小
十三間
上田
十七歩入
中畑
同
五畝廿歩

壱間
六間小
上田
同
弐拾五歩
北池田
壱反四歩

拾九間
十六間
上田
同
壱反弐畝拾九歩

廿間半小
十八間小
上田
同
六畝拾歩

拾六間半
十一間半
上田
同
五畝弐歩
さし柳
弐畝三歩

十四間半
十間半
上田
同
三畝五歩

五間半小
十一間
上田
同
三畝弐拾歩

九間半
十間
上田
同
人

十間
十一間
上田
同
人

さし柳
六歩
同
壱畝四歩

同
一畝拾七歩

同
二畝八歩

同
二畝拾四歩

同
壱反壱畝八歩

同
壱反壱畝七歩

同
九畝九歩

同
五畝廿歩

同
六歩

同
壱反四歩

同
壱反弐畝拾九歩

同
六畝拾歩

同
五畝弐歩
さし柳
弐畝三歩

同
三畝五歩

同
三畝弐拾歩

作右衛門
半四郎
九兵衛
同人

今ハ四郎兵衛入
四郎兵
庄五郎
同人

吉藏
同人

四郎兵衛
同人

可平次
同人

作内
同人

兵三郎
同人

同人

八間半
廿五間半
上田
廿六間半
九間半
廿八歩入
上田
廿四間半小
十間半
廿八歩入
上田
十四間半
十間半小
上田
十間半
十二間半小
上田
三間半
三間半小
七歩入
中畑
上田
七間半小
四間半
上田
廿八間半
四間半小
廿五歩入
上田
三間小
八間小
上田
十一間半
七間
上畑
十間半
三間
上畑
九間
九間
上畑
六間
十一間
上畑
六間半小
十一間半小
上畑
九間半小
壱間半
上田
八間半
廿八間
上田
弐拾間
五間小
上畑
七拾九歩入
上田
弐間半
十七間半
廿九間小
二間半小
上田

同
九畝九歩

同
九畝拾三歩

同
五畝六歩

同
四畝拾四歩

さし柳
壱畝五歩
同
吉藏

同
弐拾歩
同
人

同
弐拾七歩
同
人

同
五畝八歩
同
九兵衛

同
弐畝歩
同
人

同
弐畝廿壱歩
同
総兵衛

同
弐畝廿壱歩
同
茂兵衛

同
弐畝六歩
さし柳北
弐畝拾三歩
同
拾五歩

同
七畝弐拾八歩

同
壱畝拾四歩
中はざま
弐畝廿弐歩

同
六畝四歩
総兵衛

今ハ四郎兵衛入替地
四郎兵衛

同
人

九兵衛
総兵衛
久助
吉藏
同人
同人
九兵衛
同人
総兵衛
茂兵衛入替地
総兵衛
長三郎
総兵衛
四郎兵衛
同人

廿間　三間　上田　同　三畝八歩　同　人
三十八歩入　同　人
五間半　六間半　上畑　壱畝六歩　同　長三郎
拾六間半小　八間　上田　同　四畝拾四歩　同　庄五郎
三十九間　八間半小　上田　同　壱反弐畝拾五歩　同　衛兵衛
三十四歩入　十五間半　九間半　上畑　同　四畝廿四歩　同　同人
八間半　八間　上畑　同　弐畝八歩　同　新右衛門
拾間　七間　上畑　同　弐畝拾歩　同　作内
十八間小　四間半　上田　同　弐歩廿二歩　中はざま　総兵衛
十六間　四間半　上田　同　弐畝拾弐歩　同　四郎兵衛
十五間小　三間半　上田　同　壱畝廿三歩　同　長三郎
弐間半　十間半　上田　同　弐拾六歩　同　作右衛門
三間小　十九間　上田　拾歩入　同　弐畝拾弐歩　同　長三郎
四間　五間　下田　同　弐拾歩　同　新右衛門
四間　七間　下田　同　弐八歩　西池ノ川　総兵衛
十間　九間　下田　六十七歩入　同　五畝七歩　同　さく
五間　五間半　下田　同　弐拾八歩　同　九兵衛
十九間　五間　下田　同　三畝五歩　同　与さく
拾一間　二間半　下田　同　弐拾八歩　拾四歩新右衛門　十四歩宇作　与作

八間　壱間半　下田　同　拾弐歩　同　九兵衛
九間小　廿二間半　上田　廿九歩入　西おこし　七畝廿七歩　同　人
拾六間　拾弐間　上田　廿九歩入　同　六畝拾二歩　同　人
三間半小　三間半小　中畑　拾歩入　同　弐拾歩　同　人
拾間小　七間　上田　同　弐拾弐歩　新右衛門
拾六間半　九間　上畑　同　四畝廿五歩　藤兵衛
拾六間　三間小　上田　同　壱畝廿二歩　長三郎
拾三間小　四間　上田　廿壱歩入　同　弐畝拾四歩　四郎兵衛
拾六間半　三間半　上田　廿六歩入　同　弐畝弐拾四歩　同　人
八間半　三間　上田　同　弐拾六歩　同　人
拾八間半　七間半小　上田　同　四畝弐拾三歩　くみの木田　同　人
廿五間半小　四間半　上田　七十七歩入　くみの木田　六畝拾二歩　九兵衛
十一間半　廿九間小　上田　同　八畝廿三歩　吉藏
廿一間半小　九間半　上田　五十六歩入　同　六畝五歩　九兵衛
拾七間小　拾間半小　上田　同　五畝弐拾二歩　西池田　吉藏
拾五間小　十一間小　上田　西池田　八畝六歩　同　人
廿五間小　九間半小　上田　同　壱反三畝拾二歩　今ハ四郎兵衛入　庄五郎てら
八間　五十間小　上田　同　壱畝廿歩　今ハ四郎兵衛入　庄五郎てら

廿四間半小　九間小　上田　同　七畝拾九歩
廿間　十五間　上田　同　壱反歩
七間小　十間　上田　同　弐畝拾三歩
拾四間半　八間半　中田　三反田　四畝三歩
十間半小　四拾三間小　上田　同　壱反五畝拾五歩
拾壱間小　六間　上田　弐畝八歩
拾五間　五間半　上田　同　弐畝弐拾三歩
五間半小　四拾間半　上田　同　七畝弐拾三歩
五間半　十三間　中田　同　弐畝拾二歩
廿六間　五間小　中田　同　四畝拾七歩
拾間半小　拾弐間　上田　同　四畝九歩
九間小　十三間小　中田　同　四畝七歩
拾一間小　六間　上田　同　弐畝八歩
廿二間半小　五間小　上田　同　三畝廿九歩
廿一間半小　六間　上田　同　四畝拾壱歩
廿三間小　十二間　上田　同　九畝九歩
十四間小　卅二間小　上田　百八歩入　三反田　壱反八畝廿八歩
七間半　四十四間小　中田　同　壱反壱畝二歩

新右衛門　作　内　同　人　作右衛門　総兵衛　半四郎　同　人　新右衛門　長三郎　同　人　総兵衛　作右衛門　総兵衛　同　人　四郎兵衛　同　人　忠兵衛　作　内

十一間小　四十四間小　上田　新右衛門
拾一間半　八間半小　上田　作　内
八間半　五間半小　上田　作右衛門
壱間半　六間　下畑　総兵衛
六間半　十四間　上田　同　人
拾二間　七間　中田　半四郎
廿三間　七間　下田　廿一歩入　上田　長三郎
十四間　十一間　中畑　同　人
廿二間半　十四間半　下田　総兵衛
十六間半　十間半　上田　作右衛門
四間　六間　上田　同　人
拾間　十六間半小　上田　同　人
十三間　四間小　上田　卅歩入　四郎兵衛
十間半　十三間半　上田　同　人
十四間小　十六間半小　中田　同　人
八間半　十七間半小　上田　忠兵衛
十四間半小　十九間半　上田　内

同　壱反六畝拾八歩　同　人
三畝拾壱歩　作右衛門
同　壱畝拾九歩　総兵衛
九歩　半四郎
三畝壱歩　吉　藏
弐畝拾五歩　同　人
五畝廿五歩　可平次
拾五歩　長三郎
五畝拾壱歩　同　人
弐畝廿四歩　総兵衛
壱反拾九歩　吉　藏
池田　五畝廿三歩　可平次
弐拾四歩　茂兵衛
五畝拾八歩　作右衛門
弐畝廿五歩　吉　衛
四畝廿二歩　総兵衛
三畝六歩　同　人
五畝壱歩　半四郎
九畝拾八歩

十四間　十壱間　上田　同五畝四歩　作右衛門
十壱間　六間半　五間半小　上田　同壱畝四歩　長三郎
三間　四間　中畑　池田西　拾弐歩　忠兵衛
十三間半　十八間半　上田　同八畝三歩　同人
十三間半　十七間小　上田　同壱反五畝廿歩　内四畝四歩新介入替地　四郎兵衛
廿六間　十間小　上田　同九畝三歩　清三郎
廿間半小　廿四間半　上田　拾四歩入　同壱反五歩　半四郎
拾八間半　十二間半　上田　同壱反六歩　忠兵衛
六間半　八間　上田　池田　壱畝廿二歩　清三郎
四間小　十間半小　上田　八十一歩入同　五畝三歩　半四郎
廿間半小　廿二間　上田　同八畝九歩　同人
十五間　十五間半　上田　同八畝歩　忠兵衛
廿六間　八間　下畑　四歩入　池田　拾弐歩　同人
十一間半小　十三間半　上田　小橋　八畝壱歩　九兵衛
廿六間　九間小　上田　同四畝九歩　長三郎
九間小　十五間半小　上田　同四畝廿六歩　新右衛門
拾三間小　九間半小　上田　太田　五畝廿壱歩　半四郎
拾壱間　十五間半　上田　同　九兵衛

五間半　四間　上田　同弐拾弐歩　作右衛門
四間小　廿間　上田　同弐畝廿五歩　長三郎
廿二間　十二間半小　上田　同九畝拾壱歩　忠兵衛
十一間　八間半小　上田　同三畝六歩　同人
四間半　六間半小　上田　同弐拾七歩　新右衛門
十二間　六間半　上田　五十三歩入　太田　拾三歩　吉蔵
拾間半　八間半小　上田　同三畝弐歩　九兵衛
十四間半　九間半小　上田　同四畝廿歩　作右衛門
十二間半　十一間半　上田　同四畝廿四歩　作右衛門　今八四郎兵衛入
拾六間小　十二間小　中田　同六　拾九歩　九兵衛
十八間小　廿弐間小　上田　同壱反三畝拾弐歩　同人
十八間　十三間　上田　同七畝弐拾四歩　同人
七間　廿間　上田　同四歩廿歩　同人
六間半　六間半　上田　五十九歩入　同三畝八歩　同人　今八四郎兵衛入
三間小　十四間　上畑　同壱畝拾六歩　兵三郎
十三間小　五間半　上田　同弐畝拾三歩　吉蔵
拾間　八間半　上田　太田　三畝拾三歩　総兵衛
十四間半　十八歩入　同　人

五間四間半　上畑　同　弐拾三歩　吉藏
二間半六間半　上田　同　拾六歩　同人
廿三間半壱間半　上田　同　壱畝五歩　同人
四間十間　上畑　同　壱畝拾歩　同人
三間十五間半　上田　同　壱畝拾七歩　半四郎
五間半小卅七間　上畑　同　七畝三歩　新右衛門
弐間半小卅六間　下田　馬堤　三畝九歩　半四郎
二間半廿二間半小　上田　同　弐畝廿歩　同人
四間半十一間半　上田　廿三歩入　同　三畝七歩　四郎兵衛
廿五間四間小　上田　四十五歩入　同　三畝拾六歩　同人
七間十一間半　上畑　同　弐畝廿壱歩　同人
六間二間半　中畑　南はざま　拾五歩　総兵衛
廿壱間五間半小　中畑　拾二歩入　同　四畝拾三歩　今ハ四郎兵衛入　兵三郎
二間十間　上畑　同　弐拾歩　同　弐拾四歩　兵吉
六間四間　上畑　同　壱畝廿二歩　同　五畝廿四歩　同　四郎兵衛
十二間半三間半　上田　八歩入　上田　三十五歩入　同　弐畝廿八歩　上畑　同人

三間十一間　上田　同　壱畝三歩　同人
五間小廿五間半　上畑　同　弐拾八歩　同　四畝拾四歩　同　壱畝三歩　吉藏
二間十四間　上田　同　壱畝五歩　同人
四間廿七間半　上畑　南はざま　三畝廿歩　半四郎
三間小十一間　上田　同　壱畝六歩　同人
八間半三間半小　下田　廿歩入　同　壱畝廿二歩　同人
四間半小十二間半小　上畑　同　弐畝壱歩　同人
壱間半卅壱間半　下田　同　壱畝拾七歩　吉藏
七間半小十七間　下畑　同　四畝拾弐歩　九兵衛
五間半小十三間半　上田　同　弐畝拾八歩　さく内
十五間半九間半小　上畑　拾九歩入　同　五畝廿歩　可平次
六間十六間　上畑　同　三畝六歩　四郎兵衛
廿三間小五間　上田　廿九歩入　同　四畝廿五歩　可平次
八間小五間半　上田　同　弐畝六歩　総兵衛
五間半九間半　上田　同　壱畝廿二歩　可平次
九間半八間半　上田　十九歩入　同　三畝拾歩　同人
壱間半六間　上畑　二歩入　同　弐拾八歩　長三郎
同　拾壱歩　半四郎

四間半小八間半　上田　同壱畝七歩　清三郎
三間半七間小　上田　弐畝弐拾五歩　可平次
拾五間七間　上田　弐畝拾五歩　同人
六間九間半小　上田　壱畝廿九歩　作右衛門
五間十八間半小　上田　三畝四歩　同人
九間半廿二間半　上田　七畝四歩　吉蔵
九間十三間　上畑　三畝廿七歩　作右衛門
八間十三間半　上畑　三畝拾八歩　同人
二間廿二間　下田廿八歩入　弐畝拾二歩　同人
九間半廿三間小　上畑　七畝拾壱歩　同人
七間半壱間半　上畑　拾壱歩　同人
四間半小弐拾間　下田　三畝五歩　同人
八間半十間小　上田　弐畝弐拾七歩　同人
六間半三十間半　上田　六畝拾八歩　同人
四間半五十一間半　上田三歩入　六畝廿九歩　同人
壱間半廿三間　上畑　壱畝拾四歩　同人
五間小廿七間半小　中畑八拾二歩入　七畝拾八歩　はざば　四郎兵衛
廿三間六間半　上畑　五畝歩　同人

十四間四間半　上畑　弐畝三歩　同
四間十六間　上畑　弐畝四歩　同
七間半十六間半　上田七十五歩入　六畝拾九歩　同
廿一間八間　上畑　五畝拾八歩　同
三間半廿二間　上田　弐畝拾七歩　同
廿二間五間　上畑　三畝廿歩　同
三間十三間　上田　壱畝九歩　同
十二間半四間小　上畑　壱畝廿三歩　小屋敷
十一間半四間半　上畑　壱畝廿歩　同
廿六間四間小　上田　三畝廿壱歩　はさは
拾弐間十三間　上畑　五畝六歩　同
拾六間十五間半　上田五十四歩入　壱反弐歩　同
壱間九間　上畑　九歩　同
二間半廿一間半　上畑　壱畝廿四歩　同
六間廿四間小　上田　四畝廿六歩　同
四間半廿弐間半　上畑　三畝拾壱歩　同
十一間半十一間半　上田　四畝七歩　林
十一間半小拾間　上田　三畝廿八歩　同

四郎兵衛　今ハ四郎兵衛入替地　総兵衛
四郎兵衛　総兵衛
同　人　四郎兵衛
同　人　九兵衛
同　人　総兵衛
同　人　四郎兵衛
同　人　同
同　人　忠兵衛
同　人　四郎兵衛
同　人　吉蔵

十二間半小　廿五間小　上田　同　壱反弐畝壱歩
四間半　九間半小　上田　廿九歩入　同　壱畝拾四歩
二間　四間　上田　同　八歩
四間　二間半　上畑　同　拾歩
十九間半　十三間半小　上田　廿五歩入　林　九畝廿三歩
八間　五間半　上田　同　壱畝拾四歩
十一間小　十二間小　上田　同　四畝拾八歩
十八間小　十五間小　上田　三十六歩入　同　壱反拾四歩
七間半　五間半　上田　同　壱畝拾壱歩

上田合計拾三町八反壱畝廿六歩
中田合六反九畝拾三歩
下田合五反弐拾三歩
上畑合三町五反九畝壱歩
中畑合三反弐歩
下畑合壱反九歩
上中下田畑合拾九町壱畝拾四歩

正保五年
戊子二月廿九日

丸橋小兵衛㊞
伊藤清太夫㊞
片岡太兵衛㊞
竿取　後藤徳右衛門㊞

四郎兵衛
吉　蔵
總兵衛
同　人
作右衛門
同　人
四郎兵衛
同　人
與　作

仝　水谷二郎左衛門㊞

墨付五拾枚㊞㊞㊞

四一　根古地新田検地帳

○瑞穂　後藤有康氏所蔵

（表紙）「慶安五年　五冊之内

案内者　甚　九　郎　同
七郎兵衛　同
三郎左衛門　同
次郎兵衛　同

濃州多藝郡根古地新田検地縄帳

壬辰二月廿四日

案内者　五郎右衛門　同
又左衛門　同
金三郎　同
久左衛門　同
兵右衛門」　同

| | | |

| | | |

| | | |

七拾三間小　上田
弐拾五間半　同所
四拾七間半小上田
七拾四間
三拾六間半　中田
拾五間小
三拾八間半小下田
五拾壱間半
八間半　下田
三拾九間半小
五拾七間半　中田
五間
六間半　下田
五拾壱間小
四拾二間半　中田
弐拾八間半
十歩入
三拾八間小　下田
八間
弐拾四間半　下田
弐拾弐間
六間半小　下田
七間
九拾間　下田
七間半
弐拾四間　下田
七間半
弐拾八間　下田
七間半

同所　六反壱畝拾三歩　同　人
同所　壱町壱反七畝廿四歩　同　人
前池かわ　壱反八畝十七歩　彌左衛門
同所　七反四畝四歩　本田　同　人
同所　壱反壱畝八歩　八左衛門
柳原　九畝拾八歩　金三郎
同所　壱反弐畝十四歩　八左衛門
同所　壱反九畝一歩　善介
同所　四反壱畝十二歩　總兵衛
同所　壱反四歩　みる　覺兵衛
同所　壱反六畝廿四歩　藤兵衛
四畝八歩　同　人
同所　四反七畝廿三歩　本田　久左衛門
同所　九畝六歩　本田　彦介
同所　壱畝拾七歩　本田　作介
同所　弐反弐畝拾五歩　本田　又左衛門
同所　三畝拾五歩　本田　小左衛門
同所　七畝歩　本田　與吉

弐拾八間半　下田
六間
弐拾八間半　下田
八間半小
弐拾八間半　下田
七間
弐拾八間半　下田
二拾八間　下田
拾間半
弐拾八間　下田
七間半
弐拾八間　下田
八間
弐拾七間半　下田
拾間
弐拾五間半　下田
拾五間小
弐拾四間半　中田
弐拾五間半小
弐拾三間半小下田
六間小
三拾間小　下田
七間半小
七間小　下田
三拾三間半
三拾壱間半　下田
拾間半
拾間半　下田
三拾二間小
拾三間半　下田
百卅三間半小
九拾間　上田
三間
三拾七間半　中田
弐拾八間
六拾五間半　上田
弐拾弐間半

同所　五畝廿壱歩
同所　八畝九歩
同所　六畝廿歩
同所　九畝廿四歩
同所　七畝歩
同所　七畝拾四歩
同所　九畝五歩
同所　壱反弐畝廿九歩
同所　壱反弐畝廿六歩
同所　四畝廿八歩
同所　七畝弐拾四歩
八畝三歩
壱反壱畝壱歩
壱反壱畝九歩
同所　六反六歩　前池北かわ
同所　三反五畝歩
同所　四反九畝四歩

本田　勘次
本田　小右衛門
本田　市右衛門
本田　耀兵衛
本田　小左衛門
本田　忠右衛門
本田　正明寺
本田　作介
本田　勘次
本田　七郎左衛門
本田　市右衛門
本田　又左衛門
本田　勘次郎
同　人
久左衛門
半七
同　人
同　人

四拾九間
十三間半小
上田
同所
二反弐畝拾四歩

拾壱間半
十三間小
上田
同所
四畝廿九歩

拾四間小
十間小
上田
同所
四畝弐拾六歩

拾八間半
九間半
上田
同所
五畝弐拾六歩

九間
拾八間半
上田
同所
五畝拾七歩

拾四間半
拾間
上田
同所
四畝弐拾五歩

拾間半小
拾七間半小
上田
同所
六畝拾一歩

拾弐間半
七間半小
上田
同所
三畝七歩

拾参間半
四間
上田
同所
壱畝廿四歩

拾壱間半
五間半小
上田
同所
弐畝八歩

七間半
六拾弐間半
上田
同所
壱反五畝拾九歩

拾四間
七間小
上田
同所
三畝拾二歩

七間
六間
上田
壱畝拾二歩

九間半
三間半
上畑
壱畝三歩

拾七間半
七間小
上田
四畝七歩

弐拾壱間
七間小
上田
村前
五畝二歩

拾壱間小
八間
上田
三畝歩

拾九間
拾間
上畑
同所
六畝拾歩

本田
五郎右衛門

本田
久左衛門

本田
與　吉

本田
小左衛門

本田
與　吉

本田
作　介

本田
同　人

本田
七郎右衛門

本田
作　介

本田
又左衛門

本田
勘次郎

本田
正明寺

本田
同　人

本田
市右衛門

本田
甚九郎

本田
同　人

四拾六間半
六間
上田
九畝拾一歩

四拾七間
六間
上田
九畝拾二歩

四拾六間半小
六間
上田
九畝拾一歩

四拾六間
六間
上田
九畝拾一歩

三拾三間半
六間
上田
六畝廿壱歩

四拾六間半小
六間
上田
九畝拾一歩

四拾六間半小上
六間
上田
九畝拾壱歩

四拾間
八間小
上田
壱反壱畝歩

拾五間半
十壱間
上畑
五畝廿一歩

拾壱間小
四間
上田
壱畝拾五歩

拾八間
三間
上田
壱畝廿四歩

拾九間半
十四間
上田
九畝三歩

拾弐間半
拾間小
中田
四畝八歩

九間
拾九間小
中畑
五畝廿三歩

弐拾八間小
十三間
上畑
壱反弐畝七歩

拾八間半
二間小
中田
壱畝拾二歩

弐拾間半
拾壱間半
上田
七畝廿六歩

本田
忠右衛門

本田
小右衛門

本田
七郎右衛門

本田
正明寺

本田
與　吉

本田
勘次郎

本田
忠右衛門

本田
小左衛門

本田
七郎右衛門

本田
正明寺

本田
同　人

本田
同　人

本田
市右衛門

本田
甚九郎

本田
同　人

本田
彌左衛門

| | | |

| | | |

拾四間半　上畑　同所　五畝廿八歩　市郎右衛門
十二間小　同所　六畝廿八歩　同　人
弐拾六間　上畑
弐拾間半小　上田　同所　五畝六歩　同　人
七間半　上田　同所　廿七歩　徳左衛門
弐拾八間　上畑　同所　壱畝拾八歩　同　人
壱間半　上田　同所　壱畝拾八歩　同　人
弐拾七間半　上田　同所　拾四歩　同　人
壱間半小　上田　同所　壱畝拾九歩　市郎右衛門
五間　上畑　同所　壱畝拾八歩　同　人
弐間半　上田　同所　七畝三歩　正明寺隠居
弐拾間半小　上畑　同所　弐畝四歩　同　人
七間　上畑　同所　六畝五歩　同　人
弐拾間小　上畑　同所　弐畝歩　同　人
七間　下田　同所　六畝歩　同　人
拾七間　下田　同所　弐畝四歩　同　人
三間半小　同所　七畝三歩　同　人
拾八間　上畑　同所　六畝五歩　同　人
十間小　上田　同所　弐畝歩　同　人
拾間　下田　同所　三畝廿七歩　甚九郎
六間　中畑　同所　六歩　同　人
四間半　同所　廿七歩　小左衛門
壱間半　下田　同所　壱畝七歩　同　人
三間半　上田　同所　三畝廿七歩　甚九郎
九間　同所　三畝九歩　同　人
拾三間　中田　同所　弐畝廿三歩
十三間半小　九歩入　上田
五間　四歩入
拾間半　上田　同所　六畝廿八歩　市郎右衛門
十二間小　同所　五畝六歩　同　人
弐拾六間　上畑
弐拾間半小　上田　同所　廿七歩　徳左衛門
七間半　上畑　同所　壱畝拾八歩　同　人
弐拾間半　上田　同所　壱畝拾八歩　同　人
壱間半　上田　同所　拾四歩　同　人
弐拾七間半　上田　同所　壱畝拾九歩　市郎右衛門
壱間半小　同所　壱畝七歩　同　人
弐拾間半小　上畑　同所　七畝三歩　正明寺隠居
拾間小　上畑　同所　弐畝四歩　同　人
七間　下田　同所　六畝五歩　同　人
七間　上畑　同所　弐畝歩　同　人
弐拾間小　上畑　同所　六畝歩　同　人
拾七間　下田　同所　弐畝四歩　同　人
三間半小　同所　七畝三歩　同　人
拾八間　上畑　同所　六畝五歩　同　人
十間小　上田　同所　弐畝歩　同　人
拾間　下田　同所　三畝廿七歩　甚九郎
六間　中畑　同所　六歩　同　人
四間半　同所　廿七歩　小左衛門
壱間半　下田　同所　壱畝七歩　同　人
三間半　上田　同所　三畝廿七歩　甚九郎
九間　同所　三畝九歩　同　人
拾三間　中田　同所　弐畝廿三歩
十三間半小　九歩入　上田
五間　四歩入

拾間半　上田　同所　弐畝八歩　同　人
六間半
七間半小　上田　同所　壱畝廿歩　同　人
六間半
八間　上田　同所　三畝六歩　徳左衛門
十二間
七間半小　下畑　同所　弐拾九歩　同　人
三間半小
五間　中田　同所　弐拾八歩　同　人
半
八間　下田　同所　壱畝歩　同　人
三間半小
拾四間　中田　同所　四畝廿六歩　同　人
九間小　十六歩入
拾八間半　中田　同所　六畝歩　五郎右衛門
九間小
拾弐間　中田　同所　弐畝廿四歩　同　人
拾弐間小　上田　同所　四畝拾五歩　市郎右衛門
拾弐間　同所　四畝拾一歩　中間地
弐間半　下田　同所　弐畝廿八歩　中間地
拾壱間　下田　同所　三畝廿歩　同　人
十間
拾八間　上畑　同所　壱畝九歩　同　人
七間半小
五間
拾間小　上田　同所　弐畝廿歩　同　人
六間　廿六歩入
拾九間　中田　同所　弐畝廿一歩　兵右衛門
十間　三十九歩入
弐拾壱間半　中田　同所　老反拾九歩　中間地
十三間　同所　六畝拾歩　同　断

拾五間半五間半	上田	同所弐畝廿五歩	同　断
弐拾二間五間半	上田	同所四畝壱歩	同　断
七間半三間小	上田	同所壱畝廿五歩	同　断
四間半二間	下田	三十一歩入同所拾七歩	兵右衛門
拾四間半弐間半	下田	八歩入同所壱畝六歩	小右衛門
五間小七間	上田	同所壱畝七歩	同　人
拾六間三間	下畑	同所壱畝拾八歩	同　人
八間半六間半	上田	同所壱畝廿五歩	小右衛門
五間三間	下畑	同所拾五歩	甚九郎
四間半四間	下田	同所拾八歩	次郎兵衛
拾壱間半十一間半	中田	同所四畝拾二歩	甚九郎
九間半小	上田	同所七歩	小右衛門
拾六間半小九間小	上畑	同所四畝廿六歩	甚九郎
五間半九間半	上畑	同所壱畝廿二歩	同　人
拾五間半拾弐間半	上畑	六歩入同所六畝廿歩	同　人
弐拾四間十三間半小	上畑	同所壱反壱畝歩	源右衛門
拾壱間半九間	上田	わくの池三畝拾四歩	大工覺兵衛
拾六間半九拾三間半	中田	五反壱畝十三歩	甚九郎

上田合拾七町六反八畝拾三歩
中田合　六町六反三畝弐拾九歩
下田合　四町弐反七畝壱歩
上畑合　四町四反六畝拾壱歩
中畑　壱町五反六畝四歩
下畑　壱反壱畝壱歩
田畑合　三拾四町七反弐畝廿九歩

慶安五年
辰二月廿四日

下平彌之兵衛㊞
竹之内六之丞㊞
根岸彌兵衛㊞
神田兵左衛門㊞
片岡太郎兵衛㊞
岩田六郎兵衛㊞
後藤德右衛門　さを取
中原物兵衛　同
中木善右衛門　同
安藤茂右衛門　同

墨付三拾三枚上紙共㊞
㊞㊞

（表紙）

「　慶安五年　五冊之内

濃州多藝郡根古地新田検地縄帳

壬辰二月廿四日

| | | |

| | | |

| | | |

| | | |

| | | |

三十五間　三拾六間半　下田　同所　四反弐畝十八歩　同　人
三十壱間　弐拾四間小　中田　同所　弐反五畝二歩　甚九郎
拾六間半　弐拾間半小　中田　同所　老反壱畝十二歩　三十郎
十七間小　拾壱間小　中田　同所　六畝十歩　甚九郎
五拾四間　拾五間小　上田　同所　弐反七畝十四歩　市郎右衛門
拾五間　七拾四間　上田　同所　三反七畝歩　又左衛門
八間　拾七間半　上田　四畝弐拾歩　市郎右衛門
三拾弐間　拾五間　上田　同所　老反六畝歩　又左衛門
弐拾間　拾五間　上田　同所　老反歩　同　人
弐拾三間　拾八間　下田　同所　老反三畝廿四歩　同　人
弐拾四間半　拾八間　下田　同所　老反五畝三歩　源右衛門
三拾三間半　弐拾壱間半小　上田　同所　弐反六畝廿六歩　又左衛門
弐拾七間半　拾壱間　中田　同所　六畝七歩　又左衛門
三拾壱間半小　弐拾間小　上田　同所　八畝弐拾三歩　彦　兵衛
十三間半小　弐拾壱間半　上田　同所　六畝十六歩　源右衛門
十七間半　拾壱間半　上田　同所　老反四畝十七歩　彦　兵衛
九間　三拾九間　上田　同所　老反老畝廿一歩　又左衛門
八間半　拾八間　上畑　同所　五畝三歩　又左衛門

弐拾六間　弐拾壱間　下田　同所　老反老畝六歩　同　人
弐拾三間　七間半小　上畑　同所　三畝拾壱歩　又左衛門
弐拾壱間　拾壱間半　下田　同所　六畝拾三歩　同　人
弐拾五間　十弐間半小　上田　同所　老反拾九歩　源右衛門
拾六間　拾七間半　中畑　同所　三畝弐拾四歩　又左衛門
拾五間半小　六間　上田　同所　三畝五歩　源右衛門
拾五間　九間半　上畑　同所　四畝弐拾三歩　源右衛門
九間半　弐拾七間　下田　同所　八畝弐拾七歩　又左衛門
弐拾一間半　拾歩入　弐拾七間　上田　同所　老反九畝拾一歩　彦　兵衛
九間小　拾九間半小　上田　同所　六畝三歩　源右衛門
九間半　拾弐間　上田　同所　三畝弐拾四歩　又左衛門
八間半小　弐拾壱間　中田　同所　弐畝拾二歩　彦　兵衛
五間半　弐拾八間半小　上田　同所　五畝八歩　同　人
四間小　弐拾三間半　十五歩入　上田　同所　三畝弐拾五歩　又左衛門
拾六間　八間小　中田　同所　四畝拾二歩　源右衛門
拾四間　九間　上畑　同所　四畝六歩　彦　兵衛
拾四間小　十三間小　弐拾七歩入　上畑　同所　七畝六歩　又左衛門
拾弐間小　十弐間小　上田　五畝歩　源右衛門

| | | |

弐拾五間　上田　同所八畝拾歩
弐拾弐間小　十三間　上田　同所九畝拾九歩
六間　弐間　上畑　同所壱畝拾七歩
拾弐間　十三間　三十五歩入　上田　同所五畝六歩
拾五間半　十六間半　上田　同所壱反拾七歩
拾九間　拾壱間半小　六十壱歩入　上畑　同所七畝八歩
六間半　六間　中田　同所壱畝九歩
弐拾六間　十四間　下田　同所壱反三畝歩
拾間　六間　弐拾六歩入　下田　同所弐畝歩
九間半　十三間　下田　同所四畝弐拾八歩
四間　三間　弐拾四歩入　下田　同所弐拾弐歩
拾壱間半　七間　拾歩入　下田　同所弐畝弐拾一歩
弐拾五間　四間　上田　同所三畝弐拾四歩
六間　六間半　十四歩入　上田　同所壱畝九歩
七間半　五間小　上畑　同所壱畝九歩
七間半　八間　上田　同所弐畝歩
六間　五間半小　上畑　同所壱畝五歩

上田合拾五町八反六畝弐歩

彦　助
小右衛門
甚九郎
正明寺　隠居
同　人
正明寺
同　人
神　田
甚九郎
同　人
次郎兵衛
神　田
彦　介
作十郎
同　人
市郎右衛門
同　人

中田合七町壱反六畝拾九歩
下田合拾弐町弐反四畝四歩
上畑合五町九反壱畝廿三歩
中畑合壱町弐反八畝廿二歩
下畑合壱町七反弐畝壱歩
田畑合四拾四町壱反九畝拾壱歩

慶安五年
辰二月廿四日

下平彌之兵衛㊞
竹之内六之丞㊞
根岸彌兵衛㊞
神田兵左衛門㊞
岩田六郎兵衛㊞
片岡太郎兵衛㊞

篭取
同　中原惣兵衛
同　後藤徳右衛門
同　安藤茂右衛門
同　中木善右衛門

墨付弐拾八枚上紙共㊞
㊞㊞

（表紙）

慶安五年　五冊之内

濃州多藝郡根古地新田検地縄帳

壬辰二月廿四日

| | | |

弐拾弐間
五間半小
拾五間半
十八間半
拾間
十間小
拾間半
九間小
四拾壱間半
拾四間
三拾弐間半
三拾八間
四拾九間
四拾七間小
百七拾五間半小上田
百四拾九間
六拾七間小
百七拾三間
十八間
百七十三間
拾八間
百七拾七間半
拾六間半中田
百八拾五間
拾八間小
四拾四間
拾七間
三拾弐間
九間小
弐拾六間半
二十四間
三拾弐間
九間小
拾五間
十三間

中田　同所四畝七歩　源右衛門
同所　九畝九歩　又左衛門
村前　三畝拾三歩　又左衛門
中畑　同所　三畝七歩　彦兵衛
下田　同所　壱反九畝拾四歩　長兵衛
上田　同所　四反壱畝五歩　大牧　孫兵衛
上田　同所　弐町四反七畝拾五歩　久左衛門
下田　同所　三町三反四畝歩　三郎左衛門
下田　同所　壱町三畝弐拾四歩　甚九郎　三郎左衛門　五郎右衛門
下田　同所　壱町三畝廿四歩　三郎左衛門
下畑　同所　九反七畝拾九歩　小平太
上田　同所　壱町壱反弐畝十六歩　五郎右衛門
上田　同所　弐反四畝廿八歩　金三郎
下畑　根古地境拾五歩　同人
下畑　同所　七畝歩　小左衛門
上田　同所　弐反壱畝六歩　金三郎
上田　同所　九畝廿六歩　同人
同所　六畝拾五歩　同人

五間半
三拾壱間
八間
三拾壱間半
六拾壱間半小上田
五間
十間
弐間半
十間
六間小
七間小
中田
十間
六間
下畑
拾壱間
弐間
下畑
十九間
拾間半小
七歩入
上田
三十三歩入
下畑
拾弐間
弐間
八間
弐間半
上田
七間
四間半
上田
弐拾五間
十六間半
上田
弐拾間
六間
上田
拾壱間
七間半小
上田
九間小
下畑
十九間半
廿壱間半
上田
十七間
七間
上田

上田　五畝廿壱歩　同所　五兵衛
三拾壱間　八畝拾弐歩　同所　覚兵衛
上田　弐反拾八歩　同所　善次郎
六拾壱間半小上田　拾六歩　同所　五兵衛
下畑　弐拾五歩　覚兵衛
十間　下畑　弐畝歩　善次郎
弐間半　下畑　弐拾九歩　清六郎
十間　六間　下畑　七畝廿七歩　同人
中田　壱畝拾五歩　藤兵衛
六間小　七間小　下畑　弐十四歩　善次郎
弐間　下畑　弐畝二十三歩　同人
八間　弐間半　上田　弐拾歩　同人
七間　四間半　上田　壱畝弐歩　同人
弐拾五間　十六間半　上田　壱反三畝廿三歩　七左右衛門
弐拾間　六間　上田　四畝歩　藤兵衛
拾壱間　七間半小　上田　弐畝廿五歩　金三郎
九間小　下畑　弐畝二十三歩　同人
十九間半　廿壱間半　上田　壱反三畝廿九歩　加左衛門
十七間　七間　上田　三畝廿九歩

五間半
四間　上田　弐拾弐歩

六間半
十五間　上田　三畝八歩

拾四間小
十六間半　上田　七畝弐拾五歩

五十八間半
拾七間小　上田　三反三畝拾九歩

五拾八間
十弐間　上田　弐反三畝六歩

五拾間半
十七間半小　上田　弐反九畝廿六歩

四拾間
八間　上田　壱反弐拾歩

五拾八間
四拾間　下田　七反七畝拾歩

五拾間
弐拾壱間小　上田　三反五畝拾三歩

六拾四間半
三拾間　下田　六反四畝拾五歩

四拾弐間
拾六間半　中田　弐反三畝拾壱歩

弐拾壱間
拾参間　中田　九畝三歩

弐拾四間
二拾弐間　下田　壱反七畝拾八歩

拾間
三間半　中畑　駒野境　壱畝五歩

拾三間半小
十六間　中畑　同所　七畝拾歩

拾弐間半
十九間　上畑　七畝廿八歩

拾九間
拾八間小　上畑　十七歩入　壱反弐畝四歩

拾壱間半
弐拾弐間　中田　八畝拾三歩

同　人　　みる　久　兵　衛　　同所　作左衛門　　七郎兵衛　　同　人　　今尾　孫左衛門　　七郎兵衛　　同　人　　同　人　　三郎左衛門　　七郎兵衛　　藤　兵　衛　　甚九郎　　同　人　　大工　覚　兵　衛　　半　七　　甚九郎

弐拾間
拾三間　上田　八畝弐拾歩

拾間
三拾六間小　上田　壱反弐畝三歩

拾四間半小
十六間半小　下田　八畝七歩

六拾壱間半
弐拾六間　中田　五反三畝九歩

六拾八間半
弐拾八間　上田　五反九畝拾壱歩

弐拾三間
弐拾間　下田　壱反五畝拾歩

弐拾間
拾九間　下田　壱反弐畝廿歩

拾三間
弐拾五間　下田　壱反弐拾五歩

七間
弐間　下田　拾四歩

六間
四間　下田　弐拾四歩

六間
八間　下田　壱畝拾八歩

六間
六間　下田　壱畝六歩

三拾八間
八間　下田　壱反四歩

拾五間
三間　下田　壱畝拾五歩

拾三間半
十間　下田　四畝拾五歩

弐拾弐間
七間半小　上田　五畝弐拾壱歩

拾三間半
十四間　上田　六畝九歩

弐拾五間
十弐間半　上田　壱反拾三歩

孫　兵　衛　　同　人　　覚　兵　衛　　駒野　中　間　　覚　兵　衛　　神　田　　中　間　　中　間　　甚九郎　　同　人　　同　人　　同　人　　同　人　　駒野地　三郎左衛門　　同　人　　同　人

拾八間半　十六間半小　上畑　壱反拾歩　三郎左衛門
五間半　十五間半小　上田　弐畝廿七歩　同　人
弐拾七間　拾間　上畑　九畝歩　同　人
三拾五間半　三拾間　上畑　三反五畝拾五歩　同　人
三拾五間半小上田　壱反六畝三歩　同　人
四拾間　拾九間　上田　弐反五畝拾歩　五郎右衛門
四拾間　弐拾間　上畑　弐反六畝廿歩　同　人
弐拾弐間半　四拾三間小　中田　三反六畝廿四歩　三郎左衛門
百三十一歩入
拾間　六間　下田　弐畝歩　中　間
四拾七間　四拾弐間　上田　六反五畝廿四歩　三郎左衛門
四拾九間半　弐拾六間　上田　四反弐畝廿七歩　同　人
四拾六間　弐拾九間半　中田　四反五畝七歩　同　人
弐拾弐間　拾四間　下田　壱反八歩　同　人
四拾三間　拾壱間半　上畑　壱反六畝拾五歩　同　人　大牧
弐拾弐間半　弐拾六間　下田　壱反三畝拾五歩　孫兵衛
四十五歩入
拾弐間　八間　下田　三畝六歩　三郎左衛門
五拾壱間　四間　下田　六畝廿四歩　中　間
弐拾七間半　拾四間　中田　壱反弐畝廿五歩　同　断

弐拾九間　三拾間　中田　弐反九畝歩　中　間
四拾三間半　三拾七間　中田　五反三畝廿歩　同　断
五拾三間　四間　上田　七畝弐畑　同　断
三拾四間　八間半小　中畑　九畝廿八歩　又左衛門
三拾三間半　拾弐間　中畑　五畝拾弐歩　甚九郎　大工
弐拾壱間　八間半　上田　五畝弐拾九歩　覚兵衛
弐拾壱間半　弐拾弐間　上田　八畝拾三歩　中　間
五拾九間　拾六間半小　上田　三反弐畝廿八歩　伝頭地中間
弐拾四間　拾八間半小　上田　壱反五畝歩　孫兵衛　駒野
拾間小　拾四間半　上田　四畝廿九歩　覚兵衛　大場地
拾三間半　弐拾間半　上田　九畝七歩　甚九郎　同所
上田合拾壱町三反八畝弐拾三歩
中田合　三町八反六畝弐拾三歩
下田合　八町五反壱畝九歩
上畑合　壱町五反三畝弐歩
中畑合　五反九畝拾壱歩
下畑合　四反三畝廿九歩
田畑合弐拾六町三反三畝七歩

慶安五年
辰二月廿四日

下平彌之兵衛㊞
竹内六之丞㊞

墨付拾五枚上紙共㊞
㊞
㊞

（表紙）
「慶安五年　五冊之内

濃州多藝郡根古地新田検地縄帳

壬辰二月廿四日

根岸彌兵衛㊞
神田兵左衛門㊞
片岡太郎兵衛㊞
岩田六郎兵衛㊞
竿取
中原惣兵衛
後藤德右衛門
安藤茂右衛門
中木善右衛門

案内者
同　甚九郎
同　七郎兵衛
同　三郎左衛門
同　次郎兵衛

案内者
五郎右衛門
同　又左右衛門
同　金三郎

弐拾五間小 十六間	上田	壱反三畝拾四歩
十六間 弐拾五間小	上田	壱反三畝拾四歩
弐拾四間半 十四間	上田	壱反壱畝拾三歩
十四間 壱間	下畑	拾四歩
十三間半小 弐拾五間	上田	壱反壱畝拾四歩
拾三間半小 壱間	下畑	拾四歩
七拾壱間 七間	上田	壱反六畝拾七歩
弐拾七間 六間半	上田	五畝廿六歩
弐拾六間半小 六間半小	上田	六畝壱歩
弐拾五間 六間半	上田	五畝拾九歩
十三間半小 六間小	上田	弐畝弐拾六歩
六間半小 弐拾八間	上田	六畝九歩
六間半小 弐拾六間	上田	五畝廿六歩
弐拾四間小 六間半	上田	五畝八歩
七間 四拾九間半	中田	壱反壱畝拾七歩
拾五間半 六間半小	中田	三畝拾五歩

同　同

久左衛門	
兵右衛門」	
兵右衛門	
次郎兵衛	
兵右衛門	
同　人	
次郎兵衛	
次郎兵衛	
清兵衛	
茂兵衛	
加平次	
忠右衛門	
左　吉	
忠兵衛	
庄兵衛	
忠兵衛	
仁　介	
長四郎	

七間半　六間半小　下田　壱畝廿壱歩　七郎右衛門
弐拾三間　六間半　中田　五畝歩　小　作
弐拾間半　六間　中田　四畝三歩　長　四　郎
拾七間半小　六間半小　上田　四畝歩　半　四　郎
四間半　六間半小　上田　壱畝歩　小右衛門
拾九間　七間　中田　四畝拾三歩　小　作
拾七間半　七間小　上田　四畝七歩　彦左衛門
弐拾四間小　六間半小　上田　五畝拾四歩　七郎右衛門
弐拾間半　六間半　上田　四畝拾三歩　庄　三　郎
拾六間半　七間　上田　三畝廿六歩　作兵衛
八間半　七間　上田　弐畝歩　半　三　郎
七間　弐拾間半　上田　四畝廿四歩　給　物
七間半小　弐拾六間　上田　六畝廿弐歩　六　蔵
十八間半　七間半　上田　四畝拾九歩　茂左衛門
拾壱間　四間　中畑　壱畝拾四歩　同　人
八間半　七間小　中畑　弐畝弐歩　清兵衛
十七間　十六間　上田　九畝弐歩　同　人
弐拾六間　八間　下畑　六畝廿八歩　久右衛門

十八間　八間小　中畑　四畝廿九歩　介　作
四間　十壱間半小　中畑　六畝弐歩　清九郎
十四間　十壱間半小　十七歩入
十間半　九間小　中畑　三畝廿三歩　忠三郎
五間　十壱間半　十六歩入　北ノ堤くろ　弐畝三歩　上田　作兵衛
三間小　九間小　五歩入　上畑　壱畝歩　庄兵衛
十間半　六間小　上畑　弐畝六歩　長四郎
十三間半　五間半　上畑　弐畝拾四歩　作十郎
四間半　七間　下田　壱畝弐歩　市兵衛
三間半　下田　拾壱歩　彦左衛門
四間　五間　中畑　廿歩　次郎兵衛
十弐間半小　四間半　上畑　壱畝廿壱歩　兵右衛門
六間半　五間半　上畑　壱畝六歩　兵右衛門
十間半小　六間半　上畑　弐畝拾九歩　同　人
三間小　六間　九歩入　上畑　廿歩　同　人
壱間半　十三間　上畑　廿歩　庄兵衛
七間小　五間小　上畑　壱畝八歩　次郎兵衛
十三間　六間半　上田　四畝拾歩　庄兵衛
十弐間　十五間半小　四十五歩入　上畑　六畝九歩　作十郎

八間半　四間　上畑　壱畝四歩　藤右衛門
四間小　十三間　上畑　壱畝廿五歩　二郎左衛門
六間　四間小　中畑　廿六歩　同　人
七間半　三間　上畑　廿三歩　わなて　七畝拾弐歩　二郎左衛門
五間半　五間半小　下田　壱畝弐歩　九郎介
九間小　弐拾四間　中田　壱畝拾歩　小十郎
九間半　弐拾九間半　下田　九畝拾歩　庄次郎
四間半　三拾五間　下田　五畝八歩　清三郎
三拾五間　四間半　下田　同所　五畝八歩　半次
五間　三拾九間小　下田　同所　六畝拾六歩　長蔵
五間小　四拾三間半　下田　同所　七畝拾八歩　喜七
十七間半　七間半小　上田　同所　四畝拾三歩　半次
十七間　九間小　上田　同所　五畝七歩　九郎介
十五間半　九間　上田　同所　四畝廿歩　二郎左衛門
十五間　十間半小　上田　同所　五畝拾壱歩　彌右衛門
弐拾間半　十三間　上田　同所　八畝廿七歩　清兵衛
十四間　十間半　上田　同所　四畝廿七歩　與吉
十五間　九間半　上田　同所　四畝廿三歩　伊兵衛

十三間半小　七間　上田　同所　三畝六歩　小左衛門
十四間　九間半　上田　同所　四畝拾二歩　介次郎
拾弐間小　九間半　上田　同所　三畝廿六歩　彦介
十弐間小　四間半　上田　同所　壱畝廿五歩　三右衛門
四間小　十四間小　上田　同所　弐畝壱歩　給介
六間半　十五間　上田　同所　三畝九歩　清介
四拾三間　三間半　上田　同所　五畝壱歩　彌平次
三間半　四拾三間　上田　同所　五畝壱歩　長三郎
三間半小　四拾四間小　上田　同所　五畝拾六歩　喜七
四拾四間小　三間小　上田　同所　四畝廿四歩　勘次
三拾四間　三間小　上田　同所　三畝廿壱歩　長蔵
九間小　三間小　上田　同所　壱畝歩　同　人
三間半　十七間半　上畑　同所　弐畝壱歩　又蔵
弐拾六間　三間小　上田　同所　弐畝廿五歩　同　人
三間半　廿五間小　上田　廿二歩入　同所　三畝廿歩　左平次
拾弐間半　三間小　上畑　同所　壱畝拾壱歩　左平次
十五間　三間半　中畑　同所　壱畝廿三歩　四郎右衛門
上田　三間半小　弐拾五間小　十弐歩入　同所　三畝拾七歩　同　人

七間半小　上田　同所 壱畝廿八歩　仁右衛門
七間半小　中畑　同所 三畝壱歩　同　人
拾弐間半七間小　中畑　弐畝廿八歩　七　藏
十間八間半小　上田　弐拾八歩　同　人
八間半三間小　上田　わなて 壱畝拾歩　清　三　郎
十間四間　上田　壱畝拾歩　同　人
八間五間　中畑　壱畝廿五歩　作　介
十五間小五間半　中畑　弐畝弐拾四歩　同　人
十壱間五間　上田　廿歩入 三畝廿三歩　同　人
十三間小七間　中畑　弐拾九歩　同　人
七間小四間　上田　壱畝六歩　清　兵　衛
七間小五間　中畑　壱畝廿四歩　同　人
九間六間　中畑　六畝拾壱歩　同　人
十五間小十弐間半　上田　弐拾六歩　同　人
九間半弐間小　上田　わなて 弐拾歩　同　人
九間弐間小　上田　同 拾五歩　久　作
七間小弐間　中畑　同 弐畝廿五歩　同　人
十壱間七間半小　上畑　わなて 壱畝拾三歩　七　藏
八間半五間　

七間半六間　上田　同 壱畝拾五歩　久　作
八間小四間　上田　同 壱畝四歩　た　け
十壱間小八間　上畑　同 三畝歩　同　人
四間弐間　上田　同 拾四歩　同　人
七間弐間　中畑　同 八歩　同　人
七間半五間　中畑　同 壱畝八歩　清　介
八間六間　中畑　同 壱畝拾八歩　半　三　郎
八間半五間　中畑　同 壱畝拾四歩　彦左衛門
七間半四間半　中畑　同 壱畝四歩　三右衛門
六間五間　中畑　わなて 壱畝弐歩　孫　介
三間半三間　弐歩入 下畑　同 拾壱歩　右　吉
六間四間小　下畑　同 弐拾六歩　小右衛門
十三間半小四間半　上田　同 弐畝弐歩　同　人
十壱間半四間半　上田　同 壱畝廿弐歩　右　吉
四間半四間　中畑　同 拾八歩　同　人
六間半四間　下畑　同 弐拾六歩　孫　介
六間四間半　上田　同 弐拾七歩　同　人
六間半五間半　中畑　同 壱畝三歩　三右衛門

| | | |

八間
五間小
中畑　壱畝拾弐歩
興　吉

八間
五間
上田　弐拾歩
同　人

五間
四間
上田　弐拾歩
小　作

六間半
八間
中畑　壱畝弐拾弐歩
庄次郎

八間半
八間
上畑　弐畝八歩
久右衛門

十四間半
七間半
上田　三畝拾九歩
市右衛門

弐拾九間半小
八間
七畝廿八歩
次郎兵衛

四十三間半
三十弐間半
中田　四反七畝四歩
市右衛門

十六間
八間
上畑　四畝八歩
清三郎

十八間
七間半小
上畑　四畝弐拾歩
同　人

六間半小
五間
上田　壱畝四歩
七　蔵

七間半小
五間半小
中畑　壱畝拾五歩
大場まへ
同　人

八間
七間小
弐畝歩
長九郎

三間
弐間
下田　拾八歩
喜右衛門

六間
五間
下田　壱畝歩
五兵衛

五間半小
五間半小
下田　壱畝弐歩
十二歩入
喜右衛門

四間半小
三間半小
下田　拾八歩
喜平次

三間半
弐間小
下畑　八歩
村前
同
五兵衛

五間半
壱間半小
下畑　拾歩
同
同　人

三間半
四間
中田　拾四歩
同
同　人

三間半
三間小
中田　拾壱歩
同
喜平次

九間
壱間小
下畑　拾壱歩
同
五兵衛

七間半
四間半
下畑　壱畝弐歩
同
同　人

六間半
五間
中田　壱畝三歩
村前
喜平次

十三間
五間半
中田　弐畝拾四歩
同
同　人

九間小
弐間半
下田　弐拾三歩
同
五兵衛

九間半
六間半
中田　三畝壱歩
同
同　人

八間半小
七間半小
中田　弐畝弐歩
同
喜平次

九間小
十弐間
中田　三畝廿壱歩
同
喜右衛門

九間小
十壱間半
中田　三畝拾六歩
同
次右衛門

十間小
五間
中田　一畝廿壱歩
同
加十郎

四間半
壱間半
下畑　六歩
同
同　人

三間
壱間半
下畑　五歩
同
西雲寺

弐間
壱間半
下畑　弐畝
村前
次右衛門

弐拾三間小　中田　同　弐畝廿七歩　西　運寺
十九間　弐間小　下畑　十一歩入　同　一畝十三歩　同　人
十八間半　三間半小　中田　同　弐畝九歩　同　人
四間半　弐間小　下畑　同　拾歩　長　九郎
六間半　四間半　中田　同　弐拾九歩　同　人
五間半　四間半　下畑　同　弐拾五歩　加　十郎
六間半　十間半小　中田　同　弐畝歩　同　人
九間小　六間　中畑　同　老畝廿六歩　同　人
六間　弐間　中田　同　拾弐歩　同　人
四間半　弐間小　下畑　同　拾歩　同　人
九間半小　七間小　中畑　村前　弐畝拾三歩　加　十郎
六間半　八間　中田　同　老畝廿弐歩　同　人
五間小　弐間半　下畑　同　拾三歩　五　兵衛
七間小　六間半　中田　同　老畝拾七歩　同　人
七間　六間　中田　同　老畝拾弐歩　西　運寺
五間半　老間半　下畑　同　八歩　次　右衛門
中田　同　拾七歩　同　人
九間小　三間　中田　同　弐拾八歩　文　右衛門

九間半　三間小　中田　同　老畝老歩　庄　右衛門
七間半　弐間　中畑　村前　拾五歩　文　右衛門
十弐間半小　九間半小　中畑　同　三畝廿九歩　同　人
十四間小　三間半　中畑　同　老畝廿歩　庄　右衛門
十一間　三間半　中畑　同　老畝三歩　同　人
九間半　三間半　中畑　同　老畝弐歩　文　右衛門
弐間小　弐間半　下畑　同　五歩　忠　太夫
六間小　四間半　下畑　同　弐拾八歩　同　人
十三間小　十老間　中田　同　四畝廿六歩　同　人
弐間小　弐間半　下畑　同　拾六歩　小　左衛門
五間半　弐間半　中田　二歩入　同　三畝四歩　同　人
十七間半　五間　中畑　六歩入　同　老畝拾五歩　小　左衛門
十間半　六間　中田　同　弐畝三歩　才　三郎
十九間　四間　中畑　同　弐畝拾六歩　同　人
十六間　老間半　中田　同　弐拾四歩　庄　右衛門
八間　三間　中畑　同　弐拾四歩　長　九郎
十五間　老間半　中田　同　弐拾三歩　才　三郎
八間小　五間　中畑　同　老畝拾老歩　喜　左衛門

十弐間小
七間半
七間

上田

同
三畝弐歩

同　人

同
弐畝五歩

同　人

九間小
七間

上田

同
弐畝弐歩

長　九　郎

八間半
七間小

上田

村前
四歩

弐畝弐歩

同　人

弐間半
壱間半

下畑

同
三畝弐拾三歩

才　三　郎

十三間小
八間半

上田

同
弐畝歩

同　人

五間小
十壱間半

上田

同
四畝壱歩

次右衛門

十壱間半
十間半

上田

同
弐畝廿七歩

長　九　郎

十弐間
七間小

上畑

同
壱畝廿弐歩

加　十　郎

六間半
八間

上畑

同
弐拾弐歩

次右衛門

七間小
三間

上田

同
老畝四歩

同　人

十七間
弐間

中田

同
五畝三歩

庄右衛門

十八間
八間半

中田

同
弐畝廿九歩

五　兵　衛

六間
十四間半小

中田

村前
三畝八歩

庄　次　郎

十壱間小
八間半小

中畑

同
壱畝廿五歩

同　人

五間小
八間

中田

十三歩入
同
拾八歩

加　十　郎

五間半
三間

中田

同
拾七歩

同　人

五間半小
三間

中田

同
弐拾弐歩

文右衛門

五間半
四間

中田

五間
壱間半

中畑

八歩

同　人

六間
弐間小
四間

中畑

九歩

長　九　郎

六間
五間

中田

老畝歩

同　人

六間半
十三間半小

中田

弐畝廿九歩

小左衛門

十五間半小
十間

下田

五畝八歩

庄　九　郎

十三間
十四間

下田

六畝弐歩

小左衛門

十五間
八間

下田

四畝歩

文右衛門

十四間半
十間半

下田

五畝弐歩

忠　太　夫

六間
弐間

下田

拾弐歩

五　兵　衛

十三間
七間

下田

三畝壱歩

同　人

十八間半
九間半

中田

五畝廿六歩

弥　八　郎

弐拾四間
十四間半

下田

壱反壱畝拾八歩

半　四　郎

十四間
七間小

中田

三畝拾弐歩

忠　太　夫

十弐間半小
九間

中田

三畝廿五歩

長　九　郎

七間
七間半

中畑

壱畝弐拾三歩

忠　太　夫

上田合三町四反四畝拾四歩

中田合八反三畝四歩

下田合三反八畝六歩

上畑合六反壱畝歩

中畑合六反五畝弐歩
下畑合九畝弐拾九歩
田畑合六町弐畝弐拾九歩
上田合壱反七畝弐拾五歩
中田合七反六畝五歩
下田合三反八畝弐拾壱歩
上畑合四畝拾九歩
中畑合弐反八畝壱歩
下畑合八畝三歩
田畑合壱町七反三畝拾四歩
二口田畑合七町七反六畝九歩

慶安五年
辰二月二十四日

根古地前

下平彌之兵衛㊞
竹之内　六之丞㊞
神田兵左衛門㊞
根岸彌兵衛㊞
岩田六郎兵衛㊞
片岡太郎兵衛㊞
後藤徳右衛門
中原惣兵衛
中木善右衛門
安藤茂右衛門

大場前

墨付弐拾九枚上紙共㊞㊞㊞

（表紙）
慶安五年　五冊之内

濃州多藝郡根古地新田屋敷検地縄帳

千
辰二月廿四日

案内者	同	同	同	同	案内者	同	同	同	同	同
甚九郎	七郎兵衛	三郎左衛門	次郎兵衛		五郎右衛門	又左衛門	金三郎	久左衛門	兵右衛門」	五郎右衛門
										兵太夫
										藤兵衛
										同人
										金三郎
										久左衛門

拾三間 十弐間半小	九間半 七間半小	九間半 六間半	拾四間半 十七間半	九間半 拾九間	拾四間小 九間小
屋敷	屋敷	屋敷	屋敷	屋敷	屋敷
五畝拾六歩	弐畝拾四歩	弐畝弐歩	八畝拾四歩	六畝壱歩	四畝拾二歩

拾六間半　十壱間　屋敷　六畝弐歩　三郎左衛門
八間　拾三間　屋敷　三畝拾四歩　同　人
八間半　拾三間半小　十五間　屋敷　三畝弐拾七歩　同　人
九間　四間　屋敷　壱畝六歩　同　人
拾四間　八間小　屋敷　三畝弐拾六歩　五郎右衛門
拾弐間半　六間　屋敷　弐畝拾五歩　同　人
八間　拾壱間　屋敷　弐畝廿八歩　駒野地　五郎右衛門
八間半　拾七間　屋敷　四畝弐拾五歩　三郎左衛門
拾三間半小　五間　屋敷　弐畝九歩　同所　同　人
拾五間半　八間　屋敷　四畝四歩　同所　同　人
拾間半　拾壱間　屋敷　三畝拾五歩　同所　同　人
弐拾間　弐拾壱間　屋敷　壱反四畝歩　同所　同　人
拾弐間小　拾三間半　屋敷　五畝拾五歩　同所　久左衛門
十五間小　拾九間　十弐間小　屋敷　七畝弐拾三歩　同所　同　人
十五間半　拾六間　屋敷　八畝拾弐歩　同所　同　人
六間　五間　屋敷　壱畝弐拾四歩　同所　久　五　郎
九間　六間　屋敷　壱畝弐拾四歩　久左衛門

拾壱間　十五間半小　屋敷　五畝弐拾三歩　七郎兵衛
拾間　十六間小　屋敷　五畝拾三歩　七郎兵衛
六間　拾八間半　屋敷　三畝弐拾一歩　同　人
弐間　十三間　屋敷　弐拾六歩　半　七
九間小　六間　屋敷　壱畝弐拾六歩　久左衛門
十七間半小　弐拾弐間半　屋敷　壱反三畝九　覺　兵　衛
弐間半　八間　屋敷　弐拾歩　吉右衛門
拾三間　十九間半小　弐拾八歩入　屋敷　九畝拾五歩　甚　九　郎
拾間　八間　屋敷　弐畝弐拾歩　千　太　郎
六間半　弐拾七間　屋敷　五畝弐拾六歩　源右衛門
拾五間半　弐拾六間　屋敷　壱反三畝十三歩　又左衛門
拾六間　三拾壱間小　屋敷　壱反六畝廿歩　彦　兵　衛
弐拾四間小　十弐間半　屋敷　壱反三歩　五郎右衛門
拾間　三間　屋敷　堤外　壱畝歩　藤　兵　衛
拾四間　三間　屋敷　同　壱畝拾弐歩　七太夫内　彌左衛門
拾間　弐間　屋敷　弐拾歩　甚九郎内　安右衛門
九間半　弐間半　屋敷　弐拾四歩　七太夫内　九　郎　次
六間　三間　屋敷　拾八歩　久左衛門内　覺右衛門

屋敷合弐町六畝弐拾八歩

慶安五年
辰ノ二月廿四日

下平彌之兵衛㊞
竹内六之丞㊞
根岸彌兵衛㊞
神田兵左衛門㊞
片岡太郎兵衛㊞
岩田六郎兵衛㊞
惣取 中原惣兵衛
同 後藤徳右衛門
同 安藤茂右衛門
同 中木善右衛門

墨付六枚上紙共㊞
㊞㊞

四二　北村新田検地帳

○勢至　野村辰夫氏所蔵

（表紙）「寛文五年
北村出来地帳
乙巳八月十五日　多芸郡喜多村之事」

北村出来地御検地御帳

拾三間三間	下畑	壱畝九歩
弐拾六間七間	下畑	六畝弐歩
拾壱間弐間	下畑	弐拾弐歩
拾間四間	下畑	壱畝拾歩
五間半壱間半	下畑	七歩
拾弐間四間	下畑	壱畝拾八歩
弐拾間七間	下畑	四畝弐拾歩
弐拾四間五間五尺	下畑	四畝弐拾歩
六間三間	下畑	拾八歩
四間弐間	下畑	八歩
弐拾六間拾四間四尺	下畑	壱反九歩
三拾間九間弐尺	下畑	九畝拾歩
拾間六間	下畑	弐畝歩
拾三間弐間	下畑	弐拾六歩
八間五間	下畑	壱畝拾歩
七間四間	下畑	弐拾八歩
拾四間四間	下畑	壱畝弐拾六歩

助蔵	
同人	
同人	
彦作	
同人	
長助	
清兵衛	
平左衛門	
太右衛門	
助衛	
吉兵衛	
同人	
小右衛門	
平左衛門	
同人	
彦作	
太右衛門	

下畑　壱畝拾歩　　清　兵　衛
下畑　壱畝拾弐歩　　平左衛門
下畑　拾八歩　　彦　作
下畑　壱畝拾八歩　　太郎右衛門
下畑　壱畝拾壱歩　　同　人
下畑　三畝拾八歩　　新　七
下畑　拾歩　　清　兵　衛

八間　五間
七間　六間
六間　三間
八間　六間
七間半　五間半
拾弐間　弐間
五間　弐間

下畑合五反八畝拾歩　分米四石六斗六升七合

寛文五年
乙巳八月十五日

早川久兵衛
本多外右衛門
鳥井左五兵衛
大橋源兵衛
高橋市郎右衛門

喜多村　庄屋衆

紙数七枚　上紙共

四三　喜多村検地帳

○勢至　野村辰夫氏所蔵

（表紙）
「明和戊子五年
美濃國多藝郡喜多村検地帳
八月　」

凡例

一竿壱丈弐尺弐分　但弐間
一壱歩　壱間四方
一壱畝　三拾歩
一壱反　三百歩

一歩詰之端分、五分以下は捨之、五分余以上は上ヶ壱歩之事
一高盛之端勺五勺以下は捨之、五勺余以上は上ヶ壱合之事
一屋鋪四壁敷堀等検内高外之事
一畑并屋鋪添之道等は勿論、村道たりといふ共改置、通広狭有之間鋪事
一村抱之社地・仏境并道等検内高外之事
　高盛之事

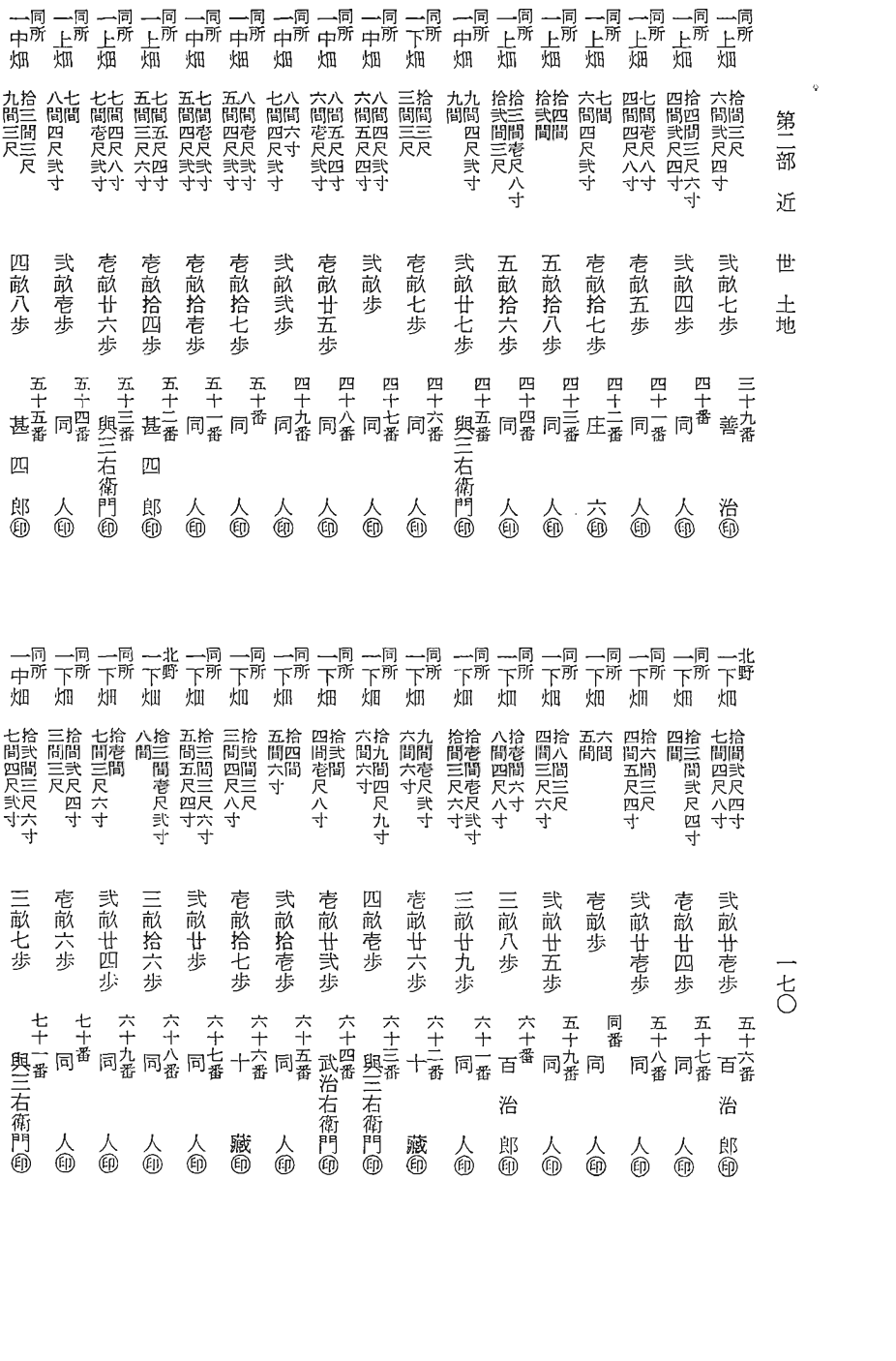
一上畑壱反　壱石弐斗代
一中畑壱反　壱石代
一下畑壱反　八斗代
一屋敷壱反　壱石弐斗代

　但、土無高下皆上畑盛之事

村下　一上畑　拾九間壱尺弐寸　壱畝間　拾九歩
同所　一上畑　拾七間弐尺四寸　拾三間　七畝拾六歩
同所　一下畑　拾弐間四尺弐寸　四間四尺八寸　弐畝壱歩
同所　一上畑　拾壱間壱尺八寸　四間三尺六寸　壱畝廿弐歩

壱番　百　治　郎㊞
弐番　與三右衛門㊞
三番　宇　平　治㊞
四番　同　人㊞

| | | |


同所
一上畑
拾間三尺
六間弐尺四寸
同所
一上畑
拾四間三尺六寸
四間弐尺四寸
同所
一上畑
七間壱尺八寸
四間四尺八寸
同所
一上畑
七間
六間四尺弐寸
同所
一上畑
拾四間
拾弐間
同所
一上畑
拾三間壱尺八寸
拾弐間三尺
同所
一中畑
九間
四尺弐寸
同所
一下畑
拾間三尺
三間三尺
同所
一中畑
八間四尺弐寸
六間五尺四寸
同所
一中畑
八間五尺四寸
六間壱尺弐寸
同所
一中畑
八間六寸
七間四尺弐寸
同所
一中畑
八間壱尺弐寸
五間四尺弐寸
同所
一中畑
七間壱尺弐寸
五間四尺弐寸
同所
一中畑
七間四尺八寸
七間壱尺弐寸
同所
一上畑
七間五尺四寸
五間三尺六寸
同所
一上畑
七間
八間四尺弐寸
同所
一中畑
拾三間三尺
九間三尺
弐畝七歩
弐畝四歩
壱畝五歩
壱畝拾七歩
五畝拾八歩
壱畝廿三歩
弐畝廿七歩
壱畝七歩
弐畝歩
壱畝廿五歩
弐畝弐歩
壱畝拾七歩
壱畝拾壱歩
壱畝拾四歩
壱畝廿六歩
弐畝壱歩
四畝八歩
三十九番
善治㊞
四十番
同人㊞
四十一番
同人㊞
四十二番
庄六㊞
四十三番
同人㊞
四十四番
同人㊞
四十五番
與三右衛門㊞
四十六番
同人㊞
四十七番
同人㊞
四十八番
同人㊞
四十九番
同人㊞
五十番
人㊞
五十一番
同人㊞
五十二番
甚四郎㊞
五十三番
與三右衛門㊞
五十四番
人㊞
五十五番
甚四郎㊞
北野
一下畑
拾間弐尺四寸
七間四尺八寸
同所
一下畑
拾三間弐尺四寸
四間
同所
一下畑
拾六間三尺
四間五尺四寸
同所
一下畑
六間
五間
同所
一下畑
拾八間三尺
四間三尺六寸
同所
一下畑
拾壱間六寸
八間四尺八寸
同所
一下畑
拾壱間壱尺弐寸
拾間三尺六寸
同所
一下畑
九間壱尺弐寸
六間六寸
同所
一下畑
拾九間四尺九寸
六間六寸
同所
一下畑
拾弐間
四間壱尺八寸
同所
一下畑
拾四間
五間
同所
一下畑
拾弐間三尺
三間四尺八寸
同所
一下畑
拾三間三尺六寸
五間五尺四寸
北野
一下畑
拾三間
八間
同所
一下畑
拾壱間
七間三尺六寸
同所
一下畑
拾弐間三尺六寸
七間四尺弐寸
同所
一中畑
弐畝廿壱歩
壱畝廿四歩
弐畝廿壱歩
三畝八歩
弐畝廿五歩
三畝廿九歩
壱畝廿六歩
三畝廿歩
四畝壱歩
壱畝廿弐歩
弐畝廿歩
壱畝拾七歩
弐畝拾壱歩
三畝拾六歩
弐畝廿四歩
壱畝六歩
三畝七歩
五十六番
百治郎㊞
五十七番
同人㊞
五十八番
同人㊞
同番
同人㊞
五十九番
同人㊞
六十番
百治郎㊞
六十一番
同人㊞
六十二番
十藏㊞
六十三番
與三右衛門㊞
六十四番
武治右衛門㊞
六十五番
同人㊞
六十六番
十藏㊞
六十七番
同人㊞
六十八番
同人㊞
六十九番
同人㊞
七十番
同人㊞
七十一番
與三右衛門㊞

| | | |

| | | |

丸新田
一中畑
拾九間壱尺八寸
四間

同所
一下畑
九間四尺弐寸
四間四尺弐寸

同所
一下畑
九間壱尺八寸
六間壱尺八寸

同所
一下畑
九間四尺八寸
七間三尺

横割
一下畑
拾間
八間

同所
一下畑
拾壱間
七間六寸

同所
一下畑
拾間三尺
三間三尺六寸

同所
一下畑
拾壱間六寸
五間四尺八寸

横割
一下畑
拾間四尺八寸
七間四尺弐寸

同所
一下畑
拾三間弐尺四寸
六間四尺八寸

同所
一下畑
拾五間四尺八寸
六間弐尺四寸

同所
一下畑
拾六間壱尺八寸
八間

同所
一下畑
拾四間四尺八寸
七間壱尺八寸

同所
一中畑
拾七間三尺
六間壱尺八寸

同所
一中畑
七間四尺弐寸
六間四尺八寸

横割
一中畑
拾八間三尺
四間三尺

同所
一中畑
拾八間
四間三尺六寸

弐畝拾七歩
百三十九番
與三右衛門㊞

壱畝拾六歩
百四十番
同　人㊞

壱畝廿九歩
百四十一番
同　人㊞

弐畝拾三歩
百四十二番
同　人㊞

弐畝廿歩
百四十三番
同　人㊞

弐畝拾八歩
百四十四番
同　人㊞

弐畝四歩
百四十五番
同　人㊞

弐畝廿三歩
百四十六番
與三右衛門㊞

三畝壱歩
百四十七番
同　人㊞

三畝拾壱歩
百四十八番
同　人㊞

四畝拾歩
百四十九番
同　人㊞

三畝拾八歩
百五十番
同　人㊞

三畝廿歩
百五十一番
同　人㊞

壱畝廿弐歩
百五十二番
同　人㊞

弐畝廿三歩
百五十三番
同　人㊞

壱畝廿四歩
百五十四番
與三右衛門㊞

同所
一中畑
拾三間六寸
弐間四尺八寸

同所
一中畑
拾五間壱尺弐寸
六間壱尺弐寸

同所
一下畑
九間弐尺四寸
七間弐尺四寸

同所
一中畑
拾九間弐尺四寸
五間三尺

同所
一下畑
廿壱間五尺四寸
五間四尺八寸

同所
一下畑
九間五尺四寸
七間三尺

横割
一下畑
拾間
六間

同所
一下畑
拾弐間壱尺弐寸
四間三尺六寸

同所
一下畑
拾七間三尺
四間

同所
一下畑
九間壱尺弐寸
五間壱尺弐寸

同所
一下畑
拾五間
八間五尺四寸

同所
一下畑
拾七間三尺
四間

同所
一中畑
拾九間
四間三尺六寸

庄畑
一中畑
廿四間三尺六寸
六間

同所
上畑
拾九間
四間三尺六寸

同所
一中畑
拾九間四尺八寸
拾三間弐尺四寸

同所
一中畑
拾弐間壱尺八寸
四間六寸

同所
一中畑
拾間四尺八寸
四間六寸

同所
一中畑
廿四間弐尺四寸
六間五尺四寸

壱畝七歩
百五十五番
同　人㊞

三畝四歩
百五十六番
同　人㊞

弐畝拾歩
同番
同　人㊞

三畝拾七歩
百五十七番
同　人㊞

四畝七歩
同番
同　人㊞

弐畝拾四歩
百五十八番
平右衛門㊞

弐畝壱歩
百五拾九番
與三右衛門㊞

壱畝廿六歩
百六十番
平右衛門㊞

弐畝拾歩
百六十壱番
同　人㊞

壱畝拾八歩
百六十二番
與三右衛門㊞

四畝拾三歩
同番
同　人㊞

八畝廿五歩
百六十三番
宮　分㊞

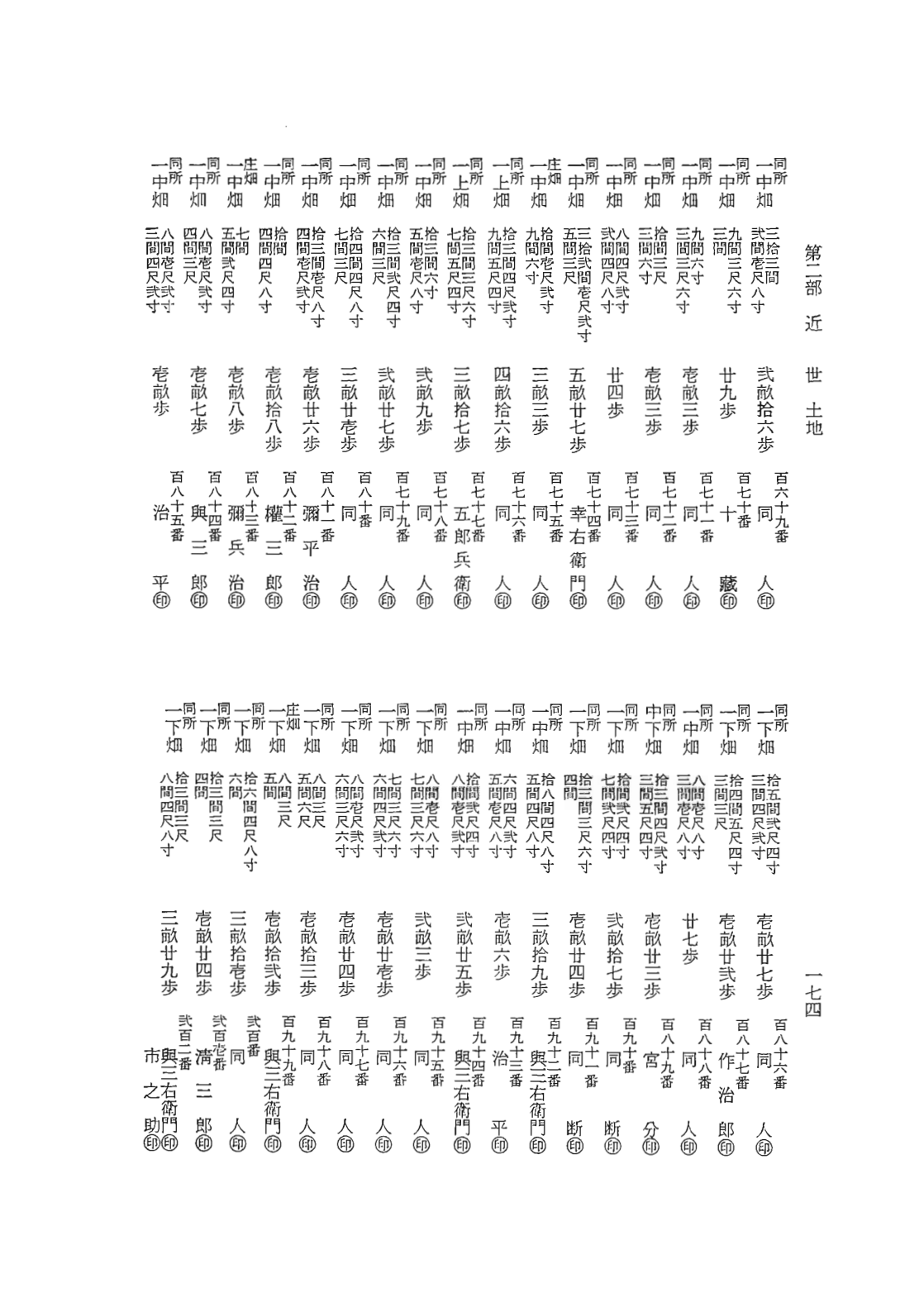
四畝廿八歩
百六十四番
善　治㊞

弐畝廿七歩
百六十五番
惣　四　郎㊞

壱畝廿歩
百六十六番
同　人㊞

壱畝拾四歩
百六十七番
惣　四　郎㊞

四畝廿壱歩
百六十八番
同　人㊞


一中畑　三拾三間弐間壱尺八寸
一中畑　九間三尺六寸　三間
一中畑　九間六寸　三間三尺六寸
一中畑　拾間三尺　三間六寸
一中畑　八間四尺弐寸　弐間四尺八寸
一中畑　拾間壱尺弐寸　九間六寸
一中畑　三拾弐間壱尺弐寸　五間三尺
一上畑　拾三間四尺弐寸　九間五尺四寸
一上畑　拾三間三尺六寸　七間五尺四寸
一中畑　拾三間六寸　五間壱尺八寸
一中畑　拾四間四尺八寸　七間三尺
一中畑　拾三間弐尺四寸　六間三尺
一中畑　拾三間壱尺八寸　四間壱尺弐寸
一中畑　八間壱尺弐寸　四間三尺
一中畑　七間　五間弐尺四寸
一中畑　庄畑
一中畑　拾間　四間四尺八寸
一中畑　同所
一中畑　八間壱尺弐寸　四間三尺
一中畑　同所
一中畑　八間壱尺弐寸　三間四尺弐寸
弐畝拾六歩　百六十九番　同　人印
廿九歩　百七十番　十　藏印
壱畝三歩　百七十一番　同　人印
壱畝三歩　百七十二番　同　人印
廿四歩　百七十三番　同　人印
五畝廿七歩　百七十四番　幸右衛門　人印
三畝三歩　百七十五番　同　人印
四畝拾六歩　百七十六番　同　人印
三畝拾七歩　百七十七番　五郎兵衛　人印
弐畝九歩　百七十八番　同　人印
弐畝廿七歩　百七十九番　同　人印
三畝廿壱歩　百八十番　同　人印
壱畝廿六歩　百八十一番　彌平　治印
壱畝拾八歩　百八十二番　權三郎　印
壱畝八歩　百八十三番　彌兵治　印
壱畝七歩　百八十四番　與三郎　印
壱畝歩　百八十五番　治平　印
一下畑　百八十六番　同　人印
一下畑　百八十七番　作治郎　印
一下畑　百八十八番　同　人印
中下畑　百八十九番　宮分　印
一下畑　百九十番　同　断印
一下畑　百九十一番　同　断印
一下畑　百九十二番　與三右衛門　印
一下畑　百九十三番　治平　印
一中畑　百九十四番　與三右衛門　印
一中畑　百九十五番　同　人印
一中畑　百九十六番　同　人印
一中畑　百九十七番　同　人印
一中畑　百九十八番　同　人印
一中畑　百九十九番　與三右衛門　印
一中畑　弐百番　同　人印
一中畑　弐百壱番　清三郎　印
一中畑　弐百二番　與三右衛門　印
一下畑　拾五間弐尺四寸　三間四尺弐寸
一下畑　拾四間五尺四寸　三間三尺
一中畑　八間壱尺八寸　三間壱尺八寸
中下畑　拾三間四尺弐寸　三間五尺四寸
一下畑　拾間弐尺四寸　七間弐尺四寸
一下畑　拾三間三尺六寸　四間
一中畑　拾八間四尺八寸　五間四尺八寸
一中畑　六間四尺弐寸　五間壱尺八寸
一中畑　八間壱尺弐寸　八間壱尺弐寸
一下畑　八間壱尺八寸　七間三尺六寸
一下畑　七間三尺六寸　六間四尺弐寸
一下畑　八間壱尺弐寸　六間三尺六寸
一下畑　八間三尺　五間六尺
一下畑　庄畑
一下畑　八間　五間三尺
一下畑　拾六間四尺八寸　六間
一下畑　拾四間三尺　四間
一下畑　同所
一下畑　拾三間三尺　八間四尺八寸
壱畝廿七歩　百八十六番　同　人印
壱畝廿弐歩　百八十七番　作治郎　印
廿七歩　百八十八番　同　人印
壱畝廿三歩　百八十九番　宮分　印
弐畝拾七歩　百九十番　同　断印
壱畝廿四歩　百九十一番　同　断印
三畝拾九歩　百九十二番　與三右衛門　印
壱畝六歩　百九十三番　治平　印
弐畝廿五歩　百九十四番　與三右衛門　印
弐畝三歩　百九十五番　同　人印
壱畝廿壱歩　百九十六番　同　人印
壱畝廿四歩　百九十七番　同　人印
壱畝拾三歩　百九十八番　同　人印
壱畝拾弐歩　百九十九番　與三右衛門　印
三畝拾壱歩　弐百番　同　人印
壱畝廿四歩　弐百壱番　清三郎　印
三畝廿九歩　弐百二番　與三右衛門　印
市之助　印

同所
一下畑
拾四間
七間

同所
一下畑
拾九間
拾六間

七畝割
一下畑
九間壱尺弐寸
六間

同所
一下畑
拾弐間
三間

七畝割
一下畑
拾七間四尺八寸
弐間三尺六寸

同所
一下畑
廿七間
弐間四尺八寸

屋敷
一上畑
九間壱尺弐寸
四間三尺六寸

七畝割
一下畑
拾弐間五尺四寸
弐間五尺四寸

同所
一下畑
拾七間
弐間弐尺四寸

同所
一下畑
九間四尺弐寸
四間三尺六寸

同所
一下畑
拾五間
三間

同所
一下畑
六間壱尺弐寸
四間

七畝割
一下畑
七間三尺
七間

同所
一中畑
九間六寸
六間三尺六寸

同所
一下畑
七間壱尺八寸
三間

同所
一下畑
拾四間
三間

三畝八歩

壱反四歩

壱畝廿五歩

壱畝六歩

壱畝拾六歩

弐畝拾六歩

壱畝拾弐歩

壱畝七歩

壱畝拾壱歩

壱畝拾五歩

壱畝拾五歩

廿五歩

壱畝廿弐歩

弐畝歩

廿弐歩

壱畝拾弐歩

弐百三番
権三郎㊞

弐百四番
七右衛門㊞
庄助㊞

弐百五番
五郎兵衛㊞

同番
同
人㊞

弐百六番
五郎兵衛㊞

弐百七番
同
人㊞

弐百八番
十四郎㊞

弐百九番
同
人㊞

弐百十番
八郎治㊞

弐百十一番
同
人㊞

弐百十二番
同
人㊞

弐百十三番
同
人㊞

弐百十四番
八郎治㊞

弐百十五番
同
人㊞

弐百十六番
百治郎㊞

同番
八郎治㊞
百治郎㊞

同所
一中畑
七間
四間
四尺弐寸

同所
一中畑
七間壱尺弐寸
五間壱尺八寸

同所
一下畑
拾六間六寸
六間三尺

同所
一下畑
拾四間六寸
五間壱尺八寸

七畝割
一上畑
九間
七間

同所
一上畑
七間三尺六寸
四間三尺

同所
一上畑
拾三間
四間

同所
一上畑
拾三間
五間壱尺八寸

同所
一上畑
拾三間
四間四尺八寸

同所
一上畑
拾六間壱尺八寸
七間壱尺弐寸

屋敷
一上畑
拾八間
八間壱尺弐寸

東垣下
北ト
南
垣下
拾八間
壱間三尺
九間四尺弐寸
壱尺八寸

七畝割
一上畑
五間
壱間

同所
一上畑
拾四間四尺八寸
八間四尺八寸

同所
一上畑
拾六間
七間

同所
一上畑
拾壱間四尺弐寸
七間

壱畝三歩

壱畝八歩

三畝拾五歩

弐畝拾五歩

弐畝三歩

壱畝四歩

壱畝廿四歩

弐畝九歩

弐畝弐歩

三畝廿七歩

四畝廿八歩

廿七歩

五歩

四畝拾歩

三畝廿弐歩

弐畝廿弐歩

弐百十七番
百治郎㊞

弐百十八番
同
人㊞

弐百十九番
幸右衛門㊞

弐百廿番
同
人㊞

弐百廿一番
幸右衛門㊞

弐百廿二番
百治郎㊞

弐百廿三番
八郎治㊞

弐百廿四番
同
人㊞

弐百廿五番
同
人㊞

弐百廿六番
同
人㊞

弐百廿七番同番
八郎治㊞

弐百廿八番
庄六㊞

弐百廿九番
五郎兵衛㊞

弐百三十番
甚四郎㊞

同所　一上畑　七間四尺八寸　五間六寸
屋敷　一上畑　拾七間四尺弐寸　拾四間三尺六寸
北ト薮　南　拾九間四尺弐寸　壱間五尺四寸
西ト薮　東　拾四間三尺六寸　弐間三尺
北屋敷　一上畑　拾壱間壱尺弐寸　六間壱尺弐寸
同所　一上畑　八間三尺六寸　四間三尺
同所　一上畑　拾四間壱尺弐寸　八間弐尺四寸
同所　一上畑　拾三間弐尺四寸　九間五尺四寸
同所　一上畑　八間三尺六寸　四間三尺
同所　一上畑　廿間三尺　三間五尺四寸
同所　一上畑　拾三間五尺四寸　六間壱尺八寸
北屋敷　一上畑　拾三間四尺八寸　八間壱尺弐寸
同所　一上畑　拾四間壱尺弐寸　五間三尺六寸
屋敷　一上畑　拾五間壱尺弐寸　九間
西ト薮　東　九間　三間三尺六寸
北　薮　拾七間　四間
北屋敷　一上畑　五間四尺弐寸　三間三尺

壱畝拾歩　同　弐百三十一番　人印
八畝拾八歩　百　弐百三十二番　治郎印
壱畝七歩　百　弐百三十三番　治郎印
壱畝六歩　同　弐百三十四番　人印
弐畝九歩　同　弐百三十五番　人印
壱畝九歩　同　弐百三十六番　人印
三畝廿九歩　同　弐百三十七番　人印
四畝拾三歩　五郎兵衛印　弐百三十八番
壱畝九歩　五郎兵衛印　弐百三十九番
弐畝廿歩　同　弐百四十番　人印
弐畝廿八歩　同　弐百四十一番　人印
弐畝廿歩　善　弐百四十二番　治
弐畝八歩　同　弐百四十三番　人印
廿歩

同所　一上畑　九間壱尺弐寸　七間四尺弐寸
同所　一上畑　拾弐間　八間四尺八寸
北屋敷　一上畑　九間四尺八寸　五間弐尺四寸
同所　一上畑　九間　五間弐尺四寸
同所　一上畑　九間壱尺八寸　八間四尺八寸
同所　一上畑　九間五尺四寸　六間四尺八寸
同所　一上畑　拾間壱尺弐寸　五間壱尺弐寸
同所　一上畑　九間壱尺弐寸　四間三尺
同所　一上畑　八間五尺四寸　四間弐尺四寸
同所　一上畑　九間壱尺八寸　五間弐尺四寸
北屋敷　一中畑　八間三尺六寸　弐間壱尺弐寸

右之寄

上畑弐町三歩

分米弐拾四石壱升弐合

中畑壱町九反六畝五歩

分米拾九石六斗壱升七合

下畑弐町五反八畝壱歩

分米弐拾石六斗四升三合

弐畝拾壱歩　同　弐百四十四番　人印
三畝拾六歩　同　弐百四十五番　人印
壱畝廿三歩　善　弐百四十六番　治印
壱畝拾九歩　同　弐百四十七番　人印
弐畝廿弐歩　五郎兵衛印　弐百四十八番
弐畝七歩　同　弐百四十九番　人印
壱畝廿三歩　同　弐百五十番　人印
壱畝拾壱歩　同　弐百五十一番　人印
壱畝九歩　同　弐百五十二番　人印
壱畝廿弐歩　同　弐百五十三番　人印
拾九歩　五郎兵衛印　弐百五十四番

反別都合六町五反四畝九歩
高辻合六拾四石弐斗七升弐合

一四壁〆六畝廿三歩
神明
一境内　廿弐間　八畝拾七歩　村　抱
　　拾壱間四尺弐寸
　〆
弐百五番・同番より拾壱番迄
一堤　百拾壱間　壱反壱畝三歩　同　断
　　三間
百九番より百廿七番迄
一堤　廿六間　壱畝廿弐歩　村　抱
　　弐間
　堤〆壱反弐畝廿五歩
弐百五十四番より弐百四十弐番迄
一道　三拾八間　拾九歩　同　断
　　三尺
弐百四十弐番之内
一道　拾六間　拾六歩　同　断
　　壱間
神明境内南西角より百五十弐番迄
一道　七拾七間　弐畝拾七歩　同　断
　　壱間
六十弐番より葬所北角迄
一道　拾七間　拾七歩　同　断
　　壱間
百十九番西南角より百番東南角迄
一道　六拾六間　弐畝六歩　同　断
　　壱間
五十六番南東角より百廿八番北東角迄
一道　百四間　三畝拾四歩　同　断
　　壱間
百四十三番東北角より百四十弐番南西角迄
一道　五拾六間　壱畝廿六歩　村　抱
　　壱間

百三十七番北西角より石畑村河原境迄
一道　弐百弐間　勢至村立会　同　断
　　巾半分
弐百六番之内
一道　拾四間　拾四歩　同　断
　　壱間
六拾三番之内
一道　六間　石畑村立会　同　断
　　巾半分
壱番より五十五番迄
一道　七拾間　壱畝拾九歩　同　断
　　四尺弐寸
百廿八番より百三十七番迄
一道　四拾八間　石畑村立会　同　断
　　巾半分
弐百廿七番之内
一道　四拾間　廿八歩　同　断
　　四尺弐寸
七十番より百四番・同番迄
一道　百拾弐間　石畑村立会　同　断
　　巾半分
弐百三十三番より弐百五十四番迄
一道　四拾弐間　壱畝拾弐畝　村　抱
　　壱間
　道〆壱反六畝八歩
一葬所　八間　壱畝拾五歩　同　断
　　五間三尺六寸
一葬所　七間　廿壱歩　同　断
　　三間
　〆
右は、美濃國多藝郡喜多村検地ニ付、名主・五人組頭・惣百姓召出、町反畝歩員数・斗代高下委細書記帳面極置者也

明和五戊子年八月

検地奉行　稲井治助
右同断　伊藤林右衛門

目付　石川太兵衛㊞
算者　山本伊左衛門㊞
右同断　岡田茂七郎㊞
筆者　稲川助五郎㊞
竿役　川出文蔵㊞
右同断　加藤道右衛門㊞
竿役　淺野與惣治㊞
右同断　土川伴治㊞
美濃國多藝郡喜多村地引案内之者桜井村附名主　庄兵衛㊞
右同断喜多村五人組頭　八郎治㊞
右同断百姓代　百治郎㊞
右同断　善治㊞

紙数四拾五枚　但上紙共

四四　中村検地帳

○中　高木享一氏所蔵

（表紙）
寛文八戊申年
多藝中村検地御帳
十二月十三日　　弐冊之内

寛文八戊申年多藝中村検地御帳之凡例

一壱間　六尺
一壱歩　壱間四方
一壱反　三百歩
一壱畝　三拾歩

町反高積

一上田壱反　壱石五斗代
一中田壱反　壱石三斗代
一下田壱反　壱石壱斗代
一下畑壱反　壱石弐斗代
一中畑壱反　壱石代
一下畑壱反　八斗代
一屋舗　不限土之上下、上畑壱石弐斗代

以上

多藝中村検地御帳

一中田　六間　拾壱間五尺　弐畝拾壱歩　分米　十右衛門
一下田　四間弐尺　弐間四尺　拾弐歩　分米　又兵衛
一中田　拾弐間五尺　六間四尺　弐畝弐拾五歩　分米　同　人
一下田　四間三尺　壱間五尺　八歩　分米　同　人
一下畑　三間弐尺　六間五尺　弐拾三歩　分米　同　人

一下畑	五間五尺 四間五尺	弐拾八歩	分米	太左衛門
一下畑	八間弐尺 八間壱尺	弐畝八歩	分米	同　人
一下畑	三間五尺 三間四尺	拾四歩	分米	同　人
一下畑	五間三尺 六間弐尺	壱畝五歩	分米	十右衛門
一下畑	壱間四尺 弐間三尺	四歩	分米	太左衛門
一上田	拾三間四尺 七間	三畝六歩	分米	十右衛門
一下田	壱間弐尺 壱間弐尺	弐歩	分米	又兵衛
同一下畑	拾壱間壱尺 弐間	弐拾弐歩	分米	同　人
一上田	拾壱間四尺 七間三尺	弐畝弐拾七歩	分米	市太夫
一上田	壱間三尺 弐間弐尺	三歩	分米	市太夫
一下畑	四間 壱間	四歩	分米	應順寺
一下畑	壱間三尺 七間弐尺	拾壱歩	分米	八郎兵衛
一下畑	四間 三間	拾弐歩	分米	長次郎
一上田	拾弐間五尺 拾間弐尺	四畝拾三歩	分米	同　人
一上畑	拾四間四尺 四間四尺	弐畝八歩	分米	文　平
一上畑	四間五尺 弐間壱尺	拾歩	分米	久三郎
一下畑	拾壱間五尺 六間四尺	弐畝拾九歩	分米	十右衛門
一下畑	八間壱尺 七間三尺	弐畝壱歩	分米	仁右衛門

一下畑	六間三尺 八間壱尺	壱畝弐拾三歩	分米	助右衛門
一中田	六間三尺 三間弐尺	弐拾弐歩	分米	同　人
一中田	七間弐尺 壱間五尺	拾三歩	分米	命　山
一上田	拾六間 拾壱間三尺	六畝四歩	分米	同　人
一中田	拾九間弐尺 弐間三尺	六畝歩	分米	同　人
一下田	拾壱間弐尺 三間三尺	壱畝拾歩	分米	助之丞
一下田	弐間三尺 五間五尺	拾五歩	分米	同　人
一下田	七間壱尺 壱間五尺	拾三歩	分米	同　人
一中田	九間弐尺 三間三尺	壱畝三歩	分米	十右衛門
一中田	弐間弐尺 拾三間三尺	壱畝壱歩	分米	同　人
一上田	三間壱尺 拾弐間弐尺	壱畝九歩	分米	彌次兵衛
一中田	壱間 三間	五歩	分米	同　人
一上田	拾間弐尺 弐拾間四尺	七畝三歩	分米	同　人
一中田	三間 五間四尺	拾七歩	分米	同　人
一上田	弐拾壱間 五間三尺	三畝拾六歩	分米	同　人
一下田	四間三尺 八間	壱畝六歩	分米	彌次兵衛
一中田	九間 五間	壱畝拾五歩	分米	文　平
一中田	三間弐尺 九間	壱畝歩	分米	同　人
一上田	拾四間 六間	弐畝弐拾四歩	分米	同　人

一上田　拾八間六間四尺　四畝歩　分米　同　人
一上田　拾六間三尺弐間三尺　壱畝拾壱歩　分米　同　人
一上田　五間弐尺四間五尺　弐拾六歩　分米　加兵衛
一下畑　五間壱間　五歩　分米　彌右衛門
一上田　拾三間壱尺六間弐尺　弐畝弐拾三歩　分米　半右衛門
一上田　拾壱間五尺拾間弐尺　四畝弐歩　分米　同　人
一上田　九間壱尺九間五尺　三畝歩　分米　同　人
一上田　拾弐間弐尺八間壱尺　三畝拾壱歩　分米　利左衛門
一上田　拾六間三尺拾三間壱尺　七畝七歩　分米　同　人
一上田　拾六間弐尺九間　四畝弐拾五歩　分米　同　人
一上田　拾三間五尺七間　三畝七歩　分米　同　人
一上田　拾八間壱尺四間五尺　弐畝弐拾八歩　分米　同　人
一上田　拾弐間九間五尺　三畝弐拾八歩　分米　次兵衛
一中田　九間三尺拾間　三畝五歩　分米　同　人
一下田　三間三間　九歩　分米　文　平
一下田　五間四尺八間三尺　壱畝拾八歩　分米　同　人
一下田　畝田　六間弐尺三間　拾九歩　分米　又兵衛
一下田　拾間壱尺壱間三尺　拾五歩　分米　十右衛門
一中田　七間壱尺四間壱尺　弐拾九歩　分米　同　人

一上田　弐拾弐間壱尺八間弐尺　六畝五歩　分米　同　人
一上田　拾五間八間三尺　四畝八歩　分米　十右衛門
一上田　弐拾壱間壱尺六間壱尺　四畝拾三歩　分米　次兵衛
一上田　弐拾五間五尺拾間五尺　九畝拾歩　分米　瀬兵衛
一中田　八間五尺九間壱尺　弐畝弐拾壱歩　分米　助之丞
一上田　八間壱尺拾壱間五尺　三畝七歩　分米　同　人
一下田　拾三間四間五尺　弐畝三歩　分米　彌右衛門
一下田　三間壱尺弐間　六歩　分米　十右衛門
一上田　拾六間三尺拾三間弐尺　七畝拾歩　分米　同　人
一上田　六間弐尺弐間　拾三歩　分米　又兵衛
一下田　四間三尺四間弐尺　弐拾歩　分米　十右衛門
一中田　拾八間弐尺五間弐尺　三畝八歩　分米　利左衛門
一中田　拾弐間　弐畝歩　分米　同　人
畝田
一下田　拾五間弐尺四間四尺　壱畝歩　分米　利左衛門
一下田　六間壱間　永荒　分米　彌右衛門
一　　　壱畝拾二歩　分米　彌右衛門
一中田　四間拾間四尺　壱畝弐拾壱歩　分米　同　人
一中田　拾弐間壱尺拾間弐尺　壱畝拾歩　分米　同　人
一下田　拾間三尺三間五尺

一中田　拾三間五尺　四間弐尺　弐畝歩　分米　彌右衛門
一中田　拾五間三尺　拾壱間壱尺　五畝弐拾三歩　分米　八郎兵衛
一中田　六間　八間　壱畝拾八歩　分米　彌右衛門
一中田　拾壱間五尺　拾間壱尺　四畝歩　分米　同　人
一中田　拾壱間三尺　五間弐尺　壱畝弐拾六歩　分米　同　人
一上田　拾五間三尺　拾三間三尺　六畝弐拾九歩　分米　同　人
一中間　拾壱間五尺　七間弐尺　弐畝弐拾七歩　分米　彌右衛門
一中田　八間　六間三尺　壱畝弐拾弐歩　分米　同　人
一上田　拾壱間弐尺　七間　弐畝弐拾九歩　分米　同　人
一中田　五間三尺　三間　拾七歩　分米　同　人
一上田　弐拾間　拾間四尺　七畝三歩　分米　同　人
一上田　拾六間　七間弐尺　三畝弐拾七歩　分米　同　人
一下畑　五間三尺　弐間　拾壱歩　分米　彌右衛門
一　永荒　七畝五歩　分米　瀬兵衛
一上田　拾九間　拾壱間弐尺　三間　壱畝歩　分米　同　人
一中田　拾四間　六間　弐畝弐拾九歩　分米　同　人
一上田　五間四尺　三間壱尺　壱畝拾九歩　分米　宗右衛門
一下畑　拾八間三尺　弐間四尺　拾八歩　分米　同　人
一中田　五間三尺　九間弐尺　壱畝弐拾壱歩　分米　孫　八

一下田　五間四尺　三間　弐拾三歩　分米　同　人
一中田　九間五尺　四間　壱畝九歩　分米　武右衛門
一中田　四間五尺　五間弐尺　弐拾六歩　分米　惣右衛門
一中田　五間三尺　弐拾八歩　分米　同　人
一上田　六間五尺　拾間三尺　弐畝拾弐歩　分米　助之丞
一中田　四間　五間　弐拾歩　分米　同　人
一下田　七間弐尺　三間三尺　弐拾六歩　分米　文　平
一中田　六間壱尺　七間壱尺　壱畝拾四歩　分米　同　人
一上田　三間五尺　七間　壱畝弐拾歩　分米　同　人
一下田　五間　五間　弐拾九歩　分米　同　人
一中田　四間　五間　弐拾歩　分米　同　人
一上田　六間五尺　拾間三尺　弐畝拾弐歩　分米　甚五郎
一上田　弐拾間壱尺　七間五尺　五畝八歩　分米　同　人
一中田　壱間三尺　拾九間三尺　弐拾九歩　分米　彌兵衛
一上田　六間四尺　九間弐尺　拾三間五尺　四畝九歩　分米　同　人
一上田　六間壱尺　拾間　弐畝八歩　分米　同　人
一上田　四間五尺　六間　弐拾九歩　分米　甚五郎
一中田　七間三尺　四間四尺　壱畝五歩　分米　武右衛門
一下畑　弐間三尺　五間弐尺　弐畝拾三歩　分米　同　人
一上田　弐拾間三尺　四間弐尺　弐畝弐拾九歩　分米　文　平

| | | |

一下田　弐間　弐間　四歩　分米　仁　助
一中畑　三間三尺　拾六間壱尺　壱畝弐拾七歩　分米　宗右衛門
一下田　弐間三尺　拾七間三尺　壱畝拾四歩　分米　同　人
一中田　三拾八間壱尺　九間壱尺　壱反壱畝弐拾歩　分米　彦　兵衛
一上田　三拾壱間　三間壱尺　三畝八歩　分米　同　人
一中田　弐拾壱間　弐間三尺　壱畝弐拾三歩　分米　同　人
一中田　弐間　弐間　四歩　分米　同　人
一中田　拾弐間五尺　六間　弐畝拾七歩　分米　同　人
一中田　壱間弐尺　三間　四歩　分米　同　人
一　三間　三間　永荒
一下畑　五間四尺　弐間三尺　拾四歩　分米　仁右衛門
一中田　七間五尺　五間　壱畝九歩　分米　同　人
一下畑　弐間四尺　弐間　五歩　分米　同　人
藪田　拾壱間五尺　弐間四尺　壱畝壱歩　分米　應順寺
一下畑　拾弐間　三間三尺　壱畝拾弐歩　分米　同　人
藪田　拾弐間　三間三尺　壱畝拾弐歩　分米　同　人
一下田　八間三尺　四間三尺　壱畝八歩　分米　應順寺
一下田　五間四尺　三間四尺　弐拾壱歩　分米　同　人
一上田　三拾四間弐尺　拾壱間三尺　壱反三畝五歩　分米　彦　七
一中田　六間壱尺　五間四尺　壱畝五歩　分米　同　人

一下田　九間　拾間　三畝歩　分米　助之丞
一中田　九間　六間　壱畝弐拾四歩　分米　同　人
一下畑　拾四間　弐間四尺　弐拾八歩　分米　惣右衛門
一中田　拾九間四尺　七間三尺　拾七歩　分米　彦　兵衛
一下畑　六間四尺　弐間三尺　四畝弐拾七歩　分米　同　人
一中田　八間三尺　三間　壱畝歩　分米　同　人
一中田　三間三尺　三間三尺　拾弐歩　分米　彦　七
一下畑　四間三尺　三間　拾四歩　分米　七右衛門
一中田　弐拾壱間四尺　八間　五畝弐拾三歩　分米　彦　七
一中田　拾七間四尺　六間弐尺　三畝弐拾弐歩　分米　同　人
一下田　七間三尺　三間弐尺　弐拾五歩　分米　彦　兵衛
一下田　六間壱尺　三間壱尺　拾九歩　分米　彦　七
藪田　八間弐尺　弐間三尺　弐拾七歩　分米　同　人
一下田　六間五尺　四間弐尺　弐拾壱歩　分米　又　次
一中田　三間三尺　四間三尺　壱畝歩　分米　彦　七
一上田　拾壱間壱尺　九間三尺　拾四歩　分米　同　人
一下田　七間壱尺　七間三尺　三畝拾六歩　分米　助之丞
一下田　七間　六間三尺　壱畝弐拾四歩　分米　長次郎
一中田　六間壱尺　五間四尺　壱畝拾六歩　分米　同　人

| | | |

一中田　三間三尺　八間　弐拾八歩　分米　同　人
一中田　五間弐尺　弐間四尺　拾四歩　分米　同　人
一上田　七間四尺　六間三尺　壱畝弐拾歩　分米　同　人
一上田　九間五尺　七間五尺　弐畝拾七歩　分米　同　人
一中田　八間弐尺　四間五尺　壱畝拾歩　分米　八郎兵衛
一中畑　八間壱尺　壱間五尺　拾五歩　分米　姥
一中田　九間五尺　五間弐尺　壱畝弐拾弐歩　分米　彌次兵衛
一中田　拾弐間　拾壱間　四畝拾弐歩　分米　甚五郎
一中田　拾間　七間三尺　弐畝拾五歩　分米　同　人
一畝田一下田　三間　壱間弐尺　四歩　分米　又兵衛
一上田　拾弐間壱尺　拾五間四尺　六畝拾歩　分米　太左衛門
一中田　拾七間三尺　四間三尺　八畝拾八歩　分米　太左衛門
一中田　弐拾壱間五尺　拾壱間四尺　弐畝拾九歩　分米　十右衛門
一中田　八間　弐間三尺　弐拾歩　分米　十右衛門
一畝田一下畑　八間弐尺　四間四尺　壱畝九歩　分米　又兵衛
一畝田一下畑　三間弐尺　弐間弐尺　七歩　分米　同　人
一畝田一下畑　三間弐尺　四間弐尺　拾三歩　分米　彌右衛門
一畝田一下畑　四間壱尺　三間弐尺　拾四歩　分米　又兵衛

一畝田一下畑　七間壱尺　五間三尺　弐畝六歩　分米　姥
一畝田一下畑　五間　三間三尺　拾七歩　分米　又兵衛
一畝田一下畑　五間　三間三尺　拾八歩　分米　應順寺
一畝田一下畑　四間　弐間弐尺　弐拾五歩　分米　同　人
一畝田一下畑　七間四尺　五間弐尺　壱畝拾壱歩　分米　太左衛門
一畝田一下畑　弐間　四間弐尺　弐拾五歩　分米　同　人
一畝田一下畑　四間三尺　五間五尺　弐拾六歩　分米　民右衛門
一畝田一下畑　弐間弐尺　六間　拾四歩　分米　又　次
一中畑　五間五尺　六間弐尺　壱畝七歩　分米　姥
一下畑　五間　弐間　弐拾七歩　分米　又　次
一下畑　弐間　壱間　弐歩　分米　姥
一下畑　五間　四間三尺　弐拾六歩　分米　應順寺
一畝田一下畑　四間　三間壱尺　弐拾九歩　分米　助右衛門
一中田　八間　三間四尺　拾八歩　分米　同　人
一下畑　三間　六間壱尺　壱畝三歩　分米　太左衛門
一下畑　四間三尺　七間弐尺　四歩　分米　武右衛門
一下田　弐間三尺　壱間壱尺　九畝四歩　分米　市　太　夫
一上田　弐拾七間　弐拾壱間壱尺　六畝弐拾四歩　分米　姥
一上田　弐拾五間　八間壱尺

| | | |

一下田	弐間四尺 壱間四尺	分米	又兵衛
一下田	五間 拾五間	分米	八郎兵衛
一中田	三拾間 拾四間弐尺	分米	助之丞
一下田	壱間三尺 八間	分米	同人
一下田	六間弐尺 八間	分米	十右衛門
一下田	拾六間壱尺 八間壱尺	分米	同人
一下田	弐拾壱間三尺 九間壱尺	分米	同人
一下畑	八間 八間五尺	分米	同人
一下畑	弐間 拾壱間弐尺	分米	彦兵衛
一下畑	拾間 九間五尺	分米	太左衛門
一下畑	壱間壱尺 九間	分米	又兵衛
一下畑	拾間弐尺 五間五尺	分米	太左衛門
一下畑	三間 壱間	分米	又兵衛
一下畑	拾間弐尺 拾壱間	分米	十右衛門
一下畑	五間 拾壱間弐尺	分米	又兵衛
一下畑	拾三間 四間	分米	同人
一下畑	九間 六間三尺	分米	傳助

一下畑	四間 七間弐尺	分米	同人
一下畑	拾四間 四尺	分米	又兵衛
一	四間 弐間	永荒	
一下畑	四間 四間	分米	十右衛門
一下田	拾弐間弐尺 九間壱尺	分米	同人
一下田	五間 三間三尺	分米	同人
一中田	拾弐間四尺 五間三尺	分米	瀬兵衛
一中田	三拾間三尺 拾八間壱尺	分米	太左衛門
一下田	弐間 三間	分米	同人
一下畑	壱間 八間	分米	彦兵衛
一中田	拾壱間壱尺 八間壱尺	分米	太左衛門
一中田	拾弐間三尺 拾六間弐尺	分米	太左衛門
一下田	拾弐間 弐拾弐間	分米	又兵衛
一中田	拾弐間三尺 拾壱間壱尺	分米	命山
一上田	拾五間 六間弐尺	分米	又兵衛
一中田	拾五間 九間	分米	同人
一中田	弐拾八間三尺 五間四尺	分米	同人
一上田	三拾四間弐尺 三拾五間壱尺	分米	又兵衛
一上田	三拾五間壱尺 六間	分米	瀬兵衛

一中田	弐拾三間壱尺	五畝八歩	分米	同	人
一上田	弐拾六間五尺	五畝弐拾六歩	分米	同	人
一上田	弐拾六間四尺	五畝弐拾六歩	分米	同	人
一上田	三拾壱間六間壱尺	六畝拾壱歩	分米	同	人
一上田	三拾弐間三六間壱尺	六畝弐拾歩	分米	又兵衛	
一上田	弐拾間弐尺六間五尺	四畝拾九歩	分米	瀬兵衛	
一中田	拾九間六間三尺	四畝四歩	分米	同	人
一上田	三拾間六間壱尺	六畝五歩	分米	同	人
一上田	六間弐尺三間	拾九歩	分米	同	人
一下畑	壱間弐尺三間四尺	五歩	分米	十石衛門	
一上田	弐拾六間三尺八間弐尺	七畝拾壱歩	分米	同	人
一中田	八間三尺拾七間	四畝弐拾六歩	分米	同	人
一上田	弐拾四間七間	五畝拾八歩	分米	又兵衛	
一中田	弐拾三間三尺七間	五畝拾五歩	分米	同	人
一下畑	九間三尺八間弐尺	弐畝拾九歩	分米	同	人
一下畑	六間 三間	拾八歩	分米	同	人
一上田	三拾弐間九間弐尺	九畝弐拾九歩	分米	同	人
一上田	弐拾九間三尺五間壱尺	五畝弐歩	分米	又兵衛	
一上田	四間三尺六間	弐拾七歩	分米	同	人
一中田	弐拾五間弐尺	壱畝五歩	分米	同	人

一中田	四拾間四間五尺	六畝拾三歩	分米	十右衛門	
一下畑	弐間弐尺拾間	弐拾三歩	分米	又兵衛	
一中田	五間三間	拾五歩	分米	太左衛門	
一中田	弐拾弐間壱尺五間三尺	四畝弐歩	分米	同	人
一中田	弐拾壱間八間三尺	五畝弐拾九歩	分米	同	人
一下畑	弐間弐尺拾弐間弐尺	弐拾五歩	分米	彦兵衛	
一下畑	九間弐尺八間三尺	拾九歩	分米	又兵衛	
破田 一下畑	六間弐尺弐間	拾三歩	分米	同	人
破田 一下田	三間三尺壱間	四歩	分米	同	人
破田 一下畑	六間五尺壱間	七歩	分米	同	人
破田 一下田	四間三尺弐間弐尺	弐拾五歩	分米	又兵衛	
破田 一下畑	九間弐尺弐間四尺	壱畝拾八歩	分米	五郎助	
一下畑	四間弐尺拾弐間	弐拾五歩	分米	又兵衛	
破田 一下田	四間四尺五尺	拾歩	分米	同	人
一	拾弐間壱間	四歩	分米	同	人
破田 一下畑	拾三間壱間	永荒			
同 一下畑	拾間三尺	拾三歩	分米	同	人
同 一下畑	五尺三拾弐間	五歩	分米	同	人
		弐拾七歩	分米	同	人

| | | |

一下畑	八間五間	壱畝拾歩	分米	命　山
一下畑	三間拾三間三尺	壱畝拾壱歩	分米	同　人
藪田一下畑	弐間壱間	弐歩	分米	傳　助
一下田	五間壱尺五間三尺	弐拾八歩	分米	七　兵　衛
藪田一下畑	拾五間四尺	拾歩	分米	又　兵　衛
一上田	弐拾六間三尺七間五尺	六畝弐拾七歩	分米	瀬　兵　衛
一下田	六間壱間	六歩	分米	傳　助
一中田	四間壱間弐尺	五歩	分米	同　人
一下田	六間弐間三尺	拾五歩	分米	瀬　兵　衛
一中田	拾三間弐尺八間三尺	三畝弐拾三歩	分米	傳　助
一中田	弐拾六間壱間壱尺	壱畝歩	分米	傳　助
一下田	五尺三間	弐歩	分米	同　人
一上田	拾三間五尺拾五間	六畝弐拾七歩	分米	同　人
藪田一下畑	壱間四尺七間	拾弐歩	分米	同　人
藪田一下田	四間壱尺三間壱尺	拾三歩	分米	又　兵　衛
一下畑	七間壱間弐尺	九歩	分米	彦右衛門
一下畑	四間四尺六間	弐拾八歩	分米	西　徳　寺
一下田	九間三尺三尺	五歩	分米	彦　七

一上田	弐拾三間三尺拾間弐尺	八畝三歩	分米	同　人
一上田	六間四間弐尺	弐拾六歩	分米	同　人
一下田	八間三尺三尺	四歩	分米	同　人
一中田	拾八間五尺三間三尺	弐畝六歩	分米	同　人
一上田	弐拾弐間四尺拾弐間	九畝弐歩	分米	圓　清
一下畑	弐間三尺壱間	三歩	分米	彦　七
藪田一下畑	四間五尺	三歩	分米	傳　助
一中田	六間壱尺九間弐尺	壱畝弐拾七歩	分米	彦　七
一下畑	八間三尺弐間	拾七歩	分米	甚五郎
一上田	六間三尺拾間四尺	弐畝九歩	分米	鍋　助
一上田	拾弐間五尺四間	壱畝弐拾壱歩	分米	同　人
一中田	五間三間	拾五歩	分米	同　人
一中田	拾壱間六間四尺	弐畝拾三歩	分米	同　人
一下畑	四間四尺七間	壱畝三歩	分米	西　徳　寺
一上田	六間弐尺弐拾弐間壱尺	四拾弐拾歩	分米	太左衛門
一上田	拾壱間拾四間	五畝四歩	分米	同　人
藪田一下田	拾間三尺八間	弐畝弐拾四歩	分米	十右衛門
藪田一下畑	四間壱尺七間弐尺	壱畝歩	分米	同　人

| | | |

一下畑	拾弐間五尺 九間	分米	彌右衛門
一上田	六間三尺 拾三間三尺	三畝弐拾五歩	太左衛門
一上田	弐拾間 五間四尺	分米	同　人
一上田	弐拾間四尺 七間五尺	弐畝弐拾八歩	鍋　助
一上田	拾弐間四尺 七間五尺	分米	彌次兵衛
一上田	拾五間弐尺 拾三間	三畝弐拾三歩	彌次兵衛
一上田	拾四間四尺 拾間五尺	分米	彌次兵衛
一上田	拾七間三尺 九間四尺	六畝拾九歩	同　人
一上田	拾六間壱尺 七間五尺	分米	市　大　夫
一上田	弐拾壱間 五尺	五畝拾九歩	久左衛門
一上田	七間五尺 拾壱間	分米	市　大　夫
一上田	弐拾八間四尺 四間五尺	四畝七歩	同　人
一上田	弐拾八間三尺 九間三尺	分米	同　人
一上田	七間弐尺 三拾間三尺	拾七歩	同　人
一上田	三拾間三尺 五間三尺	分米	同　人
一上田	弐拾弐間三尺 七間	弐畝弐拾六歩	同　人
一下田	四間五尺 壱間弐尺	分米	同　人
一下畑	四間弐尺 拾三間	四畝七歩	同　人
一下畑	壱間 八間	分米	同　人
一下畑	拾弐間四尺 四間五尺	弐畝壱歩	弐畝六歩

一上田	弐拾八間壱尺 拾間	分米	太左衛門
一下畑	四間壱尺 壱間壱尺	九畝拾弐歩	同　人
一下畑	八間 壱間弐尺	五歩	又　次
一下畑	三間 三間	分米	同　人
一下畑	三間弐尺 三間弐尺	拾壱歩	同　人
一下畑	五間四尺 壱間三尺	分米	武右衛門
一下畑	三間壱尺 拾壱間	八歩	又　次
一下畑	壱間 壱間	分米	太左衛門
一中畑	拾壱間 六間弐尺	壱歩	鍋　助
一中畑	拾間五尺 七間五尺	分米	市　太　夫
一上田	拾三間壱尺 五間	弐畝六歩	瀬　兵　衛
一上田	拾三間 拾八間三尺	分米	瀬　兵　衛
一上田	弐拾五間四尺 拾弐間五尺	八畝壱歩	同　人
一下田	拾三間壱尺 拾三間五尺	分米	仁右衛門
一下畑	拾間 八間	六畝弐歩	十右衛門
一下畑	七間弐尺 三間弐尺	分米	又　兵　衛
一下畑	六間 四間壱尺	弐畝弐拾歩	又　兵　衛
一下畑	九間 七間弐尺	分米	同　人
		弐畝弐拾四歩	同　人
		分米	傳　助
		弐拾五歩	同　人
		分米	同　人
		弐畝六歩	

一中畑	八間弐尺	壱畝拾三歩	分米	又兵衛	
一中畑	拾弐間壱尺 五間五尺	弐畝拾壱歩	分米	助右衛門	
一中畑	七間弐尺 拾壱間四尺	弐畝弐拾五歩	分米	助右衛門	
一下畑	六間 弐間三尺	拾五歩	分米	又次	
一中畑	九間三尺 拾壱間弐尺	三畝拾八歩	分米	鍋助	
一中畑	壱間三尺 八間三尺	拾三歩	分米	助右衛門	
一中畑	七間 弐間	拾四歩	分米	同人	
一上田	弐間 弐間	四歩	分米	彌次兵衛	
一上田	拾六間 五間五尺	三畝三歩	分米	彌次兵衛	
一中畑	拾四間五尺 九間壱尺	四畝拾六歩	分米	又右衛門	
一中田	拾弐間弐尺 四尺	八歩	分米	同人	
一中畑	拾八間三尺 八間五尺	五畝拾三歩	分米	太左衛門	
一上田	拾弐間三尺 七間四尺	三畝六歩	分米	彦七	
一中田	拾六間壱尺 九間弐尺	五畝壱歩	分米	同人	
一上田	弐拾弐間壱尺 六間五尺	五畝壱歩	分米	彦七	
一中田	七間 九間三尺	弐畝七歩	分米	同人	
一上畑	拾五間 三間五尺	壱畝弐拾七歩	分米	惣右衛門	
一中畑	七間三尺 七間	壱畝弐拾三歩	分米	加平	
一中畑	七間 七間	壱畝拾九歩	分米	惣右衛門	

一中畑	七間 拾弐間三尺	弐畝弐拾八歩	分米	八郎兵衛	
一下田	五間壱尺 五間弐尺	弐拾八歩	分米	八郎兵衛	
一中田	六間弐尺 拾八間三尺	三畝弐拾七歩	分米	鍋助	
一中田	拾八間 五間	五畝壱歩	分米	八郎兵衛	
一中田	三拾九間弐尺 七間壱尺	九畝拾弐歩	分米	文平	
一中田	五間五尺 拾五間三尺	三畝歩	分米	喜右衛門	
一上田	弐拾四間四尺 八間三尺	七畝歩	分米	八兵衛	
一中田	拾六間弐尺 拾弐間	六畝拾六歩	分米	八兵衛	
一上田	拾七間四尺 拾弐間	六畝八歩	分米	喜右衛門	
一上田	六間三尺 壱間三尺	拾歩	分米	同人	
一中田	拾壱間壱尺 拾間四尺	三畝弐拾九歩	分米	同人	
一中田	弐間壱尺 三間弐尺	七歩	分米	太左衛門	
一下畑	四間三尺 弐間	九歩	分米	同人	
一下畑	三間 四尺	弐歩	分米	市太夫	
一上田	七間壱尺 弐拾弐間壱尺	五畝九歩	分米	太左衛門	
一中田	拾壱間四尺 五間四尺	弐畝六歩	分米	市太夫	
一上田	拾七間 拾四間弐尺	八畝四歩	分米	同人	
一中田	拾弐間五尺 六間弐尺	弐畝弐拾壱歩	分米	同人	
一中田	拾壱間 六間壱尺	弐畝八歩	分米	同人	

| | | |

一上田	九間七間三尺	弐畝八歩	分米	同	人	一下田	三間三尺
一中田	拾間弐尺八間四尺	弐畝弐拾九歩	分米	文	平	畝田 一下田	四間四尺弐間弐尺
一中田	四間壱間三尺	六歩	分米	同	人	一上田	拾八間四尺六間弐尺
一中田	六間五尺拾壱間三尺	弐畝弐拾九歩	分米	彌次兵衛		一中田	六間五尺七間五尺
一下畑	八間拾三間弐尺	三畝拾七歩	分米	仁右衛門		一上田	五間弐尺六間三尺
一下田	五間拾七間三尺	弐畝弐拾八歩	分米	十右衛門		一中田	六間四尺五間三尺
一中田	八間七間五尺	弐畝三歩	分米	宗右衛門		一上田	拾三間九間四尺
一下田	拾四間壱尺六間壱尺	弐畝弐拾七歩	分米	同	人	一上畑	六間八間五尺
一下田	八間拾弐間	三畝六歩	分米	助之丞		一中田	弐拾八間弐尺拾壱間壱尺
一下田	七間四尺九間壱尺	弐畝拾歩	分米	同	人	一上田	弐拾八間弐尺六間壱尺
一下田	六間三尺弐間	拾三歩	分米	助右衛門		一上田	弐拾八間
一下田	弐間三尺壱間弐尺	弐畝弐拾五歩	分米	瀬兵衛		一上田	弐拾七間四尺五間五尺
一下田	六間三尺拾三間	三歩	分米	同	人	一中田	弐拾七間弐尺七間四尺
畝田 一下田	四間弐間三尺	壱畝弐拾歩	分米	太左衛門		一中田	拾八間
一下田	拾四間五尺六間五尺	三畝拾壱歩	分米	同	人	一中田	拾壱間四尺九間
一下田	拾壱間拾五間壱尺	五畝拾七歩	分米	彌次兵衛		一中田	拾間三尺拾壱間三尺
一下田	拾五間壱尺	五畝拾四歩	分米	太左衛門		一上畑	拾壱間三間
一下田	七間三尺八間五尺	弐畝六歩	分米	宗右衛門		一上畑	拾三間壱尺八間壱尺
一下田	九間五尺八間弐尺	弐畝弐拾弐歩	分米	十右衛門		一下田	拾間弐尺六間

一上田	七歩	分米	又	次			
一中田	拾壱歩	分米	長次郎				
一中田	三畝弐拾八歩	分米	十右衛門				
一中田	壱畝弐拾三歩	分米	十右衛門				
一上田	壱畝五歩	分米	彌次兵衛				
一中田	壱畝七歩	分米	八郎兵衛				
一上田	四畝六歩	分米	太左衛門				
一上畑	壱畝弐拾三歩	分米	七右衛門				
一中田	壱反拾七歩	分米	太左衛門				
一上田	五畝弐拾五歩	分米	太左衛門				
一上田	五畝拾八歩	分米	瀬兵衛				
一上田	五畝拾壱歩	分米	同	人			
一中田	四畝拾三歩	分米	助之助				
一中田	四畝六歩	分米	同	人			
一中田	三畝拾五歩	分米	同	人			
一上畑	壱畝三歩	分米	同	人			
一上畑	三畝拾七歩	分米	武右衛門				
一下田	弐畝弐歩	分米	命	山			

一下田　九間弐尺　四間　　老畝七歩　分米　助之丞
一下田　弐間三尺　九間　　弐拾三歩　分米　同　人
一下田　壱間五尺　七間四尺　　拾四歩　分米　助之丞
一下田　拾弐間四尺　弐間　　弐拾五歩　分米　加　平
一下田　弐間　弐間　　四歩　分米　武右衛門
一下田　六間　九間四尺　　老畝弐拾八歩　分米　命　山
一下田　拾壱間　壱間　　拾壱歩　分米　仁右衛門
一下田　七間五尺　拾壱間四尺　　三畝壱歩　分米　命　山
一下田　四間　三間　　拾弐歩　分米　孫　八
一中田　五間弐尺　拾七間五尺　　三畝五歩　分米　命　山
一　八間　壱間　　永荒
一上畑　弐間五尺　拾弐間　　壱畝四歩　分米　七右衛門
一上畑　拾三間　七間　　三畝壱歩　分米　八良兵衛
一上畑　拾間三尺　三間　　壱畝弐歩　分米　十右衛門
一上畑　拾間四尺　六間五尺　　弐畝拾三歩　分米　仁右衛門
一上畑　拾壱間　五間壱尺　　壱畝弐拾七歩　分米　太左衛門
一上畑　五間三尺　五間四尺　　壱畝壱歩　分米　同　人
一中畑　五間　四間四尺　　壱畝弐歩　分米　利右衛門
一下畑　弐間　四間五尺　　拾歩　分米　八良兵衛

一下畑　拾間　壱間　　拾壱歩　分米　応順寺
一上田　弐拾七間　六間　　五畝拾弐歩　分米　太左衛門
一中田　拾壱間　六間壱尺　　弐畝九歩　分米　市　太　輔
一上田　五間三尺　拾弐間壱尺　　弐畝七歩　分米　彌二兵衛
一中田　拾四間　六間壱尺　　弐畝弐拾六歩　分米　利右衛門
一中田　拾九間三尺　五間三尺　　三畝拾七歩　分米　八郎兵衛
一中田　九間　五間四尺　　壱畝弐拾壱歩　分米　長次郎
一中田　五間壱尺　拾壱間　　壱畝弐拾七歩　分米　利右衛門
一中田　七間　拾壱間三尺　　弐畝弐拾壱歩　分米　文　平
一上畑　五間五尺　拾弐間　　弐畝拾歩　分米　同　人
一上畑　拾弐間五尺　五間四尺　　弐畝拾三歩　分米　長次郎
一中田　弐間三尺　八間壱尺　　弐拾歩　分米　太左衛門
一中田　拾壱間弐尺　拾三間三尺　　五畝三歩　分米　同　人
一下田　五間四尺　九間　　壱畝弐拾壱歩　分米　太左衛門
一下田　弐間壱尺　三間四尺　　八歩　分米　同　人
一下田　七間壱尺　壱間三尺　　拾壱歩　分米　又　次
一中田　三間四尺　拾八間　　弐畝六歩　分米　九右衛門
一上田　拾八間　弐間弐尺　　七畝拾弐歩　分米　同　人
一上田　弐拾三間五尺　九間　　七畝四歩　分米　惣右衛門

一下田	五間四尺 弐間三尺	拾四歩	分米	惣右衛門	
一下田	八間四尺 三間弐尺	弐拾九歩	分米	又　次	
一	弐間 三間	永荒			
一下田	拾弐間三尺 四間五尺	弐畝歩	分米	又　次	
一下田	拾間四尺 七間弐尺	弐畝拾八歩	分米	加　平	
一下田	六間 拾八間四尺	三畝弐拾弐歩	分米	同　人	
一下畑	弐拾間 三間	弐畝歩	分米	助右衛門	
一下田	六間三尺 九間	壱畝弐拾九歩	分米	仁右衛門	
一下田	九間 四間弐尺	壱畝九歩	分米	助右衛門	
一下田	拾間四尺 壱間四尺	拾八歩	分米	同　人	
一下田	拾弐間三尺 四間三尺	壱畝弐拾六歩	分米	又　次	
一下田	拾四間壱尺 九間	四畝七歩	分米	八良兵衛	
一下田	拾間三尺 七間四尺	弐畝弐拾歩	分米	同　人	
一下田	七間壱尺 拾五間	三畝拾七歩	分米	同　人	
一中畑	拾弐間 九間五尺	三畝弐拾八歩	分米	助右衛門	
一下田	拾間壱尺 八間四尺	弐畝弐拾八歩	分米	太左衛門	

一下田	拾七間 九間四尺	五畝拾四歩	分米	同　人	
一下田	拾六間 拾八間五尺	壱反壱歩	分米	太左衛門	
一下田	四間三尺 八間	壱畝六歩	分米	又兵衛	
一下畑	三間三尺 六間弐尺	弐拾弐歩	分米	八郎兵衛	
一下田	八間五尺 八間三尺	弐畝拾五歩	分米	武右衛門	
一下田	拾壱間弐尺 七間	弐畝拾九歩	分米	長次郎	
一下田	三間四尺 四間壱尺	拾五歩	分米	又兵衛	
一下田	壱間三尺 壱間	弐歩	分米	又兵衛	
同 一下田	五間壱尺 四間壱尺	弐拾壱歩	分米	同　人	
一下田	七間壱尺 六間壱尺	壱畝拾四歩	分米	彌右衛門	
一下畑	五間 弐間	拾歩	分米	同　人	
一中畑	弐拾弐間 拾間	七畝拾歩	分米	宗右衛門	
一	四間 壱間	永荒			
一下田	四間壱尺 九間壱尺	壱畝八歩	分米	十右衛門	
一下田	三間五尺 壱間五尺	七歩	分米	彌右衛門	
一下田	拾弐間壱尺 七間壱尺	弐畝弐拾七歩	分米	同　人	
一下畑	拾壱間 壱間	拾壱歩	分米	同　人	
一下畑	八間 壱間弐尺	拾壱歩	分米	同　人	

一下畑	弐間三尺拾四間	壱畝五歩	分米	又次
一下畑	拾間六間壱尺	弐畝弐歩	分米	又次
一下田	拾六間五尺八間三尺	四畝弐拾三歩	分米	助右衛門
一下田	七間壱尺拾弐間弐尺	弐畝弐拾八歩	分米	又兵衛
一下田	七間壱尺五間弐尺	壱畝八歩	分米	同人
一下田	拾四間四間三尺	弐畝三歩	分米	太左衛門
一下田	四間三尺四間弐尺	拾九歩	分米	八郎兵衛
一下田	七間四尺拾四間	三畝拾七歩	分米	助右衛門
一下田	八間五尺三間五尺	壱畝壱歩	分米	八郎兵衛
一下田	四間三尺七間壱尺	壱畝弐歩	分米	又兵衛
一下田	六間壱尺五間弐尺	壱畝拾弐歩	分米	武右衛門
一下田	弐間壱間	弐歩	分米	八郎兵衛
一下田	六間壱尺五間五尺	拾七歩	分米	太左衛門
一下田	弐間六間四尺	拾三歩	分米	太左衛門
一	四間五尺	永荒		
一下田	拾七間七間三尺	四畝八歩	分米	

一下田	弐間三尺拾四間	五歩	分米	同人
一下田	三間弐尺	拾六歩	分米	又次
一下田	弐間四尺弐拾壱間五尺	弐畝弐拾歩	分米	宗右衛門
一下田	五間拾八間	三畝歩	分米	同人
一下田	八間弐尺弐間五尺	壱畝弐拾四歩	分米	又次
一下田	拾八間壱尺三間	弐拾四歩	分米	宗右衛門
一下田	六間四尺三間	弐拾歩	分米	同人
一下田	三間五尺六間	弐拾三歩	分米	同人
一下田	弐拾弐間四尺	拾五歩	分米	宗右衛門
一下田	弐拾壱間四間壱尺	弐畝弐拾七歩	分米	彌右衛門
一	弐拾弐間壱間	永荒		
一下田	三間弐尺弐拾八間	三畝八歩	分米	彌右衛門
一下田	弐拾弐間弐間壱尺	壱畝拾八歩	分米	武右衛門
一下田	弐間四尺拾三間	壱畝五歩	分米	宗右衛門
一下田	九間弐間	拾八歩	分米	彌右衛門
一下田	四間壱間	壱畝拾四歩	分米	同人
一下田	三間壱尺拾三間五尺	壱畝拾四歩	分米	同人

畑一下田	拾三間弐間弐尺	壱畝歩	分米	同	人
畑一下田	拾間三尺五間	壱畝弐拾三歩	分米	同	人
畑一下田	拾壱間壱間四尺	拾八歩	分米	同	人
畑一下田	拾弐間三間	壱畝六歩	分米	彌右衛門	
畑一下田	弐拾間四間	弐畝弐拾歩	分米	同	人
畑一下田	壱間四尺拾八間	壱畝歩	分米	同	人
畑一下田	弐間弐拾五間三尺	壱畝弐拾壱歩	分米	同	人
畑一下田	五間八間三尺	壱畝拾三歩	分米	助右衛門	
畑一下田	壱間四尺三間四尺	六歩	分米	同	人
畑一下田	弐間三尺拾壱間弐尺	弐拾八歩	分米	助右衛門	
畑一下田	拾間三間三尺	壱畝五歩	分米	同	人
畑一下田	拾間三間	壱畝歩	分米	同	人
畑一下田	拾三間六間弐尺	弐畝弐拾弐歩	分米	同	人
畑一下田	七間弐拾四間	五畝拾八歩	分米	同	人
一下田	三拾間四間壱尺	四畝五歩	分米	彌次兵衛	
畑一下田	拾五間弐間五尺	壱畝拾弐歩	分米	助右衛門	
一	八間弐尺拾弐間	永荒			

一下畑	九間壱間三尺	拾四歩	分米	助右衛門	
一下畑	拾三間三尺五間弐尺	弐畝拾弐歩	分米	加平	
一下畑	拾弐間三間	壱畝六歩	分米	助右衛門	
一下畑	九間四間三尺	壱畝拾壱歩	分米	彌右衛門	
一下田	三拾三間三間三尺	三畝弐拾六歩	分米	加平	
一下田	弐間四尺四拾三間	三畝弐拾四歩	分米	助右衛門	
一下田	七間弐間弐尺	拾六歩	分米	加平	
一下田	七間三尺弐間四尺	弐拾歩	分米	同人	
	右之寄				
	上田七町六反四畝拾弐歩				
	分米百拾四石六斗六升				
	中田五町四反拾歩				
	分米七拾石弐斗四升三合				
	下田三町三反拾壱歩				
	分米三拾六石三斗四升				
	上畑五反弐畝七歩				
	分米六石弐斗六升八合				
	中畑六反壱畝六歩				
	分米六石壱斗弐升				
	下畑壱町四反八畝弐拾壱歩				
	分米拾壱石八斗九升六合				

反数合拾八町九反七畝七歩
　内
　　下田壱町七反七畝拾弐歩　　田薮田
　　下畑七反七畝拾八歩　　畑薮田
分米合弐百四拾五石五斗弐升七合
　内
　　分米　拾九石五斗壱升四合　　田薮田
　　六石弐斗八升八合　　畑薮田
弐冊之寄、今壱冊之帳ニ依在之改判無之者也
　寛文八戊申年十二月十三日　　月岡新左衛門
　　齋藤久右衛門
　　高橋十郎兵衛
　　御帳付　豊田彌三次
　　御横目　渡部六郎左衛門
紙数百三拾三枚上下上紙共ニ

（表紙）
「寛文八年　弐冊之内
濃州多藝郡中村検地御帳
戊申十二月十三日　弐冊之内」

寛文八戊申年多藝中村検地御帳之凡例

一壱間　六尺
一壱歩　壱間四方
一壱反　三百歩
一壱畝　三拾歩

町反高積

一上田壱反　壱石五斗代
一中田壱反　壱石三斗代
一下田壱反　壱石壱斗代
一上畑壱反　壱石弐斗代
一中田壱反　壱石代
一下畑壱反　八斗代
一屋鋪　不限土之上下、上畑壱石弐斗代

以上

多藝中村検地御帳

一下畑　拾五間　六畝拾五歩　分米　彌右衛門
　薮田　拾三間
一下畑　四間三尺　壱畝四歩　分米　八良兵衛
　薮田　七間三尺
一下畑　弐間五尺　拾九歩　分米　又兵衛
　薮田　六間五尺
一下田　五間　弐畝七歩　分米　八郎兵衛
　拾三間弐尺
一中田　六間五尺　四畝拾四歩　分米　文平
　拾九間四尺
一上畑　拾壱間　弐畝拾五歩　分米　同人
　六間五尺

藪田一下畑	六間五尺拾六間	三畝拾九歩	分米	八郎兵衛	同人
一下田	壱間壱尺九間五尺	拾壱歩	分米	文平	同人
一下畑	壱間壱尺四尺	六歩	分米	市太夫	同人
一下畑	壱間四尺七間三尺	拾弐歩	分米	同人	同人
一下田	弐間五尺六間五尺	拾九歩	分米	同人	同人
一下畑	壱間五間	五歩	分米	同人	同人
一下畑	弐間三尺弐間五尺	七歩	分米	同人	同人
一下畑	弐間三尺三間三尺	九歩	分米	瀬兵衛	同人
一中田	拾弐間壱尺六間	弐畝拾三歩	分米	瀬兵衛	同人
一中田	壱間四尺壱間弐尺	弐歩	分米	同人	同人
一下畑	拾壱間壱尺壱間	拾歩	分米	同人	同人
一上田	七間壱尺拾七間三尺	四畝五歩	分米	同人	同人
一上田	拾壱間四尺拾間	三畝弐拾七歩	分米	同人	同人
一中畑	四間拾三間四尺	壱畝弐拾五歩	分米	彌右衛門	同人
一中田	三間三尺六間三尺	弐拾三歩	分米	彌右衛門	同人
一中田	拾壱間三間三尺	壱畝九歩	分米	同人	同人
藪田一下田	五尺拾四間	拾弐歩	分米	同人	同人
藪田一下畑	拾間壱尺弐間壱尺	弐拾弐歩	分米	武右衛門	同人

藪田一下田	六間弐尺四間弐尺	弐畝七歩	分米	同人	同人
藪田一下畑	壱間四尺七間	拾弐歩	分米	同人	同人
一下田	四間五尺八間弐尺	壱畝拾歩	分米	彌右衛門	同人
藪田一下田	七間弐尺拾四間	三畝拾三歩	分米	同人	同人
一下田	七間三尺四間	壱畝歩	分米	同人	同人
一下畑	七間四尺	五歩	分米	助之丞	同人
一下畑	九間五尺三間五尺	壱畝八歩	分米	彌右衛門	同人
一下田	四間三尺壱間三尺	七歩	分米	同人	同人
藪田一下田	拾壱間四間四尺	壱畝弐拾壱歩	分米	喜右衛門	同人
一中畑	拾壱間弐間	弐畝壱歩	分米	同人	同人
一中田	七間弐尺拾五間弐尺	三畝弐拾弐歩	分米	同人	同人
一下田	八間九間四尺	弐畝拾七歩	分米	同人	同人
一中田	弐拾三間拾三間壱尺	壱反三歩	分米	同人	同人
一上田	五間壱尺弐拾壱間弐尺	三畝弐拾歩	分米	市太夫	同人
一中田	拾七間三尺六間五尺	四畝歩	分米	助之丞	同人
一下田	壱間弐尺拾七間弐尺	弐拾三歩	分米	同人	同人
藪田一下畑	五間三尺壱間四尺	九歩	分米	武右衛門	同人
一中畑	拾壱間三尺四間五尺	壱畝弐拾六歩	分米	同人	同人

一上田　壱畝弐拾八歩　分米　市　太　夫
拾弐間五尺　四間三尺

一下畑　四歩　分米　同　人
弐尺　拾壱間三尺

一下田　四畝拾弐歩　分米　太左衛門
拾三間　拾間壱尺

一藪田　一下田　四畝弐拾七歩　分米　同　人
拾四間三尺　拾間壱尺

一中田　三畝弐拾三歩　分米　彌次兵衛
拾六間壱尺　七間

一下田　弐拾壱歩　分米　又　兵　衛
七間五尺　弐間四尺

一下田　弐畝壱歩　分米　仁右衛門
七間壱尺　三間

一中田　壱畝三歩　分米　同　人
八間三尺　五尺

一中田　壱畝拾弐歩　分米　仁右衛門
九間　四間四尺

一下田　三歩　分米　又　次
六間　三尺

一下田　弐拾九歩　分米　同　人
八間五尺　三間弐尺

一　永荒
六間　四尺

一下田　弐拾九歩　分米　又　次
拾壱間　弐間四尺

一下田　弐拾弐歩　分米　同　人
拾壱間　弐間

一　永荒
六間　弐間

一下田　弐拾六歩　分米　惣右衛門
拾三間　弐間

一下田　五畝拾六歩　分米　同　人
弐拾壱間四尺　七間四尺

一藪田　七畝弐拾歩　分米　九郎右衛門
拾八間五尺　拾弐間壱尺

一上田　壱畝弐拾歩　分米　同　人
弐拾五間四尺　五間五尺

一藪田　一下田　弐畝弐拾歩　分米　同　人
弐拾壱間四尺　五間弐尺

一下田　弐畝歩　分米　同　人
弐拾間五尺　五間五尺

一藪田　一下田　弐畝弐拾歩　分米　同　人
弐拾壱間四尺　五間弐尺

一下田　弐畝歩　分米　同　人
弐拾間四尺　五間五尺

一中田　壱畝弐拾歩　分米　同　人
八間四尺　五間三尺

一藪田　一下田　弐畝弐拾歩　分米　同　人
拾三間　八間五尺

一下田　弐畝弐拾歩　分米　同　人
拾四間　九間

一藪田　一下田　弐畝弐拾歩　分米　同　人
六間壱尺　六間

一藪田　一下田　弐畝弐拾歩　分米　同　人
五間壱尺　五間壱尺

一下田　弐畝弐拾歩　分米　同　人
拾壱間弐尺　弐間

一下田　弐畝弐拾歩　分米　同　人
八間四尺　壱間四尺

一藪田　一下田　弐畝弐拾歩　分米　同　人
五間弐尺　拾七間弐尺

一藪田　一下田　弐畝弐拾歩　分米　同　人
弐拾間四尺　五間五尺

一藪田　一下田　弐畝弐拾歩　分米　同　人
拾壱間弐尺　弐間

一藪田　一下畑　弐畝弐拾歩　分米　同　人
拾壱間　五尺

一藪田　一下畑　弐畝弐拾歩　分米　同　人
弐拾弐間　弐間

一藪田　一下田　弐畝弐拾歩　分米　同　人
弐拾六間五尺　拾間弐尺

一藪田　一下田　弐畝弐拾歩　分米　同　人
拾壱間　弐尺　拾四間

一下田　弐畝弐拾歩　分米　同　人
弐拾間四尺　五間五尺

藪田 一下田	八間 拾壱間壱尺	弐畝弐拾九歩	分米	同　人
一下田	拾八間弐尺 拾四間弐尺	八畝弐拾三歩	分米	宗右衛門
一下田	五間五尺 弐拾三間三尺	四畝拾七歩	分米	八郎兵衛
藪田 一下田	六間五尺 拾弐間壱尺	弐畝弐拾三歩	分米	同　人
一下田	五間壱尺 五間五尺	壱畝歩	分米	同　人
藪田 一下田	六間 六間	壱畝六歩	分米	同　人
一中田	弐間 三間	八歩	分米	彌次兵衛
一中田	弐拾九間 六間壱尺	六畝弐歩	分米	彌次兵衛
一下田	拾壱間 五間三尺	弐畝壱歩	分米	同　人
一下田	拾六間 弐間	壱畝弐歩	分米	同　人
藪田 一下田	拾弐間三尺 弐間四尺	壱畝三歩	分米	又兵衛
藪田 一下田	七間五尺 拾六間	四畝五歩	分米	彌右衛門
藪田 一下田	七間三尺 六間	壱畝拾五歩	分米	太左衛門
藪田 一下田	三間壱尺 拾間壱尺	壱畝弐歩	分米	太左衛門
藪田 一下田	五間 弐尺	弐歩	分米	同　人
藪田 一下畑	四間弐尺 弐間	九歩	分米	加　平
藪田 一下畑	四間 拾弐間	壱畝拾八歩	分米	同　人
藪田 一下田	八間 拾九間	五畝弐歩	分米	又兵衛

藪田 一下田	拾五間三尺 拾四間	七畝七歩	分米	同　人
藪田 一下田	六間 八間	壱畝拾八歩	分米	又兵衛
藪田 一下田	六間三尺 拾七間	三畝弐拾壱歩	分米	八良兵衛
一中畑	六間五尺 六間三尺	壱畝弐拾七歩	分米	同　人
一下田	五間壱尺 拾壱間	壱畝拾四歩	分米	彌右衛門
一中畑	八間 五間	壱畝五歩	分米	同　人
藪田 一下畑	三間 壱間弐尺	四歩	分米	同　人
藪田 一下畑	七間壱尺 七間三尺	壱畝弐拾四歩	分米	彌右衛門
藪田 一下田	八間 弐拾間	五畝拾歩	分米	太左衛門
一下田	五間三尺 拾七間三尺	九畝壱歩	分米	同　人
藪田 一下田	五間 拾弐間	弐畝歩	分米	同　人
藪田 一下田	八間 七間	壱畝弐拾六歩	分米	太左衛門
藪田 一下田	弐拾壱間三尺 七間	五畝壱歩	分米	宗右衛門
藪田 一下田	弐拾間壱尺 五間弐尺	三畝拾七歩	分米	長次郎
一下田	五間 九間三尺	壱畝拾八歩	分米	同　人
藪田 一下田	八間 九間	弐畝拾弐歩	分米	同　人
一下田	六間 弐間三尺	拾五歩	分米	同　人
藪田 一下畑	三間三尺 三間弐尺	拾弐歩	分米	同　人

藪田一下畑	五間三間三尺	拾八歩	分米	宗右衛門
一下田	八間拾三間三尺	三畝拾八歩	分米	宗右衛門
一下畑	七間弐尺拾六間	三畝弐拾七歩	分米	同　人
一下畑	弐拾三間八間弐尺	六畝拾弐歩	分米	同　人
一中畑	九間四尺拾三間五尺	四畝拾四歩	分米	加　平
藪田一下畑	八間拾五間三尺	四畝四歩	分米	同　人
藪田一下畑	三間六間	拾八歩	分米	久　三　郎
藪田一下畑	九間三尺三尺	五歩	分米	長　次　郎
藪田一下畑	拾間三尺	五歩	分米	惣右衛門
一	七間弐間	永荒		
一	九間八間	永荒		
一下畑	四間三間	拾弐歩	分米	孫　兵　衛
一	五間四間三尺	永荒		
一下畑	拾壱間五間	壱畝弐拾五歩	分米	惣右衛門
一下畑	三間三尺三間	拾壱歩	分米	彌右衛門
一下畑	弐拾四間三間弐尺	弐畝弐拾歩	分米	久　三　郎
藪田一下田	三拾五間拾間五尺	壱反弐畝拾九歩	分米	同　人
藪田一下田	弐拾壱間三尺拾間弐尺	七畝拾弐歩	分米	加　平

一	七間四間	永荒		
藪田一下畑	六間五尺拾六間	三畝拾九歩	分米	久　三　郎
藪田一下畑	拾壱間四間三尺	壱畝弐拾歩	分米	同　人
藪田一下畑	拾六間弐尺拾七間弐尺	九畝拾歩	分米	又　兵　衛
藪田一下畑	三間四間三尺	拾四歩	分米	同　人
一下畑	拾壱間壱尺弐拾六間	九畝弐拾歩	分米	長　次　郎
藪田一下畑	弐拾弐間四間五尺	三畝拾六歩	分米	又　兵　衛
藪田一下畑	三間三尺拾五間弐尺	壱畝弐拾四歩	分米	又　次
藪田一下畑	三間三尺拾六間	壱畝弐拾六歩	分米	彌右衛門
藪田一下畑	拾七間三尺拾三間四分	七畝弐拾九歩	分米	又　兵　衛
藪田一下畑	弐拾壱間三尺五間五尺	四畝五歩	分米	同　人
一	六間三尺	永荒		
一中畑	弐拾壱間弐間三尺	壱畝弐拾三歩	分米	仁右衛門
藪田一下畑	三間三尺拾間	壱畝五歩	分米	彌右衛門
藪田一下畑	七間三間五尺	弐拾七歩	分米	又　兵　衛
藪田一下畑	拾弐間弐間壱尺	壱畝歩	分米	又　次
藪田一下畑	弐間拾六間	壱畝弐歩	分米	又　兵　衛

藪田 一下畑	拾六間 弐間	壱畝弐歩	分米	同　人
一下畑	弐拾壱間 拾六間壱尺	壱反壱畝九歩	分米	宗右衛門
一下畑	拾三間四尺 弐拾八間	壱反弐畝 弐拾弐歩	分米	加　平
一下田	拾三間 三間	壱畝九歩	分米	長次郎
一下田	拾壱間五尺 四間壱尺	壱畝拾九歩	分米	宗右衛門
一下田	拾壱間 弐間	弐拾弐歩	分米	長次郎
藪田 一下畑	六間 壱間三尺 弐拾八間 四間	九歩	分米	又兵衛
一下畑	拾六間 壱間弐尺	三畝弐拾弐歩	分米	孫　八
藪田 一下田	三間三尺 三間	弐拾壱歩	分米	又兵衛
一下田	六間 弐間四尺	拾壱歩	分米	宗右衛門
一下田	四間 四間	拾六歩	分米	同　人
一下田	四間壱尺 八間	壱畝三歩	分米	助右衛門
一下田	弐間 拾四間	弐拾八歩	分米	彌右衛門
一下田	四間弐尺 拾四間三尺	弐畝三歩	分米	彌右衛門
一下田	三間 壱間	三歩	分米	同　人
一下畑	七間 壱間	七歩	分米	同　人
一下田	四間 壱間	四歩	分米	同　人

一下田	四間三尺 弐間	九歩	分米	同　人
一下田	三間五尺 五間五尺	弐拾弐歩	分米	同　人
一下田	三間 弐拾七間	弐畝弐拾壱歩	分米	彌右衛門
一下田	拾六間三尺 三間四尺	弐畝歩	分米	同　人
一	七間 壱間	永荒		
一	五間 四間	永荒		
一中田	拾間弐尺 六間四尺	弐畝九歩	分米	彌右衛門
藪田 一下田	七間 拾九間	四畝拾三歩	分米	又兵衛
一	拾五間 壱間五尺	永荒		
一下畑	拾弐間 拾間三尺	四畝六歩	分米	太左衛門
藪田 一下畑	拾弐間 拾間	四畝歩	分米	助右衛門
藪田 一下畑	拾七間 弐間	壱畝四歩	分米	彌右衛門
一	弐間 弐間	永荒		
藪田 一下畑	弐間 弐間	四歩	分米	彌右衛門
藪田 一下畑	拾弐間四尺 六間	弐畝拾六歩	分米	又兵衛
一	弐間 三間	永荒		
藪田 一下畑	弐間三間五尺 九間壱尺	七畝八歩	分米	又兵衛
藪田 一下畑	拾五間四尺 拾壱間	五畝弐拾弐歩	分米	彌右衛門

藪田一下畑	拾七間六間四尺	三畝弐拾三歩	分米	長次郎
一下畑	拾弐間拾間壱尺	四畝弐歩	分米	同　人
藪田一下畑	六間九間 五尺	弐畝壱歩	分米	久三郎
藪田一下畑	八間六間	壱畝拾八歩	分米	同　人
一	九間五間	永荒		
藪田一下畑	拾三間五尺弐間	弐拾八歩	分米	久三郎
藪田一下畑	拾間壱間五尺	拾八歩	分米	同　人
藪田一下田	弐間五尺拾壱間	壱畝壱歩	分米	長次郎
藪田一下畑	六間五尺弐間	拾四歩	分米	長次郎
藪田一下畑	拾三間弐尺七間三尺	三畝拾歩	分米	太左衛門
藪田一下畑	四間弐拾四間四尺	三畝九歩	分米	又兵衛
一下畑	弐間六間	拾弐歩	分米	清兵衛
藪田一下畑	七間拾九間五尺	四畝拾九歩	分米	加平
藪田一下畑	拾九間三尺六間三尺	四畝七歩	分米	又兵衛
藪田一下畑	八間三尺弐拾八間四尺	八畝四歩	分米	長次郎
藪田一下畑	拾九間四間弐尺	弐畝弐拾弐歩	分米	同　人
藪田一下畑	拾六間五尺四間	弐畝七歩	分米	又兵衛

藪田一下畑	四間拾六間	弐畝四歩	分米	同　人
藪田一下畑	三間三間五尺拾弐間弐尺	壱反四畝弐拾七歩	分米	同　人
一下畑	九間三間弐尺	壱畝弐歩	分米	彌右衛門
一下畑	弐間四尺弐拾三間弐尺	弐畝弐歩	分米	彌右衛門
一	拾六間壱間三尺	永荒		
一下畑	弐拾間弐尺五間三尺	三畝弐拾弐歩	分米	又次
藪田一下畑	四間三尺弐拾壱間弐尺	四畝五歩	分米	同　人
一下田	八間拾八間	四畝弐拾四歩	分米	同　人
藪田一下畑	七間四尺弐間	三畝弐歩	分米	彌右衛門
藪田一下畑	六間弐間	拾弐歩	分米	加平
藪田一下畑	壱間弐間	弐歩	分米	同　人
一下畑	壱間弐間拾三間	弐拾歩	分米	又次
一下畑	六間弐間	拾弐歩	分米	孫兵衛
一下畑	三間七間	弐拾壱歩	分米	長八
一下畑	壱間三尺八間弐尺	拾弐歩	分米	長八
一	九間壱間	永荒		
一下田	五間拾三間弐尺	弐畝七歩	分米	彌右衛門

藪田 一下田	壱間三尺 拾六間	弐拾四歩	分米	又兵衛
一下田	拾間 壱間	拾歩	分米	加平
藪田 一下田	八間 三間壱尺	弐拾五歩	分米	又兵衛
一下田	壱間 弐拾間	弐拾歩	分米	孫兵衛
一下田	九間 壱間三尺	拾四歩	分米	勘二郎
一下畑	拾七間 四間三尺	弐畝拾七歩	分米	同人
一下田	九間 弐間	拾八歩	分米	同人
一下田	弐間 四間	八歩	分米	同人
一下田	弐間 三間	六歩	分米	小平
一	壱間 八間	永荒		
一下田	八間 弐尺 三間	弐拾五歩	分米	勘二郎
一下畑	弐間 三尺 六間三尺	拾六歩	分米	孫兵衛
一下畑	九間 三尺	五歩	分米	同人
一下畑	壱間 拾三間四尺	拾四歩	分米	同人
一下畑	弐間 弐拾四間	壱畝拾八歩	分米	同人
一下田	壱間 六間	六歩	分米	彌右衛門
一下畑	弐間 三間	六歩	分米	同人
一下田	四拾壱間弐尺 八間五尺	壱反弐畝五歩	分米	同人
藪田 一下畑	弐間 拾間	弐拾歩	分米	同人

藪田 一下畑	弐拾壱間 拾弐間	八畝拾弐歩	分米	同人
藪田 一下田	九間四間四尺 拾四間四尺	四畝弐拾弐歩	分米	同人
一下田	八間 三間	弐拾四歩	分米	孫八
藪田 一下田	拾間 七間	弐畝拾歩	分米	又次
一下畑	九間 拾間	三畝歩	分米	同人
藪田 一下田	弐拾四間弐尺 八間	六畝拾五歩	分米	又兵衛
藪田 一下畑	八間五尺 弐拾四間	七畝弐歩	分米	同人
藪田 一下畑	拾七間四尺 五間	弐畝弐拾八歩	分米	長次郎
一下田	三拾三間 拾六間弐尺	壱反七畝 弐拾九歩	分米	太左衛門
藪田 一下田	拾弐間弐尺 拾三間	五畝拾歩	分米	同人
藪田 一下田	拾間 五間五尺	壱畝弐拾八歩	分米	同人
一下畑	弐間 八間	拾六歩	分米	同人
藪田 一下田	拾壱間 三間	壱畝三歩	分米	同人
一下畑	三間三尺 拾五間	壱畝弐拾三歩	分米	同人
一下畑	拾弐間 四間弐尺	壱畝弐拾弐歩	分米	彌右衛門
藪田 一下田	五間三尺 拾三間弐尺	弐畝拾三歩	分米	同人
一下田	拾五間五尺 拾三間弐尺	七畝壱歩	分米	六良兵衛
藪田 一下田	四間 八間	壱畝弐歩	分米	同人

一下田	弐拾弐間弐尺 弐拾四間三尺	壱反弐拾四歩	分米	惣　作
一下田	四間 拾間	壱畝拾歩	分米	又兵衛
一下田	拾間三尺 九間五尺	三畝拾三歩	分米	又兵衛
一下田	拾四間 三間	壱畝拾弐歩	分米	小兵衛
一下田	四拾間 六間	八畝歩	分米	同　人
一下畑	弐拾三間 三尺	拾弐歩	分米	太左衛門
一中田	拾四間三尺 三間四尺	壱畝弐拾三歩	分米	勘兵衛
一下田	弐拾四間三尺 九間弐尺	七畝拾九歩	分米	応順寺
一下畑	拾五間 三間三尺	壱畝弐拾三歩	分米	又兵衛
一下田	九間五尺 三間弐尺	壱畝三歩	分米	応順寺
一下田	弐間壱尺 六間	拾三歩	分米	宗右衛門
一下田	七間弐尺 壱間五尺	拾三歩	分米	又兵衛
一下田	三間五尺 五間壱尺	弐拾歩	分米	同　人
一下田	三間弐尺 九間弐尺	壱畝壱歩	分米	孫兵衛
一下田	九間 弐間壱尺	拾九歩	分米	又兵衛
一下田	五間四尺 三間四尺	弐拾壱歩	分米	同　人
一下田	三拾間 弐間	弐畝歩	分米	宗右衛門

一下畑	拾弐間三尺 拾間五尺	四畝拾五歩	分米	又兵衛
一下田	弐間三尺 九間三尺	弐拾四歩	分米	勘兵衛
一中田	四間 拾壱間三尺	壱畝拾六歩	分米	同　人
一下畑	八間 九間五尺	弐畝拾九歩	分米	孫兵衛
一中畑	五間壱尺 弐拾六間	四畝拾四歩	分米	勘兵衛
一上田	拾間三尺 九間五尺	三畝拾三歩	分米	吉左衛門
一中田	拾間 四間	壱畝拾歩	分米	同　人
一中畑	三間壱尺 七間	弐拾弐歩	分米	長太夫
一下畑	弐間三尺 弐間三尺	五歩	分米	彦兵衛
一上畑	七間三尺 五間三尺	壱畝九歩	分米	勘兵衛
一中畑	拾間三尺 六間三尺	弐畝五歩	分米	吉左衛門
一下田	弐間壱間	弐歩	分米	彦三郎
一下田	壱間三尺 八間	拾弐歩	分米	彦兵衛
一下田	四間三尺 拾壱間三尺	壱畝弐拾弐歩	分米	久三郎
一下畑	五間三尺 弐間	拾壱歩	分米	彦兵衛
一下田	拾三間四尺 四間	壱畝弐拾五歩	分米	同　人
一中田	拾四間 六間	弐畝弐拾四歩	分米	同　人

一上田　五間三尺　拾八間　三畝九歩　分米　同　人
一上畑　九間四尺　八間　弐畝拾七歩　分米　彦三郎
一上畑　六間　拾四間三尺　弐畝弐拾七歩　分米　彦兵衛
一中畑　三間　六間　拾八歩　分米　彦三郎
一上田　七間三尺　八間　弐畝歩　分米　同　人
一中畑　三間五尺　拾七間弐尺　弐畝六歩　分米　同　人
一上畑　三間　拾四間三尺　壱畝拾四歩　分米　彦兵衛
一中田　弐間弐尺　六間三尺　拾五歩　分米　同　人
一下畑　四間　六間　弐拾四歩　分米　蓮沢寺
一上畑　八間　九間三尺　弐畝拾六歩　分米　吉左衛門
一上畑　拾壱間　八間老尺　三畝歩　分米　久三郎
一上畑　拾壱間　八間　弐畝弐拾八歩　分米　彦六
一上畑　拾壱間　八間　弐畝弐拾八歩　分米　長太夫
一上畑　八間　九間　弐畝弐歩　分米　彦六
一中畑　八間　五間　壱畝拾歩　分米　蓮沢寺
一下田　八間五尺　六間五尺　弐畝歩　分米　權三郎
一上畑　四間　三間三尺　拾四歩　分米　同　人
一上畑　四間五尺　拾間　壱畝拾八歩　分米　八左衛門
一上畑　拾間　七間弐尺　弐畝拾三歩　分米　同　人

一上畑　九間三尺　拾壱間四尺　三畝拾六歩　分米　瀬兵衛
一下田　三拾壱間　三尺　壱畝歩　分米　吉右衛門
一下田　六間弐尺　拾七間　三畝拾八歩　分米　吉右衛門
一上畑　九間　拾七間三尺　五畝八歩　分米　同　人
一上畑　九間　拾九間　五畝弐拾壱歩　分米　同　人
一上畑　九間三尺　九間　弐畝弐拾六歩　分米　吉左衛門
一上畑　六間三尺　九間　壱畝弐拾九歩　分米　同　人
一下田　拾三間壱尺　弐間三尺　壱畝三歩　分米　長大夫
一下田　七間　弐間三尺　拾八歩　分米　蓮沢寺
一下田　七間　弐間　拾四歩　分米　彦　六
一下田　五間　七間五尺　壱畝九歩　分米　長左衛門
一下畑　八間　弐間　拾七歩　分米　次兵衛
一下田　弐間四尺　八間三尺　弐拾三歩　分米　同　人
一中畑　七間三尺　四間壱尺　壱畝壱歩　分米　權三郎
一中田　四間弐尺　八間四尺　壱畝七歩　分米　權三郎
藪田
一下田　拾弐間　拾間　四畝歩　分米　又兵衛
一　八間　三尺　永荒
一下田　弐間　弐間　四歩　分米　權三郎
一上田　拾三間三尺　拾壱間弐尺　五畝三歩　分米　兵四郎

一	拾間三尺	永荒		
一中田	拾四間弐間五尺	壱畝拾歩	分米	久三郎
一中田	弐拾間五間四尺	三畝弐拾三歩	分米	次兵衛
一	拾間三尺	永荒		
一中田	拾弐間四間三尺	壱畝弐拾四歩	分米	權三郎
一中田	拾弐間三間	壱畝六歩	分米	同人
一中田	七間弐尺三間弐尺	弐拾四歩	分米	八左衛門
一下田	八間三尺弐間	拾七歩	分米	八左衛門
一	四間弐尺七間弐尺	永荒		
一下田	拾壱間三尺三間	壱畝五歩	分米	八左衛門
一下田	七間弐尺弐間	拾五歩	分米	同人
一下畑	壱間九間	九歩	分米	同人
一下畑	拾三間三尺壱間四尺	弐拾弐歩	分米	同人
一	壱間拾六間	永荒		
一中田	拾六間五尺三拾弐間	壱反七畝弐拾九歩	分米	兵四郎
一上田	拾五間拾五間五尺	七畝弐拾七歩	分米	同人
一下田	拾三間三尺	壱畝拾六歩	分米	次兵衛
一下畑	拾弐間三間	壱畝六歩	分米	同人
一上田	弐拾壱間九間弐尺	六畝拾六歩	分米	兵四郎

一下畑	拾五間三間四尺	壱畝弐拾五歩	分米	次兵衛
一中畑	七間壱尺弐拾五間三尺	六畝三歩	分米	同人
一下畑	弐間六間	拾弐歩	分米	同人
一下田	四間弐間	八歩	分米	八助
一下田	壱間弐間	弐歩	分米	次兵衛
一下田	拾弐間弐間	弐拾四歩	分米	權三郎
一下田	弐間三間弐尺	弐拾歩	分米	權三郎
一上畑	三拾六間拾間三尺	壱反弐畝拾八歩	分米	次兵衛
一下田	拾九間五間	三畝五歩	分米	又次
一下田	弐間壱間	弐歩	分米	同人
藪田一下田	拾壱間三尺壱間三尺	拾七歩	分米	同人
一上田	拾間三尺拾間五尺	三畝弐拾四歩	分米	次兵衛
藪田一中田	三間五尺拾六間	弐畝壱歩	分米	又兵衛
同一下田	四間拾七間	弐畝八歩	分米	同人
一下田	弐拾九間六間五尺	六畝弐拾四歩	分米	次兵衛
一下畑	弐間六間	拾弐歩	分米	同人
一下田	九間壱尺弐間	拾八歩	分米	彦三郎
一中田	九間三尺弐拾八間五尺	九畝四歩	分米	神田

一中田	五間三間三尺	拾八歩	分米	彦三郎
一中田	九間弐間弐尺	弐拾壱歩	分米	八左衛門
一中田	九間三尺三間五尺	壱畝六歩	分米	權三郎
一下田	弐間六間	拾弐歩	分米	八左衛門
一中田	六間七間弐尺	壱畝拾四歩	分米	同人
一中田	四間七間四尺	壱畝壱歩	分米	同人
一上田	弐拾四間三尺八間壱尺	六畝弐拾歩	分米	兵四郎
一下田 藪田	六間三尺七間	壱畝拾六歩	分米	十右衛門
一中田	拾五間八間五尺	四畝拾弐歩	分米	同人
一上田	弐拾弐間拾五間四尺	壱反壱畝拾五歩	分米	兵四郎
一中田	拾七間五尺拾五間三尺	九畝六歩	分米	十右衛門
一中田	弐間三尺弐間三尺	六歩	分米	同人
一中田	拾三間弐尺五間五尺	弐畝拾八歩	分米	十右衛門
一中田	拾四間弐尺	四畝弐拾五歩	分米	太左衛門
一下田 藪田	九間弐尺八間五尺	弐畝弐拾弐歩	分米	十右衛門
一中田	六間拾七間三尺	三畝拾五歩	分米	圓清
一下田 藪田	八間拾間弐尺	弐畝弐拾三歩	分米	仁右衛門
一下田	三間三間	九歩	分米	次兵衛

一上田	拾九間拾三間弐尺	八畝拾三歩	分米	次兵衛
一下田 藪田	弐間四間	八歩	分米	又次
一下田 藪田	三間五尺九間	壱畝四歩	分米	同人
一下田	三間壱尺六間弐尺	弐拾歩	分米	同人
一下田 藪田	三間四尺四間	拾五歩	分米	十右衛門
一下田 藪田	三間弐尺七間	弐拾三歩	分米	又次
一下田	四間弐尺壱間五尺	八歩	分米	武右衛門
一下田 藪田	拾壱間弐間弐尺	弐拾六歩	分米	仁右衛門
一下田	弐間八間	拾六歩	分米	武右衛門
一下田 藪田	三間五尺四間三尺	拾七歩	分米	仁右衛門
一下田 藪田	三間三尺壱間	四歩	分米	又次
一下田	九間壱間	九歩	分米	同人
一下田	拾六間三間五尺	弐畝壱歩	分米	又次
一中田	拾四間弐尺六間五尺	三畝八歩	分米	次兵衛
一中田	八間五尺七間五尺	弐畝九歩	分米	同人
一下田	七間壱尺七間	壱畝弐拾歩	分米	久三郎
一下田 藪田	四間五尺拾弐間弐尺	弐畝歩	分米	仁右衛門
一中田	弐拾三間壱尺六間弐尺	四畝弐拾七歩	分米	次兵衛

一	藪田	拾間	永荒	
一下田		老間		
一	藪田	拾間四尺	六畝弐拾壱歩	分米
一下田		拾八間五尺		
一	藪田	九間弐尺	三畝拾三歩	分米
一下田		拾老間		
一	藪田	拾三間五尺	四畝四歩	分米
一下田		九間		
一	藪田	老間三尺	拾三歩	分米
一下田		八間五尺		
一中田		六間老尺	弐畝弐拾歩	分米
		拾三間		
一	藪田	四間	老畝六歩	分米
一下田		四間		
一下田		九間	八歩	分米
		弐間		
一中田		六間老尺	三畝弐拾老歩	分米
		拾八間		
一中田		弐拾六間	六畝拾老歩	分米
		七間弐尺		
一中田		拾六間	弐畝四歩	分米
		四間		
一上田		拾三間	八畝弐拾歩	分米
		弐拾間		
一上田		弐拾老間三尺	老反老畝三歩	分米
		拾五間三尺		
一中田		六間	弐畝弐拾七歩	分米
		拾四間三尺		
一中畑		拾間三尺	弐畝五歩	分米
		六間老尺		
一		拾弐間	永荒	
		弐間		
一下田		弐間	弐歩	分米
		老間		
一中畑		弐拾間	弐畝弐拾歩	分米
		四間		

一中畑		弐間	拾九歩	分米
		弐間		
一中田		六間	老畝拾九歩	分米
		八間老尺		
一中田		拾老間	五畝五歩	分米
		拾三間三尺		
一	藪田	拾六間弐尺	四畝拾老歩	分米
一下田		八間		
一中田		弐拾間	八畝弐拾三歩	分米
		拾三間老尺		
一中田		拾三間	拾五歩	分米
		老間老尺		
一下畑		六間	老畝弐拾五歩	分米
		九間		
一中田		四間	弐拾三歩	分米
		五間		
		六間	永荒	
一	藪田	弐拾弐間	三畝九歩	分米
一下田		四間三尺		
一中田		弐拾間	四畝歩	分米
		六間		
一下田		拾八間	三畝九歩	分米
		五間三尺		
一	藪田	弐間四尺	拾七歩	分米
一下田		六間三尺		
		六間	拾八歩	分米
		三間		
一		拾間	永荒	
		六間		
一下田		弐拾老間四尺	弐畝弐拾七歩	分米
		四間		
一	藪田	三間	老畝弐拾七歩	分米
一下田		拾九間		
一	藪田	弐拾五間	三畝弐歩	分米
一下田		三間四尺		

| | | |

藪田 一下田	弐拾壱間五尺 三間四尺	弐畝弐拾歩	分米	長次郎	
藪田 一下田	七間 三間	弐拾壱歩	分米	同　人	
藪田 一下田	六間 四間三尺	弐拾七歩	分米	太兵衛	
一下田	弐間三尺 壱間三尺	三歩	分米	次兵衛	
一下田	拾四間三尺 四間四尺	弐畝八歩	分米	同　人	
一下田	拾五間壱尺 五間五尺	弐畝弐拾八歩	分米	同　人	
一下田	壱間 弐拾六間	弐拾六歩	分米	次兵衛	
藪田 一下田	拾三間 拾四間三尺	六畝九歩	分米	仁右衛門	
藪田 一下畑	拾壱間 三間	壱畝三歩	分米	同　人	
藪田 一下畑	壱間 拾間三尺	拾壱歩	分米	同　人	
藪田 一下田	拾弐間 拾八間	七畝六歩	分米	久三郎	
藪田 一下田	六間 壱間弐尺	八歩	分米	傳　助	
一下田	三間五尺 壱間	四歩	分米	次兵衛	
藪田 一下田	拾七間 六間三尺	三畝弐拾壱歩	分米	又　次	
藪田 一下田	六間三尺 八間	壱畝弐拾弐歩	分米	同　人	
藪田 一下田	八間 四間三尺	壱畝六歩	分米	同　人	
藪田 一下田	八間 五間	壱畝拾歩	分米	同　人	

藪田 一下田	六間四尺 拾壱間	弐畝拾三歩	分米	八良兵衛	
藪田 一下田	拾四間三尺 拾四間五尺	五畝六歩	分米	又兵衛	
藪田 一下田	五間壱尺 拾三間	弐畝七歩	分米	同　人	
藪田 一下田	拾壱間 六間	弐畝六歩	分米	八良兵衛	
藪田 一下田	拾壱間 拾三間三尺	四畝弐拾九歩	分米	同　人	
藪田 一下田	拾三間 拾七間三尺	七畝拾八歩	分米	同　人	
藪田 一下田	弐拾九間 七間	六畝弐拾三歩	分米	彌右衛門	
藪田 一下田	八間弐尺 弐拾六間弐尺	七畝九歩	分米	又兵衛	
同 一下田	拾弐間 七間五尺	三畝四歩	分米	八良兵衛	
同 一下田	三拾六間 九間五尺	壱反壱畝 弐拾四歩	分米	助右衛門	
藪田 一下田	拾三間壱尺 八間三尺	三畝弐拾弐歩	分米	同　人	
藪田 一下田	拾弐間五尺 四間三尺	壱畝弐拾八歩	分米	同　人	
藪田 一下田	拾壱間五尺 六間	弐畝拾壱歩	分米	同　人	
一	六間 五尺	永荒			
一中田	八間壱尺 拾五間弐尺	四畝五歩	分米	次兵衛	
藪田 一下田	拾四間 弐拾三間三尺	壱反弐拾九歩	分米	彌右衛門	
藪田 一下田	拾壱間三尺 拾五間	五畝弐拾三歩	分米	仁右衛門	

一下田	拾間弐間三尺	弐拾五歩	分米	又兵衛
一下畑	八間三間	弐拾四歩	分米	仁右衛門
一下畑	拾間弐間四尺	弐拾七歩	分米	又兵衛
一中畑	五間三尺拾壱間三尺	弐畝三歩	分米	彌右衛門
一下田	三間壱尺拾六間	壱畝弐拾壱歩	分米	又兵衛
一下田	三間弐間三尺	八歩	分米	同　人
一下田	拾九間三尺六間三尺	四畝七歩	分米	同　人
一下田	拾五間三尺五間三尺	弐畝弐拾五歩	分米	同　人
一下田	八間四尺拾五間	五畝弐拾六歩	分米	仁右衛門
一下田	拾三間拾三間三尺	四畝拾歩	分米	又兵衛
一下田	拾間四尺弐拾弐間	七畝弐拾五歩	分米	十右衛門
一下田	六間六間	壱畝六歩	分米	同　人
一下田	三拾三間弐間	弐畝六歩	分米	同　人
一下田	拾四間三間	壱畝拾弐歩	分米	又兵衛
一下田	弐拾三間五間	三畝弐拾五歩	分米	宗右衛門
一下畑	五間弐間	拾歩	分米	同　人
一下田	四間五尺拾間三尺	壱畝弐拾壱歩	分米	又兵衛

一下田	三間壱尺八間三尺	弐拾七歩	分米	孫兵衛
一下田	三間弐間	六歩	分米	同　人
一下田	五間弐間	拾歩	分米	又兵衛
一下田	弐間七間三尺	拾五歩	分米	加兵衛
一下田	拾五間壱間	拾五歩	分米	十右衛門
一下田	拾弐間三尺拾四間壱尺	五畝弐拾七歩	分米	彌右衛門
一下田	拾弐間壱間	拾弐歩	分米	孫兵衛
一下田	九間三尺七間三尺	弐畝拾壱歩	分米	彌右衛門
一下田	五間壱間	五歩	分米	同　人
一下田	拾七間五尺拾七間	壱反三歩	分米	加　平
一下田	拾三間拾五間三尺	六畝弐拾弐歩	分米	同　人
一下田	拾間三尺八間三尺	弐畝弐拾九歩	分米	同　人
一下田	五間九間	壱畝拾五歩	分米	同　人
一下畑	拾間四尺	七歩	分米	同　人
一下畑	八間壱間三尺	拾弐歩	分米	同　人
一下畑	弐間六間三尺	拾三歩	分米	加　平
一下田	五間八間四尺	壱畝拾五歩	分米	助右衛門

藪田一下畑	五間三尺	弐拾八歩	分米	孫兵衛
藪田一下畑	拾弐間四尺五間三尺	弐畝拾歩	分米	同　人
藪田一下畑	弐間弐間	四歩	分米	同　人
藪田一下畑	三間五間	拾五歩	分米	又　次
藪田一下畑	四間拾三間	壱畝弐拾弐歩	分米	孫兵衛
藪田一下田	拾七間弐間三尺	壱畝拾三歩	分米	同　人
藪田一下畑	四間三尺七間三尺	壱畝四歩	分米	同　人
藪田一下畑	三間五尺三間	拾壱歩	分米	同　人
藪田一下田	五間四尺四間	弐拾三歩	分米	同　人
藪田一下田	四間七間	弐拾八歩	分米	同　人
一下畑	三間三間	九歩	分米	助右衛門
一下畑	三間三間	九歩	分米	孫兵衛
藪田一下畑	八間弐間	拾六歩	分米	同　人
一下畑	八間壱間	八歩	分米	彦兵衛
一下田	弐間三尺	壱歩	分米	同　人
藪田一下田	拾間八間五尺	弐畝弐拾七歩	分米	惣右衛門
藪田一下田	拾間弐間壱間弐尺	拾三歩	分米	惣右衛門

藪田一下田	拾五間壱間三尺	弐拾三歩	分米	同　人
藪田一下田	拾壱間三尺弐拾壱間	八畝弐歩	分米	助右衛門
藪田一下田	三間弐間	六歩	分米	武右衛門
藪田一下田	拾弐間三尺弐拾壱間	八畝弐拾三歩	分米	仁右衛門
藪田一下田	八間壱間	八歩	分米	武右衛門
藪田一下田	拾弐間壱尺八間三尺	三畝拾三歩	分米	八良兵衛
藪田一下田	四間壱尺壱間三尺	六歩	分米	同　人
藪田一下田	弐間三尺拾壱間	弐拾八歩	分米	同　人
藪田一下田	拾三間四尺六間四尺	三畝壱歩	分米	助右衛門
藪田一下田	弐拾間三間四尺	弐畝拾三歩	分米	又兵衛
藪田一下田	拾七間七間	三畝弐拾九歩	分米	同　人
藪田一下畑	拾六間五間	弐畝弐拾歩	分米	又兵衛
藪田一下田	六間四間	弐拾四歩	分米	彌右衛門
一下田	拾間拾間四尺	三畝拾七歩	分米	同　人
一下田	弐拾弐間四間五尺	三畝拾六歩	分米	同　人
一中畑	弐間弐拾弐間	壱畝拾四歩	分米	同　人
一中畑	拾間三尺拾六間	五畝拾八歩	分米	同　人

藪田 一下田	三拾壱間五尺 五間	五畝九歩	分米	又次
藪田 一下畑	三間 壱間	三歩	分米	同人
藪田 一下畑	八間 弐間	拾六歩	分米	彌右衛門
藪田 一下田	弐拾三間五尺 拾壱間五尺	九畝拾弐歩	分米	八良兵衛
藪田 一下畑	拾間 七間三尺	弐畝拾五歩	分米	同人
藪田 一下畑	拾間 四間四尺	壱畝拾壱歩	分米	同人
藪田 一下田	五間弐尺 四間五尺	弐拾六歩	分米	同人
藪田 一下畑	拾間 四間四尺	壱畝拾七歩	分米	八良兵衛
藪田 一下田	弐拾間 七間三尺	五畝歩	分米	同人
一下畑	拾六間三尺 弐間	壱畝三歩	分米	同人
藪田 一下田	八間三尺 弐間	拾七歩	分米	太左衛門
藪田 一下田	六間五尺 七間三尺	壱畝弐拾壱歩	分米	同人
藪田 一下田	八間 拾間	弐畝弐拾歩	分米	太左衛門
藪田 一下畑	拾四間 拾間	四畝弐拾歩	分米	同人
藪田 一下田	拾七間 八間	四畝拾六歩	分米	同人
藪田 一長田	弐間 三間	六歩	分米	長八
藪田 一下田	拾弐間 弐間	弐拾四歩	分米	助右衛門

藪田 一下田	拾壱間 八間弐尺	三畝弐歩	分米	太左衛門
藪田 一下田	弐拾間 七間三尺	五畝歩	分米	太左衛門
同 一下田	四拾弐間 七間四尺	壱反弐拾弐歩	分米	助右衛門
藪田 一下田	弐拾五間 四間五尺	四畝壱歩	分米	宗右衛門
藪田 一下田	弐拾八間 六間	五畝拾八歩	分米	同人
藪田 一下田	弐拾九間 三間三尺	三畝拾弐歩	分米	又兵衛
一下畑	拾間 三間	壱畝歩	分米	彌右衛門
藪田 一下畑	弐間 六間	拾弐歩	分米	彌右衛門
藪田 一下田	八間 壱間	八歩	分米	又兵衛
藪田 一下田	拾三間 五間	弐畝五歩	分米	同人
藪田 一下田	拾七間 七間	拾五歩	分米	彌右衛門
藪田 一下畑	壱間 拾五間	三畝弐拾九歩	分米	又兵衛
藪田 一下畑	拾三間 三間五尺	壱畝弐拾歩	分米	同人
藪田 一下畑	五間三尺 四間弐尺	弐拾四歩	分米	又兵衛
藪田 一下畑	九間四尺 拾弐間弐尺	三畝弐拾九歩	分米	同人
藪田 一下畑	弐拾弐間四尺 拾壱間三尺	八畝弐拾壱歩	分米	同人
藪田 一下畑	拾弐間三尺 四間	壱畝弐拾歩	分米	同人

藪田一下畑	五間九間	壱畝拾五歩	分米	同人
藪田一下畑	拾三間五間弐尺	壱畝弐拾三歩	分米	同人
藪田一下畑	拾三間	五畝拾九歩	分米	又兵衛
藪田一下畑	七間弐間三尺	壱畝弐拾三歩	分米	同人
藪田一下畑	拾八間五尺弐間五尺	壱畝弐拾三歩	分米	同人
藪田一下畑	五間弐尺三間	拾八歩	分米	同人
藪田一下畑	三間弐尺八間三尺	弐拾八歩	分米	同人
藪田一下畑	四間五尺四間五尺	拾九歩	分米	同人
藪田一下畑	四間五尺六間五尺	弐拾九歩	分米	又兵衛
藪田一下畑	七間三尺七間三尺	壱畝弐拾三歩	分米	同人
藪田一下畑	四間三尺五間	弐拾三歩	分米	同人
藪田一下畑	四間弐間	八歩	分米	同人
藪田一下畑	七間壱間	七歩	分米	同人
藪田一下畑	四間弐尺拾間	壱畝拾三歩	分米	同人
藪田一下畑	弐拾間九間	六畝歩	分米	同人
藪田一下畑	三間三間	九歩	分米	又兵衛
藪田一下畑	拾三間弐尺拾六間	七畝三歩	分米	同人

藪田一下畑	六間五間三尺	壱畝三歩	分米	同人
藪田一下畑	五間拾間	壱畝弐拾歩	分米	同人
藪田一下畑	四間五間三尺	弐畝弐歩	分米	同人
藪田一下畑	六間三間	拾八歩	分米	同人
藪田一下畑	六間五間	壱畝歩	分米	又兵衛
藪田一下畑	四間弐間	八歩	分米	同人
藪田一下畑	五間四間	弐拾歩	分米	同人
藪田一下畑	六間八間三尺	壱畝弐拾壱歩	分米	同人
藪田一下畑	六間三尺九間	壱畝弐拾九歩	分米	又兵衛
藪田一下畑	弐拾五間三間弐尺	弐畝弐拾八歩	分米	又次
藪田一下畑	八間弐拾三間	六畝四歩	分米	又兵衛
藪田一下畑	七間三尺拾八間	四畝拾五歩	分米	又次
藪田一下畑	六間拾弐間	弐畝弐拾歩	分米	同人
藪田一下畑	三間九間	弐拾七歩	分米	同人
藪田一下畑	拾間四間三尺	壱畝拾五歩	分米	又次
藪田一下畑	八間九間	弐畝拾弐歩	分米	又兵衛

藪田一下畑　七間三間三尺　分米　弐拾五歩
藪田一下畑　拾四間五間　分米又兵衛次　弐畝拾歩
藪田一下畑　七間四間　分米同人　弐拾八歩
藪田一下畑　四間壱間　分米同人　四歩
藪田一下畑　拾弐間拾間　分米又兵衛　四畝歩
藪田一下畑　九間壱間　分米同人　九歩
藪田一下畑　九間拾三間　分米同人　三畝弐拾七歩
藪田一下畑　壱間拾八間　分米同人　拾八歩
藪田一下畑　拾間三間　分米同人　壱畝歩
藪田一下畑　拾壱間弐間　分米又次　弐拾弐歩
藪田一下畑　四間三尺弐間　分米又兵衛　拾歩
藪田一下畑　四間壱間　分米同人　四歩
藪田一下畑　弐間拾弐間　分米同人　壱歩
藪田一下畑　壱間壱間　分米同人　弐拾四歩
藪田一下畑　拾三間弐拾四間　分米同人　壱反拾弐歩
藪田一下畑　拾間壱間五尺　分米同人　拾八歩
藪田一下畑　七間壱間三尺　分米又兵衛　拾壱歩

一下畑　拾壱間弐間　分米又次　弐拾弐歩
藪田一下畑　拾八間弐間　分米又兵衛　壱畝六歩
藪田一下畑　四間拾六間三尺　分米同人　弐畝六歩
藪田一下畑　九間四間　分米同人　壱畝六歩
藪田一下畑　八間壱間　分米同人　八歩
藪田一下畑　六間四間　分米又兵衛　弐拾四歩
藪田一下畑　五間弐間三尺　分米同人　拾三歩
藪田一下畑　拾間九間　分米同人　三畝歩
藪田一下畑　弐間拾八間　分米同人　壱畝六歩
藪田一下畑　九間三間　分米同人　弐拾七歩
藪田一下畑　九間三間三尺　分米同人　壱畝弐歩
藪田一下畑　九間弐間　分米又兵衛　拾八歩
藪田一下畑　八間三間三尺　分米同人　弐拾八歩
藪田一下畑　五間五間　分米同人　弐拾五歩
藪田一下畑　六間三尺弐拾間　分米同人　四畝拾歩
藪田一下畑　八間三間四間　分米久八　壱畝四歩
一下田　拾間九間　分米同人　三畝歩

一下田　拾間三尺　八間三尺　弐畝弐拾九歩　分米　久　八
一屋鋪　六間　五間三尺　壱畝三歩　分米　同　人
一屋鋪　弐拾八間　拾間弐尺　九畝拾九歩　分米　瀬兵衛
一屋鋪　拾八間三尺　六間　三畝弐拾壱歩　分米　助之丞
一屋鋪　八間　四間三尺　壱畝六歩　分米　七右衛門
一屋鋪　四間　六間　弐拾四歩　分米　長次郎
一屋鋪　三間　六間　拾八歩　分米　う　は
一屋鋪　四間　弐間三尺　拾歩　分米　五　郎
一屋鋪　八間　拾壱間　弐畝弐拾八歩　分米　彦　七
一屋鋪　八間　九間　弐畝拾弐歩　分米　孫兵衛
一屋鋪　七間　五間　壱畝五歩　分米　命　山
一屋鋪　拾間　六間　弐畝歩　分米　仁右衛門
一屋鋪　拾四間　八間　三畝弐拾弐歩　分米　八良兵衛
一屋鋪　八間　七間　壱畝弐拾六歩　分米　孫　八
一屋鋪　七間　六間　壱畝拾弐歩　分米　八良兵衛
一屋鋪　五間　四間　弐拾歩　分米　久　三　郎
一屋鋪　八間　拾五間　四畝歩　分米　太左衛門
一屋鋪　五間　拾壱間　壱畝弐拾五歩　分米　十右衛門
一屋鋪　五間　八間　壱畝拾歩　分米　彌右衛門

一屋鋪　拾四間　四間　壱畝弐拾六歩　分米　孫　助
一屋鋪　七間　三間　弐拾壱歩　分米　応　順　寺
一屋鋪　六間　六間　壱畝六歩　分米　加　平
一屋鋪　五間　七間　壱畝五歩　分米　武右衛門
一屋鋪　五間　六間　壱畝歩　分米　宗右衛門
一屋鋪　三間　拾間三尺　壱畝五歩　分米　孫　助
一屋鋪　四間　八間　壱畝弐歩　分米　彌次兵衛
一屋鋪　七間　五間　壱畝五歩　分米　助右衛門
一屋鋪　八間　九間　弐畝拾弐歩　分米　太左衛門
一屋鋪　拾五間四尺　拾間　五畝七歩　分米　文　平
一屋鋪　拾間　六間　弐畝歩　分米　助右衛門
一屋鋪　拾間　九間　三畝歩　分米　又　次　郎
一屋鋪　六間　七間　壱畝拾弐歩　分米　傳　助

右之寄
上田九反八畝拾六歩
分米拾四石七斗八升
中田壱町五反八畝拾九歩
分米弐拾石六斗弐升弐合
下田八町壱反三畝九歩

分米八拾九石四斗六升三合
上田六反壱畝四歩
分米七石三斗三升六合
中畑四反七畝拾六歩
分米四石七斗五升二合
下畑四町弐反五畝壱歩
分米三拾四石弐合
屋鋪六反弐畝弐拾九歩
分米七石五斗五升六合
反数合拾六町六反七畝四歩
内
下田四町九反壱畝拾三歩
下畑弐町九反四畝弐拾六歩
分米合百七拾八石五斗壱升弐合
内
分米五拾四石五升八合
分米弐拾三石五斗九升七合
右弐冊之大寄
上田八町六反弐畝弐拾八歩
分米百弐拾九石四斗四升
中田六町九反八畝弐拾九歩
分米九拾石八斗六升五合

田藪田
畑藪田

田藪田
畑藪田

下田拾壱町四反三畝弐拾弐
分米百弐拾五石八斗三合
上畑壱町壱反三畝拾壱歩
分米拾三石六斗四合
中畑壱町八畝弐拾弐歩
分米拾石八斗七升三合
下畑五町七反三畝弐拾弐歩
分米四拾五石八斗九升九合
屋鋪六反弐畝弐拾九歩
分米七石五斗五升六合
惣反数合三拾五町六反四畝拾壱歩

改御勘定所

惣分米合四百弐拾四石四升
内
百三石四斗五升七合
藪田

寛文八年
戊申十二月十三日

御帳付　月岡新左衛門
　　齋藤久右衛門
御横目　高橋十良兵衛
　　豊田彌三次
　　渡部六良右衛門

紙数百弐拾七枚上下上紙共ニ

四五　押越村田畑名寄帳

○押越　澁谷保之氏所蔵

（表紙）「寛文十三年
御検地帳面田畑名寄　押越村　六左衛門
丑三月二十八日　十一冊之内　七左衛門」
町分共ニ

丑ノ年御検地名寄　六左衛門

下畑壱畝拾四歩　神明茶畑
下畑弐畝拾五歩　井村南彦次分
下畑壱反壱歩　小牧
上畑六畝廿四歩　同所長畑
上田壱畝廿三歩　同所源三郎分
中畑弐畝廿九歩　神明
下畑壱畝拾八歩　同所
下畑弐拾七歩　同所
下畑壱畝拾八歩　九郎助初源三郎分
上畑壱畝三歩　鳥井戸
下畑三畝拾九歩　切懸
下畑壱反弐拾四歩　南川原
中畑六畝弐拾八歩　同所
下畑壱畝拾四歩　同所
下畑五畝三歩　神明
下畑壱反弐拾四歩　同所
中畑三畝拾歩　同所
下畑壱畝拾八歩　同所
上畑五畝拾弐歩　鳥井戸道下
上畑壱畝拾五歩　元田小牧東
丑之暮より畑帳ニ入
下畑拾五歩　同所
上畑壱反三畝歩　大豆田
上田七畝廿四歩　同所
中田壱反壱畝弐拾壱歩　壱町八反
下田六畝廿三歩　同所
中田七畝拾歩　横田
中田六畝拾七歩　同所
下田四畝弐拾歩　河田
下田壱畝拾六歩　同所
下田弐拾八歩　同所
中田壱反五畝弐拾歩　川田五郎八作
中田六畝廿五歩　同所
上田八畝拾弐歩　八中
上田壱反三畝歩　同所
下田弐拾六歩　高川原五郎左衛門分

上田壱反四畝弐歩　古宿　下田三畝廿七歩　北川原
中田壱反九畝拾三歩　同所　上畑壱畝四歩　城屋敷
中田弐畝拾八歩　同所　上田壱反九畝弐歩　ちやゑん原道上
中田六畝歩　井川　下田壱反七畝拾九歩　井村北
中田弐畝歩　同所源三郎分　下田壱反歩　ちやゑん原起
中田八畝廿歩　同所　中田五畝拾五歩　同所
中田九畝拾歩　八中道南　屋敷畑三畝廿七歩　井川源三郎分
中田七畝拾五歩　同所　七右衛門ニ入　居所七次郎
上田弐畝四歩　同所杁下彦左衛門ニ入　同六畝三歩　居屋敷
上田三畝拾歩　同所　同人ニ入　（朱書）「提外」
上田七畝六歩　同所　同人ニ入　上田壱畝九歩　藤太夫分
下田壱畝廿三歩　がた〳〵　七右衛門ニ入　堤外
下田六畝廿歩　同所　上畑壱畝拾五歩　堤外同所
下田弐畝九歩　同所　上畑拾四歩　同所
中田八畝七歩　古宿　上田弐拾五歩　同所道かいと
中田壱畝拾五歩　井川　下畑弐拾歩　同中嶋
中田四畝弐拾壱歩　同所　下畑壱畝拾九歩　同所
下田九畝歩　北門彦次分　下畑三畝六歩　同所
上田五畝八歩　茶園原　下畑拾弐歩　同所五郎八分
上田四畝拾五歩　同所初權兵衛分　下畑拾壱歩　町浦藤太夫分
中田壱反六畝四歩　但八畝廿九歩之内半分　中畑弐畝拾四歩　同所同人分
上畑弐拾八歩　同所道北　上田三畝廿壱歩　替地新田ニ在
寺屋敷

上田合壱町四畝廿五歩　三セ七歩
中田合壱町三反七畝三歩
下田合六反六畝壱歩
◎田〆三町七畝廿六歩　六セ十一歩
上畑合弐反八畝拾四歩
中畑合壱反八畝九歩
下畑合五反八畝八歩　九セ廿三歩
◎畑〆壱町五畝壱歩　六セ十六歩
田畑合四町壱反弐畝廿七歩
七右衛門分
一下畑弐畝三歩
同人分
一下田弐畝拾七歩
同人分
一下田拾弐歩
同人分
一上田四セ十四歩　三歩
田合三町壱反三セ廿四歩

内三セ歩　新田替地

畑合壱町三畝拾三歩
田畑合四町壱反六畝拾六歩

鳥井戸
同所
切懸
井村北權兵衛分

一□下畑壱セ弐歩
一下畝弐拾五歩
一下畑拾六歩
一下畑廿壱歩
畑〆壱町五畝廿五歩　六
六せ拾七歩
田畑合四町壱反八せ廿九歩
未ノ年入三郎兵衛分
一上田五畝八歩

川田
一中田壱反壱畝三歩
同所
一中田壱反六畝拾六歩
同所
一中田九畝廿七歩
同所
一中田六畝廿歩
河原池
一下田壱反壱畝廿五歩
同所
一下田九畝六歩
一下畑廿壱歩
田〆三町七反廿八歩
田畑合四町七反六畝廿四歩
七畝拾五歩

丑ノ御検地帳面名寄帳

巳ノ年より
源三郎分入神明
同人分入同所
同人分ニ入鳥井戸
町
藤太夫分入

井村北半田
彦左衛門分入
同人分入
同人分入
同人分入
清右衛門分入
同人分入
町
藤太夫分入

七左衛門

上畑五畝弐拾六歩	鳥井戸五郎左衛門分	下畑壱畝拾壱歩	同所
中畑三畝四歩	小牧	下田壱反弐畝壱歩	海老
中畑壱畝拾七歩	小牧	上田五畝拾弐歩	八中西
中畑三畝拾弐歩	神明	上田壱反六畝拾四歩	同所
下畑三畝廿三歩 元田 丑ノ暮より畑帳ニ入	同所	上田壱反三畝拾歩	同所
下畑五畝拾歩	同所	上田壱反九畝拾八歩	同所
下畑五畝拾弐歩	井村南	中田八畝弐拾八歩	井川
下畑弐畝三歩 六右衛門ニ入	鳥井戸	中田壱畝六歩	同所
下畑弐畝拾七歩 同人ニ入	同所	中田壱畝弐拾弐歩	同所
下畑拾弐歩 同人ニ入	切懸	中田六畝三歩	同所
下畑五畝九歩	南川原	中田五畝拾三歩	同所
下畑壱畝弐拾壱歩	神明	中田壱畝拾五歩	同所
上田六畝七歩	大豆田	下田弐畝九歩	ちやゑん原道北
上田壱反壱畝拾七歩	同所	中畑三畝八歩	神明森北
下田壱畝九歩	川田北	下田弐畝拾弐歩	北川原
中田弐畝弐拾六歩	横田	下田弐畝歩	同所
中田五畝廿六歩	同所	上田四畝拾四歩 六左衛門ニ入	五兵衛分井村北西
中田五畝歩	同所	屋敷畑四畝弐拾七歩 （朱書）「堤外」	八セ廿九歩内半分
下田三畝歩	川田	下畑壱畝拾八歩	中嶋
下田壱畝拾六歩	かわらけ	下畑壱畝歩	同所
下田弐畝拾歩	同所		

下畑壱畝拾弐歩　同所下
下畑弐拾七歩　同所
下畑弐拾歩　中嶋八蔵分
上田合七反七畝弐歩
中田合三反八畝拾九歩　弐反九セ廿六歩
下田合三反三畝拾九歩
田〆壱町四反九畝十歩　五セ十七歩
上畑合壱反廿三歩
中畑合壱反壱畝拾壱歩
下畑合弐反六畝廿三歩　三反十六歩
畑〆四反八畝廿七歩　五反弐セ廿歩
田畑合壱町九反八畝七歩
六左衛門分
一屋畑三畝廿七歩
藤太夫分
一上畑壱セ九歩
同人分
一上田廿壱歩
與作分
一下畑壱セ歩
同人分
一中畑壱セ廿九歩
同人分
一下畑壱セ廿五歩

田畑合壱町三反八畝廿五歩　新田替地
内廿壱歩
畑合六反拾七歩
田畑合壱町九反九畝拾弐歩　源三郎屋敷入
辰之年より
一上畑十六歩
一中畑弐セ十弐歩　同人分堤外入
一中畑壱セ廿弐歩
一上畑壱セ五歩　同所同断
畑〆六反六セ十弐歩　同所同断
田畑合弐町五畝七歩　井村南五兵衛分
未ノ年より入五セ六歩之内入
一下畑六歩
同断
一下畑壱セ歩　小牧三郎兵衛分
同断
一中畑三畝拾五歩　井村南同人分
同断壱反八セ拾八歩之内入
一中田弐拾四歩　八中五兵衛分
同断七セ壱歩之内入
一中田拾四歩　こくご同人分
同断壱反九セ拾七歩之内入
一中田六セ廿七歩　同所西六郎兵衛分
同断壱セ拾三歩之内入
一上畑弐歩　堀屋敷五兵衛分
同断
一中田壱反四セ八歩　下寺六郎兵衛分
田合壱町六反壱畝八歩
畑合七反壱畝五歩

うら
堤外五石割
新田替地
堤外中嶋
同所東
同所

田畑合弐町三反弐畝拾三歩　忠兵衛分入
申ノ年より切掛
一上畑六歩　同人分入
同所
一上畑五せ弐拾三歩　同人分入
同所
一上畑三せ弐歩　同人分入
同所　七歩
一上畑弐せ拾八歩　同人分入
井村北申ノ年より
一上田壱反弐せ九歩　與次兵衛分入
田〆壱町七反三畝拾七歩　（除下川田兵左衛門分）
畑〆八反弐せ廿三歩　（川田本兵衛作同人分）
田畑合弐町五反六せ拾歩　八中同人
下田七畝廿歩
下田壱畝拾歩
割壱反弐せ三分ノ内
上田壱畝歩
田〆壱町八反三畝拾七歩
畑〆八反弐畝廿三歩
田畑合弐町六反六畝拾歩

（表紙）
「寛文拾三年
御検地帳面名寄　押越村　兵左衛門
丑三月廿八日　十一冊之内
町分共ニ」

下畑三畝拾壱歩
下畑弐拾六歩
下畑壱畝拾三歩
下畑壱畝拾五歩
下畑壱畝八歩
中畑壱畝廿三歩
下畑壱畝六歩
下畑壱反拾四歩
上畑五畝廿九歩
上畑壱畝弐歩
下畑壱反六畝廿歩
下畑弐拾四歩
下畑弐畝拾八歩
下畑壱畝拾壱歩
下畑六畝弐歩
上畑三反壱セ拾五歩
下田四畝拾五歩
中畑七畝弐拾四歩
下田三畝歩
下田八畝廿六歩
下田五畝廿六歩
下畑七畝廿八歩

（朱合点）
神明西　同所河原
同所　同所
同所茶ノ木畑　神明南道下
同所　同所
井村之南　伊左衛門と替地
切掛忠二郎分　同所大畑
同所石提　小巻河原
同所忠介分　石畑替地
小巻大畑　下寺喜右衛門作也
下寺喜右衛門作　同所久八作
同所　南平荏塚
神明

下畑壱反弐畝拾四歩　同所元田
下畑四畝二歩　同所　同所
下畑八畝七歩　井村南　同所
下畑三畝拾弐歩　同所　同所
下畑壱畝拾歩　同所　同所
下畑弐拾壱歩　同所東　同所
下平壱畝拾五歩　井村南吉藏分　同所
下畑三畝弐歩　小右衛門・市郎兵衛ニ入　同所九郎介西　下畑壱畝拾六歩　下畑壱畝拾六歩　同所
下畑壱畝廿四歩　内九分・小右衛門ニ入　〆壱畝拾五歩　兵左衛門　同所　下畑四畝拾三歩　下畑四畝拾三歩　同所茶木畑
下畑壱畝廿六歩　同所兵左衛門　中畑八畝九歩　小巻小助畑
上畑壱畝廿九歩　南平八介分　下畑四畝拾壱歩　南河原新八分
上畑拾五歩　同所小畑　下畑三畝三歩　同所
上畑壱畝廿八歩　同所寺西　下畑弐畝八歩　井川除上
上畑七畝廿六歩　南平寺南　中田壱反三ヱ拾三歩　同所
上田八畝四歩　同所道上　下田五畝三歩（朱書）「是より二日目」　同所
上田弐畝歩　同所　上田壱反五畝拾八歩　南平七次郎
下畑九畝拾弐歩　南河原正兵衛分　上田弐反七畝廿七歩　町内橋ノ爪
下畑三畝廿九歩　同所忠助分　上田弐反四畝拾五歩　大田
下畑壱畝廿九歩　同所同人　上田三反七ヱ拾六歩　同所
分下畑壱反弐畝廿三歩　板所畑　中田弐反五歩　同所
下畑弐畝廿八歩　神明森西

下田弐反四畝六歩	半名砂入	中田弐反廿壱歩	同所河田
下田弐反三畝廿四歩	同所	下田六畝歩	横田之内
上田弐反六畝拾四歩	同所	下田壱反四畝拾七歩	除下河原池
上田壱反九畝拾九歩	辻ノ前	下田七畝廿壱歩	同所
上田壱反六ヶ拾弐歩	馬場	下田六畝廿三歩	同所
中田五ヶ廿弐歩	同所次郎左河戸	下田壱反壱ヶ廿九歩	同所河田之内
中田五ヶ拾五歩	同所	内八ヶ拾五歩未ノ年永不ニ成シメテ三ヶ拾四歩	
中田九畝拾六歩	同所	下田七畝廿歩	同所
中田壱反四畝拾壱歩	同所	下田六畝拾四歩	河原池與平次分
上田弐畝三歩	同所藪ノ跡	下田弐畝拾八歩	同所同人分
下田壱反六畝廿八歩	發	下田弐反五歩	同所同人分
下田五畝廿九歩	同所	下田五反四畝廿壱歩	大河原池
下田弐反拾歩	同所	下田六畝歩	同所道下井ノ口
下田弐反四畝九歩	同所	中田弐反拾四歩	海老所
下田弐反九畝拾歩	同所	中田七畝四歩	同所
下田壱畝拾五歩	同所	中田壱反拾弐歩	同所
下田五畝廿四歩	同所	上田八畝八歩	南平
下田六畝歩	同所	上田壱反拾六歩	南平
下田四畝廿七歩	同所	上田六畝拾弐歩	同所
下田弐拾弐歩	道階戸彦右衛門境	上田六畝壱歩	同所
下田拾九歩	除上四分	上田六畝廿五歩	同所
下田弐ヶ壱歩	除上四分	上田壱反九畝十歩	同所

上田三反六畝五歩	町田弐割	下田壱セ拾歩	同所八介分
上田壱反六セ廿三歩	同所	下田弐畝拾五歩	同所白猪ノ内
上田壱反四畝廿八歩	同所	下田五畝拾弐歩	河た
上田壱反三畝拾九歩	同所	下田壱セ廿歩	同所
中田壱反弐畝廿五歩	すまた	上田九畝六歩	南平北口
中田九畝廿四歩	同所	上田壱反壱セ拾八歩	同所東
中田七畝廿三歩	同所	上田三セ廿弐歩	同所ふり畑
中田八畝廿六歩	横田	畑上田九畝廿三歩	如来
中田壱反七畝廿四歩	同所	上田壱反弐歩	同所
上田弐反四畝廿九歩	下寺	中田七畝拾四歩	如来ノ南
上田壱反九セ十五歩	同所	下畑拾六歩	同所森下
中田壱反五畝廿三歩	横田	下畑弐畝拾歩	如来永丘寺分替地
下田弐反弐セ十五歩	横田	下田六畝廿五歩	如来南
壱反弐セ廿三歩 伊左衛門ニ入 内 三セ廿八歩 一郎兵衛 三セ廿八歩 小右衛門		下田六畝拾八歩	辻ノ前
		下田壱反五畝歩	同所
内下田弐拾八歩	おかまた	下田拾六歩	如来北吉藏分
末ノ年より永不ニ成		下畑弐セ拾八歩	すま
下田七畝廿歩	勘四郎河田	下田七畝廿歩	そふた
下田三セ九歩	同所	下田五反三セ三歩	同所
内 壱セ分未ノ年永不ニ成 弐セ九分		下田壱セ廿五歩	同所溝北
下田五畝拾五歩	同所	荒畑壱畝廿四歩	大田之下
下田五畝五歩	同所	荒畑壱畝廿歩	同所

下田壱セ拾六歩	同所	下田壱セ六歩	同所
下田壱セ拾五歩	同所	下田三セ廿四歩	同所
下田壱セ廿歩	同所	中田壱反壱セ廿弐歩	海老
下田拾四歩	同所	下田四畝拾四歩	同所道南
荒畑廿三歩	同所	下田壱反四畝廿六歩	同所
下田壱セ拾三歩	同所	下田壱反三畝歩（朱書）「是より三日目」	同所
下田五セ拾三歩	道かいと之内忠介作		
下田八畝八歩	道かいと　喜右衛門発	上田壱畝四歩	五石割
下田弐畝弐歩	同所	上田壱反弐セ歩	同所
下田八畝拾五歩	半名	上田五畝拾九歩	同所
下田壱反四畝廿四歩	同所	上田壱畝弐セ三歩	八中
下田六セ四歩	同所	上田五畝拾八歩	同所
下田七畝八歩	同所	上田壱反七畝廿六歩	同所
下田五畝廿壱歩	同所	上田九畝廿九歩	井川
中田弐反壱セ十八歩	横田	上田八畝廿九歩	同所
下田壱畝歩	同所	中田六セ廿弐歩	同所
荒田四畝三歩	同所	下田弐畝三歩	同所弘八分
中田三畝廿歩	除下河田之内	上田九畝十歩	同所おかまた
中田拾五歩	同所	上田四反四歩	八中井口
下田九畝廿五歩	同所溝南	上田壱反三セ廿八歩	同所
下田壱セ拾三歩	河原池	上田五セ拾弐歩	八中折戸
下田弐畝拾七歩	大河原池之内		同所

下畑三セ弐歩	同所	下田七畝廿壱歩	同所		
上田七畝拾四歩	権見に	下田五畝拾八歩	同所		
上田壱反弐畝廿七歩	同所	下田壱石三セ九歩	同所		
上田七畝拾五歩	八中	下田三反弐畝四歩	同所		
上田弐反弐畝五歩	同所	下田三畝廿七歩	同所		
中田壱反弐畝弐歩	井河道北	下田壱畝拾八歩（朱書）「是より四日目」	四町割		
下田弐反壱セ廿壱歩	同所	下田三畝歩	北もん横道ノ上		
中田七畝拾四歩	同所道南	上田四畝廿歩	同所井村北		
下田六畝廿九歩	同所西	下田壱畝拾弐歩	同所茶園原		
下田三畝拾六歩	同所	上田五畝歩	孫兵衛屋敷		
下田四畝拾四歩	同所	上畑壱セ廿壱歩	久介前		
下田五畝拾七歩	八中道南	上畑五畝廿七歩	西ノ屋敷		
中畑三畝六歩	同所	上畑壱セ廿三歩	城内		
中田壱セ廿六歩	四町割	下田壱畝歩	馬場西		
中田壱セ拾七歩	同所七次分	下田五畝拾九歩	北もん横道ノ下		
下田四畝三歩	四町割散地	下田弐拾四歩	同所		
下田三セ弐歩	同所同断	下田壱畝拾	城屋敷		
中田三畝廿四歩	同所	上田三畝三歩	同所		
下田三反壱セ十三歩	同所七次分	上田四畝六歩	同所		
下田弐畝廿三歩	同所白かや	下田三畝六歩	宮ノ北		
下田壱反六畝三歩	遊官田	下田弐畝廿歩	同所		
下田壱反五畝拾六歩	白猪				

下田壱畝拾八歩　茶園原河原　下畑壱畝廿三歩　同　中嶋
屋敷壱反廿弐歩　忠兵衛西　荒畑拾八歩　同　道東
内〆壱七歩伊左衛門屋敷ニ入
〆九七廿弐歩
屋敷弐畝七歩　小右衛門ニ入　伊右衛門屋敷　下畑弐畝六歩　同　中嶋
屋敷三七八歩　門先　下畑壱畝八歩　同　同所
屋敷三七廿三歩　同所　下畑弐畝四歩　同　同所
屋敷壱反八歩　居屋敷　上畑拾歩　同　同所八助分
下畑拾歩　小牧次郎作　上畑壱畝廿八歩　同所彦市
下畑拾歩　同所彦市　上畑五畝九歩　堤外　五石割
下畑四歩　同所忠左衛門　上田三反五畝拾壱歩　新田替地
下畑拾八歩　同所同人　堤内半介分　八助分共ニ　大跡新田ニ有
下畑六歩　同所同人　一下畑三歩　東かわら　久八
下畑拾八歩　同所角兵衛　同断　同所　同人
下畑廿壱歩　自分名寄ニ入　同所市郎兵衛　一下畑六歩
下畑拾六歩　同断　同所同人　上田合六町四反四歩
下畑拾八歩　同断　同所同人　中田合弐町七反八畝廿弐歩
（朱書）　下田合八町壱反弐畝廿三歩
「提外五日目」　弐せ拾歩
◎田〆拾七町三反壱せ六歩
弐反壱せ六歩　上畑合壱町壱反七畝六歩
下畑壱畝拾弐歩　堤外　杉名田　中畑合弐反六畝廿三歩
廿三歩
下畑壱畝拾歩　同　同所　下畑合壱町八反四せ拾四歩
廿三歩
下畑壱畝廿歩　同　同所　畑〆三町弐反八畝拾壱歩
上畑六畝弐拾七歩　同　ばんば

田畑合弐拾町（四反九七廿八歩）六反弐歩
外荒田畑八畝弐拾八歩
内
田畑五町六反三七弐拾六歩　方々へ入

四六　押越村田畑名寄帳

○押越　澁谷保之氏所蔵

（表紙）「元禄三年
田畑名寄帳
午ノ極月朔日
押越村
午ノ田畑寄帳」

一田弐反六畝三歩　庄九郎
一畑弐反拾七歩　同人
田畑合四反六畝廿歩
一田八畝拾四歩　與次兵衛
一畑五畝弐拾三歩　同人
田畑合壱反四畝七歩
一畑七畝壱歩　三郎兵衛
一田壱畝弐歩　五兵衛
一畑八畝弐歩　同人
田畑合九畝四歩
一畑七畝七歩　太助
一田七畝七歩　武兵衛
一畑壱畝歩　同人
田畑合八畝七歩
一田壱反壱畝九歩　與惣兵衛
内五歩　新田
一畑廿三歩　同人
田畑合壱反弐畝弐歩
一畑三畝拾四歩　九郎介
一田三反三畝拾五歩　七郎右衛門
一畑壱反弐畝三歩　同人
田畑合四反五畝拾八歩
一畑壱反九歩　忠兵衛
内弐畝廿歩　巳より五年不
一畑六畝廿歩　忠太夫
一田壱町四反八畝三歩　久助
内三歩　新田
一畑七反拾五歩　同人
田畑合弐町壱反八畝拾八歩
一田弐反壱畝廿八歩　清四郎
一畑七畝拾五歩　同人

田畑合弐反九畝拾三歩
一畑壱畝八歩　　理兵衛
一畑三畝四歩　　喜藏
一田五反五畝歩　　久兵衛
一畑壱反三畝廿六歩　　同人
田畑合六反八畝廿六歩
一田六反九畝拾六歩　　次郎左衛門
内拾弐歩　　新田
一畑壱反三畝五歩　　同人
田畑合八反弐畝廿壱歩
一田壱反廿四歩　　久三郎
一畑五畝廿弐歩　　同人
田畑合壱反六畝拾六歩
一田三反五畝壱歩　　彌藏
同七歩　　新田
一畑壱反六畝壱歩　　同人
田畑合五反壱畝弐歩
一田弐町七畝歩　　五郎兵衛
内壱反六畝拾七歩　　新田
一畑五反五畝廿三歩　　同人
田畑合弐町六反弐畝廿三歩
一畑壱畝廿七歩　　九郎兵衛

一田弐反六畝拾歩　　市郎兵衛
内壱畝廿八歩　　新田
一畑三反七畝廿壱歩　　同人
田畑合六反四畝壱歩
一田八反四畝拾壱歩　　加左衛門
内三畝九歩　　新田
一畑弐反壱畝廿三歩　　同人
内弐畝拾六歩　　巳より五年不
田畑合壱町六畝四歩
一田弐反三畝廿七歩　　又右衛門
一畑八畝九歩　　同人
田畑合三反弐畝六歩
一田壱反七畝廿九歩　　仁右衛門
内廿四歩　　新田
一畑六畝廿三歩　　同人
田畑合弐反四畝廿弐歩
田合七町八反七畝拾九歩
内弐反三畝拾五歩　　新田
畑合三町四反六畝十壱歩
田畑〆拾壱町三反四畝歩　　新介
一田六反五畝拾弐歩
内六歩　　新田

一畑四反八畝壱歩　同　人
田畑合壱町壱反三畝拾三歩
一田六畝拾弐歩　半　七
一畑壱反廿五歩　同　人
田畑合壱反七畝七歩
一畑廿壱歩　又　介
一畑壱畝廿五歩　長　藏
一田三畝弐歩　七　介
一畑壱反壱畝拾六歩　同　人
田畑合壱反四畝拾八歩
一畑八畝壱歩　杢兵衛
一畑拾七歩　茂兵衛
一田壱反廿九歩　久　次
一畑五畝拾六歩　同　人
田畑合壱反六畝拾五歩
一田壱反廿壱歩　清　介
一畑弐畝廿三歩　同　人
田畑合壱反三畝拾四歩
一畑九畝拾壱歩　長　助
一畑壱畝三歩　左五介
一畑壱畝壱歩　彦　七
一畑廿歩　長　次

一畑壱畝廿五歩　市右衛門
一田弐反九歩　小右衛門
一畑弐反七畝廿九歩　同　人
田畑合四反八畝八歩
一畑弐畝拾歩　大乗坊
一畑廿八歩　惣兵衛
一畑壱反四畝廿歩　仁左衛門
一田四畝廿四歩　久　八
一畑壱畝拾六歩　同　人
田畑合六畝拾歩
一田九畝拾壱歩　權太郎
一畑壱畝廿八歩　同　人
田畑合壱反壱畝九歩
一田壱反三畝拾壱歩　彦左衛門
一畑三畝廿四歩　同　人
田畑合壱反七畝五歩　清右衛門
一田三畝拾弐歩　同　人
一畑壱反七畝拾四歩
田畑合弐反廿六歩　安左衛門
一田三町弐反四畝拾九歩　同　人
一畑壱町七反歩
田畑合四町九反四畝拾九歩

一田壱反九畝六歩　與兵衛
一畑八畝廿六歩　同　人
田畑合弐反九畝弐歩
一田三反弐畝廿五歩　彦　六
一畑弐反壱畝拾四歩　同　人
田畑合五反四畝九歩
一田壱反八歩　西福寺
一畑弐反六歩　同　寺
田畑合三反拾四歩
一田九反八畝廿壱歩　永丘寺
一畑三反壱畝廿三歩　同　寺
田畑合壱町三反拾四歩
一田四町九畝九歩　甚左衛門
内三畝歩　新田
壱反七畝拾九歩　巳より五年不
一畑壱町弐反四畝廿弐歩　同　人
田畑合五町三反四畝壱歩
一田壱町拾弐歩　庄　助
内六畝六歩　新田
一畑五反三畝拾六歩　同　人
田畑合壱町五反三畝廿八歩
一畑壱反五歩　兵之介

一田壱町壱反七畝廿四歩　七左衛門
内廿一歩　新田
一畑五反廿九歩　同　人
田畑合壱町七反四畝廿三歩
一田六反三畝廿三歩　半　助
一畑三反弐畝拾歩　同　人
田畑合九反六畝三歩
一田壱畝拾四歩　明徳院
一田七町七反五畝廿九歩　伊左衛門
内六畝拾九歩　新田
一畑壱町八反八畝九歩　同　人
田畑合九町六反四畝八歩
一田七反六歩　新　七
内十歩　新田
一畑四反壱畝歩　同　人
田畑合壱町壱反壱畝六歩
一田弐町三反七畝六歩　治兵衛
一畑八反七畝四歩　同　人
田畑合三町弐反四畝拾歩
一田壱反壱畝拾四歩　源蔵
一畑五畝廿六歩　同　人
田畑合壱反七畝拾歩

一田弐反拾八歩　　長兵衛
　内六畝拾六歩　新田
一畑弐反九畝廿六歩　同　人
田畑合五反拾四歩
一田四町八反六畝廿四歩　三左衛門
　内壱反九畝拾七歩　新田
一畑壱町三反六畝拾七歩　同　人
田畑合六町弐反三畝拾壱歩
一田三町四反五畝廿七畝　權左衛門
　内九畝九歩　新田
一畑九反壱畝廿五歩　同　人
田畑合四町三反七畝廿弐歩
一畑壱反六畝拾七歩　林右衛門
一田拾壱町九反弐畝九歩　兵左衛門
　内三反五畝拾壱歩　新田
　内壱反弐畝歩　小右衛門・久八・權四郎・伊左衛門ニ入
　残て弐反三畝拾壱歩、兵左衛門組合共ニ
　内　　（忠左衛門 伊左衛門ニ入 庄介）　（小右衛門 久八）
田三反四畝歩
田壱町三反三畝拾四歩　新田
　内四畝歩

田壱町六反拾壱歩　權四郎
　内四畝歩　新田
田壱町五反三畝廿三歩　（神田伊左衛門ニ入）
　内四畝歩　新田
〆七町四反廿壱歩　兵左衛門高須組合共
　内弐反三畝拾壱歩　新田
一畑弐町五反壱畝八歩　兵左衛門
　内
壱反三畝三歩　（忠左衛門 伊左衛門ニ入 庄介）
壱反九畝廿六歩　（小右衛門 久八ニ入）
壱反五畝九歩　權四郎ニ入
三反八畝五歩　（神田伊左衛門ニ入）
弐反七畝廿九歩　甚之介ニ入
〆壱町三反六畝廿六歩　兵左衛門高須組合共
　内壱畝歩　巳より五年不
田畑合八町七反七畝拾七歩　兵左衛門
田合四拾四町六反六畝拾七歩　本組
　内八反七畝廿五歩　新田
畑合拾五町五反弐畝廿七歩
加畑壱町四反九畝壱歩　町分
〆拾七町壱畝廿八歩

田畑合六拾壱町六反八畝拾五歩
惣田合五拾弐町五反四畝六歩　新田
内壱町壱反壱畝拾歩
畑合弐拾町四反八畝九歩
惣田畑合七拾三町弐畝十五歩

四七　押越村田畑名寄帳

○押越　澁谷保之氏所蔵

（表紙）
「
元禄五年
田畑名寄帳　押越村
申十二月六日
」
申ノ田畑寄帳

一田弐反六畝三歩　庄九郎
一畑弐反拾七歩　同人
田畑合四反六畝廿歩
一畑五畝廿三歩　與次兵衛
一畑七畝壱歩　三郎兵衛
一田壱畝弐歩　五兵衛
一畑八畝弐歩　同人
田畑合九畝四歩
一畑七畝七歩　太助
一田七畝七歩　武兵衛
一畑壱畝歩　同人
田畑合八畝七歩
一田壱反壱畝九歩　與惣兵衛
内五歩
一畑弐拾三歩　同人
田畑合壱反弐畝弐歩
一畑三畝拾四歩　九郎助
一田三反三畝拾五歩　七郎平
一畑壱反弐畝三歩　同人
田畑合四反五畝拾八歩
一畑九畝拾八歩　忠兵衛
内弐畝廿歩
一畑六畝廿歩　巳ノ砂入
一田五町壱反八畝拾壱歩　忠太夫
内九畝拾弐歩　權四郎
一畑壱町四反六畝廿八歩　新田
内七歩　同人
田畑合六町六反五畝九歩　申ノ堤敷地
一田弐反壱畝廿八歩　清四郎
一畑七畝拾五歩　同人

田畑合弐反九畝拾三歩　理兵衛
一畑壱畝八歩　内壱畝廿八歩
一畑三畝四歩　喜藏　一畑三反七畝廿壱歩
一田五反五畝歩　久兵衛　田畑合七反壱畝拾五歩
一畑壱反三畝廿六歩　同人　一田四反六畝拾四歩
田畑合六反八畝廿六歩　一畑弐反壱畝廿三歩
一田六反九畝拾六歩　次郎左衛門　内弐畝拾六歩
内拾弐歩　新田　跡々砂入
一畑壱反三畝廿六歩　同人　田畑合六反八畝七歩
田畑合八反三畝拾弐歩　一田弐反三畝廿七歩　又右衛門
一畑五畝廿弐歩　久三郎　一畑八畝九歩　同人
一田三反五畝壱歩　喜兵衛　田畑合三反弐畝六歩
内七歩　新田　一田壱反七畝廿九歩　仁右衛門
一畑壱反六畝壱歩　同人　内廿四歩　新田
田畑合五反壱畝弐歩　一畑六畝廿三歩　同人
一田弐町弐畝廿四歩　五郎兵衛　田畑合弐反四畝廿弐歩
内壱反六畝拾七歩　新田　田ノ拾壱町四歩
三歩　申ノ堤敷地　内三反弐畝廿四歩　新田
一畑五反五畝廿三歩　同人　畑ノ四町弐反弐拾廿四歩
内拾八歩　申ノ堤敷地　田畑合拾五町弐反六畝廿四歩　新助
田畑合弐町五反八畝拾七歩　一田六反五畝拾弐歩　新田
一畑壱畝廿七歩　九郎兵衛　内六歩　申ノ堤敷地
弐歩

一畑四反八畝壱歩　　同　人
田畑合壱町壱反三畝拾三歩
一田六畝拾弐歩　　半　七
一畑壱反廿五歩　　同　人
内五歩　申ノ堤敷地
田畑合壱反七畝七歩
一畑廿壱歩　　又　助
一畑壱畝廿五歩　　長　藏
一田三畝弐歩　　七　助
一畑壱反壱畝拾六歩　　同　人
田畑合壱反四畝拾八歩　　李　兵衛
一畑八畝壱歩　　茂　兵衛
一畑拾七歩　　久　次
一田壱反廿九歩　　同　人
一畑五畝拾六歩
田畑合壱反六畝拾五歩
一田壱反廿壱歩　　清　助
一畑弐畝廿三歩　　同　人
田畑合壱反三畝拾四歩　　長　助
一畑九畝拾壱歩　　左五助
一畑壱畝三歩　　彦七郎
一畑壱畝壱歩

一畑廿歩　　長　次
一畑壱畝廿五歩　　市右衛門
一田弐反九歩　　小右衛門
一畑弐反七畝廿九歩　　同　人
田畑合四反八畝八歩　　大工
一畑廿八歩　　惣　兵衛
一畑壱反四畝廿歩　　大工
一田四畝廿四歩　　仁左衛門
一畑壱畝拾六歩　　久　八
田畑合六畝拾歩　　同　人
一田九畝拾壱歩　　權　太郎
一畑壱畝廿八歩　　同　人
田畑合壱反壱畝九歩
一田壱反三畝拾壱歩　　彦左衛門
一畑三畝廿四歩　　同　人
田畑合壱反七畝五歩
一田三畝拾弐歩　　清右衛門
一畑壱反七畝拾四歩　　同　人
田畑合弐反廿六歩　　安左衛門
一田三町弐反四畝拾九歩　　同　人
一畑壱町七反歩
田畑合四町九反四畝拾九歩

一田壱反九畝六歩　　與兵衛
一畑八畝廿六歩　　同　人
田畑合弐反八畝弐歩
一田三反弐畝廿五歩　　彦　六
一畑弐反壱畝拾四歩　　同　人
田畑合五反四畝九歩
一田壱反八歩　　西福寺
一畑弐反六歩　　同　寺
田畑合三反拾四歩
一田九反八畝廿壱歩　　永丘寺
一畑三反三畝拾三歩　　同　寺
田畑合壱町三反弐畝四歩
一田四町九畝九歩　　新田
内三畝歩　　甚左衛門
壱反七畝拾九歩
一畑壱町弐反四畝廿弐歩　　巳ノ砂入
田畑合五町三反四畝壱歩　　同　人
一田壱町拾弐歩　　庄　助
内六畝六歩　　新田
一畑五反三畝拾六歩　　同　人
田畑合壱町五反三畝廿八歩
一畑壱反五歩　　兵之助

一田壱町壱反七畝廿四歩　　七左衛門
内廿壱歩　　新田
一畑五反六畝廿九歩　　同　人
田畑合壱町七反四畝廿三歩
一田六反三畝廿三歩　　半之助
一畑三反弐畝拾歩　　同　人
田畑合九反六畝三歩
一田壱畝拾四歩　　妙徳院
一田七町九反五畝七歩　　伊左衛門
内六畝拾九歩　　新田
八畝八歩　　跡々砂入
六歩　　申ノ堤敷地
一畑壱町九反五畝弐歩　　同　人
田畑合九町九反九歩
一田七反六歩　　新　七
内拾歩　　新田
一畑四反壱畝歩　　同　人
田畑合壱町壱反壱畝六歩
一田弐町三反七畝六歩　　次兵衛
一畑八反七畝四歩　　同　人
田畑合三町弐反四畝拾歩
一田壱反壱畝拾四歩　　源　蔵

一畑五畝廿六歩　同　人
田畑合壱反七畝拾歩
一田弐反拾八歩　長兵衛
内六畝拾六歩
一畑弐反九畝廿六歩　同　人
田畑合五反拾四歩
一田四町廿四歩　三左衛門
内壱反九畝拾七歩
壱反五歩
一畑壱町壱反九拾廿七歩
田畑合五町弐反廿壱歩
一田八反六畝歩
内三歩　玄　三
一畑弐反三畝廿九歩　同　人
内六歩
田畑壱町九畝廿九歩
一田九畝壱歩　權左衛門
一畑弐畝歩　同　人
田畑合壱反壱畝壱歩
一畑壱反六畝拾七歩　領右衛門
一田七町四反廿壱歩　兵左衛門
内弐反三畝拾壱歩

拾歩
一畑壱町三反六畝廿六歩
内壱畝歩
弐畝廿三歩
七歩
田畑合八町七反七畝拾七歩
一田三反四畝歩
一畑壱反三畝三歩
田畑合四反七畝三歩
一田壱町三反三畝拾四歩
内四畝歩
一畑壱反九畝廿六歩
田畑合壱町五反三畝拾歩
一田壱町三反拾壱歩
内四畝歩
一畑壱反五畝九歩
田畑合壱町四反五畝廿歩
一田壱町五反三畝廿三歩
内四畝歩
一畑三反八畝五歩
田畑合壱町九反壱畝廿八歩

卯ノ砂入
同　人
巳ノ砂入
卯ノ砂入
申ノ堤敷地
同　人　伊左衛門（送庄）助管
新田
同　人　半兵衛（久）八
新田
同　人　權四郎
新田
同　人　神田（七）平
新田
同　人

一畑弐反七畝廿九歩　　甚之助
田〆四拾壱町四反八畝廿九歩
　内
七反八畝拾六歩　新田
畑〆拾四町七反六畝拾四歩
加壱町四反九畝壱歩　町引得
〆拾六町弐反五畝拾五歩
田畑合五拾七町七反四畝拾四歩
惣田合五拾弐町五反弐畝廿九歩
　内
壱町壱反壱畝拾歩　新田
惣畑合弐拾町四反八畝九歩
　内
壱町四反九畝壱歩　町引得
惣田畑合七拾三町壱畝八歩

四八　大場新田名寄帳

〇東京都　国立史料館所蔵

（表紙）
「元禄十六年
大場新田名寄帳　庄や
未十二月日　市右衛門」

一高百七拾壱石四斗五升弐合五勺　内
一高弐拾九石六升三合　兵
一高拾四石三斗八升九合　源左衛門
一高弐拾石九斗壱升九合　喜兵衛
一高四拾九石四斗四升九合　三郎左衛門
一高六石九斗五升五合　傳兵衛
一高三石四斗七升七合五勺　平右衛門
一高三石四斗七升七合五勺（五斗六升八合七勺）　傳右衛門
一高拾七石四斗四升　理兵へ
一高八石弐升　勘平衛
一高拾六石六斗六合七勺　曾平
　内壱反五せ歩池有　助右衛門
残テ拾五石壱斗六合七勺　藤七
一高拾四石八斗六合七勺
一高九石七斗一升六合七勺（壱石壱斗一升六合七勺）
一高弐拾石壱斗五升　利左衛門
　外九畝九歩　甚右衛門
一高壱石六斗三升三合三勺（七斗六合七勺）　八兵衛
一高五石五斗六升六合六勺
　壱斗四升（七斗四升）　分六
一高三石五斗弐升六合七勺　加左衛門
　市兵衛

外弐斗六升〃〃

一高八石弐斗六升　九石四斗四升六合七勺
　八斗七升六合六勺〃〃〃〃〃

一高三石七斗五升　四石弐斗九升六合
　外弐斗六斗　四石壱升　弐斗七升六合七勺
一高弐石五斗六合六勺〃〃〃〃
一高四石壱斗七升
一高三石弐升六合七勺
一高七斗七升六合六勺
一高弐石三升六合七勺
一高九石壱斗四升六合七勺
一高七斗三合
一高三石三斗四升三合
一高五石壱斗九升三合
一高弐石九斗八升六合七勺　畑五畝十四歩
一高弐石五斗弐升六合六勺
一高四石三斗三升
　七升
一高四石五斗八升
一高八斗壱升三合

惣右衛門
分　三　郎
分次郎
十三郎
分　助
ち
惣　八
新　六
藺右衛門
宇右衛門
彦右衛門
文右衛門
傳　六
佐平次

六右衛門
九兵衛

一高弐石三合
一高弐斗壱升三合
一高五斗六升
一高壱石六斗三升三合三勺
一高四斗九升
一高弐石三斗三升三合三勺
一高壱石四斗四升三合三勺
惣高合四百六拾五石三斗六升弐合
　外三石七斗壱升四合
　二口〆
　高六拾三石壱斗四升六合
惣高合五百三拾弐石弐斗一升八合

藤　八
甚　七
吉兵衛
三右衛門
三　助
市右衛門
佐右衛門

本　田

四九　有尾新田・津屋新田分畑高・屋敷高反別帳

〇安八郡輪之内町　片野記念館所蔵

（表紙）「
有尾新田分　畑高反別帳
津屋新田分　屋敷高
安永二年
巳八月
」
津屋分

一畑三畝廿歩　　町屋敷　藤右衛門
一畑弐畝拾四歩　　十次郎
一畑弐畝拾五歩　　利右衛門
一畑五畝拾四歩　　小十郎
一畑六畝歩　　上地　孫九郎
一畑壱畝拾歩　　孫九郎
一畑十歩　　孫九郎
一畑壱畝歩　　小助
一畑弐畝歩　　利右衛門
一畑壱畝廿八歩　　藤右衛門
一畑壱畝廿五歩　　七郎右衛門
一畑壱畝拾歩　　永わり　孫九郎
一畑十六歩　　庄吉
一畑弐畝歩　　いせ田
メ三反弐畝十二歩
有尾分
一畑五畝拾四歩　　清右衛門
一畑弐畝弐歩　　清右衛門
一畑四畝弐拾八歩　　清右衛門
五畝十八歩ノ内
一畑四畝廿七歩　　久次郎
五畝十八歩ノ内
一屋敷廿壱歩　　久次郎

一畑壱畝八歩　　幸助
一畑五畝四歩　　治平
一畑三畝五歩　　繁蔵
一畑壱畝廿九歩　　所二右衛門
一畑壱畝廿七歩　　庄兵衛
四畝廿壱歩ノ内
一畑三畝十五歩　　幸助
屋敷四畝廿壱歩ノ内
一畑壱畝六歩　　幸助
七畝歩ノ内
一畑五畝九歩　　所左衛門
一屋敷壱畝廿壱歩　　所左衛門
六畝廿歩ノ内
一畑四畝十五歩　　定右衛門
一屋敷弐畝五歩　　定右衛門
弐畝十弐歩ノ内
一畑廿七歩　　清兵衛
弐畝十弐歩ノ内
一屋敷壱畝拾五歩　　清兵衛
一畑三畝三歩　　久二郎
一畑壱畝廿歩　　佐右衛門
一畑拾歩　　繁右衛門
一畑弐畝歩　　清右衛門
一畑拾五歩　　清右衛門
一畑七歩　　彌次兵衛
一畑壱畝十三歩　　幸助

壱畝弐歩ノ内
一畑五歩　林右衛門
壱畝弐歩ノ内
一屋敷廿七歩　林右衛門
一畑廿弐歩　喜左衛門
一畑廿七歩　佐右衛門
一畑拾四歩　久二
一畑三歩　繁右衛門
一畑弐畝廿九歩　佐右衛門
一畑壱畝廿五歩　常三郎
一畑弐畝六歩　佐右衛門
一畑弐畝十弐歩　佐右衛門
一畑六歩　久治
七畝弐歩ノ内
一畑五畝拾歩　常三郎
七畝弐歩ノ内
一屋敷壱畝廿弐歩　幸右衛門
一屋敷拾八歩　治平
壱畝七歩ノ内
一田七歩　治平
壱畝七歩ノ内
一屋敷畑壱畝歩　喜十郎
弐畝弐歩ノ内
一畑壱畝拾四歩　喜十郎
弐畝弐歩ノ内
一屋敷十八歩　喜作
一畑弐畝拾弐歩　辰右衛門
壱畝弐歩拾弐歩ノ内
一畑壱畝弐歩　辰右衛門
壱畝廿弐歩ノ内
一屋敷廿歩　林右衛門
一畑三畝拾弐歩　林右衛門
一畑拾壱歩　喜左衛門
一畑廿弐歩　佐右衛門
一畑壱畝歩　久二
弐畝廿八歩ノ内
一畑壱畝廿八歩　繁右衛門
弐畝廿八歩ノ内
一屋敷壱畝歩　佐右衛門
弐畝十四歩ノ内
一畑壱畝廿六歩　常三郎
弐畝十四歩ノ内
一屋敷十四歩　佐右衛門
一畑五畝廿五歩　佐右衛門
壱畝九歩ノ内
一畑十八歩　久治
壱畝九歩ノ内
一屋敷廿壱歩　常三郎
一畑弐畝歩　常三郎
一畑壱畝六歩　幸右衛門
一畑壱畝壱歩　治平
一畑五畝六歩　治平
一畑弐畝十四歩　喜十郎
一畑五畝歩　喜十郎
一畑五畝歩　喜作
六畝四歩ノ内
一畑三畝十九歩　辰右衛門
佐右衛門
所次右衛門
治平
所次右衛門
文太夫
文太夫
彌藏
久二郎
佐吉
佐吉
佐右衛門
佐右衛門
佐右衛門
定右衛門
常三郎
宮分
文太夫
繁右衛門
繁右衛門

六畝四歩ノ内
一屋敷弐畝十五歩
五畝十四歩ノ内
一畑四畝弐歩
五畝十四歩ノ内
一屋敷壱畝十弐歩
一畑三畝廿六歩
一畑廿四歩
四畝廿七歩ノ内
一畑三畝廿七歩
四畝廿七歩ノ内
一屋敷壱畝歩
弐畝十七歩ノ内
一畑壱畝十七歩
弐畝十七歩ノ内
一屋敷壱畝歩
一畑弐畝拾歩
一畑壱畝歩
一畑三畝三歩
一畑弐畝八歩
一畑三畝九歩
壱畝廿三歩ノ内
一畑壱畝壱歩
壱畝廿三歩ノ内
一屋敷廿弐歩
一畑壱畝十八歩
一畑壱畝廿四歩
一畑壱畝廿九歩
一畑三畝廿七歩

繁右衛門
左太夫
左太夫
十彌
繁右衛門
幸吉
（ママ）
兵藏
清右衛門
清右衛門
清右衛門
治平
與三治
文治
繁右衛門
林藏
所次右衛門
治平

三畝廿弐歩ノ内
一畑三畝壱歩
三畝廿弐歩ノ内
一屋敷廿壱歩
一畑弐畝四歩
一畑三畝弐歩
一畑弐畝廿八歩
一畑八畝九歩
一畑七歩半
一畑壱畝歩
一畑三畝弐歩半
壱畝廿三歩ノ内
一畑廿三歩
壱畝廿三歩ノ内
一屋敷壱畝歩
壱畝七歩半ノ内
一畑十六歩半
壱畝七歩半ノ内
一屋敷廿壱歩
一畑壱畝七歩半
弐畝十三歩ノ内
一畑壱畝廿歩
弐畝十三歩ノ内
一屋敷廿三歩
一畑八畝十四歩
一畑壱畝廿五歩
一畑壱畝十五歩
壱畝廿五歩ノ内
一畑廿五歩

佐右衛門
佐右衛門
秀藏
繁右衛門
左太夫
繁右衛門
新兵衛
治助
新兵衛
柳吉
淺八
淺八
繁右衛門
佐右衛門
佐右衛門
佐右衛門
同人
同人
所二右衛門

壱畝廿五歩ノ内
一屋敷畑壱畝歩
壱反三畝三歩ノ内
一畑弐畝廿三歩
壱反三畝三歩ノ内
一屋敷壱反拾歩
一畑三畝九歩
三畝廿六歩ノ内
一畑壱畝廿歩
三畝廿六歩ノ内
一屋敷弐畝六歩
一畑壱畝廿五歩
一畑四畝歩
一畑壱畝拾壱歩
一畑壱畝八歩
一畑六歩
一畑弐畝六歩
一畑廿四歩
弐畝廿八歩ノ内
一畑壱畝廿歩
弐畝廿八歩ノ内
一屋敷畑壱畝八歩
一畑壱畝十四歩
一畑壱畝八歩
一畑十三歩半
廿七歩半ノ内
一畑十五歩半
廿七歩半ノ内
一屋敷十弐歩

所二右衛門
佐右衛門
同　人
彌次兵衛
彌次兵衛
定右衛門
藤五郎
定右衛門
定右衛門
定右衛門へ入
茂八
儀右衛門
定右衛門へ入
茂八
彦右衛門
彦右衛門
彦左衛門
佐右衛門
佐右衛門
い
と
い
と

四畝歩ノ内
一畑三畝九歩
四畝歩ノ内
一屋敷廿壱歩
一畑壱畝廿四歩
三畝六歩ノ内
一畑弐畝三歩
三畝六歩ノ内
一屋敷・畑壱畝三歩
六畝六歩ノ内
一畑五畝十五歩
六畝六歩ノ内
一屋敷廿壱歩
一畑弐畝歩
一畑弐畝十五歩
一畑四畝拾八歩
一畑壱畝壱歩
一畑弐畝壱歩
一畑壱畝十六歩
一畑壱畝十六歩
一畑五畝廿壱歩
一畑拾八歩
一畑壱畝十弐歩
一畑廿八歩
一畑三畝歩
一畑壱畝十九歩

佐右衛門
吉三郎
佐右衛門
繁　藏
繁　藏
同　人
佐右衛門
利助
佐右衛門
同　人
定右衛門
定右衛門
治　平
幸右衛門
所左衛門事
常右衛門
幸　助
西一
久二郎
左太夫
治　平
治　平
繁右衛門
前川道北
左太夫

一畑壱畝十九歩　秀　蔵
一畑弐畝七歩　繁右衛門
一畑四歩　いはら地　清右衛門
一畑弐畝九歩　清右衛門
一畑弐畝廿壱歩　半兵衛田　十二一郎
一畑拾壱歩　佐右衛門
一畑廿壱歩半　前川道南　彦右衛門
一畑廿壱歩半　所左衛門
一畑廿壱歩半　幸　助
一畑壱畝十七歩　佐右衛門
一畑廿六歩半　常三郎
〆三町弐反拾四歩
内
四反弐畝拾五歩　居家敷　高之分
弐町七反七畝廿九歩外畑之分

○新田開発

五〇　江月村新田定書

○烏江　吹原第三氏所蔵

以上

早川忠左方迄書状令披見候、江月村新田内、今度御検地ニ、其方縄請被仕候田畑之分、先日爰元ニて、酒井(酒久)左衛門殿我等も如申渡、別条無之候、然ハ太左衛門・善右衛門、其元隣郷(隣)ニて、何角申由如何之儀ニ候哉、此方相替儀無之候、右より如申、太左衛門儀も江月村へ慥成百姓越せ、家をも作、以来迄、御百姓ニ罷成候ハヽ、其百姓可作程見斗、田畑作らせ可被申候、百姓越候ハヽ、定て其方へ理可申候間、能致吟味、麦なともまかせ可被申候、其通具彦十へも申渡候、又江月村惣左衛門・市左衛門先日爰元へ参候間、其旨申付候、惣別此田地之儀ハ、先年酒井久左衛門殿・石黒善十郎殿御代官之時より、出作之者共、江月村へ可越と偽申、終不越、其上江月村へ人馬多入こミ、草をかり、堤なと所を荒シ、我かまゝ申、所之ため悪ニ、殊ニ大水なと之時之ためニ、此出作分田地御取上、田畠之帳相添、其方へ御渡置、就其今度之御検地ニも弥其分ニ相究、貴所ニ縄請被仰付、御帳相究候上ハ、脇々より少もかまい有之間敷候、右如申、太左衛門も百姓仕すへ候ハヽ、其方へ重々相理、貴所合点ニ候ハヽ、少成共、其者ニ見あてかい、田地作らせ候へと申事ニ候、其通、右ニ堅申渡置候間、貴所へ無届、何者ニても、むりニハ麦なともまき申者有之間敷候、尚、忠左近日其元へ可被参候間、可被申渡候、恐々謹言、

十月十九日　　（飯沼）飯善　右衛門
　　（花押）
烏江村
勘兵衛殿

（付箋）「寛永八未年江月村新田ニ付御定書」

附　江月村百姓申状并薗田十左衛門裏書写
　　○烏江　吹原第三氏所蔵

（端裏書）「江月村」

「□□」

乍恐御書付を以申上候、

一江月村御代官、卯之年より酒井久左衛門様御手代水野太兵衛殿百姓（姓、下同ジ）を取立、則此田地壱反九畝拾九歩、小平次と申ものに相渡シ、役人被仰付候処ニ、烏江村勘兵衛殿、右之百性をおいたをし、田地を取おし付、御うたせ被成候御事

一次郎八と申もの、田地壱反八畝拾五歩御座候を、江月村庄や年寄共ニ、役人を相すへ候て、被仰付候ニ付て、八蔵と申すものに、右之田地渡し、役人に仕置候処ニ、是も右之勘兵衛殿取被申候御事

一庄九郎と申ものゝ田地四反六畝五歩、善右衛門と申すものゝ田地八反壱畝拾弐歩、忠右衛門と申ものゝ田地八反三畝拾六歩、此両三人之もの子之年より鍬からミやうてんおこし申候、役人と罷有候百性成候、右之田地御取可有之由被申候御事

一三畝八歩　　法前分
一弐反弐畝拾五歩　　長七分
一四反六畝　　甚六分
一弐反三畝廿四分　　源市分

此分ハ、去ル未之年御取候へ共、小百性と申、又ハ御代官より被仰付候とて御取候故、可申上様も無御座迷惑仕候、当年ハ御代官様も御替被成候故、如此申上候、此儀如前々被仰付被下候ハねハ、百性共居申候事罷成不申候ニよつて、さて申上候御事

一十右衛門分五反七畝三歩、次郎八分壱反八畝拾五歩、此弐人其ものゝ田地、未之年より御取被成候へ共、役をハ江月村之百性仕候御事

寛永十年酉ノ卯月十二日　　濃州江月村庄や
　　八日　　市左衛門
　　惣小百性

石黒善十郎様
まゐる

江月村庄屋小百性衆上ヶ目安跡書

右之御(裏)浦書

江月村庄や市左衛門・小百性(姓)如此之目安上ヶ申候、明日早々被参、御理り可被申候、為其うら判を仕越申候、以上、

酉ノ卯月十日　　蘭田十左衛門　判

からすへ村

勘兵衛殿

まゐる

同　惣左衛門

(石黒)石善十様御内　　次兵へ

吉原六左衛門殿　　小平次

同　　八　藏

蘭田十左衛門殿　　勘四郎

二郎作

附　江月村百姓連署請状案

○烏江　吹原第三氏所蔵

指上ヶ申一札事

一江月村田畠之内、酒井久左衛門様御代官之時、からすへ村勘兵衛ニ被仰付候儀、偽ニて無御座候所を、此度目安を卒爾ニ申上迷惑仕候、以来少成共、不届成儀申上候ハヽ、何様ニも曲事ニ可被仰付候、此外何にても申分無御座候、為後日連判仕指上ヶ申候、以上、

濃州江月村

庄や

市左衛門

寛永拾年酉ノ四月十二日

附　烏江村勘兵衛返答状写

○烏江　吹原第三氏所蔵

乍恐申上御返答

一江月村新田之内、壱反九畝拾九歩之田地、水野太兵衛殿御手代之時、小平次と申ものに被仰付候由申上候、偽にて御座候、此田地ハ新田ひらき申時、我等おこし置申候処ニ、日比野十左衛門殿御手代梶庄次郎殿手作被成度之由被仰候ニ付、御手代被成候内預ヶ申、其後此田地小平次と申もの小作仕度と申ニ付、おきて置申候、去々年取あけ候ハんと申候へハ、小平次申候ハ、今壱年作らセくれ候へとさま〴〵申ニ付、去年迄ハ作らセ、当春取あけ申候を、我等百性(姓、下同ジ)をおいたをし申様ニ申あけ候、是以偽にて御座候御事

一次郎八と申ものゝ田地壱反八畝拾五歩と申上候、二郎八田地

ハ六反八畝拾九歩にて御座候、彼二郎八御公儀相背、其上いたつら仕、立のき申ニ付、其跡之田地、我等ニ被仰付候、其田地之内三反壱畝拾八歩ハ八蔵ニおきて置、爾今作らせ申候、同壱反八畝拾五歩ハ、我等作申候、同壱反八畝拾五歩ハ大垣領池尻村之與兵衛と申ものニおきて置、未年我等取あけ可申と申候へハ、種々申ニ付、申之年迄おきて置候へ共、我等之セかれ江月村ニ有付申ニ付て、当春田地取あけ申候を、八蔵ニ渡り申田地と申上候儀、偽ニて御座候、八蔵壱年も作仕事無御座候御事

一庄九郎・善右衛門・忠右衛門、此三人之もの他領より入作之ものにて候ハ、我等ゑん類いにて御座候故、右之田畠預ケ置申候、取あけ可申も、おきて可申も、我等次第にて御座候御事

一法前と申ものハ、越前のものにて越前へ立帰申候、

一長七と申ものハ、他国のものにて御座候か、相果申候、

一甚六と申ものは、たら村之ものにて立帰申候、

一源市と申ものハ、相果申候、此四人之田地ハ主なしにて御座候、則未之年より被仰付、我等手作仕候御事

一平岡十右衛門殿田地五反七畝三歩、次郎八田地壱反八畝拾五歩、此弐人之田地拙者作仕、御役も不仕候由申上候、江月村新田にて御座候へハ、御公方御役無御座候、堤之御役ハ相つとめ申候御事

一此書立之田地、何も久左衛門様より御改被成、我等ニ被仰付候儀ハ、江月村ニ百性衆も無御座候て、入作多く御座候故、水出申候時、堤かゝへ申ものも無御座候て、民部様・久左衛門様御代ニ切々きれ申ニ付、入作之衆に江月村ニ家をも仕、堤をもかこひ申候へと被仰付候へハ、御請ハ申候へ共、終ニ家をも不仕、田地をもあらし作ニ仕候故、久左衛門様御せんさく被成、入作之田畠又ハ主なしの田畠、拙者ニ被仰付も、其刻御免し候様ニと御理り申候へ共、江月村者皆成ものも無御座候間、我等ニさいはん仕候へと、かたく被仰付、田畠御改之帳御渡し被成候、此御帳面之外ノ田地、少も取あけ不申候御事

右、江月村百性衆、か様ニ申はつニてハ無御座候へ共、未申之年、免割に出入御座候ニ付、無高下有様ニ仕候へと申候、其上我等兄弟江月村ニ弐人罷有候へ共、弐人なから相果申候ニ付、当春我等之セかれ壱人、江月村ニ定付可申と存、内々屋敷をもこしらへ用意仕候、此儀いやかり偽申上候、此通被聞召分可被下候、以上

酉卯月十二日　　烏江村　勘兵衛

石黒善十様

付　烏江村勘兵衛申状写

○烏江　吹原第三氏所蔵

覚

一江月村新田藤田民部様御代官之時、被仰付候出作之もの共、家を作り以来迄、御百性(姓、下同ジ)ニ罷成候者ニハ、田地可被下候、無左様者ノ田地ハ御取上ケ被成候ニ付、大垣領野口村太左衛門弟十兵衛・御蔵入ノ飯積村忠右衛門・同村善右衛門・飯田村少九郎・栗笠村彦左衛門此五人屋敷を申請、家を作り申ニ付、御田地被下候処ニ、一両年過、家をこわし、本所へ立のき申候、其後酒井久左衛門尉様御代官ニ罷成、御改被成、江月村に百性すくなく候故、水出テ申時、堤かゝゑ申者無之、切ミ堤きれ申候間、民部様之時、江月村ニ家仕、田地請取申、出作之者共、如前々家仕引越候へ、無左様出作候者、田地御取上ケ可被成と被仰候ニ付、栗笠村彦左衛門と申ものハ、其時より家を仕、御田地被下、于今罷有候、残而四人之者共ハ、二三年之内御とゝけ被成候へ共、終ニ家をも不仕、其上江月村へ人馬多ク入こミ、堤又は御田地之内ニても草をかり取、こんたいもなく所をあらし申ニ付、山田小左衛門尉殿・藤田忠兵衛殿御改候て、かまをも御取被成候、他領ニ乍有我かまゝ申ニ付、右之田地御取上ケ被成候て、我等ニ被仰付、江月村ニ嵜成者無之候間、公儀万事以来迄、肝煎可申由、御意被成「○候へ共ニ重ネ書ス、条」、其時達て御理り申上候へ共、堅被仰付、則出作之田地御改被成、御帳ニ御判を被仰付被下候御事

一石黒善十郎様御代官之時も、右之筋目を以テ被仰付候、然ル所ニ、右出作之者共と江月村百性申合、田地取返シ可申旨、善十郎様へ目安指上ケ申候、善十郎様御前ニて、前々より之子細御きゝミ被成不相替我等ニ被仰付、則久左衛門尉様より被下候御帳之末ニ、又善十郎様御判を被仰付被下候、其時江月村百性共不屈成義申上、迷惑仕候由、御詫言之一札仕、善十郎様へ指上ケ申候、其一札跡書、我等ニ被下、于今御座候事

一如此代々被仰付候故、江月村へせかれ引越、家を作らせしすへ置申候、然は当年御検地入申ニ付、我等縄請仕候処ニ、野口村太左衛門と申者、又罷出、なこやへ参御理り申、右之田地取返シ候由、其上勘兵衛近年偽りをも申候と、近郡西美濃中申なし候故、残て三人之出作之者共も、太左衛門なミニ御理り可申と申由、風聞御座候ニ付、驚人俄ニなこやへ罷越候て、得御意候へハ、太左衛門おい子ニても江月村ニ家を作り、嵜成請人も相定、以来迄之御百性に罷成候ハヽ、勘兵衛見はからい、其者ニおふして、田地作(少シ成共)らせ候へと、只今又被仰付候間、御意次第ニ御座候、但此以前之ことく偽り可申も不存候間、様子次第重て御意をうけ可申候御事

一此太左衛門は、江月村ニ前後家は不仕候、如右ニ被申上、弟十兵衛家を作り申ニ付、十兵へニ田地被仰付候へ共、此十兵衛江月村之者共と出入候て、其時より二三年過立のき、本所(小里)へ罷帰候へ共、野口村ニも勘忍不罷成、今程ハ東美濃わり村ニ居申候也、

一右之田地、我等ニ被仰付候へ共、出作之者共、拙者縁類なとニても御座候故、当年迄作とく壱合も取不申、預ケ置作らせ申候へ共、とかく我等とく取上ケ不申候故、御代官替りめ之時〳〵ニ、何角出入偽りを申、隣郷へ之外聞も迷惑ニ御座候て、此度は、弥々堅被仰付可被下候、以上、

子ノ
拾月二日　からすへ村
勘兵衛

五一　根古地新田開発証文

○根古地区有

新田証文之事

一此度御村方之内草場高三百拾八石九合を以、其外新田開発仕度ゝ御公儀様表各々御願被下候処我等願之通りニ被為仰付難有奉存候

一藻草之儀ハ前々通りニ御入込御苅取可被成候

一殺生之儀も右同断之御事

一御本田之障りニ被成候儀ハ、一切仕間敷候事

右之通りニ御座候所鍬下五年之内新田成就仕候ハヽ、末々ニ至迄御本田障り可成儀ハ少も仕間敷候、為後日之証文仍如件

新田願主
寛永拾八年　河内屋
巳之三月五日　甚九郎（花押）

根古地村　庄屋
彦右衛門殿
同断
治郎兵衛殿
惣百姓中

証文之事

一此度新田開発仕候ニ付ゝ何角御両人御世話被成下忝奉存候就夫、惣テ作方之儀ハ前々之通り永代御差図をうけ可申候此已後共ニ御世話奉願候、跡百姓迄も申渡シ候て相守り可申候為其如此ニ御座候、以上

新田
正保弐年　河内屋
酉之二月三日　甚九郎　印

根古地村
松永彦右衛門様
春田次郎兵衛様

五二　有尾・津屋村草場開発願

〇高田　中村準一氏所蔵

新田仕度場所之覚

一高五百石程　御蔵所津屋村之草場
　此草場之御年貢、年ニ五石程御座候由
一高千石程　小笠原主膳様御領分之内　有尾村草場
　此草場之御年貢、年ニ拾石程御座候由
　右之両所之堤之大廻之覚
一新堤千弐百間余　此堤　敷地拾三間　高さ三間　馬ふみ弐間半程ニ可仕候
一古堤千三百六拾余御座候　敷地四間　高さ壱間御座候　切口多御座候
　是も新堤程ニ可仕候
一右之堤敷地之分ハ、小笠原主膳様・戸田左門様御領分ニ御座候故、御両所へ申上、拙者共より入用ヲ出し、堤築立申候に相究申候、左様ニ御座候得ば、右堤内ニ罷成候御蔵入津屋村分永代引得ニ被仰付、如此御定可被下候哉
一七年之間作り取ニ被仰付可被下御事
一右津屋村野米之代ハ、作り取七年之内も草場之御年貢米如前々御納所可仕御事
一七年過御物成高ニ付、三ツ物成ニ拾年之間被仰付可被下候御事
一七年過八年目より御役等御蔵入なミに可仕御事
一右田所御検地被成候刻、六尺竿を以三百坪、壱反ニ付高壱石代ニ被仰付可被下御事

右之堤出来候ても、何方之堤之さハりニも少も不罷成所ニ御座候、若以来余村之痛ニ罷成候と申出候ハヽ、被遂御穿鑿候上、少成共いたミ申所御座候ニおゐてハ、右之新堤何時ニても取払可申候条、津屋村之草場引得ニ被仰付可被下候、当年中より堤築立申度奉存候、以上

寛永廿壱年
申ノ十月廿四日

五里村　牧　太　郎　助
柴原北方村　馬　淵　金左衛門
加納村　早　野　勘左衛門
公郷村　高　橋　六左衛門
いくら村　西堀三郎右衛門

岡　田　将　監様
石　原　清左衛門様

（裏書）
「表書之通、先年相究申付候上は、於御蔵入分ニ相違有之間敷候、給所之儀ハ、此方より不可存候条可被得其意候、此新田廻り堤御蔵入之地ニハ少も無之由、右ニ申定候間、縦少々御蔵入之地ニ堤有之候共、以来迄御蔵入方新田ノ百姓中

へハ、堤修理普請役懸被申間敷との究ニ候間、弥其旨ヲ可被存候、不及申候得共、此所堤大破仕候共、公儀よりの御普請ハ猶又有之間敷候、右何も去々年相定申付候得共、裏書証文望ニ候間、如此ニ候、以上

正保三年戌　　石原清左衛門㊞
六月朔日　　岡田將監㊞
津屋村・横屋新田
請相之衆中　」

附　有尾・津屋村荒所開発証文

○安八郡輪之内町　片野記念館所蔵

有尾・津屋両村荒所開発相定之覚

一右両村永荒之所、各過分之金子を入堤築立被申候間、御蔵所御文言之ことく、永代之引得ニ相定処実正也、若後々におゐて、いにしへの百姓田地たりといふ共、末々迄不可立其理、為後日此証文各ゑ遣置申候事

一作り取五年之事

一作り取五年過、六年めハ高ニ付四ツ物成之事

一作り取五年過、六年めハ六尺弐寸杖を以、此方より検地之上拾町百石之事

一作り取五年之内、若堤切候ハヽ、其年之立毛有次第検見之上分算を極、其物成米之分其方達ゑ預ケ、手形を取かわし是を延置、作り取之年季も定之ことく末ゑおくるへし、但作り取之年季究り候年、右手形ニ書記、物成米之分四ツ物成之外ニ納所あるへき事

一当年御相談相究、互ニ証文有之上は、来年戌之年より作り取五年之始たるへし、若堤出来不仕候共、五年之内ニ可入之相定之事

一五年作り取之内或堤切、或破損仕候ハヽ、其方より普請可被成事

一作り取五年之内、若堤壱年切候ハヽ其年ヲ延、又壱年切候ハハ其年をのへ、其以後は堤切候共末ゑ不可送、作り取五年之内たるへき事

一四ツ物成六年之内、堤切申年ハ、検見之上、立毛次第所務可仕候、但輪之内田畑透と水損有之は、其年ハ捨立毛付年之事

一四ツ物成六年之内、或堤切、或は破損仕候ハヽ、其輪中之人足着到次第可出、其外郷中人足をも加へ普請可仕事

一四ツ物成六年過、明ル春土免之事、附水損・風損候ハヽ、検見之上、立毛次第たるへき事

一指柳十一年之内百姓ましの事

一四ツ物成納所始之年より、同所堤普請之外、諸役之儀高ニ付

免相之外、五分通是も納所之事
一右両所新田堤之内、野米之分ハ五年作り取之内、当年之定のことく内外分算候て、有尾村勘四郎・津屋村甚右衛門方門方へ納所可有事
一右新田堤之外草場之分ハ、如前々有尾村庄屋勘四郎・津屋村甚右衛門支配申付候間、新田ノ百姓衆構有間敷事
一右両所新田堤之外草場之儀、勿論堤築始候時分より末々破損普請ニ至迄、此草場におゐて土取可被申事
一堤根敷水つよく当り候所ハ拾三間、水よわく当り候所は拾間場所ヲ見合、御相談之上相定可申事
一堤面通水つよく当り候分ハ、御相談次第石籠之事
一右新田之内、前後不案内成もの勿論、御法度之ことく伴てれん・いるまん・切支丹宗旨堅御談議可有事
一庄屋給ハ検地之時、百石ニ付壱反宛出之可申事
一主膳(小笠原貞信)ニ所替なと被仰付候時分ハ、跡之御領主へ右究之通可申渡事

右一ツ書之通聊相違仕間敷候、為其証文仍而如件

正保弐年酉八月十三日

常葉六郎左衛門　印
福井新左衛門　印
伴與惣兵衛　印

使

垣原角左衛門　印
井田傳左衛門　印
牧豐左衛門殿
馬淵金左衛門殿
西堀佐左衛門殿
早野勘左衛門殿
高橋六左衛門殿

五三　根古地・大場村荒所開発証文

○烏江　後藤有康氏所蔵

根古地・大場両村荒所開発之覚

一右永荒之所開発ニ付、両村吟味之上各願之通相定給候、依之各過分之金子を入、堤御築立候間、永代之引得ニ相定処実正也、縦田所ニ不成池荒地は勿論、若於後々ニいにしへの百姓田所たりといふとも、末々迄不可立其理、為後日之此証文各ゑ遣置申候事
一作取五年之事
一当年御相談相定上は、来年戌年より作取五年之始りたるへし、若堤出来不仕候共、五年之内可入之相定之事
一作取五年之内、若堤壱年切候は其年を延、又壱年切候は其の年を延、右弐年之以後堤切候共末ゑ不可送、作取五年之内たるへき事

一作取五年之内、若堤切候は、其年之立毛有次第検見之上分算を極、其物成米之分各ゝ預け、手形を取りかわし是を延置、作り取之年季も定のことく末ゝ可送、但作取年季明候年、右手形ニ書記ス物成米之分、弐ツ弐分之外ニ可有納所事

一五年作取之内、或は堤切或は破損仕候は、其方より普請可被成事

一作取五年過、六年目ニ此方より検地之上拾町百石之事

一検地以後或は川欠、或は堤切・池成・砂入・土取跡等ニて、田所永荒罷成候は、右検地高之内ニて永引ニ可相立事

附、右永荒所末々迄各引得たるへき事

一作取五年過、六年目より高ニ付弐ツ弐分物成五年之事

一弐ツ弐分物成、五年之内堤切申年は検見之上立毛次第所務可仕候、但輪之内田畑すきと水損有之は、其年は捨立毛付五年之事

一弐ツ弐分物成、五年之内或は堤切或は破損仕候は、郷中人足を以普請可仕事

一弐ツ弐分物成納所、始年より堤川除圦樋道橋目論見を以、此方より普請可申付事

一弐ツ弐分物成、五年過明ル春より土免之事

附り、水損・風損候は、検見之上立毛次第たるへき事

一開発之内本田高百拾八石之内、前々より鍬目有之分は格別、其外各可為支配事

一根古地・大場両村悪水除分水落江圦樋等、各勝手たるへき事

一右新田堤外草場之儀、堤築始之時分より末々破損普請ニ至迄此草場ニ土取可申候、堤草木等各支配可被成事

附、堤切入根敷出シ引等之儀、各可為勝手事

一庄屋給は、検地之時分百石ニ付壱反宛出し可申事

一右新田之内前後不審成もの、勿論御法度之伴天連・いるまん吉利支丹宗旨堅御談儀可有事

一主膳正ニ取替抔被　仰付候時分、跡之御領主ゟ右相究之通可申渡候事

右一ツ書之通、聊相違仕間敷候、為其証文仍而如件

正保二年
酉九月十一日

常葉六郎左衛門㊞
福井新左衛門㊞
伴與惣兵衛

同使
朝倉求馬㊞
福井彦左衛門㊞

坪内七兵衛殿
後藤三郎左衛門殿
中嶋惣右衛門殿
奥村甚五郎殿
冨永惣太夫殿
河内屋甚九郎殿

五四　下池新田開発証文

○海津郡南濃町駒野新田　国枝さゝえ氏所蔵

濃州石津郡大垣領下池新田相究事

一五年は其方作取　但　日損・水損・風損無構堤破損仕候共立毛仕付候年より五年

一五年は　免相三ツ取

一五年は　免相三ツ五分取

右拾五年　諸役赦免、それ過ニは大垣領分新田並ニ諸役可仕事

一永代　免相四ツ五分取

一作取五年之内堤普請成程丈夫ニ其方より可仕候、堤之大キサハ大垣目路見之通間数之内三ヶ壱ハ根置六間半・馬踏壱間・直高八尺、三ヶ壱ハ根置六間・馬踏壱間・直高七尺、三ヶ壱は根置五間・馬踏五尺・直高七尺、横屋・津屋村之落江堤間数之内三ヶ壱ハ根置四間・馬踏五尺・直高壱間、三ヶ壱ハ根置三間半・馬踏五尺・直高五尺、三ヶ壱ハ根置三間・馬踏五尺・直高五尺、右之通不足不仕様ニ築立可申事

一作取已後年貢納所不仕候内ハ、何ヶ年ニても堤樋共ニ修理其方より可仕候、定免之通納所仕候年より拾年之内堤破損仕候は、其方より半分、大垣より半分修理可仕候事

一定免之通年貢納所仕候年より拾年過候は、大垣より堤永代修理可申付定之事、付り、下池新田之樋寛文拾三年丑之年已後出来仕候樋之分ハ、右堤大垣より申付候、同年より樋半分は其方、半分は大垣より永代修覆可申付候事

一水損・日損・風損ニて年貢定免之通納所難仕と存ル年は、見立ニ成共、又ハ米ニても苅分ニても其方へ五分、大垣へ五分之究之事

一此度築立申下池新田領地之内不残切開申、少も荒シ申間敷候、并池・川・田所ニ不罷成候所は、其方へ半分、大垣へ半分ニ相定申候、尤末之田所ニ罷成候は、右定之通ニ其方へ可申付事

一作取過六年目ニ検地可申付候、但　六尺弐寸五分竿ニて八町百石ニ相定申候、勿論あせ代はひき可申事

一本田之村々かまひニ成申儀少も仕間敷候、并本田水路少も悪敷罷成候は、其方より仕直シ可申候事

一下池新田領地之百姓拾人入置家ヲ立させ可申候、家ハ大垣領分新田定之通、弐間張ニ五間より内之家は作らせ申間敷候、并入百姓慥成もの吟味仕請人ヲ取入置可申候、又は能庄屋居置、右新田之下知堅可相守事

一田地他領ゑ遣シかよひ作仕らせ申間敷候、乍然五年之内入百姓揃不申候内は、他所へ掟地ニ可仕候事

一男女共ニむさと仕たるは、一夜之宿もかし申間敷候、并断申迄無之奉公人之儀は不及申ニ、牢人等ニ至迄一人も抱置申間

敷候事

一諸殺生堅仕間敷候事

一不寄何事大垣領分並之仕置等堅相守可申事

右拾七ヶ条之通少も相違有之間敷候、此新田取立申度と数年其方望被申候へ共、方々入相之所ニて有之候、何方よりも六ヶ敷付届なと有間敷かと相尋候へは、故方より方々へ相断申所ニ少も障り申儀無之候と別紙一札被仕候故、望之通申付候、此以後も若何方より出入有之候は、其方罷出急度埒明可被申者也、

延宝弐甲寅正月廿五日　　柘植清右衛門㊞

水野九郎左衛門㊞

大屋勘兵衛㊞

岡田與次右衛門㊞

本阿彌光務佐

付　下池新田取立ニ付横屋輪中水落定

○高田　中村準一氏所蔵

下池之内今度新田取立申ニ付横屋輪中水落定之事

一横屋落坈東弐艘之分は、彌八新田落坈之場所より、百拾四間下ゑ直ニ見通し、江幅水底ニて五間、上水八間ニ江堀を立可申事

附、東弐艘之坈落合之間数六拾間下ニて、水落合候様ニ江堀を立、此江幅水底ニて三間、上水六間宛ニ堀立可申事

一同東より三□□□水落、志津新田堤は西ゑくり□□□江溝□□直ニ付、水底ニて四間、上水八間ニ江堀を立て、横屋水□□□留水落無滞様可仕事

一右三艘之坈江溝深サ落坈敷より壱尺五寸深ニ堀可申事

一右三艘之坈、彌八新田落坈より百拾四間下ニて水落合、それより末江幅水底ニて七間、上水拾五間ニ江溝立水落シ可申事

一徳田堤築切坈より六艘坈迄、弐拾五間江之内、横屋輪中水落江幅九間ニ仕、中堤来寅春半分築立、三ツ屋水と横屋水別ニ落シ可申候、右中堤来ル辰三月迄四ヶ年之内ニ六艘坈迄、堤成程丈夫ニ築立、徳田堤ゑ之築切坈取払可申候、於後々年、右堤破損致候ハヽ、早速修復可仕事

一六艘坈之内三艘横屋水落ニ仕、三ツ屋落と横屋落坈別に用可申之事

一六艘坈之外江堀之儀、坈先水つかえ申候ハヽ、無滞様堀通シ可申候事

右之通、□□仕間敷候、此上新田成就仕、若横屋輪中水落之障ニ□□候ニおいてハ、横屋村当御代官、有尾新田御役人御身□□上ニて、不寄何時、新田堤取払水落前々之通ニ可仕候、為後日証文仍如件

延宝元年癸丑十一月十五日

森半入内
加藤庄五郎　印
同　渡邊源左衛門　印
同　柘植彦六　印
印判忠重　花押

横屋村庄屋　甚左衛門殿
同断　七郎左衛門殿
同村年寄　七太夫殿
同　七郎兵衛殿
有尾村庄屋　彌兵衛殿
同年寄　忠四郎殿
有尾新田庄屋　八兵衛殿
同　太兵衛殿

五五　大跡新田開発証文

○小倉　栗田嘉三氏所蔵

一札之事

一今度　小笠原土佐守(貞信)様御所替ニ付、其方へ御引得之新田高、本田之高之内起返りニ罷成申段、　御公儀様へ書上申候、然共先年新田開発以来、本田より少もかまひ無御座上は、自今以後如何様之儀御座候共、少もかまひ無御座候、於後々年御代官替り其外御給人様方へ相替り申候共、子々孫々ニ至迄入用懸ヶ申儀ハ不及申ニ、其外何ニても少も本田よりかまい無御座候、縦御公儀様より被仰付候儀共ニ本田へ申来り候共、本田よりハかまい無之段御断申上、其方さばきニ罷成候様可仕候、為後日仍如件

元禄四年
未八月

大跡村庄屋　彦右衛門
同断　源右衛門
小倉村　權四郎殿
七兵衛殿

付　大跡・飯之木村起返地ニ付願書

○根古地　松永明氏所蔵

乍恐以口上書御断申上候御事

一多藝郡大跡村高千弐百七石六斗三升九合之内、弐百九石弐斗四升起帰り、同郡飯木村高九百六石三斗五升之内、五拾八石弐斗三升六合起帰り仕候は、四拾八年以前小笠原土佐守(貞信)様御領知之時分、右両村百姓開発仕候、水落水除之堤敷ニ他所之田地借り請、其替地両村高之内ニて相渡出来仕、則開発証文并尾

弥様御領・大垣御領立会之証文御検地帳、神明御神領等不残大跡村ニ所持仕埒明ヶ申候、右起帰り田地ニ入用金大分ニ掛り迷惑仕、方々へ売置申候を、小倉村ゑ過半斗四五年以前迄ニ段々買引得被申候へハ、出作百姓ニて御座候御事

一十三年以前小笠原土佐守様高須御所替被遊候時分、右両村本高古田之起帰りニて御座候を、新田と御書上ヶ被成候故、八重高ニ成申候て迷惑奉存、高須御請取ニ御出被為遊候御奉行様方ゑ、右段御断申上候得は、御詮議之上被為聞召分ヶ御江戸表ゑ被仰上、新田高御減被遊、本村一紙ニ御免定御究被下シ置候処へ、小倉村之百姓中御代官様御替り之節ハ、両村起帰り之高を御わけ被成、大跡新田と申新村新方之御免定願被申候は、何共難心得儀ニ奉存候、両本村より御断申上候ハ、田地売申度毎ニ高御切り、新村新方之御免定御出シ被遊候ハヽ、例法ニ成申、困窮之村々ハ高絶果可申と奉存、往古之村高ニ御持せ置可被下候、両村起帰り之田畑引得申村々は、大跡村・飯木村・鷲巣村・京ヶ脇村・小倉村、右之村々ゑ引得申候へハ、小倉村一村ゑハ引得不申候御事

一今度大跡村・飯木村両邑より奉願候ハヽ、両村起帰りより被召上ヶ候御年貢米御納所、本村ニて被仰付可被下候、御年貢金其外諸役銀之御割付等も、本村ゑ一所ニ被仰付、持参上納仕候様被仰付可被下候御事

一往還道役、助伝馬日用銀割付度々申遣候得共、起帰り之高より大跡村ゑ出シ不被申、何共迷惑仕候、往還道直シ助伝馬之儀、私ならぬ御役之儀ニ御座候得は、被仰付可被下候御事

一大跡村起帰り之地内ニ居住仕候百姓宗門御改帳并ニ五人組帳之儀、大跡本村より相改、御帳面差上ヶ申様ニ被仰付可被下候、大跡新田と申村名、十三年以前御江戸表ニて御つぶし被為遊候御事

右之通大跡・飯木両村百姓奉願候処、乍恐御了簡被為遊御免定之通、諸事御用等不残両村ゑ被仰付被下置候ハヽ、難有可奉存候、以上

元禄拾六年未十月

大跡村庄屋　源　兵　衛
同村同断　彦右衛門
同村年寄　次右衛門
同村同断　専右衛門
飯木村庄屋　利兵衛
同村年寄　平八

御奉行所

五六　押越村荒所起返願

○押越　渋谷保之氏所蔵

乍恐以書付奉願上候

一当村前々荒所之内、可起返分此度御見分御吟味之上、起返被為　仰付奉畏候、右荒所石砂入之内、反別壱町壱反壱畝廿六歩、先年牧田川切入候節、格別之石入荒地ニ罷成候ニ付、爾今洩水夥敷吹出、渇水之節は用水無御座地所ニ付、田地ニ起返被為　仰付候ても、立毛生立可申地面ニ無御座候、然共御吟味厳敷被　仰付候ニ付、向後石砂厚キ所ハ苗木等植立、或は水付低地之場所ハ秣場ニ仕可申候間、右反別之分林成秣場起返ニ被為　仰付被下置候ハヽ、壱反ニ付御年貢米弐升宛御上納可仕候間、乍恐願之通被為　仰付被下候様奉願上候、以上

寅四月

多藝郡押越村庄屋　和　助
同断　侍右衛門
年寄　甚左衛門
百姓代　新左衛門

大垣
御預御役所

付　押越村砂入場起返手間代下付願

○大垣市東外側町　大垣市立図書館所蔵

乍恐口上書以奉願候事

兼々奉願候当村子年洪水石砂入場所起帰之人足日雇賃御扶持方之儀、当春　殿様江戸御下向ニ付、被為仰上被下候由、難有仕合奉存候、然共御取上ケも無御座候由、無是非御儀迷惑至極奉存候、此起帰之場所之儀、百姓自力ニ不罷成候儀、実正ニ御座候故、御役人様御目論見ヲ請、掛リ手間等御積之分余慶入候て段々借金仕、漸弐百九拾石余起帰ニ候、去丑年御取ケ御極メ被遊候節、此分右起帰之手間代ニ被下置候段被仰渡、惣百姓難有仕合奉存候、併大分之借金此躰ニてハ十年斗ニ元切仕間敷奉存候間、当年より丑年迄十二年之間、去年之通ニ御引方ニ被遊被下候ハヽ、難有奉存候、殊当年之儀、前々無之往還助人馬多掛リ迷惑仕候、別て当立毛之儀、大分いもちかれニ出合、不石砂入候場所も同様ニ悪敷、百姓続兼申躰御座候間、御慈悲奉願候、以上

宝永七寅九月

押越村庄屋　八左衛門
同断　七郎平

秋山茂左衛門様
足立丈右衛門様

○伊勢神領

五七　鷲巣村御縄打水帳

○石畑　山幡清重氏所蔵

（表紙）

慶長拾四年　貝津三衛門尉
樋口九衛門尉

濃州多藝郡鷲巣村御繩打水帳

伊勢御神領

五冊之内　己酉九月十六日

弐拾八間　上ノ田　七畝廿八歩　助右衛門
八間
弐拾九間半　上ノ田　壱反七畝廿六歩　清藏
三拾間　拾七間半　上ノ田　壱反七畝十五歩　喜介
四拾六間半　拾三間　上ノ田　弐反四畝　喜太夫
七間　四拾五間半　上ノ田　壱反十八歩　孫兵衛
四拾五間半　七間半　上ノ田　壱反壱畝廿三歩　十弐歩入　又右衛門
四拾五間半　六間半　上ノ田　九畝廿五歩　藤右衛門
四拾五間半　七間半　上ノ田　壱反十八歩　又右衛門
四間半　七拾七間　上ノ田　壱反弐畝五歩　十三歩入　三郎右衛門
四拾七間　七間　上ノ田　壱反廿九歩　藤右衛門
五間半　四拾七間　上ノ田　八畝十歩　喜助
七百間　五拾四間　上ノ田　壱反四畝廿五歩　四十歩入　彦太夫
三拾八間　拾六間　廿間　上ノ田　壱反弐畝廿歩　喜介
上ノ田　壱反廿歩　藤右衛門

拾八間　四拾間　上ノ田　八畝十弐歩　惣八
拾九間　弐間　中畠　壱畝八歩　孫左衛門
弐拾弐間　拾間　中田　七畝拾歩　又右衛門
拾八間　拾弐間　中田　七畝六歩　彦太夫
弐拾間半　弐拾三間　中ノ田　八畝廿五歩　同人
弐拾四間　七間半　中ノ田　六畝　喜次郎
拾六間　九間半　中ノ田　五畝弐歩　喜三
弐拾四間　弐拾間　中ノ田　九畝十歩　喜次郎
拾間　弐拾七間半　中ノ田　九畝五歩　同人
七間　拾四間　中ノ田　三畝八歩　□介
拾弐間　七間　中田　弐畝廿四歩　惣七
七間半　中田　壱畝廿弐歩　惣七
弐拾壱間　弐拾間　中ノ田　壱反四畝　五十四歩　源十郎
弐拾間　三拾間　中ノ田　弐反　喜三
三拾弐間　拾五間半　上ノ田　壱反六畝十五歩　惣七
三拾壱間　拾壱間　上ノ田　壱反壱畝十壱歩　又右衛門

右よせ

上ノ田　弐町壱反弐畝十三歩

中ノ田　九反四畝弐拾九歩
中ノ畠　壱畝八歩
田畠合　三町八畝弐拾歩
九月十六日　貝津三衛門尉
樋口九右衛門尉

此数五まい上か、共ニ

五八　鷲巣村改帳

〇石畑　山幡清重氏所蔵

（表紙）
元禄四辛未年四月廿二日
美濃國鷲巣村改帳
福島伊豆

宮西	一二間	下畑十三歩	彌惣次	同所	一二間
同所	一壱間半	同　六歩	伊平	同所	一三間
大藪尺	一五尺	同　三歩	平八	同所	一三間
同所	一三間	同　拾弐歩	太兵衛	同所	一五間
同所	一弐間半	同　五歩	八助	同所	一五間
				同所	一五間
				同所	一三間
				同所	一三間
				同所	一三間
				同所	一三間
				同所	一五間
				同所	一五間
				同所	一五

同所一弐間半一尺　同　拾三歩　同　八歩　市郎右衛門
一五間　同所　一五間　同所　一三間　同所　一弐間四尺　一四間　同所　一弐

同所 一弐間半	同	拾四歩	平　八
同所 一四間弐尺	同	十五歩	九郎兵衛
同所 一四間半弐尺	同	十五歩	同　人
しやれい西 一三間弐尺	同	拾歩	太兵衛
同所 一四間五尺	同	七歩	彦　六
同所 一三間四尺	同	十四歩	伊　平
同所 一三間弐尺	同	廿弐歩	市郎右衛門
同所 一弐間半	同	拾四歩	五　平
同所 一弐間半	同	十四歩	五郎兵衛
同所 一弐間半	同	弐拾弐歩	平　八
丸かいと 一四間半	同	十八歩	八右衛門
同所 一五間 十間四尺	同	壱畝廿三歩	長太夫
同所 一三間弐尺	同	十歩	孫　八
同所 一三間 十間	同	壱畝	八右衛門

合弐反六セ廿八歩　分米壱石八斗八升五合

鷲巣境 一四間半	下畑壱セ		權　九　郎
同所 一三間半 一六間半	同	廿三歩	平　八
同所 一四間 十二間	同	壱セ十歩	半右衛門
同所 一三間 一六間	同	十八歩	同　人
同所 一五間 一七間	同	壱セ五歩	同　人
同所地蔵前 一四間	同	廿八歩	市郎右衛門
同所 一七間 一十間	同	弐セ拾歩	半右衛門
同所道下 一四間半 一五間	同	廿弐歩	同　人
同所 一四間半 一四間	同	六歩	平　八
道下 一四間 一五間	同	廿歩	平　八
同所 一四間半 一七間 とのかいと鳴	同	壱畝	同　人
一四間半 一三間半	同	十四歩	半右衛門
同所 一壱間 一六間	同	六歩	平　八

同所 一弐間 同 六歩 權 九 郎
同所 一三間 下田廿八歩 半右衛門
同所 一四間 一七間 同 廿二歩 長 八
同所 一三間半 一七間 同 十八歩 孫 八
同所 一三間 一六間 下畑合反壱畝廿六歩 分米八斗三升
下田弐七八分 分米弐斗弐升七合
右二口合田畑壱反四七四歩 分米合壱石五升七合
惣反数合四反壱畝弐歩 分米合弐石九斗四升弐合
元禄四辛未年四月廿二日 福島伊豆内 村本吉兵衛
喜右衛門
如此認、一帳鷲巣村名主平八方へ遣候

五九　御朱印石高書上

○石畑　山幡清重氏所蔵

（表紙）
「御朱印石高
明和四丁亥年正月」

同　九壬辰年六月
右両度ニ御奉行所へ差出し候控　」

覚

一弐拾弐石九升弐合五勺　石畑村
一弐拾弐石九升弐合五勺　鷲巣村
一五石八斗壱升五合　飯田村
合五拾石収納仕候

右は、椿井郷一円神領所ニ御座候、石畑村・鷲巣村・飯田村は椿井郷之内ニて、石畑村は親村ニ御座候故、御朱印ニは高五拾石石畑村と被成下候、以上

明和四丁亥年正月　伊勢山田外宮 福島伊豆印
御奉行所

同明和九壬辰年六月右同様ニ相認御奉行所へ差出し申候

（表紙）
「御朱印石高
元禄十年　戸田采女正様
松平丹波守様へ差出し候　」

美濃國多藝郡 石畑村之内
一高五拾石
右　御朱印表ニ御座候得共、同郡鷲巣村・飯田村之内ニ右之高

有之候、右は椿井之郷一円神領所ニ御座候、鷲巣村・飯田村ハ椿井郷之内枝村ニて、石畑村は親村ニ候故、御朱印ニハ高五拾石石畑村と被成下候

一高三拾五石五升七合　石畑村之内
一高五拾四石壱斗弐升六合　鷲巣村之内
一高五石八斗壱升五合　飯田村之内
　高都合九拾四石九斗九升八合

御朱印御文言高五拾石、此外は相出しニて御座候

一高弐石九斗四升弐合　鷲巣村之内

右は元禄四辛未年新畑

右は元禄十年御絵図御改御用之節、戸田采女正様・松平丹波守様ゑ差出候引留之写

右御改之節、此帳面と外ニ、御朱印高御奉行所ゑ上ル下と弐冊

　御朱印
台徳院様御代　壱通
御当代様　壱通
　右写置

文化八年
未八月吉日

伊勢名主
山幡清右衛門

六〇　検地御再検村方心得

○石畑　山幡清重氏所蔵

覚

一□村今度御再検被　仰付候ニ付、村方末々之者迄弥以御作法堅相守可申候、村役人并高持百姓之内ニて、一□　□内之者相極置可申候、出郷之節神文可申付間、其旨相心得可□在候事

一郷境相懸り候村々、御他領・御領分共ニ早□相引合地境之儀立合境印□□置竿入之節、異論無之様仕置可申候、出郷之節、先ツ郷境可令見分候間、其節地境村々役人其所々ゑ罷出立合、村毎ニ境証文差□(出カ)候様、兼て引合置可申候事

一手引帳面之儀、古検名田帳面之通番付字ナ等迄相違無之様相認、永引□(当)作引地等有来候所は、畝毎ニ書入、社□之類道川藪林等只今迄高外之□□別帳ニ相認差出可申候、尤惣□図面委細ニ相認、畝毎ニ番附斗書入、反畝大小地続等之形間違無之候様相認差出可申候、外ニ高差□壱通差出可申候、但高辻□□惣町数も相認、内立ニ田畑共上・中・下畝歩書分ケ、平均共ニ書添、右何も出郷以前ニ差出可申候事

一田畑共畝毎ニ紙札ニ畝歩番附書付□置可申候、竿入相済候毎ニ、右札直ニ引揚、御目付え差出□□候、竿入畝毎ニ四隅ニ村人笹竹持□立可申候、并管竿・水縄連ひ□□差図ニ随ひ取扱可申候、改□尺之儀村方よりも帳面相記□此方帳面ニ引合セ可申候事

一御検地先キ田畑地面新ニ屋鋪取ニ仕□□は、屋鋪四壁土居堀等広ケ□、或は田地面新ニ畑形ニ操上置□、外道・溝畔等新ニ相建置、都て新ニ拵置候儀、堅御停止之事候、無□場所は先達て奉願可申候、出郷以前被仰渡有之分ハ、見分□之上可申渡候、惣て於場所村人□是申出間敷候、地所善悪等之□□役人可申出候事

右之通村方逐一相心得可罷在候、且又上下御役人出郷之間、支度等之品御兼制之趣猶以堅相守可申者也

六月　御検地奉行㊞㊞

石畑村
名主
惣百姓

六一　押越村荒所起返高書上証文

○押越　渋谷保之氏所蔵

差上申証文之事

村高七百弐拾八石八斗五升之内
荒所高百七拾八石三斗四合之内
一高弐拾三石壱升五合　石砂入　此度御改起返

此訳

八石壱斗三合　来午年より起返御年貢上納可仕分
内　六石八斗弐升三合　田方
　壱石弐斗八升　畑方

五石六升壱合　来未年より起返御年貢上納可仕分
内　四石三斗四升　田方
　七斗弐升壱合　畑方

九石八斗五升一合　来申年より起返御年貢上納可仕分
内　七石六斗三升五合
　弐石弐斗壱升六合

右之通此度御改各様御出被成、庄屋・年寄・地主立会御案内仕、村中荒所之分御見分之上書面之通起返候儀相違無御座候、百姓銘々小前帳差上候、然上ハ本高之通年々御年貢上納可仕候、為其連判之証文差上申候、以上

元文二年巳十一月

多藝郡押越村庄屋　八左衛門
同断　傳内
同村年寄　新左衛門
百姓代　伊左衛門
宇右衛門

上ノ下　河合仙右衛門殿
　　長眞幾久右衛門殿

六二　新開検地御請書

○養老公園　村上辨二氏所蔵

（表紙）
一　文化八年
　新開御検地御請書
　　未十月七日　　白石村　ㇾ

差上申一札之事

字北井戸、当未御高入
新田畑八石六斗四合
此反別弐町壱反五畝三歩
一高八斗八升
　此反別弐反弐畝歩
　　当未より酉迄三ヶ年季高内引
　　但シ　翌戌年より御年貢上納仕候

当御代官所
濃州多藝郡
白石村

右は、当村山年貢小物成場之内新開之義、先々御支配辻六郎左衛門様御吟味御伺之上、去ル子より去午迄七ヶ年鍬下御免、当未年検地御高入之積り御下知被仰渡候処、大縄反別弐町歩之内六反廿五歩ハ、去ル卯・辰両年大雨出水ニて石砂入之検地相成、右之内四反九畝七歩は年季中起返作付いたし、残壱反七畝十八歩当時難起返、検地ニハ候得共、縄ニ反別引分御検地請候ては、地所紛敷候間、一同御高入之上年季高内引御伺可被成下旨御利害之趣納得仕候ニ付、今般御廻村序御検地之上一同当未御高入被仰付候、然ル処書面之御改反別弐反弐畝歩石砂入多く、容易起返難出来ニ付、当未より五ヶ年高内引之義相願候処、右躰永年ニは難被仰立候間、年季縮相頼可申旨再応御利害之趣難□上弐ヶ年相縮、当未より酉年迄三ヶ年高内引被仰付度、左候へハ年季中出情起返、年季明戌年より御年貢上納可仕、此上御吟味請ては御免相願候外無之旨申上候処、然ル上御伺之上、追て御沙汰可被下旨被仰渡承知奉畏入候、仍而御請証文差出申所如件

文化八未十月

濃州多藝郡白石村庄屋
　武十郎
同　幸右衛門
年寄　藤右衛門
同　儀八
百姓代　作兵衛
　多十郎

瀧川小右衛門様
笠松
御役所

差上申一札之事

山年貢小物成之内字北井戸
大繩反別弐町歩
一下ノ下畑弐町壱反五畝三歩
内壱反五畝三歩御検地御改出分
此高八石六斗四合
右は、当村地内山年貢小物成場之内、字北井戸新開之義、去ル子より午迄七ヶ年鍬下当未年季明ニ付、今般御検地之上右田畑并新田地位御見合を以、書面之通石盛御取極被成候処、不相当之義ハ勿論、御非分之義無之御願筋毛頭御座候旨申上候ニ付、然ル上は書面弐町壱反五畝三歩、此高八石六斗四合、当未年御高入之積り御伺之上、追て御沙汰可被下旨被仰渡承知奉畏候、仍而御請証文差上申処如件

文化八未年

当御代官所
濃州多藝郡
白石村

差上申一札之事

当村地内山年貢小物成場之内字北井戸新開場、今般為検地被成御越候ニ付、一筆限致建札村役人地主罷出有躰御案内仕、先達て差上候地引帳并絵図面御引合御改相済、則御改盤帳御貸渡被成候付拝見仕候処、字・長横間数・反畝歩・地主名前外書等少も相違無之御座候、荒地等決て無御座候、勿論御改方御非分成義無之、御検地ニ付重て御願筋等毛頭無御座候、仍而御請証文差上申所如件

当御代官所
濃州多藝郡
白石村

差上申一札之事

一高八石六斗四合
此反別弐町壱反五畝三歩
内高八斗八升　当未より酉迄三年ニ引
此反弐反弐畝歩
残高七石七斗弐升四合
反壱町九反三畝三歩
此取米壱石壱斗七升四合　免壱ツ五分弐厘　内
右は、当村新開場先般御検地相済、当未年御高入相成候ニ付、書面之免合を以御取箇被仰渡承知奉畏候、然ル上は書面之畑米当未年より年々御触通無遅滞上納可仕旨被仰渡、是又承知奉畏候、尤不相当之義ハ勿論、御非分之義無之、右ニ付御願筋毛頭無御座、仍而御請証文差上申一札如件

瀧川小右衛門様
御廻村先御役所

○土地移動

六三　江月村百姓連署状

○烏江　吹原第三氏所蔵

江月村高の内ひとわり、代官殿へ進上申所、則其ひとわりのこ

め勘兵衛へ代官殿御出し候、江月村百性(姓)衆内以来申ふんと御座候へハ、むつかしく御座候間、申ふん御座候ハヽ、いま申候へと被仰候共、此高のニおいてハ、少も申ふん無御座候間、則此一札仕候、まつたい御ひかへ可被成候、少もかまい無御座候、御年貢ハ一ひとわりニ米壱斗つゝ、毎年御出し可被成候、其外ニ少も高のおいてかゝり物なにても無御座候間、壱斗つゝ御出し○可被成候ニ重ネ書ス、「候て」、えいたい御ひかへ可被成候、為其一札仕進候、以上

元和九年　　市左衛門㊞
ゐノ十一月廿八日　　次兵衛（花押）

勘兵衛殿まゐる　　九兵衛㊞
　　喜十郎（花押）
　　忠二郎（花押）
　　五郎作㊞
　　二郎作㊞
　　ことの（略押）

付　次兵衛・市左衛門連署状

○烏江　吹原第三氏所蔵

江月村・そふへ村さかいめニ、少高野はえて御座候ニ、すなわちそふへ之高野も御めし被成候ニ、市左衛門我等は、えてひとツニしんせい可申候、為其一札以此如件、

元和九年　　市左衛門㊞
いの十一月廿二日　　次兵衛（略押）

勘兵衛様

六四　社寺地寄進状

○押越　渋谷保之氏所蔵

伊勢國香取寶泉寺先師空明上人は、於戦国得勇強之誉、天正三年十一月六日、秀吉公伊勢國朝明郡繩生之城山宿営、東照權現桑名之館渡御隔箇弁河戦陣、然処空明一騎卒、数千人言上同敵東方観音山座上者雖招之可下賜御簱急彼観音台駈上可成義、勢至・矢田河原遂一戦之期、則横鑓可馳合、此謀具達上聞、任空明請下給御簱、果て到観音台卒数千人馳上警固、依此功天下一統之後、召尋空明孫空信、為恩賞美濃國多藝郡ロヶ嶋村百石之地被下永領之、香取之院家因故郷来住、雖然寺内狭隘て難成伽藍、因是後之田地壱反歩并溝野之郷新井、明谷之内南限山神宮之下狭谷之道、北限尾崎東西沼田地、為柴薪之地同山畑三ヶ所壱反七畝拾歩令寄進附之ニ、全可致領之者也、仍如件

正保四年
四月八日　　越　中　守

○高田　大橋正広氏所蔵

一岩道村八幡為社領て、同村之所田壱反歩之所此度令寄進之間
両　上様御祈念次主膳正安全抽丹精不可有懈怠候旨、従御城
被仰出候、仍如件、

正保五年
戊子二月廿九日

岩道村
神主

常葉六郎左衛門尉
伴與惣兵衛㊞
福井新左衛門㊞

○小倉　栗田嘉三氏所蔵

一田八畝拾六歩　伊勢天照皇大神宮
一畑壱反七畝拾七歩　八幡大菩薩
右之通、此度令寄進之間、両　上様御祈念次主膳正安全抽丹精
不可有懈怠候旨、従御城被仰出候、仍如件

正保五年
戊子二月廿九日

常葉六郎左衛門尉
福井新左衛門㊞

小倉村
神主

伴與惣兵衛㊞

根古地

○大場　松永　明氏所蔵

一畠壱反六歩　八幡大菩薩
右之通今度令寄進之間、両上様御祈念次主膳正安全抽丹精不可
有懈怠之旨従御城被仰出候、仍如件

正保五年
戊子二月廿九日

根古地村本田
神主

伴與惣兵衛㊞
福井新左衛門尉㊞
常葉六郎左衛門尉

一根古地村稱明寺之屋敷六畝六歩之所、堤外築地之由断候条、
此度地子御赦免候間、宗門之勤行寺中掃除不可有懈怠之旨御
城より被仰出候、仍如件

正保五年
戊子二月廿九日

根古地村
稱明寺

常葉六郎左衛門
伴與惣兵衛
福井新左衛門

六五　野地売渡証文

○烏江　吹原第三氏所蔵

うり渡高野之事

合三斗五升ハ、與吉のせんニかり候て、御年貢ニ出し申候間、與吉之儀ハ、来年何時成御かり候て、御取可被成候、若御公儀より野之儀ニかりかふへ御かゝり被成候とも、此彦二郎・孫六與吉罷出、御公儀前ハさはき可申候、為其一筆申上候、已上

慶長廿年卯十二月廿四日　　彦　二　郎（略押）
　　孫　　六（略押）
　　與　　吉（略押）

勘　兵　衛様まゐる　　一　　藏（略押）

六六　屋敷・田畑売渡証文

○押越　渋谷保之氏所蔵

今度わたくし居やしき京介過分未進御さ候ニ付、其方様へ永代ニ参候処ニ、西福寺・次兵衛・清次頼申し、種々御理り申上候処ニ、我等ニ被下雨山忝奉存候、若我等身上不罷成、此やしき

何方へも金銀米銭ニうりかい仕候は、御聞出し次第ニ、代物少も不被下候共、御取候て、御さいはん可被成候、其約束条々仕、右之三人衆をたのみ、理り申被下候、為後日状如件

寛永十四年
丑正月廿八日

おしこし
少　　八（略押）
同　京　　介（略押）

きもも入
西　福　寺（略押）
次　兵　衛（略押）
せ　い　次（略押）

中　嶋　兵左衛門殿
同　左　平　次殿
同　三　大　夫殿

○烏江　吹原第三氏所蔵

売渡シ申田之事

一下田三反三畝之所　御帳面てんばく也

右之田八年切ニ、代金三両ニうり渡し申候所実正也、八年暮ニ、本金三両に壱分つゝの利足を、弐年分くわへテ、急度進上可申候間、其時右之田地御帰シ候て可被下候、若右之田地、八年くれニ請申事不成候ハゝ、末代ニ御取可被成候、其時一言之

御うらミ申間敷候、為後日仍而如件

寛永拾九年　　二郎左衛門㊞
午ノ四月朔日　　九郎左衛門㊞

勘　兵　衛殿まゐる

○石畑　野村辰夫氏所蔵

永代ニ売渡シ申畑方之事

一畑方合壱町八畝拾九歩ハ吉兵衛縄請一名也、喜多村ニて此高拾石九斗五升也、右之外くろ付・荒地有

此代金三両弐分也

右は午ノ年御年貢米に致迷惑、右之畑方一名分、但藪林・荒地共ニ不残代金三両弐分ニ永代売渡し申所実正也、則代金只今慥ニ請取、御公儀様御年貢方ニ指上ケ申候、然上ハ右之畑方当未ノ年より其方へ永代之御引得に被成、御才判可被成候、如此ノ上ハ此畑方ニおゐてハ、たとい御国替へ・御代官替り・其外何様之儀出来仕候共、村中之義ハ不及申ニ、我々子々孫々に至ても、聊違乱類他之妨申族毛頭御座有間敷候、若末代ニ至ても何角と申もの於有之てハ、昼夜可為盗人、其上我々子々孫々何方迄も罷出、其埒急度申わけ可進也、為其地下之庄屋・年寄加判仕、則小日記相添へ畑方有坪畝数改相渡し申候、為後日証文仍而如件

寛文七年丁未二月五日

畑売主喜多村　吉　兵　衛㊞
勢至村肝煎　平　左　衛　門㊞
喜多村庄屋　忠　四　郎㊞
勢至村庄屋　小　左　衛　門㊞

藤　九　郎殿

○小倉　栗田嘉三氏所蔵

覚

高合八拾壱石弐斗六升六合

此反別八町壱反弐畝□拾歩

此代金弐百両

右は小倉村古新田之内此方引得分有之候処、村人望ニ付、先年新田開発之時分此高ニ金弐百両程出候と就申伝候、今度望故右金弐百両請取田畑相渡申候、内只今金百両請取候、残百両は来戌之暮ニ被相済筈、別紙手形取置候、右田畑来戌之春より其方引得裁判可有之候、残金少ニても滞申におゐてハ、此証文可為反故候、為後日仍如件

元禄六酉年十二月　　篠　田　彦左衛門　印
篠　田　武　兵　衛　印

小倉村庄屋
百姓　柴山源右衛門　印

六七　林・山売渡証文

〇石畑　山幡清重氏所蔵

永代売渡し申林之事

代新金弐両　有坪宮南
伊勢林

右は、卯ノ年御年貢米ニ迷惑仕り、永代ニ売渡し申所実正也、然上は、右之林ニ付如何様之儀御座候共、子々孫々至迄一言御断無御座候、為後々年証文仍如件

享保八癸卯年極月廿六日　売主　清兵衛（略押）
証人　七兵衛（略押）
口入　七郎平（略押）

清右衛門殿

〇養老公園　村上辨二氏所蔵

為取替証文之事

一多藝郡嶋田村持山字滝之谷之儀、其御村ゑ相譲候様御頼被成候ニ付、村中ゑ致相談候処、何れも納得ニ付内引合相済、双方笠松御役所ゑ御願申上候処、御聞届被遊、江戸表ゑ御窺被為遊候処、双方奉願候通被仰付候間、相譲候様被仰渡難有奉存候、依之弥相譲申候、向後山年貢小物成米七石弐斗五升、其村御引請御定之御直段を以、被仰付候日限之通、其御村より御上納可被成候、然上は右山之儀ニ付、自今以後少も故障之義申間敷候、為後証為取替証文仍如件

寛保元年酉十二月　多藝郡嶋田村庄屋
新助　印
同断　仙九郎　印
同断　孫九郎　印
同断　重右衛門　印
同断　市右衛門　印
年寄　覺右衛門　印
同断　七太夫　印
同断　甚藏　印
同断　彌兵衛　印
百性代　彦右衛門　印
同断　九右衛門　印
同断　林右衛門　印

白石村
御庄屋
御百性中

右之通為取替証文嶋田村より請取之申候、則写仕差上申候、少も相違之趣無御座候、以上

酉十二月

白石村庄屋　喜三郎　印
同断　所右衛門　印
年寄　武右衛門　印
同断　留右衛門　印

笠松
御役所

六八　埋田証文

根古地
○木場　松永　明氏所蔵

埋田証文之事

一田壱町九反九畝拾壱歩　元埋田
一田七反五畝歩　元本田分
　合弐町七反四畝拾壱歩

右之田地、本地より地畢御座候て御訴訟申ニ付、埋田ニ申付候、然上は当巳之年より本免弐斗安ニ可申付候間、永々左様ニ相心得年貢納所可被申候、尤三年之内ニ埋立可被申候、為後日証文仍如件

元禄二年巳二月朔日

柏木宇左衛門㊞
渡邊又右衛門㊞
根岸傳内㊞
鈴木新八㊞

根古地村
庄屋・百姓中

六九　替地証文

○橋爪　村上　肇氏所蔵

替地証文之事

一田壱ヶ所　有坪中新宮浅右衛門分
　此御見取弐升
　掟米壱斗四升
一田壱ヶ所　有坪桑之木原利右衛門分
　掟米五斗
〆　弐ヶ所　利右衛門より遣シ

右之替ニ其元より請取田地之事

一田壱ヶ所　有坪はだ米喜た次分
　此掟米弐斗五升
一畑壱ヶ所　有坪屋敷同人分

掟米壱斗六升

右之通り替地ニ致、高之儀は両方持々ニ仕候、其内御見取弐升利右衛門より遣シ、朽金弐両弐朱其元より請取、右之田地替申処実正也、若此田地ニ付何角と申者御座候ハヽ、請人本人罷出急度埒明可申候、為其替地証文仍而如件

明和二酉ノ年
十二月廿四日

施主　利右衛門㊞
請人　浅右衛門㊞
同断　六　左㊞
同断　才　次　郎㊞

喜　太　次殿

○石畑　山幡清重氏所蔵

替地証文之事

一中田三畝七歩　石畑分　弐百四
一中田弐畝拾歩　同断　弐百五
一中田弐畝弐歩　同断　弐百六
〆七畝拾九歩
高九斗九升弐合三勺之処相渡候
右替りとして

一中畑壱七歩　柏尾分
高壱斗之処請取候　有畝八七歩

右は、此度相対之上、右之通替地ニ致し候、尤双方代金ニ積り柏尾分之方壱分拾四匁壱分壱厘直段能相成候ニ付、右金子其元より相渡、互ニ申分無御座候、然上は、御引合之通当十一月双方高引入御年貢諸役相勤可申候、右替地ニおゐて後々年ニ至少も申分無御座候、為後証仍如件

寛政二庚戌　十一月

柏尾村本人　勘左衛門㊞
同村証人　善十郎㊞
石畑村五人組頭　八兵衛㊞
同断　喜作郎㊞
同村名主　清右衛門㊞
同断　彦六㊞

石畑村
元次郎殿

七〇　分地証文

○養老　藤塚　功氏所蔵

分ケ口証文之事

一反三畝拾五歩
高弐斗六升

有坪北起六畝歩

一反六畝歩　有坪北井戸壱反弐畝斗
高三斗四升　外猪鹿垣七間
〆反九畝拾五歩
高六斗

右は、分ケロとしておかとゑ分ケ為取可申処実正也、然ル上は、於畑地面ニは、向後其元名前ニ御引入被成、御年貢諸役至迄御勤被成、御心儘ニ御才判可被成候、為後日一札仍而如件

天保七年　田中武十郎㊞
丙申正月　日

藤塚幸右衛門様

七一　龍泉寺村十郎右衛門殿田地請作覚

○押越　渋谷保之氏所蔵

申ノ年龍泉寺村十郎右衛門殿田地請作申覚

一三石五斗者　上かた村　孫十郎（略押）
一壱石三斗者　るせんし村　孫七（略押）
一八斗五升者　同村　三吉（略押）
一五斗五升者　同村　二郎八（略押）
一七斗者　同村　彌吉（略押）

〆六石九斗

右田地請作申事実正也、則十郎右衛門殿御手前ニ米元利共ニ四石五斗御かり候由ニて、我等共を御ふり付被成候、当暮（ママ）九月以前ニ急度御手前へ御納所可申、為後日仍如件

寛永九年申ノ
三月廿六日

上方村　孫十郎
るせんし　孫七
同村　三吉
同　二郎八
同　彌吉

中嶋兵大夫殿
同　左平次殿

七二　上方村百姓居屋敷返却請書

○高田　稲葉時男氏所蔵

口上書之覚

一父彌助儀、明和六丑年上方村御追放被　仰付、其節持田地御役所様ゑ御引揚ニ相成、翌寅年貴殿ゑ被下置、御年貢未進金貴殿より御上納被成、御引得地ニ相成候、私儀は、藻池村親類之者方ゑ罷越渡世仕居申候、然処、七年以前酉年　御役所より帰村奉蒙　御免候得共、上方村ニ家作可仕方便も無御座候ニ付、藻池村ニ居申候得共、畢竟上方村ニ家作仕度存念御

座候ニ付、御勘弁を以居屋整被下候様、太十郎・長次郎相頼願入候処、御聞届被下忝奉存候、則右屋敷高御帳面之通弐斗五升弐合、私ゝ為御持被下候上は、当年より掟米私方ゝ請取御年貢諸役相勤可申旨、重々忝奉存候、為其請一札仍如件

寛政七乙卯年十一月

上方村
勘次郎㊞
同断証人
太十郎㊞
同断
長次郎㊞

石畑村
山幡與惣右衛門殿

三　貢　租

七三　直江村免定

○直江区有

多藝郡之内直江村申年免定之事

一高千五拾六石九斗八升　田畑屋敷共ニ
　此取八拾四石五斗五升八合四勺　高ニ付八分取
一高拾弐石六斗四升八合　新田分同村
　此取壱石壱升壱合八勺　高ニ付八分取

右之村川成ニ過分ニ成、毛付高三百八拾石なしてハ無御座とて百姓衆被申候ニ付て、取不足ニ申付候、来春検地仕高出候ハヽ、取□上ケ可申候、小百姓迄も立合致免割、来ル十二月十日以前皆済可被仕候、地下之役米は免割と別ニ、わりのり付ニ仕、其上ニ印判をお□庄屋ニ預ケ置可被申候、以来出入候ハヽ、入可申候、以上

寛永九年申
十一月三日　　山田長右衛門㊞

養老町史　史料編

直江村庄屋衆
年寄衆
小百姓中

多藝郡之内直江村戌之年免定之事

□(一)高千五拾六石九斗八升は　田畑屋敷共ニ
　此取百三拾七石四斗八合　但高ニ付壱ツ三分取
□□(一高)拾弐石六斗四斗八合　新田分
　此取壱石弐斗六升五合　高ニ付壱ツ取

取合百三拾八石六斗七升三合

□(右)之分ニ相定候間、庄屋・年寄・小百姓出作共ニ立合、□(高)下無之様ニ致免割、来ル十二月廿日以前ニ□(判)済可被仕候、地下之役米は、免割と別ニ割□いたしのり付ニ仕、庄屋ニ預ケ置可被申候、従　公儀当取不足之由被仰懸候は、□(何)時も其方へ可申者也

寛永拾壱年
戌十二月十日　　山田六之助㊞

庄屋
年寄
小百姓中

多鬢郡之内直江村辰ノ年免定之事

一高千五拾六石九斗八升　田畑屋敷共ニ
　此取百七拾九石六斗八升六合　高ニ壱ツ七分
一高拾弐石六斗四升四合　同村新田
　此取弐石壱斗五升　高ニ壱ツ七分

右之分相定候、庄屋・年寄・小百姓出作迄も不残立会致免割、来ル十二月五日以前ニ皆済可被仕候、地下之役米は免割と別ニわり致連判のり付ニ仕、印判ををし庄屋ニ預ケ置可被申候、以来出入之時入可申候、若従　公儀当取不足之旨被　仰出候ハヽ、何時も其方へ可(申)□候、以上

寛永拾七年
十月廿日　　山田久兵衛㊞

庄屋
年寄
小百姓中

免定

一高千六拾九石六斗弐升八合　　直江村
此田畑七拾五町六反八畝拾弐歩

内
田四反五歩　　神田ニ引
畑壱反八畝拾三歩　　西光寺屋敷ニ引
田三町五反四畝廿三歩　　永不納ニ成ル
畑壱町五反四歩　　右同断
田壱反三畝歩　　苗代跡ニ引
堤外
畑壱町壱反弐畝五歩　　酉年永不納成ル
畑五反弐畝拾九歩　　当川欠ニ成ル
田六畝弐拾九歩　　酉年堤下成ル
田五拾町七反五畝弐拾八歩
　取米四百九拾弐石三斗六升六合　反ニ九斗七升取
田壱町弐反八畝三歩　　村東
　取米拾石七斗六升　　反ニ八斗四升取
畑六町七反四畝拾九歩
堤外　取米三拾五石七斗五升六合　反ニ五斗三升取
田壱町三反九畝弐拾歩
　取米八石三斗八升　　反ニ六斗取
同
畑八町壱畝弐拾四歩
　取米弐拾四石五升四合　　反ニ三斗取

一米弐石　　堤内薮方
一米壱石五斗　　堤外薮方
七口米合五百七拾四石八斗壱升六合
　此欠口米弐拾八石七斗四升八合　但壱石ニ付口米三升
　　欠米弐升
二口米合六百三石五斗六升四合

右之通被仰付候条、守其意、霜月晦日を切て無油断、急度皆済可仕者也

明暦三年
酉十月廿五日

脇屋金左衛門
武井伊兵衛㊞

直江村
庄屋・百姓中

免定

一高千六拾九石六斗弐升八合　直江村

此田畑七拾五町九反六畝拾壱歩　内弐反七セ廿九歩丑年改出シ

内

田四反五歩　神田ニ引
畑壱反八畝拾三歩　西光寺屋敷ニ引
田畑五町六反四畝拾五歩　永不納ニ成ル
堤外 田畑三町弐反八畝廿三歩　右同断
同 畑七反三歩　丑年永不納ニ成ル
屋敷畑壱反七畝廿歩　右同断
堤外 田八畝弐拾七歩　右同断
村東 田弐畝廿三歩　右同断
同 田壱反歩　当不納ニ成ル
田壱反壱畝歩　追苗之跡ニ引

田五拾町七反七畝弐拾八歩　内八分ハ土取跡とら年より永不納
取米四百六石弐斗三升五合　反ニ八升取
田壱町壱反五畝拾歩　村東
取米八石三斗四合　反ニ七斗弐升取
畑六町弐反六セ廿九歩　反ニ六斗五升取
取米四拾石七斗五升三合　野わり
畑三反歩　反ニ弐斗五升取
取米七斗五升
堤外 田壱町壱反八畝九歩　反ニ七斗八升取
取米九石弐斗弐升七合
同 畑五町五反五畝拾六歩　反ニ三斗弐升取
取米拾七石七斗七升七合
六口米合四百八拾三石四升六合　口米三升
此欠口米弐拾四石壱斗五升弐合　但壱石ニ付欠米弐升
二口米合五百七石壱斗九升八合
右之通被仰付候条、守其意、霜月晦日を切て、無油断急度皆済可仕者也

寛文元年
丑十月廿五日

脇屋金左衛門㊞
武井伊兵衛㊞
竹田六之丞㊞

直江村
庄屋・百姓中

免定

一高千六拾九石六斗弐升八合　　直　江　村
此田畑七拾五町九反六セ拾壱歩
　内
田四反五歩　　神田引
畑壱反八畝拾三歩　　西光寺屋敷引
田畑拾町五反三セ拾壱歩　　永不納引
外畑壱反七セ三歩　　巳年川欠永不納
田弐反歩　　村ひかし仕付不作
田壱反弐畝拾五歩　　苗代跡引
　取米三百八拾石六斗七升五合　　反七斗五升取
田壱町拾歩　　村ひかし
　取米六石七斗弐升弐合　　反六斗七升取
畑六町弐反七セ六歩
　取米三拾壱石三斗六升　　反五斗取
外田壱町壱反壱畝弐拾壱歩
　取米九石四斗九升五合　　反八斗五升取
外田五町壱反九セ弐拾七歩
　取米弐拾石七斗九升六合　　反四斗取
一米壱石五斗　　堤外起方
七口米合四百五拾石五斗四升八合

此欠口米弐拾弐石五斗弐升八合　　但壱石ニ口米三升
二口米合四百七拾三石七升六合　　欠米弐升
右之通被　仰付候条、守其意、霜月晦日を切て、無油断急度皆
済可仕者也
　寛文五年
　巳十月廿五日　　脇屋　金左衛門㊞
　　竹内　六之丞㊞
　　武井　伊兵衛㊞
　直江村
　庄屋・百姓中

免　定

一高千六拾九石六斗弐升八合　　直　江　村
此田畑七拾五町九反六畝拾壱歩
　内
田四反五歩　　神田ニ引
畑壱反八セ拾三歩　　西光寺屋敷
田畑拾壱町壱反三セ拾三歩　　永不納
田弐畝弐拾壱歩　　未年堤敷地
田弐畝弐拾三歩　　永不納
田壱反弐セ拾五歩　　村東未年谷欠
　　永不納
　　追苗之跡
田八反分　　当水朽
内壱反五畝村東
田三拾六町五反五セ弐拾歩

取米弐百八拾五石壱斗四斗弐合　反七斗八升
田拾三町五反歩　四方五
取米六拾四石八斗　反四斗八升
田壱町四反拾九歩　村東
取米六石九斗六合　反六斗六升
外
田壱町五セ拾弐歩
取米七石五斗八升九合　反七斗弐升
畑五町六反七セ六分　屋敷
取米三拾四石三升弐合　反六斗取
畑六反歩　野割
取米弐石四斗　反四斗取
畑四町八反三セ弐拾四歩
取米弐拾六石六斗九合　反五斗五升
一米壱石五斗　提外起方
八口米合四百弐拾八石九斗七升八合
此欠口米弐拾壱石四斗四升九合　但壱石ニ付口米三升
二口米合四百五拾石四斗弐升七合　欠米弐升
右之通被仰付候条、守其意、霜月晦日を切テ、無油断急度皆済可仕者也

寛文七年
未十月廿日

竹内六之丞㊞
武井伊兵衛㊞
脇屋金左衛門㊞

直江村
庄屋・百姓中

免定

一高千六拾石六斗弐升八合　直江村
此田畑七拾五町九反六拾壱歩
内
田四反五歩　神田引
畑壱反八畝拾三歩　西光寺屋敷
田畑拾壱町壱反八畝拾七歩　永不納
田六歩　酉年堤敷地ニ成
外
田三反四畝歩　当水朽
田三反五畝六歩　村東同断
田七反五畝拾九歩　右門五同断
田七町七反五畝歩　当水朽
田弐拾九町六反弐畝弐拾九歩
取米弐百四拾弐石九斗六升四合　反八斗弐升
田拾弐町七反四畝拾壱歩　衛五
取米八拾四石壱斗九合　反六斗六升
田七反九畝拾三歩　村ひかし
取米三石九斗七升弐合　反五斗
外
田七反壱畝拾弐歩

取米五石壱斗四升壱合　　反七斗弐升
畑五町六反七畝六歩
取米三拾四石三升弐合　　反六斗
畑六反歩　　野割
取米壱石八斗　　反三斗
外畑四町八反三畝弐拾四歩
取米弐拾四石壱斗九升　　反五斗
一田壱町弐反弐畝弐拾壱歩　　起方当水朽
一米弐石　　堤外発方
八口米合三百九拾八石弐斗八合
此欠口米拾九石九斗壱升　但壱石ニ付口米三升
欠米弐升
二口米合四百拾八石壱斗壱升八合
右之通被　仰付候之条、守其意、霜月晦日を切て、無油断急度
皆済可仕者也
寛文九年
酉壬十月十五日　　武井伊兵衛㊞
脇屋金左衛門㊞
直江村
庄屋・百姓中

免定

一高千六拾九石六斗弐升八合　　直江村
此田畑七拾五町九反六セ拾壱歩

内
田四反五歩　　神田引
畑壱反八セ拾三歩　　西光寺屋敷
田畑拾壱町弐反壱セ廿八歩　　永不納
田八畝四歩　　村東当不納
田三拾七町三反七畝弐拾九歩
取米三百弐石七斗七升六合　　反八斗壱升取
田拾三町五反歩　　衛門五
取米八拾六石四斗　　反六斗四升取
田壱町六セ拾五歩　　村ひかし
取米五石三斗弐升五合　　反五斗取
外田壱町五セ拾弐歩
取米九石四斗八升六合　　反九斗取
畑六町弐反七畝六歩　　屋敷
取米三拾七石六斗三升二合　　反六斗取
外畑四町八反拾九歩
取米拾六石八斗弐升弐合　　反三斗五升取
一田壱町弐反弐セ弐拾壱歩　　起　方
取米五石弐斗弐升弐合　　反四斗五升取
一米弐拾石　　堤外起方
八口米合四百八拾三石六斗六升三合
此欠口米弐拾四石壱斗八升三合

但壱石ニ付口米三升
欠米弐升

二口米合五百七石八斗四升六合

右之通被仰付候条、守其意、無油断霜月晦日切ニ、急度皆済可仕者也

寛文十一年
亥十月廿五日　　武井伊兵衛㊞
　　脇屋金左衛門㊞
直江村
庄屋・百姓中

免定

一高千六拾九石六斗弐升□□(八合)　　直江村

此田畑七拾五町九反六畝拾□□(壱歩)

内

田四反五歩　　神田引
畑壱反八畝拾三歩　　西光寺屋敷
田畑拾壱町四反三畝弐拾弐歩　　永不納
田拾八町八反七畝弐拾七□　　当水朽
田五反七畝拾六歩　内壱反三歩野わり元畑　　村ひかし同断
田三畝四歩　　堤外同断
田三拾弐町五畝弐拾弐歩
取米弐百六拾九石弐斗八升弐合　反八斗四升
田壱町七畝拾六歩　　村東
取米八石六升五合　　反七斗五升
外田壱町弐畝八歩
取米八石三斗八升六合　　反八斗弐升
畑五町壱反壱セ八歩
取米弐拾八石壱斗弐升　　反五斗五升
畑三反八畝壱歩　　野割
取米七斗六升壱合　　反弐斗取
外畑四町八反拾九歩
取米拾九石弐斗弐升六合　　反四斗取
一畑四町九反三畝壱歩　　堤外起方
取米拾弐石三斗弐升六合　　反弐斗六升
一田壱町弐反弐畝弐拾壱歩　　起方水朽
七口米合三百四拾六石壱斗六升六合
此欠口米拾七石三斗九合　　但壱石ニ口米三升欠米弐升
二口米合三百六拾三石四斗七升五合

右之通被仰付候条、守其意、無油断霜月晦日切、急度皆済可仕者也

延宝三年
卯之十月廿五日　　武井伊兵衛㊞
　　鈴木新八㊞
直江村
庄屋百姓中

未御年貢可納割付之事

一高千七拾九石三斗六升壱合　濃州多藝郡　直　江　村
三百四拾弐石九斗壱升七合　前々地不足
弐斗六升　前々郷蔵敷引
七石八斗三升五合　前々神田寺屋敷引
弐石壱斗三升壱合　前々堤敷引
拾九石九斗七升　前々江堀敷引
内拾三石六斗六升五合　前々堤土取跡引
拾弐石六斗八升　前々川欠引
百拾六石九斗壱升壱合　前々川欠池成石砂入引
外弐石八斗弐升　当未起返
四拾六石六斗七合　当未畑方水損引
弐百四拾六石三斗六升五合　当未田方水損皆無引
残弐百七拾石弐升
此取米六拾九石三斗八升七合　高免六分四厘三毛内
毛付免弐ツ五分七厘内
此訳
百六拾九石八斗五升　田　方
此取米五拾四石四斗四升三合　免三ツ弐分五毛余
寅酉子丑
三拾五石三斗七升弐合　砂田畑起返

○栗笠　高橋嘉幸氏所蔵

此取米四石九斗八升七合　免壱ツ四分壱厘
三石七斗八升六合　子林成起返
此取米壱斗四合　免弐分七厘四毛
拾石三斗五升七合　寅砂畑成起返
此取米壱石三斗四升六合　免壱ツ三分
拾石弐斗六合　卯砂畑成起返
此取米五斗壱升　免五分
拾五石三升壱合　畑　方
此取米四石四斗弐合　免弐ツ九分三厘内
拾四石三斗八升弐合　林砂畑起返
此取米弐石壱升三合　免壱ツ四分
六石九斗三升九合　寅起返畑
此取米壱石三斗弐升四合　免壱ツ九分八毛余
五斗九升　寅砂田起返
此取米八升三合　免壱ツ四分
三石五斗七合　卯砂畑起返
此取米壱斗七升五合　免五分
外　堤外川並
一野畑四町四反六畝壱歩　見　取
内　壱反四畝弐拾九歩　前々川欠引
四町三反壱畝弐歩　当未水損皆無引
残　なし

取米なし

一畑拾三歩
　此取米壱合

一田四反拾三歩
　此取米壱斗壱合

一米弐石四斗九升三合
掛高八百三拾弐石九斗九升六合
一米五斗
懸高弐百四拾六石三斗六升五合
外米壱斗四升八合
掛高四百七拾九石三斗六升壱合
一米九斗五升九合
掛高右同断
一金壱両永百九拾八文四分

　納合　米七拾三石四斗四升壱合
　　金壱両永百九拾八文四分

右之通当未御成箇相極之間、村中大小之百姓共出作之者迄不残立会、無高下致割合、来ル極月廿日限急度可皆済者也

天明七未年十一月

菅原五右衛門㊞
關　斧九郎㊞
小林八右衛門㊞
小原二兵衛㊞

右村
庄屋
年寄
惣百姓

子改
同　断

子改
但壱反ニ付弐升五合取
同　断
但壱反ニ付弐升五合取

山　年　貢
御伝馬宿入用
田高水損之分御免除
六　尺　給
御蔵前入用

卯御年貢可納割付之事

一高千八拾七石九斗五合
　三百四拾弐石九斗壱升七合
　弐斗六升
　七石八斗三升五合
内弐石壱斗三升壱合
　拾九石九斗七升
　百八拾五石五斗五升七合八勺
□拾石八斗弐升九合
　四拾三石六斗六升五合
残四百八拾五石五斗六升九合弐勺
此取米百拾四石七斗七升弐合
　此訳
三百七拾壱石四斗五合四勺　田　方
此取米八拾六石七斗六升五合
五石四升五合
　此取米壱石九合
拾弐石三斗三升三合
　此取米壱石七斗五升壱合
拾六石九斗六升九合

濃州多藝郡
直江村

前々地不足
前々郷蔵敷引
前々神田寺屋敷引
前々堤敷引
前々江堀敷引
前々川欠池成石砂入引
当卯起返
当卯水損皆無引

高免壱ツ五厘五毛内
毛付免弐ツ三分六厘四毛内

免弐ツ三分三厘六毛余
砂田畑林成起返
未畑成

免弐ツ
右同断
未林成

免壱ツ四分弐厘
藪林砂田畑起返
未田戻

此取米弐石八斗八升五合　　免壱ツ七分
壱石四斗九升七合　　戌起返 未 藪 林 成
此取米弐斗壱升三合　　免壱ツ四分五厘
七拾石四斗弐升五合八勺　　畑　方
此取米弐拾石六斗三升三合　　免弐ツ九分三厘内 子戌寅 砂 畑 起 返
七石七斗七升八合　　免壱ツ九分四厘
此取米壱石五斗九合
壱斗壱升六合　　戌藪林起返
此取米七合　　免六分
一高三石弐斗九升六合　　皆畠 酉高入 同 新 田
此取米六斗八升　　免弐ツ六厘三毛余
取米合百拾五石四斗五升弐合

外

一野畑四町四反六畝壱歩　　堤外川並 見 取
内壱反四畝廿九歩　　前々川欠引
残四町三反壱畝弐歩
此取米弐石八斗八升八合　　但壱反ニ付六升七合取
一畑拾三歩　　子改 同 断
此取米壱合　　但壱反ニ付弐升五合取
一米弐石四斗九升三合　　山年貢
掛高千九拾壱石弐斗壱合
一米六斗五升五合　　御伝馬宿入用

掛高四百九拾壱石弐斗壱合
一米九斗八升三合　　六　尺　給
掛高右同断
一金壱両永弐百弐拾八文　　御蔵前入用
納合　米百弐拾弐石四斗七升弐合
金壱両　永弐百弐拾八文

右之通当御御成箇相極之間、村中大小之百姓并出作之者迄不残立会、無高下致割合、来ル極月廿日限急度可皆済者也

文政二卯年十一月

小林平次左衛門㊞
津田作左衛門㊞
宮崎次郎兵衛㊞
戸田五郎左衛門㊞

右村 庄屋 年寄 惣百姓

付　直江村取箇書上

〇直江区有

乍恐以書付奉申上候

一米百三拾弐石三斗四升三合　　明和元申年御取箇 見取米
外米弐石七斗六升四合
一米三拾五石六斗五升　　明和二酉年御取箇 見取米
外米八斗八升弐合

一米百拾九石八斗弐升弐合　外米弐石七斗六升四合　明和三戌年御取箇　見取米
一米百弐拾七石壱斗四升六合　外米外米弐石七斗六升四合　明和四亥年御取箇　見取米
一米弐拾六石弐斗五升四合　外米外弐石七斗六升四合　明和五子年御取箇　見取米

〆
一米　安永元辰年御取箇　御免定紛失仕無御座候ニ付御断申上候、右相知不申候ニ付御断奉申上候

一米四石六斗八升八合　安永二巳年御取箇　水損ニ付見取米無御座候
一米百三拾石九斗壱升壱合　外弐石九斗壱升七合　安永三午年御取箇　見取図
一米百五拾三石三斗五升壱合　外米弐石九斗壱升七合　安永四未年御取箇　見取図
一米百四拾弐石八斗六升弐合　外米壱石七斗五升壱合　安永五申年御取箇　見取図

〆　弐石四斗九升三合　山年貢

右は明和元申より子年迄五ヶ年、安永元辰年より申年迄五ヶ年、都合拾ヶ年之御取箇書出し可申上候様被仰渡、承知奉畏候書面之通ニ御座候間、乍恐以書付奉申上候、已上

天保十四卯年三月　直江村庄屋　休　三　郎

大垣御預御役所

七四　根古地村免定

根古地　○本場　松永　明氏所蔵

免　定　根古地村

一高三百五拾八石弐斗弐升　此田畑四拾六町三反壱畝八歩

内

田壱反壱畝拾七歩　神田引
畑五畝弐拾五歩　右同断
田壱畝壱拾七歩　右九月洪水ニ付永不納ニ成ル
田参畝壱歩　右同断永不納ニ成ル
畑壱畝拾歩　右同断永不納ニ成ル
畑弐拾五歩　右同断当不納ニ成ル
畑七畝弐拾六歩　当不納ニ成ル
是ハ大場ニ戌年ニ田成ニなし
田弐町七反歩　当水朽ニ成
田三拾町六反八畝四歩　反ニ付六斗九升取
取米弐百拾壱石七斗壱合　同所新田
一高拾八石　此畑七町四反七畝拾四歩

内

畑壱反六畝拾弐歩　神田引
畑四町七反四畝拾六歩　当水損引
畑弐町五畝弐拾六歩　屋敷方
取米六石壱斗七升六合
畑五反弐拾歩　堤外
取米壱石五斗弐升　反ニ付三斗取
一高三百拾八石九合　同所草場
取米三石
一田壱町八反九畝五歩　同所渡鳥屋草埋田
是ハ当水損ニ成
一田五町九反九畝拾六歩　同所河内屋新田之内
是ハ当水損ニ成
五口米合弐百七拾弐石七斗八升
此欠口米拾三石六斗三升九合　口米三升
二口米合弐百八拾六石四斗壱升九合　欠米弐升
右之通被仰付之条、守其意、霜月晦日を切て、無油断急度皆済可仕者也

慶安四年卯十月廿七日　　脇屋金左衛門
武井伊兵衛

根古地村
庄屋・百姓中

免定　　根古地村

一高三百拾八石弐斗弐升
此田畑四拾六町三反壱畝八歩

内

田壱反壱畝拾七歩　神田引
田壱畝廿三歩　永不納ニ成
畑七畝五歩　右同断
田六畝歩　苗代ニ成ル
田三拾三町四反三畝壱歩　反ニ付八斗七升取
此米弐百九拾石八斗四升四合
畑拾弐町六反壱畝廿弐歩　反ニ付五斗取
取米六拾参石八升七合
一田壱町八反九畝五歩　同所埋田
取米拾四石七斗五升五合　反ニ付七斗八升取
一高拾八石　根古地村本田
此畑七町四反七畝拾四歩

内

畑壱反六畝拾弐歩　神田引
畑六町八反拾弐歩　反ニ付五斗五升取
取米三拾七石四斗弐升弐合
堤外
畑五反弐拾歩

取米壱石壱斗参合　　反ニ付弐斗取
一高三百拾八石九合　　同所草場
是ハ河田屋新田ゑ入取野米不出
五口米合四反七石壱斗壱升壱合
此欠口米弐拾石参斗五升六合　但壱反ニ付口米三升
欠米二升
右之通被仰付候条、守其意、霜月晦日迄切て、無油断急度皆済
可仕者也
明暦元年未十月廿五日　　脇屋　金左衛門
武井伊兵衛
根古地村
庄屋・百姓中

免定　　根古地村

一高三百五拾八石弐斗弐升
此田畑四拾六町三反壱畝八歩
内
田壱反壱畝拾七歩　　神田ニ引
田八畝弐拾八歩　　永不納ニ成ル
田三拾三町四反九畝壱歩　　当水損ニ成ル
畑拾弐町六反壱畝弐拾弐歩
取米七石五斗七升　　反ニ付六升取

田壱町八反九畝五歩　　埋田当水損ニ成ル
一高百拾八石　　同所本田
此田畑七町四反七畝拾四歩
内
畑壱反六畝拾弐歩　　神田ニ引
畑弐反壱畝拾七歩　　寺屋敷渡ス
畑六町五反八畝弐拾五歩
取米三石九斗五升三合　　反ニ付六升取
堤外畑五反弐拾歩
取米三斗四升　　反ニ付六升取
二口米合拾壱石八斗弐升七合
此欠口米五斗九升壱合　但壱石ニ付口米三升
二口米合拾弐石四斗壱升八合　　欠米二升
一高三百拾八石九合　　同所草場
是ハ河田屋新田ゑ入
右之通被仰付候条、守其意、霜月晦日ヲ切て、無油断急度皆済
可仕者也
万治弐年　　武内六之丞
亥十月廿一日　　武井伊兵衛
脇屋　金左衛門
根古地村
庄屋・百姓中

七五　根古地新田免定

○不破郡関ヶ原町　不破幹雄氏所蔵

免　定

一田畑百拾五町八畝弐拾四歩　河内屋新田

内

田四反壱畝四歩　永不納ニ成ル

田畑百拾四町六反七畝弐拾歩（残テ）

内

田畑壱町壱反三畝拾五歩　庄屋給ニ引

田五反歩　神田ニ引

田弐町五反歩　傳兵衛分仕付不作ニ引

田拾町歩　（仕付不作巳ノ年堤切先かりこみひへ共ニ引）

田拾七町八反弐畝弐拾三歩　坪見

取米七拾九石弐斗六合

田六拾壱町四反五畝三歩　傳兵衛分

内　弐町七反四畝廿三歩　反ニ弐斗七升取

取稗百六拾五石九斗一升八合

畑拾九町五反壱畝六歩

外ニ壱町七反五畝三歩　傳兵衛分

取米四拾弐石五斗弐升六合　反ニ弐斗取

二口米合百弐拾壱石七斗三升弐合　但壱石ニ付口米三升

此欠口米六石八升七合　欠米弐升

二口米合百弐拾七石八斗壱升九合

稗百六拾五石九斗壱升八合

此欠口稗八石弐斗九升六合　但壱石ニ五升宛

二口稗合百七拾四石弐斗壱升四合

右之通被　仰付候条、守其意、霜月晦日を切て、無油断急度皆済可仕者也

承応弐年巳ノ十月十五日　武井伊兵衛㊞

脇屋金左右衛門㊞

河内屋新田庄屋・百姓中

免　定

一田畑百拾五町八畝弐拾四歩　根古地新田

内

田四反壱畝四歩　永不納ニ成ル

田畑壱町壱反三畝拾五歩　庄屋給ニ引

田五反歩　神田ニ引

田九反壱畝六歩　永不納ニ成ル

田三町歩　（上り地当水朽ニ成ル但傳兵衛分）

田畑百四町四反四畝拾壱歩
取米四百拾七石七斗七升五合　反ニ四斗取
田弐町九反九畝拾五歩　傳兵衛分
取米拾弐石弐斗八升　反ニ四斗壱升取
畑壱町六反九畝三歩　右同断
取米六石七斗六升四合　反ニ四斗取
三口米合四百三拾六石八斗壱升九合
此欠口米弐拾壱石八斗四升壱合　但　壱石ニ付　口米三升
二口米合四百五拾八石六斗六升　欠米弐升
右之通被　仰付候条、守其意、霜月晦日を切て、無油断急度皆
済可仕者也
明暦元年未十月廿五日　脇屋　金左衛門㊞
武井伊兵衛㊞
根古地新田
庄屋・百姓中

免　定
一田畑百拾五町八畝弐拾四歩　河内屋新田
内
田四反壱畝四歩　永不納ニ成ル
田畑壱町壱反三畝拾五歩　庄屋給ニ引
田五反歩　神田ニ引

田九反壱畝六歩　永不納ニ成ル
田畑百四町四反四畝拾壱歩
取米四百拾七石七斗七升五合　反ニ四斗取
田五町九反九畝拾五歩　上り地　傳兵衛分
取米三拾壱石七斗七升四合　反ニ五斗三升取
畑壱町六反九畝三歩　右同断
取米八石四斗五升五合　反ニ五斗取
三口米合四百五拾八石四合
此欠口米弐拾弐石九斗　但　壱石ニ付　口米三升
二口米合四百八拾石九斗四合　欠米弐升
右之通被　仰付候条、守其意、霜月晦日を切て、無油断急度皆
済可仕者也
明暦弐年申十月廿一日　脇屋　金左衛門㊞
武井伊兵衛㊞
河内屋新田
庄屋・百姓中

免　定
一田畑百拾五町八畝廿四歩　根古地新田
内
田壱町三反弐畝拾歩　永不納ニ成ル
田畑壱町壱反三畝拾五歩　庄屋給ニ引

田五反歩
田弐反九畝七歩
　内　壱畝歩
田百四町壱反六畝四歩
　取米四百六斗四升五合
田五町九反八畝拾五歩
　取米弐拾八石七斗弐升八合
畑壱町六反九畝三歩
　取米八石四斗五升五合
三口米合四百五拾三石八斗弐升八合
　此欠口米廿弐石六斗九升一合
二口米合四百七拾六石五斗壱升九合
右之通被　仰付候条、守其意、霜月晦日を切て、無油断急度皆済可仕者也
明暦参年酉十月廿五日
根古地新田庄屋・百姓中
脇屋　金左衛門㊞
武井伊兵衛㊞

神田引
酉之年江堀ニ成ル
上り地
反四斗取
上り地　傳兵衛
反四斗八升取
右同断
反五斗取
但　壱石ニ付　口米三升
欠米弐升

免定
一田畑百拾五町八畝弐拾四歩
内

根古地新田

田壱町六反壱畝拾七歩
　内　壱七歩ハ上り地
田壱町壱反三畝拾五歩
田五反歩
田八拾四町六反六畝弐拾弐歩
畑拾九町四反九畝拾弐歩
　取米五拾四石五斗八升二合
田五町九反八畝拾五歩
畑壱町六反九畝三歩
　取米四石七斗三升五合
二口米合五拾九石三斗壱升八合
　此欠口米弐石九斗六升六合
二口米合六拾弐石弐斗八升四合
右之通被　仰付候条、守其意、極月廿日を切て、無油断急度皆済可仕者也
明暦四年戌霜月十五日
根古地新田庄屋・百姓中
脇屋　金左衛門㊞
竹内六之丞㊞
武井伊兵衛㊞

永不納ニ成ル
庄屋給ニ引
神田ニ引
当永朽ニ成ル
反ニ弐斗八升取
（傳兵衛分当永朽ニ成ル
右同断
反ニ弐斗八升取
但　壱石ニ付　口米三升
欠米弐升

免定

一田畑百拾五町八セ弐拾四歩　根古地新田

内

田壱町六反壱セ拾七歩　永不納ニ成ル
田壱町壱反三セ拾五歩　庄屋給ニ引
田五反歩　神田ニ引
田八拾四町六反六セ廿弐歩　当不朽ニ成ル
畑拾九町四反九セ拾二歩　反ニ六升取
取米拾壱石六斗九升六合　（傳兵衛分　当水朽ニ成ル
田五町九反八畝拾五歩　反ニ六升取
畑壱町六反九セ三歩
取米壱石一升五合
二口米合拾弐石七斗一升壱合　但　壱石ニ付　口米三升
此欠口米六斗三升六合　欠米弐升
二口米合拾三石三斗四升七合

右之通被　仰付候条、守其意、霜月晦日を切て、無油断急度皆済可仕者也

万治弐年亥十月廿一日

庄屋・百姓中　根古地新田

脇屋　金左衛門㊞
武井伊兵衛㊞
竹内六之丞㊞

免定

一田畑百拾五町八畝弐拾四歩　根古地新田村

内

田壱町六反壱セ拾七歩　永不納ニ成ル
田壱町壱反三セ拾五歩　庄屋給ニ引
田五反歩　神田ニ引
田四拾三町八反三畝歩　当水朽ニ取ル
内　八反三セ歩元納
田三町壱反五畝歩　傳兵衛分　右同断
田四拾壱町六反六セ廿弐歩　反ニ六斗取
取米弐百五拾石四合
畑拾八町六反六セ拾弐歩　反ニ三斗取
取米五拾五石九斗九升弐合　傳兵衛分
田弐町八反三畝拾五歩　反ニ六斗取
取米拾七石壱升　右同断
畑壱町六反九セ三歩　反ニ三斗取
取米五石七升三合
四口米合三百弐拾八石七升九合　但　壱石ニ付　口米三升
此欠口米拾六石四斗四合　欠米弐升
二口米合三百四拾四石四斗八升三合

右之通被　仰付候条、守其意、霜月晦日を切て、無油断急度皆

済可仕者也
万治三年子霜月三日　　武井伊兵衛㊞
　　脇屋金左衛門㊞
　　竹内六之丞㊞
根古地新田
庄屋・百姓中

免定

一田畑百拾五町八畝弐拾四歩
　内
田壱町六反三畝拾五歩　　根古地新田
田畑八町四反拾九歩　　神田・庄屋給
田壱町八反七畝六歩　　永不納
田拾弐町五反拾九歩　　丑年改永不納
田六拾三町五反六畝拾八歩　　当日損引
　取米五百八拾四石八斗七合
田六町歩　　反九斗弐升
　取米四拾六石八斗　　堀田
田壱町三反四畝三歩　　反七斗八升
　取米拾石九斗九升六合　　砂田
畑拾九町七反六畝四歩　　反八斗弐升
　取米九拾六石八斗三升壱合　　反四斗九升
四口米合七百三拾九石四斗三升四合　但壱石ニ口米三合
二口米合七百七拾六石四斗六合　欠米弐升
右之通被仰付候条、守其意、来ル霜月晦日限、無油断急度皆
済可仕者也
貞享二年丑十月廿五日　　根岸傳内㊞
　　鈴木新八㊞
根古地新田
庄屋百姓中

免定

一田畑百拾五町八畝廿四歩
　内
田壱町六反三畝拾五歩　　根古地新田
田畑拾町弐反七畝廿五歩　　神田・庄屋給
田六畝拾三歩　　永不納
田三拾壱町七反五畝歩　　大場前堀田堤敷地
田三拾九町七反七歩　　成永不納
　取米三百三拾七石四斗七升　　当水朽
田六町壱反三畝三歩　　反ニ八斗五升
　取米弐拾石八斗四升五合　　前池堀田
田四町四反弐畝拾四歩　　反ニ三斗四升
　取米九石弐斗九升弐合　　大場前堀田
　　反ニ弐斗壱升

田壱町三反四畝三歩　砂田
取米三石三斗五升三合　反ニ弐斗五升
畑拾九町七反六畝四歩
取米百石七斗八升三合　反五斗壱升
五口米合四百七拾壱石七斗四升三合
此欠口米弐拾三石五斗八升七合
二口米合四百九拾五石三斗三升
右之通被　仰付候之条、守其意、来ル霜月晦日限、無油断急度皆済可仕者也

貞享三丙寅年十月廿五日　根岸傳内㊞
根古地新田　鈴木新八
庄屋・百姓中

〇瑞穂　後藤有康氏所蔵

濃州多藝郡根古地新田午御成ヶ割付之事

一高六百三拾弐石八斗七升壱合　高辻
外
弐百石　大場村より入
三百拾八石九合　根古地村より入
合千百五拾石八斗八升　五石
三百拾九石七斗五升七合　前々永引
内
七拾弐石七斗八合　子辰砂入
拾三石三斗六升三合　当午堤土取跡
残七百四拾石四升弐合　有高
此取弐百七拾三石八斗壱升六合　三ッ七分
外
一銀七匁　池運上
一銀八匁　鳥札運上
合
銀拾五匁
米弐百七拾三石八斗壱升六合

右之通当午御取ヶ相究上は、村中惣百姓并出作之者迄不残立会無相違割合、極月廿日以前急度可皆済者也

正徳四年午十一月　辻六郎左衛門㊞
根古地新田
庄屋
百姓

〇不破郡関ヶ原町　不破幹雄氏所蔵

覚

一高千百五拾石八斗八升　多藝郡根古地新田

此取米弐百三石五斗壱升四合

内

米六拾七石八斗三升八合　三分一金納
此金六拾七両弐分　永弐百弐拾文弐分　但　金壱両ニ付、壱石壱合七勺四才かへ
米百三拾五石六斗七升六合　三分二惣米金納
此金七拾壱両壱分　永百五拾八文四分　但　金壱両ニ付　壱石九斗かへ

外

一米六石壱斗六合　口　米
此金六両弐分　永百拾八文八分　但　金壱両ニ付、九斗弐升弐合五勺三才かへ
一金弐両三分　永百弐拾七文弐分　御蔵前入用　鳥札池　運上
一金壱分　口　永
一永七文五分　六尺給米
一米弐石三斗弐合　御傳馬宿入用
一米六斗九升　夫食返納
一米三石五斗四升　去ル卯より拾ヶ年賦　返納之内去巳年分如此
内　壱石五斗四升　去ル辰より五ヶ年賦
弐石
合
米六石五斗三升弐合
金百四拾八両三分　永百三拾弐文壱分
此納次第
米三石四升　午春役御扶持方
米三石四斗九升弐合　御廻米
金百四拾八両三分　永百三拾弐文壱分　金　納

米六石五斗三升弐合
払合　金百四拾八両三分　永百三拾弐文壱分
外　銀七匁四分四厘　包歩銀
此永百弐拾四文壱分

右は去巳御年貢米金・小物成・高掛り物共納払、御請取手形を以、皆済御勘定仕上ヶ申候、若相違之儀も御座候ハヽ、仕直差上可申候、以上

根古地新田庄屋
武兵衛㊞
年寄
覺右衛門㊞
百姓代
治太郎㊞

笠松
御役所

（裏書）
「表書之去巳御年貢米金納払皆済相違無之候、重て手形出候共可為反古者也
午五月　（瀧川貞寧）瀧小右衛門㊞」

七六　横屋村免定

〇田　古川　茂氏所蔵

免　定

一高弐百八拾八石六斗弐升七合　横　屋　村

取米七斗三升
此欠口米三升七合　但壱石ニ付口米三升
二口米合七斗六升七合　欠米弐升

右之通被　仰付候条、守其意、霜月晦日を切て、無油断急度皆済可仕者也

万治三年
子霜月三日

武井伊兵衛㊞
竹内六之丞㊞
脇屋金左衛門㊞

横屋村
庄屋百姓中

七七　横屋新田免定

○田　古川　茂氏所蔵

免　定

一田畑弐拾六町六反八畝弐拾弐歩　横屋新田村

内
田畑弐反六畝拾弐歩　庄屋給ニ引
田壱反歩　神田ニ引

田壱町壱反三セ拾三歩　津屋村へ替地
田弐拾四町六反六畝拾五歩　当水口ニ成ル
畑五反弐畝拾弐歩

取米三斗一升四合　反ニ六升取
此欠口米壱升六合　但壱石ニ付口米三升
二口米合三斗三升　欠米弐升

右之通被　仰付候条、守其意、霜月晦日を切候て、無油断急度皆済可仕者也

万治三年
子霜月三日

竹田六之丞㊞
脇屋金左衛門㊞
武井伊兵衛㊞

横屋新田
庄屋・百姓中

七八　下笠村免定

○下笠　小野善四郎氏所蔵

卯之年免定

一高三百八拾九石五斗五升　下笠村
内五石四斗四合　当検見無取
残高三百八拾四石壱斗四升六合　高四ツ五分弐厘六毛
取米百七拾六石三斗弐升四合　残高四ツ五分九厘

内八石弐斗五升ハ麦拾六石五斗ニて納
一高千弐百九拾四石壱斗三升弐合　同所新田
内三百拾三石六斗壱升四合　当検見無取
残高九百八拾石五斗壱升八合
取米五百五拾壱石五升弐合　高ニ四ツ弐分五厘八毛余
残高ニ五ツ六分弐厘
内壱石ハ　麦弐石ニて納　見取米
一米弐拾九石七斗六合
取米合七百五拾七石八升弐合
右是は、当卯之年御免相如斯相究候間、庄屋百姓中不残立合、以来申分無之様ニ無高下令割符、来ル霜月中ニ急度皆済可仕者也

寛文三年
卯之十一月　磯谷與右衛門㊞

下笠村庄屋・百姓中

未之年免定

一高三百八拾九石五斗五升　下笠村
内弐百三拾弐石四斗三升四合　当検見取なり
残高百五拾七石壱斗壱升六合
取米拾九石四斗八升三合　高五分余
残高壱ツ弐分四厘

内八石弐斗五升　麦拾六石五斗ニて納
一高千弐百九拾四石壱斗三升弐合　同所新田
内千弐百三拾五石三斗五升弐合　当水損無取
残高五拾八石七斗八升
取米拾三石八斗七升三合　高壱分七毛余
残高弐ツ三分六厘
内壱石　麦弐石ニて納　同所申見取
一米三石七斗九升五合
田畑拾弐町五反四歩
内　当水損取なり
田方拾町壱畝五歩　畑方
米三石四斗八升九合
米三斗六合　屋野
一田畑壱町八反七畝拾八歩　同所戌見取
是ハ当水損無取
一田壱町七反壱畝弐拾弐歩　同所午見取
内四畝九分は堤内
右同断
米合三拾七石壱斗五升壱合
右是は当未之年御免相如此相究、検見畝引小帳相添遣候間、庄屋・組頭・小百姓中不残立合、以来申分無之様無高下致割符、極月廿日以前急度可令皆納者也

元禄四年未十一月　金村彌助㊞

多蘖郡下笠村庄屋与頭
小百姓中

申年免定

一高三百八拾九石五斗五升　多蘖郡　下笠村
内　弐升七合　前々引
百五拾五石三升九合　当検見無取
残高弐百三拾四石四斗八升四合　高三ツ三分七厘六毛
取米百三拾壱石五斗四升六合　残高五ツ六分壱厘
内拾三石弐斗五升　麦弐拾六石五斗ニて納
一高千弐百九拾四石壱斗三升弐合　同所新田
四拾七石六斗九升六合　証文引
内　拾弐石弐斗弐升九合　前々引
拾弐石弐斗四升六合　年数引
千百五拾五石弐斗六合　当検見無取
残高六拾六石七斗五升五合　高壱厘五毛
取米弐石三合　残高三分取
内壱石九斗八升六合　麦三石九斗七升弐合ニて納
一高百三拾八石九斗六升六合　同所未新田
内百拾三石弐斗三升　当検見無取
残高弐拾五石七斗三升六合　高八分弐厘九毛
取米拾壱石五斗三升　残高四ツ四分五厘
内八升四合　麦壱斗六升八合ニて納
一反数五町七反六畝拾四歩　同所見取
内反数八反三畝廿壱歩　定引
残反数四町九反弐畝廿三歩
米弐斗六升壱合

（コノ間一紙分欠ク）

米壱斗七升六合
一原野八反歩　同所
米八升
米合百四拾五石四斗弐升
右は当申年其村御免相如此相究候間、庄屋・組頭・惣百姓不残立合、已来申分無之様ニ無高下致割符、来ル極月廿日以前急度可令皆済者也

元文五年申十一月　岡田傳七㊞
右村庄屋
組頭惣百姓

七九　白石村免定

○養老公園　村上辨二氏所蔵

免定

一高百六拾石五升　　白石村

此田畑拾九町弐反壱畝拾歩

内

畑四反三畝廿九歩　　神田引

田畑八反三畝拾三歩　　永不納成ル

田壱町五反六畝壱歩

取米拾三石四斗一升九合　　反八斗六升取

畑拾六町三反七畝弐拾七歩

取米七拾六石九斗八升壱合　　反四斗七升取

二口米合九拾石四斗　　但壱石ニ付口米三升

此欠口米四石五斗弐升　　欠米弐升

二口米合九拾四石九斗弐升

右之通被仰付候之条、守其意、霜月晦日を切て、急度皆済可仕者也

寛文四年
辰十月廿五日

武井伊兵衛㊞
竹内六之丞
脇屋金左衛門㊞

白石村
庄屋・百姓中

免定

一高百六拾石五升　　白石村

此田畑拾九町弐反壱畝拾歩

内

畑四反三畝弐拾九歩　　神田引

田畑八反三畝拾三歩　　永不納引

田壱町五反六畝一歩

取米拾三石四斗一升九合　　反八斗六升取

畑拾六町三反七畝弐拾七歩

取米七拾八石六斗一升九合　　反四斗八升取

二口米合九拾弐石三升八合　　但壱石ニ付口米三升

此欠口米四石六斗弐合　　欠米二升

二口米合九拾六石六斗四升

右之通被　仰付候条、守其意、霜月晦日を切て、無油断急度皆済可仕者也

寛文五年
巳十月廿五日

武井伊兵衛㊞
竹内六之丞㊞
脇屋金左衛門㊞

白石村
庄屋・百姓中

免定

一高百六拾石五升　　白石村

此田畑拾九町弐反壱畝拾歩

内

畑四反三畝廿九歩　神田ニ引
田畑八反三畝拾三歩　永不納引
田壱町弐反七畝拾壱歩
取米九石五斗五升三合　反七斗五升
畑拾六町六反六畝拾七歩
内弐反八畝弐拾歩　元田
取米六拾六石六斗六升三合　反四斗取
二口米合七拾六石弐斗壱升六合
此欠口米三石八斗一升壱合　但　壱石ニ口米三升　欠米弐升
二口米合八拾石弐升七合

右之通被仰付候之条、守其意、霜月晦日を切て、無油断急度皆済可仕者也

寛文六年
午十月廿五日

白石村
庄屋・百姓中

脇屋　金左衛門㊞
武井伊兵衛㊞
竹内六之丞㊞

免定

一高百六拾石五升　白石村
此田畑拾九町弐反壱畝拾歩

内

畑四反三畝弐拾九歩　神田引
田畑八反三畝拾三歩　永不納
田壱町弐反七畝十一歩
取米八石九斗一升六合　反七斗取
畑拾六町六反六畝十七歩
取米四拾四石九斗九升七合　反弐斗七升
二口米合五拾三石九斗一升三合
此欠口米弐石六斗九升六合　但　壱石口米三升　欠米弐升
二口米合五拾六石六斗九合

右之通被　仰付候条、守其意、霜月晦日を切て、無油断急度皆済可仕者也

寛文八年
申十月廿五日

白石村
庄屋・百姓中

武井伊兵衛㊞
脇屋　金左衛門㊞

免定

一高百六拾石五升　白石村
此田畑拾九町弐反壱畝拾歩

内

畑四反三畝弐畝九歩　神田引

田畑八反三畝拾三歩　永不納
田壱町弐反七畝拾壱歩
取米九石五斗五升三合　反七斗五升
畑拾六町六反六畝拾七歩
取米四拾八石三斗三升　反弐斗九升
二口米合五拾七石八斗八升三合
此欠口米弐石八斗九升四合　但　壱石＝付口米三升　欠米弐升
二口米合六拾石七斗七升七合
右之通被　仰付候之条、守其意、霜月晦日切ニ、無油断急度皆済可仕者也

寛文九年
酉閏十月十五日　白石村　庄屋・百姓中

脇屋　金左衛門㊞
武井伊兵衛㊞

免　定

一高百六拾石五升　白　石　村
此田畑拾九町弐反壱畝拾歩
内
畑四反三畝弐拾九歩　神田引
田畑八反三畝拾三歩　永不納
田壱町弐反七畝拾壱歩

取米九石壱斗七升壱合　反七斗弐升
畑拾六町六反六畝拾七歩
取米五拾四石九斗九升七合　反三斗三升
二口米合六拾四石壱斗六升八合
此欠口米三石弐斗八合　但　壱石＝付口米三升　欠米弐升
二口米合六拾七石三斗七升六合
右之通被　仰付候之条、守其意、霜月晦日切、無油断急度皆済可仕者也

寛文十年
戌十月廿五日　白石村　庄屋・百姓中

脇屋　金左衛門㊞
武井伊兵衛㊞

免　定

一高百六拾石五升　白　石　村
此田畑拾九町弐反壱畝拾歩
内
畑四反三畝廿九歩　神田引
田畑八反三畝拾三歩　永不納
田壱町弐反七畝拾壱歩　反七斗弐升
取米九石壱斗七升壱合
畑拾六町六反六畝拾七歩　反三斗取

取米四拾九石九斗九升七合
二口米合五拾九石壱斗六升八合
此欠口米弐石九斗五升八合　但　壱石欠米弐升
二口米合六拾弐石壱斗弐升六合　口米三升
右之通被　仰付候之条、守其意、無油断霜月晦日切、急度皆済
可仕候也
寛文拾一年
亥十月廿五日　武井伊兵衛㊞
脇屋金左衛門㊞
白石村
庄屋・百姓中

免定
一高百六拾石五升
此田畑拾九町弐反壱畝拾歩
内
畑四反三畝弐拾九歩　神田引
田畑八反三畝拾三歩　永不納
田壱町弐反七畝拾壱歩
取米九石壱斗七升　反七斗弐升
畑拾六町六反六畝拾七歩
取米五拾壱石六斗六升四合　反三斗壱升
二口米合六拾石八斗三升四合
此欠口米三石四升弐合　但　壱石ニ口米三升
二口米合六拾三石八斗七升六合　欠米弐升
右之通被　仰付候間、守其意、霜月晦日切、無油断急度皆済可
仕者也
寛文十二年
子之十月廿五日　武井伊兵衛㊞
脇屋金左衛門㊞
白石村
庄屋・百姓中

免定
一高百六拾石五升　白石村
此田畑拾九町弐反壱畝拾歩
内
畑四反三畝弐拾九歩　神田ニ引
田畑八反三畝拾三歩　永不納
田壱町弐反七畝拾壱歩
取米九石九斗三升五合　反七斗八升
畑拾六町六反六畝拾七歩
取米四拾九石九斗九升七合　反三斗取
二口米合五拾九石九斗三升弐合
此欠口米弐石九斗九升七合　但　壱石ニ口米三升
二口米合六拾弐石九斗弐升九合　欠米弐升

右之通被　仰付候条、守其意、霜月晦日切、無油断急度皆済可仕者也

延宝弐年
寅之十月廿五日

脇屋　金左衛門㊞
武井伊兵衛㊞
鈴木　新八㊞

白石村
庄屋・百姓中

免　定

一高百六拾石五升　　白石村

此田畑拾九町弐反壱畝拾歩

内

畑四反三畝弐拾九歩　神田ニ引
田畑八反三畝拾三歩　永不納
畑壱町九反弐畝歩　上り地当水朽
田壱町弐反七畝拾壱歩
取米八石九斗壱升六合　反七斗取
畑拾四町七反四畝拾七歩
取米弐拾九石四斗九升壱合　反弐斗取

二口米合三拾八石四斗七合
此欠口米壱石九斗弐升　但　壱石ニ口米三升欠米弐升
二口米合四拾石三斗弐升七合

右之通被　仰付候条、守其意、無油断霜月晦日切、急度皆済可仕者也

延宝三年
卯十月廿五日

武井伊兵衛㊞
鈴木　新八㊞

白石村
庄屋・百姓中

免　定

一高百六拾石五升

此田畑拾九町弐反壱畝拾歩

内

畑四反三畝弐拾九歩　神田引
田畑八反三畝拾三歩　永不納
畑壱町九反弐畝歩　上り地当不納
田壱町弐反七畝拾壱歩
取米八石九斗壱升六合　反七斗取
畑拾四町七反四畝拾七歩
取米弐拾九石四斗九升壱合　反弐斗取

二口米合三拾八石四斗七合
此欠口米壱石九斗弐升　但　壱石ニ口米三升欠米弐升
二口米合四拾石三斗弐升七合

右之通被　仰付候条、守其意、無油断霜月晦日切、急度皆済可

仕者也

延宝四年
辰之十月廿五日

根岸傳内㊞
鈴木新八㊞
武井伊兵衛㊞

白石村
庄屋・百姓中

免定

一高百六拾石五升
此田畑拾九町弐反壱せ拾歩
内
畑四反三せ弐拾九歩　神田ニ引
田畑八反三せ拾三歩　永不納
田壱せ弐拾七歩　未年永不納
田弐反歩　当枯田ニ引
畑壱町九反弐せ歩　上り地当不納
田壱町五せ拾四歩
取米三石壱斗六升四合
畑拾町五反拾三歩
取米拾八石九斗八合
畑四町壱反六せ弐歩
取米七石四斗八升九合

白石村
庄屋・百姓中

畑八せ弐歩
取米六升五合
四口米合弐拾九石六斗弐升六合
此欠口米壱石四斗八升壱合　但壱石ニ付口米三升
二口米合三拾壱石壱斗七合　欠米弐升

右之通被　仰付候条、守其意、霜月晦日切、無油断急度皆済可仕者也

延宝七年
未之十月廿日

根岸傳内㊞
鈴木新八㊞

白石村
庄屋・百姓中

未年谷押片作
反八升取

免定

一高百六拾石五升
此田畑拾九町弐反壱畝拾歩
内
畑四反三畝弐拾九歩　神田ニ引
高百弐拾四石弐斗九升三合　本村分
此田畑拾四町三反三畝七歩
内
田畑八反五畝拾歩　永不納
畑壱町七反弐せ歩　上地当不納

田壱町弐反五畝拾四歩　　反四斗取
　取米五石壱斗九合
畑拾町五反拾三歩　　反壱斗八升取
　取米拾八石九斗八合
二口米合弐拾三石九斗弐升七合
　此欠口米壱石壱斗九升六合　　但　壱石欠米弐升
二口米合弐拾五石壱斗弐升三合　　口米三升
高三拾五石七斗五升七合　　京ヶ脇村
此畑四町四反四畝四歩
　内
畑弐反歩　　上地当不納
畑四町弐反四畝四分　　反壱斗八升取
　取米七石六斗三升四合
　此欠口米三斗八升弐合　　但　壱石欠米弐升
　　口米三升
二口米合八石壱斗六合
右之通被　仰付候条、守其意、無油断霜月晦日切、急度皆済可仕者也
天和元年酉十月廿五日　　鈴木新八㊞
　　根岸傳内㊞
白石村
京ヶ脇村　庄屋・百姓中

　　免定
一高百六拾石五升　　白石村
此田畑拾九町弐反壱畝拾歩
　内
畑四反三畝弐拾九歩　　神田引
高百弐拾四石弐斗九升三合　　本村
此田畑拾四町四反壱畝九歩
　内
田畑八反五畝拾歩　　永不納
畑壱町七反弐畝歩　　上地当不納
田壱町弐反五畝拾四歩
　取米七石弐升六合　　反五斗六升
畑拾町五反八畝拾五歩
　取米弐拾五石四斗四合　　反弐斗四升
二口米合三拾弐石四斗三升
　此欠口米壱石六斗弐升弐合　　但　壱石口米三升
二口米合三拾四石五升弐合　　欠米弐升
高三拾五石七斗五升七合　　京ヶ脇村
此畑四町三反六畝弐歩
　内
畑弐反歩　　上り地当不納

畑四町壱反六畝弐歩
取米拾壱石六斗五升　反弐斗八升
此欠口米五斗八升三合　但　壱石口米三升
二口米合拾弐石弐斗三升三合　欠米弐升
右之通被　仰付候条、守其意、来霜月晦日切、急度皆済可仕者
也
天和二年戌十月廿五日　鈴木新八㊞
白石村　根岸傳内㊞
庄屋・百姓中

免定
一高百六拾石五升　白石村
此田畑拾九町弐反壱畝拾歩
内
畑四反三畝弐拾九歩　神田引
高百弐拾四石弐斗九升壱合　本村
此田畑拾四町四反壱畝九歩
内
田畑八反五畝拾歩　永不納
畑壱町七反弐畝歩　上り地寅年より
起年季地ニ成ル

田壱町弐反五畝拾四歩　反弐斗七升
取米三石三斗八升八合
畑拾町五反八畝拾五歩　反弐斗四升
取米弐拾五石四斗四合
二口米合弐拾八石七斗九升弐合
此欠口米壱石四斗四升
二口米合三拾石弐斗三升弐合
右之通被　仰付候条、守其意、来ル霜月晦日限ニ、無油断急度
皆済可仕者也
貞享四丁卯年十月廿五日　鈴木新八㊞
白石村　根岸傳内㊞
庄屋・百姓中

〇橋爪　大久保守正氏所蔵

濃州多藝郡白石村卯御年貢割付之事
一高百六拾石五升
八石八斗五升八合　前々永引子荒畑入
内三石六斗六升弐合　前々神田引
拾八石五斗弐升　当卯風損引
残百弐拾九石壱升

此訳

高九拾五石八斗弐升七合　　本　村
此取米弐拾五石三斗九升弐合高弐ッ六分五厘
高三拾三石壱斗八升三合　　京ヶ脇
此取米八石七斗九升弐合　高弐ッ六分四厘九毛
取米合三拾四石壱斗八升四合
右之通当卯御成箇相究之間、大小百姓立合無相違致内割、来ル極月十日以前急度可皆済者也

正徳元年卯十一月　　平岡五左衛門㊞
右村庄屋
惣百姓

八〇　龍泉寺村引得高定免証文

○龍泉寺　西脇富夫氏所蔵

龍泉寺村之内、西脇十郎右衛門引得高定免之事、毛付高田方本米三拾三石八斗弐升、畠方は弐つ取相定之間、毎年十一月中速可皆済、若日損・水損・風損有之年は、見立春法可申付者也

延宝七己未
十月廿五日㊞㊞　　鳥居清兵衛
正　茂（花押）

水野只左衛門
重　勝（花押）
岡田與次右衛門
廣　吉（花押）
龍泉寺村庄屋

八一　金屋村免定

○金屋　西脇和夫氏所蔵

免　定

高四百五拾九石七斗五升
此田畑三拾壱町五畝九歩
内
田弐反歩　神田引
畑壱反壱畝歩　寺屋敷
田四畝歩　永不納
田八反六畝拾八歩　申年切先永不納
畑五畝九歩　外田　右同断
畑三畝五歩　外畑　右同断
畑四畝六歩　右同断
田三反九畝弐拾七歩　元田　申年より戌年迄三年分
畑壱反八畝拾五歩　右同断当不

金屋村

畑壱畝歩　　河所崎永不　但戊之改
畑拾壱歩　　戊之年堤敷地永不
田壱町八反四畝弐拾八歩　　申年切先当不納
田六町四反八畝三歩　　当水朽
田拾六町弐畝拾七歩　　反八斗四升
　取米百三拾四石六斗四升四合
畑弐町壱反四畝弐拾三歩　　反四斗弐升
　取米九石弐升
外田弐反四畝弐拾九歩
　取米弐石九升七合
外畑壱町四反七畝弐拾九歩　　反八斗四升
　取米五石三升壱合
田九反壱畝拾五歩　　反三斗四升
　取米弐石五斗六升弐合
一米四斗　　申年堤切先
六口米合百五拾三石七斗五升四合　　反弐斗八升
　此欠口米七石六斗八升七合　　同所野米
二口米合百六拾壱石四斗四升弐合　　但、壱石口米三升
　欠米弐升
右之通被　仰付候之条、守其意、来霜月晦日切急度皆済可仕者
也
　天和二年戌十月廿五日　　鈴木新八㊞
　　根岸傳内㊞

金屋村
庄屋・百姓中

免定

一高四百五拾九石七斗五升　　金屋村
此□□拾壱町五畝九歩
　内
田畑三反壱畝歩　　神田寺屋敷
田畑壱町弐拾八歩　　永不納
田七町八反弐畝廿三歩　　当水朽
田弐反歩　　永々引金兵衛分
田七町五反歩
（取）
□米五拾七石　　反七斗六升取
田拾町歩　　反壱斗壱升取
　取米拾壱石
外田□□畝弐拾九歩　　反八升弐升
　取米弐石四升七合　　内壱反四畝拾弐歩元□寅年入
畑弐町弐反九畝五歩
　取米八石四斗七升九合　　反三斗七升
畑壱反八畝拾五歩　　水入片作
　取米四斗七合　　反弐斗弐升
外畑壱町四反七畝弐拾九歩

取米五石四斗七升五合　反三斗七升
一米四斗　野　米
七口米合八拾四石八斗八合
此欠口米四石弐斗四升　但壱石ニ口米三升
二口米合八拾九石四升八合　欠米弐升
右之通被　仰付候条、守其意、来ル霜月晦日限、無油断急度皆
済可仕者也
貞享三丙寅年十月廿五日　根岸傳内㊞
金屋村　鈴木新八
庄屋・百姓中

免　定

一高四百五拾九石七斗五升　金屋村
此田畑三拾七町七畝弐拾歩
内
田弐反歩　神田引
畑壱反壱畝歩　玉泉院屋敷
田弐町三反六畝廿七歩　永不納
田五町壱反弐畝四歩　当水朽
田弐拾五町五反壱畝七歩
取米百九拾壱石三斗四升三合　反七斗五升
畑三町七反六石拾弐歩
取米拾弐石四升五合　反三斗弐升
一畑八反五石拾四歩　堤外起方
取米弐石壱斗三升七合　反弐斗五升
一米四斗　堤外起方
四口米合弐百五石九斗弐升五合　但壱石ニ付口米三升
此欠口米拾石弐斗九升六合　欠米弐升
二口米合弐百拾六石弐斗弐升壱合
右之通被　仰付候条、守其意、霜月晦日切急度無油断皆済可仕
者也
延宝元年
丑之十月廿五日　脇屋金左衛門㊞
武井伊兵衛㊞
金屋村　鈴木新八㊞
庄屋・百姓中

免　定

一高四百五拾九石七斗五升　金屋村
此田畑三拾七町七畝弐拾歩
内
田弐反歩　神田ニ引
畑壱反壱畝歩　玉泉院屋敷

田弐町三反六畝弐拾七歩　永不納引
田六町壱畝八歩　当水朽
田弐拾四町六反弐畝三歩
取米百九拾六石九斗六升八合　反八斗取
畑三町七反六畝拾弐歩
取米拾五石五升六合　反四斗取
一畑八反五畝拾四歩　堤外起方
取米弐石九斗九升壱合　反三斗五升
一米四升　野　米
四口米合弐百拾五石四斗壱升五合
此欠口米拾石七斗七升　但壱石ニ口米三升欠米弐升
二口米合弐百弐拾六石壱斗八升五合
右之通被　仰付候条、守其意、無油断霜月晦日切ニ急度皆済可仕者也

延宝三年卯之十月廿五日　高須　武井伊兵衛㊞　鈴木新八㊞

金屋村庄屋・百姓中

免定

一高四百五拾九石七斗五升
此田畑三拾壱町五畝九歩

金屋村

内
田弐反歩　神田ニ引
畑壱反壱畝歩　玉泉院屋敷
田弐町七反五畝拾七歩　当水朽
内壱反歩河原田平太夫分
田拾九町七反四畝七歩　反八斗八升取
取米百七拾三石七斗三升三合
田四町七畝拾壱歩　河原田
取米三拾壱石七斗七升五合　反七斗八升取
外田弐反八畝四歩
取米弐石三斗九升壱合　反八斗五升取
畑三町八反九畝歩
取米拾五石五斗六升　反四斗取
四口米合弐百弐拾三石四斗五升九合
此欠口米拾壱石壱斗七升三合　但壱石ニ口米三升欠米弐升
二口米合弐百三拾四石六斗三升弐合
右之通被　仰付候条、守其意、霜月晦日切ニ無油断急度皆済可仕者也

延宝五年巳霜月五日　鈴木新八㊞　根岸傳内㊞

金屋村庄屋・百姓中

免　定　　金屋村

一高四百五拾九石七斗五升
此田畑三拾壱町五畝九歩
　内
田弐反歩　神田ニ引
畑壱反壱畝歩　玉泉院屋敷
田壱町三反八畝五歩　当水朽
田四反六畝八歩　河原田ヨ損
田弐拾壱町壱畝拾九歩
　取米百七拾八石六斗三升九合　反八斗五升
田三町七反壱畝三歩　河原田
　取米弐拾七石八斗三升三合　反七斗五升
外田弐反八畝四歩
　取米弐石六斗壱升六合　反九斗三升
畑弐町三反六畝弐拾五歩
　取米九石九斗四升七合　反四斗弐升
外畑壱町五反弐畝五歩
　取米六石三斗九升壱合　反四斗弐升
四口米合弐百弐拾五石四斗弐升六合
　此欠口米拾壱石弐斗七升弐合　但壱石ニ口米三升欠米二升
二口米合弐百三拾六石六斗九升八合

右之通被　仰付候条、守其意、霜月晦日切無油断急度皆済可仕者也

延宝六年午之十月廿五日　　高須　鈴木新八㊞
　　根岸傳内㊞
　　金屋村庄屋・百姓中

濃州多藝郡金屋村子御成ヶ割付之事

一高四百五拾九石七斗五升　高辻
　九拾六石四斗八升七合　地不足
　壱斗壱升　郷蔵屋敷
　弐石八斗　神田
内　拾三石四斗壱升四合　前々永引
　三石五升　未砂入
　拾壱石八斗三升　丙戌江堀敷
　壱石壱斗四升壱合　当子□溝敷引
　弐百拾弐石弐升壱合　当子水損
残六拾八石八斗九升七合
　訳
　五拾弐石壱斗七合　田方　弐ツ八分
　　此取拾四石五斗九升　畑方壱ツ九分七厘九毛
　拾六石七斗九升

此取三石三斗弐升三合

外

一米四斗　　野年貢

米合拾八石三斗壱升三合

右之通、当子御取ヶ相極上は、村中惣百姓并出作之者迄不残立会、無相違割合、極月廿日已前急度可皆済者也

宝永五年子十月　　辻　六郎左衛門

金屋村庄屋
百姓

濃州多藝郡金屋村戌御成箇割付之事　　高　辻

一高四百五拾九石七斗五升

九拾六石四斗八升七合　地不足
壱斗壱升　郷蔵屋敷
弐石八斗　神田
内　弐拾三石弐斗四升五合　前々永引
三石五升　未砂入
拾壱石八斗三升　酉戌江堀敷
四拾五石七斗九升　当戌旱損并虫喰損皆無
残弐百七拾六石四斗三升八合　有　高
此訳
弐百四拾弐石五斗壱升六合　田　方

此取九拾五石三斗五升七合　三ッ九分三厘弐毛
三拾三石九斗弐升弐合　畑　方
此取七石八斗六升弐合　弐ッ三分壱厘八毛

外

一米四斗　野年貢

米合百三石六斗壱升九合

右之通当戌御取箇相究上は、村中惣百姓并出作之者迄不残立会、無相違割合、極月廿日以前急度可皆済者也

享保三年戌閏十月　　辻　甚太郎㊞

金屋村庄屋
百姓

検見取
一高四百五拾九石七斗五升　酉御年貢可納割附之事　美濃國多藝郡　金屋村

九拾六石四斗八升七合　地不足
壱斗壱升　郷蔵敷引
四石壱斗弐升　神田寺屋敷引
拾石四斗六升八合　前々堤敷引
拾壱石八斗三升　前々江堀敷引
内　弐斗六升六合　前々川欠引
五石壱斗弐升壱合　前々池成引
七石壱斗弐升壱合　前々石砂入引

五斗七升六合　同堤土取跡引
六斗四升七合　当酉石砂入引
九拾五石壱升三合　去ル丑卯未申より水損皆無引
弐拾弐石壱升壱合　当酉水損皆無引
小以弐百五拾三石七斗七升
残弐百五石九斗八升
此取米弐拾五石弐斗六升九合
此訳
百五拾七石五斗壱升六合　田方
此取米拾四石八斗六升弐合
三拾三石九斗八升弐合　畑方
此取米八石七斗三升八合　田方未起返
四石九斗五升八合
此取米壱石三斗九升九合
六石七斗八升六合　田砂畑起返
此取米弐斗五升壱合
弐石七斗三升八合　同林畑起返
此取米壱升九合
外
一米四斗六升　野年貢
縣高七斗五升　外四百五拾九石　助郷高
一米弐合　六尺給

縣高四百五拾九石七斗五升　御伝馬宿入用
一米弐斗七升六合
縣高六尺給同断　御蔵前入用
一永壱文九分　口米
一米七斗七升弐合
米弐拾六石七斗七升九合
納合
永壱文九分
右之通当酉御成箇相極之条、村中大小百姓入作之者迄立会、無高下致割賦、来ル極月廿日以前急度可皆済者也
明和二年酉十月　右村　庄屋　千清右衛門㊞
年寄
惣百姓

検見取　申御年貢可納割附之事
一高四百五拾九石七斗五升　濃州多藝郡　金屋村
此訳
田高四百四石五斗弐升四合
百弐石三升七合　地不足神田堤敷江堀敷引
内五石三升　堤土取跡池成引
百六拾三石七斗四升四合　当申皆無引
残高百三拾三石七斗壱升三合

此取米三拾壱石弐升壱合
内
高百拾壱石四斗六升三合　本田　免弐ッ六分四厘三毛余
此取米弐拾九石四斗六升五合　未戌砂畑起返
高六石七斗八升六合　免七分取
此取米四斗七升五合　未戌砂田起返
高五石六斗五合　免壱ッ四厘九毛余
此取米五斗八升八合　同林起返
高九石八斗五升九合　免五分取
此取米四斗九升三合
畑高五拾五石弐斗弐升六合　地不足郷蔵敷寺屋敷引
内　弐拾石九斗七升八合　川欠引
壱石壱斗九升三合
残高三拾三石五升五合　免弐ッ五分七厘壱毛余
此取米八石五斗
取米合三拾九石五斗弐升壱合
外
一米四斗六升　野手米
一米壱石壱斗九升九合　口米
掛高弐百九拾六石六合
外高百六拾三石七斗四升四合、田方五分以上損毛、当申壱ヶ年免除
一米壱斗七升八合　御伝馬宿入用
掛高なし　助郷勤高免除
外高四百五拾九石七斗五升　田方五分以上損毛、当申壱ヶ年免除

一米なし　六尺給
掛高
外高　右同断
一永なし　御蔵前入用
納合　米四拾壱石三斗五升八合
永なし
右は、其村当申検見取御成箇書面之通相極条、村中大小之百姓入作之もの迄不残無高下割合之、来ル十二年十日限急度可皆済者也
天明八申年十月　多四郎右衛門㊞
右村
庄屋
年寄
惣百姓

寅御年貢可納割附之事
・美濃國多藝郡
当寅より来ル辰迄三ヶ年定免　金屋村
一高四百五拾九石七斗五升
此訳
田高四百四石五斗弐升四合
内　高百弐石三升七合　前々地不足神田堤敷江堀敷引
高四石三斗九升七合　前々堤土取跡池成引
外高弐斗　当寅起返

小以高百六石四斗三升四合

残高弐百九拾八石九升

此取米六拾三石壱斗三升七合

内訳

高弐百九拾七石四斗五升七合　本　田

此取米六拾三石壱斗五升　免弐ツ壱分弐厘壱毛取

高四斗三升三合　去ル亥起返

此取米弐升弐合　免五分取

高弐斗　当寅起返

此取米壱升　免五分取

畑高五拾五石弐斗弐升六合

内　高弐拾石九斗七升八合　前々地不足郷蔵敷寺屋敷引

高壱石壱斗九升三合　前々川欠引

小以高弐拾弐石壱斗七升壱合

残高三拾三石五升五合

此取米八石五斗　免弐ツ五米七厘壱毛取

取米合七拾壱石六斗三升七合

外

一米四斗六升　野年貢

一米弐石壱斗六升三合　口米

一米弐斗七升六合　御伝馬宿入用

掛高七斗五升
外高四百五拾九石

一米弐合　助郷高　六尺給

掛高
外高　右同断

一永壱文九歩　御蔵前入用

納合　米七拾四石五斗三升八合

永壱文九分

右は、当寅より来ル辰迄三ヶ年、定御取箇書面之通相極条、村中大小之百姓入作之もの迄不残立会、無高下割合之、来ル極月十日限急度可皆済者也

寛政六寅年十月　（多羅尾）多四郎右衛門㊞

右村　庄屋

年寄

惣百姓

申御年貢可納割附之事

当申より来ル子迄五ヶ年定免

当申破免

美濃國多藝郡　金屋村

一高四百五拾九石七斗五升

此訳

田高四百四石五斗弐升四合　前々地不足神田堤敷江堀敷引

高百弐石三升七合　前々池成引

内高壱石六斗五升弐合　当申水損皆無引

高弐百弐拾七石七斗三升壱合

小以高三百三拾壱石四斗弐升
残高七拾三石壱斗四合
此取米拾六石壱斗壱升五合
内
高七拾壱石九升九合　本田
此取米拾五石九斗三升九合　免弐ツ弐分四厘弐毛内
高三斗六升　未林成起返
此取米弐升九合　免八分六毛内
高九斗弐升九合　去ル辰林成起返取下
此取米七升五合　免八分六毛
高七斗壱升六合　去ル辰起返取下
此取米七升弐合　免壱ツ取
畑高五拾五石弐斗弐升六合　前々地不足引
高拾九石五斗四升八合　前々郷蔵敷寺屋敷引
内高壱石四斗三升　前々川欠引
高六斗三升七合
小以高弐拾壱石六斗壱升五合
残高三拾三石六斗壱升壱合
此取米七石三斗弐升九合
内
高三拾三石五升五合　本畑
此取米七石弐斗八升七合　免弐ツ弐分五毛内

高五斗五升六合　去ル辰起返取下
此取米四升弐合　免七分五厘五毛余
去ル寅改出
見取
一畑三反歩　但一反ニ
此取米壱斗五合　米三升五合取
取米合弐拾三石五斗四升九合
外
一米四斗六升　野年貢
一米七斗弐升三勺　口米
未より亥迄五ヶ年季
一永百弐拾五文　水車運上
一永三文八分　口永
一米弐斗七升六合　御伝馬宿入用
掛高九拾六石七斗五升　助郷高免除
外高三百六拾三石
一米弐斗九升四合　六尺給
掛高
外高　右同断
一永弐百四拾壱文九分　御蔵前入用
米弐拾五石壱斗九升九合三勺
納合
永三百七拾文七分
右は、当申御取箇書面之通相極条、村中大小之百姓入作之もの迄不残立会、無高下割合之、来ル極月十日限急度可皆済もの也
天保七申年十月　多　靱負㊞

右村
庄　屋
年　寄
惣百姓

八二　岩道村免定

○上之郷　近藤　稔氏所蔵

免　定

一高四百九拾八石五斗三升四合　岩道村

此田畑参拾九町三反壱畝廿六歩

内

田壱反歩　神田引
田畑壱反六畝廿八歩　永不納
田壱反五畝拾五歩　当日損引
田弐拾参町弐反弐畝拾九歩
取米弐百弐拾石六斗五升　反九斗五升
畑拾壱町七反弐拾九歩
取米五拾壱石五斗弐升参合　反四斗四升
畑参町九反五畝廿五歩　嶋畑
取米拾参石八斗五升四合　反三斗五升

三口米合弐百八拾六石弐升七合
此欠口米拾四石参斗壱合　但壱石ニ口米三升
二口米合参百石三斗弐升八合　欠米弐升

右之通被　仰付候条、守其意、無油断来ル霜月晦日限急度皆済可仕者也

貞享元甲子年十月廿五日　鈴木新八㊞
岩道村　根岸傳内㊞
庄屋・百姓中

免　定

一高四百九拾八石五斗三升四合　岩道村

此田畑三拾九町三反壱畝廿六歩

内

田壱反歩　神田引
田畑壱反六畝廿八歩　永不納
田弐町歩　当日損かれ引
田弐拾壱町三反八畝四歩
取米百六拾六石七斗七升四合　反七斗八升
畑拾壱町七反廿九歩
取米五拾三石八斗六升四合　反四斗六升
畑三町九反五畝廿五歩　嶋畑

取米拾四石六斗四升六合　反三斗七升
三口米合弐百三拾五石弐斗八升四合
此欠口米拾壱石七斗六升四合　但壱石ニ口米三升
二口米合弐百四拾七石四升八合　欠米弐升
右之通被　仰付候条、守其意、来ル霜月晦日限無油断急度皆済
可仕者也
貞享弐年丑十月廿五日　鈴木新八㊞
岩道村　根岸傳内㊞
庄屋・百姓中

免定
一高四百九拾八石五斗三升四合　岩道村
此田畑三拾九町三反壱畝廿六分
内
田壱反歩　神田ニ引
田畑壱反六畝廿八歩　永不納
田拾八町五反八畝四歩
取米百三拾五石六斗四升四合　反ニ七斗三升
田四町八反歩　こもいけ
取米弐拾石六斗四升　反ニ四斗三升
畑拾壱町七反弐拾九歩

取米四拾四石四斗九升七合　反ニ三斗八升
畑三町九反五畝廿五歩　嶋畑
取米拾壱石四斗七升九合　反ニ弐斗九升
四口米合弐百拾弐石弐斗六升
此欠口米拾石六斗壱升三合　但壱石ニ口米三升
二口米合弐百弐拾弐石八斗七升三合　欠米弐升
右之通被　仰付候条、守其意、来ル霜月晦日限無油断急度皆済
可仕者也
貞享三丙寅年十月廿五日　鈴木新八
岩道村　根岸傳内㊞
庄屋・百姓中

免定
一高四百九拾八石五斗三升四合　岩道村
此田畑三拾九町三反壱畝廿六歩
内
田壱反歩　神田ニ引
田畑壱反六畝廿八歩　永不納
田弐拾三町三反八畝四歩
取米百九拾四石六升五合　反ニ八斗三升
畑拾壱町七反弐拾九歩

取米四拾六石八斗三升九合　反ニ四斗取
畑三町九反五畝廿五歩　嶋　畑
取米拾三石八斗五升四合　反ニ三斗五升
三口米合弐百五拾四石七斗五升八合
此欠口米拾弐石七斗参升八合　但壱石ニ口米三升欠米弐升
二口米合弐百六拾七石四斗九升六合
右之通被　仰付候之条、守其意、来ル霜月晦日限無油断急度皆済可仕者也
貞享四丁卯年十月廿五日　鈴木新八㊞
根岸傳内㊞
岩道村庄屋・百姓中

免　定

一高四百九拾八石五斗三升四合　岩道村
此田畑三拾九町三反壱畝廿六歩
内
田壱反歩　神田引
田畑壱反六畝廿八歩　永不納
田弐拾三町三反八畝四歩
取米百八拾四石七斗壱升三合　反七斗九升
畑拾壱町七反弐拾九歩

取米五拾石三斗五升壱合　反四斗三升
畑三町九反五畝弐拾五歩　嶋　畑
取米拾五石四升弐合　反三斗八升
三口米合弐百五拾石壱斗六合
此欠口米拾弐石五斗五合　但壱石ニ口米三升欠米弐升
二口米合弐百六拾弐石六斗壱升壱合
右之通被　仰付候之条、守其意、来ル霜月晦日限無油断急度皆済可仕者也
元禄元戊辰年十月廿五日　鈴木新八㊞
根岸傳内㊞
岩道村庄屋・百姓中

免　定

一高四百九拾八石五斗三升四合　岩道村
此田畑三拾九町三反壱畝廿六歩
内
田壱反歩　神田ニ引
田畑壱反六畝廿八歩　永不納
田三町五反七畝五歩　いもちかれニ引
田拾九町八反弐拾九歩
取米百六拾六石四斗壱合　反八斗四升

畑拾壱町七反弐拾九歩
取米五拾弐石六斗九升三合　反四斗五升
畑三町九反五畝弐拾五歩　嶋畑
取米拾五石四升弐合　反三斗八升取
三口米合弐百三拾四石壱斗三升六合
此欠口米拾壱石七斗七合　但壱石ニ口米三升
二口米合弐百四拾五石八斗四升三合　欠米弐升
右之通被仰付候条、守其意、来ル霜月晦日限無油断急度皆済可者也
元禄二年巳十月廿五日　根岸傳内㊞
岩道村　鈴木新八㊞
庄屋・百姓中

免定
一高四百九拾八石五斗三升四合　岩道村
此田畑三拾九町三反壱畝廿六歩
内
田壱反歩　神田引
田畑壱反六畝廿八歩　永不納
田弐町八反歩　当水朽
田弐拾町五反八畝四歩

取米百六拾六石七斗九合　反八斗一升
畑拾壱町七反弐拾九歩
取米三拾石四斗四升五合　反弐斗六升
畑三町九反五畝弐拾五歩　嶋畑
取米八石三斗一升弐合　反弐斗壱升
三口米合弐百五石四斗六升六合
此欠口米拾石弐斗七升三合
二口米合弐百拾五石七斗三升九合
右之通被仰付候条、守其意、来ル霜月晦日限無油断急度皆済可仕者也
元禄三年午十月廿五日　根岸傳内㊞
岩道村　鈴木新八㊞
庄屋・百姓中

八三　島田村免定

〇高田　小野策太郎氏所蔵

申歳多藝郡島田村御年貢割付事
一高弐千六百九拾六石六斗壱升六合　田畑辻
三拾弐石弐斗七升四合　永不納
三石四斗七升弐合　神田引

内　壱石弐斗　御蔵敷当申年より引
　五斗五升　当申堤敷引
　千百四拾九石弐斗四升七合　当申水損荒地芦野共引
残千五百九石八斗七升三合
　此取米九百壱石三斗九升四合　有高五ッ九分七厘
　　内拾石は　芦場年貢分
外
一田四反弐畝廿弐歩　当申見取
　此取米八斗五升五合　弐斗取
一畠五町八反壱畝拾弐歩　同断
　此取米五石八斗壱升四合　壱斗取
一米七石弐斗五升　山年貢定納
右之通当御成ヶ相究候条、庄屋・百姓立合早速致割、極月廿日以前急度可皆済、若於滞者以譴責可申付者也
　元禄五年申十月廿九日　南條金左衛門（金左）
　右庄屋・百姓中

辰御年貢可納割付之事
　美濃國多藝郡　鵜田村
検見取
一高弐千六百九拾六石六斗壱升六合
　壱石弐斗　御蔵敷引
　三石四斗七升弐合　神田引
　百四拾九石九斗八升五合　前々堤敷引
　三拾弐石五斗五升四合　前々溝敷引
　三拾弐石弐斗七升四合　前々江堀敷引
　四百弐拾石七斗九升弐合　前々川欠引
　七拾七石八斗三升五合　前々石砂入引
内
　六斗三升九合　午堤敷引
　拾壱石六斗八升弐合　辰堤敷引
　拾七石三斗七升六合　同堤土取跡引
　弐斗六升六合　未堤土取跡引
　四拾弐石九升六合　申堤切所石砂入引
　弐石七斗弐升壱合　酉堤土取跡引
　四石七斗三升弐合　去ル子川欠引
　弐拾八石弐斗八升　同石砂入引
　　外六石八斗七升　当辰起返
　弐百弐拾弐石三斗五升壱合　当辰水損皆無引
　　小以千四拾八石弐斗五升五合
残千六百四拾八石三斗六升壱合
此取米六百弐拾石九斗九升壱合
　　此訳
千五百七拾九石弐斗七升六合
　此取米六百拾壱石壱斗四升六合　免三ッ八分七厘
四拾九石八斗壱升九合　未砂田起返
　此取米八石弐斗七升五合　免壱ッ六分六厘壱毛

九石三斗八斗壱合
　此取米壱石七升八合
三石壱升五合
　此取米三斗弐合
三石壱升五合
　此取米壱斗五升壱合
三石八斗五升五合
　此取米三升九合
　外
一田三反八畝六歩
　此取米四升六合
一田五町六反九畝弐歩
　内弐反五畝拾歩　辰堤敷引
　残五町四反三畝廿弐歩
　　此取米六斗五升弐合
一畑五町八反壱畝拾弐歩　見取
　内七反七畝四歩　前々川欠引
　残五町四畝八歩
　　此取米九斗五升八合
　外
一米壱石六斗壱升八合　御伝馬宿入用
一米拾八石六斗七升九合　口　米

林成
　免壱ッ壱分四厘九毛
亥砂田起返
　免壱ッ弐毛
田方
当辰林成起返
　免五分壱毛
当辰畑方起返
　免壱分

納合米六百四拾弐石九斗四升四合
右之通当辰御成箇相極之条、村中大小百姓入作之者迄立会、無高下致割賦、来ル極月廿日以前急度可皆済者也
　宝暦十年辰十月　（千種直豊）千　清右衛門㊞
　　右村庄屋
　　年寄
　　惣百姓

八四　上之郷村八ヶ年分免定取米書上

○上之郷　近藤　稔氏所蔵

（表紙）「延享五年
享保三戌より同十巳迄八ヶ年免定取米写　濃州多藝郡上ノ郷村」
辰七月
覚
一高六百拾六石三合
　内
　　五拾壱石四斗六斗七合　前々荒地諸永引
　　残五百六拾四石五斗三升六合　毛　附
　　此訳

三百七拾四石九斗六升四合　　田　方
　此取百六拾八石七斗三升四合　免四ッ五分
百八拾九石五斗七升弐合　　畑　方
　此取六拾八石七斗五升八合　免三ッ六分弐厘七毛
右は享保三戌年辻甚太郎様御免定取米写如斯

一高六百拾六石三合　　高　辻
　内
五拾石三斗六升七合　　前々荒地諸永引
残五百六拾五石六斗三升六合　　毛　附
　此訳
三百七拾六石六升四合　　田　方
　此取百六拾九石弐斗弐升九合　免四ッ五分
百八拾九石五斗七升弐合　　畑　方
　此取六拾八石七斗五升八合　免三ッ六分弐厘七毛
右は享保四亥年辻甚太郎様御免定取米如斯

一高六百拾六石三合　　高　辻
　内
五拾石三斗六升七合　　前々荒地諸永引
残五百六拾五石六斗三升六合　　毛　附
　此訳
三百七拾六石六升四合　　田　方
　此取百七拾弐石九斗八升九合　免四ッ六分

百八拾九石五斗七升弐合　　畑　方
　此取六拾九石七斗六合　免三ッ六分七厘七毛
右は、享保五子年辻甚太郎様御免定取米写如斯

一高六百拾六石三合　　高　辻
　内
百四拾四石八斗九升　　前々荒地諸永引
残四百七拾壱石壱斗壱升三合　　毛　附　水損引
　此訳
弐百九拾六石四斗四升壱合　　田　方
　此取百三拾三石三斗九升八合　免四ッ五分
百七拾四石六斗七升弐合　　畑　方
　此取六拾三石三斗五升四合　免三ッ六分弐厘七毛
右は、享保六丑年小野粂五郎様御免定取米如斯

一高六百拾六石三合　　高　辻
　内
五拾弐石壱斗壱升三合　　前々荒地諸永引
残五百六拾三石八斗九升　　毛　附
　此訳
三百七拾五石九斗六升八合　　田　方
　此取百七拾四石八斗弐升五合　免四ッ六分五厘
百八拾七石九斗弐升弐合　　畑　方
　此取六拾九石五斗三升壱合　免三ッ七分

右は、享保七寅年辻甚太郎様御免定取米写如斯

一高六百拾六石三合　　高　辻
　内
　五拾弐石壱斗七升三合　前々荒地諸永引
残五百六拾三石八斗三升　毛　附
　此訳
　三百七拾七石三斗九升三合　田　方
　此取百七拾三石六斗壱合　免四ッ六分
　百八拾六石四斗三升七合　畑　方
　此取六拾八石五升　免三ッ六分五厘
右は、享保八卯年辻甚太郎様御免定取米写如斯

一高六百拾六石三合　　高　辻
　内
　五拾弐石壱斗七升三合　前々荒地諸永引
残五百六拾三石八斗三升　毛　附
　此訳
　三百七拾七石三斗九升三合　田　方
　内三拾九石弐升七合　当辰旱損検見引
残三百三拾八石三斗六升六合　毛　附
　此取百五拾五石六斗四升八合　免四ッ六分
　百八拾六石四升三升七合　畑　方
　内拾壱石七斗弐升四合　当辰旱損引
残百七拾四石七斗壱升三合　毛　附
　此取六拾三石七斗七升
右は、享保九辰年辻甚太郎様御免定取米写如斯

一高六百拾六石三合　　高　辻
　内
　五拾弐石壱斗七升三合　前々荒地諸永引
残五百六拾三石八斗三升　毛　附
　此訳
　三百七拾七石三斗九升三合　田　方
　此取百六拾四石四斗四升六合　免四ッ三分五厘七毛余
　百八拾六石四斗三升七合　畑　方
（ママ）　免三ッ七分五厘四毛余
右は、享保十巳年辻甚太郎様御免定取米写如斯

右之通八ヶ年分御免定取米之写指上申候、以上
延享五年辰七月
濃州多藝郡上ノ郷村庄屋
領左衛門㊞
同断
年寄　留兵衛㊞
百姓代　孫四郎㊞
惣右衛門㊞

笠松
御郡代所

八五　喜多村免相

○勢至　野村辰夫氏所蔵

喜多村免相之事、定弐ッ取年内速可皆済者也

文化九壬申
十一月日

中村五左衛門（花押）
藤江彦之丞（花押）
國枝彦之進（花押）
近藤廣之助（花押）

名主
惣百姓

喜多村免相之事、定弐ッ、寅起五分弐厘、蔽起弐分三厘取、年内速可皆済者也

文政二己卯
十一月日

近藤廣之助（花押）
藤江彦之丞（花押）
中村五左衛門（花押）
石川孫七（花押）

名主
惣百姓

八六　橋爪村免相

○橋爪　村上　肇氏所蔵

橋爪村免相之事

定五ッ五厘、掟地本米九斗九升六合、新宮野三ッ壱分、北川原三ッ壱分九厘、南河原無取入方弐ッ取年内速可皆済者也

文化十癸酉
十一月日

近藤廣之助（花押）
國枝彦之進（花押）
藤江彦之丞（花押）
中村五左衛門（花押）

名主
惣百姓

○橋爪　大久保守正氏所蔵

橋爪村免相之事、定五ッ五厘、掟地本米九斗九升六合、新宮野三ッ壱分、小川原三ッ壱分九厘、松原壱ッ九分八厘、南河原無取、入方弐ッ取、年内速可皆済者也

文化十四丁丑
十一月日

近藤廣之助（花押）
國枝彦之進（花押）

藤江彦之丞（花押）
中村五左衛門（花押）

八七　宇田村免状取米写

○中　高木享一氏所蔵

（表紙）「安政六未年より　拾ヶ年
明治元辰年迄

免状取米写

多藝郡
宇田村」

濃州多藝郡宇田村物成免状之事

安政六己未年　定免

一高千弐百八拾八石五斗五升五合

内

高三百三拾八石五斗七升三合　諸引地

残高九百四拾九石九斗八升弐合

内

高百弐拾四石四斗壱升弐合　杉本毛附
此取米四拾四石壱斗六升六合　免相三ッ五分五厘
高八百弐拾五石五斗七升　本村毛附

此取米三百四拾壱石七斗八升六合　免相四ッ壱分四厘
取米合三百八拾五石九斗五升弐合

万延元庚申年　破免

一高千弐百八拾八石五斗五升五合

内

高三百三拾八石五斗七升三合　諸引地
高百拾三石七斗七升　杉本田畑不農高
高弐百八拾壱石五升八合　本村右同断
残高五百五拾五石壱斗五升四合

内

高六石弐升壱合　杉本分畑方
此取米壱石八升四合　免相壱ッ八分
高四石六斗弐升壱合　同　田方
此取米壱石五斗弐升五合　免相三ッ三分
高五百四拾四石五斗壱升弐合　本村毛附
此取米弐百弐拾五石四斗弐升八合　免相四ッ壱分四厘
取米合弐百弐拾八石三升七合

文久元辛酉年　定免

一前未年之通ニ御座候

同　二壬戌年　　定免
一前未年之通ニ御座候
高百九石八斗九升七合　　杉本田畑不農高
高弐百五石弐斗壱升　　本村右同断
残高六百三拾四石八斗七升五合
内
高拾四石五斗壱升三合　　杉本田畑毛附
此取米五石壱斗五升弐合　　免相三ツ五分五厘
高六百弐拾石三斗六升弐合　　本村毛附
此取米弐百五拾六石八斗三升　　免相四ツ壱分四厘
取米合弐百六拾壱石九斗八升弐合

同　二丙寅年　　積り免
一高千弐百八拾八石五斗五升五合
内
高四百七拾八石八斗九升五合　　諸引地并不農高共
残高八百九石六斗六升
内
高百弐拾四石四斗壱升　　杉本毛附
此取米七石五斗八升九合　　免相六分壱厘
高六百八拾五石弐斗五升　　本村毛附
此取米百七拾六石壱斗九合　　免相弐ツ五分七厘
取米合百八拾三石六斗九升八合

同　二壬戌年　　定免
一前未年之通ニ御座候
高百弐拾四石四斗壱升　　杉本分毛附
此取米四拾四石壱斗六升六合　　免相三ツ五分五厘
高八百弐拾五石四斗九升九合　　本村毛附
此取米三百四拾壱石七斗五升七合　　免相四ツ壱分四厘
取米合三百八拾五石九斗弐升三合

同　三癸亥年　　定免
一高千弐百八拾八石五斗五升五合
内
高三百三拾八石六斗四升六合　　諸引地
残高九百四拾九石九斗九合
内
高百弐拾四石四斗壱升　　杉本分毛附
此取米四拾四石壱斗六升六合　　免相三ツ五分五厘
高八百弐拾五石四斗九升九合　　本村毛附
此取米三百四拾壱石七斗五升七合　　免相四ツ壱分四厘
取米合三百八拾五石九斗弐升三合

元治元甲子年　　定免
一前亥年之通ニ御座候

慶応元乙丑年　　破免
一高千弐百八拾八石五斗五升五合
内
高三百三拾八石五斗七升三合　　諸引地

同　三丁卯年　　定免

一高千弐百八拾八石五斗五升五合
　内　諸引地
高三百三拾八石五斗七升三合
残高九百四拾九石九斗八升弐合
　内　杉本分毛附
高百弐拾四石四斗壱升
此取米四拾四石壱斗六升六合　免相三ッ五分五厘
高八百弐拾五石五斗七升弐合　本村分毛附
此取米三百四拾壱石七斗八升七合　免相四ッ壱分四厘
取米合三百八拾五石九斗五升三合

明治元戊辰年

一高千弐百八拾八石五斗五升五合
　内　諸引地
高三百三拾八石五斗七升三合
残高九百四拾九石九斗八升弐合
　内　杉本分毛附
高百弐拾四石四斗壱升
此取米四拾四石壱斗六升六合　免相三ッ五分五厘
高八百弐拾五石五斗七升弐合　本村分毛附
此取米弐百八拾三石七斗八升七合　免相四ッ壱分四厘
会釈米五拾八石引之
取米合三百弐拾七石九斗五升三合
拾ヶ年取米平均高三百三拾壱石七斗三升　勤高
右は安政六未より明治元辰迄拾ヶ年分免状、正取米書面之通相違無御座候、以上

御領分多藝郡宇田村
百姓代　藤一郎㊞
五人組頭　五兵衛㊞
附名主　雄平㊞

明治二年巳五月

大垣
御預御役所

八八　椿井郷年貢納帳

○石畑　山幡清重氏所蔵

（表紙）「太神宮領椿井郷御年貢
慶長弐年ひのとの酉　一月吉日
納帳　当楽」

中畠　ひろはた
五斗三升四合　三蔵分　小左衛門
定米二斗四升五合一勺口米共
一町田小一郎・市蔵なわの内
中田
一石壱斗一合　小八
定米六斗一升二合口米共

下畠　かふときかたあれ　七斗四升七合　三藏分　彦二郎作　太郎兵衛
定米壱斗三升七勺三才　口米共
ひろはた宗八なわ之内、三ッ一分かたあれ　一石三斗九升五合　市　兵　衛
定米四斗九升八合　口米共
堂與七なわ之内かたあれ　三升八合　市　兵　衛
定米壱斗二升二合
宗八なわ之内　二升六合　無辺分　今ハ市兵衛　千世まつ
定米一斗八升七合八勺　口米共
八斗八升九合　三右衛門分　市　兵　衛
定米四斗五升九合

下上畠　十わう堂　三斗二升　市兵衛分　孫　二　郎
定米一斗一升四合弐勺四才　口米共
十わう堂與七なわ之内　五升弐合　千世まつ分　ふ　く　□
定米壱升八合壱勺□才　口米共

上畠　十わう堂與七なわ之内　一斗八升五合　無辺分　與　太　郎
定米八升□合七勺七才　口（米共）
十わう堂　一石一斗三升五合　又兵衛　二　郎　衛　門
定米六斗三升四合口米共

中畠　かふとき　六斗　七右衛門
定米二斗七升五合四勺　口米共

中上畠　かふとき　三斗一升四合　彦一部分　同　人
定米一斗四升四合一勺二才　口米共
かふときかたあれ　三斗五升八合　龜　藏
定米九升三勺六才　口米共

同　石八升　五郎右衛門
定米六斗六合　口米共
宗八なわ之内　石二斗二升三合　同　人
一石弐斗四升七合壱勺　口米共
わう堂はしつめ　六斗八升　宗　兵　衛　小一郎作
定米三斗壱升弐合壱勺二才　口米共
ひろはた宗八なわ之内　一石一斗四升七合　同　人　喜左衛門作
定米五斗一升六合一勺五才　口米共
十わう堂はしつめ　宗八なわ之内　弐斗三升四合　吉　藏　小六郎作

下畑　定米四升　一町田小一郎・市郷なわ之内　一石三斗二升一合　（藏カ）三□分　吉　藏
中田　定米五斗一升　口米共　今ハ　三次作
下上畠　十わう堂　一石一升六合　市　内
定米三斗六升七勺八才口米共

ひろはた　八斗　三藏分　與二衛門
下畠　定米二斗八升五合六勺口米共

上　一石三升四合　與七分　甚左衛門
定米五斗八升六才
大まわりと市内なわ之内
二石六斗八合　與太郎
定米六斗壱升二合　口米共
此内一畝五歩堤ニなる
石一斗二合　小六郎
定米六斗壱升八合弐勺弐才　口米共
はた宗八なわ之内
石六斗二升三合　衛門助
（ママ）九斗一升四才　口米共
大まわりと市内なわ之内
五斗一升四合　同人
定米弐斗四合　口米共
一町田又二郎なわ之内
一石五斗八升八合　徳行分　同人
中田　定米弐斗四合　口米共
一町田又二郎なわ之内
二石二斗七升八合　しらかし又□分　同人
定米一石弐升　口米共
上畠　野々口
八斗一升二合　教良
定米四斗五升五合五勺　口米共
一町田小一郎・市藏なわ之内
中田　一石七升七合　同人
今ハ五郎作
定米三斗六合
かふとき入道なわ之内かへ地
中田　八斗八升九合　同人
定米五斗六升一合

野々口小一郎・市藏なわ之内
八斗一升二合　三右衛門分　市兵衛殿
定米四斗五升五合五勺二才　口米共　くみ□一
同　小一郎・市藏なわ之内
六斗一合　小一郎分
堤ニなる
小一郎・市藏なわ之内
石四斗一合　彦三
定米六斗一升二合　口米共
入道なわ之かへ地
石八斗六升　同人
定米一石六升　口米共
わりと市内なわ之内
斗四升六合　宗八分　同人
定米壱斗弐合　口米共
まわりと市内なわ之内
五斗一升四合　はんの木ノ市左衛門　同人
十わう堂與七なわ之内
六斗一升　無邊分　同人
下
上畠　定米二斗一升七合八勺　口米共
十わう堂與七なわ之内
一斗八升五合　無邊分與七　今ハ彦三半分
上畠　定米一斗一升七合七勺六才　口米共　今ハ孫九郎半分
十わう堂與七なわ之内
二斗六升一合　孫九郎
上畠　定米一斗四升六合五勺　口米共
大まわりと市内なわ之内
中田　二石七斗八升四合　彦二郎
定米壱石弐斗二升四合　口米共
大まわりと市内なわ之内
三斗四升六合　同人
畠　定米弐斗四合　口米共

まわりと市内なわ之内　はんの木ノ小八郎　同　人
六斗弐升九合
　定米弐斗五升五合
りと市内なわ之内
斗五合　杉
　定米弐斗四合口米共
又二郎なわ之内
三斗八升二合　小八郎分　三　次
　定米二斗四合
田又二郎なわ之内　大わきの
石三斗七升五合　永不作　又　七　郎
在所いゝだニ有　百所いいだの　新　二　郎
二石九斗六升五合
田
　定米壱石弐斗
畠方　高弐十石弐斗壱升三合
田方　高弐十九石四斗三升七合
　合　四町九石六斗五升
　　免ん之事
畠方ハ上五ツ五分、中四ツ五分、下三ツ五分
田方ハ見付取御座候

付　石畑・鷲巣村御神領物成皆済目録

○高田　稲葉時男氏所蔵

卯年石畑村・鷲巣村御神領御物成御皆済御目録

一高辻弐拾五石六斗九升弐合六勺　畑方（石畑村 新鷲巣村）開共村
　内
　高弐斗三升四合　皆石畑村ニ当ル　永荒地
残高弐拾五石四斗五升八合六勺　内弐拾弐石三斗弐升弐合石畑村 三石壱斗三升六合六勺わしのす村
　此御物成
一五石九升壱合七勺　御定弐ツ
一弐斗五升四合六勺　欠口米石ニ五升ツヽ
〆五石三斗四升六合三勺　内四石六斗八升七合六勺 石畑村 鷲巣村 六斗五升八合七勺
一高辻六拾六石四斗四升壱合　田方（石畑村 新鷲巣村）開地
　此御物成　内拾六石七斗弐升六勺 石畑村 四拾九石七斗弐升四勺 わしのす村
一三拾三石四斗壱升九合八勺　御免五ツ三厘
一壱石六斗七升壱合　欠口米石ニ五升ツヽ
〆　三拾五石九升八勺　内八石八斗三升壱合 石畑村 弐拾六石弐斗五升九合八勺 わしのす村
定納合四拾石四斗三升七合壱勺
　内納り方　内拾三石五斗壱升八合六勺 石畑村 弐拾六石九斗壱升八合五勺 わしのす村
一五升四合　内壱升三合 石畑村 四升壱合 わしのす村　先年より田高割如此　御苗場下
一壱斗八升　内九升 石畑村 九升 わしのす村　先年より二ツ割如此　両村水抱矢芝
一壱石　内五斗 石畑村 五斗 鷲巣村　先年より二ツ割如此　両村名主給
一拾三石六斗　皆わしのす村より出分　米納り

一五升　石畑村分　　仕出し米寅ノ冬分
一弐拾五石五斗五升三合壱勺
　此内　拾弐石八斗六升五合六勺　石畑村より出分
　　拾弐石六斗八升七合五勺　わしのすより出分
納り合四拾石四斗三升七合壱勺
右は卯年御皆済御目録、仍テ如件

石畑村名主
宝暦九己卯年十二月　　與三右衛門
鷲巣村名主
福嶋伊豆様御内　　金十郎
千種惣右衛門殿

「　当年御手代高橋豊八殿
此通御目録　大垣郡御奉行様へ一通上ル
同　御代様(官脱)へ一通上ル
伊勢福嶋伊豆様御内千種惣右衛門殿へ一通
右三通共御役所へ差上ル事　」

辰年石畑村・鷲巣村御神領御物成御皆済御目録

高辻弐拾五石六斗九升弐合六勺　（石畑村／鷲巣村）新開共

内
高弐斗三升四合　皆石畑村ニ当ル　永荒地
残高弐拾五石四斗五升八合六勺　内高弐拾弐石三斗弐升弐合石畑村
　高三石壱斗三升六合六勺鷲巣村
此御物成

一五石九升壱合七勺　　御定弐ツ
一弐斗五升四合六勺　　欠口米石ニ五升ツヽ
〆五石三斗四升六合三勺　内四石六斗八升七合六勺　石畑村
　六斗五升八合七勺　鷲巣村
一高辻六拾六石四斗四升壱合　石畑村／鷲巣村　田方　新開共
　此御物成　内高拾六石七斗弐升六勺　石畑村
　高四拾九石七斗弐升四勺　鷲巣村
一三拾三石四斗壱升九合八勺　欠口米石ニ五升ツヽ
一壱石六斗七升壱合　御免五ツ三厘
〆三拾五石九升八勺　内八石八斗三升壱合　石畑村
　弐拾六石弐斗五升九合八勺　鷲巣村
定納合四拾石四斗三升七合壱勺
　内納り方　内拾三石五年壱升八合六勺　石畑村
　弐拾六石九斗壱升八合五勺　鷲巣村
一五升四合　内壱升三合　石畑村　両村水抱矢芝
　四升壱合　鷲巣村　先年より田高ニ割　御苗場下
一壱斗八升　内九升　石畑村　先年より二ツ割　両村水抱矢芝
　九升　わしのす村　先年より二ツ割　杭木代米
一壱石　内五斗　石畑村　両村名主給米
　五斗　鷲巣村　先年より二ツ割
一壱斗三升　皆石畑村分　仕出し米
一壱斗弐升五合　皆石畑村分　卯ノ冬分
一三石弐斗　皆鷲巣村より出候　同断
　内壱石六斗餅米　辰ノ十一月分
一三拾五石七斗四升八合壱勺　米納り
　両村先納金代米
　此内　拾弐石六斗六升六勺　石畑村より出分
　　弐拾三石八升七合五勺　鷲巣村より出分
納合四拾石四斗三升七合壱勺

右は辰年御皆済御目録、仍如件
宝暦十庚辰年十二月

石畑村名主
與三右衛門
鷲巣村名主
金　十　郎

十二月五日神文相勤ル御代代成田利右衛門殿御出被成候
当番石畑村
與三右衛門

福嶋伊豆様御内
千種惣右衛門殿

又壱通ハ
郡　御　奉　行　衆様

又壱通ハ
当時之御代官
井上惣右衛門殿

八九　押越村年貢算用・請免・皆納目録

○大垣市万石町　林　正乗氏所蔵

元和七年押越村御物成一紙目録之事

一四百六拾弐石　御請米物成
一弐拾六石五斗五升一合　石畑・栗原ニて御当田物成
一弐石六斗ハ　山年貢
〆四百九拾壱石一斗五升一合　御公方
加壱石弐斗八升ハ　たら山手
加弐石ハ　彌藏ありき給
加六斗ハ　御当苗なわ代地　但七斗
加拾七石二斗一升五合　五升内壱斗五升作人前ニ有
元和七年夫せん米納ニシテ　加拾壱石四斗八升三合
〆五百廿三石七斗二升九合　内
四百六拾五石一斗五升ハ　田畠六拾弐町弐畝　物成反ニ七斗五升代　但元和六年毛付六拾弐町三畝　内壱畝彦左衛門手前当あれニ引
拾石一斗二升　いやしき八反四畝十歩物成
弐石八斗六升五合　栗原田物成可納弐石九斗四升三合分　久四郎弁
弐拾三石八升六合　当田わり帳ニ在之分
三石八斗八升ハ　山手わり帳ニ在之分
拾弐石九斗四升ハ　かとなミわり帳ニ在之分
〆五百拾八石四升一合　加一斗五升四合桝之出め
残五石六斗八升八合
〆五石八斗四升二合

元和六年不足米　元八石三升二合分　内五石六斗四升七合ハ四わり　弐石三斗八升五合ハ五わり　但弐町ニてかり分

○大垣市東外側町　大垣市立図書館所蔵

押越村当御請米之事

一四百七拾四石四斗七升四合
一拾八石九斗六升二合　鳴田村ニて御当田
一弐石六斗七升ハ　山年貢
一八石六斗七升ハ　おさ村ニて御当田

〆五百四石七斗七升六合

右之通ニ御請申上うへハ、失人・死人又ハ不成百姓御座候共、惣請之儀ニ御座候間、来十月廿日以前ニ、一粒も不残急度御皆済可仕候、仍後日之出状、如件

寛永三年
九月四日

おしこし村
兵、左衛門（花押）
九左衛門（花押）
里左衛門（花押）

右之外ニ、石畑村ニて御当田畠御内検之帳面にて被召上候、以上

兵　介（花押）
彦左衛門（略押）
彌三郎（略押）
新　介（略押）

御勘定所

卯
寛永四年押越村免わり一紙目録之事

一四百七拾四石四斗七升四合　御請米元納四百六拾弐石分
一弐石六斗七升ハ　山年貢元納弐石六斗分
　〆四百七拾七石壱斗四升四合
一拾弐石四斗一升五合　石畑村ニて当田物成御内検也
一拾八石九斗六升弐合　嶋田村ニて当田ノ御物成
一八石六斗七升　表佐村ニて当田物成
合五百拾七石壱斗九升一合　御公方
　加壱石三斗一升五合　たら山手

加弐石ハ　卯ノ年ありき給分
加三拾壱石八斗三升二合　卯ノ年夫米納ニシテ
加弐拾四石七斗七升六合　寅ノ年不足米拾五石四斗八升五合分六わりニシテ
加七斗九升二合　卯ノ年懸金小判拾壱両壱分と銀三匁四分代米、地下取かへ申衆ハ、壱両ニ付納ニシテ弐石五斗つゝ、重て九津見殿より御さん用ニハ、壱両ニ付弁数弐石六斗つゝ、此かへ米壱両ニ付七升つゝ也

惣合五百七拾七石九斗六合
内
拾石三斗九升五合　いやしき八反四畝十歩　定米
　但　反ニ付壱石弐斗三升三合
五百九石八斗四合　田畠六拾弐町弐畝　定米
　但　反ニ付八斗弐升弐合
三拾六石六斗三升三合　当田わり帳面分
四石三升三合　山手わり帳面分
拾六石五斗三升ハ　かとなミわり帳面分
　〆五百七拾七石三斗九升五合　有　米
残て五斗一升一合　卯之年不足米有

辰之年
寛永五年押越村免わり算用一紙目録之事

一四百四石弐斗弐升ハ　辰之御物成
　但　高七百弐拾八石八斗五升、

此取五つ五分たら山年貢共ニ、
但徳永殿免ノ内前後ニ壱つ免也

〆
壱石弐斗ハ
　たら山手
三拾三石七斗四升ハ
　卯年分残米百弐拾五斗分売そん（ママ）
　其外小判かり上分利足共ニ、残
　米壱石ニ付、弐斗八升つゝ
六拾石七斗六升弐合
　辰之年入免納ニシテ、ありき給
　分共ニ
六斗六升四合ハ
　卯之年不足米五斗一升一合分三
　わりニシテ
〆五百石五斗八升六合
　内
八石四斗三升三合
　いやしき八反四畝十歩　定（米）
　但　反ニ付、壱石代ニシテ
四百七拾四石三斗ハ
　田畠六拾弐町　定米
　但　反ニ付七斗六升五合代ニ
　シテ但此外田方弐畝すき
　なた川かけニ、兵左衛門
　手前当毛より引
　山手わり帳面分
拾弐石四斗ハ
　くろかや役わり帳面分
〆四百九拾九石壱斗三升四合
残て壱石四斗五升弐合　辰之年不足米分

多喜部之内
押越村辰之歳御年貢米納表之事

一四百四石弐斗弐升
　内
　百三拾四石三斗七升五合　金子ニて納
残て弐百六拾九石八斗四斗五合　板倉周防殿御判桝之納
　此俵数五百三拾九表三斗四升五合
　寛永五年辰ノ
　極月廿九日

寛永七年午ノ年押越村免わり一紙目録之事
一三百四拾六石六斗六合　但　惣高ニ四つ七分五りん六毛当
　内弐石六斗七升　山年貢
一弐石六斗七升　山年貢八重出し分
〆三百四拾九石弐斗四升六合
　加八石三斗六升三合　巳ノ年不足米六石四斗四升分三わりニシテ、但　卯年ロぬキ米共ニ
　加壱石四斗五斗七合　午ノ年御たねかし米五石ニ三わりニシテ、元五石ハ未ノ年も村中ニかり置申候
　加弐斗四升　午ノ年御蔵敷地分
　加弐石六斗五升　同ありき給夏秋三石之内夏分五斗を秋分弐石分ニシテ、夏分五斗ハ三月までの不足ニ引
　加八拾石三斗六升八合　同年ノ入免、但　堤代巳ノ年米ノ売かん

加拾石
加弐石
〆四百五拾四石三斗五升四合
内
五石四斗三升
拾八石五升
四百三拾四石
八石四斗三升三合
〆四百六拾五石九斗壱升三合
残て拾壱石五斗五升九合　過

（寛永七年）
午ノ年三分一金わりさん用
一四拾七両壱分のわり之内 四拾弐両三分 銀五匁御公方上申候
残て四両壱分 銀九匁弐分五りん之内
弐両弐分 銀四匁一分ハ　但 ねたんちかい壱両ニ付、一斗五升つゝ出目、右ハ午ふゆハ弐石五斗わり仕候へ共、未三月ニ弐石六斗五升禰段定申候ちかい也
壱両三分
銀五匁一分五りん
外ニ三分
但 午ノ年三分一払越分 此米四石八斗八升御蔵不足ニ有 清太夫殿御たい所へもち米弐石代ニ取、但 壱両ニ付弐石六斗五升かへ
同川成堤切口引物、但 壱町四反三畝ほと
同清太夫殿御たい所入ノもち米
山年貢
くろかや
田畑六拾弐町、但 反ニ七斗代ニシテ
いやしき八反四畝十歩、但 反石代ニシテ
三口合五両　銀九匁二分五りん
内弐両　八匁　此米請取面四石八斗八升 右御蔵不足分ニ引
引残て三両　銀壱匁弐分五りん
加壱両　銀三匁六分　巳ノ年上ちや・上わた代 わた壱貫七百目　ちや四斤代
加壱分
〆小判四両壱分　銀四匁八分五りん
此米拾石八斗四升三合　但壱両ニ付蔵俵弐石五斗かへ
但 うけ取納拾石五斗弐升七合過
過上二口合弐拾弐石八升六合　過
此米田畑居やしき共ニ、六拾弐町八反四畝十歩ニ、反ニ三升六合つゝわり付、不足米五斗五升六合、村中預ニて御さ候

多藝郡押越村辰ノ年御成か之事
仕上御さし出し候事
寛永拾七年
一高七百弐拾八石八斗五升　田畑屋敷共ニ
此取三百五拾七石壱斗三升六合　但高ニ付四ツ九分取
弐石六斗七升　山年貢
徳永殿御代如此御納所申上候
一麦弐拾四石五斗五升弐合　但麦弐升五合ニ付、米壱升して御年貢米ニさし次申候
此代米九石八斗弐升壱合

〃　徳永殿御代ニ如此ニ御座候
一高五千石ニ付　壱人　御たい所夫被召遣候

売上物之覚

一わた壱貫七百目　但、是ハ年々其ノ年ノ相場ニ代物被下候
一せんしちや四斤　但、是ハ年々其ノ年ノ相場ニ代物被下候
右之通り不残指出し仕上申候、若何ニてもかくしおき申おゐてハ、何様ニも其一村曲事ニ可被仰付候、仍為後如件

寛永十七
辰十一月十四日　　次兵衛（おしこし）
　　又次
　　兵左衛門

鹽原當左衛門殿
村半子兵衛殿
春山與三左衛門殿
福井彦左衛門殿

跡

多蘂郡押越村御成か之事

一高七百弐拾八石八斗五升　田畑屋しき共ニ
此取三百弐拾七石九斗八升弐合　但高ニ付四ツ五分取
（うし年）
一高七百弐拾八石八斗五升　同
（とらノ年）
一高七百弐拾八石八斗五升　但高ニ付五ツ取
（卯ノ年）
一高七百弐拾八石八斗五升　同
此取三百弐拾八石八斗三合　但高ニ付三ツ七分
一高七百弐拾八石八斗五升　四りん弐毛取
同
此取三百五拾七石壱斗三升六合　但高四ツ九分取

おく書ハ、御免定之通り也

（寛永十七）
辰十一月十日

若佐様上申候　跡

承応三年午ノ押越村皆済目録

一千五百弐拾七表壱斗　御免定面　欠口米共
一七表四合　午ノ年山年貢
一弐表四升　巳ノ年借米　但　御勘定之時
〃千五百三拾六表壱斗四升四合

内

一千弐百七拾九表　左小兵衛手形共ニ駒野日下丸御蔵ニ入
一拾　表　御中間給米
一七拾三表　御種借ノ元
一弐拾四表　麦弐拾四石代米
一拾四表弐斗六升六合　大豆八石八斗代米
一六　表　茶綿ノ代米
一弐　表　もミたね代米
一拾三表三斗　六郎兵衛・茂兵衛殿ニ納ル
一七拾壱表七升　御手形米

一四拾弐表三斗八合　所御蔵ニ有り
〆皆済也

承応三年午ノ極月廿二日

押越村庄屋
太兵衛
同
長兵衛
兵左衛門
次兵衛
兵　介
權兵衛
小平次
彦太夫
十兵衛
五郎兵衛
次郎左衛門
彌三郎

岩田　六郎兵衛殿

享保三戌年免割目録

一米弐百四拾六石四斗四升五合
内
百九拾八石九斗六升三合　田反四斗壱合七勺
四拾七石四斗八升弐合　畑反弐斗三升九合五勺四才
〆
外

養老町史　史料編

壱石九斗　山年貢

夫米目録

一弐石七斗七升弐合　神田　六石三斗
一六　斗　三所渡船賃　今尾・福束・船付
一四　斗　御蔵屋鋪
一弐　斗　西福寺ゑ毎年入
一五石弐斗六斗六合　御口米
一壱石六斗八升五合　同弁　但　五斗かへ之積
一三　石　御籾拾石弁
一拾八石七斗壱升九合　三分一金百拾七両　銭三拾三文弁
但　御公儀直段五斗替之積り
一五　石　酉ノ御詰籾代米
一六石三斗六升六合　酉欠米
一四斗四升　宿入用米
一八拾九石五斗六升壱合　取替駄賃日用
〆百三拾四石九合
内
五拾八石八升八合　砂入過
残七拾五石九斗弐升壱合
内
七拾六石弐斗九升七合　反壱斗六合
残三斗七升六合　後夫米

内
九斗五合　後　払
六升五合　後日用落分共
壱升九合　七左衛門引地不足ノ分
残六斗壱升三合　不　足
内
九斗六升六合　町引得過
四　合　宿入用積り過
残三斗五升七合　過
此代金弐分　銭百五文　亥ノ請取帳ニ出ル
亥二月十二日

付　大ほら山年貢定
○押越　渋谷保之氏所蔵

相定申大ほら山御年貢之事
合三石ハ京升也
為後日ニ仍状如件
寛永八年　河地彌兵衛（花押）
未二月四日　三輪權四良（花押）
おしこし村物中
中嶋兵太夫殿
まゐる

九〇　白石村年貢皆済目録
○養老公園　村上辨二氏所蔵

寅御物成米金勘定仕上目録　濃州多藝郡
一高百八拾八石五斗壱升四合　白石村
此取米三拾四石八斗三升　新田共
外
一米壱石四升五合　口米
此金壱両壱分　永六拾八文三分　但金壱両ニ七斗九升弐合七勺壱才
一米七石弐斗五升　山年貢
此金拾弐両　永七拾三文三分　但金壱両ニ六斗五勺
一米弐斗壱升八合　右口米
此金壱分　永百拾三文　右同直段
一米三斗七升七合　六尺給
一米壱斗壱升三合　御伝馬宿入用
一金壱分　永弐百弐拾壱文三分　御蔵前入用
納合　米三拾五石三斗弐升
金拾四両　永弐百弐拾五文九分
此払　御林守御扶持方
米三石五斗四升

米三拾壱石五斗九升　御廻米
米壱斗九升　五里外運賃
金拾四両永弐百弐拾五文九分　金納
米三拾五石三斗弐升

払合

金拾四両永弐百弐拾五文九分
外銀七分壱厘壱毛　包歩銀
此永拾壱文八分五厘

右は、去寅御年貢米金・小物成・高掛物共納払御請取手形を以、皆済御勘定仕上ヶ申候、以上

延享四年卯六月　多藝郡白石村庄屋　喜三郎㊞
同　曾平㊞
年寄　武右衛門㊞
同　留右衛門㊞
百姓代　久左衛門㊞

御郡代所

（裏書）「表書之去寅御年貢米金納払小手形を以、皆済勘定仕上相違無之候、若重て小手形等出候共、可為反古者也
卯七月　青次郎九郎㊞」

丑御物成米金御勘定仕上目録　白石村

高百八拾八石五斗壱升四合
一米三拾弐石八斗三升八合

外

一米七石三斗　山年貢
此代永九貫六百九拾壱文七分
一永九拾九文　林銭　亥より寅迄三ヶ年季　薬湯運上
一永五百文　懸高百八拾八石五斗壱升四合　御伝馬宿入用
一米壱斗壱升三合
此代永百拾弐文六分
懸高右同断
一米三斗七升七合　六尺給
此代永三百七拾五文八分
懸高右同断
一永四百七拾壱文三分　御蔵前入用
一米弐斗壱升九合　小物成口米
此代永弐百九拾文八分
一米九斗八升五合　口米
此代永壱貫六拾六文三分
一永拾八文　口永
米三拾弐石八斗三升八合

納合

永拾弐貫六百弐拾五文五分
外永拾文五分　包分銀

此払　　丑御普請扶持

米五斗五升七合五勺　　御林守給

米三石五斗五升　　五里外

米壱斗七升壱合四勺　　御廻米

米弐拾八石五斗五升九合壱勺

右は、去丑御年貢并高掛運上物・小物成・口米永共上納皆済仕候ニ付、御勘定仕上申候処、書面之通相違無御座候、百姓共えは庄屋方より請取手形相渡置、少も申分無御座候、以上

天明弐年寅十月

笠松
御郡代所

（裏書）
「表書之去丑御年貢并高懸小物成・運上物・口米永共上納皆済ニ付、令裏書遣之上は、以来如何様之書物雖差出、可為反古者也

寅十月　　（千種惟忠）千六郎右衛門印

」

寅御物成米金御勘定仕上目録

美濃國多藝郡　白石村

高百八拾八石五斗壱升四合
一米三拾五石壱斗壱合

外

一米七石三斗

代永拾六貫九百五拾壱文九分

一永九拾九文

一永五百文

一米壱斗壱升三合

代永百六拾六文

一米三斗七升七合

代永五百五拾三文九分

一永四百七拾壱文三分

一米壱石五升三合

代永壱貫六百三拾七文四分

一米弐斗壱升九合

代永五百八文六分

一永拾八文

納合

永弐拾貫九百六文壱分

外永拾七文四分

此払

米弐斗弐升九合

此籾四斗五升八合

米壱斗弐升九合

米壱斗七合四勺

米三石五斗五升

米六石九斗三升八合

林　銭　亥より寅迄中年三ヶ年季

薬湯運上

御伝馬宿入用

六尺給

御蔵前入用

口　米

小物成口米

口　永

包分銀

太餅籾

太餅米

右三割増

御林守給

宿渡米

米壱斗四升四合　　五里外
米弐拾四石三合六勺　　御廻米

右は、去寅御年貢并高懸・運上物・小物成・口米永共上納皆済仕候ニ付、御勘定仕上申候処、書面之通相違無御座候、百姓共ゑは庄屋方より請取手形相渡置、少も申分無御座候、以上

天明三年卯十月

笠松
御郡代所

「（裏書）
表書之通、去寅御年貢并高掛物・運上物・小物成・口
米永共上納令皆済候付、裏書遣之上は、以来如何様之
書物雖差出之、可為反古者也
（千種）
卯十月　千六郎右衛門印」

卯御物成米金御勘定目録

濃州多藝郡　白石村

高百八拾八石五斗壱升四合
一米三拾五石壱斗壱合

外

一米七石三斗　　山年貢
　代永弐拾貫八拾文三分
一永九拾九文　　林銭
一永五百文　　薬湯運上
一米壱斗壱升三合　　御伝馬宿入用
　代永百八拾四文弐分
一米三斗七升七合　　六尺給
一永四百七拾壱文三分　　御蔵前入用
一米壱石五升三合　　口米
　代永壱貫八百六文五分
一米弐斗壱升九合　　小物成口米
　代永六百弐文四分
一永拾八文　　口米
卯より未迄五ヶ年賦
一永三百八拾六文四分　　種麦拝借
一永弐百三拾文八分　　夫食拝借
　納合　米四拾四石五升
　永弐拾四貫三百七拾八文九分

外

永弐拾文三分壱厘　包分銀

此払

米三石八斗四升　　御林守給
米三拾壱石六斗三升八合　　御廻米
　内壱斗八升八合七勺　　五里外

右は、去卯御年貢并高懸小物成・運上物・口米永共上納皆済仕候ニ付、御勘定仕上申候処、書面之通相違無御座候、百姓共ゑは庄屋方より請取手形相渡置、少も申分無御座候、以上

天明四年辰十月

笠松
御郡代所

（裏書）
「表書去卯御年貢并高懸・小物成・口米共上納令皆済候付、裏書遣之上は、如何様之書物等雖差出之、可為反故者也
辰十月　　千　六郎右衛門㊞　」

辰御物成米金御勘定仕上目録

多芸郡
白　石　村

高百八拾八石五斗壱升四合
一米三拾五石壱斗壱合
　外
一米七石三斗　　山手貢
　此代永拾四貫四百八拾八文四分
一永九拾九文　　林　銭
一永五百文　　薬湯運上
一米壱斗壱升三合　　御伝馬宿入用
　此代永百四拾九文九分
一米三斗七升七合　　六尺給
　此代永五百文壱分
一永四百七拾壱文三分　　御蔵前入用
一米壱石五升三合　　口　米
　此代永壱貫四百八拾七文壱分
一米弐斗壱升九合　　口　米
　此代永四百三拾四文七分
一永拾八文　　御林立枯御払代
一永五百弐拾六文六分　　種麦拝借
一永三百八拾六文四分　　夫食拝借
右同断
一永弐百三拾文八分　　夫食拝借
卯より未迄五ヶ年賦
辰より申迄五ヶ年賦
一永五百弐拾弐文六分　　夫食拝借
辰より未迄四ヶ年賦
一永六百八拾八文　　夫食
　　種籾拝借
　納合　米三拾五石壱斗壱合
　　永弐拾貫五百弐文九分
　外
　　永拾七文　　包分銀
　此払
米三石五斗五升　　御林守給
米拾三石四升六勺　　宿渡米
米壱斗壱升四勺　　五里外
米拾八石四斗　　御廻米

右は、去辰御年貢并高掛もの・口米共上納皆済仕候ニ付、御勘定仕上申候処、書面之通相違無御座候、百姓共ゑは庄屋方より請取手形相渡置、少も相違無御座候、以上

天明五年巳十月

笠松
御郡代所

「（裏書）
表書去辰御年貢并高懸物・口米共上納令皆済ニ付、裏書遣之上は、以来如何様之書物雖差出、可為反故者也
巳十月　千　六郎右衛門㊞　」

巳御物成米金御勘定仕上目録

多藝郡
白石村

高百八拾八石五斗壱升四合
一米三拾五石壱斗壱合

外

一米七石三斗
　此代永拾五貫百七文九分
一永九拾九文
寅より巳迄中年三ヶ年季
一永五百文
一米壱斗壱升三合
　此代永百五拾四文壱分
一米三斗七升七合
一永四百七拾壱文三分
一米壱石五升三合
　此代永壱貫五百弐拾六文五分
一米弐斗壱升九合
　此代永四百五拾三文弐分

小物成
口米

一永拾八文
卯より未迄五ヶ年賦
一永三百八拾六文四分
右同断
一永弐百三拾文八分
辰より申迄五ヶ年賦
一永五百弐拾弐文六分
辰より未迄四ヶ年賦
一永六百八拾八文

納合　米三拾五石四斗七升八合
　永弐拾貫百六拾五文

外

　永拾六文八分　包分銀

此払

米三石八斗四升　御林守給
米拾壱石五斗　堤方御給扶持并宿渡
米弐拾石壱斗三升八合　御廻米

右は、去巳御年貢并高掛物等書面之通上納皆済仕候ニ付、御勘定仕上申候処相違無御座候、百姓共ゑは庄屋方より請取手形相渡置、少も申分無御座候、以上

天明六年午十月

笠松
御役所

口永
種麦拝借
夫食拝借
夫食拝借
夫食拝借
種籾拝借

「（裏書）
表書去巳御年貢并高掛物等上納令皆済付裏書遣之上は、以来如何様之書物等雖指出之、可為反古者也
午十月　千（千種）　銕十郎㊞　」

午御物成米金御勘定目録

高百八拾八石五斗壱升四合
一米三拾五石壱斗壱合

外

一米七石三斗
一永九拾九文
一永五百文
一米壱斗壱升三合

　此代永弐百八拾弐文四分

一米三斗七升七合
一永四百七拾壱文三分
一米壱石五升三合
一米弐斗壱升九合
一永拾八文
　卯より未迄五ヶ年賦
一永三百八拾六文四分
右同断
一永弐百三拾文八分
　辰より申迄五ヶ年賦
一永五百弐拾弐文六分
　辰より未迄四ヶ年賦
一永六百八拾八文

納合　米四拾四石五升
　永三貫百九拾八文五分
外永弐文七分

多藝郡
白石村

山年貢
林銭
薬湯運上
御伝馬宿入用

六尺給
御蔵前入用
口小物成米
口永
種麦拝借
夫食拝借
夫食拝借
夫食拝借
種籾拝借

包分銀

此掛

米三石五斗四升　御林守給
米拾弐石　堤方御扶持方并渡宿
米弐拾八石五斗壱升　御廻米

右は、去午御年貢并高掛等書面之通口米永共上納皆済仕候ニ付、御勘定仕上申所、書面之通相違無御座候、百姓共えは庄屋方より請取手形相渡置、少も申分無御座候、以上

天明七年未十月

笠松
御役所

（裏書）
「表書去午御年貢并高懸物等上納令皆済付裏書遣之上は、以来如何様之書物雖指出之、可為反古者也
未十月　千鎮十郎㊞　」

未御年貢皆済目録

高百八拾八石五斗壱升四合
一米弐拾四石六斗六升壱合

外

一米七石三斗
一永九拾九文
一永五百文
一米壱斗壱升三合

濃州多藝郡
白石村

山年貢
林銭
薬湯運上
御伝馬宿入用

此代永弐百三文三分

一米三斗七升七合　但濃州三分一石代直段金壱両付米五斗五升五合八勺弐才替
一永四百七拾壱文三分　六尺給　御蔵前入用
一米七斗四升　口米
此代永壱貫三百九拾四文八分　但濃州三分二石代直段金壱両付米五斗三升五勺四才替

一米弐斗壱升九合　小物成　口米
一永拾八文　口永
一永三百八拾六文四分　種麦返納
右同断
一永弐百三拾文八分　夫食返納
辰より申迄五ヶ年賦
一永五百弐拾弐拾文六分　右同断
卯より未迄五ヶ年賦
一永六百八拾八文　夫食返納
納合　米三拾弐石五斗五升七合　種籾返納
永四貫五百拾四文弐分

外永三文八分　包分銀
此払

米三石五斗四升　御林守給
米拾六石弐斗九升八合　宿渡米
米拾弐石七斗壱升九合　御廻米

右は、千種鐵十郎支配之節、去々未御年貢本途高掛物等書面之通令皆済ニ付、小手形引替一紙皆録相渡条、重て小手形出候共可為反古者也

寛政元酉年四月　辻　六郎左衛門㊞

申御年貢皆済目録

高百八拾八石五斗壱升四合

一米三拾五石壱斗八升五合　右村　庄屋
一米壱石五升六合　年寄
此代永壱貫五百七文　惣百姓

一米七石三斗　濃州多藝郡　白石村
一米弐斗壱升九合　山年貢　本途
一永九拾九文　小物成　口米
一永五百八文　林銭
一永拾八文弐分　当申より亥迄中年三ヶ年季　口永
一米壱斗壱升三合　薬湯運上
此代永百五拾壱文六分　但濃州三分二石代直段金壱両ニ付米七斗七勺五才替

一米三斗七升七合　山年貢　御伝馬宿入用
一永四百七拾七文三分　但濃州三分一石代直段金壱両ニ付米七斗四升五合五勺四才替
一永五百弐拾弐文六分　六尺給米
但右同直段
御蔵前入用
辰より申迄五ヶ年賦
夫食代返納

一永百文　　申より子迄五ヶ年賦
　　右同断
一永六百文　　右同年賦
　　右同断

合　米四拾弐石七斗四合
　永四貫四百八拾三文四分

此払

米三石八斗四升　御林守給渡
米拾九石七斗　品々渡方置米
米壱斗壱升四合三勺　御廻米五里外渡
納合　米拾九石四升九合七勺
　永四貫四百八拾三文四分

外永三文七分　包分銀

右は、去申御年貢本途・小物成・口米永高掛返納物等書面之通令皆済ニ付、小手形不残引替一紙目録相渡候上は、重て如何様之手形差出候共、可為反故者也

寛政元年酉四月　　辻　六郎左衛門㊞
　　右村
　　庄屋年寄
　　惣百姓

九一　金屋村皆済目録

○金屋　西脇和夫氏所蔵

午皆済目録

高四百五拾九石七斗五升

此納

一米九拾九石六斗八升四合
一永三貫五百弐拾九文三分
　此米弐石九斗九升壱合
一永六百弐文五分
　此米四斗
一永拾八文壱分
　此米壱升弐合
一米弐斗七升六合
一米拾壱石五斗
　此籾弐拾三石
一米四石
　米百拾五石四斗六升
納合　永四貫百四拾九文九分
　此払
米五石七斗五升
　此籾拾壱石五斗
米九拾八石壱斗五升弐合三勺
永七百拾三文九分

濃州多芸郡　金屋村

本途
口米石代
但金壱両ニ付　八斗四升
七合四勺八才
野年貢石代
但金壱両ニ付　六斗六升
三合八勺六才
口米石代
但右同直段
御傳馬宿入用
辰熱田御詰籾代米
巳置米
御詰籾代米
御廻米
増米石代

此米六斗五合　但金壱両ニ付　八斗四升
七合四勺八才
永弐貫三百拾四文弐分　欠米石代
此米壱石九斗五升壱合七勺　但三拾五石ニ付　金四拾
壱両弐分替
米壱石壱合　五里外運賃
永四貫百四拾九文九分　金納
米百四石九斗三合三勺
払合　外米八石　午置米
永七貫百七拾八文
外六文　歩永
右は、去午御年貢并小物成・口米、石代諸納方共皆済之所仍如件
寛延四年未六月　川崎平右衛門㊞
右村
庄屋
年寄
惣百姓

戌年御物成皆済目録
高四百五拾九石七斗五升　濃州多藝郡
一米拾六石弐斗弐升四合　金屋村
此訳
七石三斗八升七合五勺　不熟米願金納
此永五貫弐百拾壱文四分
弐石四斗六升弐合五勺

内　此永壱貫七百七拾九文三分　但金壱両ニ付壱石
四石九斗弐升五合　三斗八升四合替
此永三貫四百三拾弐文壱分　但金壱両ニ付壱石
八石八斗三升六合五勺　四斗三升五合替
米納
外
一米四斗八升七合　口米
此永五百四拾九文九分　但金壱両ニ付米八斗八升
五合六勺七才
一米四斗六升　野年貢
此永六百四拾九文三分　但金壱両ニ付米七斗八合
四勺三才
一米壱升四合　右口米
此永拾九文八分　但右同直段
懸高弐百四拾三石八斗弐升五合
外弐百拾五石九斗弐升五合
一米壱斗四升六合　御傳馬宿入用
此永百五拾弐文三分　但金壱両ニ付米九斗五升
八合四勺三才
懸高三斗九升八合
外高四百五拾九石三斗五升弐合
一米壱合　六尺給
此永壱文　但右同直段
一永壱文　御蔵前入用
一米五斗　未御詰籾
此籾壱石　申御詰籾
一米壱石五斗

此籾三石
一米壱石五斗　　酉御詰籾
此籾三石
納合　米拾弐石三斗三升六合五勺
永六貫五百八拾四文七分

此払

米壱石五斗　此籾三石　　申御詰籾
米壱石五斗　此籾三石　　酉御詰籾
米五斗　此籾壱石　　当戌御貯籾
米壱石　此籾弐石　　当戌御膳籾
米三石六斗八升　　増代米
是ハ御膳籾弐石、但壱石ニ付米壱石三斗宛
御貯籾壱石、但壱石ニ付米壱石八升宛
米五斗　此籾壱石　　当戌太餅籾
米壱斗五升　　右三割増
米弐升四合　　御膳籾
米弐石九斗八升弐合五勺　　太餅籾五里外
米四斗九升五合　　御普請扶持米渡
米五合　　御廻米
右五里外

右は去戌御年貢本途其外書面之通皆済ニ付、度々相渡候小手形引替一紙目録遣之者也

安永八年亥七月　　（石原）石清左衛門㊞

右村　庄屋　年寄　惣百姓

巳年皆済目録

濃州多藝郡　金屋村

高四百五拾九石七斗五升
一米七拾四石弐升五合　　本途見取共
一米弐石弐斗弐升八勺　　口米　卯より未迄五ヶ年米納
一米四斗六升　　野年貢
一米壱升三合八勺　　右同断　口米
一永百弐拾五文　　寅より午迄五ヶ年季
一永三文八分　　水車運上
一米弐斗七升六合　　口永
此永六百九拾六文四分　　御傳馬宿入用
但金壱両ニ付米三斗九升六合三勺三才

懸高九拾六石七斗五升　　助郷高免除
外高三百六拾三石　　六尺給
一米壱斗九升二合

懸高　外高　右同断
一永弐百四拾壱文九分　　御蔵前入用
一米壱斗八升壱合　　申酉戌貯夫食

此籾三斗六升弐合
一米壱石九升四合五勺
此籾弐石壱斗八升九合
一米壱石四升五合五勺
此籾弐石九升壱合
合米七拾九石弐斗三升三合六勺
永壱貫六拾七文壱分
此払
米壱斗八升壱合
此籾三斗六升弐合
米壱石九升四合五勺
此籾弐石壱斗八升九合
米壱石四斗五合五勺
此籾弐石九升壱合
米拾石八升六合
米弐斗弐升
米八升壱合三勺
米四斗七升七合六勺
御膳籾
御廻籾割増
御膳籾御廻籾川下賃
但米壱石ニ付
米六合四勺
御廻米川下賃
但米壱石ニ付
米八合
籾拾弐石三斗

廿分一御下穀
熱田御詰籾
笠松御詰籾
貯夫食廿分一御下穀
熱田御詰籾
笠松御詰籾
御膳籾割増
御廻籾割増
御膳籾御廻籾川下賃

此米六石壱斗五升
納合
籾四斗
此米弐斗
米五拾九石六斗九升七合七勺
永壱貫六拾七文壱分
右は、去巳御年貢米永書面之通令皆済ニ付、小手形引替遣之もの也
天保五午年三月
右村
庄屋
年寄
惣百姓

御廻籾
江戸御廻米
籾負㊞

申年皆済目録
高四百五拾九石七斗五升
一米弐拾三石五斗四升九合
一米七斗六合五勺
一米四斗六升
一米壱升三合八勺
一永百弐拾五文
一永三文八分
一米弐斗七升六合

濃州多藝郡
金屋村
本途見取共
口米
野年貢
口米
未より亥迄五ケ年季
水車運上
口永
御傳馬宿入用

此永壱貫弐百三拾八文壱分　　但金壱両ニ付米弐斗弐升弐合九勺弐才

掛高九拾六石七斗五升
外高三百六拾三石
一米壱斗九升四合　助郷高免除
懸高
外高　右同断

一永弐百四拾壱文九分　　六尺給
一米壱斗八升壱合　　御蔵前入用
　此籾三斗六升弐合　　申酉戌貯夫食
一米壱石九升四合五勺　　廿分一御下穀
一米壱石四升五合五勺　　熟田御詰籾
　此籾弐石壱斗八升九合
一米壱石四升五合五勺　　笠松御詰籾
　此籾弐石九升壱合
一米四石六斗弐升五合　　去未臨時置米
米三拾壱石八斗六升九合三勺
合
永壱貫六百八文八分

　此払
米壱斗八升壱合　　貯夫食廿分一御下穀
　此籾三斗六升弐合
米壱石九升四合五勺　　熟田御詰籾
　此籾弐石壱斗八升九合
米三斗六升五勺　石津郡太田新田急夫食ニ拝借被仰付、同村え貸渡相成、当酉より五ヶ年ニ割合可詰戻分
　此籾七斗弐升壱合

内

米七斗三升四合　　右同断ニ付、同郡宮地村え貸渡相成
　此籾壱石四斗六升八合　　右同断
米壱石四升五合五勺　　笠松御詰籾
　此籾弐石九升壱合
米三斗三升八合　　右同断ニ付、石津郡太田新田え貸渡相成、当酉より五ヶ年ニ割合可詰戻分
　此籾六斗七升六合
米七斗七合五勺　　右同断ニ付、同郡宮地村え貸渡相成、
　此籾壱石四斗壱升五合　　右同断
米弐石五斗九升九合　　御膳籾割増
米六升六合　　御廻籾割増
米五石　　臨時置米
米弐升壱合壱勺　　御膳籾御廻籾川下賃
　但籾壱石ニ付米六合四勺
米壱斗弐升六合四勺　　差減納不足之分置米
米壱合　　置米
米壱斗四升九合四勺　　御廻米川下賃
　但米壱石ニ付米八合
米壱石弐斗六升五合九勺　　畑方引戻之分
籾三石壱斗七升　　御膳籾
　此米壱石五斗八升五合
　籾壱斗弐升　　御廻籾
納合　此米六升
米拾八石六斗七升四合五勺　　江戸御廻米
永壱貫六百八文八分

右は去申御年貢米永書面之通令皆済ニ付、小手形引替遣之もの也

天保八酉年三月　　觸　　負㊞

右村
庄年寄
惣百姓　屋

九二　小倉村年貢皆済目録

○小倉　栗田嘉三氏所蔵

寅御物成米金御勘定仕上目録

多燒郡
小倉村

高四百三拾弐石六斗六合
一米百拾八石弐斗七升三合

内　五升五合　見取

外

一米三石五斗四升八合　口米
　此永四貫七百四拾五文五分　但金壱両ニ付米七斗四升七合六勺五才
一米三斗七升五合　山年貢
　此永六百八拾三文三分　但金壱両ニ付米五斗四升八合八勺四才
一米壱升壱合　口米
　此永弐拾文壱分　但右同直段
一永三百六拾六文七分　池運上
一永拾壱文　右口永
一永八百七拾三文四分壱厘　霞代
一米八斗六升五合　六尺給
　此永壱貫八拾弐文八分　但金壱両ニ付米七斗九升八合八勺四才
一米弐斗六升　御傳馬宿入用
　此永三百弐拾五文五分　但右同直段
一永壱貫八拾壱文五分　御蔵前入用
一永弐拾弐文　野銭
一永百弐拾壱文　林銭
一永四文三分　口永
一米七斗五升　子御手当籾代米
　此籾壱石五斗
一米壱石四斗壱升五合弐勺　夫食返納
一永壱貫九拾壱文七分弐厘　同断
一米六石　丑御詰籾摺替廻
　此籾拾弐石
　永拾貫四百弐拾八文八分三厘
納合　外永八文七分　包歩銀
　米百弐拾六石四斗三升八合弐勺
　此払
米九石　御詰籾代米
　此籾拾八石
米三石八斗四升　御林守給置米
米壱石八斗三升　卯春役扶持

米壱石八斗六升弐合五勺　　寅春役扶持
米六斗五升五合五勺　　五里外運賃
米百九石弐斗五升弐勺　　御廻米

右は去寅御年貢幷小物成・高掛物・口米永共上納皆済仕候ニ付、御勘定仕上申候所、書面之通相違御無座候、百姓共ゑは庄屋方より請取手形相渡置、少も申分無御座候、以上

宝暦九年　　小倉村庄屋　甚左衛門㊞
卯十月　　年寄　孫　市㊞
　　同　平　太　夫㊞
　　百姓代　仙右衛門㊞

笠松
御郡代所

（裏書）「表書之通、去寅御年貢幷高掛物・口米永共上納令皆済ニ付、裏書遣之者也
卯十月　　千清右衛門㊞」

九三　栗笠村免割符帳

○栗笠　高橋嘉幸氏所蔵

（表紙）「文政七年
申年御免割苻帳」

覚

一米弐百八拾七石六斗九升六合　　多羅郡栗笠村
　御口米拾石八斗七升五合
合米弐百九拾八石八斗七升壱合
　村高九百六拾壱石四斗七升七合ニ割賦
　　此免三ツ壱分　金五三三六八
一金拾六両　弐匁四分　　夫銀
一金拾壱両壱分　拾三匁七分　　傳馬銀
一金拾弐両三分　六匁　　堤銀
一金廿壱両　弐匁五厘　　麦成弁
一金七両壱分　拾壱匁五分六厘　　壱分　御上ヶ米
〆六十八両三分　五匁七分壱勺
右ハ御上納之上別段ニ割賦仕候、
一銀六拾九匁六分四厘
　是は、諸役人様御廻村ニ付諸入用、
　銭八貫百廿四文代銀
一銀弐拾壱匁七分壱厘
　是は、御地頭様・御役人様御廻村ニ付諸入用
　銭弐貫五百三十弐文代銀
一銀八拾壱匁三分五厘
　是は、い勢・あたご・南宮・多賀・多度・津島・西ノ宮・
　其外年内相対勧化寺社奉加、年内浪人・虚無僧等合力頼ミ

ニ付遣ス分

一金廿両　四匁弐分九厘
是ハ庄屋・組頭・定使給米并用水要水領米、御堤敷地弁米
禰宜・宿番人・地子相〆テ米弐拾壱石三升五合代

一金弐拾三両三分　三匁五分
是ハ御年貢米・運賃米納入用餅米・大豆上納并人馬代、鳥
運上繩竹代上納、未納拝借返納、江通浚人足・道直シ人足
代等〆テ

一金六拾三両弐分　五匁六分五厘
是ハ輪中組合要水落年内入用割当り、大谷川境イ入用割当
り、其外諸方組合割賦当りト川通り欠所繕ひ、猿尾繕ひ人
足自普請人足代、寄合入用等〆テ

一金三拾五両弐分　弐匁四分三厘
是ハ村借金利足年内水引人足代、名古屋鵜多須路用、宿下
用、下用、金六火災ニ逢ニ付失墜、堀松埋返し、人足賃其
外年内小日用等〆テ

一金廿四両壱分　拾弐匁六厘
是ハ神事入用、宗門帳入用、繩・竹・杭木・明俵・松明代
年内諸事小買物代〆テ

〆金百七拾両壱分　五匁六分三厘
高九百六十壱石四斗七升七合ニ割賦
高壱石ニ付、銀拾匁六分三り、金壱

但金壱両ニ付、米壱石四升八合かへ
銭七貫文かへ

右は、当申年御物成米、諸役米・諸掛り物代金、書面之通相違無御座候、惣百姓立合相改割符仕、以後少も申分無御座候、以上

文政七年
申十二月

右村高持百姓惣代
佐藤與三郎
同　治郎兵衛
同　丈右衛門
同　惣右衛門
佐藤萬三郎
元右衛門
治兵衛
文右衛門

庄屋格
佐藤多左衛門
庄屋
佐藤宇内

御代官御役所
御役所

九四　喜多村免割引入証文

〇勢至　野村辰夫氏所蔵

（表紙）「　喜多村御免割引入証文　」

御免割証文之事

一喜多村御免割并村諸入用物、例年は人別之割賦面折懸帳被召上候処、寛文元辛丑年より別て被為入御念、村諸入用米相帳面御改、然ル上ニて村中上納米并入用之諸色引入帳相認、委細御改互ニ申分無御座候哉、其旨連判之証文可差上之旨被仰付、難有奉存候、御仕置之趣御年貢米村入用之諸色申分無之ニ付、証文被　召上、難有奉存候御事

一辰年御年貢米御免状表御物成米、其外上納方并村入用之諸色惣百姓出作人迄壱人も不残立会、或は高掛り、或は家懸り役大小之歩ニ応シ明細ニ吟味仕、相対之上御免割仕、納方之儀大蔵御通ニ附村納庭帳書載、印形之押切ヲ加へ、人別ニ相渡シ、并引入帳面人々え算用状請取、互ニ後日ニ申分仕間敷之旨御帳奥書相認、各判形仕御改御判を請、名主・年寄ニ預り置候御事

一名主替り申節は、引入帳并旧記之分村中立会御帳共ニ相改、次之名主へ相渡可申候御事

右之通辰年御物成方割賦仕、御改御判申請候ニ付、私共人々被召出、非分之割物等無之哉、惣百姓出作人共ニ合点之上致分符候哉、自然申分有之候ハヽ只今委細ニ可申上候、御改判形相済候以後、何角と申迫んもの於有之ニは、曲事ニ可被仰付之旨委細被　仰聞候得共、割賦仕候ハて不叶、入用之儀何も合点之上割賦仕候ニ付、互ニ申分無御座候、若不届者御座候て、後日御免割諸割賦之次第不奉存と申族御座候ハヽ、此証文を以理非不及御僉儀何分之御仕置ニも可被　仰付候、其時一言之御詫仕間敷候

一寛延三庚午年迄右証文差上申候処、右証文御赦免被　仰付、御免割帳并小入用帳写ニ連印仕差上候様ニ被　仰付之、明和二乙酉年迄写帳面被　召上候処、近年認方多く罷成迷惑仕候ニ付、御願申上候故、右写帳面之儀暫ク御赦免被下置、前々之通証文差上候様ニ被　仰付難有奉存候、然上は右証文之通屹相守可申候、仍証文如件、

天保四癸巳年六月

石畑村
武　八
櫂　三　郎
丹　次
藤　四　郎
豊　八
八　兵　衛
利　助
太　藏

（以下連名三段組トス）
作次郎　次　助
惣兵衛　惣右衛門支配
惣右衛門　儀　平　次
市左衛門　多　藏
惣吉後家　甚　八
龍泉寺村
十郎兵衛　金　兵　衛
勢至村
話　吉

高田町
庄　六　字　吉　忠　藏
代判林右衛門
丑　之助　次郎左衛門　藤　次
（ママ）　五人組頭
八郎次次　八郎右衛門　林右衛門
名主
庄　藏

御代官
御役所

九五　中村年貢米諸上納免割帳

○中　高木享一氏所蔵

（表紙）
「　嘉永七甲寅年
丑年中村御年貢米諸御上納御免割帳
六月　」

御免帳前書之事

一中村御免割御物成米并夫役米・村入用米惣百姓立会熟談納得之上割賦仕、并村入用之諸色御免割帳人別ニ引入、御改之御判請之、右引入帳面名主方ニ預り、引入帳面之通り聊申分無御座候旨惣百姓連印之証文被　召上候処、寛延三庚午年より証文御赦免被　仰付、御免割帳并小入用帳写連印仕差上候様被仰付、明和二乙酉年迄写帳面被　召上候処、近年認メ方多ク罷成迷惑仕候ニ付御願申上、右写帳面之儀暫ク御赦免被下置、難有奉存候、御免割小入米人別立会割賦仕、聊申分無御座旨帳面奥書連印仕、御改之御判を請名主所持仕、前々之通り引入証文斗り差上候様被為仰付、尤御入用之節者、御改相済候御免割帳・小入用帳差上候様被　仰付奉畏候、右御請御免割帳前書仍如件

御宮当番他左衛門
神田分

一高弐石弐升四合四勺　御本田分
　米八斗壱升弐合六勺
皆米納り相済申候、以上

当番他左衛門
神田分㊞

支配人萬太郎
修覆地

一高八斗八升壱合三勺
　米三斗五升三合八勺　金弐分代米
　米三斗五升七合
　引て三合弐勺過米　代銀弐分七厘遣し済
右之通相済申候、以上

支配人萬太郎
修覆地㊞

應順寺

一高九石壱斗壱升九合七勺
内
高三斗四升弐合　諸引地
米七升四合五勺
高壱石六斗六升八合　入方分
米三斗八升弐合八勺
高七石壱斗九合七勺　御本田
米弐石八斗五升三合八勺
納合三石三斗壱升壱合壱勺
内
三升三合八勺　銭三百文代米
弐石壱斗壱升八合　金三両代米　直段拾七俵六分五厘替
米壱斗七升　守下年貢
六斗弐升四合八勺　金三分弐朱代米　直段拾七俵八分五厘替
六升壱合八勺　和平次より入
壱斗五升　吹蔵より入
引て壱斗五升弐合七勺　不足
代銀拾三匁九り　請取　直段拾七俵五分替
右之通差引相済申候、以上

應順寺㊞

彦右衛門

一高六拾石四斗四升三合四勺
内
高六斗四升壱合弐勺　永引地
高三石五斗三合六勺　諸引地
米七斗弐升壱合七勺
高拾弐石四升八合三勺　入方分
米弐石七斗六升五合壱勺
高四拾四石弐斗五升三勺　御本田
米拾七石七斗六升弐合壱勺
納合弐拾壱石弐斗四升八合九勺
加テ三升六合三勺　役米
〆弐拾壱石弐斗八升五合弐勺
内
壱升四合五勺　砂置下
弐合五勺　同断
八斗八升弐合　又市分
壱石弐斗三升　磯八分
七石六升　冬金拾両代米　直段拾七俵六分五厘
六斗三合六勺　戻り米
六合六勺　沖番
壱升四合九勺　冬百三拾弐文代米
壱升四合九勺　冬百三拾弐文代米
壱斗三升壱合四勺　秋壱貫七拾弐文代米

六升壱合五勺
壱斗九升
七升三勺
八合七勺
弐升九合八勺
弐斗壱升九合九勺
五升九合八勺
壱升五合三勺
壱升六合三勺
六合弐勺
壱升弐合五勺
三斗
壱升六合
八合
壱石五斗九合
七斗三升五合七勺
七斗三升五合七勺
六斗壱升九合四勺
壱石弐斗三升八合八勺
弐石六斗三升五合七勺
壱石六斗弐升壱合九勺
三斗四升壱勺

冬五百四拾五文代米
取替米
同断
冬七拾七文代米
冬弐百六拾九文代米
秋壱貫七百八拾九文代米
冬五百三拾文代米
冬百文代米
秋百三拾弐文代米
秋五拾文代米
夏百文代米
御検見下見ニ付
右ニ付日役壱人分
日役半日分
春金壱両壱分代米
春金三分弐朱代米
春金三分弐朱代米
夏金三分代米
夏金壱両弐分代米
秋金三両壱分代米
秋金弐両代米
秋金壱分弐朱代米

四斗六升五合
壱石壱斗六升四合
壱升六合
三升弐合
弐升
三斗弐升三合八勺
壱升四合九勺
壱合七勺
三斗四升弐合四勺
壱石弐斗
弐石
壱升六合壱勺
壱升三合五勺
壱升九合
八合
四斗
四斗
三斗七升
壱斗七升
六合三勺
壱斗
弐升七合

冬金弐分弐朱代米
取替米
日役銀壱人分代米
日役銀弐人分代米
村井水
松明百五拾丁代米
割木三束代米
ろうそく三丁代米
両井水
豊村嘉右衛門より入
下作ぇ取替米
竹弐本代米
秋銀壱匁代米
秋銀壱匁九分代米
十六村行
捨藏より入
國藏より入
多七より入
鐵次郎より入
他左衛門より入
御検見ニ付
室原村より入

壱石四斗弐升八合　　秋金弐両代米
弐斗　　茂三郎より入
〆弐拾八石七斗九合四勺
差引七石四斗弐升四合弐勺　過
内
七石壱斗五升四合四勺　　隠居分ゑ入
弐斗　　室原村善七ゑ入
壱升　　善重郎ゑ入
小以〆七石三斗六升四合四勺引
残て五升九合八勺　過
代銀五匁壱分三厘　戻し
右之通相済申候、以上

彦右衛門㊞

但し直段拾七俵五分替

彦右衛門隠居分

一高弐拾壱石三斗五合九勺
内
高壱斗八升三合　　諸引地
米三升七合七勺
高六石六斗七升　　入方分
米壱石五斗三升八勺
高拾四石四斗五升弐合九勺　　御本田
米五石八斗壱合四勺

納合七石三斗六升九合九勺
内弐斗壱升五合　　戻り米
引て七石壱斗五升四合九勺　　彦右衛門より入
右之通相済申候、以上

彦右衛門
隠　居　分㊞

他　左衛門

一高三拾八石七斗七合弐勺
内
高四斗壱升九勺　　永引地
高弐石五升四合三勺　　諸引地
米四斗弐升三合弐勺
高五石七斗三升四合壱勺　　入方分
米壱石三斗壱升六合
高三拾石五斗七合九勺　　御本田
米拾弐石弐斗四升五合九勺　　役米
加テ三升六合三勺
納合拾四石弐升壱合四勺
内
三斗八升六合五勺　　戻り米
六合六勺　　沖番
三合六勺　　冬銭三拾弐文代米
八升三合　　夏銭六百六拾壱文代米

七合三勺
壱斗三升
三升三合四勺
壱斗壱升九合三勺
壱斗六合弐勺
弐斗弐升五合

弐升
三斗壱升五合三勺
五斗壱升六合弐勺
六斗壱升九合四勺
五斗弐升五合五勺
壱石三斗壱升七合八勺
弐斗弐合七勺
八斗壱升壱合
四斗五合五勺
三斗壱升五合三勺
五斗四升七合九勺
八合

四升
壱斗
弐石壱斗壱升八合

冬銭六拾四文代米
取替米
冬銭三百文代米
秋銭九百六拾九文代米
冬銭百四拾四文代米
御検見ニ付日役并下用米
共〆
右ニ付日役壱人弐歩
春金壱分弐朱代米
夏金弐分弐朱代米
夏金三分代米
春金弐分弐朱代米
秋金壱両弐分弐朱代米
秋金壱分代米
秋金壱両代米
秋金弐分代米
去十二月壱分弐朱代米
取替米
御検見ニ付日役
山伏初穂米
村井水
金三両代米
直段拾七俵六歩替

四石
壱石弐斗
六升弐合
壱斗
四斗九升壱合八勺
壱升五合
弐石五升弐合八勺
三斗
弐斗五升
壱斗弐升四合
五斗六升壱合八勺
小以〆拾八石三升九勺
内
六合三勺
三石七斗九升弐合壱勺
差引弐斗壱升壱合壱勺　過
代銀拾八匁壱分
右ぇ金壱分ト三百三拾九文遣し
右之通相済申候、以上

他　左衛門㊞
五　郎　次

一高壱石弐斗六合壱勺

米納り
下作ぇ取替米
両井水
御検見ニ付下見入用
甚右衛門より入
萬太郎より入
春金弐両三分弐朱代米
鐵次郎より入
捨蔵より入
雄平より入
多七より入

又市分徳米
彦右衛門ぇ入
休次郎ぇ入

内
高八升九合四勺　永引地
高四斗八升六合七勺　入方分
米壱斗壱升壱合七勺
高六斗三升　御本田
米弐斗五升弐合九勺
納合三斗六升四合六勺
加テ弐升七合八勺　役米
〆三斗九升弐合四勺
内
壱升壱合三勺　戻り米
六合六勺　沖番
壱斗壱升四合　村井水
三升四合　両井水
小以〆壱斗六升五合九勺
引て弐斗弐升六合五勺　不足
内
弐升三合弐勺　助儀分高当り引
引て弐斗三合三勺不足
代銀拾七匁四分弐厘　直段拾七俵五分替
右ぇ壱分弐百六拾四文請取
右之通相済申候、以上

五　郎　次㊞

（中略）

右は従先規御作法之通丑年御免割・御物成米・夫役米、其外御上納方村入用之諸色、惣百姓・出作人迄壱人も不残立会、或いは高懸り、或いは家懸り役村法を以、大小之歩ニ応シ明細ニ吟味仕、惣百姓納得之上御免割相済納方之儀、大蔵御通ニ附、村納庭帳ニ書載、印形押切を加ぇ、人別過上未進勘定差引算用状名主より相渡、相違無之ニ附、算用状請取、印形銘々相調、帳面ニ御改之御判を請候ニ付、被　仰渡候は、惣百姓・出作人迄立会納得之上ニて、弥非分之割物等無之哉、聊ニても不納得之申分有之候は、只今委細可申上、御改之御判相済候、以後何角と申廻ル者於有之、曲事可被　仰付之旨被入御念、再応被　仰渡候趣銘々奉承知候、然ル上は、御改之節御断不申上、若不届者御座候て、後日御免割諸割賦之次第不奉存、非分之割物等有之段申出候族有之候は、此帳面奥書之趣を以不及　御僉議、本人之儀は勿論、此連判之者共如何様之御仕置ニも可被　仰付、其時一言之御断御詫申上間敷候、為後々年御免割帳奥書連判仍如件

神事当番他左衛門
神　田　分㊞　應　順　寺㊞
（以下連名二段組トス）
他左衛門㊞　彦右衛門㊞
彦右衛門支配
隠　居　分㊞　五　郎　次㊞

雄平㊞　定太郎㊞
藤重郎㊞　植次郎㊞
長次郎㊞　長次郎支配半五郎分㊞
市次郎㊞　和八㊞
蓮澤寺㊞　藤五郎㊞
和作㊞　伊平㊞
佐六㊞　伊助㊞
藤右衛門㊞　善藏㊞
嘉七㊞　文三郎㊞
市助㊞　七右衛門㊞
淺七㊞　九市㊞
嘉兵衛㊞　兵八㊞
三九郎㊞　休三郎支配長藏㊞
荘福寺㊞　代判萬太郎正覺寺㊞
甚兵衛㊞　茂平㊞
園左衛門㊞　治左衛門㊞
高木喜一郎㊞　傳左衛門支配休次郎分㊞
他左衛門支配休次郎分㊞　八平㊞
休藏支配彦七分㊞　休左衛門㊞
藤内㊞　嘉右衛門㊞
六之助㊞　藤次郎

寅改
十月六日

彌右衛門㊞　休三郎支配藤七㊞
九郎作㊞　善七㊞
萬太郎支配甚兵衛分㊞　權次郎㊞
武藏㊞　甚右衛門㊞
り よ㊞　多八後家㊞
與三郎㊞　捨藏㊞
多七㊞　與三次郎㊞
周藏㊞　さゑ㊞
國次郎㊞　休七㊞
代判善十郎善左衛門㊞　傳左衛門㊞
七兵衛㊞　林平㊞
休三郎㊞　又七㊞
儀八㊞　萬太郎㊞
清六後家㊞　和平次㊞
茂三郎㊞　休藏㊞
岩治㊞　善重郎㊞
代判與三郎吹藏㊞　中村附名主惣久郎㊞

御代官㊞

ニ相渡し申候、為後日互手形取替申候、仍如件

寛永拾九年
午十二月廿日　　中嶋兵左「衛門」
太田勘右衛門殿
波田庄二郎殿

午年御物成米相渡ス覚

午十月二日
一米三拾表ハ　但　四斗壱合六勺五才入
此石拾弐石四升九合五勺
午十二月一日
一米百三拾六俵ハ　但　三斗九升七合七勺五才入
此石五拾四石九升四合
未之四月十二日
一米弐百拾俵ハ　但　四斗三合六勺入
此石八拾石七斗弐升
未ノ五月四日
一米八拾五俵ハ　但　四斗入
此石三拾四石
一米六拾五俵ハ　但　四斗三合七勺五才入
此石弐拾六石弐斗四升三合七勺五才
未五月廿六日
一米百五拾五俵ハ　但　三斗九升七合五勺入
此石六拾壱石六斗壱升弐合五勺
未之十月十九日
一米三拾壱俵ハ　但　三斗九升八合四勺四才入

九六　押越村年貢米納証文

〇大垣市東外側町　大垣市立図書館所蔵

多芸郡之内
押越村辰之歳御年貢米納表之事
一四百四石弐斗弐升
内
百三拾四石三斗七升五合　金子ニて納
残て弐百六拾九石八斗四升五合　板倉周防殿
此俵数五百三拾九表　御判升之納
三斗四升五合
寛永五年辰ノ
極月廿九日

付　押越村年貢納証文

〇大垣市東外側町　大垣市立図書館所蔵

相渡し申米之事
一米四百四拾八石九斗三升三合三勺弐才
右ハ、午之年御物成米之内、御扶持方米并ニ御給分米由□□（度々カ）ニ

此石拾弐石三斗五升弐合
午十月二日
一米弐拾四俵ハ　但　四斗壱合五勺入
此石九石六斗三升四合
午十二月九日
一米百拾俵ハ　但　四斗六勺入
此石四拾四石六升六合
未之四月二日
一米百五拾俵ハ　但　三斗九升九合四勺入
此石五拾九石九斗壱升
未之五月廿四日
一米拾三俵ハ　但　三斗八升九合入
此石五石五升七合
未之七月五日
一米拾三俵三斗九升五合　但　三斗九升弐勺五才入
此石五石三斗九升八合弐勺五才
未之四月廿八日
一米五石弐斗ハ　是ハ□替セ手形
十三俵内三俵おしこし分
十俵飯木分
未ノ六月八日
一米七石六斗ハ
未之十月十七日
一米弐拾三俵壱斗弐升ハ　但　三斗九升九合五勺入
此石九石三斗八合五勺
俵数合千四拾五表四斗四升五合
石合四百弐拾七石弐斗四升五合五勺也
右之通、度々ニ相渡シ、互ニ手形取替申候、以上
寛永弐拾年
未十二月十五日　中嶋兵左衛門判
波田少二郎殿　跡書也
太田勘右衛門殿

九七　堤勘右衛門年貢銭請取状（竪切紙）（影写本）

〇安八郡輪之内町　片野記念館所蔵

請取小判事
元和元年分、残米五拾五石弐斗五升分、壱両ニ付、弐石七斗七升弐合五勺宛、但大津ニ而合弐拾両者、（黒印）ノ相場、本納升定、但両かへ六拾五匁ニして
右所請取如件
元和三年正月廿一日　堤勘右衛門（黒印）（花押影）
田中傳左衛門殿

付　堤勘右衛門年貢銭請取状（竪切紙）（影写本）

〇安八郡輪之内町　片野記念館所蔵

請取小判之事

元和元年分、残米五拾弐石四斗八升七合五勺

（黒印）

分、壱両ニ付、弐石七斗六升弐合五勺宛、但

合拾九両者、

大津ニ而之相場、元納升定、但両かへ六十五

匁ニして、

右所請取如件

元和三年二月廿一日　　堤勘右衛門（黒印）（花押影）

田中傳左衛門殿

付　徳永昌重年貢銭請取状（竪切紙）（影写本）

○安八郡輪之内町　片野記念館所蔵

請取小判之事

（黒印）

小判五両者、元和元年分之残米納拾五石七斗分ニ上ル、但壱両ニ付、而三石壱斗四升宛ニ相場也

右此手形を以、算用ニ可被相立者也

元和三年

巳三月五日　　左馬助（黒印）（花押影）

田中傳左衛門殿

九八　押越村物成米請取証文

○押越　渋谷保之氏所蔵

午之年物成米請取申覚

一米三拾表ハ四斗壱合六勺五才廻　　飯木村

此石拾弐石四升九合五勺

右請取申所実正也、為後日手かた仍如件

寛永拾九年午十月二日　　太田勘右衛門㊞

波田野少二郎㊞

中嶋兵左衛門殿

○大垣市東外側町　大垣市立図書館所蔵

請取申米之事

一米弐拾三表壱斗弐升　　押越村

但、壱表ニ付、三斗九升九合五勺入

石ニ〆九石三斗八合五勺

右は、午之年御物成米之内、御扶持方米ニ請取申所実正也、為其手かた仍如件

寛永廿年未十月十七日　　太田勘右衛門㊞

波田野少二郎㊞

中嶋兵左衛門殿

○押越　渋谷保之氏所蔵

請取申米之事

一米三拾壱表ハ　三斗九升八合四勺四才入　押越村

此石拾弐石三斗五升弐合

右は、午之年御物成米之内、御扶持方米ニ請取申所実正也、為其手形仍如件

寛永廿年未十月十九日　太田勘右衛門㊞

波田野庄二郎㊞

中嶋兵左衛門殿

請取申米之事

一米三拾壱表ハ　三斗九升八合六勺六才入　押越村

一米弐拾表ハ　同廻

二口米合五拾壱表

此石弐拾石三斗三升壱合六勺六才

右は、午之年御物成米之内ニ請取申所実正也、為其手形仍如件

寛永弐拾年　太田勘右衛門㊞

未極月廿日　波田野庄二郎㊞

手かた拾五まい

米合四百四拾七石五斗七升

九合壱勺六才

中嶋兵左衛門殿

九九　押越村御城米請取手形

○押越　渋谷保之氏所蔵

請取申覚

一御城米弐百三十四俵ト三斗

右之通慥ニ受取申候

未九月廿九日　佐藤次郎左衛門㊞

十月朔日

押越村

御庄屋中

昨日ハ、御紙面被下忝拝見仕候、如仰之秋冷愈以御勇健可被成御座候、珍重之御儀奉存候、随て今度御城米御津出し被下、右之通慥ニ受取申候、尚又御上のり之儀、御申越被下承知仕候、明朝未明ニ御越可被成候、右御報取込早々申上候、此段御用委可申候

佐藤次郎左衛門

樋口和助様

一〇〇　米払口証文

○大垣市東外側町　大垣市立図書館所蔵

米之払口

一五拾七石　　五斗壱升壱合廻
　内六升八合　ねつミくい□□ニ引
　石ニ詰　五拾八石壱斗八升六合
此小判弐拾五両　銭六百弐拾文
　壱両ニ付弐石三斗壱升替
一米四拾八石五斗ハ　　五斗壱升六合廻
　内壱俵ハ　　四斗八升七合有
　石ニ詰五拾石弐升三合
此小判弐拾壱両弐分ニ百三文ふそく
　壱両ニ付弐石三斗三升替
　石合百五石五斗也
　小判合四拾六両弐分六百弐拾文
　　右ノ内百七拾五文水上ニ引
　　百三文はふそくニ引
　引残ては銭三百三拾八文
右之金子銭不残藤田杢右衛門尉殿ニ相渡し申候
　寛永七年　　あつた
午六月三日　　西村藤兵衛㊞（花押）
　中嶋兵大夫殿　まゐる

一〇一　押越村下勘定払目録

○大垣市東外側町　大垣市立図書館所蔵

寛永拾九年午之おしこし下勘定払目録

一五百石弐斗四升四合　　かんロ米山年貢共ニ

内払方

。米九石八斗弐升壱合ハ　。午年麦代米
午ノ閏九月十四日
。米壱石六斗ハ　。御家中へ　根岸甚右衛門殿へ
同日
。米弐石四斗ハ　。右同　青山與三左衛門殿へ
同十月二日
。米九石六斗三升六合ハ　。御蔵へ入　御手かた有
同廿七日
。米九石六斗壱升弐合ハ　。御家中へ　村上平右衛殿へ
午ノ十月廿八日江戸御下シ米舟付へ出し相渡ス
。米拾壱石弐斗ハ　。江戸米
小□□二郎兵衛・中原惣兵衛・金井市兵衛　御手かた有
同十一月廿一日ニ
。米三拾九石七斗ハ　。御家中へ　常葉六郎左衛門殿へ
同十一月廿九日ニ舟付へ出し相渡ス
。米五石六斗ハ　春□院様御分。右同　名古屋商人太兵衛手かた有
同十二月十九日
。米四拾四石六升六合ヘハ。御蔵入　大田勘右衛門殿　波田庄二郎殿御手かた有
同廿三日
〆百三拾三石六斗三升五合
。米六石四斗八合ハ　。御家中へ　栗田久兵衛殿
同日
。米八石壱升ハ　。右同　關瀬兵衛殿

同日
。米拾弐石壱升五合ハ　。右同　青山與三左衛門殿へ
未ノ三月廿九日ニ相渡ス
。米六石八斗ハ　。根古地未之春御かし米
同四月二日　代官衆手形有
。米五拾九石九斗壱升ハ　。御蔵へ入　勘右衛門殿
庄次郎殿　御手かた有
同四月九日舟付ニて相渡ス　駒久重兵衛
。米四拾石壱斗五升ハ　。江戸米　篠崎作兵衛　須見金兵衛　牛込藤兵衛　御手かた有
午ノ十二月廿九日ニ但壱両ニ米九斗五升かへ
。米五拾五石壱斗ハ　。金にて納　御金奉行衆御手かた有
未ノ二月十一日ニ上ル
。米三拾壱石三斗五升ハ　。右同　御手かた有
同正月十七日上ル
。米弐拾五石壱斗七升五合ハ　。右同　御手かた有
未ノ四月十日
。米弐拾九石弐斗ハ　。未分御借かし米相渡ス　松田十兵衛殿・林助右衛門殿　御手かた有
。米拾四石五斗ハ　内七石五斗　加平　小二郎　。御下男弐人分給米
未二月廿七日〆
弐百八拾八石六斗壱升八合
。米八石ハ　。高須町　未之春御かり米　代官衆手かた有
。米四石八斗ハ　但其暮ニ相済候　御蔵奉行衆手かた有　。当村御かし米　未之春引なし
未ノ四月廿八日
。米壱石弐斗ハ　。御蔵へ入　儀右替米
同五月廿四日
。米五石五升七合ハ　。右同　はんの木と壱所手也御手かた有
同七月五日
。米五石三斗九升八合弐勺五才　。御蔵へ入　御手かた有
同六月廿日舟付へ出し相渡ス
。米四石ハ　春□院様御分　。御家中へ　小兵衛殿御手かた有
未ノ九月五日
。米弐拾石ハ　右同断　。右同　名古屋太兵衛手かた有

。米八石ハ　右同断　。右同
未十月十七日
。米九石三斗八合五勺ハ　。御蔵へ入　御手かた有
同六月八日
。米七石六斗ハ　。右同　御手かた有
同極月廿日
。米七石九斗七升三合。御蔵へ入　但新左衛門殿・市兵衛殿御かし米分請取御蔵へ入手形取
〆八拾壱石六斗九升五合七勺五才
。加米四石ハ　。御蔵へ入　飯木(ママ)手てかた内兵左衛門米
三口払合五百七石五斗五升六合七勺五才
引残て七石三斗壱升弐合七勺五才ノ過
加九斗六升八合三勺　是程にてかた可有也、但三斗九升ノ又七手かた共
午之夏成麦　おしこし村
一麦弐拾四石五斗五升弐合
内払方
。一麦八石六斗八升九合八才　。度々ニ御家中払御手形有
。一麦八石五斗　ねこち村へ未之御かし用
。一麦七石　おしこし村へ未之春御かし用
。一麦三斗六升三合　。桑名小八ニ御うり被成舟付出相渡ス　小八手かた有
麦払方合弐拾四石五斗五升弐合也
右相済也

一〇二　押越村預り米処分方請書

○揖斐郡揖斐川町　市田静馬氏所蔵

多藝郡押越村卯ノ年納米、徳永殿御払残候分、今度徳永殿御改易ニ付、松平隠岐守様より御改被成候分、押越村御蔵ニ米九拾石五斗有之候、慥ニ押越村庄や・年寄・百姓預り、則手かた仕上置申候、然は、右之米小判壱両ニ付壱石九斗かへニ払候て、百姓売そんなく候ハヽ、只今払候へと被仰付候へ共、米かい可申と申商人も無之候間、払之儀成間敷候、若右之米くさり申か、又ハ久々押越村御蔵ニ御置候て、何ほとかん米以下置候共、毛頭申分なく、右有米の分御意次第ニ払可申候、為後日仍如件

寛永五年
辰九月六日

北村庄兵衛殿「(後筆)ほうぐ」
柴山長兵衛殿

おしこし村　吉左衛門㊞
同村　次兵衛㊞

一〇三　直江・押越・飯ノ木・宇田村　年貢米地払請証文

○大垣市東外側町　大垣市立図書館所蔵

多藝郡直江村・押越村・はんの木村・うた村卯ノ年納米
徳永殿御払残ノ分、今度御改易ニ付、松平隠岐守様□□
一弐拾四石四斗弐升内　十二石四斗弐升今払ニ仕候　なおえ村
残て拾弐石ハ御蔵ニ預り置申候
一九拾石五斗内　四拾石五斗今払ニ仕候　おしこし村
残て五拾石ハ御蔵ニ預り置申候
一八拾七石九斗内　四拾四石九斗今払ニ仕候　はんの木村
〆四拾三石　御蔵ニ預り置申候
一六拾五石五斗内　三拾三石五斗今払ニ仕候　うた村
三拾弐石　御蔵ニ預り置申候
右之分右村々御蔵ニ米有之候、慥ニ村の庄屋・年寄・百姓□
□置申候、然は、右之米小判壱両ニ□
候て、百姓うりそんなく候は、是へ払候へと被仰付候、右之ねたんニ払候て、うりそん無御座候へ共、一度ニ米うけ取□
□右之通請取払申候条、金子九月□　□可申候、若、右村々之内一村成共金子少成共滞候は、此連判□
□何様ニも、其方御□□次第□　□さいそく可有候、至其時一言之儀申上間敷候、為後日仍如件

寛永五年
辰九月六日

なおへ　□　□
同　□　□
お　兵左衛門

同　次兵衛
はりの木　八右衛門
□□□□
うた村　孫左衛門
同　彌兵衛

右ノ分、かやう二仕□□□可申候　うつし進□申候

北村殿
柴山殿

（岡田将監内）
木村清大夫様

飯木村庄や
八郎右衛門㊞
同年より　長藏㊞
石畑村庄屋　内□㊞
同年より　少大夫㊞

請負申已之御蔵米之事　飯ノ木村

一米四拾六石は　但　壱両ニ付弐石三斗かへ
此小判弐拾両は
一米五拾七石三斗五升三合　但　壱両ニ付弐石三斗かへ
此小判弐拾四両三分
銀拾壱匁壱分七りん

一米弐拾七石六斗　石畑村
此小判拾弐両は　但　壱両ニ付弐石三斗かへ
米合百三拾石九斗五升三合
小判合五拾六両三分　銀拾壱匁壱分七りん

右之分地払ニ請負申候間、払候て午ノ三月中ニ金子指上可申候、以上

寛永七年午ノ
三月十六日

押越村庄や
兵左衛門㊞
同年より
次兵衛㊞

地払ニ請取申已之御蔵米事　あと

一米弐拾四石六斗は　龍泉寺村
此小判拾両壱分銀拾三匁一分但壱両ニ付弐石三斗五升かへ
一米弐拾四石四斗四升七合　柏尾村
此小判拾両壱分銀九匁弐分　但壱両ニ付弐石三斗五升かへ
一米五拾壱石七斗　石畑村
此小判弐拾弐両　但同理
一米七拾石五斗　飯木村
此小判三拾両　但同理
一米百石壱斗七升八合　押越村
此小判四拾弐両弐分銀七匁七分　右同理
合弐百七拾壱石四斗弐升五合
此小判百拾五両弐分　但壱両ニ付弐石三斗五升かへ

右之分、已ノ御蔵米引越候、拙者共請取地払仕、卯月十五日以前ニ急度金子指上可申候、右之米江戸へ廻し候か、地払仕候か

と拙者共ニ御尋候、江戸へ廻し申儀、海上之儀如何と存、地払ニ被仰付候様ニと拙者共より申上、右之分地払ニ御請負申候、為後日仍如件

寛永七年午
四月四日

おしこし村庄や
兵左衛門㊞
はんの木村庄や
八郎右衛門
りうせん寺村庄屋
仁兵衛
せいし村庄や
孫兵衛
いしはた村庄や
市内
かしわお村庄や
金右衛門

木村清大夫様

濃州午之年御蔵米地払ニ請取申事

一米弐百三拾三石八升　押越村

此小判八拾九両弐歩　銀八匁五分五厘

但壱両ニ付二石六斗かへ

右是ハ、濃州午之御蔵米三分一金納之外、御手代衆と立合、相苻を付置候分、御蔵よりはゑ出し、慥ニ請取申候、是ハ今度江戸御ふれニハ、小判壱両ニ付弐石六斗五升かへと被仰付候ハ、百姓五里付積を被成、右之通ニ地払ニ被仰付候段奉得其意候、右之代金、当後之十月中ニ急度皆済可仕候、若右之日限相延候ハヽ、右ねたんよりたかく可被召置候、為後日仍如件

押越村庄屋
兵大夫
同村年寄
次兵衛
同
九右衛門

寛永八年未九月廿五日

木村清大夫殿

地払ニ請取申已ノ□米之事　あと

一米　九石五斗九升九合 加弐合升□ノ口米有　押越村
一米　六石八斗九升四合　飯木村
一米　壱石七升三合　龍泉寺村
一米　壱斗八合　清志村
一米　四石五斗　石畑村
一米　壱石四升九合　柏尾村

合弐拾三石弐斗弐升三合

但、壱両ニ付弐石弐斗八升かへ

右之分、地払請取申候間、卯月十五日より内ニ地払仕候て、金子指上ケ可申候、為其仍如件

寛永七年午
四月四日

りうせん寺村庄屋
仁兵衛
かしわお村庄屋
金右衛門
飯木村庄屋
八郎右衛門
おしこし村庄屋
兵左衛門

木村清大夫殿

右午之年御蔵米、百姓衆地払之儀、拙者請罷立、御蔵よりはゑ出し、慥ニ請取、御百姓衆へ相渡し申候、右之代金少も不残、右日限以前ニ相済させ可申候、若御代官かへ御座候は、御意次第ニ其代官へ成共指上ケ、皆済可仕候、為後日請状仍如件

寛永八年未九月廿五日

高田町
請人　喜兵衛

木村清大夫殿

一〇四　年貢米借用証文

○押越　渋谷保之氏所蔵

借用申未ノ年御年貢米之事

合拾弐石、但いたくらすおう殿御はん舛おもつて

五斗一升俵也

合四石五斗　同理

〆拾六石五斗

右御蔵米借用仕候所実正也、未ノ年御年貢米ニめいわく仕、何共可仕様もこれなく存候所ニ、御かし被成忝奉存候、若御国かへ又ハ代官かわり、天下一同之とくせい又ハ何やう之儀候共、此蔵米ニおいてハ、少も御ふさた仕間敷候、若又、此連はん仕候者共ノ内、壱人成共死うせ申候ハヽ、残者共として弁、急度返弁可申候、来る九月以前に右之通、急度返弁可申、為後日状如件

寛永九年
さる二月七日

請人
いしはた
同　又右衛門印
同　藤蔵㊞
同　長介印
いしはたかりぬし
同　市内㊞
同　少太印
京七㊞

中嶋兵太夫様
樋口次兵衛様

借用申御蔵米之事

合四石は　但、板倉周防殿御判升を以五斗壱升俵也、

右之御蔵米、未ノ年御年貢米ニ迷惑仕借用仕候事実正也、来る九月以前ニハ急度余なミの利足を加へ、元利共ニ返弁可申候、若御国かへ・御代官かわり・天下一同之とくせい又ハ何様之儀在之候共、此御米ハ御年貢米ニ迷惑仕借用申儀候間、少も御ふさた仕間敷候、若御ふさた仕候は、至其時ニしち物ニても何ニても、貴様御存分次第可被仰付候、一言之御うらミ申上間敷候、為後日状如件

寛永九年
申二月十二日

津屋村
同　宗太郎（花押）
清兵衛（花押）

同　大　兵　衛（花押）
同　孫左衛門（花押）

中嶋兵大夫様
同　左平次様　参

借用申未之年御蔵米之事

合四石五斗は　元利共ニ　但板倉国防殿御判升ヲ以

五斗壱升俵也

右之御米、未ノ年御年貢米迷惑仕、借用申事実正也、若御国かへ・御代官かへ、天下一同之徳政其外如何様之儀御座候共、此御蔵米之儀ニおゐてハ、少も御無沙汰申間敷候、則此しち物として、我等小作方共悉く書付遣申候間、当暮此小作共手前より、右四石五斗の米御取可有之、少も相違之儀御座有間敷候、為後日仍如件

しち物入申小作方米積之覚

一三石五斗ハ　上方村　孫十郎
一壱石三斗ハ　るせんし村　孫七
一八斗五升ハ　同村　三吉
一七斗ハ　同村　彌吉
一五斗五升ハ　同村　二郎八

〆六石九斗也

右之内ニて四石五斗御引取可有候、後日ニ申分無之候、仍如件

寛永九年申ノ　龍泉寺村　十郎右衛門（花押）
三月廿六日　同村　義兵衛㊞

中嶋兵大夫殿
同　左平次殿

借用御年貢米之事

合弐石八斗八升九合、御公方うけ取面也

右通、借用申所実正也、是ハ御取切可被成と、種々御さいそく御座候へとも、何共手まへ不罷成候故、御理申上候所ニ御指延被成忝存候、来九月以前余なみの利足を加へ元利共ニ急度返弁可仕候、若彦市うせ申候は、請人弁御納所可申上候、為後日仍状如件

寛永十三年
子十二月廿九日　おしこし　彦市（略押）
請人　清介（略押）

中嶋兵左衛門殿

一〇五　大場村・同新田御城米納所一札

〇東京都　国立史料館所蔵

（表紙）「　如此ニ相認、十月十日ニ根古地村え差上申候

享保十年

多蘂郡大場村同新田共御城米御納所一札連判帳

巳九月　」

差上申一札之事

一今度御城米納所之儀、御手代中印形之中札入不申筈ニ罷成候依之、御納所之儀、庄屋・年寄・高持百姓不残立会、但　高持百姓大勢候ハヽ、二代りニも可仕候、御米手本米差上置候通、無相違様ニ相改、御納所可仕候、万一悪米・青米・赤米死米・砕米相納、於江戸御吟味有之候ハヽ、庄屋・年寄・高持百姓之分、不残越度可被仰付之旨被仰渡、承知仕奉畏候、随分入念、御米吟味仕可申候事

一俵拵・縄俵小口からけ・ふと縄等、前々之ことく念を入、少も麁末成儀仕間敷事

一御米斗桝ニて四斗、山壱升両手ニて一すくひ入可申候、御米斗様之儀は、前々之通御米を箕え入、乳より高ク上ケ、斗桝えおとしかけ、山盛ニ仕、真中より両方えわりかきニ可仕候、若無沙汰仕、欠米多有之村方は、御吟味之上、一村立欠米御割付可被成之旨被仰渡、承知仕候事

一御手本米、村々より上・中・下袋ニ入差上、御吟味を請、御差図之通、御米撰立、御手本米ニ違不申様可仕事

一御米之儀、十一月十五日より元船桑名え入津仕候付、十六七日頃より御割賦被遣候間、其節日限無滞様御米拵置、川下シ可仕候、若日限遅々仕候ハヽ、急度越度可被仰付旨奉承知候尤村々米高応シ御割賦、追々被遣候事ニ候得は、米高応シ段々無油断米拵仕置、御手支ニ仕間敷候事

一御米中札之儀、庄屋・年寄・米見・桝取、米主・高持百姓一両人印形仕、中札入可申候、御手代衆御改無之ニ付、名所認ニ不及候旨、被仰渡奉承知候事

一御膳籾之儀、御手代中被遣、御吟味可被遊候間、御手本籾御下知次第、村々より差上可申候事

一中札ニ御手代名印無之ニ付、万一不宜御米有之時、於江戸御詮議之節、中札若紛失仕、米主御吟味相知不申為ニ候間、例年之通、上札入念、書付いとニて結付、落不申様仕可申旨奉畏候事

右之通被仰渡、百姓改ニて相納申事候得は、悪米等有之御吟味被遊候ハヽ、村方庄屋・年寄・高持百姓急度越度可被仰付事ニ候間、其心得仕、随分心上及程念を入、縦親子・兄弟・知音之好身たりといふとも、少も依怙贔屓不仕、正路相改可申候、仍如件

享保十年巳九月

大場村新田共庄屋　市右衛門㊞

年寄　彦右衛門㊞

高持百姓　同　断　利左衛門㊞
同　断　助右衛門㊞
同　断　惣右衛門㊞
同　断　甚右衛門㊞
勘　兵　衛㊞
（他二二名連判略）

笠松
御郡代所

○

一〇六　白石村御廻米諸入用帳

○養老公園　村上辨二氏所蔵

（表紙）「宝暦二年
多藝郡白石村去未年御廻米諸入用帳
申八月　」

覚

一米八斗壱升　此訳
米壱升壱合八勺弐才六毛　八番船内拵差米、御米壱俵ニ付米壱勺四才六毛内
銭九百拾弐文　納入用御米、壱俵ニ付壱升つゝ
八番船納入用并上乗給金共御米壱俵ニ付銭拾文八分壱厘
此御廻米八拾壱俵
銭弐貫弐百四拾弐文　内
九百弐拾七文　桑名迄川下ケ運賃御米壱俵ニ付銭弐拾六文六分内
壱貫三百拾五文　小倉村橋より駒野川迄瀬取賃
銭壱貫三百四拾八文　駒野川より桑名迄運賃
銭八百七拾八文　当村より小倉村橋迄御米壱俵ニ付銭拾六文ツゝ
内
五百文　桑名諸入用并船中雑用共御米壱俵ニ付銭拾文四分五厘
三百文　船中雑用五日より十一月迄上乗壱人
七拾八文　桑名宿払并戻り小遣ひ
沢手諸入用
欠米　御米壱俵ニ付

（付箋）「米弐斗壱升七合三勺　三升五合八勺　八番
九合　十六　」
合
米弐斗弐升九合壱勺弐才六毛
銭四貫四百七拾弐文
此米壱石七升八合七才
両ニ壱石六升かへ
銭九百拾弐文
此米壱斗九升八合壱勺

両ニ九斗五升五合弐勺三才かへ

三口米合壱石五斗五合弐勺九才六毛

内

米壱斗九升四合四勺　五里外分被下候ニ付引

米八斗壱升　納入用米引

指引米五斗八勺九才六毛　不足

右は去未年御廻米江戸廻し被仰付候諸入用式、書面之通相違無御座候、以上

申八月

多藝郡白石村庄屋　喜三郎㊞

同断　勘兵衛㊞

年寄　久太夫㊞

同断　留右衛門㊞

百姓代　久左衛門㊞

本田御役所

一〇七　押越村御膳籾・御貯籾・御詰籾・太餅籾請負証文

○押越　渋谷保之氏所蔵

覚

一御膳籾拾六石

一御貯籾三石

一熱田御詰籾三石

一太餅籾壱石

御籾合弐拾三石

此代米三拾八石九斗三升

右之通其御村方当寅年諸御籾、書面代米を以江戸御蔵納迄私請負申候、然上ハ御籾怪随分吟味いたし撰立、御納所御役人様御改を請、何ヶ度ニても撰立相廻し可申候、但し、御膳籾・太餅籾ハ此度被仰付次第相廻江戸御蔵納仕、熱田御詰籾并御貯籾之義ハ、御役所御下知次第何方ニても御蔵納仕置、其上摺立米江戸廻し被仰付候節、何時ニても私方へ引請摺立米相廻し、江戸御蔵納仕可申候、江戸御蔵納相済候迄、御吟味方如何様厳敷被仰付候ても、右請負代米之外諸失脚又ハ増米等之少しも御頼申間敷候、尤代米御渡方之義、代金ニ相極三ヶ度ニ請取、其時之大垣中印米御直段を以請取可申候、為後日請負証文仍而如件

明和七年

寅十一月

小柿村請負人　清蔵㊞

同村年寄　庄内㊞

同村庄屋　幸右衛門

押越村御庄屋　和助殿

付　押越村外五ヶ村上納籾請負証文

○押越　渋谷保之氏所蔵

御請負申一札之事

一御膳籾・御貯籾・御詰籾三籾平均御籾壱石ニ付米弐斗七升宛戻し

右之通、当卯年御村々御割賦被　仰付候御籾御定例米不残請取、随分入念撰立御用支無之様御上納可仕候、為後日請負一札如件

天明三年卯十月十日

小柿村庄屋引請人　平左衛門㊞
同村年寄証人　庄　六㊞

押越村
上ノ郷村
岩道村
横屋村
大場村
根古地村

御庄屋衆中

一〇八　御廻米取扱方手当渡状

○高田　佐竹忠吾氏所蔵

書付

一扶持分　　弐人分

右は、今般当方御勝手向御改革ニ付、其許御館入被仰付、大坂表廻米并産物等取扱方、万端為御任相成候間、諸事引請御勝手筋御模通宜敷様取斗可被申候、依之為御手当書面之通被下之候、御渡方之儀ハ例年十二月相渡可申候、為念書付仍而如件

嘉永四辛亥年十月廿七日

三輪孫六郎㊞
小寺　勇㊞
伊東成右衛門㊞
三和六左衛門㊞
大嶽半之進㊞

高田町
佐竹重兵衛殿

（端裏書）「　表書之通可為者也、修理㊞　」

一〇九　押越村御膳籾代米代金請取状

○押越　渋谷保之氏所蔵

覚

一金拾両也

右は、当戌之御膳籾代米代金之内醋ニ請取申候、以上

戌十二月朔日（明和三年カ）　小柿村　清　藏㊞

押越村御庄屋
和　助様

覚

一金七両也

右ハ、当戌御膳籾代米代金之内醋受取申候、以上

戌十二月十八日（明和三年カ）　小柿村　清　藏㊞

押越村御庄屋
和　助様

覚

一御膳籾拾四石也

代米拾七石五斗

内

壱石四斗　十一月廿五日受取

代金壱両弐分拾匁　但、廿三取かへ

残テ
拾六石壱斗

内

金拾両　十二月朔日受取

代米九石弐斗　但、中印廿三取かへ

金七両　同十八日受取

代米六石四斗四升　但、廿三取弐分弐り

残テ
四斗六升

此金壱分拾四匁七分七厘　右同断

一御手当籾弐石五斗

代米三石三升　但、中印廿弐取六分かへ

此金三両弐分九匁

二口〆

金四両　銀八匁七分七厘

右之通、去戌年御膳籾御手当籾代米代金醋ニ受取相済申候、以上

（明和四年）亥二月十八日　小柿村請負人　清　藏㊞

押越村御庄屋
和　助様

覚

一金拾両也

右ハ、当亥年御膳籾代米代金之内慥ニ受取申候、以上

（明和四年）
亥十一月十四日　　小柿村　清　蔵㊞

押越村
和　助殿

覚

亥年
一御膳籾六石也

此代米拾六石八斗

代金拾九両五匁四分五厘　但米弐拾弐俵かへ

内

金拾両　　亥十一月十四日受取
同八両　　二月二日　受取
同壱両五匁四分五厘　　二月十八日　受取

メ

右ハ、亥年御膳籾代米代金慥ニ受取、不残相済申候、以上

（明和五年）
子二月十八日　　小柿村　清　蔵㊞

押越村御庄屋
和　助様

一一〇　室原村年貢米津出し送り状

〇室原　安福彦七氏所蔵

送り状

一御膳籾五拾壱俵

右は、去卯御年貢米之内、書面之通当月廿六日津出し川下仕候ニ付、乍恐書付を以奉申上候、以上

（天保十五年）
辰二月　　濃州不破郡室原村庄屋　治左衛門

勢州桑名湊船積
御奉行所

（天保拾五年願書留より）

一一一　釜段村積米出入請書

〇中　高木享一氏所蔵

乍恐以書付御請奉申上候

釜段村積米其外之儀ニ付、疑惑相懸ケ村方惣代ニ被相頼、私共四人より名主横山重次郎相手取、先般　御出訴奉申上候処、訴答共　御慈悲を以、段々御糺被成下置難有奉存候、然ル処御理解之廉々左ニ御請奉申上候

一積米代金利足之儀、追々割賦請取候内、弐拾両并四拾両之儀

は割賦請取不申趣、強て奉申上候は、重次郎より其節立入人迄差出候一札、并五人組頭半兵衛申口ニ差はまり、一同承引不仕、然ル処、重次郎より奉入　御高覧ニ候証書之内神田・寺田定使地等ゑ割当、尚又其節、立会下用等小入用帳ニ書顕有之段　御手厚奉請　御理解、能相考見候得は、年経候事故、覚違之儀と何れも入腹仕奉恐入候、全申懸り之訳ニては無御座、此段　御仁察奉願上候

一平均御免凶年之手当積米之儀、元米ハ追々割賦請取候得共、無利足之取斗ひは不当と奉存、右は村方諸取替利足定メ等も有之ニ付、右預り米之分も相当之利足差加へ、出銀致呉候様奉願上候処、則重次郎ゑ　御諭被成下置御請奉申上候上は、聊御願ヶ間鋪儀決て無御座候

一苗場地揚ニ付積金を以取斗候段、不直之次第奉願上候処、家別ニ金三朱ツヽ請取、其余之分地揚入用仕払有之、納得仕置年来過去り候儀、今更不直之取斗ひと申出候は、不都合之段御理解被成下置奉恐入、併右仕払之内算違、并過銀之分水車代等差引勘定可致様、重次郎ゑ被為仰渡被下置難有奉存候

一当村之儀、先前仕来ニ相泥ミ不宜例も御座候間、重次郎ニおゐても、向後厚遂勘弁、村懸り諸割賦等取斗ひ呉候様致度、尚又今般一件も重次郎より兼て差出候一札面、并半兵衛申口ニ差はまり一同承服不仕、種々差入組雑費不少下地困窮之村方迷惑至極之段奉申上候処、一札之廉柄も　御慈悲之　御賢察被成下置、冥加至極難有奉存候、旦重次郎方ニ多分借用金等も追々期月遅々相成居、一時取立呉候ては必至可及潰ニ付、相察呉候様　御慈悲を以同人ゑ　御諭奉願上候

前書之趣御請奉申上候上は、右一条は勿論、聊御願ヶ間敷儀無御座候、乍恐右之段御請書奉差上候、以上

安政六己未年八月

釜段村訴訟方惣代
同村同断　半三郎
同村同断　民蔵
同村同断　周平
同村同断　松蔵

御吟味掛
御代官　御役所

右之通御請奉申上候ニ付、乍恐奥印仕奉差上候、以上

未八月

中村名主　雄平
大墳村名主　三郎次
代印雄平

一一二　押越村検見覚

○大垣市東外側町　大垣市立図書館所蔵

寛永六年

押越村御検見

一かり　拾町七反八畝四歩　此高百三拾弐石三斗五升七合

一畑　拾壱町五反八畝十九歩同高百拾四石六升
一いやしき九反廿歩　同拾石八斗八升
〆弐百五拾七石弐斗九升七合
一上田五町八畝八歩　此高六拾八石一升四合
同百四拾五石四斗五升六合
此□もミ百六石七斗三升六合
一中田拾町八反十三歩　同百九拾四石四斗七升八合
一下田拾壱町六反六畝　同百五拾壱石五斗八升四合
一歩　同百六拾三石弐斗四升五合
同弐拾六石五斗八升五合
一下々田弐町四畝十五歩　同弐拾四石五斗四升
同拾四石九斗弐升四合
一荒　壱町一反四畝廿四歩
毛付高〆六百六拾三石八斗五升　毛付分
此高六拾□石　年々川□ニ成堤下
惣高合七百□拾八石八斗　□仕上候分
もミ合四百八拾九石　内□合不足
内　三百廿六石　三分二□
右米ニ〆百六拾□石
加百四拾弐石八斗四合　但高弐百五拾七石弐斗九升
五ツ五分五リンニ〆
合三百五石八斗

一一三　検見取扱い方起請文前書

○大垣市東外側町　大垣市立図書館所蔵

起請文前書之事
一今度御検見ニ付、何人之かたよりも、礼義・礼物何色ニよらす、少成共請申間敷候事
一勿論礼物同意ニ御座候間、うり物・かい物何色ニよらす、以来うりかい候ハん由、約束も仕間敷候事
一立毛之上・中・下田畑有之分之見積り、其村々之勘ふかん万見之ミ縦ハ親子兄弟たりといふとも、聊ゑこひいきなく有様ニかんミ仕可申上候事
一今度御検見之上、面々代官所之分免付之米書付指上申候義、勿論少成共ゑこひいきなく、御用之通聊わたかまらす、有様ニ書付指上可申上事
一免付米之儀、何人ニ成共相談仕間敷候、御用ニ存寄之通、ゑこひいきなく書付指上可申候事、付我等代官所之分免付之米、高下善悪之ひはん御年寄衆并郡奉行衆同前ニ御検見一組之衆、此外へハ一切何人ニ成共申聞有間敷候事
一今度御検見郡奉行衆一組之内より取御付候高下之義、善悪之ひはん御年寄衆并郡奉行衆同前ニ御検見一組之衆此外へハ、何人ニ成共一切申聞間敷事
一惣て殿様御ため能御座候様ニ万念ヲ入、精を出し、御うしろくらき事仕間敷候事

一一四　大場村新田共戊秋名田分帳

○東京都　国立史料館所蔵

（表紙）「　多藝郡大場村新田共戊秋名田分帳　」

一高四百七拾四石六斗四升　大場新田

内

百六拾石　是ハ有尾村より帳面差上ケ申候

弐百三拾九石七斗弐升弐合　本村より入

七拾四石九斗壱升八合　本途

二口合三百拾四石六斗四升

内

壱石九斗　前々神田引

拾弐石四斗三升　前々永引

残て三百石三斗壱升　有高

此反別三拾町三畝壱歩

内

田方弐拾四町八畝拾六歩

此分米弐百四拾石八斗五升二合

内

田四反八畝拾五歩　壱升毛

田八反七畝拾歩　九合毛

田壱町八反九畝廿七歩　八合毛

田五町四畝四歩　七合毛

田四町四反四畝拾六歩　六合毛

田三町八反八畝廿弐歩　五合毛

田弐町五反九畝十一歩　四合毛

田九反四畝廿六歩　三合毛

田弐町四反三畝五歩　弐合毛

田八反四畝五歩　壱合毛

田六反三畝廿五歩　芦田不納

畑方五町九反四畝拾七歩　壱反ニ付平均壱石代

此分米五拾九石四斗五升七合

一高五百六石五斗五合　大場村

内

弐百石　是ハ根古地新田より帳面差上ケ申候

弐百三拾九石七斗弐升弐合　大場新田より帳面差上ケ申候

六拾六石七斗八升三合　本途

内

七斗弐升五合　前々神田引

弐石九斗壱升弐合　前々永御引

残て六拾三石壱斗四升六合　有高
此反別七町七反廿四歩
　内
田方弐町九反五畝十三歩　壱反ニ付平均壱石代
此分米弐拾九石五斗四升三合
　内
壱反壱畝八歩　壱升毛
弐反八畝十三歩　九合毛
三反六畝十七歩　八合毛
五反九畝拾九歩　七合毛
六反四畝廿七歩　六合毛
五反六畝九歩　五合毛
弐反六畝十四歩　四合毛
壱反壱畝廿六歩　三合毛
畑方四町七反五畝九歩　壱反ニ付平均七斗七合代
此分米三拾石六斗三合
　外ニ
一畑四反八畝五歩　村南内外御見取場

右之通大場村・新田共当立毛内検見、庄屋・年寄長百姓立合、所々ニて坪刈拾ケ所いたし、目ためし仕、此合附之格を以毎田之立毛之合毛附随分無違様ニ横帳ニ書立、合毛揃を以寄立如帳面少も相違無御座様ニ、毎田ニ合付之札を立置申候、何れ之田ニて成共、坪刈被成立札幷横帳ニ御引合違候ハヽ、連判之者共越度可被仰付候、以上

享保三年戌十月

市右衛門
彦右衛門
勘兵衛
助右衛門
利左衛門
十三郎

笠松
御郡代所

（追筆）
「大桐道下
一田四畝拾六歩　もち壱升　兵内
同
一田壱反壱畝弐歩　ちこ六合　甚兵衛
四丁わり
一田五畝十八歩　ちこ九合　孫太夫
四丁わり
一田弐反弐畝三歩　白うしけ九合　源左衛門
大桐道下
一田壱反六畝十三歩　ちこ六合　二郎左衛門
同
一田壱反弐十五歩　もち五合　兵内
四丁わり
一田七畝十一歩　青ちこ九合　傳兵衛
土取
一田壱反三畝十八歩　早ちこ七合　兵内
土取
一田六畝四歩　青ちこ八合　兵内

池田
一田壱反壱畝十歩　ちこ九合　藤　七

本田分
村原
一田三畝廿七歩　こみの六合　彌　兵　衛
村原
一田弐畝十歩　えな落八合　孫　太　夫
村原
一田九畝十七歩　早ちこ五合　甚右衛門
みよ
一田壱畝廿五歩　ちこ壱升　二郎左衛門
みよ
一田四畝十四歩　ちこ壱升　勘　兵　衛」

（追筆）
「百六拾石分
一壱町壱反三畝廿八歩　芦田
一壱町七反廿五歩　永荒申年迄
一四反三畝十三歩　畑　」

一一五　烏江村田畑田面訳立毛書上ヶ帳

○烏江　吹原第三氏所蔵

（表紙）
「享保八年
烏江村田畑田面訳立毛書上ヶ帳
卯九月　」

高百五拾三石九斗五升八合
一田畑拾六丁四反六畝拾弐歩　本田

内
高三石八斗三升
田畑三反八畝拾三歩　内田方三反拾歩　井道敷地
畑方八せ三歩　堀田前々引
残て田畑拾六町七畝廿九歩

内
田方九町四反四畝拾六歩
右之内訳
三町弐反三畝拾五歩　早稲・中稲
此分かれ穂・黒粒御座候て、大分痛実入り悪敷御座候、
御勘弁被遊可被下候
三町壱反五畝歩　西之町　中之町
三町六畝壱歩　この下之越
畑方六町六反三畝拾三歩

内
弐町七反廿四歩　ひへ　大豆さしませ
壱町四反五畝歩　いも
三反歩　きわた
六反三畝歩　なたいこん
三反歩　そは
九反四畝歩　堤外

此分皆(腐カ)付仕候、水かぶり

壱反七畝拾九歩　同所申・酉両年大取ニ罷成候
壱反三畝歩　同所川欠年々書上ケ申候通
一田畑七畝壱歩　内田方四畝歩　畑方三壱歩畝　御見取所

高八十弐石七升七合
一田畑拾町四反弐畝四歩　新　田

内
高五石三斗三升四合　堀田禿地前々引
田方七反四畝廿歩
残ル田畑九町六反七畝拾四歩

内
八町九反三畝拾八歩
右之内訳
五町四反拾五歩　中筋よしきわより西へ之分
壱町五反歩　道南之分堤きわより西之
壱町壱反八畝廿三歩　道西堤きわより北へ之分
壱町弐反拾歩　同所丑之年切所砂入
　　并他之分年数引
畑方七反三畝弐拾六歩　ひへ　大豆

高拾五石七升八合
一田畑壱町六反八畝拾歩　丑新田

内
高四石壱斗四升五合　堀田禿地敷地前々引
田方四反六畝弐歩　堀田禿地
五畝五歩　よしまこも原堀田禿御想見引
弐反五畝歩　堀田禿地彈藏分御検見引
壱反六畝四歩　同断善助分
壱畝拾五歩　立毛付

内
田方七反弐畝弐歩　よし北南之分
畑方弐畝拾弐歩

〆
右之通ニ御座候、以上

御検見引ニ被遊可被下候分

一上田四反五畝歩　本田追苗場
一中田弐拾歩　同所堀田禿彈藏分
一中田壱畝三歩　同所同断
一下畑壱反三畝歩　堤外川欠
一下畑壱反七畝拾九歩　同所土取
一下畑九反四畝歩　同所水かぶり
一上田弐反歩　新田追苗場

一中田壱畝歩　同所堀禿次右衛門分
一中畑壱畝廿歩　同所堀禿三之助分
一下田八畝廿六歩　同所堀田禿
一中田弐畝廿弐歩　同所同断
一下田五畝廿六歩　同所同断
一下田壱反六畝四歩　丑新田彈藏分
一下田壱畝拾五歩　同所善助分
一下田弐反五畝歩　霞　まこも原堀田禿
一下田五畝五歩　堀田禿地

右之通御引被遊不被下候間、不叶分ニ御座候、御検見引ニ被遊被下候様ニ奉願候、以上

九月　作兵衛

一一六　白石村立毛百姓下見合附帳

○養老公園　村上辨二氏所蔵

（表紙）
一　享保十年
美濃國多藝郡白石村巳秋立毛百姓下見合附帳写
巳九月

田畑石盛

上田　十一　中田　九ツ　下田　七ツ
上畑　十　中畑　八ツ　下畑　六ツ
新畑　六ツ

巳秋立毛百姓下見合附帳　多藝郡白石村

樫木一番坪苅場			
一上田壱畝廿歩	五合毛	四合毛	養老寺
同所		〃	
一上田三歩	右へ書入筈	四合毛	同人
同所二		〃	
一上田三畝弐歩	四合毛	四合毛	左五兵衛
同所三		〃	同人
一上田壱畝四歩	五合毛	四合毛	平吉
		〃	作助
同所四			
一上田壱畝拾五歩	四合毛	四合毛	甚助
同所五		〃	同人
一上田拾弐歩	四合毛	四合毛	同人
同所八		〃	
一上田五畝八歩	四合毛	三合毛	伊右衛門
樫木六		〃	
一上田廿分	五合毛	三合毛	役伊右衛門平
		〃	
同所七			
一上田廿三歩	四合毛	三合毛	喜右衛門人
		〃	同
同所九			
一上田壱畝拾三歩	五合毛	四合毛	四郎八郎兵衛
		〃	
土居之上十			
一上田拾六歩	五合毛	弐合毛	與三郎
		〃	久四
			〃

同所十一
一上田廿八歩　五合毛　太郎助
〃　左次兵衛

同所十二
一上田廿弐歩　三合毛　久四郎
〃

同所十三
一上田廿弐歩　四合毛　庄八
〃

同所十四
一上田壱畝拾歩　四合毛　同人
〃

十居之上十五
一上田壱畝三歩　四合毛　同長右衛門
〃

同所十六
一上田壱畝五歩　四合毛　左次兵衛
〃　武右衛門

同所十七
一上田拾四歩　四合毛　久四郎
〃

同所十八
一上田拾弐歩　三合毛　文六人
〃

同所十九
一上田廿弐歩　三合毛　五郎兵衛
〃

同所廿
一上田拾五歩　三合毛　仁平
〃　與次兵衛

同所廿一
一上田拾五歩　三合毛　庄太夫八
〃

同所廿二
一上田壱畝歩　三合毛　與次郎
〃　四郎兵衛

十居之上廿三
一上田壱畝五歩　五合毛　三合毛　八郎兵衛
〃

同所廿四
一上田壱畝歩　五合毛　三合毛　喜右衛門
〃　長太郎

同所廿五
一上田壱畝拾歩　五合毛　弐合毛　利庄八平
〃

同所廿六
一上田拾壱歩　四合毛　弐合毛　甚四郎助
〃

同所
一上田四歩　右之内書入筈　三合毛　久太夫
〃

同所廿七
一上田壱畝弐歩　四合毛　三合毛　忠四郎
〃　本右衛門

同所廿八
一上田廿分　四合毛　三合毛　甚三郎
〃　忠四郎

同所
一上田廿七歩　右内へ入筈　三合毛　八郎兵衛
〃

土居之上廿九
一上田廿九歩　四合毛　弐合毛　善四郎
〃

同所卅ばん
一上田拾四歩　四合毛　弐合毛　同人
〃

同前卅一ばん
一上田拾壱歩　四合毛　弐合毛　同人
〃

みそ下卅二
一上田廿五歩　五合毛　三合毛　喜平次郎
〃

同所卅三
一上田弐畝七歩　五合毛　三合毛　甚右衛門
〃　藤次郎

同所卅三畝壱歩
一上田四畝壱歩　五合毛　三合毛　久利七平
〃

同所卅五
一上田壱畝歩　五合毛　本次郎

同所卅六
一上田弐畝七歩　四合毛　三合毛　九太夫

同所卅七
一上田壱畝廿壱歩　四合毛　三合毛　彦喜三郎八

みそ下三十八
一上田拾五歩　三合毛　弐合毛　藤八郎　次治郎

同所
一上田壱畝七歩　右之内書入筈　弐合毛　同人

同所三十九
一上田弐畝拾弐歩　弐合毛　同武右衛門人
内壱畝十弐歩

同所四十
一上田壱畝歩（ママ）　三合毛　次兵衛
壱畝歩三毛

同所　四十一
一上田弐畝五歩　弐合毛　清右衛門　甚右衛門

同所四十二
一上田壱畝五分　四合毛　久七
木戸口四十三ばん
一上田壱畝歩　四合毛　左次兵衛　伊右衛門
一上田弐畝歩

同所四十四
一上田壱畝歩　四合毛　弐合毛　庄右衛門

同所四十五
一上田廿弐歩　四合毛　弐合毛　喜三郎　藤次

同所四十六
一上田廿弐歩　四合毛　弐合毛　八長右衛門　藏

同所四十七
一上田廿三歩　四合毛　弐合毛　又庄右衛門　左

木戸口四十八
一上田拾九歩　四合毛　弐合毛　喜九三太夫郎

同所四十九
一上田十一歩　四合毛　弐合毛　久喜三七郎
一上田廿壱歩

同所五十
一上田四畝廿五歩　三合毛　弐合毛　藤庄九次郎郎

同所五十一
一上田拾壱歩　三合毛　壱合毛　久善四太夫郎

同所五十二
一上田廿八歩　三合毛　壱合毛　庄右衛門

同所五十三
一上田拾弐歩　三合毛　壱合毛　喜三郎

木戸口同所五十四
一中田廿四歩　坪苅場　四合毛　壱合毛　左次兵助衛

同所五十五
一中田廿五歩　四合毛　壱合毛　庄右衛門　甚左次兵衛

木戸口五十六
一中田弐畝四歩　四合毛　弐合毛　甚右衛門助

同所五十七
一中田壱畝九歩　三合毛　三合毛　伊右衛門　惣右衛門

同所五十八
一中畑廿歩　三合毛　三合毛　庄右衛門　甚助

同所五十九　一中田廿四歩　三合毛　〃　右之内ニ書入筈　三合毛　〃　作兵衛　〃久四郎
同所　一中田三歩　右之内ニ書入筈　三合毛　〃　同　人　〃　作兵衛　〃藤次郎
同所六十　一中田壱畝拾弐歩　四合毛　弐合毛　〃　同所六十一　一中田壱畝廿壱歩　四合毛　弐合毛　〃　同八郎　〃治人　〃　左次兵衛　〃平
木戸口同所六十二　一下田廿五歩　坪苅場所　木戸口六十三　一下田廿五歩　四合　弐合毛　〃　藤次郎　〃久四郎
同所　一下田弐畝五歩　右之内へ書入筈　弐合毛　〃　谷八十二　一下田廿五歩　三合毛　壱合毛　〃　喜之助　〃善四郎
同所八十三　一下田廿八歩　三合毛　壱合毛　〃　源兵衛　〃半四郎　〃　同所八十四　一下田廿三歩　三合毛　壱合毛　〃　同人　〃惣右衛門
同所八十五　一下田廿六歩　三合毛　弐合毛　〃　伊三郎　〃源兵衛　〃　同所八十六　一下田拾五歩　三合毛　弐合毛　〃　同所八十七　一下田廿五分　三合毛　弐合毛　〃　木戸口六十四　一下田廿三分　四合毛　三合毛　〃　同所　一下田弐畝拾四分　右内へ書入筈　三合毛　〃

同所六十五　一下田三畝壱歩　三合毛　四合毛　〃　武右衛門　〃庄右衛門
同所六十六　一下田三畝歩　三合毛　四合毛　〃　作兵衛　〃藤次郎
同所六十七　一下田壱畝廿八歩　三合毛　五合毛　〃　平助　〃　同所六十八　垣内同所六十八　一下田弐畝拾七歩　三合毛　五合毛　〃　左次兵衛　〃同人
同所六十九　一下田廿弐歩　三合毛　五合毛　〃　善四郎　〃藤右衛門　〃　同所七十　一下田廿弐歩　三合　四合毛　〃　忠四郎　〃惣右衛門
松原七十一　一下田弐畝七分　四畝廿七分　三合毛　〃　左次兵衛　〃養老寺　〃　七十二　一下田弐畝廿歩　三合毛　壱合毛　〃　久四郎　〃文六　〃伊右衛門
同所七十三　一下田弐畝歩　四合毛　壱合毛　〃　藤次郎　〃正慶寺　〃　同所七十四　一下田弐畝歩　四合毛　壱合毛　〃　久之助七　〃原正慶寺
同所七十五　一下田壱畝拾八歩　四合毛　弐合毛　〃　同所八十一　一下田四畝三歩　三合毛　弐合毛　〃

同所七十六
一下田壱畝歩　四合毛　弐合毛〃　甚安〃
同所七十七
一下田壱畝歩　三合毛　弐合毛〃　藤新次郎〃
同所七十八
一下田三畝廿五歩　三合毛　弐合毛〃　久藤次郎〃　左衛門〃
松原七十九
一下田壱畝八歩　三合毛　三合毛〃　喜藤右衛門〃　三郎〃
同所八十
一下田壱畝拾八歩　三合毛　三合毛〃　庄右衛門〃　源兵衛〃

右之寄

上田六反四畝歩　分米七石四升

此訳

九畝九歩　四合毛
弐反弐畝廿歩　三合毛
弐反八畝八歩　弐合毛
三畝廿三歩　壱合毛

中田九畝廿弐歩　分米八斗七升六合

此訳

弐畝廿六歩　三合毛
五畝七歩　弐合毛
壱畝拾九歩　壱合毛

下田四反七畝三歩　分米三石弐斗九升七合

此訳

五畝七歩　五合毛
六畝廿三歩　四合毛
六畝三歩　三合毛
壱反七畝拾七歩　弐合毛
壱反壱畝拾三歩　壱合毛

合壱町弐反廿五歩　有反

分米拾壱石弐斗壱升三合

外

畑方拾壱町五反四畝廿五歩　本村

此分米七拾九石六斗弐升八合

此訳

五町三反九畝歩　稗・大豆・小豆・芋・木綿・黍唐　当巳皆無
分米三拾四石壱斗弐升七合
四町弐反弐畝六歩　稗・大豆・小豆・芋・木綿・なすひ・黍唐　当巳皆無同前
分米三拾石弐斗弐升四合
壱町九反三畝拾九歩　稗・大豆・小豆・芋・木綿・なすひ　同大痛
京ヶ脇分
畑方三町八反六畝五歩　此分米弐拾八石八斗七升七合

此訳
壱町九反壱畝弐歩　粟・稗・黍唐・大豆　小豆・芋・木綿　当巳皆無
分米拾三石九斗五升壱合
壱町弐反六畝三歩　粟・稗・大豆　小豆・芋・木綿　同皆無同前
分米六石七斗弐升五合
四町弐反九畝歩　稗・粟・黍唐・大豆　小豆・芋・木綿　同大痛
分米五石四斗四升

新田分
畑三町八畝五歩　此分米拾八石四斗九升

此訳
壱町八反五歩　稗・大豆・小豆　芋・木綿　当巳皆無
分米拾石八斗壱升
九反歩　稗・大豆・小豆　芋・木綿　同皆無同前
分米五石四斗
三反八畝歩　稗・大豆・小豆　いも・木綿　同大痛
分米弐石弐斗八升

右之通白石村田方立毛、庄屋・年寄・長百姓銘々地主立合、所々ニて坪刈目ため仕、下見合附仕立、少も相違無御座候、尤銘々田毎ニ札建置申候間、御見分之上何れ之田ニても坪刈被仰付、帳面と御引合、若相違之儀御座候ハヽ、庄屋・年寄・其地主迄、如何様之曲事ニても可被仰付候、以上

巳九月

白石村庄屋　惣右衛門㊞
同断　所右衛門㊞
同村年寄　伊右衛門㊞
同断　七太夫㊞
同村惣百姓代　左次兵衛㊞
同断　武右衛門㊞
同断　藤次郎㊞
同断　太右衛門㊞

一一七　押越村晩稲方合毛揃帳

○押越　渋谷保之氏所蔵

「（表紙）　文化十一年
多藝郡押越村当戌晩稲方合毛揃帳
戌九月　」

一高七百弐拾八石八斗五升
内
高拾石九斗六升

押越村　諸引

残高七百拾七石八斗九升
此反別七拾三町六反四畝五歩
此訳
畑高百五拾壱石六升四合
此反別弐拾壱町七畝廿弐歩
田高五百六拾六石八斗弐升六合
此反別五拾弐町五反六畝拾三歩
内
田高壱石九斗四升四合　子林成起返
此反別壱反八畝歩
田高七石九斗六合　子雑木成起返
此反別七反三畝六歩
田高三石三斗四升四合　同断未免直り
此反別三反廿九歩
田高七石三升壱合　寅起返免直り
此反別六反五畝三歩
田高五石六斗壱升八合　戌荒地御引高
此反別五反壱畝廿九歩
小以弐町三反九畝七歩
残高五百四拾石九斗八升三合
此反別五拾町壱反七畝六歩
内
田四町三反弐畝廿歩　早稲方
此籾五拾壱石九斗弐升
残田四拾五町八反四畝拾六歩
此毛揃
四反六歩　四合毛
此籾四石八斗弐升四合
拾町壱畝廿三歩　三合毛
此籾九拾石壱斗五升九合
弐拾四町九反五畝四歩　弐合毛
此籾百四拾九石七斗八合
八町五反四畝廿三歩　壱合毛
此籾弐拾五石六斗四升三合
壱町九畝七歩　五勺毛
此籾壱石三升八合
八反三畝拾三歩　皆無
反別合四拾五町八反四畝拾六歩
此籾〆弐百七拾壱石三斗七升弐合
右は、当戌年田方立毛之内、晩稲方合毛揃書面之通ニ御座候、
以上
文化十一年　多儀郡押越村庄屋　和平㊞
戌九月　同断　久太夫㊞
年寄　安左衛門㊞

百姓代　仙　助㊞
同　断　理　蔵㊞

御検見御奉行衆

一一八　中村検見引地差出控

○中　高木享一氏所蔵

（端裏書）「又兵衛分田方本田ニ附廻故此差出末ニ有、則附廻願と有

天保三壬辰年御検見御引地差出シ控　　両度共此通　」

辰年中村御差出之事

一高辻四百弐拾九石弐升五合

高弐石弐斗八升四合　永引地

高拾三石五斗五升　辰年諸引地

（朱筆）「此反壱町三畝壱歩」

残高四百拾三石壱斗九升壱合

内

高弐拾石五斗七升八合　又兵衛分

高九拾壱石六斗六升六合　入方分

高四拾五石八升八勺　御本田畑方

平均高拾三四〇九二四

高弐百五拾五石八斗六升六合弐勺

此反拾九町八畝四歩

弐町八反拾弐歩　壱

高三拾七石五斗九升九合五勺

壱町四反九畝廿歩　弐

高弐拾石六升九合壱勺

壱町八反五畝拾四歩　三

高弐拾四石八斗六升九合六勺

拾弐町九反弐畝拾九歩　御引地田

高百七拾三石三斗弐升七合八勺

弐町弐畝五歩　五合毛下ノ壱

弐町三反三畝四歩　四合毛下ノ弐

壱町九反三畝五歩　三合毛下ノ三

弐町弐反弐畝拾六歩　弐合毛下ノ四

弐町八反七畝拾歩　壱合毛下ノ五

壱町五反四畝八歩　皆　無

一御定免五ッ四分六厘　御本田

一高弐拾石五斗七升八合　又兵衛分

此反弐町四反拾五歩

内

高拾五石六斗七升三合　畑　方

此反壱町九反五畝廿七歩
高四石九斗五合　田方
此反四反四畝拾八歩
内
三畝三歩　五合毛
五畝廿壱歩　四合毛　壱
五畝五歩　三合毛　弐
七畝廿七歩　弐合毛　三
五畝拾三歩　壱合毛　四
壱反七畝九歩　五　皆無
〆
一御定免弐ツ弐歩
以上
天保三壬辰年
中村五人組頭　傳右衛門
同村名主　清三郎
同村同断　彦内
御検見
御奉行衆様
せん日ニ名田帳と一緒ニ差出弐通
御支配へ壱通上ル
又、御見取へ御見分前日ニ書抜帳
差出壱通上ル

一一九　中村検見差出書
〇中　高木享一氏所蔵
中村御検見差出之事
一高辻　四百弐拾九石弐斗五合
内
高弐石弐斗八升四合　永引地
高拾四石三斗六升八合　諸引地
残高四百拾弐石三斗七升三合
内
高弐拾石五斗七升八合　御定免　又兵衛分
高九拾壱石六斗六升六合　御定免　入方分
高四拾四石六斗壱合　御定免　御本田畑方
高弐百五拾石五斗弐升八合　同　田方
平均拾三四弐三六四三
此反別拾九町三畝拾七歩
内
高七石七斗五升　五反七畝弐拾弐歩　五勺毛
高六斗九合　四畝拾六歩　皆無
小以八石三斗五升九合　六反弐畝八歩
残て
六町弐反七畝廿四歩　五合毛

此籾九拾四石壱斗七升
三町六反八畝廿七歩　四合毛
此籾四拾四石弐斗六升八合
三町弐反八畝拾歩　三反毛
此籾弐拾九石五斗五升
三町三反廿三歩　弐合毛
此籾拾九石八斗四升六合
壱町八反五畝拾五歩　壱合毛
此籾五石五斗六升五合
右高弐百四拾七石壱斗六升九合
反町〆拾八町四反壱畝九歩
籾〆百九拾三石九升九合
御定免　五ッ五分三厘　御本田
以上
右之通相違無御座候、以上
文久二壬戌年九月

中村御百姓代　傳左衛門
同村名主　彦右衛門
同村同断　雄平

御検見御奉行衆様

（後筆）「御検見方様弐通
御支配様へ壱通
村扣〆四通　壱通」

一二〇　嶋田堤土取跡定納申付書

〇烏江　吹原第三氏所蔵

尚々、右之所　公儀ニて相極り申候上ハ、芦・まこもうへ不申候共、定納壱石ハ取申候間、情を入植可被申候、以上
一筆申入候、然は、其村西表堤外嶋田境土取跡、不納所之義、定納壱石ニ相極、芦・まこも植被申度由、佐々長兵・勝野太郎左・平野甚右と相談仕、御国奉行衆へ申候へハ、右之通ニ相極申付候様ニと被仰候間、早々芦・まこも植可被申候、為其態申遣候、以上

慶安元年　三宅　兵右衛門
三月十三日　勝　重（花押）
からすへ村
勘　兵　衛殿

一二一　年貢納方申付書

〇烏江　吹原第三氏所蔵

覚

一尾州・濃州御蔵入之村々御年貢御納所之儀、御代官免定出し候は、当年より自今以後ハ、毎年極月廿日切ニ、其年之作毛

を以、急度御皆済可仕候、若百姓之内、作毛取ちらし、御年貢御無沙汰仕候ハヽ、曲事ニ可申付候、付　其者之持高を取上、品ニより所を払可申候、其上未進方ハ、其村中として出し可申候、庄屋・与頭・小百姓中へ、右之旨能為申聞、吟味可仕候、自然無念ニ申付、御年貢遅々仕ニおゐてハ、庄屋・与頭過怠可申候事

一奉公ニ可罷出百姓於有之は、前方ニ庄屋・与頭吟味仕、其もの引得之田畑作毛を以、御年貢極月廿日切ニ、御皆済可仕候事

一少高を引得并高なし之者何之家職もなく、ふハ〳〵とあるき、ばくちなとうち廻り、不審成もの於有之は、庄屋・与頭致穿鑿、御代官へ可申達候事

右之条々、可相守者也

万治三子八月六日　　尾州
多藝郡　　奉　行
烏　江　村

一二二　大場新田定免申渡書并請書

〇東京都　国立史料館所蔵

（表紙）「　享保十七年
亥御免定御渡被遊候節被仰渡書并
子七月　　百姓奉拝見候連判帳　」

申渡覚

一定免村々去亥免定并風水・旱損ニて破免之村々、前々より検見取之分共免定相渡候間、御年貢無滞毎年極月廿日以前急度可皆済事

一近年御廻米扱悪敷候ニ付、去春中も浅草御蔵ニて御吟味之上、大分之撰出米有之、於江戸ニ相払御定之直段ニて公儀えは金納成候故、百姓弁金も余程相払、御取箇相増候御事ニて近年庄屋納之事故百姓共も麁末なるいたし方有之、庄屋も見のかしニいたし納所仕候故、悪米多於江戸撰出米大分有之候、兼て此方ゑ手本米差出吟味を請、其手本米を見合不申、悪米納所いたし候と相見ゑ候、旁以不届至極候、然処、去冬より当春中ハ、撰出米少ク候て、米扱余程念入候様相見ゑ候、向後猶以念入可申候、若此以後麁末之致方於有之ハ、急度越度可申付事

一右申渡候通有之由江戸表より申来候ハヽ、追右撰出悪米之分撰悪米中札を以吟味之上急度可申付事

一近年は御廻米升入村方入念候ニ付、於江戸欠米少ク候、弥入念升目不足無之様ニ可情入候、若欠米有之候得ハ、御定之直段を以金納ニ被仰付候故、御取箇増候御事ニ候間、能々入念可相納候、若欠米大分升切等有之候は、中札を以其百姓を遂吟味、庄屋・年寄并升取米（ママ）見米主ともニ可為越度事

一免定写郷蔵ゑ張置可申候、金納之村方ハ郷蔵有之間敷候間、

村中ハ勿論、出作之もの迄庄屋へ呼集読聞せ可申候、尤御高札場ニ写致シ張置可申事

一御廻米中札入念壱俵ニて相改入おとし無之様可仕候、若御城米中札無之俵も有之候ハヽ、御僉議之上急度曲事ニも可被仰付候間、庄屋・年寄升取米見米主立会、随分入念可申事

一村々ニてはくち打、三笠附いたし候もの、并野郎遊女之類所々留置宿仕候ものは不及申、惣て家業もなく胡乱成身持ニて、他所へ罷越夜泊り難見届ものあらば、可申出候、在々小盗人有之候由沙汰有之候間、常々五人組切ニ能々相改、村中ニあやしきもの無之様人別ニ吟味可仕事

附り、村中田地も不持、小作も不請、家業もなく不致、ふらつき致渡世候ものあらは、五人組より能々心を付、見届候上、組頭か庄屋へひそかに相達、御役所へ注進可仕候事

一火ノ用心随分大切ニ可仕候、御籾御城米郷蔵ニ有之内ハ、昼夜番仕火之用心大切ニ仕候様五人組切ニ可申渡、いつにかきらす候といへとも、冬春迄風立候時は一入念を入、火之元昼夜油断仕間敷候時は、夜中も村方之内ニて番を立置、両人つヽ村中を相廻可申候、往還村々ハ、昼夜ニ不限番人立置、火之元入念可申候、別て灰屋能々心を附候様可申候事

子六月　　笠松御役所

一去亥御免定頂戴仕奉拝見候并御申渡書被読聞、猶又承知仕候、五人組切ニ常々申合、何事ニよらす無油断様心懸可申候、少も違背申間敷候

右之通御書付度々出候といへとも、猶又此度も御念入候被仰渡御座候、随分隣よりとなりへ互ニ申合、はくち等之儀ハ不及申上、何事ニても悪事仕不出候様可仕候、此節金銀不自由ニ候といへとも、其中においても悪事相工ミ候もの御座候ハヽ、ひそかに庄屋所へ相達可申候、承知仕候趣判形仕候、以上

享保十七年子七月

甚右衛門印
惣右衛門印
仲右衛門印
庄　藏印
宇右衛門印
藤次郎印
文　六印
十三郎印
彦　内印
伊右衛門印
長三郎印
傳右衛門印
太兵衛印
八兵衛印

甚　兵　衛㊞
勘　兵　衛㊞
忠　　八㊞

一まかない遣銭之儀ハ、惣中と仕調可申候事
一此連判之者、壱人にても身ぬきニ仕間敷候事

中　嶋　兵左衛門殿

一二四　押越村百姓損所理り状

〇大垣市東外側町　大垣市立図書館所蔵

寛永五年押越村日損所御理申上覚

一高七百弐拾八石八斗五升　　押越村

内

四拾五石は　　石置川原ニ成地なし分
弐拾石は　　堤下敷地ニ成地なし分

高残て六百六拾三石八斗五升

内

弐百八拾五石余　　石畑村へ入くミ日損付荒分
三百七拾八石八斗五升　　本毛付分

〆

右之通度々如申上候、おしこし村といしはた村田地入くミにて御座候へハ、高弐百八拾五石余日損仕迷惑申候間、石畑村同前ニ被仰付可被下候、御免状之通にてハ、百性堪忍不罷成候、右偽り申上候と被思召候ハヽ、近所之者共被召出、おしこし村日

一二三　押越村百姓高免理り状

〇大垣市東外側町　大垣市立図書館所蔵

おしこし村高免ニ付御理り可申上覚

平左衛門　　彦左衛門(略押)　彌　三　郎
彌　三(略押)　德右衛門(略押)　五郎左衛門
五郎兵衛(略押)　兵　介(略押)　九左衛門(略押)
德□(次カ)(略押)　彦　九　郎　新　介(略押)
彦　介(略押)　彦　次　次　兵　衛(略押)
少　八(略押)　可右衛門　彦　八　郎

右此連判之者、高須ニても又何方ニても御理り可申上候、自然右之内壱人成共迷惑仕候儀御座候共、たかいニ御うらミ申間敷候、但相残百性中と仕□□、其上何方ニても御理り可申候、為其一筆申合候、為後日如件

寛永五年
辰十一月八日

損所之儀、御尋被成可被下候、か様ニ申上事千万迷惑ニ存候所、過分之御高免ニ被仰出候故、未御請状も不仕候ヘハ、御手代衆御ハらて(腹立)被成迷惑申候、何様ニも百性堪忍仕候様ニ被仰付被下候ヘハ、忝可存候、以上

辰極月十六日　　おしこし村　兵左衛門
　　少　八
　　次　兵衛
　　九左衛門
　　彦左衛門
　　兵　介
　　彌　三郎

北村庄兵衛殿
柴山長兵衛様
北村茂兵衛様
長谷川七左衛門様
木村清太夫様

寛永九年押越村日損ニ付、御公儀より日損所之帳をこまかに仕上ケ候へと御意被成候ニ付、此様子御手前御存無之候故ニ、地下中寄合請合仕上ニて、日損所并ニ川成御帳ヲ少もまきれなくきわめ指上ケ申候、至後日ニ若御公儀より御改被成候は、何時とも此連判仕候者とも罷出、右指上ケ申御帳之おもて、少も無相違田畑引渡シ可申候、為後日状仍如件

寛永九年　　おしこし村　九左衛門（略押）

申ノ九月廿日

おしこし　兵　太　夫殿

寛永拾壱年押越村指出之事

一高七百廿八石八斗五升

内

彦　兵　衛（略押）
次　兵　衛　印
兵　　介（略押）
彌　三　郎（略押）
新　　介　印
加右衛門（略押）
彦　八　郎（略押）
彦　九　郎（略押）
彦　　次（略押）
彦左衛門（略押）
清右衛門（略押）
久　　介（略押）
半　七
五郎兵衛（略押）
清　　次（略押）
七　　助　㊞

田畑屋敷方共ニ

高六拾五石ハ
永荒川成堤下地ニ
なる地なし分
此畝数拾四町七反五セ
高百八拾七石九斗八升九合
田方日損所当年石畑井
水なと不受候ニ付て
此畝数七町弐反八セ
高九拾弐石七斗八升四合
午之年より当年迄
川成付荒共ニ
此畝数廿四町八反九セ五歩
高三百拾七石弐斗二升九合
田方毛付分
此畝数六町四反九畝九歩
高六拾五石八斗四升九合
畑万屋敷共ニ
畝数合五拾三町四反壱畝十五歩
惣高合七百廿八石八斗五升
右之通日損・川成・永荒地なし、畝数・郷さかい高以下ニ至
迄、村中之者共罷出、ぎんミ仕如此候条、此指出　御公儀御指
廻可有之候、御公儀より御検見、又ハ御地押なと御座候時ハ、
無相違我々罷出引渡し可申候、自然至後日ニ何かと申旨御座
候共、此連判之者共罷出、御理り可申上候、為後日之仍如件
寛永拾壱年　彦　八　郎(略押)　九左衛門(略押)
戌ノ九月二日　彦　兵　衛(略押)　兵　　介(略押)
五郎左衛門(略押)　次　兵　衛(略押)
七　　介(略押)　彌　三　郎(略押)
彦左衛門(略押)
清右衛門(略押)
か右衛門(略押)
新　　介(略押)
五郎兵衛㊞

清　　次(略押)

押越村子ノ年風損ニ付、坪入御検見御公儀より被成候ニ付、村
中相談ニて、先年より有来り候通、田畑五十三町之御帳ニ御検
見請申候て、当年万事かゝり物ハ六十二町ニわり可仕候、立毛
在之候田ハ、右之五十三町ニ御請申候通、たかいニ可仕候、以
来御請米之年ハ、前々のことく六十二町ニわり、たかいニ可被
成候、為其惣百姓不残立合、相談にて此連判仕置候間、万事兵
太夫殿ハ若キ候ゆへ御存無之故、惣百姓中より右之通ニ、相談
仕、一筆為後日状如件
寛永十三年　　おしこし　兵　太　夫
子九月八日　　兵　　介
次　兵　衛㊞　小　平　次㊞
七　　介㊞　權　三　郎㊞
久　　介㊞　彌　三　郎㊞
小　十　郎㊞　彦　　六㊞
半　　七㊞　新　　介㊞
五郎左衛門　加右衛門㊞
五郎兵衛㊞　彦　八　郎㊞
清　次(略押)　彦左衛門(略押)
清右衛門(略押)
(後　欠)

一二五　押越村荒川成納所異議申立書

〇大垣市東外側町　大垣市立図書館所蔵

乍恐書付を以申上候　　押越村百姓中

一高七百弐拾八石八斗五升　　田畑屋敷共ニ

内

高百壱石五斗五升四合　　畑方屋敷

此取四拾八石四斗

高拾四石壱升四合　　田かり跡の分

此取六石六斗六升五合

高四百拾四石六斗壱升七合　　田方御検見の分

此籾四百八石弐斗

内

六拾九石七升者　　三分一百姓作徳ニ

被下候由御意御座候

米残百三拾九石四斗者　　三分二公儀へ

可納の分

米合百九拾四石三斗六升五合

右之外ニ

一高百九拾八石六斗六升五合者　　永荒川成堤下

敷地ニ成共ニ地なし分

此永荒川成ニ米九拾四石弐斗六升御物成御付候て、右之畑方の御物成と、又田方御見立之御米と壱ツニ被成、御免状被下

迷惑仕候、右之通、畑方の分ハ不残なわを御入候て、立毛の少き時は御検見を被成、なまもミニて御升付を被成、畑方の分ハ午之年の御免ニ被仰付候上ハ、いかにして此無地ニ御もり候米をわきまえ、御納所可仕候哉、其上午之年高免ニ被仰付候故ニ、百姓悉ニたおれふし、事外くたびれよわり申候間右御検見おもての御米さへなりかね可申と存、迷惑仕候処ニ、此無地の御米被召置候におゐては、押越村ほうしよニ罷成、村々百姓かんにん罷成間敷候、あわれあわれ

伊勢守様御代のことく、此荒川成ニ御もり被成候米の分、御引被成可被下候、けに〳〵右之御免状之通ニ可被召上候は、家妻子牛馬すきくわ迄も売候て、代替御納所仕、其上ニての御奉公ニ罷出可申候間、にあい〳〵ニ御召遣被成可被下候、あわれ〳〵

左京様ゑ被仰上、右之荒川成ゑ御もり候御米、御引被成被下候は、忝奉存候、則、未ノ年御検見帳も指上ケ申候

寛永八年
未ノ十一月廿一日

兵　大　夫㊞
九左衛門㊞
次　兵　衛㊞
兵　　介㊞
彦左衛門㊞
彌　三　郎㊞
五郎兵衛㊞

新　介㊞
彦　次㊞

惣百性中

木村清太夫様
北村茂兵衛様
柴山權兵衛様
長谷川七左衛門様

一二六　石畑村定免年継願

○上石津町　山口一易氏所蔵

（端裏書）「　定免年継願　　四月九日　石畑村　」

乍恐以書付奉願上候

一三ッ弐分八厘　　石畑村田方
高五石六斗三升壱合　　御定不農引

右は御定免・御定不農引共、去ル巳年より去未年迄三年賦御年継被　仰付被下置難有奉存候、然処当年御年賦ニ御座候、恐多御願ニ御座候得共、何卒御慈悲之御勘考を以、当申年より戌年迄三年賦、是迄之通御年継被為　仰付被下置候様奉願上候、乍恐右願之通被為　仰付被下置候ハヽ、難有奉存候、以上

天保七丙申年四月

石畑村御百姓代　清右衛門㊞
同村五人組頭　喜　三　郎㊞
同村同断　八　兵　衛㊞
同村附名主　文　平㊞
同村同断　藤左衛門㊞

御代官
御役所

一二七　栗笠村減免并拝借金願

○栗笠　高橋嘉幸氏所蔵

乍恐奉願上候御事

一栗笠村之儀、御田地一躰疲地ニて、養ひ沢山ニ不仕候ては作衰申候土地ニて御座候得共、草野も無御座、田畑之間ニて刈候草斗ニて、養ひ届不申候ニ付、先年より干鰯或は山草灰等買調候て養ひ仕候得共、困窮仕候ニ随ひ、自然と買糞得不仕、次第ニ立毛出来劣り、追々困窮相増申候ニ付、九ヶ年以前御願申上候処、御憐愍被成下、御救御定免被為　仰付被下置、難有奉存候得共、右御定免之内、打続年柄悪舗候次第、困窮相増申候得共、御年貢之義は御太切之義故、田地等売、其上御役所様より御苦労被成下、御口入金御借シ被下候故、

旁にて御年貢相勤来り候得共、困窮仕候故、御口入金之利足をも得指上不申、御年貢米等翌年之初納ニて返金之筈ニて、追々借入仕候て、御年貢上納仕候様成為躰ニて、十五年以前迄は馬弐十五疋御座候処、唯今ニては六七疋ならてハ無之仕合ニて、御百姓難相勤罷成甚難儀仕候、此分ニては追付水呑同前之者ニ罷成可申候奉存候、年久御高持ニて難有相続仕来候処、水呑同前罷成可申事、何共〳〵歎ヶ敷御事奉存候間、乍恐御慈悲を以御救御定免極年之内高弐ツ三分取ニ被為仰付被下置候様奉願上候

一近年御未進米追送り金弐百七拾両余借用御座候内、金百三拾両程、元利当申初納ニて返金之筈ニ御座候て、難儀仕候、此分無利之御金当暮迄拝借被為　仰付被下候様ニ奉願上候、則口入金并是迄他借仕候書付、別紙差上ヶ申候、右奉願上候通御救之御定免并無利御拝借共、御慈悲之上御救不被成下候ては、一向御百姓難取続罷成千万尽果候仕合必至と困窮仕、追付水呑同前ニも罷成可申事、甚以歎ヶ敷奉存候、畏御慈悲を以御百姓相続仕候様、被為　仰付被下置候ハヽ、難有可奉存候、以上

宝暦弐年申三月

栗笠村庄屋　元右衛門
同村組頭　茂右衛門
同村組頭　權内
同村百姓代　傳次

同断　彌三七
同断　丈右衛門

佐溝幸右衛門殿
伊佐地政右衛門殿
青木加右衛門殿

一二八　白石村畑方年貢減免願

○養老公園　村上辨二氏所蔵

乍恐以書付奉願上候

右は、多藝郡白石村畑方之儀、当五月より六月迄折々大雨ニて諸作生立不仕候ニ付、小前一統迷惑仕、勿論夫食喰越殊近年米穀高直ニて、一同難渋仕候間、依之何卒畑方御年貢御慈悲以御勘弁、御引方被為　仰付被下置候様、幾重にも奉願上候、右願之通御聞済被成下置候ハヽ、一同難有仕合奉存候、以上

多藝郡白石村庄屋　幸右衛門㊞
年寄　磯八㊞
百姓代　武重郎㊞

笠松御役所

一二九　中村破免願

○中　高木享一氏所蔵

乍恐以口書奉願上候

中村御本田御田畑之儀、去卯年より巳年迄三ヶ年賦御定免奉願上候処、願之通被為　仰付被下置難有奉存候、然ル処当夏以来永々照続申候ニ付、立毛旱損仕、甚以難儀至極ニ奉存候、依之奉恐入候御願ニ御座候得共、御破免被為　仰付　御検見被成下置候様奉願上候、乍恐　御慈悲御勘考を以、右願之通被為　仰付被下置候ハヽ、惣御百姓難有奉存候、以上

天保三壬辰年九月

中村御百姓代
同村同断　五　郎　次
同村同断　爲　三　郎
同村五人組頭　傳右衛門
同村名主　清　三　郎
同村同断　彦　内

御見取
御代官両御役所

乍恐以書付奉願上候、

中村御本田御田畑之儀、去申年より戌年迄三年賦御定免奉願上候処、願之通被為仰付被下置難有奉存候、然ル処昨夏永々旱魃仕候処、格別之儀も無御座様奉存、御定免持堪安外迷惑仕、猶又当夏も追々御注進奉申上候通、照続立毛旱損仕、御定免難持堪難渋至極ニ奉存候間、恐多御願ニ御座候得共、何卒右御本田之分御破見（ママ）被為　仰付、　御検見被成下置候様奉願上候、尤又兵衛分并入方分之儀は、御定免持堪可申候、乍恐右願之通御聞済被成下置候ハヽ、御百姓一同難有奉存候、以上

文久二壬戌年閏八月

中村御百姓代
同村同断　傳左衛門
同村同断　他左衛門
同村名主　雄　平
同村同断　彦右衛門

御代官
御役所

一三〇　口ヶ島村掟方引免ニ付願書

○口ヶ島　田中耕馬氏所蔵

乍恐御内願奉申上候御事

当村掟方年貢引免之儀、凡六七分通り見立ニ仕、既ニ石弐斗代石、代掟之分七八斗より弐斗五升迄見立ニ相成、残並引之儀ハ田壱反ニ付八分引、畑方之儀ハ壱割弐分引、外畑之儀ハ東六割

四分引、西四割五分五厘引、右之通役前始頭分立合談判之上相極、則小前之者ともへ申聞候、然処隣村引方之儀ハ、別紙之通ニ御座候得共、当村之儀ハ外村々とハ格別勘弁を以申聞候処、只下笠村抔之振合斗申立、乍恐此儀ハ厚御賢考被成下候様仕度、下笠村之儀ハ水場ニて当年も六七分通皆無、右小口之粒毛ニて、私共村々高地之場所とハ格別之相違仕、右ヲ手本ニ彼是申立、殊ニ小前之内ニは、並引ニ不抱者共も一緒ニ村中申相、於今日御年貢勘定不仕、当年も日数無御座必至迷惑仕候、然処当年貢米之儀ハ、廿日已前ニ御皆済仕候様先般被　仰渡奉畏候得共、前顕申上候通り之始末ニて御年貢取立方も不行届、左候へハ御皆済ニ差支奉恐入迷惑仕候間、何卒御慈悲を以厳敷御吟味被　仰付候様仕度、左も無御座候ハては、向後村方相納り不申、尤当十月も小前之者共不当之争のみ申立、既ニ当　御役所様へ奉懸御苦労、厳敷御理解被　仰渡奉恐入候得共、其後又候、引免之儀ニ付御料大跡村より差入組、御陣屋へ奉懸ケ御苦労別紙之通り御請書差上、大跡村へハ断一札指出事済仕候、又々今般右之始末ニて、誠ニ当村之儀は御料・私領入交之村方ニて、隣村ゑ対シ迷惑仕、且は御繁勤之　御役所様ゑ御苦労相懸ケ候段、重々奉恐入候得共、此段乍恐御差含被成下置、格別之御憐愍を以頭取之者被　召出、御年貢米及勘定候様厳敷御理解被　仰付被下置候歟、又ハ恐多御願ニは御座候得共、御同心様当村へ御出張被成下、御年貢米御取立被下哉、最早当年も余日

も無御座候間、御皆済ニ差支何共迷惑仕候ニ付、只管御内願奉申上候、此段御聞済被成下置候ハヽ、安堵ニ御百姓相続可仕と重々難有仕合ニ奉存候、以上

戌十二月

口ヶ島村頭百姓立会惣代　善右衛門
同断　恒三郎
組頭　彌市
同断　儀十郎
庄屋　田中和右衛門

覚

一上田分壱反ニ付五升引　大跡村
一畑上中下共壱反ニ付五升引

〆

一西岩道之義相尋申候処、当役喜三郎より申聞趣ハ、私共村方之義ハ、今以並引之義ハ相定メ不申、何れ当年之年柄之義故、勘定之砌少々ツヽは勘弁致遣候積之由ニ被申聞候
一上田壱反ニ付五分引　岩道村
右之通りニ御座候、以上

一三一　岩道村御囲籾減石注進書

〇上之郷　近藤稔氏所蔵

乍恐以書付御注進奉申上候

一御囲籾百壱石五斗　郷蔵預

内　籾四拾弐石　濡籾相成

内　籾八石弐斗　減石相成

右は、当村御囲籾之儀、先月下旬大洪水之節、小坪新田・高柳新田数ヶ所難所出来仕、依之私共人足召連右場所へ欠附相囲候跡、津屋村御堤切入、真急水ニ付、村人足斗ニては不行届、他人足迄傭入所々へ持運候処、其内ニ村内へ水押渡候ニ付、夜分之儀ニ御座候故、人足共水中へ倒込、右之石数水中へ打落シ、依之濡籾ニ相成候故、御堤へ持上ヶ番人附置候て干立、其上斗立候処、蚌籾ニ相成候処ニ尚又濡籾相成候故、右之石数減石ニ相成、依之乍恐書付を以御注進奉申上候、以上

卯九月十四日　多藝郡岩道村庄屋　藤　三　郎㊞

年寄　喜　代　八㊞

百姓代　祐　助㊞

大垣御領御役所

○小物成

一三三一　郷中小物成指出写

○大垣市東外側町　大垣市立図書館所蔵

郷中小物成指出し写

一麦弐拾弐石弐斗五升　飯木村

一綿八百八拾目　同所

一煎茶弐斤　同所

一麦弐拾四石五斗五升弐合　押越村

一綿壱貫七百目　同所

一煎茶四斤　同所

二口麦合四拾六石八斗弐合

二口綿合弐貫五百八拾匁

二口茶合六斤

右之通六月中急度納候様ニ可被申付候、以上

寛永十九年

壬午五月廿四日　脇屋金左衛門㊞

朝倉求馬㊞

根岸甚右衛門㊞

中鳩兵左衛門殿

牧　田　村

右之村々庄や中

此状村次ニ早々まわし、其村之あたり竹ニうつし置、此ふれ状納所よりたより次第、此方へ可給候

〔寛永弐拾年　未ノ年烏江村万御改并御法度跡帳〕

一三四　栗笠村湊小物成由来書上（尾張藩）

〇東京都　東京国立博物館所蔵

濃州多藝郡　栗笠村

当栗笠湊之儀は、往古より小物成高之湊ニて、年々湊為御年貢金三分宛上納仕候、往古之儀は、塩ニて上納仕候由申伝候

栗笠湊渡場小物成之訳

渡場之儀ハ無御座候へ共、湊之儀ハ当村ニ御座候処、是ハ往古より之湊ニて、開発之年暦相知不申候、右湊ハ御役金之儀、古来ハ塩ニて上納仕候処、元和年中御領分ニ相成候節、従　公儀小物成高ニて御引渡ニ相成候後、毎歳金壱両三分宛村方へ不相拘、問屋安田七郎兵衛より直ニ上納仕来候、尤右湊ニ付て、御朱印等ハ無御座候へ共、慶長年中徳永法印高須在城之砌、湊之御定書并駄賃船積等定証文被下

〔続尾濃方覚書　五〕

一三三　竹切置申渡書

〇烏江　吹原第三氏所蔵

きらせ置可申竹之事

一五束ハ　五拾本結　上沓井村
一拾六束ハ　同断　柳津村
一拾七束ハ　弐拾ゆい　牧田村
一百九拾本ハ　四寸より六寸迄　同所
一五束ハ　五拾本ゆい　烏江村

以上

右之竹、今月十五日以前ニきらせ置可申候、此方へ相届申候儀ハ、重て可申遣候、右之通竹御奉行衆より申来候間、竹数御書付之ことく村々ニてうつし置、めい〳〵当月分、今月十五日以前ニきらせ、竹ニ念ヲ入おき可申候、くさり不申様ニつませおき可申候、此方へ相届申儀ハ、竹奉行衆より一左右次第ニ重て可申遣候、以上

未ノ八月二日　　松原彌市右衛門代
服部吉兵衛

上沓井村
柳津村
すのまた村
からすへ村

○　課　役

一三五　船役銀廻状（尾張藩）

○烏江　吹原第三氏所蔵

役　銀　触

（包紙ウハ書）
「文化八年初て被仰付候事　」

（包紙裏書）
「文化八辛未年始り

覚

十二月廿六日　栗笠村佐藤文四郎殿より飛脚名古屋へ参候ニ付、一緒ニ金弐分上納仕ル」

烏江湊
一船数〆拾八艘　此銀三拾匁　但　内上納

栗笠湊
一船数〆百四拾九艘　此銀九拾匁　右同断

船附湊
一船数〆三拾艘　此銀五拾匁　右同断

大野村
一船数〆弐拾六艘　此銀拾匁　右同断

右は、今般大舟小船ニよらす、船役銀当年より申付候間、来ル迄（ママ）ニ役所へ上納可致候、尤船々より役銀之員数小割等は、来申春可申付候間、其節皆済上納可致候、右日限無遅滞上納可致候、仍申遣候、尤承知之上、村下ニ庄屋令印形、無滞可相廻者也

未十二月　　御舟手役所

右村　庄屋　船持

御触之写

御領分中船々締方不行届ニ付、去未之年より纔之小船ニ至迄、新規役銀申付候処、一統締方行届候ニ付、新規役銀之内、荷積無之船々ハ、右役銀当申年より差免候間、已来立入不都合無之様可相心得候、若不締之趣相聞候ハヽ、一統ニ不拘、右村斗、永々役銀申付候間、心得違無之様、舟持共へ精々申付、不締之義無之様可相心得候

但　役銀御免ニ相成候ても、締方ハ是迄之通相心得、増減有之節ハ、早速可相達候

申七月

右ハ文化八未年初て小船迄も御役銀被仰付候処、当文化九年申七月十二日、荷積無之藻取船・作舟類ハ、御役銀御免相成候

附　船役銀触書留

○烏江　吹原第三氏所蔵

（表紙）
「　文化年癸酉八年
御船手御役所より御焼印札御渡ニ相成候留書之事　」

御書替之写

御領分中船々之儀、去ル午年焼印札相渡、締方申渡候処、去ル未年より致荷積候船々舟々、役銀被　仰付候処、荷積候船と、荷積不致候船々と、難見分候ニ付、今般荷積いたし候船々ゑハ、別紙雛形之通之焼印札引替可相渡候間、先達て相渡置候焼印札、来ル廿五日より九月十五日迄之内、役所へ可差出候

一荷積致シ候船々之儀ニ付、不居合候船も可有之候間、是等之分ハ、帰船次第早速引替ニ罷出候様可致候

一前条焼印札引替相済候上ハ、荷積いたし候船々、是迄之焼印札ニてハ、御番所通船差支候事

一四つ乗舟、稲押船、其外荷積不致候船々は、是迄之通之焼印札ニて宜敷候事

一今般引替ニ付ては、別紙之通書付相認差出候事

右之趣ニ候間、必前条日限之内ニ引替罷出候様可致候

酉八月廿日　　御船手役所

舟付湊
大野村
下笠村
西岩道村
栗笠湊
烏江湊
横曾根村
江月村
飯田村
蛇持村
右庄屋
舟持

承知之上順達、納村より役所ゑ可差戻候、已上

達書之事

一何艘　何船　持主　誰

右ハ、御荷積仕候舟ニ御座候、以上

酉何月　　何郡何村庄屋　誰印

御船手
御役所

右ハ、文化七午年御焼印札御渡シ御座候処、当年御引替ニ相成候、尤午年御札之儀ハ（舟）と斗御座候、此度之御札ハ（尾）（舟）

と相成候、則左ニ雛形有之候

三ヶ湊之艜船廿艘之儀ハ、御役相勤候ニ付、御役銀御免被成下候、藻取船之儀ハ、追て焼印札御引揚ニ成、御役銀ハ無之候、

右ハ、古来無之候処、此度初て被仰出候

文化七年午九月、御渡有之候御札、当年御引替ニ成（ママ）

此通之札御渡ニ相成候　于時文化十亥八月

文化十癸酉年八月

文化七庚午年九月改り、右之通リ木札ニて焼印尾州御領不残御役艜舟始メ、鵜飼舟・藻取舟・村々渡シ舟迄も、壱枚つゝ相渡シ被成候、其外御領分ニて作り借シ申、材木屋えも舟数御改メ御渡シ被成候

一烏江湊之分、数十八枚受取り

右之内札四枚御役艜船之分

弐枚藻取り船之分

残り拾四枚渡ス舟頭覚

御役艜船

政右衛門

庄蔵

直右衛門

忠八〆

清右衛門

喜八

萬次郎

秀介

善吉

幸吉

祐介

林蔵

要介

藤五郎

太右衛門

〆

覚

三ヶ湊鵜飼船之儀、文政八酉年迄ハ、小鵜飼船と御達申上候処同年改中鵜飼舟と相成候、尚又入石ハ不書上候処、同年より中

鵜飼船廿五石入と書上候事ニ相成候
右ハ、文政八酉年　御領分中船御改ニ付、御廻村之節、右之通
被仰付候
寛政八酉年

一三六　小倉村葭運上願

○小倉　栗田嘉三氏所蔵

（端裏書）
「大津御役所へ差上候葭運上願下扣」

乍恐以書付奉申上候

一葭百三拾六束　　但弐尺五寸繩〆

此代永六百拾弐文　　但壱束ニ付永四文五分

右は、当村荒地之場所ニ生立候葭之儀、去戌年書面之通代永上納仕、村買請ニ被仰付候処、相違無御座候、尤当亥年折々出水ニ付、水冠葭延悪敷御座候ニ付、何卒御勘弁被成下御伺被為遊被下候様奉願上候、以上

亥十月

濃州多藝郡小倉村
庄屋　平　太　夫
年寄　仲右衛門
百年代　平右衛門

大津
御役所

一三七　陣夫役差出日延願（尾張藩）

○烏江　吹原第三氏所蔵

乍恐奉願上候御事

七番手　　舟付村　谷　傳之右衛門
　　烏江村　吹原勘兵衛

一夫三人　　江月村
一同六人　　栗笠村
一同弐人　　烏江村
一同拾弐人　　舟付村
〆弐拾三人

今般、異国船御軍用ニ付、夫人足前顕之通被　仰付候処、奉承知候、然処、私共村々之内、御地頭様え御伺済之上、御請書奉差上候間、来ル廿七日迄御日延被成下候様奉願上候、付ては、江月村之儀も、同様御日延被成下候様奉願上候、以上

丑十二月

江月村庄屋　吹原市兵衛
栗笠村庄屋　文　四　郎
船付村　谷　傳之右衛門
烏江村　吹原勘兵衛

岡田喜太郎様
御陣屋

一三八　陣夫役人足賃銀定（尾張藩）

○烏江　吹原第三氏所蔵

（嘉永七年）
寅正月廿日くり笠ニて出会、会席佐藤文四郎宅
評決覚

一夫人足賃銀、壱ケ年ニ付金九両之割を以、相渡シ可申事
　但シ、三月くらいニて、御用相済候得は、壱人ニ付銀弐匁宛相渡被申、其余長引候へは、九両之割を以相渡し可申事
　但　田畑耕作之義ハ、小毎組々より罷出手伝可申事
　附　出立之節、金子入用之向ぇハ、金壱両弐分迄貸渡し可申事
一夫人足ニ罷出候者、留主中家内病人等有之節ハ、村方より夫々世話いたし可遣候、尤夫人足ニ罷出煩候節は、人足賃之外夫々手当可致候事
一夫人足舟附・烏江組四ケ村、大野・下笠組四ケ村人足、夫々より能様印付可申事
一夫人足出立之節ハ、村々より三四度振之弁当米として、壱人ニ付米弐升宛、庄屋宅ニて握り飯ニいたし、手当可致候事
　但　人足弁当箱并箕笠抔持参之事
一引請人付添之節、壱組ニ金五拾両宛手当持参之事
一人足罷出候節ハ、村々より役前之内人足召連、引請人迄罷出候事、尤其節人足壱人ニ付金弐両宛持参、引受人ぇ相渡し可申事

右出会ニ付出席村々

ロケ嶋村　西岩道村　下笠村
大野村　船付村　栗笠村
烏江村　江月村

一三九　陣夫役請書（尾張藩）

○烏江　吹原第三氏所蔵

乍恐御請書之事

江月村
烏江村
栗笠村
船付村　扣

異国船浦賀表ぇ致着船候由ニて、右村々夫々之者、私共引請被仰付、御用之節御下知次第、即刻引連、外片端御園町より長者町迄之内、寄場所ぇ罷出、御差図随ひ、可為相勤旨被仰付奉畏候、依て御請奉申上候、以上

寅正月

船付村
谷傳之右衛門

烏江村
吹原勘兵衛

岡田喜太郎様
御陣屋

一四〇　陣馬数請書（尾張藩）

○烏江　吹原第三氏所蔵

乍恐御請奉申上候御事

一馬三疋五分　江月村
一同六疋八分　栗笠村
一同弐疋五分　烏江村
一同拾四疋　船付村
〆馬弐拾六疋八分

右は、異国船渡来之節、御用意として、高割を以、前顕之通、馬数被仰付奉畏候、村々申合置、御沙汰次第手当仕置、差出可申候、仍之、村々連印御請奉申上候、以上

嘉永七年
寅十月

江月村庄屋　吹原市兵衛
烏江村兼帯庄屋　文四郎
栗笠村庄屋　文四郎
舟付村惣年寄
庄屋兼帯　谷傳之右衛門

岡田喜太郎様
御陣屋

右村々馬之儀、私共引受被仰付、御用之節御下知次第、即刻引連、外片端御園町より長者町迄之内寄場所ゟ罷出、御差図ニ随ひ、可為相勤候、依之、御請書奉差上候、以上

右引請
烏江村　吹原勘兵衛
舟付村　谷傳之右衛門

一四一　岩道村外三ヶ村国役赦免願

○上之郷　近藤稔氏所蔵

乍恐以書付奉願上候

一此度朝鮮人来朝ニ付、品々御入用金御国割ニ相成、高百石ニ付金三両弐分余宛可相納旨、先達て被仰渡奉畏候得共、私共村々之儀は延享年も上納不仕候
一佐渡船橋御用人足延享年も差出候、当年も高百石ニ付人足八人五分五厘宛差出、右人足之儀、正人足ニて差出し候てハ御間合ヒ不申候故、請負方相頼候処、去ル未年冬中極寒之節ニ差掛り、川堀り仕事故、一日壱人ニ付銀拾六七匁程宛ニて相雇、多分之入用割賦差出し、其上今須賄御割賦も相掛り候儀

御座候間、何卒御赦免被下候様ニ奉願上候

一延享七年中船橋御掛渡シ之節は、春中暖気ニ趣候節故、正人足ニて差出し候ても働相成候故、正人足差出シ御間ニ合セ申候、此度之儀は寒気之節故、正人足村々割賦割合申付候得共、小百姓共罷出不申、彼是申候内御用御間ニ欠申候間、無是非請負人相頼相渡シ多分之入用相掛り迷惑至極ニ奉存候右之通り朝鮮人来朝ニ付、品々入用御役相勤申候故、延享年も御国役御割賦之儀も差出シ不申候間、何卒当申年之儀も御赦免成し被下候様ニ偏ニ奉願上候、以上

明和元年申十二月　日

濃州多藝郡岩道村庄屋　秀　助
同郡　上ノ郷村庄屋　領左衛門
同郡　横屋村庄屋　孫　九郎
同郡　根古地村庄屋　儀右衛門

大垣
御預り御役所

一四二　下笠村蔵役免除願

〇下笠　児玉章氏所蔵

乍恐奉願上候御事

一土蔵壱ヶ所　長三間　巾弐間
一同　壱ヶ所　長梁壱間四尺　巾弐間
一同　壱ヶ所　長梁弐間五尺　巾三間半
一同　壱ヶ所　長三間　巾弐間
一同　壱ヶ所　長三間　巾弐間

（後筆）「平常何之品を入候土蔵ニ候哉吟味之事」

右は、先達て土蔵員数奉書上置候処、右五ヶ所之分ハ全土蔵形ニて御座候得共、平生は畳等も敷、家内之者住居所ニ致置、且又居宅等も売払、右土蔵之内ニ住居仕候者も御座候間、何卒格別之御慈悲を以蔵役御勤申上候儀は、乍恐御省キ被成下置候様奉願上候、以上

寅十二月

田中文左衛門
蔦次郎
米吉
三右衛門
和十郎

濃州多藝郡下笠村庄屋
田中常三郎㊞
同断　北垣彦一郎㊞
同断　田中文左衛門㊞

市瀬東七郎様
御陣屋

一四三　冥加献金願

〇石畑　山幡清重氏所蔵

乍恐以書付奉願上候

一金九両壱歩　銀拾匁七分六厘
弘化二巳・三午弐ヶ年ニ調達仕、七ヶ年ニ御下ヶ金内未・申・酉三ヶ年御差下ヶ奉請取候、残四ヶ年分
一金四拾八両弐歩　銀拾壱匁五分九厘
弘化三年四月より同四未二月迄月々調達仕候処、御下ヶ残
一金壱歩　銀拾四匁弐分九厘　舟見村ニて割合持仕置候
元金弐歩分
右同断御下ヶ残
一五拾両は
去亥八月被　仰出候調達御講え御加入仕候、尤右金五ヶ年ニ割合、来ル卯年迄年々上納限ニ可仕候
右四口共調達金之儀追々被為　仰出候御趣意奉恐承、依之為御冥加献金仕度奉願上候、乍恐右願之通被為　仰付被下置候ハヽ、難有奉存候、以上

嘉永五壬子年四月　石畑村　清右衛門㊞
御代官
御役所

一四四　冥加金上納願

○栗笠　高橋嘉幸氏所蔵

乍恐奉願上候御事

多藝郡栗笠村
佐藤與三郎伜
佐藤三四郎

一金三両　佐藤次郎左衛門
一金壱両弐分　佐藤丈右衛門
一金三両　佐藤惣右衛門後家
一金壱両　佐藤文四郎
一金三両　佐藤宇内
一金壱両弐分　市右衛門
一金三分　三郎治
一金壱分　治兵衛
一金弐両　七郎右衛門
茂兵衛

〆金拾六両

右は御米切手御減方之儀ニ付、追々御焼捨被為　仰付候由、奉承知候、然所私共儀乍少分右御減方之内え、御冥加として当巳年より未年迄三ヶ年之内、右之通御上納仕度奉存候、此段御聞済被成下置候ハヽ、難有可奉存候、勿論銘々内輪倹約仕、右之余分を以御上納仕候御儀ニ御座候間、右奉願上候通御聞済被成下置候様、偏ニ奉願上候、以上

巳九月　右村庄屋　佐藤文四郎
右同断　市右衛門

碓永清八郎様
御陣屋

右は先達て御内々御達奉申上置候御冥加之儀、此節鵜多須御陣屋ゑ書付差上申度奉存候、依之御達奉申上候、以上

巳九月　　栗笠村庄屋　佐藤文四郎
　　右同断　市右衛門

御代官
御役所

一四五　中村調達金証文

〇橋爪　大久保守正氏所蔵

調達金証文之事

合百両也　但、利足年八朱定

右は、此度御勝手方御取締ニ付、前段調達金被　仰付之書面之通相納候、然上は返弁方之儀、金百両ニ付御収納米拾九俵充之割合を以、元利相済候迄年々無相違相渡、時之相場を以仕切相立可申旨被　仰付候、為後証仍如件

文久二戌年十一月

井上荘次郎㊞
小林誠右衛門㊞
鹽川忠次郎㊞
中村　中西彦左衛門㊞
　　彦右衛門方

前書之通相違無之候、右ニ付御黒印御書付御下ヶ被置候間、則写相渡候、以上

戸田權之助
戸田四郎兵衛㊞
鈴木李充㊞
河嶋八右衛門㊞
上田二右衛門㊞
高岡三郎兵衛㊞
細井準輔
中村金右衛門㊞
竹内松左衛門㊞
内藤七九郎

一四六　調達金免除願

〇栗笠　高橋嘉幸氏所蔵

乍恐口上書を以奉願上候御事

一今般私共　御召出シ被為　仰渡候御趣は、御金調達仕候様ニと被　仰渡奉畏候、罷帰り段々賄ひ方穿鑿仕候得共、出来難仕迷惑仕候ニ付、乍恐左之通御歎奉申上候、私共両人之儀ハ六年已前巳十月火災ニて、家諸道具ハ勿論、衣類至迄一時ニ

類焼仕、難義仕候ニ付、　御地頭様へ少々差上置候調達金も御願申上候処、御返金被下置候義御座候、漸近年親類共助力を以家作ハ仕候得共、爾今内造作等も片付不申、勿論衣類ハ尚以得調不申、纔之年数之内近年凶作と申難渋共打続迷惑仕候、乍恐今般之御調達金之儀ハ、何卒御除キ被為遊被下置候ハヽ、難有可奉存候、至て不仕合之者共ニ御座候間、畏　御慈悲之御勘弁を以願之通御聞済被為　遊被下置候は、難有可奉存候、以上

戌七月　　栗笠村　和　七
　　七郎右衛門

一四七　御進発上納諸記帳

○押越　渋谷保之氏所蔵

（表紙）「　御進発
　上金一件諸記帳
　　澁　谷　」

郡中備方之覚

一すへ縄　　三千束
　但壱把廿尋、右拾把を以壱束として
　此高割百石ニ付　　四束宛
一草鞋　　壱万足
　但、高百石ニ付　　拾五足六分宛
一空俵　　三千枚
　但、高百石ニ付　　四ッ七分（足カ）
一馬沓　　三千枚
　但、高百石ニ付　　四足七分
一松明　　弐千挺
　但、竹ニて廻り壱尺、長壱間
　高百石ニ付、三丁三分三厘
　外ニ
荏・桶・樽・莫・鋤・鍬・鋸・鉈、宿々夜具・家具
右用意追て差掛り之節、評議之事

覚

一すへ縄　弐拾八束　　直　江　村
一草鞋　弐百七拾五足
一空俵　三拾三
一馬沓　弐百廿足
一松明　廿四挺
一同　九拾九束　　鳩　田　村
一同　九百六十壱足
一同　百拾六枚
一同　七百六十九足
一同　八拾弐丁

一同	三束	五日市村	
一同	三十足		
一同	四ッ		
一同	廿足		
一同	三丁		
一同	弐拾束	岩道村	
一同	百九十弐足		
一同	廿三枚		
一同	百五拾四足		
一同	十六丁		
一同	弐拾三束半	上ノ郷村	
一同	弐百三十足		
一同	廿八枚		
一同	百八十四足		
一同	二十丁		
一同	弐拾束半	横屋村	
一同	弐百壱足		
一同	廿四枚		
一同	百六十壱足		
一同	拾七丁		
一同	弐拾壱束	大場村 新田共	
一同	弐百五足		

一同	廿五枚	根古地村	
一同	百六十四足		
一同	拾八丁		
一同	拾八束		
一同	百七十六足		
一同	廿壱枚		
一同	百四十壱足		
一同	十五丁		
一すへ縄	十弐束半	志津新田	
一同	四十九足		
一同	十五枚		
一同	十五足		
一同	拾丁		
一同	廿九束	押越村	
一同加	百十足 百七十五足 内不足引		
〆			
一同	三拾四枚		
一同加	三拾四足 百九拾足		
〆			
一同	廿四丁	外新田	
一同	弐束半		

一同　拾足
一同　三枚
一同　三足
一同　弐丁
一同　三束半
一同　十三足
一同　四ッ
一同　四足
一同　三丁
一同　弐束半
一同　十壱足
一同　三ッ
一同　三足
一同　弐丁
一同　九束半
一同　三十七足
一同　十壱枚
一同　拾壱足
一同　八丁
一同　廿壱束半（足）
一同　八拾四束
一同　二十五枚

内新田

亀池新田

下境村

中島村

一同　廿五足
一同　十八丁

一四八　冥加献金褒賞目録

〇高田　小野策太郎氏所蔵

覚

一鳥目三拾五貫五百九文

右は、其村方前々より御料所ニて、百姓共難有存、為冥加御年貢之外別段上納御膳籾五斗入七俵宛、当卯年より年々永久上納仕度旨相願候ニ付、其段江戸表ゟ相伺候処、願之通上納被　仰付之、右は奇特之儀ニ付、為御褒美書面之通被下候段、依　水野出羽守（忠成）様御差図土方出雲守（勝政）様被　仰渡候付、書付相渡置者也

天保二卯年
九月

石川勘助㊞
井道茂十郎㊞
酒井小源太㊞

鳩田村
庄屋
年寄
百姓代

一四九　海岸備場金上納ニ付褒美銀請書

〇養老公園　村上辨二氏所蔵

差上申御請書之事

一銀七分六厘

右は、当村幸右衛門・武十郎・磯八・民藏四人之者共、先般海岸御備場御用途之内え上納金仕候ニ付、為御褒美書面之御銀被下置、夫々割渡難有頂戴仕候、依之御請書差上申処如件

安政七申三月

多藝郡白石村庄屋
年寄 幸右衛門㊞
磯八㊞
百姓代 武十郎㊞

笠松
御役所

一五〇　尾張藩札史料

○烏江　吹原第三氏所蔵

米切手漸々ニ被差止候筈ニ付、操摺切手、新切手を以引替之儀ハ被差止、通用之切手を以引替之筈ニ候処、当時各別御勝手向御逼迫ニて、当座之御操合も難被行届程之御時節ニ付、引替御手当金甚タ御手薄ニ候、就ては、去ル戌年町奉行所ニおいて、別紙仕法之通、竈引之儀被　仰渡、支配所内ニて、弐万六千口割渡シ相成、来ル十一月初旬より竈引為取斗之筈ニ候間、米切手減シ方を初、当時名引御操合難被行届御時節等深ク相弁、且右之内を以、天保五午年已来調達金も被下、通下相成候由、竈落之者共より御借り上相成候分ハ、永代御手当も年々被下、相続之一助ニも相成候儀ニ候間、村中并村方住居御家中家来并家来分、其外寺社之輩、又ハ御用達并他支配之分等ゑも、無差別御主意之趣篤と相達、加入為致口数・名前書付ニ取調、来ル十七日迄ニ必可申達候

但　右ニ付、村々ニて人別相撰、世話方之者共申付置候間、其心得を以、篤と御主意示談致候様可致候
（天保十二年）
丑十月

仕法書

一金拾万両

壱口壱分つゝ、口数合四拾万口程

右金高竈引を以、壱口弐百五拾両程つゝ竈落、四百口竈当りの者ゑ御救として被下候上、右金子ハ夫々御借り上相成、年弐歩利之割を以、永代御手当として、年々壱人ゑ金五両つゝ永々無際限被下候事

但壱人ニて、弐百五拾両已上之口数差出候者ハ、竈引ニ不及、前顕四百口之内差加へ、残人数を以竈引取斗候事

一壱人ニて壱口難差出者ハ、何人組合候ても不苦、尤身柄之者共ハ、一軒より何口差出候ても不苦候事

濃州地ハ正金筈候

一御勝手御融通方之御都合を以、扣地等之書入物有之もの共ゑハ、年八歩利を以、一ヶ年限御貸附金有之候事
（天保十二年）
丑十月

四村況

一五一　白石村明細帳

○養老公園　村上辨二氏所蔵

（表紙）
「御巡見様国々御廻村之覚
笠松御役所（貞享）龍川小右衛門様ゑ差上申候」

延享三年

濃州多藝郡白石村差出帳

寅

多藝郡　白石村

一高百六拾石五升
　内拾五石八斗弐升弐合　地不足無反別左ニ断書仕候
　此反別拾九町弐反壱畝廿六歩
　此訳
九拾九年以前正保五子年小笠原土佐守様御検地
百弐拾四石弐斗九升三合　本村分
　内拾三石三斗八升六合地不足高無反別、是ハ白石村高百六拾石五升高須御領之時分、御検地被仰付候処、右之高不足ニ罷成候、然共古高御減シ被成候義難成由ニて、被差置候、高須御領之時分ハ、高石ニ御構ひ不被成、反別取ニ被仰付候、然処御蔵入ニ罷成、高石ニ御取箇附候ニ付、右地不足高御引被下候様ニと、段々御訴訟申上候へは、年々御免相ニて御了簡被遊可被下之由ニて、畑高ニ御入被遊候ニ付負高ニ罷成候ニ付、御年貢ハ御上納仕候
　此反別拾四町八反五畝廿四歩
　　此訳
三石六斗六升八合　神田引
　此反別四反三畝廿九歩
　　三斗四升六合　中畑
　　此反別四畝拾歩　八ツ
　内　九斗六升弐合　下畑
　　此反別壱反六畝壱歩　六ツ
　　弐石三斗六升　屋敷
　　此反別弐反三畝拾八歩　十
七石八升六合　前々川欠永引
　此反別九反三畝廿五歩
　　弐石壱斗六升　上田
　　此反別壱反九畝拾九歩　十一
　　壱斗九升弐合　中田
　　此反別弐畝四歩　九ツ

弐斗八升七合　　下田
此反別四畝三歩　　七ツ
内　三斗弐升　　上畑　　十
此反別三畝六歩
六升九合　　中畑
此反別弐拾六歩　　八ツ
三石六斗五升八合　　下畑
此反別六反廿九歩　　六ツ
四斗　　屋敷
此反別四畝歩　　十
弐斗六升八合　　田畑ニ成石盛違引
壱石四斗八升九合　　前々石砂入
此反別弐反弐畝三歩半
六斗四升七合　　中畑
此反別八畝弐歩半　　八ツ
内　八斗四升弐合　　下畑
此反別壱反四畝壱歩　　六ツ
残百拾壱石七斗八升弐合　　有高
内拾三石三斗八升六合　無地高前ニ断書仕候
此反別拾三町弐反四畝廿六歩半
内
上田六反四畝歩

此分米七石四升　　石盛十一
中田九畝廿弐歩
此分米八斗七升六合　　石盛九ツ
下田四反七畝三歩
此分米三石弐斗九升七合　　石盛七ツ
〆壱町弐反廿五歩
此分米拾弐石七斗三升七合
内壱石五斗弐升四合　無地高無反別
上畑壱町七反三畝六歩
此分米拾七石三斗弐升　　石盛十
中畑三町弐畝歩
此分米弐拾四石壱斗六升　　石盛八ツ
下畑六町七反九畝拾壱歩半
此分米四拾石七斗六升三合　　石盛六ツ
屋敷四反九畝拾弐歩
此分米四石九斗四升　　石盛十
〆拾壱町九反八畝廿六歩半
内拾壱石八斗六升弐合　無地高無反別

九拾九年以前正保五子年小笠原土佐守様御検地
高三拾五石七斗五升七合　　京ヶ脇分
内弐石四斗三升六合地不足高無反別、是ハ白石村高百六拾
石五升高須御領之時分、御検地被仰付候処、右之高不足ニ

罷成候、然共古高御減シ被成候義難成由ニて、被差置候、高須御領之時分ハ、高石ニ御構ひ不被成、反別取ニ被仰付候、然処御蔵入ニ罷成、高石ニ御取箇附候ニ付、右地不足高御引被下候様ニも、段々御訴訟申上候得共、年々御免相ニて御了簡被遊可被下之由ニて、畑高ニ御入被遊候ニ付、負高ニ罷成、御年貢ハ上納仕候

此反別四町三反六畝弐歩

此訳

壱石八斗三升　前々川欠永引

此反別弐反三畝六歩半

内　壱石七斗五升　中畑
　　此反別弐反壱畝廿六歩半
　　八升　八ツ
　　此反別壱畝拾歩　下畑
　　六ツ

残三拾三石九斗弐升七合　有高

内弐石四斗三升六合　無地高前ニ断書仕候

此反別四町壱反弐畝廿五歩半

上畑九反弐畝廿弐歩

此分米九石弐斗七升三合　石盛十

内　中畑壱町弐畝廿四歩半

此分米八石弐斗弐升六合　石盛八ツ

下畑壱町九反三畝拾三歩

此分米拾壱石六斗六合　石盛六ツ

屋敷弐反三畝廿六歩

此分米弐石三斗八升六合　石盛十

〆四町壱反弐畝廿五分半

内弐石四斗三升六合　無地高前ニ断書仕候

三拾五年以前正徳二辰年平岡三郎右衛門様御検地

一高弐拾八石四斗六升四合　同所新田

此反別四町七反四畝拾弐歩

内　九石九斗七升四合　開残芝野間引

此反別壱町六反六畝七歩

残拾八石四斗九升　有高

此反別三町八畝五歩　下畑石盛六ツ

一村長横　東西八丁
　　南北拾六丁四拾間余
　　歩

東ハ明徳村へ九丁ほと
西ハ多良山境迄廿五丁程
南ハ小倉村へ拾八丁程
北ハ柏尾村へ九丁程

一家数九拾六軒　内　七軒　壱

一人数三百八拾三人　内　弐百拾六人男
　　百五拾弐人女
　　三人僧

一牛馬拾壱疋　内　馬八疋
　　牛三疋

一寺三ヶ寺之内

壱ケ寺　京都東本願寺直末寺　東本願寺宗　養老寺

養老寺境内前々より御除地、外ニ御除地畑弐反三畝拾八歩、御水帳ニも御免定ニも御引被下候、但内記新田ニも御除高六石御座候、養老寺ハ人王四拾四代元正天皇之御宇建立、今年迄千年余と申伝候

壱ケ寺　京都東本願寺直末寺　東本願寺宗　正慶寺

境内前々より御年貢地

壱ケ寺　京都東本願寺直末寺　東本願寺宗　法恩寺

境内前々より御年貢地

一宮森四ケ所之内

森壱ケ所立山共境内拾町余　天神社　拝殿宮守無御座候

但境内往古より御年貢上納不仕候、尤何方より之御墨付も無御座候、外ニ御除地畑壱反拾六歩、御免定ニも御水帳ニも御引被下候

森壱ケ所境内三畝歩程　山神無社　拝殿宮守無御座候

但境内往古より御年貢上納不仕候、尤何方より之御墨付も無御座候

森壱ケ所立山共境内三町歩余　稲荷社　拝殿宮守無御座候

但境内往古より御年貢上納不仕候、尤何方より之御墨付も無御座候

右境内ニ御座候　山神無社　拝殿宮守無御座候

右同断

村中支配　一薬師堂　壱ケ所　堂守無御座候

但境内壱反五畝歩程御除地、外畑九畝廿五歩御除地、御免定ニも御水帳ニも御引被下候

一村中神事祭礼、七月廿五日・八月廿日両度相勤申候、入用金宮より出し、不足之分ハ村中集候て相勤申候

一伊勢領藪山共三ケ所合弐反五畝歩程　御見捨

一同松原壱ケ所四反歩程　御見捨

一御林弐ケ所之内　松御林壱ケ所五拾四町、但内外道共　松御林壱ケ所拾七町六反歩、但内外道共

一御林守榮次郎儀、九年以前亥年小倉村より当村ぇ引越相勤申候、御公儀様より所米ニて弐人扶持被下置、刀御免

一草刈場七町歩余、村中之内所々ニ御座候

一橋拾六ケ所　長壱間より四尺迄、幅壱間より四尺迄

是ハ、村中通筋百性役ニ掛申候

瀧之谷川筋当村天神下ニて堰

一井堰長五拾間　堰上幅三尺　高弐尺　壱ケ所立会無御座候

是ハ、毎年春役御普請御目路見被仰付、御扶持方御普請被仰付候上、洪水ニて切候得ハ、御入用を以御普請被仰付被下候

北谷屋敷裏柏尾谷川筋刎出シ拾壱ケ所　長延〆弐百三拾間　根五間より三間迄　高壱間半より壱間迄　高弐間より壱間迄

一谷除石籠堤弐ケ所内

右同断

瀧谷川筋境長百八拾間　根三間より壱間迄
高壱間より三尺迄
高壱間より三尺迄

一井水堀長五百五拾間　深弐尺
巾壱間

右同断

一金弐分　銀拾壱匁　当村遠所金ニ年々指上申候

一郷御蔵壱軒　桁行弐間半
梁行壱間半　萱葺

御蔵敷地御年貢百性弁上納仕候、右御米取立、右御蔵へ入置、御下知次第津出し仕候、当村より小倉村前川岸迄三拾町つけ出し、小倉村より駒野川迄弐り小舟ニて瀬取、舟賃米拾石ニ銀六匁、駒野川ニて大舟ニ積立、桑名迄六里、舟賃米拾石ニ銀六匁百性出之、桑名ニて御米入用船中上乗川船上乗と立合、濡俵仕直し、彼是入用米拾石ニ付銀三匁程ツヽ、内外掛物吟味之上帳面記立、庄屋方へ相渡置申候、尤年ニより多少御座候

九拾九年以前正保五子年小笠原土佐守様御検地
一御水帳三冊
三拾五年以前正徳二辰年平岡三郎右衛門様御検地
一新田御水帳壱冊

一御高札四ヶ所内　壱ヶ所　切死丹御高札
火之用心御高札
三ヶ所　御林御高札

一米三石六斗　内　弐石四斗　喜三郎庄屋弐人之給
壱石弐斗　所右衛門
六斗　武右衛門
三斗　留右衛門年寄弐人之給

一米弐石壱斗　内　壱石弐斗　與三郎定夫弐人之給
九斗　佐左衛門

一当村田方土目　不残黒軽土、小石交りニて御座候
一当村畑方土目　不残黒軽土、小石交り旱損所ニて御座候

一鉄炮四挺　内　壱挺玉目三匁五分　持主　所右衛門
猪鹿威筒　右同断　持主　藤次郎
壱挺玉目三匁　持主　吉右衛門
用心筒　壱挺玉目三匁五分　持主　榮次郎

右鉄炮四挺共、往古より御運上指上不申候

一当村は用水谷川より懸り申候、併照続候得は懸り不申候
一市場は高田町、市日六斉宛、月ニ三日・八日・十三日・十八日・廿三日・廿八日、当村より市場へ道程三拾町程

一番太　壱人　傳　七

一養老瀧高拾丈五尺、人王弐拾弐代雄略天皇之御宇初り申由、今年迄千弐百九拾年程と申伝候、養老縁記并謡ニハ、本巣郡と御座候得共、多藝郡之内ニ御座候故歟、往古より諸帳面ニも多藝郡と相記申候、右瀧え夏気之内ハ、所々より病を治するため参詣御座候

一菊水と申清水、天神之境内ニ御座候、養老縁記并謡ニも載候名水ニて御座候

一瀧之谷と申立山　壱ヶ所

付箋
但外村入会無御座候、当村地元ニて村中入会ニ柴秣等刈取申候

（付箋）
「草葉刈取龍之谷と申立山、町歩ハ相知れ不申候、村中
入会、外村ハ入会無御座候　」

一百性持之立山　壱ヶ所
一秣場三町歩程所々ニ御座候
一無所場壱反歩程　三ヶ所
一百性持林銘々少宛小松山所持仕候、藪も屋敷附之藪二・三ヶ
所少ツヽ所持仕候
一米七石弐斗五升　小物成
　右山年貢米、年々上納仕候
一石河原三拾弐町歩程、村中之内ニ御座候
一男女稼、男ハ農業之間ニ山稼仕候、女は農業之間ニ布・木綿
着料程仕候
一薪村中ニてたき候分ハ、作り候ものゝからを用、不足之分は
年貢を出し多良山ニて刈取申候
一薪多良山ニて仕出し、金拾四五両程ツヽ、毎年売出し申候
一米四石九斗八升多良山年貢、多良上原善蔵殿左衛門・九兵衛方へ相渡申候
一田畑永荒場、北谷畔木戸口谷口と申所ニ御座候
一田畑之間々ニ有之芝間空地所々四・五反歩程も御座候
一屋根萱場、村上立山百性銘々割出ニいたし所持仕候、併売出
し候程ハ無御座候
一枝郷京ヶ脇、本村より道程拾丁程御座候
一往還道筋、当村より掃除いたし候場所長百五拾間垂井宿ニ御
座候、当村より垂井宿へ道程三り
一当村は牧田宿へ助郷高指出し、年中ニ伝馬銀拾匁程ツヽ、村中
より差出し申候、尤年ニより多少御座候、牧田宿へ道法弐里
半
一当村より江戸へ　東海道九拾八り
　中山道百拾弐里
一当村より笠松御役所へ七り
一当村より京都へ弐拾八り
一当村より大阪へ四拾壱里
一当村より尾州名古屋へ拾り
一当村より勢州桑名へ八り
一当村より岐阜へ八り
一当村より加納へ七り
一当村より大垣へ三り
一当村より岩村へ弐拾壱り
一当村より郡上八幡へ弐拾壱り
一当村より苗木へ弐拾四り
一当村より近郷明徳村へ九丁
　大跡新田へ拾五丁　但御廻状継ハ明徳村・白石村・大跡新田と参候得ば、村之勝手能御座候
右之通当村差出書面之通、少も相違無御座候、以上
　白石村庄屋
延享三年寅　喜三郎
　同断　所右衛門
　年寄　武右衛門

同　断　留右衛門
百性代　久左衛門
同　断　太左衛門

右之趣、延享三年寅正月笠松御役所ゑ弐冊指上申候、御巡見様国々御廻村之節、瀧川小右衛門様ゑ差上候下扣

（表紙）「天明八申年
美濃國多藝郡白石村差出明細帳
十二月　辻六郎左衛門様へ差上候扣」

一高百六拾石五升　美濃國多藝郡　白石村

五石　山方高、田畑並ニ年々御年貢上納仕候
内　拾石八斗弐升弐合無地高無反別、是ハ白石村高百六拾石五升、高須御領時分御検地被仰付候処、右之高不足ニ罷成候、然レ共古高御減シ被遊候儀難成由ニて、被為指置候、尤高須御領時分ハ、高石ニハ御構ひ不被遊、反別取ニ被仰付候、然ル処御蔵入ニ罷成、高石ニ御取箇附候ニ付、右地不足高御引被遊被下置候様、段々御訴訟申上候得共、以是古高儀故御減シ被成候儀難成、以後迄御勘弁之御取扱之由ニて負高ニ罷成、年々御年貢上納仕候
此反別拾九町弐反壱畝弐拾六歩
内
百四拾弐年以前正保五子年小笠原土佐守様御検地　本村分
百弐拾四石弐斗九升三合
内　三石八斗八升三合　右ニ御断書仕候山方高
九石五斗三合　右同断無地高無反別
此反別拾四町八反五畝弐拾四歩
内　三石六斗六升八合　神田引
此反別四反三畝廿九歩
此訳
三斗四升六合　中畑盛り八ツ
反別四畝拾歩
九斗六升弐合　下畑盛り六ツ
反別壱反六畝壱歩
弐石三斗六升　屋敷盛り十ヲ
反別弐反三畝十八歩
弐石六升八合　田畑成石盛違引
残百弐拾石三斗五升七合
内　三石八斗八升三合　右ニ御断書仕候山方高
九石五斗三合　右同断無地高無反別
此反別拾四町四反壱畝廿五歩
内　弐反弐畝三歩半　未林起返
高壱石四斗八升九合
七反四畝八歩　子林起返
高四石九斗弐升六合
此訳
上田八反三畝拾九分　石盛　十一
此分米九石弐斗

中田壱反壱畝廿六歩　石盛　九ツ
此分米壱石六升八合
内　弐畝四歩　高壱斗九升弐合
下田五反壱畝六歩　石盛　七ツ
此分米三石五斗八升四合
内　四畝三歩　高弐斗八升七合
〆壱町四反六畝弐拾壱歩　子林起返
此分米拾五石三斗七升六合
内壱石五斗弐升四合　無地高
上畑壱町七反六畝拾弐歩　石盛　十ヲ
此分米拾七石六斗四升
内　三畝六歩　高三斗弐升　子林起返
中畑三町壱反廿八歩半　石盛　八ツ
此分米弐拾四石八斗七升六合
内　八畝弐分半　高六斗四升七合　未林起返
廿六歩　高六升九合　子林起返
下畑七町五反四畝拾壱歩半　石盛　六ツ
此分米四拾五石弐斗六升三合
内　壱反四畝壱歩　高八斗四升弐合　未林起返
六反弐畝九歩　高三石六斗五升八合　子林起返

屋敷五反三畝拾弐歩　石盛　十ヲ
此分米五石三斗四升
内　四畝歩　高四斗　子林起返
〆拾弐町九反五畝四歩
此分米百四石九斗八升壱合
内　弐石三斗五升九合　右ニ御断書仕候山方高
九石五斗三合　右同断無地高無反別
百四拾弐年以前正保五子年小笠原土佐守様御検地
高三拾五石七斗五升七合
内　壱石壱斗壱升七合　右ニ御断書仕候山方高
壱石三斗壱升九合　右ニ御断書仕候無地無反別
此反別四町三反六畝弐歩
内　壱反三畝拾三歩　未藪起返
九斗九升五合
壱反弐畝三歩　寅藪起返
高八斗三升五合
此訳
上畑九反弐斗弐拾弐歩　石盛　十ヲ
此分米九石弐斗七升三合
中畑壱町弐反四畝弐拾壱歩　石盛　八ツ
此分米九石九斗七升六合
内　壱反弐畝十三歩　未藪起返
高九斗九升五合
九畝拾三歩　寅藪起返
高七斗五升五合
下畑壱町九反四畝廿三歩　石盛リ六ツ
此分米拾壱石六斗八升六合

内　壱畝拾歩　寅歳起返
高八升
屋敷弐反三畝弐拾六歩　石盛　十ヲ
此分米弐石三斗八升六合
〆四町三反六畝弐分
此分米三拾五石七斗五升七合
内　壱石壱斗壱升七合　右ニ御断書仕候山方高
壱石三斗壱升九合　右同断無地高無反別
七拾七年以前正徳二辰年平岡三郎右衛門様御検地
一高弐拾八石四斗六升四合　皆畑　同村新田
此反別四町七反四畝拾弐歩　石盛六ツ
内　九石九斗七升四合　開残芝野間此分不残
此反別壱町六反六畝七歩　未林起返

一家数百九軒　内　三軒　高持寺
是ハ当申宗門帳ニ書上候家数　四拾六軒　高持百姓
六拾軒　水呑百姓
一人数　男弐百拾九人
女弐百拾四人　是ハ当申宗門帳ニ書上申候人数
一牛馬拾五疋　内　馬六疋
牛九疋
一寺三ヶ寺之内
壱ヶ寺　京都東本願寺末寺　東本願寺宗　正慶寺
境内前々より御年貢地
右同断
壱ヶ寺　東本願寺宗　養老寺
境内前々より御除地字舟岡山と申候、外御除畑弐反三畝拾八歩、御水帳ニも御免定ニも御引被遊被下候、

但シ、内祀新田ニも御除地高六石御座候、養老寺は人王四拾四代元正天皇之御宇建立、今年迄千年余と申伝候
右同断
壱ヶ寺　東本願寺宗　法音寺
境内前々より御年貢地
一宮森四ヶ所
内
森壱ヶ所立山共堤内
天神社并拝殿鳥居　宮守無御座村支配
但シ、往古より御年貢は上納不仕候、尤何方よりも御墨付無御座候、外御除地壱反拾六歩御免定ニも御水帳ニも御引被下置候
森壱ヶ所　無
山ノ神社　宮守無御座村支配
但シ、堤内ハ小物成地
森壱ヶ所
稲荷社并拝殿鳥居　宮守無御座村支配
但シ、境内往古より御年貢上納不仕、何方よりも御墨付無御座候
無
山ノ神社　宮守無御座村支配
是ハ右稲荷之境内ニ御座候
一薬師堂壱ヶ所　堂守無御座村支配
但シ、境内壱反五畝歩程、外ニ畑九畝廿五歩、御除地御免定ニも御水帳ニも御引被下置候

一村中神事祭礼、毎年七月廿五日・八月廿日両度ニ相勤申候、
右入用之儀ハ宮より出シ、不足仕候得は、村中集相勤申候
一伊勢領蔵山三ヶ所　御見捨
一同松原壱ヶ所　御見捨
一松御林弐ヶ所　内壱ヶ所五拾四町歩内外道共
壱ヶ所拾七町九反壱畝廿三歩道共
一右御林下草之儀、生茂り候得は猪大分ニ住、近郷之作方を荒
シ候ニ付、五七年目ニハ御願申上候得は、代永御積りを以村
方被下置候
一御林守之儀、田中勘兵衛御役相勤申候、則前々より所米ニて
弐人扶持　御公儀様より被下置　帯刀御免被為遊候
一谷川通御普請所　砂除石籠堤
但シ北谷川猿尾刎出シ共拾五ヶ所
瀧谷川砂留二ヶ所
是ハ、毎年春役御普請御目論見被仰付、御扶持方
御普請被仰付候迄、洪水ニて大破ニ御座候得は、
御入用を以御普請被仰付候、右両谷共ニ川下ハ、
飯木村西源民橋へ落入申候
一井水堀長五百五拾間　入会無御座候、是ハ村中田水用水堀
是ハ、平生ハ百姓役ニ仕候得共、大破出来節、右
同断御普請被仰付候
一金弐分銀拾四匁　当村遠所金年々上納仕候
一郷蔵壱軒　但シ、敷地御年貢百姓より弁上納仕候
一御城米津出シ之儀、当村郷蔵より小倉村川岸迄道法三拾丁附
出シ、小倉川桑名湊迄川路八里、其内御米壱石ニ付六合ヅヽ
五り外運賃被為置下候
一御水帳四冊　本田新田共　是ハ庄屋方ニ所持仕候
一御高札四ヶ所　内　三ヶ所　御林御高札　壱ヶ所　切支丹御高札
火之用心御高札
庄屋両人給
年寄両人給
定使給
とたう御高札
一米四石
一米八斗
一銭七貫五百文
一当村田方土目、不残黒軽土ニて小石交りニ御座候
一当村畑方土目、不残黒軽土小石交り旱損所御座候
一田畑やしなひ之儀ハ、芝草下こゑニ用、其上壱反ニ付拾匁よ
り壱分程ツヽ油かす・こやしニ仕候、但シ不同ニハ御座候
一当村ハ山辺ニて、用水谷川より懸り申候、併照続候得は、懸
り不申候
一鉄炮三挺　猪鹿威シ筒　玉目三匁
是ハ、年中猪鹿大分出作方を相荒シニ付、年中威
シ申候、尤右鉄炮三挺共、往古より御運上ハ差上
不申候得共、山方故猪鹿威シニ往古より御免被下
置候、則庄屋方ニ所持仕置候
一養老瀧高サ拾丈五尺、人王弐拾二代雄略天皇之御宇初り候由
申伝候、尤養老縁記并謡ニハ、本巣郡と御座候得共、多藝郡

之内ニ御座候故歟、往古より諸帳面ニハ多羅郡と相記申候、
右之瀧ヶ夏気之内ハ、所々より病を治するため参詣
御座候
一天神社境内ニ菊水と申清水御座候、養老縁記并謡ニも載候名水ニ御座候
一薬湯壱ヶ所、明和七寅年村方より御願申上候処被仰付候、則薬湯御運上金弐分ツヽ上納仕候、然ル処、同郡嶋田村喜十郎と申もの下請ニて薬湯被建申候、則地子代米年々請取申候、勿論御運上ハ村用へ請取、年々御役所へ上納仕候
一永九拾九文　林銭御運上年々上納仕候
是ハ、百姓持林并秣場少々ヅツ所々ニ御座候
一米七石三斗　小物成
是ハ、草柴刈取候立山之御年貢年々上納仕候、尤他村之入会無御座候
一金三両弐分ト米弐斗五升　多良村山年金
是ハ、村中男女山稼多ク仕候ニ付、右七石三斗小物成山ニて刈とり不申候故、多良村ニて請山仕、則山札百廿七枚請取入山仕山稼仕候
一男女共ニ稼之儀は、農業之間山稼仕候
一往還道筋掃除場当村掃除いたし候場所、中山道垂井宿ニて長百八拾間御座候、当村よりハ右宿道法三里半余御座候
一当村は　尾州様御船海道牧田宿郷ニて、年中御伝馬人足差出申候
一田畑質物
上田壱反ニ付、金弐両より弐両三分迄
中田壱反ニ付、金壱両弐分より弐両迄
下田壱反ニ付、金壱両より壱両弐分迄
上畑壱反ニ付、金壱両弐分より弐両迄
中畑壱反ニ付、金壱両より壱両弐分迄
下畑壱反ニ付、金弐分より壱両迄
屋敷壱反ニ付、金壱両三分より弐両壱分迄
一小作田畑入上来
上田壱反ニ付、五斗より六斗迄
中田壱反ニ付、四斗より五斗迄
下田壱反ニ付、三斗五升より四斗五升迄
上畑壱反ニ付、四斗より五斗迄
中畑壱反ニ付、三斗より三斗五升迄
下畑壱反ニ付、壱斗五升より弐斗五升迄
屋敷壱反ニ付、四斗より五斗迄
一飯木村・石畑村より少々当村へ入作御座候
一本村より枝郷京ケ脇へ道法拾弐丁程御座候
一当村隣郷　柏尾村へ拾丁程　鷲巣村へ拾五丁程、石畑村拾丁程
明徳村へ拾丁程　小倉村へ三十丁程
一当村より笠松御役所へ七里　江戸へ九拾八里
一太餅納　無御座候

一御貯籾納　無御座候
一御詰籾納　無御座候
一御賄籾納　無御座候
一舟渡場　無御座候
一番人壱軒　傳八
右は当村高反別、并有来候品、明細吟味仕書上候通相違無御座候
天明八申十二月　多藝郡白石村庄屋　幸右衛門
留右衛門
武十郎
元右衛門
助右衛門
辻六郎左衛門様御代
笠松御役所

（表紙）「美濃國多藝郡白石村差出明細帳」

正保五子年小笠土佐守様御検地御帳面村方所持仕候
美濃國多藝郡白石村
一高百六拾石五升
内　五石山方高田畑並ニ御年貢年々上納仕候
拾石八斗弐升弐合無地高無反別負高
御私領寺社領入会　無御座候
一田反別壱町四反六畝弐拾壱歩　上十一　石盛中九ツ　下七ツ
一畑反別拾七町五畝五歩　上十ヲ　石盛中八ツ　下六ツ　同村新田　石盛六ツ
一畑反別四町七反四畝拾弐歩　山御年貢
一米七石三斗
是ハ、年々小物成御直段を以上納仕候
一永九拾九文　林銭
是ハ、百姓林少々ゾヽ所々御座候ニ付、右永銭上納仕候
一家数百五軒　内　三軒高持寺　五拾八軒高持百姓　四拾四軒水呑百姓
一人数四百人　当午年宗門帳ニ書上候人数
一牛馬拾五疋　内　馬七疋　牛八疋
一稼之儀ハ男女共耕作之間山稼仕候
一松御林　弐ヶ所　此反別七拾壱町九反壱畝廿三歩
一御林守田中直治と申者御役相勤申候
是ハ、当村御年貢之内ニて弐人扶持被下置、帯刀御免被為遊候
一御普請所養老谷并北谷川、右両谷川ニ年々御普請被仰付候
一井水堀五百五拾間余　立会無御座候
一金三分　銀壱匁　遠所金年々上納仕候
一郷蔵　壱軒　敷地御年貢百姓より相弁申候

一御城米津出之儀、郷蔵より小倉村川岸迄三拾丁余附出し、右川より桑名迄七里余、桑名湊より江戸迄海上百五拾里、
一御高札四ヶ所　内壱ヶ所切支丹・火用心・とたう御高札三ヶ所御林御高札
一寺三ヶ寺　内
　壱ヶ寺　東本願寺末　養老寺　境内御除地
　壱ヶ寺　東本願寺末　正慶寺　境内御年貢地
　壱ヶ寺　東本願寺末　法音寺　境内御年貢地
一宮弐ヶ所　天神社拝殿鳥居　宮寺無御座村支配仕候
　稲荷社拝殿鳥居
一伊勢領藪山林四ヶ所御座候
一養老瀧高サ拾丈五尺、人王弐拾二代雄（略脱）天皇之御宇初り候由申伝候
一天神境内菊水と（申脱）清水御座候
一往還道筋中山道垂井宿ニ掃除場所百八拾間御座候、当村より右宿迄道法三里半余御座候
一助郷之義、尾州様御船海道ニて、牧田ゑ人馬差出シ可申候
一当村より江戸ゑ九拾八里、笠松御役所ゑ七里御座候
右は高反別并有来り候品書面之通相違無御座候、依之乍恐奉書上候、以上

文化七年
午九月

白石村庄屋　幸右衛門
同断　新五郎
年寄　作兵衛

笠松御役所

同断　常次郎
百姓代　利三郎
同断　太右衛門

（表紙）
「文化十一年（二カ）
美濃國多藝郡白石村差出明細帳
亥ノ四月
濃州多藝郡白石村」

正保五子年小笠原土佐守様御検地水帳所持仕候
一高百六拾石五升　高五石　山方高田畑並ニ御年貢上納仕候
　内　高拾石八斗弐升弐合　無地負高右同断
　此反別拾九町弐反拾六歩
　内　高三石九斗三升六合　諸引
　　此反別　四反三畝廿九歩
　残高百五拾六石壱斗壱升四合
　　此反別拾八町七反六畝拾七歩
　　此訳
田高拾五石六斗四升四合　山高并無地負高
　内　高壱石五斗弐升四合　田畑成石盛違引
　　高弐斗六升八合
此反別壱町四反六畝弐拾壱歩

内

上田高九石弐斗　石盛十一
　此反別八反三畝拾九歩
中田高壱石六升八合　石盛九ツ
　此反別壱反壱畝弐拾六歩
下田高三石五斗八升四合　石盛七ツ
　此反別五反壱畝六歩
畑高百四拾四石四斗六合
　内高拾四石弐斗九升八合　山高并無地負高
　此反別拾七町七反三畝弐拾五歩

内

上畑高三拾六石九斗九升九合　石盛十
　此反別三町七反歩
中畑高三拾五石壱斗九升七合　石盛八ツ
　此反別四町三反九畝弐拾九歩
下畑高五拾七石九斗壱升弐合　石盛六ツ
　此反別九町六反三畝弐拾六歩
正徳弐辰年平岡三郎右衛門様御検地
一下畑高弐拾八石四斗六升四合
　此反別四町七反四畝拾弐歩
文化八未年瀧川小右衛門様御検地
一下々畑高八石六斗四合
　此反別弐町壱反五畝三歩
一米七石三斗　山年貢

一永九拾九文　林　銭
一家数百九軒　内　六拾壱軒　高持百姓
　四拾八軒　水呑百姓
　右は、当亥宗門帳ニ書上申候通
一人数四百三拾弐人　内　弐百拾五人　男
　弐百拾八人　女
　右同断

外

五拾五人　是は他所へ奉公稼ニ罷出候分
　牛馬拾弐疋　内　馬五疋
　牛七疋
一松御林弐ヶ所
　此反別七拾壱町九反壱畝廿三歩
右御林守田中直治と申者御役相勤申候、則　御公儀様より所
御廻米之内ニて弐人扶持被下置、帯刀御免被為遊候
一御普請所谷川石堤石籠　北谷川・養老谷川刎出シ砂留
　右両谷共年々春役御普請被仰付被下置候
一井水堀長五百五拾間　立会無御座候
一郷蔵壱軒　敷地年貢百姓より相弁申候
一御城米津出シ之義、当村より小倉村川岸迄三拾丁余附出シ、
右川より桑名迄川路八里、桑名湊より江戸海上百五拾里余
一御高札四ヶ所　内　壱ヶ所切支丹・火ノ用心・とたう御高札
　東本願寺末
　壱ヶ寺　正慶寺
　右同断
　壱ヶ寺
一寺三ヶ寺　内　養老寺

右同断
壱ケ寺　　法音寺

一宮弐ケ所　内　壱ケ所天神宮拝殿鳥居　宮守無御座村差配
　同　稲荷宮拝殿鳥居　堂守無御座村差配
一薬師堂壱ケ所
一養老瀧高サ拾丈五尺、人王弐拾弐代雄略天皇之御宇初り候由申伝候
一天神宮境内ニ菊水と申清水御座候
一伊勢領藪山四ケ所御座候
一往還道筋中山道垂井宿ニ当村掃除丁場百八拾間御座候、当村より右宿道法三里半御座候
一助郷之義は、尾州様御船海道牧田助郷ニて、人馬差出し申候
一男女共ニ農業之間は山稼仕候
一鉄炮三挺　内　壱挺　猟師鉄炮
　弐挺　盛シ鉄炮
　是は、山寄之村方ニ御座候故、猪鹿年中出作毛を喰荒申候ニ付、右鉄炮往古より拝借仕、則御運上差上申候
一当村田畑共不残黒軽土小石交りニ御座候
一用水は、谷川水ニて照続キ候得は、田畑共ニ旱損仕候
一当村より笠松御役所へ道法七里御座候
右之通高反別并村方ニ有来り仕来り申候品、書面之通相違無御座候、以上

文化十二年亥四月

多藝郡白石村庄屋
年寄　武　十　郎
　　礒　八

松下内匠様
笠松
御役所

百姓代　多　十　郎

（表紙）
「天保九年　下書
村差出明細書上帳
貼紙　戌三月」

（貼紙）
「江戸より御巡見様方御越被遊候ニ付、柴田善之丞様御役所へ差上候明細帳ニ御座候」

美濃國多藝郡
白石村

正保五子年小笠原土佐守様御検地
一高百六拾石五升
　此反別拾九町弐反拾六歩
　内
　高三石九斗三升六合　前々引
　　此反別四反三畝廿九歩
　残高百五拾六石壱斗壱升四合
　此反別拾八町七反六畝拾七歩
　　此訳
　田反別壱町四反六畝廿壱歩　上十一　石盛中九ツ　下七ツ
　畑反別拾六町五反弐畝十八歩　上十　石盛中八ツ　下六ツ

屋敷反別七畝八歩　石盛十ヲ
正徳二辰年平岡三良右衛門様御検地
一畑反別四町七反四畝拾弐歩　同村新田　石盛六ツ
文化八未年瀧川小右衛門様御検地
一畑反別弐町壱反五畝三分　同村新開　石盛四ツ

御廻米　年々御定免ニて相納来申候
御賄籾　相納不申候
一　御廻籾　右同断
太餅米　右同断

一用水場尤長五百五拾間余　御座候
一旱損之場所ニ　御座候
一米七石三斗　小物成御年貢上納仕候
一永百六拾三文　薬湯運上上納仕候
一永弐百七文　水車運上上納仕候
一秣場反別七反歩　御座候

威鉄炮壱挺　玉目三匁五分、永廿五文
一同鉄炮壱挺　玉目三匁弐分、永廿五文
猟師鉄炮壱挺　玉目三匁五分、永百廿五文
〆百七拾五文

一稼之儀は男女共耕作之間ハ山稼仕候
一家数九拾四軒
一人数三百七拾四人
一寺三ヶ寺
一向宗　東本願寺末寺　養老寺　御除地ニ御座候

同　同断　正慶寺
同　同断　法音寺

一助郷之儀は、尾州様御船海道牧田助郷ニて人馬差出申候
一薬師堂壱ヶ所　内法九尺四方
一宮弐ヶ所　内　天神社　内法三尺　鳥居　祭礼七月廿五日
稲荷社　内法同断　同断　祭礼八月廿日

拝殿　是は小物成場所ニ御座候
拝殿　是は小物成場所ニ御座候
一天神宮境内ニ菊水と申清水御座候
一養老瀧高サ拾丈五尺、人王弐拾弐代雄略天皇之御宇初り候由申伝候
一御高札四ヶ所　内壱ヶ所切支丹・火用心・とたう御高札三枚
三ヶ所御林御高札
一郷蔵壱ヶ所　御高内ニ御座候
一御林反別七拾壱町九反壱畝廿三分　所持仕候
一御水帳　御座候
一谷川御普請所　餅真光寺、粳寒徳
一田方稲草
一畑作大麦・小麦・菜種・夏作稗・粟・芋・大豆・小豆・木綿
大角豆・大根作申候
一田畑こやし草灰・種かす仕候
一御年貢米津出シ之儀、当村より小倉村川岸迄三拾丁余附出

し、右川より桑名迄川路八里、桑名湊より江戸海上凡百五拾里余

一当村より隣郷并最寄町場

柏尾村迄	拾丁
明徳村迄	同
小倉村迄	廿五丁
飯木村迄	廿丁
石畑村迄	拾五丁
大垣迄	三里
高田町迄	三拾丁
關ヶ原迄	三里半
垂井宿迄	同

一往還道筋中仙道垂井宿ニ当村掃除丁場百八拾間御座候

一米三石六斗　庄屋両人給

一米三斗　年寄給

一銀九拾匁　定使給

一当村田畑土目不残黒軽土ニて小石交ニ御座候

一薪・柴之儀は小物成場所ニてハ行届キ不申候ニ付、多良村ニて請山仕取来申候

右は、当村高反別并前々より有来り候品、明細ニ書上申候処相違無御座候、以上

天保九年戌三月

美濃國多藝郡白石村百姓代　武十郎㊞
年寄　磯八㊞
庄屋　元右衛門㊞

笠松御役所

同断　幸右衛門㊞

○岐阜市大宮町　岐阜県立図書館所蔵

（表紙）「文久二年　村差出明細書上帳　戌二月　美濃國多藝郡　白石村」

正保五子年小笠原土佐守様御検地

一高百六拾石五升

此反別拾九町弐反拾六歩

内

高三石九斗三升六合　前々引

此反別四反三畝廿九歩

残高百五拾六石壱斗壱升四合

此反別拾八町七反六畝拾七歩

此訳

田反別壱町四反六畝廿壱歩	石盛中下	十一ツ九ツ
畑反別拾六町五反弐畝十六歩	石盛中上	十八ツ
	下	六ツ

屋敷反別七反七畝八歩　石盛　十ヲ
正徳二辰年平岡三郎右衛門様御検地
一畑反別四町七反四畝拾弐歩　同村新田　石盛　六ツ
文化八未年龍川小右衛門様御検地
一畑反別弐町壱反五畝三歩　同村新田　石盛　四ツ

御廻米　年々御定免ニて相納来申候
御膳籾米　相納不申候
一　御廻籾　右同断
太餅米　右同断

一用水場長五百五拾間余　御座候
一旱損之場所ニ　御座候
一米七石三斗　小物成御年貢上納仕候
一永弐百五拾弐文　水車運上仕候
一永百九拾弐文　薬湯運上上納仕候
一秣場反別七反歩　御座候
一威鉄炮壱挺、玉目三匁五分　此御運上永弐拾五文
一同鉄炮壱挺、玉目三匁五分　此御運上永弐拾五文
一猟師鉄炮壱挺、玉目三匁弐分　此御運上永百弐拾五文
一稼之儀は、男女共耕作之間山稼仕候
一家数九拾五軒
一人別三百六拾六人
一寺三ヶ寺　東本願寺末寺　養老寺
但一向宗　御除地御座候

養老町史　史料編

同断　正慶寺
同断　法音寺

一助郷之儀は、尾州様御船海道牧田助郷ニて、人馬差出申候
一薬師堂　壱ヶ所　但シ内法九尺四方
一天神社　壱ヶ所　但シ内法三尺　鳥居
拝殿附　是ハ小物成場所ニ御座候
一天神宮境内ニ菊水と申清水御座候
一稲荷社　壱ヶ所　但シ内法三尺　鳥居
拝殿付　是ハ小物成場所ニ御座候
一養老龍高サ拾丈五尺、人王弐拾弐代雄略天皇之御宇初候由申伝、尤小物成場所ニ御座候
一御高札　三ヶ所　御高内ニ御座候
一郷蔵　壱ヶ所
一御林反別七拾壱町九反壱畝廿三歩　所持仕候
一御水帳　御座候
一谷川御普請所
一田方稲草　但餅真光寺
粳寒徳
一畑作大麦・小麦・菜種・夏作粟・稗・芋・大豆・小豆・大角豆・木綿・大根作申候
一田畑こやし・草灰・種かす仕候
一御年貢米津出之儀、当村より小倉村川岸迄三拾丁余附出シ、

尤右川より桑名迄川路八里、桑名湊より江戸海上凡百五拾里
余御座候
一往還道筋中仙道垂井宿、当村掃除丁場
――――
一当村より隣郷并最寄町場
　柏尾村迄　拾丁　　明徳村迄　同断　　小倉村迄廿五丁
　飯木村迄　弐拾丁　　石畑村迄　拾五丁　　高田町迄三拾丁
　大垣迄　三里　　關ケ原迄　三里半　　垂井宿迄同断
一米三石六斗　　庄屋給
一米三斗　　年寄給
一金三両　　定使給
一当村田畑土目不残黒軽土ニて小石交ニ御座候
一薪柴之儀は、山物成場所ニては行届不申候ニ付、多良村ニて
　請山仕取来申候
右は、当村高反別并前々より有来候品、明細ニ書上候処相違無
御座候、以上

文久二年戌二月

美濃國多藝郡白石村
百姓代　武　十　郎㊞
年寄　磯　八㊞
庄屋　幸右衛門㊞

笠松
御役所

一五二　明徳村明細帳

○岐阜市大宮町　岐阜県立図書館所蔵

（表紙）
「　安永四年
濃州多藝郡明徳村高反別村指出明細帳
　未十二月　」

百三十四年以前正保五子年小笠原主膳正様御検地　濃州多藝郡
一高七拾九石八斗八升　明徳村
　此反別八町四畝廿八歩
　内
　畑拾五歩　　郷蔵敷地引
　　此高四升
　屋敷壱畝廿四歩　　前々神田引
　　此高壱斗八升八合
残高七拾九石六斗五升弐合
　此反別八町弐畝拾九歩
　　此訳
　上田六反六畝廿歩　　石盛十五
　　此高拾石
　中田壱反七畝拾壱歩　　石盛十三
　　此高弐石弐斗五升八合

下田七畝歩
　此高七斗
田高〆拾弐石九斗五升八合
　此反別九反壱畝壱歩
　　内
高壱石五斗弐升　　寅年石田ニ起返り
高三石八升弐合　　未年藪ニ起返り
高壱石七斗　　卯年石田ニ起返り
上畑弐町八反五畝拾三歩　　石盛壱石五升
　此高弐拾九石九斗六升四合
中畑三町七反六畝八歩　　石盛九ツ
　此高拾五石八斗六升四合
下畑弐町壱反四畝四歩　　石盛八ツ
　此高拾七石壱斗三升壱合
屋敷三反三畝五歩　　石盛壱石五升
　此高三石四斗八升三合
畑屋敷高〆六拾六石四斗四升弐合
　此反別七反九畝歩
　　内
高壱升弐合　　御検地帳算違
高五石五升四合　　未年藪ニ起返り
高七石弐斗三升九合　　未年林ニ起返り

高弐斗四升　　戌年林ニ起返り
高拾七石弐斗九升弐合　　寅年石畑ニ起返り
高壱石壱斗五升　　卯年石畑ニ起返り
高壱石七斗九升弐合　　卯年雑木林起返り
高壱石弐斗九升七合　　卯年小竹藪起り

一当村　東西弐町半　　西ハ柏尾新田
　南北三町余　　但東ハ飯木村
　北ハ石畑村
　東ハ鷲巣村

一家数三拾九軒　内　壱軒　寺
　弐拾軒　高持百姓
　拾八軒　水呑百姓

一惣人数百九拾四人　内男八拾七人　僧弐人　馬三疋
　女百五人

一寺一ケ所　但、境内御年貢地　京都東本願寺末寺　一向宗
　是ハ、元和三巳年了宣開基　西教寺

一宮森　壱ケ所　牛頭天王社　高四尺三寸　長三尺八寸
　但、境内神田引之内　横弐尺五寸
　是ハ、往古より有来、勧請年数相知不申候

一御林無御座候

一百姓持林無御座候

一□□無御座候

一川通無御座候

一溜池無御座候

一井堰無御座候

一圦樋無御座候

一橋無御座候
一秣場無御座候
一御私領入会無御座候
一往還筋掃除場無御座候
一御膳籾無御座候
一柏尾谷川筋川幅当村上堤より西三間
　養老柏尾新田堤崩迄
　是ハ常水ニて無御座候ニ付、川□上等無御座候
一堤長延四百四拾四間　　平均　敷五間　馬踏壱間　高五尺

内

柏尾・養老谷川筋西堤八拾弐間　但　敷五間　馬踏壱間　高壱間
同断横手　堤長拾六間　但　敷五間　馬踏壱間　高五尺
同断　村西　堤長百四間　但　敷七間弐尺　馬踏壱間　高壱間壱尺
同断　村上　堤長百拾四間　但　敷七間弐尺　馬ふみ壱間　高壱間壱尺
同断　村南　堤七百廿八間　但　敷五間　馬踏壱間　高五尺
同断　出しかこ　但　弐間かこ弐本ツヽ六ヶ所
一石籠猿尾壱ヶ所長三拾壱間　但　長三間かこ（筋村西）
　指渡壱尺七寸三ツ重十壱継
　是ハ、堤猿尾毎年春役御普請御目論見被仰付、御扶持方人足壱人ニ付米五合ツヽ被下置候、洪水ニて切込、又ハ大破損所御座候時御入用を以御普請被仰付候
□断
一石籠猿尾　壱ヶ所　長拾間　但長弐間かこ　指渡壱尺七寸三ツ重五継
　是ハ右同断
一郷蔵壱ヶ所　桁行壱間半　梁行壱間壱尺　高八尺
　是ハ御蔵敷地御年貢地ニて御免定ニ御引方ニ御座候
一御年貢米津出之儀、当村より栗笠川迄壱里附出シ、栗笠川ニて船ニ積、桑名迄九里、船賃米壱石ニ付銀壱匁ツヽ相懸申候
　此内ゑ御米壱石ニ米八合ツヽ五里外運賃被下置候
一御水帳壱冊　　右同断
　明徳村庄屋孫兵衛所持仕候
一名寄帳　壱冊
一御高札壱ヶ所　　但　切支丹宗門御高札　火之用心御高札　徒党御高札
一村中用水之儀ハ、堀井を用申候
一田地ニも堀井を拵、水懸ヶ申候
一諸運上もの無御座候
一庄屋給米壱石六斗　　但　百姓高割仕来申候
一年寄給米四斗　　右同断
一定使給米五斗五升　　右同断
一田畑こやし之儀ハ、草苅込又ハ油かす少々入申候
一男女稼、農業之間、男ハ草刈申候、女ハ布木綿少々ツヽ仕候
一田壱反ニ付質入金弐両より弐両弐分迄、小作入上ヶ米八斗より壱石迄

一上畑壱反ニ付、質入金壱両より壱両壱分迄、小作入上ヶ米五斗より六斗迄
一中畑壱反ニ付、質入金弐分より三分迄、小作より地主へ納米四斗より四斗八升迄
一下畑壱反ニ付、質入金壱分より壱分弐朱迄、小作より地主へ納米弐斗より三斗迄
一屋敷壱反ニ付、質入金壱両壱分より壱両弐分迄、小作より地主へ納米六斗
一当村牧田ゟ助人馬指出銭三百文程ツゝ相懸り申候、年ニより多少御座候
一当村より所々道法
牧田ゟ弐里半　京都ゟ弐拾八里　大阪ゟ四十四里
江戸ゟ九十七里　大津ゟ弐十五里　笠松ゟ七里
高須ゟ三里　大垣ゟ三里　加納ゟ七里
岩倉ゟ弐十壱里　郡上八幡ゟ弐十弐里　尾州名古屋ゟ十里
岐阜ゟ八里　勢州桑名ゟ八里　垂井宿ゟ三里
關ヶ原宿四里　今須宿ゟ五里
右は、当村高反別幷有来候品明細吟味仕書上申候通、少も相違無御座候、以上

安永四年未十二月　濃州多藝郡明徳村庄屋　孫兵衛㊞
武右衛門㊞
彌右衛門㊞

笠松御役所

一五三　飯木村明細帳

〇岐阜市大宮町　岐阜県立図書館所蔵

（表紙）
「安永四年
美濃國多藝郡飯木村指出帳
未十二月」

九拾九年以前延宝五巳年小笠原土佐守様御検地　濃州多藝郡
一高八百四拾八石壱斗壱升四合　飯木村
此反別六拾八町五反六畝廿五歩
田壱畝拾四歩半
此分米壱斗九升弐合
田弐反五畝歩
此分米三石弐斗四升四合
田六反五畝拾八歩半
此分米八石五斗壱升七合
田壱町三反弐畝廿歩
此分米拾三石弐斗六升七合
田三畝廿九歩
此分米五斗三升四合
田壱町三反八畝弐歩
此分米拾壱石九斗弐升弐合
畑八畝拾歩

郷蔵敷引　石盛十二九八
神田引　石盛右同断
前々堤敷引　石盛右同断
前々堤敷引　石盛十ヲ
前々池成引　石盛十二九八
前々石砂入引　石盛十二九八
前々石砂入引

此分米八斗三升三合　　石盛十ヲ
田壱反九畝拾七歩　　前々川成引
此分米弐石五斗三升九合　　石盛十二九八
田弐反弐畝壱歩半　　戌石砂入子より引
此分米弐石八斗六升弐合　　石盛十二九八
田八反三畝拾歩　　巳石砂入引
此分米拾石八斗壱升七合　　石盛十二九八
田弐反五畝廿歩　　同石砂入引
此分米三石三斗三升壱合　　石盛十二九八
小以田畑五町弐反五畝廿弐歩半
此分米六拾四石三升八合
残て七百八拾四石七升六合
此反別六拾三町三反壱畝弐歩五厘
　此訳
田高六百三拾八石四斗八升壱合　　田方
此反別四拾九町壱反八畝廿八歩七厘　石盛十二九八
田高壱石三斗弐升五合　　未砂田起返
此反別八畝廿歩　是ハ御段免場所ニ御座候　　石盛十二九八
田高五石六斗三合　　未砂畑起返
此反別四反三畝四分八厘　是ハ御段免場所御座候　　石盛右同断
田高壱石五斗壱升九合　　未林起返
此反別壱反壱畝廿壱分　　石盛右同断

田高壱石三斗三升弐合　是ハ御段免場所御座候　　午砂田起返
此反別壱反七歩七厘　是ハ段免場所御座候　　石盛十二九八
田高七斗弐升七合　　戌砂畑起返
此反別五畝拾七歩七厘　是ハ御段免場所御座候
田高八石七斗七升四合　　石盛右同断
此反別六反七畝拾八歩　是ハ御段免場所御座候
田高五石　　大跡新田地所有
此反別五反歩　　石盛十ヲ

〆田高六百六拾弐石五斗六升壱合
此反別五拾壱町壱反五畝廿八歩
畑高四拾石壱升五合　　石盛十ヲ
此反別四町歩半
屋敷畑高八拾壱石五斗　　石盛十ヲ
此反別八町壱反五畝歩
〆畑高百弐拾壱石五斗壱升五合
此反別拾弐町壱反五畝四歩半
一家数九拾七軒　内　高持　三拾三軒　水呑　六拾三軒　寺　壱軒
一惣人数四百三拾弐人　内　男弐百拾八人　女弐百拾弐人　僧　弐人　馬七疋

京都東本願寺末

一寺　壱ケ寺　長圓寺
御朱印高御検地ハ無御座候、御年貢地ニ御座候

一宮　四社内　神明宮　森境内御年貢上納不仕候
八幡宮　森境内右同断
諏訪大明神森境内右同断
大鍬大明神境内右同断
右四社内八幡宮拝殿御座候、其外拝殿鳥居
別当・神主無御座候

一高三石弐斗四升四合　神田御除地御座候
是ハ往古より神田御除地御座候故、年々御免定御引被下候

一当村八幡宮神事祭礼、神田掟米を以八月十三日祭礼相勤申候
村入用無御座候

一米納村ニて御座候

一御膳籾・御詰籾相納申候

一御太餅籾・御貯籾相納不申候

一田畑・屋敷見取場無御座候

一御私領・寺社領・入会場所無御座候

一源氏橋川当村地内御座候、但、川長弐百間、幅弐間より四間迄、是ハ柏尾・養老・から谷、右三谷より流出并石畑・明徳悪水落川筋御座候、川下小坪新田より伊尾川ぇ落合申候、桑名海口まで川長九里

一御堤通長千五百拾間　高三尺より弐間まで
但根敷弐間より六間まで
馬踏四尺より九尺まで
是ハ御修覆被仰付候節ハ御扶持高米被下置、洪水ニて御堤入候得は、又ハ、大破罷成候得は、御入用を以御普請被仰付候

一谷川石籠并砂留浚場所御座候
是ハ柏尾・養老・から谷・右三谷より大雨毎出水仕、年々大破罷成御願申上候、御見分之上御目論見、水下之役御扶持方被下、御役余り之分ハ、人足老人ニ銀壱匁ツヽ御入用被下置候

村西　用水掛圦壱ケ所　長　五間
高　弐尺八寸　外法
横　三尺
是ハ、当村用水圦十七年前卯年御入用を以、御伏替被仰付、伏起人足村役仕来候

村南　悪水落圦壱ケ所　長　弐間半
高　三尺壱寸　内法
横　六尺六寸
是ハ、当村悪水落圦九年以前亥年御入用を以御伏替被仰付、伏起人足之儀大跡・飯木両村高割を以人足指出申候

一樋五ケ所　内　弐ケ所　長五間　高九寸　巾壱尺　内法
三ケ所　長弐間　高九寸　巾壱尺　内法
是ハ、当村御田地用水樋ハ御堤通伏置、伏替修覆等百姓高役仕来候

一当村用水ハ、押越村地内并飯木村地内出水用い申候

一井堰弐拾五ケ所、用水川筋所々井せき仕候

一橋壱ケ所　但　長弐間半より四尺迄
幅五尺より四尺迄
是ハ、当村地内所々作場道有之候、掛替修覆等儀は百姓高役仕来申候

一川抜弐百間　幅弐間より四間迄
是ハ、村西御田地悪水指支候得は、御願申上候、御見分御目論見御普請被仰付被下置候

一米壱石六斗　山年貢米
金壱分
是ハ、前々より多良山元より札取、年貢米金出之新仕申候

一永百三拾三文三分　鳥札運上
是ハ、前々より上納仕申候得共、何拾年以前より上納仕候訳相知不申候

一永三分　御蔵前入用
　是ハ、明和元申年より千種清右衛門様御支配より上納仕来申候
一米五斗九合　御伝馬宿入用
　是ハ、前々より上納仕候得共、何拾何年以前より上納仕候訳相知不申候
一郷蔵壱ヶ所　桁行六間　梁行弐間　四尺かわらやね　高壱丈壱尺
　是ハ、前々より數地分高壱斗九升弐合年々御免状ニ御引被下候
一御城米津出し儀は、郷蔵より栗笠迄陸附出し、栗笠より桑名迄川長九里、此運賃御米壱石ニ銀壱匁ツヽ相払ヽ但御米壱石ニ付御米八合ツヽ、五里外運賃米被下置候
一御高札三枚壱ヶ所　但　切支丹御高札　火用心御高札　徒党御高札
　是ハ、矢来竹ニて仕置申候、かわらやねニ仕置候
一御水帳四冊　庄屋所持仕候
一名寄帳弐冊　庄屋所持仕候
一米四石　庄屋弐人給
一米弐石　年寄弐人給
一米弐石　定使弐人給
一田畑質地直段
　田壱反ニ付　金壱両壱分より弐両三分迄
　畑壱反ニ付　金壱両より弐両まて
　屋敷壱反ニ付　金弐両より三両まて
一田畑小作人上米
　田壱反ニ付　米八斗五升より壱石壱斗五升迄
　畑屋敷壱反ニ付米五斗五升より六斗五升迄
一米四石五斗　草年貢米
　是ハ、勢至村壱石五斗、柏尾村弐石、若宮村壱石、右三ヶ村へ草年貢米指出、芝草刈取田畑養いニ仕候
一田畑養い之儀は、藻草買調其上不足之分、ほしか・油粕買調養ニ仕候、但壱反ニ付銀拾弐匁より拾五匁程ツヽ年々仕候、
一男稼農業之間、多良山へ参かせぎ仕、冬春は莚・縄・農具等拵申候
一女稼農業之間ハ、着用布木綿等仕候
一關ヶ原宿へ助人馬指出相勤申候
　是ハ、高九百六石相当候間、人馬指出相勤、但、大跡新田高五拾八石・飯木村高八百四拾八石、両村高割人馬賃銭指出相勤申候
一往還掃除丁場、關ヶ原宿百八拾間丁場掃除仕候
一当村水損所ニ御座候
　是ハ、牧田川・津屋川・伊尾川洪水之節、御堤通切入、御堤持こたえ不申候節ハ、田畑不残水損仕候
一当村より所々へ道法

京都へ	弐拾八里	大阪へ	四拾壱里
江戸へ	九拾七里	大津御役所へ	弐拾五里
笠松御役所へ六里半		高須へ	三里
大垣へ	三里	垂井宿へ	三里
關ヶ原宿へ	三里	今須宿へ	五里
岐阜へ	七里	加納へ	六里
岩村へ	弐拾六里	苗木へ	弐拾五里
郡上八幡へ	弐拾弐里	尾州名古屋へ	十里

勢州桑名へ　八里

一酒屋壱軒御座候
一油屋無御座候
一溜池無御座候
一百姓持林無御座候
一浪人無御座候
一秣場無御座候
一野方無御座候
一当村より隣郷へ　押越村へ十五丁、ロケ嶋へ六丁、大跡村へ四丁　明徳村へ五丁、石畑村へ九丁、鷲巣村へ九丁
一御支配所御廻状継之儀は、明徳村・飯木村・大跡村順能御座候

右は、当村高反別幷有来候品々明細ニ村役人共吟味仕、書上申候通相違無御座候、以上

安永四年
未十二月

美濃國多藝郡飯木村庄屋　七兵衛㊞
同断　久藏㊞
年寄　權兵衛㊞
同断　半内㊞

笠松御郡代所

一五四　小倉村明細帳

〇岐阜市大宮町　岐阜県立図書館所蔵

（表紙）「安永四年
高反別差出明細帳
未十二月」

美濃國多藝郡
小倉村

濃州多藝郡
小倉村

正保五子年小笠原土佐守様御検地
一高四百三拾弐石六斗六合
此反別三拾三町七反三畝廿九歩
内
弐百九拾三石四斗七升　本郷
内百拾九石六斗三升五合、是は小倉村高四百三拾弐石六斗六合、小笠原土佐守様御知行之節、正保五子年御検地被仰付候処、右之高不足ニ罷成候、然処右之高御減被成候儀、難成由ニて被指置候、右御領之時分ハ反別取ニ被仰付候、且又、萱原弐拾町右野米弐拾石被召上候、然処御蔵入ニ相成候ニ付、右地不足高御引被遊被下候様、御訴訟申上候得は、萱原野米之儀御赦免被為遊、無地高百拾九石六斗三升五合之分、畑高へ御入被遊、御免相ニて年々御了簡被為遊被下候

此反別拾九町八反弐畝拾八歩

内

〆弐反六畝三歩　神田引

此分米弐石六斗九升

上田八畝拾六歩　石盛　十弐

此分米壱石弐升四合

訳　上畑壱反三畝壱歩　石盛　十

此分米壱石三斗三合

中畑四畝拾六歩　石盛　八ツ

此分米三斗六升三合

下畑
弐畝廿歩　郷蔵敷引

此分米壱斗六升　石盛　六ツ

壱町六反六畝廿四歩　前々川成引

此分米拾六石九斗壱升

上田六反六畝廿壱歩　石盛　十二

此分米八石四合

中田四反四畝廿六歩　石盛　十

訳　此分米四石四斗八升七合

下田四反四畝拾弐歩　石盛　八ツ

此分米三石五斗五升弐合

中畑壱反廿五歩　石盛　八ツ

此分米八斗六升七合

中畑
壱反四畝廿弐歩半　前々石砂入引

此分米壱石壱斗八升　石盛　八ツ

壱反五畝廿三歩半　去ル未石砂入引

此分米壱石弐斗九升三合

上畑壱畝拾五歩半　石盛　十

訳　此分米壱斗五升弐合

中畑壱反四畝八歩　石盛　八ツ

此分米壱石壱斗四升壱合

壱反四畝拾弐歩　去ル未押堀引

此分米九斗五升弐合

中畑四畝拾弐歩　石盛　（八カ）十

訳　此分米三斗五升弐合

下畑壱反歩　石盛　六ツ

此分米六斗

弐反五畝廿三歩　去ル申石砂入引

此分米弐石壱斗七升五合

上畑五畝廿歩

訳　此分米五斗六升七合　石盛　十

中畑弐反三歩

此分米壱石六斗八合　石盛　八ツ

中畑
九畝拾三歩　去ル酉石砂入引

此分米七斗五升五合　石盛　八ツ

九反七畝拾壱歩　　去ル子石砂入引
此分米七石三斗壱升五分
上田壱反八畝廿七歩　石盛　十二
此分米弐石弐斗六升八合
下田弐反五畝拾九歩　石盛　八ツ
訳　此分米壱石弐斗五升壱合
中畑壱畝九歩　石盛　八ツ
此分米壱斗四合
下畑六反壱畝拾六歩　石盛　六ツ
此分米三石六斗九升弐合
壱町八畝廿三歩　　去ル丑石砂入引
此分米八石弐升九合
上畑三反七畝拾七歩　石盛　十
此分米三石七斗五升七合
訳　下畑七反壱畝六歩　石盛　六ツ
此分米四石弐斗七升弐合
壱町四反五畝九歩　　去ル巳石砂入引
此分米拾三石八斗弐升弐合
上田壱反九畝廿七歩　石盛　十二
此分米弐石三斗九升六合
訳　中田壱畝廿弐分　石盛　十
此分米壱斗七升三合

上畑九反五畝廿八歩　石盛　十
此分米九石五斗九升三合
下畑弐反七畝廿歩　石盛　六ツ
此分米壱石六斗六升
小以反別六町弐反七畝四歩
此分米五拾五石弐斗八升壱合
残高弐百三拾八石壱斗八升九合
此反別拾三町五反五畝拾四歩
内
三拾六石壱斗六升壱合　去ル未林起返
此反別四町三反四畝廿九歩
弐斗六升四合　去ル戌林起返
此反別三畝九歩
六石三斗弐升　去ル子林起返
此反別六反四畝廿歩
弐斗弐升　去ル丑林起返
此反別弐畝廿弐歩半
弐石八斗五升八合　去ル卯林起返
此反別四反四畝三歩
小以四拾五石八斗弐升三合
此反別五町四反九畝廿三歩半
百九拾弐石三斗六升六合　毛附高

内百拾五石六斗三升五合　無地高反別なし
此反別八町五畝廿歩半
　此訳
上田壱町弐反四畝壱歩　石盛　十二
　此分米拾四石八斗八升四合
中田四反六畝廿六歩　石盛　十
　此分米四石六斗八升七合
　内三反壱歩　替地大跡新田ニ御座候
下田九畝廿三歩　石盛　八ツ
　此分米七斗七升四合　前々より算違御座候
上畑田成壱町三反七畝拾五歩　石盛　十
　此分米拾三石七斗五升
　内壱反壱畝拾歩　堤畑田成小倉新田ニ御座候
　三反八畝廿五歩　替地大跡新田ニ御座候
下畑田成七反壱畝廿八歩　石盛　六ツ
　此分米四石三斗壱升六合
上畑壱町四反八畝六歩半　石盛　十
　此分米拾四石八斗弐升弐合
下畑壱町八反廿九歩　石盛　六ツ
　此分米拾石八斗五升八合
屋敷八反六畝拾弐歩　石盛　十
　此分米八石六斗四升

田反別三町九反三歩　畑田成共
　此分米三拾八石四斗壱升壱合
小以　畑反別四町壱反五畝拾七歩半
　此分米三拾四石三斗弐升
正保二酉年小笠原土佐守様御検地
一高百三拾九石壱斗三升六合　同所新田
　此反別拾三町九反壱畝拾壱歩　田畑共平均石盛　十
　内
田壱畝六歩　前々堤敷引
　此分米壱斗弐升
田弐反弐畝五歩　前々道敷引
　此分米弐石弐斗壱升六合
田弐反七畝三歩　前々江堀敷引
　此分米弐石七斗壱升
田六畝弐歩　前々池成引
　此分米六斗七合
　小以反別五反六畝拾六歩
　此分米五石六斗五升三合
残高百三拾三石四斗八升三合　毛附高
　此反別拾三町三反四畝廿五歩
　此訳
田高百廿壱石七斗壱升七合　石盛　十
　此反別拾弐町壱反七畝五歩

畑高拾壱石七斗六升六合　　石盛　十

此反別壱町壱反七畝廿歩　　御見取

一畑壱反八畝拾四歩

此取米五升五合

是ハ、三拾壱年以前、延享元子年、瀧川小右衛門様御支配之節、御吟味之上被仰付候、然処近年御高入ニ仕候様御吟味被仰付候得共、当村御見取場之儀、谷川先ニて砂入同様之場所ニて一切御高入ニ相成不申候、依之、右御年貢米村方より弁納仕御断申上候

外御私領・寺社領・入会無御座候

但、米納村ニて御座候

御膳籾・太細餅籾・御貯籾等納不申候、尤熟田御詰籾斗リ被仰付相納来申候

一家数百四拾弐軒　内　五拾六軒　高持百姓
　八拾四軒　水呑百姓
　弐軒　寺

一人数五百三拾六人　内　弐百六拾九人　男
　弐百六拾五人　女
　弐人　僧　馬拾疋

一寺　壱ケ寺　京都東本願寺直末　一向宗　小倉山　福勝寺

但、境内前々より御年貢地ニ御座候

一寺　壱ケ寺　京都妙心寺直末臨済派　禅宗　三峯山　瑞窴寺

但、境内前々より御年貢地ニ御座候

一鎮守　壱社　在境内

但　愛宕　三神　奥院西山三峯ニ有之候
　神明　秋葉

一宮　三ケ所　宮守無御座候　村中支配

八幡　壱社　拝殿壱ケ所御座候

神明　壱社　拝殿　無御座候

山神　壱社　拝殿　無御座候

但、右境内往古より御年貢上納不仕候、尤、何方より之御墨付も無御座候、境内之外高弐石六斗九升神田年々御免定ニて御引被遊被下候、小笠原土佐守様社領御墨付被下置所持仕候

一御林松　壱ケ所

此反別拾壱町四反五畝歩

一御林守　一人　藤田紋八郎

是は、御公儀様より弐人扶持所米ニて被下置候、帯刀御免

一御林下草委ク生茂り候得は、猪鹿住候て、近在作方を荒し候ニ付、五七年目ニ御願申上候得は、村方ゑ被仰付下草刈取申候、尤運上少々宛差上申候得共、不同ニ御座候

一米三斗七升五合　山年貢

是は、立山小松林御年貢ニ上納仕候得共、何年より被仰付候哉、其訳相知不申候

一永三百六拾六文七分　池上運上

是は、前々より上納仕候得共、何年より被仰付候哉、其訳相知不申候

一永百弐拾弐文　林銭

是は、百姓持林・秣場御年貢、青木次郎九郎様御支配之節、宝暦七丑年御吟味ニて夫より以来上納仕候

一永弐拾弐文　野銭

是は、野方秣場御年貢、右同断

一米八斗六升六合　御六尺給上納仕候

一米弐斗六升　御伝馬宿入用上納仕候

一水壱貫八拾壱文五分　御蔵前入用上納仕候

一永八百六拾八文　馮運上

是は、前々川成引有之ニ付、瀧川小右衛門様御支配之節、御吟味ニて被仰付候得共、馮生立ニより御運上□□ニ相納申候

一当村之儀は、山方ニて毎年畑作旱損多ク御座候

小倉新田堤
一用水掛圦　長拾壱間半　内法高六寸　横壱尺　壱ヶ所
是は、三拾九年以前元文元辰年御入用を以、御伏替被仰付候処、伏越シ人足之儀は、前々より村役ニ差出申候

一吸戸七ツ　但長壱尺　但高六寸　巾壱尺
是は、小倉新田之内、用水場ニ、伏置候、尤破損修復之儀、村役ニ伏替仕来申候

津屋川通小倉村地内
一土橋　三ヶ所　但長壱間より弐間迄　但巾四尺より壱間迄
是は、当村作場道并近在え通り候道筋ニ有之、懸替修復之儀、百姓役ニ高割を以仕来申候

津屋川通小倉村地内
一川通長八百四拾五間　川巾八間より六間迄
是は、上郷村々谷川筋出水毎ニ川底高ク罷成、上郷悪水落差支候節は、飯木村・大跡村・大跡新田・小倉村、右四ヶ村前々より高割を以人足差出し、川浚仕来り申候

村下御普請所
一御堤長三百四拾五間　高　弐間弐尺より弐間半迄
馬踏　壱間より壱間半迄
敷　弐間より三間迄
是は、毎年春役御普請御目論見之上、口口役被仰付、御扶持方被下置候、御役ニ余リ候分ハ、人足壱人ニ銀壱匁宛御入用被下置候

定式御普請所
一谷川堤長千五百間余　高　四尺より壱間半迄
馬　四尺より壱間迄
敷　弐間より三間迄
是は、毎年定式御普請所ニて、春役御見分被成下、石籠砂堤御普請被仰付御扶持方被下置候、御役ニ余リ候分ハ、人足壱人銀壱匁宛御入用被下置候

村前
一右ハ砂石川ニて　川巾不同ニ御座候

一郷蔵壱軒　桁行五間半　梁行弐間半　高九尺　萱　葺
是は、当村大跡新田御城米一緒ニ郷蔵詰仕、御蔵番一緒ニ相勤、破損修復之儀、両村高割を以仕来リ申候、郷蔵敷地御年貢々々御免定ニて御引被下候

一金三分より壱両弐分迄
是は、本郷田畑共山方ニて、猪・鹿殺敷出候て、田畑作方を荒し候ニ付、近在ニて狩人相頼威入用村方高割を以相払申候

一村上猪垣長延千三百間
是は、冬春畑方麦作を荒シ、迷惑仕候ニ付、村中小前高割を以、毎年修復仕候

一御支配所御廻状継

一御城米津出之儀、郷蔵より駒野迄川長弐里、津屋川通小舟ニて瀬取、此運賃御米壱石ニ付銀六分宛相懸り申候、駒野川より桑名迄川長六里余、此運賃御米壱石ニ付銀八分宛相懸申候、但、御米壱石ニ付六合宛五里外運賃米被下置候

一男女共農業之外、冬春之内農業之透ニ、男ハ山稼・縄・俵・農具を拵、女ハ着用之布木綿仕候

一米壱斗五升　借地年貢
是は、小倉新田悪水落江堀敷定年貢、所相場を以、年々有尾村九郎治方え相渡申候

一田畑養之儀、芝草・馬屋こえ・年内焼候灰を用ひ、不足之分ハほしか・油粕を買い申候

一往還道掃除場、仲仙道不破郡野上村にて百弐拾間相当り、掃除仕来り申候、但、当村より野上村え道法四里余

一助人馬当村之儀は、牧田宿え助馬差出シ、人馬賃金三分より壱両弐分迄村中高割を以差出申候、尤年ニより多少御座候、牧田宿え道法三里

壱ヶ所ハ　切支丹高札
火事高札
徒党高札
壱ヶ所ハ　御林高札
御堤草留高札
内
一御高札三ヶ所

一御水帳四冊　村方ニ所持仕候
一当村之儀名寄帳ハ無御座候、村中年々免割帳を以將明申候
一米五石　庄屋給
是は、前々より所相場を以高割ニ仕候
一米弐石　年寄給
是は、右同断
一米三石　定使弐人給
是は、右同断
一田畑小作人上米
田壱反ニ付　壱斗より七斗迄
畑壱反ニ付　壱斗より四斗迄
一当村枝郷七ツ屋と申、当村地内ニて御座候
一田畑質地直段
上田壱反ニ付　金壱両より壱両弐分迄
中田壱反ニ付　金三分より壱両迄
下田壱反ニ付　金壱分より弐分迄
上畑壱反ニ付　金三分より壱両迄
中畑壱反ニ付　金弐分より弐分弐朱迄
下畑壱反ニ付　金壱分より弐分弐朱迄
屋敷壱反ニ付　金壱両より壱両弐分迄
一当村より所々へ道法
京都へ　弐拾八里　大坂へ　四拾里
江戸へ　九拾七里　土山御役所へ弐拾弐里
笠松御役所へ六里余　大津御役所へ弐拾五里
高須へ　弐里余　大垣へ　三里余
垂井宿へ　四里　關ヶ原宿へ　四里半
今須宿へ　五里半　岐阜へ　八里
加納へ　七里　岩村へ　弐拾弐里
苗木へ　弐拾五里　郡上八幡へ　弐拾壱里
尾州名古屋へ拾里　勢州桑名へ　七里
一当村隣郷
有尾村へ　五丁程　横屋村へ　五丁程
舟見村へ　弐丁程　若宮村へ　九丁程
京ヶ脇へ　八丁程　鷲巣村へ　弐丁程
大跡新田へ　三丁程
一井堰　当村ニ無御座候
一溜池　当村ニ無御座候
一沼池　当村ニ無御座候
一無反別御林　当村ニ無御座候
一立萱野　当村ニ無御座候
一山手山役　当村ニ無御座候
津屋川通小坪新田地内
一〆切堤長四拾三間　長七間　内法　高弐間半
同所
一門樋壱ヶ所　横弐間半
同所
一悪水落坎三艘　長拾六間　内法　高六尺
駒野村地内右〆切堤続　横弐間
一掛廻堤弐百四拾五間

右四ヶ所御普請組合村々

御料
飯木村　大跡村　岩道村　上ノ郷村
大跡新田　小倉村　横屋村　有尾村
有尾新田　津屋新田　大場村（石津）　大場新田
根古地新田　根古地村　小坪新田　高柳新田
高柳古新田

尾州御領
西岩道村　下笠村　舟付村（安八）　大野村
栗笠村　口ケ嶋村　大牧村

高須領（石津）
駒野新田

大垣領
鷺巣（タキ）村　津屋村　志津新田
（石津）
徳田新田　釜段新田

〆三拾ヶ村

是は、津屋川表大垣領堤通不丈夫ニ付、御領主様へ右堤丈夫付之儀、段々相願候得共、丈夫付御普請無之、出水毎ニ切入、水下三拾ヶ村年々田畑損亡仕、御百姓難取続候ニ付、組合村々相談之上出府仕、御奉行所へ右御普請奉願上候処、早速御聞済被下、右場所御見分御吟味被仰付、八年以前子年右御普請願之通被仰付被下置候、小破修復之儀、右組合村々高割を以年々修復可仕処、去ル巳年大洪水ニ付、右門樋圦樋共押流及大破、水下村々難儀至極ニ奉存候右は、此度村役人共明細吟味仕書上申候処、少も相違無御座候、以上

安永四年
未十二月
濃州多藝郡小倉村　平太夫㊞
年寄　仲右衛門㊞
百姓代　平右衛門㊞

笠松
御役所

一五五　大坪村明細帳

〇岐阜市大宮町　岐阜県立図書館所蔵

（表紙）「安永四年　差出明細帳　未十二月　濃州多藝郡大坪村」

元禄九丙子年御留守居御番佐々喜三郎様御知行所之節、再検地被仰付候、先御検地ハ、慶長十四己酉年徳永法印御代官所之節、尤御水帳ハ紛失仕候、右高ニ八拾石八

斗九合御高相増申候、但、六尺間竿相用申候、再御検地之節御水帳所持仕候

一高四百八拾弐石四斗七合　濃州多藝郡　大坪村

此反別四拾弐町六反四畝九歩

内

上田三反八畝七歩　堤敷土取跡引
此高五石七斗五合　已荒所

上田壱町三反八畝廿九歩　堤敷土取跡引
此高拾九石四斗五升五合　除敷砂入

中田壱町七反六畝拾三歩三厘　堤敷土取跡除敷
此高弐拾壱石壱斗七升三合　子押堀已荒地引

下田七反四畝拾歩　堤敷土取跡除敷
此高七石四斗三升弐合　引入引

下々田弐拾歩　堤土取跡引
此高四升七合

下畑三畝八歩　同断
此高弐斗弐升九合

下々畑三反拾九歩　土取跡引
此高壱石五斗三升壱合　川欠

荻下々畑四反壱畝廿歩　堤土取跡引
此高弐石八升三合　堤敷引

屋敷壱畝拾六歩　郷蔵敷引

此高壱斗八升三合

小以五拾七石八斗三升八合

内

高壱石三斗七升六合　卯砂畑成
此反別壱反拾五歩　起返り段免

高弐石三斗九升弐合　午年同断
此反別七反七畝弐歩　起返り段免

残五拾四石七升

残四百弐拾四石五斗六升三合

此反別三拾七町五反八畝廿三歩

此訳

上々田三町四反弐拾七歩　石盛十五
高五拾壱石壱斗三升五合

上田五町九反六畝廿七歩　石盛十四
高八拾三石五斗六升六合

中田拾三町弐反壱畝拾六歩　石盛十弐
高百五拾八石五斗八升四合

下田五町九反五畝拾四歩　石盛　十
高五拾九石五斗四升七合

下々田壱町九反八畝六歩　石盛　七
高拾三石八斗七升四合

屋下々田四反六畝拾弐歩　石盛　五
高弐石三斗弐升

〆田反別三拾町九反九畝拾弐歩
高三百六拾九石弐升五合
上々畑壱反弐拾七歩　石盛十弐
高壱石弐斗八升四合
上畑壱町壱反壱畝拾弐歩　石盛十一
高拾弐石弐斗五升四合
中畑九反弐拾歩　石盛　九
高八石壱斗六升
下畑八反九畝拾歩　石盛　七
高六石弐斗五升三合
下々畑八反弐畝九歩　石盛　五
高四石壱斗壱升五合
荻下々畑壱町三反六畝四歩　石盛　五
高六石八斗七合
屋敷壱町三反八畝廿六歩　石盛十弐
高拾六石六斗六升四合
〆畑反別六町五反九畝拾壱歩
高五拾五石五斗三升八合
一見取田畑　無御座候
一秣場草野五反九畝廿六歩　御検地帳ニ有之
内　高外
三反四畝拾三歩　堤舗土取跡悪水落
江堀敷ニ相成候

残弐反五畝拾三歩　当時草野之分
一山年貢・野年貢　無御座候
一楮・油・荏役　無御座候
一薪代金役　無御座候
一川船役・竈役・紙船役・草役無御座候
一御林下草銭・芦葭銭場等無御座候
一御膳籾　年々相納申候
一御詰籾　右　同断
一太餅籾　相納不申候
一御貯籾　相納不申候
一御六尺給　九斗六升弐合
是ハ、享保六丑年辻甚太郎様御代官所之節被仰付、年々上納仕候
一御伝馬宿入用弐斗八升九合
右同断
一浅草御蔵前入用　永壱貫弐百六文
一浮役臨時物小穀代納　無御座候
一産物御献上物　無御座候
一御年貢米江戸浅草御蔵前納皆米納
一御年貢米津出居村より段海川迄、道法十丁余陸付仕、段海川より桑名迄川船ニて積送り申候、川長十里、五里外運賃米壱石ニ付壱升宛被下候
一家数三拾五軒　内弐拾弐軒　高持百姓
拾三軒　無高百姓
一人数百五拾六人　男　七拾人
内八拾四人　女
弐人　僧

一寺庵　三軒

一向宗　京都東本願寺末寺　蓮生寺
御朱印地除地見捨地無御座、御年貢地高弐斗

禅宗　京都妙心寺末寺　薬師院
右同断　御年貢地高五斗七升六合

禅宗　京都妙心寺末寺　若宮庵
右同断　御年貢地高四升八合

一若宮八幡宮　一社　惣村持
境内　五畝廿六歩　御除地

一住吉　一社　庄屋　太兵衛持
右境内　大蔵宮　御年貢地太兵衛屋敷之内

一薬師堂　一ヶ所　惣村持
境内弐畝拾歩　御除地

一墓所　一ヶ所
壱畝廿四歩　御除地

一死馬捨場　無御座候

一庚申塚・供養塚　無御座候

一当村若宮八幡神事祭礼、毎年正月十四日・八月廿日相勤、両度之入用先規より人別相応ニ差出し、高懸り不仕候

一御林　無御座候

一郷蔵　壱軒梁　弐間
桁　三間
庄屋太兵衛屋敷御座候

一百姓藪林　無御座候

一御高札三枚　内　壱枚　切支丹
壱枚　火之用心
壱枚　徒　作矢来ハ竹
党　庄屋

一御水帳　一冊　太兵衛預り

一当村ハ里方ニて土地ハ砂真土ニて御座候

一田方両毛作　三町歩程

一稲作かミこ　早稲　よつき　ちこ

近江弥六　早稲方ハ少分作、晩稲方大分作仕候
苗代ハ四月節頃籾付、五月中前後植付、刈入ハ早稲方ハ八月、彼岸過より刈取、晩稲方ハ九月土用中頃より刈入仕候、取実ハ上所無難毛ハ壱反ニ付壱石より壱石三四斗迄

一畑作ハ大麦・小麦・稗・大豆・芋・菜・大根作仕候

一麦作ハ餅麦・六角麦・小麦壱反ニ付種大麦九升程、小麦六升程蒔付、秋之土用中頃より段々蒔申候、刈入ハ五月節前後刈取申候

一田畑肥ハ菜種糟・綿実糟用申候、但両作場ハ壱反ニ付銀拾匁より同拾五匁迄仕候、晩稲方ハ壱反ニ付銀五匁より同拾匁迄肥仕候、其外草灰入申候

一質地年季地、上所田壱反ニ付金弐両より三両迄入申候

一小作田方、壱反ニ付上地壱石弐斗より壱石四斗迄、中地壱反ニ付九斗より壱石壱斗迄、下地五斗より七斗迄
但、水損所ニ御座候ニ付、年々中地已下之分ハ相定り不申候、畑方ハ壱反ニ付上畑七斗より九斗迄、中畑六斗より八斗迄、下畑三斗より五斗迄掟申候

一色目川通当村地内長五百七拾間余、但、砂川
川幅三間より四間迄橋渡り
是ハ大垣様御領分多藝郡豊村之出水、当村より方角ハ西南より北え出、夫より東え流、川下段海川え落合、夫迄道法水上より弐拾四五町程御座候

一段海川当村地内長三百七拾弐間余り但、泥川
川幅八間程、水上ハ江濃膽吹山流、当村より方角西北より南
へ流、夫より伊尾川へ落合、川下勢州桑名海口迄川長当村よ
り十里

一色目川通御堤長五百七拾四間片側、但　高四尺より壱丈弐尺
敷三間より八間
是ハ、御修覆之節ハ、春役御扶持方、其余御入用、大破切込之節ハ御
入用ニて不残被　仰付候、出水之節ハ、昼夜水番附置、大水之節ニ相
成候得ハ、村中罷出、杭木・空俵・縄・竹持出相囲申候

一段海川通御堤長三百七拾弐間片側、但　高弐間かり弐間半
敷七間より拾七間
馬踏壱間より八尺
御普請　右同断

色目川通御堤
一用水懸樋　一艘　但　長三間
高弐尺
巾六尺

村下
一用水樋　一艘　但　長弐間
是ハ明和九壬辰年御同人様御代官所　高三尺
之節、伏替被仰付候　巾五尺六寸

色目川通堀之内
一悪水吐樋　一艘　但　長六間半
是ハ、明和五戊子年御同人様御代官　高三尺
所之節、伏替被　仰付候　巾六尺四寸

段海川通
一悪水吐樋　一艘　但　長九間
是ハ、享保七壬寅年辻甚太郎様御代　高三尺
官所之節、伏替被　仰付候　巾壱間
右四艘之樋前々より御入用

一用水樋　弐艘　但　長九尺より弐間
是ハ古来より百姓自普請仕来候　高弐尺より三尺
一悪水吐樋　弐艘　巾三尺より四尺
右同断　但右同断

一板橋　九ヶ所　但　長弐間余
右同断　巾四尺　五ヶ所
長六尺余
巾四尺　四ヶ所

一井堰　弐ヶ所　長三間より四間
是ハ色目川通大垣様御領分宇田村境・中村境先規より用水堰上、年々
百姓自普請仕来候

一水道拾弐ヶ所　長三間より六尺迄
高五寸より壱尺迄
巾壱尺より壱尺五寸迄

内弐ヶ所　大垣様御領分宇田地内ニ伏込
先規より用水引取申候

拾ヶ所　村内所々ニ有之
是ハ、古来より百姓自普請仕来候

一当村色目川・段海川附之村ニ御座候

一当村曲輪之内、尾州様領蛇持村御田所百石余御座候、尤境除
御座候

一当村東西五拾間　西室原村へ三丁
南北九拾間　但、当村より東野口村境迄拾丁余
南宇田村境迄一筋
北室原村地境迄拾四五間程

一当村地内ニ室原村水呑百姓四軒地借仕居住仕候

一御預鉄炮　無御座候

一庄屋給米　弐石
此割合前々より高割仕候

一年寄給米　壱石
右同断

一定使給米　壱石五斗　弐人分
此割合高割ニ仕来候

一米見給米　弐斗
右同断

一玖番給米　六斗　三人分
右同断
一銀七匁五分　三役銀
是ハ、尾州様御領蛇持村江通リニ悪水落申候ニ付、年々三役銀相納申候
一藍・紅花・闇作　無御座候
一蚕飼申者　無御座候
一絹紬織候者　無御座候
一麻布・畳縁布・蚊屋織候者　無御座候
一桑・楮　無御座候
一莚糸□織出候者　無御座候
一当村より所々道法
京都え　道法弐拾八里　江戸え　道法百里
大津御役所え同　弐拾五里　笠松御役所え同　六里半
尾州名古屋え同　拾弐里　大垣え　同　弐里
高須え　同　四里　今尾え　同　三里
加納え　同　六里　勢州桑名え　同　十里余
竹ケ鼻え　同　四里　垂井え　同　弐里
高田町え　同　壱里
一市場　無御座候
一医師　無御座候
一馬医　無御座候
一山伏・行人・座頭・□□・神子類無御座候
一水練其外□能勝レ候者　無御座候
一鍛冶・鋳物師・酢・酒・醤油作、紙漉商人無御座候
一浪人者、当村居住不仕候
一大工・木挽　無御座候
一左官・桶屋　無御座候
一猟　師　無御座候
一紺屋・檜物師　無御座候
一船　頭　無御座候
一穢多・非人　無御座候
一番人　壱軒
一男女稼、男ハ田畑耕作仕候間ニハ芝草刈取田畑養いニ仕候、女ハ耕作之間ニハ着用之布木綿仕候
一薪ハ、高田町・乙坂村・牧田村ニて相調申候
一山原等新田可成場所　無御座候
一闕所田畑取上地　無御座候
一御追放者　無御座候
一惣て村方御預り物類　無御座候
一助郷人馬相勤不申候
一往還筋掃除場、垂井宿三拾六間請取丁場御座候
一名所・古跡・古城跡惣て名高人之屋敷跡　無御座候
右は、大坪村有来候品明細吟味仕書上候通、少も相違無御座候
以上
多藝郡大坪村
庄屋　朝右衛門㊞

安永四年
未十二月

笠松
御郡代所

同断
年寄　太　兵　衛㊞
百姓代　源　右　衛　門㊞
紋右　衛　門㊞

一五六　祖父江村明細帳

○岐阜市大宮町　岐阜県立図書館所蔵

（表紙）「安　永　四　年
濃州多藝郡祖父江村明細帳
未十二月」

明暦元未年石原清左衛門様御地検
一村高六百三拾四石四斗五升弐合

多藝郡
祖父江村

内百三拾九石八斗九合　地不足無反別
内九拾四石四斗壱升　田方
四拾九石三斗九升九合　畑方
残四百九拾四石六斗四升三合
此反別四拾三町九反六畝拾弐歩半
此訳
田高弐百四拾四石六斗弐升八合
七石七斗六升　堤鋪引
弐石七斗七合　溝敷引
内　五石三斗弐升弐合　池成引
九斗五升四合　土取跡引
壱石五斗九升壱合　巳池成引
小以拾八石三斗三升四合
反別壱町三反弐畝廿壱歩
残弐百弐拾六石弐斗九升四合
此反別拾八町三反九畝廿六歩
内
上田九町三反壱畝五歩　石盛十四
分米百三拾石四斗壱升
中田弐町五反弐畝拾歩　石盛十弐
分米三拾石弐斗八升
下田壱町六反五畝廿五歩　石盛十
分米拾六石五斗八升四合
畑田成四町九反六歩　石盛十
分米四拾九石弐升
畑高百三拾六石五斗壱升八合
三石壱斗六升壱合　堤鋪引
四斗七升六合　溝敷引
拾三石三斗九升七合　土取跡引
池成引

内　拾壱石三斗四升七合　水吹出荒地引
四石九升七合　川欠引
弐石弐斗弐升六合　石入引
三石弐升六合　石砂入引
拾七石三斗六升五合　子石砂入引
拾五石七斗五升五合　池成引
小以七拾石八斗五升
此反別七町五反四畝廿八歩半
残六拾五石六斗六升八合
此反別七町七反五畝八歩
内
高弐拾五石七斗七升八合　堤内畑屋敷
此反別弐町五反五畝八歩
高弐拾弐石九斗三升壱合　堤外畑
此反別三町壱反四畝廿九歩
高拾四石九升壱合　砂畑已起返　段免
此反別壱町七反五畝拾八歩
高弐石八斗六升八合　林成起返　段免
此反別弐反九畝拾三歩
田高三拾六石六斗九升七合　屋場　段免
内
六石四斗三升　堤敷引

此反別五反弐畝拾三歩
残三拾石弐斗六升七合
此反別弐町四反六畝廿九歩
田高七拾六石八斗　屋場高　段免
内
拾九石五斗七升弐合　池成土取跡引
此反別壱町三反九畝廿四歩
残五拾七石弐斗弐升八合
此反別四町五反四畝拾三歩
内高九斗三升壱合　畑田成
反別壱反弐拾五歩
毛付高三百七拾九石四斗五升五合
此反別三拾三町壱反六畝拾六歩
一高六拾壱石九斗八升九合　祖父江村持　段海分　皆畑所
内
弐石九斗三升五合　堤土取跡引
此反別三反六畝廿六歩
残高五拾九石五升四合　石盛平均壱反ニ付七斗九升五合九勺
此反別七町四反弐畝歩
是ハ当村持ニて百姓家無御座、段海川通流作場ニて、近年茅植付葺草并薪ニ仕候

一家数六拾七軒　内三軒　四拾壱軒　高持百姓
　弐拾壱軒　無高百姓
　弐軒　水呑百姓
一人数三百八人　内百五拾弐人　男
　内百五拾四人　女
　弐人　僧　寺　馬八匹
一寺　弐ヶ寺
　内
　一向宗　東本願寺直末　樂邦寺
　御朱印高除地見捨地無御座候
　禅　宗　濃州不破郡室原村福源寺末　松岳山　實相寺
　御朱印高除地無御座候田七畝歩見捨地ニ御座候
一番非人　堤通ニ罷有候　壱　人
一郷　蔵　但　長　五間　壱ヶ所
　幅　弐間
　堤通ニ御座候ニ付、敷地引高無御座候
一氏神八幡宮　村中惣社
　境内三反歩余、先規より御除地、其外御朱印・御墨印地無御座候、右之外弐反八畝歩程村方割地之内為修覆料社地ニ附置申候　壱　社
一墓　所　死馬捨場無御座候　壱ヶ所
一御高札　三枚　但　壱枚ハ宗門
　壱枚ハ火付御禁制
　壱枚ハ徒党
一御水帳弐冊　庄　屋　彦兵衛預り
一当村水損所　東西三町五拾間程
　南北九町四拾間程
　段海川・小畑川・牧田川附之村ニて、大雨之節は落圦開不申、内溜ニて田畑屋敷方迄水湛水損仕候

一相川長千弐百間程　但　川巾凡拾五間より弐拾間迄当村地内流
　是ハ伊吹山より流出、垂井川・大谷川・木寅川之流、当村地内ぇ流、壱里半程川下舟付村ニて伊尾川ぇ落合申候
一杭瀬川長弐百間程　但　川巾拾間より拾五間迄当村地内流
　是は、糟子山より流出、赤坂川・木戸川之流、当村地内ニて相川と落合申候
一牧田川長三百間程　但　川巾弐拾間より三十間迄当村地内流
　是は、土岐山多良谷之流、川下相川・杭瀬川ぇ落合、舟付村ニて伊尾川ぇ落合申候、相川・杭瀬川・牧田川、右川筋は中央境ニて御座候
一小畑川長六百間程　但　川巾拾間より三拾間迄当村地内流
　是は、当国中山之流、川下牧田川ぇ落合申候、右川筋ニ当村荒地有之、其余は中央境ニ御座候
一田方水所ニて早稲方作不申候、中稲方少々作り申候、晩稲ちこ白葉之類多ク作申候、五月中半夏之間ニ植付、苅旬秋土用過候て苅取申候、水付ニて両毛作場無御座候
一御膳籾・古餅籾・御貯籾納、熱田御詰籾御割賦納来申候
一畑方春作は、麦・小麦・菜種作申候、夏作は、稗・唐黍・大豆・芋作申候、他所ぇ売出不申候、作食ニ仕候、菜種は年中焼候程作申候
一田畑糞ひは、灰并草芝等耕作之間刈入候て、油粕・灰壱反ニ付金弐分程入申候

一田畑小作掟米

上田壱反ニ付、壱石壱斗より九斗迄
中田　八斗より六斗迄
下田　六斗より五斗迄
上畑　九斗より八斗迄
中畑　七斗より六斗迄
下畑　五斗より弐斗迄

掟申候

一田畑質金上田壱反ニ付、四両より三両迄
中田は、弐両弐分より弐両迄
下田は、金壱両弐分より壱両迄
上畑は、金三両弐分より三両迄
中畑は、金弐両弐分より壱両弐分迄
下畑は、金壱両より三分迄

一御年貢米当村より直ニ舟積仕、段海川岸伊尾川通ゑ落合、桑名湊迄川法拾里御座候、五里外運賃御廻米壱石ニ付、米八合宛被下候

一永百三拾三文三分　鳥札運上上納仕候

一御伝馬宿入用・六尺給・御蔵前入用上納仕候

一助人馬ハ關ヶ原より名古屋佐屋宿ゑ之舟路、牧田村通行有之節人馬差出申候、

右之外、定助・大助相勤不申候、朝鮮人来朝之節、大垣宿人馬御手当村ニて人馬ハ出し不申候、佐渡川舟橋人足差出申候

一往還掃除場、不破郡野上村道長五拾五間請取丁場ニて年中掃除仕候、御巡見様御通行之節、石津郡澤田村割合ニて作申候

一男女稼、男ハ耕作仕候間ハ芝草刈取、田畑養ひ仕候、惣て賃銭取売料之品仕出不申、商売致候者無御座、女は耕作之間ニは着用之布木綿仕候、惣て絹・紬・布木綿等売料之物一切織出し不申候

一薪之儀、作物之から并田畑荒所畔端ニ柳・真菰植置薪ニ仕、不足之分薪炭共石津山之内ニて相調申候、道法三里余御座候

一米弐石　但　壱人　庄屋給
一米壱石　但　弐人　年寄給
一米弐石　但　壱人　定使給
一米壱石　但　五人　坂番給
一米八斗　但　壱人　渡守給

御普請所
一堤長延千五百八拾七間　根鋪　拾間より拾弐間迄　馬踏　壱間より弐間迄　高　弐間半より三間迄

同断
一長弐百四拾五間　牧田川通水当所

同断
一用悪水坂樋七艘

内
段海川通字前田
壱艘　内法長拾弐間　幅　三尺五寸　高　弐尺八寸　悪水坂
是ハ明和七寅年御伏替

同断　下段海　内法長拾三間　高幅四尺
壱艘　是ハ享保十九寅年御伏替　三尺　同
同断字柳元　内法長　九間　高幅三尺
壱艘　是ハ宝暦七丑年御伏替　弐尺五寸　同
小畑川通字井領　内法長拾弐間　高幅三尺
壱艘　是ハ明和三戌年御伏替　弐尺五寸　用水樋
同断飯田堤　内法長　九間　高幅三尺
壱艘　是ハ明和三戌年御伏替　弐尺五寸　同
尾州御領飯田村御堤ニ伏申候
同断字前仲　内法長　九間　高幅三尺
壱艘　是ハ明和二酉年御伏替　弐尺五寸　用水樋
同断字村南　内法長　拾間　高幅三尺
壱艘　是ハ安永三巳年御伏替　弐尺五寸　悪水圦

一川除御普請場先規より仕来
石堤長八拾四間　牧田川通
猿尾壱ヶ所長六間
同　壱ヶ所長拾八間
出篭六ヶ所長三間
杭出四ヶ所長弐間　段海川通
出篭四ヶ所長三間
平篭場九ヶ所
堤通并圦樋・猿尾・出篭破損御普請御入用ニて被　仰付候、小破修覆・出水囲百姓役ニ仕并用水掛・出水囲・杭木・明松・空俵代金高割ニ仕候
村役普請所　高四尺
一内除長弐百八拾八間　馬半間　敷弐間
同断　用水江堀長四百間　幅九尺　深三尺
是ハ、尾州御領飯田村地内ニ有之、往古より用水引来申候、敷地代米出シ不申候、当村より堀渡仕来申候
同断　悪水落江堀長千五拾六間　幅弐間より壱間迄
是は、水落悪敷御座候ニ付、百姓持高之内ニ江筋堀、高三石壱斗八升三合御引高御座候、其余は追々堀候ニ付、御引高無御座候、右高引之分共代米高割ニ仕候
同断小畑川通　井堰　長拾間　巾弐間　壱ヶ所
同断　板橋　長三間　巾長六間　壱ヶ所　村中悪水落掛　向野作場道小畑川通ニ掛
同断　渡船　長五間　巾五尺　壱艘
是は、段海川通作場通路渡舟ニて、舟修覆之節は、近村之内合力取集メ、其余は当村より入用金高割ニ仕、渡守当村より附置申候、右之外百姓持小舟十三艘御座候
同断　用水樋　長弐間半　巾三尺　高弐尺　弐艘
内
壱艘ハ　定取場ニ伏ル
壱艘ハ　前仲普場伏ル

一御林　無御座候
一溜池　無御座候
一見取田畑屋鋪并無年貢空地無御座候

一薮之儀、百姓屋鋪囲少々宛御座候
一山林場百姓持林無御座候
一秣場は、段海分野方并田畑荒所地畔等ニて仕来申候
一御年貢は、米納江戸浅草御蔵納、金銀納ハ無御座候、小物成高掛は金納ニ仕候
一山野年貢・野銭・草銭無御座候
一楮・桑・茶年貢無御座候
一小物成場諸代永納浮役臨時物無御座候
一荏・大豆納無御座候
一池川役無御座候
一山原野原新開可成場無御座候
一闕所・取上地無御座候
一御追放者無御座候
一鉄炮所持仕候者無御座候
一流人者当村ニ居住不仕候
一御預り物之類無御座候
一御伝馬宿往還道筋無御座候
一市場え附通し候商人荷物駄賃取并繁昌之所え往還道筋ニて無御座候
一当村より　京都え廿八里　江戸え百里
大津え廿五里　勢州桑名え九里
尾州名古屋え十里　笠松え六里
加納え五里半　大垣え壱里半
東　大垣御領　上笠村境
西　尾州御領　飯田村境
蛇持村境
南　尾州御領　江月村境
御料　飯積村境
北　大垣御領　野口村境

一当村

右は、当村高反別并有来候品吟味仕明細ニ書上申候通、相違無御座候、以上

安永四年未十二月

祖父江村庄屋　彦兵衛㊞
年寄　重次郎㊞
同　五右衛門㊞
百姓代　太次右衛門㊞

笠松
御役所

一五七　金屋村明細帳

○岐阜市大宮町　岐阜県立図書館所蔵

（表紙）
一　安永四年
濃州多藝郡金屋村明細差出帳
未十二月

金屋村

高四百五拾九石七斗五升
内
高九拾六石四斗八升七合　前々より地不足
延宝五巳年
小笠原土佐守様御検地被　仰付候
残高三百六拾三石弐斗六升三合
此田畑三拾壱町五畝九歩
内
上田弐反歩　小笠原土佐守様御墨印神田引
分米弐石八斗
上畑壱反壱畝歩　右同断寺屋敷引
分米七石三斗弐升
上田弐拾七歩　郷蔵敷引
分米壱斗壱升
上田八畝七歩　前々より池成引
分米壱石壱斗五升三合　□□溝引
上田三反弐拾壱歩　前々より江堀敷引
分米四石弐斗九升八合
上田壱反弐畝拾五分　前々より堤敷引
分米壱石七斗五升
上田四畝弐歩　前々堤土取跡引
分米五斗七升六合
中田四反弐畝拾八歩
分米五石壱斗壱升弐合
中田三反七畝弐歩　前々堤敷引
分米四石四斗四升八合
下田弐反四畝六歩　前々江堀敷引
分米弐石四斗弐升
下田四反弐畝弐拾壱歩　前々堀敷引
分米弐石四斗弐升
堤外上畑弐畝弐拾九歩　前々川欠引
分米弐斗六升六合
下田四反九畝歩　前々池成引
分米四石九斗
内九畝六歩　未年砂田起返り
分米九斗弐升
残て三反九畝弐拾四歩　池成引
分米三石九斗八升
堤外上畑壱反九歩　卯年川欠引
分米九斗弐升七合
堤外□畑三畝拾歩　去巳川欠引
分米弐斗三升三合
小以高三拾弐石七斗五升壱合
此反別弐町八反拾歩四厘

残高三百三拾石五斗壱升弐合
此反別弐拾八町弐反四畝廿八歩六厘
畑高三拾弐石八斗壱升八合
此反別三町八反七畝拾歩半
内
畑三石八斗七升六合　去午年林成起返段免
此反別六反壱畝廿三歩
残畑高弐拾八石九斗四升弐合
此反別三町弐反五畝拾七歩半
田高弐百九拾六石七斗九升
此反別弐拾四町弐反七畝十八分
内
四石九斗五升八合　石砂入池成候より未砂田起返段免
此反別三反九畝拾壱歩
六石七斗八升六合　石砂入同砂畑起返段免
此反別五反五歩
弐石七斗三升八合　石砂入同林成起返段免
此反別壱反九畝廿八歩
六斗四升七合　石砂入戌年砂田起返段免
此反別六畝拾四歩
七石壱斗弐升六合　石砂入同林成起返段免
此反別五反壱畝五歩半
残田高弐百七拾四石五斗四升
此反別弐拾弐町六反拾四歩
内訳
上田九町三畝拾九歩　石盛十四
分米百弐拾六石五斗五升五合
中田六町壱反六畝廿三歩　石盛十弐
分米七拾四石壱升弐合
下田七町三反九畝弐拾弐歩　石盛十ヲ
分米七拾三石九斗七升三合
畑高弐拾八石九斗四升弐合
此反別三町弐反五畝拾七歩半
内訳
上畑三反壱畝壱歩　石盛十壱
分米三石四斗壱升三合
中畑五反壱畝五歩　石盛九ツ
分米四石六斗五合
下畑六反壱畝拾弐歩　石盛七ツ
分米四石弐斗九升八合
堤外上畑弐反弐拾五歩　石盛九ツ
分米壱石八斗七升四合
同中畑八歩　石盛七ツ

分米壱升八合
同　下畑六反六畝拾六歩　石盛五ツ
分米三石三斗弐升六合
屋敷九反四畝拾歩半　石盛十弐
分米拾壱石四斗壱升弐合

〆

一米四斗六升　野年貢
一御私領・寺社領・入会無御座候
但、米納付ニて御座候、御膳籾・太餅籾・御貯籾等無御座候
一山年貢・池川運上無御座候
一家数四拾軒　内　弐拾弐軒　高持百姓
拾八軒　水呑百姓
天台宗江州坂田郡柏原宿成菩提院末寺
一寺　一ヶ寺　玉泉院
但、寺屋敷ハ小笠原土佐守様御墨印地
京都妙心寺末寺禅宗
一庵　一軒　大教庵
一人数　百六拾七人　内弐人　男　八拾六人
八拾壱人　僧
女　四疋
一馬　三十番社
一氏神　三社　牛頭天王
神明
一郷蔵　壱軒　桁行　三間
梁　弐間　但瓦葺御座候
一小畑川通悪水落坎　壱艘　但　長　拾弐間
内法横　六尺
高　三尺六寸

是ハ御入用を以御伏替御修覆前々より被仰付候、尤伏込堀出之義ハ、三ヶ村割合以人足差出百姓役ニ相勤申候
一同　壱艘　但　長　五間
内法横　六尺
右同断　高　三尺
一江堀長弐百拾間　但　巾弐間半
一三ヶ村組合江堀長六百七拾五間
一御堤長千百弐拾間
牧田川通　五拾間猿尾　弐ヶ所
一村前猿尾五ヶ所　但　拾六間猿尾　壱ヶ所　御入用
拾弐間猿尾　壱ヶ所
八間猿尾　壱ヶ所
一当国不破郡今須宿ゑ大助相勤、人馬差出申候
一当国不破郡野上村往還掃除場百間、關ヶ原宿分道三拾間、両所道合百三拾間金屋村より掃除仕候
一野上村道橋　壱ヶ所　長　三間
巾　弐間
是ハ谷川落合ニ御座候故、毎々橋破損仕候ニ付、当村より人足差出橋掛ヶ申候、尤掛直之節ハ、右橋入用木は野上村より小来より差出申候
一鉄炮　無御座候
一酒屋　無御座候
一御林無御座候、百姓林も無御座候
一桑茶木楮等　無御座候
一作場道橋　五ヶ所
一田畑養之義、年内中焼候炭を用、不足之分ハ、ほしか種かす買調相用申候
一御高札　壱ヶ所　但　切支丹之札
火付之札
徒党之札

一御水帳　四冊

一田畑小作入上米　但壱反ニ付壱斗より八斗迄
畑・屋敷壱反ニ付四斗より六斗迄
田壱反ニ付金弐分より金四両迄
畑壱反ニ付金弐分より金四両弐分迄
屋敷壱反ニ付金壱両弐分より金五両迄

一田畑質地直段

一男女農業之外かせき無御座候、冬春之内農業之透、男ハ莚縄外農具拵、女は着用之布木綿仕候

一薪ハ作草用申候、不足之分ハ多良・市ノ瀬村へ参り買調申候

一当村御田地ハ底所ニて水損場ニて御座候

一田方早稲少し其外ちこ・彌六作申候

一田方水田大分ニ麦田ハ少しニて御座候

一畑方ニハ麦・小麦作り申候、秋作は大豆・小豆・稗・とうきび・いも・大根作申候

一御城米津出、烏江村迄馬付壱里、夫より川舟桑名迄九里、運賃石ニ九分ツヽ出申候、五里外石ニ壱升ツヽ被下置候

一田方植付五月中よりはんげ迄植付申候

一高田町ニて諸事買物調申候

一野方　無御座候

一沼　無御座候

一秣場　無御座候

一井水大垣御領宇田村地境ニて堰留、当村御田所へ井通を掛渡申候

一庄屋給　米四石

一年寄給　米弐石

一定使給　米壱石五斗

一田畑起返切添之場所　無御座候

一山川切開新田畑開発之場所　無御座候

一魚鳥捕候猟師　無御座候

一当村より所々へ之道法

江戸へ九拾八里　京都へ廿七里　大津へ廿四里
大阪へ四十里　勢州桑名へ九里　尾州名古屋へ十四里
岐阜へ七里　加納へ六里　笠松へ六里
竹ヶ鼻へ四里　赤坂へ弐里半　大垣へ弐里
垂井宿へ壱里半　關ヶ原宿三里　今須宿四里
岩村へ廿四里　苗木へ廿三里　郡上へ廿二里

右は、此度村役人吟味仕書上申所相違無御座候、以上

安永四年　金屋村庄屋　孫　六㊞
未十二月　同　断　十左衛門㊞
百姓代　傳　三　郎㊞

笠松御役所

一五八　飯積村明細帳

〇岐阜市大宮町　岐阜県立図書館所蔵

（表紙）
「　安永四年
濃州多藝郡飯積村明細差出し帳
未ノ十二月　」

延宝五巳年小笠原土佐守様御検地被　仰付候
一高四百拾石三斗弐升　多藝郡　飯積村

内
高八拾壱石九斗四升六合
残高三百弐拾八石三斗七升四合
此反別弐拾七町五反弐拾三歩

内
上田弐反五畝弐歩　神田引
高三石五斗九合
上畑弐畝歩　郷蔵敷引
高弐斗四升
上田六反四敷弐拾五歩　前々より堤敷引
下田五反壱歩
二口高拾四石七升九合
上田七反六畝弐拾九歩　前々より江堀敷引

高拾石七斗七升四合
上田八反四畝弐拾九歩　前々より池成引
高拾壱石八斗九升四合
上田壱町壱反八畝弐拾壱歩
屋敷壱反八畝八歩　前々より堤土取跡引
二口高拾八石八斗八合
上田四畝弐拾四歩　申堤切所押堀引
中畑壱反五畝歩
二口高弐石壱升三合
引高小以六拾壱石三斗壱升七合
此反別四町六反拾九歩
残高弐百六拾七石五升七合
此反別弐拾弐町九反七歩

此訳
田高弐百拾八石弐斗壱升三合
此反別拾八町壱反四畝廿八歩

内訳
上田七町八反七畝弐拾三歩　石盛十四
分米百拾石弐斗八升七合
中田弐町六反拾四歩　石盛十弐
分米三拾壱石弐斗五升弐合
下田七町六反六畝弐拾壱歩　石盛十ヲ

分米七拾六石六斗七升
畑高四拾八石八斗四升四合
此反別四町七反五畝九歩
内訳
上畑弐町弐反四畝弐拾九歩　石盛十一
分米弐拾四石七斗四升六合
中畑壱町壱反三畝拾三歩　石盛九ツ
分米拾石弐斗九合
下畑五反壱畝拾弐歩　石盛七ツ
分米三石五斗九升八合
屋鋪八反五畝拾九歩　石盛十弐
分米拾石弐斗六升
一米壱石七升五合　野年貢
一御私領・寺社領・入会無御座候
一当村米納村ニて御座候
一御膳籾・太餅籾・御貯籾無御座候
一山年貢・池川運上無御座候
一家数四拾六軒　内　三拾壱軒　高持百姓
拾五軒　水呑百姓
一寺壱ヶ寺　東本願寺一向宗ニ御座候　光教寺
一人数百八拾人　内　百壱人　男
弐人　僧
七拾七人　女
一氏神三社　八幡宮
権現宮
薬師宮

一馬
一郷蔵壱軒御座候
一悪水落坎　壱艘　但　内法横　長　拾弐間
七尺
高　四尺
是ハ、御入用を以御伏替御修覆前々より被仰付候、尤伏込堀出之儀ハ、三ヶ村割合ヲ以人足差出シ、百姓役ニ相勤申候
一悪水落埋坎　壱艘　但　内法横　長　拾七間
九尺
高　五尺
是ハ、直江村・金屋村当村三ヶ村組合悪水落前々より御入用を以伏替御修覆被仰付候、尤伏替堀出之儀ハ、三ヶ村割合人足差出シ村役ニ相勤申候
小畑川通
一悪水落　壱艘　但　内法横　長　六間
六尺
高　三尺
是ハ、直江村・金屋村・当村組合悪水落、大垣御領宇田村地内ニ御座候、前々より御入用ヲ以伏替御修覆被仰付候
一江堀長弐百三拾間　但　堀口　五間余
堀底　弐間半
是ハ、当村悪水落ニ御座候
一江堀長六百七拾五間　但　堀口　五間
堀底　弐間
是ハ、直江村・金屋村・当村三ヶ村組合□田地悪水落ニて御座候、尾州様御領江月村地内借地致年々代米遣シ申候
一御堤長三千四百九拾間余
是ハ、直江村・金屋村・当村三ヶ村輪中組合囲イ堤ニて御座候、御普請丈夫付被仰付候得ハ、右三ヶ村割合ニて出精可仕候
村西境
一悪水掛坎　壱艘　但　横　長　三間
高　壱尺五寸
是ハ、当村悪水懸ケニて、御修覆伏替等之儀ハ、百姓役ニ仕候
一悪水懸坎　壱艘　但　横　長　三間
弐尺
高　壱尺五寸
是ハ、当村井水場ニて大垣御領宇田村地内ニて堰留当村御田地へ古来より井通ニて掛□候

一中堤長五百八拾間
　是ハ、当村百姓役ニ前々より□修覆仕候
一道長六拾四間
　是ハ、当国不破郡垂井宿往還当村より掃除仕候
一当国石津郡牧田村ゑ人馬差出折節相勤申候
一鉄炮無御座候
一酒屋御座候
一御林無御座候
一百姓林も無御座候
一桑・茶・木漆等無御座候
一作場道橋五ヶ所御座候
一田畑養ひ之儀は、年中焼候炭を用、不足分ほしか種かす買調相用ひ申候
一御高札場　壱ヶ所　　切支丹之札 火付之札 徒党之札
一御水帳三冊御座候
一田畑小作入上米　但　田壱反ニ付米壱斗より弐斗迄 畑屋敷壱反ニ付四斗より六斗迄
一田畑質地直段　但　田壱反ニ付金弐分より三両迄 畑壱反ニ付金弐分より三両弐分迄 屋敷壱反ニ付金三分より四両迄
一男女共農業之外稼無御座候、冬春之内農業之透ニ男は莚繩農具拵、女ハ着用之布木綿仕候
一薪ハ作草相用ひ申候、不足之分ハ多良・市ノ瀬へ参り買調申候
一当村御田所堰所ニて年々水損相増申候
一田方早稲少シ、其外ちこ・彌六作り申候
一田万水田大分ニて、麦田は少シニて御座候
一畑方ニハ大麦・小麦作り申候、秋作ハ大豆・小豆・唐のきひ・いも・な・大根仕付申候
一御城米津出シ烏江村へ馬附壱里、夫より川通桑名迄拾里、運賃米壱石ニ付九分差出し申候、五里外石ニ壱升宛被下置候
一高田町ニて諸事買調申候
一野方無御座候
一田畑起返場・切添場無御座候
一山川切開新田畑開発之場所無御座候
一魚鳥捕候猟師無御座候
一当村より江戸ゑ九拾八里、京都ゑ弐拾八里、大津ゑ弐拾五里
大坂ゑ四拾里、勢州桑名ゑ拾弐里、岐阜ゑ七里、加納ゑ六里
笠松ゑ六里、竹ガ鼻ゑ四里、赤坂ゑ弐里半、大垣ゑ弐里、垂井ゑ弐里、關ヶ原ゑ三里、今須ゑ四里、岩村ゑ廿四里、苗木ゑ弐拾三里、郡上ゑ弐拾弐里
当村より綾野ゑ壱里五丁、祖父江村へ弐十丁、大坪へ廿壱丁
金屋へ十五丁、直江ゑ八丁、飯ノ木へ壱里、大跡へ壱里弐丁
澤田へ壱里半
一庄屋給　米弐石
一年寄給　米壱石
一定使給　米壱石五斗

右は、此度村役人吟味仕候て書上ヶ申候得は、相違無御座候

安永四年
未ノ十二月

多藝郡飯積村
庄屋　甚右衛門㊞
同断　喜右衛門㊞
年寄　孫九郎㊞
百姓代　庄太夫㊞

笠松
御役所

一五九　大跡村明細帳

〇岐阜市大宮町　岐阜県立図書館所蔵

（表紙）「　文化十二年
濃州多藝郡大跡村明細書上帳
亥四月　日　」

寛永廿癸未年小笠原土佐守様御検地水帳所持仕候　濃州多藝郡大跡村

一高九百九拾八石三斗九升九合
此反別八拾六町四反三畝廿八歩
　此訳
田高九百拾八石五斗七升六合
此反別七拾八町三反壱畝拾壱歩
内高四拾八石四斗四升　諸引
此反別四町七反九畝九歩
残田高八百七拾石壱斗三升六合
此反別七拾三町五反弐畝弐歩
　内
上田高四百拾九石九升六合　石盛十四
此反別廿九町九反三畝拾六歩
中田高百廿石六斗四升　石盛十二
此反別拾町五畝拾歩
下田高三百六石九斗六升七合　石盛十
此反別三拾町六反九畝廿歩
下々田高廿三石四斗三升三合　石盛八二六四八ヨ
此反別弐町八反三畝拾六歩
畑高七拾九石八斗弐升三合
此反別八町壱反弐畝拾七歩　諸引
内高壱斗五升七合
此反別壱畝拾三歩
残畑高七拾九石六斗六升六合　石盛十一
此反別八町壱反壱畝四歩
　内
上畑高三拾五石七斗弐升
此反別三町弐反四畝廿二歩

□□高拾九石六斗壱升六合　　石盛□
　此反別壱町七反八畝拾歩
　中畑高拾弐石四斗四升九合　　石盛九ツ
　此反別壱町三反八畝拾歩
　下畑高拾壱石八斗八升壱合　　石盛七ツ
　此反別壱町六反九畝廿弐歩
一右之外田畑屋敷見取場一切無御座候
一家数八拾壱軒　内　四拾三軒　高持百姓
　弐　寺
　三拾六軒　水呑百姓
一人数三百五拾四人　内　男　百五拾六人
　僧　四人
　女　百九拾四人
一壱弐ヶ寺　内　壱ヶ寺　京都東本願寺末　随　陽　寺
　勢州香取村東本願寺法泉寺末
　壱ヶ寺　西　源　寺
　壱ヶ所は六社大明神　鳥居有之　村中惣氏子
　拝殿宮守無御座候
一宮三ヶ所　内　壱ヶ所は牛頭天王　村中惣氏子
　壱ヶ所は諏訪明神　村中惣氏子
一当村神事祭礼神田掟米を以相勤申候
一井堰八ヶ所当村用水掛リニ御座候
一御堤長延千五百七拾間
　是は、前々より御入用を以御普請被　仰付候
　壱ヶ所は悪水落　村東
　壱ヶ所は同断　村南
　壱ヶ所は用水掛　赤池
　壱ヶ所は同断　村西
一坏五ヶ所

右五ヶ所共、不残御入用を以御伏替御修覆御普請被　仰付候
一用水之儀、金草川流末并隣郷飯木村流末ニて、用水引来申候
一橋拾五ヶ所　当村之内作場道ニ掛申候
　是は、前々百姓役ニ掛替修覆仕候
一当村枝郷・私領・入会無御座候
一御高札三枚　壱枚は切支丹御高札
　内壱枚は火之用心御高札
　壱枚は党徒御高札
一御水帳　四冊　（ママ）　当村ニ所持仕候
一御水帳　弐冊　大跡新田起分帳当村所持仕候
一郷蔵　弐ヶ所
　是は、壱ヶ所は前々より敷地御引方被下置候、壱ヶ所は、年々御年貢米上納仕候
一御年貢米取立郷蔵ニ詰置津出被　仰付候節は、当村より栗笠村湊迄陸方道法壱里、栗笠より桑名迄川船ニ積下ケ申候、栗笠より桑名迄船路九里、但五里外運賃米御米壱石ニ付八合ツヽ被下置候
一鉄炮壱挺　是は前々より証文差上置申候　持主　源右衛門
一鳥札運上　上納仕候
一池運上　上納仕候
一御伝馬宿入用米　上納仕候
一御六尺給米　上納仕候
一御蔵前入用　上納仕候
一小役金御役所より御割付之通　上納仕候
一助人馬之儀、石津郡牧田宿ニ大助人馬相勤申候、当村より道

法三里
一往還道不破郡青野村ニて、道長弐拾弐間掃除仕候
一当村百姓源右衛門・重吉・六之丞・八十八尾州御領口ヶ嶋村ニ出作御座候
一当村百姓源右衛門御料飯木村ニ出作御座候
一嶋田村百姓庄六当村入作御座候
一飯木村義照当村入作御座候
一当村は水損所ニて、雨降続候得は落圦戸開き不申、内溜り水ニて田畑ニ水堪水損仕候
一大雨之節は、飯木村圦樋并其外樋共ニ閉□当村より前々番付来申候
一名所・古跡・名高き人之屋敷跡無御座候
一笠松御役所ゑ道法六里半
一京都ゑ道法弐拾八里
一大坂ゑ道法四拾壱里
一尾州名古屋ゑ道法拾里
一当村隣村　西飯木村ゑ四丁　東下笠村ゑ七丁
　南有尾村ゑ十弐丁　北口ヶ嶋村ゑ八丁
一名主給米六石　庄屋弐人分
　此割壱人給米三石ツヽ　但、村方高割仕候
一年寄給銭壱貫文　但、村方高割仕候　年寄壱人
一定使給米弐石弐斗　定使弐人分
　此割壱人ニ付米壱石壱斗ツヽ、但、村方高割仕候
一無常場壱ヶ所御座候
一死馬捨場御堤外岸ニ御座候
一磯多・番太無御座候
一男女農業之外稼事無御座候
右之通当村高反別并有来候品明細吟味仕書上申候通、相違無御座候、以上

文化十二亥年一月

多藝郡大跡村
百姓代　久右衛門㊞
年寄　八十八㊞
庄屋　六之丞㊞
同断　治右衛門㊞

笠松
御役所

一六〇　大跡新田明細帳

○岐阜市大宮町　岐阜県立図書館所蔵

（表紙）
「文化十二年
濃州多藝郡大跡新田指出明細書
亥四月」

多藝郡
大跡新田

寛文八申年小笠原土佐守様御検地
一高三百九石三斗六升

多藝郡
大跡新田

此反別三拾町九反三畝拾八歩
田弐畝六歩　前々堤敷永引
此高弐斗弐升
田弐畝拾九歩　前々江敷永引
此高弐斗六升三合
田壱反弐畝歩　前々神田引
此高壱石弐斗
残高三百七石六斗七升七合
此反別三拾町七反六畝廿三歩
此訳
田廿九町五反三歩　石盛壱反壱石也
此高弐百九拾五石壱升
畑高壱町弐反六畝廿三歩　石盛右同断屋敷共
此高拾弐石六斗七升七合
一家数五軒　内三軒　高持百姓
弐軒　水呑百姓
一惣人数　弐拾壱人
一寺無御座候
一神明宮壱社　横壱尺八寸
□壱尺五寸　但御堤通建置申候
一御堤長五百間
是ハ、毎年春役御扶持ニて、米人足壱人ニ付米五合宛被下置、御普請被仰付、其外□之被仰付歟、又は御堤切入之節ハ、御入用ヲ以御普請被仰付候、出水之節ハ、水番百姓役ニ仕候
一悪水落江　但長九百間程
幅四間より八間迄
是ハ、下笠村・上之郷村・東岩道村・西岩道村・口ケ島村・大跡村・飯ノ木村・鵜巣村、九ケ村より悪水落ニて、江渡御普請御目論見之節ハ、村々割合ニて人足差出江渡仕来申候
一御堤内ニ中除長四百間程御座候
是ハ年々修復百姓役仕来リ申候
一所々悪水落小江筋　但長千間
幅弐尺より五尺迄
一橋　壱ケ所　但弐間半
幅五尺
是ハ、掛替之儀は百姓役ニ仕来リ申候
一□□川□地　壱ケ所　□□□
是ハ組合村々三十一ケ村高割ヲ以修復仕来候
一小船　四艘　但長弐間半
巾壱尺七寸
是ハ作場へ通イ候、船ニ所持仕候
一助郷人馬当村は、關ケ原宿え勤人足差出候、金三分より弐両程ツヽ人馬賃差出シ申候
一往還筋掃除場、当村分長九間三尺關ケ原宿ニ御座候
一御高札　壱ケ所　切支丹宗門御高札
火ノ用心御高札
徒党之御高札
一郷蔵　壱ケ所　但長三間
横弐間
是ハ□□□□居屋敷ニ建置申候
庄屋
友右衛門所持□□
一御水帳□□
一名寄帳は無御座候
一庄屋給米三石八斗　是ハ百姓高割ニ仕来り申候
一定使給銭六貫四百文　是ハ右同断
一田畑こやしハ藻草□用申候

一男女稼ハ、農業之間ニハ草刈申候、女は着料程布木綿仕候
一御運上無御座候
一井堰無御座候
一溜池無御座候
一御林無御座候
一番太無御座候
一当村　東西弐町　東ハ下笠村
　南北三町　但南ハ有尾村
　北ハ大跡村
　西ハ小倉村
一御年貢米津出し之儀、当地より駒野迄弐里、小船ニて瀬取賃
御米拾石ニ付、(ママ)付ニ付銀六匁五分相掛り申候、此内五里外賃御米
壱石ニ付米六合宛被下置候
一当村より所々へ道法左之通
　京都へ廿八里　大坂へ四拾里　江戸へ九拾七里
　大津へ廿五里　高須へ三里　笠松へ七里
　大垣へ三里　垂井へ三里　關ヶ原へ四里
　名古屋へ拾里　桑名へ七里　今尾へ弐里
右ハ、当村高反別并有来り候品明細吟味仕書上候通、相違無御
座候、以上

文化十二年亥四月

多藝郡大跡新田
庄屋　友右衛門㊞
百姓代　源次郎㊞

笠松
御役所

一六一　嶋田村明細帳

〇高田　日比野泰氏所蔵

（表紙）「　天保九年
村差出明細書上帳
戌三月
美濃國多藝郡
嶋田村　」

寛永十五寅年　岡田將監様
石原清左衛門様
山田長右衛門様　御三人様御立会御検地

美濃國多藝郡
嶋田村

一高弐千六百九拾六石六斗壱升六合
此反別弐百七町八反七畝廿四歩
　内
高七百七拾八石八斗三升壱合　前々諸引
残高千九百拾七石七斗八升五合
此反別百五拾町弐反弐畝拾壱歩九厘
　此訳
田反別百拾六町四反七畝五歩九厘　石盛中十四　上
此高千五百五拾六石七斗六合　石盛中十二　下
畑反別廿五町七反三歩　石盛中十一　上
此高弐百六拾四石四斗六升七合　七九　下

屋敷畑反別八町五畝三歩　　石盛十二
此高九拾六石六斗壱升弐合
外
御見取場田畑拾壱町五反八畝廿壱歩
但　私領分郷入会無御座候
一御廻米・御膳籾・御廻籾・太餅米相納来申候
一出水之節ハ、畑方過半水下ニ相成申候
一当村田反別不残用水場ニて御座候
一家数五百十軒　内　五軒　高
五百五軒　百姓
一人数弐千弐拾九人　但　僧拾五人・男千十三人・女千壱人
一寺五ヶ寺
天台宗山門首楞嚴院末寺　壽量院
東本願寺宗京都東本願寺末寺　受誓寺
内　東本願寺宗京都東本願寺末寺　專念寺
東本願寺宗京都東本願寺末寺　淨本寺
東本願寺宗京都東本願寺末寺　景陽寺
一観音堂　但　弐間半四方
一庚申堂　無御座候
一宮　三ヶ所　但　御年貢地　弐ヶ所
御除地　壱ヶ所
愛宕堂　但　弐間四方
但、神事祭礼六月廿三日・廿四日
八幡宮　但　三尺四方

内
神明　但、壱間四方
太代大明神　是ハ高三石四斗七升弐合、御除地ニ御座候
拝殿　弐間三間
但　神事祭礼八月十一日十二日
一御高札場　壱ヶ所　但　切支丹　壱枚
毒薬　壱枚
火付　壱枚
徒党　壱枚
野火付　壱枚
一郷蔵　弐ヶ所　御引高ニ御座候
一御林　無御座候
一御水帳　廿冊　是ハ庄屋当番廻りニ預り申候処、去ル寅年焼失仕候
一牧田川通御堤長延三千三百六拾四間　是ハ御入用御普請所ニて御座候
悪水落
一内御堤両側　長弐千百弐間　是ハ御入用御普請ニ御座候
一牧田川通　川巾　常水之節ハ凡拾間より弐拾間迄
停水之節ハ凡百三拾間程
一橋　八拾六ヶ所　但板橋　七拾八ヶ所
石橋　八ヶ所
無御座候
一溜池　御座候
一掛樋　壱艘　御座候
一悪水吐坎　七艘　御座候
一井堰　壱ヶ所　巾四間
一田方稲草　小籾・彌六・長穂・北国・中山

一畑　作　大麦・小麦・菜種・夏作芋・大豆・小豆
稗・大角豆・大根等作申候
草・灰・種かす
一田畑こやし　無御座候
一油　屋　無御座候
一木　挽　無御座候
一大　工　三人　御座候
一鍛冶屋　壱軒　御座候
一医　師　壱軒　御座候
一山　伏　無御座候
一御年貢米津出之儀、当村より烏江村迄陸付壱里、夫より桑名
湊迄拾里、同湊より江戸海上百五拾弐里余
一諸方ゟ之道法
大　垣へ弐里　名古屋へ拾里
今　尾へ三里　高　須へ四里
笠　松へ六里　竹ヶ鼻へ四里
烏江村壱里　關ヶ原へ三里
押越村へ五丁程　五日市村へ八丁程
大塚村・直江村へ五丁程御座候
一庄屋給米拾八石四斗
一年寄給米　壱石
一定使給米　四石八斗ニ御座候
一当村土地砂地ニて御座候
一薪・柴之儀ハ多良山より売来候を買調申候

右は当村高反別并前々より有来候品、明細ニ書上申候所相違無
御座候、以上

美濃國多藝郡鳴田村庄屋　市右衛門
同断　同　九右衛門
同断　同　益次郎
同断　同　重蔵
年寄　同　柳次郎
同断　同　多右衛門
百姓代　友次

天保九年
戊三月

一六二　室原村明細帳

〇岐阜市大宮町　岐阜県立図書館所蔵

（表紙）
「　天保九年
村差出し明細書上帳　戸田采女正御預所　濃州不破郡　室原村　」
戌閏四月

天正拾七己丑年増田右衛門尉様御検地
一高四拾九石五升　濃州不破郡　室原村
此反別九拾町弐拾六歩
内

高三拾石弐斗弐升三合
　此反別弐町六反五畝拾六歩　前々諸永引
高四拾九石三升五合
　此反別四町七反壱畝弐拾八歩三厘　前々池成場所
　　押堀川欠砂入引
残高九百六拾九石七斗九升弐合
　此反別八拾弐町六反三畝拾壱歩七厘
　　此訳
田反別六拾三町壱反弐畝拾四歩五厘　石盛中十三　上十五
　此高七百八拾三石四斗四升四合　下十壱
畑反別拾八町壱反四畝弐拾七歩弐厘　石盛中十ヲ　上十弐
　此高百七拾石弐升八合　下八ツ
屋敷反別壱町三反六畝歩　石盛十弐
　此高拾六石三斗弐升
　但し私領入会無御座候
御廻米　相納来申候
一御膳籾
御廻籾
太餅米
一別上納御膳籾弐石五斗
　右は御料所ニて永続仕候処、去ル天保弐卯年より御願奉
　申上、為御冥加年々御年貢米之外上納仕候
一出水之節、畑方不残水下ニ相成申候
一当村田反別不残用水場ニ御座候

一小物成　無御座候
一秣　場　無御座候
一鳥札運上金壱分永百弐拾五文　年々上納仕候
一釜　役　無御座候
一農業間稼　男ハ作第一ニ仕、諸色売買不仕候
　女ハ布木綿漸々着用程仕候
一古城跡・名有人之屋敷　無御座候
一家数百七拾弐軒　寺
　内　六軒　高持百姓
　　拾壱軒　家頼水呑
　　百五拾五軒
一人数六百七拾三人
　内　僧　九人
　　男　三百五拾弐人
　　女　三百拾弐人
　　番非人　男壱人
一家　壱軒
一寺　六ヶ寺
　内
　真言宗　京都山科勧修寺御門末　知善院
　禅　宗　京都妙心寺末寺　福源寺
　東本願寺宗　京都東本願寺末寺　安福寺
　東本願寺宗　京都東本願寺末寺　長願寺
　東本願寺宗　京都東本願寺末寺　正海寺
　東本願寺宗　京都東本願寺末寺　蓮澤寺

一宮拾壱ヶ所　　御年貢地

内

熊野大権現　　壱社

拝殿　　壱ヶ所　別当　知善院

鳥居　　壱ヶ所

但し、神事祭礼八月十日

牛頭天王　　壱社

但し、神事祭礼六月十五日

十二社権現　　二社

但し、神事祭礼八月十日

天満宮　　壱社

右同断

数立社　　壱社

右同断

金毘羅大権現　　壱社

但し、神事祭礼十月十日

小栗栖大明神　　壱社

但、神事祭礼八月十日

新宮大明神　　壱社

但し、右同断

藤宮大権現　　社跡壱ヶ所

穂落太神宮　　壱社

但し、神事祭礼八月廿四日

一御高札場壱ヶ所　　切支丹御高札壱枚　徒党御高札壱枚　火附御高札壱枚　野火御高札壱枚

一郷蔵弐ヶ所　　御高引ニ御座候

一御林　　無御座候

一御水帳　　先年焼失ニ付無御座候

一名寄帳　　庄屋預

一堤長延千弐百間　　前々より御入用御普請所

此訳

長千三百間　　泥川通・段海川通水除

長九百間　　色目川通り水除

右は前々より定式春役御普請急破御普請共被仰付候場所

一堤長四百五拾間　　泥川通　色目川通　水除

右は前々より自普請場所

一悪水堀長九百八拾間

悪水除小堤長九百八拾間

右は寛政元酉年御入用を以新規御普請被　仰付、其後も御入用御普請被　仰付候

一泥川・段海川通川巾常水六間より八間迄、満水八丁程

右は川上水元江州伊吹山より当村迄川路凡拾里程、当村地内ニて大谷川・相川落合、夫より色目川・赤坂川落

合、川下多藝郡烏江村ニて牧田川ぇ落合申候
一橋　三拾五ヶ所　　板橋弐拾五ヶ所
　　石橋拾ヶ所
一溜池　　無御座候
一用水掛坎樋　弐ヶ所
悪水吐坎樋　弐ヶ所　　御座候
　但し、御普請所
一用水坎樋　四ヶ所
悪水吐坎樋　五ヶ所　　御座候
　但、自普請所
悪水堀長九百間
一用水路水分小堤長七百五拾間
用水路長弐千五百間
　但、自普請所
一井堰　　拾ヶ所　　御座候
一往還筋掃除場中仙道野上村附百八拾間
一助郷人馬中仙道關ヶ原ぇ指出定助相勤申候
一田方稲草　八幡・彌六・近江子・大坂籾蔵等作申候
一田畑こやし　菜種糟・綿実糟用申候
一造酒屋　　無御座候
一油　屋　　無御座候
一大工・木挽　　無御座候
一鍛冶屋　　無御座候
一医師壱人　　御座候　昌貞
一山　伏　　無御座候
一御年貢米津出居村より当村段海川迄道法拾弐丁陸附仕、夫より勢州桑名迄川長拾壱里、夫より江戸迄百五拾弐里余
　西ハ　栗原村
一当村近郷　南ハ　宇田村・豊村・中村・大坪村
　北ハ　嶋村・十六村・表佐村
　東ハ　綾野村・野口村
一最寄町場　高田へ壱里、大垣へ弐里、垂井へ弐里
一庄屋給米四石　　両人
一年寄給米三石　　両人
一定使給米四石　　両人
一当村里方ニて土地、砂真・そぶ土ニ御座候
一薪・柴ハ高田町・乙坂・牧田・澤田ニて相調申候
右は、当村高反別并前々より有来候品、明細書上申候処、相違無相座候、已上

天保九戌年閏四月

濃州不破郡室原村
百姓代　　六印
寄物年　彌　六印
兼帯庄屋西結村
民　之　丞

一六三　高畑村明細帳

○橋爪　大久保守正氏所蔵

（表紙）
「　天保十己亥年
多藝郡高畑村明細帳
三　月　　扣跡　」

（表紙裏）
「左ニ有御高御免共増減御しらべ御書記し御差上可
申候　」

一高辻拾六石九斗七升四合
内
高九石壱斗弐升壱合　永御引地
高四斗壱升八合　年々諸御引地
残高七石四斗三升(五)壱合
内
高五石九斗三升七合　御本田御免弐ツ四分弐厘、年苻御定免
高壱石四斗九升八合　返起分御免壱つ壱分五厘、年苻御定免
一夫役米五歩　上納仕候
一米三斗七升　御粧代欠米

一先高弐百弐拾石余川欠ニ相成申候
一氏神八幡宮境内三反五畝歩御座候
一神明宮　境内弐反弐畝御座候
一稲荷大明神　境内壱反三畝歩御座候
右三社共御除地、尤社領等無御座候
一郷境　御料金屋村、御預所五日市村、御領分橋爪村・安久村
大墳村郷境ニ御座候
一切支丹御高札之義、元禄年中被召上、只今ニては無御座候
一道掃除場　無御座候
一松明杭木小屋　無御座候
一川除御普請所御座候ニ付、他村ニ水囲出不申候
一樋人足四分　相勤申候
一金弐分　松御運上上納仕候
一弐斗五升九合五勺　御□□上納仕候
一野山無御座候ニ付、御領分龍泉寺村ニて芝草苅取申候、尤山
年貢之儀は苅取候人別より右村ニ相勤申候
一村方ニ作所無御座候ニ付、御領分橋爪村・上方村・龍泉寺村
石畑村、右村々ニ田所請作仕候
一家数合拾弐軒　戌年御改高
一人数合五拾九人　男三拾七人　戌年御改高
女弐拾弐人
一牛数合五疋　戌年御改高
牡牛
一郷宿　竹屋清右衛門

右之通御座候、以上

天保十己亥年　三月

高畑村名主　小左衛門
同村御百姓代　惣右衛門

御代官
御役所

一六四　下池之儀ニ付尋答書

○安八郡輪之内町　片野記念館所蔵

乍恐以書付奉申上候

一下池之儀、有尾村持年来池成引ニ相成居候訳御尋ニ付、左ニ奉申上候

一高千四百五拾壱石八斗壱升六合　有尾村古高

内

高五拾四石　同村本高
高百三拾六石弐斗弐升　同村起返
〆高百九拾石弐斗弐升　有尾村御高辻
高七百八石四斗　有尾新田御高辻
高拾石四斗八升　大跡新田ニ起返
高百六拾石　大場新田ニ起返
残三百八拾弐石七斗五升六合　開キ残リ下池高ニ成ル

此藻草米弐石

此池御運上金四両壱分　永百三拾七文五分

右之通追々新田開発ニ付、古高野米拾五石之内弐石は下池高へ相残、往古より藻草御年貢上納仕候、且又、魚鳥御運上金四両壱分永百三拾七文五分、是又往古ハ上納仕、尤御高役并諸掛り物、元文四未年より御免除ニ相成申候

一右池之内、駒野新田彦太郎持有之、大垣御領分へ年々運上相納候ニ付、同人所持之場所御尋ニ御座候、

此段彦太郎は高須御領石津郡駒野新田百姓ニて、下池高之内四百六拾八石弐斗は大垣御領志津村分、五拾石六斗弐升は御同領徳田村と申伝、合高五百拾八石八斗弐升の場所を彦太郎進退いたし、大垣御役場へ運上相納候趣ニ御座候得共、右地境之儀は、往古より相分り不申、既ニ享保年中下池中除御普請相願候節、志津・徳田両村より地境相立候上普請取懸候様申懸り候ニ付、御江戸表へ御出訴申上、御吟味之節、往古新田開発相止メ候砌、地元志津・徳田へ地面相戻り候由申立候得共、地元之証跡曽て無之、一々志津・徳田両村申分難相立候、猶又池境之儀は、双方共無証拠ニ付、不被及御沙汰候、藻草魚猟之儀は双方共運上差出候得は、有来通入会可申、徳田村証拠無之上は、一切入会申間敷旨御裁許被　仰渡候ニ付、有尾両村・横屋村・津屋村之儀は、魚猟藻草共入会ニ御座候

一右池ニて有尾村・有尾新田之者、藻草取候儀、凡壱ヶ年ニ何程之助成ニ相成候哉
　此段両村田畑やしなひの助成ニ仕候得共、年々両村やしなひ不足候
一大場新田其外ニて藻草取候場所之事
　此段大場村大場新田之儀は、宝暦年中迄入会不申候処、藻草之儀ニ付、大場両村と有尾両村と出入出来仕、御江戸表ゑ罷下り、宝暦五亥年御裁許以来、大場新田囲除西南之角より、下笠輪中悪水除南留り巳之三分を見通し、東之分入会ニ相成申候、其節より永六百文宛大場両村より上納仕候
一右池西之方引堤ニ相成候年暦并古堤開発高請等之儀、御尋ニ御座候
　此段引堤之儀は、明暦四戌年駒野・釜段・下池此三ヶ所、森半入と申者、尾州浪人之由ニて、駒野村ニ罷在、開発之砌徳田新田堤出来仕、右古堤不用ニ相成候ニ付、享保年中駒野新田彦太郎新開仕候由、尤大垣御領分釜段新田地内御高請之場所、高拾七石余御座候
一大垣領徳田新田・柳原新田・横屋村・志津新田開発之場所ニて御高請候哉
　大垣御領　徳田新田　高三百三拾八石余
　大垣御預り□　志津新田　高三百九拾七石余
　大垣御領　柳原新田　高弐拾六石余
　大垣御預□　横屋村高之内　外新田　高八拾九石余　毛付
　内　高廿四石余　池成
　　高六拾四石余
　右村々本高請ニ御座候
一下池ニて魚鳥売高壱ヶ年ニ凡何程位之金高ニて、有尾村・有尾新田、又彦太郎との割合をも御尋ニ御座候
　此段魚鳥売代金之儀は、古来より入札を以取極候得共、文化年中迄は、御運上弁納仕、其後魚鳥相増候ニ付、右売代金相進ミ候処、文政年中ニ至、魚鳥共一向不殺生ニ付、金弐拾両迄ニ相成候得共、猶又追々鳥殺生相増候ニ付、右売代金相進ミ、近年金百弐拾両余迄ニ売渡、依之先年より不同ニて相定り不申、尤彦太郎と割合は二ツ割ニ御座候
一下池廻り古堤新開并柳原・志津新田之者ゑ、殺生人より年々金子差出候、此訳如何
　此段右村々農業ニ事寄、殺生差障候ニ付、右納得金差出候由ニ御座候
一下池中除之西水も浅く、新開ニも可相成哉、又差障りも無之哉
　此段明暦年中、森半入と申者、御新田ニ願請、新田ニ取懸候得共、成就不仕、其後彦太郎引請、追々新田ニ取懸候へ共、新開残之場所窪地ニ候間、中々成就不仕、其儘打捨置候ニ付、延享元子年御役所ゑ御願申上、後年新田ニ取立候

節、差戻候筈を以、有尾村ゟ引戻シ進退仕候
右之段御尋ニ付、乍恐以書付奉申上候、以上

天保十四年卯九月

多藝郡有尾村
百姓代　秀右衛門
年寄　寅治
庄屋　武右衛門
有尾新田
百姓代　定右衛門
庄屋　清右衛門

笠松
御役所

一六五　直江村諸品取調書上帳

○直江区有

（表紙）
「　天保十四卯年十月
諸品取調書上帳
戸田采女正御預所
美濃國多藝郡
直江村　」

覚

一村役共持高仕来ニて高掛諸役相除、小前持高割ニ致候儀無御座候、村方惣高割ニ仕候

一郷蔵　壱ヶ所御座候
一前々村方出穀貯夫喰籾　五拾四石三斗八升壱合六勺
右は、去ル天保八酉年拝借被仰付、同年より午年迄拾ヶ年年賦被　仰付、壱ヶ年ニ籾五石四斗三升八合壱勺六才ツヽ年々返納可仕之処、酉年子年戌ヶ年凶作ニて年延被仰付、則戌・亥・丑・寅四ヶ年詰戻し籾高弐拾壱石七斗五升弐合六勺四才囲置申候
一田方肥之儀　種粕・馬踏肥・干鰯・灰
　但　壱反歩ニ付銀五拾五匁位
一畑方肥之儀　種粕・干鰯・灰・馬踏肥・大小便
　但　壱反歩ニ付銀五拾匁位
種粕　金壱両ニ付、目方三拾貫目より三拾五・六貫目位迄ニ御座候、是は、出所飯田村・金屋村・橋爪村・高田町ニて買入申候
干鰯　金壱両ニ付、目方弐拾貫目より弐拾弐・三貫目替ニ御座候、是は、出所南部・仙臺・常州・房州・勢州辺ニ御座候、買入之儀は今尾・高田ニて買入仕候
灰・馬踏肥・大小便　所出生
一御林之儀は無御座候
一村方持山壱ヶ所御座候
一村方持林之儀弐反歩斗御座候　凶メ

一今須宿へ助郷人馬年々相勤申候
　去寅年之儀、人馬賃銭惣代入用共三拾五両出金仕候
一去寅年御廻米弐百七拾六俵余
　是は、当村より川岸迄壱里持出し、夫より桑名迄七里川下仕候、御廻米壱俵ニ付四斗入合米弐升弐合
一金壱両三分ト銭四百五十八文
　是は、御廻米川岸迄持出賃壱俵ニ付銭三拾弐文ツヽ、并郷蔵働人足賃・番賃共ニ御座候
一金壱両弐分弐朱ト銭四百文
　是は、御廻米桑名湊迄川下ケ運賃、烏江村勘兵衛方へ相渡候分
一金壱分
　是は、御廻米川下之節上乗給弐度分、但　壱度銀七匁五分ツヽ
一金弐両也ト銀壱匁
　是は、御廻米川下之節、桑名湊ニて仲仕入用并蔵敷上乗下用共三好屋惣次方へ相渡候分
一御廻米郷蔵納之節、差米之儀は其俵へ差戻申候、敷米之儀ハ年々郷蔵修覆入用之内へ差入申候
一居酒屋・髪結床・大小研師・按摩職等致すもの無御座候
一御貸株酒屋壱軒御座候
一農間稼鍛冶屋四軒御座候
一農間稼草履・わらんじ商仕候もの四軒御座候
〆
右は今般ケ条書を以被仰渡候ニ付、書面之通奉書上候、已上
天保十四卯年十月

多藝部直江村庄屋　藤太夫
同断　久三郎
年寄　源兵衛
百姓代　員助
同断　五兵次
高持惣代　忠兵衛

大垣御領御預所

○村境

一六六　柏尾村・白石村境ニ付取替証文

○養老　藤塚　功氏所蔵

取替申証文之事

一白石村北之河原北之岩先より拾弐間半南に両村之境有是、其境より東桑名横海道迄之河原ニ付、白石村・柏尾村両村之境

何角と互ニ穿鑿御座候て出入ニ罷成候処ニ、拙僧共罷出取
噯、双方和談之上ニて両村之境相極、東桑名道上ニ両村之境
新塚壱ツつき、印ニ松壱本植置申候、右北之岩先より拾弐間
半南ニ両村之境より東桑名道迄之両村之境を見通ニ相極置申
候、然上ハ向後互ニ違乱申間敷候、若境塚損事候は毎年破損
被致候筈ニ両村ゑ相極置申候、為後日噯連判仕、両村ゑ取替
証文相渡し申候、仍而如件

元禄四辛未年九月十二日　　柏尾村　存徳寺　眞　境㊞
　　白石村　正慶寺　了　玄㊞

白石村名主
彦　兵　衛殿
惣御百姓中

（割印）（割印）　噯拙僧共両村之取替ニ両僧わり判仕置申候

○柏尾　柏尾静円氏所蔵

村中連判手形之事

一今度両村之河原ニ付、何角と互ニ穿鑿御座候処ニ、双方和談
之上ニて、両方共ニ急度御済被下候上ハ、名主・五人組頭惣
村共ニ少しも申分無御座候、此上ハ両村之境之儀、互ニそ忽
成事共申間敷候、為其村中連判仕指上ケ申候、為後日手形仍
而如件

元禄四辛未年九月十六日

柏尾村名主
八　兵　衛㊞

五人組頭　與　平　次㊞
同　断　左　兵　衛㊞
同　断　庄　太　夫㊞

存徳寺眞境殿

一六七　石畑村・押越村境榜示杭打立願

○押越　渋谷保之氏所蔵

乍恐以書付奉願上候

濃州押越村庄屋・年寄・百姓申上候同国石畑村と村境を越高内
可操取出入御吟味之上、今般両村境御絵図御墨引を以、御裁許
被　仰付難有奉存候、然所奉入御見分候通、道筋有之所も御座
候得共、一躰砂場平地殊ニ水難度々変地之場所ニ御座候、依之
御裁許表永々双方無心得違為相守候、御墨引境通ゑ榜示杭ニて
も塚成共於場所目印ニ相成候儀、被　仰付候様奉願上候、場所
目印無之、若小百姓抔相互心得違有之候てハ如何ニ付、一同相
願候様石畑村ゑ申談候処、如何相心得候哉不得心ニ付、私共而
已罷出候、御慈悲ヲ以願之通被為　仰付被下置候ハヽ、難有奉
存候、以上

宝暦十二年年二月

美濃國多藝郡押越村庄屋
和　助㊞
同　宇右衛門㊞

百姓代
新　七㊞

御奉行所様

一六八　石畑村・押越村境通ニ付取替証文

○石畑　山幡清重氏所蔵

覚

八郎塚名田鳥居戸壱番杭より弐拾番杭迄杭より杭迄見通シ、但壱番杭巾六尺
一道長九拾弐間四尺　別紙横折有　巾　五尺
同弐拾番杭より弐拾九番迄横道見平均
一同長弐拾八間三尺　巾　同断

右之通石畑村・押越村字名八郎塚名田、鳥居戸横道壱番杭より弐拾九番杭迄長百弐拾壱間壱尺境通、両村立会境杭相立申候、右道巾定之通双方共永々相守可申候、若欠損候節相互ニ申届、早速修復可致候事

一此度右道通両村和談之上前書之通相定候上は、双方共少も差支之義無御座候、別て石畑村之儀ハ、御田地水持第一、諸通路之場所并橋等之儀損候節、又ハ水落シ引之義は、其村御勝手次第ニ可被成候、尤田方ゑ欠込候場所は双方立会、早速修復可致候事

一右道杭朽損候節ハ早速立会、右定杭之通相立可申候事

右ヶ条之通、此度両村和談之上相極候上は、双方申分無之、後々迄無違乱相互ニ急度相守可申候、依之為取替証文仍如件

明和五年子正月

押越村庄屋　和助㊞
同断　傳右衛門㊞
年寄　新左衛門㊞

石畑村
御名主中
御組頭中

一六九　押越村中屋敷南土居境論願書

○押越　渋谷保之氏所蔵

（表紙）
「天保四年
押越村内字中屋敷南土居境論ニ付願書下書
巳五月」

乍恐以書付奉願上候

押越村内字中屋敷之儀は、高田町八十郎扣地ニて、前々より地境方端右同人より被相頼居、右内預地ニ御座候、同所南之方は土居藪有之、其南は村人源左衛門居屋敷ニて、右双方南北之境之所ニ私預地屋敷附之堅溝御座候、然処、右源左衛門屋敷囲ひ之腰垣前々より右堅溝南ニ有来候処、去辰年二月右内預地之藪

土居ゑ、無相対理不尽ニ竪溝北ゑ新規ニ垣被持出、其上右場所ニ有之候木枝伐払申候ニ付、無余儀右内方より右源左衛門ゑ此段懸合申候処、右同人より申答候は、此儀は地境ニ相拘り不申候場所ニて、尤竪溝北ニ前々より暫く之所垣有之候ニ付、其見通シニ東迄、此度新規ニ垣仕出候得共、是は手前之分ニて手前之勝手ニ垣致候事故、相対ニは不及と返答被致ニ付、猶又右内方より申遣候は、左様成は、前々より溝北ニ有之候垣之敷地等御手前之分ニ御座候得は、右垣ニ結込有之候木之枝等心儘ニ伐払難被成、若伐被払候節ハ、前々より枝は右内預地屋敷借り之者ゑ取納来申候ニ付、右垣敷地之儀は、右内預地ニ相違無御座候、勿論貸地之訳親共より申伝御座候ニ付、此段掛合候処、源左衛門より申候は、成程右場所之儀は借地之由祖母より聞伝居申候故、何分返答之儀は明朝迄相待呉候様と被申候、然処、同二月七日当村利蔵、右源左衛門より被相頼、私方ゑ罷越被申候は、右垣之儀は、無何心溝北ゑ持出申候間、何れとも可致候由源左衛被申候ニ付、何分穏和ニ取斗ひ申度趣委細相咄御座候、然処私方より申候ハ、今般之儀は、私預地殊ニ御高付之地所、右躰ニ境目等難被込候ては、畢竟御高相続ニも相拘り申候儀ニ付、何れ先規元形之通ニ被相直候様、右利蔵ゑ申遣候処、猶又利蔵罷越被申候は、右一件之所、以来年貢付ニて地所致借地度由源左衛門被申候ニ付、此段御頼申と挨拶ニ付、従私申候は、達て被相頼候成は、貸地ニ致遣候ても宜候得共、左様成は為後年之故、右借地之書付被致呉候哉夫よりも相成候儀成は、元形ニ相直候様致度と申答候処、同二月十一日彦左衛門・利蔵被罷越被申候は、何れ元形ニ相改候様源左衛門被申候、乍併手前共より御頼申度儀は、只今右垣之新縄為切候ては、手前共両人挨拶ニ立入候趣意も薄ク相成申候間、何卒当十二月まて宥免致候様被申候ニ付、私方より申候は、御両人之御挨拶ニ御座候得は、当暮迄相延可申候間、当暮ニは急度元形ニ速ニ相直候様、尤御請合書付御両人より被下候段相頼申候処、右両人共承知被致候ニ付、左様成は、右書付御認め被下候御心底ニ御座候ハヽ、夫ニは不及申、乍併御請合之書付御認め被下候同様之御心底之段、御承知被下候様と申候処、右両人より被申候は、万一当暮元形之通ニ相成不申候ハヽ、手前共何方迄も罷出急度元形ニ為相改候と、去辰二月右両人被申候、然処同十二月下旬ニ相成、利蔵より被申候は、当春御引合之通元形ニ相直候様、源左衛門より被申候段相届御座候ニ付、私方より為念右場所致見分候処、元形とハ相違致シ、尤元形は竪溝南地畔より凡巾壱尺程も南ニ馮垣御座候、尤此巾壱尺程之内ニ木抔有之候処、此木は伐払被申候、且又右垣中程より西之方ニて元馮垣之所、此度古き高塀ニ相成申候ニ付、右利蔵ゑ私方より申候は、此度右一件御咄ニ付為念致見分候処、溝北ゑ被仕出候垣溝南之端シまてハ相直候得共、元形とは致相違、元垣之所凡中程より西は古き高塀被当テ、尤此屋根北ゑ出張候ニ付、此段相咄申候処、又々源左

衛門ゑ引合之上利藏より被申候は、高塀之儀は有合候ニ付、当分右場所ニ当テ置申候、何れ来春迄延呉候様と被申候ニ付、私方より申候は、御頼之儀ニ御座候故、当年は致勘弁、来巳年二月迄相延し候得共、若又右二月ニ至り及遅滞候ては、当春御引合之通請合書付御座候同様之御引合故、来二月ニは無間違様と去冬引合置申候、然処当巳年ニ相成、右一件之場所元形ニ相直候様届御座候ニ付、又々再致見分候処、前顕奉申上候通、古き高塀被当候所此度は新き高塀ニ相成、乍併元より屋根は少々扣へ候、尤土台下ハ右之通論所ニ相成居候処杭を打、筈を入、地所築立被申、従夫東之方垣は未タ元形ニ速ニ相直不申、迷惑至極ニ奉存候、前顕之始末ニ御座候得は、垣敷地并竪溝より右躰ニ境論ニ相成候儀故、為後之右借地之書付被致呉候様ニ仕度、且又同所続き土居藪之西少々北之方ゑ寄、川巾凡四五尺程之所、是も同様前々より垣無之所ニ新規ニ私預地屋敷之土居ゑ垣被仕出候、右様ニ相成候ては屋敷相続之障りニ相成候ニ付、是又彦左衛門・利藏ゑ向相尋申候処、源左衛門より申候は、兼て引合之儀故、高塀も少々は南ゑ扣へ、并中程より東之垣も少々相直申候得共、右借地之書付は決て不致、尤前々より右場所借地いたし候事ハ少も無之、勿論御両人之手を離れ候得は、何時ニても去辰年之通竪溝北ゑ垣出度候節は、勝手次第ニ持出申候、且又同所続き川越ニ仕出候垣之儀は、土居畔弐三寸は扣へ候得共、其余之所は決て相除不申候様ニ被申答候趣、右両人より相咄被申候、全躰一旦承知之上ニて、去ル十二月右垣溝南之端シ迄扣へ候処、又々溝北ゑ垣出度候節は、勝手次第ニ致候抔と申、勿論右一件之場所、以来年貢米出致借地度段、去辰二月利藏を以被相頼候処、此節ニ至り、右様理不尽之儀申懸候、前顕之通彦左衛門・利藏能承知之事ニ御座候得は、逐一相違無御座候、右躰境目被疎込候ては、終ニ御高相続ニ相拘り、且又同所続き川越ニ被致候垣も屋敷相続之障りニ相成、右様成行候ては御上様ゑ奉掛御苦労候儀追々出来仕、歎敷奉存候ニ付、恐をも不顧奉願上候、恐多き御願ニは御座候得共、源左衛門何卒被為召出、御糺明之上、両様共先規元形之通相直、異変仕間敷旨被為　仰付被下置候様、只管奉願上候、乍恐右願之通被為　仰付被下置候ハヽ、万端平和ニ相治り永く御百姓相続仕、偏ニ御仁恵之程冥加至極難有仕合奉存候、以上

天保四年
巳五月

多藝郡押越村
願主　右　内
同村右同人伜
同新　俊　藏

大垣
御預御役所

一七〇　宇田村・飯田村・蛇持村境畔内済証文

○東京都　東京国立博物館所蔵

濃州多藝郡
蛇　持　村

宇多村枝郷杉本と、飯田村・蛇持村境畔高サ之儀ハ、先達て引合之通外之重置有之間敷候并五反田道之儀、低く相成候ハヽ、勿論引合之通宇田村より修覆有之筈之事

一境畔之儀、大雨溜水ニて損候節ハ、修覆申候儀引合之通、持堪候程ニハ、蛇持村より取繕有之筈ニ御座候、勿論増補之儀ハ無之筈之事

一蛇持村より四方囲ヒ苗場之儀、了覚寺南ニ壱ケ所、西面南北拾四間程、南北東西拾四間程、右折廻し都合廿八九間程并同所南ニて四方囲ヒ壱ケ所、但両表境畔通り南北卅五間程、右弐ケ所之分ハ、苗代時節ニ至り候ハヽ、蛇持村より重置水囲ヒ有之筈之事

一飯田村田之水、杉本田所へ落申間鋪事

右ハ年来之論所、先般内済いたし候之処、此度飯田村、蛇持村より境畔修覆有之候ニ付、杉本より考違、取扱人ゟ申談も無之、百崩及再論亦々我々取扱、右場所見分之上取繕、双方納得ニて如此、向後之儀相定申候、後々年双方違乱互ニ無之様可被成候、為後証如件

明和六年己丑七月　　吉田源四郎
　　岡嶋勘之右衛門

蛇持村
飯田村庄屋衆中

右取扱相伺、我等立会内済之上ハ、後日双方違論有之間敷者也

一七一　有尾村・有尾新田境新道取払願

〔続尾濃万覚書ニ〕

御国奉行御支配　田代七郎兵衛

○安八郡輪之内町　片野記念館所蔵

乍恐書付を以奉願上候御事

多藝郡有尾村と同新田との境、別紙絵図面之通、畑添御座候処、右新田より近年作場道と名付、村境ニ新道付、年々ニ上置等仕、当村畑面同様又は低畑より少々高キ所御座候程ニ仕、然ル所、去十月御普請役様御見分之節、右申上候通、近年村勝手ニ築立候新規之道、御入用場ニ紛し、建札等仕、御普請御願申上候ニ付、其節御役人様ゟ私共申上候は、右場所上置等築上候得は、大雨降続深溜り水之節は、有尾村居家敷迄水下ニ罷成亡所仕候間、此場所之儀は、御普請御免被成下候様奉願候ニ付、差障有之御普請は難被　仰付候間、相除可申との御儀被　仰聞難有奉存候処、去極月及下旬ニ、右場所ゟ多ク之人足差出、過分高ク築立候ニ付、新田庄屋唯右衛門ゟ及懸合候処、相止メ候儀は不罷成と申之、理不尽ニ築上候ニ付、無拠旧冬此段御訴申上候処、被　仰聞候は、口上ニては難相知、書付を以早春願出可申旨被仰付、難有奉存候、然ル処、御慈悲を以取啜被　仰

付、則大跡村庄屋八十八、飯木村庄屋金五郎、鷲之巣村庄屋喜平治右三人段々取啜致被呉候得共、内済不仕、依之、此度乍恐奉願上候、御慈悲之御勘弁を以、右築立候場所、早速被払候様被　仰付被下置候様奉願上候、当村之儀は、新田とハ違、御成箇格別之村方ニ御座候処、当村之新田ニ乍住、御成ヶ差障候儀を年々相工、新規之場所高ク築上候調少も無御座候儀、乍恐奉存候、新田心儘ニ築上させ候得は、御成箇差障り、村方亡所仕候ニ付、偏御慈悲之御勘弁を以、早速取払候様被　仰付被下置候ハヽ、難有奉存候、以上

多藝郡有尾村
庄屋
繁　助　印
年寄
伊　兵　衛　印
百姓代
半　十　郎　印

寛政元年酉十月

笠松
御役所

一七二　大墳村・嶋田村河原論裁許状幷請書

○養老町有

美濃國多藝郡大墳村と同国同郡嶋田村河原論裁許之事

大墳村訴趣、去ル申八月洪水にて堤数ヶ所切候砌、古高百石余之古田跡河原籠石幷村内橋本地ぇ集置、籠石嶋田村より取之、又は竹木理不尽に伐採迷惑之段訴之、嶋田村答趣、字御所之馬場中畑弐拾壱歩大墳村堤内ぇ入込、夫より当村高田町三昧所ぇ見通し村境にて、論所河原は川成荒地四百石余之内故、竹木籠石取来旨答之、右論所難決に付、御代官辻六郎左衛門・小野左太夫両手代遣之令地改処、橋本之地寛文之名寄牒・元禄之新開牒に橋本之字載之、高田町より令出作幷堤際竹改牒大垣役人印形有之上は大墳地内に無紛、雖然川成永荒畝引牒無之、古田跡之証拠に難取用幷堤内神明木陰畑大墳高外発畑之由雖申検地牒御所之馬場中畑弐拾壱歩之由、嶋田より作来年貢収納候上ハ大墳申所難立、高田町三昧所と差所大墳より筰之者三昧之由争之、双方不分明且神明木陰畑より三昧所、夫より五番猿尾まで見通し、高内川成跡之由嶋田雖申之、永荒畝引牒無之、寛永年中境目証文写にてヶ所附無之不足取用、大墳より正保二年嶋田・押越両村借地証文を以喰違堤鋪貸置旨雖申之、右敷地慶安二年令返地処本証文紛失不相返に付、返り証文取置由嶋田より争之に付、押越ぇ尋処、慶安二年より堤敷引ヶ方免定に載、寛文年中検地牒に喰違之字記有之令返地堤附替り候儀無紛、大墳より今更本証文差出条難立幷牧田河原竹木植出し令新開水行に障、剰押越土取場妨に付、享保五年多良笠松より見分之上証文出置同七年又候障に付牓示杭打之証文渡置処、地内之証拠に申紛段旁大墳不埒にて不相立、論所は全牧田川通り河原に紛無之、今般評議之上、境之事大墳村より南は高田町景陽寺ぇ見通

し、元禄之裁許絵図往還道朱引を用ひ、嶋田村有来畑に随い村境に相定、東ハ神明前堤外有来畑境より三昧所ぇ見通し、大墳村畑を限り、夫より享保年中之牓示杭を境に相定条、嶋田・押越・大墳三ヶ村堤普請之節斗入会土石砂可取之、自今猥新開植出堅禁之、且大墳村堤内神明木陰畑弐拾壱歩元禄之絵図に嶋田之色分ヶ雖無之、高田町八十郎作り来、年貢嶋田ぇ納之上ハ、御所之馬場飛地之積り相定、且三昧処ハ大墳作り畑内たる上ハ、向後嶋田より不可入会并橋本之地所において嶋田より猥に竹木伐採条不届之至也、依之過料弐拾文申付之裁許畢、仍絵図面令墨引各加印形双方ぇ下授条、可為後鑑者也

寛保三亥年
閏四月二十一日

（萩原美雅）伯耆　印
（木下信名）御用方無加印　伊賀
（水野忠伸）御用方無加印　對馬
（神尾春英）御用方無加印　若狭
（神谷久敬）志摩　印
（嶋　祥正）長門　印
（石河政朝）土佐　印
（山名豐就）因幡　印
（大岡忠相）越前　印
（本多正珍）紀伊　印
（堀田正亮）相模　印

右之通、大墳村・嶋田村立会、御裁許絵図御墨引筋境目牓示杭御建被成候上ハ、以来申分無御座候、依之御絵図面ニ双方より継目印御取、両村ぇ壱枚宛御渡被成、先達て御評定所より被下置候御墨引絵図ニ相添、所持可仕旨被仰渡奉畏候、以上

寛保三年亥六月

濃州多藝郡大墳村
庄屋　伴　藏　印
年寄　長兵衛　印
百姓代　常三郎　印
同国同郡嶋田村
庄屋　仙九郎　印
同断　新助　印
同断　市右衛門　印
同断　重右衛門　印
同断　孫九郎　印
年寄　覺右衛門　印
同断　七太夫　印

五戸口

一七三　烏江村吉利支丹改一件留

○烏江　吹原第三氏所蔵

指上ヶ申一札之事

一吉利支丹宗門重て御改被成候、当村之内、男女共ニ不審成宗門之者、老人も無御座候御事

一先年当村より罷出、他国・他郷ニ久々罷有、只今当村へ罷帰申度と申者御座候は、宗門堅致穿鑿、不審成宗門之者、親子兄弟たりといふ共、片時もよせおき申間敷候御事

一不知旅人并いしや・牢人・坊主・山ぶし・しよく人・非人何ものニても、其村へ罷越逗留仕度と申候共、一夜も留置申、宿仕間敷候、付　其村脇々小百姓等、月々組々ニ致穿鑿、右之不知もの片時も置申間敷候御事

一当村之内ニ、不審成宗門之もの出来申候は、其人番を付置、早々御注進可申上候御事

一当村之内ニ新銭(鋳)い申もの壱人も(無脱)御座候、弥自今以後、当村之者ハ不及申、他所より罷越しよく人たりといふ共、当村之内ニて、新銭一円ニいさせ申間敷候事

一右五ヶ条之趣、庄屋・組頭ハ不及申ニ、脇々小百性・非人迄も相背申間敷候、若違背申もの御座候は、何様之曲事ニも可被仰付候、為後日、庄屋・組頭連判仕、指上ヶ申所如件

寛永弐拾年未ノ二月廿七日　　勘兵衛
　　彌右衛門
　　作　蔵
　　仁兵衛

松原彌市右衛門尉様

吉利支丹御改帳跡

一仁兵衛　年廿八　男子助九郎　午ノ二月廿七日ニ生申候　年二　仁兵衛
　女房　年廿壱　下人勘四郎　年廿七　不入
　　下女やす　年十七　不入
　　下女安　年廿壱　不入

　〆六人　本願寺宗旦那寺善正寺

一徳左衛門　年五十七　不入　徳左衛門
　女房　年五十壱

　〆弐人　本願寺宗旦那寺善正寺

一九郎助　年三十弐　母　年五十壱　九郎助
　女房　年廿四　弟七郎　年十九
　　女子　年五つ

〃五人　本願寺宗旦那寺善正寺
一茂兵衛　年三十壱　下女はる　年十七　茂兵衛
女房　年十九
〃三人　本願寺宗旦那寺善正寺
一喜作　年四十六　喜作
女房　年三拾八
〃弐人　本願寺宗旦那寺善正寺
一三九郎　年廿九　男子市兵衛　年五つ　三九郎
女房　年廿壱
〃三人　本願寺宗旦那寺善正寺
一後家　年六十六　彦平ニ入　彦平母
〃壱人　本願寺宗旦那寺善正寺
傳助　年六十壱　女子ひめ　年八つ　傳助
一女房　年五十二
〃三人　本願寺宗旦那寺善正寺
吉兵衛　年五十三　男子十三郎　年廿　近江より午ノ三月罷帰申候　但養子ニ遣し申候　吉兵衛
一女房　年三十六　同角藏　年十七
同徳助　年十三
女子すき　年九つ
〃六人　本願寺宗旦那寺善正寺
彦平　年四十一　母　年六十六　彦平
一女房　年廿九　妹たま　年廿六

〃四人　本願寺宗旦那寺善正寺
〃三人
孫作　年五十弐　男子仁助　年廿三　孫作
一女房　年四十七　同三藏　年十九
女子くに　年十六
同いま　年十四
同すへ　年八つ
〃七人　本願寺宗旦那寺善正寺
善九郎　年廿八　善九郎
一女房　年廿三
〃弐人　本願寺宗旦那寺善正寺
彌右衛門　年四十　男子山三郎　年七　彌右衛門
一女房　年三拾三　下人仁藏　年十九
〃四人　本願寺宗旦那寺善正寺
久六　年三十六　男子長四郎　年七　久六
一女房　年三十壱　女子さふ　年五つ
〃四人　本願寺宗旦那寺善正寺
市藏　年四十九　市藏
一女房　年四十
〃弐人　同断
作助　年四十　下女ちやう　年四十九　作助
一　此女出シ申ニ付壱人ニ成
〃壱人
〃弐人　同断　外ニはな　年十四

一彦作　年三十六　妹きく　年三十三　彦作
女房　年三十九　女子まん　年五つ
〆四人　同断
一三十郎　年六十二　勘兵衛下人　三十郎
女房　年五十六
〆弐人　同断
一小三郎　年四十七　勘兵衛下人　小三郎
女房　年三十八
〆弐人　同断
一九助　年三十五　男子きく千代　年七つ　九助
女房　年廿七
〆三人　同断
一五助　年三十八　男子大郎　年九つ　五助
女房　年廿五
〆三人　同断　勘兵衛ニ奉公ニ付勘兵衛内へ入
一左吉　年三十二　女子たつ　年九つ　左吉
女房　年三十三　男子
〆三人　同断
一喜蔵　年四十二　男子きりん　年十二　喜蔵
女房　年三十七
〆三人　同断

一小助　年四十七　男子すため　年十一　小助
女房　年四十四
〆三人　同断　勘兵衛下人
一又二郎　年廿九　又二郎
女房　年廿七
〆弐人　同断　同寺
一市助　年四十九　男子わり　年十　市助
安房　年五十　女子きく　年十二
〆四人　同断　同寺
一二郎左衛門　年五十七　男子大蔵　年九つ　二郎左衛門
女房　年四十五　女子はな　年十二
女子まん　年十七
〆五人　同断　同寺
一伊兵衛　年三十九　男子平十郎　年七　勘兵衛下人　伊兵衛
女房　年三十二
〆三人　同断　同寺
一孫兵衛　年五十三　男子小市　年十二　孫兵衛
女房　年四十八　女子ミや　年十四
〆四人　同断　同寺
一作蔵　年五十三　男子久治　年廿二　作蔵
女房　年四十五　男子き兵衛　年十四
男子元蔵　年十一

男子又　平　年四つ
女子きく　年十七
女子ひめ　年六つ
〃八人　同断　同寺
一二郎左衛門年四十五　母　八十九　二郎左衛門
男子九郎左衛門年十九
女子かう　年十四
〃四人　同断　同寺
一庄八　年四十七　女子たね　年四つ　庄八
女房　年三十九
〃三人　同断　同寺
一忠藏　年四十九　男子さん　年八つ　忠藏
女房　年三十一　女子まん　年四つ
〃四人　同断　同寺
一彦十郎　年三十　母　年六十八　彦十郎
女房　年廿二　男子　年四つ
〃四人　同断　同寺
一勘十郎　年五十　女子はな　年十一　勘十郎
女房　年三十二
〃三人　同断　同寺
一庄二郎　年五十二　女子きさ　年十二　庄二郎
女房　年四十二　養子與六　年廿一
〃四人　同断　同寺

彌平次　年四十九　男子庄五郎　年十二　彌平次
一女房　年四十七　女子つる　年九つ
弟　小兵衛　年四十二
〃五人　同断　同寺
一後家　年六十孫助ニ入　同寺　たつ母
〃壱人　同断　同寺
一久右衛門　年六十二　男子與三太　年廿　久右衛門
女房　年五十五　女子とら　年廿三
女子まき　年十四
〃五人　同断　同寺
一與一郎　年四十四　男子市藏　年六つ　與一郎
女房　年四拾　女子ふし　年十八
〃四人　同断　同寺
一孫助　年六十　弟與助　年卅九　孫助
女房　年四十一　男子太郎兵衛年十二
女子まん　年九つ
妹　たつ母　年六十
六人　同断　同寺
〃五人
一九藏　年四十五　母　年七十二　九藏
女房　年三十九　男子市　六　年拾ヲ
〃四人　同断　同寺
一九郎右衛門年六十七　男子惣吉　年廿九　九郎右衛門
女房　年五十九　男子五郎兵衛年十七

女子おこ　年廿一

〆五人　同断

善正寺　年四十　母　年五十六不入善正寺

一女房　年四十　女子きく　年十五　同寺

女子あき　年十二

女子つや　年九つ

女子はて　年六つ

女子びん　年五つ

女子すて　年弐つ

下人才蔵　年三十七

下女かめ　年廿二

下女ふゆ　年十六

〆拾弐人　同断

十兵衛　年四十二　女子めう　年四つ　十兵衛

一女房　年四十四

〆三人　同断　同寺

外　五郎作母　年五十五入

勘兵衛　年三十一　男子太郎助　年三つ　勘兵衛

一女房　年廿二　女子上郎　年六つ

弟　藤右衛門　年廿六

弟　九郎兵衛　年廿四

母　年五十三

妹とい　年十三

下人久蔵　年卅二

下人長兵衛　年卅三

下人勘七郎　年廿六

下人市蔵　年廿一

下人仁蔵　年廿二

下人午ノ助　年十五

下人彦七　年四十五

下人助　年拾五

下人三四郎　年十三

下人喜作　年四十六

下女まゝ　年廿六

下女まつ　年廿六

下女かめ　年卅弐

下女ちよ　年廿七

下女まん　年廿六

下女いと　年廿四

下女くゝ　年十五

〆弐拾五人　同断　同寺

人数合百九拾四人　内九拾五人　男

九拾九人　女

右、代々拙僧旦那ニて御座候、若右之人数之内ニ、吉利支丹宗門之もの御座候との訴人御座候は、其人は不申及、拙僧旦那坊

主共ニ、何様之曲事ニも可被仰付候、為後日之、男女大小共ニ
壱人も不残書付、加判仕、指上ヶ申所如件

寛永弐拾年未二月廿六日　　濃州多藝郡烏江村
本願寺宗善正寺

松原彌市右衛門殿

右是ハ、吉利支丹宗門重て御改被成候、当村之内ニ、男女共ニ
御制禁宗門之者壱人も無御座候、為其、男女大小共ニ、壱人も
不残書付、旦那坊主加判仕上ヶ申候、重て不審成もの出来申候
は、其人ニ番を付置、早々御注進可申上候、若当村之内ニ、き
りしたん宗門之もの隠置申もの訴人御座候は、其人ハ不及申、
庄屋・組頭共ニ、何様之曲事ニも可被仰付候、為後日、庄屋・
組頭連判仕指上申候

寛永弐拾年未ノ二月廿六日　　烏江村庄や　勘兵衛
同　彌右衛門
組頭　仁兵衛
同　作蔵

松原彌市右衛門尉殿

一吉利支丹宗門重て御改被成候、当村男女共ニ壱人も無御座
候、若不審成もの御座候は、早々可申上候、為其手形指上ヶ
申候

寛永弐拾年未二月十八日

服部小十郎様代
伊藤喜兵衛殿
酒井久左衛門様御代
伊藤傳右衛門殿

来
出人之覚

一仁兵衛子助九郎、午ノ年生申候
一吉兵衛子十三郎、年廿、近江ニ養子ニ遣し候所、午三月罷帰
申候
一彦作妹きく、年三拾三、はんの木村ニ縁付ニ参申候所、男相
はて未ノ二月罷帰申候
一忠蔵女房、年三拾壱、午ノ四月高田町よひ申候
一九蔵女房、年三拾九、午ノ七月橋爪村よりよひ申候
一庄二郎子與六、年廿一、近江より未ノ正月養子ニ仕候
〆六人

失人之覚

一彌右衛門妹、年廿八、午ノ霜月相はて申候
一同人母、年五拾弐、午ノ三月相はて申候
一九右衛門、年四拾六、同女房、年三拾九、〆弐人、未ノ二月
と午ノ十二月ニ相はて申候
〆四人

奉公人之覚

一與助、年三拾九、巳ノ年暮より御蔵入飯積村八右衛門所ニ作

り奉公

一孫助むすめふし、年拾九、午ノ暮より烏江村徳左衛門所ニ新きニ奉公

一彌平次弟小兵衛、年四拾弐、おさ村勘左衛門所ニ巳より奉公

一喜作、年四拾六、巳ノ春より高田町忠三郎ニ奉公

一市助むすめきく、年拾弐、未ノ春より江月市兵衛所ニ奉公

一九郎助弟七郎、年拾九、未春より高田町二郎左衛門所ニ奉公

一市藏、年四拾九、未ノ春より馬淵作藏所ニ口のせ奉公

一同人女房、年四十、未ノはるより高田へ口すぎニ参候

一九郎右衛門むすめ、年廿壱、未ノ春より高田町久兵衛所ニ奉公

一九助、年卅五、未ノ春より新きニ江月村忠三郎所ニ奉公

一久右衛門子與三太、年拾八、かなや村六郎右衛門所ニ午ノ暮より奉公

一五助、年三拾八、午ノ暮より勘兵衛所ニ奉公

一久六弟七藏、年廿三、巳ノ暮より高須忠二郎所ニ養子ながら奉公

奉公人〆拾三人

外ニ、二日三日つゝ、口すきニ方々ありき候て、暮申もの四人有之、奉公ニハかゝゑて無御座候、爾今有付無御座候、以上

寛永弐拾年未ノ二月廿六日

外ニ

一九助女房　年弐拾七

一喜作女房　年三拾七

一十兵衛女房　年四拾四

一彦作　年三拾六

一三十郎女房　年五拾弐

〆九人

一五助女房　年弐拾五

一十兵衛　年四拾弐

一九藏　年四拾五

一三十郎　年六十二

右是ハ、毎日方々こつしきニ罷出、五日三日過候て罷帰申候

未ノ二月廿六日迄之分

正保四年
亥ノ奉公人帳

奉公人帳

一高弐石五斗七升　人数五人　女房　年四十二　十兵衛　七つ〻ノ男子　九つ〻ノ女子　三つ〻ノ女子

此もの、御年貢米壱石弐斗明申候、作り奉公ニ出申度由申候

一高五石五斗八升七合七勺人数五人　女房　年六十二　孫助　十一ノ男子　八つ〻ノ女子　廿一ノ女子

此もの、御年貢米壱石八斗余明申候間、廿一ニ罷成申候むすめ、奉公為仕度由申候

一高七石四斗九升七合三勺人数七人　女房　年五十二　勘十郎　九つ〻ノ男子　八つ〻ノ男子　六つ〻ノ女子　四つ〻ノ女子　二つ〻ノ女子

此もの、御年貢米弐石八斗余明申候、奉公仕度由申候、目

悪敷奉公も難成見へ申候

一高四斗九升五合三勺　人数四人　女房　年四十二　十一ノ男子　九つノ女子　久　六

此もの、御年貢米・下作年貢米共ニ弐石余明申候、作り奉公仕度由申候

一高壱石九斗三升九合六勺人数四人　女房　年四十八　廿二ノ女子　十一ノ男子　小　助

此もの、御年貢米壱石余明申候、作り奉公仕度由申候、廿二之女子も奉公為仕度と申候、親子共ニ奉公仕度由申候

一高三石七斗六升五勺　人数四人　女房　年五十一　十一ノ男子　十八ノ女子　市　介

此もの、御年貢米八斗余申候、十八ノ女子奉公為仕度由申候

一高弐石四斗七合八勺　人数四人　女房　年四十五　九つノ男子　三つノ男子　喜　作

此もの、御年貢米壱石余明申候、作り奉公成共仕度由申候

一高なし　人数三人　女房　年五十　一ノ女子　小　三　郎

此もの、請作り仕、御年貢米弐石余明申候、作り奉公仕度由申候

一高なし　人数弐人　女房　年三十一　七　藏

此もの、作り奉公仕度由申候

以　上

正保四

亥ノ極月二日

村庄や　からすへ　彌右衛門

組頭　助右衛門

同　仁兵衛

同　勘兵衛

一高七石八斗三升六合六勺人数四人　女房　年五十八　十三ノ男子　十一ノ女子　孫兵衛

御年貢壱石四斗明申候

〔寛永弐拾年未ノ年烏江村万御改并御法度跡帳〕

一七四　烏江村被官百姓宗門改尋答書

○烏江　吹原第三氏所蔵

下　書

多紀郡　烏江村

吹原勘兵衛被官　祐八

一　右家内男女〆七人

一　右家内男女〆四人　林藏

一　右家内男　〆弐人　仙助

一　右家内男女〆三人　増吉

一　右家内男女〆五人　多助

一　右家内男女〆九人　　菊藏
一　右家内男女〆八人　　菊八
一　右家内男女〆五人　　伊八
一　右家内男女〆九人　　半右衛門
一　右家内男女〆五人　　關八
一　右家内男女〆七人　　喜作
一　右家内男女〆弐人　　忠八
一　右家内男女〆九人　　辰右衛門
一　右家内男女〆三人　　善藏
一　右家内男　〆弐人　　小八
一　右家内男女〆三人　　文藏

一　右家内男　〆弐人　　政吉
一　右家内男　〆壱人　　辰之助
一　右家内　女〆壱人　　み助
　右家数拾九軒
　〆　男女〆九十八人
但、宗門御改帳ニハ肩書不仕、平百姓と同様ニ御改ニ相成居申候、尤、被官百姓之内、絶家仕候ものも御座候処、追て親類等より右跡相続いたし候得ハ、被官百姓ニ書加へ申度奉存候、此段予奉申上置候
右吹原勘兵衛より年々差出候宗門自分一札ニ、被官屋敷ニ罷在候家来迄、宗門相改候段相認候得共、宗門御改之儀、村方と一緒ニ御改ニ相成居申候、尤居屋敷地之儀、吹原勘兵衛扣地ニ罷在、御年貢之儀同人より相勤申候、其上、節々手当等仕候義ニ御座候
　作兵衛
　彈藏
　又五郎
　助三郎
　松右衛門

助次郎

右は吹原勘兵衛分家之者ニ御座候処、宝暦年中より寛政年中迄ニ、絶家相成候者も有之、文化年中絶家仕候者も御座候間、右所縁之もの他所ニ居候義も御座候、右之者之被官百姓も御座候処、当時頭無之ニ付、訳て不奉書上候

右御尋ニ付奉書上候、以上

寅二月　　右村庄屋　佐藤宇内

小池清右衛門様
御陣屋

乍恐御達申上候御事

一栗笠村・烏江村被官百姓宗門御改方之儀ニ付、鵜多須御陣屋より御尋御座候ニ付、別紙之通書上申候、依之御達奉申上候、已上

寅二月　　栗笠村・烏江村庄屋　佐藤宇内

御代官
御役所

御断申上候覚

一烏江村被官百姓宗門御改方之儀ニ付、鵜多須御陣屋より御尋御座候ニ付、別紙之通書上申候、依之御断申上候、已上

文政十三年寅二月　　烏江村庄屋　佐藤宇内

市野貞四郎殿
味田村甚左衛門殿

御下役中

一七五　根古地新田吉利支丹宗門改帳

〇東京都　国立史料館所蔵

（表紙欠）

伴天連・いるまん吉利支丹宗旨御法度ニ付、宗旨
御穿鑿并五人組御改之事

一度々手形指上ケ申処ニ、此度別て伴天れん・いるまん吉利支丹宗旨之義、御穿鑿就被仰付、従御公儀之御条目之趣、畏入奉存候、五人組ハ不及申、其外ニも一切無御座候、此度被仰付御条目之通、弥精を入、見出し、聞出シ申ニ付てハ、急度注進可申上御事

一御法度之宗旨之者隠置候ハ、五人組ハ不及申ニ、当村之者何様ニも可被仰付御事

一兼て御法度之ことく、前後不案之牢人・同商人等、修行者之類ニ至迄、一切当村ニ置申間敷候、たとへ不苦親類縁類たりといふとも、当村ニ置申ニ付てハ、其子細具に御奉行衆迄申上ケ、御指図次第ニ可仕候御事

右之件天れん・いるまん吉利支丹宗旨御法度ニ付て、年来之宗旨具ニ其名をしるし、永々為証拠ニ、面々宗門其寺住寺証文ニしるし指上ヶ申候、其外御法度之趣聊相違仕間敷候、為後日仍如件

本願寺根古地村称名寺
孫太夫
同　女房
同　久三郎男子
同　久太郎男子
同六歳　か
同三歳　う女子
又三郎男子

本願寺今尾村知道寺
市右衛門
同　女房　巳正月死申候
同九歳　市之助男子
同五歳　九十郎男子
同　左平下人
同　太郎下人
同　こや下女

浄土宗高須圓心寺
傳兵衛

本願寺宗見る村福善寺
女房

本願寺
清吉下人
同　長平下人
同　まき下女
同　ちやう下女
同　權助下人

本願寺宗根古地村明圓寺
佐右衛門
同　女房
同　文三郎男子
同　よめ
同　ひん女子
同　七兵衛　男子　つやより養子仕候

本願寺
忠助下人
同　女房下女

浄土宗高須圓心寺
虎之助　男子
熊之助　同　卯ノ年死申候

傳兵衛家来

本願寺根古地明圓寺
善右衛門　卯ノ住年の村より入百姓ニ参候
同　女房
同　ひさ女子
同　忠藏男子
同　まつ女子

本願寺宗西運寺
里兵衛
同　女房
同　きやう女子
同　市郎男子
同　市左衛門男子

本願寺宗根古地明圓寺
徳左衛門　五人組
同　女房
同　門三郎男子
同　お上ろ女子
同　宮藏男子
同五歳　三次郎男子
同　新助下人

本願寺宗大場村西運寺
八郎兵衛
同　女房
同　八左　卯ノ年無池より養子仕候
同　虎之助男子
同　こほ女子
同　小ちよ下女

本願寺宗根古地明圓寺
市兵衛
同　女房　辰ノ年死申候

本願寺宗根古寺明圓寺
仁兵衛
同　女房

同　母　親　同　八兵衛弟
同　權十郎下人　同　つう娘
同　ミや下女　同　庄吉下人

本願寺根古地明圓寺　助三郎　浄土宗高須圓心寺　本左衛門
同　女房　本願寺　女房
同　忠太夫男子十四歳　本願寺　與兵衛下人
同五歳　しも女子　同　くに下女

五人組

浄土宗高須圓心寺　三郎左衛門　卯ノ年死申候　八助下人
同　長右衛門男子　長次郎下人
同　女房　辨之助下人
同　母親　ふじ下女
同　八三郎男子　辰ノ年山かたへ養子ニ参候　はな下女
同五歳　さじ女子　かめ下女

長右衛門家来

浄土宗高須圓心寺　長八　寅ノ年死申候　本願寺明圓寺　市左衛門　根古地村次右衛門方ニ奉公仕候
法花宗今尾村常閑寺　女房　同　母親

長右衛門家来

浄土宗高須圓心寺　長七　男子
同　よめ
本願寺宗明圓寺　長吉　男子

長右衛門家来

本願寺根古地明圓寺　兵九郎
同　女房
同五歳　長八　男子

同家来

本願寺脇野村覺圓寺　左五右衛門
同　女房
同七歳　いち　男子

長右衛門家来

本願寺　茂太夫　巳ノ正月死申候
本願寺宗明圓寺　茂右衛門　男子
本願寺宗明圓寺　女房
四歳　はる

長右衛門家来

本願寺宗明圓寺　庄一郎　寅ノ年大嵐より入百姓参候
同　女房
本願寺宗明圓寺　しま　女子
同　と　く　女子　所三郎右衛門方ニ奉公仕候

長右衛門家来

本願寺宗今尾村西願寺　助右衛門

長右衛門家来

本願寺宗大場村西運寺　清三郎

同　はな　所長右衛門方ニ奉公仕候
同　くり　根古地村孫左衛門方ニ奉公仕候

長右衛門家来

本願寺宗明圓寺　勘七　辰ノ年死申候
同　女房
同　左平次男子
同　女房
同五歳　いわ　男子

同　女房
同　忠二郎　男子
同　女房
同三歳　四郎兵衛　男子

長右衛門家来
本願寺宗脇野村覚圓寺
半三郎
同　女房
同十歳　まん　女子
同四歳　はち　男子

同　女房
同　庄五郎　子
同　女房
同四歳　ひん　女子
同　くに　娘

長右衛門家来
本願寺根古地村明圓寺
次郎右衛門
同　女房
同　九兵衛　男子
同　女房
同四歳　市　男子

長右衛門家来
本願寺根古地村明圓寺
七郎兵衛
本願寺根古地村明圓寺
女房
母　親
九兵衛　男子

同家来
本願寺宗覚圓寺
庄吉　寅ノ年今尾より入百姓ニ参候

長右衛門家来
本願寺宗明圓寺
又吉
本願寺宗明圓寺
女房
同　虎蔵　男子
同三歳　あま　女子

浄土宗高須圓心寺
又左衛門
同　女房
太郎　男子

同　女房
同　十右衛門　男子
同　まき　女子
同　新三郎　男子
同　十三郎　男子
同　すき　女子
本願寺　兵蔵　下人
本願寺　十助　下人
同　女房　下人
同　なつ　下人

又左衛門家来
本願寺根古地明圓寺
市左衛門
同　よめいもと
所長右衛門方ニ奉公仕候

又左衛門家来
本願寺根古地明圓寺
甚六
同　女房
同　甚四郎　男子
同　六兵衛　男子
同　ふり　女子
同　まつ　女子

又左衛門家来
本願寺根古地村明圓寺
庄三郎
同　女房
同　ます　女子
同十歳　與市　男子
同五歳　くす　女子

浄土宗高須圓心寺
三郎右衛門
同　女房
同　三之助男子
本願寺
八　藏下人
同　とく下女

本願寺宗根古地村明圓寺
七右衛門
同　女房
同　加平男子
同　女房
同　八兵衛男子
同　九郎男子

五人組

なこや久左衛門手代
本願寺宗根古地村明圓寺
與右衛門
同　女房
同　ひめ女子
同　佐之助男子
同　長吉

本願寺宗根古地村明圓寺
六藏
同　女房
同十四歳　と
同十歳　山三郎男子
ら女子

本願寺宗根古地明圓寺
七左衛門
同　女房
同五歳　七之助男子

久左衛門家来
本願寺宗根古地明圓寺
長八
同　女房
同　甚九郎男子
同　いわ松男子

久左衛門家来
本願寺宗根古地明圓寺
長兵衛
同　女房
同　ます
大跡へ縁ニ付申候
本願寺宗根古地明圓寺
かや女子
八兵衛男子
長十郎男子
女房

久左衛門家来
本願寺宗根古地明圓寺
長兵衛
同　女房
同　ま
同　す
大跡へ縁ニ付申候
本願寺宗根古地明圓寺
かや女子
八兵衛男子
長十郎男子
女房

本願寺脇野村靍圓寺
武兵衛
同　女房
同十一歳　市太夫男子
同八歳　佐太郎男子
同六歳　又三郎男子

本願寺宗知道寺
平兵衛
同　女房
同　金藏
本阿彌又四郎殿ニ奉公仕候
同　山三郎
今尾ニ養子置用候が取かへし申候

久左衛門家来
本願寺明圓寺
九郎八
辰ノ年死申候
同　女房
同十四歳　ひこ男子

久左衛門家来
本願寺明圓寺
作十郎
脇野村より寅年入百姓ニ参候
同　女房
同二歳　半兵衛男子

本願寺宗今尾村西願寺
彦十郎
法花宗今尾村常閑寺
ミや下女
本願寺
き　く下女
同　彌五助下人

同　六　助　下人
同　た　け　下女

本願寺宗みる村福善寺
九郎右衛門
法花宗今尾常閑寺
女　房

本願寺　か　ね　所へ縁ニ付申候
本願寺　ち　や　う　太子
同八歳　八　九　郎　男子

浄土宗高須圓心寺
勘　次　下人
本願寺　三　四　郎　下人
同　加　平　下人
虎　藏　下人
た　け　下女
か　や　下女
す　き　下女

九郎右衛門家来
本願寺宗明圓寺
久　藏
同　太　房
同　と　く　太子
同十一歳　仁　兵　衛　男子
同四歳　與　太　男子

九郎右衛門家来
本願寺宗根古地村明圓寺
作　藏
同　女　房
同　辨　ノ　助　男子

同家来
本願寺宗根古地称名寺
太右衛門
同　女　房
同　い　わ　女子

法花宗今尾村常閑寺
善兵衛
同　女　房
同十五歳　八　十　郎　男子
同八歳　九　十　郎　男子
本願寺　三　吉　下人
同　女　房　下女

藤兵衛家来
門　三　郎

卯ノ年身上成不申、御代官八左衛門殿へ断申、見る村之者ニて御座候故、さいしともニ帰り申候

角兵衛家来
三　平

辰ノ年角兵衛田地御座候故、大牧新田へさいし共ニ引越申候

称名寺家来
權　四　郎

寅ノ年身上成不申候故、在所ハ野寺村へ罷帰り申候

男女人数合　弐百六拾弐人
古郷へ帰り人　内　三　人
同　九　人
死　人
縁ニ付　同　壱　人
養子ニ参候　同　壱　人

九郎右衛門家来
本願寺宗明圓寺
吉右衛門
同　女　房
同　母　親　寅ノ年死申候

本願寺宗明圓寺
三九郎
同　女　房
同　仁　藏　下人

残テ　弐百四拾八人　男子　百三拾六人
　　女子　百拾弐人
　内　拾八人　生　人
　同　七　人　奉公人

家数合四拾九間

　内　弐拾七間　家　来

表書御法度趣相意得申候、我等宗門面々書付之通、聊相違無御座候、若偽り申ニおゐてハ、愚僧も同前、何様ニも可被仰付候、但伴天れん・いるまん・吉利支丹之宗旨有之ハヽ、急度注進可申候、為後日仍而証文如件

寛文五年
巳ノ正月廿一日

常葉武左衛門殿
關彦兵衛殿

浄土宗高須　圓心寺
法花宗今尾村　常閑寺
本願寺宗今尾村　西願寺
本願寺宗みる村　福善寺
本願寺宗今尾村　知道寺
本願寺宗脇野村　覺圓寺
本願寺宗大場村　西運寺
本願寺宗根古地村　稱名寺
本願寺宗同所　明圓寺

又左衛門
孫太夫
傳兵衛
市右衛門
佐右衛門

三郎右衛門
長右衛門
七右衛門
六　藏
七左衛門

徳左衛門
八郎兵衛
助三郎
市兵衛
杢左衛門

與右衛門
善兵衛
彦十郎
武兵衛
九郎右衛門

五人組之事

一右五人組仕候上ハ、御法度之宗旨ハ不及申、其外何様之徒者御座候共、早々可申上候、勿論御帳面之人数、男女ニよらす一切他所へ出し申間敷候、わきより訴人御座候はゝ、其もの之義ハ不及申、五人組共ニ何様ニも曲事ニ可被仰付候、若此内壱人ニても欠落仕候はゝ、五人組として尋出し、急度指上ケ可申候、為後日仍如件

寛文五年
巳ノ正月廿一日

庄や　九郎右衛門
同　武兵衛

關彦兵衛殿
常葉武左衛門殿

五人組之事

一七六　横屋・有尾新田宗門改帳

○安八郡輪之内町　片野記念館所蔵

（表紙）「　貞享四年卯　有尾新田庄屋　清右衛門

横屋有尾新田宗旨御改之帳　同断　八兵衛

御奉行　根岸傳内殿　横屋村　勘左衛門

御奉行　鈴木新八殿

御横目　武井伊兵衛殿　同村　甚右衛門

御代官　中島三郎右衛門殿

伊藤清太夫殿　」

伴天連・いるまん・切死丹宗旨并不受不施宗門御法度ニ付、御穿鑿次ニ五人組御改之事

一度々手形差上ケ申処ニ、今度別て伴天連・いるまん・切死丹不受不施宗旨、御穿鑿就被仰付候ニ、従御公儀御条目之趣畏入奉存候、五人組ハ不及申ニ、其外ニも一切無御坐候、今度被仰付候御条目之通、愈情ニ入、見出し聞出シ申ニ付てハ、急度御注進可申上候御事

一御法度之宗旨之者隠置候ハヽ、五人組は不及申ニ、当村之者何様ニも可被仰付候御事

一兼て如御法度、前後不案之牢人・同商人等修行者之類ニ至迄、一切当村ニ置申間敷候、縦不苦親類縁類たりと言共、当村ニ置申ニ付てハ、其子細具ニ申上御指図次第ニ可仕候御事

右伴天連・いるまん・切死丹不受不施之宗旨御法度ニ付、年来之宗具ニ其名を□、永々為証拠、面々宗門其寺之住寺証文□指上申候、其外御法度之趣相違仕間敷候、為後日仍而如件

五　人　組

本願寺宗有尾村明樂寺旦那　一太　兵衛

女房

男子　善六　寅年横屋村より

女房

男子　安　年老ッ

男子　又七

男子　平八

女子　かめ

本願寺宗有尾村明樂寺旦那　一忠　兵衛

母

女子　まき

男子　文左

年拾三　女子　めう

本願寺宗有尾村明樂寺旦那　一伊　兵衛

女房
男子五助　寅年下笠村より参申候
女房
男子伊八　上ノ郷村へ縁付参申候
女子まん
下女なつ

本願寺宗有尾村明楽寺旦那
一八　兵衛
母
女房
年拾三　男子八三郎
年五ッ　女子あま
年弐ッ　男子虎之助
下人仁太郎
下女すき
年十　下女つま

本願寺宗有尾村明楽寺旦那
一彌　八郎　寅年横屋村より参申候
女房
父明園
母
男子源八
下人文助
下女なつ
下女かめ
年拾四　下女ひん

五人組

本願寺宗有尾村明楽寺旦那
一彌　次兵衛
女房
男子彦九郎
男子又次郎
女子きよ
年九ッ　男子權太郎

本願寺宗下笠村浄誓寺旦那
一甚　右衛門
男子次太夫
男子定八
女子志よう
女子らん
下人六助
下人五助
下女いわ
下女たけ

本願寺宗有尾村明樂寺旦那
一小三郎
女房
母

本願寺宗下笠村浄誓寺旦那
一清右衛門
女房
年五ッ　男子久之丞
年壱ッ　男子宅兵衛
男子小市
下人文六
下女かや
下女なつ
下女さい
下人權七
女房
女子そよ
女子くり
女子あま

本願寺宗有尾村明樂寺旦那
一勘右衛門
女房
年三ッ　男子彦太郎

年弐ッ　女子あま

五人組

本願寺宗有尾村明樂寺旦那
一重右衛門
女房
丑年御改後相果申候母
男子孫八
男子源七
男子勘七
女子まつ
年十五　女子すき
年拾三　女子はる
年八ッ　男子十平

本願寺宗有尾村明樂寺旦那
一吉郎右衛門
女房
男子孫四郎
年拾三　男子彦四郎
年弐ッ　男子三之助

本願寺宗有尾村明樂寺旦那
一角兵衛
卯五月相果申候
女房
男子彦八

下女　たけ
本願寺宗有尾村明樂寺旦那
一善　七　郎
女　房
年壱ッ　男子　□四郎
本願寺宗有尾村明樂寺旦那
一喜　太　郎
女　房
年九ッ　男子　彌市
年五ッ　男子　三郎平
年弐ッ　女子　かな
下女　なつ

五人組

本願寺宗有尾村明樂寺旦那
一又　四　郎
母
女　房
年拾四　男子　左市
年拾壱　男子　又八
年八ッ　女子　ちく
年壱ッ　男子　與一
下人　仁助

下女　きく
下人　藤八
女　房
女子　よめ
女子　あま
本願寺宗有尾村明樂寺旦那
一平　七　郎
母
寅年より下笠より参申候　女　房
つや村へ縁付申候　女子　すま
男子　三五郎
本願寺宗有尾村明樂寺旦那
一半　七　郎
母
男子　清七
女子　やな
男子　龜太郎
本願寺宗有尾村明樂寺旦那
一忠　三　郎
女　房
女子　すゑ
女子　志よう

年拾四　男子　松　平
年拾壱　男子　たつ平
年九ツ　男子　權九郎
年弐ツ　女子　志　ち

本願寺宗有尾村明樂寺旦那
有尾村より越申候　一七　郎　兵　衛
上ノ郷村より参申候　女　平治先祖也　房

本願寺宗有尾村明樂寺旦那
一平　右　衛　門
女　房
男子　半　大
女子　はや
男子　又　市
年拾四　女子　ちやう
年七ツ　女子　き　や
年弐ツ　男子　小太郎
年一ツ　女子　せ　ん

家数合　弐拾壱軒
人数合　百四拾四人
内
七拾弐人　男
六拾八人　女

養老町史　史料編

女弐人　相果申候
女弐人　縁付申候

前書御法度之趣、堅相意得申候、拙僧宗旨面々書付之通聊相違無御座候、若偽り申においては、拙僧も同前ニ何様ニも可被仰付候、但、伴天連・いるまん・切死丹・不受不施之宗旨在之候ハヽ、急度御注進可申候、為後日証文仍而如件

貞享四年
卯八月九日　有尾村　明　楽　寺
下笠村　浄　誓　寺

根岸傳内殿
御奉行　鈴木新八殿
御横目　武井伊兵衛殿
御代官　中嶋三郎右衛門殿
伊藤清太夫殿

五人組之事

組頭　太兵衛　彌次兵衛
忠兵衛　勘右衛門
八兵衛　清右衛門
伊兵衛　甚右衛門
彌八郎　小三郎
組頭　重右衛門　又四郎

吉郎右衛門　忠三郎
覺兵衛　平七郎
喜太郎　平右衛門
善七郎　半七郎
　　七郎兵衛

五人組奥書之事

右五人組仕候故ハ、徒者御座候ハヽ早々可申上候、勿論此御帳面之人数男女ニよらす、一切他所へ出し申間敷候、脇より訴人御座候ハヽ、其者之儀ハ不及申ニ、五人組共ニ曲事ニ可被仰付候、若此内壱人ニても欠落仕候ハヽ、五人組として尋出シ可申候、為後日仍而如件

貞享四年　　有尾新田庄屋　清右衛門
卯　　同　断　八兵衛
　　よこや村　勘左衛門
　　同　村　甚右衛門

御奉行
御横目
御代官

一七七　横屋村宗門改帳

○横屋　寺倉萬衛氏所蔵

（表紙）「元禄七年
濃州多藝郡横屋村宗門御改帳
戊六月」

一壱家東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺
旦那　百姓　平左衛門　年四拾四
同宗旨同寺　旦那　同　女　房　年四拾
是ハ同郡下笠村喜太郎妹
同宗旨同寺　旦那　同女子　ま　ち　年廿三
同宗旨同寺　旦那　同男子　與　八　年十五
同宗旨同寺　旦那　同男子　彌太郎　年十
同宗旨同寺　旦那　同女子　ろ　く　年七ッ
東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺
旦那　同下人　又平　年五拾三
同宗旨同寺　旦那　同　女　房　年四拾壱
同宗旨同寺　旦那　同男子　萬太郎　年六ッ
同宗旨同寺　旦那　同男子　三四郎　年四ッ
一壱家東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺
旦那　百姓　次左衛門　年五拾六
同宗旨同郡有尾村明樂寺旦那　同　女　房　年五十
是ハ石津郡高須村傳右衛門娘
同宗旨同郡小倉村福勝寺旦那　同男子　甚八郎　年廿六
（貼紙）「同宗旨同寺　旦那　同女子　き　ま　年廿四」
是ハ多藝郡更屋敷村爾七方へ縁付申候

同宗旨同寺　旦那　同男子　權太郎
是ハ尾州名古屋味噌町通や仁左衛門所ニ奉公仕候　年拾七
同宗旨同寺　旦那　同男子　八十郎　年十
同宗旨同寺　旦那　同男子　仙之介　年五つ
一壱家東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺
旦那　百姓　甚右衛門　年三十四
同宗旨同寺　旦那　同　女　房　年十九
是ハ本巣郡鷲巣村彦七娘
東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺
旦那　同女子　ぎ　年六ッん
同宗旨同寺　旦那　同妹　しよう
是ハ当村彌右衛門方へ参候故寄人数ニ入不申候年（ママ）
同宗旨同寺　旦那　同弟　次左衛門　年三拾二
同宗旨同寺　旦那　同　女　房　年十九
是ハ更屋村金左衛門娘
同宗旨同寺　旦那　同男子　小次郎　年弐つ
同宗旨同寺　旦那　同下人　輕平　年三十
同宗旨同寺　旦那　同下人　庄八　年廿六
同宗旨同寺　旦那　同下女　は　年六十く
同宗旨同寺　旦那　同娘　は　年四拾つ
是ハ下笠村彦左衛門様ニ奉公仕候
同宗旨同寺　旦那　同下人　源七　年廿五
是ハ石津郡深浜村ニ奉公仕候
同宗旨同寺　旦那　同下人　八助　年三拾六
同宗旨同寺　旦那　同　勘右衛門　年四拾弐

同宗旨同寺　旦那　同　女　房　年四拾
東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺
旦那　同男子　藤之助　年十七
同宗旨同寺　旦那　同男子　次郎吉　年十四
同宗旨同寺　旦那　同女子　菊　年七ッ
同宗旨同寺　死申候　旦那　同女子　さ　年四ッへ
同宗旨同寺　旦那　同下人　六助　年四拾三
同宗旨同寺　旦那　同　女　房　年三拾老
同宗旨同寺　旦那　同男子　安三郎　年七ッ
同宗旨同寺　旦那　同男子　三四郎　年四ッ
同宗旨同寺　旦那　同下人　庄五郎　年四拾五
同宗旨同寺　旦那　同　女　房　年三拾三
是ハ石津郡高須村八郎兵衛娘
同宗旨同寺　旦那　同男子　市五郎　年十六
是ハ有尾村八太夫方ニ奉公仕候
同宗旨同寺　旦那　同男子　仁　年六ッ
是ハ田原村
東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺
旦那　同男子　三五郎　年六つ
一壱家東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺
旦那　百姓　平十郎　年四拾老
同宗旨同寺　旦那　同　女　房　年廿八
是ハ多藝郡五日市村長左衛門妹
同宗旨同寺　旦那　同男子　虎之助　年九ッ

同宗旨同寺　　旦那　同男子　平　五郎　年六ッ
同宗旨同寺　　旦那　同女子　い　年弐ッ

一壱家東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺
旦那百姓　小右衛門　年五十五
同宗旨同寺　是ハ同郡津や村善兵衛妹　旦那　同　女房　年五拾
同宗旨同寺　旦那　同男子　仁左衛門　年廿五
同宗旨同寺　旦那　同男子　權　六　年十八
同宗旨同寺　旦那　同男子　權　三郎　年十四
同宗旨同寺　旦那　同男子　六左衛門　年八つ

五家壱組人数五十四人　内男三拾六人　女拾八人

右五家之内、切死丹宗門之儀年々堅御改御座候、随分吟味仕不審成宗門壱人も無御座候、則旦那・坊主判形取差上ケ申候、此外諸事御法度跡々より度々被仰付候通、相背候歟、又ハ不届仕候者御座候ハヽ、当座ニ可申上候、若見隠置他所より於顕ニハ、組中不残曲事ニ可被仰付候、向後下人・下女召抱候ハヽ、寺請手形取万事念を入相改、不慥成者抱申間鋪候、附り、如何様之者参候て宿借り申候共、一夜之宿をも借し申間鋪候、勿論牢人一切置申間敷候、縦無他事親類縁者ニ宿借し申候共、村之庄屋・年寄へ相断相談次第ニ可仕候、以上

元禄七年
戌ノ六月

甚左衛門　　平左衛門
平　十　郎
次郎左衛門
小右衛門

石　原　清左衛門様

右五人之家内、人数〆五拾四人拙僧共旦那ニ紛無御座候、則旦那壱人宛之頭ニ判形仕差上ケ申候、為後日依如件

東本願寺宗多藝郡小倉村　福勝寺
戌六月　　同宗旨同郡有尾村　明樂寺

石　原　清左衛門殿

一壱家東本願寺宗多藝郡下笠村淨雲寺
旦那百姓　兵左衛門　年六拾弐
同宗旨同郡有尾村明樂寺旦那　同　女房　年五拾
是ハ有尾村明樂寺姉
（貼紙）
「同宗旨同寺　旦那　同女子　き　年三十弐」
是ハ津屋村長九郎方へ縁付ニ参申候
同宗旨同寺　旦那　同女子　い　年十九
是ハ同村勘四郎方へ縁付ニ参家人数ニ不入
（貼紙）
「同宗旨同寺　旦那　同女子　き　年廿七　よ」
是ハ明徳村彌兵衛方へ縁付ニ参申候
同宗旨同寺　旦那　同女子　し　年十七　わ
同宗旨同寺　旦那　同女子　さ　年十四　め
同宗旨同寺　旦那　同女子　と　年十弐　め

東本願寺宗多藝郡下笠村淨雲寺
旦那　同男子　林　年廿四内
同宗旨同寺　旦那　同男子　七之介　年九ッ
同宗旨同寺　旦那　同下人　金助　年廿八

一壱家東本願寺宗多藝郡下笠村淨雲寺
同宗旨同寺　是ハ津屋村又市妹　旦那　百姓　半兵衛　年三十七
同宗旨同寺　旦那　同女　房　年廿四
同宗旨同寺　旦那　同女子　ふりよ　年四つ
同宗旨同寺　旦那　同女子　さ　年壱つん
同宗旨同寺　旦那　同弟　定　年三拾四七
同宗旨同寺　旦那　同弟　傳　年廿八九

（貼紙）
「同宗旨同寺　是ハ志津村彌市方へ縁付ニ参申候　旦那　同妹　ま　な　年廿八」
同宗旨同寺　旦那　同　母　年七拾七
同宗旨同寺　旦那　同下人　與　年十五

一壱家東本願寺宗多藝郡下笠村淨雲寺
旦那　百姓　七左衛門　年四拾六
東本願寺宗多藝郡下笠村淨雲寺
是ハ石津郡沼村甚左衛門娘　旦那　同　女　房　年三十八
同宗旨同寺　旦那　同男子　宇平次　年十九
同宗旨同寺　旦那　同男子　又吉　年十六
旦那　同男子　山三郎　年十四
同宗旨同寺　旦那　同女子　つる　年拾弐
同宗旨同寺　旦那　同女子　き　な　年四ッ
同宗旨同寺　旦那　同男子　八太　年弐ッ

一壱家禅宗石津郡高須村昌運寺旦那　百姓　留右衛門　年四拾五
同宗旨同寺　是ハ海西郡鹿野村八郎兵衛妹　旦那　同　女　房　年三拾四
同宗旨同寺　旦那　同男子　千之丞　年十六
同宗旨同寺　旦那　同男子　次郎平　年拾弐
同宗旨同寺　旦那　同男子　粂之助　年十
禅宗石津郡高須村昌運寺旦那　同男子　吉五郎　年七ッ
同宗旨同寺　旦寺　同男子　六　年壱ッ

東本願寺宗多藝郡有尾村明樂寺
旦那　同下人　權助　年廿七
同宗旨同寺　旦那　同下人　半助　年廿二
同宗旨同寺　旦那　同之女　か　ね　年廿二
同宗旨同寺　旦那　同下女　す　き　年廿五
同宗旨同寺　旦那　同下人　孫右衛門　年三十五
同宗旨同寺　是ハ飯木村孫右衛門娘　旦那　同　女　房　年三十八
同宗旨同寺　旦那　同女子　し　も　つ　年六

同宗旨同寺　旦那　同男子　三四郎　年三つ
同宗旨同寺　旦那　同弟　金八　年廿二
同宗旨同寺　旦那　同　母　年五拾八
東本願寺宗多藝郡有尾村明樂寺
旦那　同下人　十助　年四拾三
同宗旨同寺　旦那　同　女　房　年三拾四
同宗旨同寺　旦那　同男子　市　年拾七
同宗旨同寺　旦那　同男子　仁右衛門　年六ツ
同宗旨同寺　旦那　同男子　安兵衛　年五ツ
一壱家禅宗石津郡高須村昌運寺旦那　百姓　森右衛門　年三十六
同宗旨同寺　旦那　同　女　房　年十八
是ハ中嶋郡野寺村宇右衛門娘
同宗旨同寺　旦那　同弟　彌次　年廿一
是ハ当村源五右衛門方へ養子ニ参寄人数入不申候
東本願寺宗多藝郡有尾村明樂寺
旦那　同下人　市助　年廿八
同宗旨同寺　旦那　同下人　五兵衛　年廿二
同宗旨同寺　旦那　同下女　さな　年廿二
同宗旨同寺　旦那　同下女　さき　年十八

五家壱組人数五拾三人内　男三拾壱人
女弐拾弐人

右五家之内、切死丹宗門之儀年々堅御改御座候、随分吟味仕不審成宗門壱人も無御座候、則旦那・坊主判形取差上ケ申候、此外諸事御法度跡々より度々被仰付候通、相背候歟又ハ不届仕候者御座候は、当座ニ可申上候、若見隠置他所より於顕にハ、組中不残曲事ニ可被仰付候、向後下人・下女召抱候ハヽ、寺請手形取万事念を入相改、不慥成者抱申間鋪候、附り、如何様之者参候て宿借り申候共、一夜之宿をも借し申間鋪候、勿論牢人一切置申間敷候、縦無他事親類縁者ニ宿借申候共、村之庄屋・年寄へ相断相談次第ニ可仕候、以上

元禄七年
戌ノ六月

兵左衛門
七左衛門
半兵衛
藤右衛門
森右衛門

石原清左衛門様

右五人之家内、人数〆五拾三人拙僧共旦那紛無御座候、則旦那壱人宛之頭ニ判形仕差上ケ申候、為後日依如件

戌ノ六月

東本願寺宗多藝郡下笠村
浄雲寺

同宗旨同郡有尾村
明樂寺

禅宗石津郡高須村
昌運寺

石原清左衛門殿

一壱家東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺
旦那　百姓　七太夫　年六拾三

同宗旨同寺　旦那　同　女　房　年五十九
同宗旨同寺　旦那　同男子　孫　九郎　年三拾二
同宗旨同寺　旦那　同男子　六　兵衛　年廿弐
同宗旨同寺　旦那　同男子　松之丞　年十三
同宗旨同寺　旦那　同下女　つた　年廿三
東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺　旦那　同下女　き　年十八ま
同宗旨同寺　旦那　同下人　善助　年四十七
同宗旨同寺　旦那　同　女　房　年四十七
同宗旨同寺　旦那　同男子　三　年十八
一壱家東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺　旦那　百姓　彌右衛門　年三拾九
同宗旨同寺　旦那　同　女　房　年廿七
同宗旨同寺　是ハ当村甚右衛門妹　旦那　同女子　し　年四ツめ
同宗旨同寺　旦那　同男子　三之介　年弐ツ
同宗旨同寺　旦那　同下人　曽右衛門　年三十八
同宗旨同寺　旦那　同下女　た　年四拾七け
一壱家東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺　旦那　百姓　儀右衛門　年五拾七
同宗旨同寺　是ハ同郡龍泉寺村六左衛門妹　旦那　同　女　房　年四拾三

東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺　旦那　同男子　源兵衛　年廿三
同宗旨同寺　旦那　同女子　さつ　年廿壱
同宗旨同寺　旦那　同男子　小傳　年十八
同宗旨同寺　旦那　同男子　小平　年十四
同宗旨同寺　是ハ尾州名古屋味噌の町次左衛門ニ奉公仕候　旦那　同女子　しよう　年十
同宗旨同寺　旦那　同女子　あつい　年六
同宗旨同寺　旦那　同下人　仁兵衛　年四拾五
同宗旨同寺　旦那　同　女　房　年四拾五
同宗旨同寺　旦那　同　與　太郎　年九ツ
一壱家東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺　旦那　百姓　兵太夫　年四拾弐
同宗旨同寺　旦那　同　女　房　年三拾弐
同宗旨同寺　旦那　同男子　兵太郎　年十一
東本願寺宗多藝郡小村福勝寺　旦那　同男子　與四郎　年四ツ
同宗旨同寺　旦那　同男子　五太夫　年弐ツ
同宗旨同寺　旦那　同下人　市左　年廿五
一壱家東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺　旦那　百姓　八兵衛　年四拾弐
同宗旨同寺　是ハ石津郡高須村左之介娘　旦那　同　女　房　年三拾弐

同宗旨同寺　　旦那　同男子　市　三郎　年七ツ
同宗旨同寺　　旦那　同男子　坊　主　年五つ

五家壱組人数三拾七人内　男弐拾三人
女拾四人

右五家之内、切死丹宗門之儀年々堅御改御座候、随分吟味不審成宗門壱人も無御座候、則旦那・坊主判形取差上ヶ申候、此外諸事御法度跡々より度々被仰付候通、相背候歟又ハ不届仕候者御座候ハヽ、当座ニ可申上候、若見隠置他所より於顕ニハ、組中不残曲事ニ可被仰付候、向後下人・下女召抱候ハヽ、寺請手形取万事念を入相改、不慥成者抱申間鋪候、附り、如何様之者参候て宿借り申候共、一夜之宿をも借し申間鋪候、勿論牢人一切置申間敷候、縦無他事親類縁者ニ宿借シ申候共、村之庄屋・年寄へ相断相談次第ニ可仕候、以上

元禄七年
戌ノ六月

七　太　夫
儀　右衛門
彌　右衛門
兵　大　夫
八　兵　衛

石　原　清左衛門様

右五人家内、人数〆三拾七人拙僧旦那ニ紛無御座候、則旦那壱人宛之頭判形仕差ヶ上申候、為後日依如件

東本願寺宗多藝郡小倉村
福　勝　寺
戌ノ六月

石　原　清左衛門殿

一壱家禅宗石津郡奥條村真正寺旦那　百姓　源五右衛門　年三拾壱
是ハ石原清左衛門ニ奉公仕候

同宗旨同寺　　旦那　同　門　大夫　年廿四
同断
同宗旨同寺　　旦那　同　彌　藤次　年廿一
是ハ当村森右衛門より養子ニ参申候
同宗旨同寺　　旦那　同妹　つ　る　年十六
是ハ大垣桑原幸右衛門方へ縁付参申候
同宗旨同寺　　旦那　同　く　ま　年十六

同宗旨同寺　　旦那　同　母　年五拾五

東本願寺宗多藝郡舟見村西林坊旦那　同下人　半　六　年廿弐

同宗旨同寺　　旦那　同下人　甚　年廿八
同宗旨同寺　　旦那　同下女　つ　年廿八
同宗旨同寺　　旦那　同下女　さ　ご　年十五
同宗旨同寺　　旦那　同下女　つ　や　年廿五
同宗旨同寺　　旦那　同下人　角　平　年三十弐

東本願寺宗多藝郡舟見村西林坊旦那　同　女　房　年三十壱

同宗旨同寺　　旦那　同男子　市　年六ツ
同宗旨同寺　　旦那　同女子　ら　く　年弐つ
同宗旨同寺　　旦那　同下人　庄　三郎　年六拾壱
同宗旨同寺　　旦那　同下人　彌　之介　年廿九
同宗旨同寺　　旦那　同下女　き　よ　年拾八

同宗旨同寺　旦那　同下人　三九郎　年廿六
同宗旨同寺　旦那　同　女　房　年廿四
同宗旨同寺　旦那　同男子　又助　年弐つ
同宗旨同寺　旦那　同下人　六蔵　年六拾四
同宗旨同寺　旦那　同　女　房　年五拾弐
同宗旨同寺　旦那　同下人　傳七　年五拾
東本願寺宗多藝郡舟見村西林坊旦那同　女　房　年三拾老
同宗旨同寺　旦那　同男子　平吉　年七つ
同宗旨同寺　旦那　同女子　し　年弐つも
同宗旨同寺　旦那　同下人　吉内　年十三
同宗旨同寺　旦那　同下人　甚左衛門　年五拾七
同宗旨同寺　旦那　同　女　房　年五十七
同宗旨同寺　旦那　同男子　清　年三拾四八
同宗旨同寺　旦那　同男子　金十郎　年廿九
同宗旨同寺　旦那　同女子　とま　年十八ん
同宗旨同寺　旦那　同男子　牛之介　年十六
同宗旨同寺　旦那　同女子　す　年七ッへ
同宗旨同寺　旦那　同下人　甚助　年廿五

東本願寺宗多藝郡舟見村西林坊旦那同　女　房　年廿三
同宗旨同寺　旦那　同男子　太郎　年三ッ
同宗旨同寺　旦那　同男子　梅　年壱ッ
一壱家東本願寺宗多藝郡下笠村淨雲寺旦那　百姓　藤兵衛　年四拾八
同宗旨同寺　旦那　同　女　房　年三拾九
同宗旨同寺　旦那　同男子　太右衛門　年廿
同宗旨同寺　旦那　同女子　さ　年十六や
同宗旨同寺　旦那　同男子　吉　年十弐彌
同宗旨同寺　旦那　同男子　與　年十八
同宗旨同寺　旦那　同下人　平　年四拾五四郎
同宗旨同寺　旦那　同下女　し　年廿八も
一壱家東本願寺宗多藝郡下笠村淨雲寺旦那　百姓　勘　年六十七四郎
東本願寺宗多藝郡下笠村淨雲寺旦那　同　女　房　年六十八
同宗旨同寺　旦那　同男子　惣　年廿九七
同宗旨同寺　旦那　同男子　惣　年廿一
同宗旨同寺　旦那　同女子　ひ　年十九ん
是ハ当村新七方へ縁付ニ参寄人数ニ不入
同宗旨同寺　旦那　同下女　く　年三十弐に

一壱家東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺
旦那　百姓　安右衛門　年三十七
同宗旨同寺　旦那　同　女　房　年廿四
是ハ小倉村源右衛門娘
同宗旨同寺　旦那　同男子　傳之介　年六つ
同宗旨同寺　旦那　同女子　か　年四ッん
（貼紙）「同宗旨同寺　旦那　同女子　し　も　年壱ッ」

一壱家東本願寺宗多藝郡下笠村淨雲寺
旦那　百姓　杢右衛門　年四拾三
同宗旨同寺　旦那　同　女　房　年三十
是ハ下笠村七兵衛娘
同宗旨同寺　旦那　同男子　金彌　年六ッ
東本願寺宗多藝郡下笠村淨雲寺
旦那　同女子　し　め　年壱つ

五家壱組人数六拾人内　男三拾三人
女弐拾七人

右五家之内、切死丹宗門之儀年々堅御改御座候、随分吟味仕不審成宗門壱人も無御座候、則旦那・坊主判形取差上ケ申候、此外諸事御法度跡々より度々被仰付候通、相背候歟又ハ不届仕候者御座候は、当座ニ可申上候、若見隠置他所より於顕にハ、組中不残曲事ニ可被仰付候、向後下人・下女召抱候ハヽ、寺請手形取万事念を入相改、不慥成者抱申間鋪候、附リ、如何様之者参候て宿借り申共、一夜之宿をもかし申間敷候、勿論牢人一切置申間敷候、縦無他事親類縁者ニ宿借シ申候共、村之庄屋・年寄へ相断相談次第ニ可仕候、以上

元禄七年
戌ノ六月

源五右衛門
藤兵衛
勘四郎
杢右衛門
安右衛門

石原清左衛門様

右五家之内、人数〆六拾人拙僧共旦那ニ紛無御座候、則旦那壱人宛之頭ニ判形仕差上ケ申候、為後日依如件

戌ノ六月

禅宗石津郡奥条村　眞正寺
東本願寺宗多藝郡舟見村　西林坊
同宗同郡下笠村　淨雲寺
同宗同郡小倉村　福勝寺

石原清左衛門殿

一壱家東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺
旦那　百姓　傳左衛門　年五拾三
同宗旨同寺　旦那　同　女　房　年三十八
是ハ石津郡馬ノ目村理左衛門娘
同宗旨同寺　旦那　同男子　作右衛門　年十九
同宗旨同寺　旦那　同男子　秋之助　年拾
同宗旨同寺　旦那　同男子　權四郎　年六ッ

同宗旨同寺　旦那　同妹　は　年四拾七
東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺　旦那　同　母　年七十四
一壱家東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺　旦那　百姓　新右衛門　年六十五
同宗旨同寺　旦那　同弟　城和　年六拾
同宗旨同寺　旦那　同男子　庄六　年三十八
同宗旨同寺　旦那　同　女房　年廿六
是ハ大跡村甚助娘
同宗旨同寺　旦那　同孫女子れ　年四つん
同宗旨同寺　旦那　同女子　す　年廿五て
一壱家東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺　旦那　百姓　新七　年三十弐
同宗旨同寺　旦那　同　女房　年十九
是ハ当村勘四郎娘
同宗旨同寺　旦那　同姉　百　年四拾
是ハ同郡小倉村庄兵衛方へ縁付申候
同宗旨同寺　旦那　同妹　つ　年三十壱
是ハ当村加右衛門方へ縁付参寄人数入不申候
同宗旨同寺　旦那　同弟　市　年十九
東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺　旦那　同　母　年六拾六
一壱家東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺　旦那　百姓　助十郎　年六拾六
同宗旨同寺　旦那　同　女房　年五拾七

同宗旨同寺　旦那　同男子　元右衛門　年三十七
同宗旨同寺　旦那　同　嫁　年三十四
同宗旨同寺　旦那　同男子　傳六つ　年六つ
同宗旨同寺　旦那　同男子　次郎つ　年弐つ
（貼紙）
「同宗旨同寺　旦那　同女子　く　年三十三」
是ハ同郡小倉村彦右衛門方へ縁付参申候
一壱家東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺　旦那　百姓　利右衛門　年四十四
同宗旨同寺　旦那　同　女房　年三拾弐
是ハ下笠村沢右衛門姉
同宗旨同寺　旦那　同女子　か　年十三め
同宗旨同寺　旦那　同男子　金之丞　年十
同宗旨同寺　旦那　同女子　そ　年八つよ
東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺　旦那　同女子　い　年三つし
同宗旨同寺　旦那　同下人　六兵衛　年廿五
同宗旨同寺　旦那　同妹　よ　年廿五し
是ハ当村市右衛門所へ縁付参寄人数ニ入不申候
五家老人組人数三拾老人内　男拾六人　女拾五人

右五家之内、切死丹宗門之儀年々堅御改御座候、随分吟味仕不審成宗門老人も無御座候、則旦那・坊主判形取差上ケ申候、此外諸事御法度跡々より度々被仰付候通、相背候歟又ハ不届仕候者御座候ハヽ、当座ニ可申上候、若見隠置他所より於顕にハ、

組中不残曲事ニ可被仰付候、向後下人・下女召抱候ハヽ、寺請手形取万事念ヲ入相改、不慥成者抱申間鋪候、附リ、如何様之者参候て宿借り申候共、一夜之宿をも借し申間鋪候、縦無他事親類縁者ニ宿借シ申候共、村之庄屋・年寄へ相断相談次第ニ可仕候、以上

元禄七年
戌ノ六月

傳左衛門
助十郎
新右衛門
新七
理右衛門

石原清左衛門様

右五人家内、人数〆三拾壱人拙僧旦那ニ紛無御座候、則旦那壱人宛頭ニ判形仕差上ケ申候、為後日仍如件

戌ノ六月

東本願寺宗多藝郡小倉村
福勝寺

石原清左衛門殿

一壱家東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺

旦那　百姓　加右衛門　年四拾九
旦那　同　女　房　年三拾壱
旦那　同女子　は　な　年十七
同宗旨同寺　是ハ当村新七妹
同宗旨同寺
東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺
旦那　同男子　源　彌　年七つ
同宗旨同寺
旦那　同男子　う　め　年弐ツ
同宗旨同寺
旦那　同下人　定　助　年廿三

一壱家東本願寺多藝郡舟見村西林坊

旦那　百姓　市右衛門　年六拾
同宗旨同寺
旦那　同　女　房　年六拾三
同宗旨同寺
旦那　同男子　徳右衛門　年三十三
同宗旨同寺　是ハ当村理右衛門妹
旦那　同　嫁　年廿五
（貼紙）
「同宗旨同寺　是ハ本巣郡白石村傳三郎方縁付ニ参申候
旦那　同女子　ひ　ん　年三十一」
同宗旨同寺
旦那　同女子　め　る　年廿九

一壱家東本願寺宗多藝郡下笠村浄雲寺

旦那　百姓　常右衛門　年三十
同宗旨同寺
旦那　同　女　房　年三十
同宗旨同寺
旦那　同男子　七　助　年六つ
同宗旨同寺
旦那　同男子　三　彌　年四つ
同宗旨同寺
旦那　同女子　セ　き　年弐つ

一壱家東本願寺宗本巣郡（ママ）鷲巣村専明寺

旦那　百姓　源　十郎　年七拾
同宗旨同寺
旦那　同　女　房　年五十八
同宗旨同寺
旦那　同女子　け　う　年三十三
是ハ本巣郡白石村太郎平方へ縁付参申候
同宗旨同寺
旦那　同男子　林　平　年廿八

同宗旨同寺　旦那　同男子　甚七　年廿三
一壱家禅宗石津郡高須村昌運寺旦那　百姓　彦右衛門　年四拾九
東本願寺宗多藝郡有尾村明樂寺
旦那　同　女　房　年四拾七
（貼紙）
「同宗旨同寺　旦那　同女子　さ　つ　年廿四」
是ハ志津村新六方へ縁付参申候
同宗旨同寺　旦那　同男子　三　六　年十七
是ハ尾州名古屋傳馬町次左衛門方ニ奉公仕候
同宗旨同寺　旦那　同女子　ち　や　う　年十
禅宗石津郡高須村昌運寺旦那　同男子　彦太郎　年廿壱
同宗旨同寺　旦那　同男子　權　年八つ

五家壱組人数弐拾七人内　男拾五人　女拾二人

右五家之内、切死丹宗門之儀年々堅御改御座候、随分吟味仕不審成宗門壱人も無御座候、則旦那・坊主判形取差上ケ申候、此外諸事御法度跡々より度々被仰付候通、相背候歟又ハ不届仕候者御座候ハヽ、当座ニ可申上候、若見隠置他所より於顕ハ、組中不残曲事ニ可被仰付候、向後下人・下女召抱ハヽ、寺請手形取万事念ヲ入相改、不慥成者抱申間鋪候、附リ、如何様之者参候て宿借リ申候共、一夜之宿をも借シ申間鋪候、勿論牢人一切置申間敷候、縦無他事親類縁者ニ宿借し申候共、村之庄屋・年寄へ相断相談次第ニ可仕候、以上

元禄七年
戌ノ六月

加右衛門
市右衛門

石原清左衛門様

右五人之家内、人数〆弐拾七人拙僧共旦那ニ紛無御座候、則那那壱人宛之頭ニ判形仕上ケ申候、為後日仍件

戌ノ六月

東本願寺宗多藝郡小倉村　福勝寺
同宗旨同郡舟見村　西林坊
同宗旨同郡下笠村　淨雲寺
同宗旨同郡有尾村　明樂寺
同宗旨元巣郡鵜巣村　專明寺
禅宗石津郡高須村　昌運寺

石原清左衛門殿

一壱家東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺
旦那　百姓　平　六　年三十九
同宗旨同寺　旦那　同　女　房　年廿二
是ハ舟見村才兵衛娘
同宗旨同寺　旦那　同男子　喜　太郎　年弐つ
同宗旨同寺　旦那　同女子　つ　ま　年十五
同宗旨同寺　旦那　同　母　年七十七
同宗旨同寺　旦那　同下人　兵　吉　年廿六

一壱家東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺
旦那　百姓　清　五郎　年三十八
同宗旨同寺　旦那　同　女　房　年廿五
是ハ安八郡今尾村忠太夫娘
同宗旨同寺　旦那　同女子　ひ　年五つん
同宗旨同寺　旦那　同女子　し　年弐つけ

一壱家浄土宗多藝郡津屋村慈眼寺旦那　百姓　七郎左衛門　年六十九
同宗旨同寺　旦那　同　女　房　年五十九
同宗旨同寺　旦那　同男子　庄左衛門　年廿七
同宗旨同寺　旦那　同男子　六郎右衛門　年廿六
同宗旨同寺　旦那　同男子　八　年九つ
同宗旨同寺　旦那　同下女　な　年廿

三家壱組人数拾六人内　男八人　女八人

右三家之内、切死丹宗門之儀年々堅御改御座候、随分吟味仕不審成宗門壱人も無御座候、則旦那・坊主判形取差上ヶ申候、此外諸事御法度跡々より度々被仰付候通、相背候歟又ハ不届仕候者御座候ハヽ、当座ニ可申上候、若見隠置他所より於顕にハ、組中不残曲事ニ可被仰付候、向後下人・下女召抱候ハヽ、寺請手形取万事念ヲ入相改、不慥成者抱申間敷候、附り、如何様之者参候て宿借り申候共、一夜之宿ヲもかし申間敷候、勿論牢人一切置申間敷候、縦無他事親類縁者ニ宿借し申候共、村之庄屋年寄へ相断相談次第ニ可仕候、以上

元禄七年
戌之六月

平　六
清　五　郎
七郎左衛門

石　原　清左衛門様

右三人之家内、人数〆拾六人拙僧共旦那ニ紛無御座候、則旦那壱人宛之頭ニ判形仕差上ヶ申候、為後日仍如件

戌ノ六月

東本願寺宗多藝郡小倉村
福　勝　寺
浄土宗同郡津屋村
慈　眼　寺

石　原　清左衛門殿

右之寄

家数合三拾三軒
人数合百七拾八人内男百六拾弐人
女百拾六人
内弐百七拾人村有人
八人　他所有人

右横屋村人数後家・寡等至迄不残書上ヶ申候、此外此外(ママ)乞食迄相改、不審成者壱人も無御座候、切死丹宗門若見隠置候歟、亦ハ無念ニ改已来顕申候ハヽ、拙者共曲事ニ可被仰付候、為後日仍如件

元禄七年
戌ノ六月

庄ヤ　藤右衛門
同　甚右衛門
年寄　七大夫

同　兵左衛門
与頭　傳左衛門
同　平六

石原清左衛門殿

（表紙）「元禄七年
濃州多藝郡横屋村増減御改帳
戌之六月」

増人之覚

一壱人女　甚右衛門妻子鷲巣村来り申候
一三人男女　次左衛門と申者更屋村より妻子共ニ引越申候
一壱人男　助十郎孫　二郎去年御改以後生申候
一壱人男　七左衛門子八太去年御改後生申候
一壱人女　半兵衛子さん当春生申候
一壱人男　甚左衛門孫　梅助当春生申候
一三人男女　甚助妻子共ニ引越申候
一壱人女　傳七子くり当春生申候
一壱人女　本右衛門子しめ当年生申候
一壱人女　常右衛門子せき去年御改後生申候
一壱人男　平六子喜太郎去年御改後生申候
一壱人女　加右衛門子うめ去年御改後生申候
一壱人男　藤右衛門子六助「」

〆人数拾七人

減人之覚

一壱人女　次郎左衛門娘更屋敷村薗七方へ縁付仕候
一壱人女　助十郎娘下笠村傳四郎方へ縁付仕候
一壱人女　七郎左衛門娘藻池村七兵衛方へ縁付仕候
一壱人女　傳七母去年死申候
一壱人女　庄三郎女房当春死申候
一壱人女　安右衛門娘当夏死申候
一壱人女　新右衛門娘当春死申候
一壱人女　八兵衛娘去年死申候
一壱人女　清八女房当春死申候
一壱人女　傳左衛門娘去年死申候
一壱人男　一翁去年死「（申候）」
一壱人男　七大夫下人当「」

〆人数拾弐人

人数弐百七拾三人　酉之年御改之覚

内
減人　拾弐人
増人　拾七人

差引シテ
人数弐百七拾八人　戌之年御改面
内男百六拾弐人
女百拾六人

右之通減人数村中相改方も相違無御座候、為後日仍如件
元禄七年
戌之六月
庄ヤ　藤右衛門
同　甚右衛門
年寄　七太夫
同　兵左衛門

石原清左衛門様

（表紙）
「元禄十五年　宗門
濃州多藝郡横屋村人別改帳
午三月　五人組　下」

一高四百弐拾壱石六斗八升二合田畑　多藝郡横屋村
一高八拾九石三斗六升　同村堤外草場
二口高合五百拾壱石四斗三合
内
六拾四石七斗三升　草場
七升五合　跡之郷蔵敷地

残高四百四拾六石弐斗三升八合　毛付高
此訳
高弐拾弐石八升三合　耕作仕候
一東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺旦那
同寺旦那　同人　女　房　年四拾三　平左衛門　年五拾弐
同寺旦那　同人惣領　与　八郎　年二拾三
同寺旦那　同人二男　彌　太郎　年拾七
同寺旦那　同人娘　ろ　く　年十五
同寺旦那　同人娘　ひ　め　年拾三
同寺旦那　同人五男　丹　九郎　年拾壱
同寺旦那　同人六男　十　平　年八ッ
同寺旦那　同人家来　八　助　年四拾四
同寺旦那　八助　女　房　年三拾八
同寺旦那　同人娘　さ　と　年九ッ

〆拾三人　内男六人　女五人
馬　壱疋

右は拙者一家紛無御座候　耕作仕候　平左衛門
一東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺旦那　太兵衛　年六拾四
同宗同郡有尾村明樂寺旦那　同人　女房　年五拾八
同宗同郡小倉村福勝寺旦那　同人惣領　甚八　年三十四
同寺旦那　同人三男　傳藏　年廿四
同寺旦那　同人四男　十郎八　年十八
同寺旦那　同人五男　太郎千　年拾二
〆六人　内男五人　女壱人
右は拙者一家紛無御座候　太兵衛
外男子喜太郎年弐拾五石津郡高須町ニて商買仕罷有申候　耕作仕候　甚右衛門　年四拾弐
一東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺旦那　同人　女房　年弐拾七
高弐石弐斗八升弐合　同人娘　ぎん　年十四
同寺旦那　同人弟　次左衛門　年四拾
同寺旦那　次左衛門　女房　年三十六
同寺旦那

同寺旦那　同人惣領　小次郎　年十
同寺旦那　同人二男　善四郎　年九ツ
同寺旦那　甚右衛門家来　勘右衛門　年五拾
同寺旦那　勘右衛門　女房　年四拾八
同寺旦那　同人惣領　友助　年弐拾七
同寺旦那　同人二男　次郎平　年廿弐
同寺旦那　同人娘　さん　年十五
同寺旦那　甚右衛門家来　安平　年十七
同寺旦那　安平弟　三四郎　年十八
同寺旦那　甚右衛門家来　庄五郎　年五十三
同寺旦那　庄五郎　女房　年四拾壱
同寺旦那　同人惣領　市五郎　年廿四
同寺旦那　同人二男　仁六　年十七
同寺旦那　同人三男　三五郎　年十四

〆拾九人　内男拾三人
女　六人
右は拙者一家紛無御座候
一東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺旦那

同寺旦那　耕作仕候　甚右衛門
同寺旦那　同人　女　房　年三十六　平　十郎　年四拾九
同寺旦那　同人惣領　虎之助　年十七
同寺旦那　同人二男　平五郎　年十五
同寺旦那　同人娘　い　年十し
同寺旦那　同人娘　い　年八つく
同寺旦那

〆六人　内男三人
女三人
右は拙者一家紛無御座候
一東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺旦那

同寺旦那　耕作仕候　平　十郎
同寺旦那　同人　女　房　年五拾八　小右衛門　年六拾三
同寺旦那　同人惣領　仁左衛門　年三十三
同寺旦那　同人二男　彌三郎　年廿七
同寺旦那　同人三男　權左衛門　年廿五

同寺旦那

〆六人　内男五人
女壱人
馬　壱疋
右は拙者一家紛無御座候
一東本願寺宗多藝郡下笠村淨雲寺旦那
高弐石七斗四升三合

同宗同郡有尾村明樂寺旦那
同宗同郡下笠村淨雲寺旦那
同宗同郡有尾村明樂寺旦那

同寺旦那　耕作仕候　小右衛門
同寺旦那　同人　女　房　年五拾八　兵左衛門　年六拾九
同寺旦那　同人惣領　半之右衛門　年三十弐
同寺旦那　同人娘　さ　め　年廿弐
同寺旦那　同人娘　と　め　年廿
同宗同郡下笠村淨雲寺旦那　同人四男　七之介　年十七
同　同寺旦那　同人家来　か　や　年三十六　助　年十五
同寺旦那　同人惣領　七　彌　年十三
同寺旦那　同人二男　三　き　年十一
同寺旦那　同人娘　せ　八　年九ツ
同寺旦那　同人四男　與　年廿五

〆拾壱人　内男六人 女五人
馬　壱疋
右は拙者家紛無御座候
一東本願寺宗多藝郡下笠村浄雲寺旦那
同寺旦那　耕作仕候　兵左衛門
同寺旦那　同人　女房 年四拾六　七左衛門 年五拾四
同寺旦那　同人惣領　作之右衛門 年廿七
同寺旦那　同人二男　李内 年廿四
同寺旦那　同人三男　喜平次 年廿弐
同寺旦那　同人娘　つる 年廿
同寺旦那　同人五男　八彌 年十
同寺旦那　同人娘　す へ 年六つ
〆八人　内男五人 女三人
一東本願寺宗多藝郡下笠村浄雲寺旦那　耕作仕候　半兵衛 年四拾五
同寺旦那　同人　女房 年三拾弐
同寺旦那　同人娘　あ き 年七つ
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
〆拾六人　内男八人 女八人

同人二男　吉之助 年三つ
同人弟　七兵衛 年四拾弐
女房 年廿八
同人娘　ひめ 年七つ
同人二男　又吉 年五つ
同人三男　彌吉 年二つ
半兵衛弟　彌兵衛 年三十七
同人妹　き ふ 年三十五
同人　母 年七十八
同人家来　半六 年廿八
女房 年廿四
同人弟　藤内 年廿四
同人　母 年五十壱

高拾弐石三斗六升
一禅宗石津郡高須村昌運寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
一東本願寺宗多藝郡有尾村明樂寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那

耕作仕候　教右衛門　年五十三
同人　女　房　年四十弐
同人惣領　新四郎　年廿四
同人二男　小平次　年廿
同人四男　吉五郎　年十五
同人五男　六十郎　年十
同人家来　孫右衛門　年四拾三
孫右衛門　女房　年四十六
同人娘　志も　年十四
同人二男　三四郎　年拾壱
孫右衛門弟　善兵衛　年三十壱
善兵衛　女房　年廿弐
同人旦那　市太郎　年三ッ
同人　母　年六十六

同寺旦那　教右衛門家来　助關　年十九
同寺旦那　関助弟　仁右衛門　年十五
同寺旦那　同人妹　ゆき　年十一
同寺旦那　同人弟　三介　年六ッ
同寺旦那　同人弟　仁介　年三ッ
同寺旦那　同人　母　年四十弐
同寺旦那　教右衛門下男　助權　年三十二
同寺旦那　同郡津屋村佐太郎弟壱年切ニ差置申候　尤人請手形寺手形取置申候
同寺旦那　同人下女　志ま　年廿三　同郡大場新田九兵衛娘壱年切ニ差置申候　尤人請手形寺手形取置申候
〆弐拾弐人　内男拾四人　女八人
馬　壱疋
右は拙者一家紛無御座候　　教右衛門
外
一男子傳六年拾七、尾州名古屋納屋町善兵衛方へ六年切ニ奉出仕候
一妹りん年三拾壱、多藝郡大場村市右衛門所へ縁付申候

一禅宗石津郡高須村昌運寺旦那　耕作仕候　七郎右衛門　年四十三
東本願宗多藝郡有尾村明樂寺旦那　同人　女房　年廿四
同寺旦那　同人下男　市介　年三十壱
同郡志津村六右衛門世悴壱年切ニ差置申候
尤人請手形寺手形取置申候
同寺旦那　同人下女　や　年廿六
同郡津屋村佐太郎妹壱年切差置
尤人請手形寺手形取置申候
〆四人　内男弐人　女弐人
右は拙者一家紛無御座候
高四拾壱石九斗三升
一禅宗石津郡奥条眞正寺旦那　耕作仕候　彌藤次　年廿八　七郎右衛門
東本寺宗多藝郡津屋村西林坊旦那　同人母　年六十三　同人家来　三右衛門　年五十八
三右衛門　女房　年三十七
同寺旦那　同人惣領　彦三郎　年四十　彌藤次家来　長介
同寺旦那　長介　女房　年三十八
同寺旦那　同人惣領　市三郎　年十四
同寺旦那　同人娘　い　年十
同寺旦那　く　年十

同寺旦那　同人娘　さ　年七ッ
同寺旦那　彌藤次家来　又助　年十　つ　年七ッ
同寺旦那　又助弟　彦七　年八ッ
同寺旦那　同人　母　年四拾
同寺旦那　彌藤次家来　ば　年五十九ヽ
同寺旦那　同人家来　金十郎　年四十　金　年五十九ヽ
同寺旦那　金十郎　女房　年廿三
同寺旦那　同人惣領　甚助　年三ッ
同寺旦那　彌藤次家来　清八　年四十三
同寺旦那　清八　女房　年三十
同寺旦那　同人惣領　七平　年九ッ
同寺旦那　同人娘　つや　年六ッ
同寺旦那　彌藤次家来　平吉　年十五

同寺旦那　　平吉娘（妹）り　年十ん
同寺旦那　　同人　母　年三十九
同寺旦那　　彌藤次普代　權　年六廿
〆弐拾四人　内男拾三人　女拾壱人　壱疋
馬
右は拙者一家紛無御座候　　彌藤次
一源五右衛門婦夫（ママ）并弟母都合四人勢州四ヶ市引越、石原清左衛門様ニ相勤申候
一同人女房年廿、勢州へ一所ニ引越申候
一源五右衛門弟門太夫年三十弐も石原清左衛門様ニ奉公仕候
一同人母年六拾三、勢州四ヶ市へ一所ニ引越し申候
一東本願寺宗多藝郡下笠村淨雲寺旦那　耕作仕候　太右衛門　年廿七
同寺旦那　同人　女　房　年廿壱
同寺旦那　同人娘　い　ち　年二ツ
同寺旦那　同人弟　文　五郎　年廿
同寺旦那　同人下男　六　兵衛（ママ）
同寺旦那　同人普代　志　も　年三十六

〆六人　内男三人　女三人　壱疋
馬
右は拙者一家紛無御座候
一東本願寺宗多藝郡下笠村淨雲寺旦那　耕作仕候　太右衛門
同寺旦那　同人　女　房　年廿七
同寺旦那　同人娘　き　年六ツ
同寺旦那　同人娘　か　年三ツ
同寺旦那　同人弟　惣　七　年廿八
同寺旦那　同人　父　年七十三
同寺旦那　同人　母　年六十八
〆七人　内男三人　女四人
右は拙者一家紛無御座候
一東本願寺宗多藝郡下笠村淨雲寺旦那　耕作仕候　宇右衛門
同寺旦那　同人　女　房　年三十八
同寺旦那　同人惣領　金　彌　年十四
同寺旦那　同人娘　志　め　年九つ

〆四人　内男弐人 女弐人
右は拙者一家紛無御座候
一東本願寺宗多藝郡津屋村西林坊旦那
同寺旦那　耕作仕候　本右衛門
同寺旦那　同人　女房　年六十三　市右衛門　年六十八
同寺旦那　同人惣領　徳右衛門　年四十壱　女房　年三十弐
同寺旦那　徳右衛門　ミ　年七つ　娘　な
同寺旦那　同人二男　市　年三つ　貞
同寺旦那　市右衛門娘　や　年三十八　い
〆七人　内男三人 女四人
右は拙者一家紛無御座候
高三拾七石五斗八升八合
一東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺旦那
同寺旦那　耕作仕候　孫　九郎　年四十　市右衛門
同寺旦那　同人　女房　年廿三　孫
同寺旦那　同人惣領　十郎　年四つ　太
同寺旦那　同人弟　兵衛　年三十　六

同寺旦那　同人　母　年六拾八
同寺旦那　同人普代　兵衛　年三十四　五郎
同寺旦那　同人家来　太郎　年十七　三
同寺旦那　同人普代　つ　年廿八　な
同寺旦那　同人家来　六　年十六　三
同寺旦那　孫九郎家来　助　年五十五　善
同寺旦那　善介　女房　年五十四　善
同寺旦那　同人惣領　平　年廿三　吉
〆拾弐人　内男八人 女四人
馬壱　疋右
右は拙者一家紛無御座候
高三拾六石弐斗四升六合
一東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺旦那
同寺旦那　耕作仕候　孫　九郎
同寺旦那　同人　女房　年三十五　彌右衛門　年四十八
同寺旦那　同人惣領　之介　年拾　三
同寺旦那　同人二男　之介　年三つ　辰

同寺旦那　同人家来　六　平　年十八
同寺旦那　〆八人　内男四人女四人
馬　壱疋
右は拙者一家紛無御座候
儀右衛門
外
男子傳九郎年廿壱、尾州名古屋味噌野町大工仕罷有申候
高壱石九斗三升七合
一東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺旦那　耕作仕候　兵　太夫　年五十
同寺旦那　同人　女　房　年四十
同寺旦那　同人惣領　兵　太郎　年十九
同寺旦那　同人二男　與　四郎　年十二
同寺旦那　同人娘　ミ　ち　年六つ
同寺旦那　同人四男　六　三郎　年二つ
〆六人　内男四人女弐人
右は拙者一家紛無御座候
高九斗六升六合
一東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺旦那　耕作仕候　八　兵　太　文
同寺旦那　同人　女　房　兵衛　年五十　年四十

同寺旦那　同人娘　す　な　年三つ
同寺旦那　同人弟　彌　太　夫　年廿壱
同寺旦那　同人家来　市　介　年三十七
同寺旦那　同人普代　仁　吉　年十八
同寺旦那　同人家来　た　け　年五十四
〆九人　内男六人女三人
馬　壱疋
右は拙者一家紛無御座候
高五石九斗五升七合
一東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺旦那　彌右衛門
同寺旦那　耕作仕候　儀右衛門　年六十五
同寺旦那　同人　女　房　年五十一
同寺旦那　同人惣領　源　兵衛　年三十一
同寺旦那　同人二男　彦　四郎　年廿六
同寺旦那　同人娘　志　よう　年十八
同寺旦那　同人娘　あ　い　年十四
同寺旦那　同人娘　き　ぬ　年七つ

同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
〆六人　内男三人女三人
右は拙者一家紛無御座候
高七石六斗七合
一東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同人惣領　市　三郎　年十六
同人二男　仁　之介　年十三
同人娘　ゆ　き　年十一
同人娘　そ　よ　年三つ
耕作仕候　傳左衛門　年六十　八兵衛
同人　女　房　年四十六
同人惣領　武右衛門　年廿八
同人二男　文内　年廿二
同人三男　權太郎　年十四
同人四男　七十郎（ママ）　年十
傳左衛門弟　は　な　年五十五
同人下女　い　と　年廿九

〆八人　内男五人女三人
馬　壱疋
右は拙者一家紛無御座候
□□石七升壱合
一東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
〆八人　内男四人女四人
右は拙者一家紛無御座候
高三石四升四合
一東本願寺宗多藝郡福勝寺旦那
同寺旦那
耕作仕候　傳左衛門
耕作仕候　庄右衛門　年四十
同人　女　房　年廿七
同人惣領　市内　年八つ
同人娘　き　さ　年五つ
同人三男　三　太郎　年二つ
同人姉　つ　た　年四十八
同人　母　年七十三
同人音代　市　平　年廿八
耕作仕候　庄右衛門
元右衛門　年四十五
同人　女　房　年四十二

同寺旦那　同人　傳彌　年十四
同寺旦那　同人二男　次郎三郎　年十
同寺旦那　同人三男　小三郎　年七つ
同寺旦那　同人　父　年七十四
同寺旦那　同人　母　年六十五
〆七人　内男五人女弐人
右は拙者一家紛無御座候
□□五斗七升六合
一東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺旦那

同寺旦那　耕作仕候　元右衛門
同寺旦那　理右衛門　年五十二
同寺旦那　同人　女房　年十四
同寺旦那　同人娘　か　年廿一め
同寺旦那　同人二男　金之丞　年十八
同寺旦那　同人娘　そ　年十六よ
同寺旦那　同人娘　び　年十一ん
同寺旦那　同人五男　平藏　年八つ
同寺旦那
〆七人　内男三人女四人

右は拙者一家紛無御座候
高三石八斗七升九合
一東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺旦那

同寺旦那　耕作仕候　庄右衛門
同寺旦那　同人娘　ま　年四十六
同寺旦那　同人娘　き　年十二ん
同寺旦那　同人　城　年八つり
同寺旦那　同人娘　は　年六十八秀
同寺旦那　〆五人　内男弐人女三人
右は拙者一家紛無御座候
□□八斗三升六合
一東本願寺宗小倉村福勝寺旦那

同寺旦那　耕作仕候　庄六
同寺旦那　同人　女　年五十七加右衛門
同寺旦那　同人惣領　源彌　年三十九房
同寺旦那　同人二男　松彌　年十五
同寺旦那　同人下男　傳七　年七つ
同寺旦那　同人下女　つじ　年三十九
同都津や村傳吉世悴老年切ニ差置申候
尤人請手形寺手形取置申候
同寺旦那　年二十九

〆六人　内男四人
女弐人
馬　壱疋

右は拙者一家紛無御座候

高弐石六斗五合
一東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺旦那

同寺旦那　耕作仕候　加右衛門
同寺旦那　同人　女　房　年三十　平　年四十七　六
同寺旦那　同人惣領　吉　三郎　年十
同寺旦那　同人娘　よ　年四つ　ね
同寺旦那　同人娘　は　年壱つ　る
同寺旦那　同人　母　年八十五
同寺旦那　同人普代　兵　吉　年三十四
同寺旦那　同人下男　市　左　年三十五
同寺旦那　同郡舟見村助右衛門世悴一年切ニ差置申候
尤人請手形寺手形取置申候
同寺旦那　同人下女　せ　ん　年廿八
同寺旦那　同郡志津村甚平娘一年切差置申候
尤人請手形寺手形取置申候

〆九人　内男四人
女五人
馬　壱疋

右は拙者一家紛無御座候

高弐石弐斗
一東本願寺宗多藝郡小倉村福勝寺旦那

同寺旦那　耕作仕候　清　五郎　年四十六
同寺旦那　同人　女　房　年三十三　平　年十三　そ
同寺旦那　同人娘　志　け　年十
同寺旦那　同人三男　三　次郎　年八つ
同寺旦那　同人娘　り　年四つ　ん

〆六人　内男弐人
女四人

右は拙者一家紛無御座候

□石壱斗四升七合
一浄土宗多藝郡津屋村慈眼寺旦那

同寺旦那　耕作仕候　清　五郎
同寺旦那　同人　女　房　年廿　庄　左衛門　年三十五
同寺旦那　同人弟　六郎右衛門　年三十四
同寺旦那　同人　母　年六拾七
同寺旦那　同人普代　八　蔵　年十八
同寺旦那　同郡小倉村三右衛門娘一年切差置
人請手形寺手形取置申候　同人下女　な　つ　年三十一

〆六人　内　男三人
　　女三人
右は拙者一家紛無御座候
一禅宗石津郡高須村昌運寺旦那

〆四人　内　男三人
　　女老人
右は拙者一家紛無御座候
一東本願寺宗多藝郡鷲巣村專明寺旦那

高〆弐百弐拾弐石壱斗九升六合
　六拾四石七斗三升　堤外草場
　七升五合　郷蔵敷地
　拾石四斗五升三合　御神田宮田
　弐百拾三石五斗八升九合　出作高伊尾六ノ井村
高合五百拾壱石四升三合
　外田六反弐畝拾八歩　見取場
人数合弐百七拾人　内　男百五拾五人
　　女百拾五人
　馬数合拾弐疋

右之通宗門人別村中相改、不残書上申候、若壱人成共隠置申候ハヽ、当人ハ不及申上庄屋・五人組迄、如何様之曲事ニも可被仰付候、勿論此以後出生之もの・死去之者御座候ハヽ、至其節申上候、以上
　元禄拾五壬午年二月

横屋村名主　教右衛門
同　断　彌右衛門
同村組頭　孫九郎
同　断　平六

御代官様

前書之男女代々拙僧共旦那紛無御座候、若御法度之切支丹邪蘇宗門之もの有之は、拙僧共何方迄罷出、申わけ可仕候、為其銘々判形如件
　元禄十五年午

同寺旦那　耕作仕候　彦右衛門　年五十七
同人　女　房　年五十五
同人惣領　彦太郎　年廿九
同人二男　權九郎　年十六

同寺旦那　耕作仕候　彦右衛門
同人　女　房　年廿四
同人　七　彌　年三つ
同人弟　甚七　年三十二
同人　父　年七十六
同人　母　年六十六

同寺旦那　林平

同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那
同寺旦那

御代官様

同御代官所　美濃國多藝郡小倉村
尾張様御知行所　同國同郡下笠村
辻六郎左衛門様御代官所　同國同郡有尾村
戸田采女正様御知行所　同國同郡津屋村
同断　同國同郡鷲巣村
同断　同國同郡津屋村
同断　同國石津郡奥條村
松平摂津守様御知行所　美濃國石津郡高須村

本寺京都東本願寺　福勝寺
東本願寺宗
濃州安八郡今尾村西願寺末寺　浄雲寺
同宗
三州碧海郡野寺村本證寺末寺　明樂寺
同宗
本寺京都東本願寺　西林坊
同宗
本寺京都東本願寺　専明寺
同宗
本寺京都知恩院　慈眼寺
浄土宗
本寺京都妙心寺　眞正寺
禅宗
本寺越前国永平寺　昌運寺
禅宗

一七八　中村宗門改帳

○中　高木享一氏所蔵

（表紙）
「　享保十乙巳年
美濃國多藝郡中村宗門御改帳
六月　日　」

定

きりしたん宗門ハ累年御制禁たり、自然不審成者有之ハ申出へし、御ほうひとして

はてれんの訴人　銀五百枚
いるまんの訴人　銀三百枚
立かへり者の訴人　同　断
同宿幷宗門の訴人　銀百枚

右之通下さるへし、たとい同宿・宗門之内たりといふとも、申出る品により銀五百枚下さるへし、かくし置他所よりあらハるにおいてハ、其所之名主幷五人組迄一類共に罪科におこなハるへき者也

正徳元年五月　日　奉行

御請状之覚

一御制禁之切支丹宗門之者、例年御改被成候、村中男女相改候之処ニ壱人も切支丹宗門之者無御座候、依之師壇共判形仕差上申候、尤村中家持幷他国・他領より参候妻女・其外養子・召仕之ものに至迄不残遂吟味候之処に、切支丹宗門之もの無御座候御事

一面々宗旨檀那寺判形仕ニ付、新檀那之儀は、猶以念を入、他所之もの古郷之檀那寺委細吟味仕候、尤先祖よりの檀那勿論、疑敷もの無御座ニ付判形仕候御事

一五人組之仲まにて互ニ毎月宗門之吟味仕、若疑敷もの御座候ハヽ、可申上之旨被　仰付奉畏候、自然疑敷もの御座候ハヽ可申上候、幷面々召仕之ものハ、其主人も相改一札取置申候、不念之族御座候ハヽ、其主人曲事可被　仰付候御事

一他国・他領より婚姻并入百姓之儀、其者之古郷先祖よりの宗旨名主・五人組立合、切支丹宗門之類族ニて無御座候哉委細遂吟味、其者之古郷より証文取置之候御事
一久年他所に罷在古郷へ罷帰候もの、已前之宗旨と当然之宗旨と相違仕候歟、尤他所ニて之檀那寺迄委細相改、御奉行所へ古郷帰之御断申上、其上ニて指置可申候御事
右之趣名主・五人組頭・惣百姓中毎月無断絶吟味可仕候、勿論従　御公儀様被為　仰出候切支丹宗門之訴人御褒美之儀、村中男女下々等迄堅奉相守之候、為後日仍如件

一家壱軒　　加兵衛㊞
加兵衛　七拾弐歳　美濃國多藝郡中村檀那寺　東本願寺宗　應順寺㊞
女房　六拾六歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
男子喜助　弐拾八歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
男子與惣　弐拾四歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
弟藤八　七拾歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
〆五人　内男四人　女壱人

一家壱軒　　作兵衛㊞
作兵衛　三拾弐歳　美濃國多藝郡中村檀那寺　東本願寺宗　應順寺㊞
女房　弐拾九歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
〆弐人　内男壱人　女壱人

一家壱軒　　彌右衛門㊞
彌右衛門　四拾六歳　美濃國多藝郡五日市村檀那寺　東本願寺宗　林嚴寺㊞
女房　四拾歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
女子ゆり　拾七歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
弟増右衛門　四拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
下女りん　四拾五歳　同国同郡橋爪村檀那寺　右同宗　念長寺㊞
〆五人　内男弐人　女三人

一家壱軒　　半次郎㊞
半次郎　四拾弐歳　美濃國多藝郡五日市村檀那寺　東本願寺宗　林嚴寺㊞
女房　三拾九歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
女子きん　拾七歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
男子粂助　拾歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
女子るめ　七歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
男子・藤次郎　五歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
男子半助　三歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
〆七人　内男四人　女三人

一家壱軒　　甚右衛門㊞
甚右衛門　弐拾七歳　美濃國多藝郡五日市村檀那寺　東本願寺宗　休覺寺㊞
女房　弐拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞

男子　十次郎　弐歳　同国同郡同村檀那寺　同宗　同寺㊞
弟　早之助　弐拾弐歳　同国同郡同村檀那寺　同宗　同寺㊞
弟　三之助　弐七歳　同国同郡同村檀那寺　同宗　同寺㊞
〆五人　内男四人　女壱人

一寺壱軒
住持　恵純　六拾弐歳　美濃國不破郡平尾村真徳寺　東本願寺宗　導師一榮㊞
男子　多門　三拾歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　眞徳寺㊞
男子　祖傳　弐拾弐歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
女子　染　拾七歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
男子　眞彌　拾三歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
女子　すま　八歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
〆六人　内男四人　女弐人

一家壱軒
傳藏　三拾四歳　美濃國多藝郡橋爪村檀那寺　東本願寺宗　念長寺㊞
女房　弐拾八歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
男子　金藏　四歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
〆三人　内男弐人　女壱人

一家壱軒
久（ママ）八　四拾歳　美濃國多藝郡五日市村檀那寺　東本願寺宗　久次郎㊞
女房　三拾四歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
女子　き　な　弐歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
〆五人　内男弐人　女三人

一家壱軒
清六　五拾五歳　美濃國多藝郡橋爪村檀那寺　東本願寺宗　念長寺㊞
女房　四拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
男子　彦　内拾八歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
女子　と　ら　拾五歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
女子　ま　ち　弐歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
〆五人　内男弐人　女三人

一家壱軒
才助　三拾五歳　美濃國不破郡栗原村檀那寺　東本願寺宗　通玄寺㊞
女房　三拾歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
男子　市三郎　拾弐歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
男子　三助　六歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
弟　又助　三拾歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
〆五人　内男四人　女壱人

一家壱軒
五兵衛　五拾四歳　美濃國多藝郡五日市村檀那寺　東本願寺宗　五兵衛㊞

女　房　四拾四歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　仙　松　弐拾五歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女子　け　ん　弐拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女子　す　ま　拾五歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　彦四郎　四歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　太四郎　三歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
兄　九右衛門　六拾五歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
兄　新五右衛門　五拾九歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
甥　丑　松　弐拾六歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞

〆拾人　内男七人　女三人

一家壱軒　孫右衛門㊞

父　孫太夫　七拾四歳　美濃國多藝郡中村檀那寺　東本願寺宗　應順寺㊞
母　五拾九歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
孫右衛門　四拾弐歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女　房　三拾弐歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女子　い　う　拾歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　金　藏　弐歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
妹　す　ゑ　弐拾四歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞

弟　又之助　拾五歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞

〆八人　内男四人　女四人

一家壱軒　孫　七㊞

母　六拾七歳　美濃國多藝郡中村檀那寺　東本願寺宗　應順寺㊞
孫　七　三拾六歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女　房　弐拾六歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女子　な　つ　四歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞

〆四人　内男老人　女三人

一家壱軒　清兵衛㊞

清兵衛　六拾歳　美濃國多藝郡中村檀那寺　東本願寺宗　應順寺㊞
女　房　四拾四歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女子　き　り　四歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞

〆三人　内男老人　女弐人

一家壱軒　惣　七㊞

母　七拾弐歳　美濃國多藝郡中村檀那寺　東本願寺宗　應順寺㊞
惣　七　五拾五歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女　房　四拾六歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　彌　平　弐拾弐歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
嫂　拾七歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞

〆五人　内男弐人 女三人

一家壱軒

善　六　四拾歳　美濃國多藝郡中村檀那寺 東本願寺宗　應順寺㊞
女　房　四拾歳　同国同郡同村檀那寺 右同宗　同　寺㊞
男子　善之助　拾六歳　同国同郡同村檀那寺 右同宗　同　寺㊞
男子　友之助　拾三歳　同国同郡同村檀那寺 右同宗　同　寺㊞

〆四人　内男三人 女壱人

一家壱軒

助　七　五拾弐歳　美濃國多藝郡中村檀那寺 東本願寺宗　應順寺㊞　助　七㊞
女　房　四拾八歳　同国同郡同村檀那寺 右同宗　同　寺㊞
男子　長　藏　弐拾三歳　同国同郡同村檀那寺 右同宗　同　寺㊞
女子　す　な　拾七歳　同国同郡同村檀那寺 右同宗　同　寺㊞
男子　小太郎　拾四歳　同国同郡同村檀那寺 右同宗　同　寺㊞
男子　乙　助　四歳　同国同郡同村檀那寺 右同宗　同　寺㊞
弟　助太郎　四拾五歳　同国同郡同村檀那寺 右同宗　同　寺㊞

〆七人　内男五人 女弐人

一家壱軒

小　作　六拾五歳　美濃國多藝郡中村檀那寺 東本願寺宗　應順寺㊞　小　作㊞
房　五拾五歳　美濃國不破郡栗原村檀那寺 東本願寺宗　西法寺㊞

女子　ゆ　き　弐拾七歳　同国同郡同村檀那寺 右同宗　西法寺㊞

〆三人　内男壱人 女弐人

一家壱軒

七　兵　衛　六拾歳　美濃國多藝郡安久村檀那寺 東本願寺宗　德願寺㊞　七　兵　衛㊞
女　房　五拾弐歳　美濃國多藝郡安久村檀那寺 東本願寺宗　正覺寺㊞
男子　松　兵　衛　弐拾五歳　美濃國多藝郡安久村檀那寺 東本願寺宗　德願寺㊞
男子　半　平　弐拾弐歳　同国同郡同村檀那寺 右同宗　同　寺㊞
男子　小三郎　拾八歳　同国同郡同村檀那寺 右同宗　同　寺㊞
女子　ふ　さ　拾六歳　同国同郡同村檀那寺 右同宗　同　寺㊞
女子　と　め　拾三歳　同国同郡同村檀那寺 右同宗　同　寺㊞

〆七人　内男四人 女三人

一家壱軒

平　四　郎　五拾三歳　美濃國多藝郡安久村檀那寺 東本願寺宗　德願寺㊞　平　四　郎㊞
女　房　三拾八歳　同国同郡同村檀那寺 右同宗　同　寺㊞
女子　と　ら　拾六歳　同国同郡同村檀那寺 右同宗　同　寺㊞
男子　平　松　拾弐歳　同国同郡同村檀那寺 右同宗　同　寺㊞
女子　ふ　り　四歳　同国同郡同村檀那寺 右同宗　同　寺㊞

〆五人　内男弐人 女三人

一家壱軒

太次兵　衛㊞

父　又　七　六拾六歳　美濃國多藝郡安久村檀那寺　東本願寺宗　德願寺㊞
母　六拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
太次兵衛　三拾弐歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女　房　三拾歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　十　太　八歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　又　助　弐歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆六人　内男四人　内女弐人

一家壱軒　傳　三　郎㊞
傳　三　郎　六拾九歳　美濃國多藝郡安久村檀那寺　東本願寺宗　德願寺㊞
女　房　六拾弐歳　美濃國多藝郡直江村檀那寺　東本願寺宗　蓮光寺㊞
〆弐人　内男老人　内女老人

一家壱軒　藤　之　助㊞
母　三拾歳　美濃國多藝郡直江村檀那寺　東本願寺宗　蓮光寺㊞
藤之助　九歳　美濃國多藝郡安久村檀那寺　東本願寺宗　德願寺㊞
弟　安次郎　七歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
下人　長　助　五拾三歳　右同宗　同　寺㊞
〆四人　内男三人　内女壱人

〇コノ間十五軒分欠ク

母　五拾九歳　東本願寺宗　應順寺㊞
左　市　弐拾弐歳　右同宗　同　寺㊞

〆弐人　内男老人　内女老人
家数合三拾八軒　大小共
人数合百八拾三人　内男百六人　老若共　内女七拾七人　老若共

右如例年切支丹就御改、中村中拙僧共檀那紛無御座分、男女老若共壱人も不残僉議仕候処、曽て疑敷者無御座候、依之家壱軒切人別御帳書載面々檀那証拠判仕候、自然切支丹宗門之訴人於有之ハ、拙僧共速可申明候、為後日師檀共判形仕差上申候、仍如件

享保十乙巳年六月　日

京都六條東本願寺末寺　眞徳寺　一榮㊞
京都六條東本願寺末寺　應順寺　恵純㊞
京都六條東本願寺末寺　西德寺　秀海㊞
京都六條東本願寺末寺　西法寺　玄豁㊞
京都六條東本願寺末寺　正覺寺　専恵㊞
京都六條東本願寺末寺　蓮光寺　太流㊞
京都六條東本願寺末寺　德願寺　南誓㊞
京都六條東本願寺末寺　西念寺　超圓㊞
京都六條東本願寺末寺　通玄寺　秀芳㊞
京都六條東本願寺末寺　念長寺　慈辨㊞

美濃國海西郡成戸村報土寺末寺
林覺寺了意㊞

宗門御改
御奉行所

右は中村切支丹宗門如例年就御改、名主・五人組頭神文被仰付、村中老若男女壱人も不残穿鑿仕候処、曽て疑敷者無御座候ニ付、家壱軒切人別御帳面書載申候、若人数相違之儀も御座候ハヽ、如何様之曲事ニも可被仰付候、為後日仍如件

享保十乙巳年六月　日

美濃國多藝郡中村名主
同國同郡同村名主　清三郎㊞
武平治㊞
美濃國多藝郡中村五人組頭
甚右衛門㊞
同國同郡同村五人組頭
礒右衛門㊞
同國同郡同村五人組頭
惣七㊞

宗門御改
御奉行所

改
山本九郎藏㊞

御横目
近藤彦九郎㊞

紙数合四拾四枚　但上紙共

一七九　石畑村宗門改帳

○高田　稲葉時男氏所蔵

（表紙）
「　享保二十己卯年
美濃國多藝郡石畑村宗門御改帳
六月日　」

定

きりしたん宗門は、累年御制禁たり、自然不審成者有之ハ申出へし、御ほうびとして
はてれんの訴人　銀　五百枚
いるまんの訴人　銀　三百枚
立かへり者の訴人　同　断
同宿并宗門の訴人　銀　百　枚

右之通下さるべし、たとひ同宿宗門之内たりといふとも、申出る品により銀五百枚下さるべし、かくし置他所よりあらハるゝにおいてハ、其所之名主并五人組迄一類共罪科におこなハるべき者也

正徳元年五月　日　奉　行

御請状之覚

一御制禁の切支丹宗門之者例年御改被成候、村中男女相改候之処、壱人も切支丹宗門之者無御座候、依之師檀共判形仕差上申候、尤村中家持并他国・他領より参候妻女、其外養子召仕之者ニ至迄、不残遂吟味候之処ニ、切支丹宗門之者無御座候

御事

一面々宗旨檀那寺判形仕付、新檀那之儀は猶以念を入、他所の者ハ古郷之檀那寺委細吟味仕候、尤先祖よりの檀那勿論疑敷者無御座候付判形仕候御事

一五人組之仲まにて互ニ毎月宗門之吟味仕、若疑敷者御座候は可申上之旨被　仰付奉畏候、自然疑敷者御座候は可申上候、并面々召仕之者は、其主人も相改一札取置申候、不念之族御座候は、其主人曲事ニ可被　仰付候御事

一他国・他領より婚姻并入百姓之儀、其者之古郷先祖よりの宗旨名主・五人組立合、切支丹宗門之類族ニて無御座候哉委細遂吟味、其者之古郷より証文取置之候御事

一久年他所ニ罷在古郷へ罷帰り候者、以前之宗旨と当然之宗旨と相違仕候歟、尤他所ニて之檀那寺迄委細相改、御奉行所へ古郷帰り之御断申上、其上ニて差置可申候御事

右之趣名主・五人組頭・惣百姓中毎月無断絶吟味可仕候、勿論従　御公儀様被為　仰出候切支丹宗門之訴人御褒美之儀、村中男女下々等迄堅奉相守之候、為後日之仍如件

一家壱軒　　權　助㊞
權　助　五拾七歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺東本願寺宗　淨誓寺㊞
女　房　五拾弐歳　同国同郡同村檀那寺右同宗　同　寺㊞
女子　な　つ　弐拾六歳　同国同郡同村檀那寺右同宗　同　寺㊞

女子　さ　つ　拾壱歳　同国同郡同村檀那寺右同宗　同　寺㊞
〆四人　内男壱人女三人

一家壱軒　又　六㊞
母　七拾三歳　美濃國多藝郡五日市村檀那寺東本願寺宗　林覺寺㊞
又　六　三拾四歳　美濃國多藝郡五日市村檀那寺東本願寺宗　林覺寺㊞
女　房　弐拾三歳　同国同郡同村檀那寺右同宗　同　寺㊞
兄　彦　六　三拾八歳　同国同郡同村檀那寺右同宗　同　寺㊞
弟　六之助　弐拾九歳　同国同郡同村檀那寺右同宗　同　寺㊞
〆五人　内男三人女弐人

一家壱軒　彌右衞門㊞
彌右衞門　四拾八歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺東本願寺宗　淨誓寺㊞
女　房　四拾三歳　同国同郡同村檀那寺右同宗　同　寺㊞
男子　林　助　弐拾壱歳　同国同郡同村檀那寺右同宗　同　寺㊞
下女　す　き　五拾八歳　同国同郡同村檀那寺右同宗　同　寺㊞
〆四人　内男弐人女弐人

一家壱軒　作右衞門㊞
作右衞門　五拾六歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺東本願寺宗　淨誓寺㊞
男子　小十郎　弐拾四歳　同国同郡同村檀那寺右同宗　同　寺㊞
姪　拾五歳　同国同郡同村檀那寺右同宗　同　寺㊞

男子　彌　八　拾五歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
下人　仁　助　六拾歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
下女　ふ　く　四拾五歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆六人　内男四人　女弐人

一家壱軒
母　七拾六歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　専明寺㊞
喜　三　郎　三拾三歳　美濃國多藝郡東本願寺宗　東本願寺　淨誓寺㊞
女　房　弐拾弐歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
兄　甚　太　郎　四拾五歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆四人　内男弐人　女弐人　喜三郎㊞

一家壱軒
庄　藏　四拾六歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
女　房　四拾三歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　甚　助　拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
男子　庄之助　九歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女子　つ　ま　五歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆五人　内男三人　女弐人　庄藏㊞　利助　後家㊞

一家壱軒
後　家　三拾六歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
女子　さ　や　九歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆弐人　女二人

一家壱軒
母　七拾弐歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
佐右衛門　四拾五歳　美濃國多藝郡直江村檀那寺　東本願寺宗　蓮光寺㊞
女　房　三拾七歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
男子　與　助　拾五歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
弟　甚　八　四拾四歳　美濃國多藝郡直江村檀那寺　東本願寺宗　蓮光寺㊞
〆五人　内男三人　女弐人　佐右衛門㊞

一家壱軒
久　六　三拾八歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
女　房　三拾五歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女子　き　く　弐歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆三人　内男壱人　女弐人　久六㊞

一家壱軒
清右衛門　五拾九歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
女　房　五拾四歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　與三右衛門　弐拾三歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞　清右衛門㊞

男子　勘次郎　拾壱歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　同　寺㊞
下人　仁太郎　四拾六歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
下女　か　や　四拾六歳　美濃國不破郡栗原村檀那寺　東本願寺宗　西念寺㊞
〆六人　内男四人　女弐人

一家壱軒　三　平㊞
三　平　三拾四歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
女　房　弐拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆弐人　内男壱人　女壱人

一家壱軒　與兵衛㊞
與兵衛　六拾四歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
女　房　四拾三歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　東本願寺宗　專明寺㊞
男子　三　平　六歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆三人　内男弐人　女壱人

一家壱軒　五郎右衛門㊞
五郎右衛門　三拾弐歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
女　房　弐拾三歳　美濃國石津郡澤田村檀那寺　東本願寺宗　眞泉寺㊞
女子　と　よ　七歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
男子　次郎三郎　四歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
男子　平次郎　弐歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞

下女　つ　や　弐拾四歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆六人　内男三人　女三人

一家壱軒　所右衛門㊞
所右衛門　六拾壱歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
男子　市　助　三拾五歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　庄之助　弐拾歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女子　り　ん　拾三歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆四人　内男三人　女壱人

一家壱軒　七　郎　平㊞
七　郎　平　五拾四歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
女　房　四拾四歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女子　き　り　拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　市　作　七歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆四人　内男弐人　女弐人

一家壱軒　新　七㊞
新　七　五拾七歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
女　房　四拾五歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　新　八　拾歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆三人　内男弐人　女壱人

一家壱軒　市右衛門㊞
市右衛門　四拾九歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
女　房　四拾歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　市三郎　九歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆三人　内男弐人　女壱人

一家壱軒　久　七郎㊞
久　七　三拾九歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
女子　き　五歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女子　よ　五歳
〆寺人　内男壱人　女壱人

一家壱軒　七　郎　次㊞
母　六拾六歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　東本願寺宗　專明寺㊞
七　郎　次　弐拾弐歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
〆弐人　内男壱人　女壱人

一家壱軒　清　兵　衛㊞
清　兵　衛　四拾七歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
女　房　四拾壱歳　美濃國不破郡栗原村檀那寺　東本願寺宗　西念寺㊞
男子　岩　助　弐拾壱歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
女子　よ　し　拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女子　つ　な　九歳　美濃國不破郡栗原村檀那寺　東本願寺宗　西念寺㊞

男子　五郎三郎　六歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
〆六人　内男三人　女三人

一家壱軒　五郎兵衛㊞
五郎兵衛　六拾九歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
男子　紋四郎　三拾四歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
嫁　弐拾弐歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　彦太郎　弐拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
下人　金三郎　三拾五歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆五人　内男四人　女壱人

一家壱軒　利　三　郎㊞
利　三　郎　四拾壱歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
女　房　三拾七歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
男子　松之助　拾五歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　松次郎　拾四歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　六次郎　九歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆五人　内男四人　女壱人

一家壱軒　彦　平㊞
母　七拾三歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
彦　平　四拾五歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞

男子　孫四郎　拾七歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　門四郎　拾四歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　彦四郎　九歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
下女　な　つ　五拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆六人　内男四人　内女弐人

一家壱軒
喜　助　六拾壱歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞　喜　助㊞
〆壱人　男

一家壱軒
仁　平　四拾弐歳　美濃國多藝郡直江村檀那寺　東本願寺宗　蓮光寺㊞　仁　平㊞
女　房　三拾三歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女子　□　り　四歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆三人　内男壱人　内女弐人

一家壱軒
母　六拾九歳　美濃國多藝郡直江村檀那寺　東本願寺宗　蓮光寺㊞　權　三　郎㊞
權　三　郎　三拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆弐人　内男壱人　内女壱人

一家壱軒
早　助　三拾六歳　美濃國多藝郡直江村檀那寺　東本願寺宗　蓮光寺㊞　早　助㊞

女　房　三拾弐歳　受不施美濃國安八郡大垣檀那寺　日蓮宗　本顯寺㊞
女子　ゆ　り　四歳　美濃國多藝郡直江村檀那寺　東本願寺宗　蓮光寺㊞
〆三人　内男壱人　内女弐人

一家壱軒
母　五拾弐歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞　竹之助㊞
竹之助　弐拾三歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女　房　弐拾歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆三人　内男壱人　内女弐人

一家壱軒
惣右衛門　五拾八歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　東本願寺宗　專明寺㊞　惣右衛門㊞
女　房　四拾六歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　兵之助　弐拾七歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　東本願寺宗　專明寺㊞　兵　衛㊞
男子　友之助　弐拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女子　ち　よ　拾四歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　千之助　拾三歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　權之助　拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆七人　内男五人　内女弐人

一家壱軒
母　四拾八歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　東本願寺宗　專明寺㊞

惣兵衛　三拾六歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
男子　與三兵衛　三歳　美濃國多藝郡鵜巣村檀那寺　東本願寺宗　專明寺㊞
妹　きよ　弐拾歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
妹　りつ　拾六歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
弟　藤次郎　拾四歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
下女　なつ　四拾三歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
下女　かや　四拾三歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
〆八人　内男三人　女五人

一家壱軒　小三郎㊞
小三郎　三拾九歳　美濃國多藝郡鵜巣村檀那寺　東本願寺宗　專明寺㊞
女房　三拾五歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
〆弐人　内男壱人　女壱人

一家壱軒　後家
後家　四拾五歳　美濃國多藝郡鵜巣村檀那寺　東本願寺宗　專明寺㊞
男子　三太郎　九歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
男子　三次　三歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
〆三人　内男弐人　女壱人

一家壱軒　善兵衛㊞
母　九拾三歳　美濃國不破郡栗原村檀那寺　東本願寺宗　西念寺㊞

善兵衛　四拾八歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
〆弐人　内男壱人　女壱人

一家壱軒　六右衛門㊞
六右衛門　七拾三歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
女房　六拾六歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
男子　三之助　三拾弐歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
娘　拾六歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
〆四人　内男弐人　女弐人

一家壱軒　新八㊞
新八　三拾八歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
女子　さや　三歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
〆弐人　内男壱人　女壱人

一家壱軒　七兵衛㊞
七兵衛　六拾六歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
男子　七助　三拾弐歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
娘　弐拾四歳　美濃國不破郡栗原村檀那寺　東本願寺宗　西念寺㊞
女子　りん　弐拾九歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
男子　與八　拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同寺㊞
〆五人　内男三人　女弐人

一家老軒　圓之　助㊞
母　五拾三歳　美濃國多藝郡直江村檀那寺　東本願寺宗　蓮光寺㊞
圓之助　拾八歳　同國同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
姉　な　つ　弐拾歳　同國同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
妹　は　な　拾壱歳　美濃國多藝郡直江村檀那寺　東本願寺宗　蓮光寺㊞
従弟　六太郎　五拾弐歳　美濃國不破郡栗原村檀那寺　東本願寺宗　西念寺㊞
〆五人　内男弐人　女三人

一家老軒　武右衛門　㊞
武右衛門　五拾四歳　美濃國不破郡栗原村檀那寺　東本願寺宗　西念寺㊞
弟　三太郎　四拾七歳　同國同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆弐人　男

一家老軒　庄之　助㊞
母　六拾壱歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　東本願寺宗　専明寺㊞
庄之助　三拾四歳　同國同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女　房　弐拾壱歳　同國同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
弟　喜　助　弐拾九歳　同國同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆四人　内男弐人　女弐人

一家老軒　長　助㊞
長　助　五拾歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　東本願寺宗　専明寺㊞
女　房　四拾三歳　同國同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　長　松　八歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　東本願寺宗　専明寺㊞
女子　さ　な　弐歳　同國同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆四人　内男弐人　女弐人

一家老軒　三　太　郎㊞
三太郎　四拾七歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　東本願寺宗　専明寺㊞
女　房　三拾九歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　浄誓寺㊞
弟　三　平　三拾五歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　東本願寺宗　専明寺㊞
男子　與　藏　弐歳　同國同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆四人　内男三人　女壱人

一家老軒　喜　八㊞
喜　八　五拾歳　美濃國多藝郡柏尾村檀那寺　東本願寺宗　存德寺㊞
女　房　四拾六歳　同國同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　三　助　拾壱歳　同國同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　喜　助　三歳　同國同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
妹　ち　よ　四拾九歳　同國同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆五人　内男三人　女弐人

一家老軒　清　助㊞
清　助　三拾七歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　浄誓寺㊞

弟　三　平　三拾歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女　房　弐拾八歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆三人　内男弐人　女壱人
一家壱軒　加　平㊞
母　六拾弐歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
加　平　四拾九歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女　房　三拾弐歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女子　ま　つ　拾五歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女子　わ　き　九歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
弟　久之助　三拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆六人　内男弐人　女四人
一家壱軒　後　家㊞
後　家　四拾壱歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　東本願寺宗　專明寺㊞
女子　さ　や　拾八歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女子　か　ち　拾六歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　次　郎　九歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆四人　内男壱人　女三人
一家壱軒　次右衛門㊞
母　六拾九歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　東本願寺宗　專明寺㊞

次右衛門　四拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女　房　弐拾四歳　美濃國不破郡栗原村檀那寺　東本願寺宗　西法寺㊞
女子　さ　つ　五歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　東本願寺宗　專明寺㊞
〆四人　内男壱人　女三人
一家壱軒　孫　助㊞
母　五拾四歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　東本願寺宗　專明寺㊞
孫　助　弐拾六歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　東本願寺宗　專明寺㊞
妹　き　ん　弐拾三歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
従弟　太郎助　四拾八歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆四人　内男弐人　女弐人
一家壱軒　惣　四　郎㊞
惣　四　郎　四拾八歳　美濃國多藝郡安久村檀那寺　東本願寺宗　正覺寺㊞
伯　母　八拾歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　東本願寺宗　專明寺㊞
兄　松　兵衛　五拾弐歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆三人　内男弐人　女壱人
一寺壱軒　淨　誓　寺㊞
父　恵　昌　八拾四歳　美濃國不破郡平尾村真徳寺　東本願寺宗　導師眞榮㊞
母　八拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　眞徳寺㊞
淨　隆　住持　六拾六歳　美濃國不破郡平尾村真徳寺　東本願寺宗　導師眞榮㊞

女　房　四拾四歳　美濃國不破郡平尾村檀那寺　東本願寺宗　眞徳寺㊞
男子　若　龍　拾六歳　同國同郡同村檀那寺　同宗　同寺㊞
男子　誓　山　拾老歳　同國同郡同村檀那寺　同宗　同寺㊞
下人　佐　助　三拾歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　東本願寺宗　專明寺㊞
〆七人　内男五人　女弐人

一家老軒　庄　三　郎㊞
母　七拾九歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　東本願寺宗　專明寺㊞
庄　三　郎　三拾五歳　同國同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女　房　弐拾四歳　美濃國多藝郡上方村檀那寺　西本願寺宗　妙圓寺㊞
男子　久　作　五歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　東本願寺宗　專明寺㊞
男子　喜　作　弐歳　同國同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
下人　八　藏　三拾三歳　同國同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
下女　せ　き　三拾七歳　同國同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆七人　内男四人　女三人

一家老軒　善　助㊞
善　助　五拾四歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　東本願寺宗　專明寺㊞
女　房　五拾四歳　同國同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　久　彌　拾歳　同國同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆三人　内男弐人　女老人

一家老軒　源　七㊞
母　六拾六歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　東本願寺宗　專明寺㊞
源　七　四拾老歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　東本願寺宗　專明寺㊞
弟　源　六　三拾五歳　同國同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆三人　内男弐人　女老人

一家老軒　彦　市㊞
彦　市　五拾八歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　東本願寺宗　專明寺㊞
女　房　四拾七歳　同國同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　小　八　弐拾三歳　同國同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　又五郎　拾九歳　同國同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆四人　内男三人　女老人

一家老軒　宇　平　次㊞
母　八拾歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　東本願寺宗　專明寺㊞
宇　平　次　四拾三歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　東本願寺宗　同　寺㊞
女　房　弐拾三歳　同國同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆三人　内男老人　女弐人

一家老軒　佐次兵衛㊞
母　七拾五歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
佐次兵衛　五拾八歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞

女　房　四拾七歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　三之助　拾四歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　市之助　拾三歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆五内　内男三人　女弐人

一家壱軒　惣　七㊞
惣　七　六拾九歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
女　房　六拾七歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　惣　市　弐拾四歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆三人　内男弐人　女壱人

一家壱軒　曾　平㊞
曾　平　三拾九歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
女　房　三拾五歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆弐人　内男壱人　女壱人

一家壱軒　庄　吉㊞
母　六拾八歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
庄　吉　三拾歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
弟　喜　助　弐拾四歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆三人　内男弐人　女壱人

一家壱軒　忠大夫㊞

忠大夫　六拾七歳　美濃國多藝郡安久村檀那寺　東本願寺宗　徳願寺㊞
女　房　六拾弐歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　忠次郎　三拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　與三郎　九歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆四人　内男三人　女壱人

一家壱軒　後　半内　家㊞
後　家　四拾五歳　美濃國多藝郡安久村檀那寺　東本願寺宗　徳願寺㊞
〆壱人　女

一家壱軒　次郎兵衛㊞
母　四拾六歳　美濃國不破郡栗原村檀那寺　東本願寺宗　西念寺㊞
次郎兵衛　弐拾五歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆弐人　内男壱人　女壱人

一家壱軒　市　兵　衛㊞
市　兵　衛　四拾六歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
女　房　四拾弐歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
男子　市之助　九歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女子　りん　弐歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆四人　内男弐人　女弐人

一家壱軒　長　八㊞

一家壱軒
長　八　七拾八歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　専明寺㊞
女　房　六拾七歳　同国同郡同村檀那寺　同　寺㊞
〆弐人　内男壱人　女壱人

一家壱軒
市　助　四拾弐歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　専明寺㊞
女　房　三拾八歳　同国同郡同村檀那寺　同　寺㊞
男子　長　助　拾七歳　同国同郡同村檀那寺　同　寺㊞
〆三人　内男弐人　女壱人

一家壱軒
源　次　郎　五拾七歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　専明寺㊞
女　房　四拾六歳　美濃國多藝郡高田町檀那寺　景陽寺㊞
女子　り　よ　拾三歳　同国同郡同町檀那寺　同　寺㊞
〆三人　内男壱人　女弐人

一家壱軒
金　六　四拾四歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　専明寺㊞
女　房　四拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　同　寺㊞
女子　み　よ　拾三歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　専明寺㊞
女子　た　け　拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　同　寺㊞
〆四人　内男壱人　女三人

一家壱軒
角　平　三拾三歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　浄誓寺㊞
男子　市　助　拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　同　寺㊞
男子　五　郎　九歳　同国同郡同村檀那寺　同　寺㊞
〆三人　男

一家壱軒
吉　太　夫　五拾六歳　美濃國多藝郡大墳村檀那寺　妙徳院㊞
女　房　四拾八歳　同国同郡同村檀那寺　同　寺㊞
男子　吉之助　拾弐歳　同国同郡同村檀那寺　同　寺㊞
女子　れ　ん　拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　同　寺㊞
女子　ま　つ　拾歳　同国同郡同村檀那寺　同　寺㊞
〆五人　内男弐人　女三人

一家壱軒
彦　助　四拾七歳　美濃國多藝郡高田町檀那寺　景陽寺㊞
女　房　四拾四歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　浄誓寺㊞
男子　市　九　郎　五歳　同国同郡同村檀那寺　同　寺㊞
〆三人　内男弐人　女壱人

一家壱軒
久右衛門　四拾七歳　美濃國多藝郡鷲巣村檀那寺　専明寺㊞

女　房　四拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　久之助　拾三歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女子　かん　拾弐歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆四人　内男弐人　女弐人

一家壱軒　久　四　郎㊞
母　四拾弐歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
久　四　郎　弐拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
妹　ふ　さ　九歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆三人　内男壱人　女弐人

一家壱軒　孫三郎　後　家
後　家　五拾五歳　美濃國多藝郡鷺巣村檀那寺　東本願寺宗　專明寺㊞
〆壱人　女

一家壱軒　孫　兵　衛㊞
母　四拾歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
孫　兵　衛　拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆弐人　内男壱人　女壱人

一家壱軒　太　四　郎㊞
太　四　郎　三拾七歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
女　房　弐拾四歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞

弟　又　次　弐拾弐歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆三人　内男弐人　女壱人

一家壱軒　九　平
九　平　四拾九歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
〆壱人　男

一家壱軒　治　太　郎㊞
治　太　郎　三拾五歳　美濃國多藝郡石畑村檀那寺　東本願寺宗　淨誓寺㊞
女　房　弐拾五歳　美濃國多藝郡中村檀那寺　東本願寺宗　應順寺㊞
〆弐人　内男壱人　女壱人

家数合七拾六軒　大　小　共
人数合弐百七拾八人　内男百五拾三人　女百弐拾五人　老若共

右如例年切支丹就御改、石畑村中拙僧共檀那紛無御座分、男女老若共壱人も不残僉議仕候処、曽て疑敷者無御座候、依之家壱軒切人別御帳書載面々檀那証拠判仕候、自然切支丹宗門之訴人於有之ハ拙僧共速可申明候、為後日之師檀共判形仕差上申候、仍如件

享保二十乙卯年六月　日

近江國坂田郡柏原宿成菩提院末寺　妙徳院　亮潤㊞
京都六條西本願寺末寺　妙圓寺　眞哲㊞
京都六條東本願寺末寺　眞徳寺　眞榮㊞

京都六條東本願寺末寺　專明寺　泰澄㊞
京都六條東本願寺末寺　存德寺　寂應㊞
京都六條東本願寺末寺　德願寺　南誓㊞
京都六條東本願寺末寺　蓮光寺　太流㊞
京都六條東本願寺末寺　西念寺　澄圓㊞
京都六條東本願寺末寺　正覺寺　義傳㊞
京都六條東本願寺末寺　景陽寺　恵秀㊞
京都六條東本願寺末寺　淨誓寺　淨隆㊞
京都六條東本願寺末寺　眞泉寺　玄香㊞
京都六條東本願寺末寺　西法寺　誓順㊞
美濃國海西郡成戸村報土寺末寺　林覺寺　了意㊞
京都小川通妙顯寺末寺　本顯寺　日昉㊞
京都六條東本願寺末寺　應順寺　恵春㊞

宗門御改
御奉行所

右は石畑村切支丹宗門如例年就御改、名主・五人組頭神文被仰付、村中老若男女老人も不残穿鑿仕候処、曽て疑敷者無御座候ニ付、家壱軒切人別御帳面ニ書載申候、若人数相違之儀御座候ハヽ、如何様之曲事ニも可被　仰付候、為後日仍如件

享保二十乙卯六月　日

美濃國多藝郡石畑村名主　五郎右衛門㊞
同国同郡同村五人組頭　作右衛門㊞
同国同郡同村五人組頭　庄　平㊞

宗門御改
御奉行所

一八〇　石畑・飯田村伊勢神領宗門改帳

〇高田　稲葉時男氏所蔵

（表紙）
「　宝暦三癸酉年
美濃國多藝郡石畑村・飯田村
御神領御百姓中宗門御改帳
八月廿日　　下帳」

石畑村

東本願寺宗檀那寺淨誓寺　與三右衛門
右同断　安次郎
右同断　與三次郎
〆六人

東本願寺宗檀那寺淨誓寺　女房
右同断　常次郎
右同断　下人　林蔵

東本願寺宗檀那寺淨誓寺　繁右衛門
右同断　父　道意

東本願寺宗檀那寺淨誓寺　女房
右同断　母

右同断　下人　喜助

〆五人

東本願寺宗檀那寺浄誓寺
五郎右衛門

東本願寺宗檀那寺浄誓寺
下人　與助

〆弐人

東本願寺宗檀那寺浄誓寺
彦平

東本願寺宗檀那寺浄誓寺
孫四郎

右同断　女房

〆三人

東本願寺宗檀那寺浄誓寺
八五郎

東本願寺宗檀那寺浄誓寺
母

〆弐人

東本願寺宗檀那寺浄誓寺
小十郎

東本願寺宗檀那寺浄誓寺
女房

〆弐人

東本願寺宗檀那寺浄誓寺
幸右衛門

東本願寺宗檀那寺浄誓寺
女房

右同断　米次郎

〆三人

東本願寺宗檀那寺浄誓寺
七郎平

東本願寺宗檀那寺浄誓寺
女房

右同断　市之助

〆三人

東本願寺宗檀那寺浄誓寺
久作

東本願寺宗檀那寺浄誓寺
弟喜作

右同断　下女つや

〆三人

東本願寺宗檀那寺
浄誓寺

人数合弐拾九人

飯田村
東本願寺宗檀那寺相順寺
文右衛門

東本願寺宗檀那寺相順寺
女房

右同断　彌五七

右同断　文次郎

右同断　下女かや

〆五人

右之通五歳已上之者、此度念入相改、御帳ニ書載申候、切支丹宗門之者壱人も無御座候、若切支丹宗門之者御座候ハヽ、我等可為越度候、為後日仍如件

宝暦三癸酉年
八月廿日

石畑村名主
與三右衛門

福嶋伊豆守様

一八一　喜多村宗門改帳

○勢至　野村辰夫氏所蔵

（表紙）
「明和七庚寅年
美濃國多藝郡喜多村宗門御改帳
六月　日」

定

きりしたん宗門ハ、累年御制禁たり、自然不審成者有之ハ申出へし、御ほうひとして

はてれんの訴人　銀五百枚
いるまんの訴人　銀三百枚
立かへり者の訴人　同断
同宿并宗門の訴人　銀百枚

右之通下さるへし、たとひ同宿宗門之内たりといふとも、申出る品により銀五百枚下さるへし、かくし置他所よりあらハるゝにおゐては、其所之名主并五人組迄、一類共に罪科におこなハるへき者也

正徳元年五月　日　　奉　行

御請状之覚

一御制禁之切支丹宗門之者、例年御改被成候、村中男女相改候之処、壱人も切支丹宗門之者無御座候、依之師檀共判形仕差上申候、尤村中家持并他国・他領より参候妻女、其外養子・召仕之ものに至迄不残遂吟味候之処、切支丹宗門之者無御座候御事

一面々宗旨檀那寺判形仕ニ付、新檀那之儀は猶以念を入、他所之者ハ古郷之檀那寺迄委細吟味仕候、尤先祖よりの檀那勿論疑鋪者無御座候ニ付、判形仕候御事

一五人組之仲まにて、互に毎月宗門之吟味仕、若疑鋪もの御座候ハゝ、可申上之旨被　仰付奉畏候、自然疑敷者御座候ハゝ、可申上候、并面々召仕之ものハ、其主人も相改一札取置申候、不念之族御座候ハゝ、其主人曲事ニ可被　仰付候御事

一他国・他領より婚姻并入百姓之儀、其者之古郷・先祖よりの宗旨、名主・五人組立会、切支丹宗門之類族にて無御座候哉委細遂吟味、其者之古郷より証文取置之申候御事

一久年他所に罷在、古郷へ罷帰候者、已前之宗旨と当然之宗旨と相違仕候歟、尤他所（ニ脱）て之檀那寺迄委細相改、御奉行所へ古郷帰之御断申上、其上ニて差置可申候御事

右之趣名主・五人組頭・惣百姓中、毎月無断絶吟味可仕候、勿論従　御公義様被為仰出候切支丹宗門之訴人御褒美之儀、村中男女下々等迄堅奉相守之候、為後日仍如件

一家壱軒　　八　郎　治㊞
八　郎　治　四拾四歳　美濃國多藝郡鵜巣村檀那寺　東本願寺宗　專明寺㊞
女　房　弐拾七歳　同國同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女子　よ　そ　九歳　同國同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
女子　き　を　六歳　美濃國多藝郡鵜巣村檀那寺　東本願寺宗　專明寺㊞
男子　鐵　治　弐歳　同國同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆五人　内男弐人　女三人

一家壱軒　　重　四　良㊞
重　四　良　弐拾六歳　美濃國多藝郡鵜巣村檀那寺　東本願寺宗　專明寺㊞

妹　もよ　弐拾三歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺印

〆弐人　内男壱人　内女壱人

一家壱軒　惣助後家

後家　四拾五歳　美濃國多藝郡鴉巣村檀那寺　東本願寺宗　専明寺印

女子　そよ　弐拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺印

女子　いそ　拾七歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺印

女子　ふき　拾三歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺印

男子　乙治良　六歳　美濃國多藝郡鴉巣村檀那寺　東本願寺宗　専明寺印

〆五人　内男壱人　内女四人

一家壱軒　元助

元　助　六拾四歳　美濃國多藝郡鴉巣村檀那寺　東本願寺宗　専明寺印

男子　安七　拾七歳　美濃國多藝郡鴉巣村檀那寺　東本願寺宗　専明寺印

女子　みよ　拾三歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺印

男子　權治　拾壱歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺印

〆四人　内男三人　内女壱人

一家壱軒　了玄

了　玄　六拾五歳　美濃國多藝郡大墳村檀那寺　天台宗　妙徳院印

女　房　四拾八歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺印

男子　百治郎　拾八歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺印

男子　冨治郎　拾壱歳　美濃國多藝郡大墳村檀那寺　天台宗　妙徳院印

〆四人　内男三人　内女壱人

一家壱軒　市助

母　七拾五歳　美濃國多藝郡中村檀那寺　東本願寺宗　應順寺印

市　助　五拾五歳　美濃國多藝郡中村檀那寺　東本願寺宗　應順寺印

男子　與太郎　拾弐歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺印

〆三人　内男弐人　内女壱人

一家壱軒　善治郎

善　治郎　□拾歳　愛不施　美濃國安八郡大垣檀那寺　日蓮宗　本顯寺印

女　房　三拾七歳　同国同郡同所檀那寺　右同宗　同　寺印

男子　辰治良　弐拾三歳　同国同郡同所檀那寺　右同宗　同　寺印

〆三人　内男弐人　内女壱人

一家壱軒　清助

母　七拾五歳　美濃國多藝郡中村檀那寺　東本願寺宗　應順寺印

清　助　三拾八歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺印

〆弐人　内男壱人　内女壱人

一家壱軒　乙助

乙　助　三拾歳　美濃國多藝郡中村檀那寺　東本願寺宗　應順寺印

女　房　弐拾九歳　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺印

女子　や　つ　拾弐歳　　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
男子　岩　治　良　五歳　　美濃國多藝郡中村檀那寺　東本願寺宗　應順寺㊞
男子　淺　七　弐歳　　同国同郡同村檀那寺　右同宗　同　寺㊞
〆五人　内男三人女弐人

家数合九軒　大小共
人数合三拾三人　内男拾八人女拾五人　老若共

右如例年切支丹宗門就御改、喜多村中拙僧共檀那紛無御座分、男女老若共壱人も不残僉儀仕候処、曽て疑鋪者無御座候、依之家壱軒切人別御帳書載、面々檀那証拠判仕候、自然切支丹宗門之訴人於有之は、拙僧共速可申明候、為後日師檀共判形仕差上ヶ申候、仍如件

近江國坂田郡柏原宿成菩提院末寺　妙　徳　院㊞

右住持病死、無住ニ付、美濃國多藝郡金屋村玉泉院円綸代印仕、差上之者也
京都小川通妙顯寺末寺　本　顯　寺　日　遵㊞
京都六條東本願寺末寺　專　明　寺　諦　音㊞
京都六條東本願寺末寺　應　順　寺　旭　山㊞

明和七庚寅年六月　日

宗門御改御奉行所

右は喜多村切支丹宗門如例年就御改、名主・五人組頭神文被仰付、村中老若男女壱人も不残穿鑿仕候之処、曽て疑鋪者無御座候ニ付、家壱軒切人別御帳面書載申候、若人数相違之儀も御座候ハヽ、如何様之曲事ニも可被　仰付候、為後日仍如件

明和七庚寅年六月　日

美濃國多藝郡喜多村名主　庄　兵　衛㊞
同国同郡同村五人組頭　八　郎　治㊞

宗門御改御奉行所

紙数合拾七枚　但シ上紙共

御横目　改　後　藤　藤　藏㊞
三　友　喜　藏㊞

一八二　五日市村宗門人別改帳

〇上方　吉田　実氏所蔵

（表紙）「　寛政八年　（書）扣下□
東本願寺宗
美濃國多藝郡五日市村当辰年宗門人別御改（帳）□
辰三月　紙数表紙□
□　□」

定

きりしたん宗門は、累年御制禁たり、自然不審成もの有之ハ申出へし、御ほうひとして

はてれんの訴人　銀五百枚
いるまんの訴人　銀三百枚
立帰り者の訴人　同　断
同宿并宗門の訴人　銀百枚

右之[　]（通下さ）るへし、たとい同宿宗門之内たりという共、申出品により銀五百枚下さるへし、かくし置他所よりあらハるゝにおゐてハ、其所之名主并五人組迄一類共、罪科におこなハるへき者也

正徳元年五月　日　　奉　行

差上申一札之事

一切支丹宗門之儀、累年御制禁被　仰付候得共、彌以此度御穿鑿ニ付、村中大小之百姓召仕之男女・門家・借屋并出家・社人・山伏・行人・虚無僧・博士・太夫、其外鍼多・乞食・非人等ニ至る迄悉吟味可仕旨被　仰付、当村住居之もの壱人も不残明細ニ吟味仕候処、右宗門は不及申上ニ、前々邪宗門にてころび候もの并類族之もの曽て無御座候、依之銘々檀那寺請判為仕申候、猶又自今以後無断絶五人組帳相改、疑敷宗門之もの御座候ハヽ、早速御注進可申上旨被　仰付奉畏候、依之村中人別寺請判形差上申候

一何れ之門派共誰弟子共不知僧尼有之ハ可申出候、僧俗共尋常ニ替り勤行仕歟、仏具其外あやしき道具所持仕候もの有之ハ可申出事

一面々宗旨檀那寺判形仕候ニ付、新檀那之儀は猶以念ヲ入、他所之ものハ古郷之檀那寺委細吟味仕、尤先祖より之檀那勿論疑敷もの無御座候ニ付判形仕候事

一他国他村より縁付罷越、或は養子并入百姓之儀は、其者之古郷先祖より之宗旨、名主・五人組立会切支丹宗門之類族ニて無御座候哉委細遂吟味、其者之古郷より証文取置之候事

一久年他所ニ罷在、古郷ゑ罷帰り候もの、以前之宗旨と当然之宗旨と相違仕候歟、尤他所にて之檀那寺迄委細相改　御奉行所ゑ古郷帰り之御断申上、其上ニて差置可申事

一此帳面連判外之もの壱人も村中ニ住居為仕間敷事

一他所より召抱候奉公人男女共、半季たり共寺請状庄屋方ゑ取置可申事

一切支丹宗門御制禁之御高札損シ候歟、文字見ゑ兼候ハヽ可申上候事

右之趣、庄屋・年寄・五人組・惣百姓常々無断絶吟味可仕候、尤切支丹宗門御制禁之御高札之趣、村中男女下々等迄弥堅可奉相守候、為後日仍如件

美濃國多藝郡五日市村

家壱軒

一東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覚寺　檀那㊞　高四石四斗三升八合　林右衛門　年五拾弐歳

東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覚寺　檀那㊞　女房　年三拾九歳

是ハ美濃國多藝郡石畑村彦兵衛娘弐拾四年以前縁付来リ申候

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那㊞　娘　ひ　年拾六歳　さ

「去ル宗門御改之後縁付候」（下ヶ札）

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那㊞　悴　要助　年八歳

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那㊞　娘　み　年四歳　ね

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那㊞　母　慈照　年八拾歳

〆六人　内男弐人　女四人　牛壱疋黒毛

外

老　人　是は美濃國多藝郡櫻井村太兵衛方へ四拾年以前縁付申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之　姉　り　つ　年五拾四歳

老　人　是ハ美濃國多藝郡津屋村平右衛門方へ弐拾八年以前縁付申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之　妹　つ　な　年四拾四歳

老　人　是ハ美濃國多藝郡嶋田村之内高田町京屋金十郎方へ拾壱年以前養子ニ差遣申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之　弟　宇八　年四拾三歳

家老軒

一東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覺寺　檀那㊞　高弐石七斗三升　伊兵衛㊞　年三拾五歳

是ハ当村藤兵衛悴弐拾弐年以前養子ニ来り申候　同国同郡同村　同　寺　檀那　女　房　年弐拾八歳

同　宗　是ハ美濃國多藝郡柏尾村林右衛門娘拾壱年以前縁付来り申候

同国同郡同村　同　寺　檀那　娘　な　年拾歳　を

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　娘　み　年七歳　な

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　悴　伊助　年三歳

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　娘　く　年壱歳　ゑ

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　養父所　左衛門㊞　年七拾歳　母　年六拾歳

東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覺寺　檀那

〆八人　内男三人　女五人　牛壱疋黒毛

外

老　人　是ハ美濃國多藝郡直江村半縞方へ四拾三年以前縁付申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之　伯母　き　さ　年六拾八歳

老　人　是ハ美濃國多藝郡柏尾村林右衛門方へ四拾三年以前縁付申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之　伯母　と　よ　年六拾六歳

老　人　是は美濃國不破郡野上村孫左衛門方へ四拾年以前縁付申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之　伯母　い　な　年六拾四歳

家老軒

一東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覺寺　檀那　伊兵衛従弟水呑　和七　年四拾三歳

同国同郡同村　同　寺　檀那　女　房　年三拾三歳

同　宗　是ハ美濃國多藝郡上之郷村領左衛門娘拾七年以前縁付来申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　悴　龜三郎　年拾壱歳

東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覚寺　檀那　悴　脇三郎　年七歳

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　父　心浄　年八拾四歳

（下ヶ紙）
「去ル宗門御改之後相果申候」
〆五人　内男四人　女壱人

（札ヶ下）

外

壱　人　伯父平兵衛　是は美濃國多藝郡嶋田村之内高田町六郎兵衛方へ　年六拾四歳
四拾九年以前養子ニ差遣申候、宗門之義其所ニて
御改ニ付判形除之

壱　人　姉　留江　是は美濃國多藝郡中村五郎兵衛方へ三拾六年　年四拾七歳
以前縁付申候、宗門之儀其所ニて御改ニ付判形除之

壱　人　娘　浪江　是は尾州名古屋櫻之町藤屋源兵衛方え年季奉公ニ　年拾四歳
差遣し置、宗門之儀其所ニて御改ニ付判形除之

家壱軒

一東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覚寺　檀那　高拾三石弐斗六升四合

十　郎次　年四拾歳

同国同郡同村　同　寺　檀那　女　房　是ハ当村清右衛門娘拾壱年以前縁付来申候　年弐拾八歳

東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覚寺　檀那　娘　き　く　年四歳

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　娘　の　あ　年壱才

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　弟　柳蔵　年拾八歳

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　父　宗玄　年七拾六歳

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　母　年六拾七歳

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　下男早蔵　是ハ美濃國石津郡澤田村森平悴壱年季ニ召抱申候　年弐拾四歳

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　下女り　是ハ美濃國多藝郡金屋村利助娘壱年季ニ召抱申候　年拾九歳

〆九人　内男四人　女五人　牛壱疋黒毛

外

壱　人　伯母そ　是は美濃國多藝郡大外羽村善右衛門方へ弐拾七年　年六拾壱歳
以前縁付申候、宗門之儀其所ニて御改ニ付判形除之

壱　人　弟　伊兵衛　是ハ当村所左衛門方へ弐拾弐年　年三拾五歳
以前養子ニ差遣し申候

壱　人　弟　勇次　是は美濃國多藝郡小倉村甚左衛門方え拾八年　年弐拾三歳
以前養子ニ遣し置、宗門之儀は其所ニて
御改ニ付判形除く

壱　人　弟　忠蔵　是ハ当村浄栄方へ拾三年以前養子ニ差遣し申候　年三拾壱歳

家壱軒

一東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覚寺　檀那　高拾石弐斗九升

常右衛門　是ハ当村藤兵衛悴拾三年以前養子ニ来り申候　年三拾壱歳

同宗　同国同郡同村　同寺　檀那　女　房　年弐拾九歳
是は美濃國多藝郡上之郷村藤太夫妹、五年以前縁付来リ申候
同宗　同国同郡同村　同寺　檀那　悴　忠五郎　年　拾壱歳
同宗　同国同郡同村　同寺　檀那　悴　要藏　年　三歳
東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覺寺　檀那　娘　な　当　才
同宗　同国同郡同村　同寺　檀那　養母妙　閑　年六拾五歳
同宗　同国同郡同村　同寺　檀那　下男岩藏　年弐拾壱歳
是ハ美濃國多藝郡白石村利右衛門悴壱年季ニ召抱申候
同宗　同国同郡同村　同寺　檀那　下女さ　よ　年　拾九才
是は美濃國多藝郡飯田村元助娘壱年季ニ召抱申候
〆八人　内女四人　男四人　牛壱疋黒毛

家壱軒

一東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　高四石七斗八升八合六勺
林覺寺　檀那　彦右衛門　年四拾七歳
同宗　同国同郡同村　同寺　檀那　女　房　年三拾三歳
是は美濃國多藝郡栗笠村専了寺顕浄妹、拾五年以前縁付来リ申候
同宗　同国同郡同村　同寺　檀那　娘つ　よ　年　拾壱歳
同宗　同国同郡同村　同寺　檀那　娘ミ　る　年　七歳
東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覺寺　檀那

同宗　同国同郡同村　同寺　檀那　娘　ち　を　年　四歳
同宗　同国同郡同村　同寺　檀那　悴　龍　当　才
同宗　同国同郡同村　同寺　檀那　父　傳藏　年八拾五歳
同宗　同国同郡同村　同寺　檀那　母　年六拾八歳
同宗　同国同郡同村　同寺　檀那　伯父平藏　年六拾六歳
〆九人　内女五人　男四人　牛壱疋黒毛

外

壱　人　妹　め　年四拾五歳
是ハ美濃國不破郡栗原村善六方へ弐拾弐年以前縁付申候、宗門之儀は、其所ニて御改ニ付判形除之
壱　人　妹　す　め　年　三拾歳
是ハ美濃國多藝郡志津村丈四郎方へ六年以前縁付申候、宗門之儀其所ニて御改ニ付判形除之

家壱軒

一東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　高壱石八斗
林覺寺　檀那　常　八　年五拾弐歳
同宗　同国同郡同村　同寺　檀那　女　房　年三拾八歳
是ハ美濃國多藝郡岩道村惣七娘、拾九年前縁付来リ申候
同宗　同国同郡同村　同寺　檀那　悴　忠　吉　年　拾四歳
同宗　同国同郡同村　同寺　檀那　悴　常　吉　年　拾弐歳

同宗　同国同郡同村　同寺　檀那　娘　ゆの　年七歳

同宗　同国同郡同村　同寺　檀那　悴　末次　年三歳

同宗　同国同郡同村　同寺　檀那　弟　常五郎　年四拾才

（下ケ札）

「去ル宗門改之後相果申候」

東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覺寺　檀那　弟　勇藏　年弐拾七歳

（下ケ札）

「去ル宗門御改之後病死仕候」

同宗　同国同郡同村　同寺　檀那　父　淨信　年八拾三歳

〆九人　内男七人　女弐人

外

壱人　是は大坂北野町杉本屋五左衛門方へ年季奉公ニ差遣し申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之　姉　いち　年五拾八歳

壱人　是は江州長濱舟町大坂屋喜兵衛方へ弐拾年以前縁付申候、宗門之儀其所ニて御改ニ付判形除之　妹　は　年四拾九歳

壱人　是ハ江州坂田郡堀部村休次郎方へ拾六年以前縁付申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之　妹　いや　年四拾七歳

壱人　是は江州長濱神戸町鍛冶屋文右衛門方へ拾四年以前縁付申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之　妹　ふゑ　年三拾七歳

家壱軒

一東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　高壱石八斗□□　林覺寺　檀那　太兵衛　年五拾五歳

（下ケ札）

「去ル宗門御改之後死去仕候」

同宗　同国同郡同村　同寺　檀那　弟　亦吉　年四拾歳

同宗　同国同郡同村　同寺　檀那　母　年七拾歳

同宗　同国同郡同村　同寺　檀那　伯父長左衛門　年四拾八歳

〆四人　内男三人　女壱人

外

壱人　是ハ美濃國多藝郡橋爪村豐八方へ拾九年以前縁付申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之　妹　き　年四拾四歳

壱人　是は江州高嶋郡両方村庄藏方へ九年以前縁付申候、宗門之儀其所ニて御改ニ付判形除之　妹　し　年三拾壱歳

壱人　是ハ美濃國多藝郡小倉村伊左衛門方へ四年以前縁付申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之　妹　と　年弐拾四歳

壱人　是ハ美濃國多藝郡高畑村清吉方へ六年以前養子ニ差遣し申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之　弟　忠兵衛　年四拾三歳

壱人　是ハ美濃國多藝郡高畑村忠兵衛方へ六年以前養子ニ差遣し申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之　悴　唯次　年拾壱歳

家壱軒
一東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覺寺　檀那　高壱石三斗五升
同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　忠助　年三拾三歳
是ハ美濃國多藝郡蛇持村岡右衛門娘三年以前縁付来リ申候
同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　女房　年弐拾三歳
是ハ美濃國多藝郡蛇持村岡右衛門娘三年以前縁付来リ申候
同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　母　年六拾五歳
〆三人　内男壱人　女弐人
外
壱　人　伯母し　げ　年　六拾歳
是は美濃國石津郡市之瀬村政右衛門方へ四拾年以前縁付申候、宗門之儀其所ニて御改ニ付判形除之
壱　人　妹　か　の　年弐拾壱歳
是ハ美濃國多藝郡高淵村幾久藏方へ九年以前縁付申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之
壱　人　妹　と　さ　年弐拾三歳
是は美濃國多藝郡嶋田村之内高田町肴屋祐吉方へ六年以前縁付申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之

家壱軒
一東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覺寺　檀那　高弐石弐斗壱升五合八勺
同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　五兵衛　年四拾壱歳
同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　女房　年三拾三歳
是ハ美濃國多藝郡上之郷村領右衛門妹九年以前縁付来リ申候
同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　娘ひな　年六歳
同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　悴藤五郎　年弐歳

〆四人　内男弐人　女弐人
家壱軒
一東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覺寺　檀那　高拾石弐升七合壱勺
同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　十右衛門　年六拾六歳
是は美濃國多藝郡龍泉寺村武次郎妹三拾七年以前縁付来リ申候
同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　女房　年五拾五歳
同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　悴忠左衛門　年三拾歳

東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覺寺　檀那　悴重八　年拾六歳

「去ル宗門御改之後罷帰り申候」（下ケ札1）
「去ル宗門御改之後改名仕候」（下ケ札2）
同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　悴恒次　年拾三歳

〆五人　内男四人　女壱人　牛壱疋黒毛
外
壱　人　娘か　り　年弐拾五歳
是ハ京都五條通中長者町釜之座西へ入菱屋仁兵衛方へ年季奉公ニ差遣し置、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之

（下ケ札1）　（下ケ札2）

家老軒

一東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覺寺　檀那

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　是は美濃國多藝郡小倉村伊惣次娘　拾六年以前縁付来リ申候

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那

（下ヶ札）「去ル宗門御改之後泰公ニ遣し申候」

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那

〆四人　内男壱人　女三人

家老軒

一東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覺寺　檀那　高四石七斗三升八合

同国同郡同村　同　寺　檀那　是ハ美濃國多藝郡直江村定八妹　弐拾四年以前縁付来リ申候

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那

〆四人　内男弐人　女弐人　牛壱疋黒毛

外

水呑庄　八　年四拾九歳

女　房　年三拾三歳

娘　ミ　か　年　拾弐歳

（下ヶ札）

娘　り　う　年　四歳

藤　八　年五拾五歳

女　房　年　四拾歳

悴　丹　藏　年　弐拾歳

娘　た　よ　年　拾弐歳

壱　人　是は京都三條寳町日野屋五兵衛方え年季奉公ニ差遣し申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之

壱　人　是ハ美濃國多藝郡嶋田村之内高田町袋屋孫十郎地内を借八年以前引越申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之

壱　人　是は美濃國不破郡栗原村彌三右衛門方へ弐年以前縁付申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之

家老軒

一東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覺寺　檀那　是ハ美濃國多藝郡大跡村金六悴拾八年以前養子ニ来リ申候

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　是は養父彦藏娘ニて御座候

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那

〆七人　内男三人　女四人

弟　利　八　年四拾五歳

弟　七　郎　次　年四拾三歳

娘　す　ゑ　年　拾七歳

水呑宇　兵　衛　年四拾六歳

女　房　年　四拾歳

娘　く　の　年　拾七歳

悴　松　五　郎　年　拾三歳

悴　留　藏　年　七歳

娘　ろ　く　年　三歳

母　年七拾壱歳

一東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覺寺　檀那
同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　是は美濃國安八郡海松村文藏姉　拾六年以前縁付来リ申候
同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　同国同郡同村　同　寺　檀那　是は美濃國石津郡澤田村政八娘　三年以前養女ニ来リ申候
〆四人　内男弐人　女弐人
外
壱　人　是は江州神崎郡垣見村惣次郎方へ四拾年以前養子ニ差遣し申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之
壱　人　是は江州神崎郡垣見村甚右衛門方へ拾六年以前養子ニ差遣し置、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之
壱　人　是は美濃國多藝郡嶋田村之内高田町米屋權九郎方へ年季奉公ニ差遣し申候、宗門之儀其所ニて御改ニ付判形除之
家壱軒
一東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覺寺　檀那
同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　是は美濃國不破郡栗原村叶八娘　三年以前縁付来リ申候

水呑彦八　年四拾七歳
女　房　年四拾弐歳
悴　吉乙　年拾弐歳
娘　さミ　年六歳
兄　喜八　年四拾九歳
兄　庄次郎　年五拾弐歳
弟　善兵衛　年四拾四歳
水呑久兵衛　年四拾五歳
女　房　年弐拾八歳

同　宗　同国同郡同村　同家　檀那
同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那
〆四人　内男弐人　女弐人
家壱軒
一東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覺寺　檀那
同　宗　是ハ美濃國多藝郡飯積村孫九郎娘　六年以前縁付来リ申候　同国同郡同村　同　寺　檀那
東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覺寺　檀那
同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那
同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那
（下ヶ札）「去ル宗門御改之後病死仕候」
同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那
〆六人　内男三人　女三人
外
壱　人　是ハ京都新町通河内屋左兵衛方へ拾六年以前縁付申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之

悴　休松　年弐歳
母　年七拾四歳
水呑彌吉　年四拾六歳
女　房　年三拾八歳
悴　辨次　年六歳
娘　留よ　年三歳
弟　福三郎　年四拾四歳
（下ヶ札）
母　年七拾三歳
姉　さわ　年五拾歳
（下ヶ札）

（下ヶ札）
「去ル宗門御改之後死去仕候」

家老軒
一東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覺寺　檀那　水呑清五郎　年六拾八歳
同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　悴　繁八　年三拾弐歳
東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覺寺　檀那　悴　久蔵　年弐拾歳
同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　娘　すの　年拾四歳
〆四人　内男三人　女老人

外

老　人　是ハ美濃國不破郡栗原村清吉方へ拾三年以前縁付申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之　娘　い　年弐拾七歳
老　人　是は美濃國多藝郡柏尾村彦八方へ八年以前縁付申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之　娘　き　年弐拾四歳

家老軒
一東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覺寺　檀那　水呑勘七　年六拾歳
同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　娘　も　よ　年八歳
同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　弟　八十郎　年三拾八歳
東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覺寺　檀那　母　年七拾弐歳

（下ヶ札）

（下ヶ札）
「去ル宗門御改之後相果申候」

〆四人　内男弐人　女弐人

家老軒
一東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覺寺　檀那　水呑喜三郎　年七拾五歳
同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　女　房　年七拾壱歳
同　宗　是は美濃國多藝郡石畑村八兵衛妹五拾五年以前縁付来り申候　同国同郡同村　同　寺　檀那　悴　利兵衛　年弐拾九歳
〆三人　内男弐人　女老人

外

老　人　是は江州伊香郡東柿野村甚左衛門方へ拾七年以前縁付申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之　娘　り　江　年四拾七歳

家老軒
一東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覺寺　檀那　水呑久米蔵　年五拾三歳
東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　林覺寺　檀那　悴　伊與七　年拾九歳
〆弐人　男　牛壱疋黒毛

外

老　人　是ハ大坂中橋筋両替町山形屋伊兵衛方へ年季奉公ニ差遣し置、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之　弟　清吉　年五拾歳
老　人　是は美濃國石津郡澤田村善吉方へ三拾七年以前縁付申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之　姉　さつ　年六拾才

寺壱軒　　京都東本願寺末寺　林覺寺

一東本願寺宗　高弐石三斗六升六合　住持了然
是は美濃國海西郡松之木村蓮台寺智勇
弟三年以前養子ニ来リ申候　年弐拾四歳

同　宗　当　寺　檀那　女房曾尾
年　拾九歳

同　宗　当　寺　檀那　養父了因
年四拾六歳

同　宗　当　寺　檀那　母
年　四拾歳

同　宗　当　寺　檀那　下男類蔵
是は美濃國多藝郡白石村與茂八悴壱年季ニ召抱申候　年弐拾四歳

同　宗　当　寺　檀那　下女さや
是は美濃國石津郡澤田村由藏娘壱年季ニ召抱申候　年　拾九歳

〆弐人　女

〆六人　内男壱人
女三人

僧弐人

外

壱　人　伯母妙順
是は美濃國安八郡笠縫村善五郎方え六拾七年以前
縁付申候、宗門之儀其所ニて御改ニ付判形除之　年八拾四歳

家壱軒

一東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　高拾五石三斗弐升
林覺寺　檀那　清右衛門
年六拾三歳

東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村　女　房
林覺寺　檀那　年四拾九歳
是は美濃國多藝郡小倉村仁右衛門娘
三拾三年以前縁付来リ申候
同国同郡同村

同　宗　同　寺　檀那　悴　彦助
年弐拾九歳

壱　人　是は当村庄藏方へ弐年以前養子ニ差遣し申候　弟　惣吉　年四拾七歳

家壱軒

一東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村
林覺寺　檀那　水呑儀助
年三拾壱歳

同　宗　同　寺　檀那　姉　も
年　四拾歳

（下ケ札）
「去ル宗門御改之後縁付仕候」

同　宗　同　寺　檀那　姉　と
年三拾八歳

（下ケ札）
「去ル宗門御改之後縁付仕候」

東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村
林覺寺　檀那　母
年六拾五歳

〆四人　内男壱人
女三人

外

壱　人　是ハ美濃國不破郡祖父谷村三倫寺方え弐拾七年
以前縁付申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之　姉　る
年四拾六歳

壱　人　是は大阪今橋筋平野屋町鈴屋仁左衛門方へ年季
奉行ニ差遣し置、宗門儀之其所ニて御改ニ付判形除之　兄　惣介
年四拾弐才

家壱軒

一東本願寺宗　美濃國多藝郡五日市村
林覺寺　檀那　水呑儀助姉さ
年三拾五才

同　宗　同　寺　檀那　娘は
年　四才

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那
是は美濃國多藝郡小倉村福勝寺娘
当辰春縁付来り申候

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那

（下ヶ札）
「去ル宗門御改之後奉公ニ遣申候」

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　下男　圓藏
是は美濃國多藝郡龍泉寺村金六悴壱年季ニ召抱申候　年弐拾六才

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　下女は　な
是は美濃國多藝郡石畑村八藏娘壱年季ニ召抱申候　年　拾八歳

〆九人　内男六人　女三人　牛壱疋黒毛

外

壱　人　妹　さ　め
是は美濃國不破郡栗原村西念寺方へ弐拾七年以前　年　五拾歳
縁付申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之

壱　人　弟　庄右衛門
是は美濃國多藝郡鷲之巣村庄右衛門方へ弐拾四年　年四拾六歳
以前養子ニ差遣し申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之

壱　人　娘　わ　そ
是は当村藤兵衛方へ拾壱年以前縁付申候　年弐拾四歳

壱　人　娘　の　あ
是ハ美濃國石津郡澤田村辰左衛門方へ六年以前　年　拾九歳
縁付申候宗門之儀其所ニて御改ニ付判形除之

家壱軒

一東本願寺宗　林覺寺　檀那　高壱石六斗
是ハ庄藏悴幼少ニ御座候ニ付相続難相成当村　庄藏跡久米藏弟利　三郎
久米藏弟弐年以前養子ニ来り申候　同国同郡同村　年四拾五歳

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　女　房
是は美濃國多藝郡櫻井村彦八娘拾六年以前縁付来　年三拾六才
リ申候処、夫庄藏病死ニ付後夫と弐年以前ニ妻セ申候

同　宗　同国同郡同村　同　寺　檀那　娘　あ　さ
年　拾四才

東本願寺宗　林覺寺　檀那　悴　幾　久次
年　八才

〆四人　内男弐人
女弐人

外

壱　人　庄藏伯母み　よ
是は当村藤兵衛方へ五拾年以前縁付申候　年六拾七歳

壱　人　庄藏姉ま　さ
是ハ美濃國安八郡川口村久次郎方へ弐拾七年以前　年四拾六歳
縁付申候、宗門之義其所ニて御改ニ付判形除之

扣高合七拾六石七斗九升四合

外

六斗壱升六合　前々神田引

弐拾八石九斗六升八合五勺　前々川欠引

都合高七拾七石四斗壱升

壱軒寺

家数合弐拾六軒　内　拾三軒高持百姓
拾弐軒水呑百姓

人数合百三拾七人　内　男七拾弐人但シ僧共
　　女六拾五人　牛九疋但黒毛
　此訳
僧弐人　但し拾六歳以上六拾歳以下
男七拾弐人　内　三拾人　拾五歳以下　六拾壱歳以上
　　四拾弐人　拾六歳以上　六拾歳以下
　内
四人他所より当村へ奉公ニ罷越候もの
弐人去ル宗門御改之後出生候もの
　外
弐人去ル宗門御改之後死去仕候もの
女六拾五人　内　三拾六人　拾五歳以下　六拾壱歳以上
　　弐拾九人　拾六歳以上　六拾歳以下
　内
四人他所より当村ぇ奉公ニ罷越候もの
三人去ル宗門御改之後出生仕候もの
壱人去ル宗門御改之後養女ニ罷越候もの
　外
壱人去ル宗門御改之後死去仕候
壱人去ル宗門御改之後縁付罷越候もの
四拾五人　当村より他所へ養子并縁付奉公ニ罷越候もの、
　宗門之儀其所ニて御改ニ付判形除之
　内
　　八人当村より他所へ養子ニ罷越候もの
男　拾三人　内四人当村より他所へ奉公ニ罷越候もの
　　壱人当村より他所地借引越候もの
女三拾弐人　内　弐拾九人当村より他所へ縁付申候もの
　　三人当村より他所ぇ奉公ニ罷越候もの
右帳面之通拙僧檀那ニ紛無御座候分、男女老若共ニ壱人も不残
僉議仕候処、切支丹宗門之儀は不及申上ニ、ころび人ニても無御
座、曽て疑敷もの無御座候ニ付、家壱軒限人別御帳面ニ書載、
師檀共判形仕差上申候、若御法度之宗門ニ御座候段訴人御座候
ハヽ、拙僧何方迄も罷出速ニ可申明候、仍如件

寛政八辰年三月

京都東本願寺末寺
美濃國多藝郡五日市村
林　覺　寺

一百三拾七人

右之通村中大小之百姓、前書ニ有之族当歳子ニ至る迄男女共壱
人も不残宗旨相改候処、切支丹宗門之もの無御座候、若御法度
之宗門隠置後日ニ顕候ハヽ、其者之儀は不及申上ニ、此判形之
者共如何様之御仕置ニも可被　仰付候、為後日宗旨相改檀那寺
之判形を加へ差上申候、尤前書之趣庄屋・年寄ハ不及申上ニ、
五人組仲間として常々心懸屹可奉相守候、為後日仍如件

寛政八年辰三月

美濃國多藝郡五日市村
庄屋　十右衛門　印
年寄　清右衛門　印
百姓代　十郎次　印

大垣
御預御役所

召使弐人　内　男壱人
女壱人

下人半六、年廿七、当村平右衛門弟壱年切抱申候
下女しま、年弐拾九、一季奉公、尾州御領下笠村より抱申候

合拾人　内　男六人
女四人

一八三　有尾新田村人別帳

○安八郡輪之内町　片野記念館所蔵

（表紙）「濃州多藝郡有尾新田村人別帳」

屋敷表拾三間裏へ八間
一高弐拾弐石壱斗九升三合

舅笠松御支配所有尾村彦市姉

惣領手前罷有候
二男右同断
三女右同断
四男右同断
五男手前罷有候
親右同断

又四郎　四拾四才
女房　三拾九才
左平　弐拾才
又八　拾七才
ち　拾三才く
與市　八才
七九郎　四才
母親　六拾三才

屋敷表拾壱間裏へ六間
一高六石三斗六升三合

馬壱疋　鹿毛

しうと当村半七

惣領手前罷有候
親右同断
姉手前罷有候
妹右同断
弟右同断

合　七人　内　男三人
女四人

屋敷表拾三間裏へ弐拾弐間
一高弐拾四石九斗五升三合

舅尾州御領大屋村彌兵衛

惣領手前罷有候
二男右同断
三女右同断

作十郎　四拾四才
女房　弐拾九才
松十郎　三才
母親　七拾四才
ま　四拾六才
き　拾九才く
文　三拾弐才

忠三郎　五拾五才
女房　四拾七才
權平　弐拾才
權之助　拾弐才
し　七才

合　五人　内　男三人
　　女弐人
　　馬壱疋　鹿毛

屋敷表拾間裏へ拾八間
一高拾三石壱斗七升三合
しうと石原清左衛門様御支配所大場村甚五右衛門

惣領手前罷有候
平　右衛門　四拾七才
二女右同断
吉　女　三拾七才　房
三女右同断
ち　や　弐拾才　平
四女右同断
き　う　拾七才
五男右同断
せ　や　拾五才
六女手前罷有候
松　之　助　拾弐才　六才
弟右同断
い　し　三才　三六才
半　弐拾八才

合　九人　内　男四人
　　女五人

屋敷表拾弐間裏へ拾八間
一高弐拾弐石八斗七升
しうと尾州様御領下笠村彦七

惣領手前罷有候
源　右衛門　三拾八才
親手前罷有候
女　房　弐拾九才
弟右同断
長　松　三才
召使　女壱人
母　親　五拾四才
新　六　三拾壱才

下女とく、年拾四才、尾州御領大野村より一季抱申候

合　六人　内　男三人
　　女三人

屋敷表拾壱間裏へ拾三間
高四拾石三斗九升六合
しうと石原清左衛門様御支配所小倉村七兵衛

惣領手前罷有候
清　右衛門　四拾弐才
二女右同前
女　久　之　丞　拾壱才　三拾才　房
三女右同前
む　五才
弟右同前
れ　ね　三才
しうと石原清右衛門様御支配所大場村勘兵衛
宅　右衛門　三拾七才
女　房　弐拾弐才
市　之　助　弐才

甥手前罷有候

召使四人　内　男弐人
　　女弐人

下人文六、年四拾弐、譜代
下人久八、年三拾三、石原清左衛門様御支配所小倉村より一季奉公抱申候
下女かや、年三拾、当村彌次兵衛妹一季奉公抱申候
下女さい、年廿石原清左衛門様御支配所小倉村より抱申候

合拾弐人　内　男六人
　　女六人
　　馬壱疋　鴾毛

屋敷表拾間裏へ拾壱間
一高拾七石三斗九升三合
しうと尾州様御領下笠村市左衛門
惣領手前罷有候
しうと笠松様御支配所有尾村九郎兵衛
二男手前罷有候
三女右同断
四男右同断
弟当村伊右衛門所へ一季奉公抱申候
妹当村清右衛門所へ一季奉公参候
合　九人　内男五人
女四人
馬壱疋　葦毛
屋敷表拾三間裏へ拾八間
一高拾五石九斗四升
しうと笠松様御支配所有尾村左助
惣領娘手前罷有候
召使三人　内男壱人
女弐人
下人九蔵、当村彌次兵衛弟一季抱申候
下女きよう、年拾八、大垣御領釜之段村より一季抱申候
下女かも、年拾七、笠松様御支配所有尾村より一季抱申候

彌次兵衛　女　六拾三才
八郎兵衛　女房　五拾四才
孫　三拾弐才
市　女房　弐拾四才
き　三拾才
よ　拾八才
又　五郎　拾五才
九　藏　三拾六才
か　三拾や才
伊右衛門　女房　三拾三才
女　弐拾八才
り　三才

合　六人　内男弐人
女四人
屋敷表拾間裏へ拾五間
一高拾石三斗弐升
親手前罷有候
親手前罷有候
召使弐人　内男壱人
女壱人
下人多七郎、年三拾三、有尾村より一季奉公抱申候
下女しま、年三拾壱、当村より一季奉公抱申候
合　五人　内男三人
女弐人
屋敷表拾八間裏へ拾五間
一高拾石六斗四升三合
しうと尾州御領下笠村加左衛門
惣領娘手前罷有候
召使弐人　内男壱人
女壱人
下人有助、年三拾三、尾州御領下笠村より一季抱申候
下女しま、年拾九、石原清左衛門様御支配所大場村より抱申候
合　五人　内男弐人
女三人
屋敷表拾六間裏へ七間
一高拾石四斗八升
しうと尾州御領下笠村加十郎

源八郎　弐拾九才
親　了明　八拾才
母　親　六拾八才
所左衛門　三拾壱才
女　房　弐拾才
し　な　四才
勘右衛門　四拾六才
女　房　三拾六才

惣領手前罷有候
二女右同断
三女右同断
合　五人　内男弐人 女三人
屋敷表弐拾壱間裏へ拾間
一高弐拾七石六升
しうと当村與次兵衛八年以前相果申候
惣領手前罷有候
二女右同断
三女右同断
四男右同断
五女手前罷在候
六女右同断
親右同断
召使壱人　男
下人久八、年廿五、笠松様御支配大跡村より抱申候
合　拾人　内男四人 女六人
馬壱疋　葦毛
屋敷表拾五間裏へ拾六間
一高三拾弐石弐斗七升

彦太郎 拾弐才
ば　　ふ
る　　し
る　　ま
八　　弐
才　　才

理左衛門 五拾才
女　房 三拾六才
善　平 拾九才
し　う 拾六才
つ　し 拾壱才
虎　助 八才
し　ん 五才
か　ん 三才
母　親 七拾六才

彌左衛門 五拾才

しうと大垣御領鷲巣村吉藏拾五年以前相果申候
惣領手前罷有候
弟右同断
しうと大垣御領津屋村小左衛門
弟手前罷有候
召使　女　壱人
下女ふく、年拾九、尾州御領下笠村より一季抱申候
合　七人　内男四人 女三人
馬壱疋　青毛
屋敷表五間裏へ九間
一高弐石九斗弐升三合
しうと石原清左衛門様御支配所小倉村左平次
惣領娘手前罷有候
二女右同断
三男右同断
合　五人　内男弐人 女三人
屋敷表拾八間裏へ拾壱間
一高九石弐斗九升七合
親手前ニ罷有候

女　房 三拾九才
喜　六 三才
五　助 四十六才
女　房 弐拾七才
伊　八 弐拾九才

勘　助 五拾才
女　房 四拾八才
ち　や 拾七才
せ　き 八才
孫　太郎 五才

加　兵衛 三拾七才
母　親 六拾壱才

弟右同断

合　三人　内男弐人
　　女壱人

屋敷表拾三間裏へ七間
一高四石六斗六升三合

しうと石原清左衛門様御支配所横屋村長左衛門

惣領手前ニ罷有候

二男右同断

三男手前ニ罷有候

妹右同断

合　六人　内男四人
　　女弐人

屋敷表八間裏へ拾弐間
一高九石八斗九升

しうと尾州御領西嶋村孫六拾八年以前相果申候

惣領手前ニ罷有候

二男右同断

合　四人　内男三人
　　女壱人

屋敷表拾間裏へ八間
一高拾壱石六斗壱升四合

しうと大垣御領庭田村甚五助

平　八　三拾弐才

善　六　四拾七才

女　房　三拾壱才

糸之助　六才

松之助　四才

菊之助　三才

か　つ　拾四才

吉左衛門　五拾壱才

女　房　四拾三才

吉三郎　弐拾四才

勘六　弐拾才

彦八郎　三拾三才

女　房　弐拾六才

惣領手前罷有候

合　三人　内男弐人
　　女壱人

屋敷表拾五間裏へ拾八間
一高三拾壱石八斗三升

しうと尾州御領西嶋村佐右衛門廿五年以前相果申候

惣領手前罷有候

しうと当村平右衛門

二男手前罷有候

三女右同断

四女右同断

五男右同断

妹右同断

合　九人　内男四人
　　女五人

屋敷表拾間裏へ八間
一高弐拾壱石八斗壱升七合

しうと笠松様御支配所有尾村猪左衛門

惣領手前罷有候

二男右同前

三女右同前

源太郎　四才

十左衛門　六拾三才

女　房　五拾七才

惣右衛門　三拾四才

女　房　弐拾壱才

源七　三拾弐才

す　き　拾八才

は　る　拾六才

十兵衛　拾四才

つ　る　三拾七才

喜太郎　四拾四才

女　房　三拾六才

彌三市　拾五才

ま　平　拾才

ん　五才

四女右同前
召使　女　壱人
下女すき、年三拾、大垣御領鷲巣村より一季奉公抱申候
合　七人　内男三人 女四人
屋敷表七間裏へ九間
一高五石壱斗八升
しうと当村八兵衛
惣領手前罷有候
合　三人　内男弐人 女壱人
屋敷表拾間裏へ八間
一高弐石八斗三升九合
しうと当村十左衛門
惣領手前罷有候
二男右同断
三女右同断
合　五人　内男三人 女二人
屋敷表拾四間裏へ六間
一高五石
しうと石原清左衛門様御支配所上之郷村權兵衛
惣領娘手前罷有候

か　弐才　め
金　兵衛　弐拾六才　房
女　弐拾壱才　房
八　三　郎　三才
善　四拾弐才　七
女　弐拾八才　房
萬　四　郎　七才
又　六　五才
さ　三才　の
七　郎　兵衛　四拾弐才
女　三拾六才　房
い　六才　ち

二男右同断
合　四人　内男弐人 女弐人
屋敷表八間裏へ七間
一高八石五斗九升
しうと笠松様御支配所有尾村三郎兵衛
惣領手前罷有候
親右同断
弟右同断
弟右同断
合　六人　内男四人 女弐人
一借地
しうと尾州御領下笠村善九郎三年以前相果申候
惣領娘
二女手前罷有候
三女右同断
四女右同断
五男手前罷有候
六男右同断

仁　太　夫　四才
半　女　三拾七才　七
市　弐拾六才　房　之　助　弐才
母　親　五拾七才
清　三拾弐才　七
傳　六　弐拾四才
權　五拾弐才　七
女　四拾弐才　房
さ　拾七才　い
そ　拾五才　よ
く　拾三才　わ
あ　拾　き
五　六　郎　四才　平
六

合　八人　内男三人
女五人

一借地　しうと尾州御領舟付村左五兵衛
親手前罷有候
妹　多　七郎　三拾三才
女　房　弐拾六才
母　親　五拾六才
志　ま　弐拾才

合　四人　内男壱人
女三人

一借地　しうと大垣御領若宮村彌五兵衛
惣領娘手前罷有候
二女右同断　藤　八郎　三拾九才
女　三拾才
よ　拾弐才
よ　拾才
父　作右衛門　七拾六才
母　親　六拾弐才
親手前罷有候
親右同断

合　六人　内男弐人
女四人

高合三百六拾七石六斗弐升六合
人数合百六拾八人　内八拾三人　男
八拾五人　女
家数合弐拾七軒　馬七疋

外
高拾弐石六斗九升三合　御神田分
高七斗三升　桶立給分

高拾弐石弐斗壱升七合
高弐拾六石六斗五升八合
高弐拾九石五斗三升七合
高拾七石四斗七升
高九斗弐升七合
高拾壱石三斗四升
高五拾三石三合
高弐拾壱石七斗五升五合
高三拾壱石四升三合
高弐百九拾壱石三斗四升六合
高百六石六斗八升九合
高合九百九拾七石弐升七合

内
高七百八石四斗　有尾新田村
高弐百八拾八石六斗弐升七合　横屋村

右之通村中致吟味候処、紛無御座候、銘々引得高之内かり名を書、高名之内引わけ持高少分ツヽ相見へ申様ニ仕候て、於以来田畑かり名主永代ニ被仰付、其上　御公儀様へ偽り書帳面指上ケ申候義、御公儀をかるしめ、且ハ以来田畑出入之妨ニ罷成候間、品ニより田地主并庄屋・年寄籠舎可被　仰付旨一々奉承知候、当村之儀、帳面之通少も偽不申上候、万一相違之儀仕上ケ候ハヽ、後日ニ相聞候共、急度越度ニ可被　仰付候、為其村中

大垣御領津屋村より入作
小倉村より入作
日下丸村より入作
下笠村より入作
石畑村より入作
大垣御料津屋村替地
有尾新田永不納
津屋村野方
横屋村永不納
（石原清左衛門様御支配所
横屋村百姓持高
有尾村百姓持高

判形仕差上ヶ申候、已上
元禄六年酉ノ

有尾新田村庄屋　清右衛門
同村　庄や　又四郎
同村　年寄　十左衛門
同村　年寄　理左衛門
同村　年寄　彌次兵衛

岩出　藤左衛門様

一八四　下笠村人別改帳

〇下笠　小野善四郎氏所蔵

（表紙）「弘化二巳年正月　多藝郡　下笠村　扣
人別御改帳
一円竹腰兵部少輔様御領知」

多藝郡下笠村
字和田住居
自分地持家　小野作兵衛㊞　年四拾
一持高四拾五石壱斗三合　農業渡世　女房　とみ　年三拾四
此女房とみ石畑村與三右衛門娘
十三年以前ニ呼申候
男子　坤次郎　年拾ヲ
此らい去五月出生仕候　らい　年弐ツ

同人弟　林七　年廿八
母　あさ　年五拾八

〆家内　六人

召仕下男　庄助
召仕下女　きよ
此庄助飯之木村幸助悴
此きよ烏江村數右衛門娘

一持高弐拾弐石三斗七合　農業渡世　自分地持家　北垣彦一郎㊞　年五拾壱
女房　きし　年四十二
此女房きし豐喰新田善左衛門娘
廿七年以前呼申候
男子　亥九郎　年廿四
男子　浦次郎　年九ツ
男子　愛助　とし七ツ
女子　そゑ　年十九
同　とじ　とし十六
同　くる　とし三ツ
母　ゆん　年六十

〆家内　九人

召仕下男　喜助
此喜助鵜巣角藏悴

多藝郡下笠村
字中嶋住居
田中權之右衛門借地持家
農業渡世　佐五藏㊞　年六拾五
一持高壱石四升九合
此女房同村嘉平娘、廿七年已前呼申候　女房　ふて　年五拾四
作彌　年廿五

富　彌　年廿三

〆家内　四人

一無高

此女房同村文右衛門姉、三拾九年已前呼申候　女房　みさ　年六拾三

男子　常　吉　年三十四

此とわ同村伊三郎方へ縁付参り申候　女子　と　わ

〆家内　三人

一無高

此女房東方傳右衛門娘、四十六年已前呼申候　農業渡世　同所田中權之右衛門借地持家　治　兵　衛㊞　年七十二

女房　きを　年六十六

男子　與　三　吉　年廿九

此のを安八郡柿内村喜兵衛方へ縁付参り申候　女子　の　を

男子　文　彌　年廿三

〆家内　四人

一持高壱石壱斗壱升三合

農業渡世　同所田中權之右衛門借地持家　定右衛門㊞　年七拾

女房　みさ　年六拾三

男子　常　吉　年三十四

女子　と　わ

此女房鵜ノ巣村染左衛門娘廿七年已前呼申候

〆家内　三人

一無高

農業渡世　同所田中權之右衛門借地持家　治　兵　衛㊞　年七十二

女房　きを　年六十六

男子　與　三　吉　年廿九

此のを安八郡柿内村喜兵衛方へ縁付参り申候　女子　の　を

男子　文　彌　年廿三

〆家内　四人

一持高壱石壱斗壱升三合

田中權之右衛門借地持家　和右衛門㊞　年五拾四

女房　かね　年四拾六

男子　磯　吉　年廿三

同断　豐　吉　年十三

同断　常　吉　年十ヲ

女子　う　ら　年七ツ

此母去四月病死仕候　母

〆家内　六人

一無高

農業渡世　同所新四郎借地持家　新左衛門㊞　年五十六

女房　つい　年五十壱

此女房根古地新田要右衛門娘廿七年已前呼申候　女子　り　き　年廿二

〆家内　三人

右佐五藏より新左衛門迄〆五人組

一持高弐斗三合

農業渡世　同所自分地持家　久　太　夫㊞　年五十四

女房　りよ　年四十一

此女房橋爪村惣吉娘廿三年已前呼申候　女子　ゆ　き　年廿壱

同断　よ　そ　年拾ヲ

男子　末　吉　年七ツ

甥　十　作　年廿

同断　伊　作　年十五

〆家内　七人

小野作兵衛借地農業渡世　松　彌㊞　年廿二

〆

一無高

農業渡世　同所市左衛門借地持家　治　平㊞　年四十四

女房　てつ　年三十五
男子　力　彌　年九ツ
同断　市　彌　年八ツ
女子　ふ　よ　年七ツ
男子　三　治　郎　年弐ツ
同断　石　松　年壱ツ

此女房舟付村平助娘
十年已前呼申候

此三治郎去四月出生仕候
此石松当正月出生仕候

〆家内　七人

一無高　農業渡世　幸　藏㊞　年五十
同所和右衛門借地持家

女房　とや　年三十三
こ　よ　年十一
い　ろ　年十ヲ
龜　吉　年七ツ
と　め　年弐ツ

此女房同村八右衛門娘
十九年已前呼申候

此とめ去四月出生仕候

〆家内　六人

一無高　農業渡世　源九郎㊞　年五十二
同所舟付村藤藏借地持家

女房　なか　年四十三
男子　寅　吉　年十六
じゆん　年十四
辰　彌　年十ヲ

此女房同村八郎娘、十九年已前呼申候

（貼紙）
「此じゆん勢州宮毛村平次郎方へ
引取ニ罷越申候」

藤　作　年七ツ
宅　彌　年弐ツ

此宅彌去五月出生仕候

〆家内　七人

右久太夫より〆五人組
源九郎まて〆五人組

一持高拾三石四斗九升　農業渡世　伊　藤　治㊞　年七十六
同所自分地持家

女房　との　年七十四
吉右衛門　年四十八
女房　とみ　年廿六
男子　柳　平　年三十三
柳平　女房　きせ　年廿
吉右衛門男子　鐵　治　郎　年十三

此女房牧中村吉八娘
五十年已前呼申候

此女房大塚村藤次郎娘
三年已前呼申候

此柳平女房きせ多藝郡大塚村
三四郎娘呼申候

〆家内　七人

一持高拾三石四斗九升七合農業渡世　新四郎㊞　年五十一
同所自分地持家

女房　なせ　年四十四
女子　さ　わ　年廿壱
男子　九　市　郎　年十九
同断　久　治　郎　年十二
同断　光　治　郎

此新四郎改名仙右衛門事、同村豎松弟廿八年已前養子ニ参り申候

此九市郎改名仙松事

此光治郎去五月病死仕候

〆家内　五人

一無高

此女房高淵村喜七娘
三十八年已前呼申候

同所六右衛門借地持家
農業渡世　佐右衛門㊞　年六十九
　女房　この　年六十二
　男子　宅　彌　年三十五
　宅彌　女房　ぎん　年廿八
此女房同村新吉娘十一年已前呼申候
　宅彌男子　宇　市　年七ツ
　宅彌女子　み　さ　年五ツ
佐右衛門男子　佐四郎
此佐四郎別家仕候

〆家内　六人

一持高五升六合

此女房同村久作娘十三年已前呼申候

同所桑名茂左衛門借地持家
農業渡世　磯治郎㊞　年四十一
　女房　きせ　年三十八
　女子　せを　年十二
　男子　徳彌　年三ツ
　母　きの　年七十七

〆家内　五人

一持高壱石四斗八升壱合

同所自分地持家
農業渡世　甚七　此甚七去四月病死仕候
　伊三郎㊞　年三十三
　女房　とわ　年廿三
　妹　くよ　年廿七

〆家内　五人

同断
　り　ゑ　年廿五
　母　みす　年六十一

〆家内　五人

右伊藤治より〆五人組
伊三郎まて〆五人組

一持高壱斗七升壱合

同所自分地持家
此松兵衛同村伊三郎弟六年已前養子ニ参り申候
農業渡世　松兵衛㊞　年三十
　女房　まち　年二十二
　男子　菊松　年四ツ
　女子　ちよ　年三ツ
　男子　新作　年弐ツ
　母　たよ　年五十

此新作去九月出生仕候

〆家内　六人

一持高七斗八升八合

同所西岩道西脇岩次郎借地持家
農業渡世　和吉㊞　年四十一
　女房　そよ　年四十二
　男子　捨松　年弐ツ

此女房大野村彦右衛門娘
六ヶ年已前呼申候
此捨松去五月出生仕候

〆家内　三人

一持高一［　］

同所田中千代三郎借地持家
農業渡世　彌三八㊞　年四十三
　女房　ふさ　年三十六
　女子　つね　年七ツ

此彌三八神田村源右衛門倅十一年已前養子ニ来り申候

男子　要　太　郎　年六ツ
此要太郎改名勇太郎事
兄庄頭　淨　兼　年四十一
妹　と　よ　年廿七
母　り　と　年六十三
（貼紙）「此とよ名古屋中之町鈴木様へ奉公ニ参り申候」

〆家内　七人

一無高　同所　農業渡世　佐　四　郎㊞　年三十四
此佐四郎、左右衛門より別家仕候
小野作兵衛借地持家
此佐四郎女房とめ同村源右衛門妹呼申候
女房　と　め　年廿二

〆家内　弐人

右松兵衛より〆四人組
佐四郎迄

一持高六斗六升九合　同所　農業渡世　善　十　郎㊞　年三十六
此善十郎同村久太夫弟十六年已前養子ニ来り候
自分地持家
女房　さ　そ　年四十
女子　は　つ　年十六
同断　ふ　ゆ　年十三
同断　み　て　年八つ
同断　き　ま　年五ツ
男子　菊　次　郎　年三つ
此菊次郎当二月病死仕候

〆家内　七人

一無高　同所　農業渡世　助　藏㊞　年六十二
田中權之右衛門借地持家
女房　ふ　よ　年五十七
此女房高田村平吉娘
四十一年已前呼申候
女子　な　か　年三十九
男子　喜　七　年三十三
此女房烏江村善吉娘、六年已前呼申候　喜七女子　女房　す　み　年廿四
喜七女子　さ　つ　年五ツ
同断　せ　き　年弐ツ
此せき去五月□□
女子　ま　せ
此ませ石津郡奥條村喜十郎方へ縁付参り申候
同断　せ　の　年廿壱

〆家内　八人

一持高弐斗九升五合　同所　自分地持家　孫　八　此孫八あへ付書上申候
此孫八去四月病死仕候
農業渡世　男子　與三五郎㊞　年十六
與三五郎妹　く　の　年十三
同人　母　は　の　年四十五

〆家内　三人

一無高　庄吉同居　男子　金　彌　年
此金彌去五月病死仕候　庄　三　郎㊞　年五十五
此民彌勢州味曾野村甚六方へ□□罷越申候　民　彌　年廿壱
此みと同郡ロケ嶋村紺屋勝次郎方へ奉公ニ参り申候　み　と　年十九

〆家内　三人
右善十郎より〆四人組
庄三郎まで

一持高四石三斗三合
此女房上之郷村庄五郎娘
廿四年已前呼申候
同所
小野作兵衛借地持家
市左衛門㊞　年五十五
男子　女房　とり　年四十三
初治郎　初治　郎　年廿三
此初治郎女房同村新吉娘呼申候
市左衛門男子　女房　とよ　年廿二
兼　松　年十七

〆家内　五人

一持高三升九合
同所
自分地持家
農業渡世　さ　の　年五十四

〆

一持高壱斗壱升七合
同所
田中千代三郎借地持家
農業渡世　新　吉㊞　年六十
此女房大牧新田又左衛門娘
三拾弐年已前呼申候
男子　女房　ぬい　年五十四
女子　吉　彌　年廿五
此とよ同村市左衛門悴初次郎方へ
縁付参リ申候
男子　と　よ
喜　與　藏　年十五

〆家内　四人

一持高九升八合
同所
浄雲寺借地持家
農業渡世　傳　藏㊞　年五十三
此女房同村千代松姉廿五年已前呼申候
女房　とね　年四十九

男子　末　松　年十六
女子　む　め　年八ツ
男子　藤　市　年七ツ
弟　儀　藏　年三十八
同断　富　次　郎　年三十五
父　儀左衛門　年七十七
此儀藏大垣もろ町清藏方へ
日雇拂ニ罷越申候

〆家内　八人

一無高
同所
舟付村藤藏借地持家
農業渡世　菊右衛門㊞　年三十八
此女房栗笠村長次郎娘十五年
已前呼申候
女房　こと　年三十九
男子　長　松　年十三
同断　金　松　年七ツ
同断　早　太　郎　年五ツ
母　ぎ　の　年七十

〆家内　六人
右市左衛門より〆五人組
菊右衛門まで

一無高
同所
吉右衛門借地持家
農業渡世　庄　吉㊞　年六十五
此女房押越村平吉娘四拾年已前
呼申候
女子　女房　うた　年五十九
男子　れ　ん　年廿五
萬　彌　年廿壱

此ゆう安八郡海松村福善寺方へ奉公ニ参り申候　女子　ゆ　う　年廿

〆家内　五人

一無高　農業渡世　同所六右衛門借地持家　由右衛門㊞　年四十四
此女房大野村幸助娘廿弐年已前呼申候　男子　女房　むね　年四十九
女子　市　松　年十八
女子　い　な　年八ツ

〆家内　四人

無高　家無　善　吉㊞　年六十八
此善吉同郡津屋村親類方へ日雇拂ニ罷越申候

〆　同所　田中千代三郎借地持家
此後家下大塚村周蔵娘廿五年已前呼申候

一無高　農業渡世「作間小商ひ仕候」（貼紙）多右衛門後家　ま　す㊞　年四十七
男子　太　市　年廿三
此太市名古屋宮市場菱屋左兵衛方へ奉公ニ参り申候　女子　さ　の　年廿
此さの名古屋小舟町塩屋善蔵方へ奉公ニ参り申候　女子　つ　る　年十五

〆家内　四人

右庄吉より
太右衛門後家まで〆四人組　字和田住居　自分地持家　松右衛門㊞　年七十壱

一持高壱石四斗五升壱合

此女房上方村玉屋娘四十三年已前呼申候　男子　女房　きり　年六十壱
長　彌　年廿三
名古屋傳馬町山城屋善九郎方へ奉公ニ罷越申候　同断　政　治　郎　年拾六

〆家内　四人

一持高五升　農業渡世　同所桑名茂左衛門借地持家　喜與治㊞　年廿七
此女房栗笠村喜蔵娘六年以前呼申候　女子　みを　年廿三
女子　み　す　年三ツ
京五條針屋勘兵衛方へ日雇拂ニ参り申候　喜與治弟　早　太　郎　年廿四

〆家内　四人

一持高五斗九升九合　農業渡世　同所名古屋藤屋松兵衛借地持家　勘助㊞　年三拾八
此女房今村吉左衛門娘五ヶ年已前呼申候　女子　女房　□□　年廿三
此りう去八月出生仕候　弟　り　う　年弐ツ
此長次郎去六月病死仕候　妹　長　次　郎
し　を　年廿二
伯父　領　助　年六拾
（貼紙）「此領助大坂伊達堀美濃屋え日雇拂ニ罷越申候」

〆家内　五人

一無高　農業渡世　同所小野作兵衛借地持家　仲八㊞　年廿八
此仲八飯ノ木村甚右衛門悴八年已前養子ニ参り申候

女房　たけ　年三拾二
男子　爲吉　年六ツ

正徳元年五月　日　奉行

差上申一札之事

一切支丹宗門之儀、累年御制禁被　仰付候得共、彌以此度御穿鑿ニ付、村中大小之百姓・召遣之男女・門家・借家并出家・社人・山伏・行人・虚無僧・博士・太夫、其外穢多・乞食・非人等ニ至迄、悉吟味可仕旨被　仰付、当村住居之者壱人も不残明細ニ吟味仕候処、右宗門ハ不及申上、前々邪宗門ニてころひ候者、并類族之者曽て無御座候、依之銘々檀那寺請判為仕申候、猶又自今以後無断絶五人組限りニ相改、疑敷宗門之者御座候ハヽ、早速御注進可申上旨被　仰付奉畏候、依之村中人別寺請判形差上申候事

一何れ之門流とも、誰弟子とも不知僧尼有之は可申出候、僧俗とも尋常ニ替り勤行仕候歟、仏具・其外あやしき道具所持仕候者有之は可申出事

一面々宗旨檀那寺判形仕候ニ付、新檀那之儀ハ猶以念を入、他所之者ハ古郷之檀那寺委細吟味仕、尤先祖より之檀那は勿論疑敷もの無御座候ニ付、判形仕候事

一他国・他村より縁付罷越、或は養子并入百姓之儀は、其者之古郷先祖より之宗旨名主・五人組立会、切支丹宗門之類族ニて無御座候哉委細遂吟味、其者之古郷より証文取置候事

一久年他所ニ罷在古郷ぇ罷帰候者、已前之宗旨と当然之宗旨と相違仕歟、尤他所ニて之檀那寺迄委細相改、　御奉行所ぇ古

一八五　室原村人別改帳

○室原　安福彦七氏所蔵

（表紙）「　嘉永五年
禅宗
真宗濃州不破郡室原村当子宗門人別御改帳
子三月　」

定

きりしたん宗門ハ累年御制禁たり、自然不審成もの有之ハ申出へし、御ほうひとして

はてれんの訴人　銀五百枚
いるまんの訴人　同三百板
立帰もの訴人　同　断
同宿并宗門の訴人　同百枚

右之通下さるへし、たとひ同宿宗門之内たりといふとも、申出る品ニより銀五百枚下さるへし、かくし置他所よりあらハるゝにおゐてハ、其所之名主・五人組一類ともに罪科におこなハるへきもの也

郷帰之御断申上、共上ニて差置可申事
一此帳面連判外之もの壱人も村中ニ住居為仕間敷事
一他所より召抱候奉公人男女とも、半季たり共寺請状庄屋方へ
取置可申事
一切支丹宗門御制禁之御高札損し候歟、文字見え兼候ハヽ可申
上事
右之趣庄屋・年寄・五人組惣百姓家々無断絶吟味可仕候、尤切
支丹宗門御制禁之御高札之趣、村中男女下々等迄弥堅可奉相守
之候、為後日仍如件

家老軒
一禅宗　不破郡室原村　福源寺　旦那㊞　高拾石四斗八升五合　年寄　宗　六㊞
是ハ安八郡椹俣村龍治弟拾七年以前養子　同　寺　旦那㊞　悴　民之助㊞
是ハ多良高木玄番様御家中立木源七郎妹弐拾壱年以前縁付　同　寺　旦那㊞　悴　治郎㊞
同　寺　旦那㊞　同　本　治郎㊞
同　寺　旦那㊞　同　宇　三郎㊞
（朱筆）「同　寺　旦那　留　治郎」
（朱筆）「六」　（朱筆）「五」　男四人　年　四拾才　房㊞　女　年四拾四才
〆五人　内　女老人　年　弐才」
外
老人　是ハ多良高木玄番様御家中立木新八方へ伯母　れ　年六拾九才
五拾壱年以前縁付　い

老人　是ハ当村しゆん名跡へ四拾六年以前養子　伯父　平　八郎　年六拾七才
家老軒
一禅宗　不破郡室原村　福源寺　旦那㊞　高五石七斗四升五合　医師　昌　平㊞　年五拾壱才
（朱筆）「同　寺　旦那　女　房　年三十弐才」
是ハ大野郡高科村武一郎娘去年縁付　同　寺　旦那㊞　娘　き　う㊞　年　拾七才
同　寺　旦那㊞　悴　本　平㊞　年　拾五才
同　寺　旦那㊞　娘　な　を㊞　年　拾弐才
同　寺　旦那㊞　娘　あ　ひ㊞　年　拾才
同　寺　旦那㊞　悴　庸　平㊞　年　三才
（朱筆）「七」
〆六人　内　男三人　女三人
（朱筆）「四」
外
老人　是ハ石津郡牧田村彌治右衛門方へ　娘　さ　か㊞　へ　年弐拾三才
四年以前縁付
不破郡室原村　福源寺　旦那㊞　高弐石九斗六合　百姓　六　十　郎㊞　年　四拾才
家老軒
一禅宗　同　寺　旦那㊞　女　房㊞　年弐拾三才
是ハ石津郡一之瀬村桑原林平娘
四年以前縁付
同　寺　旦那㊞　娘　こ　う㊞　年　三才
同　時　旦那㊞　弟　四郎七郎㊞　年弐拾九才

（朱筆）「同　寺　旦那　　か　　と」
同　寺　旦那㊞　　母　　年　弐才」
年六拾弐才㊞

（朱筆）「六」
〆　五人　内　男弐人
女三人
（朱筆）「四」

外

家老軒
一禅宗

老人　妹　し　ゆん
是ハ不破郡宮代村代助方へ六年以前縁付　年三拾四才
不破郡室原村
福源寺　旦那㊞　高拾弐石四斗六合　百姓　俊　八㊞
年　弐拾才
同　寺　旦那㊞　弟　橋　次㊞
年　拾九才
同　寺　旦那㊞　母
年四拾六才㊞
同　寺　旦那㊞　下男　浅　八㊞
是ハ当村浅吉悴壱ヶ年季奉公召抱　年弐拾四才

〆　四人　内男三人
女老人

老人　姉　す　て
是ハ不破郡表佐村武一郎方へ六年以前縁付　年弐拾五才
老人　同　と　ら
是ハ多良高木玄番様御家中土屋賢造方へ　年弐拾四才
六年以前縁付

家老軒
一禅宗

不破郡綾野村
報恩寺　旦那㊞　高三拾七石弐斗七升　庄屋　忠左衛門㊞
年五拾六才
不破郡室原村
福源寺　旦那㊞　女　房㊞
是ハ多藝郡金屋村伊十郎娘　年五拾弐才
三拾三年以前縁付

報恩寺　旦那㊞　悴　修　二㊞
年弐拾三才
（朱筆）「奉公ニ出ス」

同　寺　旦那㊞　同　陸　八㊞
年　拾五才

同　寺　旦那㊞　同　留　之　進㊞
年　拾弐才

（朱筆）「四」　（朱筆）「三」

〆　五人　内　男四人
女老人

老人　弟　和　助
是ハ羽栗郡竹ヶ鼻村忠兵衛方へ　年四拾九才
弐拾三年以前養子
老人　同　兼　助
是ハ加茂郡和知村善藏方へ　年弐拾才
四年以前弟子遣ス
老人　娘　し　な
是ハ石津郡大里村木村平三郎方へ　年三拾才
七年以前縁付
老人　悴　國　助
是ハ播州大坂本町大庭屋仁兵衛方へ　年拾八才
（朱筆）奉公

家老軒
一禅宗

「老人　陸　八
是ハ播州大坂東横堀袴屋林兵衛方へ奉公　年　拾六才」
不破郡室原村
福源寺　旦那㊞　高拾三石三斗九升　庄屋　兵右衛門㊞
是ハ安八郡浅草西村多八郎弟　年五拾七才
弐拾弐年以前養子

同　寺　旦那㊞　女　房㊞
是ハ不破郡垂井村半平娘拾七年以前縁付　年三拾七才
同　寺　旦那㊞　悴　友　吉㊞
年　拾三才
同　寺　旦那㊞　同　留　平㊞
年　拾才
同　寺　旦那㊞　同　勝　助㊞
年　六才

同　寺　旦那㊞　下女　と　年弐拾四才㊞
是ハ当村久米八妹壱ヶ年季奉公召抱

〆　六人　内男四人
　　女弐人

外

壱人　悴　勇　年　拾七才　平㊞
是ハ播州大坂本町小沢屋新助方へ奉公

家壱軒
一禅宗　不破郡室原村　福源寺　旦那㊞　高四石七斗三升六合　百姓　兵　吾㊞　年弐拾五才
同　寺　旦那㊞　娘　こ　う㊞　年　弐才
（朱筆）「同　寺　旦那　益　太郎　年　弐才」

〆　弐人　内男壱人
　　女壱人
（朱筆）「一三」　（朱筆）「一弐」

家壱軒
一禅宗　不破郡室原村　福源寺　旦那㊞　代々民八家嶺水呑　傳　七㊞　年四拾七才
是ハ当村吉右衛門弟弐拾八年以前養子
同　寺　旦那㊞　捨　松㊞　年弐拾四才

〆弐人　但男　但し家内六人之内四人は東本願寺宗ニて別帳ニ有之
外
壱人　姉　さ　く　年八拾六才
是ハ多藝郡飯之木村留助方へ五拾四年以前縁付

家壱軒
一禅宗　不破郡室原村　福源寺　旦那㊞　高四斗四升壱合　百姓　勇　八㊞　年七拾壱才
同　寺　旦那㊞　娘　せ　ひ㊞　年弐拾四才

〆　弐人　内男壱人
　　女弐人

壱人　娘　き　年三拾弐才
是ハ他国奉公稼ニ罷出ル

壱人　悴　桂　治　郎　年弐拾八才
是ハ尾州名古屋石切町南町西光院へ弟子ニ遣ス

壱人　伯母　み　と　年六拾八才
是ハ池田郡上田村民治郎方へ五拾六年以前縁付

壱人　娘　し　う　年弐拾六才
是ハ多藝郡大坪村彦左衛門方へ拾弐年以前縁付

壱人　同　い　ま　年　拾四才
是ハ京都町方大仏門前町吉兵衛方へ養女遣ス

壱人　悴　石　太　郎　年　拾弐才
是ハ右同断

家壱軒
一禅宗　不破郡室原村　福源寺　旦那㊞　高四拾九石弐升六合　年寄　治左衛門㊞　年四拾三才
同　寺　旦那㊞　女　房㊞　年四拾三才
是ハ不破郡垂井村文庫娘弐拾六年以前縁付
同　寺　旦那㊞　悴　啓　輔㊞　年　拾九才
同　寺　旦那㊞　娘　ま　さ㊞　年　拾四才
同　寺　旦那㊞　同　す　ま㊞　年　六才
同　寺　旦那㊞　下男　吉　三郎㊞　年弐拾七才
是ハ当村小三郎壱ヶ年季奉公召抱
同　寺　旦那㊞　下女　き　よ㊞　年　弐拾才
是ハ当村周蔵娘壱ヶ年季奉公召抱

〆　七人　内男三人
　　女四人

外
老人　伯母　ひ　年六拾三才　と
是ハ多藝郡小倉村善六方へ
三拾九年以前縁付
不破郡室原村　福源寺　旦那㊞　高弐拾弐石四斗弐升九合　百姓　彌　六㊞
一禅宗　家壱軒
同　寺　旦那㊞　兄　小彈治㊞　年弐拾八才
同　寺　旦那㊞　妹　き　年　拾六才　た㊞
同　寺　旦那㊞　下女　さ　年四拾壱才　ん㊞
是ハ当村與吉姉壱ヶ年季奉公召抱
〆　四人　内男弐人　但家内五人之内壱人は東本願寺宗ニて別帳ニ有之
女弐人

外
老人　弟　右　市　年　拾九才
是ハ江戸日本橋白木屋へ奉公
当村高持　高壱石三升　春　年弐拾六才　甫㊞
是ハ大垣様へ御奉公相勤居申候
当村高持　高六斗弐升六合　米　次郎㊞　年九拾三才
是ハ和州芳野へ借宅仕居申候
当村高持　高壱石六斗　直　之助㊞　年弐拾弐才
是ハ大垣様へ御奉公相勤居申候
当村高持　高六斗弐合　丑　之助㊞　年八拾壱才
是ハ播州大坂ニ御奉公相勤居申候
当村高持　高弐石弐斗弐升九合　平　八郎㊞　年六拾三才
是ハ江戸表へ奉公相勤居申候
当村高持　高弐斗八升九合　民　年五拾五才
是ハ不破郡關ヶ原村留三郎方へ引越申候
村持高　高四拾五石六合

寺壱軒　高拾四石壱斗
一禅宗　京都妙心寺末寺㊞　福源寺　住持　景瑞㊞　年五拾才

当寺　旦那㊞　弟子　玄侑㊞　年　拾七才
是ハ大野郡岐禮村浅右衛門悴
五年以前弟子来
当寺　旦那㊞　隠居　肇巖㊞　年七拾八才
〆三人　但僧

老人　隠居弟子　守泰　年三拾九才
是ハ武儀郡平村龍福寺へ
五ヶ年以前住職仕候
老人　同　右京　年三拾九才
是ハ不破郡宮代村小林庵へ
五年以前住職仕候
〆高百七拾九石

外　高弐拾壱石弐斗壱合　別帳ニ有之

〆家数拾弐軒　拾軒　高持百姓
内壱軒　寺
壱軒　水呑百姓
外　百六拾軒　別帳ニ有之
〆人数五拾壱人　内男三拾弐人
女拾九人
外　六百四拾三人　別帳ニ有之

右帳面之通、拙僧共旦那ニ紛無之分、男女老若共壱人も不残僉義仕候処、切支丹宗門之儀ハ不及申上、ころひ人ニても無御座、曽て疑敷もの無御座候ニ付、家壱軒限り人別御帳面ニ書載師檀共判形差上申候、若御法度之宗門ニて御座候段訴人御座候ハヽ、拙僧共何方迄も罷出速ニ可申明候、仍如件

嘉永五子年三月
京都妙心寺末寺　不破郡室原村
四拾七人　禅宗　福源寺㊞

四人　不破郡岩手村善憧寺末寺　不破郡綾野村　景　瑞（花押）
禅　宗　報　恩　寺　印　　底　宗（花押）

当村之者当時家無之、并家内縁付借宅仕候者

老人　代々宗六家頼水吞　印　又　藏
是ハ石津郡乙坂村五郎作方へ　同　年六拾三才
四拾壱年以前養子

老人　代々昌平家頼水吞　印　き
是ハ江州坂田郡榎村與治兵衛方へ奉公　同　の
同　金六娘　印　き　年　七拾才　わ
老人　代々宗六家頼水吞　印　權　太
是ハ伏見枳投町善七方へ奉公　同　年　六拾才

老人　代々安八郡釜笛村伊八方へ四拾年以前縁付　年五拾八才
是ハ安八郡池尻村幸右衛門方へ　同　金　之　助
五拾九年以前相掛ル　印　年六拾四才

老人　代々六十郎家頼水吞　印　嘉　助
是ハ京都深草瓦屋市右衛門方へ奉公　同　年　七拾才

老人　代々平八郎家頼水吞　印　藤　之　助
是ハ他国奉公稼ニ罷出ル　同　年　七拾才

老人　代々宗六家頼水吞　印　市　之　助
是ハ他国奉公稼　同　年　七拾才

老人　代々福源寺家頼水吞　印　長太郎悴　仁　太　郎
是ハ右同断　印　年四拾九才　き
り　年七拾四才

老人　代々平八郎家頼水吞　印　ふ　ミ
是ハ右同断　印　年四拾六才

老人　代々平八郎家頼水吞　印　重　藏
是ハ播州大坂へ奉公罷出申候　年七拾九才

老人　代々春甫家頼水吞　印　と　か
代々宗六家頼水吞　印　年　五十才

老人　代々宗六家頼水吞　印　と　ま
是ハ当村傳右衛門方へ五拾七年以前縁付　年八拾三才

老人　是ハ安八郡浅草東村兵平方へ　同　用助後家娘　印　ふ　ち
弐拾壱年以前縁付　年三拾九才

老人　同　忠　松
是ハ大垣俵町茶屋嘉助方へ奉公　年五拾壱才

老人　同　同　印　る　の
是ハ本巣郡十九條村助八方へ奉公　年四拾八才

老人　同　常三郎悴　印　宇　藏
是ハ京都町方へ奉公　年三拾三才

老人　同　同人姉　印　い　わ
是ハ当村和作方へ弐拾三年以前縁付　年三拾九才

老人　同　同　印　喜　太　郎
是ハ京都町方へ奉公　年三拾七才

老人　代々米治郎家頼水吞　印　由　太　郎
是ハ右同断　印　年　三拾才

老人　同　同人姉　印　の　せ
是ハ多芸郡下笠村藤蔵へ拾六年以前縁付　年三拾八才

老人　同　同　印　あ　き
是ハ勢州河間郡南若松村圓治郎方へ　年三拾三才
去年縁付

老人　同　同伯母　印　よ　り
是ハ不破郡綾野村半七方へ　年六拾七才
四拾三年以前縁付

老人　代々勇八家頼水吞　印　與　物　治
是ハ江州浅井郡三川村六左衛門方へ奉公　年七拾壱才

老人　同　印　女　房
是ハ江州浅井郡關濱村清右衛門方へ奉公　年六拾五才

老人　代々宗六家頼水吞　印　吉左衛門
是ハ他国奉公稼　年六拾六才

老人　代々直之助家頼水吞　印　す
是ハ当村善右衛門方へ六拾六年以前縁付　年九拾壱才
（朱筆）「死ス」

老人　代々勇八家頼水吞　印
是ハ多芸郡宇田村久右衛門方へ
四拾年以前縁付

壱人　是ハ他国奉公稼　代々宗六家頼水呑　㊐作治姉（ママ）　㊐左與吉　年四拾四才　同人姉（ママ）　㊐與吉　年弐拾四才

壱人　是ハ右同断

壱人　是ハ右同断　代々六十郎家頼水呑㊐　同人姉（ママ）　㊐作治郎　年弐拾老才

壱人　是ハ安八郡昼飯村瓦屋え奉公　代々平八郎家頼水呑㊐　㊐辰彌　年四拾四才

壱人　是ハ多藝郡豊村治郎太夫方へ奉公　同　㊐と　年三拾八才　友藏倅　㊐今右衛門　年四拾七才

壱人　是ハ不破郡表佐村勘左衛門方へ奉公

壱人　是ハ不破郡垂井村左助方へ養子（朱筆）「死ス」　同　代々彌六家頼水呑　㊐若三郎　年拾七才　作藏倅

壱人　是ハ羽栗郡竹ヶ鼻村左助方へ奉公　㊐同人悴（ママ）　㊐市松　年五拾老才

壱人　是ハ他国奉公稼　同　代々宗六家頼水呑　㊐源七　年六拾弐才

壱人　是ハ右同断　㊐同人妹　㊐と　年五拾才　か

壱人　是ハ右同断　同　㊐同姉　㊐さ　年六拾四才　き

壱人　是ハ多藝郡金屋村重左衛門方へ奉公　同妹　㊐さ　年六拾才　よ

壱人　是ハ不破郡赤坂村善七方へ三拾八年以前縁付　同

壱人　是ハ右同所市郎兵衛方へ三拾壱年以前縁付　同　㊐ち　年五拾四才　へ

壱人　是ハ多藝郡飯田村伊八方へ五拾三年以前縁付　同　㊐定治姉　㊐さ　年七拾老才　く

壱人　是ハ右同所彌七方へ四拾五年以前縁付　同　㊐よ　年六拾六才　つ

壱人　是ハ不破郡青野村定七方へ四拾七年以前縁付　同　㊐つ　年七拾六才　ゆ

壱人　是ハ江州浅井郡當目村惣八方へ三拾七年以前縁付　同　㊐ひ　年六拾四才　ろ

壱人　是ハ不破郡綾野村甚右衛門方へ拾五年以前養子　代々榮治郎家頼水呑㊐　㊐半兵衛　年四拾七才

壱人　是ハ多藝郡橋爪村武平治方へ奉公　代々宗六家頼水呑㊐　㊐き　年三拾四才　ミ

壱人　是ハ多藝郡押越村久藏方へ三拾九年以前縁付　同　同人母　㊐ま　年六拾六才　つ

壱人　是ハ他国奉公稼　同　㊐長四郎　年五拾弐才

壱人　是ハ不破郡十六村照光寺奉公（光照）　同　同人姉　㊐は　年六拾才　な

壱人　是ハ当村梶右衛門方へ拾九年以前養子　同　㊐多藏　年四拾才　同人弟

壱人　是ハ不破郡府中村太右衛門方へ拾八年以前縁付　同　同人妹　㊐り　年四拾八才　く

壱人　是ハ大垣町方へ奉公　代々六十郎家頼水呑㊐　㊐圓四郎　年七拾才

壱人	同	同	同	同	同	同	同
是ハ右同断	同	同	同	同	同	同	女 房
							年五拾五才
壱人	同	同	同	同	同	同娘	し か
是ハ右同断	同	同	同	同	同	年三拾九才	
壱人	同	同	同	同	同妹	し つ	
是ハ右同断	同	同	同	同	年弐拾三才		
壱人	同	同	同	同	ま つ		
是ハ右同断	同	同	同	同	年 拾七才		
壱人	代々宗六家頼水呑			安 藏			
是ハ他国奉公稼				年三拾三才			
壱人	同	同	兵八悴	與 吉			
是ハ不破郡嶋村九郎治方へ奉公ス			年弐拾壱年				
壱人	同	同人弟	與 三松				
是ハ不破郡栗原村源藏方へ		年 弐拾才					
拾壱年以前養子							
壱人	同	同人妹					
是ハ大垣町方へ奉公		い 年 拾九才					
壱人	同	同人伯母					
是ハ不破郡矢道村茂右衛門方へ		む 年四拾六才					
弐拾壱年以前縁付							
壱人	同	同人伯父					
是ハ他国奉公稼		辰 年四拾八才					
壱人	同	同人弟					
是ハ江州彦根町方へ奉公		鶴 年 弐拾才					
壱人	同	同人伯母					
是ハ石津郡乙坂村又藏方へ奉公		な 年三拾三才					
壱人	同						
是ハ不破郡宮代村久平方へ弐拾年以前縁付		と 年三拾七才					

壱人	同	源助悴					
是ハ安八郡久瀬川今八方へ奉公		勇 七					
		年四拾六才					
壱人	代々治左衛門家頼水呑	仙助妹					
是ハ不破郡長松村へ奉公		よ つ					
		年五拾壱才					
壱人	同	同人悴					
是ハ右同断	同	進 作					
		年弐拾四才					
壱人	同	同人伯母					
是ハ石津郡牧田村作七方へ		ひ さ					
五拾壱年以前縁付		年八拾三才					
壱人	同	同人兄					
是ハ当村清八方へ弐拾八年以前養子		長 五郎					
		年五拾三才					
壱人	代々宗六家頼水呑	定藏後家					
是ハ他国奉公稼		年五拾八才					
壱人	同	與 三松					
是ハ右同断		年三拾壱才					
壱人	代々六十郎家頼水呑	庄次郎悴					
是ハ右同断		庄之助					
		年弐拾七才					
壱人	同	同人伯母					
是ハ当村又八方へ三拾六年以前縁付		る 五拾七年才					
壱人	同	礒太郎					
是ハ安八郡今村利右衛門方へ奉公		年三拾八才					
壱人	同	同人弟					
是ハ京都町方へ奉公		宇 藏					
		年弐拾六才					
壱人	同	同人姉					
是ハ勢州桑名町方へ奉公		ゑ の					
		年三拾三才					
壱人	代々平八郎家頼水呑	嘉右衛門悴					
是ハ他国奉公稼		留 藏					
		年三拾五才					

老人　同　㊞八平娘
是ハ右同断　き　年弐拾壱才　わ

老人　代々春甫家頼水呑　㊞常治郎妹
是ハ右同断　な　年　三拾才　か

老人　同　㊞同人悴　㊞常　治　郎
是ハ他国奉公稼　年三拾壱才

老人　同　㊞同人娘
是ハ各務郡北左野村浪蔵方へ　つ　年　三拾才　ね
拾壱年以前縁付

老人　同　㊞　ま　さ
是ハ多藝郡蛇持村幸左衛門方へ　年三拾四才
拾弐年以前縁付

老人　同　㊞　は　つ
是ハ右同所松右衛門方へ縁付　年　五拾才

老人　代々勇八家頼水呑　㊞　惣　七
是ハ弘化四未年欠落仕候　年四拾五才
民八家内娘

老人　㊞　ひ　さ
是ハ關ヶ原宿留三郎方へ七年以前罷越　年弐拾壱才

老人　同　㊞　き　ミ
是ハ右同断　年三拾壱才

老人　代々丑之助家頼水呑　㊞　ミ　や
是ハ多藝郡明徳村常三郎方へ　年　五拾才
拾九年以前縁付

老人　同　㊞同人姉　㊞
是ハ多藝郡中村新藏方へ縁付　は　年　五拾才　や

老人　同　㊞同人悴　㊞辰　治　郎
是ハ勢州え奉公　年弐拾壱才

老人　代々宗六家頼水呑　㊞　惣吉姉　㊞
是ハ江州南濱村七兵衛方へ奉公　つ　年五拾八才　る

老人　㊞同人弟　㊞　藏
是ハ当村常八方へ九年以前養子　兵　年三拾六才

養老町史　史料編

老人　同　㊞同人伯母
是ハ多藝郡豊村為右衛門方へ縁付　な　年四拾六才　を

老人　同　㊞同従弟　㊞
是ハ江州長濱四郎兵衛方へ奉公　惣　五　郎
老人　代々宗六家頼水呑　年七拾三才
是ハ他国奉公稼　㊞源八女房　㊞
年四拾弐才

老人　同　㊞同人娘　㊞
是ハ右同断　と　年　拾五才　か

老人　代々春甫家頼水呑　㊞多作姉　㊞
是ハ不破郡表佐村兵八方へ奉公　す　年四拾六才　ら

老人　同　㊞同人弟　㊞
是ハ多藝郡高田町専念寺へ奉公　彌　年　三十才　七

当村扣高弐冊

合高弐百石五斗三升七合

高百三拾三石六斗四升八合　百姓預高

高七百拾四石八斗六升五合　出作高分

都合千四拾九石五升

当村家数三冊

合百七拾弐軒　六軒　寺
内拾軒　高持百姓
百五拾六軒　水呑百姓

内

弐拾九軒　前々多藝郡地借居申候

内

壱軒　寺

弐拾八軒　水呑

当村人数三冊
合六百九拾四人　内男三百五拾三人
女三百四拾壱人
但し三拾五人　まし
馬〆拾弐疋

此訳
僧　四人　但拾六才以上　六拾才以下
同　三人　但拾五才以下　六拾壱才以上
（拾六カ）
医師　壱人　但六拾才以上　六拾才以下
男三百五拾三人　内百六拾七人　拾六才以上六拾才以下
百八拾六人　拾五才以上六拾才以下
（下）　（上）

内
弐人　去亥宗門御改後別家仕候もの
弐拾人　去亥宗門御改後出生仕候もの
壱人　去亥宗門御改後当村より当村へ奉公行候もの
壱人　去亥宗門御改後他所より奉公行候もの
壱人　去亥宗門御改後他所より罷帰り候もの

外
七人　去亥宗門御改後死去仕候もの
壱人　去亥宗門御改後当村より当村之内へ奉公行候もの
壱人　去亥宗門御改後当村より当村之内へ奉公出候もの
弐人　去亥宗門御改後別家仕候もの
弐人　去亥宗門御改後欠落仕候もの
女三百四拾壱人　内百四十四人　拾六才以上六拾才以下
百九十七人　拾五才以下六拾壱才以上

内
弐拾壱人　去亥宗門御改後出生仕候もの
壱　人　去亥宗門御改後当村より当村之内へ奉公行候もの
五　人　去亥宗門御改後他所より縁付来候もの
壱　人　去亥宗門御改後他所より相掛り候もの
弐　人　去亥宗門御改後他所より罷帰り候もの

外
壱　人　去亥宗門御改後死去仕候もの
壱　人　去亥宗門御改後他所へ奉公行候もの
五　人　去亥宗門御改後他所へ縁付罷越候もの
三百拾壱人　前々并去亥宗門御改後共他所より引越・奉公・養子・縁付・出家ニ差遣候分

内男百八人
女弐百三人

右之通村中大小之百姓前書有之族、当歳子ニ至迄男女共壱人も不残宗旨相改候処、切支丹宗門之もの無御座候、若御法度之宗門隠置、後日顕候ハヽ、其ものゝ義は不及申上、此判形之もの如何様御仕置も可被　仰付候、為後日宗旨相改旦那寺之判形ヲ加差上申候、尤前書之趣庄屋・年寄ハ不及申上、五人組仲間として常々心掛奉相守候、為後日仍如件

濃州不破郡室原村
庄屋　兵右衛門㊞
同断　忠左衛門㊞
年寄　治左衛門㊞
同断　宗　六㊞
百姓代　昌　平㊞

嘉永五子年三月

大垣御預御役所

嘉永五年

真言宗
濃州不破郡室原村当子宗門人別御改帳

子三月

寺壱軒
一真言宗　京都山科勧修寺御門末　知善院㊞
是ハ当時無役ニ付寺附印形を以村役人調印仕候

濃州不破郡室原村
庄屋　兵右衛門㊞
同断　忠左衛門㊞
年寄　治左衛門㊞
同断　宗　六㊞
百姓代　昌　平㊞

嘉永五子年三月

大垣御預御役所

一八六　栗笠村家並人馬改帳

○栗笠　高橋嘉幸氏所蔵

（表紙）「家並帳」

（表紙裏書）「宝永弐乙酉年

濃州多藝郡栗笠村家並人馬御改帳

四月」

一萱屋　長六間半　梁弐間半　興専寺　與右衛門　年四十
小屋　長三間半　梁九尺　女房　年三十七
高拾九石九斗七升弐合　女子　かる　年十七
駄不持馬壱疋　男子　千之助　年十
同　坊主　年七
與右衛門女房　母　年七十二
與右衛門従弟　小めろ　年四十六

人数〆七人　内三人男　内四人女

一萱屋　長七間半　はり弐間半　興専寺　傳右衛門　年三十八
一高四拾三石弐斗六升六合　女房　年三十三
駄馬持壱疋　彌助　年十四
人数〆八人　内五人男　内三人女　彌作　年七

畫飯村出奥荒川共申　則右村寺ハ　母　新　八　年三十三
旦那　三六　年八十四
傳助・傳右衛門・忠右衛門・丈吉　つ　年三十五
一萱屋　長五間半　はり弐間　興専寺　善　七　年三十
同小屋　長九尺　はり七尺　男子　女　房　年三十弐
高四石八升五合　女子　坊　主　年廿五
人数〆五人　内弐人男　三人女　あ　ま　年七
善七姉奉公人　さ　な　年五
善正寺　年四十
一萱屋　長弐間半はり八尺　興専寺　女　よ　め　年七十
無高　専了寺　は　る　年六十七
人数〆弐人女　興専寺奉公人　ま　ん　年四七
一萱屋　長弐間　はり九尺　姉奉公人　文　六　年三十弐
人数〆四人　内弐人男　弟奉公人　福　年三十五
弐人女　勘　四　郎　年廿八
一萱屋　長三間　はり九尺　興専寺　母　其　七　年八十
無高　女　房　年四十八
人数〆三人　内老人男　あ　ま　年三十弐
弐人女　年弐ツ

一萱屋　長六間半　はり弐間半　興専寺　留　高帳ニハ藤八とも書　八　年五十八
同小屋　長弐間　はり九尺　専了寺　女　房　年四十二
駄馬壱疋　む　め　年十四
高十七石四斗四升九合　新之助　年十一
人数〆六人　内三人男　留之助　年五
三人女　下女　まさ　年廿
一萱屋　長弐間半　はり九尺　興専寺　平　八　年四十九
高八斗九升四合　善正寺　女　房　三十七
男子　平九郎　年十五
女子　あ　ま　十三
人数〆六人　内三人男　同　い　や　十一
三人女　男子　市　助　年五
一萱屋　長四間　はり弐間　興専寺奉公人　仁右衛門　年四十五
無高　女　房　四十弐
高四石三斗八升六合　男子　長　太　十八
伯父喜兵衛分　女子　あ　ま　年十五
伯父奉公人　喜　兵　衛　年四十五
人数〆五人　内三人男
弐人女
一萱屋　長三間半　はり弐間　興専寺　庄　助　年四十一
無高　女　房　三十弐

人数〆五人　内弐人男
三人女

一萱屋　長五間半　梁弐間
同小屋　長弐間　はり九尺
駄持馬壱疋
高拾六石八斗弐合
人数〆　内　三人男
三人女

女子　あ　ま　年三ツ
庄助姉　く　に　年五十三
同弟　庄　次　郎　年三十七
興専寺　市之丞　廿弐
妹　当暮高帳ニ兵三郎と書　しゆん　十八
弟　巳正月新入〆縁付　三之助　年十七
妹　し　ま　年十五
弟　曾　市　年十弐
興専寺　高帳ハ又五郎ト有之　は　戌三月死ス　年四十弐

一萱屋　長四間　梁弐間
高三石三斗五升弐合
人数〆弐人女
次郎惣後家　年四十弐
女子　あ　ま　年十壱
寺不知　此興平ハ外帳より出　興　平　（年脱）
一萱屋　長弐間半　はり八尺
無高
人数〆壱人男
興専寺　傳　三　郎　年四十
一萱屋　長弐間　梁弐間
女　房　年弐十三
高三石三斗九升七合
男子　與　八　年五ツ
七兵衛高共ニ

弐石八斗七合　傳三郎
内　五斗九升　三人男
七兵衛　六人女
人数〆九人　内

傳三郎妹奉公人　母　坊　主　年弐ツ
あ　ま　年五十五
同　ゆ　き　年十七
同　ゆ　め　年十三
母　年三十八

一萱屋　長六間　梁弐間弐尺
興専寺　新　七　年三十五
高帳ニハ與兵衛ト有　女　房　弐十八
高弐拾五石壱斗壱升
人数〆六人　内　三人男
三人女
女子　き　ん　八ツ
男子　小　三　次　五ツ
同　坊　主　壱ツ
母　年六十

一萱屋　長六間　はり弐間
興専寺　新　助　年十弐
妹　高帳ニ安兵衛ト有　あ　ま　年九
高拾八石五斗六升七合
人数〆五人　内弐人男
三人女
弟　坊　主　年五

母　とし三十弐
下女　春　とし廿五
一萱屋　長三間　はり弐間
興専寺　九郎兵衛　（年脱）
高四石八升五合
は　ゝ　年七十

人数〆弐人女

一萱屋　長三間　はり弐間　興専寺　三右衛門　年四十
無高　女　房　年廿七
人数〆三人　内　老人男　あ　ま　年五ツ
弐人女

一萱屋　長三間　はり弐間　興専寺　泉　春　年六十弐
高壱石四斗七升九合　妹　願専寺　し　ち　四十八
人数〆四人　内　弐人男　同　興専寺　小　す　き　年四十五
弐人女　甥　興専寺　喜之助　とし十四

一萱屋　長七間　梁弐間半　興専寺　孫　兵衛　年六十四
駄持馬壱疋　女　房　戌年より六之助ト改ル　年四十一
高弐拾八石七升四合　女子　さ　き　年弐十
同　む　め　年十六
同　さ　ん　年十四
男子　六之助　年七ツ
下人　小　七　年三十七
下女　さ　つ　年弐十八

一萱屋　長六間半　はり弐間弐尺　興専寺　半　平　年四十八
同物置　長弐間　はり九尺　女子　女　房　年三十九
駄持馬壱疋　ま　つ　年十九

高拾六石弐斗壱升四合

人数〆八人　内　三人男
五人女

一萱屋　長三間　はり弐間　興専寺　孫　三郎　年五十七
同小屋　長八尺　はり七尺　下女　か　善正寺　や　年廿
無高　女　房　年四十九
人数〆四人　内　三人男　男子　彌　市　年十四
壱人女　同　坊　主　年七ツ

一萱屋　長四間　梁弐間　興専寺　與三郎兵衛　年三十六
同小屋　長八尺　梁七尺　女子　房　高帳ニ與三右衛門と有　年弐十八
本家ニ添作　同　は　つ　年十一
高四石弐升四合　男子　あ　ま　年八ツ
市之助　年五ツ
母　とし六十五
伯母　奉公人　か　め　とし六十弐
同　同断同断　つ　年弐十六
同　同断同断　又　助　年弐十三
此四人明樂寺　山　三　郎　年十七

一萱屋　長三間半　はり弐間　興専寺　七郎兵衛　三十弐
高四石弐斗三升弐合
人数〆三人　内壱人男　弐人女　女　房　年廿四
　女子　あ　ま　年五ツ
一萱屋　長五間　梁弐間　興専寺　新　六　年十六
高拾四石八升八合　高帳ニ三六ト有
人数〆四人　内弐人男　弐人女　女子　あ　ま　年十五
　男子　坊　主　年七ツ
　母　とし四十一
一萱屋　長六間　はり弐間半　興専寺　七之助　年十三
高三拾石八斗七升七合　高帳ニ七右衛門ト有
人数〆三人　内壱人男　弐人女　母　下女　な　つ　年五十弐　三十八
一萱屋　長五間　はり弐間　願専寺　長十郎　年十一
高帳ニ長吉ト有
高拾六石弐斗七升　姉　さ　つ　興専寺　年十五
人数〆三人　内壱人男　弐人女　母　興専寺　年三十九
一萱屋　宇立　長弐間　はり七尺　興専寺　奉公人　孫　七　年四十九
高八斗八升七合　姉　捨　いもとく　高帳ニ庄三郎ト有　年五十弐
人数〆三人　内壱人男　弐人女　興専寺　吉　に　年三十五
一萱屋　長七間　はり三間　作　年十五
高帳ニ長九郎ト有

同物置　長三間半　はり弐間　母　年四十六
駄不持馬壱疋　下女　ま　ん　年廿七
高五十八石七斗八升壱合
人数〆三人　内壱人男　弐人女
一萱屋　長七間半　はり弐間半　興専寺　歩左衛門　年三十
高帳ニ八権三郎ト有
同物置　長三間　はり弐間　弟　源右衛門　年十八
駄持馬壱疋　弟　宇　年　年十六
高弐拾石四斗三升四合　弟　留之助　年十五
人数〆六人　内四人男　弐人女　下女　ま　ん　年廿　年五十三
明楽寺
一萱屋　長五間　梁弐間　初り　母　分五左衛門　年三十四
権三郎分
高拾壱石壱斗四升五合　女子　女　房　年廿三
人数〆四人　内壱人男　三人女　あ　ま　年五ツ
　さ　つ　年弐ツ
　此三人興専寺専了寺
一萱屋　長弐間半　はり八尺　安右衛門　年六十八
高壱石四斗四升九合　ば　ゞ
人数〆　壱人女
一萱屋　長弐間　はり九尺　本兵衛　年六十六
無高　ば　ゞ

人数〆三人　内弐人男　老人
　　　　　　女
一萱屋　長六間半　はり弐間半
同屋　長弐間　はり九尺
駄不持馬壱疋
高弐拾弐石三斗壱升五合
人数〆六人　内弐人男
　　　　　　四人女
一萱屋　長五間　梁弐間
同厩　長九尺　梁八尺　本家ニ添作
駄不持馬壱疋
高壱石四斗五升壱合
人数〆七人　内四人男
　　　　　　三人女
一萱屋　長六間　梁弐間半
同厩　長壱丈　はり八尺
駄不持馬壱疋

女子奉公人　ふ　年三十七
孫　坊　年十二
専了寺　男子　庄　七　年五十三
興専寺　女子　房　年四十四
男子　圓　七　年十七
女子　こ　専了寺　ま　年十三
同　き　興専寺　よ　年八ツ
下女　な　興専寺　つ　年七十三
興専寺
専了寺　男子　平　助　年五十四
男子　與　六　年十九
同　小　六　年十七
女子　き　わ　年十五
男子　小　作　年十弐
女子　あ　ま　年三ツ
下女　か　や　年四十
明楽寺　八右衛門　年五十壱
女　房　年三十四
女子　き　ん　年六ツ

高拾七石四斗六升八合
人数〆六人　内弐人男
　　　　　　四人女
一萱屋　長七間半　はり弐間半　専了寺
興専寺
同隠居　長四間　梁弐間
駄持馬壱疋
高廿八石六斗七升三合
人数〆拾壱人　内七人男
　　　　　　四人女

同　か　ゞ　年四ツ
八右衛門妹　ろ　く　年三十一
下人　此壱人願専寺　三　吉　年四十
利左衛門　年五十五
女　房　年四十
男子　與　四郎　年廿
同　兵　太郎　年十八
同　坊　助　年十四
女子　小　塩　興専寺　年十弐
男子　伴　助　年七ツ
利左衛門父　了　圓　年八十壱
同人　母　興専寺　年七十八
下人　五　助　年三十八
下女　品　年廿
明楽寺奉公人　庄　九郎　年三十三
妹奉公人　つ　年廿七
姪　し　ん　年八ツ
母　此三人　興専寺　とし五十八

一萱屋　長三間　梁壱丈壱尺
丑ニ作り直シ
長五間半　はり弐間
高弐石九斗壱升弐合

人数〆四人　内壱人男
　　三人女

一萱屋　長五間　はり弐間　明楽寺　長右衛門　年廿九
同弟平十郎　長四間壱尺　男子　仁　作　年七ツ
出見せ　はり弐間
高三拾七石三斗三升　弟　平　十　郎　年弐十三
人数〆四人　内三人男　下女　さ　や　年三十五
　　壱人女
一萱屋　長六間半　梁弐間半　専了寺　彦右衛門　年五十八
同小屋壱軒　長五間　はり弐間　男子　女　房　年四十
同厩壱軒　長弐間　梁九尺　彦兵衛　年廿一
駄不持馬壱疋
高弐拾八石六斗弐升八合　彦右衛門男子　伊　六　年十六
人数〆八人　内四人男　彦右衛門娘　か　ね　年十三
　　四人女　同人妹　妙　悦　年五十弐

一萱屋　長四間壱尺　はり弐間　専了寺　忠　兵　衛　年四十四
高三石壱斗七合
人数〆壱人男

一萱屋　長六間　はり弐間半　専了寺　庄右衛門　年五十三
同小屋　長三間　はり弐間　男子　女　房　年四十
同厩　長弐間　はり七尺　下女　い　ま　年廿七
高十九石四斗四升
人数〆四人　内弐人男
　　弐人女
一わら屋　宇立　長九尺　巾壱間
高八斗八升七合
五斗六升弐合　喜助
内　三斗弐升五合　門助
人数〆四人　内三人男
　　壱人女

一萱屋　長三間　はり壱丈　専了寺　傳　四　郎　年五十
無高　女　房　年四十六
人数〆五人　内三人男　男子　小　三　次　年十三
　　弐人女　女子　あ　ま　年八ツ
　　甥奉公人　市　平　年十九

一萱屋　長六間　はり弐間半　専了寺　な　へ　年五ツ
同小屋　長三間　はり弐間　丹六弟　清　助　年廿九
同厩　長弐間　はり七尺　男子　平　作　年十七
高十九石四斗四升　下女　い　ま　年廿七
人数〆四人　内弐人男
　　弐人女
一わら屋　宇立　長九尺　巾壱間　専了寺　ま　来年より喜助ヲ頭ニ可書也
高八斗八升七合　男子　す　石　松　年四十弐
五斗六升弐合　喜助　ます弟奉公人　喜　助　年十五
内　三斗弐升五合　門助　同断　門　助　年四十
人数〆四人　内三人男　三斗弐升五合　門助　年三十弐
　　壱人女
人数〆四人　内壱人男
　　三人女

一萱屋　長六間　梁弐間半　専了寺　半右衛門　年五十弐

同小屋　長三間　はり弐間　　男子　房　年四十弐
高十六石壱升七合　　同　新　傳　兵衛　年廿六
人数〆七人　内四人男　三人女　　新　平　年十六
　　助　年十四
　　半右衛門　母　年七十八
　　下女　さ　き　年廿五
一萱屋　長弐間半　はり九尺　　専了寺　女　房　年四十九
高弐斗八升四合　　高帳ニハ彌七ト有
人数〆八人　内四人男　四人女　　女子　十　助　年四十九
　　女　房　年四十四
　　男子　す　め　年十八
　　男子　九　助　年十四
　　女子　き　よ　年七ツ
　　男子　仁　太　郎　年弐ツ
　　十助姉　ね　い　年六十五
　　同人いとこ　定　助　年四十四
　　明楽寺奉公人　助　六　年廿七
　　いもと　ちやう　年廿弐
一萱屋　長三間　梁弐間　　同　ひ　め　年十九
　　弟　次　郎　助　年十五
　　明楽寺
高六斗弐升七合　　母　年四十八
人数〆五人　内弐人男　三人女　　専了寺

一萱屋　長三間半　はり弐間　　専了寺　金　三　郎　年四十九
厩　長八尺　はり七尺　　男子　女　房　年三十七
駄不持馬壱疋　　男子　金　六　年十四
高四石九斗七合　　金　助　年十弐
人数〆四人　内三人男　壱人女
一萱屋　長五間　梁弐間　　専了寺　兵　吉　年廿五
　　高帳ニ兵四郎分ト有
同小屋　長三間　梁弐間　　弟　三　郎　助　十九
駄馬壱疋　　弟　四　郎　平　十六
高十三石六斗八升八合　　妹　つ　や　年十三
人数〆五人　内三人男　三人女　　母　年四十弐
一萱屋　長四間　梁弐間　　専了寺　源　助　年四十五
　　高帳ハ長三郎と有
小屋　長三間半　はり九尺　　女子　女　房　年廿三
　　ふ　り　年四ツ
高四石壱斗三升四合　　母　とし六十九
人数〆四人　内壱人男　三人女
一萱屋　長三間半　梁弐間　　専了寺　七　兵　衛　年五十弐
高五石四斗壱升九合　　女　房　年五十九
人数〆弐人　内壱人男　壱人女
一萱屋　長六間　梁弐間半　　専了寺　又左衛門　年三十一

同物置　長五間　はり弐間　興専寺　女　房　年弐十壱
駄持馬　壱疋　男子初三郎　又　市　年壱ツ　専了寺
高三拾石三斗五升八合　下人　吉　蔵　年三十五　興専寺
下女　さ　き　年廿六　同断
人数〆五人　内三人男　弐人女
当暮甚平へ高分ケ、但シ高帳ニハ藤兵衛ト有、七年迄
当年高帳ニ又左衛門と有、夫より高分ケ有
藤兵衛　頓祐　又左衛門　此人若死　養拙　養貞　此人若死
又右衛門　此人岩道村用八悴養子ニ来ル　女房ハ養拙下□ノ娘ニて呼寄セ但シ若死ニて後妻押越村加助娘呼申候
一萱屋　長六間　梁弐間半　専了寺　甚　平　年廿六
高拾四石壱斗壱升　甚平父　頓　祐　年六十五
人数〆六人　内三人男　三人女　同人　母　専了寺　年五十弐
同人妹　興専寺　年五十四
ひ　さ　同断
下人　金　平　年廿五
同断
下女　か　や　年三十五
同断
一萱屋　長三間　梁弐間　専了寺　彌兵衛　年五十五
頓祐　藤兵衛子又左衛門弟
甚平、藤兵衛

同厩　長壱丈　はり七尺　女　房　年四十
高拾石九斗六升壱合　女子　よ　め　年弐十
人数〆六人　内四人男　弐人女　男子　彌太郎　年十七
男子　彌　吉　年十五
同　喜　作　年七ツ
一萱屋　長三間半　はり弐間　専了寺　善四郎　年四十五
高六斗六升九合　女　房　年廿五
人数〆四人　内弐人男　弐人女　女子　あ　ま　年四ツ
男子　又四郎　年十一
一萱屋　長四間　はり弐間　専了寺　清兵衛　年五十七
高四石弐斗壱升三合　女　房　年四十
人数〆五人　内弐人男　三人女　男子　曾　六　年十七
女子　あ　ま　年十五
同　ひ　め　年十一
専了寺　勘七　年三十弐
一萱屋　長五間　梁弐間　姉　さ　き　年四十弐
高三斗五升四合　弟　善兵衛　年廿七
人数〆五人　内三人男　弐人女　同　八　平　年廿弐
母　年六十五

一萱屋　長四間　梁弐間　専了寺　伊兵衛　年四十三
同　長弐間　はり七尺　女子　女房　年廿九
高五石七斗六升四合　弟奉公人　る　す　年十一
人数〆八人　内四人男　同　さ　な　年五ツ
四人女　同　は　や　年弐ツ
弟奉公人曾市
同人いとこ奉公人与之へ
下人　市　六　年十九

一萱屋　長弐間半　はり九尺　専了寺　圓　助　年五十四
無高　與専寺　女　房　年三十七
人数〆三人　内弐人男　同寺男子　千　之　助　年十一
老人女　専了寺　與　市　六　年三十五
一萱屋　長三間半　はり壱丈壱尺　姉奉公人　り　ん　年三十八
無高　甥奉公人　な　へ　年十七
人数〆五人　内弐人男　姪　あ　ま　年十五
三人女　蛸　小　蔵　年十二

一萱屋　長三間　はり弐間　専了寺　清　八　年五十五
無高　男子　清　七　年廿五
人数〆五人　内三人男　女子　か　る　年廿
弐人女

舟付出敷成戸村法寺旦那
清三郎　清八　清七　文五郎　清右衛門とも申
兄　清兵衛
弟　清蔵　清右衛門
弟　清蔵

一萱屋　長弐間　はり九尺　専了寺　仁　助　年四十三
無高　奉公人　母　とし七十弐
人数〆弐人　内老人男　老人女

一萱屋　長三間　梁弐間　専了寺　加　助　年三十四
高弐斗九升六合　姉　か　る　年四十
人数〆三人　内老人男　母　年五十六
弐人女

一萱屋　長弐間　梁九尺　正福寺奉公人　久　太　郎　年三十
無高
人数〆四人　内三人男　弟　彌　吉　年十五　戌極月死ス
老人女　弟　小　太　郎　年十二
母　年六十壱

一萱屋　長六間　梁弐間　専了寺　小右衛門　年七十五
高五石三斗弐升四合　女　房　年六十八
人数〆六人　内三人男　女子　嶋　年三十
三人女

一萱屋　長弐間　梁九尺
無高
人数〆弐人　内老人男
　　老人女
　　男子　七右衛門　年廿七
　　姪　妙　年四十八
　　下人　喜　六　年廿九
　　専了寺　小　吉　年四十弐
　　女　房　年三十五

一萱屋　長三間　はり壱丈壱尺　専了寺
無高　　母　作　十　郎　年廿五
人数〆弐人　内老人男　　とし五十七
　　老人女

一萱屋　長弐間　はり九尺　専了寺
無高　　女　長　助　年五十五
人数〆八人　内三人男　女子　房　年四十八
　　五人女　男子　ふ　り　年十九
　　女子　水　男子　與　助　年十八
　　男子　五　助　女子　年十五
　　女子　あ　ま　年九ツ
　　長助妹奉公人　く　に　年六ツ

一萱屋　長五間　はり弐間　浄誓寺
無高　　興専寺　四郎兵衛　年四十弐
高七斗壱升壱人　女　房　年廿五

宝永四亥年迄ハ高分なしニて　同寺女子　あ　ま　年六ツ
此年高帳ニ壱石五斗三升七合　浄誓寺男子　市　之　助　年弐ツ
ニて

一萱屋　長弐間　はり八尺　浄誓寺
無高　　女　房　年三十七
人数〆六人　内弐人男　　あ　ま　同三十弐
　　四人女　　り　ん　十四
　　　　ひ　ん　十一
　　　　又　八　九ツ
　　　　女　房　八ツ

四斗壱升三合才三郎ニ入
内
四斗壱升三合吉三郎ニ入ト有
人数〆四人　内弐人男
　　弐人女

一萱屋　長三間　梁弐間　浄誓寺
無高　　権　兵　衛　年三十七
人数〆弐人　内老人男　　女　房　同三十弐
　　老人女

一萱屋　長四間半　はり弐間　浄誓寺　初り　吉　三　郎　年六十弐
四郎兵衛より分ル　　此三人興専寺　女　房　年四十弐
高四斗壱升三合　　女子　留　主　年廿三
人数〆五人　内弐人男　　同　な　つ　年十八
　　三人女　　浄誓寺　竹　之　助　年十弐

一萱屋　長四間半　梁弐間　高四斗壱升三合　人数〆七人　内四人男三人女
四郎兵衛より分ル

浄誓寺　初り　才　三　郎　年五十八
興専寺　女　房　年四十八
浄誓寺男子　小　四　郎　年十八
興専寺女子　く　年十五
浄誓寺男子　平　十　郎　年十三
同断　小　坊　年十一
興専寺女子　つ　年廿三
専了寺　九　兵　衛　年六十四
女　房　年四十七
平　吉　年三十弐
甚　助　年廿七
すま　年十七
さん　年十弐
九兵衛奉公人　八　助　年十六
八助妹　あ　ま　年十二
同人　母　年四十八
右ハ九兵衛引廻シ之者か

一萱屋　長四間半　はり弐間　高拾石弐斗九升壱合　人数〆九人　内四人男五人女

専了寺　女子　圓六　後家　年三十四
あ　ま　十ヲ

人数〆三人　内壱人男弐人女

一萱屋　長八間　梁弐間半　高帳ニハ三四郎と有

正福寺　男子　久　米　助　五ッ
正福寺　次左衛門　年五十五
同寺　女　房　三十七
同寺女子　た　き　十三
男子　惣　治　郎　五ッ
次郎左衛門姉　清　死　六十七
同人妹　ふ　き　年四十六
興専寺下人　傳　助　年三十三
下女　つ　た　廿四
同　ふ　じ　三十

同座敷　長三間半　はり弐間
板屋荷蔵　長六間　巾弐間半
板屋荷蔵　長六間　巾弐間四尺
板屋材木蔵　長四間　巾三間五尺
高弐拾三石七升五合　人数〆九人　内三人男六人女

一萱屋　長七間半　梁弐間半　高帳ニハ三四郎と有

正福寺　興　三　郎　年四十四
明楽寺　女　房　年廿三
同隠居　長三間　はり弐間
明楽寺　き　よ　年四ッ
板屋物置長三間半　はり弐間
明楽寺　ま　る　年弐ッ
駄持馬壱疋
正福寺與三郎父　三　四　郎　年八十一
高三十弐石八斗三升七合　人数〆九人　内三人男六人女

明楽寺　女　房　年七十一
同　下女　た　け　年三十六
同　同　さ　つ　年廿五

下人　明楽寺　藤　七　年三十七

一萱屋　長七間　はり弐間　明楽寺　伊　太　夫　年五十八
高弐拾石四斗七升六合　専了寺　女　房　とし四十九
一萱屋　長三間　はり弐間　明楽寺　万　助　とし三十
物置本屋ニ添作　明楽寺　仁　助　年十弐
人数〆六人　内四人男弐人女　同　喜　助　年九
専了寺　あ　ま　年五
正福寺　権　助　年壱
一萱屋　長四間半　はり弐間　女　房　年四十三
無高　専了寺　あ　く　年廿八
人数〆四人　内壱人男三人女　ひ　ま　年八ツ
す　へ　年壱　年六ツ
此すへハ外帳より書出ス

一萱屋　長三間　はり壱丈　興専寺　吉　兵　衛　年四十
無高　女　房　年三十六
人数〆六人　内三人男三人女　女子　さ　ん　年十八
男子　仁　太　郎　年十五
子女　あ　ま　年十三
男子　小　坊　年六ツ
興専寺　女　かめ　年
一萱屋　長弐間　はり九尺

高弐斗四升七合
人数〆壱人女
一萱屋　長三間　はり九尺　専了寺　半　兵　衛　年五十八
無高　女子　女　房　四十四
人数〆七人　内弐人男五人女　女子　あ　ま　十一
女子　は　ん　九
女子　い　わ　七
男子　坊　主　四
女子　ひ　め　弐
専了寺　鳩　年五十三
一萱屋　長弐間　梁九尺　弟奉公人　源　三　郎　年五十弐
無高　女　房　年四十三
人数〆七人　内三人男四人女　女子　ふ　う　十六
男子　源　六　十二
鳩従弟奉公人　長　治　郎　三十弐
長治（郎脱カ）　こ　く　年四十弐
（いとこ奉公人）
専了寺　彦　三　郎　年七十九
一萱屋　長六間　梁弐間半　高帳ニハ清八ト有　権　太　郎　三十九
同物置　長弐間　梁九尺　女子　六　年三十五
板屋本家ニ添作

既　長弐間　巾弐間半　男子　甚之助　廿　三十三
駄持馬壱疋
高三拾六石八升壱合　女子　ま　す　彦三郎いとこ奉公人
人数〆七人　内四人男　甚九郎　三十五
三人女　下女　か　や　年廿三
一萱屋　長五間　はり弐間　興専寺　藤次郎　七十一
高八斗弐升五合　女　房　五十
人数〆弐人　内壱人男
壱人女
一萱屋　長四間半　はり弐間　興専寺　又兵衛　六十三
小屋壱軒　弐間　七尺　女　房　五十
同既　長九尺　はり九尺　男子　又二郎　廿七
駄不持馬壱疋　同　又吉　廿二
高拾壱石四斗八升九合　同　吉　六
人数〆六人　内四人男　女子　ふ　く　十九
弐人女　興専寺
一萱屋　長六間半　はり弐間半　清九郎　六十七
同隠居　長六間　はり弐間半　女　房　六十一
同小屋　長四間　梁弐間　男子　清四郎　四十一
駄持馬壱疋　女　房　廿三
高三拾五石六斗壱升四合　女子　せ　つ　七ツ
人数〆拾弐人内七人男　男子　坊　主　五ツ

同　三治郎　弐ツ
清四郎弟　傳次郎　三十四
同　與市　三十一
同　八十郎　廿三
下女　ふ　し　五十
下女　す　き　四十

右翌年戌年
高三十七石八斗六升八合　清四郎分
内　拾七石弐斗八升六合
弐拾石五斗八升弐合　傳治郎分

弟
久七
（兄）
澁谷六右衛門弟　兄　権内　喜曾治　七郎治
清九郎　清四郎
（弟　郎脱カ）
傳治　市兵衛　傳吉弟共ニ
傳治　市十郎事　市二郎事　此人他国かせぎニ出行方不知

右権内弟ニ久七
是ハ一代ニて断絶、娘奉公ニ出、舟付村其ハト申者方へ縁付、不縁ニ成当村藤右衛門悴次郎右衛門ト申者へ縁付子共出来、一代駄馬ヲイ申候、寛政三年頃久七ト改メ申由ニて、七郎治ツレアルク

一萱屋　長四間　はり弐間　興専寺　又市　四十七
高帳ニハ孫九ト有
高三石弐斗弐升六合　女　房　廿八
人数〆五人　内三人男　男子　又　助　十三
弐人女

同　坊　主　十一
あ　ま　四ッ
一萱屋　長弐間　はり九尺　興専寺　此壱人　清　此壱人　助　四十八
無高　此六人　善正寺
人数〆七人　内壱人男　女　房　四十四
六人女　あ　ま　十九
あ　さ　十四
め　ろ　八
つ　さ　四
母　興専寺　長　八　年六十八
一萱屋　長三間　梁弐間　六十七
無高　女　房　五十一
人数〆五人　内三人男　男子奉公人　長　吉　廿三
弐人女　女子同　は　や　廿
男子同　喜　蔵　十九
一萱屋　宇立　長九尺　はり壱丈　興専寺　女　い　と　年七十
無高
人数右壱人
一萱屋　長四間　はり弐間　専了寺　庄　六　四十四
高八斗七升八合　女　房　三十七
人数〆四人　内弐人男　男子　庄　九　郎　廿四
弐人女

庄六いとこ奉公人　ふ　く　年四十
一萱屋　宇立　長弐間　梁八尺　本兵衛後家　四十八
無高　男子奉公人　本　助　廿
人数〆四人　内弐人男　女子　か　る　十八
弐人女　男子　三　五　郎　十五
一萱屋　長三間　はり弐間　興専寺　仁　兵　衛　六十四
高壱石三斗八升三合　姉奉公人　せ　ん　六十五
人数〆六人　内弐人男　弟奉公人　権　九　郎　三十九
四人女　女子　女　房　三十三
あ　ま　五ッ
一萱屋　長四間　梁弐間　興専寺　母　長　四　郎　年八十三
小屋宇立長九尺　巾八尺　女　房　五十五
高三石弐斗壱升三合　男子　市　九　郎　五十
人数〆四人　内三人男　男子　長　六　十九
老人女　興専寺　長　兵　衛　十四
一萱屋　長五間　梁弐間　女　房　三十八
無高　女子　小　ひ　ん　廿五
厩　長三間　はり九尺　同　り　ん　七
駄不持馬壱疋　四

人数〆七人　内弐人男五人女

母　とし五十八

下人　権　六　三十弐

下女　は　な　年廿三

一萱屋　長三間　梁九尺　専了寺

無高　妹　徳　兵衛　年五十六

人数〆四人　内弐人男弐人女　妹　長　朔　新　助　年四十八

母　母　十八

年八十四

一萱屋　長四間　はり弐間　専了寺

高三石八斗九升八合　彦　十郎　四十四

人数〆四人　内弐人男弐人女　高帳ニハ彦市ト有

小屋　長弐間　はり九尺　妹　弟　し　な　三十九

母　文　七　弐十八

とし六十五

一萱屋　長弐間　梁九尺　願専寺　女　せ　き　四十四

無高

人数〆壱人女

一萱屋　長三間　はり壱丈　専了寺奉公人　久　六　三十五

高三斗五升五合　母　年六十弐

人数〆弐人　内壱人男壱人女

一萱屋　長三間　はり弐間　専了寺　勘　平　六十五

女子　春　年廿

人数〆五人　内弐人男三人女

一萱屋　長弐間　はり九尺　専了寺　三　吉　五十六

人数〆三人　内弐人男壱人女　妹奉公人　禮　年五十弐

一萱屋　長四間　はり弐間　専了寺　清　吉　四十四

高壱石壱斗八升九合　姉奉公人　よ　め　五十六　高帳ニ彌五兵衛ト有

人数〆五人　内弐人男三人女　同奉公人　か　ね　五十四

弟　傳　之丞　三十五

母　年七十三　此人彦右衛門後家

一萱屋　長壱丈　はり七尺　専了寺　勘助後家　五十八

無高　男子奉公人　又　三　郎　三十五

人数〆弐人　内壱人男壱人女

一萱屋　長三間　はり弐間　専了寺　壽　兵　衛　七十五

無高　女　房　六十五

人数〆弐人　内壱人男壱人女

一萱屋　長三間半　はり弐間　彦十郎弟別家　文　七　三十三

無高　此文七ハ外之帳より書出ス　女　房　十七
一萱屋　長弐間半　はり九尺　専了寺　小　傳　十五
無高　善正寺　母　年四十六
人数〆弐人　内　老人男　老人女
一萱屋　長四間　はり弐間　専了寺　半　助　四十弐
高五斗弐合　女　房　廿七　此女房廿七ハ外之帳より書ス
人数〆弐人　内　老人男　老人女　あ　ま　九ツ
一萱屋　長三間　はり壱丈　専了寺　権　九　郎　五十
高七斗壱升五合　男子　権　平　十六
人数〆八人　内　五人男　三人女　あ　ま　十
弟　庄　七　三十六
母　年七十七
権九郎甥　新　才　十四
同人姪　あ　ま　十二
同人甥　七之助　九ツ
一萱屋　長九尺　はり七尺　専了寺　三　助　六十
無高　女　房　五十四
人数〆五人　内　三人男　女子　あ　ま　十六
弐人女　甥　半　六　五十四

半六子男　團　助　十六
一萱屋　長四間　はり弐間　法覚寺　藤右衛門　五十八
同隠居　長三間　はり弐間　男子　女　房　五十二
無高　三十郎　廿八
人数〆六人　内四人男　女　房　廿四
弐人女　三十郎弟奉公人　六之助　廿三
同人弟　七之助　廿
一萱屋　長弐間半　はり壱丈　興専寺　彦　七　四十三
無高　男子　女　房　三十六
人数〆三人　内弐人男　坊　主　五ツ
老人女　（年脱）
一（ママ）長三間　はり壱丈　是ハ亥八月書付　専了寺　仁　助
一（ママ）長三間　はり弐間　専了寺　傳九郎後家　三十八
女子奉公人　つ　や　年十八
無高　此つや外之帳より出ス
男女〆五百四拾四人
内　弐百五拾六人男　弐百八拾八人女
家数〆百五拾六軒　馬数〆廿壱疋（ママ）
内　拾三疋駄馬
九疋駄不持
七十三軒　高持　三軒　板屋

四拾四軒　無高　七軒　物置
四軒　隠居　十四軒　内壱軒　板屋
壱軒　座敷　九軒　小屋
壱軒　出見せ　厩
一板屋寺　長五間半　巾五間　興専寺
萱屋庫裏　長六間　はり三間
萱屋庫裏　長五間　はり弐間　専了寺
高八石四斗七升五合
一萱屋寺　長七間　はり三間　専了寺
萱屋庫裏　長五間　はり弐間
高拾八石五斗八升七合
一萱屋　長三間　はり弐間　伊勢屋
一萱屋　長四間　はり弐間　郷蔵
一板橋三ヶ所　自分橋
一隼人大明神　壱社　巾三尺八寸
一福地大明神　壱社　巾四尺弐寸
一白山權現　壱社　巾壱尺五寸
右帳面高合八百八拾弐石九斗五升弐合
七十壱石六斗八升弐合舟付村扣へ申候
六石五升八合　大牧村扣へ申候
大牧へ引候六石三斗六升壱合ニて候へとも地高多く候故此分引付候也
〆九百六拾石六斗九升弐合　御公儀高也
一金三分　湊御役金年々次郎左衛門より差上候

一坂　巾三尺　長十三間
一舟　十三艘　六艘　御拝借船八十石入
壱艘　八十石入
内　弐艘　三十石入
弐艘　高瀬舟
弐艘　渡し舟
御用金
一金七拾九両
播州様御金
一金拾両
播州様御金当春拝借仕夫銀ニ指上申候
一金七両
三役金御取立之残リ
一金拾六両　銀三匁
〆百十弐両ト銀三匁
右は、当村家数人馬書上ヶ申候処、我々共へ御案内仕御改被遊候通り、少シも相違無御座候、若家壱軒・人壱人・馬壱疋ニてもかくし置、脇より相知レ候ハヽ、我々いヶ様之越度ニも可被仰付候、為其判形仕指上ヶ申候処仍而如件
庄屋　次郎左衛門
組頭　平　助
宝永弐乙酉年
四月
水野文四郎様

一高五升九合　此甚九郎ハ外帳より書、彦三郎いとこ歟　甚九郎
一高三石五斗四升三合　此平六ハ外帳より書　平六

一高弐石壱斗五升　九郎左衛門
此九郎左衛門ハ大牧村へ引越候歟、外帳より書
〆三人共　家並ニハ無之候

一八七　烏江村家並改帳

○烏江　吹原第三氏所蔵

（表紙）
「正徳五未年三月
家並御改書上帳
烏江村
吹原勘兵衛　」

覚

こけら
一書院　長六間　梁三間
こけら
一廊下　長三間　梁弐間
板葺
一玄関　長五間　梁三間
板葺
一座敷　間五間　梁弐間
かや葺
一本家　長拾五間　梁五間
瓦
一料理間　長三間　梁三間
板葺
一料理間　長四間半　梁弐間
板葺
一馬屋　長七間　梁弐間
板葺
一下人部屋　長拾間　梁弐間半
板葺
一高壁　長三拾間
かや葺
一蔵　長拾間　梁弐間半
板葺
一同　長八間半　梁弐間半
板葺
一高壁　長拾間
板葺
一蔵　長六間五尺　梁三間
かや葺
一長屋　長二十間　梁弐間半
かや葺
一薪家　長拾間半　梁弐間
かや葺
一灰家　長四間半　梁弐間
かや葺
一添家　長九間　梁三間
同断
一門　長拾間　梁弐間
一艀船　四艘　八拾石入
一高瀬船　弐艘　廿石入　三十五石入
一馬　三疋
一召仕下男　弐拾三人
下女　拾弐人
〆三拾五人
一持高百七拾四石三斗六升五合

右之通相違無御座候、以上

烏江村
吹原勘兵衛

正徳五未年三月

生駒伊右衛門殿

一八八　釜段村家数取調報告

○中　高木享一氏所蔵

御糺ニ付乍恐以書付奉申上候

釜段村之儀、去ル天保八酉年飢饉之節、餓死仕候者幷絶家仕候者有之哉之段、先達て被召出御糺ニ付、家数拾軒程相減、内五軒程は他村へ罷越、五軒程は死絶或は懸り人ニ相成、人数は拾三人程病死仕候様荒増心覚奉申上候処、全躰当村之儀、右飢饉已前より水損打続難渋罷在、増減仕候儀も御座候ニ付、篤と取調左ニ奉申上候

一家数五拾八軒　　天保五午年御改高
人数弐百八拾人

〆

一家数五拾八軒　　同六未年御改高
人数弐百七拾七人

〆

一家数五拾八軒　　同七申年御改高
人数弐百八拾三人

内

申年御改後より酉年御改迄

弐軒　　家持之者病死仕、残り之もの親類へ懸り人ニ相成絶家仕候

壱軒　　他村へ罷越絶家仕候

壱軒　　餓死仕、残り之もの親類へ懸り人ニ相成絶家仕候

拾六人　　病死仕候

壱　人　　餓死仕候哉ニ奉存候

〆

一家数五拾四軒　　同八酉年御改高
人数弐百八拾人

内

酉年御改後より戌年御改迄

四軒　　家持人病死仕、残り之もの親類へ懸り人ニ相成絶家仕候

拾三人　　病死仕候

〆

一家数五拾壱軒　　同九戌年御改高
人数弐百七拾三人

〆

当未御改高家数五拾七軒

外ニ弐軒　　御改帳ニ無之、分家仕居候者御座候

人数三百四人

先年と差引

家数追々相増、只今ニては同様ニ相成申候

人数弐拾人程相増申候

右之通ニ御座候、尤当村之儀前書午年より水損打続、別て申・酉両年は、入水ニて田畑共皆無、殊ニ世間一統諸色高直ニて大飢饉と相成候処、度々御救被為　仰付被下置并御下ケ金等ニて相凌申候、且又当村之儀、作間ニは魚鳥殺生而已仕居候て、水損皆無之年柄打続候ても凌能村方ニ御座候、然ル処一昨年御百姓為惣代半三郎・松蔵・周平・民蔵より御訴訟奉申上候内、天保八酉年は大飢饉ニて、餓死仕候者不少趣申立、不容易申上方ニて為驚　御日奉恐入候、全任筆勢書面之取綴ニ御座候、其節流行病ニて死人多ク、餓死人と申は乞食致し居候者壱両人も御座候哉ニ奉存候、尤当村ニ不限、飢饉之節は、世間一同悪病流行仕、死人并乞食等多分御座候、他村と引競候得は、当村之儀は右様之もの無数御座候、此儀は、隣村御聞合被成下置候ハヽ明白仕候、右は一昨年返答書を以奉申上候節、余り長文ニ相成候間、要文而已奉申上候、然ル処御慈悲を以、追々厳重之御糺被成下置、五人組頭半兵衛并惣代四人之者は、御理解恐入御請奉申上候趣、乍去村人之内御理解承服不仕候ニ付、御咎被為仰付、重々御苦労相懸ケ奉恐入候、前書御糺ニ付、乍恐以書付奉申上候、以上

安政六己未年八月　　笈段村名主　横山重次郎

御代官
御役所

前書之通奉申上候ニ付、乍恐奥印仕奉差上候、以上

中村名主　雄平

未八月

一八九　栗笠村家数人数書上帳

○栗笠　高橋嘉幸氏所蔵

寛政十午年二月廿五日鵜多須御役所へ書上申候留

寛政十年

村中人数書上帳

多蠻郡
栗笠村

午二月

一人数八百拾三人　百姓男子妻子下人下女共

内
十六歳以上六拾歳迄　男　弐百五拾七人
十五歳以下六十一歳以上　男　百六拾人
三百九拾六人　女

〆

一人数六人　本道医師一人妻子下人下女共

内
十六歳以上六拾歳迄　男　壱人
十五歳以下　男　壱人
四人　女

一人数壱人　六十一歳以上　座頭　親掛リニて罷在ニ付妻子無御座候

人数合　八百弐拾人

内
十六歳より六十歳迄
弐百五十八人　男
十五歳以下六十一歳以上
百六拾弐人　男
四百人　女

右書上申候通相違無御座候、以上

午二月　鵜多須　御役所　佐藤文四郎　市右衛門

（秘録より抄出）

寛政十年
百姓家数馬数書上帳　多藝郡　栗笠村

午二月　多藝郡　栗笠村給知

一家数百五拾六軒
　但　高持家四拾四軒
　　無高家百拾二軒

一馬数拾六疋
　但　高持　六疋
　　無高　拾疋

右書上申候通相違無御座候、以上

栗笠村庄屋　佐藤文四郎
同村同断　市右衛門

（秘録より抄出）

午二月　鵜多須　御役所

寛政十年
奉公人書上帳　多藝郡　栗笠村

午二月

一人数七人　内　十六歳以上六十歳迄　三人　男
　十五歳以下六十一歳以上　三人　男
　壱人　女

是ハ当村より名古屋町家へ奉公ニ出居候分
一人数四拾七人　内　十六歳以上六十一歳迄　十五人　男
　十五歳以下　七人　男
　廿五人　女

是ハ御領分村々へ奉公ニ出居候分
一人数拾七人　内　十六歳より六拾歳迄　八人　男
　九人　女

是ハ御領分村々より当村へ奉公ニ罷越居候分
一人数四拾壱人　内　十六歳より六拾歳迄　十六人　男
　十五歳以下　五人　男

廿人　女

是ハ他領より当村え奉公ニ罷越居候分

〆

右書上申候通相違無御座候、以上

午二月　庄屋

御役所（ウタス）

右半紙竪帳ニ認弐冊宛二月廿五日上ル（秘録より抄出）

一九〇　栗笠村人別増減書上

○栗笠　高橋嘉幸氏所蔵

御断申上覚

一栗笠村藤助男子與三郎　亥四月出生仕候
一同村惣助女子きを　亥八月出生仕候
一同村利吉女子とよ　亥十一月出生仕候
一同村喜藏男子勝治郎　亥十月出生仕候
一同村清助男子松彌　亥四月出生仕候
一同村武助女子いと　亥五月出生仕候
一同村又七男子岩松　亥四月出生仕候
　石松
一同村庄七女子よの　亥四月出生仕候
一同村新九郎女子すゑ　亥九月出生仕候
一同村嘉之平女子まる　亥十二月出生仕候
一同村喜久八女子せき　亥十月出生仕候
一同村吉藏女子ふん　亥五月出生仕候
一同村八藏女子ふじ　亥十月出生仕候
一同村助治郎男子林之助　亥八月出生仕候
一同村佐兵衛男子秀之助　亥六月出生仕候
一同村多吉男子仁藏

右之通相違無御座候ニ付、御断申上候、以上

文化十三年子正月　多藝郡栗笠村庄屋　佐藤文四郎

小串源六殿
橋爪多門殿
大野作右衛門殿御下役中

御断申上覚

一栗笠村吾性　年六拾　四月去亥十月病死仕候
一同村宗七　年六十五　四月去亥六月病死仕候
一同村佐吉男子春吉　年弐つ　五月同断
一同村淺助男子金太郎　年弐つ　六月同断
一同長七母　年六十七　七月去亥六月病死仕候
一同村善兵衛　年五十八　八月去亥四月病死仕候
一同村新八女子きく　年四つ　九月亥六月病死仕候
一同村久藏男子常藏　年弐つ　亥六月病死仕候

一同村徳兵衛後家　年七拾四　亥七月病死仕候
一同村源吉女房　年八十九　亥十二月病死仕候
一同村小七男子豊蔵　年弐つ　亥正月病死仕候
一同村庄八女子あさ　年弐拾弐　去亥二月病死仕候
一同村與兵衛男子竹松　年七つ　右同断
一同村同人女子ゆの　年十三　去亥五月病死仕候
一同村藤蔵弟嘉蔵　年廿弐　去亥四月病死仕候
一同村孫右衛門　年六十五　去亥七月病死仕候
一同村藤左衛門　年三十四　去亥十二月病死仕候
一同村百松女子こと　年弐つ　去亥六月病死仕候
一同村九兵衛男子元之助　年廿　右亥十二月病死仕候
右之通相違無御座候ニ付、御断申上候、以上
多藝郡栗笠村庄屋　佐藤文四郎
文化十三年子正月

小串源六殿
橋爪多門殿
大野作右衛門殿御下役中

御願申上覚

一当村利平治女房無御座候ニ付、濃州多藝郡舟付村助右衛門娘しの年廿弐ニ相成申候此者、呼申度由奉願候
一同村喜八女房無御座候ニ付、濃州多藝郡下笠村淺七娘りゑ年廿ニ相成申候此者、呼申度由奉願候
一同村嘉助悴由右衛門女房無御座候ニ付、同村伊助娘やつ年弐拾四相成申候此者、呼申度由奉願候
一同村佐田助悴榮助女房無御座候ニ付、濃州不破郡室原村治左衛門娘いと年廿六罷成申候此者、呼申度由奉願候
右之者共、切支丹宗門類族・類縁之者ニては無御座候間、奉願上候通被為　仰付下被置候ハヽ、難有可奉存候、以上
多藝郡栗笠村庄屋　佐藤文四郎
文化十三年子正月

小串源六殿
大野作左衛門殿
橋爪多門殿御下役中

御願申上覚

一当村九兵衛娘るね義、不破郡表佐村十蔵所ゑ縁付ニ遣申度由奉願候
一当村藤助娘たけ義、不破郡室原村由右衛門所ゑ縁付ニ遣申度由奉願候
一当村喜戊七娘せん義、多藝郡澤田村要蔵所ゑ縁付ニ遣申度由奉願候
一当村伊助娘やつ儀、同村嘉助悴由右衛門所ゑ縁付ニ遣申度由奉願候
一当村三喜蔵姉みと、多藝郡直江村藤三郎所ゑ縁付ニ遣申度由

奉願候

右之者共、切死丹宗門類族・類縁之者ニては無御座候間、奉願上候通被為　仰付被下置候ハヽ、難有可奉存候、以上

文化十三年子正月　　多藝郡栗笠村庄屋　佐藤文四郎

小串源六殿
大野作右衛門殿
橋爪多門殿
〻〻〻
御下役中

一九一　下笠村宗門増減帳

〇下笠　小野善四郎氏所蔵

（表紙）「宗門増減帳　寛政十一年未三月二日」

増

一丈吉内女子志よふ、去四月出生仕候
一彌與七内男子宅二郎、去四月出生仕候
一八郎兵衛内女子ぬよ、去十二月出生仕候
一宅右衛門内男子宅彌、去七月出生仕候
一伊藤次内男子鳥二郎、去十月出生仕候
一孫兵衛内女子みす、去九月出生仕候
一林藏内女子りん、去七月出生仕候
一清八内男子梅彌、去八月出生仕候
一清兵衛内女子すミ、去四月出生仕候
一藤之介内女子きよ、去九月出生仕候
一庄七内宗吉女きく、去五月出生仕候
一利平内宗介女子そよ、去七月出生仕候
一政右衛門内女子さと、去十月出生仕候
一與三郎内米松女房　（ママ）
一幸七内男子濱二郎、去十月出生仕候
一庄二郎内女子もよ、去八月出生仕候
一孫七内男子孫ハ、去八月出生仕候
一和助内女子まつ、去十二月出生仕候
一重兵衛内金藏女子りと、去八月出生仕候
一小市内惣兵衛男子惣彌、去十一月出生仕候
一其右衛門内男子丈吉、去三月出生仕候
一同人内女子女子みや、当二月出生仕候
一同人弟彌三郎、先達て多藝郡上ノ郷村新七方へ養子ニ遣置候
　此度不縁ニ相成罷戻り申候
一與平内伊三郎女子よき、去三月出生仕候
一安右衛門内女子たけ、去六月出生仕候
一甚藏内元四郎女子、去五月出生仕候

一丈七女房、安八郡外淵村林藏娘呼申候
一同人内男子鐵藏、去十二月出生仕候
一七彌女房、安八郡柿内村傳八娘呼申候
一同人内女子いし、去十月出生仕候
一嘉平母先達て高須、（ママ）方へ右嘉平共縁付参り候処、此度親子共不縁ニて罷帰り申候
一嘉助内男子嘉藏、去五月出生仕候
一折平内女子る乃・るゑ、先連て御願申上候て、江州柏原宿へ引越罷在候処、今度罷帰り申候
一利介男子文介、去七月出生仕候
一作藏内女きく、去ル正月出生仕候
一平藏内女子ちう、去十月出生仕候
一金七内女子ゆう、去十月出生仕候
一紋四郎内女子もん、去十月出生仕候
一惣二郎内三彌女房、多藝郡入方村伊平娘呼申候
一又右衛門内男子喜代吉、去七月出生仕候
一伊兵衛内女子はる、去七月出生仕候
一常三郎内男子房吉、去十二月出生仕候
一善兵衛内重吉女子なゑ、去七月出生仕候
一豐吉内女子みゑ、去五月出生仕候
一常右衛門内男子吉三郎、去七月出生仕候
一兵二郎内男子兵介、去六月出生仕候
一淺二郎内女子はつ、去十一月出生仕候
一惣右衛門内男子惣三郎、去十一月出生仕候
一菊二郎内女子つろ、去三月出生仕候
一兼二郎内女子この、去四月出生仕候
一柳三郎内男子清松、去十月出生仕候
一小八内女子ふき、去十月出生仕候
一孫吉女房、多藝郡庭田村左十郎娘呼申候
一同人内女子、（ママ）出生仕候
一惣右衛門内男子惣三郎（ママ）出生
一丈七内女子すミ、去六月出生仕候
一長右衛門女子ふろ、去五月出生仕候
一兵四郎内女子きよ、去十月出生
〆　五十九人

減

一藤右衛門跡よの、去八月病死仕候
一彌與七内男子爲二郎、去八月病死仕候
一伊藤次内女子とね、去七月病死仕候
一彌藤次、去十月病死仕候
一與三郎、当正月病死仕候（ママ）
一千彌弟、多藝郡高村へ
一市之介、当二月病死仕候
一與三介、去十二月病死仕候

一直七内女子くの、去十月病死仕候
一政七内女子もよ、去九月病死仕候
一與三介内男子九八、去十月病死仕候
一作内内女子ふの、去九月病死仕候
一磯七内澤二郎、去九月病死仕候
一るい、去六月病死仕候
一繁右衛門妹ひて、安八郡北海松村角四郎方縁付参り申候
一彌右衛門内女子なみ、去八月病死仕候
一喜助内男子喜久二郎、去十月病死仕候
一長三郎内女子よの、去八月病死仕候
一源藏内妹志の、多藝郡大倉(ママ)村左平方へ縁付参り申候
一同人内女子くの、去十月病死仕候
一同人内男子太藏、去十一月病死仕候
一利平内女子ふさ、多藝郡舟付(ママ)方へ縁付参り申候
一文吉父文之介、当正月病死仕候
一與三吉、去八月病死仕候
一與吉女房、去五月病死仕候
一同人内女子わさ、去七月病死仕候
一林藏内男子唯次、去十一月病死仕候
一同人内女子ゆう、去十一月病死仕候
一仁九郎乙松、去五月病死仕候
一喜八、去十月病死仕候
一平藏内男子吉藏、去九月病死仕候
一佐吉内男子文藏、去八月病死仕候
一同人内男子文七、去八月病死仕候
一忠七、去三月病死仕候
一又右衛門内男子又吉、去六月病死仕候
一伊三衛内男子平助、去八月病死仕候
一勘吉内治助、去二月病死仕候
一安右衛門、去十月病死仕候
一辰右衛門、去八月病死仕候
一喜久二郎母、去九月病死仕候
一茂七内女子との、去八月病死仕候
一留三郎、去六月病死仕候
一同人病死ニ付、女房親里へ罷帰り申候
一藤左衛門女房、多藝郡大倉(ママ)村左平次娘呼申候処、不縁ニ罷成帰り申候
一定七、去九月病死仕候
一同人内定吉女子みつ、去九月病死仕候
一次兵衛内伯母ちか、去去(ママ)二月病死仕候
一惣右衛門父浄道、当二月病死仕候
〆　四十七人
一百十一人　内女四十四人　男六十七人
内　中嶋

九十八人	内男女	三十八人 六十人
十三人	内女男	六人 七人
〃		
一弐百廿三人	内男女	百十六人 百七人
内		
百七十五人	内男女	九十人 八十五人
十七人	内男女	九人 八人
七人	内男女	三人 四人
七人	内男女	五人 弐人
十七人	内男女	九人 八人
〃		
百八十八人	男女	九十三人 九十五人
内		
六十九人	男女	廿九人 四十人
百五人	男女	五十八人 四十七人
十四人	男女	六人 八人
〃		
一百五十六人	内男女	八十四人 七十弐人

浄雲寺	
浄誓寺	
ワタ	
浄誓寺	
浄本寺	
興専寺	
浄雲寺	
長誓寺	
ノサキ	
浄雲寺	
浄誓寺	
浄本寺	

中村
東江下

内		
七十人	男女	三十七人 三十三人
八十五人	男女	四十六人 三十九人
老人	男	
〃		
一百弐十人	男女	五十六人 六十四人
内		
廿六人	男女	十人 十六人
九十弐人	男女	四十四人 四十八人
弐人	男	
一弐百廿弐人	男女	百六人 十六人
内		
百廿二人	男女	六十人 六十弐人
八十五人	男女	三十八人 四十七人
十五人	男女	八人 七人
〃		
一百三十一人	男女	六十六人 六十五人
内		
九十五人	男女	四十七人 四十八人

浄雲寺	
浄誓寺	
願専寺	
西江下	
浄誓寺	
浄雲寺	
不動院	
かまへ	
浄雲寺	
浄誓寺	
西源寺	
フトコロ	
浄雲寺	

三十六人	男十九人 女十七人	浄誓寺
〃		
一三百十弐人	男百五十八人 女百五十四人	ミつや
内		
百六十三人	男八十人 女八十三人	浄誓寺
六十人	男三十一人 女廿九人	浄本寺
五十八人	男三十弐人 女廿六人	西源寺
十人	男五人 女五人	願専寺
五人	男弐人 女三人	興専寺
七人	男三人 女四人	願証寺
九人	男五人 女四人	浄雲寺
〃		
惣〃 千四百六十三人	内男七百廿三人 女七百四十人	
内		
五百六十弐人	内男弐百六十五人 女弐百九十七人	浄雲寺
九十壱人	内男四十六人 女四十五人	浄本寺
六百八十八人	内男三百四十七人 女三百四十一人	浄誓寺
十弐人	内男五人 女七人	興専寺

十七人	内男九人 女八人	長誓寺
十一人	内男六人 女五人	願専寺
弐人	男	不動院
七十三人	内男四十人 女三十三人	西源寺
七人	内男三人 女四人	願証寺

一九二　中村家数人数増減帳

○中　高木享一氏所蔵

（表紙）「天保十四癸卯年
家数人数増減帳　中村
六月」

一人数合百六拾五人　内男八拾壱人
女八拾四人　寅年御改元

一人数合百七拾壱人　内男八拾人
女九拾壱人　卯年御改高

内
壱人男　諸奉公人
残て百七拾人　内男七拾九人
女九拾壱人　村有人

寅年御改後増人

一壱人　女　　清六後家女子うた出生増
一壱人　女　　萬太郎女子くに出生増
一壱人　女　　又七女子きぬ出生増
一壱人　女　　休蔵女子すゑ出生増
一壱人　女　　清三郎孫とふ出生増
一壱人　女　　美濃國石津郡牧田村笹吉娘よの清三郎方へ縁付来り増
一壱人　女　　美濃國多藝郡宇田村小市娘みえ多七方へ縁付来り増
一壱人　女　　儀八女子むめ出生増
〆八人　女
　但し六人　女　生増
　〆弐人　女　縁付来増

寅年御改後減人
一壱人　男　　清六後家夫病死減り
一壱人　女　　又七祖母りう病死減り
　〆弐人　内男壱人女壱人　皆死減り
増減差引六人増　但し男壱人減り女七人増

一家数合三拾五軒　　寅年御改元
一家数合三拾六軒　　卯年御改高
　増減差引壱軒　増家
一牛数合拾疋　内六疋牡四疋牡　　寅年御改元
一牛数合拾疋　内六疋牡四疋牡　　卯年御改高
　増減差引無御座候
一馬数合壱疋　牡　　寅年御改元
一馬数合壱疋　牡　　卯年御改高
　増減差引無御座候

右之通増人・減人村中男女老若共吟味仕、神文を以御帳面相認〆候上は、壱人も隠置不申候、若隠置候旨訴人御座候ハヽ、御僉議之上、本人之儀は不及申上、名主・五人組頭何分之曲事ニも可被仰付候、其時一言之御断申上間敷候、為後日仍如件

天保十四癸卯年六月　　中村名主　清　三　郎㊞

御代官
御役所

改　葛　山　圍右衛門㊞
御横目　村　瀬　庄　助㊞

付　中村諸奉公人改帳

〇中　高木享一氏所蔵

（表紙）「天保十四癸卯年
諸奉公人御改帳　中村
六月」

一人数合百七拾壱人　内男八拾人　内女九拾壱人　卯年御改高

内

壱人男　戸田内記様ニ侍奉公仕候、傳左衛門弟　美之助

残て百七拾人　内男七拾九人　内女九拾壱人　村有人

右之通少も相違無御座候、此外他国・他領ゑ奉公遣置不申候、若隠置他国・他領ゑ奉公ニ遣置候旨訴人御座候ハヽ、本人之儀は不及申上、名主・五人組頭何分之曲事ニも可被　仰付候、其時一言之御断申上間敷候、為後日仍如件

天保十四癸卯年六月　中村名主　清　三　郎㊞

御代官
御役所

改　葛山團右衛門㊞

御横目　村瀬庄助㊞

一九三　橋爪村家数人数増減帳

〇橋爪　大久保守正氏所蔵

（表紙）「天保八丁酉年

家数人数増減帳

橋爪村

六月」

人数合五百七拾六人　内男弐百八拾八人　女弐百八拾八人　申年御改元

人数合五百八拾弐人　内男弐百九拾人　女弐百九拾弐人　酉年御改高

申年御改後増人

弐拾人　内男拾人　女拾人

壱人男　作藏悴男子作五郎、里子引取増

壱人女　多十郎孫女子いし、出生増

壱人男　齋次郎悴男子齋助、出生増

壱人女　勘六娘女子じん、出生増

壱人女　勘四郎孫女子ちゑ、出生増

壱人男　梅之助悴男子武治郎、出生増

壱人男　傳助男子五作、出生増

壱人女　忠助方ゑ同村治郎兵衛娘女子せき、縁付来り増

壱人男　小十郎悴男子小二郎、出増

壱人男　幸助悴男子半藏、出生増

壱人女　甚太郎娘女子まき、出生増

壱人男　留七悴男子留三郎、出生増

壱人女　兵助方ゑ同村腰藏娘女子まん、縁付来り増

壱人男　彌三郎悴男子多三郎、出生増

壱人女　彌市郎娘女子こま、出生増

壱人男　五兵衛悴男子五三郎、出生増

壱人男　忠平悴男子留七、出生増
壱人女　治左衛門娘女子まさ、出生増
壱人女　七彌娘女子くの、出生増
壱人女　宇三郎孫女子あさの、出生増
〆　弐拾人
申年御改後へり人
拾四人　内男八人
女六人
壱人男　源兵衛弟綱次郎、病死仕申候
壱人女　喜多次娘女子きせ、病死仕申候
壱人女　治郎兵衛娘女子せき、同村忠助方ぇ縁付遣し申候
壱人男　吉左衛門、病死仕申候
壱人男　又助、病死仕申候
壱人女　林之丞後家娘女子すか、御領同国同郡大墳村龍平方ぇ縁付遣し申候
壱人男　忠彌、病死仕申候
壱人男　長兵衛悴男子長吉、帳外御願申上候
壱人男　小十郎弟喜作、病死仕申候
壱人女　彌平太娘女子ハつ、竹中税助様御領分不破郡岩手村源次郎方ぇ縁付遣し申候
壱人女　彌五八後家、病死申候
壱人男　利助、病死仕申候
壱人女　腰藏娘女子まん、同村兵助方ぇ縁付遣し申候
壱人男　吉助、病死仕申候
〆　拾四人
増減差引但し男弐人増
女四人増
家数合百三拾三軒　申年御改元
家数合百三拾三軒　酉年御改高
但し壱軒増家
壱軒へり家
牛数合拾五疋　内拾壱疋牡
四疋牡　申年御改元
牛数合拾五疋　内拾壱疋牡
四疋牡　酉年御改高
増減差引無御座候
右之通り増人・減人村中男女老若共吟味仕、神文を以御帳面相認メ候上は、壱人もかくし置不申候、若かくし置候旨訴人御座候ハヽ、御僉議之上、本人之儀は不及申上、名主・五人組頭何分之曲事ニも可被　仰付候共、其時一言之御断申上間敷候、為後日仍而如件

天保八丁酉年六月

橋爪村五人組頭　勘　四　郎㊞
同村同断　惣　五　郎㊞
同村名主　次　郎　太　夫㊞

御代官
御　役　所

改　平野權左衛門㊞
御横目　種田傳右衛門㊞

（表紙）
「嘉永元戊申年
家数人数増減帳　　橋爪村
六月」

人数合六百拾壱人　内男三百六人　未年御改元
女三百五人
人数合五百九拾八人　内男弐百九拾九人　申年御改高
女弐百九拾九人
外ニ壱人男当時御尋中
未年御改後増人
四人　内男壱人
女三人
壱人女　利右衛門娘女子せき、出生増
壱人女　喜十郎娘女子いと、出生増
壱人男　休太悴男子五平、出生増
壱人女　吉蔵娘女子なせ、出生増
〆　四人
未年御改後へり人
拾七人　内男八人
女九人
壱人女　源兵衛女房病死仕申候
壱人女　永井肥前守様御領分当国厚見郡日置江村宇兵衛方ぇ、桃蔵娘とせ縁付遣し申候
壱人女　彌八母、病死仕申候
壱人女　御預り所当国多藝郡鳩田村又五郎方ぇ、勘右衛門妹ますの縁付遣し申候
壱人男　嘉助悴男子逸次郎、病死仕申候
壱人男　御領分当国安八郡西久瀬川村佐助方ぇ、佐美蔵弟岩次郎養子ニ遣し申候
壱人男　清助悴男子辰吉、病死仕申候
壱人女　傳助母、病死仕申候
壱人女　嘉蔵母、病死仕申候
壱人男　御領分当国多藝郡津屋村幸右衛門方ぇ、彌市郎悴男子太六養子ニ遣し申候
壱人女　多左衛門母、病死仕申候
壱人男　彦三郎悴男子五作、病死仕申候
壱人男　源左衛門弟源治、病死仕申候
壱人女　九平女房、病死仕申候
壱人男　御預り所当国多藝郡五日市村藤助方ぇ、忠平悴男子忠蔵養子ニ遣し申候
壱人男　治左衛門、病死仕申候
壱人女　吉六母、病死仕申候
〆　拾七人
増減差引拾三人へり
但し申七人
女六人
家数合百三拾弐軒　未年御改元
家数合百三拾三軒　申年御改高

増減差引壱軒増家
牛数合拾五疋　内拾壱疋牡四疋牝　　未年御改元
牛数合拾五疋　内拾壱疋牡四疋牝　　申年御改高
増減差引無御座候

右之通増人・減人村中男女老若共吟味仕、神文を以御帳面相認メ候上は、壱人もかくし置不申候、若かくし置候旨訴人御座候ハヽ、御僉議之上、本人之儀は不及申上、名主・五人組頭何分之曲事ニも可被　仰付候、其時一言之御断申上間敷候、為後日仍如件

嘉永元戊申年六月　　橋爪村名主　角　藏㊞
　　同村同断　惣　五　郎㊞
御代官
御　役　所　　改　竹　中　平　助㊞
　　御横目　金　森　兼　三　郎㊞

一九四　直江村人別増減差引帳

○直江区有

（表紙）
弘化四年　　下帳控ニ置
人別増減差引帳
多蘇郡　直江村」
未三月

増人之分
東本願寺宗　一女壱人　猪藏娘たを出生仕候
同宗　一女壱人　繁八女房縁付来申候
一同　女壱人　同人娘しけ出生仕候
一同　男壱人　菊太郎悴喜三郎出生仕候
一同　女壱人　又兵衛女房縁付来申候
一同　女壱人　善十郎下女はな召抱申候
一同　男壱人　善吉悴善八出生仕候
一同　男壱人　要藏悴理吉出生仕候
一同　同壱人　兵治孫徳次郎出生仕候
一同　女壱人　喜助娘きた出生仕候
一同　同壱人　半三郎娘はん出生仕候
一同　女壱人　市兵衛娘いち出生仕候
同宗　一同壱人　彌藏娘しん出生仕候
一同　男壱人　忠彌悴宇市奉公引罷帰り候
一同　女壱人　休助娘せつ奉公引罷帰り候
一同　同壱人　彌右衛門娘とゑ奉公引罷帰り候
一同　同壱人　庄助孫しよ出生仕候
一同　同壱人　利八姉たよ離縁引越申候

同一　同壱人　専助孫はの出生仕候
同一　同壱人　同人下女はな召抱申候
同一　男壱人　嘉藏悴柳彌出生仕候
同一　男壱人　同人下男養吉召抱申候
同一　男壱人　圓吉後養子圓次郎引越申候
〆　廿三人
此訳　男八人
内　五人　出生仕候者
壱人　養子来候者
壱人　奉公引罷帰候者
壱人　召抱候者
女拾五人
内　八人　出生仕候
弐人　縁付来候者
壱人　離縁引越来候者
弐人　奉公引罷帰り候者
弐人　召抱候者

滅人之分
東本願寺宗　一女壱人　藤三郎妹ぬい奉公罷出申候
同宗　一男壱人　同人下男用助奉公引罷帰り候
同一　女壱人　善助妹みの縁付差遣出候

同宗　一女壱人　猪藏娘みせ奉公罷出申候
同一　同壱人　五平次娘ゆみ奉公罷出申候
同一　男壱人　同人悴國藏奉公罷出申候
同一　同壱人　同人悴茂三郎死去仕候
同一　同壱人　丈八引越申候
同一　女壱人　同人房（女脱カ）同
同一　男壱人　同人悴丈太郎　同
同一　同壱人　同人悴小市　同
同一　女壱人　藤治死去仕候（女脱カ）
同一　同壱人　同人房死去仕候
同一　男壱人　同人娘たつ奉公罷出申候
同一　同壱人　同人悴賢次良奉公罷出申候
同一　同壱人　同人悴次三郎奉公罷出申候
同宗　一男壱人　又三郎悴五市奉公罷出申候
同一　女壱人　善十郎母死去仕候
同一　男壱人　淺右衛門孝次良養子差遣候
同一　同壱人　忠彌死去仕候
同一　同壱人　宇市兄休次郎奉公罷出申候
同一　同壱人　同人弟辰吉奉公罷出申候

一同　壱人　　宇八悴字藏奉公罷出申候
一同　女壱人　　輪兵衛後家なつ奉公罷出申候
一同　男壱人　　與四藏孫長八死去仕候
一同　女壱人　　同人娘みつ奉公罷出申候
一同　男壱人　　萬吉死去仕候
一同　女壱人　　萬次郎後家引越申候
一同　男壱人　　同人悴安五郎引越申候
一同　男壱人　　同人悴八曾治引越申候
一同　壱人　　衆八悴衆右衛門奉公罷出申候
一同　女壱人　　同人娘やゑ奉公罷出申候
一同　壱人　　餘藏娘きり奉公罷出申候
一同　男壱人　　圓吉後家悴養吉奉公罷出申候
一同　壱人　　爲吉後家悴爲次奉公罷出申候
一同　壱人　　同人悴圓助奉公罷出申候
〆　三十六人

此訳　男廿三人
内　五人　死去仕候者
壱人　養子差遣候者
拾六人　奉公差遣候者
壱人　奉公引罷帰り候者

女拾三人
内　弐人　死去仕候者
壱人　縁付遣候者
拾人　奉公遣候者

差引　去午年より拾三人減

一家数三軒相減申候
一宗旨替無御座候
一馬数増減無御座候
右之通当未年人別増減差引書面之通相違無御座候、以上

多藝郡直江村庄屋　休三郎
年寄　源兵衛
大垣御預御役所

未三月

（表紙）
「嘉永四年
人別増減差引帳
亥三月
多藝部　直江村」

増人之分
東本願寺宗
一男壱人　休平悴由次郎出生仕候
一同　女壱人　繁八娘いし出生仕候

一同 同壱人
一同 七郎兵衛娘かへ出生仕候
一同 同壱人
一同 又兵衛娘わき出生仕候
一同 同壱人
一同 權四郎娘こん出生仕候
一同 同壱人
一同 要藏娘かね出生仕候
一同 男壱人
一同 孫介弟祐次郎奉公引取申候
一同 同壱人
一同 半右衛門悴作次郎出生仕候
一同 女壱人
一同 儀三郎娘きと出生仕候
一同 同壱人
一同 由藏孫ちよ出生仕候
一同 同壱人
一同 利右衛門悴誠吉出生仕候
一同 同壱人
一同 嘉藏悴桃太郎出生仕候
一同 同壱人
一同 秋藏娘きり奉公引取申候

〆 拾三人
此訳 男五人
内 四人 出生仕候者
壱人 奉公引取候者
女八人
内 七人 出生仕候者
壱人 奉公引取候者

減人之分
一同東本願寺宗 男壱人 傳次死去仕候

一同 女壱人
一同 善十郎下女はな暇遣申候
一同 男壱人
一同 休藏悴嘉吉奉公ニ遣申候
一同 同壱人
一同 孫介死去仕候
一同 女壱人
一同 同人女房離縁ニて古郷罷帰り候
一同 同壱人
一同 市兵衛母死去仕候
一同 男壱人
一同 覺右衛門後家悴丹彌奉公ニ遣申候
一同 女壱人
一同 同人娘かく奉公ニ遣申候
一同 同壱人
一同 忠七娘はる死去仕候
一同 男壱人
一同 茂兵衛死去仕候
一同 同壱人
一同 俊藏死去仕候
一同 同壱人
一同 輪藏後家悴輪作奉公ニ遣申候

〆 拾弐人
此訳 男七人
内 四人 死去仕候者
三人 奉公ニ遣候者
女五人
内 弐人 死去仕候者
壱人 他村へ奉公引帰り候者
壱人 離縁ニて古郷へ罷帰り候者
壱人 奉公ニ遣候者

差引　去戌年より壱人増

一家数減無御座候
一宗旨替無御座候
一馬数減無御座候
右之通当亥年人別増減差引書面之通相違無御座候、已上

多藝郡直江村
立入人廿組兼帯庄屋
嘉平次
庄屋　休三郎
庄屋代　又兵衛
年寄　善介
百姓代　眞助

亥三月

大垣
御預御役所

一九五　宇田村家数人数増減帳

〇中　高木享一氏所蔵

（表紙）「文久元辛酉年
家数人数増減帳　宇田村
五月」

一人数合六百四人　内男三百弐人　女三百弐人　申年御改元

一人数合六百拾壱人　内男三百七人　女三百四人　酉年御改高
外ニ弐人男　追々家出仕、当時御尋中
申年御改後増人
一弐拾四人　内男拾五人　女九人

内

壱人女　小助女子きゆう出生増
壱人男　岩助男子由太郎出生増
壱人男　多助男子多三郎出生増
壱人男　和右衛門男子五市出生増
壱人女　善九郎女子すみ出生増
壱人男　和七男子辰彌里子引取増
壱人男　九八男子茂吉出生増
壱人男　惣助男子末次郎出生増
壱人男　藤内男子留松出生増
壱人男　忠平後家男子宇吉里子引取増
壱人女　圓吉女子冬の出生増
壱人男　谷右衛門男子初彌出生増
壱人女　牧藏嫁、尾州御領多藝郡飯田村勘四郎娘縁付来り増
壱人女　藤三郎女子さく出増
壱人女　武平女子夏ゑ出生増
壱人男　源七男子春吉里子引取増

壱人女　文藏女子冬の出生増
壱人女　兵藏女子とく出生増
壱人男　甚内孫男子瀧三郎出生増
壱人男　喜助後家男子松彌里子引取増
壱人女　甚藏孫女子はつの出生増
壱人男　小市男子幸左衛門里子引取増
壱人男　助右衛門男子九市出生増
壱人男　榮助男子留三郎出生増
〆弐拾四人　内男拾五人　女九人

但
拾八人　内男拾人　女八人　出生増
五人男　里子引取増
壱人女　縁付来増

〆

申年御改後減人
一拾七人　内男拾人　女七人

内
壱人女　勘次郎母病死減
壱人男　藤助病死へり
壱人女　藤内祖母病死へり
弐人　内男壱人　女壱人　林藏男子廣三郎女子いと病死減

三人　内男弐人　女壱人　宇吉并男子仁藏、女子梅の不所存者ニ付奉願上、去十一月帳外仕候
壱人男　平兵衛病死へり
壱人男　小吉病死へり
壱人男　彌五郎父繁藏病死へり
壱人女　和吉女子ちゑ笠松御支配所当国多藝郡飯木村庄吉方ゟ当三月奉願上縁付遣減
壱人女　平右衛門母病死へり
壱人女　菊右衛門祖母病死へり
壱人男　源藏男子兼吉病死減
壱人男　同人弟和吉奉願上当三月中久瀬川桑名屋分彦四郎借家へ引越減
壱人男　数之助父喜藏病死へり
〆拾七人　内男拾人　女七人

但
拾弐人　内男七人　女五人　病死減
壱人女　縁付遣減
壱人男　引越願減
三人　内男弐人　女壱人　帳外願減

〆
増減差引　七人増　男五人　女弐人

一家数合百三拾弐軒　　申年御改元
一家数合百三拾壱軒　　酉年御改高
　増減差引　壱軒減
一馬数合拾七疋　内拾弐疋五疋　牡　　申年御改元
一馬数合拾七疋　内拾弐疋　牡　　酉年御改高
　増減差引無御座候

右之通増人・減人村中男女老若共吟味仕、神文を以御帳面相認候上は、壱人も隠置不申候、若隠置候旨訴人御座候ハヽ、御僉議之上本人之儀は不及申上、名主・五人組頭何分之曲事ニも可被　仰付候、其時一言之御断申上間敷候、為後日仍如件

文久元辛酉年五月　　宇田村五人組頭　五兵衛㊞
　　同村名主　雄平㊞

御代官
御役所

改　澤野増左衛門㊞
御横目　箕浦李右衛門㊞

一九六　古郷送り・寺送り証文

○橋爪　村上　肇氏所蔵

古郷送り手形之事

一多藝郡祖父江村百姓彦左衛門妹つる義、其御村多十郎方ぇ縁付申候、従之宗門御帳ニ差除申候間、其御村当宗門御帳ニ御書載可被成候、然ル上ハ如何様之儀御座候共、其御村御仕置ニ御取計可被成候、為後日送り手形、仍而如件

寛政八年辰十一月　　多藝郡祖父江村庄屋　重次郎㊞
　　年寄　傳左衛門㊞

多藝郡橋爪村
御庄屋中

○飯ノ木　香川義昌氏所蔵

寺送一札

一濃州多藝郡宇田村才市娘ぬい儀、宗門は浄土真宗当寺門徒有之候所、今度其御村文藏方へ縁付申、貴寺門徒ニ成度願ニ付旦下可被成候、切支丹宗門ニては無御座候、為後日仍一札如件

天明四辰年二月　　京都東本願寺従先規直末寺
美濃國多藝郡安久村
德願寺㊞

飯木村
長圓寺

宗門一札之事

一其御村喜與八母儀、宗旨は代々東本願寺宗ニて当寺旦那ニ紛無御座候、然処此者及老年ニよハり被申候ニ付、其御地引取申度由承ニ付、若此者其御地ニて相果被申候ハヽ、貴寺乍御苦労焼香被成可被下候、遠方義故乍御苦労貴寺ニ御とむらいニて相済申度依頼ニ書付差遣申候、若病死被致候ハヽ、貴寺被成御苦労御済可被下候、為後日如斯御座候、以上

安永五丙申年八月　平村　養樂寺㊞

飯木村
長圓寺殿

一　札

一濃州多藝郡飯木村作之丞妹なおと申女中、明和八辛卯年三月貴寺より送一札被遣候ニ付、只今迄奉公被相勤候内は、拙寺旦方ニ致置候処、今般名古屋長嶋町久右衛門と申方ぇ縁附被申候間、貴寺ぇ帰参致度旨願ニ御座候ニ付、任其意候、向後前々之通貴寺旦那ニ可被成候、為其宗門帰参一札、仍如件

安永七戊戌年十月　尾州名古屋下長者町　浄土真宗　常瑞寺㊞

濃州飯木村
長圓寺

養老町史　史料編

○小倉　栗田　博氏所蔵

送り一札之事

一戸田采女正様御領分多藝郡若宮村政八悴親彌と申者、年弐拾八歳ニ罷成、此者古郷慥成者ニ御座候処、其御村三治郎跡ぇ養子ニ参度旨願出候ニ付、此方宗旨帳面相除キ、則寺請状共相添遣し申候、宗旨之儀は代々東本願寺宗飯積村光敬寺旦那ニ紛無御座候、以来其御許宗旨御帳面ぇ御請込可被成候、依之送り一札仍如件

享和二壬戌年三月

多藝郡若宮村庄屋　喜三郎㊞
同村五人組頭　源左衛門㊞
親類　忠蔵㊞

濃州多藝郡小倉村
御役目中

○柏尾　柏尾静円氏所蔵

一　札

一濃州多藝郡勢至村林四郎娘とくと申者、宗旨は代々浄土真宗ニて、当寺檀那ニ紛無御座候、若、御法度之切支丹宗門之由訴人有之、御僉儀之節ハ、拙僧何方迄も罷出早速可申明候、此度其御村久吉方ぇ縁付参り申候ニ付、仍而如件

天保五甲午年四月　　濃州多藝郡柏尾村　存徳寺㊞

多藝郡押越村
御庄屋
御年寄　衆中

○室原　安福彦七氏所蔵

宗門寺送証文之事

一当国不破郡垂井村半平妹里都儀、禅宗当寺檀那ニ紛無御座候、若切支丹宗門之訴人有之、御僉議之節は、拙僧速可申明候、今般其御村兵右衛門方へ縁付罷越候ニ付、向後其御村福源寺檀那ニ御書載可被成候、後年聊故障無御座候、為後日寺送証文差遣申候処仍如件

天保七年申正月　　戸田采女正御預所
美濃國不破郡垂井村
玉泉寺㊞

不破郡室原村
御役人衆中

古郷送一札之事

一　美濃國不破郡垂井村
半平妹
里都
当弐拾弐歳

右之者、其御村兵右衛門方へ縁付参申候ニ付、当村御改帳面相除差遣申候、此者宗旨は代々禅宗当村玉泉寺檀那ニ紛無御座候、則別紙寺手形差添遣申候、然上は、已来其御村御改帳面ニ御書載可被成候、勿論御法度之宗門筋目之者親類縁者ニも無御座候、其御村方へ罷越候已後如何(ママ)其御村法ニ御取斗可被成候、為後日古郷送手形差遣申候処、仍如件

天保七年申正月　　戸田采女正御預所
同国同郡同村庄屋
半平㊞
同断
善五郎㊞

不破郡室原村
御役人衆中

○高田　日比野泰氏所蔵

古郷送り証文之事

一濃州多藝郡津屋村七蔵弟長彌と申者は、御町佐平後家方へ由緒有之候ニ付、養子差遣度願出候、右之者生処慥成者ニて、村方故障之義少も無御座候、向後其御町住人ニ被成可被下候、右之者宗旨は、代々東本願寺宗当村西林坊旦那ニ紛無御座候、則宗門寺手形取之差添遣し申候、勿論御法度之切支丹宗門類族は親類ニも無御座候事

一鉄炮之義は不及申、其外御停止之諸道具所持不仕候事

一其御町住人ニ罷成候上は、自今不依何事御勝手次第ニ御取斗

可被成候、右之者於故郷古今之悪事無御座候、此後法度相背如何様事御仕置被仰付候共、此方ゟ不及御届候、万一旧悪之義御座候段外より申出候ハヽ、各ゟ御苦労掛不申、我等共何方迄も罷出屹埒明可申候、為其古郷送り証文仍如件

天保八丁酉年　　戸田采女正御領分
四月　　濃州多藝郡津屋村庄屋　五右衛門㊞
　　同村年寄　五兵衛㊞

濃州多藝郡嶋田村之内高田町
御庄屋衆中
御年寄衆中

○室原　安福彦七氏所蔵

古郷送一札之事

一美濃國多藝郡直江村文助妹しを当未廿弐歳

右之者、其御村喜平次方へ縁付参申候ニ付、当村御改帳面相除差送り呉候様願出候ニ付、差送遣申候、此者宗旨は代々東本願寺宗当村蓮光寺旦那ニ紛無御座候、則別紙寺手形差添遣申候、然ル上は、以来其御村御改御帳面へ御書載可被成候、勿論　御法度之宗門筋目之者親類縁者ニも無御座候、其御村方へ罷越候以後何(如)何様之御村法ニ御取斗可被成候、為後日古郷送り手形差遣申候、仍而如件

弘化四未年二月　　戸田采女正様御預所
　　多藝郡直江村庄屋
　　休三郎㊞
戸田采女正様御預所
不破郡室原村
御役人衆中

○中　高木享一氏所蔵

寺手形送り証文之事

濃州不破郡表佐村甚右衛門娘とゟ之儀、東本願寺宗当寺檀那ニ紛無御座候、若切支丹宗門之訴人有之、御僉儀之節は、拙僧罷出速ニ可申明候、よつて証文如件

天保十五甲辰歳三月　日　　濃州不破郡表佐村
　　善行寺顯明㊞
美濃國多藝郡宇田村御附名主
高木清三郎殿
同村五人組頭
儀左衛門殿

送り一札之事

宇田村小吉悴乙八是迄拙寺旦那ニ御座候処、向後貴寺檀那ニ相成度旨依願望、致離旦送り遣し申候、向後宗門印形等都て貴寺より御取斗ひ可被成候、右故障為無之一札仍如件

弘化四丁未年四月　　宇田村
　　西徳寺式部

押越村
西福寺殿

○押越　渋谷保之氏所蔵

宗門寺手形之事

美濃國石津郡馬目村長左衛門弟保之助と申者、今般其御村安左衛門方ゟ養子ニ罷越候処、宗旨ハ代々浄土真宗当寺檀那ニ紛無御座候、若切支丹宗門之訴人有之、御僉儀之節ハ、拙僧罷出速ニ可申明候、為後日証文仍而如件

元治二丑年二月

松平範治郎領分
海西郡松ノ木村
蓮臺寺㊞

戸田采女正様御預所
多藝郡押越村
御役人衆中

濃州石津郡馬目村長左衛門弟保之助と申者、当丑廿二日来、其御村安左衛門方ゟ由緒御座候間、此度養子差遣申度、右保之助儀出所慥成者ニて、村方故障之儀少も無御座候、向後其御村住人ニ可被成候、尤宗門之儀は代々浄土真宗ニて、海西郡松木村蓮臺寺檀那ニ紛無御座候、則宗門寺手形取之差添遣申候、勿論御法度之切支丹宗門之類族縁者ニても無御座候事

一御公儀様御法度之儀は不及申、其御村法相背申間鋪旨申遣候事

一御法度之鉄炮并御停止之諸道具、一品も所持不仕候、向後鉄炮商売は勿論、預申儀も仕間敷旨申渡遣候事

右之通相違無御座候、尤於古郷ニ古今之悪事無御座候、万一旧悪之儀御座候段外より申出候ハヽ、各方ゟ御苦労相掛ケ不申、私共何方迄も罷出屹埒明可申候、以後御法度相背如何様之御仕置被　仰付候共、此方ゟ不及御届、聊難渋ケ鋪儀申出間鋪候、為後々年古郷送証文依而如件

元治二丑年三月

松平範治郎領分
石津郡馬目村
庄屋　禮吉㊞
年寄　新十郎㊞

戸田采女正様御預所
多藝郡押越村
御庄屋中
御年寄中

一九七　捨子養育願

○室原　安福彦七氏所蔵

乍恐書付を以奉願上候

先達て、御届ケ奉申上候当村御堤通上段海渡船場上籔之中ニ捨有之候男子之義、拾ひ揚水呑百姓長五良方ニ乳御座候ニ付、預ケ置養育為仕置候処、今般村方水呑百姓茂七ト申者、養子ニ貰

ひ度段申出候ニ付、差遣し申度奉存候、此段乍恐書付を以奉願上候、尤村方も故障之義無御座候ニ付、村役人一同連印之書付を以奉願上候、右願之通御聞済被成下候ハヽ、一同難有仕合ニ奉存候、已上

（天保十五年）
辰八月

室原村庄屋　兵右衛門
年寄　宗六
百姓代　昌平

大垣御預御役所

右八月七日御免之節被仰ニ、兵右衛門・忠左衛門・宗六罷出差上申候
（天保十五年願書留より）

付　捨子養育料下附ニ付請書

〇室原　安福彦七氏所蔵

覚

先達て、御堤通上段海渡船場上籔之中ニ捨子有之、御村方ゟ御拾ひ被成候処、私男子無御座候ニ付、養子ニ仕度段御願申上候処、望之通御承知被下、則養育料として金弐両御附被下慥ニ奉請取候、然ル処、今般　御上様より金弐百疋是亦養育料として被下置、冥加至極難有頂戴仕、已来大切ニ養育可仕旨被仰渡之承知奉畏候、依之為後年本人幷親類・世話人加判之御請書奉差上候、以上

天保十五年
辰八月晦日

室原村養親　茂　七㊞
親類請人　文　助㊞
世話人　儀　助㊞

御村方
御役人衆中

一九八　押越村娘売証文

〇押越　渋谷保之氏所蔵

拾年切ニ売り申女之事

一我等むすめつると申もの、寅ノ年より拾年切ニうり申候、則右之代として御年貢米請取おもて壱石と又、金子三分慥ニ請取申候、若此女しにうせ候ハヽ、人代を立候か、さなくは右之米・金子を拾年ニ御わり付候て、御奉公いたし候分年月ニ御引次被成、残分拙者共へ可被仰付候、急度相済可申候、為後日仍如件

寛永十弐年寅ノ
二月一日

おしこし村
同　清蔵
長九郎

中嶋兵大夫殿

一九九　室原村欠落者注進状

○室原　安福彦七氏所蔵

乍恐書付を以御届奉申上候

代々六十郎家来水呑
新　二　郎

代々春甫家来水呑
多　作

一

右者、去亥八月五日欠落仕候ニ付、此段書付を以御届奉申上候処、格別之御慈悲ヲ以、百八十日尋被　仰付候間、所々心当り処相尋候得共、今以行衛相知レ不申候、依之此段乍恐書付を以御届奉申上候、以上

（嘉永五年）
子二月

不破郡室原村庄屋
兵右衛門

年寄　宗　六

多作親類
善　兵　衛
新三郎同断
俊　助

大垣
御預御役所

（嘉永五年願書留より）

二〇〇　押越村走百姓探索請書

○大垣市東外側町　大垣市立図書館所蔵

一庄八押越村をはしり申候、以後村へ参候かと御改ニ候、地下をはしり候後、村へまいり候儀ハ不及申、路次道にて対面仕言葉をかわし申儀も無御座候間、此旨被仰上可被下候、若至後日かくし候も、右申上候通偽りニて御座候と申上者御座候ニ付てハ、罷出相対仕、我等共偽り申上ニ相極候は、何様之曲事にも可被仰付候、其時一言之御うらミ申上間敷候、為後日仍如件

午七月十一日

おしこし村
彦　六（略押）
（外六拾六人略）

おしこし村庄屋
兵左衛門殿

二〇一　栗笠村百姓引越願

○栗笠　高橋嘉幸氏所蔵

奉願御事

一濃州多藝郡栗笠村高持百姓彦十郎と申者之弟金助儀、只今迄在郷奉公仕候、然処ニ大垣御領同郡野口村ニ田地扣申候、右野口村へ金助引越居住仕度奉願候、即野口村庄屋小百姓中納得之上、互手形取かわせ申候、勿論何方よりも少も障無御座候、被仰付被下候は、難有可奉存候、以上

元禄十七年
申之三月

濃州多藝郡栗笠村
彦　十　郎
同所彦十郎弟
金　助

稲垣甚右衛門殿

右金助奉願候通、少も相違無御座、被仰付被下候様ニ奉願上候
同村庄屋　治郎右衛門
同村与頭　平助

二〇二　下笠村百姓悴死亡届

〇下笠　兒玉章氏所蔵

乍恐御達奉申上候御事

私悴多三郎儀、当年拾三歳ニ罷成候処、元来てんかん持病ニ御座候得共、困窮者之儀ニ付、日々農業ニ召連罷出候処、昨三日朝五ツ時、右持病差起り、当村地内悪水落江通りへすべり込申候ニ付、早速見付除上ゑ引上ケ候処、居宅ゑつれ帰り、大野村医師今井柳貞相招キ、療治いたし貰ひ候処、一旦生気ニ相成候へ共持病差起り、種々療養相加へ申候得共、養生不相叶、今暁六ツ時死去仕候、全水死仕候ニては無御座候得共、右之始末ニ付、別紙医師様躰書相添、乍恐御達奉申上候、已上

天保十三寅年七月　濃州多藝郡下笠村　惣右衛門㊞

市瀬東七郎様

今尾　御陣屋　御役所

右惣右衛門御達奉申上候趣、当人始親類・五人組之者共ニ至迄篤と吟味仕候処、相違無御座候、依之奥印仕候、以上

右村庄屋　田中文左衛門
同断　田中常三郎
同断　北垣彦一郎

二〇三　奉公人請状

〇押越　渋谷保之氏所蔵

うし年より未ノ年之暮迄三平御奉公仕事

一米弐石者　但うけ取面也

右、御年貢米御寺銀御取切可被成と被仰候て、我等共方へ御さいそく候へ共、拙者共手前不成候、両米ニて御納所仕義、不罷成候所ニ、次兵衛殿・兵介殿を頼、御用合と思召、三平七年切被召遣御済被下候様ニと、達て御ことわり申上候処、御同心旁被召遣可被下候由、雨山ニ忝奉存候、若七年不過候内ニ、三平うせはしり申候は、請人拙者ニ御かゝり可被成候右之米拙者人代相立可申候、自然三平拙者ともニはしり申候は、御聞出し次第ニさき〳〵迄御とゝけ被成、其方御存分次第ニ可被仰付候、其一言儀申間敷候、為其後日状仍如件

寛永十三年　　おしこし　仁　介（略押）
子十二月廿九日　〃　三　平
きも入　中嶋　兵左衛門殿　次　兵　衛（花押）
兵　介（花押）
新　介（略押）

○大垣市東外側町　大垣市立図書館所蔵

押越村與吉已ノ年御年貢米ニ迷惑仕、御江戸下男四年切ニ御奉公ニ罷出候ニ付、此與吉請人ニ我等儀ニ罷立候、右之年季あき不申候内ニ、比與吉若かけおちなと仕候は、其人代ニ我等罷越年季之通り御奉公つめ可申候、将又、とりにけなと仕候は、以猶、其さう物我等わきまへ、其上ニ右約束之通御奉公つめ可申候、村衆へ少もくのふかけ申間敷候、為後日、仍請状如件

寛永十八年　　請人　大塚村　彦　市（筆印）
巳十二月廿三日　同　仁　藏（略押）
おしこし　兵左衛門殿
兵　介殿
小　平　次殿
次　兵　衛殿

○栗笠　高橋嘉幸氏所蔵

奉公人請状之事

一舟付村長助義、当寅霜月廿三日より来卯霜月廿三日迄之内、壱ヶ月六日宛日折奉公ニ御召拘被下、則為給金弐分弐朱相究不残請取之御年貢上納申所実正也、然上は御奉公急度相勤可申候、右取逃・欠落幷不奉公等仕候ハヽ、請人罷出御村法・御家法之通無滞埒明、長助ニ相増り申候人代相立可申候、猶又長煩等仕候ハヽ、是又人代相立可申候

一御公儀様御法度は勿論、御村法・御家法共急度相守、何に不限被仰付候事少しも違背仕間敷候事

一宗門之儀代々浄土真宗紛無御座候、旦那寺船付村尊光寺門徒ニ御座候、則寺手形請人ぇ差置申候

右之趣承知仕御奉公ニ罷出候上は、急度相勤可申候、何に不限いかやう六ヶ敷儀出来仕候共、請人罷出急度埒明可申候、少しも御苦労懸ヶ申間鋪候、御気ニ入後之年迄御召仕被下候共、此請状を以御請合申候、仍而請人加判如件

文化三丙寅年十一月　　舟付村本人　長　助㊞
同村請人　宇　七㊞

栗笠村
高橋治兵衛殿

○田　古川茂氏所蔵

御請合申奉公人請状之事

一多藝郡有尾新田榮藏儀、去戌御年貢米差詰り申候ニ付、悴仁三郎と申者、当亥正月十七日極月十五日迄貴殿より御奉公ニ罷出為御給分金三両壱分被下、只今慥請取御公儀様へ御年貢上納申処実正也、然上は御奉公之儀御役等不及申、御家之御作法急度為御勤□候、取逃・欠落仕候ハヽ、本人早々尋出相渡可申候、若相煩申候ハヽ、人代相定可申、又ハ御給金ニ利足ヲ加へ返済可仕候とも其者之御届之次第ニ可仕候

一仁三郎儀宗門之儀は、東本願寺宗旦那寺有尾新田明楽寺旦那紛無御座候、万一御公儀様御法度之切支丹訴人御座候ハヽ、私し共何方も罷出急度埒明、其元へ少も御苦労掛ケ申間敷候別寺手形之儀は拙者方ニ取置御用次第差上可申候、為後日請状仍如件

文久三年
亥正月

多藝郡有尾新田
奉公人親　榮藏
同郡同新田
請人　角兵衛

安八郡
勘右衛門殿

二〇四　乳母奉公人請状

○直江　日野泰道氏所蔵

乳母手形一札之事

一此女きぬと申者、壱ケ年ニ御給金三両ニ相極、則只今半金壱両弐分請取、残り金今年極月受取ニ相定、乳母奉公ニ差上申候、濃州東大外羽村五右衛門娘ニて御座候、御法度之宗門幷類族之者ニても無御座候、尤御息女様常々大切ニ御養育可仕候

一御奉公之内如何様義御座候共、理不尽ニ御暇願申間敷候、若病気ニ候歟、又ハ乳汁不足仕候ハヽ、急度人代り相立可申候勿論日夜食事無差と候模一切為請申間敷候

右之条々違背仕候ハヽ、請人罷出急度為相守可申候、為後日一札仍而如件

文政十丁亥年三月　日

濃州多藝郡東大外羽村親
五右衛門㊞
同村請人
初右衛門㊞
同村乳女
き　ぬ

直江村
連（蓮）光　寺様

○安八郡輪之内町　片野記念館所蔵

乳母奉公人請状之事

一多右衛門娘志う儀、出生慥者ニて連添夫猶外より指構申者一切無之候ニ付、我等請人ニ罷立、当子二月二日より来ル寅二

月朔日迄、弐ヶ年季乳母奉公ニ相極メ、壱ヶ年季給金三両三分弐ヶ年ニて都合給金七両弐分御借可被下御約定之処、当子年より来丑二月迄壱ヶ年分給金三両三分御借被下慥申請、御年貢上納仕候処実正也、残金三両三分ハ、来丑年可申請御約束仕置候、然ル上者、其御許御家御作法之通急度為相勤少シも相背セ申間敷候、若此者中途ニて乳汁足り不申候歟亦ハ、乳揚り候節ハ好キ代り相立候歟、右給金御勘定仕候歟、貴殿御指図次第可仕候、万一此者取逃・欠落仕候ハヽ、引負之品は勿論御給金ニ利足ヲ加へ、請人方より急度相立可申上候、右之外如何様之陸ヶ敷儀出来仕候共、受人何方迄も罷出急度埒明ケ、其許殿へハ少しも掛御難申間敷候、且亦御奉公之内縦令如何様之儀御座候共、此方より御隙申請間敷候、御子様大切ニ養育為致可申候、若此者御気ニ入御奉公相勤候ハヽ、幾年ニても此請状御用可被成候事

一御公儀様御法度之儀は不及申、御制法急度為相守可申候事

一宗旨之儀は、代々浄土真宗ニて、蛇結村圓光寺旦那ニ紛無御座候、則寺請状請人方へ被置、何時成共御入用次第掛御目可申候、為後年乳母奉公人請状仍而如件

文久四年
子二月　日

濃州多藝郡有尾新田
奉公人　志う
奉公人親　多右衛門㊞
証人　牧右衛門㊞

肝煎人　元八

繁右衛門殿

○五人組

二〇五　押越村五人組之事

○大垣市東外側町　大垣市立図書館所蔵

押越村五人組之事

与三郎（略押）
喜作（略押）
彦六（略押）
六三（略押）
三吉（略押）

くミかしら
九左衛門㊞

介右衛門㊞
新介㊞
半七㊞
小二郎（略押）
長九郎（略押）
眞三（略押）

くミかしら
加右衛門㊞

忠四郎印
小十郎（略押）
宗太郎（略押）
加　介（略押）
才　三（略押）

次兵衛印

小十郎印　請人半　七印
少　介印

五郎左衛門（略押）
少　八（略押）　請人　彦八郎（略押）

加　平（略押）
彌　介（略押）
長　次（略押）
半四郎（略押）
又　次（略押）
又　介（略押）

彌三郎（略押）

彦九郎（略押）
彦八郎（略押）
左　近（略押）
彦　次（略押）
介左衛門（略押）
六　三（略押）

兵　介印

宗　一（略押）
清右衛門（略押）
介十郎（略押）
彦二郎（略押）
勘四郎（略押）　請人　新　介印
とら（略押）　請人　西福寺（略押）
清十郎（略押）

彦左衛門（略押）

清　次（略押）
彦　介（略押）
兵　介（略押）
又右衛門（略押）
三五郎（略押）
權八郎（略押）
喜　三（略押）
長　介（略押）
彦七郎（略押）

七　介印

又　十（略押）
五　郎（略押）
小　七（略押）
清　介（略押）

一印

作　介（略押）
二郎作（略押）

五郎兵衛（略押）

與吉

與一

與七

次郎右衛門（略押）
彦　市（略押）

一竹木伐取申事訴人御座候は、何時にても請人・組かしら共ニ御法度ニ可被仰付候、其時一言御うらミ申間敷候事
一麦・ひへ・大豆・小豆其外さゐん物（菜園）以下迄、少ニてもぬすミ取申間敷候事
一野山にて、草・たきゞニいたるまて、互取申間敷事
一人ニかゝり候者共、夜ニ入よせつけ、やと仕間敷候事
一村々子共又ハ下人共、たはこかい度候由にて、いね五束三束米ニ仕度候由申処、やとを仕間敷候事
一秋中いねぬすミ取候事
一秋中いねかわらにて取ちかへ申間敷事

右組如此仕候儀ハ、御公儀より度々被仰付候間、村中出合如此組をいたし、組頭を付、又ハ請人をたて加判仕候事、御公儀万端御法度そむき申間敷ために御座候、此上右条之通相そむき候もの御座候は、其人ハ不及申ニ、請人・組頭共ニ、御法度ニ可被仰付候、至其時ニ一言御恨申間敷候、若又ふかしからさる由にてかくし置候もの後日ニ聞出し候は、過銭壱貫文取候て、後々ニきかせ候ものニとらせ可申候、ほひろひ以下までも互出し申間敷候、右条々為後日仍如件

寛永九年
申八月五日

兵　太　夫㊞
九左衛門㊞

次　兵　衛㊞
兵　介㊞

牧七大夫殿
淺三郎兵衛殿

二〇六　押越村五人組法度請書

〇大垣市東外側町　大垣市立図書館所蔵

仕上ル書物之事

一当村竹木幷樹木以下伐あらし申間敷候御事
一当御年貢御皆済不仕候以前ニ、米他所へ少も出し申間敷御事
一家なみ御改無御座内ニ、家大小ニ不寄こぼし申間敷御事
一雁・鴨・小鳥ニ不寄、せつしやうの義仕間敷御事
一諸牢人下々迄も、むさと仕たるものに、宿ヲかし申間敷候御事
付、村中より御百姓男女ニ不寄、他所へ壱人も出し申間敷候御事

右之条々、御法度之旨於相背申ニ者、いかようにも曲事ニ可被仰付候、以上

辰之十月廿九日

おしこし
兵左衛門

戸田采女様御内
中山甚五左衛門殿

野崎　十左衛門殿
高木權右衛門様御内
窪田　藤左衛門殿

右之御法度之通り具承、村中壱人も不残はん仕上申候、若法度相背申候者在之候ハヽ、五人組ニ御かゝり可被成候、至其時一言御うらみ申間敷候、後日如件

寛永十七年
辰十月廿九日

小平次（略押）
後家（略押）
（以下七十七名略）

兵左衛門殿
次兵衛殿
又次殿
兵介殿

意可申候

右之通相違仕候ハヽ、何様ニ成とも可被仰付候、為其一札指上ヶ申候、以上

正保四年
丁ノ九月廿三日

長嶋小十郎殿
小田新右衛門殿

五人組
左平次
七助
彌藏

兵左衛門
二郎左衛門

五人組
小平次
作兵衛
彦太夫
彌三郎
五郎左衛門

次兵衛
太郎兵衛

五人組
□□□
加平次
忠二郎
五郎兵衛
太郎左衛門

五人組
清兵衛
十兵衛

二〇七　押越村物成五人組請書

○大垣市東外側町　大垣市立図書館所蔵

指上ヶ申一札之事

一当御物成米之義、御免定日限之通急度皆済可申候、若相延申候ハヽ、五人組ニ可被仰付候

一百姓欠落申候ハヽ、五人之内残ル四人ニ可被仰付候

一当御年貢自然たり不申候て、男女奉公ニ出シ申候ハヽ、得御

二〇八　根古地新田下百姓五人組帳

○東京都　国立史料館所蔵

（表紙）「元禄五年　根古地新田下百姓五人組帳　申ノ四　月」

指上ケ申五人組一札之事

一今度御公儀様御改ニ付て、我々宗門之儀は、代々本願寺宗、壱家不残其寺々之判形、貴様指上ケ申候御事

一預り申田畑、壱歩壱畝も無如在、荒シ申間敷候、扨又御年貢年々御見立米、成程念ヲ入、縄俵無油断仕、御指図次第ニ可仕候御事

一むさと仕候者、一夜之宿をもかし申間敷候、縦一門たりといふ共、五人組仲間へ相断、其上ニて御指図ヲ請可申候御事

一御役等、諸事御意次第ニ可仕候、弥々満水・火事等出来仕候ハヽ、壱人もわたかまりなく、精ヲ出し可申候御事、其外御法度之品々、被聞仰候通、少も無如在相守可申候、若五人組之内、何ニよらず御法度背申者有之ニおゐてハ、組中より御断可申上候、隠置申ニ付てハ、組中之内誰よらず、本人ハ不及申、両隣同料（ママ）ニ可被仰付候、其時一言之御断申上間敷候御事

一博奕宿一切仕間敷候、此外遊ふましきたくい、大酒なと仕らせ申間敷候、堤くろニ居申者共、竹木むさと伐取申間敷候、御堤ニ鍬め少も入申間敷候御事

右五ケ条之趣、常々無油断相守可申候、若相背申ニおゐてハ、如何様ニ被仰付候共、御恨ニ申上ケ間敷候、為後日仍如件

元禄五年　申ノ四　月

後藤三郎左衛門殿　兵　九　郎㊞
庄屋伊藤金右衛門殿　七左衛門㊞

五人壱組　傳　七㊞
組頭　由右衛門
喜　平㊞

忠　次　郎㊞
庄　八㊞
五人壱組　九　兵　衛㊞
茂右衛門㊞
惣　七㊞

右之外、御法度背申者御座候ハヽ、五人組として、諸入用請合出し可申候

組頭　三郎兵衛㊞
九郎兵衛㊞

六人老組　七右衛門㊞
甚　介㊞
七　介㊞
源　六㊞

同断、
六左衛門㊞
七郎兵衛㊞　組頭
甚右衛門㊞
勘右衛門㊞
六　平㊞
次　平㊞

傳　八㊞
長　八㊞　組頭

六人老組
長　吉㊞
傳　介㊞
久右衛門㊞
善　六㊞

右之外、御法度背申者御座候ハヽ、五人組として、諸入用請合、出し可申候

二〇九　有尾新田五人組仕置帳

○安八郡輪之内町　片野記念館所蔵

（表紙）「元禄十三年
辰年五人組御仕置帳
三月　美濃國多藝郡有尾新田」

条々

一前々従　公儀度々出候御法度書之趣、弥以堅ク相守、御制法之儀、不相背様ニ村中小百姓下々迄可申付事

一五人組之儀、町場ハ家並、在郷ハ最寄次第家五軒宛組合、子共幷下人・店かり・借地之ものニ至迄、悪事不仕様ニ組中常々無油断可僉議、若徒もの有之候て、庄屋申付をも不用候ハヽ、可訴之事

一毎年宗門改帳三月迄之内可指出、若御法度之宗門之者有之は早速可申出、吉利支丹宗門之儀、御高札之旨可相守、宗門帳之通人別ニ入念可相改、宗門帳済候て後召抱下人等は、寺請状別紙可取置事

一五人組宗門帳ニ押候外ニ別之印判こしらへ置申間敷候、若子細候て印形替候ハヽ、庄屋・年寄ハ手代方迄可相断、其外之百姓替候ハヽ、庄屋・年寄へ可断、名を改候ハヽ、早速致断、五人組帳ニも改候名を可記事

一きりしたんころび之もの幷類族有之分ハ、別帳ニ記之、切死丹奉行衆へ差出置之、若他村より縁組等ニて、当村へ右之やから来り候ハヽ、早速可注進事

一田畑幷山林等永代売買御停止ニ候、若質物ニ入候ハヽ、拾ヶ

年を限質手形ニ庄屋・五人組加判可為仕、田畑質ニ入金銀を借り、田地を金主に為作候て、御年貢ハ地主より出候儀不可仕事

一衣類・道具又ハ門橋等之はづし金物類、出所不知売物一切買取間敷候、右之品々質ニ取、又ハ預り置へからす、出所知候物ニても請人無之候ハヽ、質物ニも取間鋪事

一惣て家業を第一ニ相勤へし、百姓不似合遊芸を好、或ハ悪心を以公事すきを致し、非公事をすゝめ、偽をたくみ、人の害をなすもの、又ハ不孝の輩あらハ、不隠置可申出、何事ニよらず神水を呑、誓紙を書候て申合、一味同心致、徒党かましき儀不可仕事

一盗賊・悪党人有之は訴人可仕、褒美可為取之、其上あたをなさゝる様ニ可申付事

一百姓衣類之儀、結構成ものを不可着、名主ハ妻子共ニ絹・紬布木綿可着之、平百姓ハ不可着、りんす・さや縮緬之類ハえり・帯にも致間敷候、然共、平にても身躰宜敷者ハ、手代方迄断を立指図を請、絹・紬可着事

附、男女共ニ乗物ニのるへからす、惣て屋作等目ニ立候普請大者(奢カ)かましき儀仕間敷候事

一聟取・娶取之祝儀、奢かましき儀無之様ニ分限より軽可仕、人大勢集大酒不可呑、所ニより蚊屋之祝儀、新宅之ひろめ、初産之祝不相応之祝仕候儀可為停止、応分限内所ニてかるく祝可仕候、幷葬礼之野酒一切停止之事

一捨子堅不仕、若他所之もの捨置候ハヽ、村中ニて致養育、早速可注進事

一生類憐之儀心掛、不実ニ無之様ニ可仕候、不仁之儀不可致候事

一猟師之外鳥獣一切とるへからす、猟師たりというとも、鶴・白鳥取之儀御停止ニ候、若村中ニて鶴・白鳥売買いたすものあらハ、可訴之事

一捨馬之儀、御高札之通堅可相守之、若他所之捨牛馬幷放牛馬当村へ来候ハヽ、見出次第庄屋・年寄へ告之、村中立会致飼儀、持主知レ候ハヽ、其村之庄屋幷牛馬主より手形を取、相返、其上所々可注進事

一馬之筋をのべ候儀、御停止ニ候、牛馬売買候ハヽ、出所聞届請人を立、五人組ゟ相断可売買、出所不慥牛馬不可買取事

一新地之寺社建立之儀、堅停止たるへき、惣てほこら・念仏題目之石塔・供養塚・庚申塚・石地蔵之類、田畑・野・山林又ハ道路之端ニ、新規ニ一切立間敷候、仏事・祭礼等軽可執行之、新規之祭礼立へからさる事

一寺社之儀、住物社人替り候ハヽ可注進事

一神仏致開帳候ハヽ可注進、当村神仏他国ゟ当分相移、開帳仕候義有之ハ、前方可注進、又ハ他所より神輿を送来候様成儀有之ハ、不可請取之、村中ニ少之間も差置申間鋪事

一当村ニ有之候出家・社人・山伏・行人・道心者・非人等、其外穢多之類、常々吟味致候て、胡乱なるもの住居仕間敷候、庄屋・年寄ゑ不相達候て他所より来候者、一夜之宿をも不仕様ニ右之もの共ニ堅可申付事

一村中之者之内、或ハ立退、或ハ逐電、或ハ身上潰候て、住居難成者有之ハ可注進、又ハ他村を子細有之候て、立退来しものハ、親類たりという共、当村ニ一切不可指置事

一他所之者、当村ニ有附致住宅度と願候ハヽ、其者之家職之様子聞届、出所之問屋・庄屋へ致届之断、慥成請人手形取之、宗旨相改遂注進候て可差置、店かり・地かり等之もの置候も右同前ニ可相心得事

一百姓田畑子孫ニわけ取候共、老人前之高五石より内ニ不可分、小高之百姓ハ子孫ニわけとらせ間敷候、若子細候て分儀有之は、可得差図、惣て新規百姓有附候ハヽ可注進、跡式之儀は存生之内、庄屋・年寄為立会書付置、後日出入無之様ニ可心掛事

一当村之内ニて能・あやつり・相撲、又ハ狂言、其外見せ物類之芝居為仕間敷候、私領ニてわけ郷或ハ村隣ニて、当村境目まぎらハしき地ニていたし候ハヽ、芝居不始已前早々可注進事

一惣て遊女・野郎之類一切当村ニ置へからす、一夜之宿も致間敷事

一行末不知者に、一夜之宿もかすへからす、旅人・其外何者ニても堂・宮・山林・道路ニ死人有之ハ、其者持来候雑物等改、庄屋・年寄立会様子委細書付候て可注進、若、堂・宮・山林ニ隠忍、胡乱成者あらは令僉議、品ニより搦捕可訴之、其外手負又ハ不審なるもの、他所より来候ハヽ、出所を尋致附届、注進之上受差図候て彼もの可出事

一往来之輩若煩候ハヽ、早速医師ニ見せ、随分致保養、能々いたわり、食物等入念あたへ、看病仕置可注進之、行歩不叶先へ参候儀難儀候ハヽ、其ものの在所ヲ承届、迎を呼、手形を取相渡し遣シ可申候、若病死いたし候ハヽ、其ものの道具等改、庄屋立合致封印置、可受差図事

一殺害人或ハ致自害候もの、成ハ倒もの有之ハ、番人を附置早速可訴之、火事・盗人・喧嘩・手負之者惣て不慮成儀出来候ハヽ、右同前無油断可注進事

一村中ニて若喧嘩・口論有之ハ、庄屋・年寄出合可裁判、他村ニて喧嘩等有之節ハ、走集へからす、人を殺立退もの有之は、隣郷之者迄出合搦捕、早速可注進、捕候儀叶かたく候ハヽ、跡をしたひ落着所ゑ急度可申届候事

一田畑荒置へからす、永荒場・起返・切添、又ハ新田畑有之候ハヽ、早速可申出、隠置脇より訴候ハヽ、庄屋・年寄可為越度事

附、たはこ本田畑ニ作候儀停止之事

一堀を埋又ハ道をせはめ、秣場・林際を切添田畑仕出へからす、前々より無之所ゑ道を付、馬入不可仕、若道付替・新堀不致候て、不叶所有之候ハヽ、可請指図事

一用水之掛引、常々申合置、諍論無之様ニ可仕、水論・境論等之場へ刀・脇指・弓・鑓・長刀等を持出、令荷担もの有之は、其科本人より重かるべき事

一御伝馬宿ゑ定助・大助郷より人馬寄候ハヽ、問屋・年寄致吟味猥ニ人馬触仕間敷候、其宿々馬をかこひ置、面々勝手ニ能荷物を附候様成義一切不可仕候、御朱印ハ勿論、駄賃・伝馬・人足之儀、常々致吟味置、無滞様ニ可仕事

附、助郷へ人馬触来候ハヽ、刻限を不違可出之、若人馬割難心得事候共、先無滞出之後日可申遣事

一御用之人馬ハ不及申、本海道ニて無之候共、往来之者、駄賃馬・人足之儀、昼夜を不限無滞可出ス事

一御朱印又ハ御証文も無之、人馬を出し候様ニと申、或ハ駄賃を不出通り申者有之候ハヽ、其品ニより押置、庄屋・年寄立会詮議之上、怪敷躰ニ候ハヽ可注進事

一村之申合、番屋を作り番人を附置、火之用心随分入念可申付、若出火有之ハ、鳴を立村中者立会情ヲ出シ火を消へし、勿論御年貢米入置候蔵大切ニかこひ可申事

一堤・川除不切様ニ常々申合、洪水之時ハ村中之者出合、随分可囲之、道橋等損候て、往還之障ニ成候歟田畑損亡ニ可成所ハ、惣て小破之時早速可修覆、自普請難成所は、御入用ニて可申付候、触無之候共、請取場之道橋ハ、常々無油断作り可申事

一洪水之時、堤・川除囲候節、又ハ盗人狼藉者幷火事有之ハ、鳴を立候節、村中之もの十五以上六拾以下之男不残可出、若其場へ不出合ものあらハ、庄屋・年寄可遂僉議候事

一鉄炮之儀、運上出候猟師又ハおとし鉄炮渡置候外、村中ニかくし置へからさる事

一御林・御立山之竹木ハ勿論、枝葉下草等迄、公用之外採間敷候、縦令、百姓持林幷屋敷四壁之木ニても、目立候儀伐遣候ハヽ、先書付指出、得指図可伐之、堤ニ有之候草殿等苅取間敷事

一入会之野山、面々之持山ニても、草木之根を堀取間敷候、鶴のはしを入候儀可為停止、田畑へ山崩砂入等無之様ニ山林苗木を植立可申事

附、山中ニて焼畑致来候所ハ、各所野火附候義停止之事

一諸作第一能種をえらひて蒔、耕作可念入、荒レ作之様ニ致候ものあらハ、急度可令僉議、独身之百姓長煩又ハ幼少ニて親ニはなれ耕作仕付難成もの有之は、庄屋・年寄立会、村中ニて助相田畑(合)不荒様ニ可仕事

附、地所不相応ニ田畑諸作他替り作おとり、耕作ニ不情成もの有之は、吟味可仕、小検見之節引方を立とらせ間敷事

一常々耕作幷商買等も不致、家職かせぎ無之もの村中ニ有之は、遂吟味其趣可訴之事

一博奕、惣て賭之諸勝負、或ハ百姓講之名付、或ハ商ニ事よせ博奕似たる儀何ニても一切不可仕之、若違背之輩有之歟、又ハ右之宿等いたし候ものあらハ、早速可訴之事

一百姓ニ不似合風俗いたし、長脇指を帯シ、喧呶口論を好、或ハ大酒を呑致酔狂、行跡悪敷もの有之は可訴之事

一他所へ参、二夜泊り罷有程之儀ハ、庄屋へ相断可罷出、若他国ゑ奉公ニ出候歟、又ハ用事候て相越候ハヽ、其子細庄屋・年寄・五人組ゑ書付を以可相断、公事訴訟ニ公儀ゑ出候共、其趣庄屋・五人組へ可相届事

一御年貢皆済無之以前、穀物他所へ不可出之、金納之ために米売候ハヽ、先米納之員数を積り納米程上米を捨へ置、次之余米を売可申事

一米納之儀、庄屋・年寄立会、青米・死米・くたけもみ・ぬか等無之様ニ随分致吟味、升目不切様ニ俵捨之義、二重ごも・小口かヽり・すり縄ニて仕、庄屋升取等印判之中札入可申、外札ハ木ニても竹ニても国・郡・村・米主之名計可記候、若永廻ニ仕候節ハ、壱俵壱俵ニ貫目等入念、船頭上乗ニ手形申付可相廻事

一御城米船上乗之義、村中遂吟味可遣之、御蔵所之入用幷船中雑用等多不入様ニ申付、委細帳面ニ為記、入用可渡之事

一御年貢金銀庄屋方ゑ取集之、扣帳ニ納候度々金銀納主之名書付、印判可為致之、庄屋方より金銀請取手形通帳ニいたし渡之、扣帳押切印判いたし遣し置、後日出入無之様ニ可仕事

一御年貢皆済之納払致勘定、庄屋方へ手代之判形帳可取置之事

一御年貢米納所之節、庄屋方より米主へ銘々手形遣し、庭帳ニ入念書付之可致判形、不念ニて手形無之、出入後日ニ訴候共取上間敷事

一惣て従公儀被下候人足扶持等、当座ニ銘々割渡帳面ニ請取候趣書付させ、印判可取置、惣て次合勘定いたすへからさる事

一毎年御年貢免定出候ハヽ、村中之もの披見為仕、庄屋・年寄方より、村中大小百姓・出作之者へも不残相触寄合候て、致免割・小物成・浮役・臨時物ともニ納人記、米銀壱人前宛委書付、小百姓も疑敷不存様ニ其わけ為申聞、右書付写させ、其上免定之奥ニ別紙ニ続候て、立会披見仕候旨書付、銘々印判取置へし、郷蔵之戸ニも免定之写いたし可張置、御年貢割仕候節、村中夫銭小入用と御年貢入変り一同ニ不致之、差別を立可割合、算違無之様ニ随分入念、御年貢之儀申渡日限之通相納候様ニ常々村中可申合事

一公用之儀、又ハ村中申合候義ニ付、庄屋方へ百姓寄合候節、村入用ニ掛之、食物・酒肴等一切給間敷事

一堤・川除御普請・用水堀さらへ申時、人足等ニ村入用ニ掛候酒肴給させ間敷事

一庄屋・年寄誓紙申付候通、手代幷妻子・召仕等ニ至迄、金銀米銭・衣類・諸道具・酒肴、其他軽キ物成共、音信・礼物一切仕間敷候、右之もの共若借し物・かり物、或ハ押売・押買不依何事ニ不作法之儀致候ハヽ、隠なく有躰ニ其趣可申出、かくし置後日相聞候ハヽ、庄屋・年寄可為越度事

一自分之家来幷手代之召仕、当村へ参ロ上ニ申儀ハ不及申、自分幷手代之印判も無之書付持参候て、何事を申付候共、一切承引不可仕早速可注進事

一手代村々相廻り候節、何時も飯米・塩噌為持廻候、一宿・昼休之所ニて御定之木銭出之、上下共ニ少も百姓之馳走ニ不成、村々費無之様ニ申付候条、酒肴等此方より指図無之物何ニても調置間敷候、若調置此方ゑ不入ニ付、寄合飲喰村入用ニ割掛候ハヽ、庄屋・年寄可為曲事、無指図人馬集置、百姓之隙費申間敷事

一村中年中之夫銭・掛り物・小入用等之儀、随分庄屋・年寄遂吟味、入用多無之様ニ入念、右入用帳之儀、白紙を閉、加印判渡置候条、惣て村中入用少も不残、当座ニ右之帳ニ委細可書付置、居合候ものも印判可仕、此外ニ別帳を作り置間敷候、判有之帳之外ニ庄屋より掛り物割掛候ハヽ可為曲事、毎年翌正月中、前年之村入用帳写候て、本帳ニ相添可指出、遂覧写帳留置、本帳ハ庄屋へ可相返候間、年々帳紛失無之様ニ大切ニ可致置事

右之条々堅可相守、此旨若相背之輩あらハ可為曲事、此帳毎年正月・五月・九月・十一月壱ケ年ニ四度、村中大小百姓寄合慥に為読聞、常々此旨合点仕罷有候様ニ入念可申付者也

元禄拾三年辰

前書之御ケ条一々奉拝見、村中大小之百姓・此五人組ニ壱人も除候もの無御座候、御ケ条書則庄屋方ニ置申候て、被仰渡之通為読聞、一ケ条宛致合点、急度相守可申候、若此旨相背申候ハヽ、如何様之曲事ニも可被仰付候、為其連判如斯ニ御座候、以上

辰三月

美濃國多藝郡有尾新田庄屋　清右衛門
右同断　又四郎
同村年寄　利左衛門

笠松
御郡代所

正徳四年午五人組合

七郎平組

彌右衛門ト改新六

彌曾吉
彦次郎
甚四郎ト改勘右衛門
〆五人

彌次兵衛組

清右衛門
宅右衛門
八郎兵衛
權七郎

所左衛門
勘四郎ト改　彌左衛門
吉三郎
八右衛門
彦右衛門ト改孫　市　茂平次加へ享保五年子年より身上潰横やへ戻り候六人ニ成ル
〆五人
七右衛門ト改八郎兵衛
清兵衛
彌二兵衛ト改平吉
源右衛門ト改五郎兵衛
權助後家　藤　八　權八加ル
〆六人
甚吉
介太夫
善七
二郎三郎
彦八　太郎次加へ六人ニ成ル
〆五人
惣右衛門
兵右衛門
平次ト改左右衛門
五兵衛

〆五人
利左衛門組
所左衛門
彌衛門
加兵衛
藤八
〆五人
重左衛門組
磯右衛門
吉郎右衛門
彦八郎
。伊右衛門
〆五人
喜太郎組
金兵衛
林左衛門
七郎兵衛
里平
〆五人
右三郎組
又四郎
作重郎

孫　助ト改彦四郎
〆五人
與三次
半七
左七　有村出申候
理平
十兵衛
〆五人　四人組ニ成ル
庄右衛門
庄兵衛
七郎兵衛　三次母
清七
新助
〆五人
次右衛門
忠三郎
與兵衛　惣四郎改　同
金兵衛　孫兵衛ト成ル　同
〆四人
亥年より久助と成

庄兵衛
兵右衛門
〆五人
彌左衛門組
清七
新助
。勘右衛門
新六
〆五人
助太夫組
半六
。半七
多七
。孫市
〆五人
惣右衛門組
惣兵衛後家
五郎右衛門
勘助後家
〆四人

二一〇　中村五人組帳

○中　高木享一氏所蔵

（表紙）「慶応二丙寅年
中村五人組御改帳
六月　」

五人組帳前書之事

一御公義様御法度、前々より被　仰出候御条目之通、益堅可奉相守候

一大小之御百姓・無高之者迄、村人不残強もの・弱き者無甲乙五人宛組合、或は屋敷限、又は最寄次第五人より九人迄老組ニ相立、右組合之もの悪事不仕候様相互ニ吟味仕、常々別て睦敷申合、昼夜無油断心を附耕作第一相励、御百姓相勤可申候、若悪事仕出シ候ハヽ、其組合中ゑ御懸り如何様之御咎被　仰付候共、御断申上間敷候御事

一五人組合之内御法度を背、耕作を懈り、諸勝負・博奕を翫ひ、他国者を引入、博奕・盗賊之宿は不及申、国所不慥成薬売・占や・さん言触・神子・三味線引・野良遊女・其外遊ひ者、惣て右ニ准し候ものゑ宿等いたし、其所之風儀取乱申候者有之ニおゐては、平日心を付組合中打寄異見を加へ承引不仕候ハヽ、五人組頭より名主ゑ相届組合除可申候、隠置若外より顕ニおゐてハ、本人組合之者可為同罪之旨被　仰渡奉畏候御事

一五人組合之内公事訴訟諸願一分之口論等仕出し、御作法を背村役人之下知を不用、我儘非道之働有之ニおゐてハ、御糺明之上本人は勿論、其組合限屹曲事可被　仰付之旨被　仰渡奉畏候御事

一御年貢始見取小物成別納諸運上山方・里方村々其地所ニ附候上納物村々其所ニしたがい御仕置御定有之御事、毎年御吟味之上村毎ニ被召上候立毛請帳、前書御ヶ条之通聊相背不申、堅相守候御事

以上五ヶ条

右五人組帳前書仍如件

高辻四百弐拾九石弐斗五合

中村名主　高木彦右衛門㊞
同村同断　高木雄平㊞

組合之覚

他右衛門㊞

金平㊞
多七㊞
藻三郎㊞
岩次㊞
〆六人老組　次藏㊞
五郎次㊞

彌　市㊞
善左衛門㊞
千代松㊞
萬太郎㊞

〆五人壱組
藤十郎
八次郎㊞
林平㊞
多市㊞
清六㊞
助藏㊞

〆六人壱組
植治郎㊞
七兵衛㊞
三内㊞
和平治㊞
國藏㊞

〆五人壱組
市次郎㊞
萬次郎㊞
傳左衛門㊞
又七㊞
休三郎㊞

〆五人壱組
長治郎㊞
儀八㊞
多三郎㊞
捨藏㊞
石松㊞

〆五人壱組

組合六組人数三拾弐人

右之通村人不残立会、組合相究申所実正也、然上は名主・五人組頭常々遂吟味、前書五ヶ条之趣毛頭相背申間敷之旨、平日無油断可申渡候、其上若御法度を背、村役人之下知ヲ不用違犯之族於有之は、早速御届可申上之旨被仰付奉畏候、右御請として奥書印形仕差上申候、以上

慶応二丙寅年六月

中村名主　高木雄平
同村同断　高木彦右衛門

御代官
御役所

二一一　止宿詑証文

○押越　渋谷保之氏所蔵

差上申御詑一札之事

従前々被　仰渡候御法度之趣、堅相守可申候段被　仰付、尚又出生不知もの幷風躰相替候もの一切為立入申間敷旨被　仰渡候趣、急度相守可申筈之処、先年懇意ニいたし候もの之儀ニ付、無拠差置候ニ付、今般之大変出来仕、　御役所様ハ勿論、御村方ぇ対し不調法之段、厳敷御呵を請一言之申上方無御座、幾重ニも奉恐入候、向後心躰相改御村方より被　仰渡候儀急度相守

可申候間、何卒此度之儀は御救免(赦カ)被成下候様奉願上候、若以後御村方より被　仰渡候儀違変仕候ハヽ、如何様ニ被　仰付候共御違背仕間敷候、依御詫一札如件

天保七年申五月

本　人　小　太　郎㊞
兄　曾　平　次㊞

御村役衆中

前書之通、此度小太郎方ニて大変出来仕候ハヽ、前々より被　仰渡候趣互ニ等閑ニ仕居候故、右様出来仕候ニ付、御村方より御呵を請、何とも申上方無御座奉恐入候、然ル上は、向後御村方より被　仰渡候趣急度相守、互ニ気を付心得違無之様可仕候、万々一此連印中之ものニ心得違仕、仲間より之利解相用ひ不申候もの御座候ハヽ、早速御村方ゑ御達申上候間、其節如何様被仰付候とも、聊御違背仕間敷候、依御詫奥書連印如件

兵　八㊞
太　十　郎㊞
與　兵　衛㊞
武　兵　衛㊞
彌左衛門㊞
清　作㊞
久　吉㊞
忠　兵　衛㊞
甚　兵　衛㊞

御村役衆中　　太　兵　衛㊞

二一二　押越村七兵衛跡式申渡書

〇大垣市東外側町　大垣市立図書館所蔵

覚

一押越村七兵衛跡式、何ものにても、七兵衛ノ母と、めうとに成候てい申、公儀御用等も承、年寄分才判仕ものか、又ハ七兵衛いもうとニたそしつけ候て、七兵衛跡ヲさはかせ候か、右之内、勝八分ハ少八おとゝ豊後ニ在之由、其もの帰候て百姓仕候か、此儀村中の年寄中・寄合きも入、跡のたち候様ニ可仕候事

一七兵衛・庄八ニかし物候とて、田地取ちらし候事堅無用に候、若我かまゝヲ申、取ちらし候ハヽ、其もの越度ニ可申付候事

一右両人田畠之作徳にて、後家と又いもうとなとのかつみようにあまり候ハヽ、よくいたし置、跡ヲ次候ものニ後家とあいたいにて渡可被申候、以上

（覚ホヘ年）未ノ閏十月二日　　木(木村)　清　太　夫（花押）

押越村　庄屋・年寄衆
惣百姓中

六　身分格式

二一三　苗字帯刀・御目見免許状

○高田　稲葉時男氏所蔵

覚

石畑散田名主
與三右衛門

右之者年来役儀実体相勤、且筋内は勿論、他領出入有之節御用向取埒之儀申付置候処、出精相働候旨被相達之一段之事ニ候、依之為御褒美苗字帯刀御免被成候、此旨御申渡可有之候、以上

（安永四年）
閏十二月廿五日　　御城代

右之通被仰渡候間、此旨御申渡可有之候、以上

閏十二月廿五日　　郡奉行印

關谷喜兵衛殿

覚

石畑村名主
彦　六

右之者、役儀実体相勤、其上父山幡與三右衛門儀御用向出精相勤候ニ付、為御褒美、向後　御目見被　仰付之候間、此旨御申渡可在之候、以上

十二月廿六日　　郡奉行印

加藤定右衛門殿

尚々、来正月四日年始御礼被為　請候間、六ツ半時三御丸ぇ相揃候様御申渡、尤右刻限より於遅参は不参ニ相立候間、無間違様是又御申渡可在之候、以上

覚

石畑村名主
彦　六

右之者年来役儀実体、且御勝手方御用等出精相勤候付、為御褒美向後他所苗字帯刀被差許之候、此旨可被申渡候、以上

十二月十四日　　御城代

右之通被仰渡候、此旨御申渡可有之候、以上

（享和二年）
十二月十五日　　郡奉行印

宮井安左衛門殿

石畑村名主彦六儀、今般苗字帯刀被差許候、依之悴松太郎ぇ右村名主役幷若宮村・龍泉寺村附役申付候間、御用村用入念可相勤候、此旨夫々ぇ御申渡可有之候、以上

四月十九日　　郡　奉　行㊞
桑　原　丈　八殿
（朱筆）「享和三亥四月治信」

○橋爪　久保田良子氏所蔵

（包紙ウハ書）「児玉筑藏殿　　郡　奉　行」

覚

橋爪村
彌　一　郎

右之者儀、寄特之取計有之ニ付、為御褒美、向後他所苗字被差許之候、此旨可被申渡候、以上

十二月廿五日　　御　城　代
右之通被仰渡候間、此旨御申渡可有之候、以上
（安政二年）
十二月廿六日　　郡　奉　行㊞
児　玉　筑　藏殿

（ウハ書）「伊藤傳右衛門殿　　郡　奉　行」

覚

橋爪村
元　右　衛　門

右之者御用之儀有之候間、来月二日四ツ時寄合場ゑ罷出候様御申渡可有之候、以上

八月晦日
（元治元年）

（包紙ウハ書）「伊藤傳右衛門殿　　郡　奉　行」

別紙之通申来候間、任其意刻限無遅滞罷出可申候、以上

（元治元年）
八月晦日　　御　代　官㊞
橋爪村
元右衛門方

覚

橋爪村
元　右　衛　門

右は、難渋者未進金厚致勘弁遣し候趣ニ付、為御褒美、向後他所帯刀被差許之、同列之末席被　仰付之候、此旨可被申渡候、以上

八月廿九日　　御　年　寄
右之通被仰渡候間、此旨御申渡可有之候、以上
（元治元年）
九月二日　　郡　奉　行㊞
伊　藤　傳右衛門殿

二一四　苗字帯刀免許請書

○中　高木享一氏所蔵

乍恐御請書之覚

私儀、先年より調達金段々相働、今度御返弁残金差上候ニ付、為　御褒美向後苗字帯刀御差許被下置冥加至極、難有仕合ニ奉存候、乍恐右御請書奉差上候、以上

石畑村
山幡彦六

享和三癸亥年四月

御代官
御役所

○石畑　山幡清重氏所蔵

乍恐御請書奉差上候

覚

石畑村名主
清右衛門

右之者、御座船新造被　仰付候付、持木之内差上之、其上根伐挽割被致候儀等格別相働、御差急之儀致御用達候段、御船奉行より相達之寄特之事候、右之趣達　御聴候処、為御褒美他所苗字帯刀被差許之候、此旨可被申渡候、以上

五月十六日

右之通被為　仰付被下置、冥加至極難有奉存候、依之乍恐御請書奉差上候、以上

石畑村名主
清右衛門

文化十一甲戌年五月

御代官
御役所

二一五　苗字帯刀帰格願

○下笠　小野善四郎氏所蔵

乍恐奉願上候御事

私義、代々庄屋役相勤、就中亡父彦作代ニ至て役中之上勤切、為御褒美身分ニ付一代切之格式ニ奉蒙　仰付、全御威光を以四拾ケ年余庄屋役相勤、右之外数度御褒美品等頂戴仕、冥加至極難有仕合ニ奉存候、右ニ付、私義も亡父勤役中文化八未年名代役御願奉申上候て、専御用向相勤、依之文政二寅年父名代并ニ父差添候節は、苗字帯刀奉蒙　仰付、同九戌年迄拾六ケ年之間、無難御用向相勤、右年数之内御褒美品等頂戴仕候儀も有之、難有仕合ニ奉存居候処、亡父義休役御願奉申上御聞済ニ相成、退役被　仰渡候砌り、最早名代御用相勤候義無之段被　仰渡、私義苗字帯刀御引上ケニ相成申候、然処今般村方より御願奉申上、亡父同様ニ庄屋役被　仰付、難有仕合ニ奉存候、依之恐多御願

ニハ奉存候得共、苗字帯刀帰格、尚又宗門自分一札共、亡父同様一代切被　仰付被下置候様、只簡奉願上候、右願之通御聞済被成下置候ハヽ、重々難有仕合ニて、弥増御用向相励可申と難有可奉存候間、此段幾重ニも奉願上候、已上

天保十亥年
三月

濃州多芸郡下笠村
頭百姓
庄屋　彦　一　郎

市瀬東七郎様
御陣屋

右之通奉願上候ニ付奥印仕候、以上

右村長百姓
惣年寄見習
庄屋兼
田中權之右衛門

頭百姓
庄屋　常　三　郎

二一一六　苗字帯刀遺跡継目願

○橋爪　大久保守正氏所蔵

奉願上候御事

私儀、代々苗字帯刀、宗門自分一札　御免被成下置、名披露御目見被為仰付被下置、難有御儀奉存候、然ル処、近来病身相成諸事難相勤候付、私儀隠居仕、遺跡之儀ハ、悴岩次郎ぇ継目御免被成下候様仕度、別紙由緒書相添奉願上候、以上

安政二卯年二月

御代官
御役所

二一一七　褒美上下・段木下附申付状

○高田　稲葉時男氏所蔵

覚

右之者、御勝手方御仕送出精相働候ニ付、為御褒美御上下被下之候、弥以出精相勤候様御申渡可有之候、以上

（天明八年）
十二月廿四日　御城代

右之通被仰渡候、此旨御申渡可有之候、以上

十二月廿四日　郡奉行印

加藤伊太夫殿

覚

一段木弐間

石畑村
山幡與三右衛門

右之者、御勝手御用出精相勤候ニ付、為御褒美右之通被下之候

間、此旨御申渡可在之候、以上

十二月廿六日　　郡奉行所

加藤定右衛門殿

二一八　医師山口家免許扣

○高田　山口玄樹氏所蔵

（表紙）「弘化三午七月改

表様免許扣

山口玄壽」

六代目　山口玄篤

一享和元酉五月　六代引続医薬仕候付　代々苗字御免
一文化十酉七月　一代切継目　宗門自分一札御免
一文政二卯十二月　一代切継目　御目見御免
一文政三辰正月　一代切継目　小織慰斗目差用御免
一文化八未九月　兄司馬太之助　老人立療治御免
一文政四丑十二月　起宿御用掛り御免
一文政四丑十二月　同宿御用掛ニ付　帯刀御免
一文政七申五月　家督七代目司馬太之助改名　山口玄篤
一文政八酉五月　一代切継目　宗門自分一札御免
一文政十三寅正月　一代切継目　御目見御免
一文政十三寅正月　一代切継目　小織慰斗目差用御免
一文政元寅正月　一人立療治御免

淺井先生より御達しは文化十三丙子二月入門、文政九戌年老人立相済ス由、相続人謙吉病身ニ付順養子

一天保十五卯正月　八代目　山口玄壽
一嘉永三戌七月廿七日牧田宿御用掛御免
一安政四巳五月　立田輪中正濃（ママ）　医師締方
御支配　百輪中一円　被仰付候
同役　立田輪下　一色伊藤永三

初代　山口一芦齋

一御城下傳馬町ニ住居罷在、京都法橋渡邊玄春門人ニて本道医術修行仕候、且外科之儀ハ往古より伝来御座候故、本道外科金瘡共手広療治仕候
一正保二酉年四月七日病死仕候

二代　山口竹庵

一従父一芦齋教授仕、三道共手広療治仕候、慶安二年丑八月稲垣甚左衛門様御支配之節奉願濃州多藝郡下笠村へ引越住居仕候、
一延宝七未年十一月十七日病死仕候

三代　山口竹庵

一従父竹庵教授仕、右下笠村ニ住居罷在、三道共手広療治仕候
一享保五子年六月八日病死仕候

四代　山口玄眞

一竹庵悴ニて家伝相続之上京都伊藤玄壽ぇ入門、本道医術修行仕候、元禄十六未年八月眞鍋兵左衛門様御支配之節、奉願下笠村より安八郡大牧新田ぇ引越、三道共手広療治仕候、
一寛保三亥年十二月廿九日病死仕候

五代　山口玄眞

一従父玄眞教授、右大牧新田ニ住居罷在、三道共手広療治仕候
一天明元丑年十二月廿九日病死仕候

六代　山口玄篤

一玄眞悴ニて家伝相続之上安八郡西保南方村吉田玄意ぇ入門、本道外科金瘡医術修行仕候て、右大牧新田ニ住居罷在、三道共手広療治仕候
一文政二卯年十二月、御目見被　仰付候
一文政七申年四月八日病死仕候

七代　山口玄瑞

一私儀玄篤長子ニて右大牧新田ニ住居罷在、家伝相続之上父師家吉田玄意ぇ入門、寛政七卯年より本道外科金瘡医術修行仕候
一文化五辰年三月奉願　御城下ぇ引越、鐵砲町ニ住居仕岩田公澤ぇ入門、外科医術修行仕候
一同年八月奥御医師石黒通玄様ぇ入門、本道医術修行仕候
一文化六巳年より一人立療治仕候
一文化十一戌年三月数代医業致相続候付、三段席被　仰付候
一文化十五寅年三月二段席被　仰付候
一文政元寅年八月火事場御用懸り被　仰付候
一文政八丙年三月一段席被　仰付候

乍恐御達申上候御事

本道外科医師
山口玄篤
当子五十四歳

一私五代以前山口竹庵、慶安二丑之秋奉願上　御城下傳馬町より濃州多藝郡下笠村ぇ引越、本道外科療治仕候、師家之義は年久敷事ニ御座候間相分り兼申候
一三代以前山口玄眞、奉願上大牧新田ぇ引越療治仕候、師家之義は道三翁之高弟伊藤玄壽門人ニて御座候、則道三翁より伝来之秘書幷薬籠所持仕候
一親山口玄眞儀は従父教授仕両道とも療治仕候
一私師家は同国同郡大垣領西保南方村吉田玄意門人ニて、三十五ヶ年以前奉願上両道共療治仕候、右玄意儀は伏見出生ニて栗崎道記門人ニ御座候
一本道は不抱古方後世方療治仕候

一外科は栗崎流ニて御座候
一金瘡欽唇落下顎骨続等は余程数多療治仕候
一年々療治仕候病人員数三千人以上ニて御座候、尤去亥年ハ入水ニ付格別多御座候、但年内両三度煩ヒ候分ハ毎度治験ニ記不申、其外丸薬・散薬・膏薬ニて治申候分も是亦治験ニ記不申候間、人数分兼申候

右之通賀嶋道圓様御屋敷ニて淺井平之丞様御列座御尋ニ付、口上ニて申上候趣御達申上候、以上

文化十三年
丙子五月

安八郡大牧新田
医師　山口玄篤

山本平太夫様
御陣屋

（表紙）
「天保五年
人数書上帳
午二月

安八郡大牧新田
御目見御用懸医師
山口玄篤」

覚

一家内人数拾壱人
　内
　拾六歳より六拾歳迄　四人　男
　拾五歳以下　四人　男
　三人　女
　召仕男女六人
　　内
　拾六歳より六拾歳迄　弐人　男
　四人　女

右書上申候通相違無御座候、依之御達奉申上候、以上

天保五年
午二月

安八郡大牧新田
御目見
御用掛り医師
山口玄篤

乍恐御達申上候御事

御料濃州多藝郡大場村松井玄屋と申者、今般私門人ニ罷成、本道外科金瘡共修行為仕候、依之御達申上候、以上

安八郡大牧新田
御用懸り医
文政九
戌九月

小池半五郎様
御陣屋

御達申上候御事

門人
勢州津八町
一剃髪　淺田玄順　当寅廿三歳

同断
濃州多藝郡大場村
一有髪　松永春壹郎　当寅廿一歳

一有髪　同断　濃州大垣中町　尾崎　北治　当寅十八歳

一有髪　同断　濃州安八郡西嶋村　田中岡之進　当寅十四歳

右之者共、今般生所・年齢御尋ニ付、依て御達申上候、以上

寅正月　御目見御用掛医師　山口玄篤㊞

小池清右衛門様
御陣屋

付　宗門自分一札

○高田　山口玄樹氏所蔵

乍恐奉願上候御事

山口玄篤　当丑三拾七歳

私先祖六代已前山口竹庵と申者、慶安二年丑八月眞鍋去平衛門様御支配之節、奉願　御城下傳馬町より濃州多藝郡下笠村ゑ引越、代々医業仕罷在候処、四代以前山口玄眞と申者元禄十六年未八月稲垣甚左衛門様御支配之節、奉願安八郡大牧新田ゑ引越、代々同様医業仕罷候、亡父玄篤儀格別出精手広ク療治仕候ニ付宗門自分一札（ママ）

文政十二年
丑六月　安八郡大牧新田　御用懸り医師　山口玄篤

小池清右衛門様
御陣屋

口上之覚

本道外科　山口玄篤　当卯五十七歳

一私五代以前山口竹庵儀、慶安二丑之秋奉願　御城下傳馬町より濃州多藝郡下笠村ゑ引越、本道外科共療治仕候、師家之義は年久敷儀御座候故相分兼申候

一四代已前山口竹庵儀、従父竹庵教授仕下笠村ニて本道外科共療治仕候

一三代已前山口玄眞儀、奉願大牧新田へ引越療治仕候、師家之儀は道三翁之高弟伊藤玄壽門人ニて御座候、則道三翁より伝来之秘書幷薬龍所持仕候

一親山口玄眞儀、従父玄眞教授仕、両道共療治仕候

一私儀は家伝相続之上同国同郡大垣領西保・南方村吉田玄意門人ニ相成修行仕候、三十八ヶ年已前天明二寅正月奉願両道共療治仕候、師家吉田玄意儀は山城国伏見出生ニて栗崎道記門人ニて御座候

二一九　吹原勘兵衛由緒書

○橋爪　大久保守正氏所蔵

多藝郡島江村
吹原勘兵衛

下書

由緒書

先祖勘解由と申者、隣郷七ヶ村ニて五千貫文知行仕罷在候由申伝候、其後御百姓相続仕、新田開発等仕候、秀吉公御時代聚楽御作事之節、御材木諸色御世話仕候付、近辺諸事支配被　仰付御朱印頂戴仕候処、慶長五年焼失仕候、寛文二寅年七月廿八日臨時被召出、名披露独礼御目見被　仰付、其節被　仰渡候ハ、数代御上之儀太切ニ仕候段此度具ニ達　御聞、為　御褒美銀五枚被下置候旨被　仰渡候、御目見之儀、先祖より度々被　仰付候由申伝候、年月之儀ハ相知レ不申候、

一苗字帯刀

右先祖より代々仕来候、尤継目年月等ハ相知レ不申候

一苗字帯刀名披露

御目見宗門自分一札、寛文年中以後継目年月左之通ニ御座候

寛文三卯年
元禄七戌年
宝永七寅年
享保十一午年
元文元辰年

寛政十午年
文化十五寅年

右之通継目御免被下置候、御当方様之御儀、享保十九寅年苗字帯刀名披露、御目見宗門自分一札共　御免被成下、其後前顕同年ニ継目御免被成下候

一御参府

御上国之節、先々より　御途中ニ罷出申候

右之通ニ御座候、以上

安政二卯年二月

二二〇　庇取払方申付歎願書

○橋爪　大久保守正氏所蔵

乍恐以口書奉願上候

中村御百姓居宅之儀、従先規頭御百姓之外表通り庇不仕、并物置建候ても白土等不仕儀、仕来り御座候、勿論新規之儀は先例も相崩候ニ付、村方銘々心得罷在、先定之通り相守来り申候、然ル処、此度無高脇御百姓惣三郎儀、居宅建替、表通り瓦庇之仕懸ニて取掛申候ニ付、私共取払申候様申聞候処、右惣三郎申聞候ニは、此度之居宅間狭ニ付、雨天之節稲等取入、勿論追ては瓦葺ニも仕度存居候処、右庇取払候ては御百姓出来不申、依

之敢取払不申趣申立、承知不仕候故、則村役人よりも理解申聞候得共、右同様ニ申立承引不仕、左様ニては先例も相崩、已来村方不締之基ニも相成可申と、頭御百姓一同歎ヶ敷奉存候間、別紙書付相添奉差上候、乍恐　御慈悲之御勘考を以、右惣三郎御召出被下置、居宅表通り庇取払可申候様、被為　仰渡被下置候様奉願上候、乍恐右願之通被為　仰付被下置候ハヽ、已来之取締ニ相成可申と難有奉存候、以上

中村頭御百姓願主
同村同断　半　五　郎㊞
同村同断　長　次　郎㊞
同村同断　甚右衛門㊞
同村同断　植　次　郎㊞
同村同断　八郎兵衛㊞
同村同断　藤右衛門㊞
同村同断　夏　次　郎㊞
同村同断　八　次　郎㊞
同村同断　五　郎　次㊞
同村同断　爲　三　郎㊞
同村同断　名主　善　三　郎㊞

文政五壬午年二月

御代官
御役所

右之通奉願上候ニ付、乍恐奥印仕奉差上候、以上

中村五人組頭
七　蔵㊞

二二一　家来筋百姓手離ニ付消印願

〇石畑　山幡清重氏所蔵

乍恐以書付奉願候

柏尾村惣治郎儀、数代私家来之者ニ御座候処、今度代替りニて手離ニ相成候ハヽ、悦之余りより金弐拾両差出可申候間、先代より差入置候書面差戻呉候様段々相頼申候、私儀数代御勝手御用相勤罷在、偏ニ奉蒙御厚恩居候故之儀ニ付、右差出候金子は御時節柄為　御報恩無利足、永調達ニ仕度奉願候、右願之通御聞済被成下置候ハヽ、先代より請取置申候書面　御役所様へ可奉差上候、然処、右書面惣治郎・三四郎両人一紙連印ニ御座候得共、三四郎儀は、以前之通不相変家来ニ御座候得は、此段は不奉願上候ニ付、何卒　御慈悲を以、惣治郎儀被為　召出被下置、同人分消印仕候様被為　仰付被下置、乍恐右書面惣治郎消印之儘、御上様ニ御預り被成下置候様奉願上候、左候ハヽ、於当人も格別大慶可仕候、依之先代請取申候本紙弐通差添奉願上候、乍恐右願之通被為　仰付被下置候ハヽ、重々冥加至極難有仕合ニ奉存候、以上

石畑村
清右衛門㊞

弘化三丙午年四月

御代官
御役所

七村方

○村政

二二二　押越村取極証文

○大垣市万石町　林　正乗氏所蔵

相定覚

一御足かる衆・中間衆・壱夜、弐夜とまり幷其日帰之分ハ、跡々のことくノ下用事

一堤御奉行幷ニ御手代衆・御馬乗衆継越之時ハ、村まかないニて候間、万事こまかに其当座〳〵に小日記いかニも念入、能きんミ候て付印可被置候事

一庄や・年寄くじ取ニて、三年かわり相定候間、たれ人取当り候共可仕事、公儀衆やとハ、庄や・年寄たかいニ五日、三日つゝたかいニかくはんニ可被仕候事

右之通りくじ取上候て相定申候間、たかいニ申分有間敷候、仍如件

（正保二年）
寛永弐拾弐年酉正月六日

当り　兵左衛門（花押）
　兵　介（花押）
小平次（花押）
当り　次兵衛（花押）
又　次（略押）
五郎兵衛㊞

二二三　直江村倹約定

○直江区有

定

近年村方勘略之沙汰雖有之、混雑のミにして諸入用等多、大小之百姓共ニ困窮之上難儀ニ付難相勤、依之此度勘略之筋相定、御願申趣之事

一庄屋役壱人

是は三組と相分り、三人ニて相勤り候得共、当年より壱人宛年番ニ相廻、物毎御用大切ニ混雑無之様相勤度候、尤御用多節は、非番之庄屋幷高持百姓迄も罷出、御用指支無之様ニ相勤可申事

付り、常々は当番之庄屋・年寄ニて相勤度事

一年寄役壱人
是は庄屋前吟味役ニ相定、庄屋多用節は、互ニ申合、御用等大切ニ仕落無之様ニ可相勤候、別て出水之節は、庄屋同前ニ可相勤事
一定遣壱人
是は御用大切ニ昼夜不懈怠可相勤事
付り、御廻状等無滞相送り可申候、尤御用多キ節、急御用状は人足ニて遣シ可申候、尤拾月末・十五日格別之事
一立会百姓
是は人数定置、毎月之月〆、大割・免割・地寄其外之大切之御用等、何角金銀等取扱候節は、定之内壱人ツヽ立会、御用相勤可致吟味之事
一五人組
是は組下切ニ致吟味、御法度を背ものあらは、早速庄屋・年寄ゑ可申達、頭中相互吟味之事
付り、組下頭之申付を急度可相守事
一村方諸入用
是は庄屋・年寄立会・百姓立会吟味之上、毎月晦日切ニ相改、同〆帳ニ記置、毎暮割符極月廿五日切ニ取集〆、払方無滞可相斗、尤百姓も廿五日迄急度可指出事
一急御入用
是は少分之儀は致取替ニ置、金高余程ニも被仰付候は、早速

割符五七日以前ニ割出シ取集、日限迄ニ相滞候は、二割之利足を以急度請取可申事
付り、百姓も日限迄急度可出事、百姓願之筋は、惣百姓惣代印形を以御願可申候間、其節可致相談事
一免割大割地寄
是は庄屋・年寄立会、百姓斗立会付立置、惣割之節は、惣百姓を寄申聞、吟味之上割符可致事
一御検見
是は随分大切ニ前方より帳面改置、当日相勤可申事
付り、内論見（目カ）順帳ニ付紙致持出、高持百姓立会無甲乙見立置、引地勘定之節ハ、右役儀斗立会仕立可申事、外百姓下用一切不可掛事
一御役人様御宿
是は其当番之庄屋ニて仕、若御役人数多分有之節は、近所を見立可相勤、尤亭主下用無之事
一落物
是ハ大割落物は、来正月之月〆ニ入、正月落物ハ二月之月〆ニ入可申、惣躰二ヶ月延候落物入不申候、尤落物利銀無之事
一御用帳面
是は庄屋・年寄立会、早速仕立、急相成候は、立会百姓も助合相仕立可申事

付り、寄合之節、禁酒之事百姓も同断之事

一大垣町宿
是は九太夫方ニ限、尤泊り無之候、明日御用有之共、立帰り可申候、町寄合暮ニ及び候ハヽ、一宿之事

一御普請所
是は庄屋・年寄之内、毎日壱人宛罷出、致吟味丈夫ニ仕立、請取渡可相改、尤日限定ル事
付、籠割御普請所有之は、早速日限相定割出、請籠相改、請取不残入立可申候、百姓日限ニ可出ス事

一三ケ村江堀
是ハ三ケ村立会、割符高相応ニ人足可指出事
付り、百姓も可出事

一道橋修覆之儀
是は毎年一両度宛家並人足仕ひ拾ニ出シ相直可申事
付り、百姓も可出事、不参之もの過銭として賃銀取之事

一諸人足
是ハ印付之札人足毎ニ相渡可申事、尤札数吟味之事
付り、人足も札請取可申事、札無之人足割ニ入不申事

一出水
是は庄屋・年寄罷出、相囲セ、水引次第ニ早速ニ相廻、諸入用帳面ニ記シ可申候、急破・小破たりとも、早速相繕ひ可申事

付り、百姓も不残罷出囲可申候、不参之もの両度ニ及ヒ候は、過銭として賃銀取之事

一田畑質流之事
是ハ八月〆之節、双万罷出立会之上、順帳ニ記名之名寄ヘ引入、間違無之様ニ可相斗事
付り、外見取毎年相改可申事

一前々之通三組名寄三冊ニ致シ、人別出入無之事

一庄屋役年番ニ定ル之上は、其組之庄屋万一引負損金相立候は、其庄屋之家財・田畑を以相弁、不足之分有之は、其組々之百姓ヘ引受、外組ヘ一切損掛申間鋪事
付り、庄屋役替り之節は、其組々之内ニて、組々之了簡を以後役見立御願可申候、但シ当番之庄屋非義、勤方懈怠於有之は、速退役可給之事

一毎年正月十八日之神事、前格之通ニ仕、神領之儀先規之通り組々ニて支配可仕事
此外追々勘略相定、無益之儀無之様ニ御互ニ御勤御相談可給候、当番壱人宛と定ル上は、物毎大切ニ無油断相勤度候、百姓勤方不宜筋ハ、御役儀よりケ条を以被申候旨、相守可申事
右ケ条之趣、御公儀様大切ニ相守、庄屋・年寄了簡ニ難及義は、百姓相談之上可相勤事
諸上納金被下金等は、御目録を出シ、諸払方は銘々請取書を出シ、可致割符也、請取無之品一切入不申事

右之趣御願申上、当番壱人役と相定ル上は、互ニ百姓も無油断吟味庄屋・年寄御申付を相守、一組切ニ吟味いたし、勘略可相勤也、為後日為取替之一札、仍而如件

右之通認、御公儀様ゟ指上、被仰付事相済候上は、三組銘々取替セ、永々申分無御座候、以上

明和六丑年四月

百姓惣代
源右衛門㊞

（以下連名三段組トス）

源　兵　衛㊞　　利兵衛㊞　伊　八㊞
又　兵　衛㊞　　權　次㊞　其　七㊞
助右衛門㊞　　八五郎㊞　平　次㊞
今右衛門㊞　　與八郎㊞　市左衛門㊞
重　次　郎㊞　　甚左衛門㊞　喜代七㊞
孫　助㊞　　三　彌㊞
左次兵衛㊞　　元　八㊞

組衆中

付　直江村村定

○直江区有

定書之一札

一延宝三卯年組わかれ候て、別組相立候後、三拾七年已前弐拾六人之衆聊之儀にて、庄屋五平次を離れ、納得之上元組ゟ罷帰一所に相成、御祭礼は別段に相勤申候、然る処、去々卯年五平次組之跡役藤太夫より神領金之儀ニ付、彼是と申掛ケ及出訴候処、挨拶ニ罷成、五平次組之神領金ハ相返し候ニ付、是よりハなを組中可為一列之事

一御普請等之儀、組中一統ニ罷出、睦敷相仕立可申候、尤大普請之節ハ大組ニ候間、相談之上にて、人数二手にして相仕立可申事

一村方之儀、何ニても万事組中一統親疎有間敷之事

一正月十八日、御祭礼之儀ハ大組ニ付、小家当番之節は、難相勤候間、当番弐軒にわけ相勤可申事

一御神領米之儀、組当り惣氏子此人数として、於当番元取斗可申事

一御神事相済、神領米諸勘定幷利銀等集之儀は、両当番氏子一所に寄合、勘定可相勤候、尤両当番指支候節ハ、氏子之心に任セ、西光寺か庄屋所之内におゐて、諸勘定可仕事

一八月之御祭礼、御神酒頂戴之儀は、両当番相談之上、一ツ所にて頂戴可致候、若双方論合等か又ハ小家ニて難相勤節ハ、当番少しも不論、氏子之心儘に取斗、是又西光寺か庄屋所之内におゐて、神酒可頂戴事

一組内御神領延借金、御宮修覆入用刻、一統指出シ候処、藤次

郎・兵右衛門・林平・只助・藤九郎、右五人之ものともハ、右御大切之神領金乍致借用、我儘を申一切不指出候ニ付、ヶ様之我儘もの有之候てハ、以後造宮修覆等をも成かたく、誠ニ以御大切之御寄附神田金外人ぇ之令見、以来彼者ともにハ支配難為致候間、組内相定、向後正月御祭礼之同列にハ、一切相加へ申間敷事

右之通相定候、若相洩候事とも有之候とも、組内此連印之者共一統睦敷、少も相洩申間敷候、且又壱人立てハ勿論、申合抔にて、組相わかり候義仕間敷段、急度承知納得之上ハ、永々子孫迄隔別無之ニ付、印形仕候事

天明四年　甲辰八月　日

久左衛門㊞
左之右衛門㊞
順　次㊞
新　助㊞
（以下連名三段組トス）
常右衛門㊞　治　郎　八㊞
茂　三　郎㊞　新右衛門㊞　常　三　郎㊞
政　吉㊞　小右衛門㊞　兵　内㊞
傳　治㊞　治　郎　七㊞　喜　藤　治㊞
彦吉　後家㊞　藏　㊞　清右衛門㊞
源　七㊞　乙　八㊞　忠　兵　衛㊞
藤右衛門㊞　忠　治㊞　惣左衛門㊞
幸　助㊞　勘　治　郎㊞　忠　五　郎㊞
喜與治郎㊞　惣　八㊞　長　九　郎㊞
多　七㊞　清　五　郎㊞　長右衛門㊞
又　治　郎㊞　金　藏㊞　清　八㊞
彦　七㊞　茂　平㊞　權　三㊞
藤　兵　衛㊞　權　内㊞　總　治　郎㊞
與　吉㊞　藤　八㊞　久　兵　衛㊞
き　な㊞　善六　後家㊞　定吉　後家㊞
茂右衛門㊞　染八　後家㊞　喜　三　八㊞
善　九　郎㊞　伊　平㊞　角　兵　衛㊞
長　藏㊞　兵　六㊞　平　助㊞
傳　藏㊞　留　七㊞　寄　助㊞
與　吉㊞
西　光　寺㊞

右之通組中相談納得之印形如件

庄屋　久左衛門㊞
年寄　常右衛門㊞
百姓代　新右衛門㊞

付　直江村取締箇条書

○直江区有

（表紙）「直江村取締箇条書」

村締一札之事

多藝郡直江村之儀、中組庄屋市左衛門・西組庄屋藤太夫致死去候処、組内人気区々ニて跡役相定り不申候ニ付、御慈悲を以押越村庄屋信七ゟ中組兼帯被　仰付、猶大場村庄屋長左衛門ゟ西組立入被　仰付候処、近来村人気肌相離レ混雑罷在、江敷米過取立有之候旨、小前方より申出候ニ付、兼帯立入人より及利解候得共、治り兼候ニ付始末奉伺上候処、全躰当村之儀は不締罷在候間、今般仕来相改村締極可申旨、兼帯立入人幷下宿村庄屋嘉平次・嶋田村庄屋市右衛門右四人ゟ　御声掛り被成下、則立入村方一同熟談納得之上諸事改革いたし、村締取極候箇条左之通

一御廻米怔合は勿論、縄俵ニ至迄精々入念郷蔵納可致、尤十二月十日限皆済可致事

附、夫銭勘定之儀は十二月廿五日限致皆済、端銀たり共後日ゟ相延シ申間敷は勿論、差次勘定致間敷候事

一高地之分は勿論、低地之分たり共、委ク植付耕作いたし荒作無之様可致事

附、植付耕作之節、若病気相煩手後レいたし候者有之候ハヽ、親類・隣家・五人組合より互ニ助合、手後レ無之様可致候事

一御検見ニ付、田方下見之儀は、三組庄屋・年寄・百姓代罷出、精実ニ見様シ毛附之分田毎ニ番札立置御検見前々日合毛札と建替可申候事

一村入用之儀は、毎月晦日より翌月五日迄之内、壱組より三人宛立会、逸々遂穿鑿上納金始組合割賦金諸買物ニ至迄、請取書ニ引合セ入帳いたし可申、猶後論無之様立会候村役人〆印いたし、夫銭割之節、右〆印之通何月〆何程と夫銭帳ゑ入帳可致候事

一村入用金之儀は、凡高割を以組々より取替置、夫銭割組高当りニて引去可申、尤右取替金之儀は、当番庄屋より何入用何程之内何程取替候と委敷相認メ印紙請取書相渡、夫銭勘定之節、右請取書ニ引合セ可申候事

附、村入用取替金之儀、利足壱割弐分月割之事

一道橋修覆之儀は、家役無賃ニ罷出可申候、尤大破之分は相談之上、賃人足を以成丈ケ入用不相懸候様取斗ひ可申候事

一出水・出火之節は、六拾歳以下拾五歳以上之者無賃ニて罷出、精々相働可申、若病気等ニて難罷出者は、其段当番庄屋ゑ相断可申、格別相働候者は、御役所様御差図を請取斗可申事

一田畑質地流地証文之儀は、三組庄屋方ニ証文留帳拵置、右留帳ゑ証文写取其組庄屋致奥印可申候事

一村役人幷立会之者出会之節、酒肴等一切相用申間敷、且支度之儀は可成丈給通ひニいたし、無拠節は壱人壱飯銭六拾四文ニて取賄、其余買物等一切附出シ申間敷候事

附、無拠儀有之酒相用ひ度節は、惣方自分賄ニいたし、
一切入用附出シ申間敷事
一是迄村役人始立会之者、小前之宅ニて酒肴相用、村入用ゑ附出候儀も有之候得共、向後は小前之宅は勿論村役人宅たり共当番庄屋之外ニて酒肴は勿論支度等決て致間敷候事
一人足賃銭壱人ニ付銭百弐拾四文と相定、川堀人足たり共酒料手当一切致間敷候、都て人足之儀は朝日之出より、暮日之入迄相働可申、尤朝昼中飯之節は、村役人より呼声相立候得は、早速罷出相働可申、且休之節自分仕事致間敷候事
附、道溝取繕ひ候人足、酒店ニて給候酒代村方より相払候儀も有之候得共、今般賃銭相増候上は、人足酒代之儀は村方より決て相払不申候事
一三ヶ村組合ゑ罷出候人足賃銭幷牧田川橋懸ケ人足賃之儀は、是迄之通取斗ひ可申候事
一村買物帳当番庄屋ニ拵置、右買物帳ゑ買先々ニて逸々為相記、月〆之節取調入帳可致候、右買物帳ニ相洩候分は取用ひ申間敷候事
一当番庄屋方ゑ村役人印付之札拵置、他所行幷村方ニて遣ひ候人足ゑ其度毎月日・遣ひ道右札ゑ書記相渡置、夫銭割之節右札取調入帳可致、若札紛失いたし候分は、仮令慥成儀ニても一切取用申間敷候事
一御普請・自普請共組々棟頭（領カ）之者ゑ為請負候節は、組々庄屋・年寄・百姓代一同立会及引合可申、尤村役人仰付之通帳右棟頭ゑ渡置、為請負候度毎右通帳ゑ相記、猶月〆帳ゑ委敷書留置可申候事
一御役人様方御休泊之儀は、御壱人諸入用壱度銀壱匁ニて取賄、其余買上物等一切致間敷候、且御他方御役人様御休泊之節は御壱人分銀三匁ニて取賄、若別段買上物等有之候節は、一同相談之上可成丈入用不相懸候様取斗可申事
一御免割之儀は、御膳籾代米代金幷太餅買納代金共生高ニ割賦いたし、取立之御米之儀は川下ヶ辻割賦いたし取立可申、尤御取箇辻何程之内御膳籾代米何程、太餅代米何程、被下米何程、引残り川下ヶ辻何程と割賦帳ゑ委敷書分ヶ割賦可致候事
一当番庄屋方ニて年内相用候筆墨紙代、壱ヶ年分銀七拾匁幷蠟燭代銭壱貫五百文ニ相定、其余一切附出し申間敷候事
一非番庄屋方ニて年内相用候筆墨紙代、庄屋壱人ニ付壱ヶ年分銀拾五匁宛幷蠟燭代銭三百五拾文宛と相定、其余一切附出シ申間敷候事
一自分出入差発り候節、右入用之儀は、郷宿は勿論村下用ニ至ル迄出入人より為差出可申候事
一宗門帳五人組帳筆工紙代共金弐分弐朱と相定、下帳ニ至迄右定金之内ニて取斗ひ可申事
一大垣・笠松両御役所様ゑ御用之節之郷宿下用之外、諸入用は出勤之者より相払可申、尤右手当として其日帰り之分は、一

日銀弐両、若御用続ニて一夜泊ニ相成候節は、前後両日銀三匁と相定、途中小遣ひ共出勤之者より差出し、村方ゑ一切附出シ申間敷候事

一当番之儀は凡高割を以壱ケ年宛相勤可申、尤凡高割之儀ニ付当時之組々有高ニて本郷組五分、西組・中組ニて五分相勤可申、若組高増減いたし、譬百石以下ニ相成候共、右之割合ニて実意を以互ニ助合相勤可申、平常御用之儀は当番庄屋ゑ請持、非番庄屋幷当番付年寄ニて相勤、猶御用・村用ニて当番庄屋方ゑ寄合及評議候節は、組々庄屋・年寄・百姓代罷出可申、且御検見・御免割幷高懸り臨時入用多分之儀有之節は、立会之者一同罷出可申候事

附、中組之儀、人気区々ニて役儀勤人当時相定り不申候ニ付、庄屋当番之儀は相休ミ、追て組内和融之上役儀相定り候節は、本文之通当番相勤可申候、且組大高ニ相成外組より当番余計相勤候迚、役威振ひ役頭杯と心得違無之様可致は勿論、小高ニ相成候組は大高組より別て実意を以附合可致事

一御検見名田帳当番庄屋方ニて相仕立、本郷組ゑ持参、同組所持仕来候御検地帳順帳ゑ年毎引合セ、間違無之様入念取斗可申候事

一御免状・皆済目録・御普請御配府・宗門人別帳幷五人組帳村扣、其他後年見合セニ可相成諸書類、幷免割帳・夫銭割帳共、目録書を以次当番ゑ相渡、請取書取置可申事

一諸給米七石五斗也

此訳

米壱石弐斗　庄屋当番給
同壱斗五升　当番附年寄給
同三石六斗　庄屋給三人分
同壱石三斗五升　年寄給三人分
同壱石弐斗　定使給

〆

右庄屋年寄給米之儀は、高割を以組々庄屋ゑ受取之可申、尤当時組高格別高下有之候ニ付和融之ため、当時右給米勤人頭割ニいたし可申事

一所持高弐拾石以上ニ相成候者は、惣村立会ニ罷出可申、高弐拾石以下ニ相減候ハヽ立会差扣可申事

附、是迄立会来候者は、当未年より来ル辰年迄拾ケ年之間、高之多少ニ不拘、是迄之通立会可申、右拾ケ年相過高拾石以下ニ候得は、本文之通立会差扣可申事

一諸敷地弁米、今般兼帯立入人幷村役人立会取調、別紙調印之一冊取置之候上は、右調帳之通年々割賦取立可申事

一近来川低高(底カ)ク相成、牧田川洩水大造ニて立毛年毎水腐いたし、惣百姓難渋罷在、別て低地而已いたし居候者は、年々皆水腐ニて取続も難相成候得共、他所地越作之儀は、先年締り

も有之越作相成申間敷儀ニ候処、今般相談之上低地而已作いたし居候者之取続之ため、村地壱人作三反五畝歩、夫婦相勤候者は六反歩、作附無之者は越作一切致間敷、惣て作方之儀は、別て実意を以村地之分荒地無之様可致は勿論、元来手余り地之村方ニ付壱畝歩ニても余計作附、低地之分精々地直シいたし、少シ成共御収納相進シ候様相励可申候事

一当村之儀は、先年訳合有之村方一同熟談納得之上内組分ケいたし三組と相成、御年貢取立其外諸締り三組相談之上取斗来候処、右組分ケ以来年暦相過候儀ニて、元来の意味自然と亡却いたし、中ニは三組別村之様ニ心得違之儀も有之候得共、全内分ケ之儀ニ付村役人之儀は一村之締と相心得可申事

一御拝借金七拾六両小前貸附有之、右之内金三拾六両之利足九分、四拾両は利足七分ニて御拝借之儘貸附有之候処、右七分利四拾両之分、去ル寅年御振替ニ相成、利息壱割ニ被　仰付右利間三分之儀高弁ニいたし、小前より七分利取立置候処、今般改革締ニ付、前書御拝借金利足当未年より来ル酉年迄三ケ年は、是迄之通九分と七分ニ取立、高弁を以上納いたし、来ル戌年より御役所様御貸付之通、金三拾六両は九分利取立、金四拾両は壱割利ニ取立上納可致候、且元金之儀は当未年より来ル辰年迄拾ケ年之間年々以上納いたし、右年限中元利皆上納可致事

一御拝借金四拾四両并郷印証文を以金四拾両借入有之、右之〆金八拾四両之儀は、惣高借ニ利足は勿論元金之儀も年々高割ニいたし、追々以皆済相成候様取斗可申事

附、去午八月　御役所様ゟ御願申上置候金弐拾三両之儀は、小畑川通御堤相続手当として、飯田村・蛇持村より出金いたし候金五拾両之内当村当りニ御座候処、今般相談之上、右御堤相続之儀ハ其度毎高割を以出金いたし、前書弐拾三両之儀は御拝借金四拾四両之内ゟ致返納可申候、右返納金引之惣高借金六拾壱両は、本文之通取斗可申候

一今般惣高ゟ御拝借仕候金拾五両之儀は、来申年より来ル子年迄壱割利附五ケ年済上納可致候、尤当村之儀は、御拝借金多分ニ御座候処、格加之御慈悲を以右金御貸下ケ被成下置候儀ニ付、年之豊凶ニ不拘、年々元利限月無遅滞上納いたし、来ル子年ニ至り皆上納可致事

右は今般村役人始高持一同并兼帯立入人共、相談納得治定之上取極候上は、前箇条後々年迄も無違変相守可申は勿論、万端実意を以悋敷無他事農業而已相励可申候、依之為後証一同連印致置候処如件

弘化四年未八月

（以下連名三段組トス）

吉右衛門㊞　猪　藏㊞　津　根　八㊞　七左衛門㊞　柳　藏㊞　平　三　郎㊞　治左衛門㊞　秋　藏㊞

利右衛門㊞　抹藏㊞　與四藏㊞
喜三八㊞　與作㊞　後圓吉家㊞
仙彌㊞　衆八㊞　清吉㊞
利八㊞　後藤八家㊞　喜平㊞　太十郎㊞
忠助㊞　後輪兵衛家㊞　喜七㊞
祐藏㊞　六助㊞
繁八㊞　覺右衛門㊞　茂兵衛㊞
民次㊞　長七㊞　そよ㊞
幸太郎㊞　半藏㊞　利兵衛㊞
菊太郎㊞　善吉㊞　又三郎㊞
榮助㊞　權四郎㊞　俊藏㊞
小兵衛㊞　榮藏㊞　丹次㊞
兵次㊞　後ふも為吉要藏㊞　嘉助㊞　後猪右衛門家㊞
後又右衛門家㊞　桂助㊞　淺右衛門㊞
彌藏㊞　市兵衛㊞　儀三郎㊞
忠四郎㊞　宇市㊞　庄助㊞
後忠吉家㊞　半三郎㊞　喜右衛門㊞
治太郎㊞　繁七㊞　抹助㊞
左九彌㊞　衆助㊞　後孫分四郎家㊞
宇八㊞　國五郎㊞

又助㊞　後家㊞
立会半右衛門㊞　同断八㊞　同断彌㊞
同断千代八㊞　同断源右衛門㊞　同断嘉藏㊞
同断專助㊞　同断休平㊞　同断儀平㊞
同断治助㊞　同断九八㊞　同断善助㊞
同断眞助㊞　庄屋代又兵衛㊞　年寄藤三郎㊞　庄屋代林三郎㊞
西組立入長左衛門㊞　立入人市右衛門㊞

其八後家㊞　柳助㊞
同断儀藏㊞　同断休助㊞
同断今次㊞　同断彌右衛門㊞
同断五平次㊞　同断源兵衛㊞
同断傳次㊞　同断儀十郎㊞
同断善助㊞　百姓代善十郎㊞
同断嘉平治㊞　中組兼帯信七㊞

付　直江村倹約取締箇条書

○直江区有

倹約取締箇条書之事

一八月祭礼御神酒之儀、堅（カ）十七日九ツ時始、七ツ時相仕舞可申事

一伊勢参宮迎之儀、組・親類ニ可限、尤上京等いたし、日限相後レ候者は、迎相止メ可申事

一慶事之節、一盃限り同様成丈ケ倹約致シ、呼衆之儀は、近親

ニ可限事
一法事之儀は、一汁一菜ニて、一盃ニ可限事
一御用村用ニ出勤致シ候節、禁酒同様成丈ケ倹約致シ、村入用之儀は毎月晦日ニ月〆可致事
附、集会相触候節、無沙汰ニ不参之ものは、後会ニ沙汰不致事
右は近年諸色高直ニ付、立会一同和談之上取極候上は、五ケ年之内前箇条之通、堅相守可申候、依之一同連印致置候事
文久四甲子二月十九日　立会　休三郎㊞
次助㊞
(以下連名三段組トス)
休平㊞　貞七㊞　善助㊞
常右衛門㊞　常七㊞　喜見八㊞
嘉藏㊞　俊平㊞　亦兵衛㊞
源次郎㊞　藤三郎㊞　辰藏㊞
彌右衛門㊞　久助㊞　千代八㊞
半右衛門㊞　元八㊞　彌八㊞
忠七㊞　今次㊞　周五郎㊞

二二四　金屋村村禁連判帳

○金屋　西脇和夫氏所蔵

(表紙)「安永五年　村禁連判帳　申正月」

一従　御公儀様被　仰渡候御法度之趣、毎年申渡候通各申合急度相守可申事
一御料・私領方御役人様方御通之節、馬を牽候者は馬を除、棒をかつき者は棒をおろし、笠をぬき少も慮外仕間敷事
一金屋村地内ニ刀帯之衆ゑ、乗打慮外仕間敷候、向後さ様之族有之候ハヽ、五人組離シ可申事
附、出家衆同前、勿論五人組切急度申合候事
一水呑以下之者傘・高足駄無用之事、他所ゑ出候共可為同前事
附、指下駄は不苦事
一村内壱丁離レ候て馬乗可申事
附、右内ニて猥ニ高声杯致間敷事
一先規より雪踏をはき候者ハ格別、少高水呑之分勝手宜敷候て雪踏はき申間敷候、分限不相応之郎類は勿論、百性之義は御定法之手作之藁草履之外御停止ニ候、猶又急度相守可申事、奉公人は右之品格別之事
一博奕・三笠富并宿其外諸勝負仕候事堅御停止ニ候、村中堅相守候様被　仰渡奉畏候、若相背候歟、宿等仕諸勝負ニ加り候ハヽ、農業不精ニ相成候ニ付、憐吟味仕急度相守可申候、若

相背族有之候ハヽ、村払ニ被　仰付候ても少も御恨申間敷候、尤召仕之者ハ、其主人より急度可申付事

附、行衛不相知候者、及暮如何様申宿等相頼候とも、一宿抔不相成事

一他所ゑ参り諸勝負仕、先村より断抔御座候ハヽ、是又如何様之儀ニも可被　仰付候、為其連判仕置候

一農業を専ニ耕作出精致、格別勝て精出候者ハ、高持百姓より心付可致之事

一近年村方不行作ニ相成、作物を荒シ、或は大根・いも・大豆等、又はくた物等を盗取、無益之寄合等致由相聞候、甚不埒之事ニ候、自今右之類各申合急度相守可申事

附リ、右之類は宿無之候ては難成事ニ候、若宿等致候者有之候ハヽ、急度申付候間、兼て其心得可有事ニ候、勿論前々申渡候夜遊之儀一切不相成事候、若相背夜遊等罷出候族有之候ハヽ、隣吟味仕此方ゑ可致注進候、用事有之夜中ニ罷出候ハヽ、行先隣へ相届ケ可罷出申候事

一前々より有来候儀ニ品を替候歟、又は奢ケ間敷儀有之候ハヽ、急度可被仰付旨、前度被　仰聞各致承知候、不依何事御村法相用不申村方より難渋之儀有之候ハヽ、如何様之儀ニも可被　仰付事

一古来より之村法相背、新規之事共申出候族有之候得は、畢竟村風悪敷相成候間、古来之格式急度相守可申事

右ケ条之趣前々より申渡候通、猶又相互ニ申合セ、急度相守り可申候、万一不埒之儀有之候得は、急度申渡候間、兼て甚心得可有之事、前々御ケ条之趣逐一被仰聞各致承知候、若相背候ハヽ、如何様之儀ニも被仰付候共、少も御恨申間敷候、為其印形致置申候、以上

安永五
申正月

（以下連名三段組トス）

彌三八　繁右衛門　長左衛門後家　安兵衛　孫吉　彌重郎
はつ　清八　五兵衛
藤助　六助　久右衛門
小八　祐八　清六　後家
喜平　淺右衛門　梅八
利三郎　市藏　六藏
龜右衛門　又八　伊平　孫右衛門後家
二郎藏　儀平
武助　はな　武右衛門
孫右衛門　佐平　喜代藏
要助　善三郎　兵助
八藏

庄屋所
十左衛門殿
孫六殿

二二五　橋爪村倹約定

○橋爪　篠塚神社所蔵

万事兼約ニ付定メ書之事

一町宿下用造用村入用右通ニ致、月々可改事

一立合寄合之節は御免割・夫銭割・夫銀割、壱会ニ酒六升ニ造用五匁ツヽ、常躰ハ禁酒ニ可致事、幷御免割夜双方寄合之節は、酒壱斗五升ニ豆腐壱丁ツヽニ可致事

一道は其処之地主之頭□ニ可直ス事

一橋は其筋〳〵ニて可直ス事

一祭礼当日雨祝ニ付灯籠廿、ろうそくハ三文ろうニて百丁、先灯籠可掛事

一所々溝さらへは川下立合、溝ハ以前之通、村方之分ハ其筋にて可さらへ事

一御役前衆中御用向ニ付、出懸帰り懸禁酒ニ可致事

御百姓衆中惣代　治左衛門　喜　市

文政五壬午閏正月　日

勘右衛門
幸右衛門
利右衛門
源　介

組頭勘四郎
惣五郎

武次右衛門　武夫夫
村御役人衆中様　武平次　百姓代　喜太次
同　多重郎
喜内

付　百姓佐七吟味願

○橋爪　篠塚神社所蔵

（端裏書）「文政五年七月　」

乍恐以書付奉願上候

一橋爪村御高諸入用之儀年々相嵩難渋仕候間、御年貢米御上納甚迷惑仕候処、当春村方一同打寄万事倹約之儀村役前ゑ相頼申候処被致承知候、右倹約ヶ条書ニ仕此書付ニ一同印形可致様役前被申候故何れも承知仕、夫より一同印形仕候、然ル処留次郎悴佐七と申者壱人、役前ニて承知仕後日印形不仕候、依之私共より段々右之訳申聞候得共、聞届ケ不申候、左候得は右役前被申候は、一判抜ケても倹約不承知と被申候、さすれハ倹約之妨ニ相成候と申候得は、右佐七より申候は、私印形一判抜ケても倹約相成候様と申候間、左様ニて役前ニ御承知ニ御座候得は宜敷候間、此書付其方ゑ預ケ候間役前と相談

可致様申預ヶ置申候処、其後何共無返答打置候間、私共双方之大事成印付預置候てハ、惣御百姓ゟ申訳無御座候、猶又倹約之妨ニも相成候間、先達て御内意御願申上候処、其節御上様より村役人ゟ利解申聞候様被為　仰付被下置候間、再応村役人より利解被申呉候得共、中々承知不仕候間御百姓一同途方ニ暮、致方も無御座候故不得止事、恐多御願ニ奉存候得共、右佐七被召出御利解被為　仰付被下置候様、何卒御慈悲之御勘考を以、右御願之通被為　仰付被下置候ハヽ、難有奉存候、以上

橋爪村御百姓惣代
源助
右同断
喜多次
同　佐藤次
同　園七
同　林之丞
同　周助
同　利右衛門
同　多重郎
同　喜内
同　武太夫

文政五壬午年七月

御代官
御役所

付　橋爪村倹約定

○橋爪　篠塚神社所蔵

（端裏書）
「　此文正月廿九日ニ差上申候　」

倹約ニ付定書之事

一御免割・夫銭割・夫銀割立会寄合之節、一会ニ酒六升ニ造用五匁ツヽ、常躰ハ禁酒ニ可致事幷ニ御免割夜双方寄合之節ハ酒一斗五升ニ豆腐人ニ壱丁宛可致事、但シ東組ハ酒壱斗ニ豆腐壱丁可致事

此儀は、唯今迄ハ定リ無之候ニ付、入用相嵩申候故、右之通ニ相定メ申候事

一御役前衆中御用向ニ付出掛・帰り懸、禁酒ニ可致候事

是ハ、只今迄多分之儀ハ無御座候得共、入用御高ゟ割賦請申候間、右倹約相定メ候ニ付如斯ニ仕候事

一村役方より右倹約ニ付ては、祭礼幷ニ雨祝相止メ、尚又御免割之夜惣寄合ニ付、酒・豆腐之儀も相止メ候様被申聞候得共、此儀は年内一度之儀、其上村中不残打寄候て御免割取締り之儀故、酒・とうふ定りヲ付相弘メ候方可然と役方ゟ相談仕候処、則相決候故役前より然ば右ケ条書ニ銘々調印可仕由被申出候処、右左七一判故障ニ付致方も無御座候由御願申上

候

一祭礼当日雨悦(祝カ)ニ付灯籠弐十蠟燭は三文らうニて百丁、右灯籠可掛事
　是も只今定リ無之候ニ付、如此ニ相定メ申候事
一道ハ其所之地主之手寄ニ相直し可申事
　是ハ、只今迄ハ村人足ニて直シ候得共、賃米相嵩候ニ付、右之通ニ相定メ候事
一橋等ハ其筋々屋敷限りニて可直事
　是ハ、只今迄ハ役方より諸色被差出候得共、賃銭相嵩候ニ付、右之通定メ申候事
一所々溝浚ハ井組立会、溝ハ已前之通村方之分ハ其筋々ニて可浚候事
　是も賃米等相嵩候故如此仕候事
一町宿・下用・造用・村入用之分ハ通ニ仕、月々ニ可致候事
　是も年内之儀ニ付、間違等出来仕候てハ宜敷も無御座候故、右之通ニ相定候事
一御役人様方御下用・造用之儀ハ、是迄御定通りニ御座候ニ付相定メ不申候事

右之通ニ御座候、御尋ニ付書付奉差上候、以上

文政六癸未年正月　橋爪村惣御百姓中

付　橋爪村倹約定書一件内済証文

○橋爪　篠塚神社所蔵

定書内済一札之事

橋爪村川除御普請幷武佐祭礼村入用倹約方之儀ニ付、去々午年より彼是差入組候処、御吟味中御咎被為　仰付奉恐入候此上追々御吟味之上、奉請　御裁許候ては、如何躰可被仰付も難計歎ケ敷存候処、各方より御吟味御日延御願被下御聞済之上、御立入双方御挨拶被成下内済和融相整、向後取締方御世話被下、高懸り村諸入用之儀仕来之儀相改、金銀米銭共米積を以免壱ツ内ニて相済候様可仕旨被　仰渡奉畏以来は、左之通村中相談之上取極申候、尤臨時入用之儀は、何事ニよらず別段之定

一御免割中茶代米五升大割当番ゑ差入可申事
　附り、組々小割之節、茶代右同断、炭幷油・蠟燭等入用之節は、惣高割ニ差加可申事
一御免割相場立之儀、御蔵米極月六日御直段と外米相場と之間相場ニ可致事
　附り、諸上納金銀は勿論、諸入用之儀、金壱両以上は惣高ゑ其時々致割賦、壱両以下は村役人取替置、金壱両ニ相成候ハヽ、其節ニ致割賦差出可申事

一御段免所欠口米是迄村入用米ニ差加へ候処、向後其所之本米ニ相加致上納可申事

一諸御役人衆様御休泊之節、御老飯米壱升宛、野菜之儀は所有合之品村賄之事

附り、本文之趣省略いたし相定候上は、村役人方諸色為損料米弐斗宛両名主ゑ年々村方より差入、尤夜具幷風呂等村役人持合之外借入候分は、相当之損料村方より差入可申事

一御普請仕立方之儀は勿論、出水之節御堤通急破相囲候節幷井水之節共、都て村役人之差図を以取計、且松木植継之儀幷水除留之節、松枝伐取共歩持より村役人ゑ相届取計可申候、古籠之儀は歩持之者引請取捌可申事

附り、村役人御用等ニて在宿不致候節、急水之儀も有之、数ヶ所急破致出来候儀も難計ニ付、年々歩持人之内両三人宛村役人代相立置、諸事取計ひ可申候、且又籠竹之儀御渡之分幷御渡不足之分共村役人引請差出置、追て右不足代銀御渡之節、右代銀村役人ゑ頂戴可仕事、但、出水之節囲諸具之儀は、歩持人引請差出置、追て御役人様御見分之上、代銀被下置候節歩持人頂戴可仕事、尤御普請掛り御役人衆様御休泊之節は、前ヶ条之通取計歩持より差出可申事

一御普請金之儀、三月中ニ割渡可申事

一夫銀銭割之節其外諸事御用向村用共、以後は禁酒之事、酒代は一切高懸りニ致間敷事

一諸上納金、金見納幷世話役渡筋割、又は組割銀・人馬賃等は勿論、其外村諸入用物都て内訳書取調払先請取書を以、割賦ニ入可申事

一宗門諸入用之儀は、不残人別ニ割賦可致事

一御城下町宿ゑ罷越候節は、御作法之通相守、其時々通ひ持参いたし、何御用ニ付誰々罷出候趣書記置、月々取調べ可申事

附り、公事訴訟諸願一分之儀は、其人より差出可申事

一道橋之儀、諸色幷人足共其筋地主頭付ニて、村役人差図を以可致修覆事

一井水堰幷溝渡諸色代は高割、人足之儀は是迄打来候家役米を以相勤、其余之分は高持引請無賃米ニて相勤可申候、但出越出不足之分は壱人ニ付米代弐升宛と相極差引可致事

附り、井組相談之上入札等ニ相成候節は、右之割合を以取計可申事

一風水損ニて御破免御願申上、御検見御引地下見方其外何事ニよらず独弁ニて罷出無拠節は、下用米之儀本下用は一飯壱升半、下用は米五合宛之事

一祭礼当日御神酒三升神前ニて相弘メ、灯籠は可成丈ケ古灯籠相用ひ、新灯籠弐拾、蠟燭百挺、但し三文蠟之事

一武佐祭礼入組候ニ付、従　御役所様当時勤懸り候者預り置候様被　仰渡奉畏、午年当番之者預り置候処、此度各方任御挨拶御差図次第相勤、御供幷神酒二升、鮒三枚、両当人より神

前ゝ相備可申候、且神田徳米も有之ニ付、米五斗宛当人方ニて蒸鳥子ニいたし、神前ニおゐて参詣之者ゝ相弘メ、右相備候神酒之儀は当人方ニて相弘メ可申候、尤塩振大根之外一切差出申間敷事

附り、是迄箸削、鮒煮、米麩、竈築、餅春抔と唱定日有之当人方ゝ寄集候得共、是等之儀は向後相止メ本文之通取計ひ、且新規出席之儀は堅致間敷事

右ヶ条之趣、各方御立入御取極被下、惣方熟談納得仕内済相整候ニ付、前ヶ条之通相互ニ屹相守申間敷御百姓相続可仕候、尚又御普請之儀ニ付彼是申争ひ候段は、各方ゝ御貰請被下忝任御挨拶候上は、後年ニ至リ候共聊申争ひ仕間敷、申間敷御百姓出精可仕候、依之惣方連印之一札差出申処仍如件

文政七甲申年二月　橋爪村御百姓

多右衛門（以下連名三段組トス）　ん印
後家印　佐三次印　又五郎印
庄助印　彦次印　與助印
長兵衛印　小次印　瀧藏印
惣助印　市彌印　長吉印
と重太ま印　六郎兵衛印　後家印
御約御赦免之上調印仕候　長藏印
右同断　佐七印
同人悴留次郎印　留七印　丈七印

圓藏印　八藏印　吉左衛門印
秋三郎印　皆藏印　源吉印
利吉印　重次郎印　與太郎印
惣右衛門印　甚吉印　市藏印
五兵衛印　彌五八印　角彌印
惣吉印と林八後家印　わみ儀助後家印　さ作藏印
彌三八印　又孫之丞後家印　藤三郎印
念長寺印　九米藏印
爲五郎印　次兵衛印　文助印
治郎藏印　源之七印　勘七印
勘三郎印　平吉印　茂左衛門印
園三郎印　茂三郎印　藤次郎印
休右衛門印　長大夫印　勘助印
古右衛門印　佐太郎印　丈之助印
武右衛門印　佐傳次郎印　彦八印
伊助助印　傳吉印　丈右衛門印
藤内印　忠彌印　權七印
小十郎印　彌平太印　話五郎印
重吉印　源之助印　惣四郎印
伊藏印　平三郎印　長五郎印
喜藤八印　利助印　市兵衛印

權　八㊞　利　三　次㊞　多　三　郎㊞
爲右衛門㊞組　半左衛門㊞　喜　三　郎㊞
忠右衛門㊞　與　八㊞　九　平㊞
善　吉㊞　又　次　郎㊞　吉　五　郎㊞
利　作㊞　又　藏㊞　宇　三　郎㊞
六　太　郎㊞　吉　助㊞　又　三　郎㊞
同人悴　腰　藏㊞　は　の㊞　喜　八㊞
御咎御赦免之上調印仕候
右同断　兵　助㊞
右同断　忠　助㊞
右同断　庄　之　助㊞
右同断　源左衛門㊞
右同断　林　藏㊞
多　十　郎㊞　喜　多　次㊞
源　助㊞　林　之　丞㊞　園　七㊞
佐　藤　次㊞　周　助㊞　喜　内㊞
武　太　夫㊞　同村五人組頭　勘　四　郎㊞　同村同断　惣　五　郎㊞　利右衛門㊞
御咎御赦免之上調印仕候　同村名主　武　平　次㊞
同村附名主　喜　三　郎㊞

御取噯人
赤坂筋世話役　長松村名主　加　藏殿
右同断　東久瀬川名主　源　太　郎殿

今村筋世話役　青柳村名主　助殿
多藝筋惣代　石畑村名主　五郎右衛門殿
右同断　志津村名主　九　平　次殿
右同断　釜段村名主　庄　五　郎殿
右同断　徳田村名主　伊左衛門殿

前書之通拙者共立入内済和融相整候ニ付、致奥印組々ゑ弐通相渡置申候、以上

申二月

取噯人
多藝筋惣代　徳田村名主　伊左衛門㊞
右同断　釜段村名主　庄　五　郎㊞
右同断　志津村名主　九　平　次㊞
右同断　石畑村名主　五郎右衛門㊞
今村筋世話役　青柳村名主　周　助㊞
赤坂筋世話役　東久瀬川名主　源　太　郎㊞
右同断　長松村名主　加　藏㊞

前書名前衆中

二二六　高田町取締一札

○高田　日比野泰氏所蔵

（表紙）
「　天保十一庚子年
高田町取締一札
三月　」

奉差上取締一札之事

多藝郡嶋田村之内高田町之儀、数十年以来締り不行届候処、近来別て不締ニ付、取締可致様兼て被　仰渡、立入人等も御差入被下置候得共、多人数ニてハ差支候儀も有之、示談行届兼延々ニ相成奉恐入候、右は全村役幷重立候もの心得違ニて、御用・村用共勤方不行届万端等閑之取計ニ付、自然と小前之もの村役之申付も不用、心得違之儀も出来致、商売方迄も猥ニ相成、追々困窮ニ罷成、御用向も差支、此儘差置候ては、畢竟村方潰ニ可及も難計ニ付、猶又今般取締方熟談可仕旨屹被　仰渡、八幡村庄屋興惣次・芦敷村庄屋平八ゟ御声掛之上、右締として　御役人様御出張被成下、惣方ゟ厚御理解被　仰渡、右両人より精誠行渡、庄屋・年寄役年番相定、向後取締方及示談、熟談相整候箇条左之通

一西組・東組共庄屋役之儀、熟談之通両人宛年番ニ相勤可申、若当番之もの病気等ニて難相勤節は、互ニ相役ゟ勤込相頼余人ニ代役為致間敷候、万一両人共病気ニて難勤節は、村役人幷立会一同相談之上、人物相撰跡役取極御願可申上候事

但、御用相重り候歟当病相煩候節、代人差出候儀有之候ハ、悴又は立会之もの代人ニ差出可申候事

一年寄役之儀、右同様相心得精勤可致、若病気等之節は、是又立会之ものを代人ニ差出可申候事

一百姓代之儀、両組共老人宛相定可申、万一組内可勤人物無之候ハヽ、両組兼老人ニて相勤可申候事

一立会仲間之儀、是迄相勤候家は勿論、其余之長百姓幷分家たりとも、高拾石以上所持仕身持宜敷候ハヽ、村役人幷立会一同相談之上、仲間ゟ相加可申、尤是迄立会来候ものニても、無高ニ相成候ハヽ立会相休可申候事

但、立会之もの勤方之儀は、御免割幷臨時事ニは、村役人と立会相談いたし、或は御出役様方御多人数御越之節、御案内幷御用宿勝手締方等、村役人より之指図通相勤、且寄会等庄屋より申触候ハヽ、刻限不違罷出可申、若病気其外無拠差支有之不参之節は多分ニ相準シ、跡ニて故障申出間敷候、尤相談治定之儀は、村役人ゟ相尋ね承知可罷在候事

一庄屋・年寄勤方之儀、諸御用幷村用引請相勤候儀は勿論、旧例有之儀は、其仕来ニ准し取斗、成丈寄会無数様可致、尤高掛り臨時入用可相掛儀は、立会之内ニて大高之もの一両輩相招及相談可申、且又町内締方祭礼等幷喧嘩口論、他村懸之非常差起候ハヽ、立会一同出会評議之上取計可申候事

但、諸御用ニ付村役人大垣ゟ出勤之節、早朝より罷出御用

支無之様可致は勿論、成丈当日御用相済シ引取候様可致候、且病中たりとも駕籠ニて出勤之節、人足賃自分賄ニいたし、村入用ニ相掛ケ申間敷候事

一村役人年番勤之儀ニ付、互ニ非番之節は、自分勝手ニ　御役所へ罷出不申、無拠儀有之候共当役へ相談之上出勤可致事

但、立会之ものゝ内、御目見御用ニ付出勤は格別、其余御願筋等有之　御役所へ罷出候節は、当役の案内ニて罷出立会之ものたり共猥ニ御役所へ罷出申間敷、尤名差ニて御召出之節は別段之儀ニ付、其模様ニ随い可申候事

一惣組当番之儀は、四組之庄屋廻り番ニ相勤候仕来ニ付、互ニ相勤可申、若差支候ハヽ、先番ト相対ニて重年相頼、御用支無之様可致事

但、惣組当番より寄会之儀申触候ハヽ、刻限無遅滞罷出候は勿論、代人等不差出相談差支無之様可致候事

一御免割幷村入用共惣割相済次第、銘々組割勘定早行ニ相仕立、極月廿五日限ニ触出シ、取遣り勘定冬分ニ相済候様可致、尤過不足之儀は、翌年正月晦日限相渡候様可致候事

一両組立会割之儀は、庄屋・年寄・百姓代幷立会之内ニて壱人宛立会可申事

但、右会所之儀は、仕来之通東組ニて可致事

一庄屋・年寄給米幷定使給米前々之通可致、且又年番引渡之儀は、庄屋・年寄共一ヶ年限ニいたし、毎年正月四日互ニ請渡可致、尤引渡候諸帳面は、目録ニ相認請取書取置可申事

一非番庄屋・年寄之儀、御免割諸割賦は勿論、其外相談之節当番より沙汰有之次第立会、諸事助合相勤可申事

一御用宿之儀は、成丈役宅ニていたし、若何軒も入用之節は、村役人相談之上御宿割いたし候ハヽ、其節違背致間敷候事

一宗門人別改之儀は、毎月正月当番庄屋へ相招、銘々承糺増減名前等相違無之様取斗、勿論養子之儀は古郷送り幷寺手形取之御願可申上候事

但、女たり共古郷送り無之ものハ、入帳致間敷候事

一御検見下見之儀は、組々庄屋・年寄・百姓代立会、見分札振迄も入念相勤可申、若当病ニて代人差出候ハヽ、其日賃は自分払ニ可致候事

一町内一同身持正敷、質素倹約相守候様常々申合、村役人は勿論、重立候もの身持心得方は、末々之手本共相成候間、不行跡無之様万端相慎可申、且又村用たりとも実意を以倹約致、入用相減候様取斗可申候事

一年中村入用ニ付買調候品は、村入用通帳庄屋方ニ捨置、入用之度毎右帳面ニ為相記、右代銀之儀は盆暮両度ニ相払、請取書取置候様可致候、尤村入用割賦之節、右通帳差出立会吟味いたし、不正之儀無之様可致候事

但、庄屋より右通帳持参候ハヽ、明細代銭当座ニ書記、品物相渡可申、仮令庄屋之小使たりとも、通帳持参不致節

は、品物一切相渡申間敷段兼て買先ゝ申渡置、紛敷無之様可致候、且水囲等之節俄ニ入用之品小使ニて取寄候ハヽ、当座ニ切手相渡、後日故障無之様可致候事

一村中一躰之儀は、惣当番ニて取斗候事ニ候得共、川除御普請又は地直願等、其外何事ニ不寄惣村ゟ相掛候儀は、四組庄屋年寄立会評議之上取極可申候、且又障願或は惣村ゟ相掛候出入共、可相成儀は一己之了簡ニて不取斗、四組庄屋・年寄立会及相談取斗申候事

一小前之儀悪事有之節は、御作法通聊無用捨厳重之締いたし候は勿論之事ニ候得共、災難・病難等無拠不仕合ニて潰ニおよび候もの有之歟、又は飢饉等には村役人を始、重立候者憐愍を相加ゝ、御百姓不潰様精誠心を用ひ取斗可申候事

一御米内納所之儀は、当番庄屋・年寄・米見役立会、内改之上郷蔵詰いたし、詰払は庄屋之支配ニ仕、鍵之儀も相預り可申事

一定使之儀は、定之給米ニて両組ニ壱人ツヽ相定メ可申候、若定使可勤もの無之候ハヽ、給米は庄屋ゟ請持、小遣ひ人足賃は庄屋より相償可申事

一御年貢米幷村入用取立方之儀は、庄屋方より申触候日限通少も無遅滞指出可申、万一当日賄難相成もの有之は、何日限と相極、組親類請ニ立、再度之断無之様可致、其上ニも理不尽申立候ものは、無用捨　御役所ゟ御届可申上候事

一川通出水之節は、是迄仕来之通村役人一同見廻り、若危キ所出来候ハヽ、村中罷出相囲可申候

但、御堤通杭籠折取候様成儀は一切不可致、若折取候もの有之候ハヽ、過料銭壱貫文無用捨取上之可申、尤右過料銭之儀は、見付候ものゟ褒美ニ可遣候事

一御用挑灯之儀は、庄屋方ニ預り置、他家ニ一切差置間敷、若外ニ右様之挑灯所持之もの有之は、早々取上ケ可申候事

一祭礼之儀願出候ハヽ、上役幷立会之もの一同相談之上指図可致、其節違背致間敷候事

一他村より町内ゟ引越住居相願候もの有之は、生所之村役人より請状取之差置可申、若右之もの風聞不宜儀有之は、無隠互ニ庄屋ゟ申出、早々古郷ゟ差戻シ可申、右ニて入用相掛候ハヽ、引受人より埒明可申、尤五ケ年も住居相試、不正之儀無之、永住之願有之は、古郷送り取之御願可申上候事

但、他村より町内之ものゟ手筋を以住居之儀相頼候ハヽ、早速村役人ゟ申出指図を請可申、勿論家主地主之親類たり共、庄屋方ゟ無沙汰暫も差置申間敷事

一田畑譲証文幷質地証文加印之儀は、名寄帳ニ引合セ相違無之は、当番庄屋方ニ加印、扣帳ゟ相記シ加印いたし可遣、非番庄屋ニては加印致間敷候事

一御裏印証文相願候ハヽ、惣村四組一同連印ニて御願申上、組限御裏印御願申上間敷候、万一組限入用之儀有之候ハヽ、他組ゟ下請証文差入候て加印相頼、一同之連印ニて御願可申上

候事

但、是迄之御裏印証文之儀、当暮御仕替願之節は、前書之通取締いたし御願可申上候、尤以来追々致減金、右証文御消印御日限通聊無滞様取斗可申事

一御法度筋之儀は、五人組限組互ニ吟味いたし、一切取扱申間敷候、若心得違之もの有之、其御筋より御吟味有之候諸雑費は勿論、喧嘩口論又は非常懸り合ニて入組出来入用之儀は、当人身躰限指出、万一不足いたし候ハヽ、組親類より助合、右ニても不足候ハヽ、地主より家主より右不足銀五分通差出、残五分は両組高割ニて差出可申候事

但、家代・地代限ニて、右五分金不足ニ候共、右代限差出其余は両組高割ニて差出可申事

一慶事之節又は平生迚も、大勢相集り或は忍び寄、石打込候抔惣て理不尽之儀有之歟、往来之者ゑ難題等申懸候もの有之候ハヽ、厳重相糺、其品ニ寄　御役所ゑ御届可申上候事

一何事ニよらず是迄は印書不立儀をも不相糺、隔心を遠慮と心得、損失費とも可相成儀迄其儘ニ差置、聊察度示談も不致、内心ニは憤りを差含区々ニ相成候段、不締之基と相成候間、以来は一同心底相改、何事ニても不締と存付候儀は、無隠申明し、村役并立会のもの迄一躰ニ相成、前箇条之趣逸々承知いたし、友吟味ニ示合、無忘却相守、取締方等閑ニ不可致候、若存寄とも不申出、内心ニ差含候輩有之差支共相成候ハヽ、無遠慮其　御筋ゑ御届申上、御取締り請可申候事

右之通、今般取締方熟談相整、全ク　御慈悲之御威光故と難有仕合奉存候、然ル上は、前ヶ条之趣町中一同永久急度相守候は勿論、此箇条外之儀は、郷例・仕来相用ひ、村役人并立会之もの迄、一同無隔意悔敷申談、締方専一ニ相心得、役儀太切ニ相勤可申候、万一相背候者有之候ハヽ、如何様之御咎被為　仰付候共、聊御違背仕間敷候、依之村役人・立会之者・長百姓一同并立入人連印之一札差上申処、仍而如件

天保十一子年三月

多摩郡鳴田村之内
高田町東組庄屋　益次郎
非番庄屋　市左衛門
年寄　元次郎
長百姓之内立会　笙峯
同断　藤次郎後家
長百姓惣代　七兵衛
同断　清左衛門

同断西組
庄屋　三七郎
非番庄屋　文次
年寄　彦九郎
非番年寄　友次

常非番年寄
十　蔵
百姓代　多右衛門
長百姓之内立会　忠左衛門
同断　徹十郎
同断　茂太夫母
同断　平助
同断　八十郎
同断　彦右衛門
同断　彦大夫
長百姓惣代　献大夫

熟談差添人
嶋田組庄屋　九右衛門
同断　下高田組庄屋　市右衛門
立入人　芦敷村庄屋　八平
同断　八幡村庄屋　與惣次

大垣
御預御役所

表書之通、今般八幡村與惣次・芦敷村平八ゟ取締申付候処、村方熟談相整、証文指出候、右取締之趣銘々相守、心得違致間敷候、若違失之もの於有之は、厳重可申付候、立入人共年々両度立越取極通、異変之義無之哉相糺可申候、依之為後鑑令印形、組限ニ渡置もの也

子三月　大垣　御預役所　印

一二七　横屋村改革取締済口証文

〇養老町所蔵

（表紙）「横屋村改革取締済口壱札」

横屋村改革取締済口壱札

当村草場魚漁壱件ニ付、庄屋孫九郎幷重吉外弐拾人より、年寄忠右衛門・加十郎両人ヲ相手取種々差入組、其節々御役所様ゟ奉懸御苦労恐入候御儀ニ御座候、然ル処、去ル辰年又候出入出来致し、其節孫九郎・忠右衛門・嘉十郎被　召出厳重之奉請御理解、已後心得方相改、決て出入ヶ間敷義等仕間敷候御請書奉差上置候儀も忘却仕、又候昨年来より差入組候ニ付、兼帯嘉太夫幷下池立入人正平より双方ゟ入渡り、種々申諭取治り方心配致し候得共、行届不申候ニ付、無拠右両人より始末御役所様ゟ御伺奉申上候処、前書孫九郎外弐人被召出、去ル辰年御請書も奉差上置、右様差入組候は如何之心得方有之哉、不埒至極之旨御察度有之、猶追々御吟味可被仰付旨ニて郷宿留被仰付、奉恐

入相慎罷有、克々勘弁仕候処、全是迄心得違罷有候段、漸々心附先非後悔仕、此上御吟味請候ては一言之申上方無御座次第、重々奉恐入候ニ付、兼帯幷立入人ぇ相縋り、御詫之儀只管相歎候ニ付、其段両人より御役所様へ御詫奉申上候処、右様数度指入組候者、元来村役人を始、重立候者心得方不宜故之儀ニ付、急度御吟味可有之之処、両人より只管御詫相歎候ニ付、以御慈悲双方共已後改心実意之心底、為御見様暫御吟味御猶予ニ相成罷有候処、今以双方共改心事実之取斗向少も無之、心迎々ニて不絶差入組、村方不穏候ニ付、兼帯は勿論、立入人倶々其心痛致し、双方心得違之義再々申諭治り方種々示談仕呉候得共、兎角気肌離レ和合不仕候ニ付、今般兼帯加太夫幷立入人より、右之段御役所様へ奉申上候処、左様年来差入組候義は、元来村役人ヲ始、為長者仁意薄候故之義ニて、往々村方衰微忘村(亡)ニも可及義不容易次第ニ付、厳重御吟味可被仰付段両人ぇ被為仰渡候由、一同承之驚入微心魂奉恐入候、依之又候両人ぇ取縋り、已来如何様之御締被仰付候共、違失不仕、猶心応実意ニ差はまり候間、何卒今一応御詫奉申上呉候様相歎候ニ付、不顧恐入ヲ、其段両人より御歎願奉申上候処、出格之以御仁恵村方改革厳重之取締いたし、村柄人気共立直り候様可仕旨被仰渡候由、一同恐承冥加至極難有仕合奉存候、依之双方熟談和融改革取締り之上、箇条左之通り

一孫九郎庄屋役当時休役致し幷年寄役忠右衛門・嘉十郎・重吉三人共退役可仕候事

一重次郎・祐平両人年寄役御願申上年番ニ相勤メ、休番之年は百姓代相勤メ可申事

一御用会所之儀は、重次郎方ニて相勤メ、御用向は勿論、村用幷下池一条已来同所ニて示談取極可申事

一当時庄屋役無之候ニ付、御用向村用共年寄役之者より、兼帯嘉太夫幷下池立入人正平ぇも及示談、御用差支無之様櫛取斗可申事

附り、御用状継之儀は、当時天野藤右衛門方相頼、無差支継立可申事

一孫九郎幷忠右衛門・嘉十郎・重吉右四人之者、当時高掛り幷下池一条、其外共都て村立合差扣罷在候事

附り、下池一条之儀ニ付、右四人之者共不寄何事ニ、万事外口へ相准し、少も故障申出間敷事

一下池運上金之儀は、兼帯幷立入人請取、一旦御役所様へ相納御差図を請割符可致事

一下池夏殺生之儀、若鮎等相立候物有之候はハ、四月九日より半夏限り取払可申候、万一季日後レ相成候節は、藻草取通路差支候ニ付、勝手取除ケ通路可致事

一下池藻草取之義は、持株仲間家老軒より船老艘ニ取極メ候上は、猥ニ船数相増申間敷事

一下池一条之儀は、安政三辰年竪取締在之候儀ニ付、一切相背

申間敷候儀は勿論之処、近頃忘却致し、殺生内仕入等いたし候向も粗相聞、已後右等之儀は決て不相成候、若心得違致右等之儀は勿論、下池ゑ相携り候物有之候ハヽ、其者之持株仲間ゑ相預ケ、運上金共外口へ割取可申事

右は、今般書面之通り改革致箇条相守候儀は勿論、都て実意を以双方悦敷いたし合、重て御役所様ゑ奉懸御苦労候儀等決て仕間敷候、万一心違仕候ハヽ、其節無用捨御役所様へ御届ケ奉申上、如何様被仰付候共、可申立儀無御座候、依之為後年改革取締書訴答、幷兼帯庄屋立入人共運(連)印一札、依而如件

多藝郡横屋村
訴訟方　孫九郎

安政六己未年十二月

（以下連名三段組トス）

重治郎　祐平　重吉
平左衛門
庄吉　甚右衛門　甚太郎
傳治郎　民三郎　彌右衛門
彦四郎　領吉　忠左衛門
重郎治　宅次郎　林平
傳左衛門　庄右衛門　久治郎
勘兵衛
相手方
忠右衛門
嘉十郎

立入人
正　平
兼帯庄屋
嘉太夫

右は御役所様格別厚キ御慈悲を以、改革取締方之儀、先般私共へ被仰渡候ニ付、則行渡り候処、前書之通改革締出来仕難在仕合奉存候、依之以継添乍恐此段御届奉申上候、已上

横屋村立入人
正　平
兼帯庄屋中嶋村
加太夫

未十二月

大垣
御預御役所

前書之通御役所ゑ奉差上候ニ付、後年違失為無之訴答ゑ、壱通ツヽ相渡置可申候、已上

立入人
正　平
兼帯庄屋
加太夫

二三八　栗笠村倹約触書請書

○栗笠　高橋嘉幸氏所蔵

吉郎治後家
直　八
佐田助
和　七

覚

御倹約御年限継ニ付、宝暦年中御触之趣目当ニ可仕段被　仰出承知奉畏候、尤当村之儀御百姓及困窮候者彼是有之ニ付、既ニ文化十酉年村方相談之上、夫々簡略仕候得共、追々相ゆるミ、まゝ心得違之者も有之ニ付、今般相改此上も精々申合、猶更簡略可仕条数左之通

一吉凶ニ付村中振舞等仕間鋪、至て之親類格別身寄之者相集り候共、一汁一菜ニ限り可申事

　但、他所者参会等格別之節は、一汁三菜迄可相用、勿論手作ものニて趣意ヶ間鋪儀仕間敷事

一年始八朔祭礼節句諸休日前条可為同前事

　附、婚礼等至て手軽可仕、幷元服は烏帽子親へ酒壱升ニ限り、名替之披露は其組々ゝへ申通辞事済シ可申、猶又伊勢参宮等ニ付、酒迎之儀は勿論、馬抔拵出し申候儀堅仕間敷候、旦節餅等之儀厳敷省略致可申、雑穀之儀は可為別段事

一音信贈答無用、年内禁酒、幷浄瑠璃（璃）・三味線・遊芸を心懸、家業を怠り候儀仕間敷事

　但、御触之趣格別之親類・身寄之者少々之取やりは仕候共可相成丈省略可仕候、尤無拠儀ニて酒出シ候共、有合候品一種ニ限り取肴等拵申間鋪候、猶又病気等ニ付ては、芸事等も品ニより可致斟酌事

一衣服之儀平常は木綿・地布之外不可用候、他所者参会等事立候節、頭百姓之分は絹紬迄着用仕候ても不苦候段、御触之趣堅可相守事

　附、女共さしくし・かうかい之儀、御触通屹と相守可申、平常は子供に至迄わけかけ等紙丈永ニ限り可申、下人・下女は勿論之事

一雨天之節可成丈差笠・木綿合羽用ひ申間敷事

　但、平常は可成丈竹の子笠を可用、且はきもの等も合草履・雪踏等用ひ申間敷、雨天の節も下駄・木履ニ皮緒等用ひ申間敷候、尤他所へ行候節、他所者参会之節等は格別之事

一博奕之儀は勿論、若キ者遊宿等仕間鋪、幷若者共も三人と寄合酒等たべ候儀仕間鋪事

　但、博奕等は組合きりニ可致吟味、幷若者共遊宿等も其組〳〵ニて厳敷吟味いたし、不慎之者無之様可仕事

右之趣第一　御上之御制度を相守、次ニは御百姓内輪成立之為ニ候間、屹と相慎可申候、尤当所之儀、江州米原迄九里半之海道筋殊ニ市場湊場ニ候得は、商売ニ相掛り居候者は家業出精、御百姓而已之者は農業第一可相励候、村中一統心得違不仕候様組合限りニ致吟味、屹と簡略可仕候、以上

巳四月

二二九　小倉村外五ヶ村御泊尻抱規定

○養老公園　村上辨二氏所蔵

御泊尻抱規定之事

一御検見之節、御休泊御壱人ニ付銀拾八匁ヅツ
　但　御昼御壱人前銀七匁五分ツヽ
　　此割内　弐分通　村割
　　八分通　毛附反別割
　附り、荒地定取幷年々不作地不足之分除之
一荒地定取御改之節、御休泊尻抱上下御四人分壱泊り銀百弐拾匁之極メ
　　但　三分通　村割
　　七分通　荒地段免割
一御廻米御改之節、御休泊尻抱前同断
　　但　弐分通　村割
　　八分通　川下米辻割
一臨時御休泊之儀も、尻抱右同断
　　但　弐分通　村割
　　八分通　草高割
一御休泊之節、他郡ゟ送迎人足賃壱里壱人ニ付銀五分之極メ
一御休泊之節、下宿入用尻抱之義は銀六拾匁之極メ
　右之通今般ヶ条相立改メ約定いたし候上は、已来決て違約不可致、万一先規之通御支配替ニ相成候節ハ、組合之義ハ、是又先年之通取極メ置熟談仕候間、相互ニ六ツ問敷いたし合、実意を以万端取斗方可致候、依之一同連印、為後年取替証文差出仍而如件

安政二卯年二月

多蘂郡八ヶ村
惣代小倉村庄屋　三郎右衛門　印
金屋村庄屋　重左衛門　印
飯積村庄屋　佐兵衛　印
同郡四ヶ村組合惣代
有尾村庄屋　武右衛門　印
同郡大跡村庄屋　八十八　印
同郡根古地新田庄屋　利左衛門　印

右之趣、拙者共立入規定之通相違無御座候間、奥印致置候、已上

桑名郡金廻村庄屋
会所詰　小重郎　印
　　今右衛門　印

二三〇　薬法触

○押越　渋谷保之氏所蔵

（表紙）
「従御役所御触有之候薬法」

（七）時疫流行候節此薬を用いて其煩をのかるへし

一時疫には、大粒なる黒大豆を能いりて壱合、甘草壱匁、水にせんし出し、時々呑てよし　右医涯に出ル

一時疫には、茗荷の根と葉をつきくだき、汁を取り、多く呑て好、　右、酎後備急方ニ出ル

一時疫には、牛房をつきくたき汁をしぼり、茶碗ニ半分ツヽ二度飲て、其上桑の葉を一握程火にて能あぶり、黄色ニなりたる時、茶碗ニ水四盃入、二盃ニせんして、一度飲て汗をかきてよし、若、桑の葉なくハ枝にてもよし、　右、孫真人食忌ニ出ル

一時疫にて、ねつ殊之外強、きちがいの如くさわきてくるしむには、芭蕉の根をつきくだき、汁をしほりて飲てよし、右、肘後備急方ニ出ル一切の食物の毒にあたり、又、いろ〳〵の草木・きのみ・魚・鳥・獣なと喰煩に用いて、其死をのかるへし

一一切の食物の毒にあたりくるしむには、いりたる塩をなめ、又は、ぬるき湯にかき立飲てよし、　但、草木の葉を喰て、毒にあたりたるには、いよ〳〵よし、右、農政全書ニ出ル

一一切の食物の毒にあたりて、むねくるしく、腹張痛には、苦参を水にて能せんし、飲食を吐出してよし、　右、同断

一一切食物にあたりくるしむに、大麦の粉をこうばしくいりてさゆにて度々飲てよし　右、本草綱目ニ出ル

一一切の食物ニあてられて、口鼻より血出て、もだえくるしむには、ねぎをきさみて壱合水にて能せんし、ひやしおきて幾度も飲へし、血出やむまて用てよし、右、衛生易簡ニ出ル

一一切の食物の毒にあたり煩に、大粒成黒大豆を水にてせんし、幾度も用いてよし、魚にあたりたるには、いよ〳〵よし

一一切の食物の毒にあたり煩うに、赤小豆の黒焼を粉にして、はまぐりかいに一ツ程ツヽ水にて用ゆへし、右、千金方ニ出ル

一菌を喰、あてられたるに、忍冬の茎葉共生にてかみ、汁を呑てよし、　右、夷堅志ニ出ル

右之薬法、凶年之節、辺土之者雑食の毒にあたり、又凶年之後必疫病流行事有、其為に簡便法撰むへき旨、依被　仰付、諸書之内より致吟味出也

享保十八辛丑年十二月　　望月三英
　　丹羽正伯

右は、享保十八辛丑年飢饉の後、時疫致流行候処、町奉行所ゟ板行被　仰付、御料所村々ゟ被下候写

当時、諸国村々疫病致流行、又は軽き者共雑食之毒に中り相煩ひ、致難儀候趣相聞候処、享保十八丑年村々ゟ被下置候御薬法書付、年久敷事故村々ニて致迷失候儀も可有之候ニ付、此度為御救、右之写村々へ触知らせ候様被仰渡候間別紙御書付写之趣、村中不洩様可令承知候、此廻状早々順達、留り村より可相

返事

五月廿日　　大垣　御預役所

右天明四甲辰年五月廿日御役所より御触来ル

二三一　炮術稽古約定書

○高田　日比野泰氏所蔵

炮術稽古ニ付約定之覚

一鉄炮代之儀は、郡中より手当之外、残金之分村方より出金可致事

一装束代幷稽古中入用之品々為手当、金弐拾弐両ツヽ出勤之方々ゑ相渡可申事

一稽古初詰六十日之間、出勤料一日ニ付銀拾匁ツヽト取極候事

一後稽古出勤料之儀は、銀五匁ツヽニ取極候事

附、病気又は無拠儀有之休役いたし候ハヽ、鉄炮装束共跡代り之者へ相渡可申、尤装束之儀成丈相用ひ、自然と損候ハヽ引替相渡可申事

但し、出勤中成丈質素倹約相守可申は勿論ニ候得共、万一銀五匁ニて不足いたし、実々迷惑之節は、増銀相談可致事

一贋は拾人之内六人迄、羅紗装束着用いたし候ハヽ、当村之儀も取捨可申事

一戦場幷御固等被　仰付候節は、出勤料之儀組合村々之振合ニ准シ可申事

右箇条之趣一同熟談ニ相成候ニ付、後日取障為無之、連印いたし置候処、仍如件

（慶応三年）卯四月

柏淵祐治郎　印
伊藤岩三郎　印
中村源十郎　印
澁谷彦太夫　印
西腰喜右衛門　印
杉江増治郎　印
土屋篤四郎　印
柏淵彦右衛門　印
日比七兵衛　印
中村久治郎　印
澁谷市治郎　印
日比野平太夫　印
千秋庄六郎　印
同　助次郎　印
土屋茂太夫　印
同　權太夫　印
柏淵友治　印
同　東左衛門　印

川瀬彦助印

右炮術稽古人篤四郎・源十郎・權太夫・秋治郎〆四人ニ付、約定書二通文言同様ニ付□通□四月四日調印丈喜助へ渡

二三三一　尾張大納言御逝去ニ付鳴物停止触書

〇下笠　児玉章氏所蔵

御触状之写

別紙書付三通差越之候書面之通承知有之、寺家末寺当地一統之宗門中、其外支配之輩へも、如例不洩様早々可被相触候、已上

四月朔日　　芦澤藤藏

宛

大納言様御所労御養生不被為叶、去月廿六日暁丑中刻　御逝去被遊候

一右之御儀ニ付、普請・鳴物停止、諸事物静ニ可仕候

一此節之御儀ニ候間、火之元別て入念候様可致候

四　月

心得書付

鳴物停止中、開帳・法談等事立候儀ハ差止、仏事・法事・朝暮勤行等ニ付鳴器相用候儀ハ不苦候、并ニ恒例神事之儀も事静ニ式斗相勤候ハ是又不苦候、尤境内ニ猥提火燈し参詣受候儀、且商人等差置候儀堅不相成候事、已上

先月廿六日夕、以　上使田安中納言様御事

御家御相続被　仰出、大納言様御遺領無相違被進旨被　仰出候

一中納言様、右同日御定式之　御忌服被為　請候

右之通如例可被相触候

四　月

大納言様御所労御養生不被為叶、去月廿六日暁丑中刻　御逝去被遊候、右之御儀ニ付御領分在々急度相慎、普請・鳴物停止、諸事物静ニ仕、別て火之元等入念申付、宿中并町並有之所ハ、夜番・廻り番等差置、昼夜無油断繁く相廻り急度可申付事

一諸色あきない物、しとみより内ニて売買可仕事

但シ下しとみ斗おろしてすを取可申候、売物外ハ棚へ一切出置申間敷事

附　下しとみ之代りニ障子を横ニ致し差置候ても不苦候

一諸商人売物押出、在々うりあるき候儀、当時之内は遠慮可仕事

一諸職人之儀、鳴音高き細工之分仕間敷事

一油屋からうす并ニ米麦つき候事不苦候、勿論うた抔うたひ申間敷事

一新規之作事ハ不及申、古家之造作も此砌り仕間敷事

一海・山・川殺生今日より七日之間堅仕間敷事
一諸事物静ニ仕、子供ニ至迄演舞・鳴物・高声仕間敷事
右之通可相心得候、物静日限之儀は重て可触知事

亥四月朔日

一村々おいて神事祭礼等此節之義ニ候間、差扣可申旨
右之趣村々へ一統ニ可被相触候

亥四月朔日

右之通相触候様、寺社奉行衆・御勘定奉行衆被申聞候間、早々寺社之輩へ申通、村中不洩様相触之、慎方等之儀御触之趣急度相守心得違無之様、精々村内示合可取斗候、此触書承知之上、少も無滞昼夜共村下ニ刻付を以先村へ相廻し、留村より可返候、已上

亥四月二日　　市瀬東七郎

未上刻　　別紙村々庄屋

二三三　文字金銀通用ニ付有尾村請判帳

○安八郡輪之内町　片野記念館所蔵

（表紙）「文字金銀通用之儀ニ付御触書承知仕候段村中御請連判帳　濃州多藝郡有尾村」

此度金銀吹改候ニ付、諸色之直段文字金銀ニて可相立処、右文字金銀其節は吹出来不申候ニ付、諸色代物二三ヶ月之内割合を以取替可仕由申渡候、此節は段々金銀吹出来世上へ出候ニ付、割合遣之儀可相止処、急ニ行当り候ものも可有之候間、先申渡候、来年ニ至り候ハヽ、割合遣可相止候間、其心得ニて此節より随分古金銀・文字金銀可引替事
一在方ニては、今以古金銀専ニ相用候由不埒ニ付、前条之通随分引替、文字金銀専ニ可相用事
一銀之儀、遠国ニては、猶以古金銀を用ひ、文字銀通用不致候由、依之銀引替別て少ク不埒之至ニ候、来年は割合遣ひ相止候儀も可申渡候ニ付、其節ハ可行当候、尤只今迄之通銀引替高少ク候ハヽ、来年より銀百貫目ニ付増歩銀五拾貫目相渡候内を減候様可申渡候間、此節より随分出引替可申事
一年貢合力給金借金賈懸り地代店賃質物田地質等弥以無割合古金銀文字銀同様ニ取替り可仕事
右之条々国々所々ニて此旨を可存候、右之趣可被相触候、御料御代官私領ハ地頭より相触候様可被相達候

辰十一月

右之通、文字金銀通用之儀ニ付、御書付出候ニ付、村々被仰渡として此度各様御越被成、庄屋・年寄・大小百姓不残御呼出、右御書付御読聞せ、猶又古金銀之分早速引替文字金銀専通用可

仕旨、委細被仰渡、一々承知仕奉畏候、右為御請村中連判仕差上申候、以上

辰十一月

濃州多藝郡有尾村庄や　彌兵衛
年寄　金十郎
百姓　彦内

（以下連名二段組トス）
新八　左右衛門
紋次郎　傳三郎
久右衛門　兵次郎
彦四郎　忠五郎
庄助　八太夫
林藏　丈右衛門
半十郎　新三郎
林左衛門　藤藏
忠藏　文右衛門
次兵衛　金助
左平　傳次郎
甚平　儀右衛門
儀平　友助
加平　留平
久七　藤七
早助

○

二三四　村方往古之諸帳面諸書物惣目録

○押越　渋谷保之氏所蔵

（表紙）
「
安永九年
村方往古之諸帳面諸書物惣目録
押越村
子九月
表紙共紙数十三枚
」

い印入往古より諸書物惣目録

一天正十七丑年御検地帳　壱冊
一徳永法印様御改之節
一慶長十四酉年御検地帳写　七冊
一同十五戌年和田河内守様御印付免定　壱冊
平岡因幡守様
鈴木左馬介様
但半切紙ニ御記被下置候
一御免定御本紙不残有之
寛永五辰年より享保二十卯年迄
元禄元年御免定壱通不見、享保十一・十二・十五・十七・十九・二十ゟ六通不見、元文より末出シ置申候
和介方ニ有之　壱冊
一御免定写
延宝七年より元禄三午年迄
但シ、岡田将監様御代官之節十三年之内、幷小笠原土佐守様御領地迄五十一年之内
寛永十九年小笠原主膳正様より被下置候
一御公儀様御役人衆より被仰渡書之写　弐冊
右惣百姓御請書之下、但シ八人より壱通共ニ三通壱ゟ

寛永十九午年主膳正様より被下置候
一従御公儀様被仰出御条目之写　壱通幷
右惣百姓連判之御請書下壱通　共二通
寛永年中飢饉ニ付　澁谷金左衛門殿
一高須御役人　根岸甚右衛門殿米穀御借シ渡御書付　壱通
朝倉求馬殿　御三人御印付
右同年中御公義様被仰出之御条目
一同御役人伴與惣兵衛殿　常葉六郎左衛門殿
福井新左衛門殿　被下置候写　壱通
寛永年中　常葉氏より
一高須御役人伴氏より兵左衛門方へ被仰渡書　壱通
福井氏より　右三人御印付
寛永二十未年同廿一申年ノ分
一宗門帳　弐冊
正保三戌年
一小笠原土佐守様社領御寄進御証文本紙　壱通
外右之写壱通あり
同断々々
一小笠原様之節御検地帳　六冊
御役人御印付
慶安四卯年
一小笠原様之節田畑荒地改帳　壱冊
御役人御印付
同二丑年
一同御領之節宗門帳下　壱冊
承応二年
一堤外御検地帳　壱冊
小笠原様御役人御印付
元禄十四年ニ成ル
一村絵図　壱枚
右石原清左衛門様宝永年中御支配ニ成ル節上ノ下
寛文十三丑年
一御検地帳面　六冊
小笠原様御役人御印付
延宝三寅年
一宗門帳下　弐冊

同七未年より元禄三午年迄
一御免定写　壱冊
御本紙箱入
一川除御戴許絵図　壱枚
慶安二丑年
一喰違新堤敷地土取無地書付　上ノ下　壱通
寛永七午年
一白石村松林切取候ニ付、木村清太夫殿御状壱通、
御請書三通　共四通
同八未年
一岡田左京様願書　上ノ下　弐冊
御高免ニ被仰付候ニ付願上候、右三通
壱〆ニ致シ置候
一岡田地改帳　井水永不引、御印付　壱通
壱帳ニ致シアリ
明暦二申年
一除堤江堀引地帳　壱冊
貞享四卯年
一田畑地改帳　壱冊
寛文十三丑年
一御検地縄違改帳　壱冊
高須御役人御印付
寛永五子年ニ相見ル
一喰違切下絵図　壱枚
辻六郎左衛門様之節
一笠松御役人中嶋氏・堀部氏・早藤氏御状　壱通
正徳五未年
一高田町境論絵図・諸書物　壱袋
右目録別ニあり
享保三戌年
一白石村と山論御裁許書御本紙　壱冊
岡田様野山高分差出帳写　壱通
右二通共辻六郎左衛門様御印付
附、嶋田村より右写之預り証文壱通、当村より嶋田へ遣申
候御本紙預り証文下書壱通、何れも壱袋ニ入
享保六丑年牧田川通取払ニ付
大塚村誤証文本紙　壱袋ニ入
一五日市村誤証文本紙

川幅傍示杭絵図幷右之節願書下書類色々入
一延享元子年　押越村絵図　神尾若狭守様荒地御吟味之節上ノ下　弐　枚
一古郷送り手形　宇平治　河原半七　同　吉右衛門　孫右衛門　壱くゝり　四　通
一堤外畑方御年貢取立帳
　延宝元丑年より享保二十卯年迄六十三年分入
右之外ニ堤外起返人足帳、宝永七寅年
　人足扶持方帳
　石砂入目論見帳　其外御年貢帳類とも六冊也　寛文六年
　堤外永不帳　二冊　高須御役人御印付　同十一年
　同免割米積帳　二冊
　寛永十九飯木・押越御年貢勘定帳入
一石畑村と境論御裁許絵図箱入
一白石村と山論立会絵図袋入
一鳩田村・大塚村境杭絵図写袋入
一嶋田村新江堀証文　壱　通
一惣堤長書付　壱　通
一高須御領分之節古引地帳　七　冊　壱くゝり
一寛延四未年　堤外荒地評論諸書物　壱　袋
　外ニ寛文十戌年、延宝六午年新発シ帳共ニ三冊入
元文二巳より安永三午年迄三十八年分
一御免定　三十八通

一古キ願書類　壱くゝり
一石畑鳥井戸押越為取替証文幷道巾帳面共横道
　境杭　壱　袋
一古キ状反古　壱くゝり
右之分不残い印ニ入

　ろ印之箱
一免割諸帳面　宝永元申より同七年寅迄
　外ニ宝永五年水損引地帳御印付、幷数年之目録類、同三年
　小検見引地帳、宝永六丑年より卯辰迄ノ砂入人足帳、同
　子年水損川欠帳
　正徳五年ノ分帳二冊有之
　享保七年ノ分不足
　宝永五・六・七小検見帳共入

　は印之箱　は印箱之分ほ印之箱ニ入
一免割諸帳面　元禄元辰より同十六未年迄
　外ニ貞享元より同四年迄
　寛延二年巳九月明細帳壱冊
　延享元年田畑屋敷質入小作人入上帳上ノ下壱冊
　同年高反別帳上ノ下壱冊
　同年高反別帳壱冊、幷村差出帳壱冊ノ四冊
　延享三年村差出帳壱冊

元文二年荒所高幷反別書上帳上ノ下壱冊
貞享元子より同四卯年迄あり
に印之箱
一免割諸帳面　拾五冊
寛文五年畑方検地帳　壱冊　正保二酉年より同四亥迄アリ　五冊・七冊・絵図袋入
宝永十二年五人組帳　壱冊　慶安元子より同四卯迄アリ　袋入
同十六年取替帳　壱冊　承応元辰より同三午迄アリ　壱冊
永賦帳　壱冊　明暦元未より同二申迄アリ、三ノ酉年不見候　四冊
万治元戊アリ、同二三不見候　四冊
寛文五ノ巳より同六午迄アリ、七未年不見候　五冊
同八申より同十二子迄アリ　五冊
延宝元丑より同八申迄アリ　五冊
天和元酉より同三亥迄アリ　五冊
ほ印　番外
へ印之箱
元文元辰より延享二丑迄　拾年分
一免割諸帳面　弐冊
延享三寅より宝暦六子迄　拾一年分
一免割諸帳面　弐冊
宝暦七丑より明和八卯迄　拾五年分
一免割諸帳面　弐冊
一前々荒所帳幷起返帳　弐拾弐冊

宝暦六子
一同荒所改帳　五冊
川崎様之節
一荒所改帳　七冊・絵図袋入
一午年荒所帳　袋入
元禄十三卯より寛延三午迄
一山手帳　壱冊
一前々籠割帳　四冊
享保七同十三
一合毛帳　弐冊
元文三四
一同　四冊
延享二
一同　五冊
宝暦十一巳
一同　五冊
宝暦十二年
一合毛帳　弐冊
一古小名寄　兵左衛門　六左衛門　七左衛門　壱冊　弐冊
同断々々
一荒所　小前帳・高反別帳・超返帳　七冊　壱袋
石畑鳥居戸
一押越為取替証文幷道巾帳面共　横道境杭
午年右い印入
延享元子より明和亥迄　廿四年分
一免割諸目録
宝永七年
一寅年名田分帳　壱冊
安永元辰より天明元丑迄　拾ヶ年分
一免割帳
〆　六箱

右は往古より諸帳面諸書物い印よりへ印迄、左之名前立会相調置申候、以上

安永九子年九月

中島　十左衛門
樋口　官治
樋口　新七
澁谷　安左衛門

二三五　柏尾村幷新田旧記諸帳面目録

〇石畑　山幡清重氏所蔵

柏尾村幷新田共旧記諸帳面目録

文化六巳年 一御免状	壱通	明暦弐年 一御検地帳	御書判付	新田　壱冊
同　年 一御小見取	壱通	延宝元年 一畑方名寄帳	御印形付	本田　壱冊
同　年 一新田御別納	壱通	同　年 一同断	組割御印形有之	新田　壱冊
文化五辰より午迄三年賦 一御定免幷本田定、新田	壱通	一村絵図		壱枚
右 願書下	本田 新田 弐通 四月中ニ願可差上事	寛文五巳年 一御新田開方改出帳	御印形付	壱冊
御請下	本田 新田 一所壱通	承応二年巳 一柏尾村畑改出帳	御印形付	壱冊
慶安元年 一御検地帳	御印形付 本田　壱冊	元文五年 一村水帳		壱冊
		一慶安元年者 明暦弐年者	本田御検地帳写合帳 新田	壱冊
		明和七年四月 一新御高札		壱枚
		一普大寺		印鑑壱枚
		一目明合印		壱枚
		一御郡所		御印鑑壱枚
		一御郡所	博奕盗賊	御印鑑壱枚
		一寺社同心		御印鑑壱枚
		一全昌寺		合印壱枚
		一南宮		印鑑壱枚
		寛延元年 一名畑帳		壱冊
		天明元年 一永引御堤敷地御改帳下		本田　弐冊 新田
		寛文四年 一御見取御検地帳	御印形付	壱冊

宝永三年
一新開畑御役帳　御印形付　壱冊
宝暦九年
一新開畑御役帳下　御印形付　壱冊
宝永七年　御検地
一新開畑名寄帳　無印　壱冊
文化五辰巳午
一宗門帳　御印形付　三冊
辰・巳・午
一増減　小帳　御印形付　三冊
辰
一奉公人帳　御印形付　壱冊
辰・巳
一両年差引帳　引得無印　三冊
天明四辰年二月
一鉄炮御差紙　但角筒　壱通
右願下
御請下
右鉄炮御引替ニ成ル　壱通
寛政十二申九月
一鉄炮御差紙　壱通
右願下
御請下
右鉄炮御引替ニ成ル　壱通
享和二戌年四月拝借
一鉄炮御差紙　壱通
紙札　但御判付　壱枚
御請下　壱通
天明五巳八月
一鉄炮証文　本村分　壱通
右御差紙無之ニ付、先役跡ヘ相尋候処、
相知れ不申候

右鉄炮弐挺共村方ニ有之
卯辰巳
一引入帳　但巳年分は、御役所へ上ケ置　三冊
卯辰巳
一年中諸入用帳　但巳年分は、御役所へ上ケ置　三冊
文化五辰
一五人組御改帳扣　小前印形付　壱冊
文化七年午
一御種貸帳扣　壱冊
同　年
一立毛請御改帳扣　壱冊
同
一御裏印証文之儀ニ付御請下
右立毛請帳ニ添有之　壱枚
文化六巳年
一明細帳下　壱冊
寛政四年子年
一人別御改帳　下　小前印形付　壱冊
文化六年巳
一御免割証文　下　壱冊
享和三年
一多藝郡柏尾村庄郷之訳申上候　下　壱冊
文化六巳年
一定不農引割帳　本田新田　壱冊
文化六巳年
一中御勘定　御目録　下　弐冊
清御勘定
文化六巳年
一御日折米御押切帳　壱冊
辰・巳・年
一郷剪竹寄帳　御印形付　三枚
右御預り　下　壱枚
郷剪竹寄帳写　壱枚
文化六巳年
一新開米代集帳　壱冊

同年　一松御運上割帳　壱冊
文化七庚午年九月　一高捌帳　本田新田合帳　壱冊
文化五辰より巳午迄　一諸引地御改　御印形付　本田新田　六冊
天明六年　一当作引御改帳　御印形付　壱冊
右御証拠帳ニ成ル
享和三年亥　一新田当作引　御証拠帳　御印形付　本田新田　壱冊
午年　一諸引地願下　弐通
年々七月中ニ願可申事
享和三年　一別納御証拠物　御印形付　壱枚
午年　一高御差出下　壱通
同年　一御小見取御差出下　但御新田別納分共　壱通
同年　一諸引地高〆　下　壱通
同年　一同断　世話役え遣下　壱通
同年　一請高下　世話役へ向可遣　壱通
一本田新田定不農引〆高　世話役え遣下　壱通
天明元年丑　一御講金元帳　壱冊
文化七巳年　一御講金割帳　壱冊
文化五年　一松野分願書下　壱通

同年　一多藝山方え差上候願書下　壱通
同年　一松野分御請下　壱通
同年　一松野分御差紙　壱通
文化五年　一山高六石之場所御差紙　壱通
右願下
御請下
文化七年二月　一御裏印証文　壱通
右願書下
明和七寅年　一柏尾新田名田帳　壱冊
宝暦八寅年　一神社帳　無印　壱冊
文化七午年　一春夏夫役集帳　弐冊
享和三亥年　一諸引地場別納米　被仰付候割帳　壱冊
文化六巳年　一年中諸入用帳扣　組寄加留帳ハ村方ニ有之　壱冊
文化五辰年　一松御運上場幷検外之訳書　壱枚
同年　一松野分反畝歩帳　壱冊
同年　一松代金御作法書　御触写　壱通
寛政五丑年　一柏尾新田猪垣　墨引絵図下　壱枚
願書下　壱通
一右御救御差紙　弐通
右ニ付差上候横折下

寛政五丑年
一麦作御見分願上節出来下帳　壱冊
右願書下　壱通
高差出下　壱通
文化元子年
一不農御見分帳　手引　壱冊
右願書下　壱通
御差出下　壱通
同年
一右御引地帳　御印形付　壱冊
一金納願下　壱通
御普請願下　壱通
右御注進書下　壱通
享和元酉
一谷除御普請所　墨引絵図　本田壱枚　新田弐枚
文化七年九月迄
一質入証文写帳　壱冊
但質流売渡証文も午年分有之認有之
寛延元年
一柏尾村名留帳　壱冊
寛政十一未
一御小見取所之訳申上候　書付下　壱冊
文化二丑年
一御小見取所之訳申上候　書付下　弐通
同年
一別納所之訳申上候　書付下　壱通
文化七庚午年
一吉田様御写□主ぇ上ケ候　書付下　壱通
文化七庚午年
一柏尾新田高弐石九升弐合之場所　壱通
別納分と質願書下
文化七庚午年九月廿九日
一柏尾村名主役御差紙　被仰付候　壱通

文化七庚午年八月
一鉄炮証文下　壱通
右は、此度当村名主御役願之通已之助ぇ被仰付、依之旧記諸帳面村方立会相改、不残請取申候、以上
柏尾村御百姓代
同村同断　丈助㊞
同村同断　庄内㊞
同村同断　善十郎㊞
同村同断　新左衛門㊞
五人組頭　助左衛門㊞
同村同断　久右衛門㊞
同村名主　巳之助㊞
文化七庚午年
十月十七日
柏尾村附名主
石畑村名主
清右衛門殿

二三六　中村御用覚帳

〇中　高木享一氏所蔵

（表紙）
「　寛政八年丙辰年
御用覚帳
三月十一日　」
御家中年始
一正月三日
四日　年始御目見

一正月廿一日　御勘定初寄
二月十一日寄日　同十六日寄日
同廿壱日寄日　同廿五日より日詰
三月五日通合　柳大蔵ゟ名主出ル
同六日清御勘定　同七日夕大割尤御勘定宿ニて
同八日組割尤当番村宿ニて
一三月中ニ定免年明之節御願事
一五月十三日迄春夫金
金見ゟ包切手御役所ゟ上ル、皆金之処銀壱割遣シニても
よろしく、ふう代銀百目ニ弐分ツヽ
一五月中より四日斗過ニ植付注進之事
一宗門帳認前ニ増寺・減寺致吟味、夫より法名替、印形替、住
持替尋申遣事、若去年ニ替有之候ハヽ、早速世話役ゟ可届事
以廻文致啓上候、向暑之砌御座候処、弥御揃御勇健ニ可被
成御座奉賀申候、然ハ宗門御改帳相認申度存候処、寺院住
持替り幷法名印形替り、又は無住ニ付寺役代判等無之哉、
御寺号下ニ法名御書記、尚又御印形御調可被成候、右得御
意度如此御座候、以上
五　月
應　順　寺
蓮　光　寺
徳　願　寺
通　玄　寺
念　長　寺
林　覺　寺
西　勝　寺
正　覺　寺
以　上
一六月帳面認数
宗門帳・引入帳・小入用帳・種貸帳・免割証文ノ
一六月暑気伺之事
乍恐暑中御機嫌御伺奉申上候、以上
一七月十一日迄　夏夫金
尤春夫金と同断
一七月中ニ年明年賦中之有無御見取、御役所ゟ申上ル事
一七月中ニ年明年賦中之有無御見取、御役所ゟ申上ル事
「（貼紙）丑方
尚〳〵去年之振合ニ御承知可被下候
当宗門御判之義、来ル八月九日辰之刻大垣於本町本陣、
御改被　遊候段被仰渡候間、右刻限無御遅滞御出勤被成
可被下候、御承知之御印形御調可被成候、右御案内申上
度、早々、以上
中村名主
八月朔日　治　三　郎
應　順　寺様　通　玄　寺様
西　念　寺様　西　法　寺様

蓮澤寺様　長願寺様
蓮光寺様　林覺寺様
〆　」

一八月寺判日限定次第、村寺幷他領寺ゑ通達之事
尚〳〵、去極之振合ニ御承知被成度候
当宗門清判之義、来ル八月何日辰之刻、傳馬町於御坊所ニ、御改被遊候段被　仰渡候間、刻限無御遅滞御出勤可被成候、且御支度去年之通りニ御座候、尤御承知之御印形御調可被成候、右為御案内如此御座候、以上

八　月　豐　村

應順寺　連澤寺
通玄寺　東光寺
蓮光寺　受誓寺
林覺寺
〆

（朱書）
「卯　増」

長願寺　蓮澤寺
西念寺　西法寺

此通り他所壱ヶ寺ニ壱本ツヽ遣シ不申候ハては遅り申候、尚又他所毎ニ村寺書込事、左も無御座候ハてハ間違多御座候
一八月郷剪竹歩帳御改之事
御預り申郷剪竹之事
合七束也　但シ上竹
外ニ壱束　節笹
〆
右之通中村ゑ御預り申候処実正也、然ル上は、御用次第差上可申候、為後日仍如件

年　月　日　五人組頭
名　主

御奉行衆様

一八月十五日迄ニ世話役より糖・わら・餅・大豆割賦請高被差出候ニ付、八月十日頃迄ニ請高書〆世話役へ遣ス事
一九日　立毛請御改之節、鉄炮証文差出事
立毛請御改之節、鉄炮証文差出事
差上申手形之事
木札壱枚　玉用弐匁
一壱挺　上通弐尺壱寸　中村
当村は、山方ニて猪・鹿多出、田畑作毛荒シ迷惑仕候ニ付、玉込不申候鉄炮ニて、おとし申度奉存候、此度御願申上候、寛政四壬子年八月より来丑八月迄、月切奉拝借候、猪・鹿防ニ事寄、鉄炮ニ玉込悪事仕出シ申歟、又は殺生抔仕候ハヽ、本人之儀不及申上、名主・五人組頭迄、急度曲事可被　仰付候、此鉄炮之義、他人は不及申上、縦令親子兄弟ニて御座候共、他郷ゑ貸申儀曽て仕間敷候、尤右鉄炮

之外所持仕間敷候、為後日名主・五人与頭手形差上申候、
仍如件
寛政四壬子年八月　　五人与頭
　　名　主
御郡御奉行衆様

一当作之節御横目衆ゑ〆高書上ル事
何年中村諸御引地〆高書之覚
高合・――――――　中村
内
高・――――　田方
高・――――　畑方
〆
右之通ニ御座候、以上
年　号　月　　五人与頭
　　名　主
御横目衆様

一当作済次第高差出上ル事
何年中村高御差出之事
一高辻四百弐拾九石弐升五合
内
高弐石弐斗八升四合　　年々諸引地
高・――――　　何年当作引

残高・――――――
内
高九斗九升　　御苗場下
高弐拾五斗七升八合　　又兵衛分
高九拾壱石六斗六升六合　　入方分
高・――――　　本田分
〆
右之通ニ御座候、以上
年号月　　五人与頭
　　名　主
御郡御奉行衆様ゑ壱通
御代官御役所ゑ壱通
早稲附之覚
一三町三畝歩　　中村
右之通御座候、以上
年号月　　五人与頭
　　名　主
御代官
御役所

一当作済次第世話役ゑ当作〆高書
請高書遣事
何年中村請高之覚
一高何百何拾何石何斗
右之通ニ御座候、以上
年号月　　中村
　　名　主

何村御名主
誰　殿

尤右請高は、惣高之内、年々諸引地・当作引地・不農引地・苗場入方分・又兵衛分引残り高之事

何年当作〆高之覚

高合・――――――――　中村

内

高・――　田方

高・――　畑方

〆

右之通ニ御座候、以上

年号月　名主

何村御名主
誰　殿

一不農〆高世話役え遣事

何年不農〆高之覚

高・――――　中村

内

高・――――　畑方

高・――――　田方

〆

右之通ニ御座候、以上

年号月　名主

何村御名主
誰　殿

〇舫金返納十一月廿日限

一九月御旦納

中　札

丙辰年九月何日改多藝中村米主名主　誰誰

右改日御旦納前日之事

御年貢米之事

一九拾壱俵　早稲方中印例年定

□誠情いたし大印上納

大印納切ニ段下ヶ御願申上候て、中印ニて上納例格

一御居米入札御直段ニ壱分五厘高ニて、金見え包切手御役所え上ル事、金見ふう代なし

一御免状頂戴之節、古御免状世話役え渡ス事

一御免状頂戴之節、御段木人足代銀金見え包事、尤切手上ル、当其年御触ニ有

人足代之覚

多藝筋八百七拾八人之内

一弐拾壱人　当り定

代銀三拾匁八分　壱人ニ壱匁四分ッヽ

右徳田触

多藝筋百四十壱人此賃百三拾九匁六分弐厘之内

一三匁四分八厘　　当り定
一弐拾壱匁九分五厘　縄代　当り
尤年ニより替ル事有
三口〆
加テ金見ふう代
一十二月廿四五日時分ニ歳暮上ル事
尤御支配様・御見取様・御郡様
一歳暮之節、松運上金・新開米代金・金見包切手其年御触ニ有之、尤新開米直段・諸継直段之事、継米直段御代官様より御触有之候
一銀拾五匁　　松運上金
一米壱石壱斗三升弐合　新開米
〆
右ニ金見ふう代有
一歳暮之節、糖・わら・なわ代五兵衛払事
申より子迄又兵衛分

二三七　小倉村番人定

〇小倉　栗田博氏所蔵

差出シ定之事

一番人義万事不埒之儀有之候ニ付、立会中より為異見御呵被成候処、村方ニて腰押候者有之候ニ付、至て心得違仕、無調法申上候故、村方御隙ニ相決候ニ付、段々組合番人共御詫申上候処、腰押嘉七殿義存之外不埒之儀被申出、彼是入組、依之急村方立退キ候様被　仰付候得共、組会(合)番人共殊之外相歎キ無拠私共立入御断申候処、帰参相叶候ニ付、以来定之事左之通
一嘉七殿方向後他所同様ニ仕、扶持給米等も一切貰セ申間鋪事
一五節句或は祝儀・愁歎等立入セ間敷候
併、急難之節被相頼候得は、役目所ゑ相届ケ可参候事
一御講・祭礼其外他所之番人為相廻候共遣シ間鋪候事
一買物或は不依何事一切立入セ申間鋪事
一村方無油断相廻り、大切ニ相守セ可申事
右之条々急度相守セ、若心得違仕候ハヽ、御村方之思召次第ニ私共取斗、少々も御断ケ間鋪儀申間鋪候、為其仍而如件

寛政十二申年六月　　小倉村取(頭)人　和　藏㊞
　　若宮村右同断　喜　三　郎㊞

小倉村
御庄屋衆中

二三八　巡見役人休息注進書

〇養老公園　村上辨二氏所蔵

乍恐以書付奉申上候

一去ル天明八申六月下旬、当国御巡見御役人様

遠山久四郎様

大河内彦四郎様

朝比奈左近様

右御三方様当山御一見之砌、拙寺不動尊ゑ御先格之通御参詣、則本堂ニて御休足遊被下置候、御茶菓子奉献上候、御先格御座候間、此段御届奉申上候、以上

天保八戌四月

多藝郡白石村

同村庄屋　養老寺　幸右衛門

笠松御役所

御改御出役様

二三九　越中鎌商人行方不知ニ付注進書

○養老公園　村上辨二氏所蔵

乍恐以書付御届奉申上候

多藝郡白石村百姓喜十郎儀、薬湯御運上相納、養老山之内字湯之山ニて薬湯渡世罷在候処、去月廿六日昼九ツ頃、越前国府中鎌商人ニて、兼て近郷村々ゑ差送り置候鎌代仕切金為請取参り候由申之、不見知もの四人連ニて旅荷所持罷越、養老瀧ニ被打候趣申之、右荷物差置一同立出、尚亦引取休足為致呉候様申聞、夫より食事等いたし、代銭相払、中仙道關ヶ原宿ゑ参り候由相咄シ暫相休居候処、夕七ツ時頃当村番非人山内為見廻立越、怪敷見請候由ニて様子承合候ニ付、右次第申聞候折柄、又候山内菊水天神ゑ参詣いたし候由ニて俄ニ一同出立、時刻程過キ候得共立帰り不申候間、夫々手分仕相尋候処、何分行衛相知れ不申、其段村役人ゑも相届、尚又相尋候得共手掛り無之、村方一同相糺候得共、見知るもの無之、然ル処別紙書付之通荷物捨置候ニ付、此段乍恐書付を以御届奉申上候、已上

弘化三午六月

年寄　磯八

湯元　喜十郎

笠松御役所

二四〇　飯之木村家作門取調書上帳

○橋爪　大久保守正氏所蔵

（表紙）「

天保拾四年

今般被　仰出候家作門之儀取調書上帳

多藝郡　飯木村

卯七月

覚

一居屋之内座敷ニ張押様之類有之候

久　藏

但し、さん・かまち・ざつとぬり障子ニ御座候
一長家続キ締りニ門同様開戸附壱ヶ所
　梁行壱丈三尺
　但シ桁六間
　入口八尺　　開戸弐枚ニて　　伍兵衛
〆
一屋鋪之内長家続キ締りニ門同様開戸附壱ヶ所
　梁行九尺
　但シ桁行七門
　入口壱丈　　開戸弐枚ニて　　七郎次
一屋鋪締りニ門同様開戸附壱ヶ所
　梁行九尺
　但　桁行九尺
　入口八尺　　七兵衛
〆
一屋鋪締りニ門同様開戸附壱ヶ所
　梁行九尺
　但　桁行弐間
　入口七尺　　小兵衛
〆
一屋鋪締りニ引戸附壱ヶ所
　梁行四尺
　但シ桁行壱丈壱尺
　入口八尺　　引戸壱枚ニて　　東作
〆
一屋鋪締りニ引戸附壱ヶ所
　梁行三尺
　但シ桁行七尺五寸
　入口六尺　　引戸二枚ニて　　四郎兵衛
一屋鋪締りニ門同様開戸附壱ヶ所
　梁行六尺
　但　桁行壱丈三尺
　入口六尺五寸　　開戸二枚ニて
右之通取調指上申候間、宜しく御願奉申上候、以上
　七月四日　　飯之木庄屋　久　藏
　　金屋村庄屋　十左衛門様

二四一　他所出米差留請書

○烏江　吹原第三氏所蔵

乍恐御請奉申上候御事

栗笠村引請　岩道村
飯田村
烏江村引請　蛇持村
船付村大野村引請　江月村
下笠村
横曾根村引請　大牧新田
船付村大野村引請大牧村　大吉新田

今般御領分より他所へ出米御差留相成候ニ付、私共ニ村々締方被　仰付奉畏候、銘々引請文村々役前之者共へ請判仕、背筋等無之様　精密ニ吟味仕、若怪敷儀等有之節ハ、早速御達可奉申上候、依之御請奉申上候、以上

丑十月

栗笠村庄屋　佐藤道三郎
烏江村　文三郎
舟付村　吹原勘兵衛
安田七郎兵衛

大野村（根脱）横曾村　澁谷代右衛門
大牧村庄屋　安田三四郎
與左衛門

市瀬東七郎様
御陣屋

二四二　組預り者逃亡ニ付詫証文

○高田　日比野泰氏所蔵

御詫申上一札之事

一今般善兵衛義、不容易心得違之義仕候ニ付、御役所へ御召連可相成、就ては夫迄之処組内へ預り置候様被　仰付候ニ付、無油断番仕居候所、昼夜之番ニて一同相疲、不思居眠候間を考、退去仕候ニ付、早速一同手分仕相尋申候得共、行衛難相分候ニ付、此段御達申上候所、御叱之上篤と相尋可申旨被仰渡候ニ付、組内一同親類は不及申、人頼仕如何様相尋候得共、行衛相分不申候ニ付、私共不調法之段如何様御咎被　仰付候共奉恐入候、左候ては渡世方必至難儀仕候ニ付、甚助・兵八を以御詫申上候所、御聞済被成下難有仕合ニ奉存候、依之御詫書差上申候、已上

安政六年
己未二月

組頭　惣七㊞
喜助㊞

藤　蔵㊞
勘　助㊞

御支配御役人衆中

前書之通御詫書差上申候ニ付、私共奥印仕候、已上

年行事
善　蔵㊞
庄　蔵㊞
新四郎㊞

前書之通、私共御詫申上候所御聞済被成下候ニ付、奥印仕候、已上

甚　助㊞
兵八㊞

二四三　橋爪村後家手錠差延願

○橋爪　大久保守正氏所蔵

乍恐以書付奉願上候

橋爪村林之丞後家儀、今般被為　召出候処、大病相煩罷在ゝ歩行難仕候ニ付、御断奉申上候処、　御出張之上御手錠禁足被為仰付、恐入奉畏候、然ル処病気相煩候様奉申上候処、病躰相糺候様被為　仰渡、奉畏相糺候処、懐胎仕居、殊ニ臨月、其上此節持病差起り打伏罷在候間、奉蒙　御手錠候ては、如何躰之儀出来極難渋仕候儀も難斗奉存候間、奉恐入候御儀ニ御座候得共、何卒御慈悲之御憐愍を以、出産仕候迄御手錠御赦免被成下置候様、私共より御歎奉申上呉候旨、本人達て相頼候、依之恐多御願ニ御座候得共、御手錠御差延シ御聞済被成下置候様、只管御歎奉申上候、乍恐願之通被為　仰付被下置候ハヽ、難有奉存候、以上

天保六乙未年閏七月

橋爪村五人組頭
同村同断
同村名主
勘四郎
惣太郎
次郎太夫

御代官
御役所

二四四　喜多村手錠者村預請書

○勢至　野村辰夫氏所蔵

乍恐御請書之覚

喜多村百姓
三彌

右之者吟味之儀有之ニ付、手錠村預申付候、此旨可被申渡候、以上

右之通被仰渡候間、此旨御申渡可有之候、以上

右之通被為　仰付奉畏相慎罷在候、依之乍恐御請書奉差上

候、以上

天保十一庚子年十一月

喜多村御百姓
三　彌
同村御百姓代
藤　次㊞
同村五人組頭
林　右衛門㊞
同村附名主
茂左衛門㊞

御代官
御役所

乍恐御請奉申上候

喜多村百姓
三　彌

右之者儀、所々ニて小盗致候趣相聞え、令吟味之処、ふと悪心差発、同村喜三郎・宇助・藤治方ニて品々小盗いたし候之段、不埒至極ニ付、申付方も有之候得共、此度は格別之以　御宥免、手錠之儘禁足申付之候、以来心得違無之様可被申渡候、已上

右之通被　仰渡恐入奉畏屹相慎可罷在候、此段乍恐御請書仕奉差上候、以上

喜多村
三　彌
同村御百姓代
藤　治
同村五人組頭
林右衛門

天保十一庚子年十二月

養老町史　史料編

同村附名主
茂左衛門

御代官
御役所

二四五　白石村次平詮議願

○養老公園　村上辨二氏所蔵

乍恐以書付奉願上候

多藝郡白石村次平儀、難渋と申立テ御上様ゑも無恐、去子十二月掛ヶ込御訴訟奉申上候処、掛ヶ込之儀は容易不成御儀ニ付、直様村役人ゑ御引渡シ被　仰付引取罷在候処、又候掛込御訴訟奉申上候ニ付、村役人共御召出被遊、少々相弁差遣シ候ては如何之訳被仰付、承知奉畏候、然ル処甚奉恐入候得共、右次平儀は、是迄頼母子講一両度も取立テ候得共、是以相勤不申、勿論何事ニよらず村方相手取り、心盡而已申立テ、依村方始メ村役人迚も難渋仕候間、何卒御慈悲を以右次平御召出被遊、以来改心仕候様被仰付度被下置候様、幾重ニも奉願上候、右願之通御聞済被成下置候ハヽ、一同難有仕合ニ奉存候、以上

庄屋
幸右衛門
年寄
八　磯
百姓代
武　十　郎

嘉永六丑三月

笠松
御役所

○村役人

二四六　有尾村庄屋退役願幷悴庄屋見習役取立願

○[illegible]藤氏所蔵

乍恐以書付奉願上候

多藝郡有尾村庄屋武右衛門儀、追々及老年、殊ニ近年多病ニ相成、御用向難相勤、必至難渋仕り候間、乍恐今般格別之御慈悲を以、退役被仰付被下置候様奉願上候、右願通御用済被成下置候はゝ、難有仕合ニ奉存候、然ル上は、恐多御願ニは御座候得共、何卒御慈悲之御沙汰を以、武右衛門悴武三郎ゑ当村庄屋見習役被仰付被下置度奉願上候、乍恐是又御聞済被成下置候はゝ、村中小前一同無此上難有仕合ニ奉存候、庄屋本役之儀は、早速村方にて実躰成る者早速取極、急速御願申上度候間、今暫御猶予奉願上候、依之乍恐小前一同連印を以奉願上候、以上

多藝郡有尾村
年寄　秀右衛門

庄屋退役願　武右衛門

右百姓　藤太郎

元治元年子八月

（以下連名三段組トス）

林太郎　孫太郎　廣治

藤助　利右衛門　新右衛門

半十郎　重吉　明楽寺

傳治　十太郎　豊治

宅治　庄兵衛　多兵衛

彌作　彌市　吉平

宇吉　幸吉　利平

久右衛門後家
すゑ　豊三郎　常蔵

吉右衛門　宗右衛門　重助

喜左衛門
與右衛門後家
しやう

笠松御役所

二四七　直江村庄屋役不正訴状返答書

○直江区有

乍恐以返答書奉申上候

一直江村庄屋役之義、百年来三人として勤来り候処、一両人之業として年番ニ御願奉申上候由、年番ニ罷成候てより村入用弐増倍余も相掛り申候様、御願奉申上候御事

此義年番庄屋之義、最初御願奉申上候旨趣は、三組ニ相分

り、御役相勤り候内ハ、何事によらす庄屋三人之内互譲合、御用等怠り混雑のミニして、村方不〆りニ付、勘略之筋相定御願奉申上候趣ニ御座候、誰発起と申候事も無御座、互ニ百姓相談之上御願奉申上候御事を、順治・左々右衛門斗之仕業抔申義ハ無御座候、其証拠ハ年番ヶ条目録書連印を以為取替申候御事

一左々右衛門奉申上候年番庄屋ニ御願申候義、順治・左々右衛門両人之発起仕、方便を以色々相工ミ候抔と奉申上候事不審ニ奉存候、其節市右衛門・丈右衛門・左々右衛門三人庄屋御役相勤罷在候、其刻高持百姓共相談之上ヶ条目録書を以、向後は三人廻番ニいたし、年番ニ相勤呉様ニ申候ニ付、任其意相勤申候御事を、左々右衛門之発起仕抔申義無御座候御事

一庄屋共奉申上候年番ニ相成り村入用弐増倍余も相掛り候様ニ奉申上候得共、格別余慶相拘り候共不奉存候、猶又弐増倍抔と申義ハ無御座候、則近年年番内外之高掛り書付、別紙奉差上候御事

一年番前ハ年々暮之村入用其品具ニ大割帳ニ書のセ置候得共、年番ニ相成、大半くゝり(奉)ニして書のセ、其品小分相尋候へハ、叱付申候様ニ□申上候御事

此義、毎暮夫銭大割之節は、諸入用大小之百姓立会、大割帳ゑ付立申候時、小前悉ク吟味之上書のセ申候、然共数多之品故、立会之百姓之相談として小前吟味之上、誰小前と申事相記、付立申候品も御座候へ共、全庄屋之我儘ニくゝり〆、其上小分見セ不申、叱付候抔申義曽て無御座候、其証拠ハ大割帳ニ庄屋之手跡ハ無御座、不残百姓之手跡ニて御座候御事

一年番前ハ年々暮之名寄勘定書、銘々百姓ゑ相渡候得共、年番ニ相成候てより名寄勘定書相渡し不申、安堵不仕候様奉申上候御事

此義、先年より百姓銘々ゑ名寄勘定書出し候義無御座候、然共相望候者ゑハ遣し候事も御座候、百姓付立勘定仕候割帳故、帳面不残差出置勘定仕、銘々安堵罷帰り申候御事

一年内何事ニよらす年番六ヶ年之内ハ、当番・非番之無差別、当番元ゑ相揃剰庄屋・年寄之外加役として筆者役、算者役として大勢之雇人を罷出、定使と共ニ聊之小用ニも不断相揃、一月ニ両度何拾人も下用を不厭相掛ヶ候様御願奉申上候御事

此義、御用帳面之節は、庄屋・年寄罷出、先年より立会来り候、能帳面之訳存知候百姓立会ニて、随分御太切ニ間違無之様ニ仕候、全ク雇人抔と申ハ曽て無之候事ニ御座候、常々之小用ニも大勢罷出、雑用を不厭抔と申義ハ無御座候御事

一年番ニ相成り毎月之月〆一切無御座候故、銘々催促仕候得は、漸去春一両度寄合相催し申候て、其後催促仕候ても一切

月〳〵不仕、押詰り候て大半くゝりニして雇入抔罷出、庄屋より申ニ任セ散乱ニ付込安堵不仕候様ニ奉申上候御事

此義、毎月月〳〵仕候様ニ年番ヶ条ニも御座候通、折節月〳〵之義触出候得共、百姓一向寄合不申、或ハ寄合候ても人少ニて付立も難成、又は御用ニ支怠り候事も御座候得共、全百姓より催促仕候ても月〳〵不仕候抔と申義無御座候、猶又押詰り雇人抔罷出散乱ニ付込候様ニ奉申上候へ共、百姓立会之内ゑ、誰を雇ひ入候哉不審ニ奉存候御事

一年番前ハ年中御用違ひ紙何程も入不申、纔ニ壱束余りならてハ入不申候得共、年番ニ相成り候てハ、勘略と申義故、先年之格としてハ相減し候筈を、九貫文余之内筆墨代六百文引出、八貫四百文余り之紙代壱帖五拾文ニしてハ拾七束余も御座候様奉申上候御事

此義、年番前三組之時ハ、組々切之入用紙御座候ニ付、大割帳ゑのせ候紙ハ、少キ候事も御座候得共、壱束余り抔と申義ハ無御座候、年番ニ相成り候てハ、組々之小入用も皆大割帳ニ入申候ニ付、少ハ余慶掛り候義も御座候得共、年々一様成義ハ無御座候、然共拾七束抔と申候紙三ケ一も入不申候、又壱帳五拾文抔と申紙ハ□□無御座候、此義、丈右衛門以下之願之者分テ源右衛門抔ハ能存なから不審之申条御座候御事、則高田表や通之面百姓立会、小前吟味仕大割帳ゑ書のせ候、九貫廿文之訳書奉差上候、

一宗門入用銭之義、先年ハ壱人ニ付銭四五文ならてハ相掛り不申候得共、年番六ケ年之内ハ人別壱人ニ付、銭拾七八文ツゝ毎年平均ニ相掛り申候由、年番前引合候てハ、年番ニ相成候てハ三増倍も増長仕候様奉申上候御事

此義、先年ハ御改之当日斗之入用人別ニ割申候ニ付、銭四五文ニて済候事も御座候得共、何時之頃より歟、丈右衛門も御役相勤居候内より、丈右衛門抔頭取仕相談御座候て、筆墨紙書代其外御請改下役入用共不残人別割ニ仕候ニ付、年々平均ニハ無御座候へ共、中々先年よりハ違ひ、弐三増倍も相掛り申候、此義乍存不審之申条御座候、則宗門入用割ニ入候品別紙ニ書付候也

一去ル寅年御城米御江戸納入用之割元與右衛門方ニて相勤申候所、右当り他村よりハ違ひ、直江村ニ限り余慶割懸候様奉申上候御事

左々右衛門奉申上候寅年御城米御江戸納入用金九両三分ト九匁八分六リ、内六両三分ト七匁五分左々右衛門より寅十月より十二月迄割出取集メ、残金ハ翌年利兵衛割出候由、右納入用之割他村より余慶割掛ケ候段奉申上候、此義、不得其意候義ニ御座候、六両三分・七匁五分と申納入用割出候義、曽て無御座候、於当村九両三分ヨ抔と申納入用入不申候、何を以六両三分・七匁五分割出候と奉申上候哉不審ニ御座候、尤寅十月・十二月割出候は、納入用金弐匁三分

ト銀拾匁五分、其外御上納金之内幷御廻米運賃・駄賃〆上候て両度割出申候、右之節村方不残無故障差出、其後御免割帳小入用帳ニも故障無之候故、惣連印之以帳面、御役所様ぇ奉差上置候て、今更一応之対談も不仕、他村とハ相違仕候抔と御訴訟奉申上候義、一円難得其意、所存不審御座候、他村より余慶割掛候なと申訳乍恐被為遂御吟味被下置候様奉願上候、尤両度之割出し集帳面ハ御吟味被　仰候節可奉差上候

一利兵衛奉申上候、去ル寅年納入用之義、他村より余慶割掛り候様ニ奉申上候得共、左々右衛門余慶割懸候覚無御座候則其節集帳面三拾六文八分之訳書別紙奉差上候間、左々右衛門方割出し納入用と都合□、他村より余慶ニ御座候哉、乍恐御吟味被下置候様奉願上候

一去ル巳之七月水難ニ付御歎□候へハ、御慈悲之ヲ夫食拝借被仰付被下置候へ共、小百姓斗へ割渡し、大半相渡し不申、残金庄屋之助成ニ仕候様ニ奉申上候御事

此義、極難之節御慈悲之御拝借被仰付被下置候ニ付、早速難有頂戴為仕候、然ル処、其節ハ数ケ所之切所、水除留入用等大分急払御座候得ハ、村方取替金等極難之節故一銭も無御座、別て丈右衛門抔ハ、御高三四千石程も所持仕候ても年内壱銭之取替も不仕、集物等さへも怠り候者共故、急払ニ難義仕候節故、百姓相談仕、納得之上ニて割荷仕候、当り小百姓斗へ相渡し、高持身分相応之者之頂戴之分ハ、右取替と候て水除留入用払方より遣ひ申候ニ付、一銭も庄屋方ニ相残り候義無御座候、然共、暮ニ至り混乱ニ罷成ニ付、諸色ハ割帳へ書のセ、夫食拝借当り之分ハ、銘々ぇ別相渡申候、然を差引目録さへ見セ不申、庄屋之助成ニいたし候抔と偽之難題申様ニ候、此訳ハ願方之高持百姓へ御聞被下置候へハ、相知れ申候、則借付之訳書別紙奉差上候

一同巳之十一月迄ニ又候、百姓方御赦（救）として夫食御拝借被　仰付被下置候内、先達て　御役所様より御取替被下置候分引残り、御借渡被下置候を、今以其沙汰不仕、百姓聊も不奉存候様奉申上候御事

此義、本村之義ハ、別て諸道具さえ流失仕、極難渋ニ付、本村之者共願として別ニ借呉候様ニ申候ニ付、別て極難故百姓相談仕、納得之上右御拝借金ハ本村之者共ぇ別借ニ仕候、丈右衛門以下之者共も立会候て能乍存不審之申条ニ存候、則別紙訳書ニ御座候、

一同巳年水難之後、翌年午之春御慈悲を以種質拝借被　仰付被下置候所、百姓共へ隠置風ニ相聞、其暮断申、少々之利足を以大割帳へ持出候様ニ奉申上候御事

此義、先年より種質御拝借之義ハ、御高ニ付借仕来ニ候処、拝借被　仰付被下置候ニ付、早速百姓共へ申聞難有頂戴仕候、然ル処、百姓共申候は、極難之後故此節ニ現金払

御割合候ても中々一銭も無御座候間、現金払遣ひ呉候様ニ申候ニ付、無拠払方ニ仕候、然共、其暮ニ至り混乱ニ罷成候ニ付、種質御拝借金ハ弐割之利足を以持出シニ仕、払方之義ハ不残同利息を以大割帳ゑ書のセ申候、皆百姓へ戻し候事を、種質之義隠置風ニ相聞、吟味之上庄屋より断申持出候抔と、丈右衛門以下連判之者共立会ニて能乍存不審之申条ニ存候御事

一毎年被下置候五わほ米之義、年番ニ相成り候てより爾今頂戴仕候事無御座候故、奉申上候御事

此義ハ、米ニて被下置候節ハ、□□(津出)米斗を割申候ニ付、五わほ米之義ハ、百姓銘々之御年貢之内ニ残り申候、永渡シ被下置候分ハ百姓方へ相渡し申候て相済居申候、則訳書ニ奉差上候御事

一直江村之義ハ、段(従)先規集物ハ定使へ相渡次第自分之名前ニ点かけ候事定たる候事を、去午之春集物有之、乙八と申者集帳名前ニ点かけ候を百姓之私ニ□□候と申、以之外と大ニいかり、三日閉門申付、家内を追出様ニ厳敷咎メ申付候段、役威ニ募り小百姓を軽し候由奉申上候御事

此義、集帳ニ点かけ候事定たる之由相違無御座候、然ルを帳面ニ点ニてハ無御座候て、以之外成らく□□いたし、外々ゑ難出之帳面ニ相成候ニ付、呼寄吟味仕候へハ、其上雑言申候ニ付、此段一家之者共并五人組へ申候て、右之者共以来之為ニ、二三日も遠慮為致候御事を、閉門申付私ニ咎申付候抔と奉申上候、ケ様之御事を捨置候ハヽ、いか様之御事をか仕出候はんも難斗奉存候、此故、乙八并五人組之者共被　召寄御聞被下置候へハ、相知れ申候、格別私ハ役威募り厳敷申付共、乍恐不奉存候御事御座候

右返答書を以奉申上候通、相違無御座候、不審奉申上候段、追々口上書を以乍恐御願奉申上度候、以上

一四八　石畑村名主役御免願

○高田　稲葉時男氏所蔵

乍恐以口書奉願上候

私義病身ニ罷成、御用・村用難相勤迷惑仕候、依之名主役御赦免被成下置候様奉願上候、尤散田分之儀は、私壱人持ニ御座候付、自分支配ニ仕度奉存候、乍恐右奉願上候通、村方名主役御赦免被成下置候ハヽ、難有可奉存候、以上

石畑村名主　與三右衛門㊞

宝暦十三癸未年
四月二日

宇佐美二右衛門殿

一四九　京ケ脇村庄屋役取立願

○養老公園　村上辨二氏所蔵

乍恐書付を以奉願上候

一多藝郡白石村枝郷京ヶ脇庄屋役之儀、是迄庄屋幸右衛門へ預ヶ置罷在候処、当年より村方ニ庄屋相立申度候ニ付、双方共相談仕候処、年寄元右衛門ニ庄屋相頼申度奉存候、尤年寄役之儀ハ、百姓宇平次ニ相頼申度奉存候、何卒以御慈悲、右両人之者ニ被為　仰付被　下置候様奉願上候、右願之通御聞済被成下置候ハヽ、一同難有仕合奉存候、依之小前連判奉差上候、以上

天保四年巳三月

常右衛門㊞
八　三　郎㊞
忠　　助㊞

（以下連名三段組トス）

小市㊞　多　平㊞　才　八㊞
次　助㊞　甚　藏㊞　宅　次㊞
彌右衛門㊞　榮次郎㊞　彌十郎㊞
多四郎㊞　榮　藏㊞　龜之助㊞
喜藤次㊞　繁　八㊞　半右衛門㊞
清五郎㊞　兵　吉㊞　仙　藏㊞
清　藏㊞　治兵衛㊞　佐　吉㊞

百姓代
年寄　留右衛門㊞
庄屋　宇平次㊞
　　元右衛門㊞

笠松御役所

二二五〇　口ヶ嶋村庄屋罷免願

○口ヶ島　田中耕馬氏所蔵

乍恐口上書

一近年村方一統必至及難渋ニ候始末、左ニ奉申上候、乍恐厚御賢察被成下、惣御百姓安堵ニ相続仕候様、御慈悲を以御裁許之程偏ニ奉願上候

一去ル酉年困窮ニ付、村方御百姓ゑ扶喰米と申立、御家之御声懸りを以津留之節、出米相済米麦凡八拾石程御当地ニて買上ケ、村方ゑ引取、右米麦共村方へハ売不渡、他領ゑ高直ニ売払候事

一津留之節、村方残米香取と名付、他領ゑ売払、舛切在之候と申立、小前之者ともより弁金為出、人足賃ニて引次、賃銭不相渡難渋為致候事

一弐拾ヶ年此方ニ、御百姓凡三拾軒余り相潰候事

一先矩を崩シ、兄弟三人申合セ心儘ニ取斗ひ候ニ付、村方一統気分悪敷相成候事

一村方出生之者を取潰シ、他国者を引寄セ住居為致候儀、乍恐御上之御為筋ニ相成候儀無御座候、右之者渡世筋ハ、木桝・

青物売り・(博労)馬黒抔いたし、其日過之者共ニて、御百姓相続可仕所存之者ニてハ決て無御座候事

一小前之者共ニ、追々と名目を附過料銭を取上ケ、其節々寄合ヲ立酒肴を給へ、右入用小前之者より取立候事

一去ル丑年　御地頭様より調達金被　仰付、高割ニて上納仕、右一件ニ付一統疑念之事

一当春小前之者より金三拾両御拝借奉願上候処、今以御貸渡シ無之、右ニ付一統之者共疑念在之候事

一小百姓之者共ゑ米・金銭を貸付、高利かけ厳敷取立候事

一寺領御百姓ニ私シ之意趣在之候迚、　御家之御百姓迄誘ひ、村方一統気分悪敷相成候様取斗ひ仕候事

一去ル年より御用赦米拾石被下置候処、小前之者ゑは一切割渡し不申候事

一此節退去仕候者在之、相潰レ候事

一証文金ニ差詰り、拾六人之者共家諸道具共役前ゑ指出候事

右之通諸事不実意之取斗ひ仕候者共ニ、役目為相勤候ては、年々難渋相重り、村方及亡所ニ候儀ハ目前之事と乍恐奉存候間、何卒前件之始末疾ト御賢察被成下、安堵ニ御百姓相続仕候様奉願上候、且又今般村方一統願出候願書相添ゑ差上奉御覧入候、小前之者両三人被召出、子細御尋被成下候様仕度、此段只管奉願上候、已上

弘化二年
巳十二月

ロケ嶋村百姓惣代
新　蔵　印

柳原御役所

二五一　中村名主名代役赦免願

〇中　高木享一氏所蔵

乍恐以書付奉願上候

私儀年来　御威光を以名主御役相勤難有仕合ニ奉存候、然ル処病身ニ相成迷惑仕候ニ付、去ル酉年悴他左衛門ゑ名代役奉願上候処、願之通被為　仰付被下置難有奉存候処、右他左衛門儀、其後病心ニ相成、御用向相勤不申候ニ付、附役両村宇田本村・豊村幷居村共、同役は勿論五人組頭役も無御座候間、村々ニて増役之儀段々爾談仕候得共、早行熟談相整不申、前顕奉申上候悴他左衛門儀、彌増病心ニ相成必至御用向相勤不申、私儀は次第ニ老衰仕、殊ニ此頃折節持病差起り候ニ付、若哉御用支之儀も出来可仕哉と、昼夜甚以心配仕候、依之兄他左衛門儀名代御赦免被成下置、重々奉恐入御願ニ御座候得共、何卒　御慈悲之御憐愍ヲ以、二男雄平ゑ名代役被為　仰付被下置候様、只管奉願上候、乍恐右願之通被為　仰付被下置候ハヽ、重々難有仕合ニ奉存候、以上

嘉永元戊申年十二月
中村名主
清　三　郎㊞

御代官
御役所

二五二　直江村年寄役当番差扣一札

○直　江　区　有

差出申一札之事

今般別紙組締御取極被下候ニ付、庄屋代年寄役共廻り順ニ相勤候様熟談相整候処、私儀所持高拾石以下ニ御座候ニ付、当番之儀は差扣可申候、尤所持高拾石以上ニ相成候節は、当番相勤候様御取極被下承伏仕候、依之為後年一札差出申処如件

弘化四年未九月　　直江村中組立会

押越村御庄屋　信　助　七殿

直江村本郷組御庄屋　休　三　郎殿

同村西組御庄屋代　又　兵　衛殿

同断非番御庄屋代　源右衛門殿

二五三　石畑村名主役申付書

○高田　稲葉時男氏所蔵

別紙之通ニ候間、得其意連印之請書早々差出可被申候、已上

嘉永五年
十二月七日　　御代官　印

石畑村名主中

石畑村名主役之儀、入札を以相願之聞届彦六・鶴蔵・清右衛門忰勇之進・加番名主文右衛門ゟ申付候間、五人組頭・高百姓立会諸帳面受取之御用村用入念可相勤候、此旨御申渡可有之候、以上

（嘉永五年カ）
十二月七日　　郡奉行　印

金　森　九左衛門殿

猶以本文之通申付候ニ付、文平・三郎次附役差許之候、此旨も御申渡可有之候、以上

二五四　龍泉寺村名主役申付書

○高田　稲葉時男氏所蔵

龍泉寺村名主唯右衛門致病死候ニ付、右村附名主役石畑村名主彦六ゟ申付候間、五人組頭・高百姓立会諸帳面請取之、御用村用入念可相勤候、此旨双方ゟ御申渡可有之候、以上

十二月三日　　郡奉行　印

渡　部　嘉右衛門殿

二五五　多藝山廻り役増役願

○高田　稲葉時男氏所蔵

乍恐以書付奉内願候

多藝山御松木、追々御剪払被　仰出締方等被仰付奉畏候、然処方今之時勢人気も不宜時節ニ相成、剪払之跡御松木生立方御手広之場所枘ニて深心配仕候間、何卒　御賢考を以、今壱両人増役被　仰付被下置候様奉内願候、右願之通御聞済被下置候ハヽ難有奉存候、以上

慶応二丙寅年九月　十一ト直

多藝山廻り役下一色村　丹羽源兵衛
鷲之巣村　田中義平治

多藝山方御掛
郷御目付衆様

別紙添

乙坂村　佐藤六太夫
石畑村　彦六
津屋村　石川七次郎

此添書付ニ

右九月廿二日桂屋ニて、義平治より安江村へ託調印ニて下一色へ行
書面十一月廿二日丹羽より借写
十二月廿日下リ羽根古川喜久藏加へ、又源兵衛と七次郎より上ル

二五六　釜段村殺生御留場所番退役願

○釜段　安部義重氏所蔵

乍恐以口上書奉願上候

釜段村御殺生御留御場所、幷徳田村東津屋川通り御留御場所、右御番之儀前年より私ゝ被為　仰付被下置、屹相勤罷有候、然処私儀近年老衰仕迷惑至極ニ奉存候、恐多御願ニ奉存候得共、御留御番之儀悴梅之助ゝ被為　仰付被下置候様ニ奉願上候、尤悴義幼少ニ御座候得ハ、私弟久米右衛門後見仕、只今迄之通御留御場所御番急度相勤可申上候間、乍恐右奉願上候通被為　仰付被下置候ハヽ、難有奉存候、以上

天明元辛丑年七月

釜段村　治五右衛門
同村名主　清　八
同村五人組頭　嘉　七

御殺生方
御代官
御役所

○村入用

二五七　下笠村村入用諸帳

○東京都　国立史料館所蔵

（表紙）
「元禄拾三年
万年中小帳
辰ノ正月日」

正月三日
金子壱分　銭かへ八百八拾六文
未進取立より相
一六拾文　味噌壱升　江下　又助
同三日　同断より相
一拾文　はまくり　船付物
同三日　同断
一拾八文　たうふ三丁　けん松
同四日　同断
一拾八文　たうふ三丁　西岩道　小七
同四日　同断
一拾八文　大こん十本　伊右衛門
同四日　同断
一弐拾四文　かつを壱ふし　小七
正月廿三日
一弐拾文　こほう壱わ　孫四郎
同
一弐拾六文　みそう五合　伊右衛門
同
一拾弐文　たうふ弐丁　小七
同廿三日
一五拾七文　郷目付衆縁状大谷迄持参仕候　本所　勘助
正月廿三日　高田市　夫庄助
一弐百四拾八文　割木八束
一三拾弐文　たちん
一百文　みそう
正月廿三日
一四拾八文　ちや壱斤
同廿四日
一弐拾四文　米つき日用、ます数三斗三升五右（ふりふじ）
〆七百三拾壱文
二月四日
一百文　たはこ壱斤　西岩道　小七
二月七日
一六拾文　名古屋より大火事之時、今尾ニて弐拾目ろうそく弐丁夜通シ参候　分右衛門
一弐百文　名古屋大火事ニ□□付夜通参日用　権助
一百文　是ハ徳田堤はそん之相段大場村へより相宿入用

一八拾文　米つき日用米五斗　（長吉　與三郎）
〆五百四拾四文
金子壱分　此銭かへ八百九十文
下池上郷衆より相、伊右衛門所ニて
二月廿六日　高田夫　與三郎
一四拾八文　みそう
一同四拾八文　ちや　壱斤
一同百弐拾五文　たばこ　壱斤　十弐匁
一同六拾五文　小割木　六束
一同弐拾五文　干大こん　十本　了　知
一同拾三文　こま　壱合　同　人
一二月廿六日拾五文　ちしや　伊　三　郎
一同拾五文　こほ半たば　岩　助
一同三拾文　たうふ五丁　けんまつ
一同六文　たうふ壱丁　小　七
〆四百弐文

五ヶ村下池見分ニ被参候より相之時、竹庵所ニて宿入用
二月廿七日
一六拾五文　なます四本　彌　市
一同百文　ふな十五枚　同　人

一同弐百六拾三文　酒　三升　與左衛門
一同四拾文　くわし　同　人
一同弐拾八文　きさみ四匁　同　人
一同弐拾文　干太こん十本　同　人
一四拾八文　小坪宿ニてちや代
〆五百七拾弐文
二月廿八日　高田夫　與三郎
一弐百六拾文　割木十弐束　小　七
一同三拾五文　たちん　同　人
一同百三拾弐文　たばこ百七拾弐匁
〆四百三拾壱文
金子壱分　此銭かへ九百文
三月二日　大工橋板かけ之分
一拾弐文　たうふ弐丁
一同六日ゆふ之上たて切板上之時五拾文　たうふ八丁
一同八日拾六文　たうふかれ　同　人
一同九日六文　たうふ壱丁　同　人
一同六文　たうふ壱丁　けん松
一同十一日弐拾八文　かつお壱ふし　伊右衛門
一同拾弐文　たうふ弐丁　けん松
一同三拾文　みそう五合　惣　助

十三日
一三拾文　かれ弐枚　伊右衛門取かへ大かき物
同一拾弐文　干大こん五本　了　知
同一六文　しるのみ　けん松
〆弐百拾四文
三月十七日
宗門御改之時
金子弐分　金壱(ママ)ニ付此銭かへ九百文
一百拾文　たはこ壱斤　小七
内百文渡シ、此残り十文相渡(う脱)そり十足
同一四拾文　同人
同一三拾五文　かれ三枚　同人
同一弐拾五文　いわし　同人
同一四拾文　かうしみそう五合　了　知
同一拾五文　ちしや　本所　伊三郎
同一弐拾弐文　干太こん壱わ　與左衛門
同一弐拾八文　きさミ四匁　同人
十三日
一四拾五文　(午房)こ坊弐わ　市左衛門
同一弐拾四文　たうふ四丁　本所　けん松
同一拾五文　ちしや　伊三郎
同十七日　高田夫　忠兵衛

一弐拾文　酒弐升　此忠兵衛日用
同一百五拾四文　美濃紙壱帖　高田勘六
同一四拾五文　半し壱帖　同同人
同一弐拾四文　干大こん壱わ　同同人
同一弐拾文　なら付三きれ　同同人
同一四拾五文　味噌　同同人
同一百文　ちや壱斗　同源七
同一四拾八文　坪ちや壱升　同同人
同一四拾五文　小豆壱升　同同人
同一六拾文　白はし十せん
十七日一拾壱文　ひのはし壱わ
一拾三文　しい竹
一三拾五文　かんひやう
一三拾六文　こほりこにやく共
一弐拾弐文　かつを弐ツ
一四拾三文　たまり弐升
一百弐拾四文　やうらう(弁当)へん戸持　彌作
一弐拾文
〆壱貫三百文
三月十八日宗門改之時

一四拾五文　こほ弐わ　市左衛門
一同百五拾七文　小麦四升　了　知
一同弐拾文　小麦引ちん　吉ふじ　兵衛
一同八拾文　米つき日用ちん　彌ふり　作郎
内彌作分済、ふり分残十三日米渡不残済
一同弐拾文　山ノいも五ツ　久　六
三月十八日拾文　ふき壱わ　了　知
一同弐拾文　こま弐合　彌　作
一同三拾文　かつを壱ふし　伊右衛門
一同五文　ちしや　けん　松
一同弐拾文　山ノいも五ツ　（和カ利田）長四郎
〆四百拾九文
三月十八日高田買物　夫　彌作
宗門御改之時、戸田新平様御越
金子壱分、此銭八百九拾文かへ
一弐拾文　高田買物夫日用　彌　作
三月十八日
一弐百弐拾文　割木壱駄
一同拾文　うと弐わ
一同百六拾文　酒弐升
一同三拾六文　なら付三ッ

一同五文　こせう壱匁
三月十八日拾九文　干大こん壱わ
一同五拾文　山ノいも八つ
一同百三拾文　たはこ壱斤十五匁
一同三拾文　きさミ五匁
一同百文　赤味噌
一同百文　かうしみそ
一同五文　とうしみ壱わ
一同拾弐文　ひしやく弐本
一同弐拾六文　半し壱帖
一同四拾五文　高田行割木たちん馬ニ廿五文　伊右衛門分
馬方ニ廿文　左吉
〆九百五拾八文
同宗門改之時
十九日一八拾文　あし六束　伊右衛門
一同弐拾五文　山ノいも五つ　了　知
一同四拾五文　こほ弐わ　市左衛門
一同弐拾文　たうふ弐丁　高田夫　彌　作
一同六文　ちしや　本所　伊　三　郎
一同六文　ちしや　けん　松
一同四拾五文　こほ弐わ　市左衛門

同一　三拾文
同一　弐拾五文
同一　六文
同一　七文
同一　拾壱文
〆三百拾八文

三月廿七日

一　六文
同一　六拾文
三月一　六文
同廿九日一　百拾文
同一　拾文
〆百九拾弐文

四月二日

一　拾弐文
是八三月廿二日之落一　拾文
四月十八日一　弐百四拾文
同一　百文
同一　四拾八文

たまり五合　伊右衛門
山ノいも五ツ　同　人
らうそく壱丁　了　知
はまくり　伊右衛門取かへ　船付物
忠兵衛銭不足

たうふ壱丁　けん（かまへ）松
みそう壱升　源　六
たうふ壱丁　小　七
たばこ壱斤　同　人（船付）
いわし　三　助

（い脱カ）かれ壱枚　小　七
みそう弐合　伊右衛門
割木十束　夫忠兵衛高田源　七
味噌　同　人
かうしみそう　同　人

同一　六拾文
同一　四拾五文
同一　八拾文
〆六百七文

酒壱升　同　人
なら付三ツ　同　人
米付日用　（彌）助
伊右衛門にわ米納　（け）ん　松

四月廿一日麦検見　郷目付衆御越之時

同一　九拾文
同一　七拾文
四月廿一日一　百四拾八文
同一　四拾八文
同一　拾文　惣え内ニテ百文渡シ
同一　拾文
同一　四拾文
同一　三拾文
同一　九拾文
〆五百五拾四文

さけ壱升弐合　與左衛門
竹の子九本　彌　平次
こじみそう壱升五合　彌三右衛門
けんきん　新　十郎
竹之子六本　新　十郎
ちし　次　平
ちしや　同　人
大竹之子五本　新　十郎
小竹之子五本　了　知
酒壱升　伊兵衛

金子壱分此銭八百九拾文かへ
四月廿三日麦検見覺右衛門様御越之時　高田夫　與三郎
紙壱帖
たまり壱升

同一　四拾六文
同一　六拾文

同一四拾五文　かんひやう
四月廿三日一十五文　ひのはし　壱わ
同（丁銭）一丁五拾文　坪ちや　壱升
同一丁五拾文　大ちや　壱升
同一三拾文　きさみ　五匁
同一百弐文　たばこ　壱斤
同一六拾文　さけ　壱升
同一弐百文　かうしみそう　弐升
同一三拾文　ならつけ　弐ッ
同一九拾文　さけ壱升弐合　與左衛門
同一三文　わらび　次　平
同一拾文　ちしや　次郎八
同一四拾三文　大竹之子　五本　新十郎

高田迄御代官覺右衛門様出相
役人参候時　高田ニてひるへん（弁当）戸
四月廿三日一八拾五文　ひるへん戸
同一十弐文　わらし三束
同一六文　きさミ壱匁

同一六文　金子壱両伊右衛門分直金ニ両かへ
同一四拾五文　かれ三まい　了　知
〆壱貫拾六文

四月廿四日元右衛門様麦検見ニ御越之時
金子壱分ト此銭かへ八百九拾文
一八拾文　米付日用伊右衛門にわ納米
同一四拾八文　まさけ　六合　與左衛門
同一百文　まさけ　壱升弐合　同　人
同一四拾六文　かつを　弐ッ　同　人
同一拾弐文　こま　壱合　了　知
同一四拾五文　干大こん壱わ　與左衛門
同一拾五文　山ノいも　三ッ　了　知
四月廿四日一百文　小麦から　三升　同　人
同一十文　ちしや　次郎八
同一三拾文　こほう　壱わ　市左衛門
同一六文　こしやう　壱匁　了　知
同一三拾八文　中竹之子　五本　三郎次
同一拾弐文　（與長吉）三郎　與左衛門

元右衛門様清水へ御越之時きさみ弐匁遣候

〆五百五拾四文

六月十三日高田市　買物夫覚　甚助

伝馬金割付之時

一五拾五文　味噌
一同　弐拾五文　同　ちや　五升
一同　拾文　同　きさミ壱匁
一同　七拾五文　同　小倉物　柴　八束
一同　七文　同　きさミ壱匁
六月十三日　一五文　なすび　三つ　與左衛門
一拾文　なすび　三つ　與　三　郎

六月廿五日伝馬金味進寄合（ママ）

一六拾文　たはこ半斤　與左衛門
一同　拾文　なすび　かまへ作　上下　平

〆弐百五拾五文

六月廿八日未進之時寄合

一五文　なすび（可豆）　三ツ　長　吉
一同　拾文　さゝき　岩　助
一同　五文　なすび　三ツ　長　吉
一同　拾弐文　さゝぎ　甚　助
一同　五文　なすび　六ツ　伊右衛門
一同　九文　さゝき　長　吉
一同　拾文　同　人

六月廿八日　高田市　未進取立寄合之時　夫　甚助

一弐百弐拾五文　割木壱駄
六月廿八日　一三拾五文　たちん　甚　助
一同　六拾五文　たまり　壱升
一同　百文　味噌
一同　丁五拾文　ちや　五升
一同　拾四文　はし　壱わ

〆五百五拾三文

七月三日　高田買物　夫　甚助

戸田新平様やふ（な）み改御越之時

金子弐分之内

金子壱分　新十郎より請取

此銭八百八十七文　伊右衛門金

伝馬金銭

一弐百弐拾四文　割木壱駄
一同　三拾五文　たちん　甚　助
一同　百文　かつを　五ツ

一同八拾文　たばこ　壱斤
七月三日一三拾五文　きさミ六匁
一同拾三文　ひのきはし壱わ
一五文　白はし
一同四文　こしやう　壱匁
一同拾壱文　こおりこにやく（ん）　十ヲ
一同拾八文　そうり　五そく
一同三拾五文　さば　壱さし
一同拾弐文　うり　六ツ
一同七拾六文　米付日用
十三郎米
〆六百六拾文

（長吉作）
（彌作）

七月五日　高田買物　夫　彌作
戸田新平様やなみ改御越之時
金子弐分之内
金子壱分　新十郎より請取
此銭八百五十文　伊右衛門金

（一四拾文　味噌
一百文　かうし同断
七月五日一六拾五文　たまり　壱升
同一五文　あらめ　壱わ

一同拾弐文　す　弐合
一同拾弐文　白はし
一同百六文　しいたけ
かんひやう
一同拾弐文　白うり　六ツ
一同拾四文　なすび　十ヲ
一同弐拾文　さゝぎ
一同百四拾八文　うんとんこ三升五合　了　知
一同拾文　こま　壱合　彌　作
一同弐拾九文　油　壱合　西江下　牧右衛門
一同弐拾文　同断壱合　同　人
一同九文　なすび八ツ　伊右衛門
一同弐拾文　さゝぎ弐わ　同　人
七月五日一百拾八文　小麦　三升　了　知
一同弐拾四文　小麦引ちん　（吉兵衛かゝ与三郎かゝ）
一同弐拾文　さゝき　弐わ　けん　松
一同弐百八文　餅米四升　彌三右衛門
一同弐拾文　餅米つきちん　（吉兵衛かゝ与三郎かゝ）
一三拾四文　さば　壱さし　了　知

七月七日　新平様御越買物　庄　助

一三拾文　こほ壱わ（ママ）　市郎左衛門
一同四拾八文　しい竹五合　同　人
一三拾文　なら付弐ツ　さば壱さし　伊右衛門取かへ船付物
一同三拾弐文
一同百文　やうらう参ニてかり申候　小夫　彌平次
一同弐百文　やうらう参かり申候　寺才銭　了　知
一同六拾文　十六文　たばこ半斤　和田　伊兵衛
一同弐拾五文　白うり　五ツ　瀬兵衛
七月七日
一丁五拾文　やうらうへん戸持　次郎八
一同五文　うり付丸ニ弐ツ　了　知
一同六拾五文　たまり　壱升　伊右衛門

〆壱貫七百三拾弐文

七月七日　高田買物　夫　左吉
戸田新平様御越之時
金子弐分　此銭壱貫七百文　伊右衛門金　新十郎より請取
一弐拾文　高田買物　夫日用　左　官
一三拾弐文　たまり五合　高田源七殿
一弐拾五文　小豆　五勺　同　人
一弐拾文　ちや　五升　同　人

一拾文　す　弐合　同　人
一四拾六文　紙　壱帖　同　人
一三拾文　（紙カ）半必　壱帖半　同　人
一弐百四拾文　籠代　下ちん　上ちん
一五百六拾四文　通代
一弐拾文　こほう壱わ　けん松
一百八拾四文　さけ弐升　勘　六
七月七日
一六文　なすび　五ツ　伊右衛門
一弐百八文　そうめん　五わ　與左衛門
七月八日　是ハ高す迄孫右衛門・利右衛門
（名古屋御奉行衆ニ御見舞被参候夕食
一百文）　與左衛門

〆壱貫五百弐拾壱文

伴六かよい　二月廿五日より七月十三日迄不残はらい申候
金子弐分ト此銭かへ壱貫七百匁
一壱貫弐百弐拾八文　伴　六
是迄伴六分はらい共ニ
〆拾四貫七百八拾九文
此銭元金銭かへを此通金子ニなおし
此金銭割ニ入
〆金子三両弐分ト引残リ　弐貫弐百拾文

七月廿六日　堤薬之(役カ)せんき　みそう　壱升　彌平次
一丁五拾文　伊右衛門取かへ
同　三拾弐文　さば　壱さし　伊右衛門
同廿九日　御目付からす江御越被成候より相之時
一三拾弐文　さば　壱さし　伊衛門(ママ)
七月廿二日　大風吹御蔵屋ねふきはきつゝみちん
一拾文　なわ　にわ　小七
〆百弐拾八文

九月十五日　御検見　郷目付衆買物
一八拾文　たまり　壱升　伊右衛門
同　七文　しるのミ　同人
一八拾文　米付ちん　平助米　(彌次郎作八)
同　弐拾五文　いも　壱升三合　平助
同　弐拾三文　ふし　壱ッ　長兵衛
同　拾六文　大こん六本　本所　三助
同　拾八文　こほう　壱わ　伊三郎
同　五文　しやうが　彌三右衛門
同　拾弐文　たうふ　弐丁　九蔵
同　五文　きさミ　壱匁　與左衛門
一拾八文　伊右衛門取かへ
一拾八文　たうふ　三丁　九蔵
伊右衛門取かへ

九月十五日
一四拾五文　かうじみそう五合　伊右衛門
〆三百四拾六文

九月十三日　高田市　御検見　買物　夫　與三郎
金子壱分　此銭八百六拾五文
新十郎より與三郎請取
割木十三束
一弐百四拾八文
同　三拾弐文　たちん　甚助高
一同　三拾五文　ちや　壱斗
同　四拾弐文　なら付三割
同　弐拾文　松竹(茸)　伊右衛門
同　拾六文　松竹五本　是高田
同　拾七文　ひのはし　壱わ
同　百文　たばこ　弐斤
九月十三日
一丁五拾文　きさミ　十匁
〆五百六拾八文

九月十七日　御検見

一八拾文　米付ちん　助
一同　平助米　(利)吉
一六拾文　小倉者柴　壱駄

九月十八日

一六拾五文　大かき物　こんにやく　十丁
一同　百弐拾四文　たうふ　七丁
一同　百拾文　坪ちや　弐升　市左衛門
一同　百拾文　みそう　弐升　市左衛門
一同　百六拾文　たまり　弐升　同　人
一同　弐拾五文　大こん　十本　市左衛門
一同　弐拾文　こほう　壱わ　けん松
一同　弐拾四文　大こほう　壱わ　吉　藏
一同　五文　な　吉兵衛
一同　八拾四文　油　三合　牧右衛門
一拾八文　五しやうカき三ツ　了　知
一九月十七日　十文　らうそく　弐丁　與左衛門
一同　拾八文　らうそく　三丁　同　人
一同　四拾六文　紙　壱帖　同　人

〆八百六拾九文

九月十八日　高田市買物　夫　三助
金子弐分分　此銭かへ壱貫八百三拾文

一弐百三拾五文
一同　三拾五文
一同　弐百四拾文
一同　三拾五文
一同　三拾五文
一同　六百六拾文
一同　五拾八文
一同　三拾五文
一弐拾四文　九月十八日
一同　三百八文
一同　六拾五文
一同　三拾文
一同　三拾弐文
一同　拾文
一同　弐百弐拾文
一同　弐拾四文
一同　弐百七拾文
一同　六拾九文
一同　四拾八文
一同　百文

割木　十束
たちん　伊三郎
割木　十弐束
たちん　六兵衛
高田買物夫日用　三助
酒　六升　高田勘六
す　五合
白はし　五十せん
ひのはし　弐わ
らうそく　孫三郎
三十目六丁
松竹十本
こおりこんにやく三丁
大くり共
引こしやう　弐匁
かつお　壱連
ひなわ　壱わ
こしみそう　三升
そうり　弐拾三そく
わらんし　弐十そく
すみ　壱俵

一同　丁五拾文　　きさミ　十匁
一同　八拾六文　　たばこ　壱斤
一同　九文　　しやうが
九月十八日　七拾六文　　坪ちや四斤
一同　四拾四文　　半し　弐帖
一同　四拾弐文　　すり八
一同　三拾八文　　五しやうがき七ツ
一同　百文　　かんひやう　伊兵衛
一同　九拾文　　百六十目　同　人
〆三貫百拾六文

九月十九日　大かき買物　夫　彌作
一六匁九歩　　大すゝき　壱本
一同　四匁三歩　　たこ　弐はい
内　弐匁壱歩五りんトたこ壱はい　孫右衛門所へ遣し
一同　九歩　　大くり　弐拾五
一同　壱歩五りん　　ハさび　五ツ
一同　壱匁四歩　　くしあわび　三けた
一同　三拾八文　　くす之こ　弐合
九月十九日　大ひしやく　壱本
一八文　小ひしやく　壱本
一同　四文

一同　三拾九文　　こほう　弐わ
一同　壱匁五歩　　あわひ　三ツ
一同　三百拾文　　あい(鮎)のすし　弐桶
一同　五匁壱歩　　酒　三升
一同　七拾五文　　なら付　五わり
一同　弐拾文　　す　弐合
一同　壱匁八歩　　せいこ　十ヲ
一同　弐百九拾文　　しおかも　壱わ
一三匁壱歩　　かれ　弐ツ
是ハほうらのかわり
内　壱匁五歩五りんトかれ(ひ脱カ)壱枚、孫右衛門所へ遣し
一弐匁三歩　　あわ　五ツ
是ハたこかわり
内　壱匁三歩八りんトあわひ三ツ分　孫右衛門所へ遣し
一壱匁六歩　　大かき買物夫之日用　彌　作
銀〆弐拾八匁六歩五りん
銭〆八百四文　此代拾四匁六歩
銀二口〆四拾三匁弐歩五りん

九月十九日
一拾五文　　手代衆わらんし之　十　三　郎
一同　八拾文　　お　十四匁
坪ちや　壱升　　重右衛門

一同　後のちや壱升ハ□年仕候
八拾文　同坪ちや　壱升　同　人
一同　弐百八文　小麦　五升　長兵衛
一同　弐拾八文　小麦引ちん　吉兵衛次郎八
一同　三拾六文　たうふ　六丁　九郎
一同　弐十文　こほう　壱わ　吉蔵
一同　百文　柴　壱駄　夫喜作　小倉村
一同　百弐拾文　いも　六升　平助
一同　弐拾八文　大こん　壱わ　三助
一川白　弐百八文　さけ弐升　夫次郎八勘六
一上之もろ白　三百弐拾文　さけ　三升　同　人
九月十九日
一弐拾文　高田買物　夫　日用次郎八
一同　三拾文　たうふ　五丁　九蔵
一同　拾文　しやうか　けん松
一同　四拾弐文　こほう　弐わ　孫四郎
一同　三拾文　たうふ　五丁　紋右衛門
一同　百八拾文　こじみそう弐升　伊右衛門
〆壱貫五百七拾五文

九月廿日　買物　夫　與三郎
金子弐分ト此銭壱貫八百弐十文

一川白　弐百八文　酒弐升　夫與三郎　勘六
一同　上々もろ白　三百九拾文　酒三升　同　人
一同　三十六文　たうふ　六丁　九蔵
一同　八文　な　吉兵衛
一同　百六拾文　たまり　弐升　市左衛門
一同　弐拾四文　こほう　壱わ　吉蔵
九月廿日
一三拾五文　山ノいも七ツ　小平
一同　八文　な　吉兵衛
一同　四拾弐文　たうふ　七丁　九蔵
同　廿日　高田買物　夫　與三郎
一三拾五文　ちや　壱斗
一八文　ひなわ　壱わ
一拾七文　きせるらう共ニ
是ハ元右衛門様中源手前之うしない申候ゆえ遣し
一同　弐十五文　きさみ五匁
一同　三十文　なし　弐ツ
一同　六拾文　しい竹三合
一同　拾弐文　ゆふ　六ツ　伊右衛門
一同　十弐文　もとゆい　弐わ　與左衛門

一同　弐拾文　　ふし　壱ッ　　同　人
一同　七拾五文　　なら付　五ッ　　重右衛門
一同　三拾三文　　小豆　五合　　伊右衛門
九月廿日　一百八拾文　　こしみそう　弐升　　同　人
〆壱貫四百四拾六文

九月廿一日　高田買物　夫　與三郎
金子壱分　此銭かへ九百拾五文かへ
一六百五拾四文　　上々もろ白五升　　勘　六
一百弐拾四文　　かつお五ッ　　同　人
一同　弐拾文　　こんにやく十丁
一同　六拾文　　大松竹　七本
一同　三拾文　　なし　弐ッ
一同　八拾文　　坪ちや　壱升　　了　知
一同　四拾文　　わらんし　十そく　　與左衛門
是ハ三ッ屋ニてひるへん戸之時
一百拾四文　　さけ　壱升　　同　人
一同　弐拾五文　　こほう　壱わ　　岩　助
一同　弐拾文　　大こん　壱わ　　善　九郎
一弐拾八文　　みそう　五合　　市左衛門

九月廿一日　一六拾文　　たうふ　十丁　　九　藏
一同　一五文　　しやうか　　けん　松
御代官様大の清太夫やうらう参義相段可仕候と被仰候、衣夫ニ
大野迄参可申候
一同　四拾四文　　此日用弐人　　（次郎八　忠兵衛）
一同　弐拾文　　こほう　壱わ　　岩　助
一同　拾五文　　山ノいも　三ッ　　彌三右衛門
一同　百拾四文　　さけ　壱升　　與左衛門
一同　三拾文　　たうふ　五丁　　九　藏
是ハ彌野藤助様へ
一拾六文　　ふて　かたし　　市左衛門
一同　弐百文　　是ハ大野清太夫所ニてひるへん戸之時酒代遣し
一同　弐百弐拾四文　　もち米四升五合代　　夕　喰
〆壱貫九百五拾三文

十月十日　中之口圦ゆいなおし代工
一四拾八文　　餅米白米壱斗代　　ゆふめし
十月廿二日伝馬金割之時
一百文　　餅米　弐斗代　　ひるめし
一同　弐拾五文　　たうふ　五丁　　紋右衛門
一同　七文　　大こん　五本　　けん　松
同廿三日　伝馬金寄せ之時　夫　與三郎

金子壱分ト此銭九百三拾弐文
一弐百丁五拾文　割木　十壱束
同一三拾弐文　たちん　六兵衛
同一丁五拾九文　たばこ　壱斤半
同一三百文　味噌・たまり両度済　源七
〆八百弐拾九文
十一月八日　名古屋拝借金　御訴訟より相之時
一拾文　伊右衛門御内取かへ
同廿三日　畝引寄せ之時
一弐拾文　たうふ　四丁　同断　同人
伊右衛門御内取かへ
十一月廿三日　高田市　買物　夫　與三郎
金子壱分ト此銭九百弐拾四文かへ
一弐百六拾文　割木　十弐束
同一三拾弐文　たちん　伊右衛門馬
同一弐百六拾文　割木　十弐束
同一三拾弐文　たちん　六兵衛
同一弐百五拾五文　割木　十四束
同一三拾弐文　たちん　伊右衛門馬
是ハ銭不済ニより覚
同一四拾文　ちや　壱斗
同一弐百文　すみ　弐俵　高田　源七
同一百弐拾四文　たまり　弐升　同　人
同一四拾八文　みそう　高田　源七
同一八拾文　たばこ　弐斤
十一月廿三日畝引寄せ
一弐拾五文　大こん十二本　本所　三助
同一弐拾五文　同断　たうふ　五丁　船付　長兵衛
同一八拾四文　同断　油　三合　杉右衛門
十一月廿五日畝引大寄せ
一弐拾五文　こんにやく　五丁　船付　長兵衛
同一拾八文　たうふ　三丁　船付　同　人
同一拾八文　たうふ　三丁　同断　長兵衛
同廿六日畝引大寄せ高寄畝
一十五文　たうふ　三丁　紋右衛門
同晦日同断　たうふ　弐丁　船付　長兵衛
同一拾文　大こん　十本　與三郎
同一弐拾弐文　たうふ　四丁　船付　長兵衛
同一弐拾文　こんにやく四丁　同　人
同一拾文　かつお　弐ツ　與左衛門
十一月晦日　さより　十本　同　人
一四拾四文
一弐拾五文

〆壱貫七百六拾六文

十二月三日
一三拾五文　大こん十六本　本所　三　助
　役人より相しのみ
同三日高田けん松夫
一四拾八文　ちや　壱斗
〆七拾八文
十二月四日　川嶋喜衛門様御越之時
金子壱分ト此銭かへ九百三拾弐文
一百拾文　みそう弐升　傳　六
十二月四日
一八拾文　こしみそう壱升　同　人
同　百六拾文　小麦　四升　了　知
同　弐拾四文　小麦引ちん　(吉兵衛かゝ与三郎かゝ)
十月二四日　高田夫六右衛門
一弐拾四文　此日用　六右衛門
同　三百八拾五文　さけ　四升　高田　勘　六
同　七拾弐文　なら付　五わり　同　人
同　百四拾四文　油　五合　西江下　杉右衛門
同　丁五拾文　たうふ　十丁　東江下　又　助
同　六拾六文　かつヲ　三ツ　與左衛門
十二月三日
一拾五文　きさミ　三匁　同　人
同　十四文　はし　五せん　同　人
同　弐拾弐文　みりん　十五　同　人
同　四拾文　小豆　壱升　岩　助
十二月三日
一八拾文　米付日用　與三郎米
同　弐拾弐文　大こん　十本　與　三　郎
同　八文　こしやう　弐匁　與左衛門
同　拾文　ねふか　けん松
同　拾四文　こほう　半たば　同　人
同　百六拾文　小麦　四升　庄　五　郎
同　弐拾四文　小麦引ちん　(長吉與三郎はまる)
同　八拾文　たまり　壱升　伊右衛門
同　三拾文　こほう　壱升　同　人
同　拾五文　山ノいも　三ツ　加左衛門
同　弐拾文　大こん　九本　與　三　郎
同　四拾八文　さけ　五合　新十郎
同　百拾文　籠代下りちん
一七百四拾五文　通代
一百文　籠代上りちん
〆弐貫七百六文
十二月八日　高田市　買物　夫　清助

金子壱分　此銭九百三拾弐文

一弐百五拾七文　割木　十弐束　伊右衛門
一同三拾弐文　たちん
一同弐百六拾匁　割木　十弐束
一同三拾弐文　たちん　權　助
一同百文　みそう
一同四拾六文　紙壱帖
一同六拾四文　さより　三十本
一同四拾五文　ちや　壱斗
一船付迄賃三郎参大こん
一百文　大こん百本
〆九百四拾八文

十二月九日

一拾五文　たうふ　三丁　船付　長　兵　衛
一同八日三拾文　たうふ　六丁　紋右衛門
一同拾五文　たうふ　三丁　船付　長　兵　衛
一十二月九日拾文　たうふ　弐丁　同断　同　人
一同弐拾六文　半し　壱帖　與左衛門
一同四拾五文　たはこ　壱斤　同　人
一同百弐拾四文　たまり壱升五合　本所　三　助
一同百弐拾四文　油　五合　杉右衛門

一同四拾八文　ちや　壱斗
〆四百四拾壱文

〆拾四貫七百八拾九文
内
拾弐貫五百七拾九文
此銭、此金ニて買、右金ニなおし
金子三両弐分分
此引残り　弐貫弐百拾文
〆拾六貫八百七文
内
此銭　此金ニて買、右金ニなおし
拾貫八百三十四文
金子三両也
此引残り　五貫九百六拾九文

二口〆三拾壱貫六百文
内
弐拾三貫四百拾七文
是ハ元金　銭かへ六両弐分分
此はらい残り銭
二口〆八貫百七拾九文

一金子六両弐分分　　元金也　　割ニ入
　此利金子弐分ト銀拾三匁六歩　　割ニ入
一銀〆四拾三匁弐歩五りん　　割ニ入

（表紙）
「　元禄拾三年
　年中喰米小帳
　辰ノ正月　日　」

正月三日
一米弐升　　未進取立之時　　ひるめし
同四日
一米三升五合　　ひるめし
正月廿三日
一米弐升五合　　ゆふめし
同
一米壱升五合　　やしやうく
〆九升五合
二月十三日
一米壱升五合　　夫銀寄せ之時　　ひるめし
同　十三日
一米弐升五合　　同　断　　ゆふめし
正月十六日
一米壱升　　宗門帳とじ　両度　　ゆふめし
二月廿三日
一米弐升五合　　下池上郷九ヶ村相段より相之時　　上郷御出前
一米四升　　同　断　　ひる喰

一米弐升　　同　断　　夕　飯
二月廿六日
一米壱升　　ひるめし
同廿七日
一米三升五合　　上郷五ヶ村下地見分ニ竹庵所ニより相　　ひるめし
二月廿九日
一米壱升　　小坪三助水切上之時　　ひるめし
〆壱斗八升
三月二日
一米壱升　　大工　　ゆふめし
同　四日
一米壱升　　大工　　ひるめし
同　六日
一米壱升五合　　大工　　ひるめし（はんカ）
同　八日
一米壱升五合　　大工　　ひるめし（はんカ）
〆五升
三月十七日
一米八升　　宗門御改之時、戸田新平様御越　　両三度
同　日
一米三升五合　　夜　食
三月十八日
一米九升　　両三度
同　日
一米三升　　夜　食
同　十九日
一米四升五合　　あさ飯
同　十九日
一米三升五合　　ひるめし
同
一米六升　　はん
〆三斗七升五合
同　廿日
一米五升五合　　未進かん帖（定カ）　　あさ食

同　廿七日　一米壱升　ひるめし
同　廿八日　一米壱升　ひるめし
同　廿九日　一米壱升　ひるめし
〆八升五合
四月二日　一米弐升　新十郎殿夫庄助
同　一日　一米弐升　新十郎殿夫庄助
同　三日　一米弐升　ひる飯
同　四日　一米三升　ゆふめし
四月十九日　一米弐升　ひるめし
麦金割付之時
同　廿日　一米弐升五合　ゆふめし
未進勘定之より相
同　同　断　ひるめし
同　一米弐升五合　ゆふめし
四月廿一日　麦検見　郷目付　伊右衛門様　惣右衛門様
一米八升　ゆふめし
四月廿二日　一米八升　同御奉行様
四月廿三日　一米六升　甚右衛門様麦検見御越
同役人より相
一米三升　元右衛門様麦検見御越
四月廿四日　一米六升　ゆふめし
同　廿五日　一米五升　あさめし
同　廿五日　一米四升　ひるめし

〆五斗六升
六月十八日　一米弐升五合　伝馬金割付之時
同　十八日　一米三升　同断　伝馬金寄畝之時
六月二十五日　一米三升　未進金寄合取立之時
六月廿八日　一米弐升　未進取立寄合之時
六月廿九日　一米壱升五合　同断
六月晦日　一米弐升五合　同断
七月三日　一米弐升　同断
同　一米三升　ゆふめし
〆壱斗九升五合
七月五日　戸田新平様やなみ改御越之時
一米三升　ひるめし
同　一米弐升　ゆふめし
同　一米弐升　七日　新平様　やしやうく
同　一米三升　ひるめし
同　一米弐升　七月七日　新平様分　やしやうく
一米三升五合　同断　あさ喰
同　一米六升　同断　夕喰
同　一米五升　あさ喰
同　一米五升五合　ひる喰

七月廿六日　堤築せん義之時（役）　ひるめし
一米三升
同　廿九日　からす江御目付御越被成より相之時　ゆふ喰
一米弐升
〆三斗七升　九月十五日　御検見御国奉行衆役人待申候郷目付衆
一米四升　御検見札印判おし　ひるめし
同十六日
一米三升　ゆふ食
一米四升　ひるめし
一米弐升五合　ゆふ食
同　十七日　御検見入用相段百姓より相之時
一三升五合　ゆふ食
〆壱斗七升　九月十八日　御検見衆御越
一米五升五合　ひるめし
一米八升　夕　食
同
一米三升五合　やしやうく
同　十九日
一米八升　あさ食
同
一米八升　ひる食
同
一米七升五合　ゆふ食
同
一米四升　やしやうく
同　廿日
一米八升　あさ食
一米九升　ひる食
一米九升　夕　食

一米四升　やしやうく
九月廿一日
一米九升　あさ食
一米壱斗　ひるめし
一米八升　夕　食
一米四升　やしやうく
同　廿二日
一米九升　あさ食
一米壱斗三升　是ハ内大のニて（弁当）へん戸両方也
〆壱石弐斗七升五合　ゆふ食
十月廿二日　伝馬割之時
一米三升　夕　食
十一月十八日名古屋検見訴訟より相そうたん　食
一米弐升　ひるめし
十一月廿二日　大吉ニ瀬野藤助入ふせ御越被成御見舞ニ参候　ゆふ食
一米壱升五合
十一月廿三日　欵引寄せ之時　ひるめし
一米弐升五合
同　欵引寄せ　ゆふ食
一米弐升　ひるめし
十一月廿四日　欵引寄せ
一米弐升　ゆふめし
一米弐升五合　同断　ひるめし
同　廿五日
一米弐升五合　同断　ゆふ食
同
一米弐升五合　同断　ひるめし
同　廿六日　欵引大寄せ
一米弐升　ひるめし
一米弐升
十一月廿九日　欵引寄せ高寄
一米弐升

十一月廿四日
一米壱升五合　同断
十一月晦日　高寄せ
一米弐升
同
一米弐升　同断
同十二月一日
一米弐升　同断
同
一米弐升五合　同断
〆三斗六升五合
十二月二日　高兵右衛門へ
一米壱升　米斗衆
同
一米弐升　同断　役人出
同
一米弐升五合　同断　役人衆
十二月三日　高兵右衛門へ
一米三升　同断
〆壱斗壱升五合
十二月四日　川嶋喜右衛門様御越之時
一米三斗五合
同
一米弐升五合
十一月晦日
一米弐升
同十二月五日
一米三升五合
同
一米弐升五合　夕食うんとん
同
一米三升
同　六日
一米四升

夕　食
ひるめし
ゆふめし
ひるめし
ゆふめし

あさめし
ひるめし
ゆふ食
ひるめし
ゆふ食

ひるめし
ゆふめし
やしやうく
あさめし
ひるめし
やしやうく
あさ食

〆弐斗壱升
同　六日
一米弐升五合
同
一米弐升　七日
一米弐升五合
同
一米弐升　八日
同
一米弐升五合
同　九日
一米弐升五合
同
一米弐升
十二月十日
一米弐升五合
同
一米壱升五合
十一日
一米弐升
同
一米弐升五合
十二日
一米弐升五合
同
一米三升
〆三斗弐升五合
是迄
米〆四石三斗七升
一米〆四石九斗九升五合
此白米〆四石六斗三升弐合

ひるめし
ゆふめし
ひるめし
ゆふめし
ひるめし
ばん
ひるめし
ばん
やしやうく
ひるめし
ゆふめし
ひるめし
ばん

外ニ四斗八升弐合　　長兵衛
二口〆五石四斗七升七合

（表紙）「　元禄拾三年
　　年　中　有　帳
　　辰ノ正月廿三日　」

二月廿三日　上郷九ヶ村下池新田之義、相段より相之時
一百文　こぶな　彌　市
同一弐拾壱文　大うなぎ　三本　同　人
〆百三拾壱文
三月十七日　宗門御改之時、戸田新平様御越
一弐百三拾文　ふな八枚　うなぎ廿本　彌　市
十八日
一三百文　ふな十五枚　うなぎ十本　同　人
十九日
一百拾文　ふな三枚　同　人
同一五拾文　こふな八枚　同　人
同　十九日　是ハ新平様未進取立
一弐百四拾八文　なます弐本　ふな七枚　彌　市
〆九百四拾文
四月廿一日　郷目付衆麦検見御越之時
一百三拾文　大うなぎ六本　彌　市

四月廿三日　御代官覺右衛門様麦検見ニ御越之時
一百文　大うなぎ五本　彌　市
同一弐百文　七寸ふな五本　同　人
〆四百三拾文
四月廿四日　麦検見ニ元衛門様御越之時
一百四拾八文　七寸(な脱カ)ふ壱枚　六寸ふな五枚　彌　市
同一百拾文　うなぎ八本　同　人
同廿五日
一八拾文　四才なます弐本　同　人
同一百弐拾文　うなぎ十壱本　彌　市
元右衛門様清水へ御越被成候時、此方より新持物ニ進上仕候
（同廿五日
一百三拾文　九寸ふな弐枚　同　人
〆五百九拾弐文
六月十三日　伝馬金割付之時
一百文　小ふな五枚　うなぎ　權之助
一四拾八文　小ふな十枚　彌　市
〆百四拾八文
七月五日　戸田新平様やなみ改御越ノ時
一百七拾文　うなぎ十五本　ふな(数量脱カ)枚　彌　市
同六日
一百三拾文　こい三年物弐本　同　人
同一百拾文　ふな八枚　同　人
同七日
一百弐拾文　大うなぎ三本　同　人

一同　六拾文　小ふな十枚　同　人
一同　弐百文　大さぎ弐ッ　同　人
〆七百九拾四文
九月十五日　御検見郷目付衆御越之時同十七日ニ御越被成候
一百三拾文　ふな五枚　彌　市
一同　百四拾八文　大うなぎ五本　同　人
一同　四拾八文　いな九ッ　同　人
〆三百三拾文
九月十八日　御検見
一三百文　こい五年物壱本　彌　市
一百弐拾文　中ふな九枚　同　人
九月十八日　一三百文　こい五年物壱本　彌　市
一同　百弐拾文　ふな十枚　同　人
一同　三百文　大うなぎ七本中うなぎ十弐本小うなぎ十三本　同　人
一同　百十文　中ふな十枚　同　人
一同十九日　百八拾文　こかも　壱わ　彌　市
一同廿日　三百弐拾文　さぎ　壱羽　同　人
一同　四百五拾文　大ふな九枚　彌　市
一百弐拾文　大うなぎ五本　同　人
一三百弐拾文　さぎ　壱羽　同　人
一同　百文　中ふな五枚　同　人

同廿一日　一六百七拾文　こい五年物弐本　彌　市
一同　百弐拾文　中ふな小ふな十五枚　同　人
一百文　大うなぎ　五本　彌　市
〆三貫六百四拾文
十一月廿九日　畝引大寄せ
一百拾四文　小ふな十五枚　小ふな十枚　彌　市
同晦日　一三拾五文　こなます五本　同　人
十二月四日　川嶋喜衛門様御越之時
大ふな七枚　小ふな十三枚　彌　市
一同　六拾五文　五い　壱わ　同　人
一同　六拾文　くろばと壱わ　同　人
一同五日　百文　中ふな八枚　彌　市
〆六百拾六文
〆七貫六百三拾七文　割ニ入
御検見御訴訟之時、粕谷恩衛門様新持
一六百文　大こい弐本　品ニ割ニ入　彌　市

（表紙）
「元禄十三年
下笠村中満通帳　片山伴六㊞
辰ノ二月三日　片山伊右衛門殿」

二月廿五日　下池相段より相之時

一拾八文	きさミ三匁	夫與三郎
同日 一壱升	同断 代八拾五文	夫同人
同日 一五合	代四拾三文	夫同人
四月廿六日 一拾弐文	きさミ二	夫勘助
〆三月十一日 一弐合	代拾七文	夫庄助
同月十四日 一八文	わらんじ	夫與三郎
同月十七日 一壱升五合	代九拾四文	夫彌作
同月十八日 一弐合	代拾七文	夫仁助
同日 一す弐合	代九文	夫久兵衛
同十九日 一六文	きさミ	源兵衛
四月廿一日 一拾六文	そうり四	夫庄助
四月廿二日 一三拾弐文	わらんし八足	夫久兵衛
四月廿三日 一弐拾文	わらんじ五足	夫庄助
同日 一四文	わらんじ	新十郎へ参
同月廿五日 一八文	わらんじ二足	夫庄助
六月廿四日 一弐合	代弐拾文	夫つね
七月三日 一壱升	代百四文	夫久兵衛
同月四日 一弐合	代弐拾文	夫いや
同月五日 一四文	わらんじ	夫與三郎
同日 一壱升	代百四文	夫同人
同日 一壱升	代百四文	夫同人
同月六日 一壱升	代百四文	夫彌市やミ
七月六日 一五合	代丁五拾文	夫仁助
同月七日 一三拾弐文	そうりわらんじ八足	夫與三郎
同日 一拾七文	ひなわ　壱わ	夫六平
同日 一弐升	代弐百八文	夫庄助
同日 一五合	代丁五拾文	夫仁助

〆七月十日迄　〆壱貫弐百弐拾八文

二月廿五日より七月十日迄間不残さん用、七月十三日ニ長兵衛よりうけ取相済申候

（表紙）
元禄拾三年
年中人馬役帳
辰ノ二月十八日
」

三月十九日　宗門改御越之時
戸田新平様縁状大の迄持参仕候
一弐拾文　かまへ　六右衛門
戸田新平様成田迄被参候過馬
一人馬　庄五郎
代百弐拾文
三月晦日　小林武右衛門様水見分ニ御越被成候人馬大の迄
一三拾五文　伊右衛門馬也　庄助
四月十一日　名古屋より下地輪中へまわし縁状参候船付迄持
参仕候
一弐拾文　彌作
四月廿一日　郷目付衆御越之時、大のよりかまへ迄
一三拾五文　人馬　市郎右衛門
同　同断
一三拾五文　人馬　十三郎
同　同断かまへより栗笠迄廿二日とまり也
一三拾五文　人馬　本所　伊三郎
同　廿二日
一三拾五文　人馬　西江下　善六
四月廿三日　覺衛門様御越之時、人足人馬口ヶ嶋迄出相□□
へ行大の迄参候
一人馬　のさき　彦九郎
代百弐拾文
役人高田へ出相覺右衛門様やうらう参被成候伊右衛門所御越
被成候、役人高田迄よひ元（戻）シ申候
一三拾文　此日用　孫四郎
一人足　壱人　のさき　小平
代八拾文
一人足　壱人　利（和カ）田　三助
代八拾文
一人足　壱人　中嶋　加平次
代八拾文
覺右衛門様縁状大の迄持参仕候
一弐拾文　次郎八
四月廿五日　元右衛門様清水へ御越被成候大かき迄参候人馬
麦検見之時
一人馬（ママ）代　半六
四月廿五日　麦検見、御国奉行衆御越之時、かまへより大の
迄人足馬付　柴田彌三右衛門様
末松孫兵衛様
一弐拾五文　馬付　三六

一弐拾五文　馬付　彌　作
五月十四日　高田迄、分直銭買ニ忠七馬ニて庄助参候
一三拾文　此日用馬付庄助　忠　七
七月八日　やなみ改、戸田新平様細江迄過馬
一人馬　馬付六右衛門　伊衛門馬
代百四拾八文
七月八日　是ハ江戸よりはしり物縁状西岩道迄持参仕候
一弐拾弐文　八（かまへ）助
七月廿二日　名古屋より川村加右衛門様縁状横（ママ）増根井せぎ切
衣夫栗笠村迄
一六拾文　（小）松（けん）
一同拾文　此衣夫ニらうそく弐丁　庄　助　作
一同六文　同衣夫らうそく壱丁　和田伊兵衛
八月六日　取井八衛門様御越之時からす江迄被参候
一四拾八文　九月十四日ニ久六ニ渡シ　和田半十郎
一四拾八文　人馬　久　作
八月廿日　名古屋より堤奉行衆之御状庄屋衆誂被参候、江月
村へ持参可仕候
一三拾文　和田惣五郎
九月五日　衣夫御国奉行衆縁状船付迄持参仕候
一弐拾文　小　作
九月十一日　衣夫御国奉行衆縁状船付迄持参仕候

一弐拾弐文　八　助
九月十四日　衣夫御国奉行衆縁船（状脱カ）付迄持参仕候
一弐拾弐文　けん松
九月十五日　御国奉行衆大野より下笠船付迄
一人馬　彦　七
代三拾文
一人馬　同断
代三拾文
九月十五日　郷目付衆大のより下笠船付迄
一人馬　彦八郎
代三拾文
一人馬　同断　半　六
代三拾文
九月十八日より御検見之時人馬日用
一人馬　五右衛門
代壱匁五分
一人馬　市郎右衛門
代壱匁五分
一人馬　庄五郎
代壱匁五分
一人馬　十三郎
代壱匁五分

九月廿二日　御検見之時伊右衛門より大の迄人馬
一人馬　市郎右衛門
代三拾文
一人馬　彌三右衛門
代三拾文
一人馬　善兵衛
代三拾文
十月五日　あた五坊ス弐持、西岩道迄持参仕候
一三拾文　日用　彌　作
十月十一日　衣夫はしり物縁状西岩道迄持参仕候
一弐拾四文　日用　彌　作
十月十四日　衣夫伝馬金縁状西岩道迄持参仕候けん松付ニ與
三郎
一弐拾弐文　日用　與三郎
十月廿五日　衣夫せつしやう之縁状大の迄持参仕候
一弐拾文　三ッ屋　覺助
十一月廿日　名古屋より御手代衆御状孫右衛門誂参候成田迄
持参仕候
一五拾八文　日用　善助
十一月二日　衣夫せつしやう御ゆるし縁状西岩道持参仕候
一弐拾弐文　けん松
十二月三日　堤銀縁状西岩道迄持参仕候
一弐拾文　八助
同　三日　(ママ)節訟縁帖西岩道迄持参仕候
一弐拾文　彌　作
同　五日　川嶋喜右衛門様御状持参
一五拾八文　日用　六右衛門
内三十弐文　六右衛門ニ入
同　六日　川嶋喜右衛門様弐持細江迄持参仕候
一百文　日用　與三郎
残清助ニ渡ス
〆壱貫九百九文　割ニ入
〆銀六匁也　割ニ入
是より銭渡シ帳ノ覚　書出シ
一五拾弐文　六右衛門
(三月晦日ニ小林武右衛門様水見分ニ御越之時大野迄ノ人馬日用
一三拾五文　馬方　庄助　伊右衛門馬助分
一七拾四文　(清けん)松分
一百弐拾五文　彌　作
一百弐拾弐文　くわ代共　與三郎
一百弐拾七文　十三郎
一百六拾弐文　市郎右衛門
一三十文　彌三右衛門
一三拾文　孫四郎

一弐拾文　次郎八
一弐拾五文　三　六
一六拾四文　與三郎ニ渡シ　八　助
一五拾弐文　小　作
のさき・和田・中嶋・中村・江下不残久六ニ渡シ
一八拾文　のさき　小　平
一百弐拾文　のさき　彦九郎
一八拾文　和田　三　助
一百五拾文　のさき　半　六
一八拾文　中嶋　加平次
一三拾文　のさき　彦八郎
一四拾八文　和田　久　作
一六文　同村　伊兵衛
一三拾文　同所　惣五郎
一五拾八文　かまへ　善　助
七月八日　戸田新平様細江迄過馬付六右衛門被参候馬方也
一百四拾八文　伊右衛門馬
一弐百拾弐文　庄　五郎
一三拾五文　伊　三郎
一三拾文　忠　七
一三拾文　善兵衛
一三拾五文　西江下　善　六
一八拾八文　五右衛門
一三拾文　權　八
一三拾文　彦　七
一弐拾文　三ッ屋　覺　助
九拾文ノ分落

（表紙）
「　元禄十三年
才　礼　買　用　入　用　帳
辰ノ八月六日　」

八月六日之才礼買物
七月廿八日　高田　夫　市左衛門
金子弐分ト此銭壱貫七百弐拾文かへ
一弐百四拾八文　割木　十壱束
一三拾弐文　たちん　伊右衛門
一百四拾八文　土俵　弐拾四
一弐百八拾五文　むしろ　弐束五枚
一九拾文　割木　五束
一三拾弐文　たちん　忠　三　郎
忠三郎馬ニ此通、其外付申候
一百文　紙　壱帖
一拾六文　はし　壱わ

一拾八文　ゆおけ　壱ッ
一五文　ひしやく　壱本
一拾六文　こさ　壱枚
一弐拾六文　あし打　四枚
一七拾四文　かつお　四ッ
一六拾文　たばこ　壱斤
一四文　こしやう　壱匁
一弐拾文　そうり　五そく　伴　六
〆五貫百九拾四文

八月三日　高田市　買物夫　市左衛門

金子弐分此銭壱貫七百拾文
一弐百六拾文　割木　十弐束
一三拾弐文　たちん　伊右衛門
一三百弐拾文　すし　弐桶
一四拾三文　半し　弐帖
一三拾五文　そうり　十壱そく
一四拾四文　うり　三拾五
一百文　いな
〆八百四拾弐文

八月三日

養老町史　史料編

多田米六斗
一金子三分ト銭三拾壱文　市郎右衛門
此白米四斗九升
餅米三斗
一金子壱分ト銭四百四拾七文　同　人
此白米弐斗三升五合
内白米三升　八万みこく
八月三日　高田市　買物夫　市左衛門

金子（ママ）
一六拾文　小倉村柴　壱駄
一七拾八文　こんにやく　三十壱丁
一弐拾九文　たうふ　六丁
一百六拾四文　たまり　弐升　市左衛門
一六拾五文　みそう　壱升　同　人
一四拾八文　うり四十三　同　人
一四拾文　さば壱さし　伊右衛門
〆金子壱両銭九百七拾八文

八月五日　高田買物　久　六
一八百三拾弐文　酒八升　高田　勘　六
一百四文　五さ　五枚
一四文　小ひしやく　壱本
一弐拾六文　す　弐合
一拾三文　ひのきはし　壱わ

一六拾文　なすひ　五十　權　八
一八拾四文　油三合　伊右衛門所　分三郎
一弐拾八文　油壱合　新十郎所　同　人
一百三拾文　うなぎ　十本　彌　市
一百六拾文　なます　九本　同　人
一百文　ふな　弐十弐枚　同　人
一百六拾九文　大さき　弐ツ　同　人
　小さき　壱ツ
一六拾五文　こさき　壱わ　同　人
一七拾文　小倉村柴　壱駄
一七拾文　らうそく　四丁　伊　兵　衛
一拾弐文　らうそく　弐丁　了　知
　〆壱貫九百五拾六匁
　八月五日
一米六升　ひるめし
一米壱斗　ゆふめし
一米弐升　ゆふめし
　米〆壱斗八升
　八月六日
一百四拾文　みそう　弐升　了　知
一五文　しやうが　十　三　郎
一百三拾文　うなぎ　七本　彌　市
一六拾文　なすひ　五十壱　市左衛門

一弐拾壱文　もとゆふい三わ　與左衛門
一八拾文　たまり　壱升　次　平
一六拾文　なすひ　五十　同　人
一四拾文　わらんじ十そく　伴　六
一四文　わらんじ壱そく　徳　若
一五拾四文　なます　長　助
一弐百文　時野まくハ迄参候日用　林　助
六日
一金子弐分也　御すも道ニて夫銭　伊右衛門
　〆金子弐分ト銭八百拾文
　六日
一米壱斗壱升　あさめし
一米七升　ひるめし
一米六升　ひるめし
一米壱斗壱升　ゆふめし
　米〆三斗五升
惣〆金子壱両弐分　銭五貫七百八拾八文
　両ニ銭かへ三貫四百四拾文　此銭金ニなおし
　〆金子三両　銭六百弐拾八文

（表紙）
「　元禄拾三年
　御検見御礼金帳
　辰ノ十月四日　」

十月四日
名古屋ニて宿惣役人請取
一金子六両也　夫　林藏殿　彌　平　次
同　四日
一金子壱両也　甚右衛門宿ニて請取　源　兵　衛
同　七日
一金子壱分也　姓畑宿ニて請取　同　人
利拾八匁也　彌平次金
利三匁七分五りん　源兵衛金
十月四日
両かへ金子壱両ニ付三貫六百三拾弐文かへ
一百弐拾文　百姓名古屋迄たちん
一四拾八文　姓畑百姓小遣
一拾五文　同所さけ
一九百六拾五文　上白酒　八升
一三百六拾五文　杉たる　四ッ
一弐拾六文　半し　壱帖
一三拾五文　名古屋ニて百姓さけ
一五文　もとい　壱わ
一拾文　両かへ切へりちん
一四拾八文　百姓小夫
一拾五文　そうり　三そく
〆壱貫六百六拾弐文
一金子弐両　江崎元右衛門様
一金子壱両　彌野藤助様

一金子壱両　下村喜左衛門様
一金子壱両　江崎久助様
五日
一三百五拾文
同
一弐拾文　酒三升
一四拾文　人々きさみ四匁
一五拾文　ろうそく　弐十目壱丁
一五文　みそう・す
一弐拾八文　しやうが
一三拾六文　たまり
一三百三拾弐文　たうふ
一百四拾八文　大ほうら　三本
一百丁五拾文　あわび　四ッ
一三百五拾文　小鳥　弐拾羽
一百拾六文　松口屋
一三百文　さけ壱升
〆金子五両壱貫九百三十五文　柳屋
六日
一百文　百姓名古屋ニて小夫
一金子壱分八百九拾文　きぬ　壱たん
一金子弐分　まわた　百目
一弐百文　川崎喜右衛門様
一弐百文　小森武右衛門様
一弐百文　甚右衛門

一四拾文　　由右衛門宿へ参候さけ
一弐拾四文　　らうそく　十五匁壱丁
一六拾文　　宿女
一四拾八文　　百姓名古屋よりたちん
一六拾壱文　　小遣
〆金子三分　壱貫七百八十三文
惣〆金子七両　八百四拾五文

（表紙）
「　元禄拾三年
小帳書出シ渡帳
辰ノ十二月　日　」

一弐百弐拾三文　　彌三右衛門
一百九拾文　　傳　六
是ハ彌三右衛門御内方様ニて御座候ゆへ、内方へ
遣し、此取次伊右衛門様御内方ニて渡し
一三百弐拾五文　　市郎右衛門
一八拾五文　　岩　助
一六拾四文　　忠兵衛
一七拾弐文　　彌平次
一百八拾文　　彌　作
一七拾六文　　松（けん清）助

一八百四拾六文　　市左衛門
一八拾九文　　伊三郎
一弐拾文　　利（和カ）田　久　六
一弐拾文　　利田長四郎
一弐拾文　　利田瀬兵衛
一三百七十三文　　利田伊兵衛
一百六拾五文　　彌　市
一弐百弐拾五文　　與三郎
一八拾文　　長　吉
一六拾文　　左　吉
一十文　　與三郎ニ渡シ　小七
一丁五拾文　　東江下　又助
一百四拾六文　　牧右衛門
一百四拾八文　　次郎八
一四拾文　　利　助
一百六拾文　　庄五郎
一弐拾五文　　善九郎
一弐百六拾五文　　本所　三助
一百四拾五文　　同所　平助
一五拾七文　　勘　助
一百六拾文　　了　知
一六拾八文　　かまへ　吉藏

一五拾五文　加左衛門
一四拾五文　吉兵衛
一十弐文　まん
一十弐文　はる
一百十四文　伊右衛門
一四拾弐文　孫四郎
一八拾五文　紋右衛門
一弐百四文　與左衛門
一三貫八百十三文　高田勘六
一四拾八文　新十郎
一三百三拾六文　杉右衛門
一百四文　紋右衛門

此紋右衛門分八拾四文分渡シ
引残て十五文此方ニ残り有
はらい銭

惣〆九貫弐百五拾三文

（表紙）
「元禄拾三年辰ノ十二月　日
万小帳割渡以後
はらい残巳ノ年(暮)ニ割入小帳」

正月二月三月迄ニはらい
一金子三分分　長兵衛

是は春はらい
内
金子壱分分
銭かへ九百三拾五文
金子壱分分
銭九百四拾文

此銭はらい残り銭
さゝへ遣はらいニ仕候

辰ノ拾二月廿四日　割渡はらい長(帳)
　　劔田宇衛門様之御時

一八拾文　さけ　壱升　使與三郎　左次右衛門
一同廿五日四拾八文　小豆　壱升　與三良
一三拾六文　す　四合　使庄助　左次右衛門
一拾文　きさゝ　弐匁　使與三郎　同人
一八拾文　さけ　壱升　與左衛門
一弐拾五文　たうふ　五丁　紋右衛門
一十五文　ねふか　傳兵衛
一四文十二月十五日　す　伊右衛門取かへ　上之郷　次左衛門
一十文　きさゝ　弐匁　使與三郎　左次右衛門
一百文　なます　弐本　彌市
一百文　ふな八枚　小こい壱本　同人

同　一百拾文　大ふな壱枚　中ふな五枚　同　人
同　一六拾文　たうふ十丁　けん松
一弐百四拾八文　十二月十六日　さけ　三升　與左右衛門
一拾五文　きさミ三匁　使與三郎　左次右衛門
同　一拾弐文　わらんし三そく　使同人　同　人
同　一八拾文　さけ　壱升　使同人　同　人
同　一四拾文　たうふ八丁　紋右衛門
〆壱貫九拾三匁

十二月廿六日　高田買物　使與三郎
一八拾文　たはこ　壱斤
同　一百文　みそう代
同　一四拾八文　ちや　壱斗
同　一六拾文　なすみ買物之残り　高田源七
同　一弐百四拾五文　割木　八束
同　一三拾弐文　たちん　太兵衛
〆五百七拾三文

十二月廿七日　たうふ　九丁　紋右衛門
一四拾五文　中ふな・こふな・小こい壱本
十二月廿七日　以上十五枚　彌市
一百弐拾文　こほう壱わ　是ハ八助名違　八藏
同　廿七日　一弐拾四文　こふな十弐枚
十二月廿八日　五才なます壱本　彌市
一百弐拾五文

一弐拾四文　こほう　壱わ　八助
一四拾六文　米苻日用　（長吉）與三郎
伊右衛門にわ米升粉米三斗也
一六百三拾文　彌市
是ハ粕谷思衛門様新持ニ持参仕候
〆壱貫弐拾弐文
惣合弐貫六百九拾文
元金三分之内
引て百弐拾三文　さき遣

〇下笠　兒玉　章氏所蔵

（表紙）
一　文化十年　多藝郡下笠村
申歳分下用書上帳
丙正月
」

覚

一銭百文　三社灯明
一金弐分　伊勢両社御初穂
一同壱分　右代参路用
一銭百五拾文　多賀坊
一銭百五拾文　愛宕坊

一金弐分ト弐匁五分　三社御祭礼入用
一銀五拾匁　年中筆墨紙料
一金弐両壱分
　是は御役人様御出之節諸雑用代、年々受取定置
一銀三貫三百廿七匁七分弐厘
　是は悪水落除修復幷小坪御圦伏替諸入用・江浚入用等、輪中割当り
一銀四拾四匁壱分七厘　文左衛門帳
銭三拾七貫六百三拾弐文
　是ハ年中買入諸色代
一銭弐貫八百九拾三文
　是は村方見概検見諸色代
一銀八匁六分四厘
銭壱貫四百七拾六文
　是ハ卯・辰・巳三ヶ年分井領差米代上納元利
一金壱両ト拾匁五分七厘
　是ハ朝鮮人入用国役銀上納元利
一金三分ト四匁五分七厘
　是は御鷹方鳥運上上納元利
一金壱両弐分ト四匁三厘
　是は三役銀滞拝借返上納元利
一金弐両弐分ト弐匁弐分七厘
　是ハ除小圦三ヶ所伏替人足諸色代元利
一銀拾匁弐分三厘
　是は大谷川拝借返上納元り
一銀百八匁
　是は田面鳥追六拾夜分
一銭拾五貫百三拾五文　文之助引請
　是は除水囲ひ穴埋人足賃
一同拾弐貫四拾六文　同　断
　是は田面橋掛繕ひ人足賃
一銀百弐匁九分四厘
　是は田面・村内小橋・小橋掛替繕ひ大工作料、五拾四人九分
一同九百四拾弐匁三分弐厘
　是は大樽川洗堰入用七ヶ村割当り
一銀三拾五匁壱分壱厘　彦作帳
銭拾壱貫四百五拾四文
　是は年中諸色買入代
一銭拾五貫三百八拾七文　同人帳
　是は年中人足小日雇用水人足共
一金弐両三分ト拾匁
　是は諸色蔵建直し諸入用元り
一銀七拾六匁三分五厘

是は橋掛繕ひ板釘代　　材木屋文四郎払

一銀百拾六匁八分三厘　　宇兵衛引請

是は田面道水洞四ヶ所板釘作料共

一金弐両壱分　　同　断

是は新除通字六左衛門田小圦壱ヶ所伏替諸色材木釘作料共積り渡し

一金弐両壱分ト五分　　同　断

是は小曲輪除小圦壱ヶ所伏替諸色代

一銀拾七匁三分五厘

銭七拾弐文

是は八幡宮鳥井上葺諸入用

一銭弐貫八百五拾七文　　豊次郎引請

是は波打除柵竹代

一同拾六貫四百七拾六文　　淺次郎引請

是は波打除囲人足賃

一銀五匁三分　　市助引請

銭四〆七百五文

是は除内田面鳥追除水囲人足ちん

一銀廿三匁四分六厘

是は門樋拝借返納元利

一銭廿三貫六百拾三文　　文左衛門帳

是ハ年中人足小日雇水番

一銭五貫八百文

是ハ庄屋両人名古屋・鵜多須行路用

一同四貫七百文

是ハ組頭四人名古屋・笠松・鵜多須行路用

一銀拾匁五分

銭九貫三百廿六文

是は用水立切圦繕ひ人足諸色代

一金三分ト八匁五分七厘

是は端米七合物直段違損　　元四郎引請

一銀廿三匁五分

銭八貫九百拾九文

是ハ五日市前出水之節、急破囲人足諸色代

一銀弐匁七分

銭八貫九百八拾七文

是ハ雑用割日、庄屋・与頭・頭百姓幷百姓惣代寄合雑用

一金五両ト拾三匁五分

是は横枕新田新開障入用幷水行入用滞借入金利足とも

一銀六拾匁

是は名古屋宿下用代

一金三両三分二朱

銀七拾五匁四分八厘

銭弐貫百五拾六文

是ハ村中道改杭木弐千四百本若宮政右衛門・京脇元右衛門払、空俵千弐百枚和泉や払

一金拾三両ト九匁九分弐厘
銭六貫五拾七文
是ハ波打除丈夫附買土代、柵杭木竹代、人足ちん共

一銀壱貫八百六拾六匁八分
是ハ用水掛樋三ヶ所伏替、前毛・鼻ヶ橋圦繕ひ除小圦三ヶ所伏替諸入用弁金

一金拾両ト拾壱匁九分三厘
是は廿五間江浚入用割当り

一金九両ト拾弐匁九分壱厘
是は五日市前堤丈夫附敷地米代午・未・申三年分、弁五日市浦急破ニ付諸入用等割当

一銭七貫弐百拾三文
是ハ道改杭打人足賃

一金弐拾両
是ハ来春内除通自普請入用弁廿五間江浚入用等積り入

一金六両壱分ト九匁六分五厘
是ハ小坪圦先江浚堤丈夫附等入用内輪割当り

一銭四拾九貫四百六拾六文
是ハ深溜り之節除囲ひ、押越除番、用水人夫共

一同五貫七拾六文

是ハ松明三百拾丁、縄三十五束代、豊蔵払

一金壱両
是ハ養老谷水行一件ニ付諸入用積り入

一銭拾四貫八百三拾九文　常右衛門引請
是ハ外本田・和田本田用水堰掛諸色人足ちん

一同拾五貫弐百五拾七文
是ハ用水江浚人足賃弁圦先藻苅人足賃共

一金弐両
是は番人家造作弁夜廻り手当共

一金壱両弐分
是は田面番

〆金八拾七両三分
銀七貫八匁三分弐厘
此金百拾六両三分ト拾匁八分弐厘
銭弐百八拾壱貫九百八拾六文
此金四拾壱両三分ト壱匁五分七厘

合金弐百四拾六両壱分ト拾弐匁三分九厘
両ニ石弐斗六升替
此米三百拾石五斗三升五合

米入用

一壱斗七合　三社御鏡餅
一壱升八合　御鍬御鏡餅
一弐斗六升八合　宮代御初穂

一三斗　両寺御鏡餅
一三斗壱升三合　大牧井領
一壱石四斗壱升七合　有尾井領
一壱斗　掛樋番三ヶ所
一弐石三升壱合　小坪井領
一拾弐石　庄屋両人役料
一六石　組頭四人役料
一五石　定使両人給米
一五斗　米斗給米
一四斗　御堤草番
一壱斗五升　除坂番
一弐斗　米斗飯米
一弐斗　浜帳附
一壱斗九升三合　御堤草番増
一弐斗弐升五合
　是ハ除内用水新江敷地年貢
一四斗壱升五合
　是ハ右同断大野村借地年貢
一弐石六斗三升
　是ハ所々用水新江敷地幷新道敷地年貢共
一弐石七斗六升八合
　是ハ小坪坂守給其外井領足米等輪中割当り
一壱斗六升壱合
　是ハ村方見ならし検見飯米
一八斗弐升
　是ハ田面村内小坂小橋掛替繕ひ大工飯米
一三石弐斗壱升六合
　是ハ御年貢米弐百六拾八石、壱石ニ付壱升弐合足米
一弐石
　是ハ年中庄屋・組頭寄合飯米受取定置
一壱石三升四合
　是ハ本田用水立揚荒地年貢幷除水囲土取跡荒地年貢共
一三斗三升弐合
　是ハ雑用割日庄屋・与頭・百姓代寄合飯米
〆四拾弐石七斗九升八合
合米三百五拾三石三斗三升三合
内　壱斗弐升　上之郷年貢
　壱石弐斗壱合　出作壱ツ掛り
　〆　壱石三斗弐升壱合
残米三百五拾弐石壱升弐合
高千弐百六拾四石九升九合　本田新田
　外正行院高引有
高百弐石弐斗五升七合　未新田元高
〆千三百六拾六石三斗五升六合

高概弐ツ五分七厘六毛三
古高四百四拾五石ニ取
一米百拾四石六斗四升五合　本田当
高三百三拾三石弐斗七升
高ニ三ツ四分三厘
残米弐百三拾七石三斗六升七合
内
見取四町九反九畝弐分
反ニ五分取
代銀廿四匁九分五厘
代米五斗弐升四合
残米九百三拾六石八斗四升三合
高九百三拾石七斗七升九合　新田
高百弐石弐斗五升七合　未新田
〆千三拾三石三升六合
高九百三拾石七斗七升九合
一米弐百拾三石四斗弐升八合　新田当
高ニ弐ツ弐分九厘三毛
高百三拾八石九斗六升四合
一米廿三石四斗壱升五合　未新田
高ニ壱ツ六分八厘四毛九六
村直段
一本米両ニ壱石弐斗六升替
一銭両ニ六貫七百五拾文替
右之通相違無御座候、以上

酉　正月

下笠村頭百姓　田中權之右衛門
同村庄屋　田中文左衛門
同　断　北垣彦作
同村組頭　兵右衛門
右村組頭　元四郎
同　断　豊治郎
同　断　文彌
右村頭百姓　小野作兵衛
同村百姓惣代　長兵衛
同　断　常三郎
同　断　伴右衛門
同　断　新兵衛
同　断　清兵衛
同　断　治郎吉
同　断　元右衛門

石川小兵衛様
御陣屋

二五八　栗笠村免割幷村懸り諸入用帳

〇栗笠　高橋嘉幸氏所蔵

（表紙）「　元禄十五午ノ年免幷村懸り諸入用帳　」

一高八百六拾五石五斗八升　栗笠村

取米弐百五拾壱石五斗八升三合　高ニ弐ツ九分六毛よ

一高九拾九石七斗七升五合　同所新田

取米弐拾三石八斗三升　高ニ弐ツ三分八厘八毛よ

金拾六両　銀壱匁四分
一拾弐石壱斗七升八合　夫銀米
金三両　拾弐匁弐分八リン
一弐石四斗三升六合　同利金
金拾弐両三分　四匁弐分
一九石七斗四升三合　堤金
金拾壱両　拾三匁
一八石五斗弐升五合　伝馬金
金壱両弐分　十匁三分
一壱石弐斗七升壱合　同利金

一七石　庄屋給
一弐石　同人合力米
一壱石五斗　組頭給
一弐石　定使給
一五斗　村ニて用聞之者壱人
一三石五斗　なこや宿米

七貫弐百文
一壱石三斗三合
四貫弐百文
一七斗六升
三貫八百文
一六斗八升八合
弐貫六百文
一四斗七升
弐貫五百五拾文
一四斗六升六合
五貫文
一九斗五合
六貫九百文
一壱石弐斗四升九合
三貫五百文
一六斗三升四合
弐貫四百三文
一四斗三升五合
壱貫六百文
一弐斗九升

一壱斗七升
一弐斗
一弐石壱斗
一拾九石五斗弐升
一（マヽ）
一八斗八升
一壱石弐升七合
一壱斗三升八合

一弐斗壱合
弐貫三百五文
一四斗壱升七合

庄屋なこや行道中遣
与頭なこや行道中遣
諸事飛脚日用
旁々渡し舟とい
度々用水・井せき人足日用
用水・井せき土俵なわ代
大水出之節土俵・くい木・明松代
大水出之節玖番人足日用
氏神湯立之節入用
禰き湯銭幷宮代・多賀・愛宿（宕カ）初尾
禰宜宿造用代
伊勢屋敷年貢
三人小ありき
麦金まとい

有尾村へ遣ス江代
小坪古堤年貢
小坪村へ遣ス江代まとい
同検見不足
輪中入用割当

但シ、水出候節圦番人足、井桁かこい人足、土俵・明松
諸事とも
金弐両壱分　九匁九分
一壱石八斗三升五合　南都奉加
金四両壱分六匁　四捨六両御用金利
一二石三斗三升九合
播州様御金利
一七斗六升
拾五貫弐百三拾文
一弐石七斗五升七合
銀拾壱匁九分
一壱斗五升壱合
銀八匁九分七厘
一壱斗壱升四合

一七石
弐分六匁
一四斗五升六合
壱分拾壱匁
一三斗弐升九合
四百四拾文
一八升

壱貫五百文
一弐斗七升弐合
六百三拾四文
一壱斗壱升五合
三貫四百文
一六斗壱升五合
五百文
一九升壱合
弐貫四百八拾四文
一四斗五升
弐両壱分　壱貫文
一弐石弐斗八升
弐両壱分　弐百廿八文
一壱石九斗四升五合

鼻ヶ橋圦ふせ手伝金運ちん諸事共

鳥御運上

池御運上

御城米御蔵幷運ちん諸事共

村扣橋かけ直し代

烏江より牧田迄御材木雇人足

右之節馬四疋駄賃

結渡場人足御用日用代

右之節なわ俵御用

右之節舟御用増シ水主日用

右之節庄屋・与頭罷越候宿米代

村中夜番油代

村中小日用駄賃輪中悪水落江通もかり諸事共

午ノ年御麦成ノ内さし上ケ申候

巳ノ暮ヶ拝借仕候三役金ノ内午ノ年出分

金八両
一六石八升

米〆百拾壱石壱斗七升五合
高九百六拾石八斗四升九合ヶ割ル
高ヶ壱ツ壱分五厘七毛

米相場七斗六升かへ
銭四貫弐百文かへ

御用金
一金四拾六両　亥子之年夫食麦金ヶ拝借、元金御借居利足さし上ケ申候
内三十六両　利一わり
内十両　利八分

御用金
一金拾六両　当年より寅ノ年迄壱ケ年ヶ金弐両ツヽと利足相添さし上ケ申候
内八両　利一わり
内八両　利八分

御用金
一金三拾弐両壱分　当未年より戌年迄四年ヶ利なしヶさし上ケ申候

御用金
一金弐拾五両　利八分　当未ノ春拝借仕候

右之通相違無御座候、以上

未ノ三月

栗笠村庄屋　二郎左衛門
同村与頭　平助

（表紙）
「元禄十六未之年御免幷村懸諸入用帳
栗笠村あと書」

一高八百六拾五石五斗八升　　栗　笠　村
　取米弐百七拾九石四斗弐升六合　高ニ三ツ弐分弐厘八毛ヨ
一高九拾九石七斗七升五合　　同所新田
　取米弐拾六石六斗四升　　高ニ弐ツ六分七厘
金拾六両　銀壱匁四分
一拾四石壱斗壱合　　夫　銀
金三両　銀拾弐匁弐分八リ
一弐石八斗弐升　　同利金
金拾弐両三分　銀四匁弐分
一拾壱石弐斗八升弐合　　堤　銀
金拾壱両　銀拾三匁
一九石八斗七升壱合　　伝馬銀
金壱両弐分　銀拾匁三分
一壱石四斗七升壱合　　同利金
一七石　　庄屋給
一弐石　　与頭給
一弐石　　定使給
一弐石　　小あるき給　弐人
　名古屋
一三石五斗　　宿米
一九斗六升　　庄屋名古屋行道中つかい
一九斗　　与頭名古屋行道中遣ひ
一七斗弐升　　度々名古屋ぇ飛脚日用
一五斗弐升　　旁々渡船とい
一四斗壱升　　用水いせぎ　土俵代・縄代
一八斗　　同人足日用
一壱石八斗三升五合　　水出之節土俵・たいまつ・くい木

一六斗九升九合　　水出之候圦番・堤番日用
一四斗八升壱合　　氏神度々湯立之節入用
一三斗弐升　　宮城(代)・多賀(宿カ)・愛宿禰宜初尾
一壱斗七升　　禰宜度々宿米
一弐斗　　伊勢や屋敷年貢
金三両三分　銀五匁六分
一三石三斗八升弐合　　麦金弐拾九両、銭九百三文さし上ケ
一拾壱石四斗壱升　　申候利金
一八斗八升　　麦納りニてあいまとひ
一壱石弐升七合　　有尾江代
一壱斗三升八合　　小坪村古堤年貢
一弐斗五合　　小坪村へ被遣候江代まどい
一壱斗七升八合　　小坪検見不足
金四両壱分　銀九匁
一三石八斗弐升八合　　輪中小坪より割当り
金壱両　七升弐合　　御用金四拾四両利金
一八斗八升　　播州様御金利金
金弐両壱分　銀拾壱匁四分
一三石弐升七合　　御用金四拾三両
銀拾壱匁九分　　鳥御運上
一壱斗七升五合　　池御運上
銀八匁九分七リ
一壱斗三升弐合　　御城米運賃御蔵入共ニ
一七石五斗三升弐合　　村橋かけ直シ
金弐分弐朱
一五斗五升　　村中十月より夜番油代
金三分
一六斗六升

金壱両
一八斗八升
金壱分　銀拾匁六分八厘
一三斗七升五合

金八両　銀六匁
一七石壱斗弐升八合

一壱石四斗七升
一六斗五升六合
一壱石壱升弐合

米〆百九石六斗三升壱合　高ニ壱ツ壱分四厘一毛よ
　米相場両ニ八斗八升替　九百六拾石六斗九升弐合ニ割
　銭相場両ニ四貫四百文替

御用金拝借
一金四拾四両　御利壱わり
同　断
一金四拾三両　御利八分
播州様御金拝借
一金拾両　御利壱わりツゝ指上ケ申候
三役銀
一金弐拾四両　銀九匁　壱ケ年ニ八両三匁ツゝ利なしニ指上ケ申筈ニ御座候

右之通少も相違無御座候、以上

元禄十七年
申正月

濃州栗笠村庄屋　次郎左衛門
同断与頭　平　助
同断頭百姓　彦左衛門
同　清九郎
同　九兵衛

輪中悪水落江さらへ・もかり日用上かぢ麦弐石之代金弐両ト銭五百三文さし上け申候利金

巳之暮拝借仕候三役銀之内、未之年さし上ケ申候

高木五郎左衛門様勢州川筋へ御通之節、上下御馬継人足駄賃・人足賃

餅米名古屋ニて買入申まとひ

去々午ノ春秋御堤築申候日用金之内残り、去未之暮被下候利金之まとひ

同　伊太夫
同　藤兵衛
同　利右衛門
同　權三郎

松永惣右衛門様
半田市郎右衛門様

高〆九百六拾五石三斗五升五合
　三石九斗六升弐合　刁ノ砂入証文引
内五斗四升四合　堤敷地引
　壱斗五升七合　堤敷地引
残而九百六拾石六斗九升弐合也
　是ハ上ケ帳ニハ書不申候

無得代事

一一五九　有尾村小入用帳

〇安八郡輪之内町　片野記念館所蔵

（表紙）
「
多藝郡
有尾村未年小入用帳
十二月
」

元禄拾六年

一金弐両三分銀三匁　庄屋給米
此銭拾弐貫三百拾九文　弐石八斗
一金壱両　年寄給米
此銭四貫三百文　壱石
一金壱匁　銀九匁　定使給米
此銭四貫八百五拾八文　壱石一斗五升
一銭弐百三拾七文　正月十六日帳面紙代、すみ・筆代
一銭百六拾八文　正月十六日たはこ畑帳面差上ケ之時
三郎兵衛笠松へ参、一夜泊宿ちん昼
休遣
一銭百四拾三文　正月廿三日御三分一金銭小物成御口
米代、御□是時彦市笠松へ参、一夜
泊り宿賃昼休遣、銀拾一匁四分□金
壱両銀拾匁四分、桑名水落訴訟人割
符金
一金三両　銀拾匁　金壱両三分銀三匁弐分
此銭拾三貫九百三拾三文　大仏勧地金百石□□両様
一銭百五拾九文　右金御上納時彦市笠松へ参、一夜泊
宿賃昼休遣
一銭三百四拾文　三月四日下池訴訟之義ニ付、彦市・
三郎兵衛笠松へ参、一夜泊り宿賃昼
休遣
一銭六百文　三月十六日下池訴訟之義ニ付、彦市
・三郎兵衛百姓弐人笠松へ参、一夜
宿賃昼休遣
一銭八百八拾文　三月十六日御城米津出シ、半十郎桑
名参宿賃、上下昼休遣
一銭五百九拾文　御城米弐拾石弐斗五升六合、大野村
より桑名迄川船うんちん
一銭三百七拾弐文　四月七日より九日迄麦毛御訴訟ニ付
三郎兵衛笠松へ参、二夜泊宿賃昼休
遣
一銭五百拾八文　四月熱田御籾大野村より熱田迄舟賃
上乗之者雑用割符当り
一銭百文　四月十四日横屋村懸坈之義ニ付、御
訴訟ニ彦市笠松へ参り日帰り宿賃昼
休遣
一銭百八拾文　四月十五日横屋村懸坈之義ニ付、御
堤方衆より御召被成候時分彦市笠松
へ参、一夜泊宿賃昼休遣
一銭百七拾弐文　五月廿四日大場新田坈手間賃上納之
時分、彦市笠松へ参、一夜泊り宿賃
昼休遣
一銭壱貫五百拾三文　金壱両、銀五匁六分四厘、七月廿五日

一銭百七拾文

一銭百七拾五文

一銭弐百五拾文

一銭百五拾文

一銭六百三拾文

一銭三百四拾文

一銭百六拾七文

一銭百七拾文

一銭百六拾文

一銭弐貫五百六拾四文

小役金ニ上ル

右金子御上納之時分彦市笠松へ参、一夜泊り宿賃昼休遣

八月廿五日御検見神門之時彦市笠松へ参、一夜泊宿賃昼休遣

八月廿五日帳面紙・すみ・筆代

九月御国役被仰付候節、堀津村ゑ三郎兵衛参、一夜泊宿賃昼休遣

十月十五日下池御訴訟之義ニ付、彦市・三郎兵衛笠松へ参、二夜泊宿賃昼休遣

十一月八日下池御訴訟之義ニ付、彦市・三郎兵衛笠松へ参、一夜泊宿ちん昼休遣

十一月十日御免定之時、三郎兵衛笠松へ参、一夜泊り宿賃昼休遣

十一月廿二日御種借代金御上納、彦市笠松へ参、一夜泊り宿ちん昼休遣

十二月二日御三分一金御上納之時分三郎兵衛笠松へ参、一夜泊宿賃昼休遣

金弐――御国役堤御扶持方へ被置下候得共五兵へまとい分

一銭六百文

一銭三百六拾七文

一銭七百文

西深瀬慈明院様勧進ニ上ル

野上道日用代

大野村・塩喰村・大藪村札頭給

村高三百六拾石六斗六升

惣銭〆四拾八貫七百参拾八文

但　有高百三拾七文四分

本高百廿九文八分

右は有尾村未年正月より十二月迄小入用、惣百姓・出作之者迄立合吟味仕衆々ニ割合相違無御座候、此外村割ニ出し候物何ニても無御座候、自然別帳仕割合候と申もの御座候ハヽ、此連判之者迄如何様之曲事ニも可被仰付、為其庄屋・年寄・組頭・惣百姓連判仕上り申候、以上

此右書をすへゑ遣し可申と存候

源　四　郎様

元禄拾五年
未十二月

有尾村庄や　彦　市
同村年寄　三　郎　兵　衛

笠松
御奉行様

高壱石五斗弐升
一銭弐百拾七文　利　兵　衛

高四斗
一銭五拾五文　次　左　衛　門

高五石六斗四合
一銭八百弐文　新五左衛門

高四石八斗六升七合
一銭六百九拾文　彦　兵　衛

高弐斗八升
一銭三拾八文　善　助

高拾九石壱斗六升三合
一銭弐貫六百五拾七文　明楽寺

高四石八斗四升三合
一銭六百八拾九文　源　十　郎
高三石壱斗弐升
一銭四百四拾五文　曾　平
高九石六斗八升六合
一銭壱貫三百八拾三文　源　内
高六石七斗四升七合
一銭九百六拾三文　市右衛門
高弐斗八升
一銭三拾八文　次　郎　平
高拾石壱斗弐升三合
一銭壱貫四百四拾七文　三郎兵衛
高拾五石九斗四升
一銭弐貫弐百七拾八文　彦　市
高拾石四斗三升七合
一銭壱貫四百九拾文　源四郎
高四斗九升七合
一銭六拾八文　所左衛門
高五斗七升三合
一銭七拾八文　甚五兵衛
高壱石八斗弐升七合
一銭弐百五拾九文　作左衛門
高弐斗六升三合
一銭三拾六文　甚　十　郎
高三斗七升三合
一銭五拾壱文　文　十　郎
高拾石弐斗弐升
一銭壱貫四百六拾文　源太夫
高弐石七斗九升七合
一銭四百文　半　六
高五石九斗壱升三合
一銭八百四拾四文　加左衛門

高拾五石四斗三升四合
一銭弐貫弐百六文　八　太　夫
高拾七石三斗
一銭弐貫四百七拾三文　傳右衛門
高七石六斗三升二合
一銭壱貫八拾六文　半　平
高三石壱升七合
一銭四百三拾文　清　八　郎
高九石五斗壱升三合
一銭壱貫三百五拾九文　清　太　夫
高拾六石弐斗四升八合
一銭弐貫三百廿四文　八左衛門
高四斗五升六合
一銭六拾三文　金　作
高七斗四升三合
一銭百六文　源　三　郎
高壱斗三升
一銭拾八文　理左衛門
高五石
一銭七百拾文　八　兵　衛
高五升
一銭六拾八文　與　太　郎
高三斗壱升七合
一銭四拾三文　磯右衛門
高壱斗三升七合
一銭拾九文　六　平
高弐石四斗七升
一銭三百五拾壱文　助右衛門
高弐拾石六斗四升
一銭弐貫九百五拾弐文　曾　平
高三斗八升九合
一銭五拾三文　吉　兵　衛

高五石八斗三升
一銭八百三拾三文　甚　内
高四石八斗四升三合
一銭六百八拾九文　平右衛門
高九石壱斗壱升
一銭壱貫三百九文　九　兵　衛
高六石壱斗
一銭八百六拾弐文　伊　三　郎
高四石
一銭五百六拾九文　孫　六
高弐石五斗五升三合
一銭三百六拾三文　勘　兵　衛
高四石九斗
一銭七百壱文　宇右衛門
高拾四石三斗八升
一銭弐貫廿八文　勘右衛門
高弐拾弐石弐斗壱升三合
一銭三貫百七拾六文　作左衛門

高弐石壱斗四升七合
一銭三百七文　太　兵　衛
高拾石九斗壱升七合
一銭壱貫五百六拾文　七郎右衛門
高弐石壱斗三合
一銭三百壱文　惣　吉
高弐石壱斗五升三合
一銭二百八文　七郎兵衛
高拾三石六升
一銭壱貫八百六拾六文　次　平
高拾石五斗弐升七合
一銭壱貫五百六文　仁右衛門
高五石
一銭七百拾文　甚　十　郎
高四石三斗五升
一銭六百廿弐文　八　兵　衛

二八〇　金屋村入用帳

○金屋　西脇和夫氏所蔵

（表紙）
一　天明四年
美濃國多藝郡金屋村辰年村入用帳
辰　正月

覚

一当辰正月より同極月迄村入用、当座此帳面載割合可申事
一人馬遣之儀、兼々被　仰付候通米金割不仕、高割可仕事、御伝馬は別て入念可申事
一諸勧進奉加之儀、高割不仕、其宿割相応遣候様可仕候、百姓寄合酒肴給之村割仕間敷事
一地方諸役人御用ニ付罷出候節、泊り休米代木銭有之候間、村入用無之筈、勿論馳走ヶ間敷儀仕間敷候
右之通急度相守可申候、若別帳仕置割合仕候は、吟味之上急度可申付候、以上

天明四年
辰正月　　信楽役所　印

右之通被仰渡奉畏候、庄屋・年寄立会吟味仕費無之様可仕候、以上

金屋村百姓代　安兵衛㊞
年寄　儀兵衛㊞
庄屋　彌十郎㊞

正月十七日
一銭七百四拾八文　筆墨紙代
　是ハ御廻状留人馬帳筆墨紙相払申候
正月廿八日
一銭六百九拾文　笠松行
　是ハ御普請御用ニ付罷出、二泊一昼宿払小遣相払申候

壬正月十三日
一弐貫四百拾八文　關ヶ原道・野上道
　是ハ中仙道・關ヶ原道・野上道掃除場村人足之外、雇人足仕立申候賃銭払申候
二月朔日
一銭四貫八百文
　是ハ御用ニ付大津御役所様ゑ罷出候節、宿払小遣相払申候
二月十六日
一銭弐貫九百三拾五文　關ヶ原道・野上道
　是ハ紀州様御上り之節、右両道橋掃除場村人足之外雇人足ニて仕立申候、賃銭相払申候
三月三日
一銭拾五貫八百三拾九文
　是ハ紀州様御通行、今須宿人馬継立雇賃銭請負勘兵衛方へ相渡、則目録請取書御座候
三月朔日
一銭八百三拾弐文　笠松遣ス
　是ハ春役御普請ニて罷出候、泊昼共宿小払仕候
五月十三日
一銭壱貫六百弐拾四文　關ヶ原道、野上道
　是ハ御茶壺御通行ニ付、今須継人足之外相払申候
五月廿八日
一銭五貫五百六拾六文
　是ハ御茶壺御通行ニ付、今須人足雇継立請負勘兵衛方へ相払則請取書御座候
七月九日
一金壱両弐分　四匁三分
　是ハ当月迄郡中寄合村々御用ニ付、惣代ニて相勤申候、入用筆墨紙村々寄合雑用割出申候

七月十日
一金五両弐分ト拾弐匁三分
　是ハ悪水落自普請ニ仕候、三ヶ村割符相払申候
七月十七日
一銭三拾九貫六百八文
　是ハ出水之節、御堤欠所囲諸色銘々へ相払申候
七月十八日
一銭四貫四百文
　是ハ信楽御役所様御引渡御用ニ付、宿払・小遣相払申候
八月八日
一銭四貫四百文
　是ハ信楽御役所様御用ニ付罷出申候、宿小遣相払申候
十一月廿八日
一銭四貫七百八拾九文
　是ハ七月より十一月迄郡中組合村々御用ニ付、惣代ニて相勤申候、入用筆墨紙代寄合雑用割合出申候
十二月十八日
一金三分ト六匁五分
　是ハ御用飛脚持出シ人足賃相納申候
十二月廿六日
一銭三拾八貫百五拾三文
　是ハ年内御大名様御通ニ付、今須助郷人馬雇継立賃銭請負勘兵衛方へ相払、則目録受取置申候
十二月廿六日
一銭壱貫弐百四拾文
　是ハ宗門帳五人組帳筆墨紙代相払申候
同
一金四両壱分ト銭五百弐拾文
　是ハ御堤小破之節、修覆村方取繕竹杭木代相払申候
一銀拾壱匁五分
　是ハ定弐人馬賃銭笠松堤方御役所へ差出申候
一銭四貫八百文
　是ハ年内度々寄合雑用代ニて御座候
一金四両
　是ハ庄屋給米代金
一金弐両
　是ハ定遣給米代金
一銭壱貫弐百文
　是ハ室原・祖父江・佐渡・墨俣四ヶ所船渡賃相払申候
銭〆百三拾四貫五百八拾弐文
金〆拾八両弐分ト四匁六分
　此銭百拾三貫三百拾七文
掛高三百五拾九石壱斗四升六合
合弐百四拾七貫九百三文
　此割高壱石ニ付、銭六百八拾六文六分宛
一金壱両ニ付　銭六貫百文替
一金壱両ニ付　銀六拾匁替

嘉　吉㊞　彌　十　郎㊞
（以下連名三段組トス）
孫　六㊞　玉　泉　院㊞　孫　吉㊞
大　教　庵㊞　重左衛門㊞　用　助㊞
庄左衛門㊞　五　兵　衛㊞　彌　惣　八㊞

善三郎㊞　伊與八㊞　き　く㊞
は　な㊞　兵　六㊞　す　て㊞
儀兵衛㊞　は　つ㊞　龜右衛門㊞
安兵衛㊞　利　八㊞　妙　正㊞
藤太夫㊞　丈左衛門㊞　忠　七㊞
源右衛門㊞　九右衛門㊞　八郎治㊞
西徳寺㊞　徳願寺㊞　正覺寺㊞
源治郎㊞　林左衛門㊞　新治郎㊞
權　次㊞　喜右衛門㊞　長　八㊞
文　次㊞　林　助㊞　又　藏㊞
六十郎㊞

右は、当辰年村入用庄屋・年寄・大小之百姓立会、吟味仕割合候処、少も相違無御座候、右之外別帳を以割合仕候品一切無御座候、依之惣百姓連印仕差上申候、以上

多藝郡金屋村百姓代　安兵衛㊞
天明四年　年寄　儀兵衛㊞
辰十二月　庄屋　彌十郎㊞

信楽御役所

二六一　金屋村諸割賦定書

〇金屋　西脇和夫氏所蔵

（表紙）「　安政二卯年
郡々惣代共ゟ被仰渡書、多藝郡惣代幷一郡御休泊、其外諸割賦相定書之写、本紙は小倉村三良右衛門方ニ有之候事
二月　多藝郡　金屋村扣　」

乍恐以書付奉願上候

多藝郡七ヶ村組合外根古地新田・大跡新田都合九ヶ村之義、惣代ニて御用可相済義は、定惣代小倉村庄屋三郎右衛門外両人ツヽ村々廻りニて相勤候段御願奉申上置、右相勤来り候処、此度根古地新田一ヶ村立御願申上度義ニ付、外八ヶ村組合惣代之義は是迄之通り御聞済被成下置候様奉願上候、尤廻り惣代之義、当正月より来ル十二月迄金屋村庄屋十左衛門、飯積村庄屋佐兵衛相勤申度候間、右願之通御聞済被下置候儀、組合一同奉願上候、以上

安政二卯年二月

多藝郡飯木村庄屋　久　藏
明徳村庄屋　多　三　郎
大坪村年寄　林左衛門
祖父江村庄屋　彦　兵　衛
飯積村庄屋　佐　兵　衛
金屋村庄屋　重左衛門
小倉村庄屋　三郎右衛門

笠松
御役所

乍恐以書付御届奉申上候

今般郡々組合惣代名前幷一ヶ村立之儀共、取調可奉願上旨被仰渡候ニ付、則別紙を以奉願上候処、願之通御聞済被成下置、一同難有仕合奉存候、附ては組合一ヶ村立村共、御休泊人足御継立之儀共互ニ助合仕候様熟談仕候ニ付、則請高左之通規定仕候

一御検見御休泊人足御継立之儀
　但　弐分通　村割
　　八分通　毛附反別割
　　附荒地段免幷年々不作地不足除之
一御廻米御休泊尻抱
　但　弐分通　村割
　　八分通　御廻米川下辻割
一荒地定取御改御休泊人足御継立尻抱
　但　三分通　村割
　　七分通　荒地段免割
一臨時御休泊人足御継立之儀は
　但　弐分通　村割
　　八分通　草高割
一御休泊之節他郡ゟ御迎、御送り共壱里壱人ニ付、銀五分ツヽ割合を以助合可申事

右は多藝郡之内何方村ニ御座候共、前書之通双方示談之上取極メ、已来割合方差支無之様睦敷仕候間、為後年之取極書一札奉差上候、以上

安政二年（ママ）卯年二月

多藝郡八ヶ村組合惣代
小倉村庄屋三郎右衛門
金屋村庄屋重左衛門
飯積村庄屋佐兵衛
四ヶ村組合惣代
有尾村庄屋武右衛門
壱ヶ村立
大跡村庄屋八十八
右同断
根古地新田庄屋利左衛門

笠松
御役所

御休泊尻抱規定之事

一御検見之節、御休泊御壱人前ニ付銀拾八匁ツヽ但御昼御壱人前銀七匁五分ツヽ
　此割　内　弐分通　村割
　　八分通　毛附反別割
　　附り、荒地定免幷年々不作地不足之分除之、右之外
一荒地定取御改之節、御休泊尻抱上下御四人分壱泊り、銀百弐拾匁之極メ
　但　三分通　村割
　　七分通　荒地段免割
一御廻米御改之節御休泊尻抱、前同断

但　弐分通　村割
　八分通　川下米辻割
一臨時御休泊之儀も尻抱前同断
　但シ　弐分通　村割
　　八分通　草高割
一御休泊之節、他郡ゟ送迎人足賃壱里壱人ニ付銀五分之極メ
一御休泊之節下宿入用尻抱之義ハ銀六拾匁之極メ
右之通今般ヶ条相立改て約定致し候上は、以来決て違約不可致万一先規之通御支配替ニ相成候節ハ、組合之儀は是又先年之通取極メ置、熟談仕候間、相互ニ六間敷致合、実意ヲ以万端取斗方可致候、依之一同連印、為後年取替セ証文差出候、仍如件

安政二年卯二月

多藝郡八ヶ村組合
惣代小倉村庄屋三良右衛門　印
金屋村庄屋重　左衛門　印
飯積村庄屋佐　兵　衛　印
同郡四ヶ村組合
惣代有尾村庄屋武　右衛門　印
同郡大跡村　庄屋八　十　八　印
同郡根古地新田　庄屋利　右衛門　印

右之趣キ、拙者共立入規定之通相違無御座候間、奥印致置候、以上

桑名郡金廻村庄屋
金所詰　小　十　郎　印
　　金　右衛門　印

申渡

郡中惣代共之義は、御役所ニおゐて支配所一躰、又は一郡一躰ゟ申渡等有之歟、其外納物等ニて左迄入組不申御用之節は、村限ニ役人とも罷出候ては、多分之雑費相懸り可為難義ニ付、惣代之者立置候義ニて、銘々組合数ヶ村之御用筋壱人ゟ引請罷出候上は、身分慎方之義ハ不及申、都て上納物諸勘定等之儀格別入念、組合村ゟ対し権威ヶ間敷義不致、如何ニも正路ニ相勤不依何事他より疑惑無之様可心掛は勿論、御役所ニおゐて申渡候義は、帰村之上村々役人ともゟ事柄不行違様具ニ申通、組合一同和融いたし、公事出入等無之様寄々申諭し、且又郡中入用見届割賦等之義ニ付、御役所より呼出し候節は、日限時刻無遅滞罷出着之趣相届可及評議儀は、銘々私之存意を離れ、郡中之為筋可相成義を専一ニ心懸、速ニ評決致し、御用済次第届之上直ニ帰村いたし、惣代入用をも可成丈ケ相減し候様可致、右躰申渡候も郡中之費を省、往々村柄立直り、聊之災害ニは御時節柄容易ニ拝借物等不相願、村々自力ニ取続出来候得候ハヽ、自ラ村為ニも相成候間、郡中入用遣払、并減方等之儀も呉〳〵及世話候義ニ付惣代共ニおゐても右等之趣厚相弁、実意ニ郡中之為筋を存量、身分を慎ミ諸事正路ニ相勤、組合村々者亀鑑ニも相成候様可致候、万一右申渡を背心得違之もの於有之は、惣代差免急度可及沙汰条可得其意候、

右被　仰渡之趣一同承知奉畏候、仍御請証文差上申処如件

安政二卯年正月　　郡々惣代　連　印

二六二一　喜多村宗門入用割賦帳

〇勢至　野村辰夫氏所蔵

（表紙）「天保五甲午年
喜多村宗門入用割賦帳
十二月　　名主文平」

覚

一銀弐匁六分六厘　請判入用　一同壱匁八分九厘　勧化〆
一同五匁　書賃　一同弐匁四分　紙代
〆拾壱匁九分五厘
此銭壱貫三百九拾文　丁銭壱貫三百三拾八文
右ヲ人数四拾弐人ニ割、壱人ニ付三拾壱文九分ツヽ

右割賦

八人　一弐百六拾三文　林右衛門
壱人　一三拾弐文　多　三　良
弐人　一六拾四文　八　良　次
五人　一百六拾三文　次良左衛門
七人　一弐百三拾壱文　丑　之　助
三人　一百文　宇　吉
三拾弐人　一百文　與　八
〆壱貫三百九拾壱文
内　五百三拾文　太三良取之
八百六拾壱文　文平取之

二六二三　押越村入用平均書上帳

〇押越　渋谷保之氏所蔵

（表紙）「天保十四年
村入用平均書上帳
卯六月　　多摩郡　押越村」

寛政九巳年入用
一金百拾四両弐歩銀七匁五分六厘
同十年年同断
一金百弐拾弐両銀九匁八分壱厘
同十一未年同断
一金百四拾両銀八匁壱分五厘
右三ヶ年平均壱ヶ年
金百弐拾五両弐歩銀八匁壱分七厘
丑寅弐ヶ年平均之分
差引金弐百弐拾八両壱歩銀拾四匁五分六厘　増
（下ゲ札）「寛政九巳年　文政元寅年
同十年午　小入用帳　同二卯年　小入用帳
同十一未年　同三辰年

天保元寅年　小入用帳　天保十二丑年　小入用帳
同二卯年
同三辰年

都合拾壱ヶ年分御役所印附差上申候　」

文政元寅年入用
一金弐百三拾弐両弐歩銀拾弐匁七分三厘
同二卯年同断
一金弐百三拾四両壱歩銀弐匁壱分
同三辰年同断
一金弐百拾六両銀拾四匁弐分四厘

右三ヶ年平均壱ヶ年

金弐百弐拾七両弐歩銀拾四匁六分九厘

丑寅弐ヶ年平均之分

差引金百弐拾六両壱歩銀八匁四厘　増

天保元寅年入用
一金弐百七拾弐両弐歩銀拾三匁四分二厘
同二卯年同断
一金弐百五拾九両銀拾匁五分三厘
同三辰年同断
一金弐百八拾六両壱歩銀九分壱厘

右三ヶ年平均壱ヶ年

金弐百七拾弐両弐歩銀拾三匁弐分九厘

丑寅弐ヶ年平均之分

差引金八拾壱両壱歩銀九匁四分四厘　増

天保十二丑年入用
一金三百七拾五両弐歩銀六匁七厘
同十三寅年入用
一金三百三拾弐両弐歩銀九匁三分八厘

右二ヶ年平均壱ヶ年

金三百五拾四両銀七匁七分三厘

右之通平均奉言上候通相違無御座候、以上

天保十四年
卯六月

押越村庄屋　信　七㊞
同断　利　蔵㊞
年寄　安左衛門㊞
百姓代　兵　助㊞

大垣
御預御役所

二六四　横屋村・有尾新田鳥威入用割符帳

○安八郡輪之内町　片野記念館所蔵

（表紙）
「　文化三年
寅年　鳥威入用割符帳
極月十七日　」

寅年鳥威入用

一銭四貫三百七拾弐文　鳥威人足賃
七拾夜賃銭
壱人六拾文ツヽ

此銀三拾六匁九分四厘

一銀拾弐匁　合薬弐袋
一同六匁三分　同　壱袋

一銭百文　　火縄三わ
　此銀八分四厘
一銭三拾五文　　同　弐わ
　此銀三分
〆五拾六匁三分八厘
　高六百十五石弐斗ニ割
　　高壱石ニ付銀九分壱厘六四
　　右　割　符
高四百弐拾七石九斗　　横屋村
一銀三拾九匁弐分壱厘
高弐拾三石三斗　　外　新田
一銀弐匁壱分四厘
高百六拾四石　　津屋新田
一銀拾五匁三厘
右は当寅鳥威人足代割符、書面之通相違無御座候、則割符表差引相済申候、為後日連印如件

文化三年
十二月十七日

横屋村庄屋　孫　九　郎㊞
同　断　藤右衛門㊞
百姓代　次　太　夫㊞
久　作㊞
有尾新田庄屋　清右衛門㊞
百姓代　定右衛門㊞

二六五　青蓮院宮養老瀧御遊覧

諸色村入用書上帳

○養老公園　村上辨二氏所蔵

（表紙）「　文化十二年
青蓮院宮様養老瀧御遊覧ニ付諸色村入用書上帳
亥六月　　地元　白石村　」

亥六月三日
青蓮院宮様　養老瀧御遊覧ニ付
仮一御遊覧所　壱間四方　　壱ヶ所
　此代銀三拾五匁
　　此訳
竹四本　九寸廻り　抱竹
　此銀四匁五分
同六本　六寸廻り　桁梁竹
　此銀弐匁五分
杉木貫木弐挺　長弐間、巾弐寸五分
　此銀弐匁
しやうし弐本　屋根雨樟子、但紙油代一式
　此銀八匁
　　三方囲并、屋根裏共
葭簾八枚
　此代銀拾弐匁

右仕立一式

大工弐人　　此銀六匁
　〆三十五匁

一御腰掛台　壱ツ　　長壱間　巾弐尺
　此代七匁三分五厘
　　此訳
杉板弐枚　敷板　　長壱間　巾壱尺
　此銀弐匁五分
松木四本　長壱尺五寸、弐寸角　足横桟共
　此銀壱匁五分
七寸針拾本
　此代三分五厘
大工壱人
　此代三匁

一同弐ツ　　長壱間　巾壱尺
　此代銀八匁九分五厘　是は御次之分
　　此訳
杉板弐枚　　長壱間　巾壱尺
　此代銀弐匁五分
松木拾弐本　　長壱尺五寸　弐寸角
　此代三匁
七寸針拾弐本
　此代四分五り

大工壱人　　一式
　此銀三匁

一近江表薄縁拾枚　　但壱枚ニ付代三匁ツヽ
　此代銀三拾匁

合銀八拾壱匁三分
　外
人足弐百七拾五人
　内
五拾五人　　滝元取繕人足
弐拾五人　　養老寺境内取繕人足
百九拾五人　　御通行筋谷川高石取除
　其外取繕新規道普請人足

右は此度　青蓮院宮様養老滝御遊覧ニ付、為御馳走御腰掛所其外御通行筋取繕、去ル三日無御滞御遊覧相済申候、右諸色村入用等御尋ニ付奉書上候処、書面之通相違無御座候、以上

文化十二年
亥六月

松下内匠御代官所
濃州多藝郡白石村庄屋　武十郎
年寄　磯八
百姓代　多十郎

御普請役
市村宗四郎様へ壱通

松下内匠様御手附
小野　良右衛門様
御同人御手代
原田　廣右衛門様

右御両所壱通關ヶ原宿ニおゐて書上申候

○救恤

一二六六　烏江村かつゑに御かし米触并割付覚

○烏江　吹原第三氏所蔵

御ふれ状うつし

一筆申ふれ候、然は、其村之内百姓高持・高なしニよらず、男女共ニ年六つより上之者かつへに及、五日・三日之内にも、死可申もの有之候は、右之庄屋・組頭としてかりかへ、一日ニ壱人ニ付銭五六文つゝのつもりニかし候て、死不申候様ニ可被仕様、さりながらかつへにも及不申候ものニハかし申間敷候、若いつわり申、かつへニ不及ものニ、むさと取かへかし申候との訴人有之候ハ、庄屋・組頭可為越度候間、よく〳〵きんミ仕、二三日之内ニも死可申ものニ斗かし可申候、御公儀より少つゝ御かし米被成候間、近日我等持参いたし、相渡し可申候、以上

三月十四日　　松（松原彌市右衛門）彌一右

すの又村
まきた村
からすへ村
くりかさ村
舟つき村
よこそね村

右庄屋中

此状見申候は、さき〳〵へてんをかけ、廻し申され申へし、納所之村より此方へ可為返候、以上、くりかさ村より十四日之亥之上刻ニ参候

かつゑニ及申ものニ御かし米割符之覚

小判二口合弐両弐分　銀六匁三分五りん

此銭拾弐貫四百七拾六文　但壱両ニ四貫八百文かへ

寛永弐拾年未ノ三月廿二日					
一三百文	彦　十郎	一三百文	小　八		
一百五拾文	三　十郎	一三百文	十　兵衛		
一三百文	三　九郎	一三百文	善　九郎		
一三百文	久　六	一三百文内弐百文不足	彦　平		
一弐百五拾文	傳　助	一弐百文	加右衛門		
一弐百文	五郎作	一三百文	茂兵衛		
一弐百文	二郎右衛門	一百文	長兵衛		
一百文	くす後　家	一弐百文	馬兵衛		

一弐百五拾文　小　兵　衛
一三百文　久右衛門
一百五拾文　た　つ
一弐百七拾六文　五　助
一弐百文　伊　兵　衛
一百文　六　藏
一百文　國　母
一弐百五拾文　市　藏
一四百文　九　藏
一四百文　小　助
一四百文　與　一　郎
一四百文　彦　作
一弐百文　三　助
一弐百文　九　助
一弐百五拾文　小　三　郎
一百文　又　二　郎
合拾弐貫四百七拾六文

寛永弐拾年
未三月廿二日

（寛永弐拾年未ノ年
烏江村万御改并御法度跡帳）

一弐百五拾文　彌　平　次
一三百五拾文　吉　兵　衛
一三百文　與　助
一弐百五拾文　喜　作
一弐百文　九　郎　助
一百文　大　藏
一百文　三　助　母
一弐百五拾文　又　兵　衛
一四百文　喜　藏
一四百文　市　助
一四百文　二郎左衛門
一四百文　孫　助
一三百五拾文　孫　兵　衛
一弐百文　九　助
一弐百五拾文　左　吉
一三百文　忠　藏

二六七　村々貯穀有高取調書上方申渡請書条

○養老公園　村上辨二氏所蔵

（表紙）
「　村々貯穀有高取調書上方申渡請書
（朱書）
「天明」　卯二月朔日　　武右衛門　」

天明年中被仰出候村々貯穀之儀は、其村々急難相凌候ため、格別御仁恵之訳ニて御世話有之、既御物城米之内を以貯穀高ニ応御下穀も被下置候は、一統難有相弁居可申儀之処、近来不取締之村とも有之哉相聞候ニ付、此度御勘定所より御沙汰之次第も有之候ニ付、村々貯穀去寅十二月晦日有高并囲置候取締之趣、且御蔵之有無共別紙案文之趣を以、半紙帳面に取調、当月十五日迄ニ無相違可差出候、且又私領上知村々等ニて、本文之趣いまた不相弁村々も其段罷出可申聞候

覚

籾何程　　去寅十二月晦日
一麦何程　　貯穀有高
稗何程

此外何品ニても書出可申候

右同断

一籾何程　　二十分一御下穀之分

是は村方ニ郷蔵有之話置候哉、名主持蔵ニ預置候哉、其訳可相認候事

一貯穀入置候郷蔵有之村方も有之候ハヽ、何年より郷蔵相建候訳可認候
一貯穀之内拝借いたし詰戻し残之外有之候ハヽ、其訳可相認事
右之通相違無御座候、以上
卯二月　村役人連印
右之通被仰渡一同承知奉畏候、右御日限通無相違取調差出可申候、依之御請印形差上申候、以上
卯二月朔日
子年延分籾三石三斗弐升寅年詰戻しの分
一永弐貫六百四拾壱文壱分　会所え相調之事　根古地新田　大跡　新田
同断籾七升弐合
一永五拾七文三分

二六八　白石村夫食御拝借願人別書上帳

○養老公園　村上辨二氏所蔵

（表紙）「　天明七年　庄屋
夫食御拝借奉願人別書上帳
未ノ正月　多賀郡　白石村　」

人数七人　内男四人　内弐人十五以下　兵吉
女三人
一五人　内男四人　内弐人十五以下　留八
女　内壱人

一五人	内男四人	内三人十五以下	彦治郎
一六人	内女壱人		
一六人	内男二人	内壱人十五以下	藤次郎
一六人	内女四人		
一弐人	内男二人	内壱人十五以下	善八
一弐人	内女四人		
一弐人	内男壱人		善**蔵**
一弐人	内女壱人		
一壱人	男内壱人十五以下		重**蔵**
一七人	内男四人	内二人十五以下	宇兵治後家
一七人	内女三人		
一四人	女		藤五郎
一七人	内男三人	壱人十五以下	
一七人	内女四人	壱人六十以上	
一二人	内男二人		孫八
一四人	内女二人		
一二人	男壱人	六十以上	彌右衛門
一三人	内男壱人		
一四人	内女二人		常右衛門
一四人	内男三人	二人十五以下	
一五人	内女壱人	壱人六十以上	林右衛門
一二人	内男二人		
一三人	内女三人		助**蔵**
一三人	女		
一三人	内男壱人		藤右衛門
一六人	内女弐人	弐人　六十以上	
一六人	内男三人		新介後家
一二人	内女三人		
一二人	内男壱人		常三郎
	内女壱人		
			文内
			源右衛門

| | | |

一五人　内男三人　老人六十以上
　　女弐人
一六人　内男三人　老人十五以下
　　女三人
一弐人　内男壱人　
　　女壱人
一弐人　内男壱人　
　　女壱人
一弐人　内男弐人　
　　女壱人
一三人　内男壱人　
　　女壱人
一弐人　内男壱人　老人六十以上
　　女壱人
一五人　内男弐人　老人六十以上
　　女三人
一弐人　内男壱人　
　　女壱人
一五人　内男四人　
　　女壱人
一三人　内男弐人　老人六十以上
　　女壱人
一六人　内男四人　老人十五以下
　　女二人
一五人　内男三人　老人十五以下
　　女弐人
一弐人　内男壱人　
　　女壱人
一三人　男壱人　十五以下
　　壱人　六十以上
一三人　内男二人　老人十五以下
　　女壱人

定右衛門
市右衛門
庄　八
甚　六
甚三郎後家
甚　助
彌左衛門
茂十郎
物兵衛
助右衛門
重五郎
文五郎
彦四郎
助次郎
七兵衛
林左衛門

一七人　内男三人　老人十五以下
　　女四人
一二人　女　
一四人　内男弐人　
　　女二人
一四人　内男壱人　
　　女三人
一壱人　女　
一四人　内男二人　老人六十以上
　　女二人
一五人　内男二人　老人六十以上
　　女三人　（十五脱カ）
一五人　内男三人　老人以下
　　女二人
一三人　内男二人　
　　女壱人
一壱人　男六十以上
一四人　内男二人　老人十五以下
　　女二人
一二人　内男壱人　
　　女壱人
一壱人　女　
一同弐人　内男壱人　
　　女壱人
一同弐人　内男壱人　
　　女壱人
一同三人　内男弐人　内壱人十五以下
　　女壱人
一同四人　内男三人　内弐人十五以下
　　女壱人

小四郎
次郎八娘
久米右衛門
金三郎
長吉後家
半次郎
善　蔵
平　助
清治郎
藤次郎
小三郎
喜藤治
小市後家
仲　八
助右衛門
林　蔵
森　八

一同三人　内男弐人　内老人六十以上　喜兵衛
女老人
一同五人　内男老人　豊次郎
女四人
一同四人　内男弐人　兵吉
女二人
一同四人　内男二人　内老人十五以下　彦次郎
女二人
一人数四人内男三人　内老人六十以上　清右衛門
女老人
一同三人　内男二人　内老人十五以下　清七
女老人
一同五人　内男二人　内老人十五以下　源七
女三人　内老人六十以上
一同三人　内男老人　弥右衛門
女二人
一同五人　内男二人　藤八
女三人
一同六人　内男三人　内老人十五以下　新五郎
女三人
一同弐人　内男老人　嘉平
女老人
一同壱人　男　喜代八
一五人　内男三人　老人六十以上　留右衛門
女二人
一八人　内男四人　老人十五以下　甚吉
女四人　老人六十以上
一三人　内男二人　老人十五以下　元右衛門
女老人
〆三百八十弐人
内
男百九拾八人

此訳
弐拾七人　六拾以上
五拾三人　十五以下
女百八拾四人

一四貫拾匁　京ヶ脇へ渡し

右は、去午年七・八月度々大風雨ニ付、田畑共甚た不作仕、殊ニ諸色米穀至て高直ニ御座候て、難儀至極仕候、尤年々ニ困窮仕積候故、当時夫食は無御座、又渇命ニ候人数相改、書面之通書上申候、乍恐御慈悲御勘弁夫食御拝借被　仰付被下置候様、偏奉願上候、以上

多藝郡白石村庄屋
年寄　武十郎
百姓代　幸右衛門
多十郎

笠松
御役所

未ノ三月十六日　覚
一金三両　御役所様より請取
此銭　拾七貫弐百八十文
此割
人数三百三十六人　老人前五十一文四分ツヽ
七十五人　京ヶ脇　此当り　九六銭　四貫拾五文
弐百六十一人　本村分　九六銭　十三貫九百七十一文
四月三日
一金弐分　御役所請取

内百六文　　京ヶ脇渡ス
未七月より十二月迄り　九百五十三文
壱貫五十九文
指引 九六 拾弐貫弐百廿五文　是ハ御役所より請取不足之分借入ニて相渡之分
内壱貫九百三十文　金弐分預り分より引
未ノ七月迄リ　九百五十三文夏割入
差引残五貫七百八十八文　武十郎取かへ
四月迄り六百四十一文かし
〆六貫四百三十三文
申拝借二月廿一日　壱人五文ツヽ割
一金三両　請取　幸右衛門預り
割渡し残三百七十弐文
百文引
残弐百七十弐文　請取
四月拝借
一三分
四貫五百文
四貫三百廿文
九百六十四文　京ヶ脇
三貫三百五十六文　本村
是ハ武十郎取かへ之分引
申四月
一金弐両ト割当　京ヶ脇分　六百拾五文
京ヶ脇四度渡ス分
惣〆九貫七百八文
四貫七百三十六文　未ノ分
四貫九百六十弐文　九百拾文　申出

夫食御拝借人別書上帳

南組惣代　源右衛門

天明七未年
一三人　半次郎　一弐人
一五人　多十郎　一五人　權七
一四人　文蔵　一四人　庄七
一弐人　文七　一三人　藤四郎
一弐人　利助　一弐人　又八
一五人　平左衛門　一六人　七蔵
一四人　作兵衛　一七人　林助
一三人　庄八　一壱人　和助
一三人　庄之助　一三人　彌三八
一弐人　おりん
〆六十六人
右は、去午年凶作ニ付、夫食無御座、勿論米穀等高直ニ付、甚だ極難仕候、故其段御歎き申入候処、御公儀様へ御願被成下候ニ付、御慈悲を以為御救夫食御拝借被仰付被下置、難有仕合奉存候、右ニ付組中前書小前帳差上候通、人別少シも相違無御座候、然上は御返上之儀、追て被仰付候通無相違上納可仕候尤御返納迄ニ不埒之もの御座候ハヽ、組中より相弁上納可仕、

為其惣代御請印差上申候、以上

天明七未三月　　南組惣代　半次郎㊞

御庄屋所

覚

一金壱両五百文　　南組　半次郎㊞

右は、御拝借金未三月十八日慥奉請取申候、以上

一三貫三百八十弐文　　半次郎㊞

右ハ、御拝借申二月廿七日奉請取候

夫食御拝借人別書上帳

未ノ年

一四人	長四郎	一弐人	北組惣代
一三人	平右衛門	一三人	小十郎
一三人	武右衛門	一三人	九右衛門
一弐人	長太郎	一壱人	久左衛門
一五人	久八	一弐人	吉兵衛
一弐人	四郎兵衛	一三人	兵内
一三人	源五郎	一四人	久蔵（ごけ）
一三人	庄八	一四人	藤吉
一五人	長左衛門	一弐人	長治郎
一弐人	久内	一五人	治郎助
			市右衛門
一弐人	甚六	一弐人	甚三郎（ごけ）
一四人	孫右衛門		

人数〆六拾九人

右は、去午年凶作ニ付、夫食も無御座、勿論米穀等高直ニ付、甚だ極難仕候故、其段御歎申入候処、御公儀様へ御願被成下候ニ付、御慈悲を以為御救夫食御拝借被仰付被下置、難有仕合奉存候、右ニ付組中前書小前帳差上候通、人別少しも相違無御座候、然上ハ御返上之儀、追て被仰付候通無相違上納可仕候、尤御返納迄不埒もの御座候ハヽ、組中より相弁上納可仕候、為其惣代御請印差上申上候、以上

天明七未三月　　北組惣代　長四郎㊞

申拝借請取申候

一三〆五百九十文　　長四郎㊞

御庄屋所

一壱両九百文　　長四郎㊞

右之御拝借金未三月十四日慥請取申候、以上

夫食御拝借人別書上帳

未年

一四人	助右衛門	一五人	東組惣代
一弐人	助次郎	一壱人	文五郎
一五人	彦四郎	一三人	七兵衛
			林左衛門

一七人　小四郎　一壱人　いわ
一四人　久め右衛門　一壱人　いち
一三人　重五郎　一弐人　惣兵衛
一三人　金三郎　一三人　茂十郎
一四人　定右衛門　一弐人　彌左衛門
一三人　甚助　一四人　九兵衛
一弐人　るめ
〆五十九人

右は、去午年凶作ニ付、夫食無御座、勿論米穀等高直ニ付、甚だ極難仕候故、其段御歎き申入候処、御公儀様へ御願被成下候ニ付、御慈悲を以為御救夫食御拝借被仰付被下置、難有仕合奉存候、右ニ付組中前書小前帳差上候通、人別少しも相違無御座候、然上は御返上之儀、追て被仰付候通御返納可仕候、尤御返納迄ニ不埒のもの御座候ハヽ、組中より相弁上納可仕候、為其惣代御請印差上申候

東組惣代　助右衛門

御庄屋所

覚

一五〆九百文　助右衛門㊞

右は、御拝借金未三月十八日謹奉請取申候、以上

一三〆七十文　申拝借奉請取候　助右衛門㊞

又百文茂左衛門へ相渡し申候

夫食御拝借人別書上帳

新田組惣代

未年

一四人　藤右衛門　一五人　淺右衛門
一二人　新三右衛門　一四人　助　藏
一二人　林右衛門　一一人　彦　惣
一二人　常三郎　一五人　藤五郎
一四人　平四郎　一六人　彌右衛門
一二人　市　藏　一二人　市二郎
一三人　善　藏　一二人　與　吉
一三人　善　八　一五人　老人増　藤二郎
一五人　彦二郎　一四人　とめ八
一五人　長　吉　一二人　新三郎
一五人　養ろ寺

人数〆六拾九人

右は、去午年凶作ニ付、夫食無御座、勿論米穀高直ニ付、甚た極難仕候故、其段御歎申入候処、御公儀様御願被成下候ニ付、御慈悲之上為御救夫食御拝借被仰付被下置、難有仕合奉存候、右ニ付組中前書小前帳差上候通、人別少々も相違無御座候、然上は御返上之義、追て被仰渡通無相違上納仕候、尤御返納迄ニ不埒もの御座候ハヽ、組中より相弁上納可仕候、為其惣代御請印差上候、以上

天明七未三月

新田惣代　藤右衛門㊞

御庄屋所

覚

惣代　藤右衛門㊞

一金壱両九百文
右は、御拝借金未三月十八日慥ニ請取奉申候、以上
一三貫五百九十文　藤右衛門㊞
申拝借奉請取

御拝借請取五分一
申十二月朔日
一八百文　藤右衛門より受取

申返済　壱匁九十弐文八分
十二月四日　同拝借五分壱
一壱貫九百三拾八文　南組受取

同　同五分一　壱匁九十三文八分かへ
十二月五日　同拝借請取
一壱貫七百五十壱文　東組　取

同　同五分一
十二月五日同壱匁九十弐文八分銀
一弐貫弐拾七文　新田組取

〆銀ニ〆五十九匁弐分
十二月五日拝借請取
一金壱分　六匁　北組より受取

残五貫七百十六文

〆八拾壱匁九分八厘
一壱貫九百四十文　京ヶ脇　申返済

三百三十九文　是ハ京ヶ脇へ出候分

残壱貫六百壱文
此銀十六匁五分八厘
〆九拾六匁七分八厘
残拾弐匁七分八厘　武十郎へ渡ス
四拾弐匁御同所返済
四十弐匁

内拾匁七分　政右衛門渡ス
又三十壱匁七分武十郎渡ス
残〆拾貫弐百八十四文

内
三貫三百五十六文
是ハ申四月拝借分、本村当りニて引

引残
六貫九百廿八文
此銀七十四匁四分九厘
壱匁六分八厘　三貫三百五十六文四月迄り
〆七十六匁壱分七厘
十一匁四分弐厘五　申り

右〆八十七匁五分九厘五
内拾弐匁七分八厘　申取立過取
残七十四匁八分八厘七　武十郎取かへ

内三十壱匁三分　　村方出分
引残　　幸右衛門より受取
四拾三匁五分七厘
酉り六匁五分四厘　　武十郎取かへ
〆三分　五匁一分壱厘
内壱分　壱匁七分八厘　　酉過分引
残弐分　三匁三分三厘　　武十郎取かへ
戌り五分
〆三十八匁三分三厘
差引　六□渡

酉年夫食返済請取
十二月廿八日　請取
一壱貫九百三十三文　　半次郎組
此銀廿匁九分弐厘
一廿壱匁四分　　長四郎組
一拾八匁弐分壱厘　　利三郎
一十五匁
一六匁七分取　　藤右衛門
〆廿壱匁七分取
壱〆九百四十文　　京ヶ脇出分
一此銀廿匁七分七厘

〆百三匁
内八十六匁弐分弐厘
差引
残十六匁七分八厘　　是ハ武右衛門へ取かへの分ニ引
十三匁八厘　酉ノ上納
十三匁八厘　戌ノ上納
幸右衛門ニ預り
残六拾匁六厘
内拾五匁弐分七厘　　京取かへ長出本村
四十四匁七分九厘
内三十八匁三分三厘
夫食取かへ物引
差引
六匁四分六厘　　幸右衛門替ぇ

子年夫食返納
十二月十一日　　新田組分取
一弐貫四拾匁
此銀二十匁三分三厘五毛
十二月十三日　　東組より受取
一壱貫八百六匁
十七匁九分九厘五毛
一壱貫九百六匁　　北組より受取

十八匁九分八厘七毛
一壱貫九百三拾四匁　南組より取
十九匁三分七厘七毛
〆七拾六匁六分九厘四毛
内拾匁三分五厘　子上納
引残六拾六匁三分四厘四毛
是ハ小物成帳面へ引入
一八拾弐匁五分　京ヶ脇分
三拾ヶ年賦
壱年ニ弐匁七分五厘ツヽ
一三百拾匁五分　本村
三拾ヶ年賦
壱年ニ拾匁三分五厘ツヽ

寛政三年亥返済請取
一壱貫九百三十四文　南組
此銀廿匁八分弐厘七毛五
一弐貫八十五文　北組
同　廿弐匁四分三厘三
一壱貫八百六十六文　東組
此銀廿匁七厘
一弐貫七十五文　新田

廿弐匁三分三厘
〆　八拾五匁六分六厘　亥年上納
内拾匁三分五厘
引残
七拾五匁三分壱厘
是ハ小物成帳面入
年々小物成ニて出筈
寛政亥三十二月（年脱）　武十郎書之

二六九　多藝郡村々人別貯穀六十日分取調帳
〇金屋　西脇和夫氏所蔵

（表紙）
「天保十四卯年
人別貯穀六十日分取調帳
六月　多藝郡　村々　」

一人数百八拾三人　金屋村
内
男五拾五人　拾五才以上六拾才以下之分
此米六石六斗　壱人ニ付一日米弐合ツヽ弐ヶ月分
男女百弐拾八人

此米七石六斗八升　老人ニ付一日米壱合ツヽ弐ヶ月分
米合拾四石弐斗八升
此籾弐拾八石五斗六升
一人数百四拾九人　　大　坪　村
内
男四拾弐人　拾五才以上六拾才以下之分
此米五石四升　老人ニ付一日米弐合ツヽ弐ヶ月分
男女百七人
此米六石四斗弐升　老人ニ付一日米壱合ツヽ弐ヶ月分
米合拾壱石四斗六升
此籾弐拾弐石九斗弐升
一人数弐百四拾五人　　祖父江　村
内
男七拾壱人　拾五才以上六拾才以下之分
此米八石五斗弐升　老人ニ付一日米弐合ツヽ弐ヶ月分
男女百七拾四人
此米拾石四斗四升　老人ニ付一日米壱合ツヽ弐ヶ月分
米合拾八石九斗六升
此籾三拾七石九斗弐升
一人数百七拾九人　　飯　積　村
内
男五拾八人　拾五才以上六拾歳以下之分
此米六石七斗弐升　老人ニ付一日米弐合ツヽ弐ヶ月分
男女百弐拾壱人
此米七石弐斗六升　老人ニ付一日米壱合ツヽ弐ヶ月分
米合拾三石九斗八升
此籾弐拾七石九斗六升
一人数百六拾七人　　明　徳　村
内
男五拾四人　拾五才以上六拾才以下之分
此米六石四斗八升　老人ニ付一日米弐合ツヽ弐ヶ月分
男女百拾三人
此米六石七斗八升　老人ニ付一日米壱合ツヽ弐ヶ月分
米合拾三石弐斗六升
此籾弐拾六石五斗五升
一人数四百六拾弐人　　飯ノ木　村
内
男百三拾七人　拾五才以上六拾才以下之分
此米拾六石四斗四升老人ニ付一日米弐合ツヽ弐ヶ月分
男女三百弐拾五人
此米拾九石五斗　老人ニ付一日米壱合ツヽ弐ヶ月分
米合三拾五石九斗四升
此籾七拾壱石八斗八升
一人数四百七拾四人　　小　倉　村

内

男百六拾四人　　拾五才以上六拾才以下之分

此米拾九石六斗八升壱人ニ付一日米弐合ツヽ弐ヶ月分

男女三百拾人

此米拾八石六斗　壱人ニ付一日米壱合ツヽ弐ヶ月分

米合三拾八石弐斗八升

此籾七拾六石五斗六升

人数合千八百五拾九人　　新多藝郡七ヶ村

籾数弐百九拾弐石三斗弐升

右は人別六十日分穀数ニ御座候

一人数弐拾三人　　大跡新田

内

男九人　　拾五才以上六拾才以下之分

此米壱石八升　壱人ニ付一日米弐合ツヽ弐ヶ月分

男女拾四人

此米八斗四升　壱人ニ付一日米壱合ツヽ弐ヶ月分

米合壱石九斗弐升

此籾三石八斗四升

一人数五百三拾九人　　根古地新田

内

男百六拾五人　　拾五才以上六拾才以下之分

此米拾九石八斗　壱人ニ付一日米弐合ツヽ弐ヶ月分

男女三百七拾四人

此米弐拾弐石四斗四升壱人ニ付一日米壱合ツヽ弐ヶ月分

米合四拾弐石弐斗四升

此籾八拾四石四斗八升

一人数三百弐拾九人　　大跡村

内

男百弐人　　拾五才以上六拾才以下之分

此米拾弐石弐斗四升壱人ニ付一日米弐合ツヽ弐ヶ月分

男女弐百弐拾七人

此米拾三石六斗弐升　壱人ニ付一日米壱合ツヽ弐ヶ月分

米合弐拾五石八斗六升

此籾五拾壱石七斗弐升

〆百四拾石四升　　三ヶ村

一人数三百六十三人　　白石村

内

男百弐拾壱人　　前同断

此籾弐拾九石四升

男女弐百四拾弐人　　前同断

此籾弐拾九石四升

籾合五拾八石八升

一人数弐百三拾七人　　有尾新田

内

男八拾三人　　前同断
　此籾拾九石九斗弐升
男女百五拾四人　　前同断
　此籾拾八石四斗八升
　籾合三拾八石四斗
一人数百三拾六人　　有尾村
　内
男四拾五人　　前同断
　此籾拾石八斗
男女九拾壱人　　前同断
　此籾拾石九斗弐升
　籾合弐拾壱石七斗弐升
〆百拾八石弐斗　　三ヶ村
人別千六百弐拾七人　　右多鑒郡六ヶ村
〆此籾弐百五拾八石弐斗四升
二口合五百五拾石五斗六升　　人別六十日分
　外百九拾石程　囲高過有、七ヶ村之内　　金屋村
貯穀囲之分
一籾三斗六升弐合　是ハ二十壱御下穀之分
同断
一籾弐拾四石八斗　　当時有高之分并減石之分
一荒麦七斗　　拝借請戻し分
一稗三拾三石六斗　　不残当秋詰戻し之分共

合石数五拾九石四斗六升弐合　内籾四斗　寅新囲共
　　大坪村
一籾弐斗四升弐合弐勺　二十一御下穀之分
一籾四拾石九斗　当時有高
一稗弐石　并減石之分共
合石数四拾三石壱斗四升弐合弐勺　内籾四斗　寅新囲共
　　祖父江村
一籾三斗八升四合四勺　二十一御下穀之分
一籾三拾壱石九斗　当時有高并減石拝借之分
一稗六石四斗　詰戻し之分共
合石数三拾八石六斗八升四合四勺
　　段海分
一籾四升壱合六勺　二十一御下穀之分
一籾三石七斗　囲高
〆三石七斗四升壱合六勺
　　飯積村
一籾壱斗九升四合弐勺　二十一御下穀之分
籾拾九石五斗四升　当時有高并減石拝借之分
一稗弐石　詰戻し之分共
合石数弐拾壱石七斗三升四合弐勺
内籾三石九斗八合、稗四斗　卯之詰戻分
外籾三斗七升　寅新囲之分

明　德　村

一籾壱斗弐升　　二十一御下穀之分
　籾六石弐斗弐升　　当時有高
荒麦三斗　　并減石、詰戻之分共
　稗拾四石五斗
合石数弐拾壱石壱斗四升　　内籾壱斗四升、寅新囲之分

飯　木　村

一籾壱石五斗壱升弐合　　二十一御下穀之分
籾三拾石七斗五升　　当時有高
一荒麦壱石弐斗　　并減石之分共
　稗百四拾弐石
合石数百七拾五石四斗六升弐合　　内籾四斗五升寅新囲増之分

小　倉　村

一籾七斗五升四合　　二十一御下穀之分
　百三拾石四斗壱升五合　　当時有高
一荒麦六斗　　并減石之分共
　稗七拾四石
合石数百五石七斗六升九合　　外籾七斗五升、寅新囲之分
石数四百六拾九石三斗三升五合四勺　　多藝郡七ヶ村
　右は村々囲穀数之分ニ御座候

大　跡　新　田

一籾六合　　二十一御下穀之分
一籾八斗九升九合五勺　　当時有高并減石之分共
合石数九斗五合五勺

根古地新田

一籾弐斗八合　　二十一御下穀之分
一籾拾七石弐斗三升弐合　　当時有高并減石之分共
合石数拾七石四斗四升

大　跡　村

一籾拾九石五斗四升五勺　　当時有高并減石之分共

貯穀覚

一千八百五拾三石六斗
一七百九拾三石六斗八升
〆弐千六百四拾七石弐斗八升　　御蔵建　小田村・多治見村・下切村
一千三百四拾七石八升　　加茂郡
　御蔵　水戸野村・市橋村
一千三百五拾壱石八斗　　武儀郡・東山縣郡
　御蔵　千疋村
一五百弐拾三石三斗弐升　　北山縣郡
　御蔵　葛原村
一千六百壱石四斗　　西山縣郡・方縣郡・莚田郡
　御蔵　梅原村
一五百九拾三石七斗六升　　各務郡

御蔵　伊吹村
一千九百三拾弐石三斗六升　羽栗郡・東中嶋郡・竹ヶ鼻村・
小藪村・神戸村
御蔵　笠松村
一九百三拾七石壱斗六升　安八郡・海西郡
御蔵　下大榑新田
一五百五拾石五斗六升　多藝郡
外百九拾石程　囲高有　御蔵　飯木村
一三百八拾四石九斗六升　下海西郡・金廻輪中・七郷輪中
御蔵　日原村
一八百拾七石六斗弐升　長嶋新田・三重郡
御蔵　松永新田
一四拾七石弐斗八升　五明村組合
御蔵
惣籾〆壱万弐千七百三拾四石五斗八升
外　百九拾石　新多藝囲高之分
右之通取調奉書上候、以上
天保十四卯年六月　郡々惣代
御役所

乍恐以書付奉申上候
当御支配所濃州村々之内水油絞り立候もの共、今般取調奉差上候様被　仰付候処、組合村々之内、別紙帳面を以員数書立奉差上候外、村々ニては水油絞り立商売之もの一切無御座候、尤銘々燈油之儀は、少々ツヽ手作之種油屋へ差遣し、賃〆ニ絞り立相用ひ、并山寄之村方ニては冬分水油代り燈松を用ひ、其外不足之分は最寄市場ニて水油・魚油を相求メ、遣ひ方ニ仕候儀ニ御座候間、郡中一同取調、乍恐以書付此段御答奉申上候、以上
濃州郡々惣代
天保十四年卯六月
御役所

二七〇　喜多村御救米人別割賦帳

〇勢至　野村辰夫氏所蔵

（表紙）
「天保四癸巳年
御救米人別割賦帳
十一月廿五日　喜多村」

覚
一米三千俵
右は、当年風水難無之候得共、夏以来雨天勝冷気故歟、作方此節ニ至り存外取実相減、其上米穀等格別高直ニ付、百姓共難渋之趣達　御聴候、依之御勝手向必至御差支之御時節柄ニは候得

共、別段之以　思召、書面之通諸筋村々ゑ当日折米之内ニて被
下置候旨被　仰出之候、此旨可被申渡候、以上
　天保四巳
　十一月十六日　　御城代
右之通被　仰渡候間、此旨御支配下村々ゑ御申渡、尤左之御救
米村有人ゑ割賦候様御申渡可有之候、以上
　十一月十六日　　郡奉行
　林　庄太夫殿

一三百七拾壱俵壱斗六升　　多藝筋
今度諸筋村々ゑ当日折米之内ニて被下置候、御救米戴多筰番人
等有之候村方ハ、右之人別ゑも不洩様割当候様御申渡之事
　十一月十六日
別紙之通被　仰渡候旨申来り候間、村々得其意百姓代加印之請
書差出可被申候、以上
　十一月十六日　　御代官
一米七斗六升六合　　喜多村
　此切升八斗三升三合
　右ヲ四拾四人ニ割候、壱人ニ付壱升八合九勺三才
　右割賦
八人
一壱斗五升壱合　林右衛門　　八人
一壱斗五升壱合　八郎右衛門
壱人
一壱升九合　多三郎　　三人
一五升七合　藤次

三人
一五升七合　藤次（ママ）　　三人
一五升七合　八郎次
五人
一九升五合　次郎右衛門　　五人
一九升五合　忠蔵
七人
一壱斗三升三合　丑之助　　三人
一五升七合　宇吉
壱人
一壱升九合　與八
〆八斗三升四合　さし引壱合渡し過

二一七一　有尾新田小屋掛代農具代御拝借金割符帳

〇安八郡輪之内町　片野記念館所蔵

（表紙）「　文化十三年
去亥年小屋掛代農具代御拝借金割符帳
　庄屋
子六月　清右衛門　」

小屋掛代拝借
　子六月十一日拝借
一金五両
　内
金三両壱分　拾三匁八分九厘　　返納高引請
是は、当子より来ル辰迄五ヶ年符返納之分、壱割半之利
借勘定を以一ヶ年ニ金壱両ツヽ返納可相成候哉、如此高
ゑ引請

残金壱両弐分　壱匁壱分壱厘　　小前ゑ割渡
平坪数百廿四坪九合弐勺
但、壱坪ニ付銀七分弐厘九毛三
但　是ハ懸不足
右割符
潰家壱軒
一長四間　巾壱丈壱尺　利　助
此平坪七坪三合弐勺
此銀五匁三分四厘
潰家壱軒
一長五間半　巾弐間半　清　吉
此平坪拾三坪七合五勺
此銀拾匁三厘
潰家壱軒
一長五間　巾弐間半　り　を
此平坪拾弐坪五合
此銀九匁壱分弐厘
潰家壱軒
一長四間　巾弐間半　り　へ
此平坪拾坪
此銀七匁弐分九厘
潰家一軒
一長五間半　巾三間　勝　藏
此平坪拾六坪五合
此銀拾弐匁三厘
潰家壱軒
一長五間半　巾三間　彦右衛門
此平坪拾六坪五合
此銀拾弐匁三厘
半潰家壱軒
一長五間　巾弐間半　平　七
此平坪拾弐坪五合
内五坪　四分掛
残七坪五合
此銀五匁四分七厘
半潰家壱軒
一長五間　巾弐間半　吉　三　郎
此平坪拾弐坪五合
内六坪弐合五勺　五分掛
残六坪弐合五勺
此銀四匁五分六厘
半潰家壱軒
一長五間半　巾弐間半　林右衛門
此平坪拾三坪七合五勺
内五坪五合　四分掛
残八坪弐合五勺
此銀六匁弐厘
半潰家壱軒
一長四間半　巾弐間半　與四郎
此平坪拾壱坪弐合五勺
内五坪六合弐勺五才　五分掛
残五坪六合弐勺五才

此銀四匁壱分

半潰家壱軒
一長三間半　巾弐間

此平坪七坪
内三坪五合　五分掛
残三坪五合

此銀弐匁五分五厘

半潰家壱軒
一長五間　巾弐間半　儀右衛門

此平坪拾弐坪五合
内八坪七合五勺　七分掛
残三坪七合五勺

此銀弐匁七分四厘

半潰家壱軒
一長五間半　巾三間半　淺　八

此平坪拾九坪弐合五勺
内拾三坪四合七勺五才　七分掛
残五坪七合七勺五才

此銀四匁弐分六厘

半潰家壱軒
一長五間半　巾三間半　柳　吉

此平坪拾九坪弐合五勺
内拾壱坪五合五勺　六分掛
残七坪七合

此銀五匁六分弐厘

養老町史　史料編

〆　銀九拾壱匁壱分壱厘

農具代拝借

一金四両弐分　六匁九分六厘　子六月十一日拝借
内
金弐両弐分　七匁壱分弐厘　返納高引請
是は来丑より来巳迄五ヶ年符、返納之分、壱割半ノ利倍
勘定を以壱ヶ年に金三分拾匁三分九厘宛返納可相成候哉
如此高ゑ引請

残金壱両三分拾四匁八分四厘　小前ゑ割渡
内訳
銀七拾壱匁九分
潰家六軒分
同三軒分
但、壱軒ニ付銀拾四匁三分八厘
内　四拾三匁壱分三厘
同三軒分
但、壱軒ニ付銀九匁五分九厘
弐拾八匁七分七厘
潰家九軒分
但、壱軒ニ付五匁三分三厘
銀四拾七匁九分四厘
右　割　付
一銀拾四匁三分八厘　清　吉
外拾匁三厘　小屋掛代
〆弐拾四匁四分壱厘
此金壱分弐朱弐百匁八り　六月九日利助へ渡ス
一同拾四匁三分八厘　利　助
外五匁三分四厘　小屋かけ代

〆拾九匁七分弐厘
　此金壱分五百六十四文　六月十九日常三郎へ渡ス
一同拾四匁三分八厘　勝　**藏**
　外拾弐匁三厘　右同断
〆弐拾六匁四分壱厘
　此金壱分弐朱四百六十六文　同日渡ス
一同九匁五分九厘　彦右衛門
　外十弐匁三厘　右同断
〆廿壱匁六分弐厘
　内壱分弐朱　同日渡ス
一同九匁五分九厘　り　へ
　外七匁弐分九厘　右同断
〆拾六匁八分八厘　同日渡
　此金壱分弐百廿四文
一同九匁五分九厘　り　を
　外九匁壱分弐厘　右同断
〆拾八匁七分壱厘　同日渡ス
　此金壱分四百四十三文
一同五匁三分三厘　平　七
　外五匁四分七厘　右同断
〆十匁八分
　此金弐朱三百九十弐文

一同五匁三分三厘　吉　三　郎
　外四匁五分六厘　右同断
〆九匁八分九厘
　此金弐朱弐百八十三文　同日渡ス　林右衛門
一同五匁三分三厘
　外六匁弐厘
〆拾壱匁三分五厘
　此金弐朱四百五十九文　同日渡ス　與四郎
一同五匁三分三厘
　外四匁壱分　右同断
〆九匁四分三厘
　此金弐朱弐百三十文　同日渡ス
一同五匁三分三厘　い　と
　外弐匁五分五厘
〆七匁八分八厘　同日渡ス
　此金弐朱四十四文
一銀五匁三分三厘　儀右衛門
　外弐匁七分四厘　小屋掛代
〆八匁七厘
　此金弐朱六十六文　六月十九日利助ニ渡ス
一同五匁三分三厘　淺　八
　外四匁弐分壱厘　小屋掛代

〆九匁五分四厘
此金弐朱弐百四十三文　同日渡
一同五匁三分三厘　柳　吉
外五匁六分弐厘
〆拾匁九分五厘
此金弐朱四百十三文　同日渡
一同五匁三分三厘　ひ　な
此銭六百三十八文　渡ス
〆百拾九匁八分八厘
内四厘かけ過

右は、去亥御堤切入ニ付、潰家並農具代拝借被　仰付、返納之儀壱割半借利倍勘定を以御高ぇ御引請被下候様相願、書面之通御割合を以徳金之分私共ぇ御割渡被下難有奉頂戴候、以上

文化十三子年
六月

清　吉㊞
利　助㊞
勝　藏㊞
彦右衛門㊞
へ㊞
り　を㊞
平　七㊞
吉　三　郎㊞
林右衛門㊞

與　四　郎㊞
い　と㊞
儀右衛門㊞
淺　八㊞
柳　吉㊞
ひ　な㊞

二七二　夫食拝借米返納訳勘定目録

○養老公園　村上辨二氏所蔵

覚

享保十九寅年
一米三石　夫食御拝借

右は、享保二十卯年より子年迄拾ヶ年賦ニて、壱ヶ年ニ米三斗ツツ返納仕、延享元子年返納皆済仕候返納訳勘定目録ニ御座候、以上

卯二月

多藝郡白石村庄屋
勘　兵　衛㊞
年寄
留右衛門㊞

本田
御役所

二七三　御地頭様へ御拝借金願

○栗笠　高橋嘉幸氏所蔵

（表紙）「　文化十一年甲戌九月
御地頭様へ御金拝借願　写　」

乍恐奉願上候御事

一当村之儀先年より御定免被為　仰付被下置、去酉年迄年数之通相勤来、猶又当春御定免奉願上候処、御慈悲を以是迄之通御定免被為　仰付被下置、難有仕合奉存候、尤村方年々困窮之訳、其節も奉申上候通、往古御高とは格別ニ相増、其上村方之内肥等相晴候場所少も無之、且又弐拾六ヶ年以前酉年入水後村借金相畳り、只今ニてハ大金ニ相成、仍之御田地も自然と相衰え、必至難渋御百姓惣禿ニも相成可申候為躰ニ付、御田地堀替地直仕、右作徳米之内ニて村借金相減候様仕度之段奉願上候処、右奉願上仕候趣難被為　仰付段、御理解被仰渡奉畏候、其後追々村方高持打寄、昼夜相談仕候得共、外ニ致方等無御座次第ニ困窮相増、村借金等も段々と相畳り候得は、年々御田地も相衰え、御定免も相勤り不申候様成行候ては、誠以御百姓惣禿ニ相成申候、仍之重々恐多御願上ニハ奉存候得共、御慈悲之御憐愍を以、当戌年より戌年迄十三年之内、格別之御下利之御金拝借被為　仰付被下置候ハヽ、年々元利可奉返納候、左候得は、右御利足之御金を以年々村借金返済仕、右年数之内ニは御百姓成立、永久相続可仕と奉存候、何卒格別之御慈悲を以奉願上仕候通、御聞済被成下置候ハヽ、一同御救と難有可奉存候、此段偏奉願上候、以上

文化十一年甲戌九月

佐藤與三郎　印
佐藤次郎右衛門　印
佐藤丈右衛門　印
佐藤惣右衛門　印
佐藤宇内　印
千　藏　印
元右衛門　印
治兵衛　印
七郎右衛門　印
組頭　文　藏　印
佐藤文四郎　印

二七四　直江村拝借金願

○直江区有

乍恐以書付奉願上候

一当村之儀此度困窮仕罷有候ニ付、去辰之年御裏印御願奉申上候て、他借仕、当月廿日限返済可仕筈ニ御座候処、年々之儀は、一向取実薄ク、中々以返済之手段無御座候間、恐多御願ニは御座候得共、金四拾五両御拝借被仰付、被下置候様仕度奉願上候、右金子を以他借金返済可仕と奉存候、尤為御冥加年ニ壱割之利足ヲ加、五ヶ年ニ御返上納可仕候間、何卒御慈悲之御憐厚ヲ以、右願之通御聞済被成下置候ハヽ、村方一同難有仕合ニ奉存候、以上

天保四年
巳十一月

多蠻郡直江村庄屋
同断作右衛門㊞　藤太夫㊞
同断年寄休三郎㊞
源兵衛㊞
百姓代儀十郎㊞

大垣
御預御役所

二七五　困窮ニ付助成方願

○養老公園　村上辨二氏所蔵

差入申一札之事

私儀、追々困窮ニ迫り当日之暮方ニ当惑いたし、不斗心得違ニて、貴殿方ゑ不沙汰ニ駈込訴仕、依之村方ゑ御引渡被成候段、御役所ニおいて被仰渡奉恐入候、然ル処何分前段之次第ニて必至迷惑いたし候間、笹屋熏次殿・平野屋九右衛門殿右御両人ゑ相縋、貴殿方より御助成ニ預り度段強て相願候処、是迄度々之儀ニ付、中々以御承引難被下之処、尚御両人より御頼被下候ニ付、無余儀御立入ゑ被為免、麦弐俵外ニ金壱両御助成被下誠以忝候、然ル上は向後御助成向等之儀は勿論、諸事何事ニよらず厄介ヶ間敷儀并難渋筋等ニ至迄、急度申懸間敷候、依て為後日之一札差入申処如件

嘉永六丑年四月

御庄屋
幸右衛門殿
御年寄
磯八殿

治平㊞

親類衆中

前書之通治平殿より拙者共ゑ頼ニ付、助成方御願申入候、処書面之通御助成被下候ニ付、奥書印形致置候、以上

笹屋
專次㊞
平野屋
九右衛門㊞

二七六　口ヶ嶋村調達金返却願

○口ヶ嶋　田中耕馬氏所蔵

乍恐口上書を以奉願上候御事

当村之儀、年々凶作打続、就中天保六未年前代未聞之飢饉と罷成、小百姓共其日之露命も緊急大難渋と相成、御年貢勘定出来不申候ニ付、出作方より作付ニて地面引揚ケ候趣相届候由ニて、小作之者共其段相歎、無拠役前始頭立候者共より、銘々相扣罷在候地所貸渡し、則右地所質物ニ書入金廿九両弐分粟笠村佐藤與三郎始外出作方ニて借用仕、右金子を以漸々御年貢米皆済仕候儀ニ御座候、付てハ、右與三郎方ニて拾五両弐分借用仕候、処年々利足差滞り、去辰年迄元利〆廿五両三分三匁壱分八厘と相成、然所同人義今般身上切替ニ付、右金子并先年借用仕置候廿八両口証文壱通、尚又年々差滞り候末進米とも勘定致候趣、厳重ニ催促仕候ニ付、小作方難渋之趣申立、段々断申入候得共聞届不申、既ニ鵜多須　御陣屋へ御訴訟被申上候ニ付、再応御召出御吟味之上訳立仕候様被　仰渡、実ニ当惑仕、必至難渋之趣厚申立候処、村役人共立入内済方取斗候様又候被　仰付候ニ付、立入数十度欠合仕候得共行届不申、然処與三郎儀、去ル卯暮御年貢并高入用差滞候ニ付、其段　御陣屋へ御願申上置候処、右滞り候金子と去ル丑暮当　御役所様ニ調達仕置候内、(両)拾両也與三郎方より出金仕候分へ差継、尚又右証文金弐通并未進米之内ぇ金拾壱両相渡候へは、内済可仕趣同人より申聞、左も無御座候てハ、内済行届不申、乍併御時節柄入百姓御取立被成候砌、家財売立勘定為仕候てハ、　御上様へ申訳も無御座次第、筋違とハ奉存候得共、村方小百姓及禿候ニ身替不得止事内熟仕候、尤小作之者共金子取賄之手段無御座候間、私共当借仕相渡候儀ニ御座候、付てハ前件廿九両弐分之内、與三郎方十五両今般事済仕候ニ付、外出作借用之分厳重催促仕、并去ル卯暮高入用與三郎方差滞りニ付、村方勘定等未タ速ニ出来不申、実々両様とも当惑仕候、尤小百姓共連々困窮仕詰、御年貢未進米多分御座候ニ付、壱作取入候共兎角跡引ニ等相成難渋仕候、付てハ御恐多御儀ニは存候得共、去ル丑暮調達金之内、十両也今般差下被成下、尚又御金弐拾両御拝借被　仰付被下置候様、偏奉願上候、左候へば右両様とも訳立仕、如何様とも細々御百姓相続為仕度奉存候ニ付、前文之始末御慈悲を以、厚御賢考被成下右願之通御聞済被下置候ハヽ、案堵ニ御百姓永続可仕と難有仕合可奉存候、依之済口証文三通相添、余ハ口達ニて奉申上候、

以上

巳三月

ロケ嶋村頭百姓惣代
与頭　喜　市
庄屋　儀十郎
同断　恒三郎
田中和右衛門

柳原
御役所

二七七　御救米下附申渡状

○石畑　山幡清重氏所蔵

覚

一米弐百弐拾三俵　　御救米
　拝借米来卯之暮より巳之暮迄三年賦、元米を以可致返納事
一米五拾弐俵　　石畑村
一旱損籾弐百四俵　　同　散田
　〃　　龍泉寺村
　　上万村
　　櫻井村
　　中村

右村々当夏格別之旱損、渡世差詰作方難行届、甚令難儀之段、願之趣無拠訳聞届相達候之処、御時節柄御取揚難被成事ニ候得共、格別之訳を以右之通拝借并御救米被下之候之間、此上作方随分出情可致相続旨御申渡可有之候、以上

明和七寅十二月廿五日　　郡奉行印

稲川彌次兵衛殿
石川忠蔵殿

養老町史　史料編

今尾　段右衛門殿

覚

一米弐拾九俵充　午春より子春迄七年賦　　石畑村　山幡　五郎兵衛

右は、年々勝手方仕後レ難渋ニ付御救願差出候、御時節柄難取揚事ニ候得共、先年調達金之儀出情相働候者ニ付、無拠訳聞届格別之訳を以、書面之通被下之候間、農業出情可令相続候、此旨御申渡可有之候、以上

文化六巳十二月廿日　　郡奉行印

今尾新助殿

別帋之通申来候間、可被得其意候

十二月廿日　　御代官印

石畑村　山幡　五郎兵衛殿

○高田　稲葉時男氏所蔵

覚

一米弐拾九俵宛

石畑村名主
彦　六

右は近年凶作ニて及困窮、其上御仕送り方御用相勤罷在候節、多分之金子差出候処、年賦御返済ニ相成、旁以相続難相成、依之御救願差出御時節柄難取揚事候得共、無拠訳聞届当辰より来ル辰迄拾三ヶ年之内、右之通御救被下之候間、右之力を以可致相続旨御申渡可有之候、以上

寛政八辰
二月十四日　　郡　奉　行印
宮　井　安左衛門殿

二七八　百弐拾五両拝借下知書

○石畑　山幡清重氏所蔵

覚

一米弐百七拾俵　酉春より卯春迄七ヶ年賦
石畑村
山　幡　彦　六

右は年々勝手方仕後レ難渋ニ付、拝借米願差出候処、御時節柄ニ付難取揚候、乍然先年調達金之儀出精相勤候者ニ付、格別之訳を以書面之通被下之候間、農業出精可令相続旨御申渡可有之候、以上

文化九申
十月三日　　郡　奉　行
野　口　丹　蔵殿

石畑村名主
五郎兵衛
林本郷村名主
新之右衛門

覚

右之者共、勝手向及難渋其上先年持高質地ニ差入置候之処、当暮年限ニ付金子差遣候はては難及懸合、此節ニ至り手操金賄方無之、質地手切ニ相成候ニ付、彌以相続難相成ニ付、歎願差出被相達之候、今以御勝手方御難渋之儀ニ候得は、全難取揚事ニ候得共、先年御仕送方御用向格別致出情候者共之儀候得は、持高ニ離候ては極難之旨無拠訳聞届、金百弐拾五両拝借申渡候間、如何様共当暮持凌、来春作取入候ハヽ、可致上納之旨可被申渡候、以上

（享和元年）
十二月廿八日　　御　城　代
右之通被仰渡候間、此旨御申渡可有之候、以上

十二月廿八日　　郡　奉　行印
渡　部　嘉右衛門殿
田　宮　斧右衛門殿

猶以本文之趣、支配御代官ゑも御通達可有之候、以上

（包紙）「享和元年辛酉年十二月廿八日
百廿五両拝借御下知書　本紙　五郎兵衛
新之右衛門」

二七九　宇田村外四ヵ村尾州為替金借用手形

〇東京都　国立史料館所蔵

御為替金請取申手形之事

合金五百両也

右は

尾州様従京都御屋鋪・江戸市ヶ谷御屋形御勘定所へ御差立被為成、御用金御為替取組仕、於京都御用所、書面金高慥請取申候処実正也、此代金江戸市ヶ谷御勘定所へ御上納相成候条、来辰五月廿五日限無遅滞御上納可仕候、為後日御為替金請取手形、仍如件

天保十四卯年十二月

戸田采女正（氏正）領分
濃州多藝郡志津村
百姓代　權　吉㊞
五人組頭　傳　四　郎㊞
名主　半　平㊞
同州同郡鷲巣村
百姓代
田　中　喜　平　治㊞
五人組頭　孫　市㊞
名主　五　藤　次㊞
同代　文　平㊞
同州同郡石畑村
百姓代　清右衛門㊞
五人組頭　七　郎　平㊞
同断　喜　三　郎㊞
附名主　文　平㊞
濃州多藝郡橋爪村
百姓代
高　木　喜　一　郎㊞
五人組頭　惣　五　郎㊞
附名主　杢　次㊞
同州同郡宇田村
百姓代　藤左衛門㊞
五人組頭　儀左衛門㊞
附名主
高　木　清　三　郎㊞
惣代
同州同郡鷲巣村
田　中　彌　一　郎㊞

尾州様
御勘定所

○　山　論

二八〇　直江・押越・嶋田村と白石村山論裁許状

○養老公園　村上辨二氏所蔵

（表紙）「美濃國多藝郡直江村・押越村・嶋田村と同郡白石村山入会諍論裁許書」

美濃國多藝郡直江村・押越村・嶋田村と
同郡白石村山入会諍論裁許之事

一直江村・押越村・嶋田村より訴出候は、多藝山之内小谷南は峯切小倉山境、西は多良山境、北は嶋田村持山境、東は京ヶ脇村北之神之堂切直江村持山ニて、此山御年貢米弐石四斗九升三合、から谷東は山之神堂東境、西は横峯之西多良山境、北は峯切柏尾山境迄、南は峯切嶋田村持山境迄押越村持山ニて、此山御年貢米壱石九斗、瀧之谷西は多良山境、南は直江村持山境、北は押越村持山境、東は御林境迄嶋田村持山ニて此山御年貢米七石弐斗五升、従前ニ毎年如此山年貢上納仕来候付、右三ヶ村之外他村之者一切此持山ゑ不為立入候処、白石村并枝郷京ヶ脇村より入会山之由偽申候て、去々申年理不尽ニ直江村持山小谷山ゑ、白石村京ヶ脇村より入候て草刈取候付、直江村より右両村之者共と口論仕出申候、右之通三ヶ村よりハ山御年貢上納仕候分切之持山ニて御座候処、一切山御年貢も上納不仕、白石村京ヶ脇村より三ヶ村御年貢山ゑ自由ニ入候て、草刈取来候由申候得共、三ヶ村之御年貢山ゑ無年貢ニて、右両村より入会来候と申儀無筋偽ニて候、入会之証拠一切御座有間敷候、三ヶ村之儀は、七十三年以前正保三戌年御国絵図出来之時、小笠原主膳正領分村高山村等迄不残帳面ニ記、家老伴與惣兵衛・福井新左衛門両人印判を以岡田將監方ゑ右帳差出置候、此帳ニ三ヶ村右之持山并山御年貢も相記御座候、白石村入会と申儀書記無御座、其上白石村持山松原別ニ村附之所ニ書付候て御座候、即右帳面之内三ヶ村と白石村書付有之書面書抜写差出候、如此慥成証拠御座候間、向後白石村京ヶ脇村より三ヶ村持山ゑ入候て、秣等盗取不申候様仕度之旨申之

一白石村京ヶ脇村より答候は、右三ヶ村持山と申所之三谷之山之儀、三ヶ村より御年貢上納仕候由申候得共、三谷之山共ニ往古より白石村之持山ニて候小村ニて、御年貢上納仕兼候ニ付、白石村は山主之義ニ候間、御年貢は三ヶ村より上納為仕、加地子として右三谷之山ゑ白石村より心次第無年貢ニて入会木・柴刈取候様ニと、徳永法印領地之時被申付入会来

候、其後伊藤長門守領地之時書付出置、只今迄入会来候、先年作兵衛と申者白石村之庄屋勤候時、長門守出置候書付は紛失候、其後延宝九酉年山出入之時、小笠原土佐守領地之節、家来より末々迄入会証拠ニ成候書付白石村ニ致所持候、山出入之義此度俄ニ出来候様ニ三ケ村より申出候得共、土佐守領地之時、又其後南條金左衛門御代官所之時も度々出入候得共、古来之通入会ニ申付候、右三谷之山と申候は、養老瀧有之山ニて、白石村持山之証拠ニは小谷ニ山之神、瀧之谷ニ天神、から谷ニ山之神、白石村・京ケ脇村より先年勧請仕候ニ付、三谷之内心次第ニ入、木・柴刈来申候処、事改り候偽三ケ村より申出候、先年小笠原土佐守・南條金左衛門より出置候入会証拠之書物等取持候間、先年之通自今以後も入会山ニ仕度之旨申之

右雙方呼出対決申付候上令糺明之処、直江村・押越村・嶋田村は一村限ニ分切之持山定有之て不致入会、三ケ村持山ゑ各々ニ入候付無違論候、旦正保年中国絵図被仰付候節、小笠原主膳正より岡田将監ゑ差出候主膳正領知村々高山林書付候帳ニ、直江村・押越村・嶋田村三ケ村共ニ村高書付之所ニ壱村限ニ持山附、并山年貢共ニ書記有之、白石村より入会候と申断書無之、白石村書付之所ニは白石村持山松原書記有之候、右帳面之書抜写し三ケ村より為証拠差出之候付、即将監在所伊尾役人方ゑ申遣候て、主膳正家老両人印形有之、本帳取寄之三ケ村より出候写之書面ニ引合候処、無相違候、然は三ケ村之持山ゑ白石村可入謂無之候、白石村・京ケ脇村は徳永法印領地之時、右三ケ村之持山と申所白石村為山主之間、三ケ村より年貢は為出加地子として、白石村は無年貢ニて三谷之山ゑ心次第ニ入木・柴刈候様ニ申付置候旨、此外三ケ村持山ゑ入会来候証拠数ケ条有之由返答書ニも記、口上ニても段々雖申之、入会来候慥成証文証拠ニ可成儀ニ無之趣、箇条一々左ニ記之

一白石村山元ニて山主ニ候は、右三ケ村より白石村ゑ年貢を取公儀ゑは上納不仕筈ニて候、白石村之持山ニて山主ニ候処の年貢を、三ケ村より　公儀ゑ直納ニ可致法無之候、縦白石村も三ケ村と同事ニ御年貢納来候というとも、三ケ村より之御年貢も山元ニて候は、白石村ゑ取集候て白石村取次ニて可納儀ニて候、何方も山元之村は何拾ケ村入会之山ニても、山元ゑ御年貢取集候て致上納候通法ニて候処、白石村は無年貢ニて三ケ村持山之御年貢直納致来候得は、白石村山元ニて無之証拠ニて候事

一徳永法印領地之時、無年貢ニて心次第三ケ村之年貢山ゑ入、木・柴取候様ニと申付候旨申候得共、白石村可為無年貢所謂無之、小村ニて年貢納兼候間、無年貢ニ申付候由雖申之、白石村高百八拾石余ニて候故、三ケ村年貢高割之積は以割合候得は、白石村山年貢米五斗程出候積ニ候小村ニ候ても、五斗之米納候儀難成候付無年貢ニ申付候て、三ケ村より山年貢は

為出、白石村は心次第ニ三ヶ村之山ゑ入候様ニと申付候儀は、不法之事ニて候間、如此之儀徳永法印之時可申付様無之筋ニ候、仍遂衆議候得共、其節之証文等も一切無之候付、百姓共口上を以如此之胡乱成儀申趣難用候事

一右三ヶ村より山御年貢直納候て、三ヶ村ゑ所持伝之三谷之山白石村山主ニて候旨申儀無謂儀ニ候、三ヶ村より山御年貢納候付畢竟　公儀山ニて候処、白石村斗無年貢ニて入会可申筋ニ無之候、小笠原土佐守領知之時、山出入有之節、土佐守家来郡奉行之由鈴木新八・根岸傳内両人名所ニて、白石村は無年貢ニて右山ゑ入会候様と延宝九酉六月証文出置候旨白石村より申ニ付、右証文令一覧之処、白石村・京ヶ脇は為山元之間無年貢ニ申付候、心儘ニ木・柴可刈取候、山年貢之儀嶋田村・直江村・押越村此三ヶ村ゑ申付候旨記有之候、山出入之時出置候証文之由雖申之、書面之内山論有之ニ付て出候証文之文言一切無之候、前々より白石村は無年貢、三ヶ村は年貢納来候儀ニ候は、土佐守家来事新敷右之証文出間敷義ニ候、然は新規ニ白石村は無年貢ニ申付、三ヶ村よりは年貢出候て山入可仕旨申付候趣と相見へ候、新規ニ如此之証文出候儀ニ候は、白石村斗ゑ証文出候ては、三ヶ村得心仕間敷候間、三ヶ村も証文ニ書加双方ゑ証文可出儀ニ候処、無其儀候得ば、山出入之時出候証文ニて無之儀決定候、且右両人之証文ニて候処、新八名所斗印判有之伝内名所ニは印判無之候、印判無之旨之断書も無之候、為後証出置候証文ニ同役両人之内、一判ニては証文ニ難成候、白石村は無年貢、三ヶ村は年貢出候様ニ申付候証文ニ候は、土佐守軽役人之証文ニては有間敷儀ニ候、土佐守家老之連判之証文ニても候は、至只今も証文ニ立候儀ニも可有候得共、如此之趣ニては右之証文信用難成候事

一山御年貢を上納候三ヶ村さへ不致入会ニ、其村々ニ応候て秣等取候儀故、分切ニ山之広狭を定御年貢高割を以相納候処、白石村新田并枝郷京ヶ脇共ニ纔高百八拾石余之村ニて候処、直江村・押越村・嶋田村三ヶ村高合四千四百九拾石余之村より御年貢を納持来候三谷之山ゑ、白石村は御年貢も不納心次第ニ入、木・柴刈候様ニ前々より致来候と申儀有間敷義ニて候、仍先領主代々慥成証文等不出置候儀と相見候事

一小笠原土佐守領知之時、南條金左衛門御代官所之時も度々山出入有之候処、先年之通白石村右三ヶ村持山ゑ入会候様ニ申附候書物も有之旨、返答書ニ記候ニ付、証文ニ可成書付有之は可差出旨申渡候得共、証拠ニ可成書物一切無之候、且白石村前々より入会来候て、右申所之証文証拠ニ立候儀ニ候は、度々山出入は有間敷儀ニ候、若山出入候は、其時之裁判之慥成書物可有候処、証拠ニ可成書物無之候得は、白石村申旨相違之儀共ニ候

一右三ヶ村持山と申三谷之内、小谷ニ山之神、瓢之口ニ天神、から谷ニ山之神、白石村・京ヶ脇村より致勧請置候付、三谷

之山之儀白石村山主ニて候証拠ニ申立候ニ付、小谷・から谷に山之神社有之候哉と尋候得は、社之形は無之候得共、前々より山之神勧請仕候と申伝候と白石村より申之、三ヶ村之者共は山内ニ山之神之社無之処ニ白石村より偽申候、天神之社有之所は白石村地内ニて、嶋田村持山瀧之谷之内ニて無之由申候故、白石村ゟ尋候得は、嶋田村之山之内ニては無之由申候、二谷之内、白石村・京ヶ脇より三社を立候て置候と証拠ニ申出候儀遂吟味候得は、悉偽ニて三谷之内一社も無之候、白石村より申所不埒之至候事

右六ヶ条之通、白石村より所申之証拠証文悉難信用成儀共ニ候、三ヶ村より三谷之山ゟ道程相隔り遠候て、白石村は居村之上ニ三谷之山有之故、密ニ三谷之山ゟ隠候て入、木・柴を取候を以前々心次第ニ入会候旨申紛らかし候といへとも、証拠証文無之、山年貢も不相納候付、白石村・同新田并京ヶ脇共ニ三ヶ所之百姓共、直江村・押越村・嶋田村御年貢上納之三谷之山内ゟ自今以後入込候て、木・柴・草等取候儀堅一切令停止候、全可相守此旨、若密ニ白石村并新田・京ヶ脇村之百姓右山ゟ入候者あらハ可為曲事、仍為後証、裁許之書付双方ゟ渡置之条不可致違乱者也

享保三戌年三月十八日　　辻　六郎左衛門印

濃州多藝郡　白石村同新田
枝郷京ヶ脇村　庄　屋
右村年寄
惣百姓

二八一　白石村・押越村山論済口証文

〇養老公園　村上辨二氏所蔵

差上申済口証文之事

一濃州多藝郡白石村・押越村七年以前亥年及山論、白石村より御代官瀧川小右衛門様ゟ御訴訟申上、其上青木次郎九郎様ゟ御替被為遊、尚又御訴訟申上候処、立会絵図被　仰付、段々御吟味ニ御座候処、当秋当御役所様御支配ニ罷成候ニ付、右訴状返答書・立会絵図共ニ青木次郎九郎様より当御役所様ゟ御引渡ニ罷成、段々御吟味御座候処、同郡嶋田村庄屋孫九郎百姓八十郎取嘆申候処、左之通

一論所山神堂大石より北子之方ゟ見通し、北峯ニ境塚築、境相極申候

一山神堂大石よりから谷南平道之所ゟ、申壱歩ニ当り境塚築相極申候

一右境東之方白石村分ニ仕、押越村山小物成米壱石九斗之内、五升白石村より年々上納仕、右地所永々白石村分ニ相極申候

一立会絵図ノ扣絵図ニ境墨引仕、致印形為取替置申候
右之通双方異見を加、得心之上和談仕候ニ付、双方為取替証文
仕置候得ば、此論所ニ付向後出入申分無御座候、依之済口証文
差上申候処、仍而如件

寛延二年巳十二月

濃州多藝郡白石村庄屋　喜三郎
年寄　武右衛門
百姓代　久太夫
同国同郡押越村庄屋　伊左衛門
同断　宇右衛門
年寄　小平次
百姓代　新助
同断　四郎兵衛
同国同郡鳴田村曖人　孫九郎
同断　八十郎

川崎長右衛門様
御役所

養老町史　史料編　上巻

昭和四十九年十月発行

編纂発行　養老町

印刷所　岐阜市七軒町一五　西濃印刷株式会社　澤島武

発行所　岐阜県養老郡養老町役場

年代表

○閏月　□改元の月

干支	年号	西暦	年号	西暦	年号	西暦	年号	西暦	年号	西暦	年号	西暦
丙子	天正 4	1576	寛永13	1636	元禄 9	1696	宝暦 6⑪	1756	文化13⑧	1816
丁丑	5⑦	1577	14③	1637	10②	1697	7	1757	14	1817
戊寅	6	1578	15	1638	11	1698	8	1758	文政 1 [4]	1818
己卯	7	1579	16⑪	1639	12⑨	1699	9⑦	1759	2④	1819
庚辰	8③	1580	17	1640	13	1700	10	1760	3	1820
辛巳	9	1581	18	1641	14	1701	11	1761	4	1821
壬午	10	1582	19⑨	1642	15⑧	1702	12④	1762	5①	1822
癸未	11①	1583	20	1643	16	1703	13	1763	6	1823
甲申	12	1584	正保 1 [12]	1644	宝永 1 [8]	1704	明和 1⑫[6]	1764	7⑧	1824
乙酉	13⑧	1585	2⑤	1645	2④	1705	2	1765	8	1825
丙戌	14	1586	3	1646	3	1706	3	1766	9	1826
丁亥	15	1587	4	1647	4	1707	4⑨	1767	10⑥	1827
戊子	16⑤	1588	慶安 1①[2]	1648	5①	1708	5	1768	11	1828
己丑	17	1589	2	1649	6	1709	6	1769	12	1829
庚寅	18	1590	3⑩	1650	7⑧	1710	7⑥	1770	天保 1③[12]	1830
辛卯	19①	1591	4	1651	正徳 1 [4]	1711	8	1771	2	1831
壬辰	文禄 1 [12]	1592	承応 1 [9]	1652	2	1712	安永 1 [11]	1772	3⑪	1832
癸巳	2⑨	1593	2⑥	1653	3⑤	1713	2③	1773	4	1833
甲午	3	1594	3	1654	4	1714	3	1774	5	1834
乙未	4	1595	明暦 1 [4]	1655	5	1715	4⑫	1775	6⑦	1835
丙申	慶長 1⑦[10]	1596	2④	1656	享保 1②[6]	1716	5	1776	7	1836
丁酉	2	1597	3	1657	2	1717	6	1777	8	1837
戊戌	3	1598	万治 1⑫[7]	1658	3⑩	1718	7⑦	1778	9④	1838
己亥	4③	1599	2	1659	4	1719	8	1779	10	1839
庚子	5	1600	3	1660	5	1720	9	1780	11	1840
辛丑	6⑪	1601	寛文 1⑧[4]	1661	6⑦	1721	天明 1⑤[4]	1781	12①	1841
壬寅	7	1602	2	1662	7	1722	2	1782	13	1842
癸卯	8	1603	3	1663	8	1723	3	1783	14⑨	1843
甲辰	9⑧	1604	4⑤	1664	9④	1724	4①	1784	弘化 1 [12]	1844
乙巳	10	1605	5	1665	10	1725	5	1785	2	1845
丙午	11	1606	6	1666	11	1726	6⑩	1786	3⑤	1846
丁未	12④	1607	7②	1667	12①	1727	7	1787	4	1847
戊申	13	1608	8	1668	13	1728	8	1788	嘉永 1 [2]	1848
己酉	14	1609	9⑩	1669	14⑨	1729	寛政 1⑥[1]	1789	2④	1849
庚戌	15②	1610	10	1670	15	1730	2	1790	3	1850
辛亥	16	1611	11	1671	16	1731	3	1791	4	1851
壬子	17⑩	1612	12⑥	1672	17⑤	1732	4②	1792	5②	1852
癸丑	18	1613	延宝 1 [9]	1673	18	1733	5	1793	6	1853
甲寅	19	1614	2	1674	19	1734	6⑪	1794	安政 1⑦[11]	1854
乙卯	元和 1⑥[7]	1615	3④	1675	20③	1735	7	1795	2	1855
丙辰	2	1616	4	1676	元文 1 [4]	1736	8	1796	3	1856
丁巳	3	1617	5⑫	1677	2⑪	1737	9⑦	1797	4⑤	1857
戊午	4③	1618	6	1678	3	1738	10	1798	5	1858
己未	5	1619	7	1679	4	1739	11	1799	6	1859
庚申	6⑫	1620	8⑧	1680	5⑦	1740	12④	1800	万延 1③[8]	1860
辛酉	7	1621	天和 1 [9]	1681	寛保 1 [2]	1741	享和 1 [2]	1801	文久 1 [2]	1861
壬戌	8	1622	2	1682	2	1742	2	1802	2⑧	1862
癸亥	9⑧	1623	3⑤	1683	3④	1743	3①	1803	3	1863
甲子	寛永 1 [2]	1624	貞享 1 [2]	1684	延享 1 [2]	1744	文化 1 [2]	1804	元治 1 [2]	1864
乙丑	2	1625	2	1685	2⑫	1745	2⑧	1805	慶応 1⑤[4]	1865
丙寅	3④	1626	3③	1686	3	1746	3	1806	2	1866
丁卯	4	1627	4	1687	4	1747	4	1807	3	1867
戊辰	5	1628	元禄 1 [9]	1688	寛延 1⑩[7]	1748	5⑥	1808	明治 1④[9]	1868
己巳	6②	1629	2①	1689	2	1749	6	1809	2	1869
庚午	7	1630	3	1690	3	1750	7	1810	3⑩	1870
辛未	8⑩	1631	4⑧	1691	宝暦 1⑥[10]	1751	8②	1811	4	1871
壬申	9	1632	5	1692	2	1752	9	1812	5	1872
癸酉	10	1633	6	1693	3	1753	10⑪	1813	6	1873
甲戌	11⑦	1634	7⑤	1694	4②	1754	11	1814	7	1874
乙亥	12	1635	8	1695	5	1755	12	1815	8	1875

養老町史史料編　正誤表

上巻

頁	行	誤	正
解題	一四	釜田	釜段
〃	六	柏ノ木	柏ノ木
〃	八	面積七三・九七㎢	七三・二九
二	一六	城下町	城下町
〃	一〇	高松城	高須城
〃	一五	寺蔵源左衛門	寺蔵源右衛門
〃	一四	慶長一五年（一六一〇）	二〇年（一六一五）
〃	二〇	於有之に	於有之は
本文	九	大場松永明氏	根古地
四五	上六	同右	同右
二七五	下四	同右	同右
二七九	上八	田古川茂氏所蔵	有尾栗田寅吉
二九三	下二		
七三二	三		

下巻

頁	行	誤	正
解題	二五	九	蓮生寺
〃	一一	蓮正寺	篠塚神社の次へ栗田寅吉を入れる
編纂委員		伊藤　栽	伊藤茂夫